

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第155集  
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第19集

# 南蛇井増光寺遺跡II

D N 区 ・ E 区  
(本 文 編)

1 9 9 3

群 馬 県 教 育 委 員 会  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
日 本 道 路 公 団





(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第155集  
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第19集

# 南蛇井増光寺遺跡II

D N 区 ・ E 区  
(本 文 編)

1 9 9 3

群 馬 県 教 育 委 員 会  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
日 本 道 路 公 団



## 序

高速自動車道の上信越自動車道は、平成5年3月に開通予定ですが、この建設工事に伴い多くの埋蔵文化財が発掘調査され、記録保存されました。

富岡市南蛇井で調査された南蛇井増光寺遺跡もその一つで、昭和61年10月から平成3年3月までの長期にわたる調査が行われ、縄文時代から平安時代にかけての竪穴住居785軒を始め大量の縄文時代の土坑等が発見、調査されています。中でも弥生時代後期の住居は数が多く、鎭川流域のこの時代の研究を進める上で豊富な資料を提供してくれています。

本遺跡については平成3年度より6年計画で報告書作成のための整理作業に入りましたが、調査成果の一部については、既に『南蛇井増光寺遺跡』第1分冊として報告書を刊行しています。今回、これに続いて成果がまとまりましたので、『南蛇井増光寺遺跡』第2分冊の報告書を刊行することにしました。

発掘調査から報告書刊行に至るまで、日本道路公団東京第2建設局、同富岡工事事務所、群馬県教育委員会、富岡市教育委員会、地元関係者の方々から種々、ご指導ご協力を賜りました。今回、報告書を上梓するに際し、これら関係者の皆様に衷心より感謝の意を表し、併せて本報告書が群馬県の歴史を解明する上で広く活用されることを願い序とします。

平成5年3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 小寺弘之



## 例 言

1. 本書は上信越自動車道建設に伴い事前調査された「南蛇井増光寺遺跡」(事業名称井出遺跡)の発掘調査報告書である。本書における報告は、南蛇井増光寺遺跡DN・E区から検出された遺構・遺物を対象とする。
2. 南蛇井増光寺遺跡は、群馬県富岡市大字南蛇井および中沢にかけて所在するが、便宜的に中沢川以南を南蛇井増光寺遺跡と総称することとした。
3. 本発掘調査は、日本道路公団の委託を受けた群馬県教育委員会が、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に委託して実施されたものである。
4. 実際の発掘調査及び整理事業は、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団内に上信越自動車道地域埋蔵文化財発掘調査を目的に設置された、上越線調査事務所(多野郡吉井町南陽台に所在)が担当した。
5. 調査期間及び担当者

(1) 発掘調査 調査期間 昭和63年10月1日～平成3年3月31日

発掘担当者

昭和63年度 大木紳一郎(主任調査研究員)、若林正人(調査研究員)、飯塚 聡(調査研究員)

平成元年度 依田治雄(専門員)、飯塚卓二(専門員)、伊藤 肇(主任調査研究員)、綿貫鋭次郎(主任調査研究員)、若林正人(同上)、新井 仁(調査研究員)、高島英之(調査研究員)、斎藤利昭(調査研究員)、船藤 亨(調査研究員)

平成2年度 飯塚卓二(同上)、飛田野正佳(調査研究員)、亀山幸弘(調査研究員)

(2) 整 理 整理期間 平成3年4月1日～平成5年3月31日

整理担当者 飛田野正佳(平成3年度)、斎藤利昭

(3) 事 務

常務理事 白石保三郎(昭和61年度～63年度)、邊見長雄

事務局長 松本浩一(昭和63年度～平成3年度)、近藤 功

管理部長 田口紀雄(昭和62年度～平成2年度)、佐藤 勉

調査研究部長 上原啓巳(昭和61年度～63年度)、神保侑史

庶務課 課長 岩丸大作(平成3年度)、斎藤俊一

主任 国定 均、笠原秀樹、須田朋子、吉田有光(平成3年度)、主事 船津 茂、柳岡良弘、高橋定義 非常勤嘱託員 松下 登 臨時職員 今井もと子、塩浦ひろみ、角田みづほ、並木綾子、野島のぶ江、松井美智代

関越道上越線調査事務所

所 長 井上 信(昭和61年度～63年度)、高橋一夫(平成元年・2年度)、阿部千明(平成3年度)、吉田 肇

総括次長 片桐光一(昭和61年度～平成元年度)、大沢友治(平成2年度・平成3年度)

次 長 徳江 紀(昭和63年度～平成2年度)

課 長 鬼形芳夫(昭和62年度～平成2年度)、依田治雄

庶務課 係長代理 黒沢重樹(昭和61年度～63年度)、宮川初太郎(平成元年度・2年度)



主任 国定 均(昭和63年度・平成元年度)、笠原秀樹(平成2年度・3年度)、吉田有光  
臨時職員 山崎郁夫、神戸市四郎、松井留男、町田康子、田中智恵美

6. 報告書作成関係者

編集	斎藤利昭
本文執筆	第1章 斎藤利昭、第2章 斎藤利昭 第3章 飛田野正佳 斎藤利昭
遺物観察	斎藤利昭、飛田野正佳、関根慎二(主任調査研究員)、神谷佳明(主任調査研究員)、大西雅広(主任調査研究員)
遺構写真	発掘調査担当者
遺物写真	技師 佐藤元彦
保存処理	技師 関 邦一 嘱託員 土橋まり子、補助員 小材浩一、樋口一之
整理補助員	阿部由美子、木暮紀子、立川千栄子、田所順子、樋口一之、宮沢房子、山田キミ子 渡部あい子
委託関係	【航空写真】(株)青高館、【遺構測量、遺構・遺物トレース】(株)測研 【地形・地質】古環境研究所、(株)パリノ・サーヴェイ
その他	人・獣骨鑑定については、大間々高等学校教諭 宮崎重雄氏、石材鑑定については、群馬県地質研究会 飯島静男氏にお願いした。

7. 出土遺物・図面・写真類は、一括して群馬県埋蔵文化財調査センターが保管している。

8. 報告書作成に当たり、下記の諸機関・諸氏にご教示・ご指導をいただいた。記して謝意を表する次第である。

富岡市教育委員会

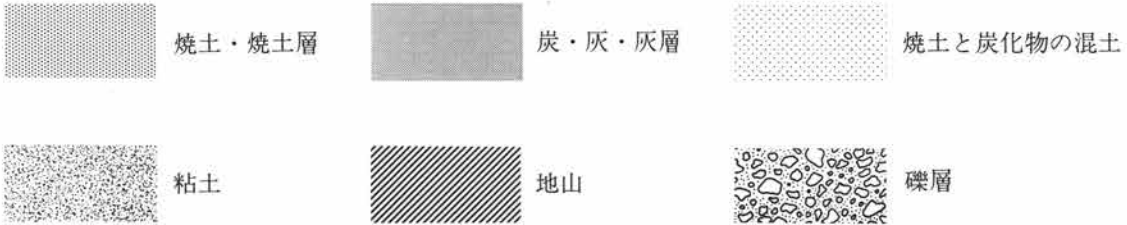
## 凡 例

1. 遺構名称は調査区別に付し、溝についてはDN・E区にまたがるが調査時の名称を生かした。
2. 遺構図の方位記号は国家座標の北を表す。座標系は国家座標第IX系である。
3. 遺構断面実測図、等高線等に記した数値は標高を表し、単位はmを用いた。
4. 遺構図の縮尺及びスクリーン・トーンは次の通りである。

### 遺構図縮尺

竪穴住居跡……1/60      竈……1/30      掘立柱建物跡……1/80  
 土坑・井戸……1/40  
 溝・その他の遺構については、スケールを参照されたい。

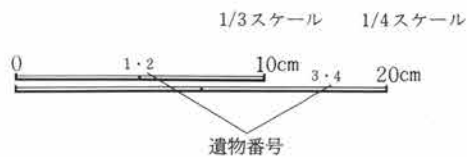
### 遺構図 スクリーン・トーン



5. 遺物図の縮尺及びスクリーン・トーンは次の通りである。

### 遺物図縮尺

1/1……石鏃、古銭、白玉      1/2……鉄器類  
 1/3……坏、高坏、埴、注口土器、小型甕、小型台付甕、  
     破片実測(土師器、須恵器、弥生土器、縄文土器)  
 1/4……甕(土師器、須恵器、弥生式土器)、深鉢形土器(縄文式土器)



### 遺物図 スクリーン・トーン

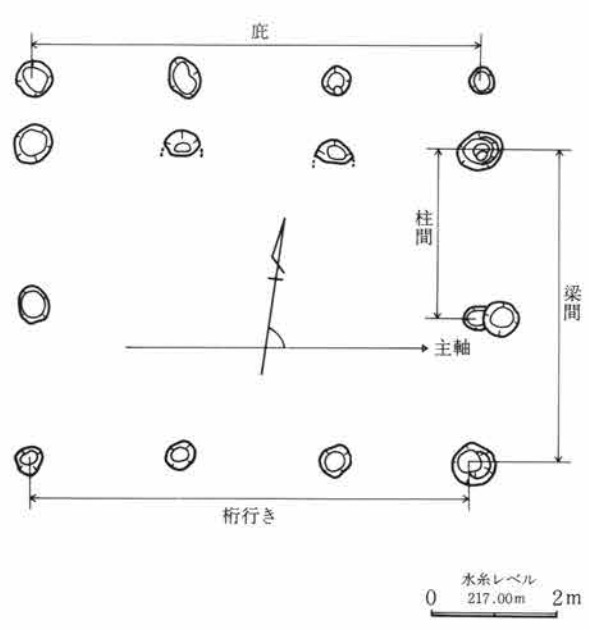
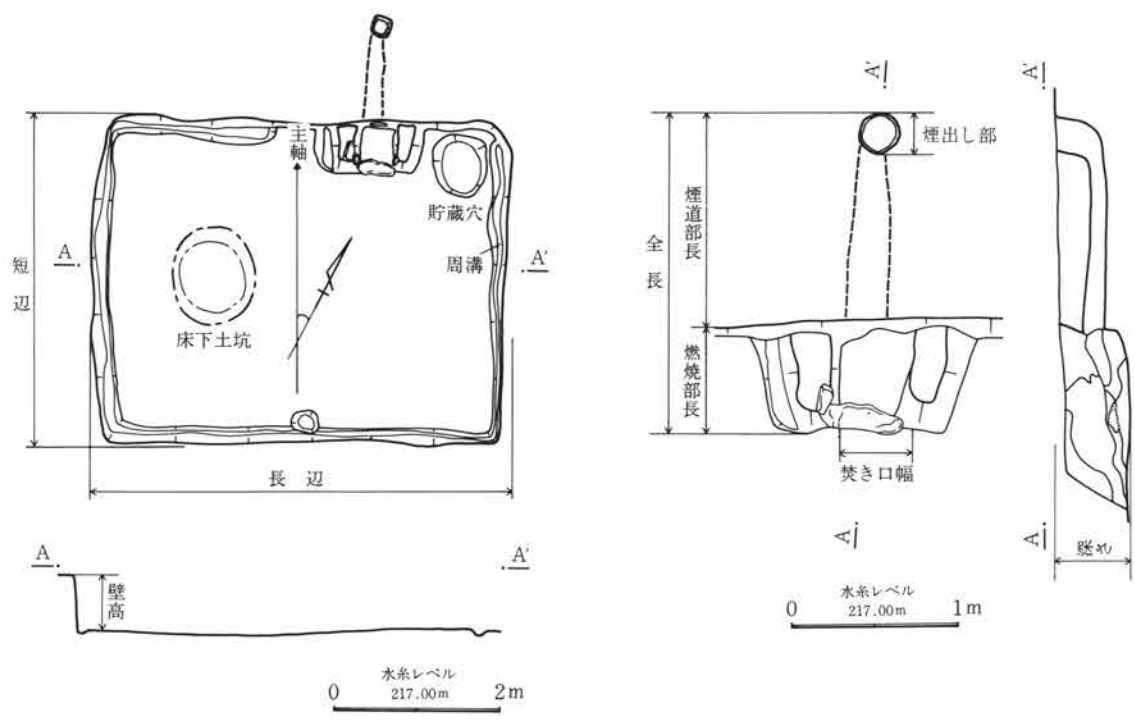


6. 竪穴住居跡の床面積算出については、1/20平面図でプランメーター（ローラー極式・レンズ式）による計測を2回行い平均値を使用し、小数点以下2桁は四捨五入してある。
7. 土器の色調については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修 財団法人日本色彩研究所 色票監修『新版 標準土色帳 1988版』を使用した。
8. 本書中にある火山灰は以下のとおり略記した。

浅間山噴出火山灰 1108年(天仁元年)噴火火山灰……As-B  
 1783年(天明3年)噴火火山灰……As-A

9. 主軸方位については、かまどを有する竪穴住居跡はかまど軸方向を主軸と見なし計測を行った。かまどを有しない竪穴住居跡は長辺を主軸方向として計測を行った。掘立柱建物跡については、棟方向(長辺)を主軸方向とし計測を行った。土坑については、長辺を主軸方向とし計測を行った。

10. 遺構の各部の名称及び各計測値は以下に示した図を参照されたい。



# 目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
挿図目次	
表 目 次	
抄 録	

## 第1章 調査経過と調査方法

第1節 調査経過	1
第2節 調査の方法	1
1. グリッドの設定	3

## 第2章 地理的・歴史的環境

第1節 基本土層	4
第2節 地理的環境	5
第3節 歴史的環境	8

## 第3章 検出された遺構と遺物

第1節 竪穴住居跡	10
1. DN・E区竪穴住居跡の概要	10
2. DN区竪穴住居跡	10
3. E区竪穴住居跡	67
第2節 掘立柱建物跡	222
1. DN・E区掘立柱建物跡の概要	222
2. DN区掘立柱建物跡	223
3. E区掘立柱建物跡	229
第3節 土坑跡	249
1. DN区土坑の概要	249
2. DN区土坑	250
3. E区土坑の概要	273
4. E区土坑	273
第4節 井戸跡	326
1. DN区1号井戸跡	326
2. E区1号井戸跡	327

第5節 溝 跡 .....	328
1. 溝 跡 .....	328
2. E区溝跡 .....	347
第6節 その他の遺構 .....	351
1. E区軒下配石遺構 .....	351
2. E区石列遺構 .....	352
3. DN区旧河道 .....	353
第7節 グリッド出土遺物 .....	356
1. DN区グリッド出土遺物 .....	356
2. E区グリッド出土遺物 .....	356
第8節 小 結 .....	390
1. 石器について .....	390
2. 土器について .....	392
3. 鉄製品及び関連遺物について .....	393
本書における参考文献 .....	393
遺物観察表 .....	395



## 挿図目次

第1図	トレンチ配置図	1	第57図	14号住居跡出土遺物	41
第2図	調査工程図	2	第58図	16号住居跡	41
第3図	グリッド配置図	3	第59図	16号住居跡かまど	42
第4図	基本土層概略図	4	第60図	16号住居跡出土遺物	42
第5図	南蛇井増光寺遺跡位置図	6	第61図	18号住居跡	42
第6図	南蛇井増光寺遺跡とその周辺の地形分類図	7	第62図	18号住居跡かまど	43
第7図	南蛇井増光寺遺跡付近の地質断面図	7	第63図	18号住居跡出土遺物	43
第8図	南蛇井古墳群位置図	8	第64図	19号住居跡	43
DN区竪穴住居跡					
第9図	36号住居跡	11	第65図	19号住居跡かまど	44
第10図	36号住居跡出土遺物	12	第66図	19号住居跡出土遺物	44
第11図	15号住居跡	13	第67図	20号住居跡	44
第12図	15号住居跡出土遺物	13	第68図	20号住居跡かまど	45
第13図	1号住居跡	14	第69図	20号住居跡出土遺物	45
第14図	1号住居跡出土遺物	14	第70図	21号住居跡	45
第15図	1号住居跡かまど	15	第71図	21号住居跡出土遺物	46
第16図	2号住居跡	16	第72図	22号住居跡	46
第17図	2号住居跡かまど	16	第73図	22号住居跡出土遺物	46
第18図	2号住居跡出土遺物(1)	16	第74図	23号住居跡	47
第19図	2号住居跡出土遺物(2)	17	第75図	23号住居跡出土遺物	47
第20図	3号住居跡	17	第76図	23号住居跡かまど	47
第21図	3号住居跡かまど	18	第77図	24号住居跡	48
第22図	3号住居跡出土遺物(1)	18	第78図	24号住居跡出土遺物	48
第23図	3号住居跡出土遺物(2)	19	第79図	25号住居跡	49
第24図	4号住居跡	20	第80図	25号住居跡出土遺物	49
第25図	4号住居跡出土遺物(1)	20	第81図	26号住居跡	49
第26図	4号住居跡かまど	21	第82図	26号住居跡かまど	50
第27図	4号住居跡出土遺物(2)	21	第83図	26号住居跡出土遺物	50
第28図	5号住居跡	22	第84図	27・28号住居跡	51
第29図	5号住居跡かまど	23	第85図	27号住居跡出土遺物	51
第30図	5号住居跡出土遺物	23	第86図	28号住居跡出土遺物	51
第31図	6号住居跡	24	第87図	29号住居跡	52
第32図	6号住居跡かまど	25	第88図	29号住居跡かまど	53
第33図	6号住居跡出土遺物	25	第89図	29号住居跡出土遺物(1)	53
第34図	7・35号住居跡	26	第90図	29号住居跡出土遺物(2)	54
第35図	7号住居跡出土遺物	26	第91図	30号住居跡	54
第36図	8号住居跡	27	第92図	30号住居跡出土遺物	54
第37図	8号住居跡かまど	28	第93図	31号住居跡	55
第38図	9号住居跡	29	第94図	31号住居跡出土遺物	55
第39図	9号住居跡かまど	29	第95図	32号住居跡	55
第40図	9号住居跡遺物出土状態	30	第96図	32号住居跡出土遺物	56
第41図	9号住居跡出土遺物(1)	31	第97図	33号住居跡	57
第42図	9号住居跡出土遺物(2)	32	第98図	33号住居跡掘り方	58
第43図	9号住居跡出土遺物(3)	33	第99図	33号住居跡かまど	58
第44図	10・11号住居跡	34	第100図	33号住居跡出土遺物	59
第45図	10号住居跡出土遺物	34	第101図	34号住居跡	59
第46図	11号住居跡かまど	35	第102図	34号住居跡出土遺物	59
第47図	11号住居跡出土遺物	35	第103図	35号住居跡	60
第48図	12号住居跡	36	第104図	35号住居跡かまど	61
第49図	12号住居跡かまど	36	第105図	35号住居跡出土遺物(1)	61
第50図	12号住居跡出土遺物	36	第106図	35号住居跡出土遺物(2)	62
第51図	13号住居跡	37	第107図	37号住居跡	63
第52図	13号住居跡かまど	38	第108図	37号住居跡出土遺物	63
第53図	13号住居跡出土遺物(1)	38	第109図	38号住居跡	64
第54図	13号住居跡出土遺物(2)	39	第110図	38号住居跡出土遺物	64
第55図	14号住居跡	40	第111図	38号住居跡かまど	64
第56図	14号住居跡かまど	40	第112図	DN区竪穴住居跡配置図	66

## E区竪穴住居跡

第113図	22号住居跡	68	第174図	77号住居跡出土遺物	108
第114図	22号住居跡 炉	68	第175図	78号住居跡	109
第115図	22号住居跡出土遺物(1)	69	第176図	78号住居跡出土遺物	109
第116図	22号住居跡出土遺物(2)	70	第177図	1号住居跡	110
第117図	46号住居跡	71	第178図	住居重複関係	110
第118図	46号住居跡 炉	71	第179図	1号住居跡かまど	111
第119図	46号住居跡出土遺物(1)	72	第180図	1号住居跡出土遺物	111
第120図	46号住居跡出土遺物(2)	73	第181図	2号住居跡	112
第121図	47号住居跡	74	第182図	2号住居跡かまど・出土遺物	113
第122図	47号住居跡 炉	75	第183図	3号住居跡	114
第123図	47号住居跡出土遺物	75	第184図	3号住居跡掘り方	114
第124図	50号住居跡	76	第185図	3号住居跡かまど	115
第125図	50号住居跡 炉	77	第186図	3号住居跡出土遺物(1)	115
第126図	50号住居跡出土遺物	77	第187図	3号住居跡出土遺物(2)	116
第127図	53号住居跡	78	第188図	4号住居跡	116
第128図	53号住居跡 建替え柱穴配置図	79	第189図	4号住居跡かまど	117
第129図	53号住居跡 炉	80	第190図	4号住居跡出土遺物	117
第130図	53号住居跡出土遺物(1)	80	第191図	5号住居跡	118
第131図	53号住居跡出土遺物(2)	81	第192図	5号住居跡かまど	119
第132図	54号住居跡	82	第193図	5号住居跡出土遺物(1)	119
第133図	54号住居跡 炉	82	第194図	5号住居跡出土遺物(2)	120
第134図	57号住居跡	83	第195図	6号住居跡	121
第135図	57号住居跡 炉	84	第196図	6号住居跡かまど	122
第136図	57号住居跡出土遺物(1)	84	第197図	6号住居跡出土遺物	122
第137図	57号住居跡出土遺物(2)	85	第198図	7号住居跡	123
第138図	58号住居跡	86	第199図	7号住居跡かまど	123
第139図	58号住居跡 炉	87	第200図	7号住居跡出土遺物	124
第140図	58号住居跡出土遺物(1)	87	第201図	8号住居跡	124
第141図	58号住居跡出土遺物(2)	88	第202図	8号住居跡出土遺物(1)	125
第142図	59号住居跡	89	第203図	8号住居跡出土遺物(2)	126
第143図	59号住居跡 炉	90	第204図	9号住居跡	126
第144図	59号住居跡出土遺物	90	第205図	9号住居跡かまど	127
第145図	66号住居跡	91	第206図	9号住居跡出土遺物(1)	127
第146図	66号住居跡出土遺物(1)	91	第207図	9号住居跡出土遺物(2)	128
第147図	66号住居跡出土遺物(2)	92	第208図	9号住居跡出土遺物(3)	129
第148図	67号住居跡	93	第209図	10号住居跡	129
第149図	67号住居跡 建替え柱穴配置図	94	第210図	10号住居跡かまど	130
第150図	67号住居跡 炉	94	第211図	10号住居跡出土遺物	130
第151図	67号住居跡出土遺物(1)	94	第212図	11号住居跡	131
第152図	67号住居跡出土遺物(2)	95	第213図	11号住居跡出土遺物(1)	131
第153図	68号住居跡	96	第214図	11号住居跡出土遺物(2)	132
第154図	68号住居跡柱穴配置図	97	第215図	12号住居跡	132
第155図	68号住居跡 炉	97	第216図	12号住居跡かまど	133
第156図	68号住居跡出土遺物	97	第217図	12号住居跡出土遺物	133
第157図	69号住居跡	98	第218図	13号住居跡	134
第158図	69号住居跡 炉	98	第219図	13号住居跡出土遺物	134
第159図	69号住居跡出土遺物	98	第220図	14号住居跡	135
第160図	72号住居跡	99	第221図	14号住居跡かまど	136
第161図	72号住居跡出土遺物(1)	100	第222図	14号住居跡出土遺物(1)	136
第162図	72号住居跡出土遺物(2)	101	第223図	14号住居跡出土遺物(2)	137
第163図	73号住居跡	102	第224図	15号住居跡	138
第164図	73号住居跡 炉	103	第225図	15号住居跡かまど	139
第165図	73号住居跡出土遺物	103	第226図	15号住居跡出土遺物	139
第166図	74号住居跡	104	第227図	16号住居跡	140
第167図	74号住居跡出土遺物(1)	104	第228図	16号住居跡かまど	141
第168図	74号住居跡出土遺物(2)	105	第229図	16号住居跡出土遺物	141
第169図	75号住居跡 炉	105	第230図	17号住居跡	142
第170図	75号住居跡出土遺物	105	第231図	17号住居跡東かまど(1)	143
第171図	76・77号住居跡	106	第232図	17号住居跡東かまど(2)	144
第172図	76号住居跡出土遺物(1)	107	第233図	17号住居跡北かまど	145
第173図	76号住居跡出土遺物(2)	108	第234図	17号住居跡出土遺物(1)	145
			第235図	17号住居跡出土遺物(2)	146

第236図	18号住居跡	147
第237図	18号住居跡かまど	148
第238図	18号住居跡出土遺物(1)	148
第239図	18号住居跡出土遺物(2)	149
第240図	19号住居跡	150
第241図	19号住居跡かまど	150
第242図	19号住居跡出土遺物	150
第243図	20号住居跡	151
第244図	20号住居跡かまど	151
第245図	20号住居跡出土遺物	152
第246図	21号住居跡	153
第247図	21号住居跡かまど	153
第248図	21号住居跡出土遺物	154
第249図	23号住居跡	155
第250図	23号住居跡かまど	156
第251図	23号住居跡出土遺物	156
第252図	24号住居跡	157
第253図	24号住居跡かまど	157
第254図	24号住居跡出土遺物	158
第255図	25号住居跡	158
第256図	25号住居跡かまど	159
第257図	25号住居跡出土遺物	159
第258図	26号住居跡	160
第259図	26号住居跡出土遺物(1)	160
第260図	26号住居跡かまど	161
第261図	26号住居跡出土遺物(2)	161
第262図	26号住居跡出土遺物(3)	162
第263図	27号住居跡(1)	163
第264図	27号住居跡(2)	164
第265図	27号住居跡出土遺物	164
第266図	28号住居跡	164
第267図	28号住居跡かまど	165
第268図	28号住居跡出土遺物	166
第269図	29号住居跡	166
第270図	29号住居跡かまど	167
第271図	29号住居跡出土遺物(1)	167
第272図	29号住居跡出土遺物(2)	168
第273図	30号住居跡	168
第274図	30号住居跡出土遺物	169
第275図	31号住居跡	169
第276図	31号住居跡かまど	170
第277図	31号住居跡出土遺物	171
第278図	32号住居跡	172
第279図	32号住居跡出土遺物	172
第280図	33号住居跡かまど	173
第281図	33号住居跡出土遺物	173
第282図	34号住居跡	174
第283図	34号住居跡出土遺物(1)	174
第284図	34号住居跡掘り方	175
第285図	34号住居跡出土遺物(2)	175
第286図	35号住居跡(1)	176
第287図	35号住居跡(2)	177
第288図	35号住居跡掘り方	177
第289図	35号住居跡かまど	178
第290図	35号住居跡出土遺物(1)	178
第291図	35号住居跡出土遺物(2)	179
第292図	36号住居跡	180
第293図	36号住居跡かまど	180
第294図	36号住居跡出土遺物	180
第295図	37号住居跡及び掘り方	181
第296図	37号住居跡出土遺物	182
第297図	38A・38B号住居跡	183

第298図	38A号住居跡かまど	183
第299図	38B号住居跡かまど	183
第300図	38A・38B号住居跡出土遺物	184
第301図	39号住居跡	184
第302図	39号住居跡かまど	185
第303図	39号住居跡かまど	186
第304図	39号住居跡掘り方	186
第305図	39号住居跡出土遺物	186
第306図	40号住居跡	187
第307図	40号住居跡かまど	188
第308図	40号住居跡出土遺物	188
第309図	41号住居跡	188
第310図	42・43号住居跡	189
第311図	43号住居跡出土遺物	190
第312図	44号住居跡	190
第313図	44号住居跡かまど	191
第314図	44号住居跡出土遺物	191
第315図	45号住居跡	192
第316図	45号住居跡掘り方	192
第317図	45号住居跡かまど	193
第318図	45号住居跡出土遺物	193
第319図	48号住居跡	193
第320図	49号住居跡	193
第321図	49号住居跡出土遺物	194
第322図	51号住居跡	194
第323図	51号住居跡かまど	195
第324図	51号住居跡出土遺物	195
第325図	52A・52B号住居跡(1)	197
第326図	52A・52B号住居跡(2)	198
第327図	52A・52B号住居跡掘り方	199
第328図	52A・52B号住居跡出土遺物	200
第329図	55号住居跡	201
第330図	55号住居跡かまど	201
第331図	55号住居跡出土遺物	202
第332図	56号住居跡	203
第333図	56号住居跡かまど	204
第334図	56号住居跡出土遺物	204
第335図	60号住居跡	205
第336図	60号住居跡かまど	206
第337図	60号住居跡出土遺物	206
第338図	61号住居跡	207
第339図	61号住居跡出土遺物(1)	207
第340図	61号住居跡かまど	208
第341図	61号住居跡出土遺物(2)	208
第342図	62号住居跡	209
第343図	62号住居跡かまど	209
第344図	62号住居跡出土遺物	209
第345図	63号住居跡	210
第346図	63号住居跡掘り方	211
第347図	63号住居跡かまど	211
第348図	63号住居跡出土遺物	212
第349図	64号住居跡	212
第350図	64号住居跡かまど	213
第351図	64号住居跡出土遺物	213
第352図	70号住居跡	214
第353図	70号住居跡かまど	215
第354図	70号住居跡出土遺物	215
第355図	71号住居跡	216
第356図	71号住居跡かまど	216
第357図	71号住居跡出土遺物	217
第358図	E区竪穴住居跡配置図	221

D N・E区掘立柱建物跡		第418図	92～98・100～103号土坑跡……………	295
第359図	D N区1号掘立柱建物跡……………	第419図	104・106～115号土坑跡……………	297
第360図	D N区2号掘立柱建物跡……………	第420図	116～118・122・128・129・139・141・143・145・148～150号土坑跡……………	299
第361図	D N区3号掘立柱建物跡……………	第421図	152・155・157～159・161～164・170・171・174号土坑跡……………	301
第362図	D N区4号掘立柱建物跡……………	第422図	172・175～179・181～184号土坑跡……………	303
第363図	D N区5号掘立柱建物跡……………	第423図	185～187・190・192～198・202号土坑跡……………	305
第364図	D N区6号掘立柱建物跡……………	第424図	203～205号土坑跡及びE区土坑出土遺物……………	307
第365図	D N区7号掘立柱建物跡……………	第425図	151号土坑跡及び出土遺物……………	308
第366図	D N区8号掘立柱建物跡……………	第426図	18・72号土坑跡及び出土遺物……………	309
第367図	D N区9号掘立柱建物跡……………	第427図	88・89号土坑跡及び出土遺物……………	311
第368図	E区1号掘立柱建物跡……………	第428図	119・121・130・153・154号土坑跡……………	311
第369図	E区2号掘立柱建物跡……………	第429図	119・154号土坑跡出土遺物……………	313
第370図	E区3号掘立柱建物跡……………	第430図	120号土坑跡及び出土遺物(1)……………	313
第371図	E区4号掘立柱建物跡……………	第431図	120号土坑跡出土遺物(2)……………	314
第372図	E区5号掘立柱建物跡……………	第432図	120号土坑跡出土遺物(3)……………	315
第373図	E区6号掘立柱建物跡……………	第433図	123～125号土坑跡及び出土遺物……………	315
第374図	E区7号掘立柱建物跡……………	第434図	126号土坑跡及び出土遺物……………	316
第375図	E区8号掘立柱建物跡……………	第435図	127号土坑跡及び出土遺物(1)……………	316
第376図	E区9号掘立柱建物跡……………	第436図	127号土坑跡出土遺物(2)……………	317
第377図	E区10号掘立柱建物跡……………	第437図	131～138・140・144・147号土坑跡……………	318
第378図	E区11号掘立柱建物跡……………	第438図	136・137・144号土坑跡出土遺物……………	319
第379図	E区12号掘立柱建物跡……………	第439図	160号土坑跡及び出土遺物……………	319
第380図	E区13号掘立柱建物跡……………	第440図	165～167号土坑跡……………	319
第381図	E区14号掘立柱建物跡……………	第441図	165・166号土坑跡出土遺物……………	320
第382図	E区15号掘立柱建物跡……………	第442図	168号土坑跡及び出土遺物……………	320
第383図	E区16号掘立柱建物跡……………	第443図	169号土坑跡及び出土遺物……………	323
第384図	E区17号掘立柱建物跡……………	第444図	180号土坑跡及び出土遺物……………	323
第385図	E区18号掘立柱建物跡……………	第445図	188号土坑跡及び出土遺物……………	323
第386図	E区19号掘立柱建物跡……………	第446図	189・191・199～201号土坑跡及び出土遺物(1)……………	324
第387図	掘立柱建物跡出土遺物……………	第447図	201号土坑跡出土遺物(2)……………	325
第388図	D N区掘立柱建物跡柱穴計測図……………	D N・E区井戸跡		
第389図	E区掘立柱建物跡柱穴計測図(1)……………	第448図	D N区1号井戸跡……………	326
第390図	E区掘立柱建物跡柱穴計測図(2)……………	第449図	E区1号井戸跡……………	327
第391図	D N・E区掘立柱建物跡配置図……………	溝跡		
D N区土坑		第450図	1号溝跡……………	330
第392図	洋梨形土坑各部名称及び計測図……………	第451図	1号溝跡セクション図……………	331
第393図	1・2・4～6・11号土坑跡及び出土遺物……………	第452図	1号溝跡西部敷石エレベーション図……………	332
第394図	3・9・10・12～14・21号土坑跡及び出土遺物……………	第453図	1号溝跡出土遺物(1)……………	332
第395図	17・23～32号土坑跡……………	第454図	1号溝跡出土遺物(2)……………	333
第396図	33・34・37～45号土坑跡……………	第455図	1号溝跡出土遺物(3)……………	334
第397図	46～50・56・58・59号土坑跡……………	第456図	2・8号溝跡及び出土遺物……………	335・336
第398図	60・63～66号土坑跡……………	第457図	調査区内遺跡位置図……………	337
第399図	16・19・20号土坑跡及び出土遺物……………	第458図	3号溝跡……………	338
第400図	18・22・35・36号土坑跡及び出土遺物……………	第459図	3号溝跡……………	339
第401図	51～54号土坑跡及び出土遺物(1)……………	第460図	3号溝跡出土遺物(1)……………	340
第402図	51～53号土坑跡出土遺物(2)……………	第461図	3号溝跡出土遺物(2)……………	341
第403図	57号土坑跡及び出土遺物……………	第462図	4号溝跡……………	342
第404図	61・62号土坑跡及び出土遺物……………	第463図	4号溝跡出土遺物……………	343
第405図	67号土坑跡及び出土遺物(1)……………	第464図	5号溝跡……………	344
第406図	67号土坑跡出土遺物(2)……………	第465図	5号溝跡出土遺物……………	345
E区土坑		第466図	6号溝跡……………	346
第407図	E区洋梨形土坑配置図……………	第467図	6号溝跡出土遺物……………	347
第408図	3・19～24・35・36号土坑跡……………	第468図	1～4号溝跡……………	348
第409図	37～46号土坑跡及び土坑配置図……………	第469図	5号溝跡……………	348
第410図	47～53号土坑跡……………	第470図	2号溝跡出土遺物……………	348
第411図	54～56・67・99号土坑跡……………	第471図	溝跡配置図……………	349・350
第412図	1・2・4～9号土坑跡……………	E区軒下配石遺構		
第413図	8～15号土坑跡……………	第472図	E区軒下配石遺構及び出土遺物……………	351
第414図	16・17・25～31・34・57号土坑跡……………	E区石列遺構		
第415図	58・60A～65号土坑跡……………	第473図	E区石列遺構及び出土遺物……………	352
第416図	66・68～71・73～78号土坑跡……………			
第417図	79～87・90・91号土坑跡……………			



旧河道跡

第474図	旧河道跡配置図	353
第475図	旧河道跡No.1	353
第476図	旧河道跡No.2	354
第477図	旧河道跡No.3	355
DN区グリッド出土遺物		
第478図	DN区グリッド出土遺物(1)	357
第479図	DN区グリッド出土遺物(2)	358
第480図	DN区グリッド出土遺物(3)	359
第481図	DN区グリッド出土遺物(4)	360
第482図	DN区グリッド出土遺物(5)	361
第483図	DN区グリッド出土遺物(6)	362
第484図	DN区グリッド出土遺物(7)	363
第485図	DN区グリッド出土遺物(8)	364
第486図	DN区グリッド出土遺物(9)	365
第487図	DN区グリッド出土遺物(10)	366
第488図	DN区グリッド出土遺物(11)	367
第489図	DN区グリッド出土遺物(12)	368
第490図	DN区グリッド出土遺物(13)	369
第491図	DN区グリッド出土遺物(14)	370

E区グリッド出土遺物

第492図	E区グリッド出土遺物(1)	372
第493図	E区グリッド出土遺物(2)	373
第494図	E区グリッド出土遺物(3)	374
第495図	E区グリッド出土遺物(4)	375
第496図	E区グリッド出土遺物(5)	376
第497図	E区グリッド出土遺物(6)	377
第498図	E区グリッド出土遺物(7)	378
第499図	E区グリッド出土遺物(8)	379
第500図	E区グリッド出土遺物(9)	380
第501図	E区グリッド出土遺物(10)	381
第502図	E区グリッド出土遺物(11)	382
第503図	E区グリッド出土遺物(12)	383
第504図	E区グリッド出土遺物(13)	384
第505図	E区グリッド出土遺物(14)	385
第506図	E区グリッド出土遺物(15)	386
第507図	E区グリッド出土遺物(16)	387
第508図	E区グリッド出土遺物(17)	388
第509図	E区グリッド出土遺物(18)	389
第510図	E区グリッド出土遺物(19)	390
第511図	DN・E区出土石器分類図	391
第512図	DN・E区グリッド出土石器分布図	392
第513図	条痕を有する土器	393
第514図	DN・E区鉄製品・鉄滓・羽口分布図	394

## 表 目 次

表1	南蛇井古墳群一覧表	9	表7	DN区掘立柱建物跡柱穴規模計測表	242
表2	DN区住居跡一覧表	65	表8	E区掘立柱建物跡一覧表	242
表3	DN区住居竈及び炉跡計測一覧表	65	表9	E区掘立柱建物跡柱穴規模計測表	243
表4	E区住居跡一覧表	218	表10	DN区洋梨形土坑一覧表	272
表5	E区住居竈及び炉跡計測一覧表	219	表11	E区洋梨形土坑一覧表	272
表6	DN区掘立柱建物跡一覧表	242			



# 抄 録

## 1 遺 跡 の 概 略

本遺跡は、群馬県富岡市大字南蛇井字血の池・増光寺、大字中沢字久保界戸・中里地内に所在する。発掘調査は、昭和62年10月1日から開始され、平成3年3月をもって終了した。

遺跡は富岡市の南西、鎗川左岸の段丘上に広がる平坦面に位置し、調査前には桑・こんにゃく等の畑地として利用されていた。発掘調査により、縄文・弥生・古墳・奈良・平安、各時代の住居跡を初めとして、縄文時代の配石遺構、多数の土坑群、弥生時代の方形周溝墓、中・近世の大溝、掘立柱建物跡、土坑などが検出され、鎗川流域有数の規模を誇る大複合遺跡であることが判明した。

## 2 遺 構 数 量

遺構名称	時代	遺構数	特 徴
竪穴住居跡	縄文時代	約 72	縄文時代前期～後期、敷石住居跡も含む。
	弥生時代	約 185	弥生時代中期4軒、弥生時代後期181軒検出。
	古墳～平安時代	約 535	古墳時代の住居跡は殆どが後期のものである。
掘立柱建物跡	古代～中世	約 44	B軽石を含むものと含まないものがある。
周溝墓	弥生時代	約 2	2基とも方形周溝墓と思われる。
土坑	縄文時代～近世	約 1430	縄文時代のものが多い。
埋 甕	縄文～弥生時代	約 6	
中世古墓	中世	1	瀬戸系の四耳壺を伴う。
溝		約 20	中世の大溝を含む。
この他、配石遺構・集石遺構・道路状遺構・井戸・ピット等を含む。			

◎本報告書は、上記のうちDN区・E区の竪穴住居跡116軒、掘立柱建物跡28棟、土坑跡269基、溝跡13条、井戸跡2基、その他配石遺構、石列遺構、旧河道等を対象としている。

## 3 ま と め

縄文時代 前期（黒浜期）から後期（堀之内式期）の竪穴住居跡が72軒と同時期の土坑群が数百基検出された集落址である。鎗川流域での縄文時代の集落址の調査例は少なく大変貴重な調査例といえる。出土遺物としては、縄文式土器の他に硬玉大珠、独鈷石、石棒等があげられる。

弥生時代 弥生時代の竪穴住居跡は中期4軒、後期181軒が検出されている。後期の住居跡としては県内でも最大規模を誇る大集落であったことが窺える。その他に、方形周溝墓、埋甕、土坑等が検出されている。出土遺物としては、弥生式土器の他に石包丁、磨製石鏃、土製勾玉、扁平片刃石斧等があげられる。

古墳時代～奈良・平安時代 古墳時代には後期を中心に多数の竪穴住居跡が検出されている。奈良・平安に至ってもこの傾向は続き大規模な集落が展開される。掘立柱建物跡も検出されている。

中・近世 箱葉研形の大溝が検出され青磁片が出土している。また、瀬戸系の四耳壺を伴う中世古墓、道路状遺構、掘立柱建物跡等が検出されている。

以上、本遺跡は縄文時代前期から中・近世に至る遺構が複雑に重複して存在する複合遺跡としての性格を持ち、今後当地における地域史研究を進めるうえで大変重要な遺跡であるといえる。

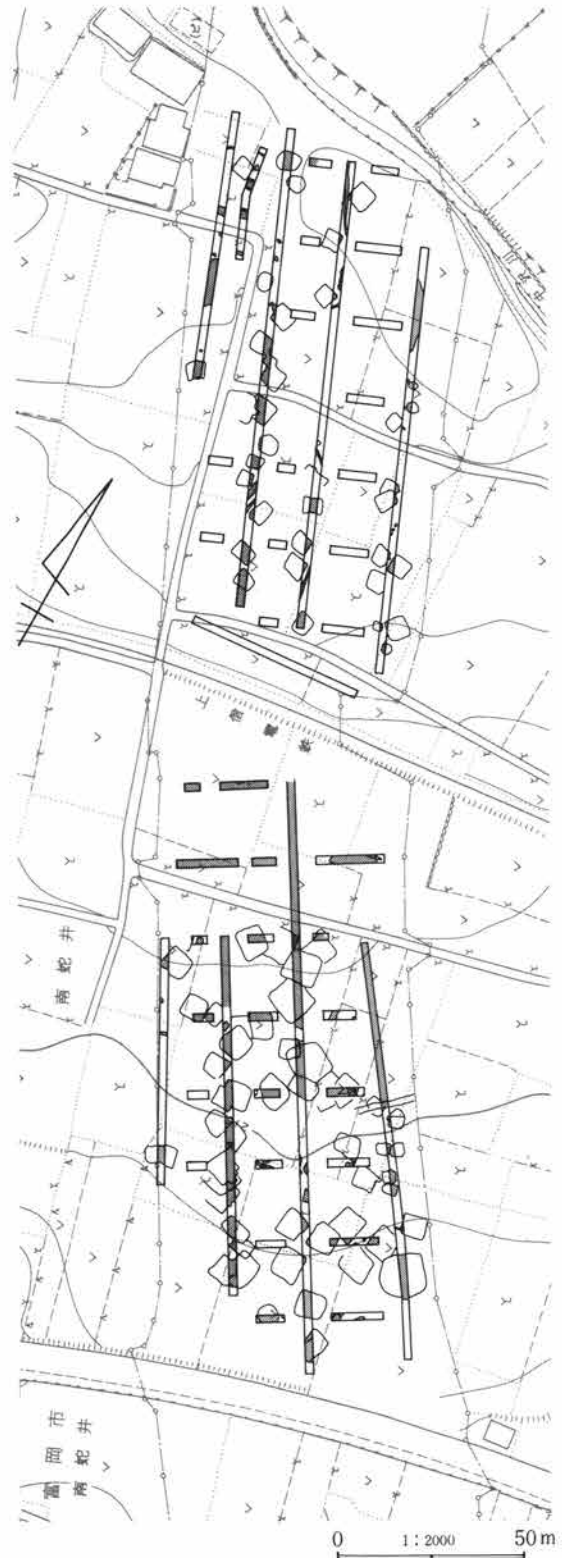
## 第1章 調査経過と調査方法

### 第1節 調査経過

甘楽・富岡地域における上信越自動車道は、簗川右岸の丘陵上を西進し、下仁田町馬山の下仁田インター・チェンジ（下鎌田遺跡）に至り、大きくカーブしながら簗川を渡河し北進する。

本遺跡の所在する南蛇井増光寺は、この簗川渡河点を南端とし、北側は中沢平賀皆戸とを区画する中沢川までの間を言う。遺跡地は、簗川左岸下位段丘面上にあり緩く南に傾斜している。この段丘面上には、縄文時代中期の遺物や石棒を包含する旧河道が確認でき、中沢川の扇状地形形成時の痕跡が見られる。

本遺跡の名称は『南蛇井増光寺遺跡』ではあるが、事業名称では『井出遺跡』として昭和62年度後半より調査を開始した。当初の調査地点は、国道254号線南側（調査区名称A・B区）橋脚部分より本調査を実施した。A・B区では縄文時代前期から奈良・平安時代までの竪穴住居跡を中心とした集落が、約8600m<sup>2</sup>、85軒の切り合い状態で検出された。このため国道北側への遺跡の広がりが予想され、また遺構量の把握が必要となり、昭和63年度後半に試掘調査が行われた。試掘には重機を使用し、C区・D区・E区にそれぞれバケット幅で20m間隔のトレンチを路線南北方向に沿って4本、東西方向に20m間隔で入れた。この試掘結果により国道北側に於ける住居軒数や遺構の重複が国道南側と同様又は更に多いことが確認され、平成元年度より4班体制で調査を行うこととなった。各班の調査対象地は、おおよそ遺跡内を横断する国道254号線、上信電鉄線路、市道、調査工程に伴う工事用道路等々により調査地が分断される。このため、各調査区は、国家座標を基準とする100m四方の大グリッドを設定し、南北方向に付されたアルファベットにより調査区名称を付した。D区については上信電鉄の線路により南北二つの調査区に分断される格好となり、調査行程上でも2班同時の調査体制が生まれ、線路南側をDS区、線路北側をDN区として個々に調査が行われることとなった。



第1図 トレンチ配置図

## 第1章 調査経過と調査方法

DN区・E区の調査は、平成3年度に井出遺跡IV班が入りDN・E区をまたぐ工事用道路部分の調査を優先的に行い、次いでE区内の路線を横断する農道南側部分までの表土掘削を行った。井出遺跡IV班は、年度後半に移動する段階で工事用道路部分とDN区の調査が終了し、その後E区には井出遺跡I班が入り中沢川寄りから調査を開始した。また、井出遺跡III班はE区農道南側部分の竪穴住居跡の調査を行い、平成3年度にE区中央部分の残りの調査を行い、DN区・E区の調査が終了した。

調査と同様に本報告書でもDS区・DN区を別個に扱い、DN区にE区を加えた上信電鉄線路北側から中沢川までの間を、整理及び報告を行うこととなった。

昭和63年9月 C区・D区・E区の試掘調査実施。

平成元年4月 井出遺跡IV班としてDN区及びE区の調査に入る。

表土剥ぎをDN区より開始したが、工事行程との絡みでDN区・E区にまたがる工事用道路部分(200㎡)を先行して調査開始。現在の南北方向に走る農道下より大溝を検出した。

工事用道路部分では住居5軒、溝2条、掘立柱建物跡5棟、土坑多数を検出し調査終了。

7月 DN区・E区本線部分(2450㎡)の調査開始。土坑・掘立柱建物跡・溝等を中心に調査を進める。

8月 DN区の竪穴住居跡の調査を開始する。

10月21・22日現地説明会を行う。見学者2日間で904名。

11月 DN区調査終了。竪穴住居跡38軒、掘立柱建物跡9棟、土坑68基、大溝、縄文土器を伴う旧河道氾濫原等の遺構を検出。

12月 井出遺跡IV班は上信越自動車道早道場遺跡に移動。

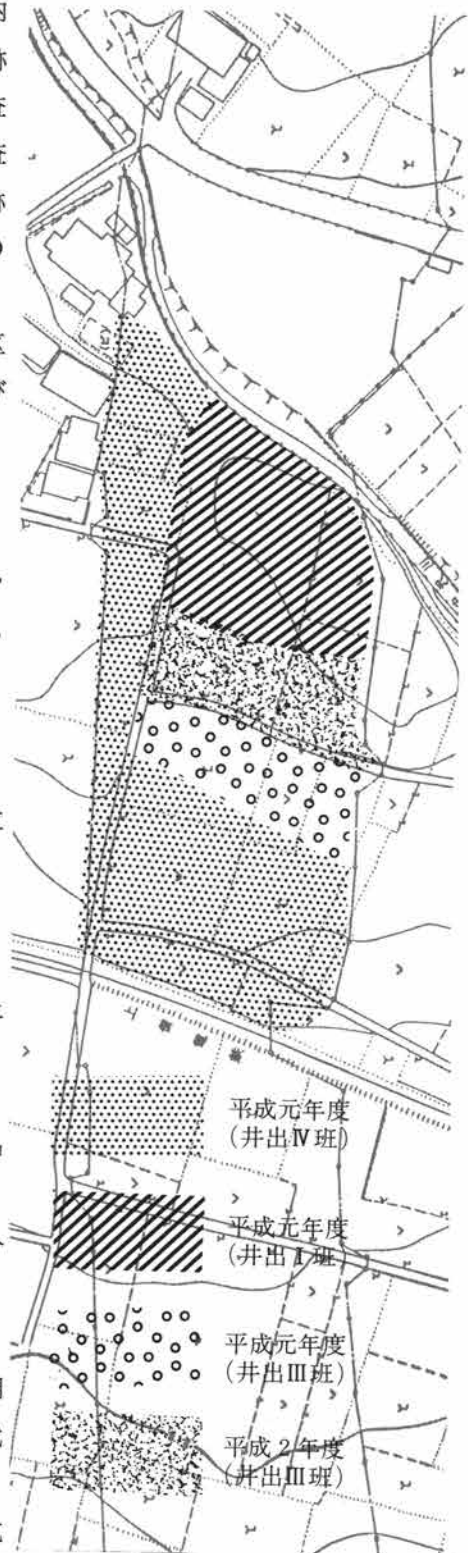
井出遺跡I班、国道254号線南側B区終了後、E区本線部分北中沢川寄りから調査開始。

平成2年2月 井出遺跡III班、DS区と平行してE区農道南側部分の竪穴住居跡の調査を行う。

4月 南蛇井増光寺遺跡調査班は3班体制でスタート。

E区排土置き場下部分が未調査となっていたためこの部分の調査を行う。E区中央東寄り部分が微高地状に高まり、縄文時代後期を中心とした竪穴住居跡・土坑群を検出した。

9月 E区調査終了。竪穴住居跡78軒、掘立柱建物跡19棟、土坑多数、溝5条等を検出した。



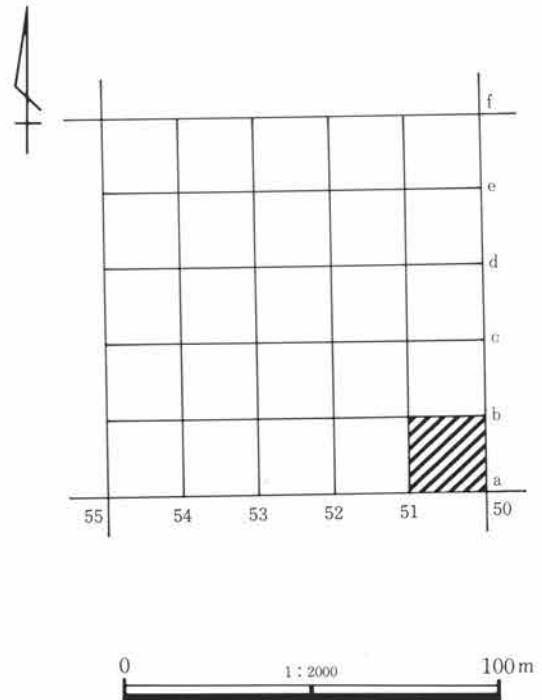
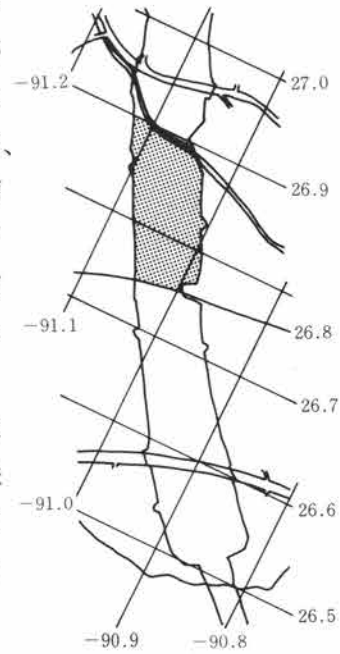
第2図 調査工程図

## 第2節 調査の方法

### 1. グリッドの設定

グリッドの設定は、国家座標を基準とし方眼杭打ちを昭和62年度に行った。国家座標は上信越自動車道の測量杭2点を利用し、遺跡内に $X=23,530.0$ 、 $Y=-90,840.0$ の基点を設け、この基準点から10m方眼を振り出した。グリッドは大小それぞれ100mの大グリッド、5mの小グリッドを基準に組んだ。グリッド軸線名称は、Y軸を南→北方向にアルファベットA B Cの大グリッド、同じく5mの小グリッドには小文字のa b cを用いた。X軸には数字を用い東→西方向に0 1 2 3・・・と付した。グリッド呼称は、5mの小グリッド南東隅部交点を用いた。

調査区は、この大グリッドを基準に南よりA・B・C・D・E区として調査を行うこととなった。しかし、D区については上信電鉄線路が中央を横断するためD S区、D N区に調査区を分割した。D N・E区については平成元年調査開始時に、調査継続中のC区よりグリッド杭を延長し5mの方眼杭打ちを行った。



第3図 グリッド配置図

## 第2章 地理的・歴史的環境

### 第1節 基本土層

本遺跡の立地については、次項の地理的環境の部分で詳しく述べる。ここでは遺構確認面の状況を中心に土層説明を行う。

本遺跡周辺は、下仁田コンニャクや下仁田ネギの産地として著名な地域であり、本地域一体に広がりが見られるAs-A軽石や砂礫混じりの土質が土中の水捌けを良くし、耕作に適した土地柄となっている。路線内にもかつてコンニャク畑やネギ畑が見られた。

遺跡内における土層堆積状況は以下のとおりである。

I層は、現在の耕作土でありAs-Aを多量に含み、耕作痕が遺構面まで達している部分もある。

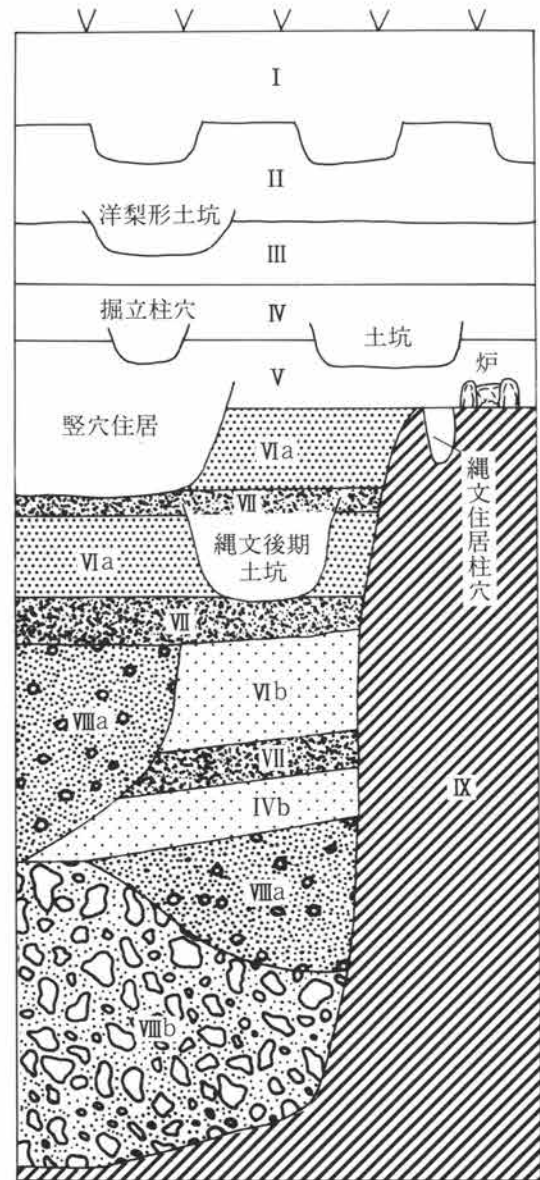
II層は、As-A層及び砂礫を含む。鉄分粒子沈着見られる。(近現代)。

III層は、As-A及びAs-Bの混土層であり、洋梨形土坑の掘り込み面である。(近世面)。

IV層は、As-B混土層主体であり、掘立柱建物跡及び土坑の掘り込み面である。(中近世面)。

V層は、竪穴住居跡の掘り込み面であり、縄文時代以降の面が一括で見られる。調査区西側では砂礫露出。VIa層ではDN区において縄文時代後期の土坑が検出された。VIa層を含め下層では中沢川の河川氾濫層となっており、縄文時代中期の遺物を包含する。調査区東側の半月状の微高地部分では、IX層の洪水による上澄み状のシルト質の堆積土が見られ、縄文時代後期の竪穴住居跡群が展開している。

- |        |       |                      |
|--------|-------|----------------------|
| I層     | 灰褐色土  | 現在の耕作土               |
| II層    | 灰褐色土  | As-A混土、部分的に鉄分沈着見られる。 |
| III層   | 暗褐色土  | As-A及びAs-B混土。        |
| IV層    | 黒褐色土  | As-B混土。              |
| V層     | 暗褐色土  | 粘性強く、締まりあり。          |
| VIa層   | 黄褐色土  | シルト質、粘性あり。           |
| VIb層   | 黄褐色土  | シルト質、細砂含む。           |
| VII層   | 灰黄褐色土 | シルトと細砂互層に堆積。         |
| VIIIa層 | 砂礫層   | 縄文時代中期の遺物含む。         |
| VIIIb層 | 砂礫層   | 大礫混じり、縄文時代中期の遺物含む。   |
| IX層    | 黄橙色土  | 上面小砂礫含む。シルト質土        |



第4図 基本土層概略図



## 第2節 地理的環境

### 1. 南蛇井増光寺遺跡周辺の地形と地質

(古環境研究所)

南蛇井増光寺遺跡とその周辺の地形分類図を第6図に示す。また高速道路路線沿いの地質断面図を第7図に示す。本地域の地形は、次のような地形に区分することができる。

山地および丘陵：本地域において鑄川の南には先第三系のチャート、粘板岩、石英斑岩、花崗斑岩などからなる山地が認められる。一方、鑄川の北には泥岩や砂岩などから構成される新第三系の吉井層からなる丘陵や吉井層を斬って堆積した礫層から構成される丘陵が認められる。

第1段丘：町田(1948)により上位段丘、新井(1962)により多胡面に区分された段丘面である。鑄川右岸の下鎌田や杣瀬の山よりに認められる。

第2段丘：この段丘も町田(1948)により上位段丘、新井(1962)により多胡方面に区分された段丘面である。鑄川右岸の米山寺の位置する段丘面や山際付近に認められる。第1段丘との比高は約30mである。これらの高位段丘面の離水年代については不明な点が多い。

ただし、本地域の北を流れる碓氷川流域の横川付近の上位状段丘面上には、約15万年前以前に噴出した横川第2軽石(中山, 1978, 鈴木・早田, 1990, 高田ほか, 1990)などをはさむ厚いローム層の堆積が認められており、その離水年代は最終間氷期に先立つ寒冷期と推定されている(須貝, 1992)。この段丘面と本地域の段丘面との対応関係の詳細については不明であるが、おそらく本地域の段丘面も中期更新世に離水したものと思われる。

第3段丘：本地域においてもっとも広く発達した段丘面である。鑄川の両岸に認められる。町田(1948)により下位段丘、新井(1962)により「後関東ローム段丘」すなわち沖積段丘に区分された段丘面である。第2段丘との比高は約30～20mである。ボーリング調査により明らかにされた段丘堆積物の層厚は、約8m(B1-1)あるいは約12m(B1-2)に達するようである(日本道路公団東京第二建設局富岡工事事務所・株式会社建設企画コンサルタント, 1982)。しかし実際に本段丘は堆積段丘ではなく、堆積侵食段丘の可能性もあることから、礫層の間に不整合の存在も考えられる。

第4段丘：鑄川の両岸に認められる。とくに右岸での発達が顕著で、段丘面上には竹ノ上や若宮などの集落がのっている。本段丘も町田(1948)により下位段丘、新井(1962)により「後関東ローム段丘」すなわち沖積段丘に区分された段丘面である。第3段丘との比高は約5mである。

扇状地および谷中緩斜面：丘陵を刻む谷の中には緩斜面が認められる。おそらく土石流や地すべりなどによって形成されたものと推定される。またこの谷中緩斜面の下方、とくに第3段丘面には小規模な扇状地が広がっている。南蛇井増光寺遺跡は中沢川の扇状地上に位置している。遺跡付近では扇状地を構成する物質の粒径が小さく、粘性が大きな粘土質の地層となっている。これらの地形面上にはローム層の堆積は認められないことから、その形成年代は完新世と考えられる。

崖錐：鑄川左岸の急な丘陵斜面の下部には、崖錐が多く発達している。これらの地形面上にもローム層の堆積は認められないことから、その形成年代は完新世と考えられる。

氾濫原：現在の鑄川の河谷は箱型の形態をもち、幅の狭い氾濫原が認められる。

### 2. 南蛇井増光寺遺跡の地質

前述のように鑄川左岸の下位段丘面(町田, 1948)に対比される第3段丘上に発達した扇状地上に位置する南蛇井増光寺遺跡Do-55グリッドでは、粘性に富む厚い粘土層の堆積が認められた。この地層の間には、不

## 第2章 地理的・歴史的環境

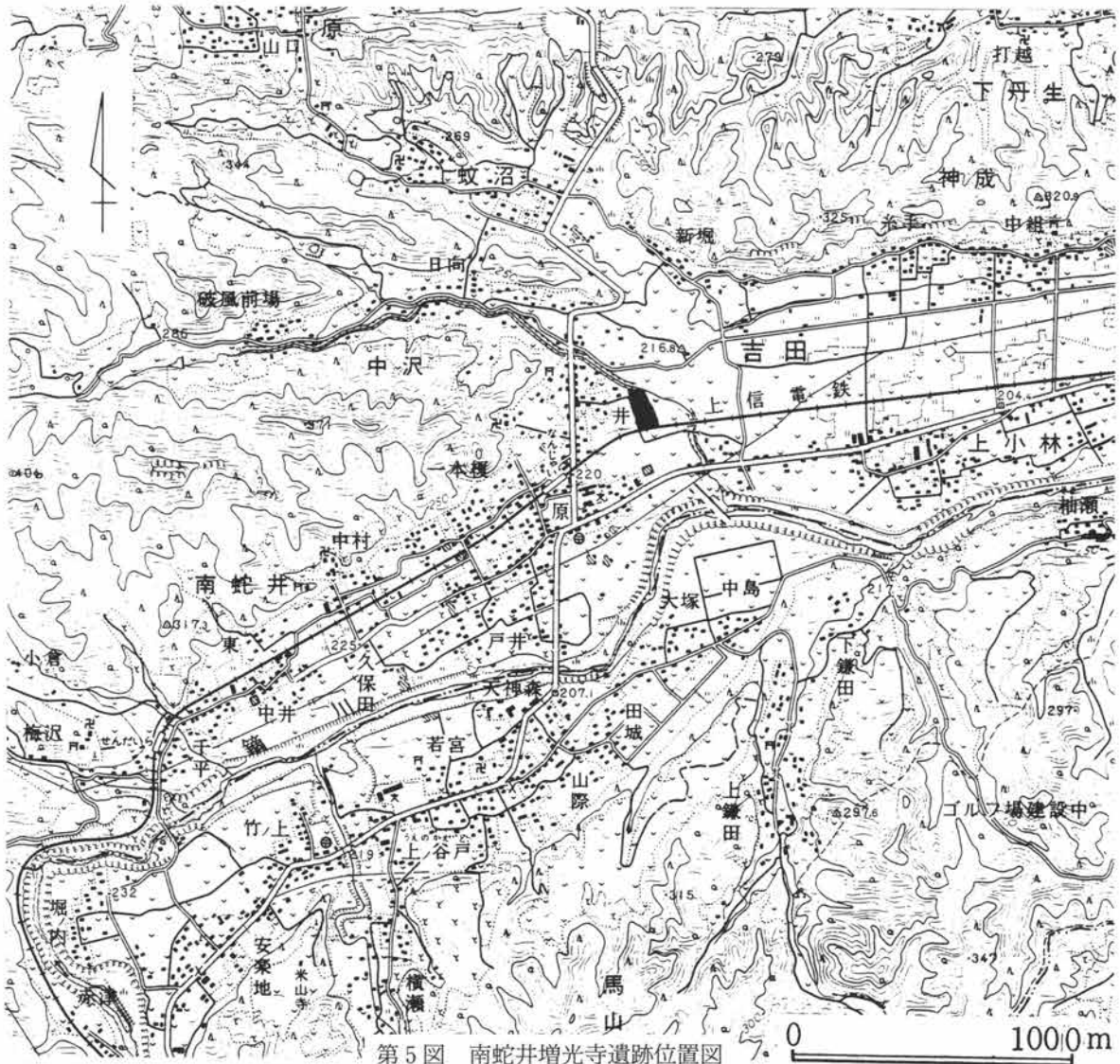
整合が認められる。すなわち段丘礫層を覆って堆積する下位の粘土層(VI層からXIII層)を斬る谷が認められるのである。この谷は砂礫層(V層, IV層)や氾濫原土(III層)により埋没している。さらにこれらの地層は、粘土質土層(II層, I層)や表土によって覆われている。なお埋没谷を覆う砂礫層からは発掘調査によって縄文時代中期の土器が検出されている。このことから、谷地形の埋没は縄文時代中期以降と推定される。

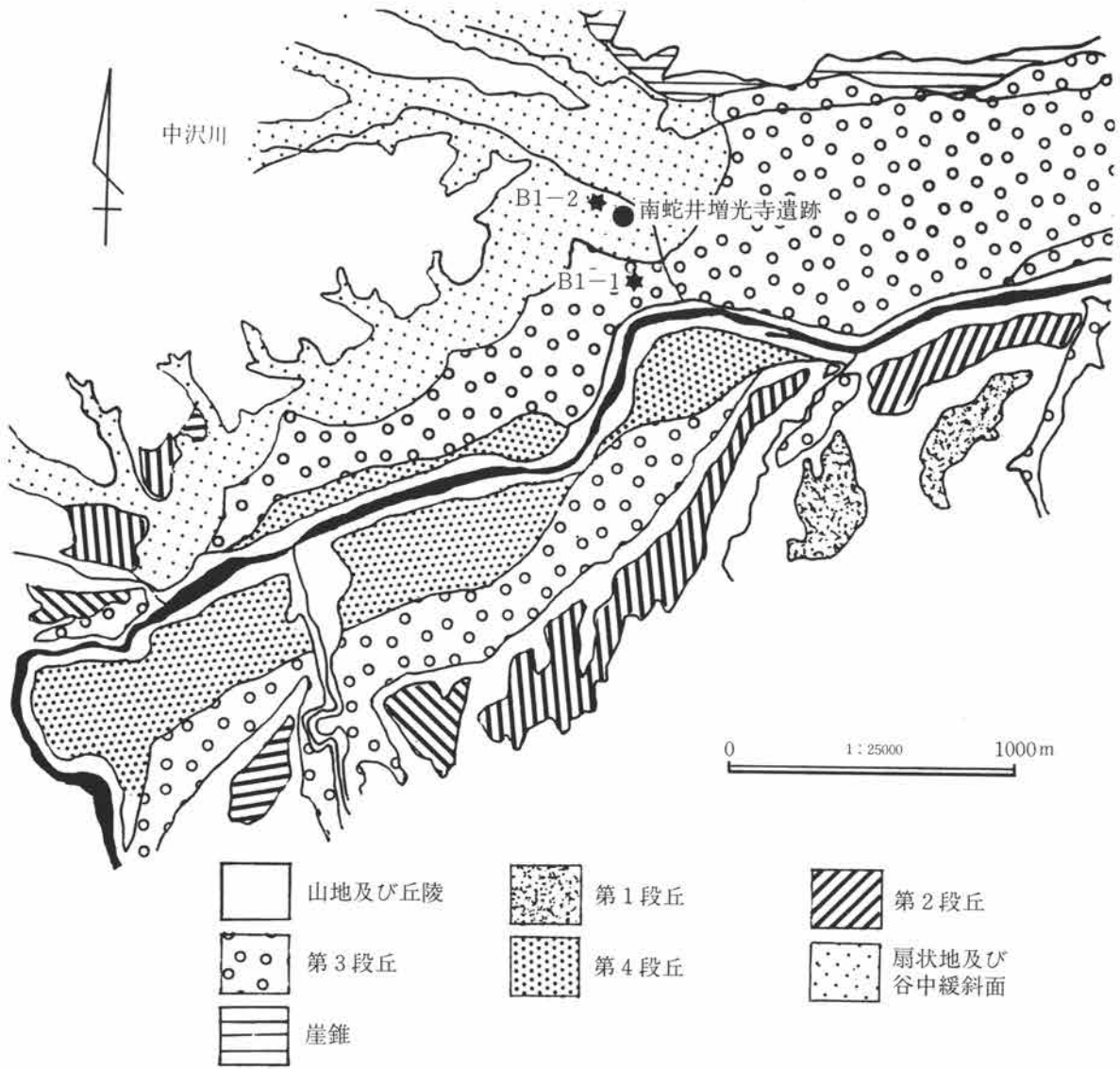
### 3. ま と め

南蛇井増光寺遺跡の周辺地域の地形は、山地および丘陵、上位段丘(第1段丘, 第2段丘)、下位段丘(第3段丘, 第4段丘)、扇状地および谷中緩斜面、崖錐、氾濫原などから構成されている。南蛇井増光寺遺跡は、鍋川左岸の下位段丘面(町田, 1948)に対比される第3段丘上に発達した扇状地上に位置している。

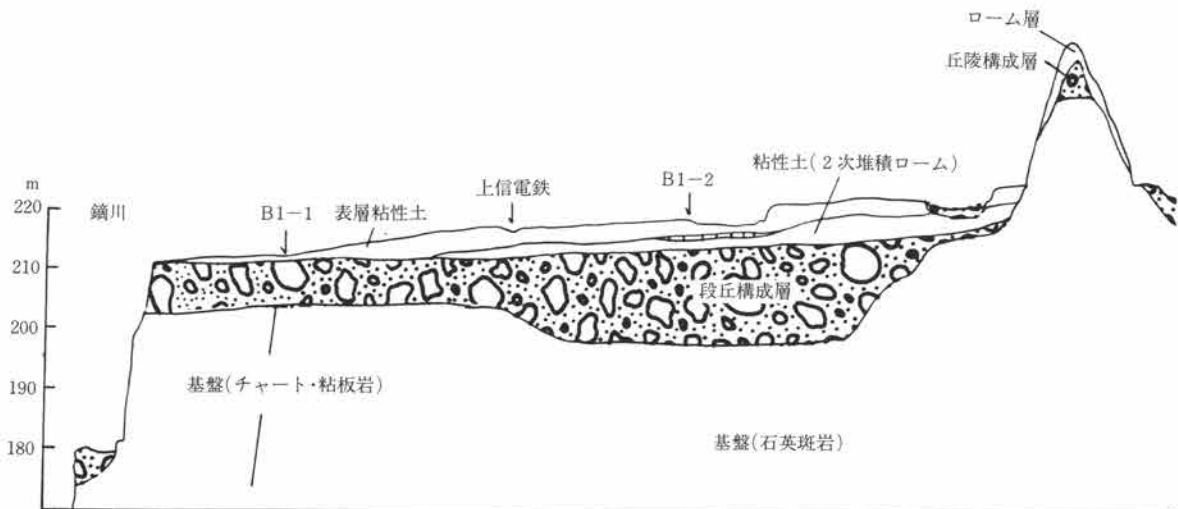
#### 参考文献

- 新井房夫(1962) 関東盆地北西部地域の第四紀編年, 群馬大学紀要自然科学編, 10, P. 1-79.  
須貝俊彦(1992) 利根川支流, 碓氷川における中期更新世遺構の河成段丘発達史, 地理評, 65, P. 339-363.  
高田将志・鈴木毅彦・早田 勉・下川浩一・今井 登(1990) 群馬県榛名山南麓に分布する横川第2軽石のESR年代, 日本地理学会予稿集, 38, P. 152-153.  
中山茂樹(1978) 碓氷川流域の河岸段丘, 駒沢地理, 14, P. 245-291.  
日本道路公団東京第二建設局富岡工事事務所・株式会社建設企画コンサルタント(1982) 関越自動車道上越線富岡市吉田丹生地区第1次土質調査総括報告書, 68P.  
町田 貞(1948) 段丘面形成の地質学的研究, 地理評, 21, P. 289-293.





第6図 南蛇井増光寺遺跡とその周辺の地形分類図



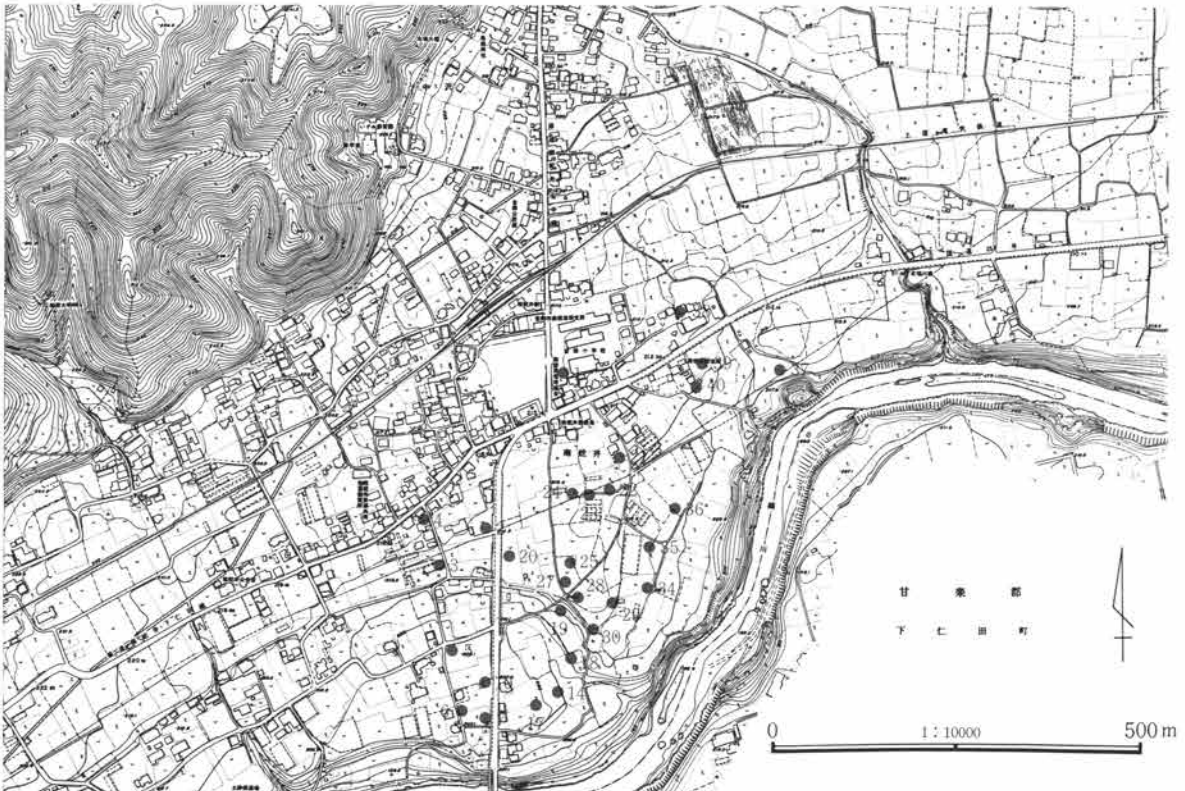
第7図 南蛇井増光寺遺跡付近の地質断面図



### 第3節 歴史的環境

本遺跡周辺の歴史的環境については『南蛇井増光寺遺跡Ⅰ A・B区』で詳しく、本報告書では、古墳時代以降の南蛇井地区から神農原地区の下位段丘面と周辺の丘陵上の歴史的環境について概観してみたい。

本遺跡地は、古墳時代には100軒以上の大集落が営まれ、集落に伴う墓域は小谷を隔てた南西方向に所在する南蛇井古墳群が当てられよう。南蛇井古墳群は、上毛古墳総覧（昭和13年作成）によると四十数基の古墳が密集していたとされ、一部発掘調査の結果から古墳群の形成時期は6世紀末から7世紀代にかけての円墳を中心とした古墳群であることがわかっている。また同期の生産域は、西側の小谷が考えられるが範囲が狭く、中沢川を渡り吉田地区の開墾がなされた可能性が考えられる。その後、吉田地区から神農原地区にかけては、老丁田、八反田、石坪などの字名や区画など条里区画を想定させる土地の区割りが見られ、神成地区の崖線を東西に流れる蚊沼川がある時期に流路の変更が行われ、当地の開墾に一役かったと考えられる。神成地区の丘陵地帯は、南側で幕岩と呼ばれる比高差30m以上の急峻な崖線を形成する。中世末期にはこの陵上に神成城、宮崎城が置かれ、簗川対岸の崖上にも杣瀬城、大山城等が置かれる。また、下位段丘面上の小段丘部に鎌田城、平賀城、原城?等々の城郭や谷奥に蚊沼の砦などが配置される。本遺跡の中世遺構はE区からDS区にかけて検出された1辺200mのL字形を呈する2号溝がある。この区画内部には掘立柱建物跡群及び火葬墓群が検出され、DS区では本溝の外縁部で瀬戸系の四耳壺を伴う古墓が検出されるなど増光寺の字名から寺院跡の可能性が考えられるが、下位段丘の中央に位置し、溝の規模及び平賀城の南前方の立地等を考えた場合には、館の可能性も考えられる。その他、当地には鎌倉街道が通っていたとされ、経路の想定図では貫前神社のある一の宮地区から宮崎地区の丘陵上を抜け、神成地区の下位段丘面に降り、式内社でもある宇芸神社前の崖線下を通り本遺跡DN区1号溝上の農道に至る。そして更に南蛇井駅方面に伸びる経路が考えられている。



第8図 南蛇井古墳群位置図

南蛇井古墳群一覧表(『上毛古墳綜覧』転載)

古墳 番号	形状	所在地			面積		規模		出土品	備考
		大字	字	番地	畝	歩	大きさ	高さ		
第1号	円型	南蛇井	久保替戸	294	3	25	径95尺	19尺	埴輪、土器破片	石槨南に開口す。『泉福寺山』
第2号	同	同	原前	401ノ1	1	05	不詳		埴輪、土器破片	
第3号	同	同	上熊野	乙614		09	12尺			熊野石宮あり。『物見塚』
第4号	同	同	同	611ノ2		06				八幡宮を祀る。
第5号	同	同	四日市	709ノ1	5	27	不詳		埴輪破片	
第6号	同	同	同	688其他			11尺		埴輪破片	
第7号	上円下方	同		乙689		08	50尺			八幡祠あり。
第8号	同	同	梁場	684		02				
第9号	不詳	同	同	乙685		02	不詳			
第10号	同	四日市		700ノ2	12	08	同			
				702	2	17				
第11号	円形	南蛇井	梁場	675ノ1	5	07	同		埴輪破片	
				783ノ3	4	09				
第12号	同	同	同	675ノ1	5	07			埴輪破片	
第13号	不詳	同	同	673	4	17				
第14号	円型	同	同	695ノ3		05				石槨(長10尺、幅5尺)開口す。
第15号	同	同	同	798	6	10				
第16号	同	同	同	798	6	10				
第17号	同	同	同	697	6	10				
第18号	同	同	掘添	652其他	9	04			埴輪破片	
第19号	不詳	同	同	648	1	60				
第20号	円型	同	原前	乙400		15				観音堂あり。
第21号	上円下方	同	四ツ塚	302	4	27	周112尺			石槨及葺石存す。
第22号	同	同	同	303	5	07	周74尺			
第23号	同	同	同	乙304	2	04	周98尺			葺石存す。
第24号	不詳	同	同	307	9	14	周70尺		人骨、勾玉、鏃	
第25号	同	同	同	308	24	01	不詳			
				309	9	19				
				310	7	07				
第26号	同	同	同	311	2	12	同			
第27号	同	同	同	309	9	19	同		埴輪破片	石槨露わる。
第28号	不詳	同	火打原	358	7	24			人骨、管玉、鏃	石槨(長9尺、幅6尺)開口す。
				390	1	20				
第29号	同	同	同	358	7	24			埴輪土器	
				359	1	01				
第30号	円型	同	同	371	3	10	周82尺			葺石存す。
				388	4	06				
第31号	不詳	同	同	乙376		09	不詳			葺石存す。
第32号	同	同	同	374	5	13				石槨(長10尺、幅6尺)開口。
第33号	同	同	同	375	8	29	不詳			石槨露わる。
第34号	同	同	同	352	10	23	同			石槨露わる。
第35号	同	同	同	350	6	28	同			
第36号	同	同	筋岩	乙326		18	周150尺			葺石存す。
				丙326	1	04				
				丁326	9	05				
第37号	円型	同	血ノ池	乙209	1	29	不詳		埴輪破片	
第38号	不詳	同	久保替戸	乙256	3	25	同			
第39号	円型	同	冷田	乙252ノ1	10	16	周126尺			『金塚』
第40号	同	同	同	乙250	6	01	周80尺			『金塚』
第41号	不詳	同	中村	乙1,089	12	22	不詳		埴輪破片	本古墳に触るものは病になるという。『尾神』
第42号	円型	神成	南不二塚	304	1	13	周108尺			石宮あり。『不二塚』
第43号	同	上小林	山神	241	13	22	周58尺			
第44号	同	同	同	232	13	05	周60尺			
第45号	同	同	同	240	12	21	周60尺			
第46号	同	同	西浦	甲45	14	06	周60尺			石槨(長4尺、幅3尺)北に開口す。
第47号	上円下方	同	同	39	8	06	周116尺			葺石存す。

## 第3章 検出された遺構と遺物

### 第1節 竪穴住居跡

#### 1. DN・E区竪穴住居跡の概要

遺跡地は中沢平賀皆戸との字境を東流する中沢川の扇状地形成時の影響を受け、北西方向から南東方向にかけて緩い傾斜をもち、遺跡中央東側部分を除き砂礫を多く含む粘質土、シルト質土及び砂礫層が互層に堆積する。遺跡中央東側は微高地状となり、洪水の上澄みである微砂質の堆積土が見られる。

扇状地形成時の最終段階は、遺跡中央部を南東方向に縦断する暗褐色土堆積層下層で検出された縄文時代中期の遺物を包含する旧河道の時期と考えられる。旧河道はまた遺跡北西部の4号溝下層（6号溝）でも検出され、遺跡地西側へ向かう流れも検出されている。

竪穴住居跡は、東側の微高地上で縄文時代中期から後期を中心とした竪穴住居が20軒検出されているが、大半は削平を受け炉跡と柱穴のみの残存が多く、円形の住居形状を呈すると考えられるが推定部分が多い。

弥生時代になると集落は国道254号線沿いに展開し100軒以上の竪穴住居跡群が検出されているが、当地区では遺跡地南端に36号住居跡1軒のみが検出されただけである。形状は隅丸長方形を呈し、終末期から古墳時代初頭（赤井戸式）にかけての時期の所産と考えられる。また、同住居に近接する15号住居は、主軸方位が36号住居と直交し、炉を有する。時期は36号住居と同じかやや下の時期と考えられる。

古墳時代後期に入ると竪穴住居跡は、遺跡地中央部から南東隅に向かって残る暗褐色土帯を避けて調査地全体に展開するようになる。住居規模は5～6mの方形を主体に、E区34号住居のような1辺8mの大型住居も見られる。かまど位置は大半が東壁または北壁に作られる。

奈良時代に入ると竪穴住居は遺跡地全体に散在するようになる。住居規模は、小型化し4m前後となり、E区5号住居のような横長の長方形を呈する住居も見られる。かまど位置は北壁に設置されるようになる。

平安時代の竪穴住居は、当地区南西部側は住居は見られなくなり、東側及び北側に集中するようになる。住居規模はDN区24号住居の3mに満たない方形の小型住居から、E区28号住居のように長辺6mの横長長方形を呈する住居等が見られる。かまど位置は東壁または南東隅に設置されるようになる。

#### 2. DN区竪穴住居跡

##### 36号住居跡 (PL.16・113)

**位置** Dm-53 **床面積** 20.3m<sup>2</sup> **主軸方位** N-26°-E **残存壁高** 0.35m **重複** 36住→1号溝  
**規模と形状** 長辺5.70m、短辺4.20mのやや歪んだ隅丸長方形のプランを呈し、住居北側の柱穴間の中央部に炉跡がある。周壁は崩落のためか線形が乱れる。

**床面** 床面は、覆土との色調差によって比較的容易に識別できたが、若干の起伏が認められた。床面の精査では、かたく踏み締められるなどの顕著な傾向は確認できなかった。

**炉跡** 検出した炉跡は、いわゆる地床炉で、浅い掘り込みの円形状プランを呈し、偏平な面をもつ礫を伴う。プラン内からは焼土面などは確認できなかった。

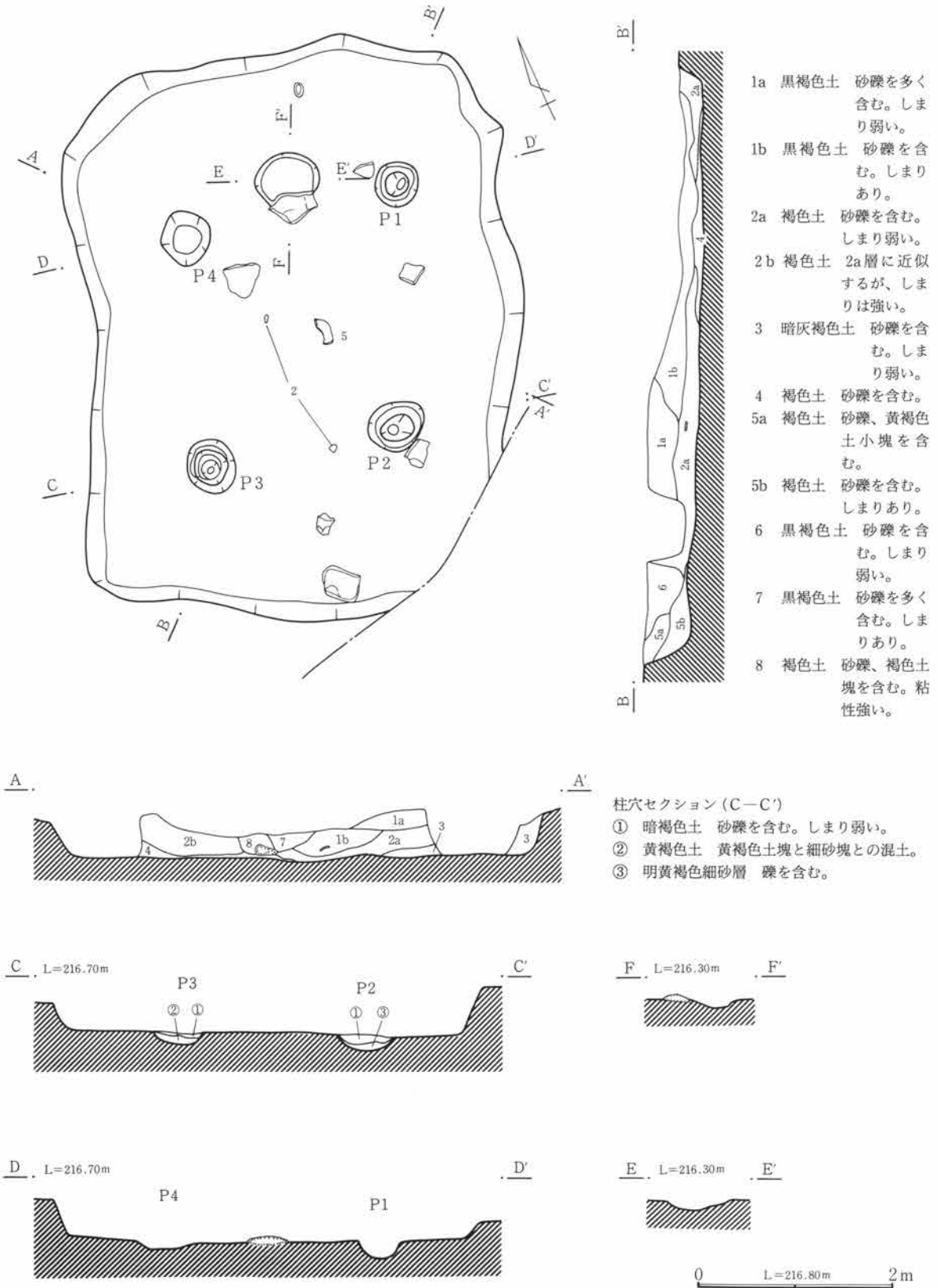
**柱穴** 4基の支柱穴と考えられるピットが検出されたが、いずれのピットも掘り込みが浅い。

**貯蔵穴・壁下周溝** いずれも検出されなかった。

**出土遺物** ミニチュアの甕2個体を含む総計44点の土器片と3点ほどの加工礫及び大礫が床面付近から出土している。

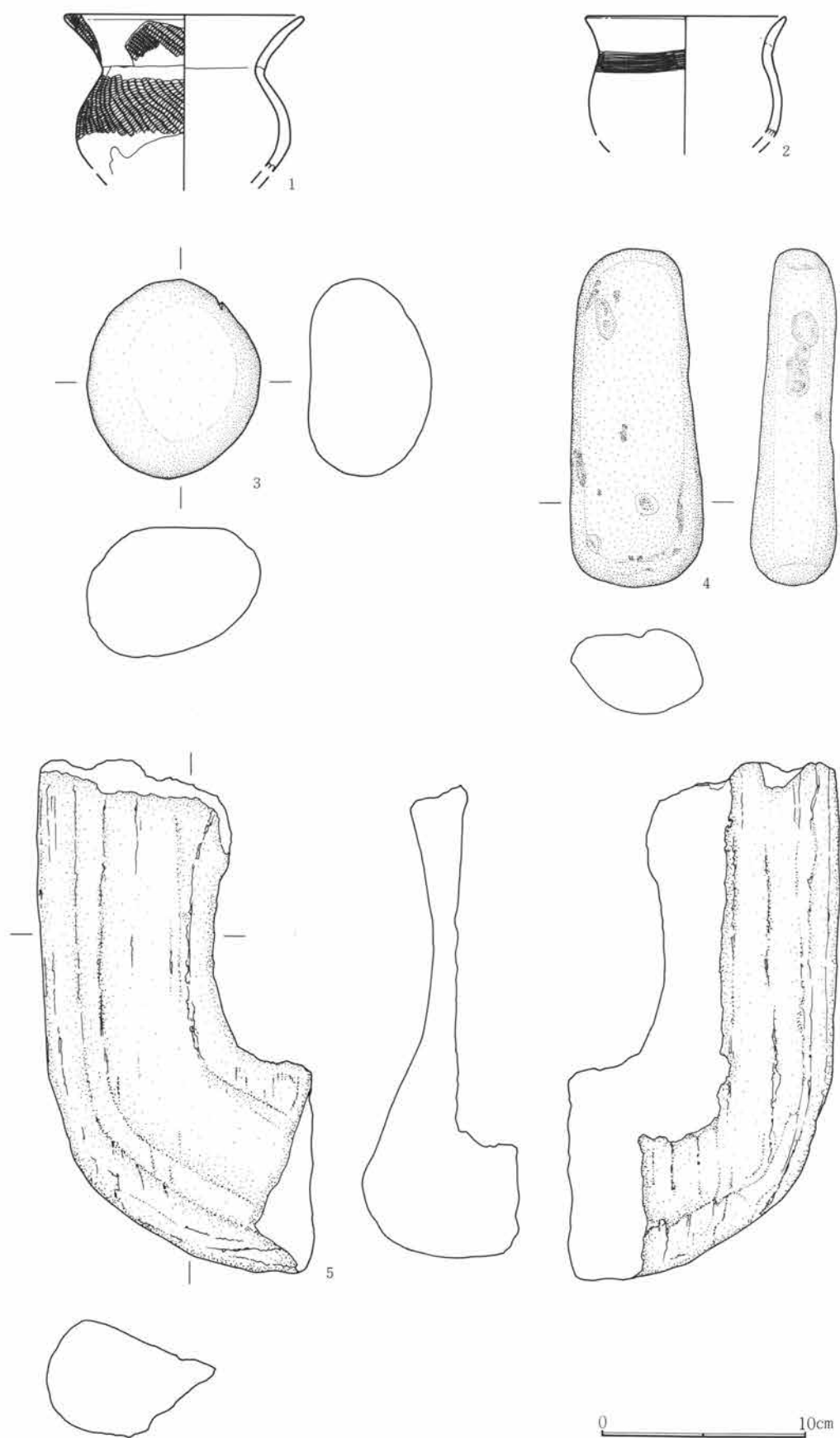
掘り方 床面と掘り方面がほぼ一致し、床面下から遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、弥生時代終末から古墳時代初頭の所産と考えられる。



第9図 36号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



第10図 36号住居跡出土遺物

15号住居跡 (PL. 9・111)

位置 Dn-55 床面積 14.4m<sup>2</sup> 主軸方位 N-68°-W 残存壁高 0.3m 重複 15住→14住

規模と形状 長辺4.62m、短辺3.66mのやや歪んだ長方形のプランを呈し、周壁は崩落のためか線形がやや乱れる。

床面 床面は、覆土との色調差によって明瞭に識別でき、比較的良好な平坦面が形成される。床面の精査では、かたく踏み締められるなどの顕著な傾向は確認できなかった。

炉跡 長軸西寄り中央部分にて、長円状の焼土粒の密集する地床炉のわずかなくぼみを確認した。脇に板状の礫が付設される。

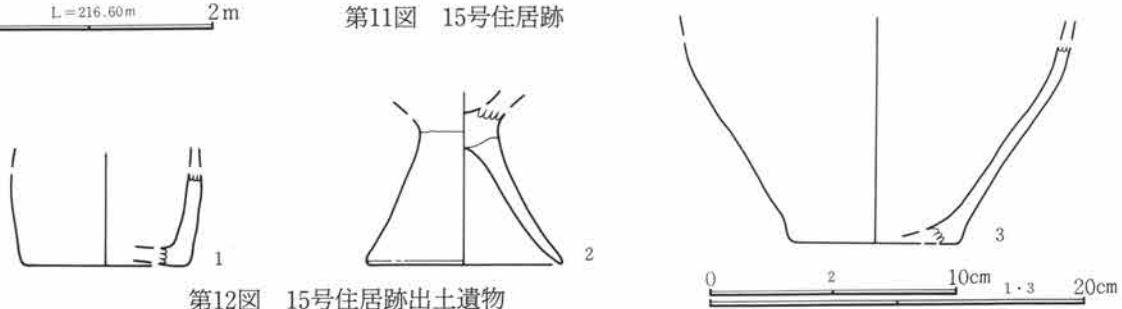
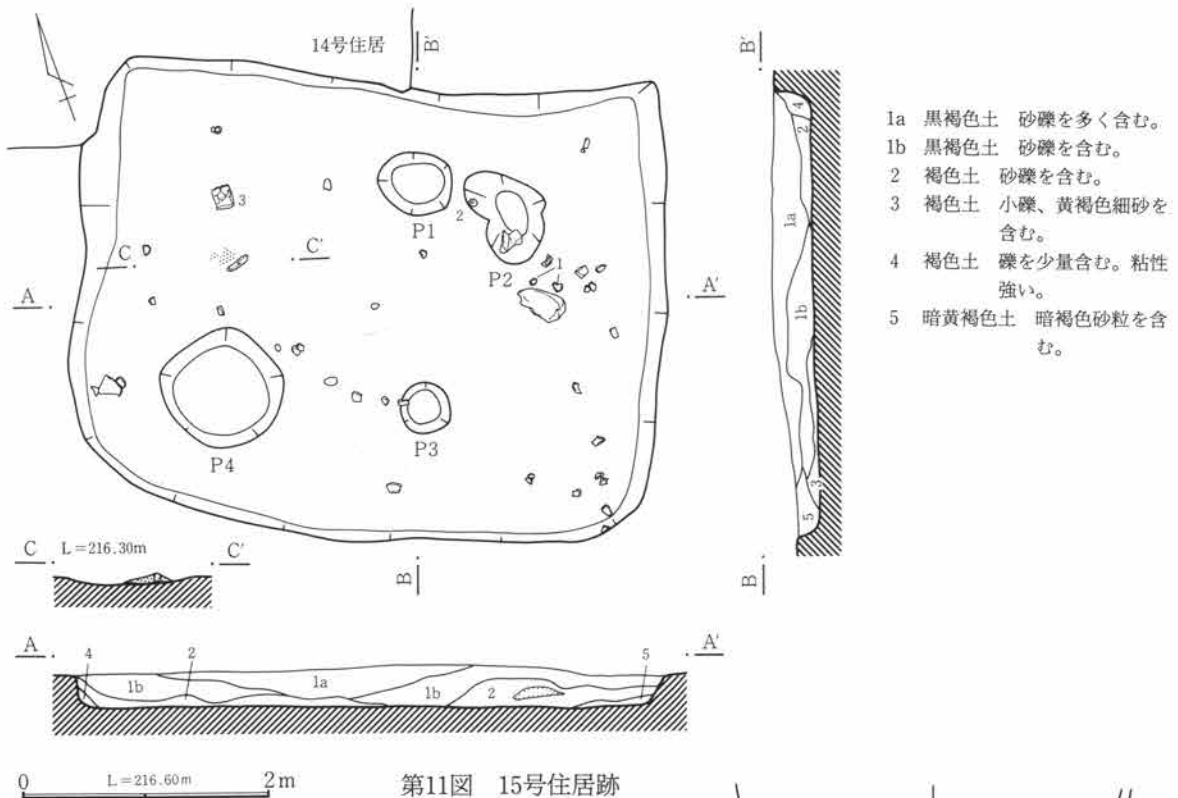
貯蔵穴・壁下周溝・柱穴 これらに該当すると考えられる遺構は検出されなかった。

土坑及びピット 住居内から、総計4基の土坑及びピットが検出された。いずれも掘り込みは浅い。本住居跡との関係は、調査時に明確な判断がなされていないため不明。

出土遺物 出土遺物は少なく、総計28点の土器片と5点ほどの石片が出土しているにすぎない。いずれも床面付近からの出土で、鉢・高坏・甕などの破片類を図示し整理しておきたい。

掘り方 床面と掘り方面がほぼ一致し、床面下から遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、古墳時代初頭と考えられる。





第3章 検出された遺構と遺物

1号住居跡 (PL. 3・107)

位置 Dm-57 床面積 7.0m<sup>2</sup> 主軸方位 N-84°-E 残存壁高 0.35m 重複 なし

規模と形状 長辺3.00m、短辺2.90mの縦長長方形のプランを呈し、周壁は安定した掘り込みといえるが、形状がわずかに歪んでいる。

床面 床面は、地山黄褐色土小塊を含む褐色土が見られ、覆土との僅かな色調差によって識別できた。若干の起伏が認められ、床面精査ではかまど前で灰や焼土粒を含むやや踏み締められた面が認められた。

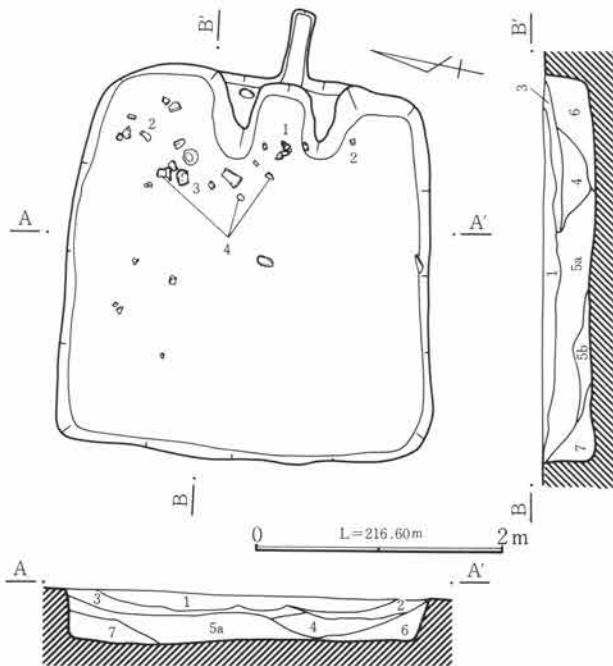
かまど 東辺部の中央よりやや南側に袖を有するかまどが築かれる。袖部分は地山掘り残しではなく、外側は覆土との土質の違いは明瞭でなく、若干黄褐色土が多く含まれる程度である。燃烧部側壁は、よく焼け込み、焼土化している。火焼面は床面より僅かに窪み灰層の堆積が見られる。煙道部は方形の掘り方が見られ、緩やかに立ち上がり煙出し部に移行すると思われる。側壁は、焼土壁が良好に残存している。

貯蔵穴・壁下周溝・柱穴 いずれも検出されなかった。

出土遺物 出土遺物は少なく、総計22点の土師器片と少量の石材が北東隅からかまど付近を中心に出土している。いずれも破片類で、2の小型甕は床面出土であるが、他は覆土からのものであり、流れ込みの可能性も考えられる。

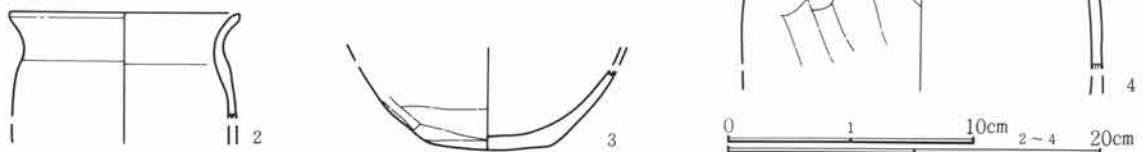
掘り方 床面と掘り方面がほぼ一致し、床面下から遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、7世紀代前半と考えられる。

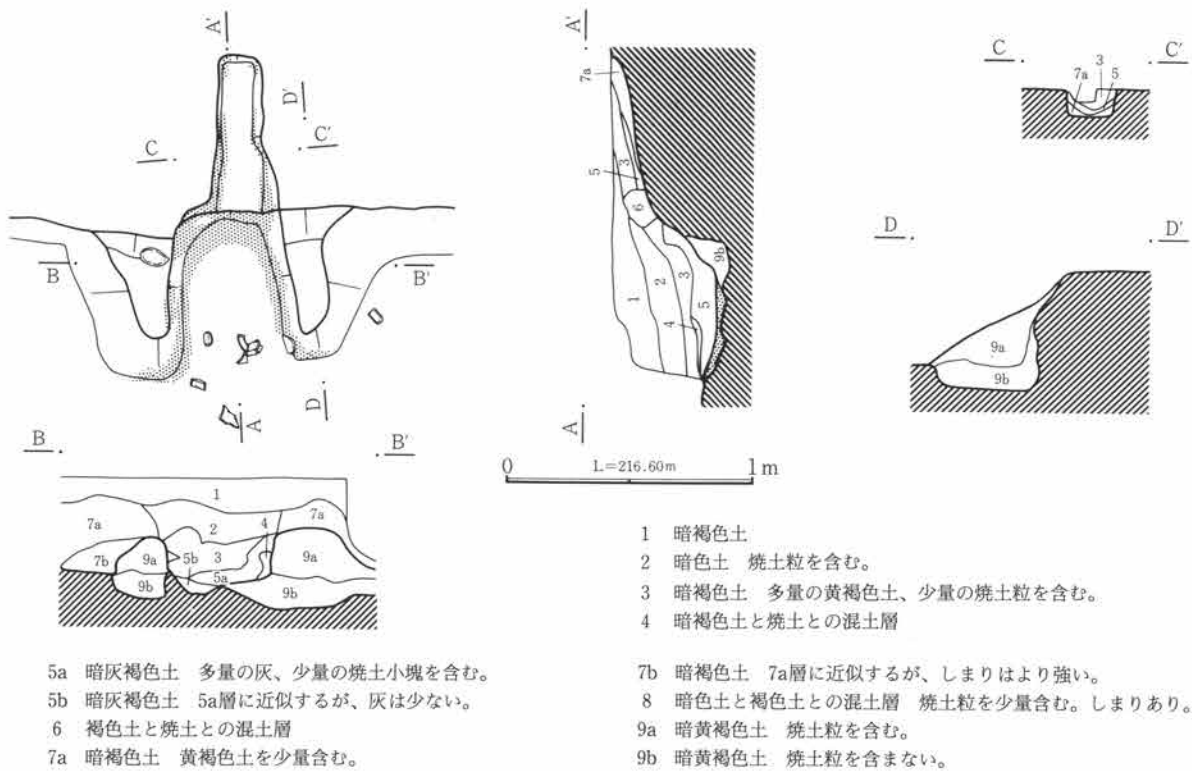


第13図 1号住居跡

- 1 暗色土 白色粒、黄色粒を少量含む。
- 2 明褐色土 黄褐色土小塊を含む。
- 3 褐色土 白色粒、黄色粒、小礫を多く含む。
- 4 暗褐色土 黄褐色土小塊を少量含む。しまりあり。
- 5a 褐色土 白色粒、黄色粒、小礫を少量含む。
- 5b 褐色土 5a層に近似するが、しまりが強い。
- 6 褐色土 黄褐色土塊を含む。
- 7 黒褐色土 白色粒、黄色粒、小礫、黄褐色土塊を少量含む。しまり弱い。



第14図 1号住居跡出土遺物



第15図 1号住居跡かまど

2号住居跡 (PL. 3・107)

位置 Do-57 床面積 14.6㎡ 主軸方位 N-6°-E 残存壁高 0.2m 重複 なし

規模と形状 一辺4.0m内外の正形状のプランを呈し、周壁は崩落も少なくほぼ直線的に走行し、安定した掘り込みといえる。

床面 床面は、地山または地山塊を含むくすんだ黄褐色土が踏み締められる。床面精査ではかまど前や住居中央部に焼土粒の散らばりが確認でき、部分的にかたく踏み締められる面が確認できた。

かまど 北辺部の中央よりやや東側の壁を掘り込み袖を有するかまどが築かれる。袖は地山を掘り残しかまど燃焼部を作る。しかし、炊き口部や燃焼部奥行きが残存状況からは、袖部分が壊れ、燃焼部と煙道部のプランが僅かに残ったといえる。燃焼部は床面と同レベルであり、奥壁部分で煙道部に向かいわずかな勾配をもちながら立ち上がる。燃焼部壁面は奥壁で焼土化が見られる程度である。煙道部は緩やかに立ち上がり、煙出し部に移行すると考えられる。

貯蔵穴 北東隅部にあり、径1m程の円形状を呈す。掘り込みは浅い。

壁下周溝 検出されなかった。

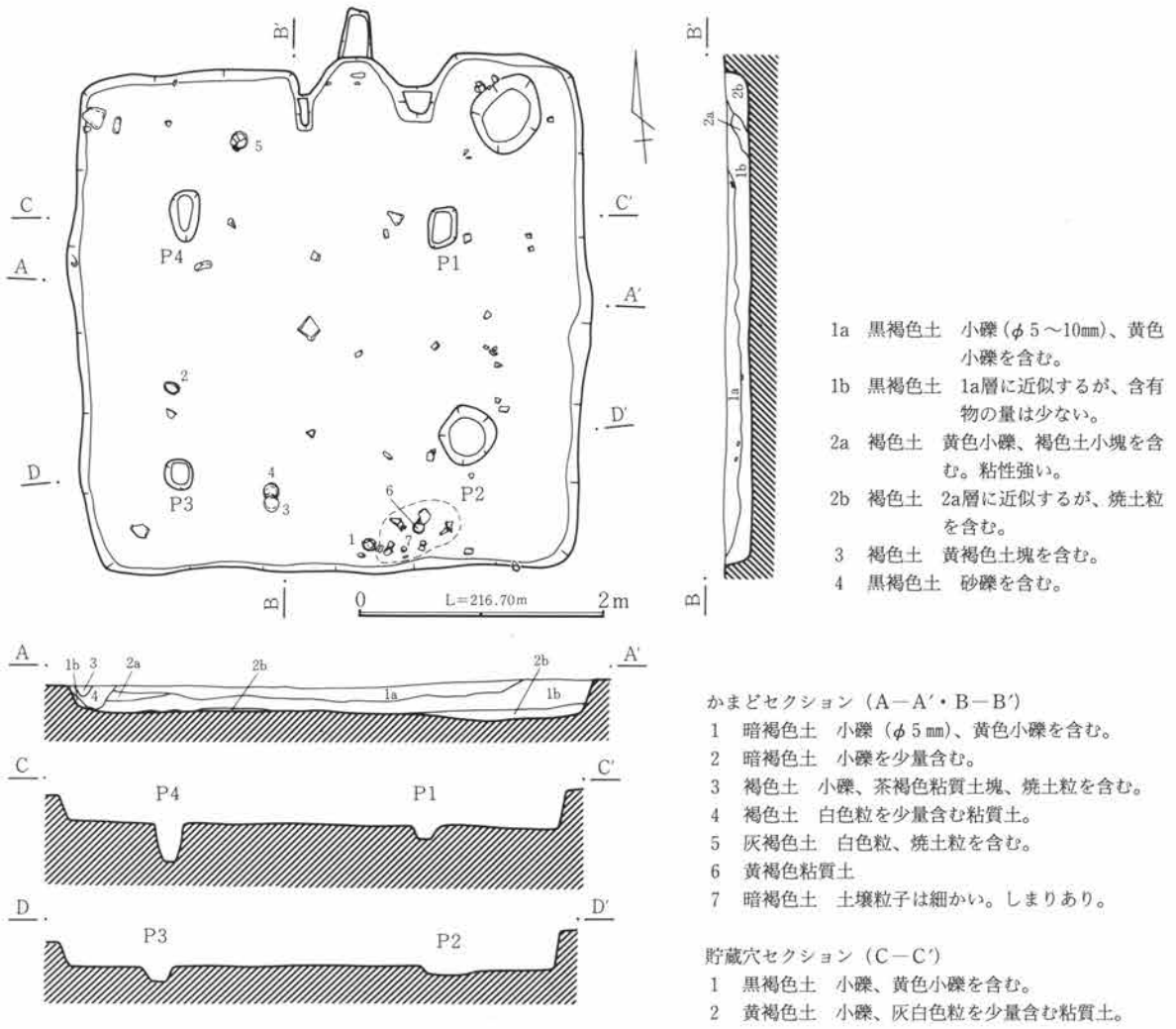
柱穴 4基の支柱穴が検出されているが、いずれも浅い掘り込みで、形状にもばらつきがある。

出土遺物 出土遺物は少ない。総計41点の土器片・完形個体が出土している。住居南辺部の床面付近から、土師器甕・坏や完形の須恵器坏などが比較的まとまって認められた。

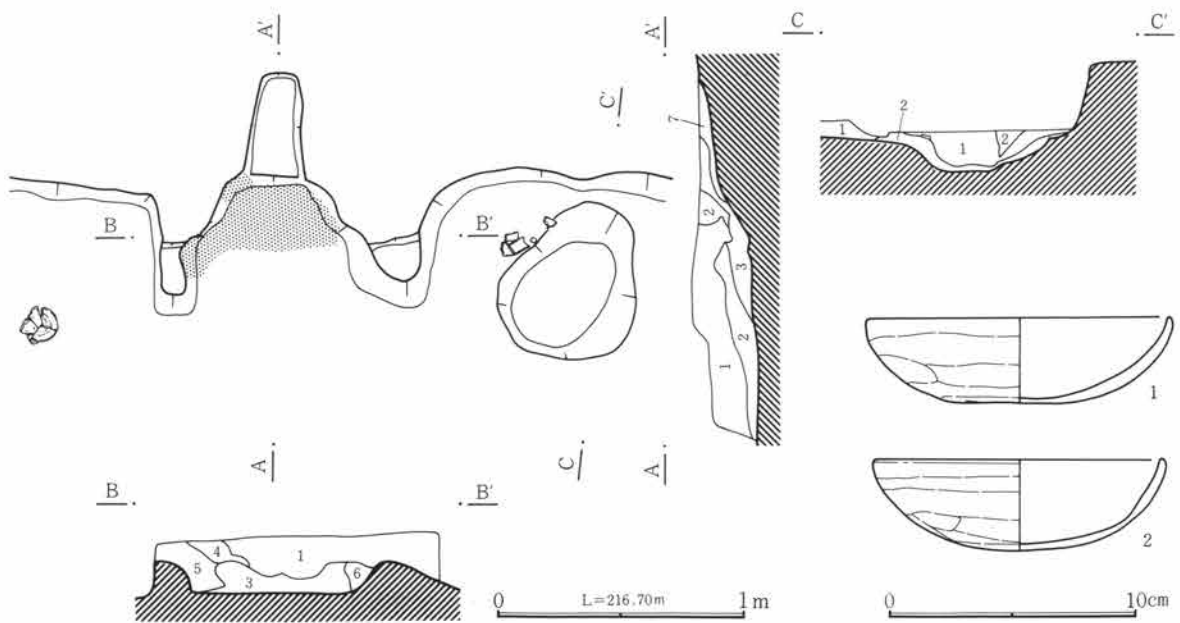
掘り方 床面と掘り方面がほぼ一致し、床面下から遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、7世紀末の所産と考えられる。



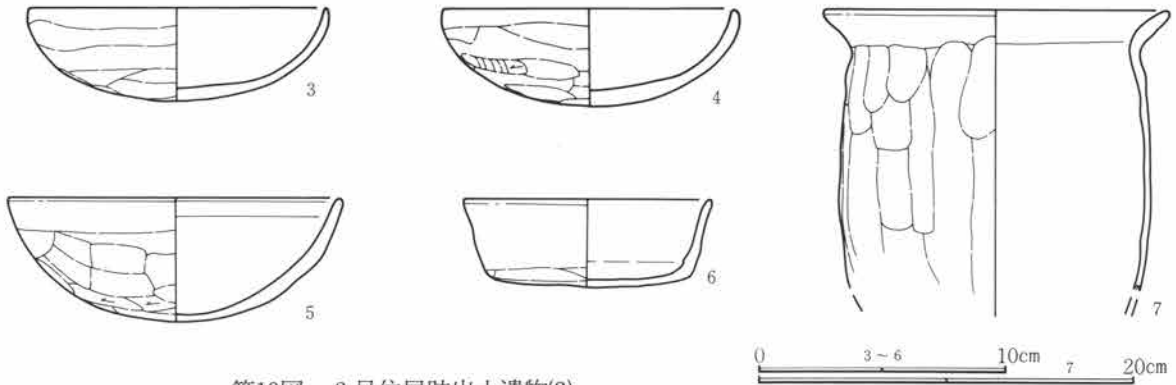


第16図 2号住居跡



第17図 2号住居跡かまど

第18図 2号住居跡出土遺物(1)



第19図 2号住居跡出土遺物(2)

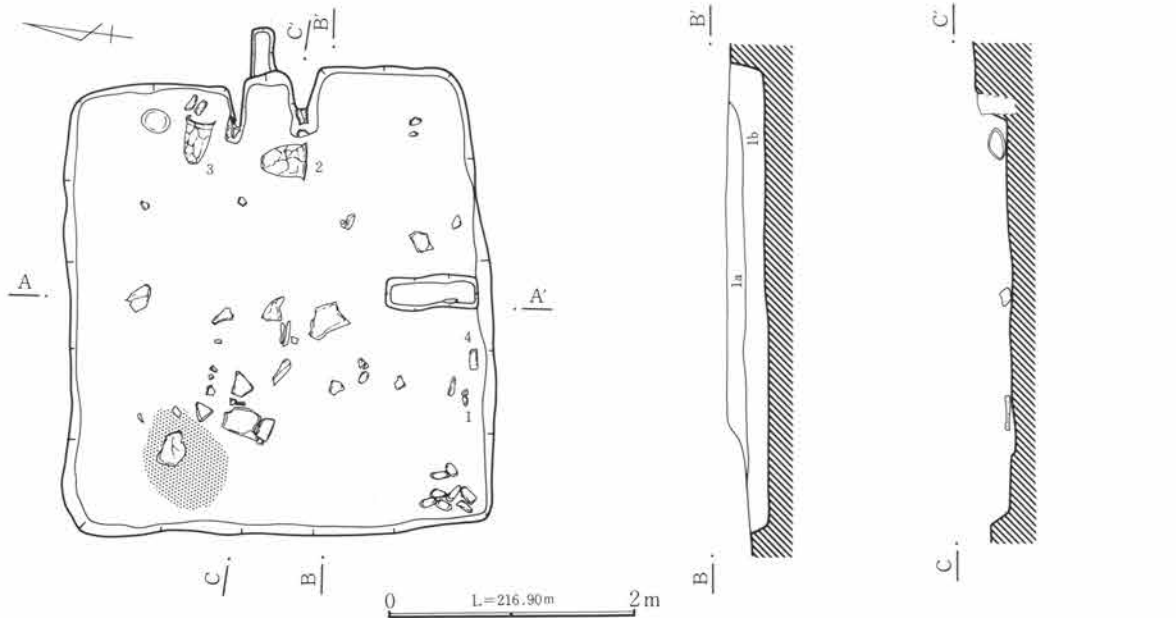
3号住居跡 (PL. 4・107)

位置 Dr-58 床面積 10.7m<sup>2</sup> 主軸方位 N-78°-E 残存壁高 0.3m 重複 なし

規模と形状 長辺3.60m、短辺3.34mのやや縦長の長方形のプランを呈する。壁面は西側部分で砂礫層を掘り込んでいるため脆い。

床面 炭化粒を含む暗褐色土が薄く貼り床状に見られ、床面精査では、かたく踏み締められるなどの顕著な傾向は確認できなかった。

かまど 東壁中央部に袖を有するかまどが築かれる。袖は砂岩を両炊き口部に補強材として用い、全体的には粘性の弱い土を貼り付けている。壁面は垂直に立ち上がり方形のプランを呈し、僅かに焼土化する。火床面は床面よりやや下がり薄く灰の堆積が見られる。煙道部は比較的短いもので、焼土面などは確認されなかった。



第20図 3号住居跡

- 1a 暗褐色土 灰褐色土塊、多量の、小礫(φ5~10mm)・黄色小礫を含む。
- 1b 暗褐色土 小礫(φ10mm)、黄色礫を含む。やや粘性。
- 2 黒褐色土 小礫(φ5mm)を多く含む。しまりあり。

第3章 検出された遺構と遺物

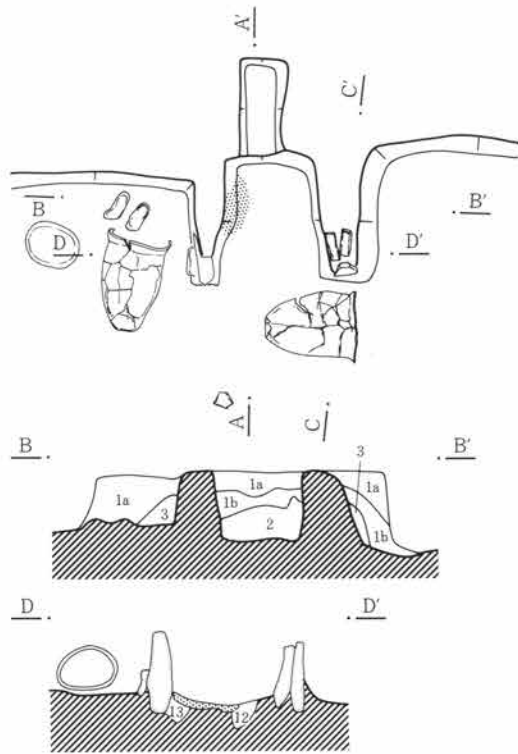
貯蔵穴・壁下周溝・柱穴 いずれも検出されなかった。

出土遺物 出土遺物は少なく、計2点の土師器甕（いずれもほぼ完形）と砥石が、かまど付近や住居南辺部より出土している。その他には、住居中央部からかまど用石（砂岩）の残欠、鉄滓、南西隅部からは通称「こも編み石」（柱状の河原石・長さ0.15m）といわれる石が8点出土している。また、少量ではあるが、僅かに炭化材や焼土の分布が床面付近で確認されている。

掘り方 砂礫層となり、薄く貼り床が見られる。

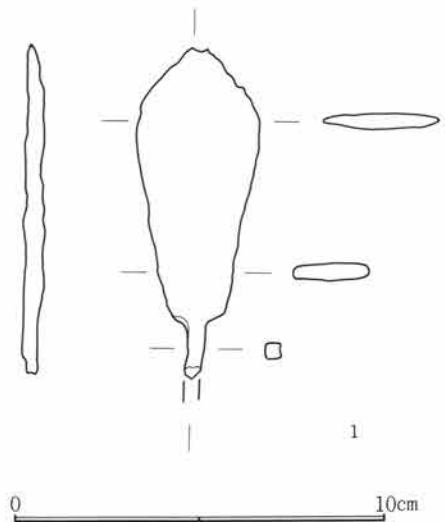
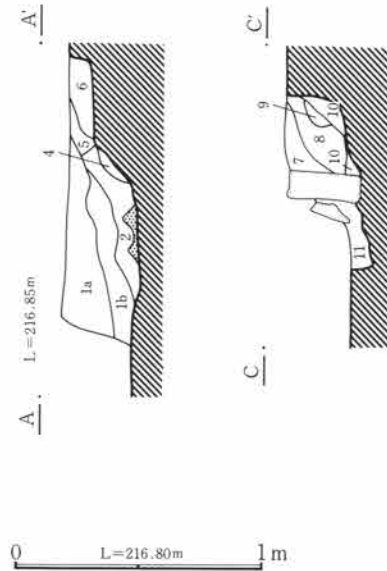
時期 出土遺物や住居形態から、7世紀代の所産と考えられる。

備考 炭化材や焼土の分布から、本住居跡は焼失家屋の可能性も考えられる。

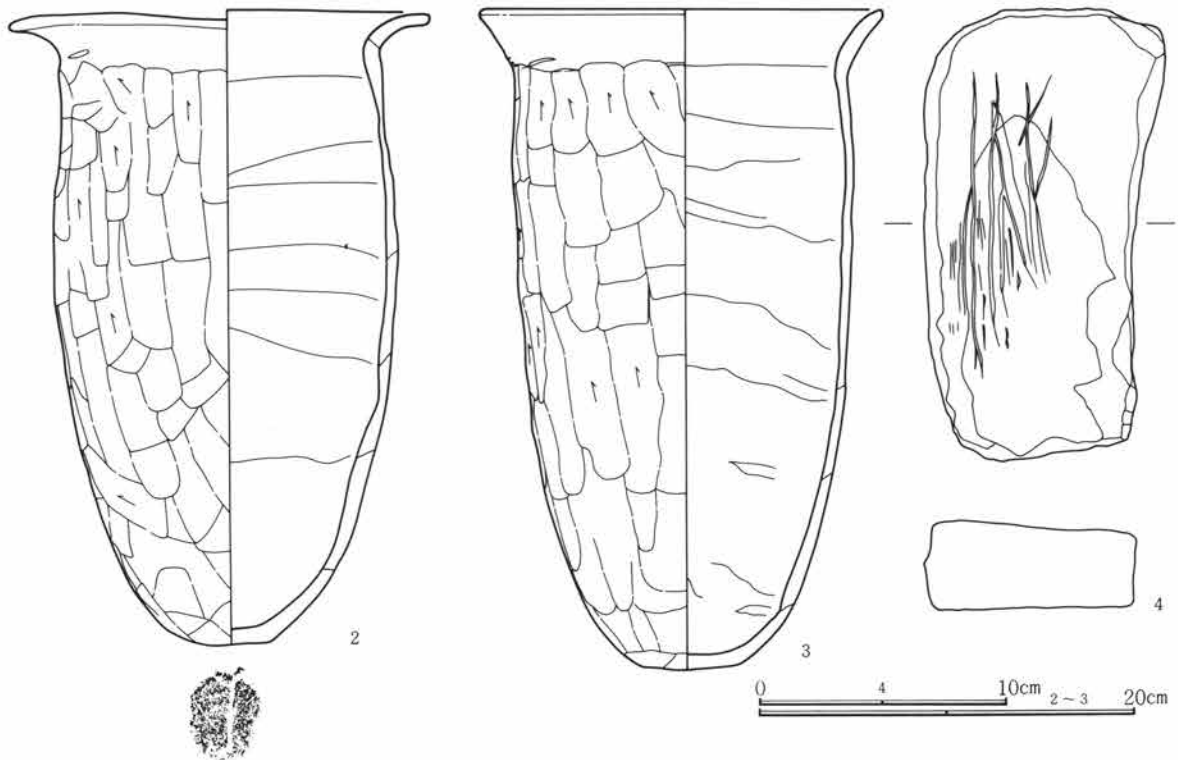


- 1a 暗褐色土 小礫、黄色小礫を多く含む。
- 1b 暗褐色土 黄色小礫、焼土粒を含む。
- 2 灰褐色土 黄褐色土粒、焼土粒を少量含む。やや粘性。
- 3 暗色土 砂粒を多く含む。しまりなし。
- 4 暗灰褐色土 小礫を少量含む。しまり弱い。
- 5 褐色土 黄色粒、焼土粒を含む。
- 6 暗黄褐色土 黄褐色土と暗褐色土との混土。
- 7 暗褐色土 砂粒を多く含む。しまり弱い。
- 8 褐色土 砂粒、黄褐色土粒を含む。しまり弱い。
- 9 黄褐色土 暗褐色土を少量含む。
- 10 暗褐色土 黄褐色土粒を少量含む。やや粘性。
- 11 暗褐色粘質土と黄褐色土との混土層
- 12 暗褐色土 焼土粒を少量含む。やや粘性。
- 13 褐色土 焼土粒を少量含む。

第21図 3号住居跡かまど



第22図 3号住居跡出土遺物(1)



第23図 3号住居跡出土遺物(2)

4号住居跡 (PL. 4・107・108)

位置 Dm-58 床面積 測定不能 主軸方位 N-76°-E 残存壁高 0.45m 重複 4住→2号溝  
規模と形状 一辺6.20mが計測でき、方形状を呈すと考えられるが、詳細は不明。

床面 床面は、覆土との色調差によって明瞭に識別でき、かまど前や住居中央部を中心に、黄褐色土のかたく踏み締められた貼り床が確認されている。かまど前や北西部に焼土粒・灰の広がりが見られる。

かまど 東壁中央やや南寄りの部分に袖を有するかまどが築かれる。かまどの残存状況は比較的良く、燃焼部と煙道部のプランが確認されている。燃焼部は住居壁の内側に作り出されU字状プランを呈す。燃焼部からは、焚口部の袖石と天井部に架けられた用石がほぼ旧状をとどめて検出された。燃焼部側壁および底面は、よく焼け込み焼土化し一部にレンガ化も認められる。煙道部は比較的長いもので、わずかに勾配をもちながら立ち上がり側壁の一部は焼土化している。

貯蔵穴 南東隅部にあり、隅丸方形状を呈する。掘り込みは浅く、周辺部に大礫が出土している。

壁下周溝 北辺部の一部とかまど付近以外で確認されている。

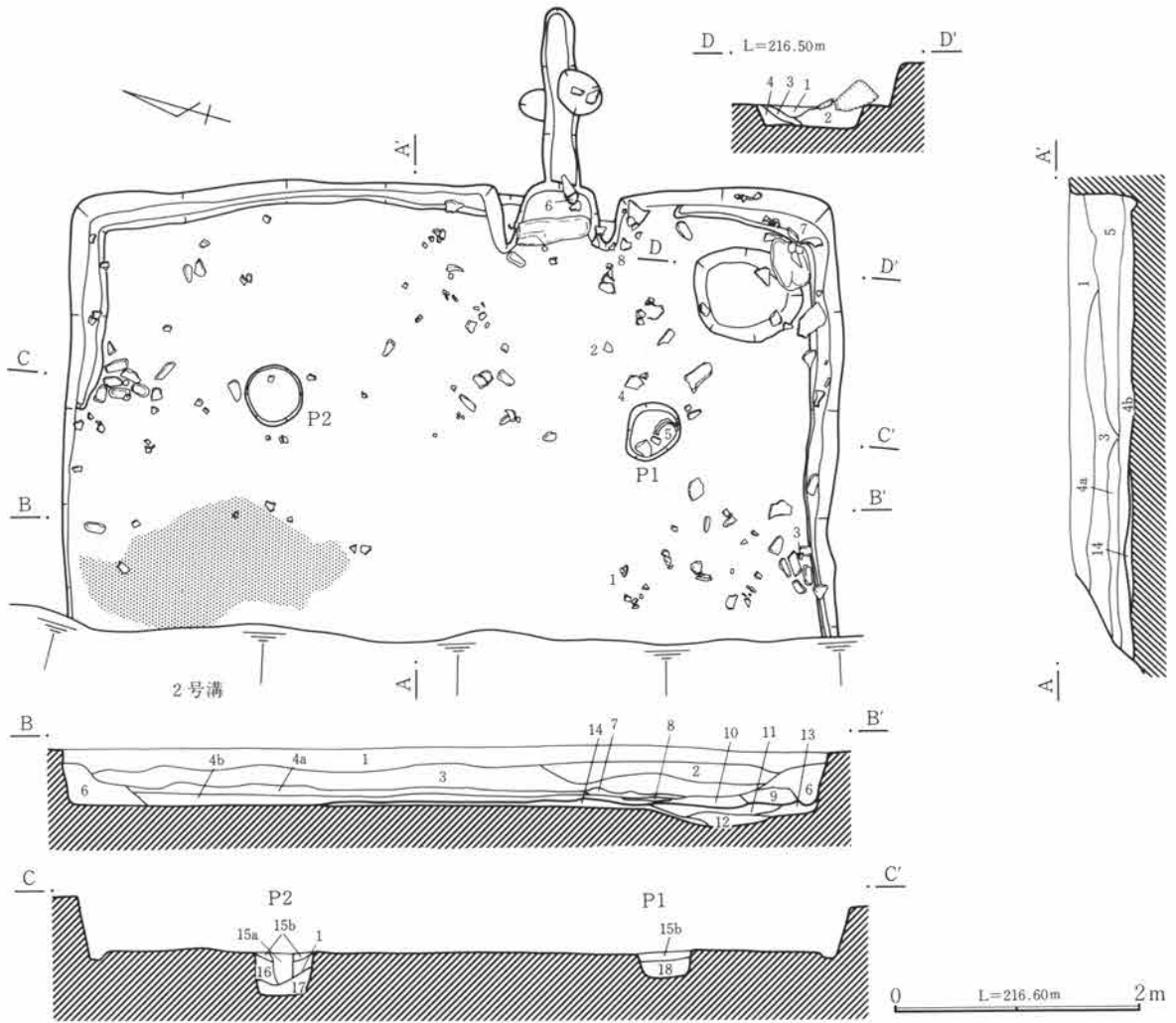
柱穴 2基の支柱穴が検出されたが、掘り込みは浅い。

出土遺物 出土遺物は少ない。総計157点の土器片類と50点の石製品・石片・石材（かまど用石を含む）が出土している。土師器甕・坏、須恵器坏があり、完形個体はない。北辺部と南辺部にこも編み石のまとまりが2カ所あり、玉砥石はかまど前の床面付近から出土している。

掘り方 住居南側を中心に貼り床土が0.1~0.2m認められるが、顕著な床面下の遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、6世紀代後半と考えられる。

第3章 検出された遺構と遺物



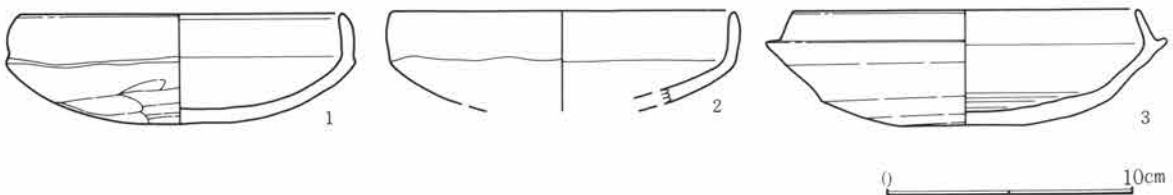
- 1 暗褐色土 小礫を多く含む。
- 2 暗褐色土 小礫、黄褐色土、少量の焼土粒・炭化物を含む。
- 3 暗褐色土 小礫、焼土粒、炭化物、土器片を含む。粘性。
- 4a 褐色土 灰褐色土塊、焼土粒、炭化物を含む。
- 4b 褐色土 黄褐色土、砂礫を含む。
- 5 暗褐色土 2層に近似するが、黄褐色土、焼土粒はより少ない。
- 6 暗褐色土 小礫を少量含む。
- 7 暗褐色土 灰色粘土、黄褐色土小塊を含む。
- 8 灰白色粘土
- 9 黄色粘土塊
- 10 褐色土 黄褐色土小塊、細砂塊を含む。
- 11 褐色土 黄褐色土粒、小礫を含む。
- 12 灰褐色粗砂層

- 13 暗黄色土 小礫を含む。
- 14 黄褐色土 小礫を含む。しまりあり。
- 15a 暗褐色土 礫を少量含む。
- 15b 暗褐色土 礫をごく少量含む。
- 16 暗褐色土 礫を含む。
- 17 黄褐色砂礫層
- 18 黄褐色粗砂層

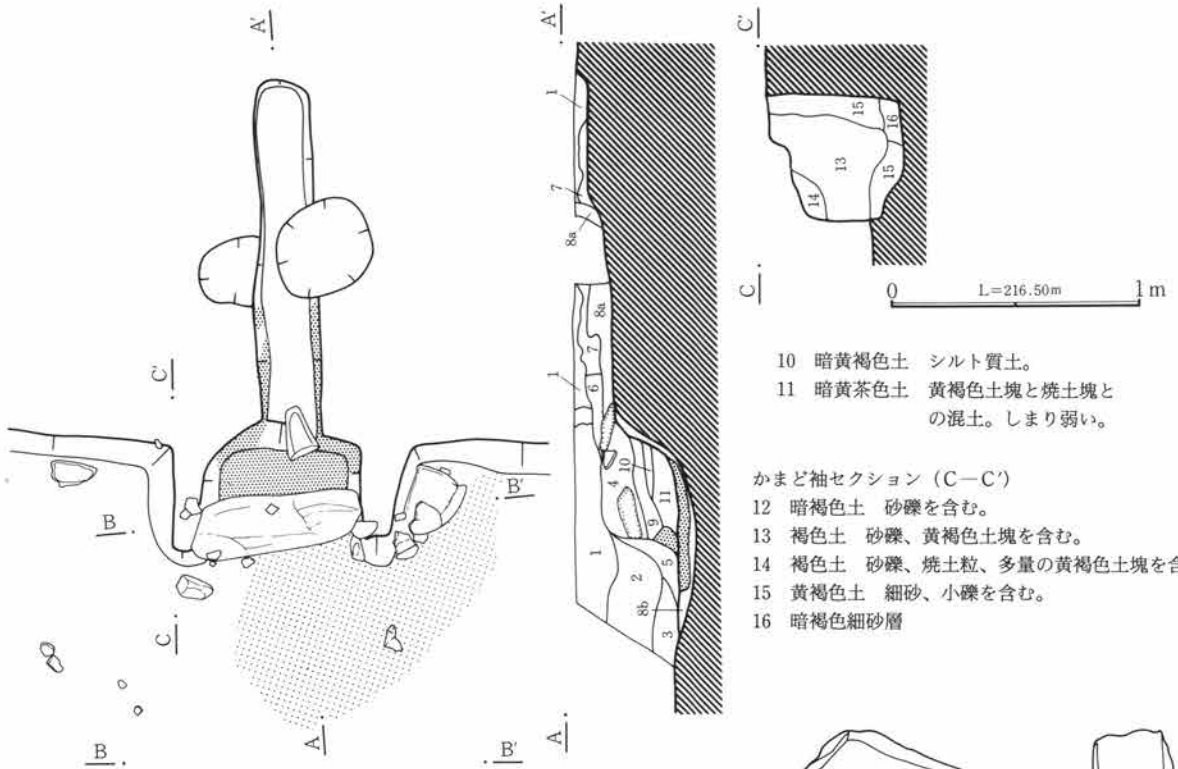
貯蔵穴セクション (D-D')

- 1 褐色土 焼土粒、少量の小礫を含む。
- 2 灰茶褐色土 黄褐色土塊、焼土塊を含む。
- 3 褐色土 黄褐色土と褐色土の混土。焼土粒を含む。
- 4 褐色土 3層に近似するが、土色はやや黄色味を帯びる。

第24図 4号住居跡



第25図 4号住居跡出土遺物(1)



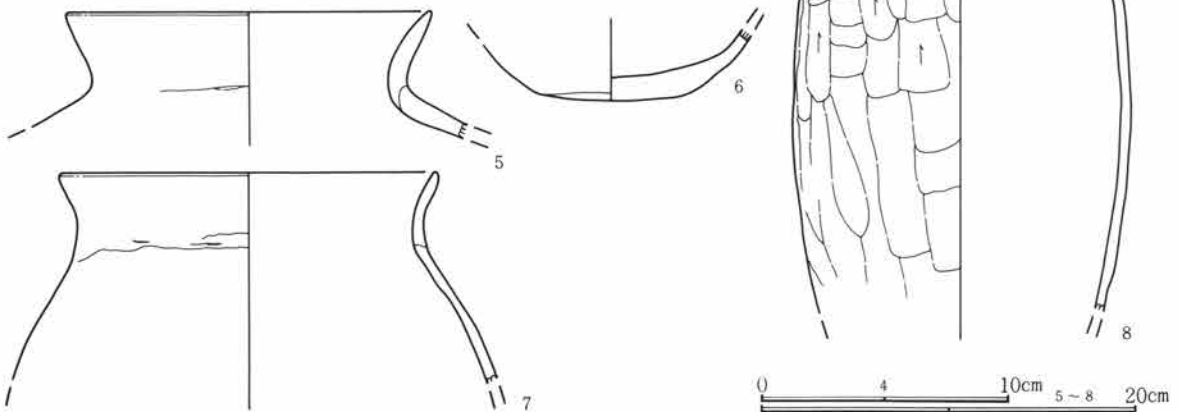
- 10 暗黄褐色土 シルト質土。
- 11 暗黄茶色土 黄褐色土塊と焼土塊との混土。しまり弱い。

かまど袖セクション (C-C')

- 12 暗褐色土 砂礫を含む。
- 13 褐色土 砂礫、黄褐色土塊を含む。
- 14 褐色土 砂礫、焼土粒、多量の黄褐色土塊を含む。
- 15 黄褐色土 細砂、小礫を含む。
- 16 暗褐色細砂層

- 1 暗褐色土 小礫、黄色小礫を含む。
- 2 暗褐色土 小礫、黄色小礫を少量含む。
- 3 暗灰褐色土 灰褐色土塊、少量の、小礫・黄色小礫を含む。
- 4 暗灰褐色土 3層に近似するが、粘性・しまりともに強い。
- 5 暗灰褐色土 灰褐色土塊、焼土粒を含む。しまり弱い。
- 6 褐色土 黄色粒を少量含む。
- 7 暗黄褐色土 黄色粒、焼土粒を少量含むシルト質土。
- 8a 黄茶色土 黄色粒、焼土塊を含むシルト質土。
- 8b 黄茶色土 黄色粒、焼土塊を少量含むシルト質土。
- 9 褐色土 砂礫、黄褐色土を含む。粘性強い。

第26図 4号住居跡かまど



第27図 4号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物

5号住居跡 (PL. 5・108)

位置 Do-59 床面積 15.2㎡ 主軸方位 N-9°-W 残存壁高 0.35m 重複 7住→6住→5住←35住

規模と形状 長辺4.34m、短辺4.04mの方形状のプランを呈し、周壁は西壁北側がやや張り出す。

床面 住居東側は35号住居を掘り込みやや締め弱く若干掘り過ぎた部分もある。他の床面の検出は、覆土との色調差によってなされ、比較的良好的な平坦面が形成された。また、かまど前や住居西側部分で踏み締められた面が確認できた。

かまど 北壁中央やや東寄りので袖を有するかまどが築かれる。かまどの残存状況は悪く、燃焼部と煙道部のプランが確認されたにすぎない。燃焼部は住居壁の内側に作り出され、奥行きのないU字状プランを呈する。燃焼部内やかまど前で焼土の分布が認められる。煙道部は短いものが付設される。

貯蔵穴 かまど横の北東隅部にあり、円形状を呈し、掘り込みは浅い。

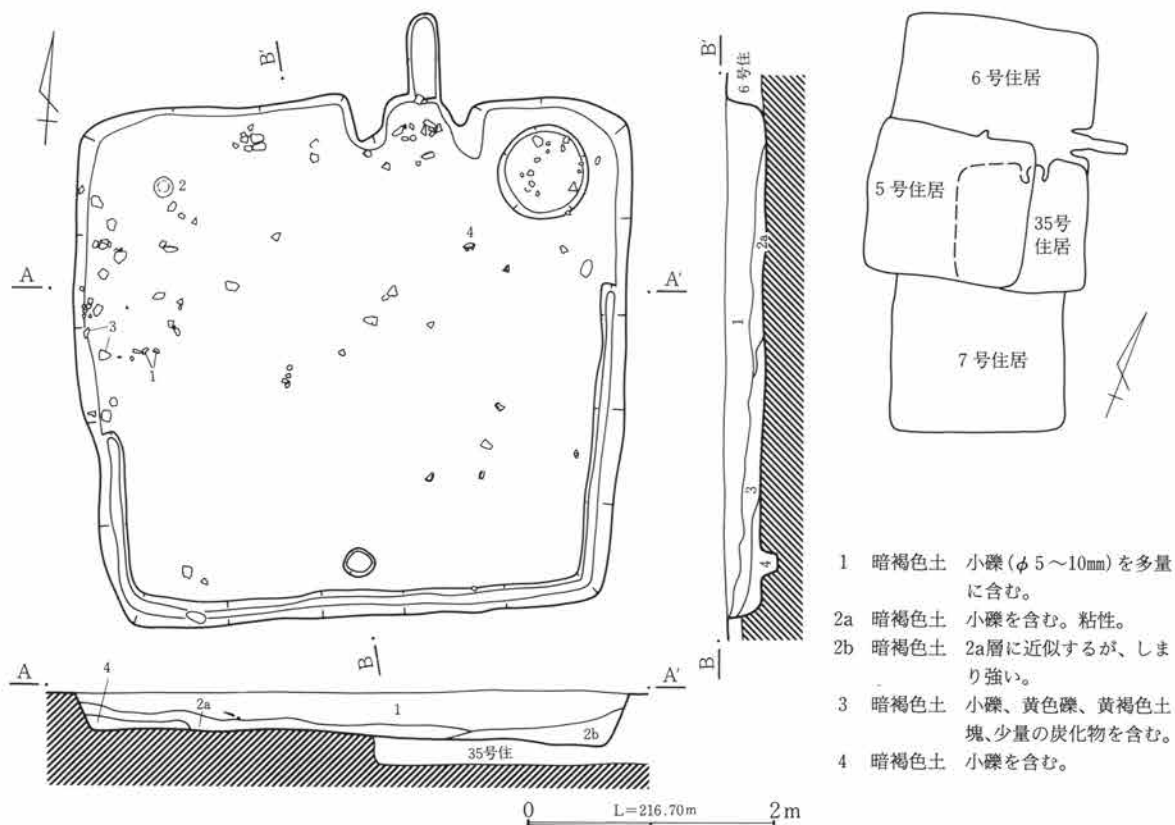
壁下周溝 東辺部中央付近から南辺部をへて、西辺部の一部にかけて検出されている。

柱穴 柱穴は検出されないが、南辺部の中央付近から小ピットが検出されている。出入口部に関するピットの可能性がある。

出土遺物 総計110点の土器片の他、5点あまりの石片(紡錘車を含む)が出土している。いずれも床面や床面付近からの出土で、2の土師器坏はほぼ完形品。

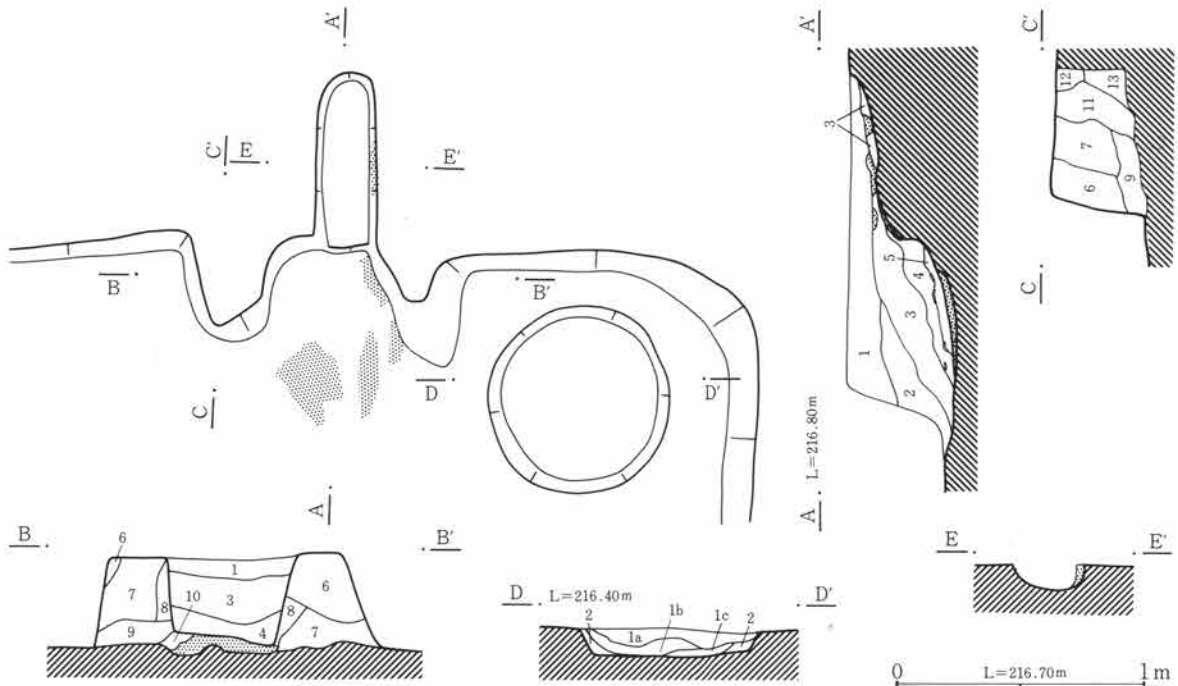
掘り方 床面と掘り方面がほぼ一致し、床面下から遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、8世紀代後半と考えられる。



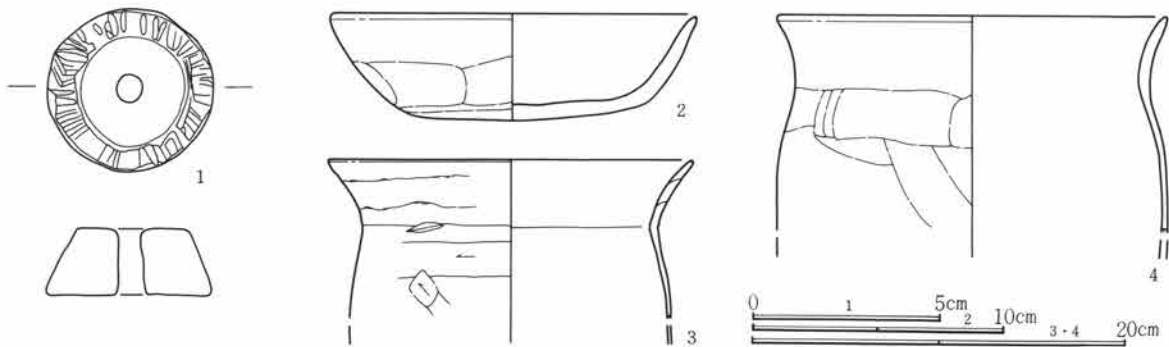
第28図 5号住居跡





- |                                 |                              |
|---------------------------------|------------------------------|
| 1 暗褐色土 小礫を多量に含む。                | 10 暗黄褐色土 黄褐色土小塊を多く含む。        |
| 2 暗褐色土 小礫、黄色礫、黄褐色土を含む。          | 11 褐色土 黄褐色土小塊を多く含む。粘性強い。     |
| 3 暗褐色土 小礫、黄色礫(φ5mm)を多く含む。しまり強い。 | 12 暗黄色土 黄褐色土塊を多く含む。          |
| 4 暗灰褐色土 小礫、焼土粒を含む。粘性強い。         | 13 暗褐色土 砂礫、黄褐色土小塊を含む。        |
| 5 暗灰茶色土 焼土塊を多く含む。粘性強い。          |                              |
| 6 暗褐色土 砂礫を多く含む。                 | 貯蔵穴セクション(D-D')               |
| 7 褐色土 砂礫を少量含む。粘性強い。             | 1a 褐色土 小礫を含む。                |
| かまど袖セクション(C-C')                 | 1b 褐色土 小礫、黄褐色土塊、土器片を含む。粘性強い。 |
| 8 褐色土 砂礫、黄褐色土小塊を含む。             | 1c 褐色土 小礫、黄褐色土小塊を少量含む。粘性強い。  |
| 9 褐色土 炭化物、土器片、多量の焼土粒を含む。        | 2 褐色土 焼土粒、黄褐色土小塊を含む。しまり強い。   |

第29図 5号住居跡かまど



第30図 5号住居跡出土遺物

6号住居跡 (PL. 5・108)

位置 Dp-59 床面積 不明 主軸方位 N-80°-E 残存壁高 0.3m 重複 35住→6住→5住  
規模と形状 東西辺5.20mが計測されるが、南北辺は不明。方形状のプランと推定される。

床面 床面は、覆土との色調差によって明瞭に識別できたが、若干の起伏が認められた。床面の精査では、かたく踏み締められるなどの顕著な傾向は確認できなかった。

かまど 東壁にて袖を有するかまどが築かれる。また、北脇の壁外に古いかまどの煙道部が検出された。作



第3章 検出された遺構と遺物

り替え前のかまどは、煙道部のプランと、燃焼部と推定される位置で焼土の分布が認められた。燃焼部両袖の先端部には砂岩加工石（板状）が残存する。燃焼部側壁および底面はよく焼け込み焼土化している。比較的長めの煙道部は、ほぼ水平に屋外に伸び直立する構造をなすと推定される。顕著な焼土面などは確認されていない。

**貯蔵穴** かまどと南東部の柱穴との間にある円形状のピットが貯蔵穴と推定される。

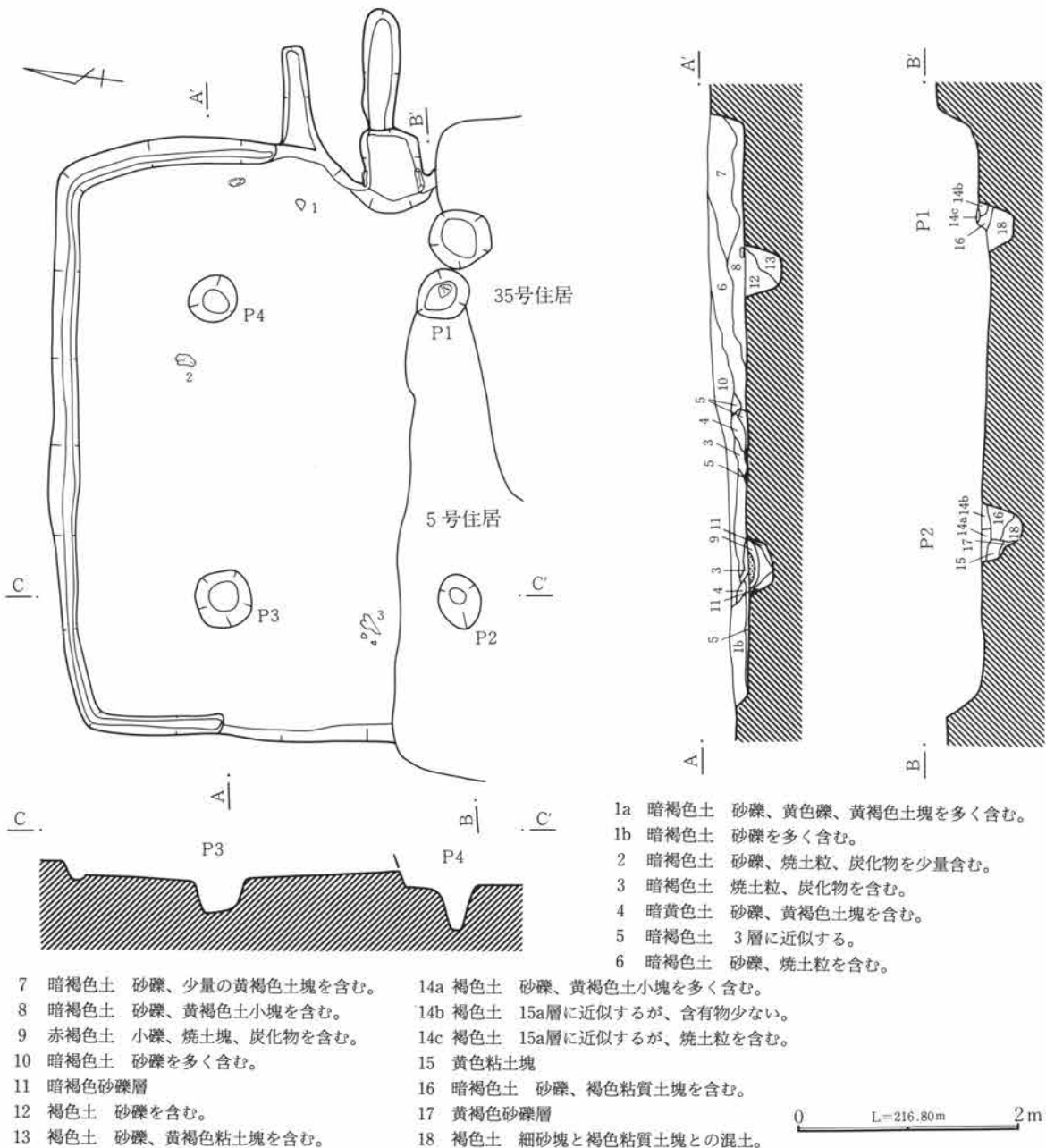
**壁下周溝** 北壁及び東壁かまど北と西壁の一部で検出された。

**柱穴** 4基の支柱穴が検出された。掘り込みは浅い。

**出土遺物** 出土遺物は少なく、土師器坏・甕破片及び総計38点の土器片と少量の石片が出土した。

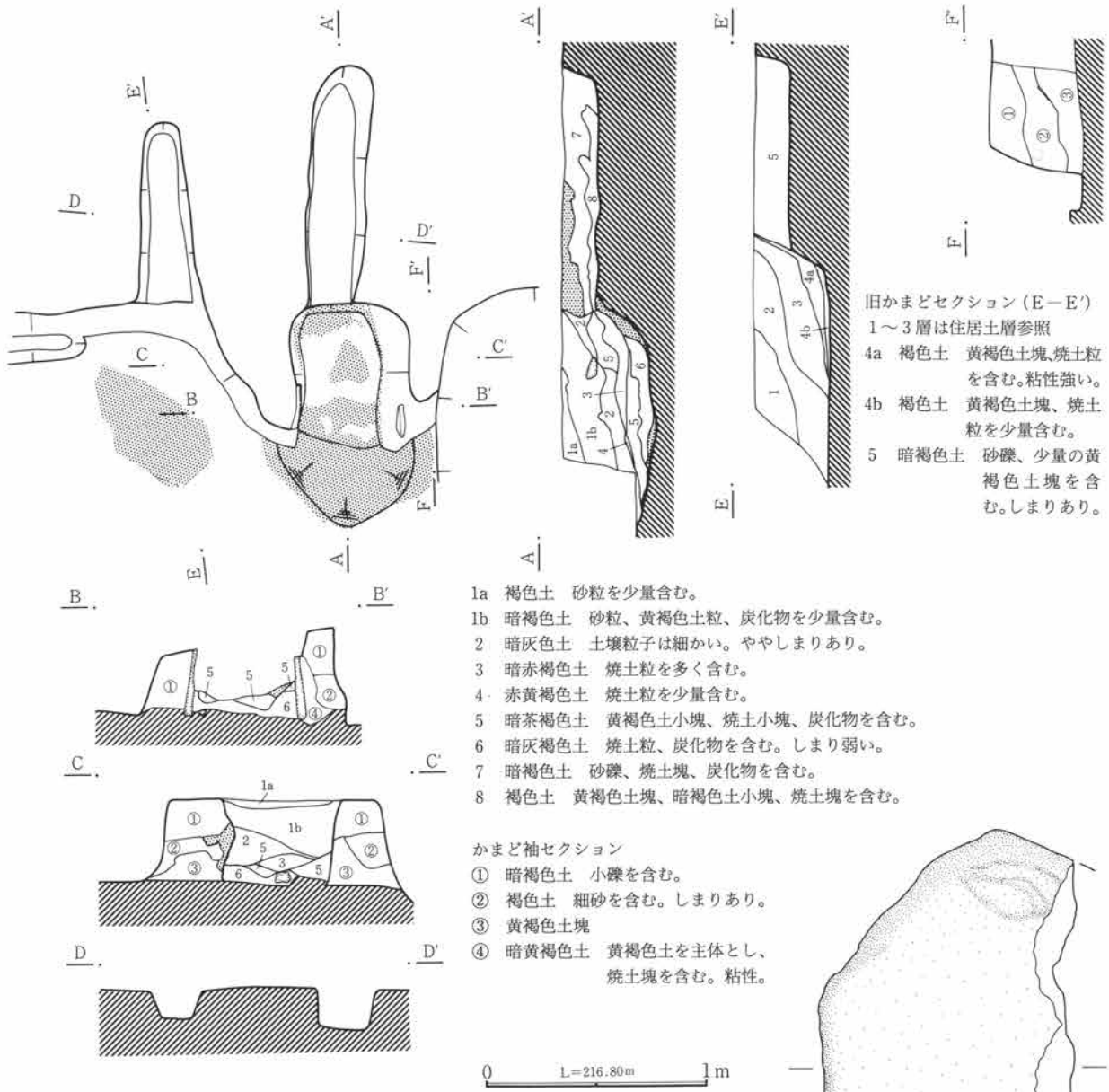
**掘り方** 貼り床や床面下の遺構は検出されなかった。

**時期** 出土遺物や住居形態から、7世紀代前半と考えられる。

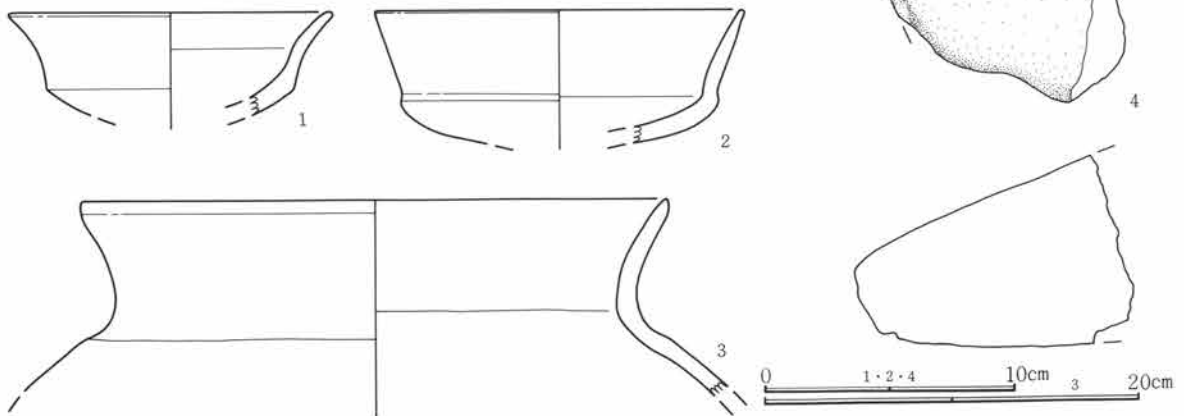


第31図 6号住居跡

第1節 竪穴住居跡



第32図 6号住居跡かまど



第33図 6号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

7号住居跡 (PL. 6)

位置 Dn-58 床面積 測定不能 主軸方位 N-70°-E 残存壁高 0.15m 重複 7住-35住→5住  
規模と形状 東西辺4.6mが計測されるが、重複のため南北辺長は不明。残存する周壁は安定している。

床面 床面は、覆土との色調差によって明瞭に識別でき、比較的良好な平坦面が形成されていた。かたく踏み締められるなどの傾向は確認できなかった。

かまど 北辺部に存在したものと推定されるが、重複により不明である。

貯蔵穴 検出されなかった。

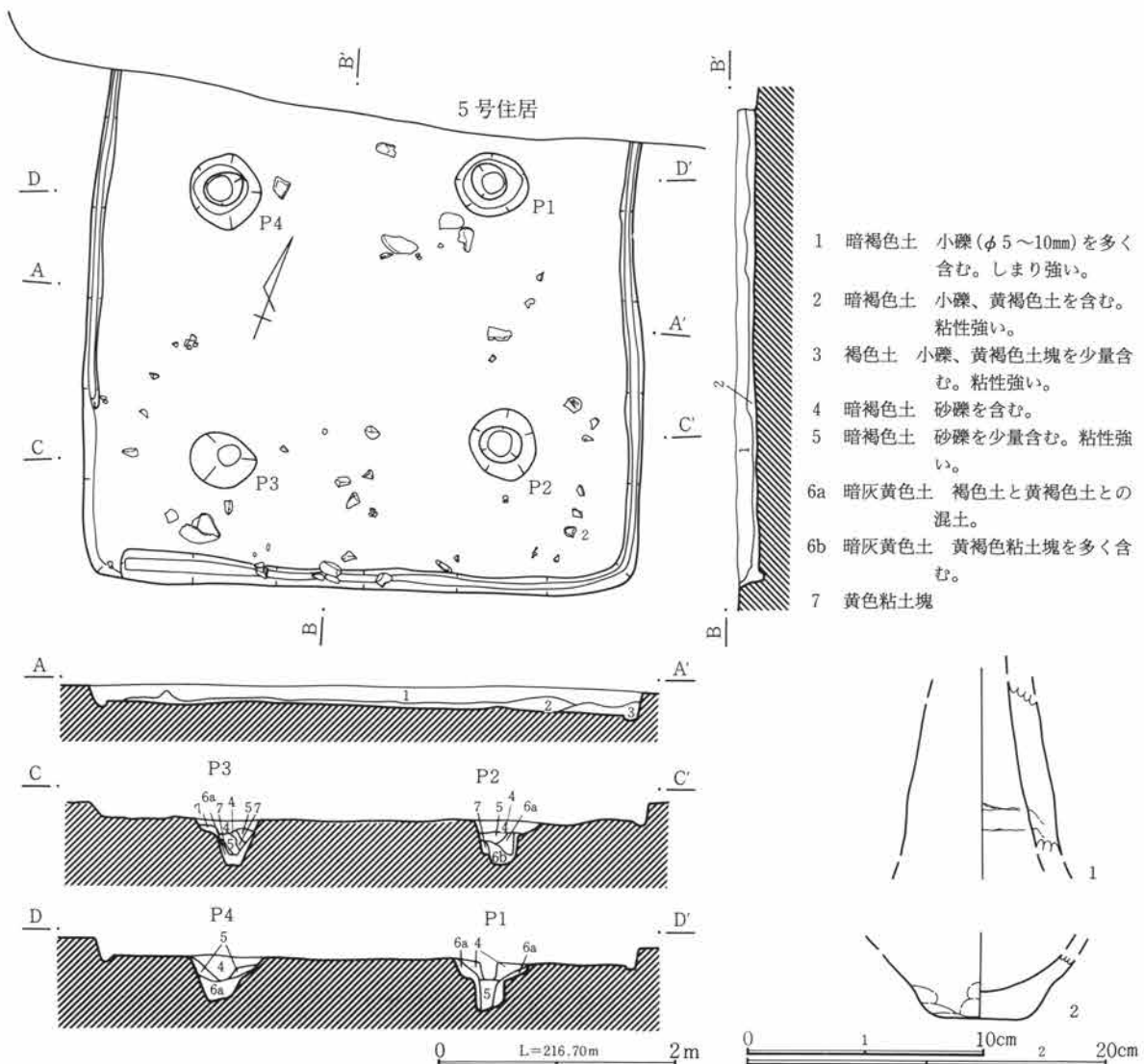
壁下周溝 西辺部の南側以外の残存部で検出されている。

柱穴 4基の支柱穴が検出されている。いずれも掘り込みが深く、安定している。

出土遺物 出土遺物は極めて少なく、総計25点の土器片と少量の石材が出土したにすぎない。床面付近から土師器甕、南東部の柱穴内から土師器高杯が出土している。

掘り方 床面と掘り方面がほぼ一致し、床面下から遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、古墳時代と考えられる。



第34図 7号住居跡

第35図 7号住居跡出土遺物

8号住居跡 (PL. 6)

位置 Dq-58 床面積 12.6m<sup>2</sup> 主軸方位 N-11°-W 残存壁高 0.3m 重複 北壁西側で9住と重複  
規模と形状 長辺3.86m、短辺3.80mのほぼ方形のプランを呈する。

床面 床面の検出は、住居中央部を中心に、かたく踏み締められた部分が確認されている。

かまど 北壁中央部にて袖を有するかまどが築かれる。かまどの残存状況は悪く、燃烧部と煙道部のプランが確認されU字状プランを呈する。燃烧部奥壁から煙道部壁の一部で焼土面が確認される。

貯蔵穴 かまど東側の北東隅部にあり、円形状を呈す。

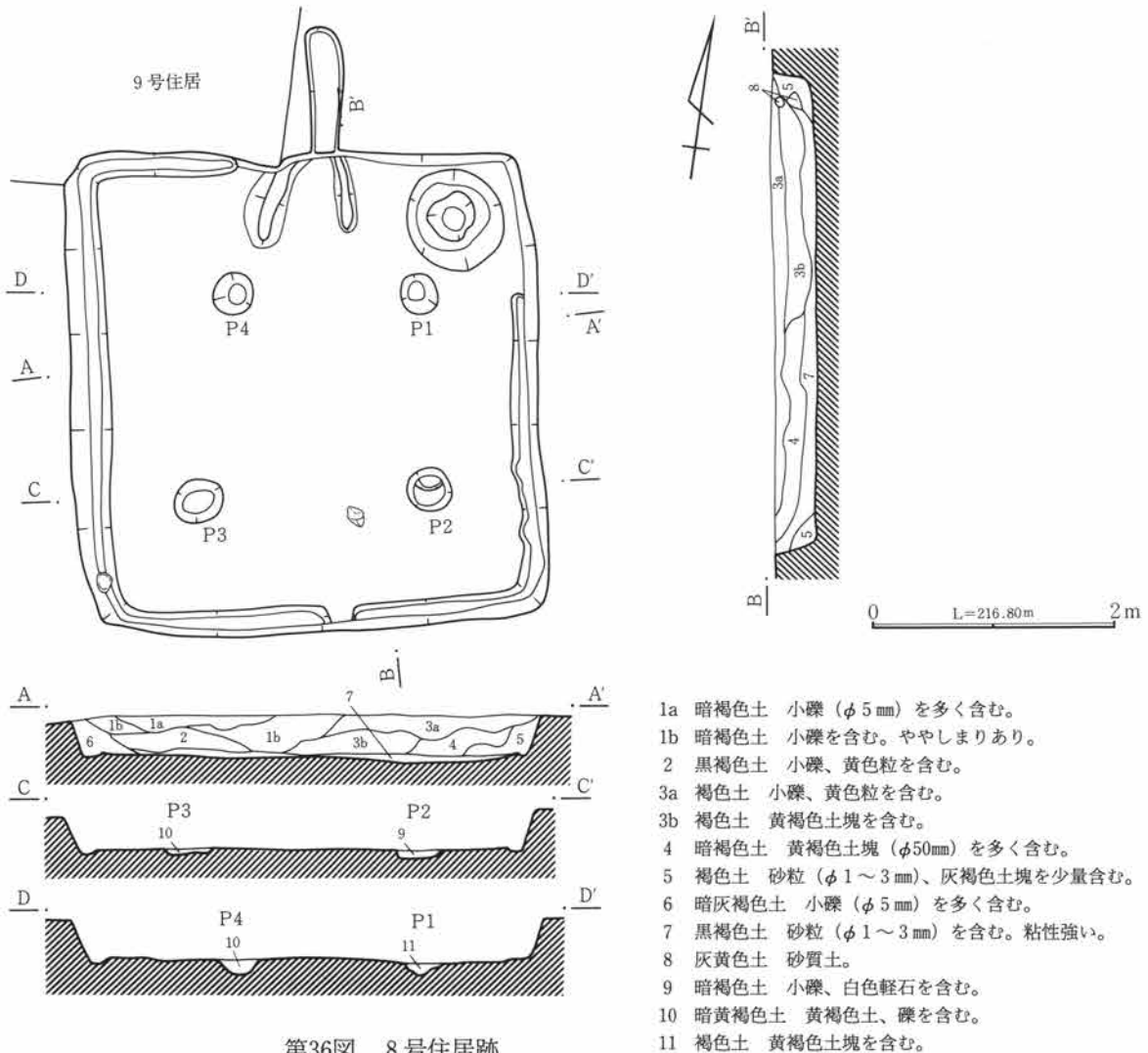
壁下周溝 かまどと貯蔵穴付近以外ではほぼ全周するが、南辺部中央付近で途切れる部分がある。

柱穴 4基の小ピットが検出されたが、掘り込みが浅く規模にばらつきが認められ、柱穴と認定しづらい。

出土遺物 覆土中から極めて少量の土師器片と石材が認められたにすぎず、図示すべき実測個体がない。

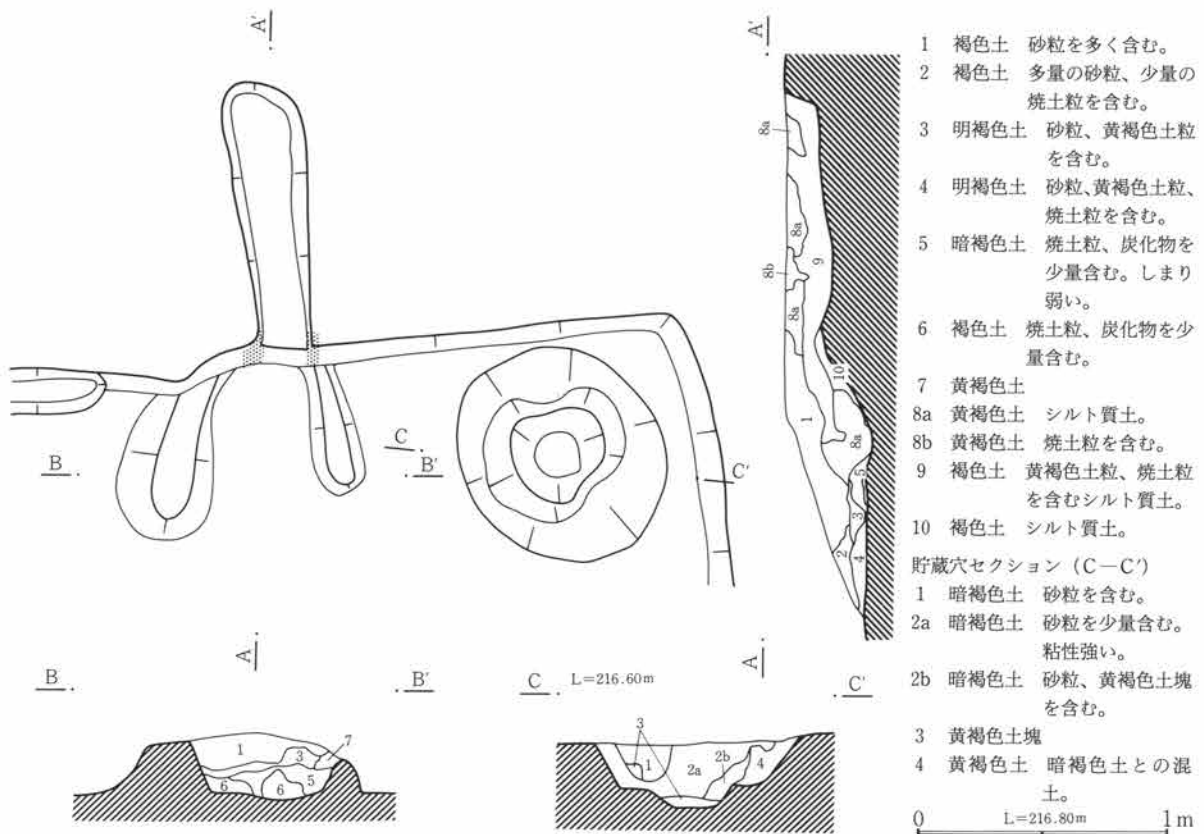
掘り方 貼り床や床面下の遺構は検出されなかった。

時期 時期の認定可能な出土遺物はないが、住居形態などから概ね古墳時代後期と考えられる。



第36図 8号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



第37図 8号住居跡かまど

9号住居跡 (PL. 6・7・108・109・110)

位置 Dq-59 床面積 13.1m<sup>2</sup> 主軸方位 N-8°-W 残存壁高 0.25m 重複 8住と重複する。  
 規模と形状 一辺3.95m内外の方形状のプランを呈し、北辺部の中央より西側にかまどが築かれている。周壁は、若干の崩落が認められ、線形がやや乱れる。

床面 床面は、掘り方面が砂質のため、暗褐色土が薄く貼られる。

かまど 北壁西寄り部分にて袖を有するかまどが築かれる。袖は地山を心材に掘り残し、両袖の先端部には袖石(板状の砂岩加工石)が残存するが、燃焼部内からは顕著な焼土面などは確認されなかった。煙道部は、比較的短いものが付設され、緩やかな勾配をもって屋外で立ち上がる。

貯蔵穴 かまど東脇に位置し、円形状を呈する。中層より土師器台付甕が流れ込んだ状態で出土した。

壁下周溝・柱穴 いずれも検出されなかった。

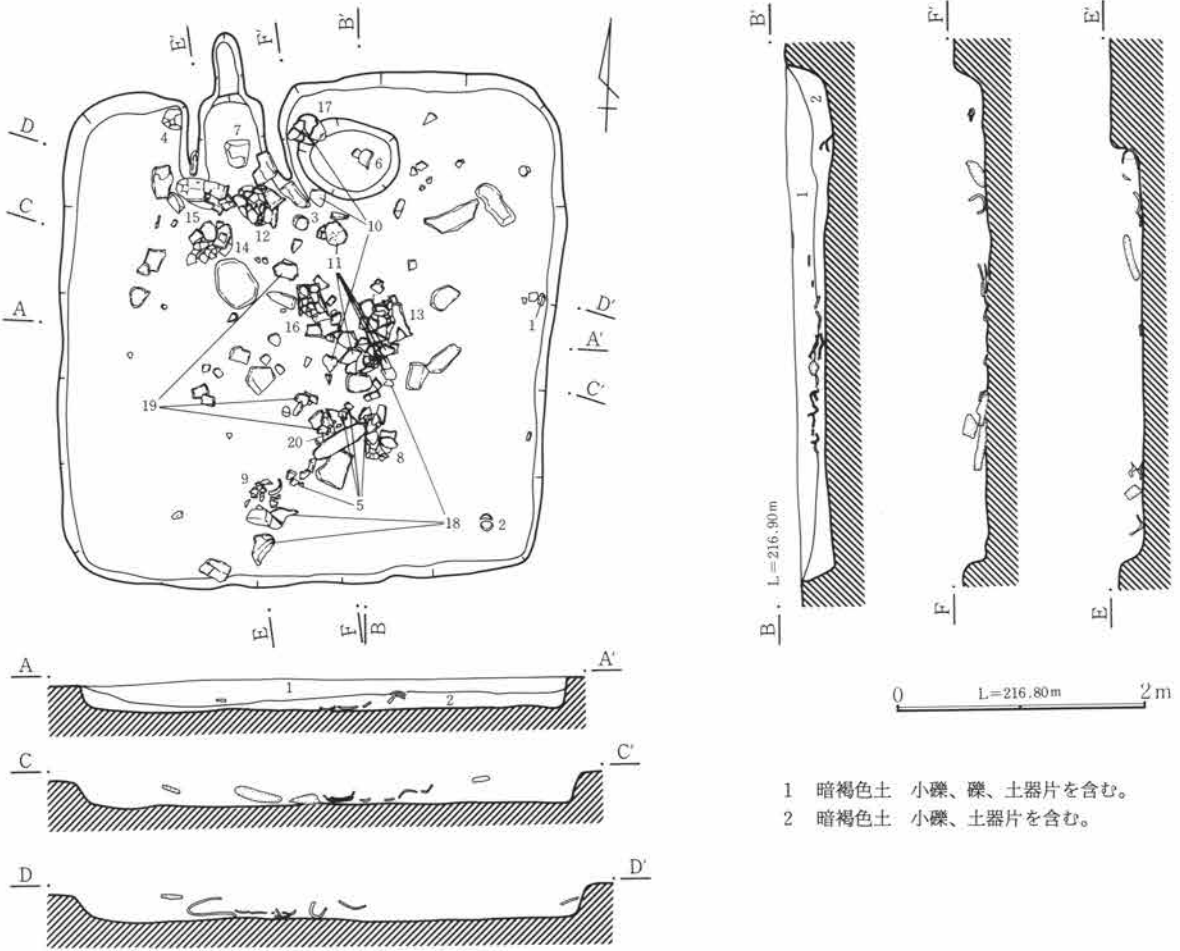
出土遺物 出土遺物は比較的多く、総計144点の土器片・完形個体の他に、石製品砥石やかまど用石材(砂岩加工石)を初めとする用石が30点あまり出土した。いずれもかまど付近や住居中央部の床面付近からの出土である。土師器甕類(小形甕・台付甕を含む)が16点と多く出土したのに対し、土師器坏は2点と少ない。また、須恵器甕が1個体出土している。砥石は、住居南側の床面付近から出土し、ほぼ完存する。

掘り方 床面と掘り方面がほぼ一致し、床面下から遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、7世紀代前半と考えられる。

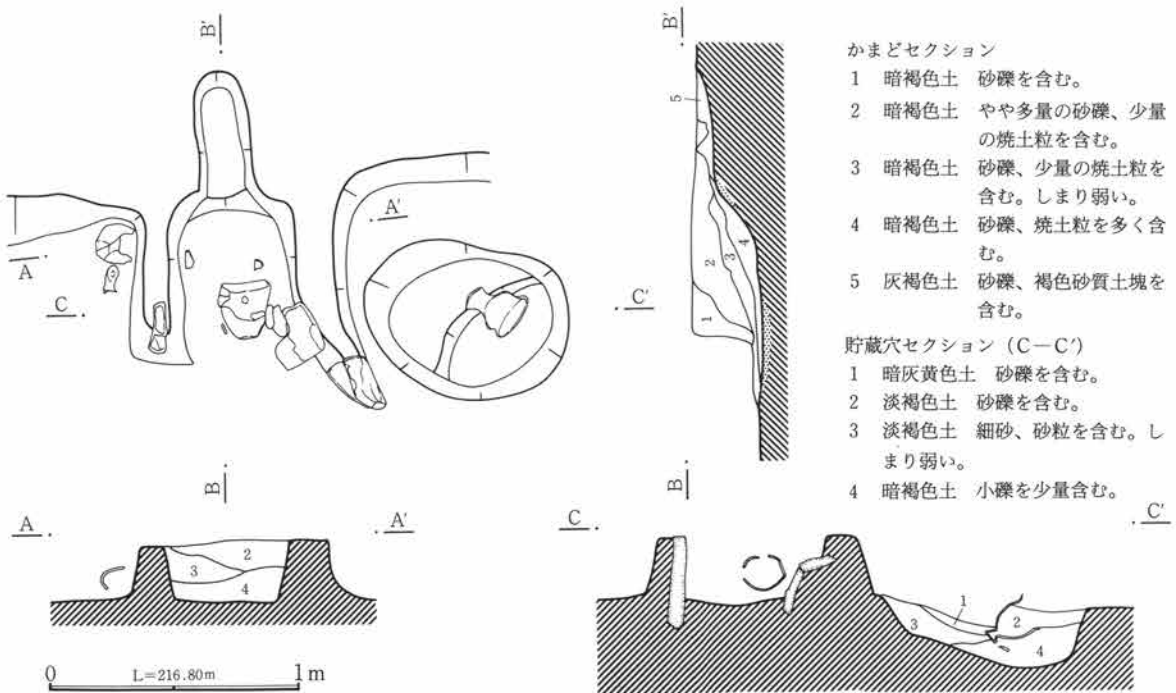
備考 重複する8号住居跡に出土遺物がなく、本住居跡との新旧関係は不明。

第1節 竪穴住居跡



- 1 暗褐色土 小礫、礫、土器片を含む。
- 2 暗褐色土 小礫、土器片を含む。

第38図 9号住居跡



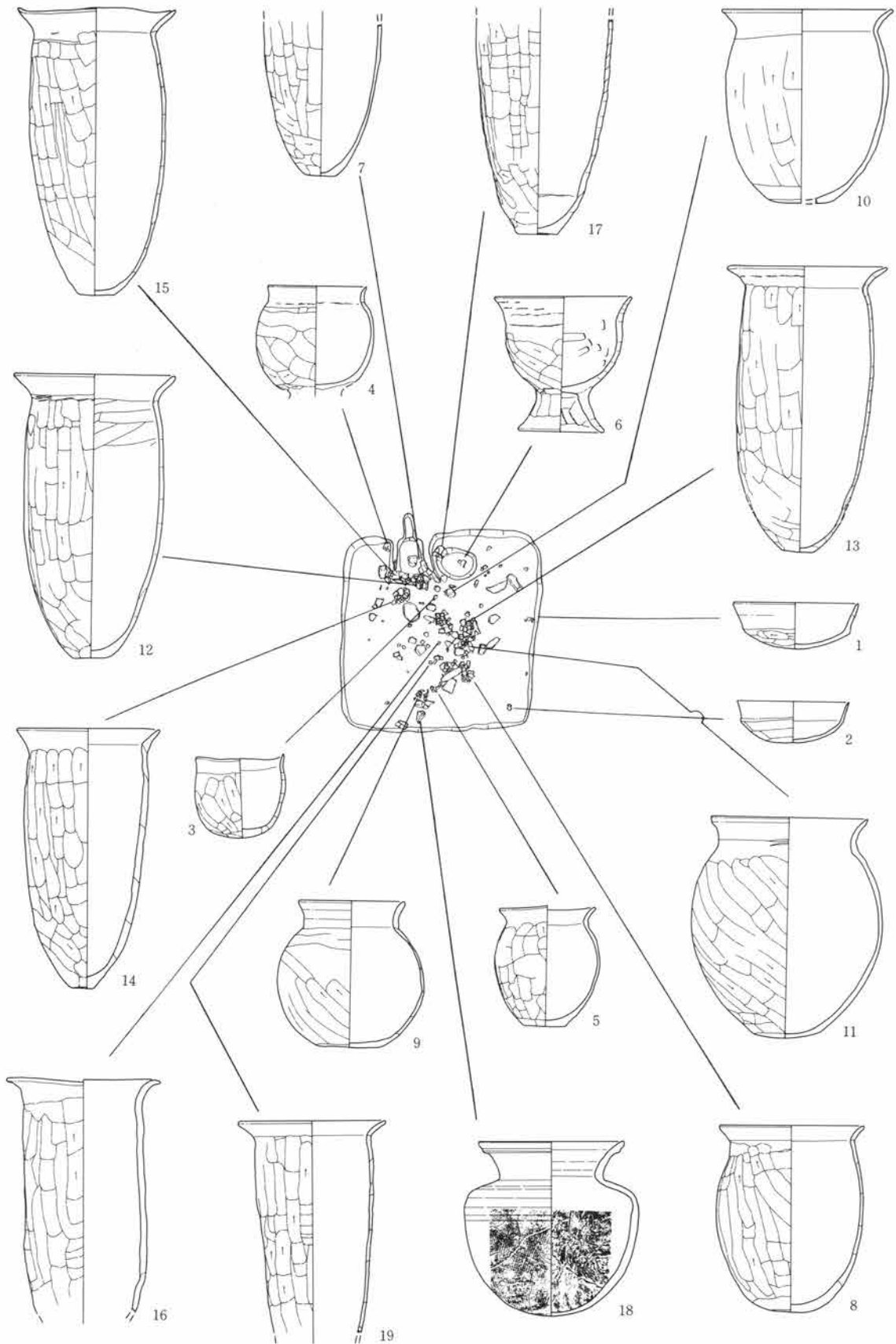
かまどセクション

- 1 暗褐色土 砂礫を含む。
- 2 暗褐色土 やや多量の砂礫、少量の焼土粒を含む。
- 3 暗褐色土 砂礫、少量の焼土粒を含む。しまり弱い。
- 4 暗褐色土 砂礫、焼土粒を多く含む。
- 5 灰褐色土 砂礫、褐色砂質土塊を含む。

貯蔵穴セクション (C-C')

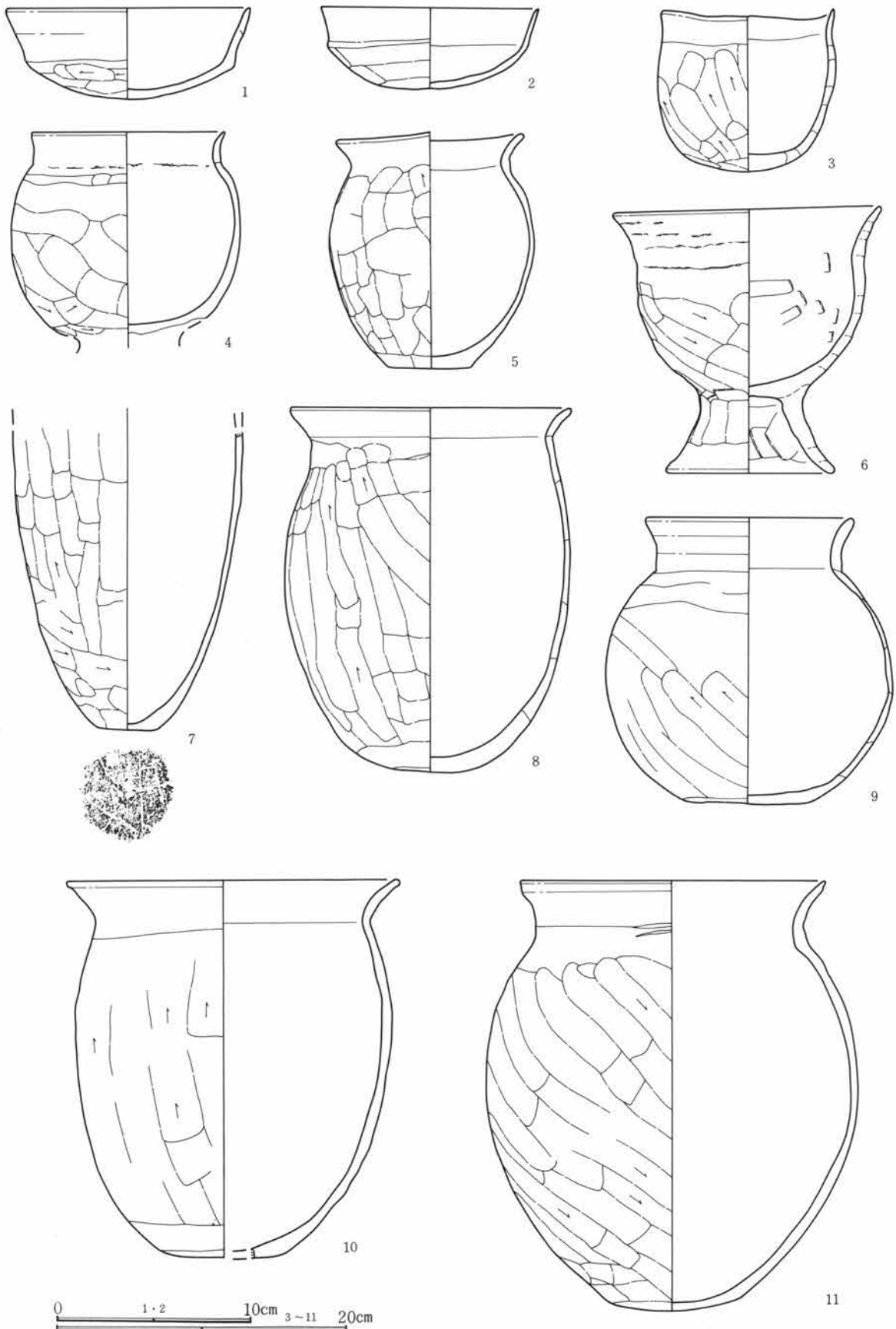
- 1 暗灰黄色土 砂礫を含む。
- 2 淡褐色土 砂礫を含む。
- 3 淡褐色土 細砂、砂粒を含む。しまり弱い。
- 4 暗褐色土 小礫を少量含む。

第39図 9号住居跡かまど

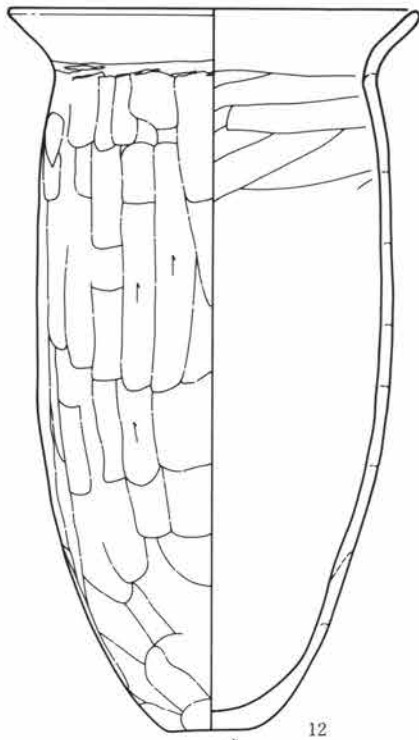


第40図 9号住居跡遺物出土状態

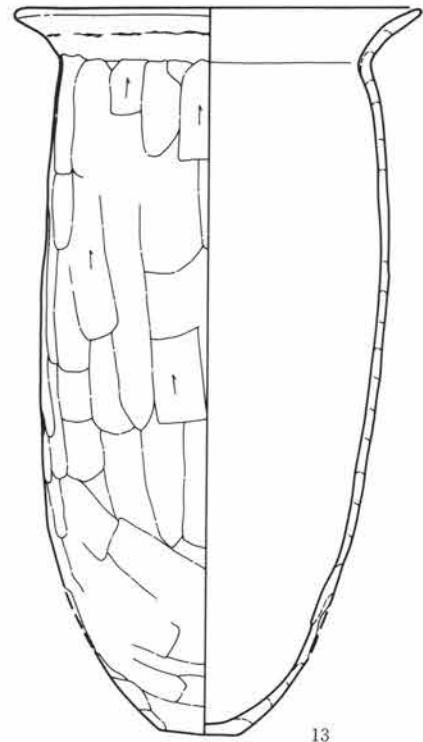




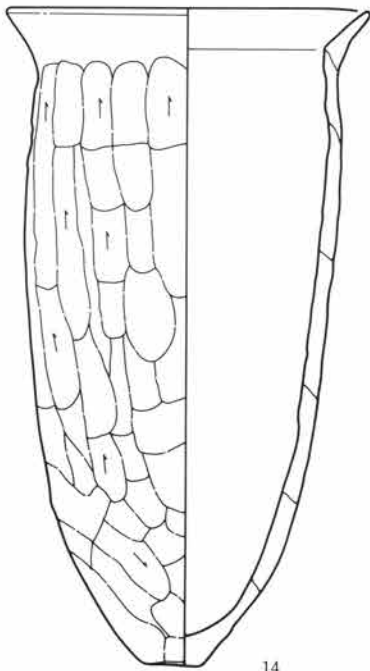
第41図 9号住居跡出土遺物(1)



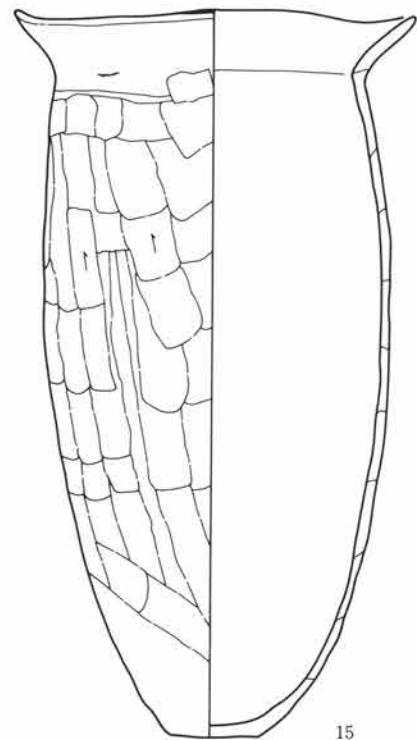
12



13



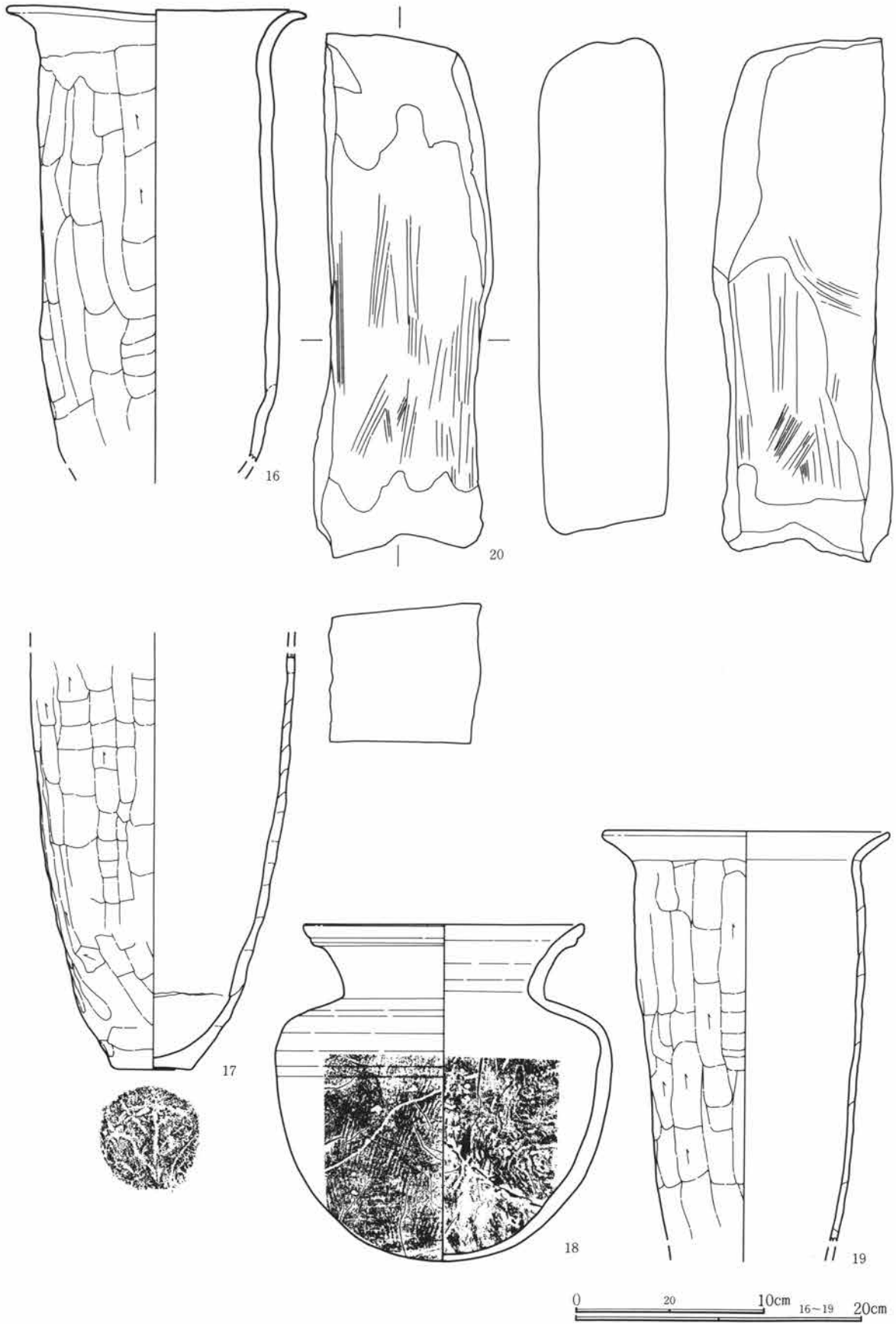
14



15

0 20cm

第42図 9号住居跡出土遺物(2)



第43図 9号住居跡出土遺物(3)

10号住居跡 (PL. 7)

位置 Dp-57 床面積 (12.9)m<sup>2</sup> 主軸方位 N-11°-E 残存壁高 0.25m

重複 11住→10住→42号土坑

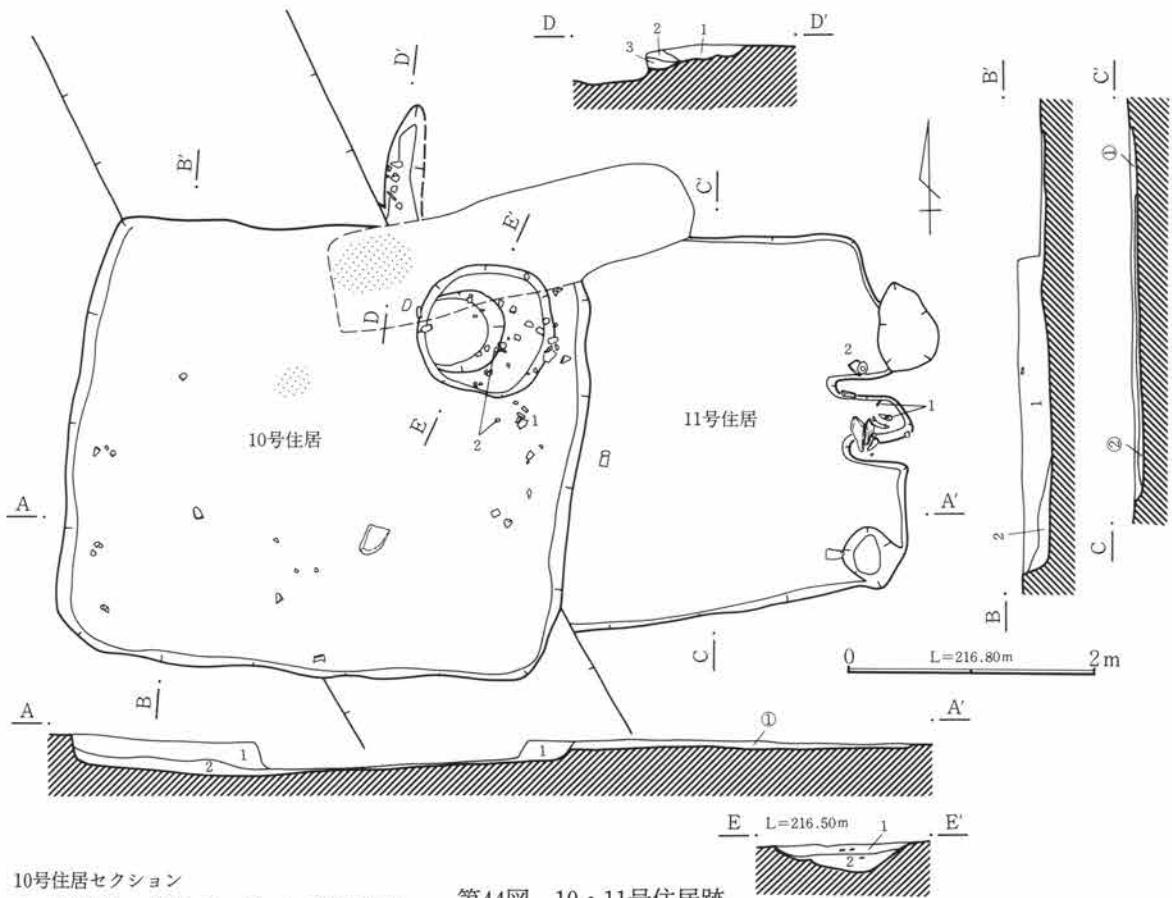
規模と形状 長辺4.00m、短辺3.54mの方形のプランを呈する。

床面 色調差による識別は困難であり、住居中央やかまど前の焼土等のレベルから追い検出した。

かまど 土坑により切られ、燃焼部のほとんどが破壊され、煙道部のみの確認にとどまる。燃焼部は住居壁の内側に作り出されたものと推定され、推定位置からは焼土の分布が認められる。煙道部は、比較的短いものが付設され、緩やかな勾配をもちながら立ち上がる。

貯蔵穴 かまど付近の北東隅部にあり、やや大きめの円形状を呈し、掘り込みは浅い。

壁下周溝・柱穴 いずれも検出されなかった。



10号住居セクション

1 暗褐色土 小礫(φ5~10mm)、黄色砂礫(φ3~5mm)を多く含む。

2 褐色土 小礫、黄色砂礫、黄褐色土を含む。

11号住居セクション

① 褐色土 小礫を含む。

② 黄褐色土

10号住居貯蔵穴セクション (E-E')

1 暗褐色土と黄褐色土との混土層 焼土粒、白色粒を含む。

2 暗褐色土 焼土粒を少量含む。やや粘性あり。

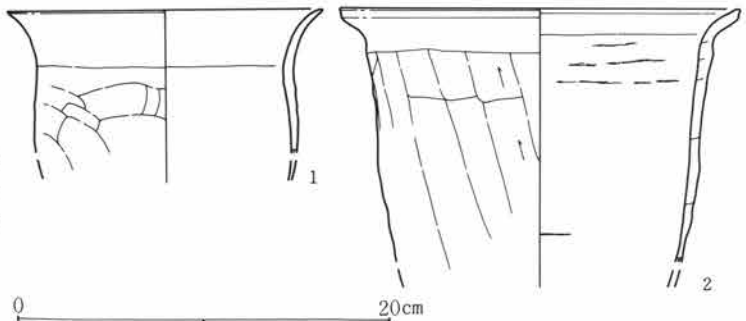
10号住居かまどセクション (D-D')

1 灰黄色土 小礫、焼土粒を含む。

2 灰赤褐色土 焼土塊を多く含む。

3 暗黄褐色土 黄色礫、焼土粒を含む。

第44図 10・11号住居跡

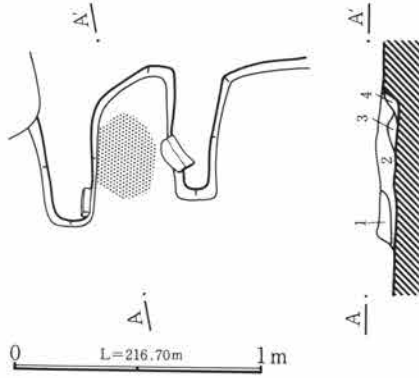


第45図 10号住居跡出土遺物

**出土遺物** 出土遺物は少なく、かまど及び貯蔵穴周辺に集中する。総計121点の土器片と少量の石材が出土。

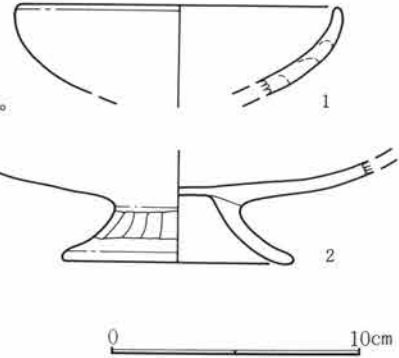
**掘り方** 床面下の遺構は検出されなかった。

**時期** 出土遺物や住居形態から、7～8世紀代と考えられる。



第46図 11号住居跡かまど

- 1 褐色土 小礫を含む。
- 2 茶褐色土 黄褐色土、焼土粒を含む。
- 3 茶褐色土 焼土粒を多く含む。
- 4 茶褐色土 焼土粒を少量含む。



第47図 11号住居跡出土遺物

11号住居跡 (PL. 7・110)

**位置** Dp-57 **床面積** 測定不能 **主軸方位** N-90°-E **残存壁高** 0.05m

**重複** 11住(古)→10住(新)→4号掘立柱建物跡。

**規模と形状** 南北長2.88mが計測されるが、東西長は重複のため不明。

**床面** 覆土との色調差によって明瞭に識別できたが、若干の起伏が認められた。

**かまど** 東壁中央部に袖を有するかまどを構築する。袖は地山掘り残し、U字状プランを呈す。燃烧部左袖部先端には、砂岩加工石の袖石が残存するが、燃烧部内や右袖部にある用石は原位置をとどめていない。

**貯蔵穴** 南東隅部に円形を呈する小ピットが検出されたが、浅い掘り込みであり貯蔵穴とは認定しがたい。

**壁下周溝・柱穴** いずれも検出されなかった。

**出土遺物** かまど周辺部より土師器環・脚付盤を含め総計5点の土器片が出土した。

**掘り方** 床面と掘り方面がほぼ一致し、床面下から遺構は検出されなかった。

**時期** 出土遺物や住居形態から、7～8世紀代と考えられる。

12号住居跡 (PL. 7・110)

**位置** DI-57 **床面積** 測定不能 **主軸方位** N-19°-W **残存壁高** 0.25m **重複** 12住→13住(新)

**規模と形状** 住居南側の大半が調査区外のため、東西長3.90mが計測できるのみである。

**床面** かまど周辺部がやや高く、粘性の強い暗褐色土に地山黄褐色土塊を含む褐色土を床面に貼る。

**かまど** 北壁中央部に袖を有するかまどが構築される。袖は粘性の強い黄褐色土及び塊を含む土を貼る。燃烧部は、方形状のプランを呈し、燃烧部内からは僅かに焼土面が確認された。覆土中層に焼土塊や黄褐色土塊の乱れた層が見られ、破壊された可能性が考えられる。煙道部先端は13号住居跡に壊される。

**貯蔵穴** 北東隅部にあり、円形状を呈す。掘り込みは浅い。

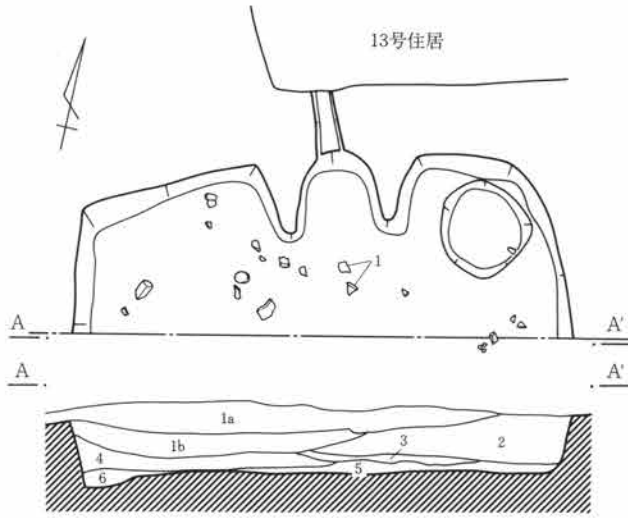
**壁下周溝・柱穴** いずれも検出されなかった。

**出土遺物** 出土遺物は大半が覆土中からの出土であり、総計15点の土器片が出土した。

**掘り方** 床面と掘り方面がほぼ一致し、床面下から遺構は検出されなかった。

**時期** 出土遺物や住居形態から、7世紀後半代と考えられる。

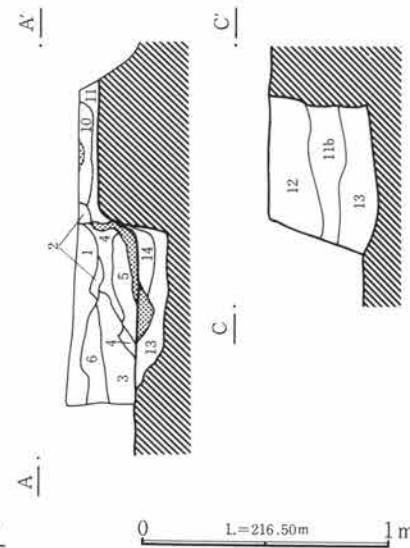
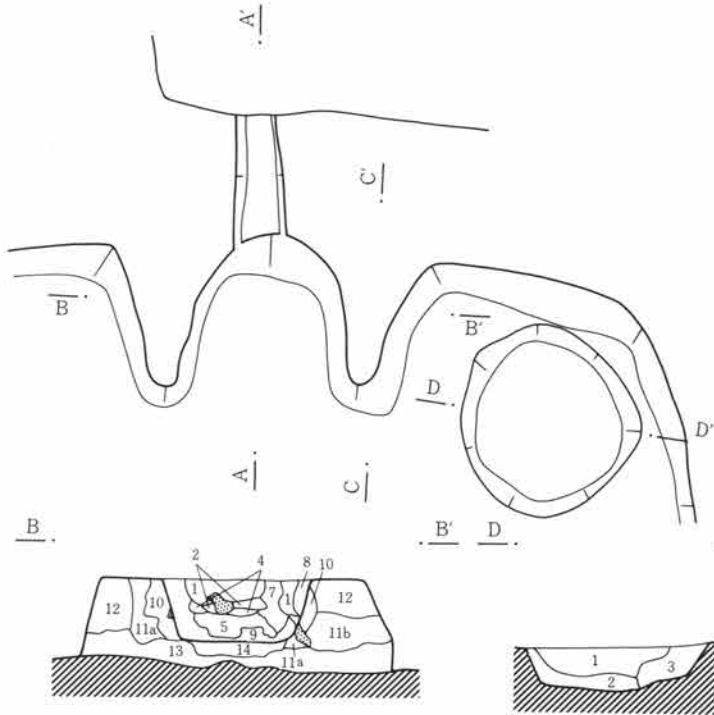
第3章 検出された遺構と遺物



- 1a 暗褐色土 砂礫を多く含む。
- 1b 暗褐色土 1a層に近似するが、砂礫はやや少ない。
- 2 暗褐色土 砂礫、炭化物を含む。
- 3 灰褐色砂礫層
- 4 暗褐色土 砂礫、黄褐色土塊を含む。粘性、しまりあり。
- 5 褐色土 黄褐色土塊を含む。粘性強い。
- 6 暗褐色土 黄褐色土塊を多く含む。

0 L=216.80m 2m

第48図 12号住居跡



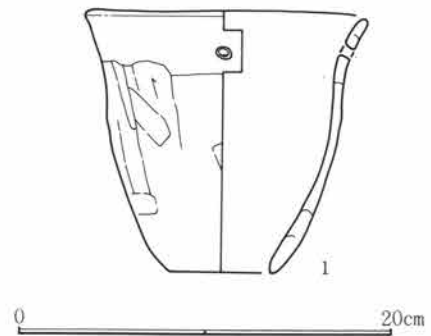
0 L=216.50m 1m

貯蔵穴セクション (D-D')

- 1 褐色土 礫を含む。粘性強い。
- 2 褐色土 黄褐色土塊を含む。粘性強い。
- 3 褐色土 礫、黄褐色土塊を少量含む。

- 1 暗褐色土 砂礫を含む。
- 2 茶褐色土 焼土小塊を含む。
- 3 褐色土 黄褐色土粒、焼土粒、炭化物を少量含む。粘性強い。
- 4 暗黄褐色土 暗褐色土小塊、白色細粒を含む。
- 5 黄茶色土 黄褐色土塊と焼土塊との混土。粘性強い。
- 6 暗褐色土 砂礫、炭化物、土器片含む。
- 7 褐色土 焼土塊、多量の黄褐色土を含む。
- 8 褐色土 粘性強い。
- 9 褐色土 黄褐色土小塊、焼土粒を含む。粘性強い。
- 10 黄褐色土
- 11a 褐色土 小礫、黄褐色土小塊を含む。粘性強い。
- 11b 暗褐色土 11a層に近似するが、焼土塊を含む。
- 12 暗褐色土 砂礫を含む。
- 13 褐色土 黄褐色土塊を含む。
- 14 褐色土 黄褐色土塊、焼土塊を含む。

第49図 12号住居跡かまど



第50図 12号住居跡出土遺物

13号住居跡 (PL. 8・110)

位置 Dm-56 床面積 21.5m<sup>2</sup> 主軸方位 N-8°-W 残存壁高 0.3m 重複 12住→13住

規模と形状 長辺5.70m、短辺4.14mの横長長方形のプランを呈する。

床面 床面は、かまど前から中央部にかけて踏み締められた面や焼土の分布が認められる。

貯蔵穴 北西隅部に位置し、隅丸方形を呈する。上面では棒状炭化材が出土し、蓋の可能性が考えられる。

壁下周溝 検出されなかった。

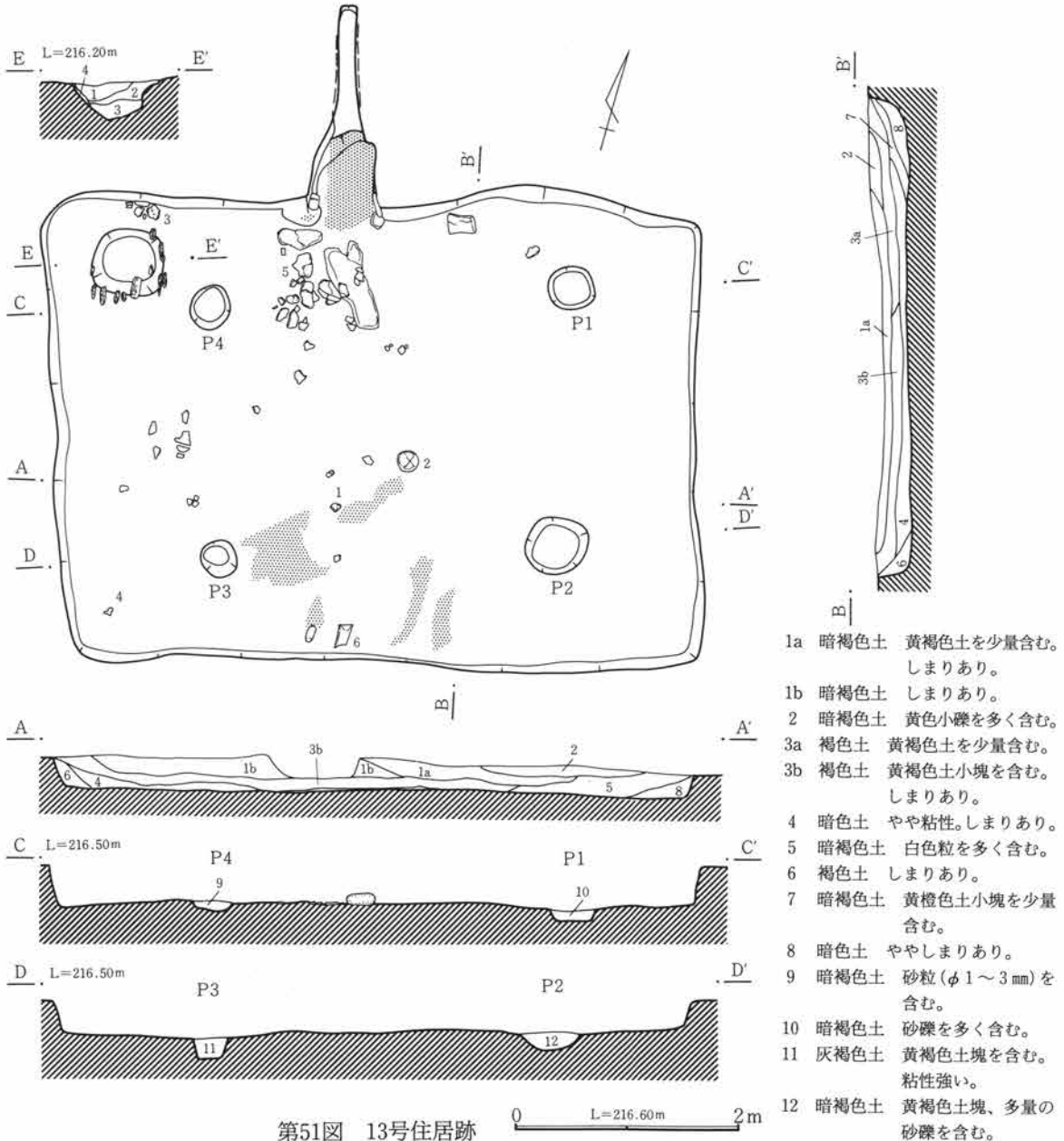
柱穴 4基の主柱穴が検出されたが、いずれも掘り込みは浅い。

出土遺物 総計144点の土製品(土錘)・土器片類と砥石や数点のかまど用石など出土。

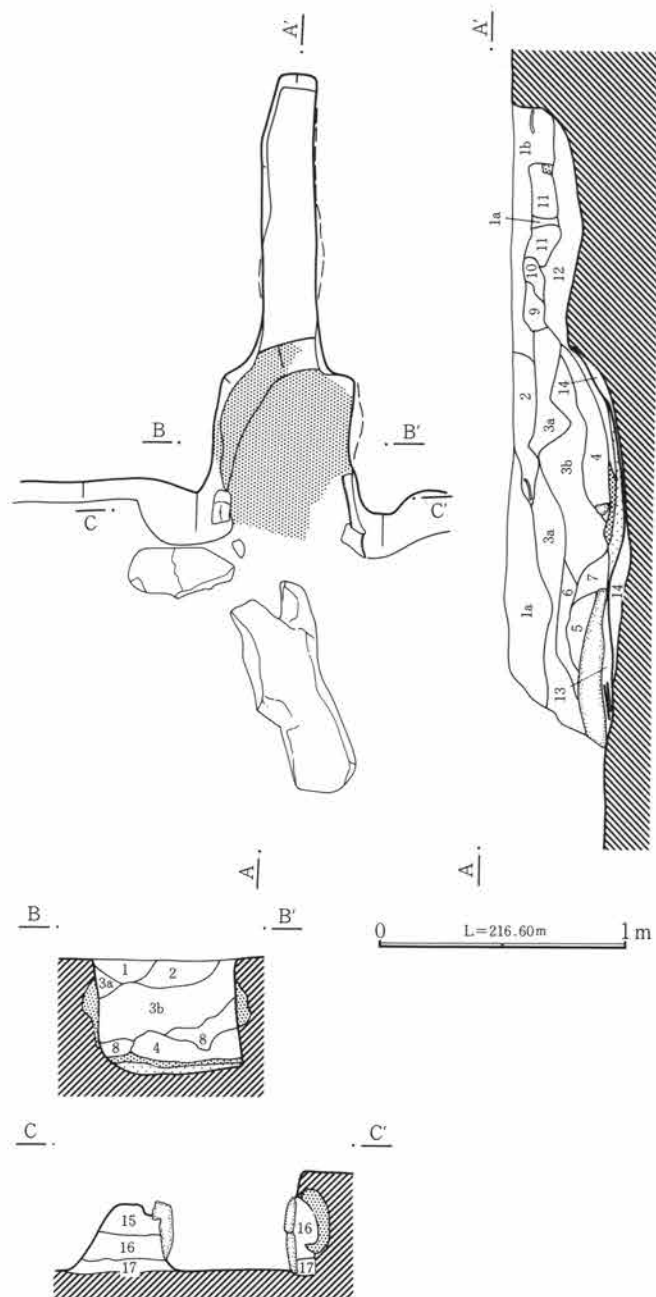
掘り方 貼り床や床面下の遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、7世紀前半代と考えられる。

備考 炭化材の検出や焼土の分布状況から、本住居跡は焼失家屋の可能性が高い。







第52図 13号住居跡かまど

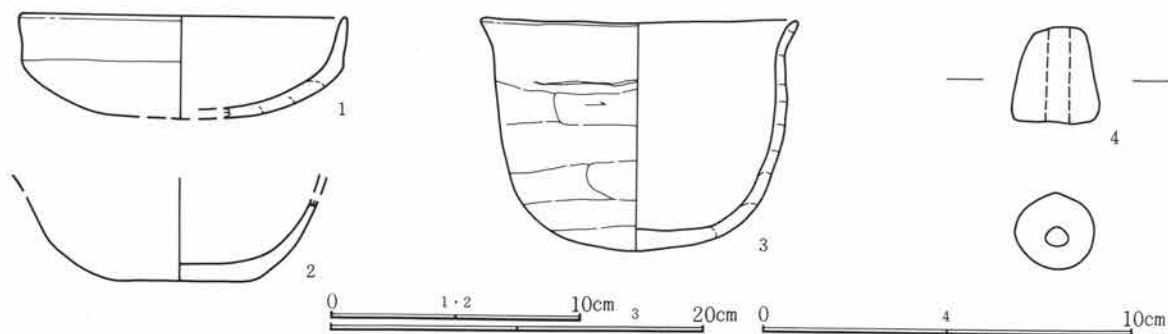
かまど 北壁中央部やや西寄りの壁面を掘り込みかまどを構築している。燃烧部先端には板状の砂岩加工石による両袖石が残存し、袖石に架けたかまど用石も燃烧部前から検出されている。燃烧部は壁面が垂直に立ち上がり方形の掘り方を持つ。側壁及び底面はよく焼け込み、焼土化している。やや長めの煙道部は、水平に屋外に伸び、煙り出し部は直立する構造と推定される。

貯蔵穴セクション (E-E')

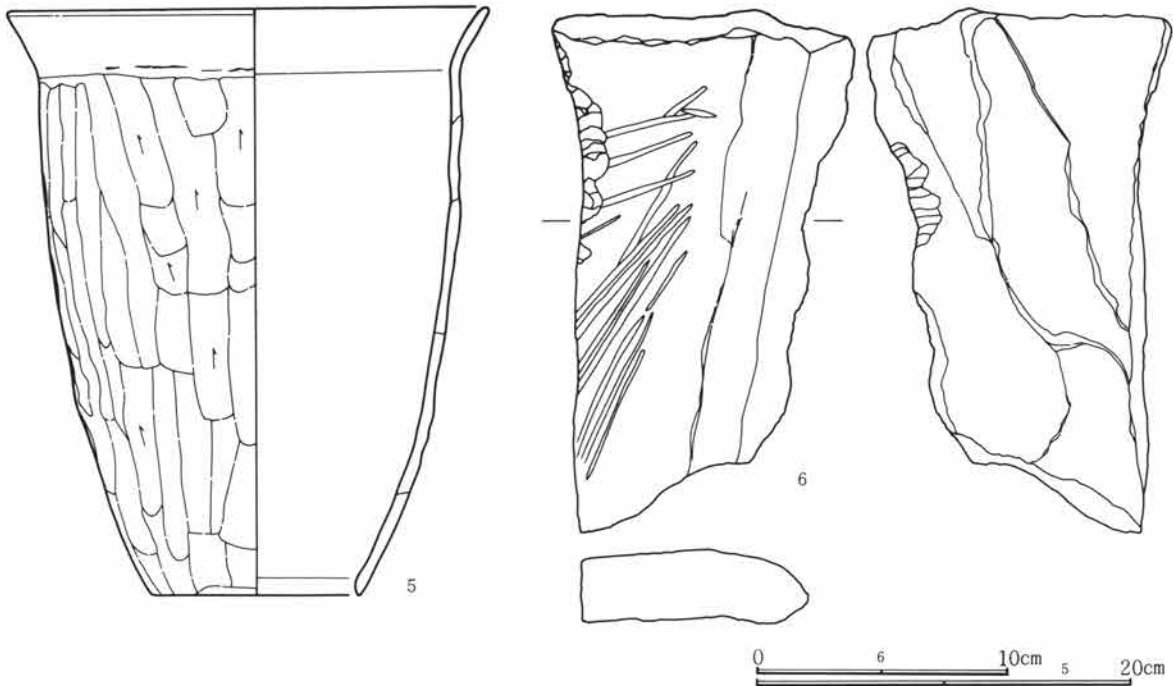
- 1 暗褐色土 黄褐色土小塊、焼土粒、炭化物を少量含む。粘性強い。
- 2 淡褐色土 黄褐色土塊、炭化物を含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色土小塊、焼土粒、炭化物をごく少量含む。
- 4 黄褐色土 小礫を含む。

かまどセクション

- 1a 暗褐色土 小礫、黄色小礫 (φ 5mm) を含む。
- 1b 暗褐色土 小礫、やや多量の黄色小礫を含む。
- 2 褐色土 黄褐色土塊、少量の、黄色粒・焼土粒を含む。
- 3a 暗褐色土 黄褐色土小塊、小礫を少量含む。粘性強く、しまり弱い。
- 3b 暗褐色土 黄褐色土小塊、小礫、焼土粒、炭化物を含む。
- 4 赤茶褐色土 焼土塊を多く含む。しまり弱い。
- 5 暗灰褐色土 黄褐色土塊、黄色小礫を含む。
- 6 暗黄褐色土 暗褐色土塊、黄色小礫を含む。
- 7 暗褐色土 焼土粒を多く含む。粘性強い。
- 8 黄褐色細砂塊
- 9 黄褐色土塊
- 10 暗褐色土塊 小礫、焼土粒を少量含む。
- 11 褐色土 小礫、黄褐色土塊、焼土粒を含む。
- 12 褐色土 小礫、黄褐色土塊、焼土塊をやや多く含む。
- 13 暗褐色土 焼土粒を含む。粘性強い。
- 14 黄褐色土 焼土粒を含む。粘性強い。
- 15 黄褐色土 黄褐色土主体。白色粒、暗褐色土塊を含む。
- 16 暗褐色土 白色粒、焼土粒を含む。
- 17 褐色土 焼土粒、黄褐色土塊を含む。



第53図 13号住居跡出土遺物(1)



第54図 13号住居跡出土遺物(2)

## 14号住居跡 (PL. 8・110・111)

位置 Dn-55 床面積 13.3m<sup>2</sup> 主軸方位 N-87°-W 残存壁高 0.28m

重複 15住→14住→5号掘立柱建物跡

規模と形状 長辺4.26m、短辺3.65mの歪んだ縦長長方形のプランを呈し、周壁は安定した掘り込みといえる。

床面 床面は、覆土との色調差によって明瞭に識別できたが、若干の起伏が認められた。床面の精査では、かたく踏み締められるなどの顕著な傾向は確認できなかった。

かまど 東壁北寄りに袖を有するかまどが構築される。袖は地山塊を多量に含む混土が貼り付けられる。燃烧部側壁は、よく焼け込み焼土化し、燃烧部内からかまど前を中心に焼土の分布が認められる。煙道部は比較的短いものが付設され、緩やかな勾配をもって屋外に立ち上がる。

貯蔵穴 かまど右袖斜め前方にあり、円形状を呈する。掘り込みは浅い。

壁下周溝 検出されなかった。

柱穴 各隅寄りの位置から3基の小ピットが検出されたが、柱穴と認定することはできない。

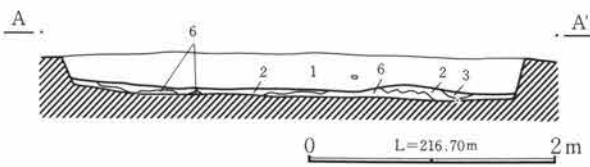
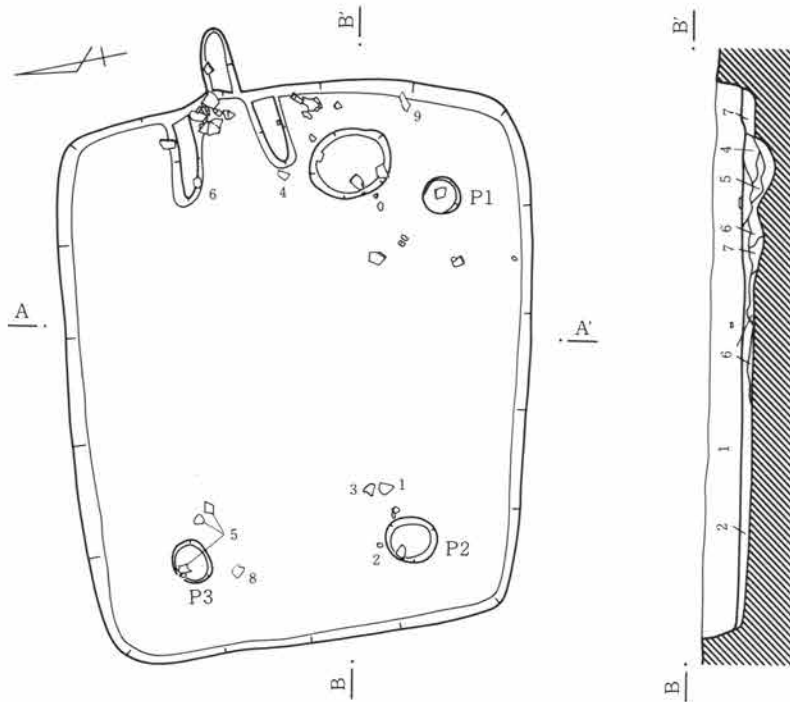
出土遺物 出土遺物は、総計131点の土器片類と12点あまりの石片が出土している。覆土中からの出土が多く、かまど周辺部や柱穴周辺部から破片で土師器坏等が出土している。

掘り方 層厚0.1~0.15mの貼り床土が認められるが、土坑などの顕著な遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、8世紀後半代と考えられる。

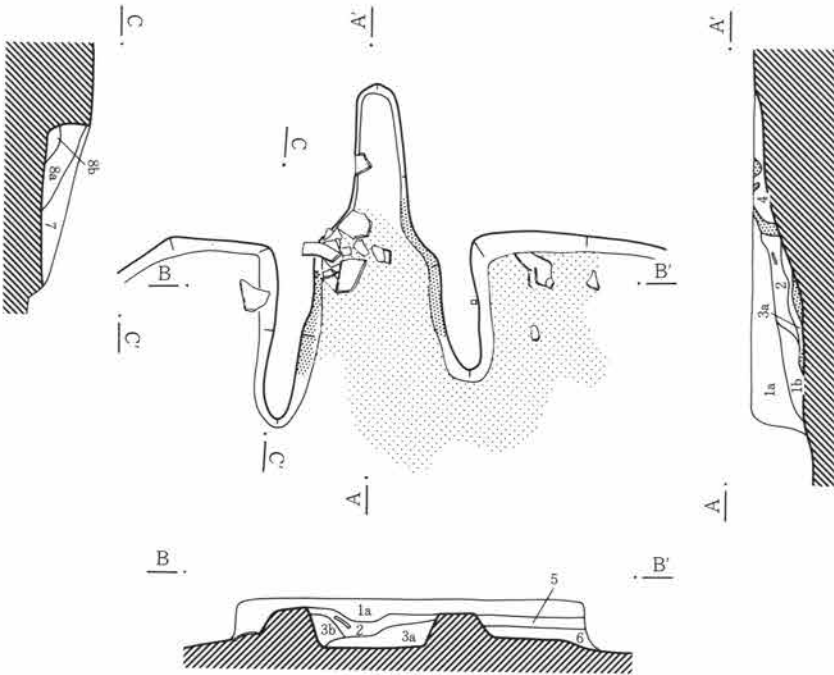
備考 調査時の所見では、覆土の観察から人為的に埋め戻されたものと判断される。

第3章 検出された遺構と遺物



- 1 暗褐色土 焼土粒、炭化物、多量の砂礫を含む。
- 2 褐色土 砂礫、黄褐色土塊を含む。粘性強い。
- 3 茶褐色土 焼土粒、炭化物を含む。
- 4 褐色土 焼土粒、炭化物を少量含む。
- 5 褐色土 砂礫、粘土塊を含む。
- 6 砂礫層
- 7 黄褐色粘土塊

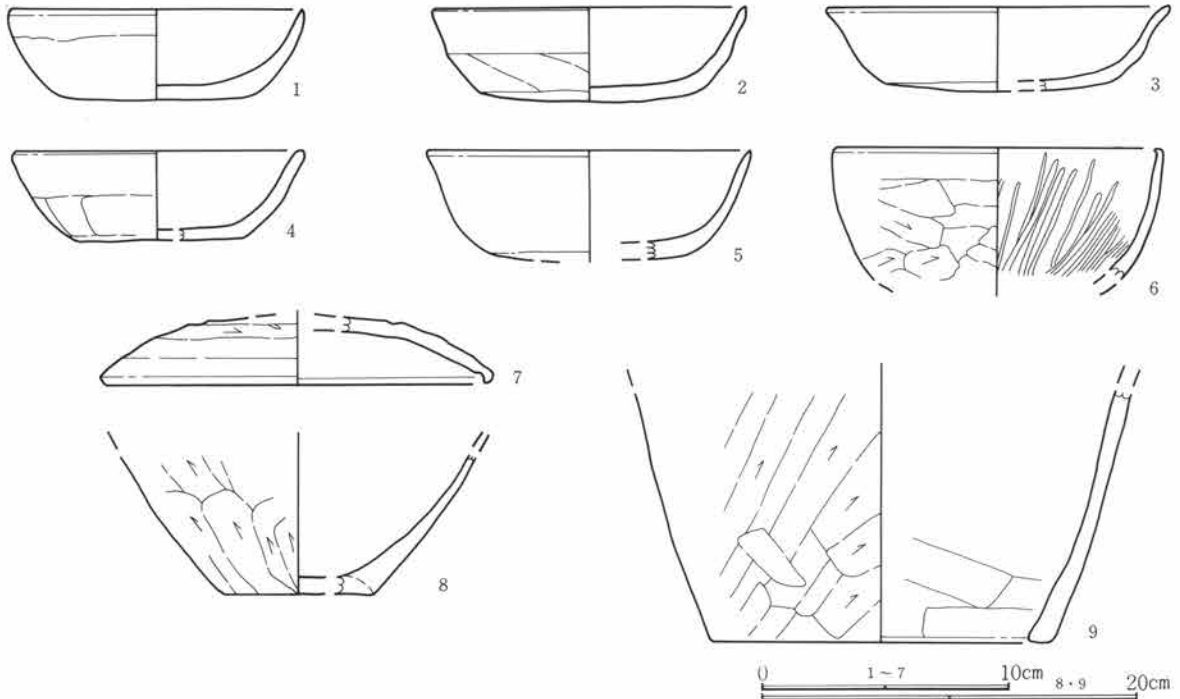
第55図 14号住居跡



- 1a 暗褐色土 砂礫を含む。
- 1b 暗褐色土 砂礫を少量含む。
- 2 褐色土 焼土粒、炭化物を少量含む。粘性強い。
- 3a 暗茶褐色土 焼土塊を含む。粘性強い。
- 3b 暗茶褐色土 焼土塊を少量含む。粘性強い。
- 4 暗褐色土 小礫、焼土を含む。
- 5 褐色土 小礫、焼土粒を少量含む。
- 6 黄褐色土 焼土粒、焼土塊を含む。粘性強い。
- 7 暗褐色土 多量の砂礫、少量の、焼土粒・炭化物を含む。しまりなし。
- 8a 暗褐色土 黄褐色土小塊を多く含む。しまり弱い。
- 8b 暗褐色土と黄褐色土との混土層 砂礫を含む。

第56図 14号住居跡かまど

第1節 竪穴住居跡



第57図 14号住居跡出土遺物

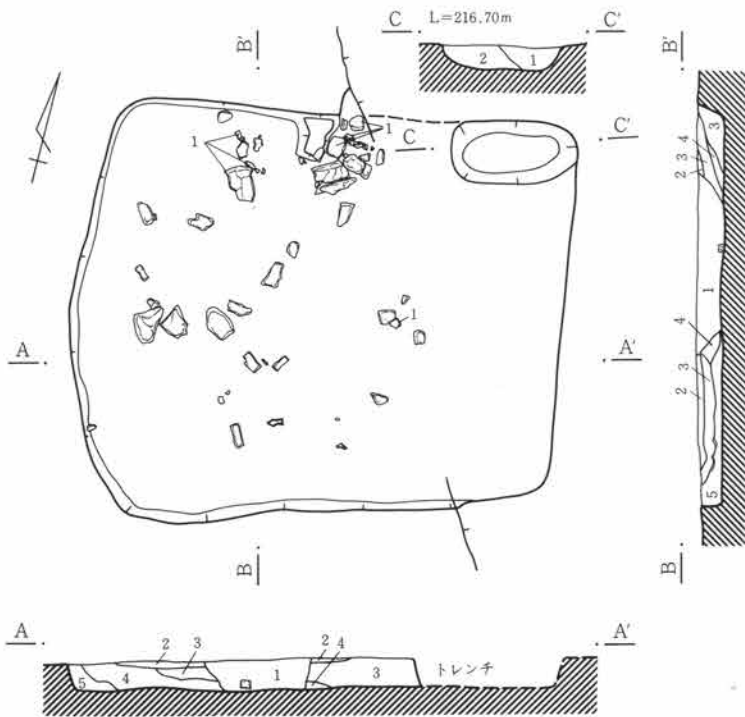
16号住居跡 (PL. 9・111)

位置 Ds-59 床面積 (11.3)m<sup>2</sup> 主軸方位 N-13°-W 残存壁高 0.2m 重複 なし

規模と形状 長辺 (3.90) m、短辺3.30mの歪んだ横長長方形のプランを呈する。

床面 掘り方面は小礫混じりの砂質土であり、上に僅かに褐色土を乗せ床面としている。

貯蔵穴 北東隅にあり、長円形状を呈する。壁下周溝・柱穴 いずれも検出されなかった。



第58図 16号住居跡

出土遺物 総計21点の土器片とかまど用石をはじめとする石片が14点出土している。

掘り方 貼り床や床面下の遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、6世紀代と考えられる。

1 暗褐色土 黄褐色砂質土塊を含む。しまり弱い。

2 暗褐色土

3 褐色土 小礫を多く含む。

4 褐色土 砂礫を少量含む。

5 褐色土 黄褐色砂質土を多く含む。しまりなし。

貯蔵穴セクション (C-C')

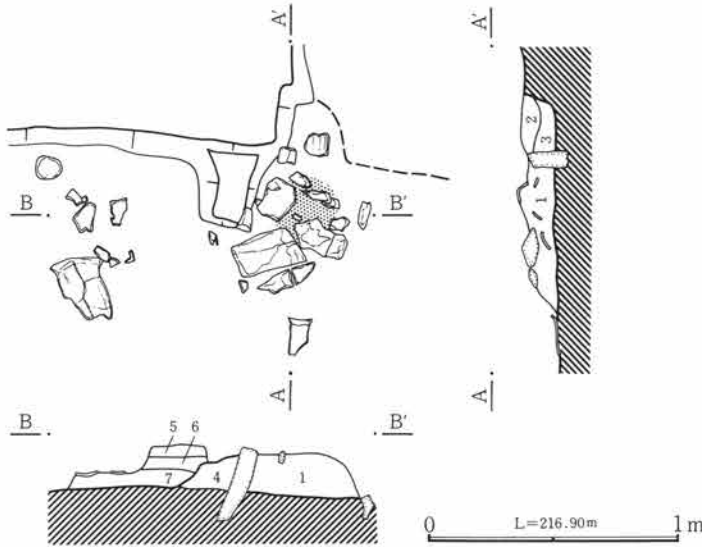
1 暗褐色土 ややしまりあり。

2 褐色土 多量の砂礫、少量の黄褐色土粒を含む。しまりなし。

0 L=217.00m 2m

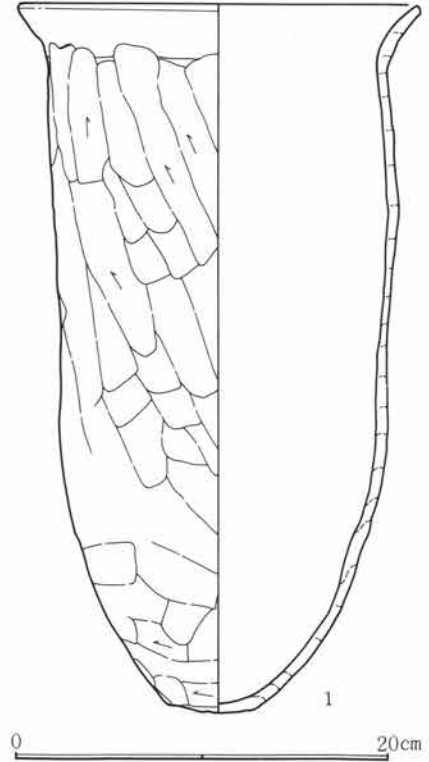
第3章 検出された遺構と遺物

かまど 東側の約半分が試掘により破壊され、残存状況は極めて悪い。北壁中央部分に袖を有するかまどが構築される。左袖の先端部には袖石（砂岩の板状加工石）が残存し、かまど内やかまど前には袖石に架けた用石（砂岩加工石）が散乱している。燃焼部内には、レンガ化した焼土面が確認されている。奥壁には角柱状の砂岩が立てられた状態で出土している。煙道部は短いものと推定される。



- 1 暗褐色土 砂粒 (φ1~3mm)、黄色礫含む。しまり弱い。
- 2 暗褐色土 砂粒、少量の焼土粒を含む。
- 3 暗褐色土 砂粒、黄褐色土を含む。
- 4 暗褐色土 砂粒、黄色礫を含む。
- 5 暗褐色土
- 6 褐色土 砂礫を少量含む。
- 7 褐色土 黄褐色砂質土を多く含む。しまりなし。

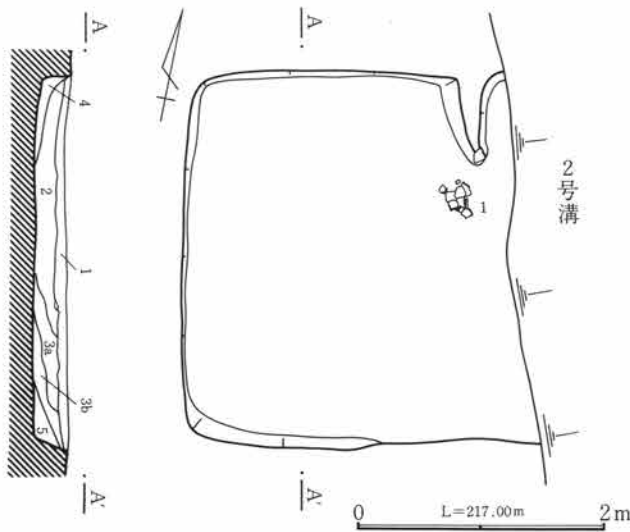
第59図 16号住居跡かまど



第60図 16号住居跡出土遺物

18号住居跡 (PL. 9)

位置 Dt-63 床面積 測定不能 主軸方位 N-13°-W 残存壁高 0.25m 重複 18住→2号溝



第61図 18号住居跡

規模と形状 住居東側を2号溝に破壊され、南北長3.00mのみ計測できる。

床面 僅かに締まりと粘性のある褐色土であり、小砂礫が混じる。

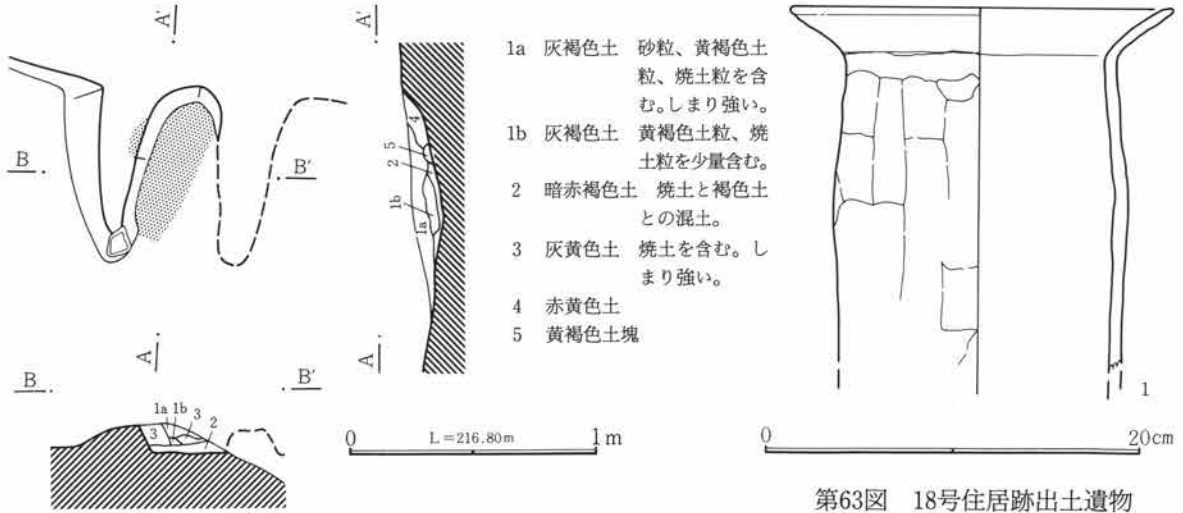
貯蔵穴・壁下周溝・柱穴 検出されなかった。

出土遺物 出土遺物は極めて少なく、図示した土師器甕が1点出土したにすぎない。

- 1 褐色土 黄褐色土粒、小礫を多く含む。
- 2 暗褐色土 小礫を少量含む。ややしまりあり。
- 3a 褐色土 小礫、少量の黄褐色土小塊を含む。しまりなし。
- 3b 褐色土 小礫、黄褐色土、炭化物を含む。しまりなし。
- 4 淡暗褐色土 黄褐色土粒を少量含む。しまりなし。
- 5 淡褐色土 小礫を含む。しまり弱い。

掘り方 床面下から遺構は検出されなかった。時期 7世紀代の所産と考えられる。

かまど 北壁に袖を有するかまどである。東側の大半が2号溝により破壊される。燃烧部の一部が確認されるのみで、煙道部は削平が進み不明。燃烧部は住居壁の内側に作り出され、燃烧部内には焼土が分布する。また、左袖の先端部には袖石の残欠が検出している。



第62図 18号住居跡かまど

第63図 18号住居跡出土遺物

19号住居跡 (PL. 9)

位置 Dn-62 床面積 測定不能 主軸方位 N-24°-W 残存壁高 0.3m 重複 19住→2号溝  
 規模と形状 住居東側が2号溝に破壊され、南北長3.00mのみ計測できる。

床面 僅かに粘性、縮まりのある小砂礫を含む褐色土を貼る。かまど前がやや踏み締められている。

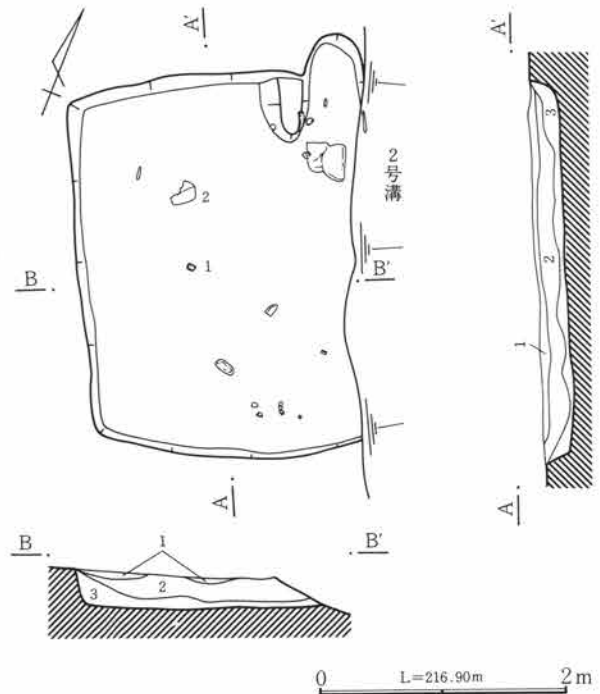
かまど 北壁に袖を有するかまどが構築される。燃烧部は、一部が住居壁の外側までおよぶ。両袖部の先端内側には板状の砂岩加工石の袖石が残存し、かまど前には袖石に架けたと考えられる用石が検出されている。燃烧部内には顕著な焼土面などは確認されなかった。

貯蔵穴・壁下周溝・柱穴 検出されなかった。

出土遺物 総計13点の土器片と2点の石片が出土。

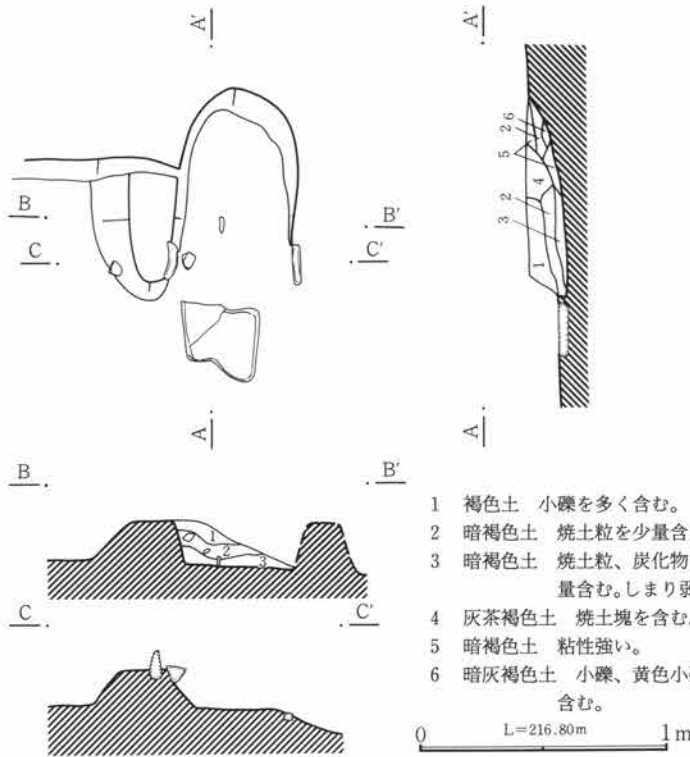
掘り方 床面下の遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、7世紀代と考えられる。



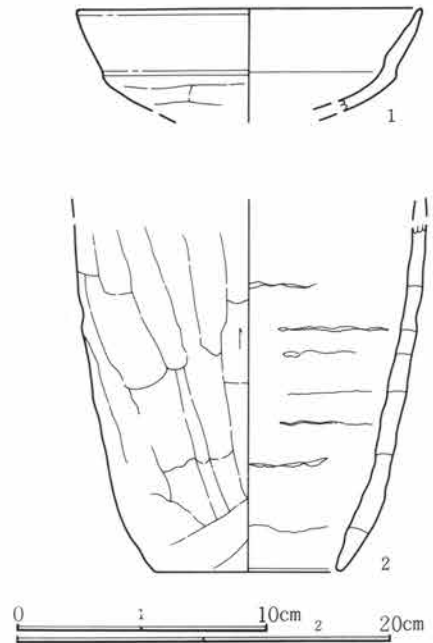
第64図 19号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



第65図 19号住居跡かまど

- 1 褐色土 小礫を多く含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒を少量含む。
- 3 暗褐色土 焼土粒、炭化物を少量含む。しまり弱い。
- 4 灰茶褐色土 焼土塊を含む。
- 5 暗褐色土 粘性強い。
- 6 暗灰褐色土 小礫、黄色小礫を含む。



第66図 19号住居跡出土遺物

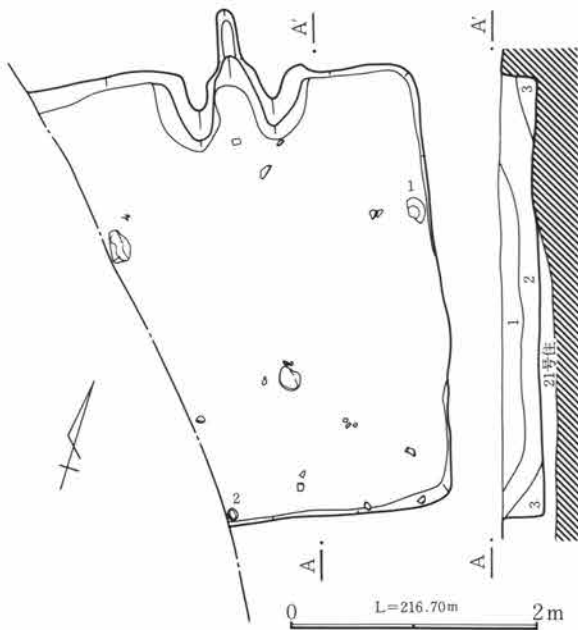
20号住居跡 (PL. 10・111)

位置 Dp-61 床面積 測定不能 主軸方位 N-24°-W 残存壁高 0.25m

重複 21住→20住→2号溝

規模と形状 住居西側が調査区外のため、南北長3.60mが計測されるのみである。

床面 掘り方は砂礫混じりであるため、砂礫を含む暗褐色土が薄く貼られていた。



第67図 20号住居跡

かまど 北壁に袖を有するかまどが構築される。袖は地山掘り残しである。燃烧部のプランはU字状を呈し、燃烧部側壁及び底面はよく焼け込み、焼土化している。煙道部は比較的短いものが付設され、緩やかな勾配をもって屋外で立ち上がる。

貯蔵穴・壁下周溝・柱穴 検出されなかった。

出土遺物 総計17点の土器片が出土している。

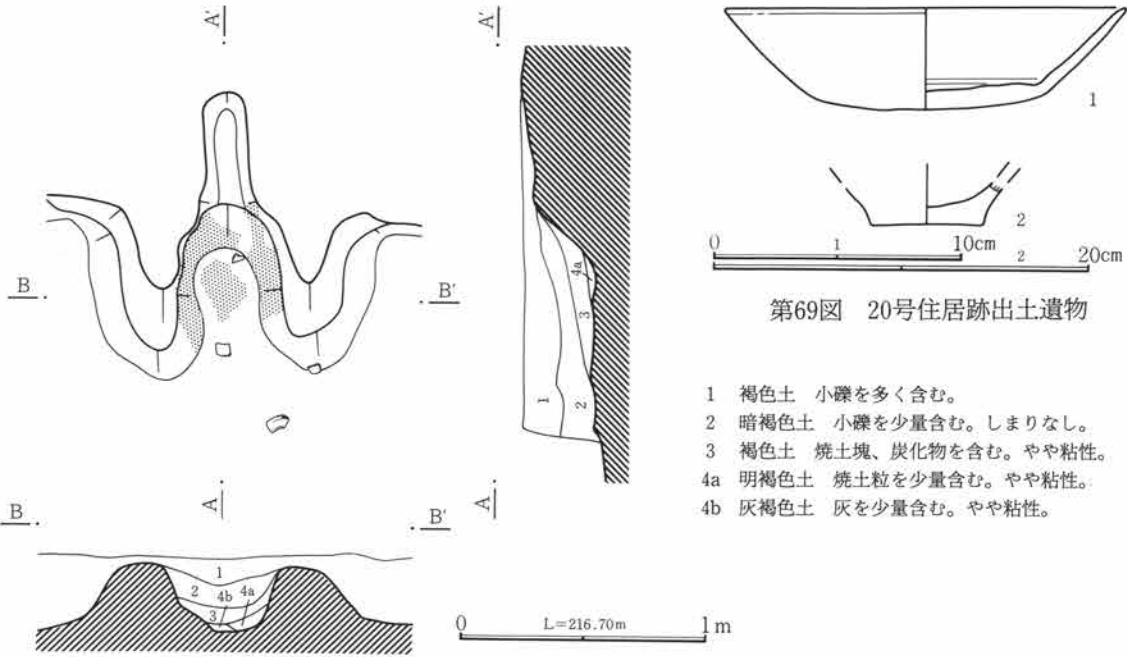
掘り方 床面下から遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、9世紀代と考えられる。

- 1 褐色土 黄色礫を多く含む。
- 2 暗褐色土 小礫を含む。
- 3 褐色土 小礫、黄褐色土粒を含む。しまり弱い。



第1節 竪穴住居跡



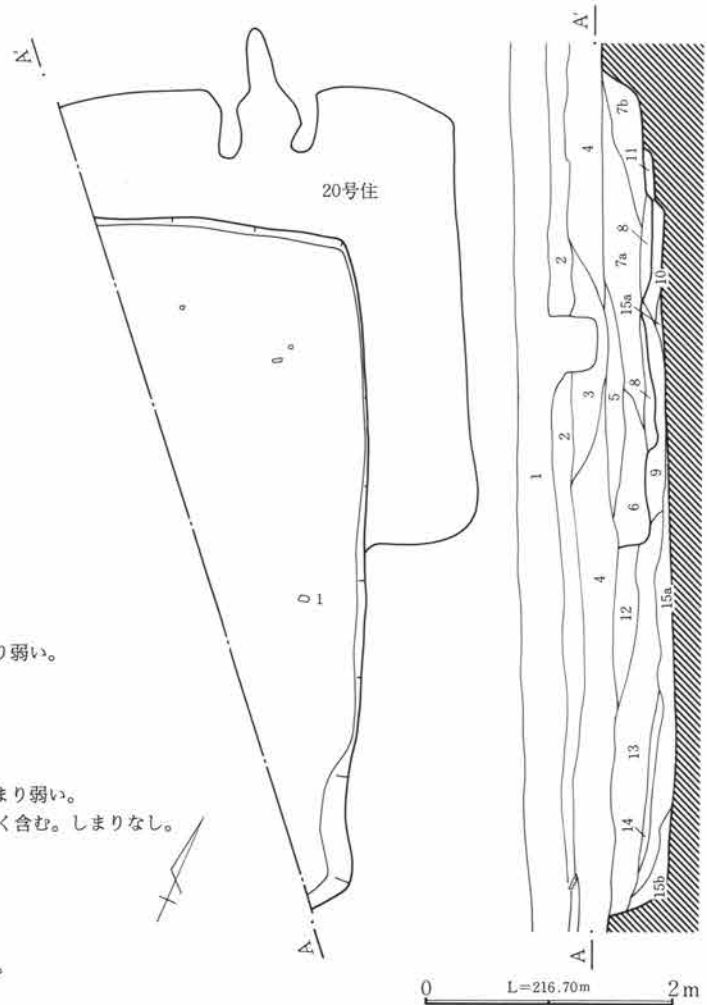
第68図 20号住居跡かまど

第69図 20号住居跡出土遺物

- 1 褐色土 小礫を多く含む。
- 2 暗褐色土 小礫を少量含む。しまりなし。
- 3 褐色土 焼土塊、炭化物を含む。やや粘性。
- 4a 明褐色土 焼土粒を少量含む。やや粘性。
- 4b 灰褐色土 灰を少量含む。やや粘性。

21号住居跡 (PL.10)

位置 Do-61 床面積 測定不能  
 主軸方位 N-24°-W 残存壁高 0.5  
 m  
 重複 21住→20住  
 規模と形状 南北長5.60mを測る。  
 床面 砂礫を含む暗褐色土が薄く貼る。  
 かまど・貯蔵穴・壁下周溝・柱穴  
 いずれも検出されなかった。  
 出土遺物 土器破片4点出土。  
 掘り方 床面と同一。  
 時期 6世紀代と考えられる。

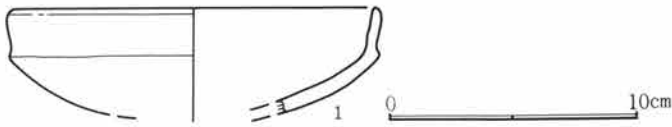


第70図 21号住居跡

- 1 灰褐色土 現耕作土。
- 2 黒褐色土 茶褐色土、少量の砂礫を含む。
- 3 暗褐色土 小礫(φ3~10mm)を含む。しまり弱い。
- 4 褐色土 小礫を多く含む。
- 5 暗灰褐色土 小礫を多く含む。
- 6 暗褐色土 小礫を多く含む。
- 7a 褐色土 小礫を多く含む。
- 7b 褐色土 砂礫(φ2~3mm)を多く含む。しまり弱い。
- 8 褐色土 砂礫、黄褐色砂礫、黄褐色土粒を多く含む。しまりなし。
- 9 暗褐色土 砂礫を少量含む。やや粘性。
- 10 暗褐色土 砂礫を含む。しまり弱い。
- 11 褐色土 黄褐色土粒を含む砂質土。
- 12 暗褐色土 小礫を含む。やや粘性。
- 13 暗褐色土 小礫を多く含む。ややしまり弱い。
- 14 黒褐色土 砂礫を少量含む。粘性。
- 15a 褐色土 砂礫、黄褐色土粒を少量含む砂質土。
- 15b 褐色砂質土と暗灰色粘質土の互層。

6号住居跡埋土

第3章 検出された遺構と遺物



第71図 21号住居跡出土遺物

22号住居跡 (PL.10・111)

位置 Dn-60 床面積 測定不能 主軸方位 N-14°-W 残存壁高 0.25m 重複 22住→2号溝

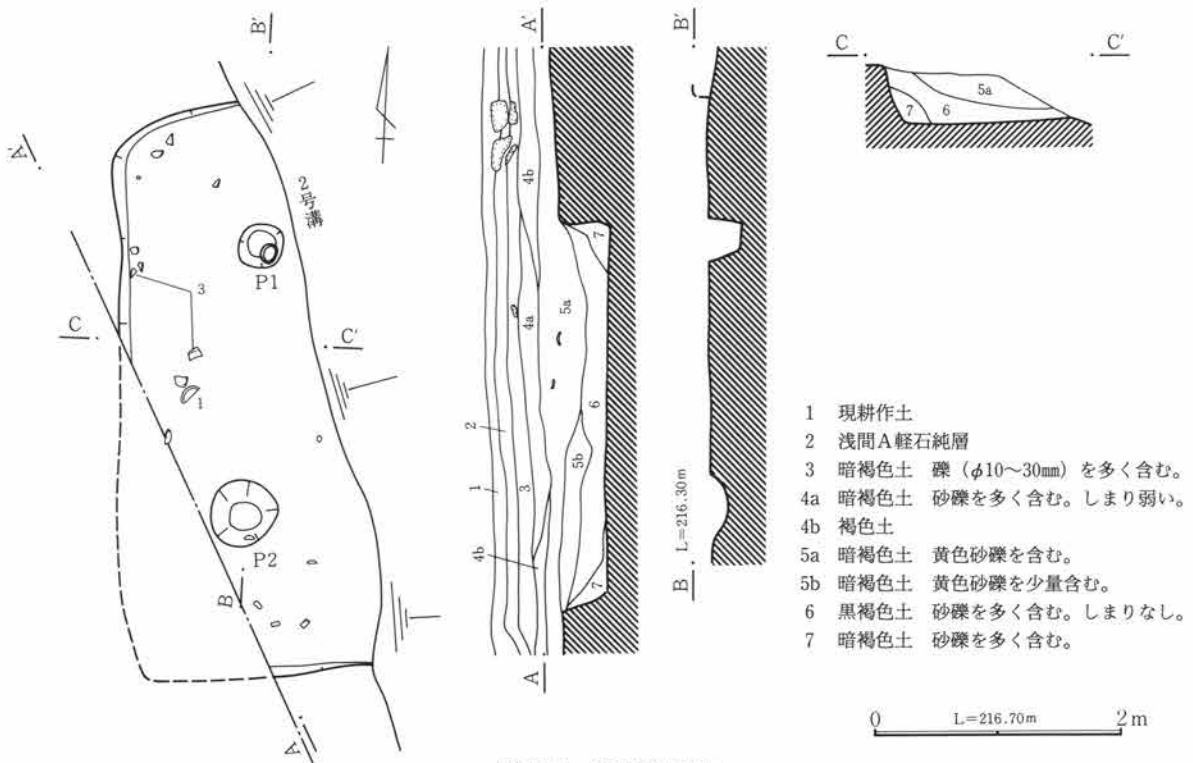
規模と形状 住居西側が調査区外、東側が2号溝によって破壊されているため、南北長4.50mを測る。

床面 砂礫を少量含む暗褐色土を薄く貼る。 かまど 破壊されたと考えられる。

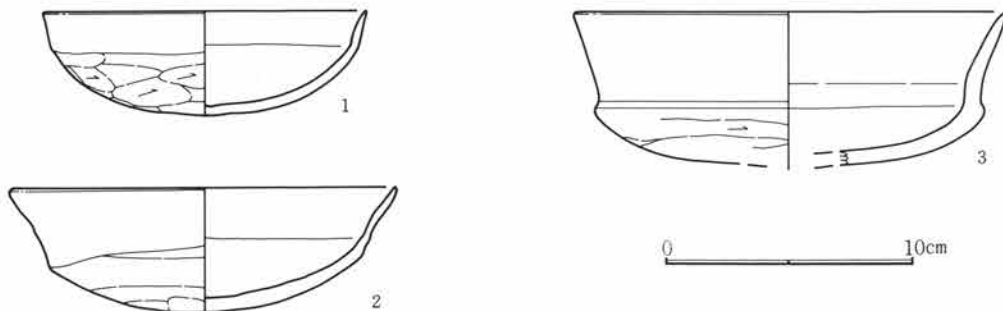
貯蔵穴・壁下周溝 いずれも検出されなかった。 柱穴 2基の小ピットを検出。

出土遺物 18点の土器片が出土。 掘り方 床面下の遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、7世紀前半代の所産と考えられる。



第72図 22号住居跡



第73図 22号住居跡出土遺物

23号住居跡 (PL.11)

位置 Dq-60 床面積 測定不能  
 主軸方位 N-74°-E 残存壁高 0.15  
 m

重複 23住→2号溝

規模と形状 大半が2号溝によって破壊されている。南北長3.90mが計測される。

床面 残存部が少なく、部分的に粘性のある褐色土が貼られる。

かまど 東壁に袖を有するかまどが構築される。袖は地山掘り残しである。両袖の先端部は破壊されている。燃烧部内からは顕著な焼土面などは確認されなかった。煙道部は、くり抜き式の構造をもち、ほぼ水平に屋外に伸びて直角に立ち上がる。煙道部内面上部はよく焼け込み、焼土面が確認されている。

貯蔵穴 かまど付近の南東隅にあり、円形状を呈す。

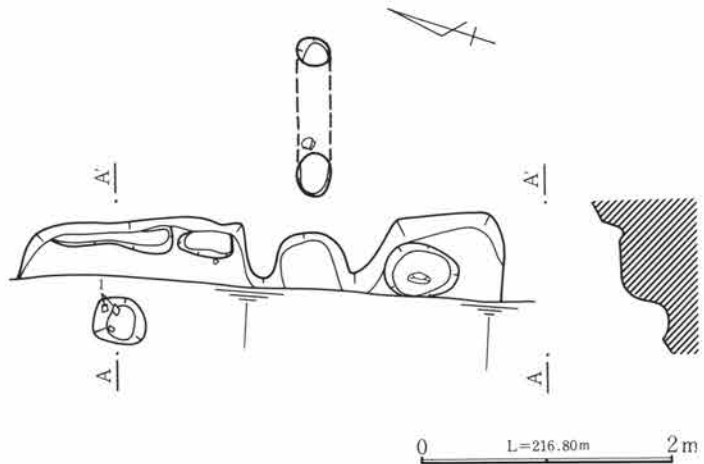
壁下周溝 残存する東辺部北側で検出された。掘り込みは浅い。

柱穴 北東隅から柱穴と考えられるピットが1基検出されている。

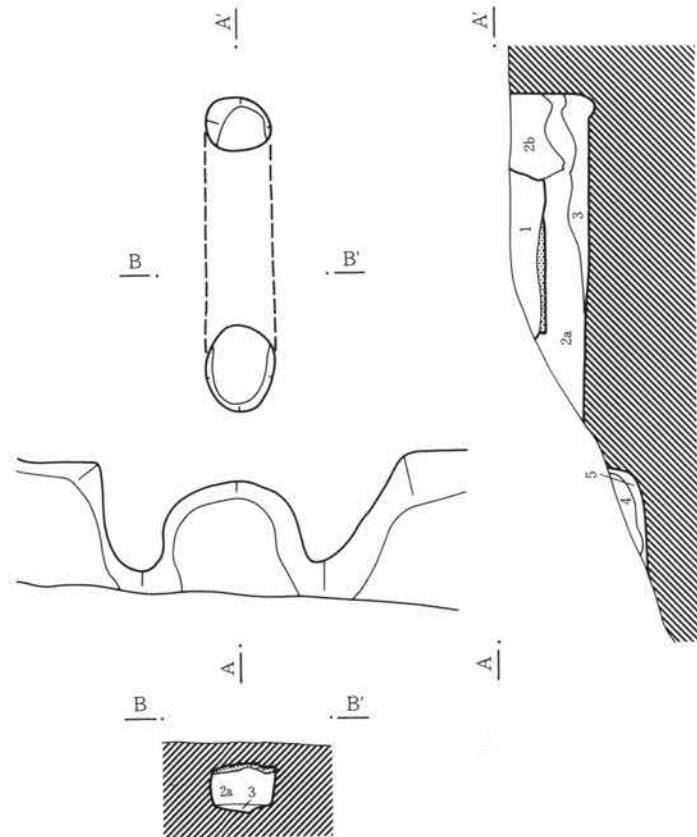
出土遺物 5点の土器片が出土した。ピット内から土師器甕出土。

掘り方 床面下の遺構は検出されなかった。

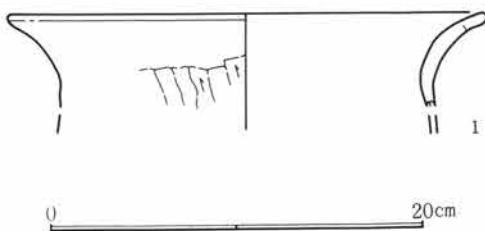
時期 出土遺物や住居形態から、7世紀代の所産と考えられる。



第74図 23号住居跡



- 1 黄褐色土 小礫を含む。(地山?)
- 2a 暗褐色土 砂礫、黄褐色土塊を含む。
- 2b 暗褐色土 砂礫を含む。
- 3 暗褐色土 砂礫、焼土粒、炭化物を含む。
- 4 暗褐色土 小礫、焼土粒を含む。粘性。
- 5 暗茶褐色土 焼土粒、焼土塊を含む。



第76図 23号住居跡かまど

第75図 23号住居跡出土遺物

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 24号住居跡 (PL.11・111)

位置 Dt-52 床面積 (4.9) m<sup>2</sup> 主軸方位 N-118°-E 残存壁高 0.1m

重複 24住→24・26号土坑

規模と形状 長辺2.42m、短辺2.26mの方形状を呈し、北東及び南東隅は24・26号土坑に壊される。

床面 砂質の褐色土であり、締まり弱い。かまど前に薄く焼土粒・灰の広がり見られる。

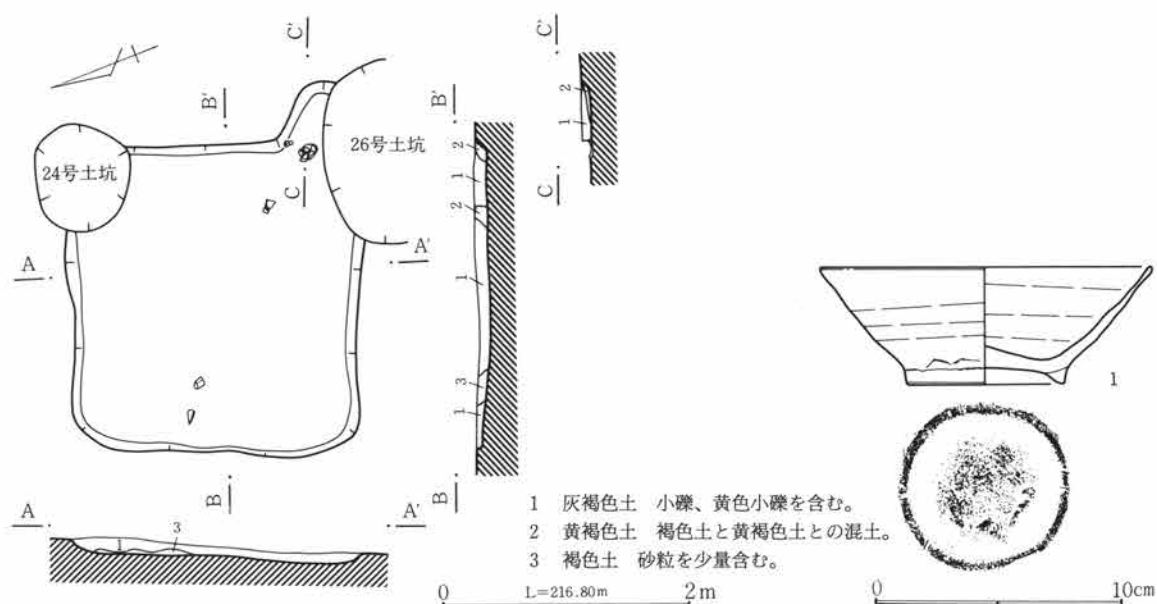
かまど 東壁南隅寄りに壁を掘り込み構築される。大半を26号土坑に破壊されているため、燃烧部の一部が確認されたにすぎない。燃烧部内からは顕著な焼土面などは確認されなかった。

貯蔵穴・壁下周溝・柱穴 いずれも検出されなかった。

出土遺物 3点の土器片と鉄滓が出土したが、そのうち床面付近から高台付塊出土。

掘り方 床面と掘り方面がほぼ一致し、床面下から遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、10世紀代と考えられる。



第77図 24号住居跡

第78図 24号住居跡出土遺物

#### 25号住居跡 (PL.11・111)

位置 Dt-51 床面積 6.2m<sup>2</sup> 主軸方位 N-118°-E 残存壁高 0.2m

重複 25住→35・36号土坑

規模と形状 長辺2.84m、短辺2.50mの横長長方形を呈し、掘り込みは浅く周壁は若干崩落が認められる。

床面 砂質の褐色土であり、締まり弱い。かまど前に薄く焼土粒・灰の広がり見られる。

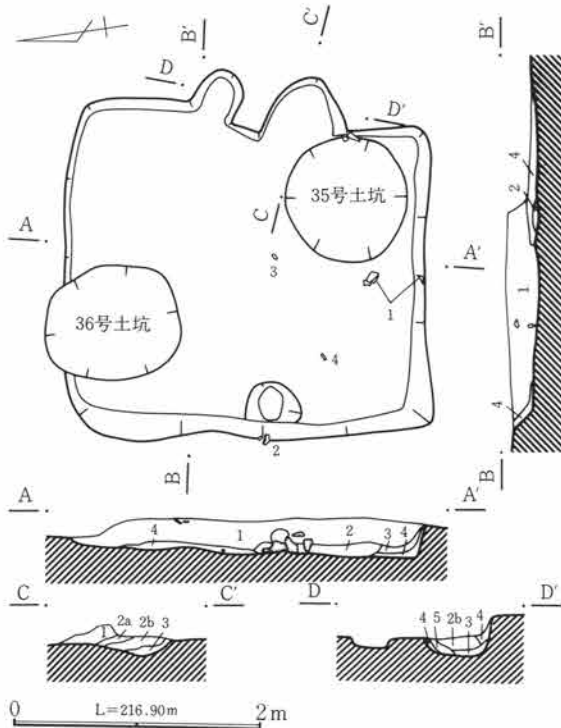
かまど 東壁中央やや南寄りに壁を掘り込み構築される。燃烧部内からはわずかな焼土粒が分布している。

貯蔵穴・壁下周溝・柱穴 いずれも検出されなかったが、西辺部中央付近で小ピットが検出された。

出土遺物 総計5点の土器片と土製品が出土した。床面付近や覆土中から出土した、土釜、小形甕のほか2点の土錘出土。

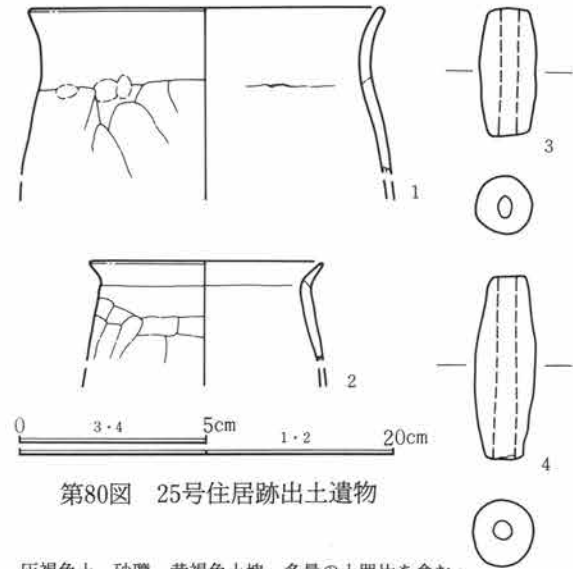
掘り方 貼り床や床面下の遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、9世紀代末と考えられる。



- かまどセクション (C-C', D-D')
- 1 灰褐色土 砂礫、黄褐色土塊、焼土、炭化物を含む
  - 2a 暗褐色土 小礫、焼土粒、炭化物を含む。
  - 2b 暗褐色土 2a層に近似するが、小礫は少ない。しまり弱い。

第79図 25号住居跡



第80図 25号住居跡出土遺物

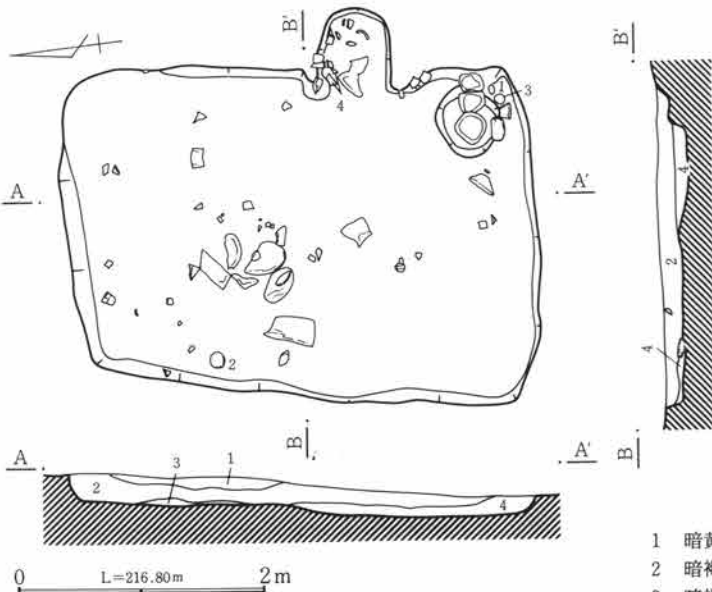
- 1 灰褐色土 砂礫、黄褐色土塊、多量の土器片を含む。
- 2 暗褐色土 多量の砂礫、少量の黄褐色土塊を含む。
- 3 暗黄色土 黄褐色土塊を主体とし、砂礫を含む。
- 4 暗褐色土 砂礫、黄褐色土塊を少量含む。
- 3 褐色土 黄褐色土粒、焼土粒を含む。
- 4 暗黄褐色土 小礫、黄褐色土塊を含む。
- 5 暗褐色土 小礫を少量含む。

26号住居跡 (PL. 11・12・111)

位置 Ds-51 床面積 8.4m<sup>2</sup> 主軸方位 N-102°-E 残存壁高 0.15m 重複 なし

規模と形状 長辺3.74m、短辺2.56mの横長長方形のプランを呈する。

床面 砂質の掘り方面の上に薄く褐色土が貼られる。かまど前は僅かに踏み固められた面が見られた。



第81図 26号住居跡

貯蔵穴 南東隅部にあり、円形状を呈する。上面には円礫が敷かれる。

壁下周溝・柱穴 検出されなかった。

出土遺物 総計47点の土器片と少量の石片が出土している。

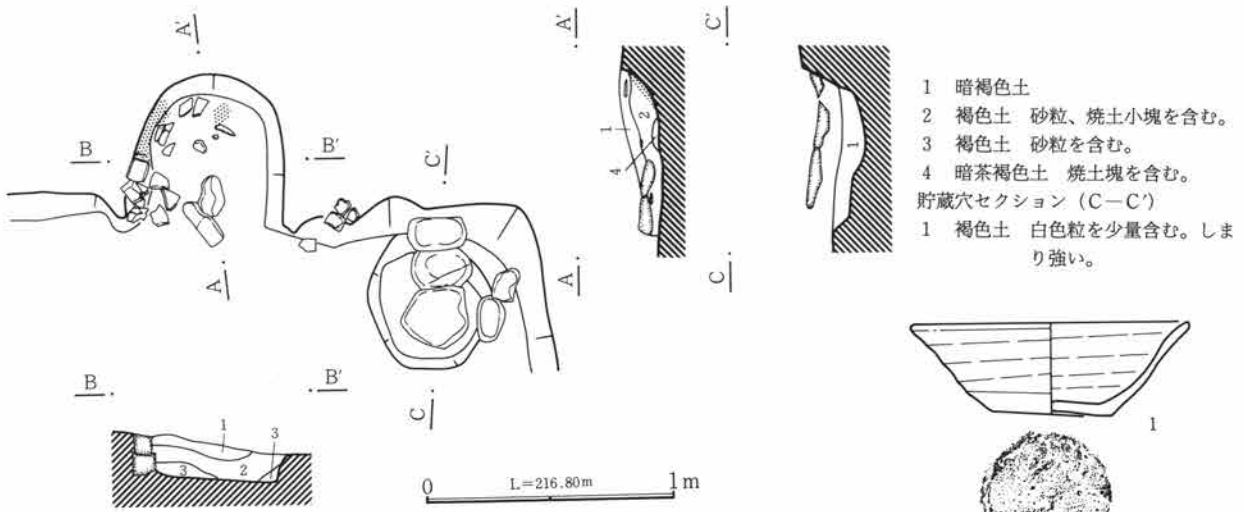
掘り方 床面下の遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、9世紀代末と考えられる。

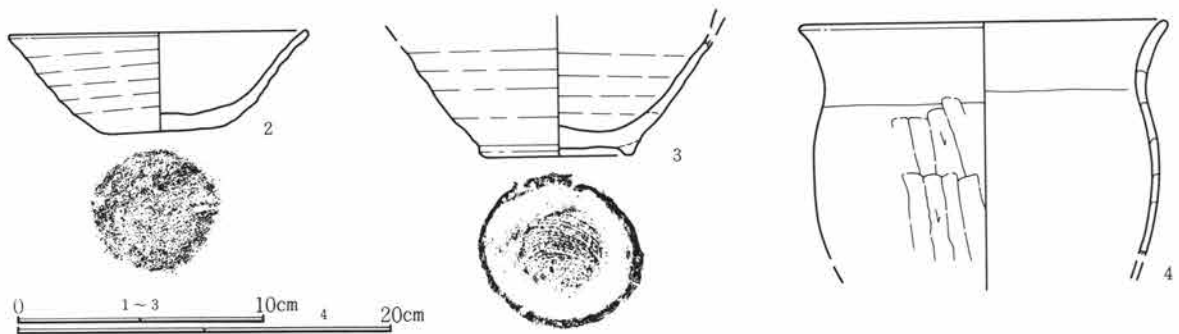
- 1 暗黄褐色土 砂礫、黄褐色土塊を含む。
- 2 暗褐色土 砂礫、焼土粒、土器片を含む。
- 3 暗褐色土 砂礫を少量含む。粘性強い。
- 4 暗黄色土 砂粒、焼土粒、炭化物を少量含む。

### 第3章 検出された遺構と遺物

**かまど** 東壁中央やや南寄り壁外を掘り込み構築される。燃焼部左袖には砂岩加工石の袖石が残存し、側壁の一部で焼土面が確認されている。また、燃焼部内には、袖石に架けたかまど用石なども検出されている。



第82図 26号住居跡かまど



第83図 26号住居跡出土遺物

#### 27号住居跡 (PL.12・111)

確認当初27号住居跡かまど部分のみが確認できただけであり、周辺部は暗褐色土の堆積が見られ住居プランの確認は難しかった。精査の結果27号住居跡のプランが覆土の僅かな色調差により確認でき、周辺部の方形の暗褐色土部分を28号住居として扱った。

**位置** Ds-49 **床面積** 6.5㎡ **主軸方位** N-90°-E **残存壁高** 0.2m **重複** 28住→27住

**規模と形状** 一辺2.70mのほぼ方形のプランを呈する。

**床面** やや締まりのある褐色土であり、かまど前に焼土・灰の薄い広がりが見られた。

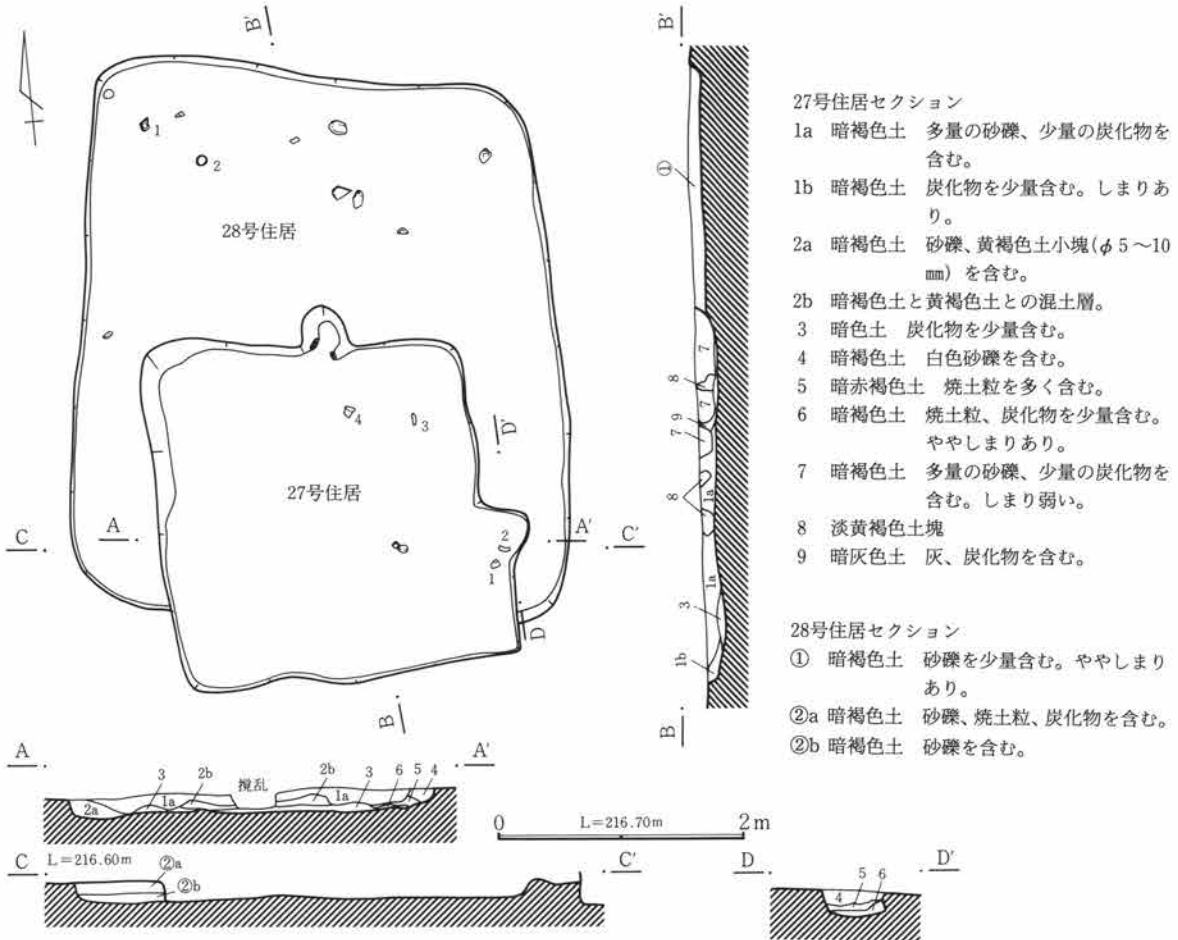
**かまど** 東壁南寄りの壁外を掘り込み構築される。燃焼部内では焼土ブロックが検出され、かまど前ではかまど崩落土と考えられる焼土粒・塊、炭化物の堆積が見られる。

**貯蔵穴・壁下周溝・柱穴** いずれも検出されなかった。

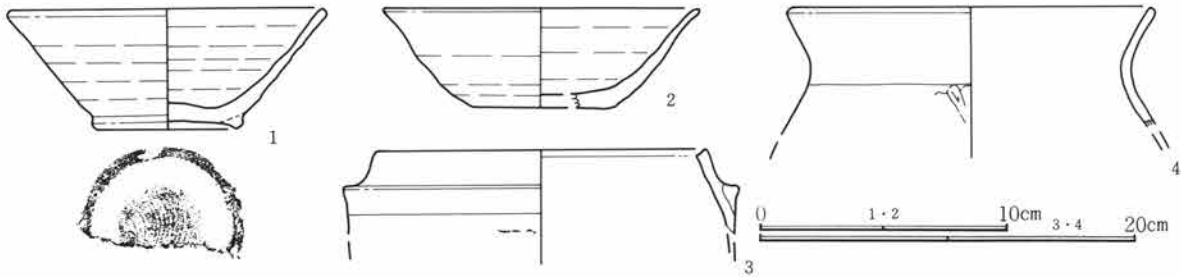
**出土遺物** 土器片を中心に総計25点が出土している。

**掘り方** 貼り床や床面下の遺構は検出されなかった。

**時期** 出土遺物や住居形態から、10世紀代と考えられる。



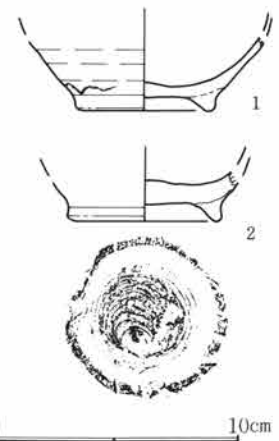
第84図 27・28号住居跡



第85図 27号住居跡出土遺物

28号住居跡 (PL.12)

位置 Ds-49 床面積 15.4m<sup>2</sup> 主軸方位 N-9°-E 残存壁高 0.25m 重複 28住→27住 規模と形状 長辺4.88m、短辺3.60mの長方形状のやや歪んだプランを呈する。床面 掘り込みは浅く、地山のくすんだ土質であり、焼土粒や灰の広がり等は見られなかった。かまど 検出されなかった。貯蔵穴・壁下周溝・柱穴 検出されなかった。出土遺物 8点の土器片が覆土中から出土している。掘り方 遺構は検出されなかった。時期 出土遺物や住居形態から、10世紀前半と考えられる。



第86図 28号住居跡出土遺物



第3章 検出された遺構と遺物

29号住居跡 (PL.12・111・112)

位置 Dt-50 床面積 14.8m<sup>2</sup> 主軸方位 N-81°-E 残存壁高 0.45m

重複 E区8住→29住

規模と形状 長辺4.80m、短辺3.30mの横長長方形のプランを呈する。

床面 かまど前や住居中央部を中心に、かたく踏み締められた部分が確認されている。

かまど 東壁南寄り壁外に構築される。燃焼部内には壁を補強する用石が残存し、側壁は垂直に立ち上がり焼土化している。煙道部は、急勾配で屋外に立ち上がる。燃焼部同様、側壁は焼土化している。

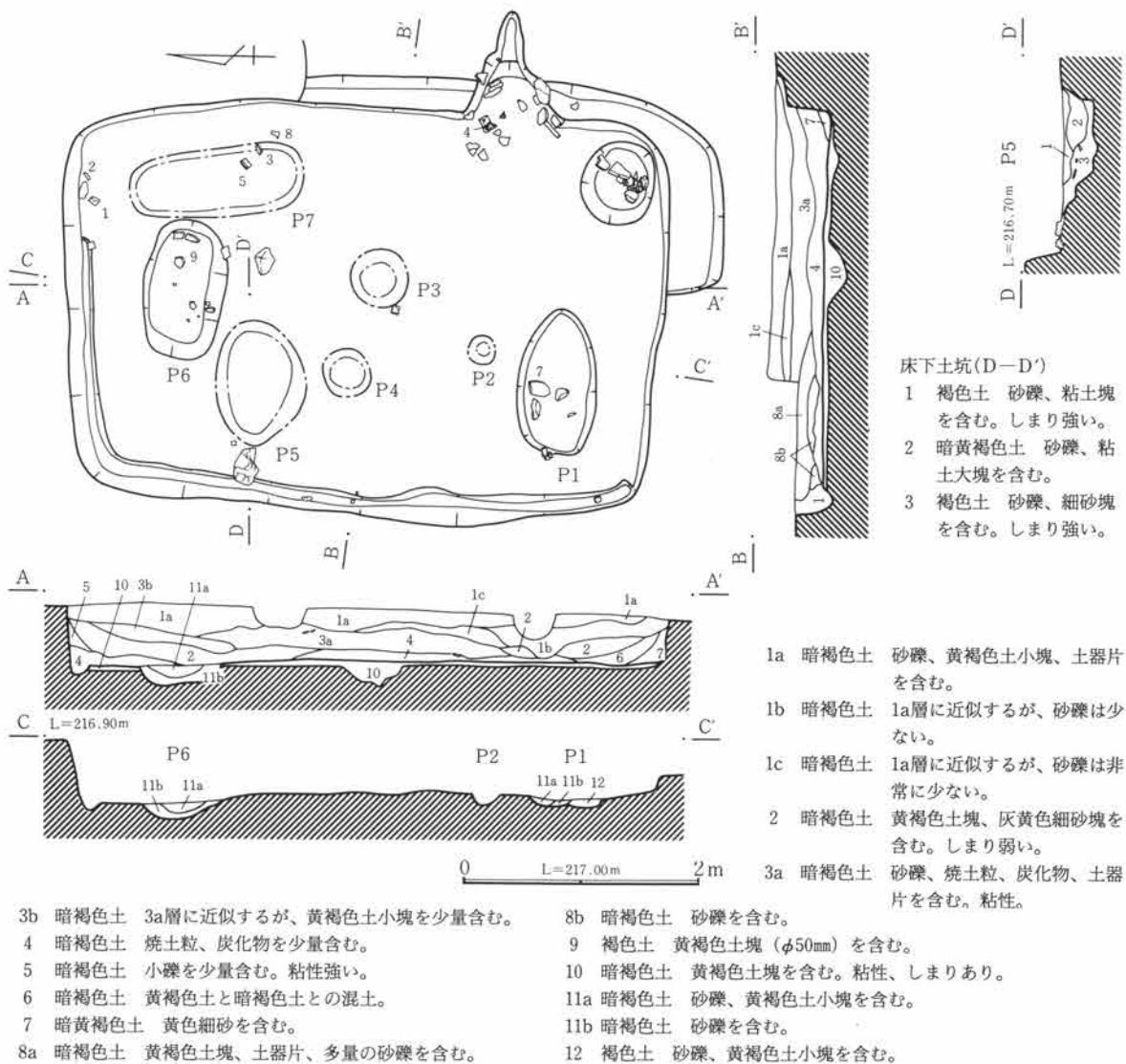
貯蔵穴 南東隅にあり、円形状を呈す。内部から砂岩礫が検出されている。

壁下周溝 西壁から北壁下にかけて検出された。 柱穴 検出されなかった。

出土遺物 総計171点の土器片と42点の石片・石材が出土している。灰釉陶器は大原2号窯期に相当する。

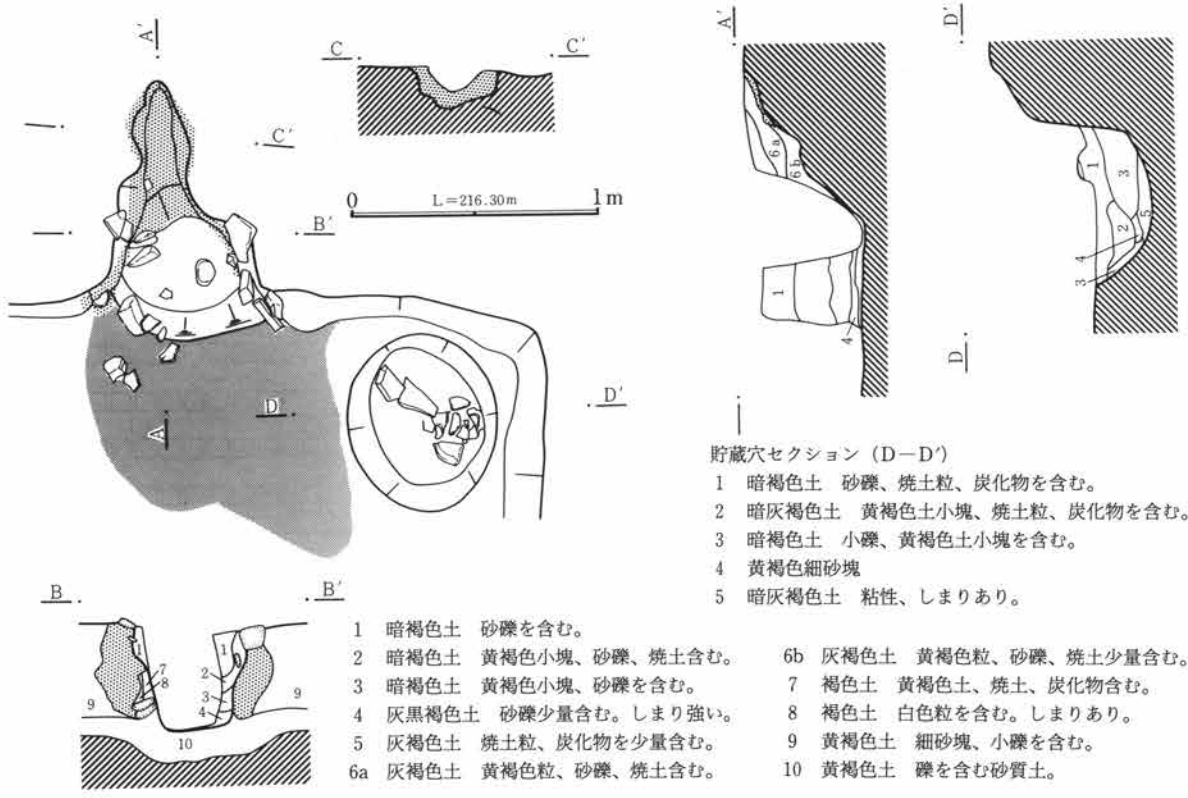
掘り方 床面下から長円状を呈した土坑2基とピット3基が検出された。土坑は、いずれも掘り込みが浅いが、意図的に穿たれたもので、本住居跡に伴うものと考えられる。

時期 出土遺物や住居形態から、10世紀代と考えられる。

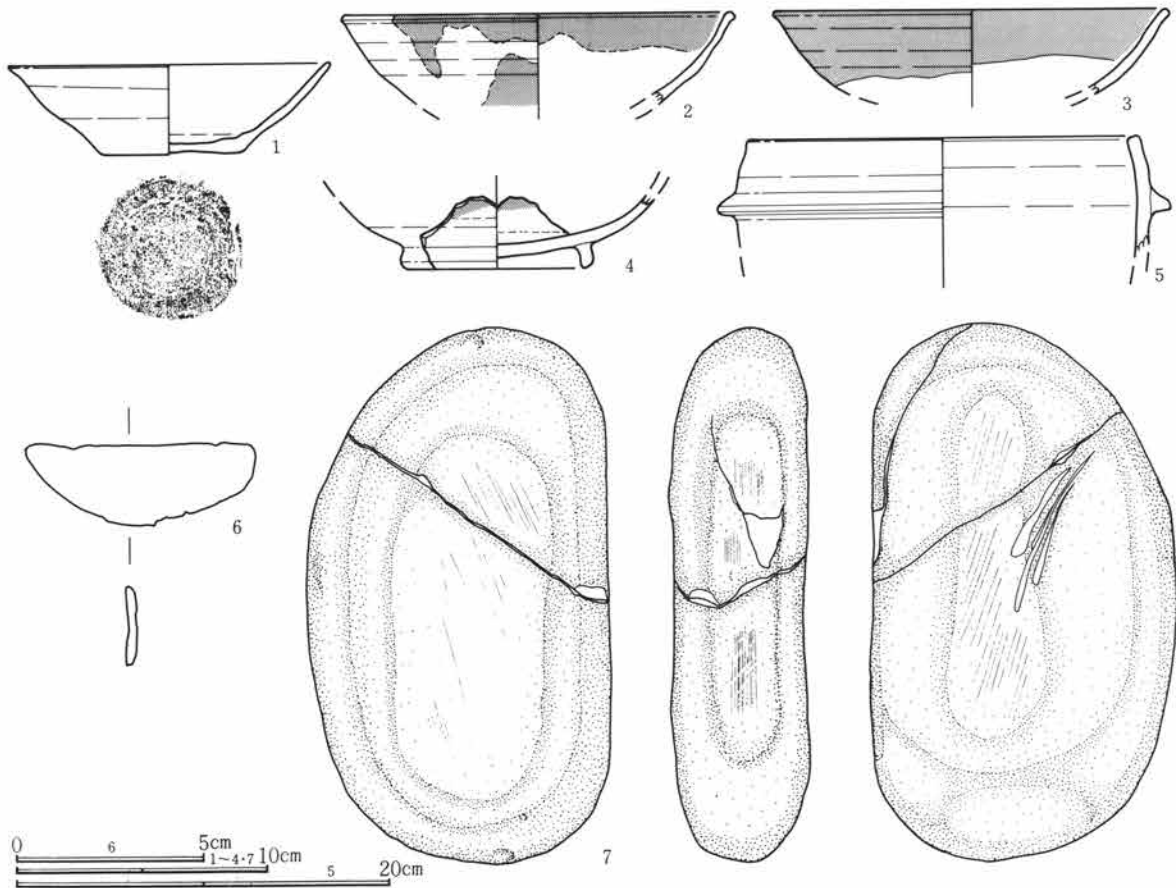


第87図 29号住居跡

第1節 竪穴住居跡

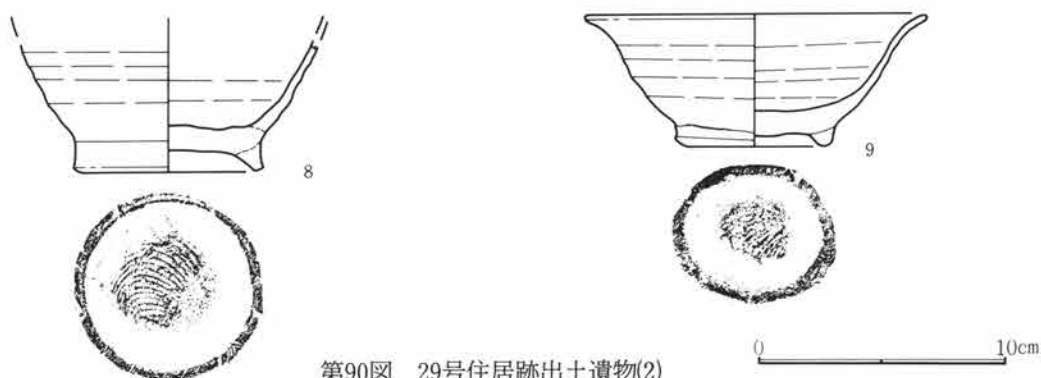


第88図 29号住居跡かまど



第89図 29号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第90図 29号住居跡出土遺物(2)

30号住居跡 (PL.13・112)

位置 Dm-50 床面積 測定不能 主軸方位 N-73°-W 残存壁高 0.2m 重複 37住→30住  
規模と形状 住居南側の大半が調査区外となるため、東西長3.46mを測る。

床面 床面直上には灰・炭化物の薄層が認められ、炭化材なども検出している。かまど 不明である。

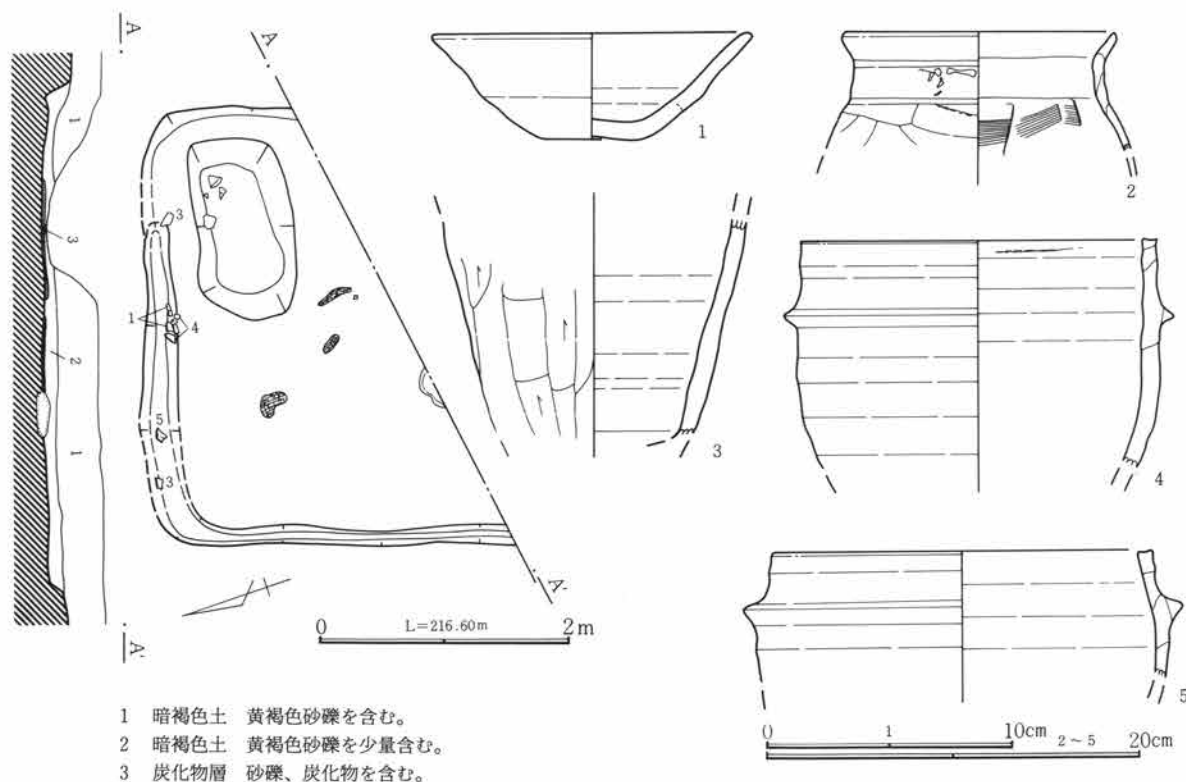
壁下周溝 西壁から北壁下にかけて検出されている。掘り込みは浅い。貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

出土遺物 総計31点の土器片が出土している。土師器甕、羽釜、ロクロ成形の坏などがあり、いずれも覆土中から出土した。37号住居跡との重複部からの出土遺物は、混入品も考えられることを付記しておく。

掘り方 北東隅に長円形を呈する土坑が検出され、貯蔵穴の可能性も考えられる。

時期 出土遺物や住居形態から、10世紀代と考えられる。

備考 床面での炭化物・炭化材の分布は、本住居跡が焼失家屋であることを示しているといえる。



- 1 暗褐色土 黄褐色砂礫を含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色砂礫を少量含む。
- 3 炭化物層 砂礫、炭化物を含む。

第91図 30号住居跡

第92図 30号住居跡出土遺物

31号住居跡 (PL.13・112)

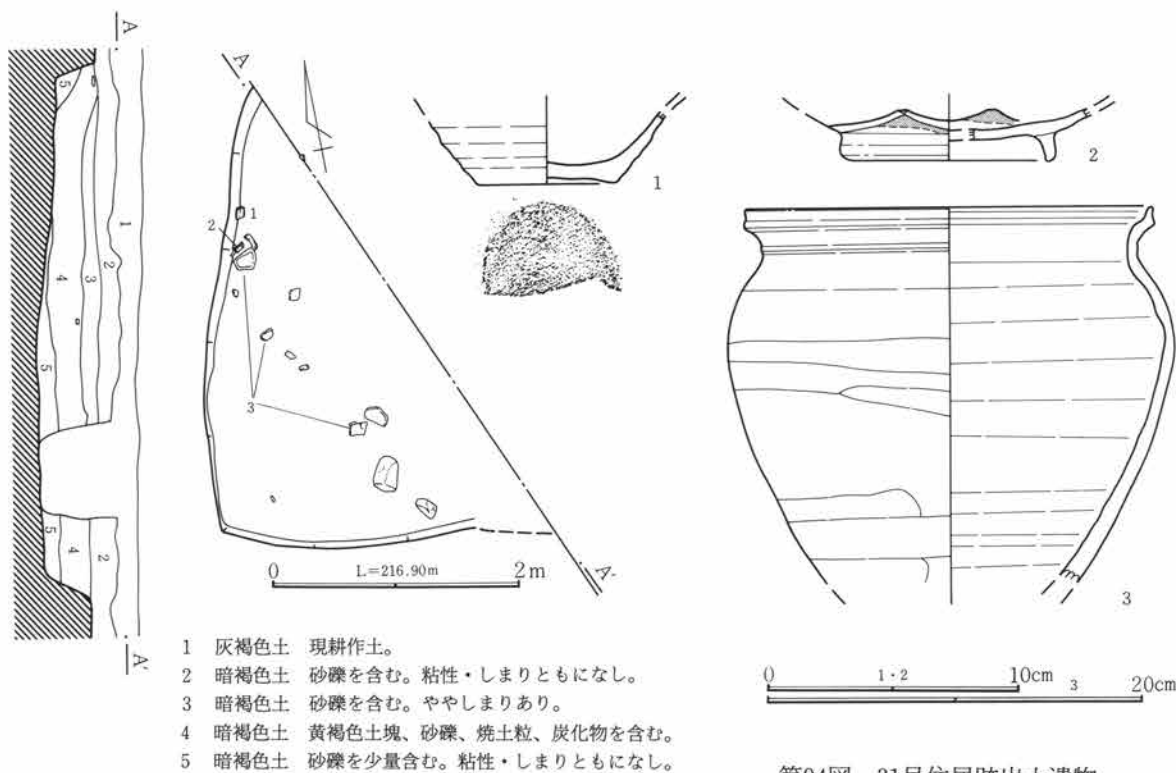
位置 Ds-49 床面積 測定不能 主軸方位 N-20°-E 残存壁高 0.15m 重複 なし

規模と形状 住居の大半が調査区外であり、南西隅部のみを調査を行った。

床面 掘り方上面のやや締まりのある薄い褐色土を床面として調査を行った。北寄りに段差が見られた。

かまど・貯蔵穴・壁下周溝・柱穴 確認されていない。出土遺物 総計13点の土器片と少量の石片が出土。

掘り方 床面下の遺構は検出されなかった。時期 出土遺物から、10世紀代と考えられる。



- 1 灰褐色土 現耕作土。
- 2 暗褐色土 砂礫を含む。粘性・しまりともになし。
- 3 暗褐色土 砂礫を含む。ややしまりあり。
- 4 暗褐色土 黄褐色土塊、砂礫、焼土粒、炭化物を含む。
- 5 暗褐色土 砂礫を少量含む。粘性・しまりともになし。

第93図 31号住居跡

第94図 31号住居跡出土遺物

32号住居跡 (PL.13・14・112)

位置 Dq-48 床面積 測定不能 主軸方位 N-10°-E 残存壁高 0.5m

重複 なし 規模と形状 南東隅部のみを調査が行えただけである。

床面 床面直上に炭化物を多く含む層と一部焼土面も認められた。

壁下周溝 壁下に巡り、掘り込みは浅い。

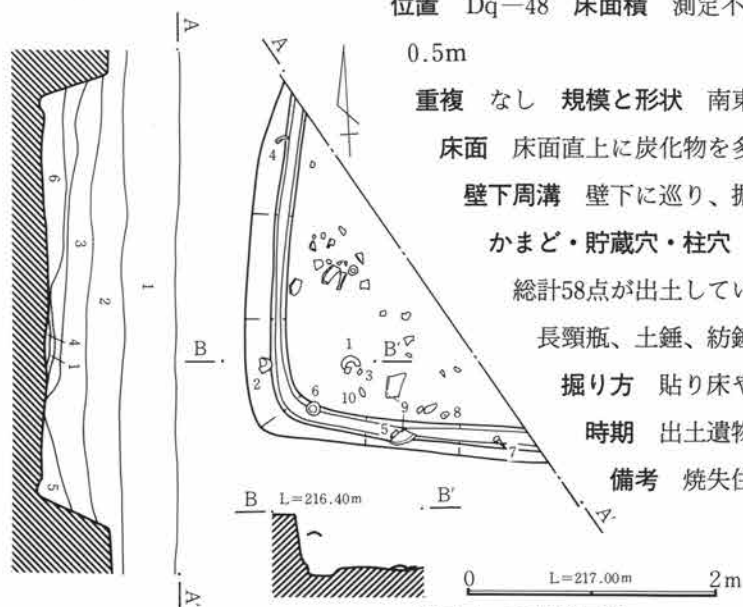
かまど・貯蔵穴・柱穴 確認されなかった。出土遺物

総計58点が出土している。須恵器坏が6点と須恵器大甕破片、長頸瓶、土錘、紡錘車等が床面付近から出土。

掘り方 貼り床や床面下の遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物から、9世紀代前半と考えられる。

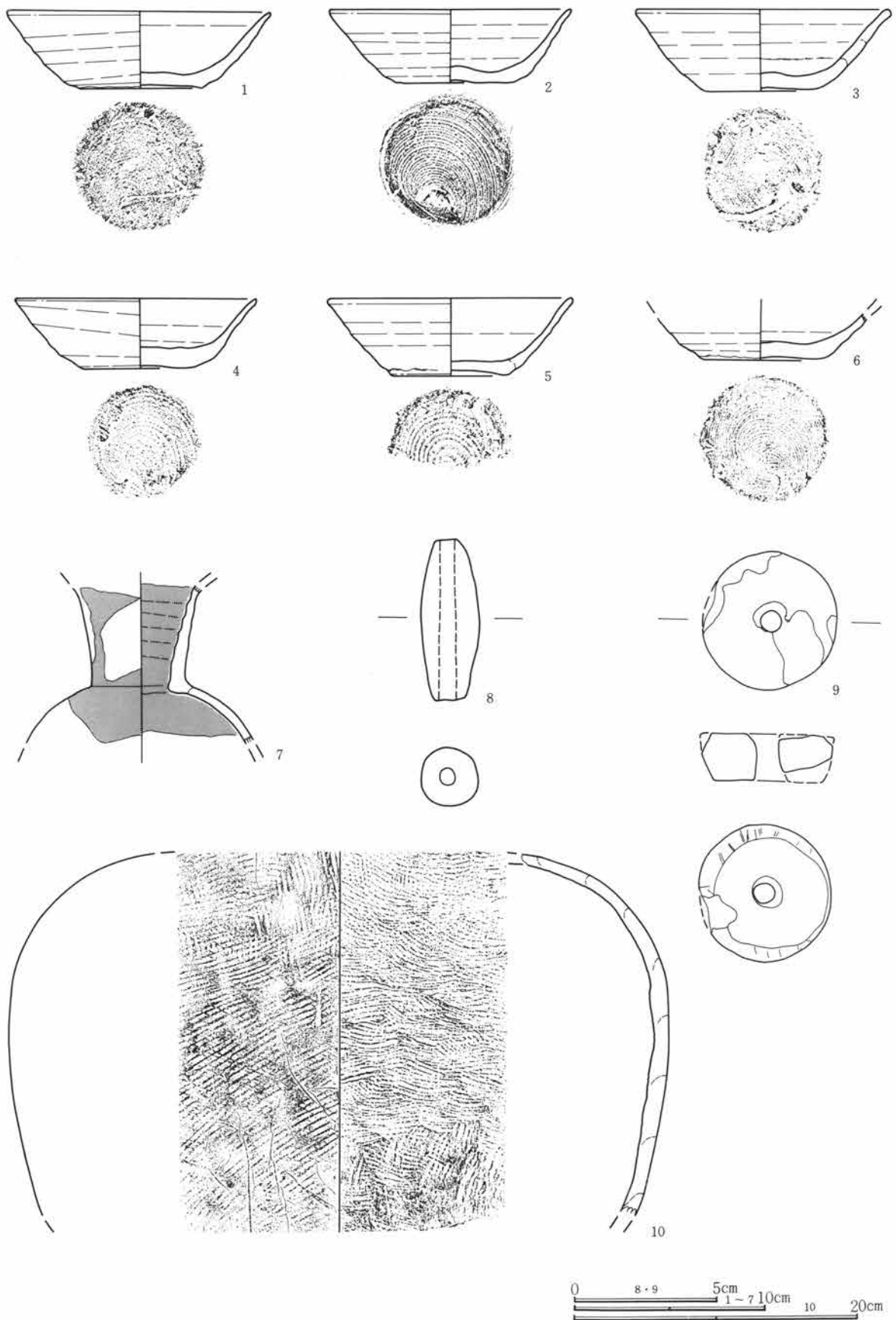
備考 焼失住居の可能性が考えられる。



- 1 現耕作土
- 2 明褐色土 砂礫を少量含む。
- 3 褐色土 黄色砂礫、炭化物を少量含む。
- 4 暗褐色土 炭化物を少量含む。
- 5 暗褐色土 炭化物を含む。やや粘性。
- 6 暗灰色土 炭化物を多く含む。やや粘性。

第95図 32号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



0 8・9 5cm 1-7 10cm 10 20cm

第96図 32号住居跡出土遺物

## 33号住居跡 (PL.14・112)

位置 Ds-57 床面積 9.7m<sup>2</sup> 主軸方位 N-7°-W 残存壁高 0.45m 重複 なし

規模と形状 長辺4.04m、短辺2.80mの横長長方形のプランを呈する。

床面 僅かにくすんだ粘性の強い褐色土であり、南西隅を中心として他の部分より床面レベルがやや高くなっている。かまど前から住居中央部にかけてかたく踏み締められる。

かまど 北壁中央部に袖を有するかまどが構築される。袖は地山黄褐色土塊や暗褐色土塊の混土を貼り付け作られる。両袖の先端部は、板状の砂岩加工石による袖石と焚口部天井に架けた用石が残存し、ほぼ旧状をとどめている。燃烧部内壁は焼土化している。煙道部は、くり抜き式のものとして推定され、ほぼ水平に屋外に伸びて直角に立ち上がる。煙り出し口には土師器甕が転用されている。内壁は焼土化している。

貯蔵穴 北東隅寄りにあり、円形状を呈す。貯蔵穴内には土師器甕の口縁部(全周している)が据えられ、器台状の道具として転用している。ピット自体の掘り込みは極めて浅い。

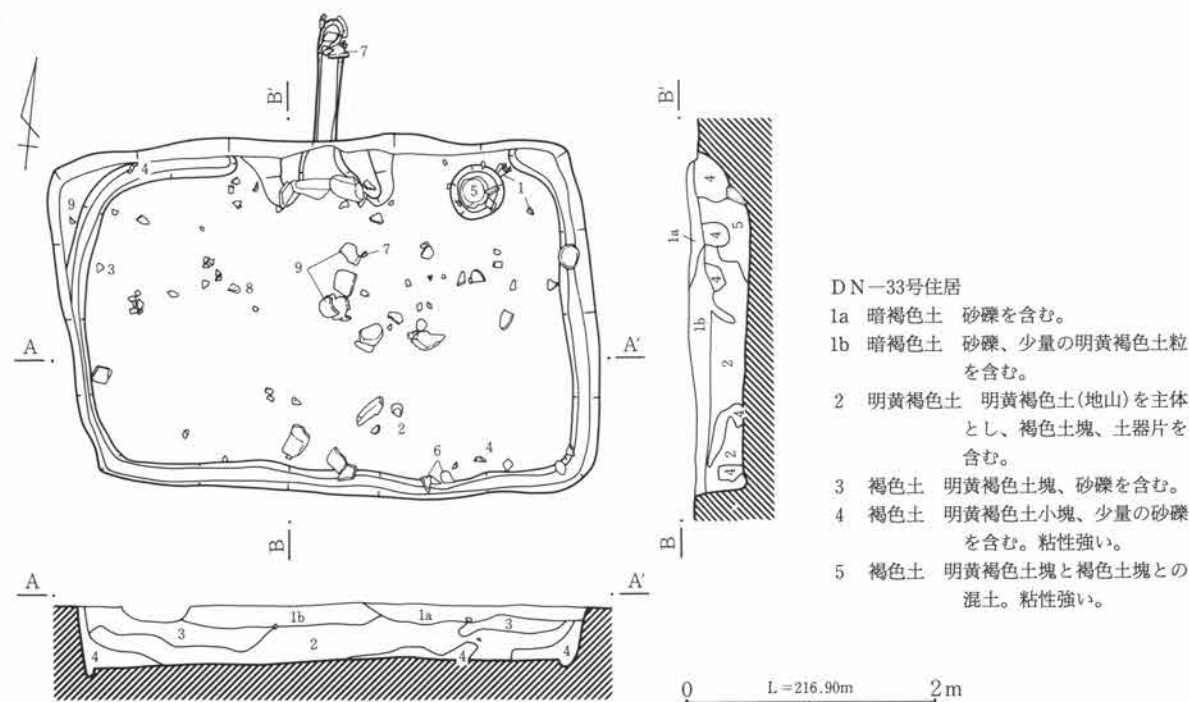
壁下周溝 北辺部のかまど付近を除いて全周している。柱穴 検出されなかった。

出土遺物 総計147点の土器片と17点ほどの石片・石材が出土している。3点の土師器甕は、床面付近、煙道部先端(転用品)、貯蔵穴内(転用品)出土で、確実に本住居跡に伴うものと考えられる。そのほかには、土師器小形甕・坏、須恵器高台付坏・蓋があり、床面付近や覆土中からの出土で、完形品はない。

掘り方 床面下から計7基のピットが検出している。いずれも円形状を呈すが、規模は同一でない。北辺部のかまど付近にあるピットは、焼土粒子を多量に含み、かまどに関連したものと考えられる。そのほかのピットについては性格を特定できない。

時期 出土遺物や住居形態から、8世紀代前半と考えられる。

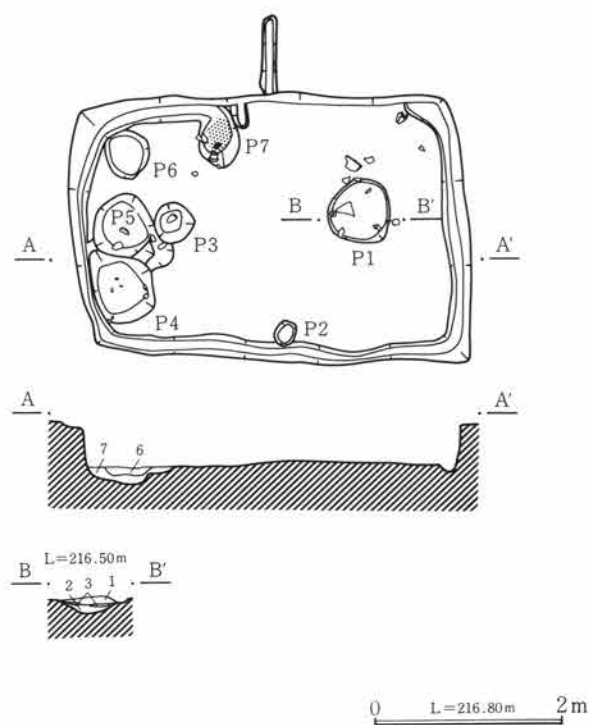
備考 本住居跡の覆土の堆積状況は、地山ブロックなどが斑点状に混入し、レンズ状の堆積とは認められない。自然堆積とは考えられないことから、人為的に埋め戻された可能性が高い。



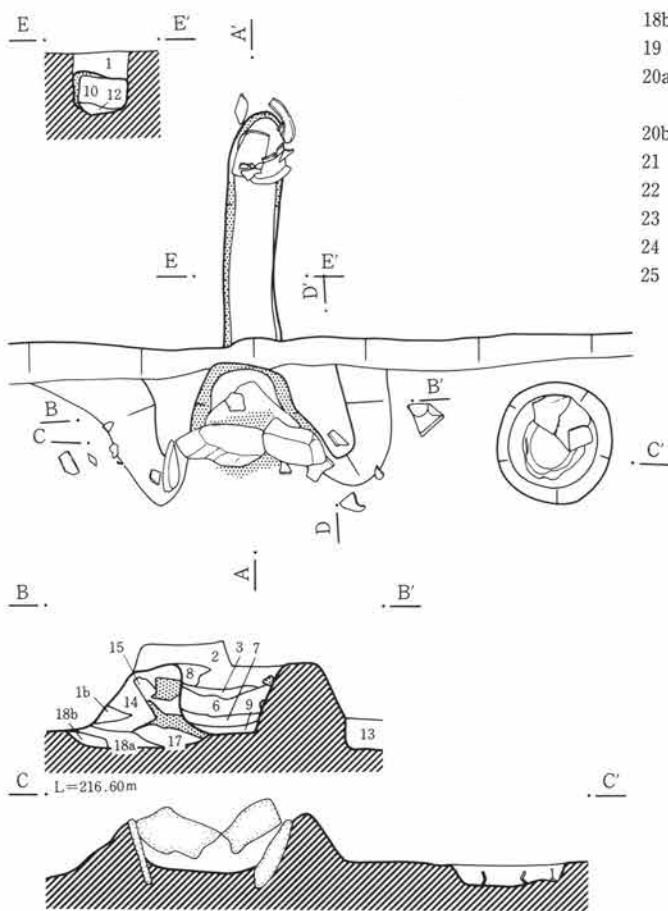
第97図 33号住居跡



第3章 検出された遺構と遺物



第98図 33号住居跡掘り方



第99図 33号住居跡かまど

掘り方セクション (A-A')

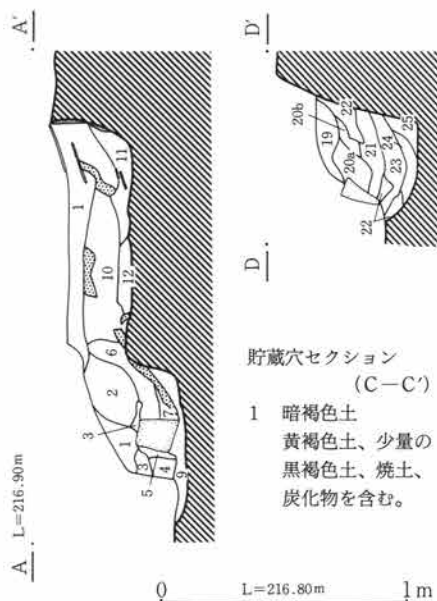
- 1 暗褐色土 砂礫を少量含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒、炭化物を少量含む。

床下土坑セクション (B-B')

- 1 暗褐色土 白色粒、焼土粒、炭化物を少量含む。しまり強い。
- 2 黒褐色土 炭化物を多く含む。
- 3 褐色土 暗黄褐色土小塊を含む。

かまどセクション

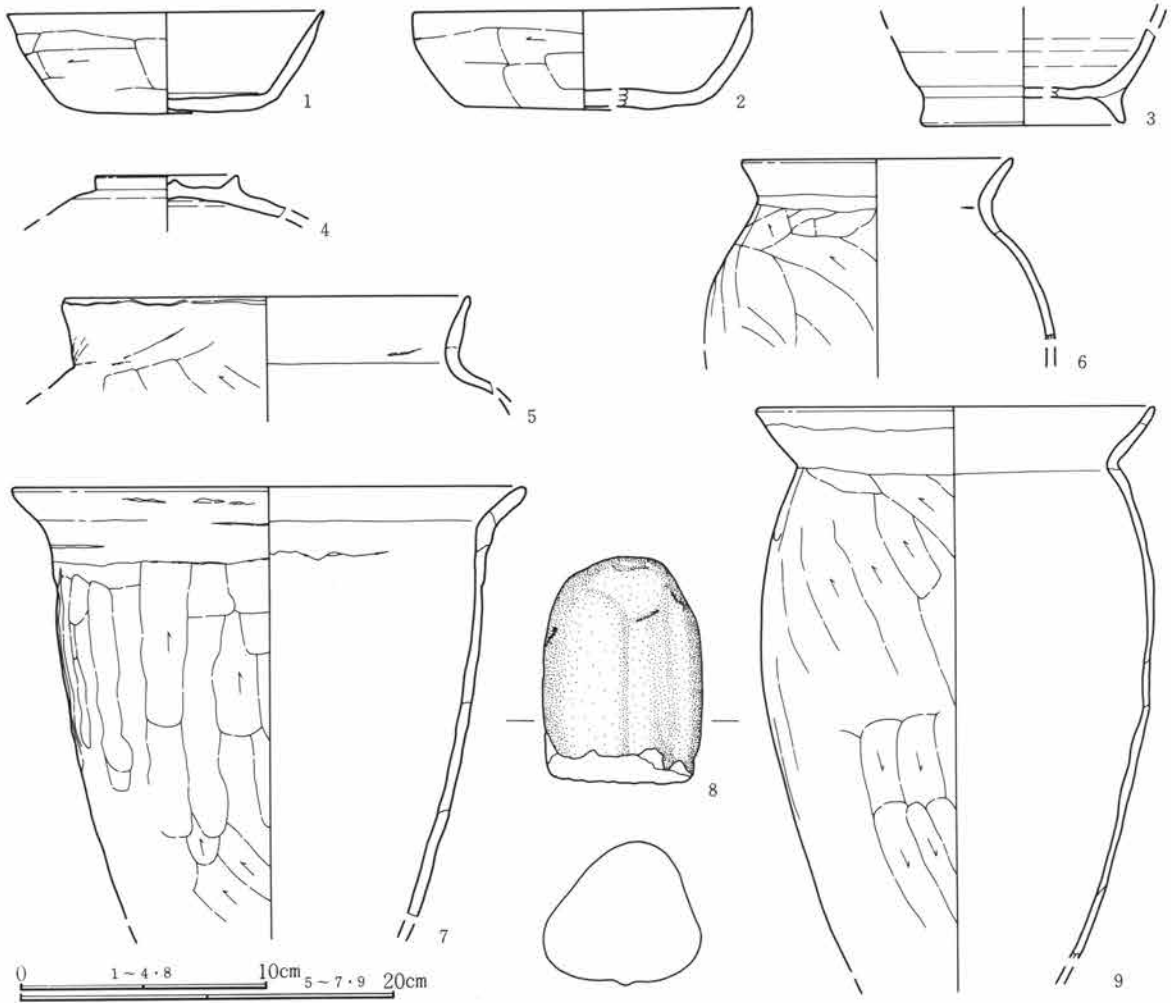
- 1 暗褐色土 黄褐色土塊を少量含む。
- 2 黒褐色土 黄褐色土塊を少量含む。
- 3 黄褐色土と暗褐色土との混土層
- 4 褐色土 黄褐色土粒、焼土粒を少量含む。
- 5 暗色土
- 6 暗褐色土 黄褐色土小塊、焼土粒を少量含む。やや粘性。
- 7 暗褐色土と黄褐色土との混土層
- 8 黄褐色土 暗褐色土を含む。
- 9 黒褐色土 黄褐色土小塊を含む。やや粘性。
- 10 暗褐色土 黄褐色土粒、焼土小塊を少量含む。
- 11 暗褐色土 焼土塊と黄褐色土小塊との混土。
- 12 褐色土 焼土塊、黄褐色土塊を含む。
- 13 黒褐色土 黄褐色土小塊を少量含む。
- 14 暗黄褐色土 暗褐色土小塊を少量含む。
- 15 暗褐色土 焼土粒を多く含む。
- 16 暗褐色土 黄褐色土粒を少量含む。
- 17 明褐色土 やや焼けた黄褐色土粒を多く含む。
- 18a 暗褐色土 焼土粒を少量含む。
- 18b 暗褐色土 焼土小塊を多く含む。しまりなし。
- 19 暗褐色土 黄褐色土小塊、焼土粒を少量含む。
- 20a 暗褐色土 暗黄褐色土と黒褐色土との混土。焼土塊を多く含む。
- 20b 暗褐色土 23a層に近似するが、含有物は少量の焼土粒。
- 21 黄褐色土 焼土粒を少量含む。
- 22 暗褐色土 黄褐色土を少量含む。
- 23 黄褐色土 焼土小塊を少量含む。
- 24 暗黄褐色土
- 25 黄褐色土



貯蔵穴セクション (C-C')

- 1 暗褐色土 黄褐色土、少量の黒褐色土、焼土、炭化物を含む。





第100図 33号住居跡出土遺物

34号住居跡 (PL. 15)

位置 Dt-49 床面積 測定不能 主軸方位 N-24°-E 残存壁高 0.2m 重複 なし

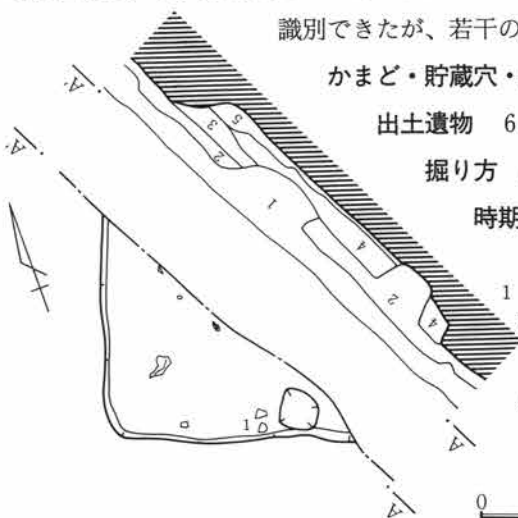
規模と形状 南西隅部付近の一部を確認したにすぎない。床面 床面は、覆土との色調差によって明瞭に識別できたが、若干の起伏が認められた。

かまど・貯蔵穴・壁下周溝・柱穴 確認されなかった。

出土遺物 6点の土器片が出土している。

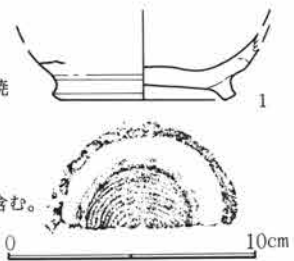
掘り方 床面下の遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、10世紀代と考えられる。



第101図 34号住居跡

- 1 灰褐色土 現耕作土。
- 2 暗褐色土 砂礫を含む。しまり弱い。
- 3 暗褐色土 砂礫、土器片、少量の焼土粒・炭化物を含む。
- 4 暗褐色土 砂礫、明黄褐色土小塊を多く含む。
- 5 褐色土 焼土粒、炭化物を多く含む。



第102図 34号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

35号住居跡 (PL.15・113)

位置 Do-58 床面積 9.8㎡ 主軸方位 N-14°-W 残存壁高 0.5m

重複 7住・6住→35住→5住 規模と形状 長辺3.48m、短辺3.36mの正形状を呈する。

床面 かまど前から住居中央部にかけて踏み固められた面が検出された。かまど前に灰の広がり見られる。

かまど 北壁中央やや東寄りで、袖を有するかまどが構築される。燃焼部両袖先端部には袖石が残存し、かまど前からは袖石に架けたかまど用石(砂岩加工石)が検出されている。燃焼部側壁は、一部焼土化し、かまど前にかけて炭化物まじりの焼土面が分布している。煙道部は、くり抜き式のもので、わずかに勾配をもちながら、先端部で直角に立ち上がる。煙道部側面は、比較的良好に焼け込み、焼土化している。

貯蔵穴 北東隅にあり、円形状を呈す。しっかりした掘り込みといえる。

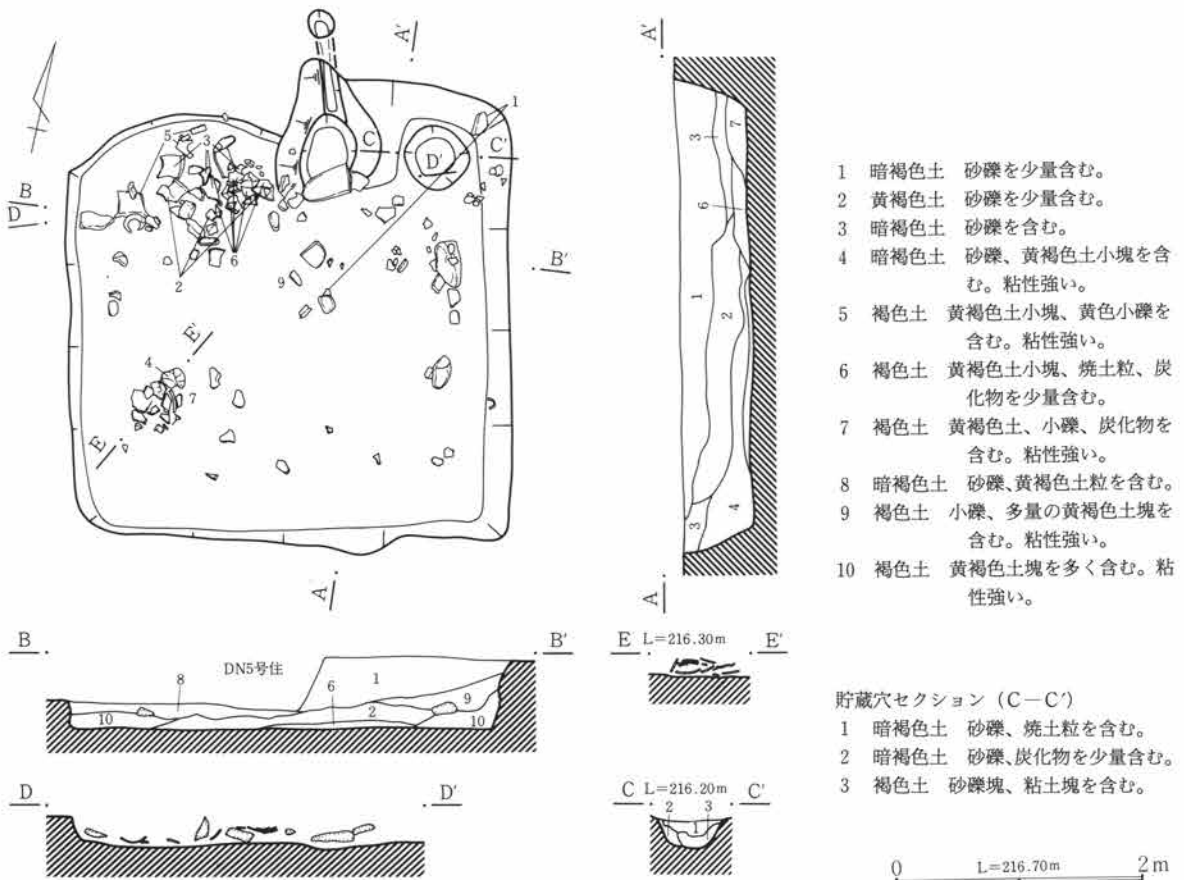
壁下周溝・柱穴 いずれも検出されなかった。

出土遺物 総計69点の土器片や少量の石製品・石材が、かまど西側や住居南西部を中心として出土している。いずれも床面着や床面付近からの出土で、土師器甕・小型甕・甑・鉢の他に、砥石が出土している。

掘り方 床面と掘り方面がほぼ一致し、床面下から遺構は検出されなかった。

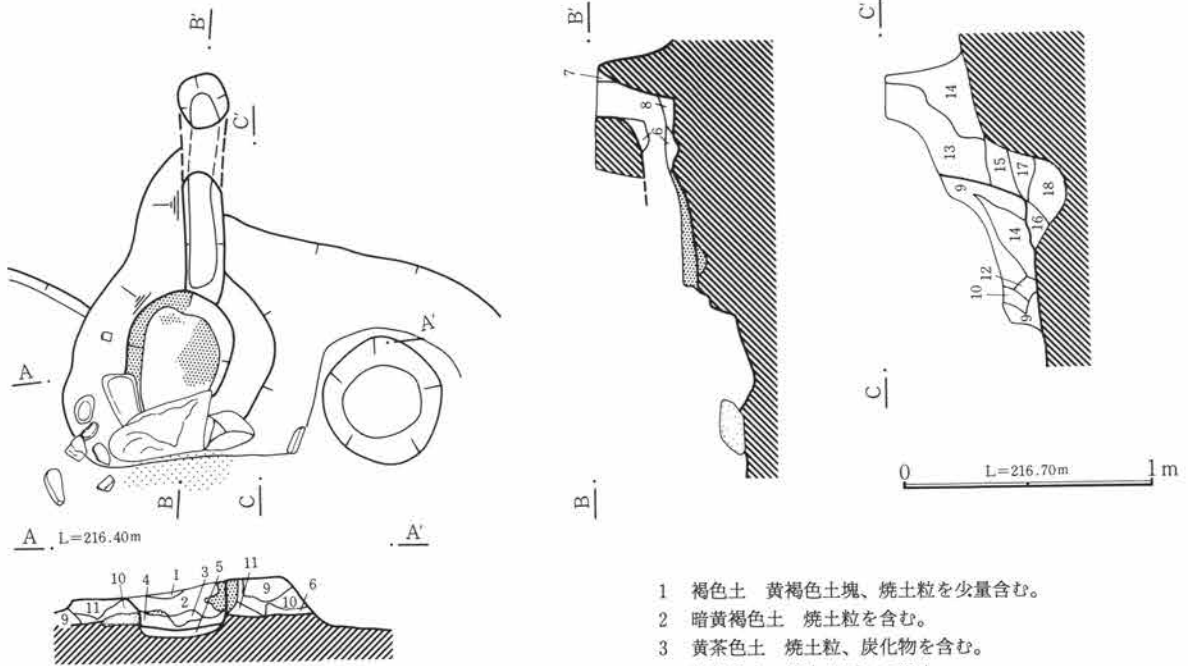
時期 出土遺物や住居形態から、7世紀代前半と考えられる。

備考 覆土中に地山黄褐色土塊を含む混土が多く見られることから人為的な埋土と考えられる。



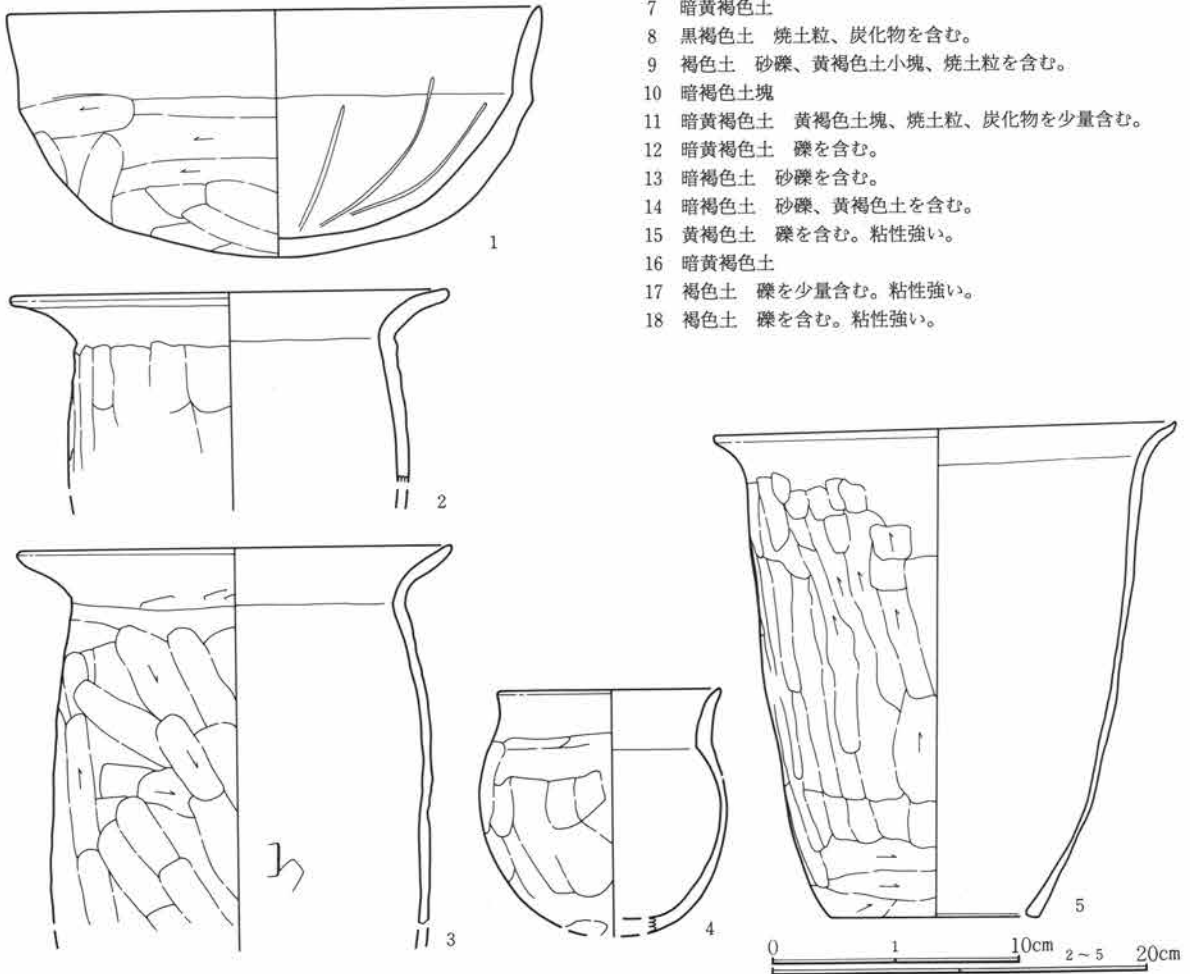
第103図 35号住居跡

第1節 竪穴住居跡

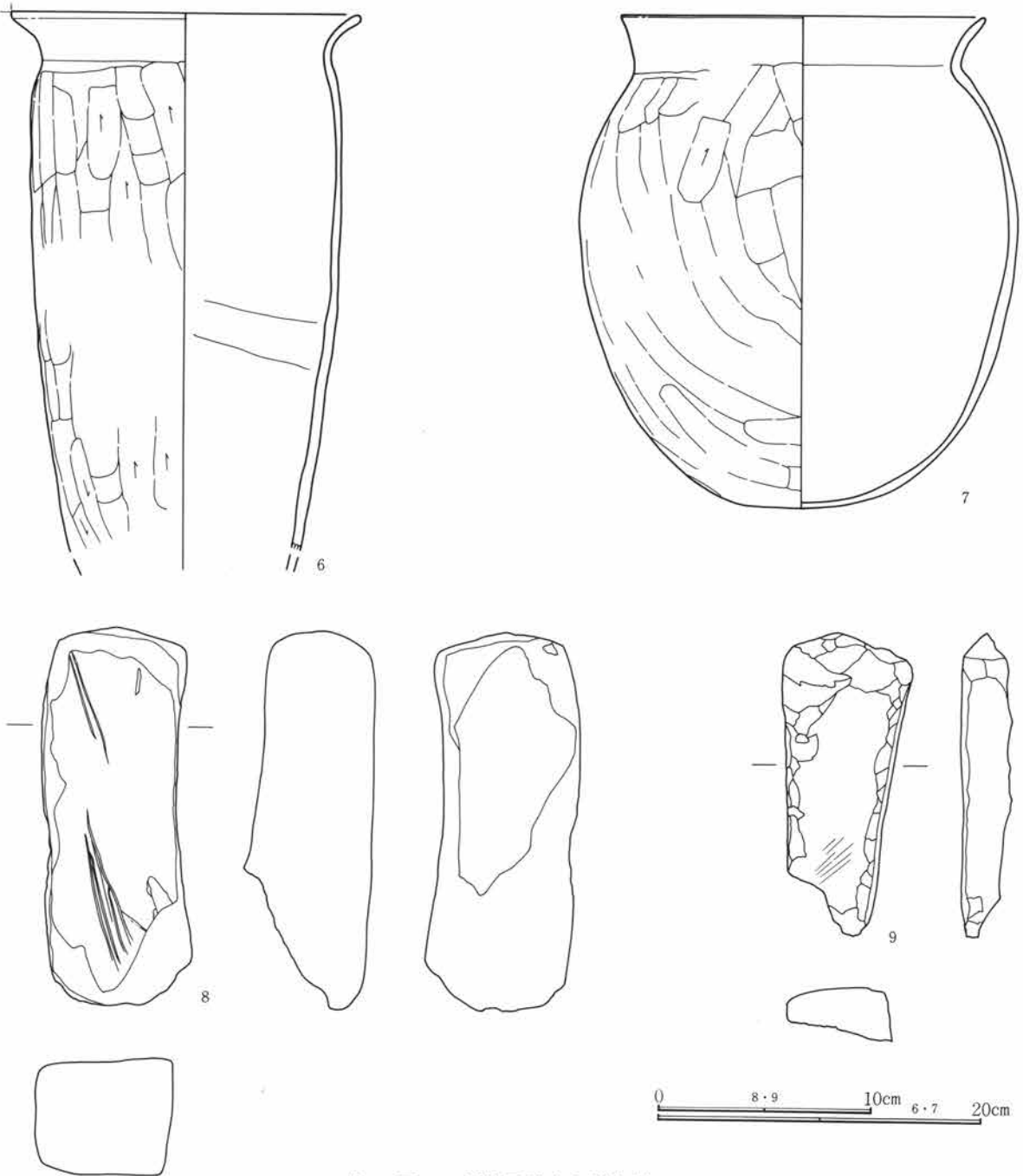


第104図 35号住居跡かまど

- 1 褐色土 黄褐色土塊、焼土粒を少量含む。
- 2 暗黄褐色土 焼土粒を含む。
- 3 黄茶色土 焼土粒、炭化物を含む。
- 4 茶褐色土 焼土と灰との混土。
- 5 茶褐色砂礫層
- 6 暗褐色土 焼土粒、砂礫を含む。
- 7 暗黄褐色土
- 8 黒褐色土 焼土粒、炭化物を含む。
- 9 褐色土 砂礫、黄褐色土小塊、焼土粒を含む。
- 10 暗褐色土塊
- 11 暗黄褐色土 黄褐色土塊、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 12 暗黄褐色土 礫を含む。
- 13 暗褐色土 砂礫を含む。
- 14 暗褐色土 砂礫、黄褐色土を含む。
- 15 黄褐色土 礫を含む。粘性強い。
- 16 暗黄褐色土
- 17 褐色土 礫を少量含む。粘性強い。
- 18 褐色土 礫を含む。粘性強い。



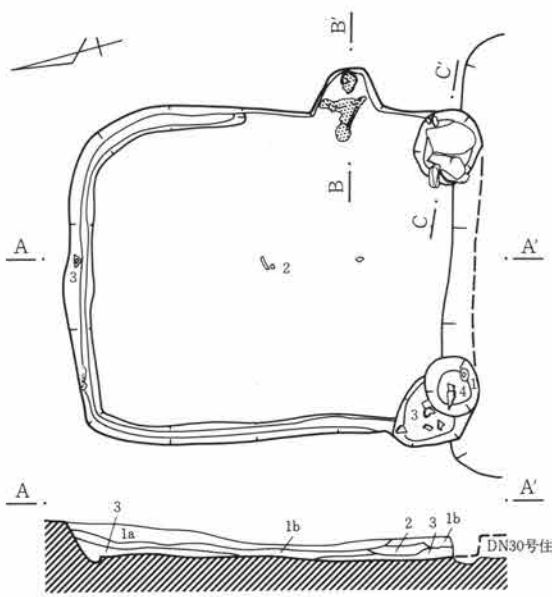
第105図 35号住居跡出土遺物(1)



第106図 35号住居跡出土遺物(2)

37号住居跡 (PL.16・114)

位置 Dn-50 床面積 7.7㎡ 主軸方位 N-117°-E 残存壁高 0.08m 重複 37住→30住  
 規模と形状 長辺3.30m、短辺2.60mのやや横長長方形を呈する。南辺部は30号住居跡に破壊される。  
 床面 小礫混じりの暗褐色土をやや踏み締めた程度あり、かまど前では焼土粒・灰の広がりが見られた。  
 かまど 東壁中央南寄りの壁を掘り込み構築される。燃焼部底面では焼土面が確認されている。  
 貯蔵穴 南東隅にあり、円形状を呈す。貯蔵穴上面には、砂岩加工石や河原石などの礫が充填されていた。  
 また、南西隅部でも貯蔵穴状のピットが検出されている。  
 壁下周溝 南辺部からかまど脇以外で確認されたが、掘り込みは極めて浅い。



第107図 37号住居跡

柱穴 検出されなかった。

出土遺物 総計38点の土器片が出土している。ロクロ成形の坏・内面黒色処理された坏が出土。

掘り方 床面下から遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、11世紀代と考えられる。

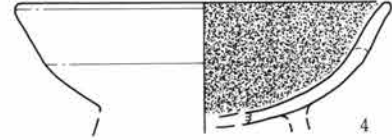
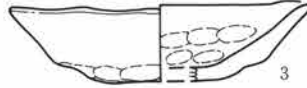
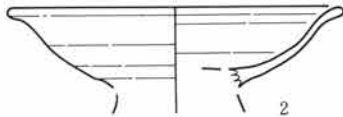
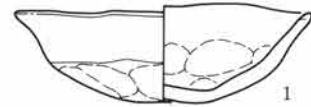
1a 暗褐色土 灰白色小礫をやや多く含む。

1b 暗褐色土 灰白色小礫はやや少ない。

2 暗茶褐色土 やや粘性あり。

3 黒褐色土 灰白色小礫を含む。 かまどセクション (B-B')  
1 暗茶褐色土 灰白色粒子を少量含む。

0 L=216.40m 2m



第108図 37号住居跡出土遺物

0 10cm

### 38号住居跡 (PL.16・114)

位置 DI-55 床面積 測定不能 主軸方位 N-3°-W 残存壁高 0.4m 重複 なし

規模と形状 住居南側の大半が調査区外のため、東西長5.30mのみが計測された。

床面 粘性の強い暗褐色土を床面に貼り込み、かたく踏み締められる。

かまど 北壁中央部に袖を有するかまどが構築される。袖は地山黄褐色土に褐色土塊の混土を貼り付けて構築しているが一部焼土塊も混じる。燃焼部側壁はやや垂直に立ち上がり、焼土化している。煙道部は、くり抜き式のものとして推定され、ほぼ水平に屋外に伸びて、直角に立ち上がるものと考えられる。煙道部では焼土塊の崩落が見られるが、顕著な焼土面は確認されていない。

貯蔵穴 北東隅付近にあり、円形状を呈す。安定した掘り込みといえる。

壁下周溝 検出されなかった。

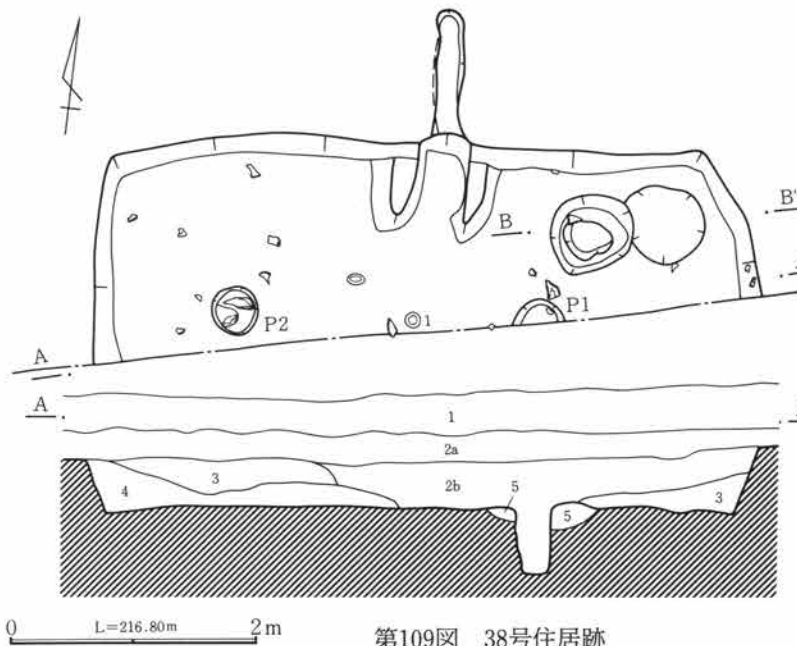
柱穴 2基の主柱穴と考えられるピットが検出されている。小ピットであるが、掘り込みは深い。

出土遺物 総計18点の土器片と少量の石片が出土している。

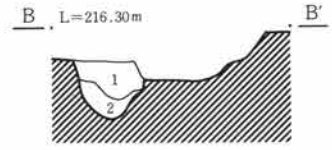
掘り方 貼り床や床面下の遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、7世紀代と考えられる。

第3章 検出された遺構と遺物



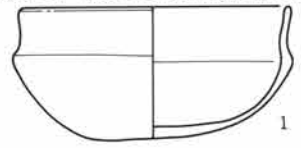
第109図 38号住居跡



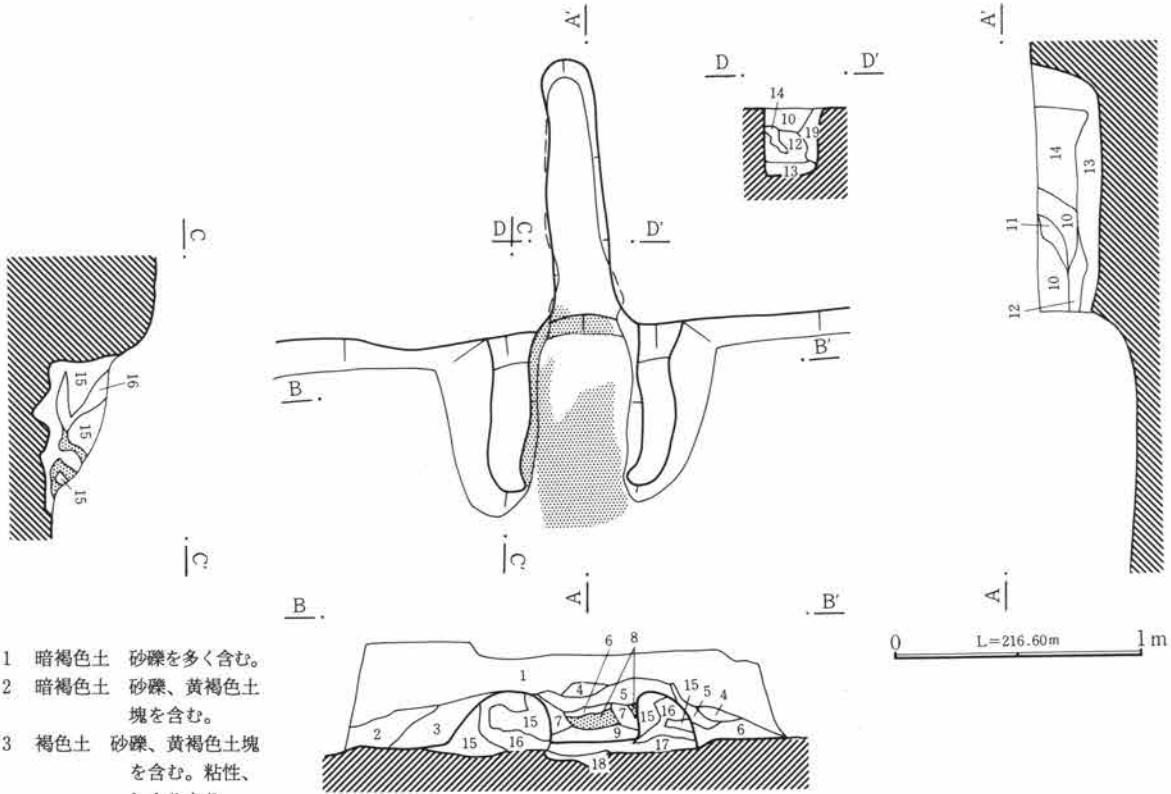
- 1 現耕作土
- 2a 暗褐色土 砂礫を多く含む。
- 2b 暗褐色土 砂礫を含む。
- 3 暗褐色土 砂礫、炭化物を含む。
- 4 灰褐色砂礫層
- 5 暗褐色土 砂礫、黄褐色土塊を含む。  
粘性、しまりあり。

貯蔵穴セクション

- 1 黒褐色土 砂礫を多く含む。
- 2 暗褐色土 細砂、黄褐色土塊を含む。



第110図 38号住居跡出土遺物



- 1 暗褐色土 砂礫を多く含む。
- 2 暗褐色土 砂礫、黄褐色土塊を含む。
- 3 褐色土 砂礫、黄褐色土塊を含む。粘性、しまりあり。
- 4 茶褐色土と暗褐色土との混土層
- 5 茶褐色土 やや焼けている。
- 6 暗褐色土 しまりなし。
- 7 暗褐色土 少量の焼土粒を含む。
- 8 黄褐色粘土塊 下部は焼土化。
- 9 暗茶褐色土 焼土粒、炭化物を含む。
- 10 暗褐色土 砂礫を含む。粘性強い。
- 11 褐色土 砂礫と黄褐色土粘土塊との混土。

- 12 褐色土 黄褐色土塊と焼土塊との混土。
- 13 暗褐色土 砂礫、少量の、焼土粒・炭化物を含む。
- 14 暗黄褐色土 粘性強い。
- 15 暗褐色土 砂礫、少量の黄褐色土塊を含む。
- 16 黄褐色土 砂粒塊を含む。
- 17 灰褐色土 砂粒、黄褐色土塊を含む。
- 18 暗黄褐色土 黄褐色土小塊、焼土粒を含む。
- 19 黄褐色土 粘性強い。

第111図 38号住居跡かまど

DN区住居跡一覧表

住居番号	住居位置	主軸方位	規模(m)			住居形状	貯蔵穴位置	柱穴有無及び本数	住居廃絶時期	備考
			長辺	短辺	深さ					
1号	Dm-57	N-84°-E	3.00	2.90	0.35	長方形	無し	無し	7世紀前半	
2号	Do-57	N-6°-E	4.00		0.20	正方形	北東隅	4本	8世紀前半	
3号	Dr-58	N-78°-E	3.60	3.34	0.30	長方形	無し	無し	7世紀代	
4号	Dm-58	N-76°-E	6.20		0.45	正方形?	南東隅	2本	7世紀前半	2号溝(新)に西半分を壊される。
5号	Do-59	N-9°-W	4.34	4.04	0.35	正方形?	北東隅	無し	8世紀後半	6・7・35号住居(古)と重複し、最も新しい。
6号	Dp-59	N-80°-E	5.20		0.30	正方形?	南東部	4本	6~7世紀	5号住居(新)・35号住居(古)と重複。
7号	Dn-58	N-70°-E	4.60		0.15	不明	不明	4本	古墳時代	5・35号住居(新)と重複。
8号	Dq-58	N-11°-W	3.86	3.80	0.30	正方形	北東隅	4本?	古墳後期	9号住居と重複。
9号	Dq-59	N-8°-E	3.95		0.25	正方形	北辺中	無し	6~7世紀	8号住居と重複。土器廃棄場所か。
10号	Dp-57	N-11°-E	4.00	3.54	0.25	正方形	北東隅	無し	7~8世紀	11号住居(古)・42号土坑(新)と重複。
11号	Dp-57	N-90°-E	2.88		0.05	不明	南東隅	無し	7~8世紀	10号住居・4号掘立(新)と重複。
12号	DI-57	N-19°-W	3.90		0.25	不明	北東隅	不明	7世紀後半	13号住居(新)と重複。
13号	Dm-56	N-8°-W	5.70	4.14	0.30	横長長方形	北西隅	4本	7世紀前半	12号住居(古)と重複。
14号	Dn-55	N-87°-W	4.26	3.65	0.28	縦長長方形	南東隅	3本?	8世紀後半	15号住居(古)・5号掘立(新)と重複。
15号	Dn-55	N-68°-W	4.62	3.66	0.30	長方形	無し	無し	古墳初頭	14号住居(新)と重複。
16号	Ds-59	N-13°-W	(3.90)	3.30	0.20	横長長方形	北東隅	無し	7世紀前半	
17号	欠番									
18号	Dt-63	N-13°-W	3.00		0.25	不明	不明	不明	7世紀代	2号溝(新)と重複。
19号	Dr-62	N-24°-W	3.00		0.30	不明	不明	不明	7世紀前半	2号溝(新)と重複。
20号	Dp-61	N-24°-W	3.60		0.25	不明	不明	不明	9世紀代	21号住居(古)と2号溝(新)と重複。
21号	Do-61	N-24°-W	5.60		0.50	不明	不明	不明	古墳後期	20号住居(新)と重複。
22号	Dn-60	N-14°-W	4.50		0.25	不明	不明	2本?	7世紀前半	2号溝(新)と重複。
23号	Dq-60	N-74°-E	3.90		0.15	不明	南東隅	1本	7世紀代	2号溝(新)と重複。
24号	Dt-52	N-118°-E	2.42	2.26	0.10	正方形	無し	無し	10世紀代	24・26号土坑(新)と重複。
25号	Dt-51	N-118°-E	2.84	2.50	0.20	横長長方形	無し	無し	10世紀代	35・36号土坑(新)と重複。
26号	Ds-51	N-102°-E	3.74	2.56	0.15	横長長方形	南東隅	無し	10世紀代	
27号	Ds-49	N-90°-E	2.70		0.20	正方形	無し	無し	10世紀代	28号住居(古)と重複。
28号	Ds-49	N-9°-E	4.88	3.60	0.25	長方形	無し	無し	10世紀代	27号住居(新)と重複。
29号	Dt-50	N-81°-E	4.80	3.30	0.45	横長長方形	南東隅	無し	10世紀代	E区8号住居(古)と重複。
30号	Dm-50	N-75°-W	3.46		0.20	不明	不明	不明	10世紀代	37号住居(古)と重複。
31号	Ds-49	N-20°-E			0.15	不明	不明	不明	11世紀代	
32号	Dq-48	N-10°-E			0.50	不明	不明	不明	9世紀代	
33号	Ds-57	N-7°-W	4.04	2.80	0.45	横長長方形	北東隅	無し	7~8世紀代	
34号	Dt-49	N-24°-E			0.20	不明	不明	不明	10世紀代	
35号	Do-58	N-14°-W	3.48	3.36	0.50	正方形	北東隅	無し	6~7世紀代	6・7(古)・5号住居(新)と重複。
36号	Dm-53	N-26°-E	5.70	4.20	0.35	長方形	無し	4本	弥生~古墳	1号溝(新)と重複。
37号	Dn-50	N-117°-E	3.30	2.60	0.08	横長長方形	南東隅	無し	11世紀代	30号住居(新)と重複。
38号	DI-55	N-3°-W	5.30		0.40	不明	北東隅	2本	7世紀代	

DN区住居竈及び炉計測値一覧表

住居番号	竈及び炉燃焼部位置	燃焼部計測値(cm)			煙道部計測値(cm)		煙道口(cm)		袖		備考
		長さ	幅	深さ	長さ	幅	高さ	角度	有無	状況	
1号	東壁住居内	60.0	39.0	42.0	61.0	18.0	26.0	41	○		
2号	北壁住居内	50.0	61.0	24.0	41.0	20.0	14.0	29	○		
3号	東壁住居内	46.0	30.0	30.0	38.0	17.0	16.0	42	○	袖石に砂岩を使用	
4号	東壁住居内	45.0	62.0	42.0	135.0	26.0	28.0	58	○	袖石及び焚口部天井に礫使用	
5号	北壁住居内	41.0	45.0	42.0	69.0	25.0	17.0	36	○		
6号	東壁住居内	62.0	33.0	40.0	104.0	26.0	22.0	45	○	袖石に砂岩を使用	作り替え竈の煙道部残る
7号	未確認										
8号	北壁住居内	58.0	40.0	36.0	103.0	27.0	17.0	28	○		
9号	北壁住居内	60.0	50.0	28.0	50.0	20.0	18.0	38	○	袖に礫と土器(甕)使用	
10号	北壁住居内	—	—	—	50.0	14.0	—	—	○	土坑により削除	火床面のみ残存
11号	東壁住居内	49.0	28.0	—	—	—	—	53	○	袖に砂岩を使用	
12号	北壁住居内	54.0	50.0	25.0	49.0	19.0	14.0	61			
13号	北壁住居外	76.0	47.0	44.0	106.0	21.0	21.0	43		炊き口部砂岩使用	竈前に砂岩の天井石散乱
14号	東壁住居内	67.0	43.0	21.0	56.0	20.0	17.0	20	○		
15号	住居内炉									地床炉?砂岩の炉石1個	火床面僅かに窪み、焼土あり
16号	北壁住居内	37.0	—	14.0	—	—	—	72	○	炊き口部天井石に砂岩使用	竈前に天井石散乱



第3章 検出された遺構と遺物

17号	欠番										
18号	北壁住居内	62.0	32.0	6.0	—	—	—	—	○		
19号	北壁壁内	80.0	48.0	15.0	—	—	—	15	○	礫により天井部補強	竈吹き口前に礫出土
20号	北壁住居内	56.0	42.0	29.0	45.0	17.0	25.0	50	○		
21号	未確認										
22号	未確認										
23号	東壁住居内	—	44.0	31.0	—	—	—	—	○	地山掘り残し?	煙道部水平方向にくり抜きか掘り込み浅い
24号	東壁住居外	33.0	—	4.0	—	—	—	—			掘り込み浅い
25号	東壁住居外	28.0	27.0	8.0	—	—	—	—			土器片散乱
26号	東壁住居外	54.0	46.0	18.0	—	—	—	—			掘り込み浅い
27号	東壁住居外	16.0	17.0	—	—	—	—	—			
28号	未確認										
29号	東壁住居外	47.0	47.0	40.0	48.0	19.0	24.0	45		炊き口部柱状砂岩使用	掘り方面直立上部焼土化顕著
30号	未確認										
31号	未確認										
32号	未確認										
33号	北壁住居内	48.0	48.0	35.0	90.0	20.0	20.0	52	○	炊き口部砂岩を使用し補強	袖貼り付け、煙道部掘り抜き
34号	未確認										
35号	北壁住居内	70.0	32.0	65.0	87.0	16.0	28.0	55	○	炊き口部礫使用、袖貼り付け 炉は短軸柱穴間、炉石に砂岩	竈前甕散乱 地床炉、焼土・灰の堆積薄い
36号	住居内炉										
37号	東壁住居外	22.0	22.0	—	—	—	—	—			
38号	北壁住居内	75.0	42.0	40.0	102.0	24.0	15.0	45	○	袖貼り付け	



第112図 DN区竪穴住居跡配置図

## 3. E区竪穴住居跡

22号住居跡 (PL. 37・125)

位置 Em-56 床面積 (15.9)m<sup>2</sup> 主軸方位 N-26°-W 残存壁高 0 m

重複 46住(古)→22住(新)

**規模と形状** 柄鏡型敷石住居跡と推定されるが、破壊が著しい。北西部の弧状の列石から推定される径4.5mの円形部分と方形状の出入口部分とからなる敷石住居跡と判断された。出入口部については、平坦な面をもつ礫の存在から推定している。また、住居中央部からは埋設土器を伴う石囲い炉が検出され、炉跡を中心に敷石用石の残欠などが散乱している。

**床面** 敷石上面の平らな部分を床面とし、比較的大ぶりの礫の間を小礫によって充填している。敷石用石は偏平な安山岩を主体としているが、わずかながら板状の砂岩や結晶片岩についても認められる。いずれにしても、残存部分が少なく詳細については不明。

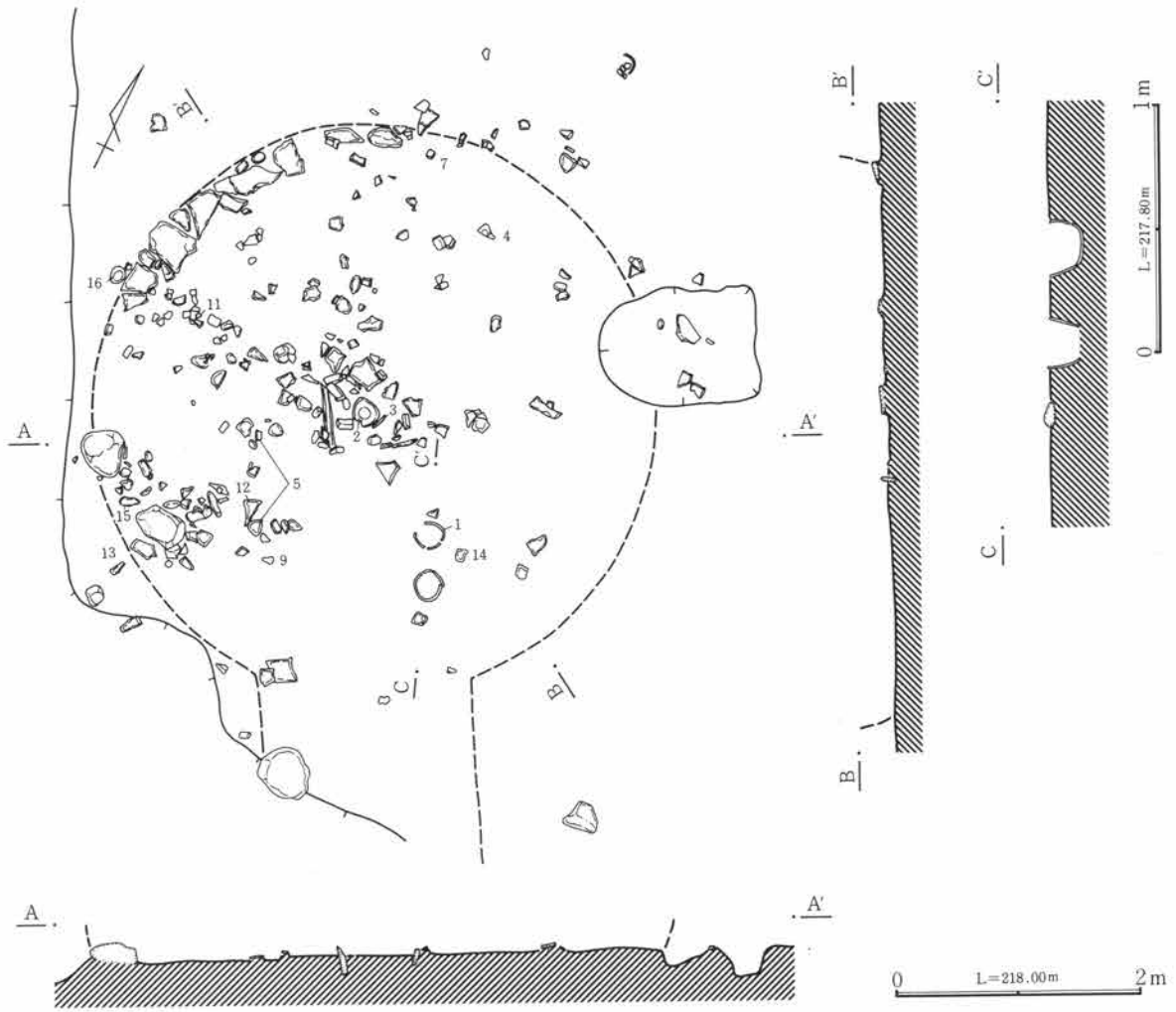
**炉跡** 炉跡の残存状況は悪く、大半が破壊されている。南側と東西の一部炉石が残存するのみである。残存部の状況から、炉跡は、板状の結晶片岩と砂岩を横位に立てて方形に組む石囲い炉と考えられる。炉中央部には2個体分の炉体土器が埋設されていた。炉体土器は、土器より若干大きめのピットに据え固定されている。また、二次焼成を相当量受けているため脆弱化していた。

**柱穴** 検出されなかった。

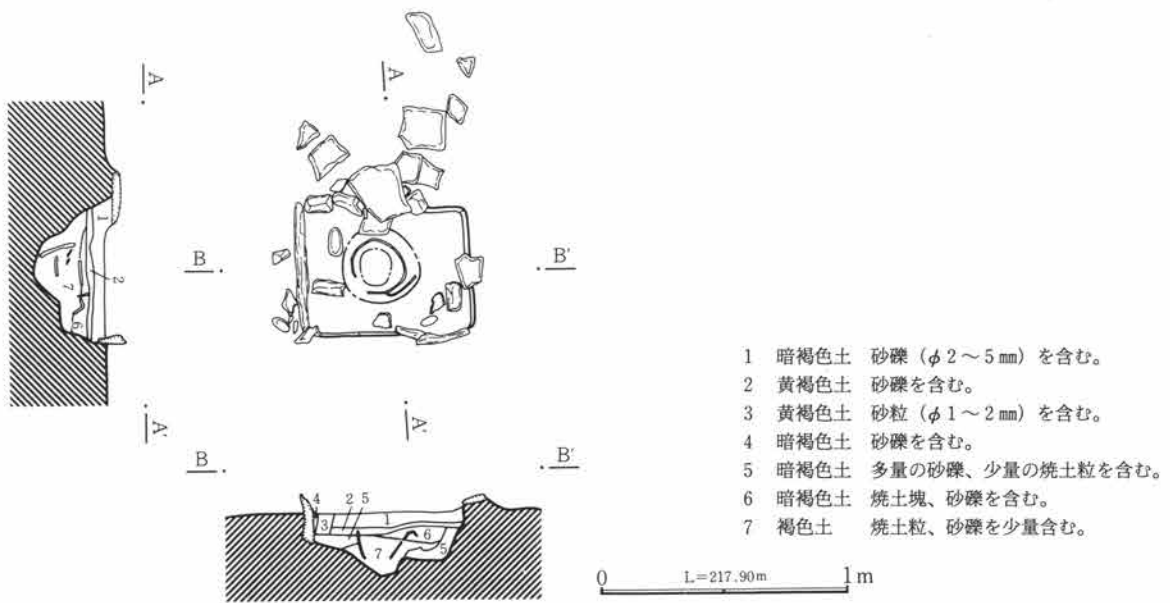
**出土遺物** 総計61点の土器片と17点の石器・石材の他に、覆土中からも土器・石器片が出土している。これらのうち、炉体土器と炉の南東部分から出土の2基の埋設土器が注目されよう。埋設土器は、いずれも強い二次焼成を受け脆弱化していた。このため、南側の埋設土器については、遺物取りあげ後の不手際も手伝って図示することができなかった。これら以外では、土器片類をはじめ石器類として、打製石斧・くぼみ石・磨石などが覆土中や床面付近から出土している。また、本住居跡北に接して中期土器片(第115図10)が比較的まとまって出土したが、本住居跡に伴うものではない。おそらく本住居跡に壊された中期遺構(土坑など)が存在したのであろう。図示し整理しておく。

**時期** 出土土器などから、本住居跡は縄文時代後期堀之内2式平行期と考えられるが、重複する46号住居跡の構築時期に極めて近接した時期の構築と考えられる。

**備考** 本住居跡の下位から46号住居跡が検出されている。

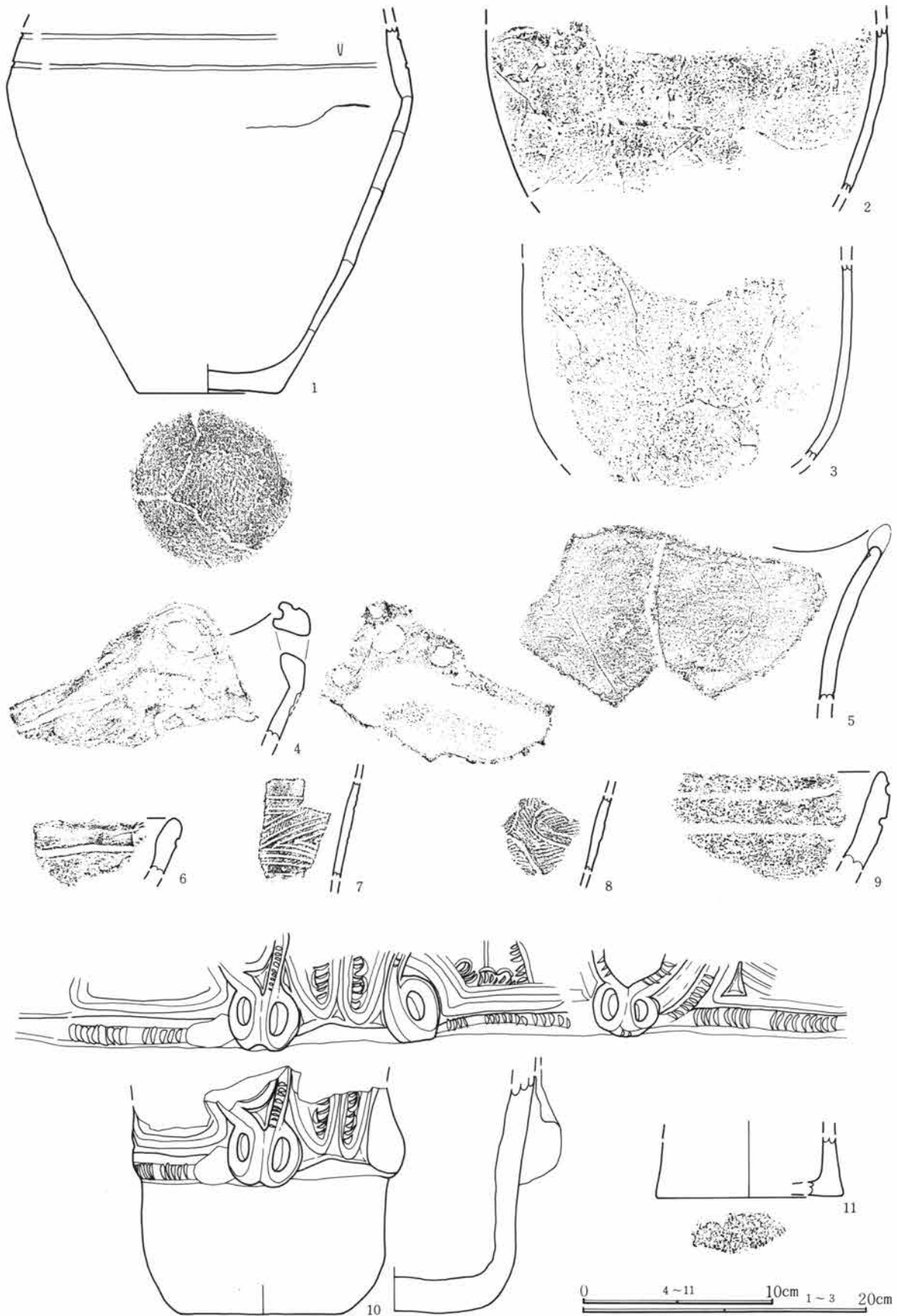


第113図 22号住居跡



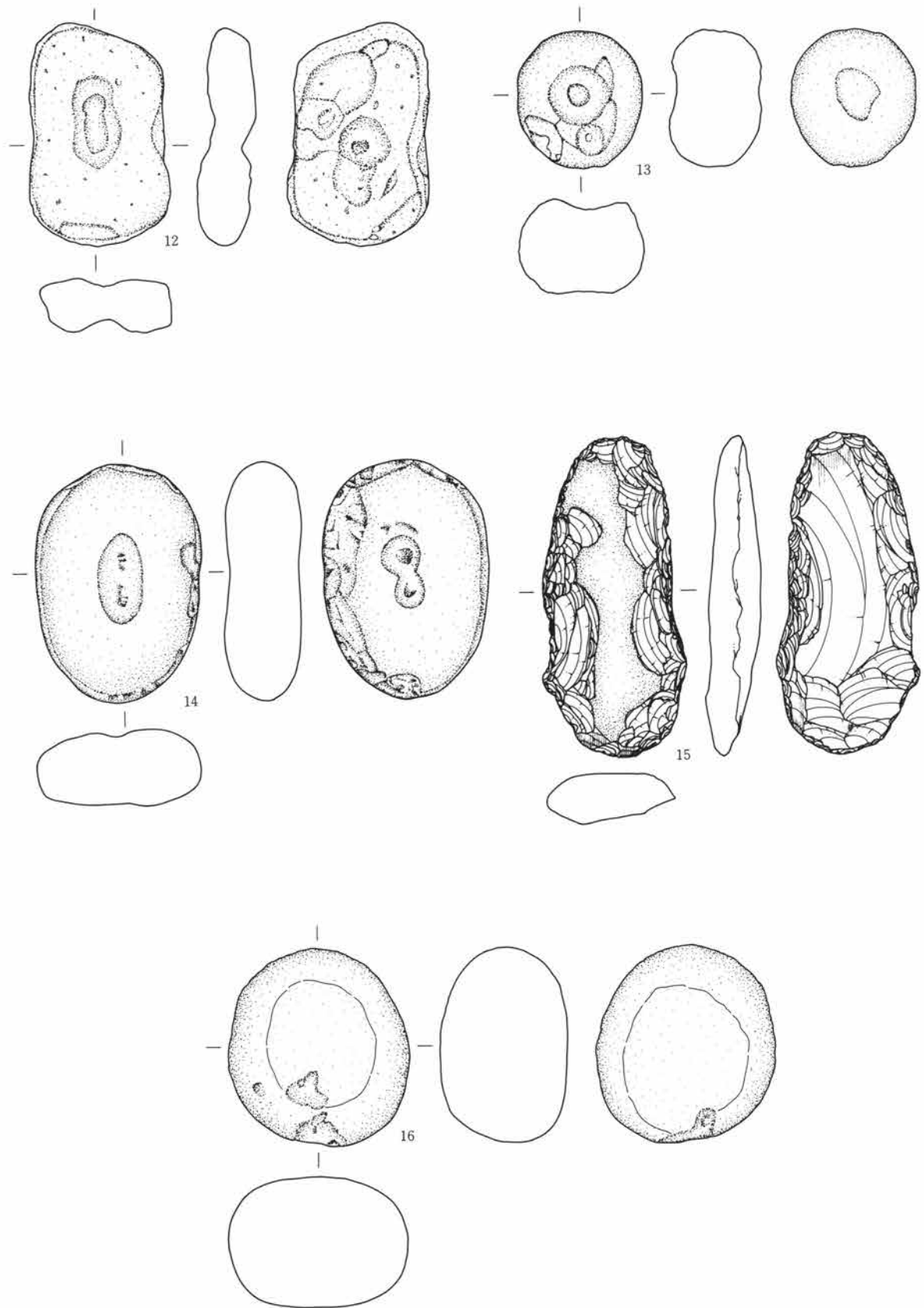
- 1 暗褐色土 砂礫 (φ 2 ~ 5mm) を含む。
- 2 黄褐色土 砂礫を含む。
- 3 黄褐色土 砂粒 (φ 1 ~ 2mm) を含む。
- 4 暗褐色土 砂礫を含む。
- 5 暗褐色土 多量の砂礫、少量の焼土粒を含む。
- 6 暗褐色土 焼土塊、砂礫を含む。
- 7 褐色土 焼土粒、砂礫を少量含む。

第114図 22号住居跡 炉



第115図 22号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



0 10cm

第116図 22号住居跡出土遺物(2)

46号住居跡 (PL.38・125・126)

位置 Em-56 床面積 (10.6)m<sup>2</sup> 主軸方位 不明 残存壁高 0m

重複 46住(古)→22住(新)

規模と形状 住居北側部分で弧を描く石列が検出されたことから、径3.7m程の円形状プランを呈した敷石住居跡と認定されている。住居中央部には、炉跡と考えられる埋設土器を伴う掘り込みが検出されている。柄鏡型敷石住居跡の可能性が高いが、出入口部の認定には困難を伴う。

床面 安山岩もしくは砂岩(板状)の平坦面を床面としている。敷石は比較的大振りの礫の間を小礫で充填しているようだが、あまりにも残存部が少なく詳細は不明。

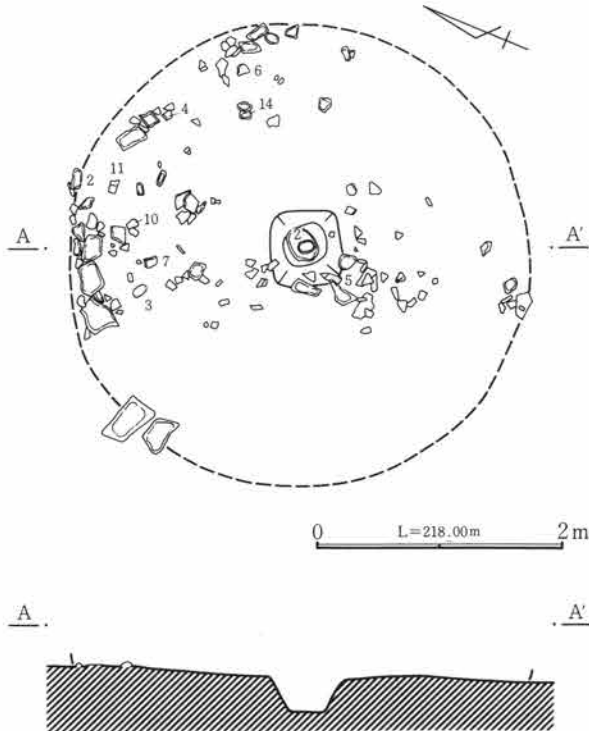
炉跡 径0.56mの円形プランを呈する土坑状の掘り込み内から、焼土塊などとともに重ね合わせた2個の炉体土器が検出されている。炉跡付近からは、炉石と考えられる用石が認められることから、方形の石囲い炉の可能性が高い。炉体土器は、内側のものが底部から頸部付近まで残存し、外側のものは胴部のみが残存していた。

柱穴 検出されなかった。

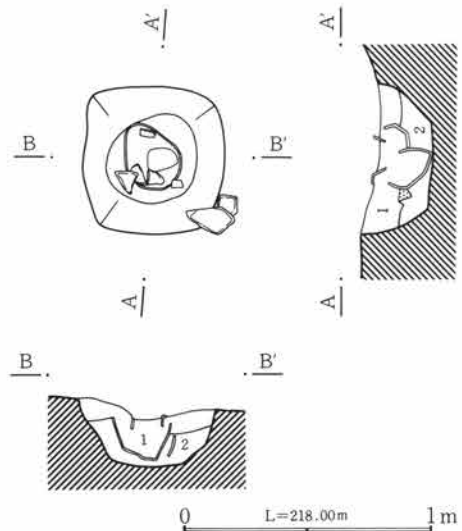
出土遺物 出土遺物は少なく、総計26点の土器・石器片が出土したにすぎない。炉体土器のほかには、石器類としてくぼみ石や打製石斧が出土している。他の土器片類とともに図示し、整理しておきたい。

時期 出土土器から、縄文時代後期堀之内1式平行期に比定され、22号住居跡に先行して構築されたものと考えられる。

備考 本住居跡は22号住居跡の直下であり、構築時期も近接している。

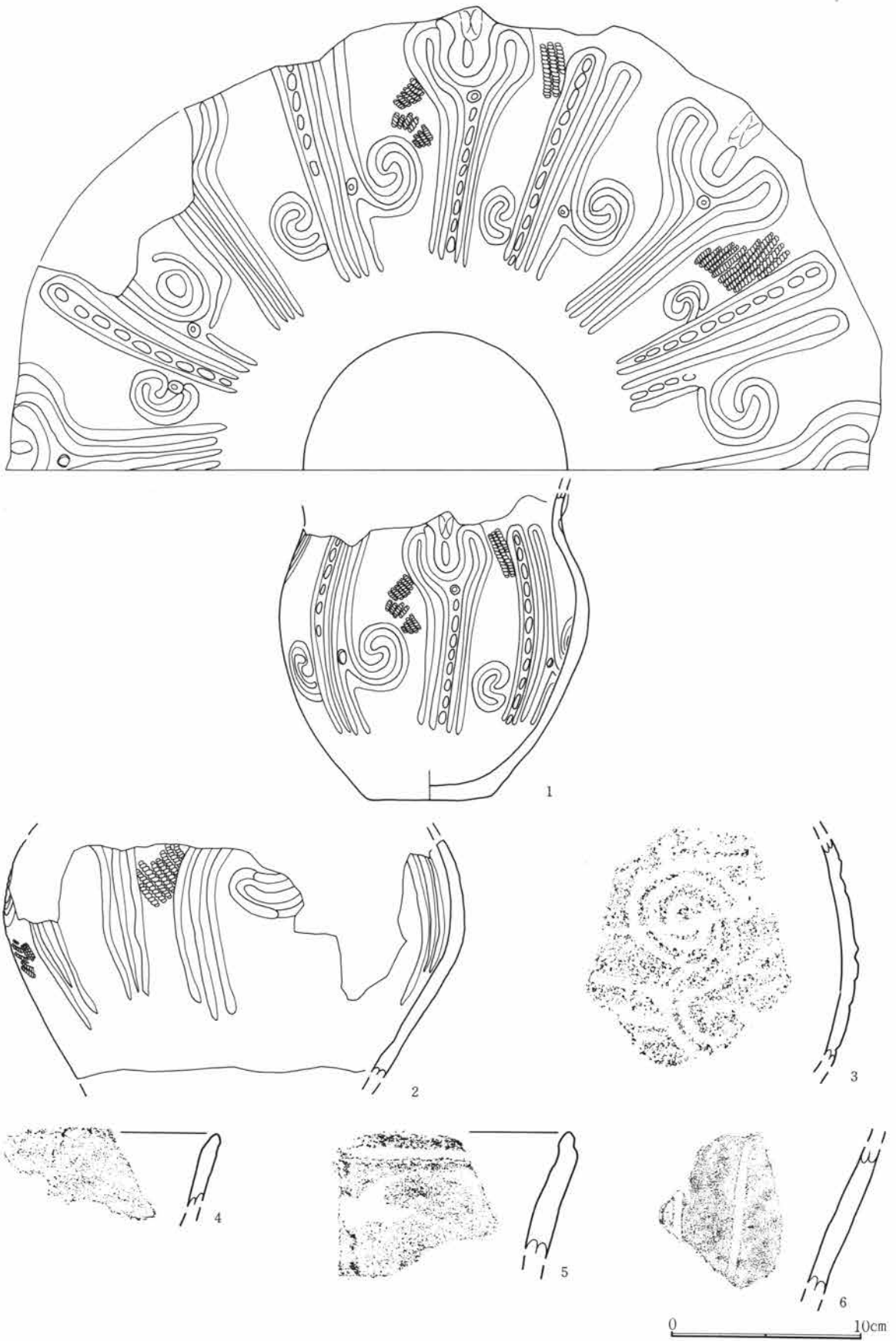


第117図 46号住居跡



- 1 暗褐色土 黄色粒、焼土粒を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや多量の焼土塊、少量の黄色粒を含む。

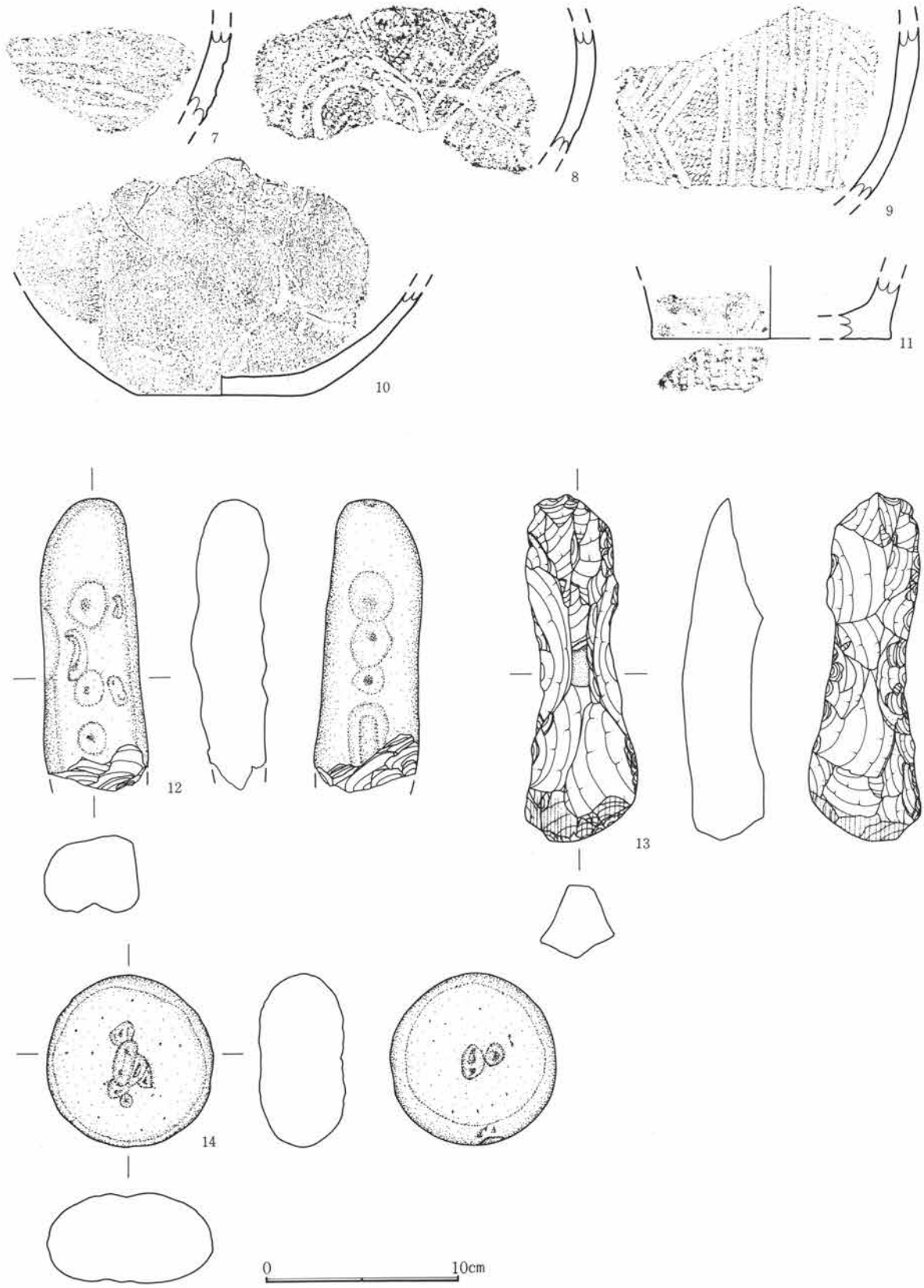
第118図 46号住居跡 炉



第119図 46号住居跡出土遺物(1)

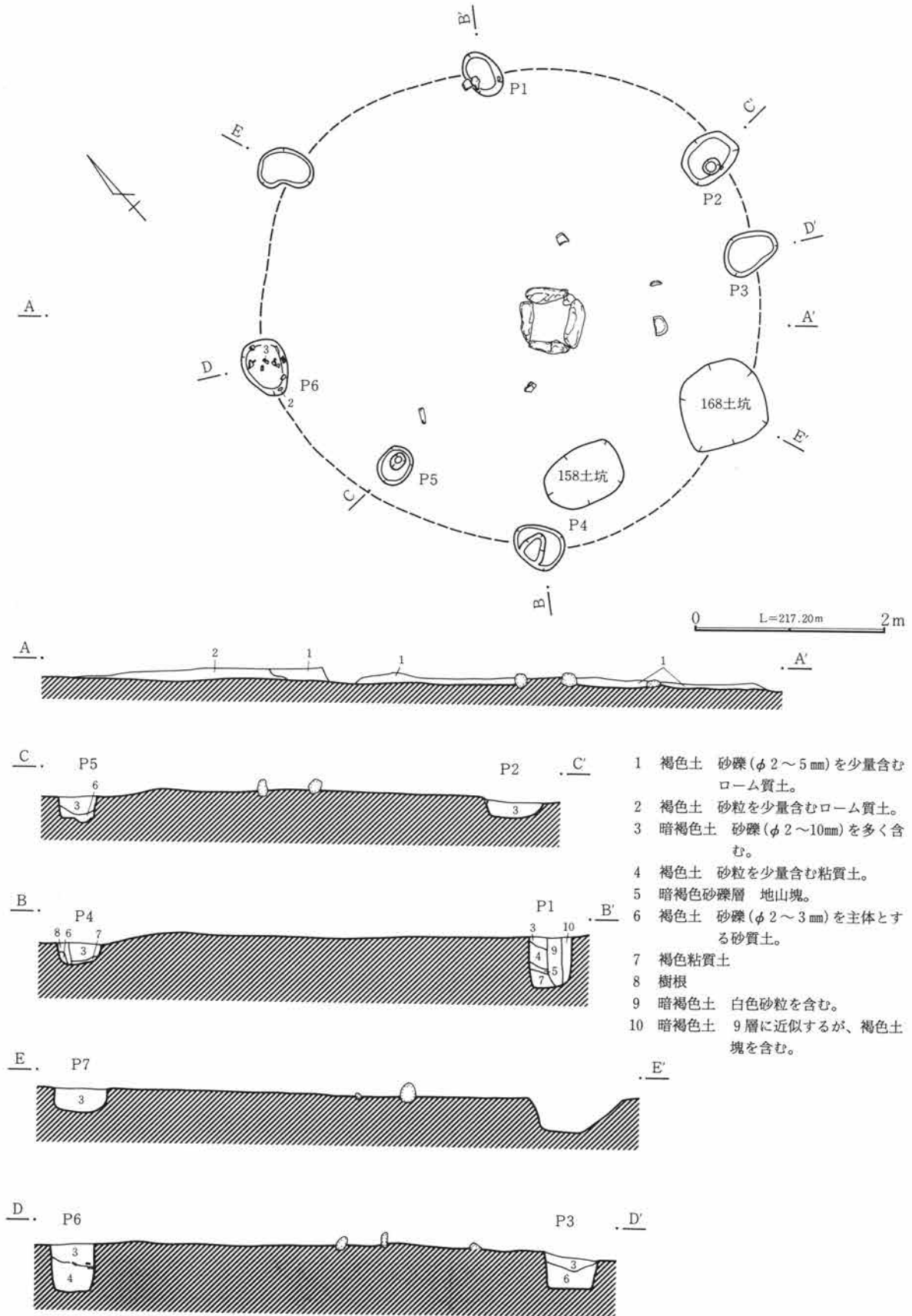


第1節 竪穴住居跡



第120図 46号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



第121図 47号住居跡

47号住居跡 (PL.38・39・126)

位置 Ed-57 床面積 (20.0)m<sup>2</sup> 主軸方位 不明 残存壁高 0m 重複 なし

規模と形状 周壁が残存しないため、柱穴間の距離などから、長軸長(5.7)m、短軸長(5.3)mの長円状のプランと推定される。住居中央部よりやや南側に石囲い炉が検出されている。

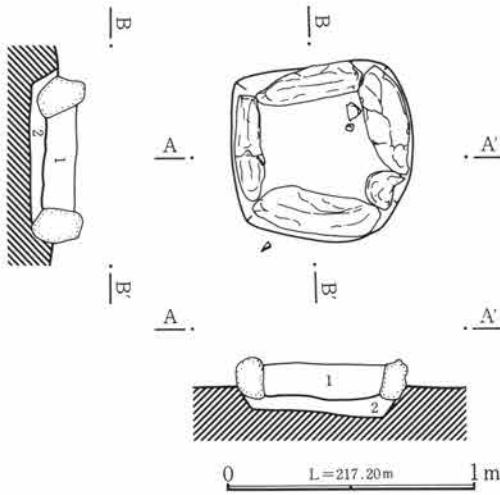
床面 表土掘削時には床面や炉跡が露呈していたため、床面の認定には困難を極めた。炉跡の水準的位置や柱穴の確認面からおおよその面を確認しているにすぎない。

炉跡 細長い大振りの河原石4個を方形に組み、コーナー部の隙間を小ぶりの礫で充填する石囲い炉で、炉床面は床面レベルよりやや下がっている。焼土面などは認められないが、炉の覆土中には焼土粒子が混入する。炉石はよく焼け込み、表面が熱のため剥離している。石材は、安山岩3、ハンレイ岩1、輝緑岩1で構成される。

柱穴 総計7基の柱穴と考えられる小ピットが検出されたが、168号土坑付近にもう1基の存在が想定できるため、合計8基の柱穴が伴うものと考えられる。柱穴は径0.3~0.5m内外の長円形状を呈すが、規模・形状ともに規則性が乏しい。

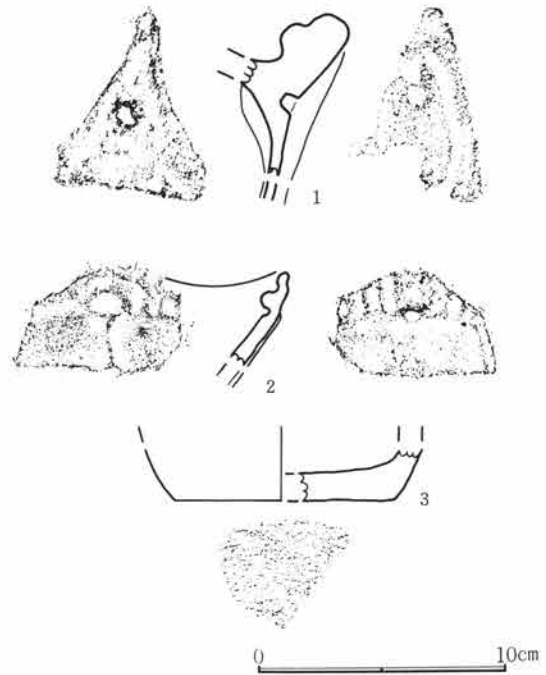
出土遺物 出土遺物は少なく、総計15点の土器片と13点の石器片・石材が出土しているにすぎない。柱穴内や覆土中から土器片類が出土している。波状口縁の把手部と底部片を図示し整理しておく。

時期 出土遺物が少なくその時期認定は難しいが、出土遺物は縄文時代後期の所産とすることができる。



- 1 暗褐色土 砂粒、焼土粒を少量含む。しまりあり。
- 2 褐色土 砂礫、多量の焼土粒を含む。

第122図 47号住居跡 炉



第123図 47号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

50号住居跡 (PL. 39・40・126)

位置 Ea-55 床面積 (12.2)m<sup>2</sup> 主軸方位 不明 残存壁高 0.15m

重複 50住(古)→1号井戸(新)

規模と形状 長軸長4.35m、短軸長3.5mの東西に長い長円状のプランを呈し、住居中央部に石囲い炉が築かれたものと考えられる。井戸やその後の攪乱によって、破壊された部分が多いが、周壁は重複部を除いて比較的良好に確認できた。

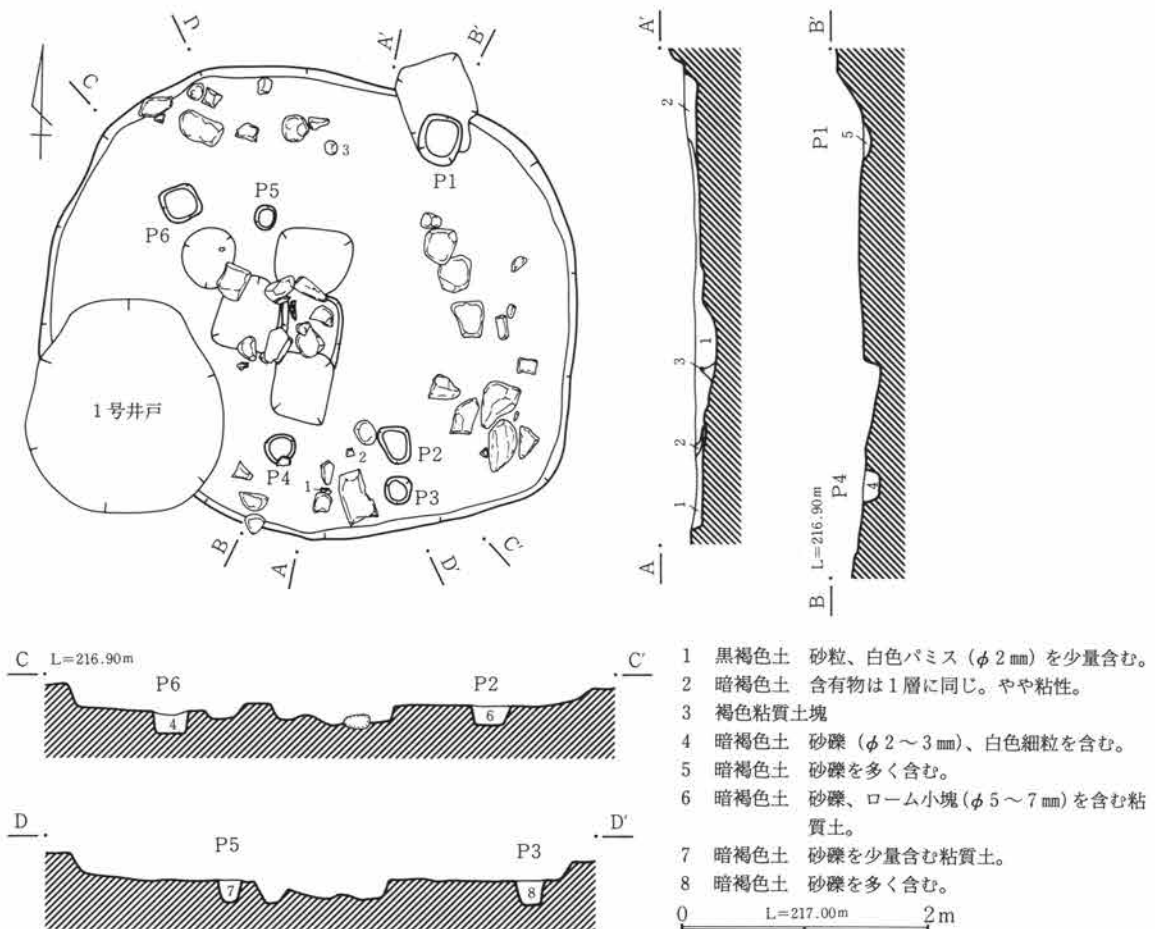
床面 覆土と床面との色調差が顕著でなく、かたく踏み締められた部分も認められないため、床面の確認にはわずかな固さの違いを認定の基礎にしている。床面は中央部がやや下がる傾向にある。

炉跡 炉跡は後世の攪乱によって、その大半が破壊され、原位置を保っている炉石は北側の2個にすぎない。付近に散在する礫は、火を受けた痕跡が認められることから、炉石と判断される。こうした炉石の残存状況から、本住居跡の炉は方形状を呈した石囲い炉と考えられる。

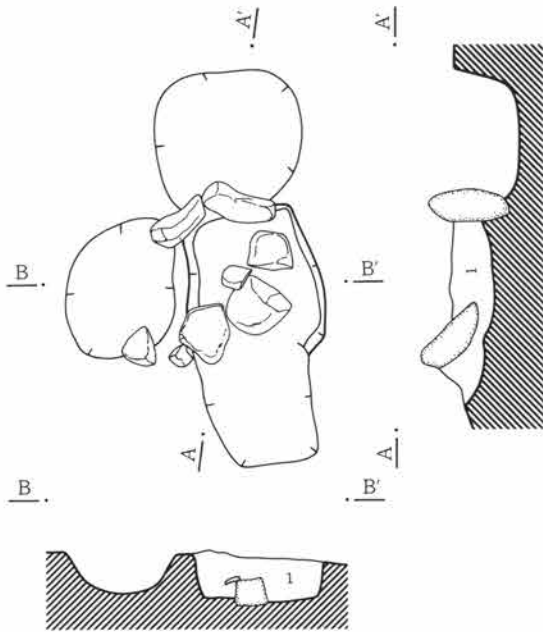
柱穴 検出されたいくつかの小ピットは、いずれも浅く掘り込まれたもので、位置や規模・形状に規則性が認められない。

出土遺物 出土土器は極めて少なく、2点の土器片と43点(炉石を含む)の石材・石器片が出土している。深鉢胴部片2点と石器類として磨石を図示し整理しておく。

時期 出土土器は、縄文時代後期の所産とすることができよう。



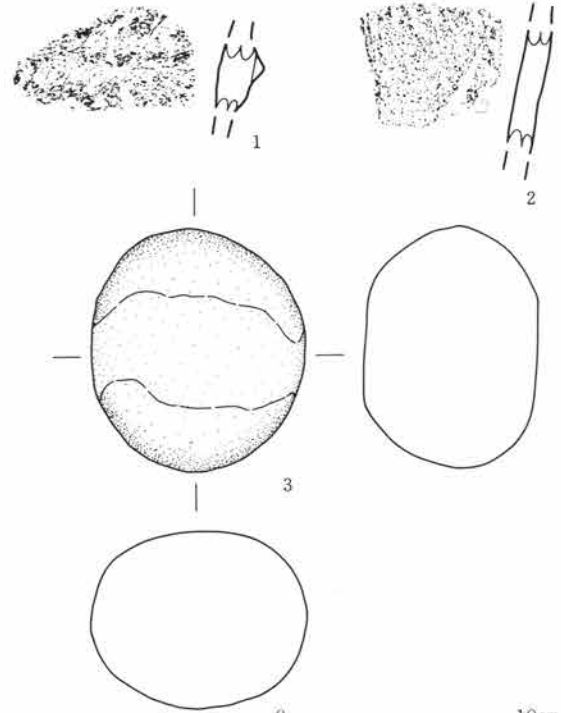
第124図 50号住居跡



(炉)  
1 黒褐色土 焼土粒を少量含む。やや粘性。

0 L=216.90m 1m

第125図 50号住居跡 炉



第126図 50号住居跡出土遺物

53号住居跡 (PL. 40・41・126)

位置 Ef-55 床面積 (24.8)m<sup>2</sup> 主軸方位 N-37°-E 残存壁高 0.08m

重複 59住(古)→53住→58住→72住(新)

**規模と形状** 長軸長6.46m、短軸長5.0mの小判型の長円状を呈すと推定され、住居中央部のやや北側に炉が築かれている。周壁は西辺部と東辺部の一部が重複等によって破壊されるが、柱穴や残存壁から概ねのプランが推定される。

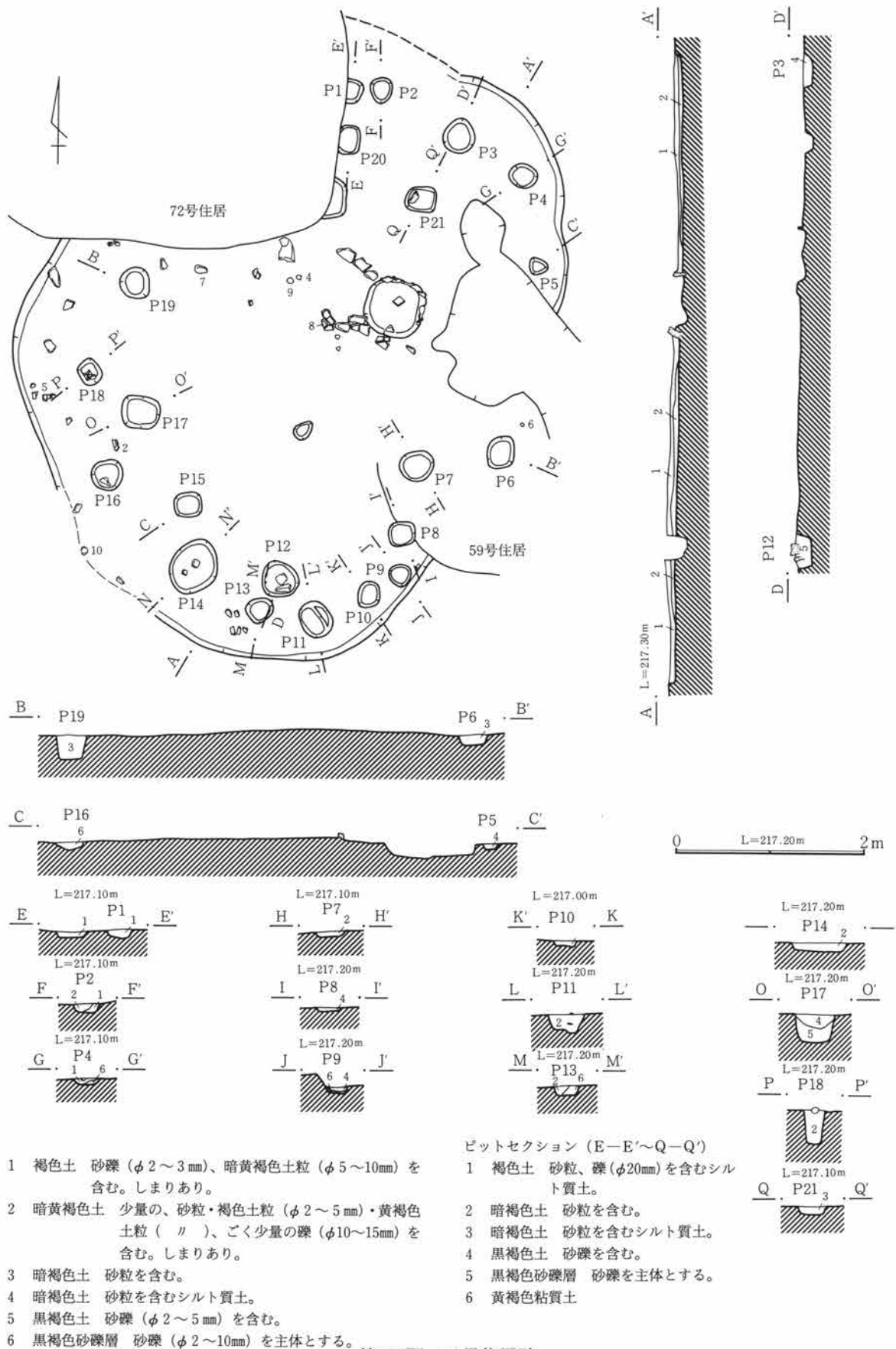
**床面** 残存する床面部は、比較的良好な平坦面を形成する。砂礫まじりのシルト質土(暗褐色土)を床面とするが、かたく踏み締められた痕跡は認められなかった。

**炉跡** 方形の石囲い内に焼土面を有する炉本体部と、「ハ」の字状に開く石列が伴う部分とによって構成される。炉本体部分は、板状の炉石を横位に立てて囲う構造と思われ、中央部がレンガ化するほど焼き込まれていた。焼土部分の周囲には、浅いピット状のものが認められ、炉石が抜き取られたものと判断された。このことから、本体部分については二重に炉石がめぐると考えられる。「ハ」の字状に開く取り付け部分は、焼土面も認められず、板状の用石を並べたもので、付属施設的な要素が高い。炉石は砂岩を主体とし、安山岩や結晶片岩なども認められた。

**柱穴** 確認されたピットは23基あり、いずれも浅く掘り込まれたもので、径0.2~0.5mが計測される。全体的には、径0.3m内外の小ぶりなものが多い。柱穴の配列を考えると、第128図のように数パターンの配置が想定されるが、これらのうちから断定することはむずかしく、提示するにとどめておきたい。

**出土遺物** 出土遺物は少なく、総計17点の土器片と51点の石器片・石材(炉石を含む)が出土している。炉跡付近と床面付近を中心に深鉢形土器片類や石器類としてくぼみ石・磨石などがあり、図示し整理しておきたい。

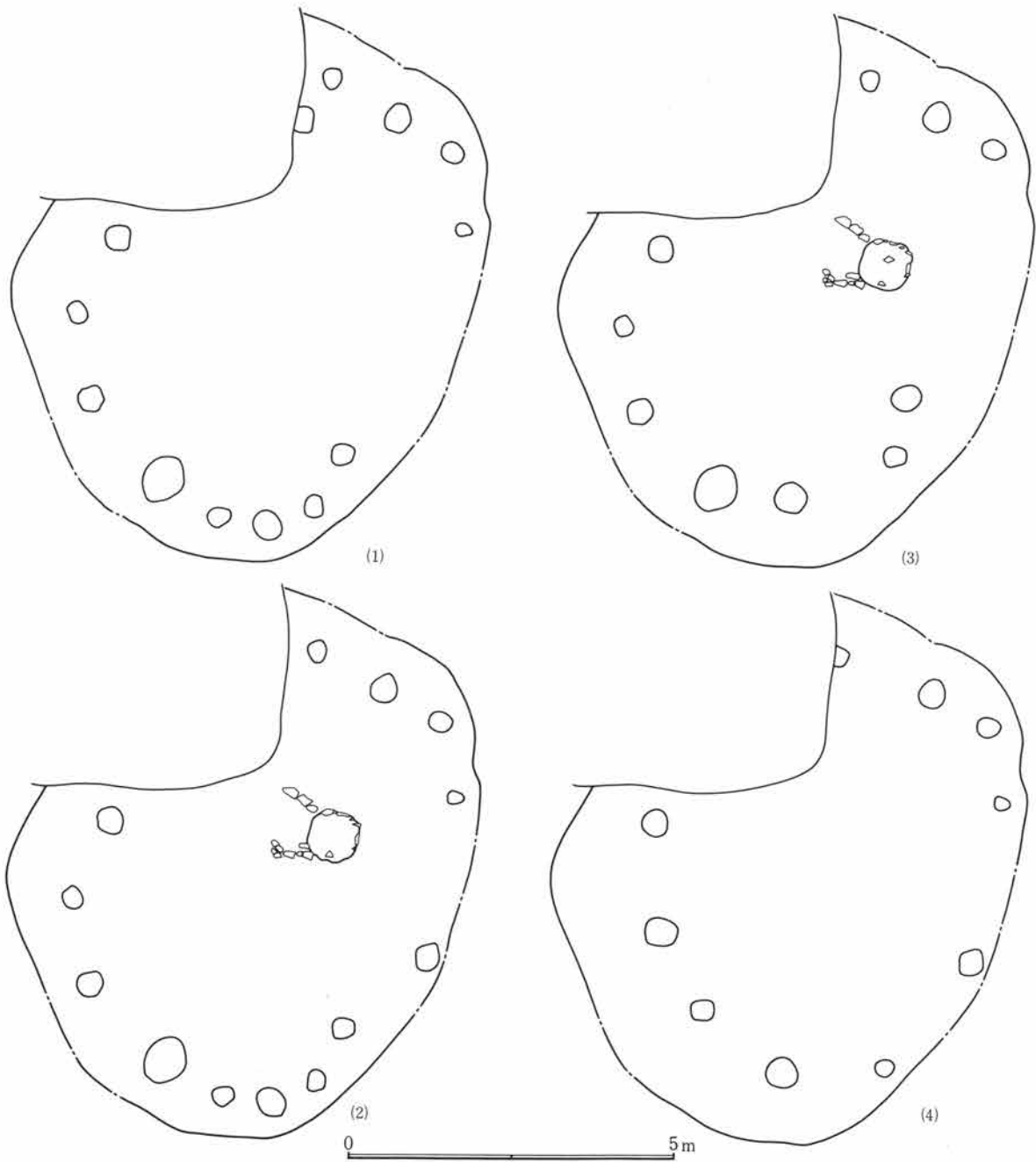
第3章 検出された遺構と遺物



第127図 53号住居跡

**時期** 出土遺物から、縄文時代後期掘之内2式平行期の所産と考えられる。

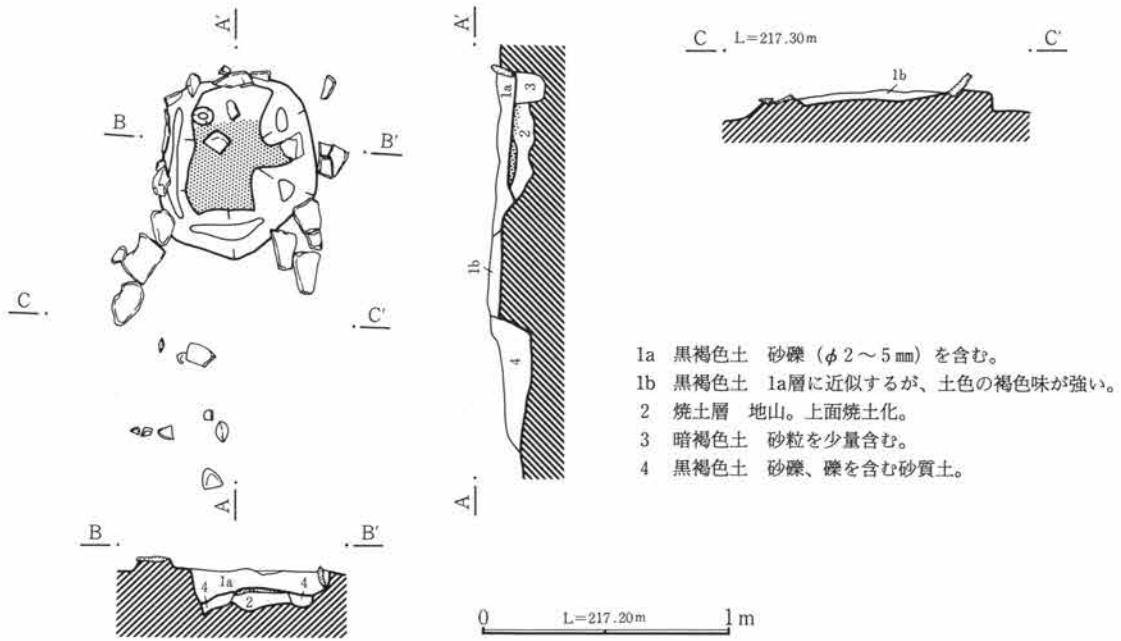
**備考** 本住居跡と重複する住居跡のうち、58・72号住居跡は構築時期が掘之内2式平行期であり、極めて近接した構築といえる。



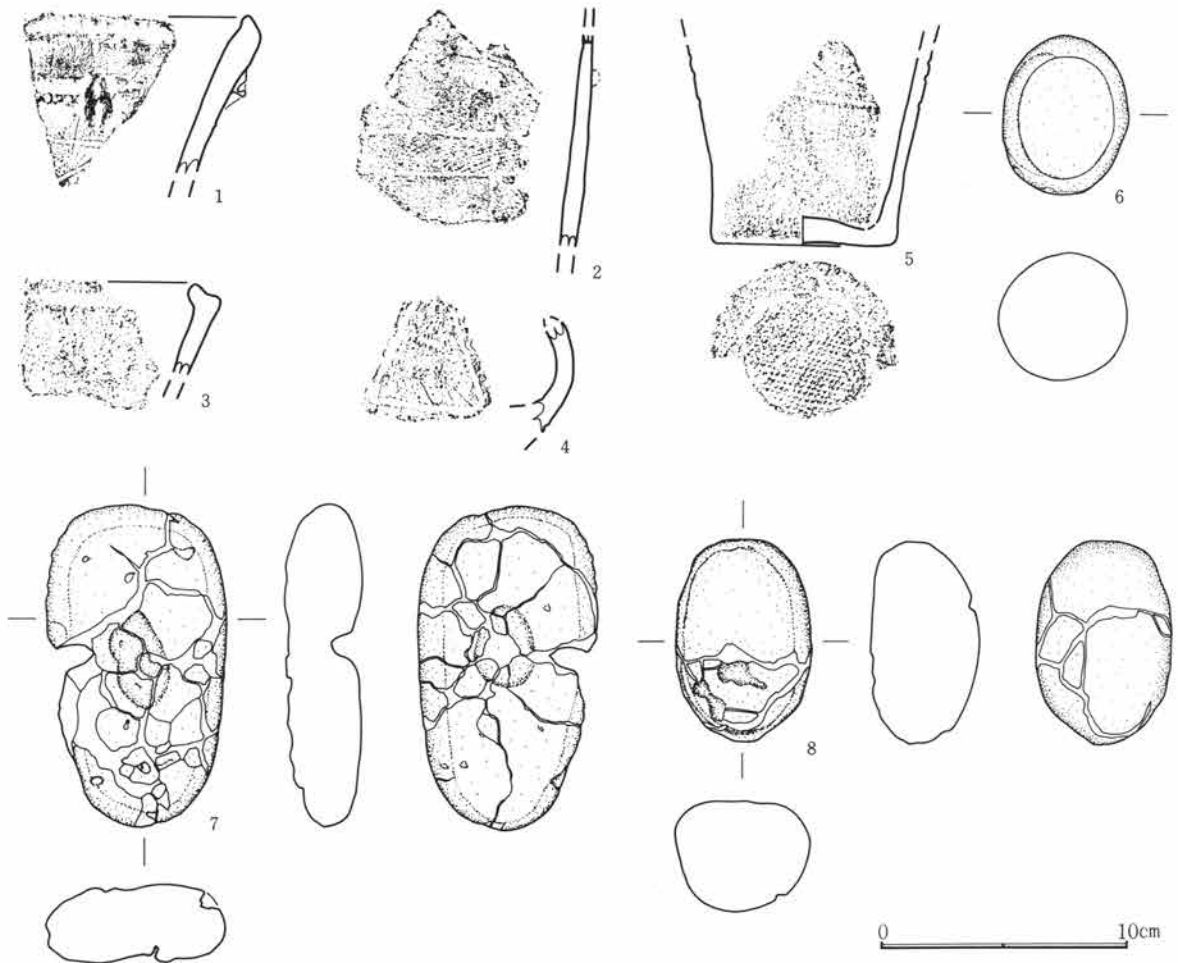
第128図 53号住居跡 建替え柱穴配置図



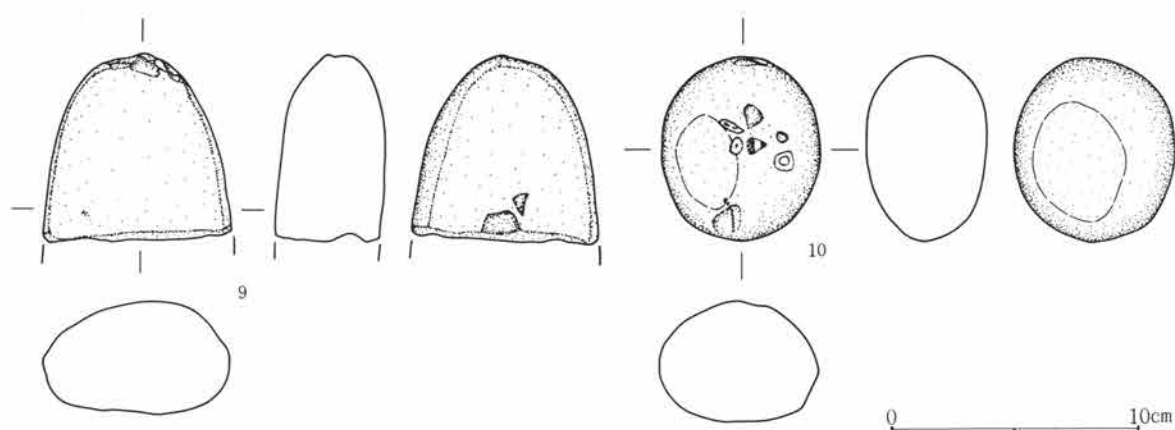
第3章 検出された遺構と遺物



第129図 53号住居跡 炉



第130図 53号住居跡出土遺物(1)



第131図 53号住居跡出土遺物(2)

## 54号住居跡 (PL, 41)

位置 Ec-54 床面積 (25.8)m<sup>2</sup> 主軸方位 不明 残存壁高 0.1m

重複 54住(古)→35・51・44住(新)

**規模と形状** 長軸長6.3m、短軸長(5.0)mの東西に長い長円状のプランを呈し、炉跡は住居中央部よりやや南側から検出している。耕作土除去後には、炉跡は露出し、掘削が床面付近まで達しており、覆土との色調差も鮮明でないためプランの確認作業は困難を極めた。周壁は、重複部を除いて比較的良好に残存していた。  
**床面** 床面は、覆土との色調差やかたく踏み締められるなどの顕著な傾向が確認されないため、炉跡の水準的位置やピットの確認面などから概ね認定されている。

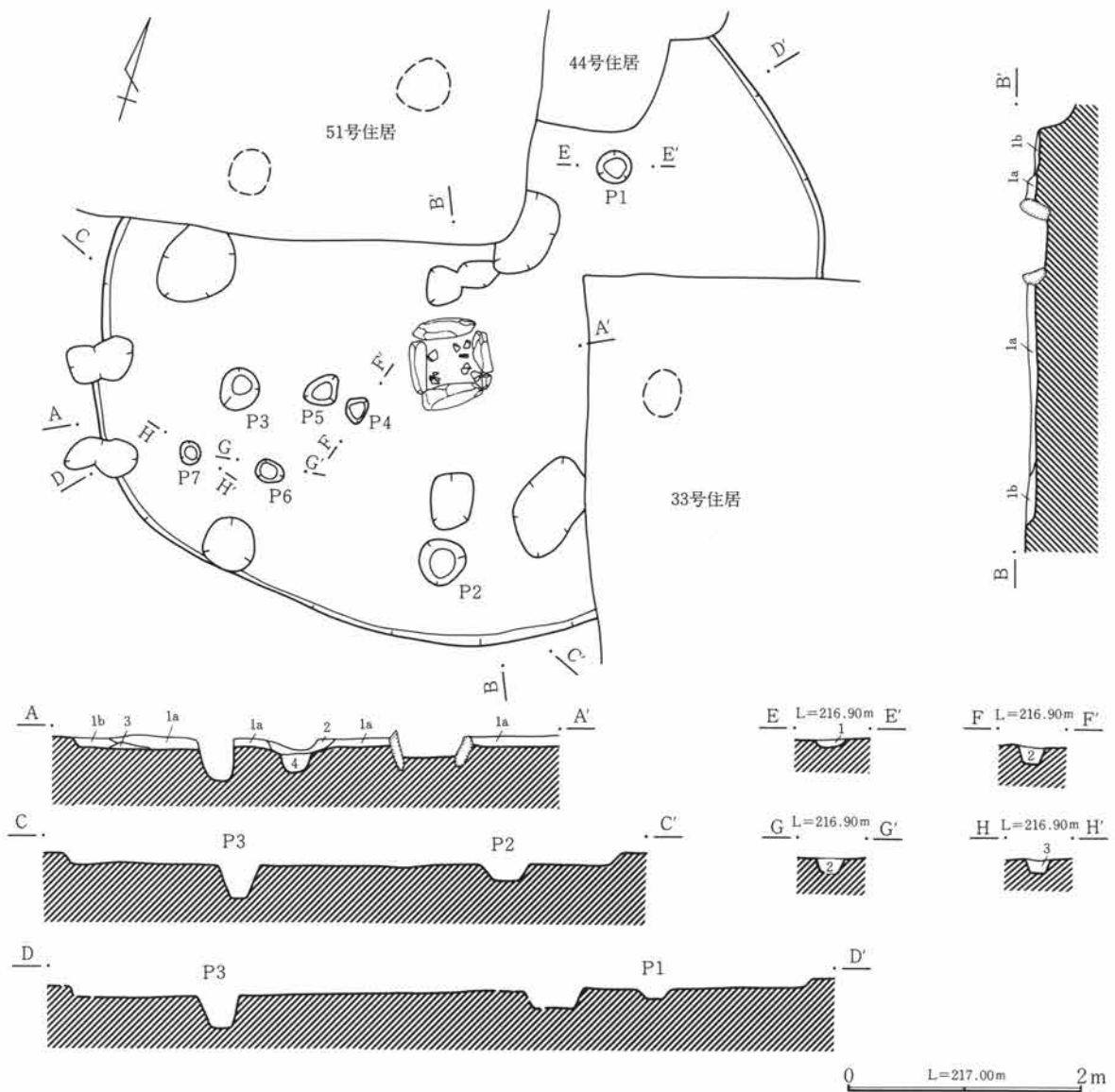
**炉跡** 炉跡の残存状況は比較的良好で、偏平で細長い河原石を組んだ方形の石囲い炉で、大ぶりの4個の炉石の隙間に小礫が充填されている。炉床面には焼土面が認められ、炉石の剝落片(熱によって石の表面が薄く剝落)なども検出している。炉石はいずれも安山岩で、火熱をよく受けているため変質している。炉の掘り方は、炉石の外形とほぼ一致している。

**柱穴** 柱穴と断定し得るピットは、重複などがあって定かでないが、幾つか検出されたピットのうち、位置や規模・形状などから3基の支柱穴が推定される。いずれも径0.3~0.4mの円形状を呈し、深さ0.15~0.3mが計測できる。炉跡の南西部からは、4基の小ピットが検出されたが、性格については不明。

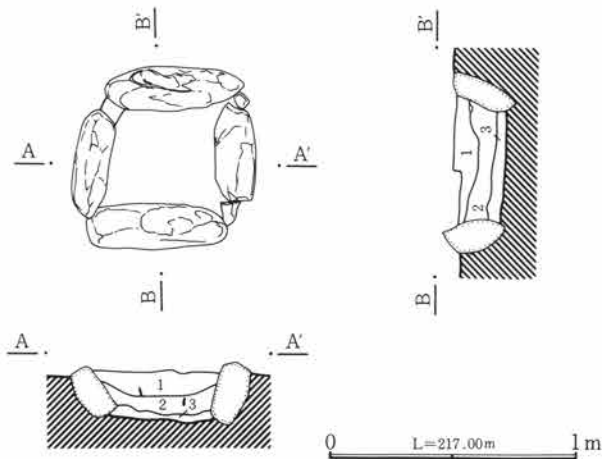
**出土遺物** 出土遺物は極めて少なく、13点の石材(炉石を含む)と1点だけ土器片が出土している。時期認定のできる土器片はなく、図示することができない。

**時期** 出土遺物も少なく時期については推定の域をでないが、重複する44号住居跡からは、縄文時代中期後半から後期にかけての土器片が出土している。

**備考** 本住居跡は、重複するいずれの住居跡よりも構築が古い。



第132図 54号住居跡



第133図 54号住居跡 炉

- 1a 暗褐色土 砂礫を少量含む粘質土。  
 1b 暗褐色土 1a層に近似するが、砂礫はより多い。  
 2 暗褐色土 砂礫(φ2~3mm)を含む砂質土。  
 3 暗褐色土 砂礫を多く含む砂質土。  
 4 暗褐色土 砂礫をごく少量含む。しまりなし。
- ピットセクション(E-E'~H-H')
- 1 暗灰褐色土 砂礫(φ2~7mm)を含む。  
 2 暗褐色土 砂礫(φ2~4mm)を多く含む。  
 3 黒褐色土 砂礫を非常に多く含む。
- 炉セクション
- 1 褐色土 砂礫(φ2~5mm)を含む粘質土。  
 2 褐色土 砂礫、炭化物を少量含む粘質土。  
 3 褐色土 2層に近似するが、焼土粒も含む。

57号住居跡 (PL. 41・42・126・127)

位置 Eg-53 床面積 不明 主軸方位 不明 残存壁高 0.1m 重複 57住→?162号土坑

規模と形状 長軸長4.8m、短軸長3.6mの楕円形状のプランと推定され、住居中央部に炉が築かれている。住居の東側約4分の1が調査区外となり、その全容は確認できなかった。残存する周壁は、崩落のためかやや線形が乱れ、全体のプランも歪んでいる。

床面 床面はシルト質の暗褐色土(砂礫を含む)地山で、覆土との色調差がさほど顕著でなく、炉の水準的位置や床面精査時のわずかな傾向の違いから認定したものである。比較的良好な平坦面が形成されるが、踏み締められたかたい面は確認されなかった。

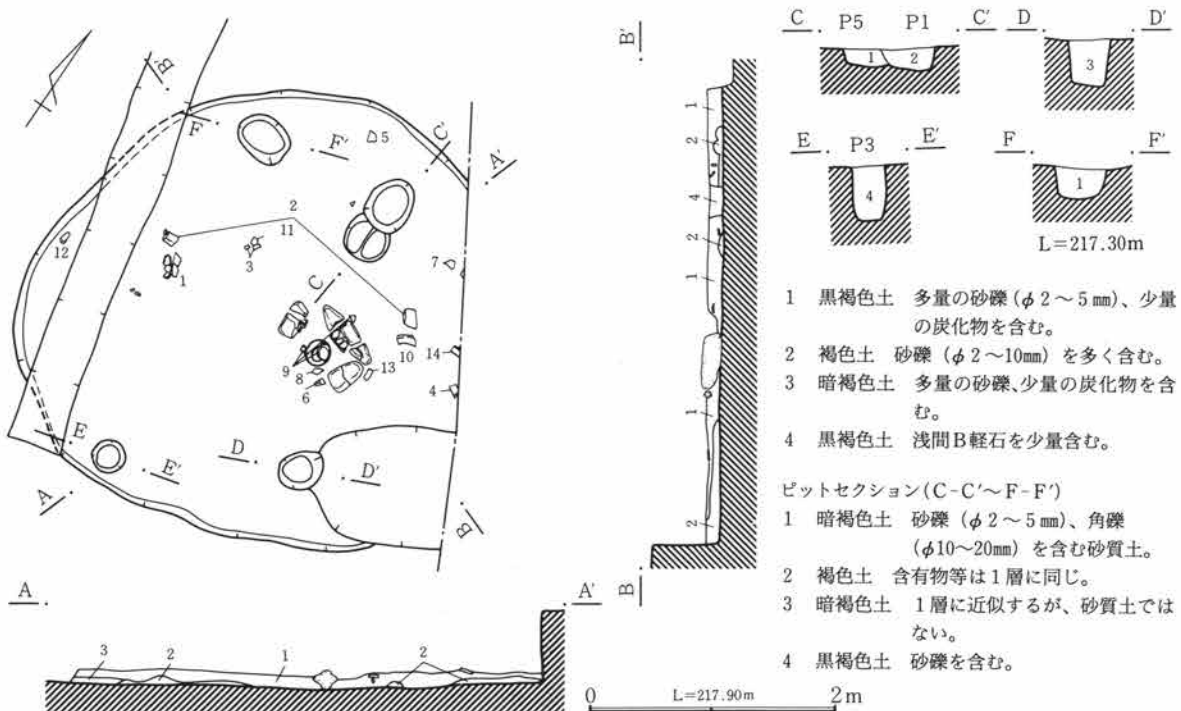
炉跡 炉体土器を伴う石囲い炉が検出された。石囲い炉は「コ」の字状を呈し、中央部には炉体土器が埋設されていた。炉石はいずれも細長い安山岩の河原石が用いられる。炉石・炉体土器ともに強い火熱を受け、脆弱化し変質及び損壊が認められる。炉跡の掘り方は、径0.75m、深さ0.35mの円形状を呈し、上端部から0.2m下位まで側壁が焼土化している。この焼土は、炉石を組む前に遺存されたことは明らかで、石囲い炉に先行する炉跡もしくは、炉を構築する前段階に行われる作業の結果として生じた可能性が高い。

柱穴 柱穴と推定されるピットが4基検出しているが、攪乱や調査区外のためその全容はさだかでない。位置関係から、8～9基の支柱穴の存在が想定される。検出されたピットは、規模・形状にばらつきがある。

出土遺物 総計110点の土器片と130点の石器片・石材が出土している。覆土中や床面付近を中心とするが、2の深鉢口縁部片は床面出土である。炉体土器は、口縁部を欠き、底部から胴上半部にかけて残存する。無文土器であるが後期初頭の様相を呈している。深鉢や鉢の口縁・胴部片のほかに、石器類として磨製石斧・スクレーパー・くぼみ石などがあり、図示し整理しておく。

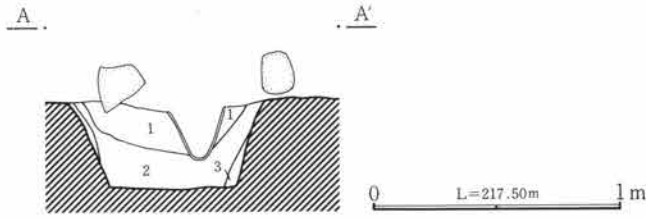
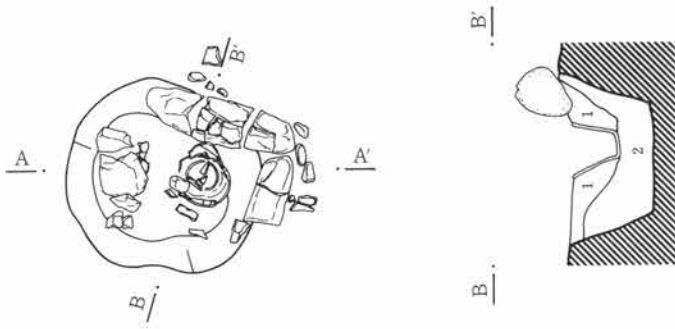
時期 出土遺物から、縄文時代後期称名寺式平行期の所産と考えられよう。

備考 厳密な意味では、66号住居跡と重複する可能性があるが、66号住居跡は炉跡のみの検出のため平面プランでの新旧関係は不明。



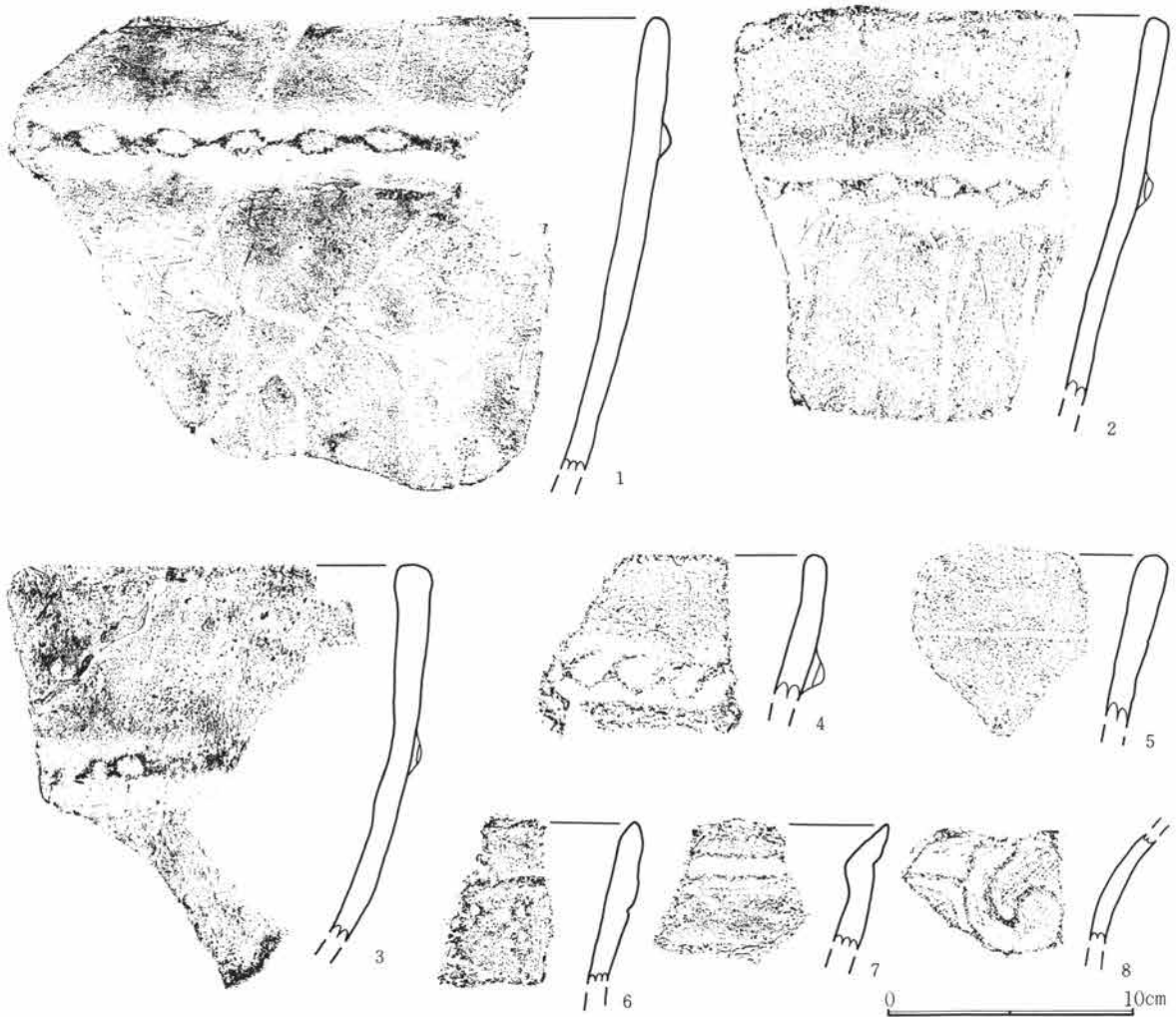
第134図 57号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



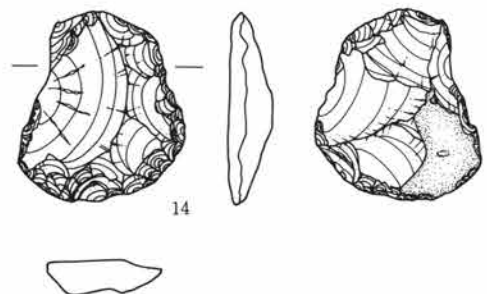
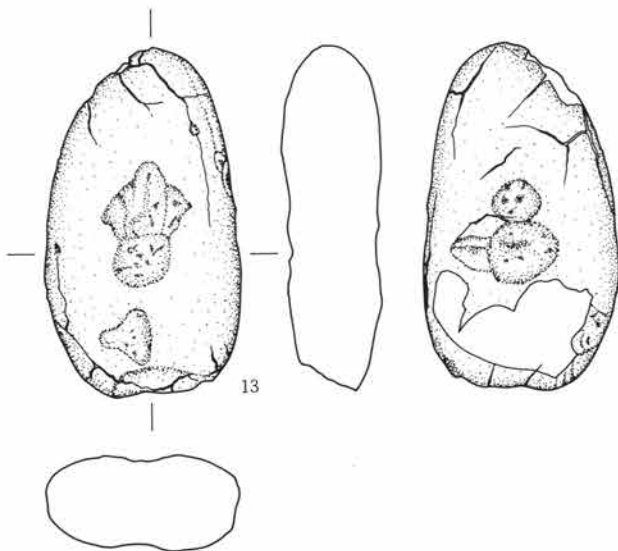
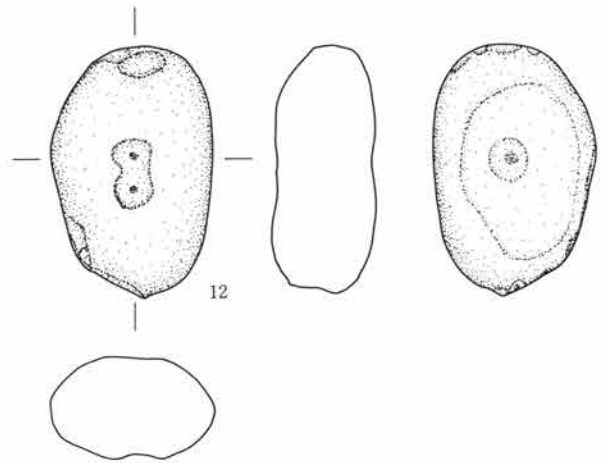
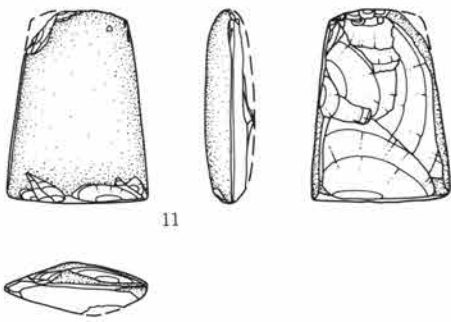
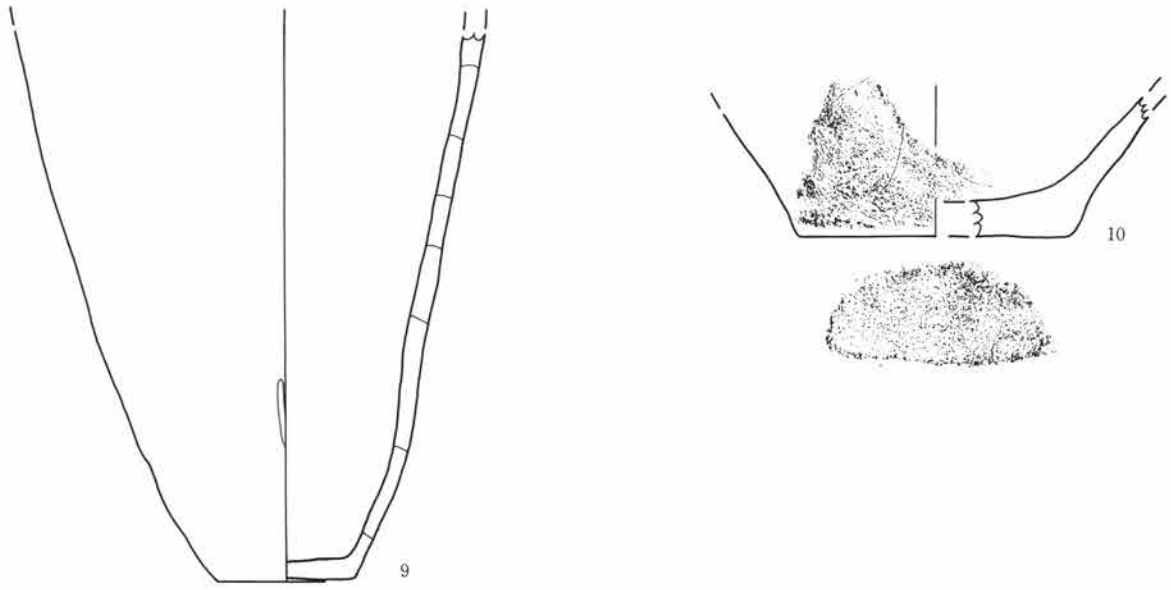
- 1 黒褐色土 砂礫(φ2~3mm)を含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒(φ2~5mm)、少量の砂礫を含む。
- 3 褐色土 砂礫、角礫(φ20mm)を含む。

第135図 57号住居跡 炉



第136図 57号住居跡出土遺物(1)

第1節 竪穴住居跡



0 11~14 10cm 9-10 20cm

第137図 57号住居跡出土遺物(2)

58号住居跡 (PL.42・43・127)

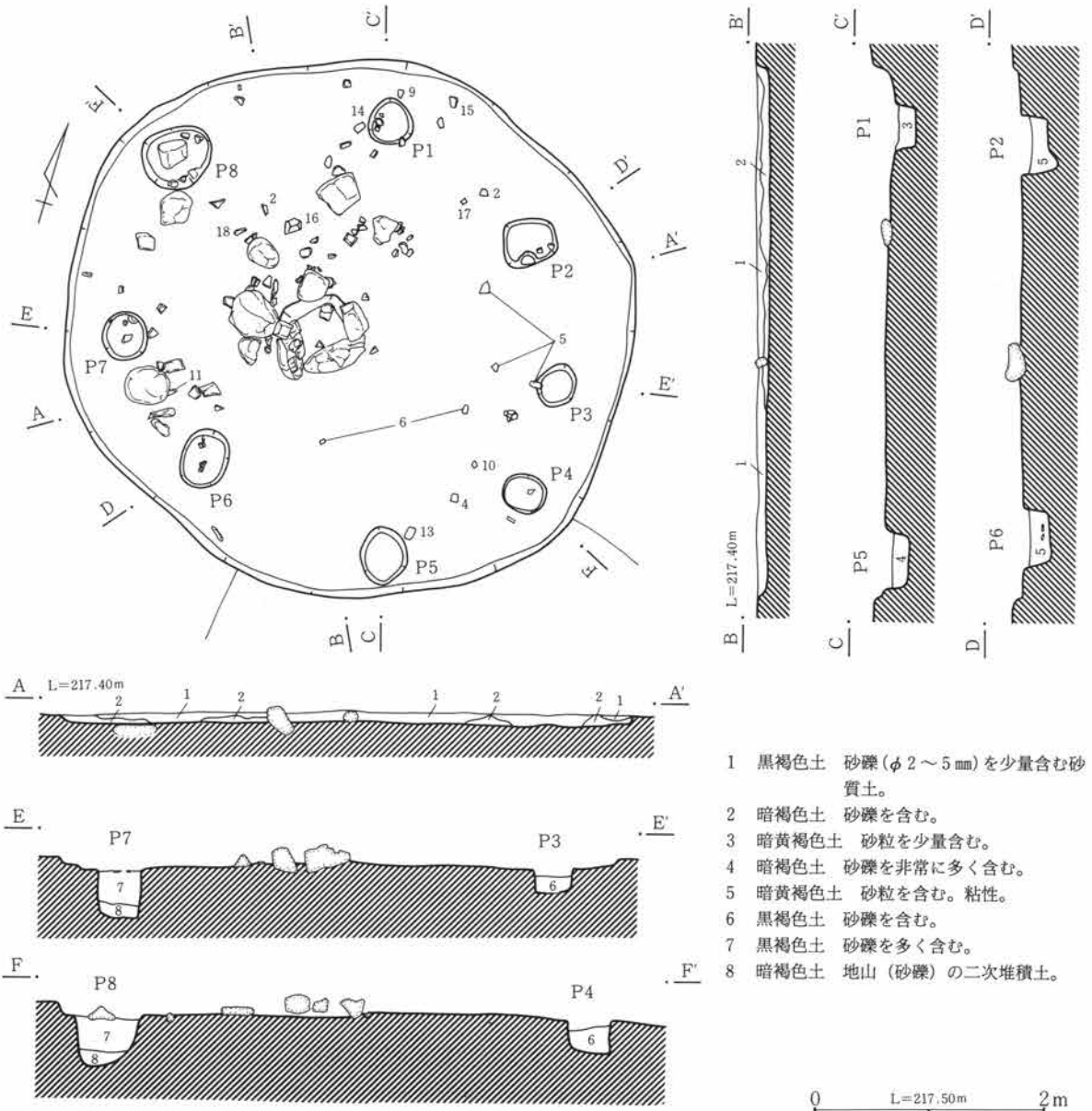
位置 Eg-55 床面積 17.06㎡ 主軸方位 不明 残存壁高 0.1m 重複 59住(古)→53住→58住→72住(新)

規模と形状 長軸長4.85m、短軸長4.65mの円形状のプランを呈し、平面形状は六角形を思わせる。

床面 床面は、覆土との色調差によって明瞭に識別でき、比較的良好な平坦面が形成されていた。かたく踏み締められた面などの顕著な傾向は確認されなかった。

炉跡 住居ほぼ中央部に位置し、方形状を呈すと考えられる石囲い炉が検出されている。原位置をとどめる炉石は3石で、柱状の河原石が用いられている。炉石はいずれも安山岩であるが、強い火熱を受けているためか、石表面が剝落したり用石自体が変質している。炉内に焼土面や炉体土器などは確認されなかった。炉の掘り方は、炉石を付設するために必要なだけの浅い掘り込みを穿ったものと考えられる。

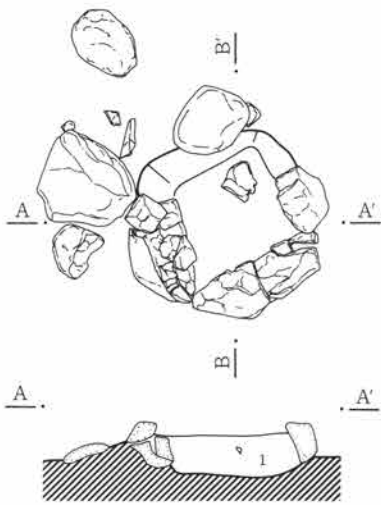
柱穴 総計8基の柱穴と考えられるピットが検出している。ピットはいずれも円形状を呈し、ほぼ等間隔に周壁に沿って検出された。規模に若干のばらつきがあり、斉一性に欠ける。



第138図 58号住居跡



第1節 竪穴住居跡



第139図 58号住居跡 炉

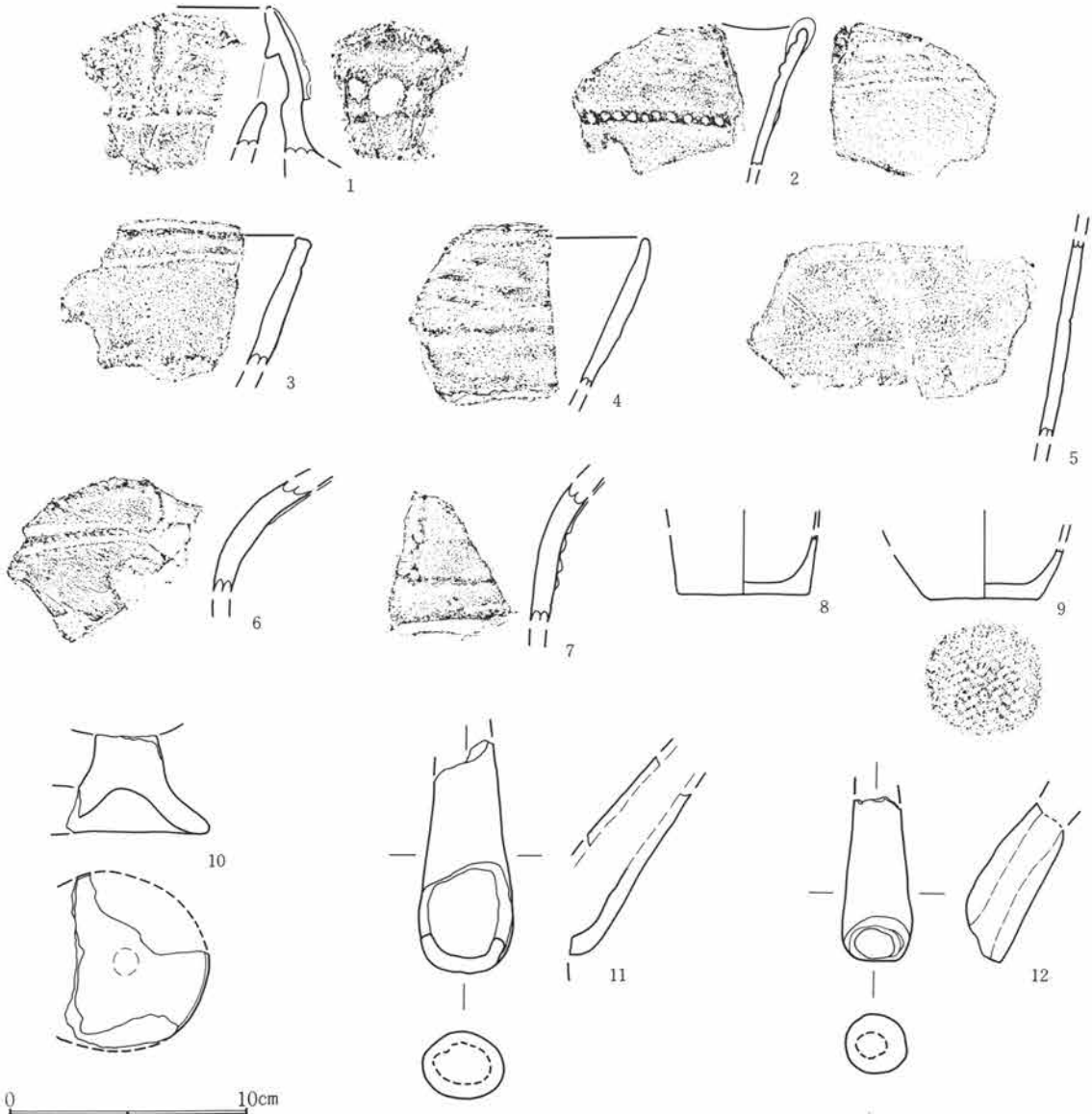
**出土遺物** 総計81点の土器片と240点の石器片・石材（炉石他を含む）が出土している。深鉢形土器の口縁部・胴部片、注口土器の注口部片等や石器類として打製石斧・スクレーパー・くぼみ石などがある。

**時期** 出土遺物から、縄文時代後期掘之内2式平行期の所産と考えられる。

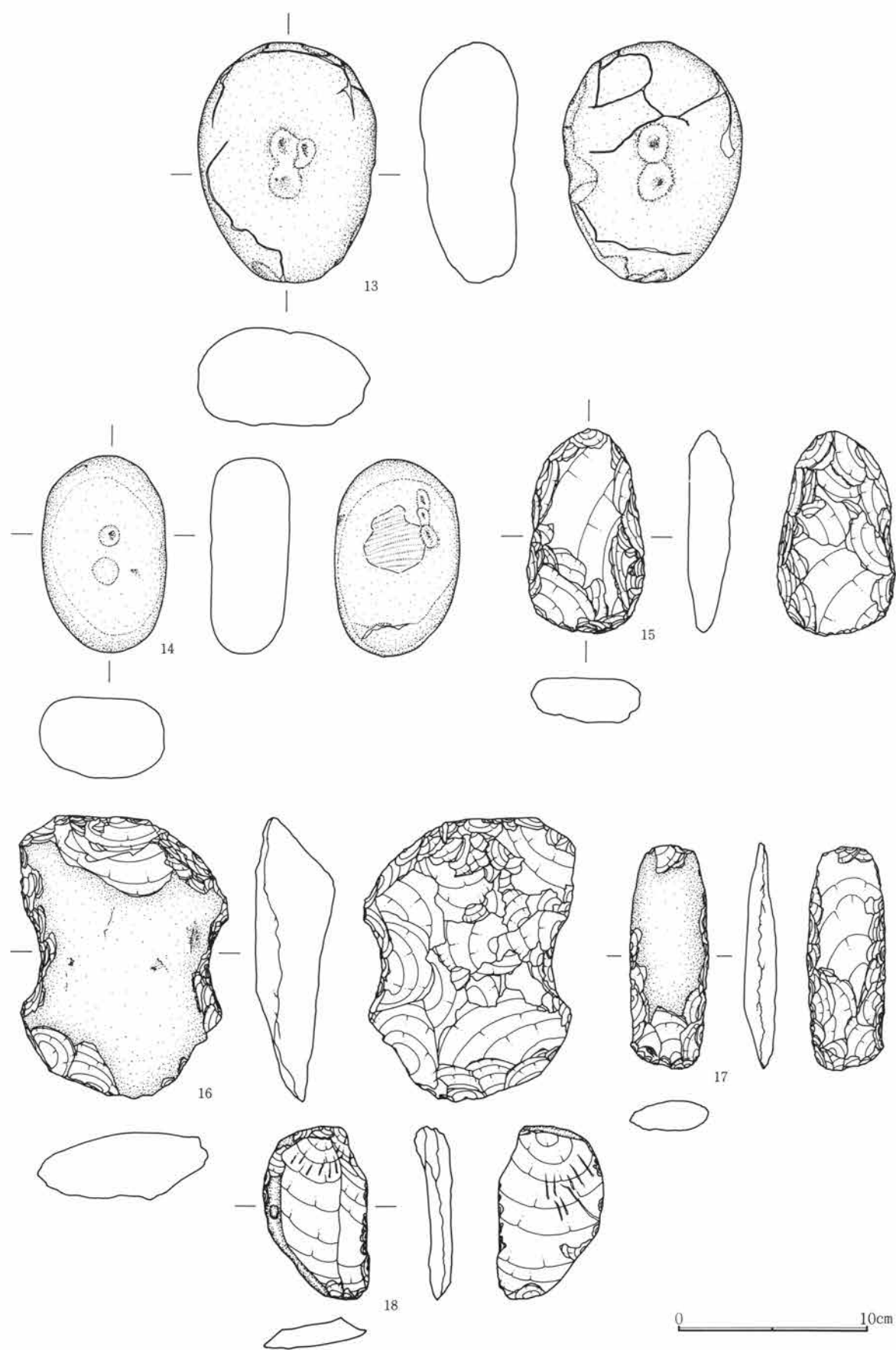
**備考** 重複する住居跡のうち、53・72号住居跡はいずれも掘之内2式平行期の所産であり、近接した時期に構築されたものと考えられる。

1 黒褐色土 砂礫(φ2~5mm)を含む。しまりあり。

0 L=217.40m 1m



第140図 58号住居跡出土遺物(1)



第141図 58号住居跡出土遺物(2)

59号住居跡 (PL. 43・127)

位置 Ef-55 床面積 (12.8)m<sup>2</sup> 主軸方位 不明 残存壁高 0.05m

重複 59住(古)→53住→58住→72住(新)

規模と形状 長軸長4.75m、短軸長3.9mの不整形円形状のプランを呈し、炉跡は住居中央部にはなく、北西よりに築かれている。平面プランが極めて不整形であり、竪穴住居跡ではなく、単独の屋外炉の可能性も否定できない。

床面 床面の認定作業は困難を極め、炉跡の水準的位置や覆土とのわずかな色調差から推定している。かたく踏み締められるなどの顕著な傾向は確認できなかった。

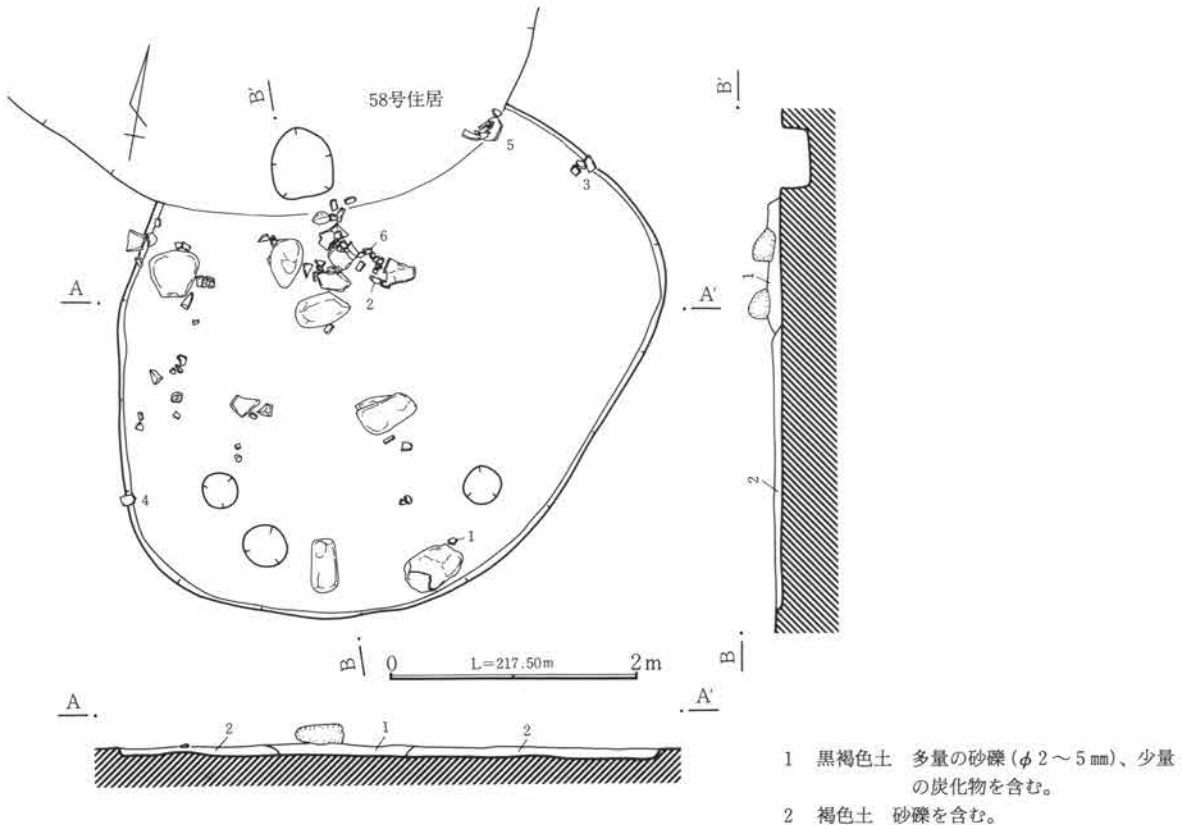
炉跡 炉跡の残存状況は悪く、旧状はとどめていない。強い火熱を受けて損壊した炉石が集中して検出されたことから、炉跡として認定された。炉石は、一石(輝緑岩)を除いて安山岩が用いられ、いずれも剝落や変質化が認められる。炉付近では、焼土粒子と炭化物(いずれも少量)の分布範囲が確認されている。

柱穴 柱穴は検出されなかった。

出土遺物 出土遺物は少なく、31点の土器片と65点の石器片・石材(炉石などを含む)が出土している。いずれも床面付近からの出土で、深鉢形土器の口縁部や胴部片などのほか、石器類として打製石斧がある。図示し整理しておく。

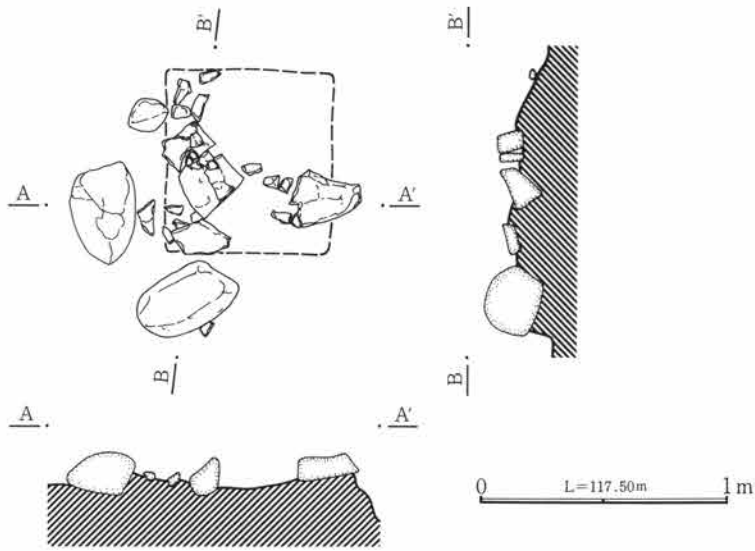
時期 出土遺物は、縄文時代中期後半から後期初頭の所産と認定することができる。

備考 本住居跡は、単独の屋外炉である可能性について先にも述べたが、柱穴がないことや、住居プラン(掘り込み)そのものを炉をとりまく地表面の僅かな落ち込みと捉えれば、その可能性は一段と高まるが、ここでは併記するかたちで整理しておきたい。

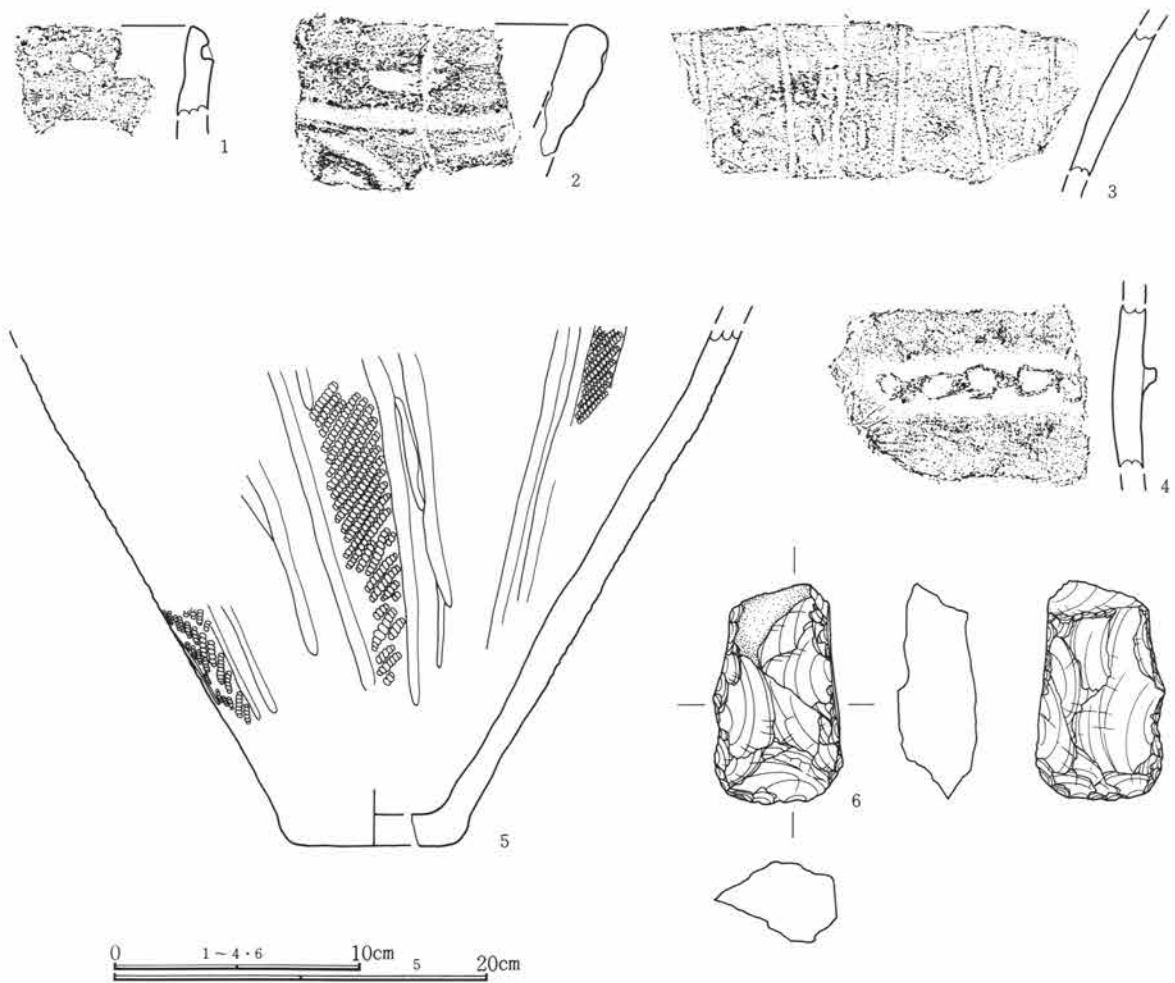


第142図 59号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



第143図 59号住居跡 炉



第144図 59号住居跡出土遺物

66号住居跡 (PL.44・128)

位置 Eg-53 床面積 測定不能 主軸方位 不明 残存壁高 0 m

重複 57号住居跡と重複の可能性が高いが、切り合い関係は不明。

規模と形状 炉跡のみが検出されている。掘り込みが浅いためか、表土掘削時やその後の調査でもプランの確認はできなかった。

床面 床面の認定はできなかった。

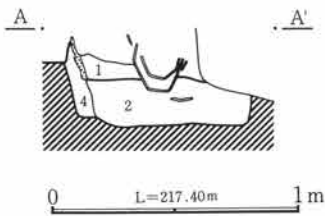
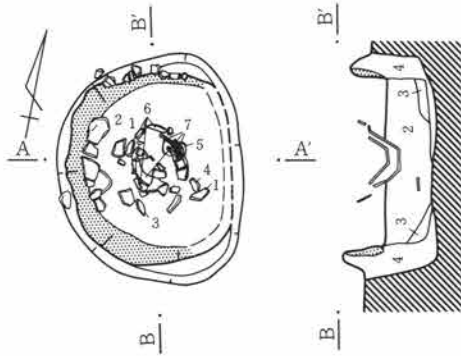
炉跡 最近の耕作によって、東側炉体部の約3分の1が破壊されるが、掘り方についてはプランが確認されている。炉体部は径0.8×(0.7)m、深さ0.15mの円形状を呈し、ほぼ中央部から2固体の炉体土器が重なって検出され、炉体部側壁はレンガ化するほど焼け込んでいた。炉掘り方は、炉体部より若干大きめの掘り込みで、径0.9×0.8m、深さ0.3mの円形状を呈している。

柱穴 柱穴は検出されなかった。

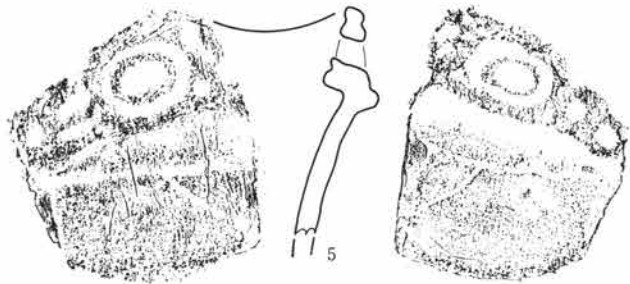
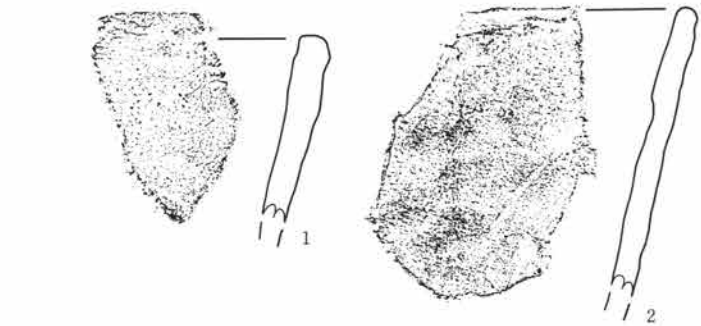
出土遺物 総計21点の土器片(炉体土器を含む)と3点の石片が炉内から出土したほか、炉跡周辺のグリッドから少量の土器片・石器片が認められている。掲載遺物はいずれも炉内出土で、炉体土器のほかは深鉢形土器の口縁部片である。炉体土器はいずれも底部から胴部にかけて残存する深鉢形土器で、二次焼成を受けている。

時期 炉体土器などから、縄文時代後期称名寺式平行期の所産と考えられる。

備考 本遺構の炉跡は、57号住居跡の炉跡の下部構造と同一であり、上部が破壊されているとすれば、57号住居跡と同様の石囲い炉であった可能性が高い。また、柱穴が確認できないことから、単独の屋外炉の可能性も否定できない。



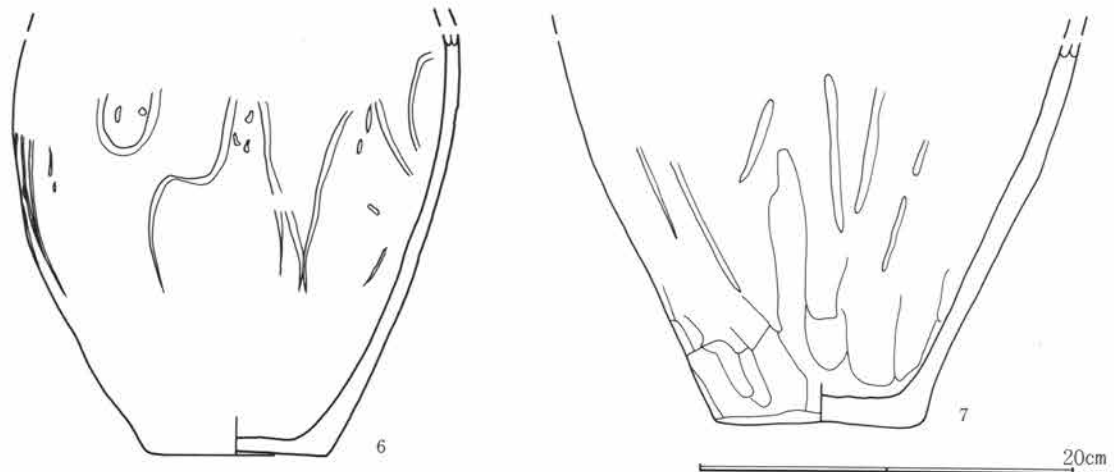
- 1 黒褐色土 砂礫(φ 2~5 mm)、礫(φ10~30mm)、焼土粒を含む。
- 2 黒褐色土 砂礫、礫を含む。
- 3 暗褐色土 砂礫、礫を少量含む。
- 4 暗褐色土 砂礫を含む。



0 10cm

第145図 66号住居跡

第146図 66号住居跡出土遺物(1)



第147図 66号住居跡出土遺物(2)

67号住居跡 (PL. 44・128)

位置 Ee-53 床面積 (29.8)m<sup>2</sup> 主軸方位 N-77°-E 残存壁高 0.1m

重複 68住(古)→67住(新)

規模と形状 長軸長7.64m、短軸長6.00mの楕円形状を呈し、住居中央付近とその西側とに二基の石囲い炉が築かれている。周壁は北辺部で比較的良好に残存するものの、南辺部は破壊や掘り込みが浅いこともあって残存せず、柱穴などの位置関係から概ねのプランが推定されている。

床面 床面は、覆土との色調差やかたく踏み締められるなどの顕著な傾向が認められないため、その認定は困難を極めた。炉跡の水準的位置や地山の確認から、概ねの面が認定された。

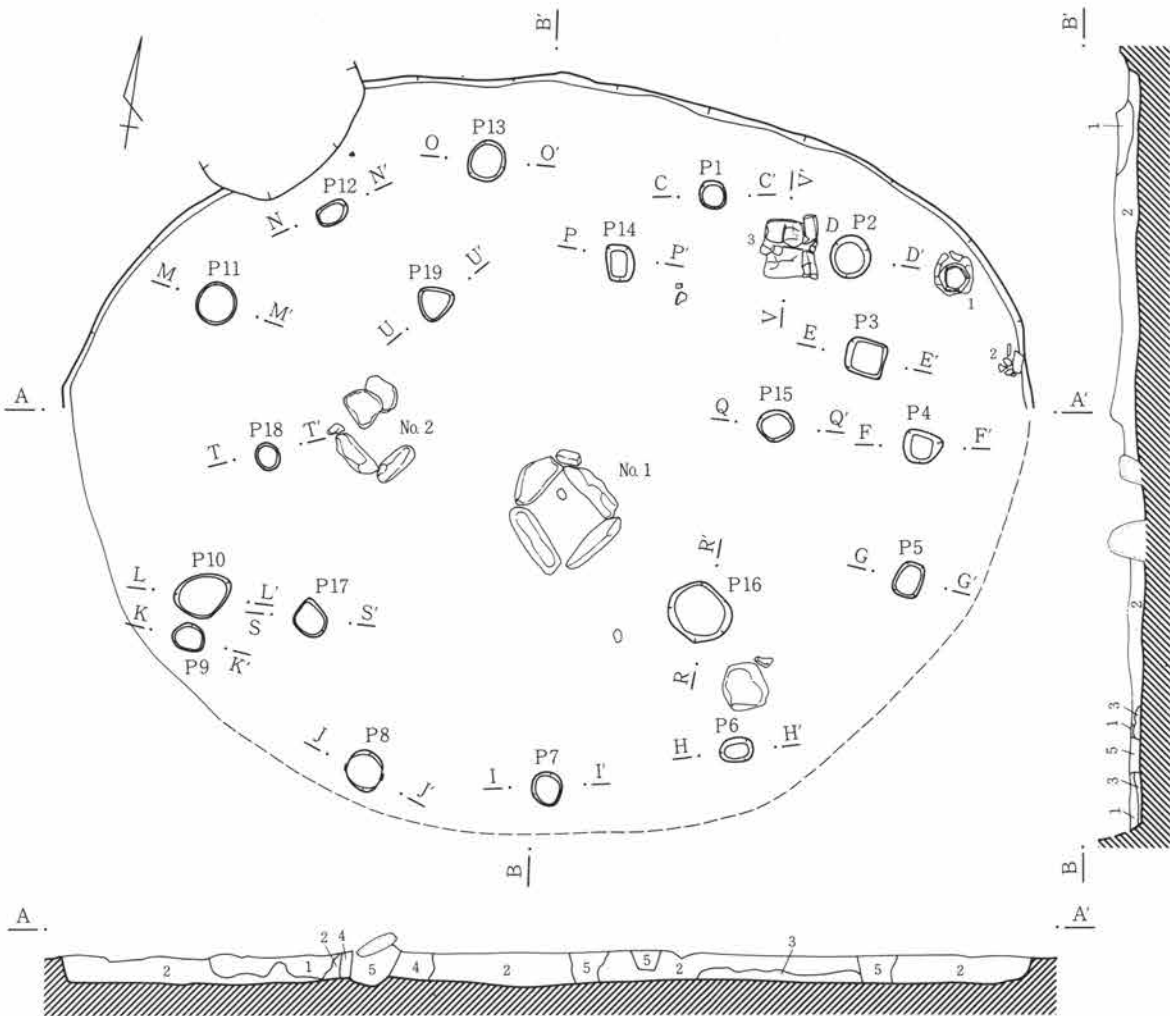
炉跡 住居中央部の炉跡は、使用時の痕跡をほぼとどめているといえる。偏平で柱状を呈す河原石4石を主体とした方形状の石囲い炉で、北側隅部は小振りの礫が補充されている。炉床面は、周辺の床面よりやや低くなっているが、焼土面などは確認されなかった。炉石はいずれも安山岩で、二次焼成を受けるが、強く焼け込んでいるとはいえない。炉の掘り方は、石組みとほぼ同一規模の掘り込みが穿たれている。西側の炉跡は、破壊のためその全容は明らかでないが、残存状況から中央部の炉跡と同様の石囲い炉と推定される。おそらく、4石の炉石を主体とした方形状の炉体を有すと考えられる。炉石は、偏平な河原石が用いられ、いずれの石材も安山岩である。二次焼成を受けるが、著しい焼け込みとはいえない。炉の掘り方は、石組みの規模と同様のものが穿たれている。

柱穴 総計19基の小ピットが検出されている。いずれのピットも浅い掘り込みの円形状プランを呈すが、平面形状の規模にはややばらつきが認められる。柱穴の並びは第149図のように2通りの配置が想定されるが、図示するにとどめておきたい。

出土遺物 出土遺物は少なく、総計7点の土器片と石器片・石材(炉石を含む)が出土した。1と2は比較的良好な固体で、いずれも床面密着土器である。

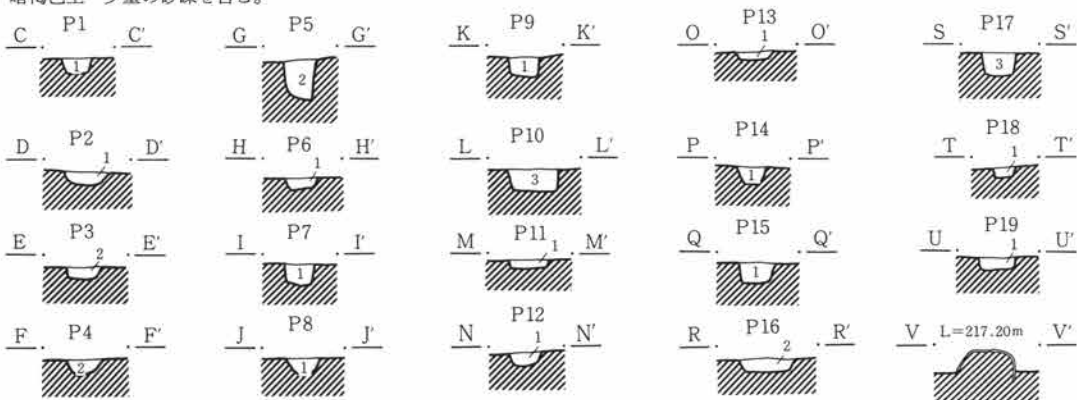
時期 出土遺物から縄文時代後期掘之内I式平行期の所産と考えられる。

備考 2基の炉跡が検出されたことから、重複住居の可能性が考えられる。地層断面や床面レベルの相違・柱穴の位置関係などからは、重複関係を証明できない。



- 1 暗褐色土 砂礫(φ2~5mm)、黒褐色土塊(φ30mm)を含む。
- 2 褐色土 砂礫を含むローム質土。
- 3 褐色土 2層に近似するが、砂礫は少ない。
- 4 暗褐色土 砂礫を含む。
- 5 暗褐色土 少量の砂礫を含む。

0 L=217.40m 2m

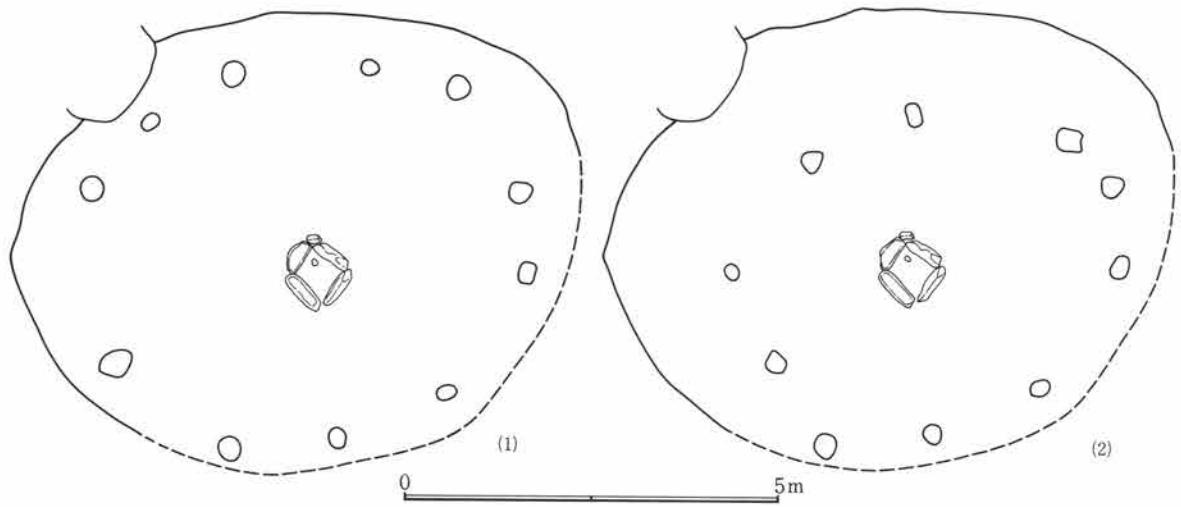


ピットセクション (C-C'~U-U')

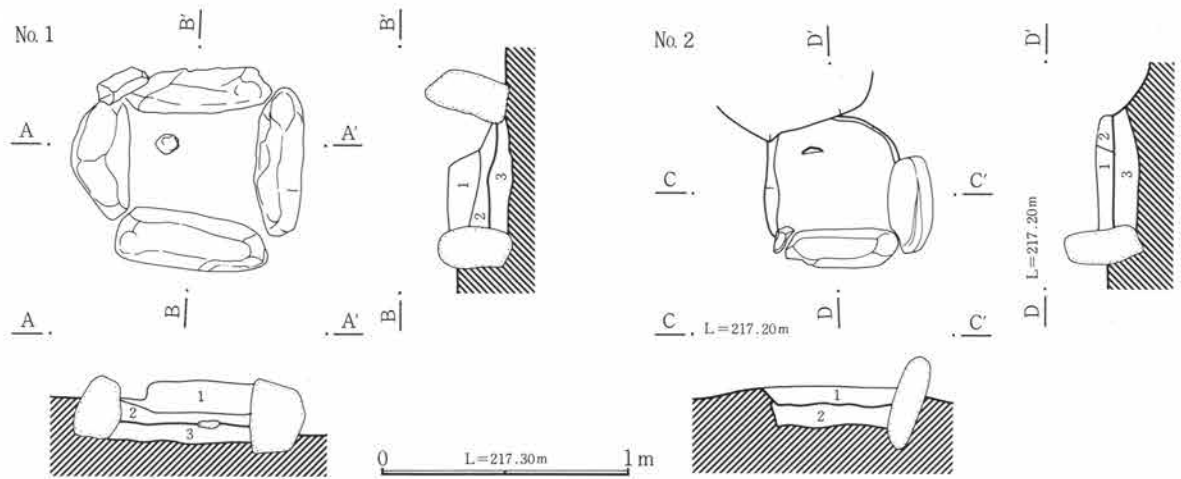
- 1 褐色土 褐色土粒と黄褐色土粒との混土。ごく少量の砂礫、少量の白色粒を含む。
- 2 褐色土 ごく少量の砂粒、少量の黄褐色土粒(φ3~5mm)を含む。
- 3 褐色土 ごく少量の灰色土粒(φ3~5mm)、少量の、砂礫(φ3~5mm)・黄褐色土粒を含む。

第148図 67号住居跡





第149図 67号住居跡 建替え柱穴配置図



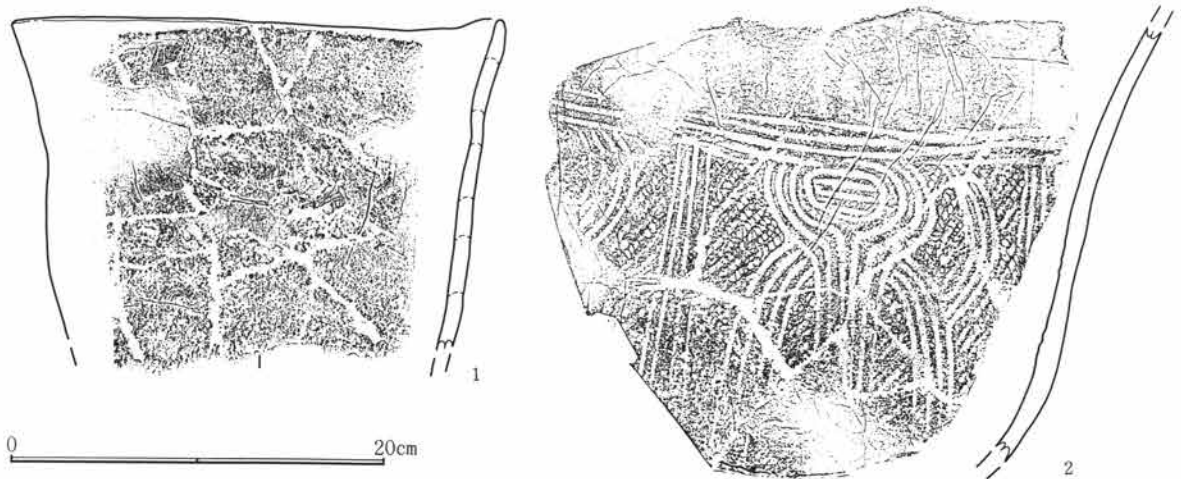
炉セクション (A-A', B-B')

- 1 黒褐色土 砂粒を少量含む砂質土。
- 2 暗褐色土 砂粒、ローム粒を少量含む。やや粘性。
- 3 褐色土 砂礫 (φ 2~5 mm) を含む粘質土。

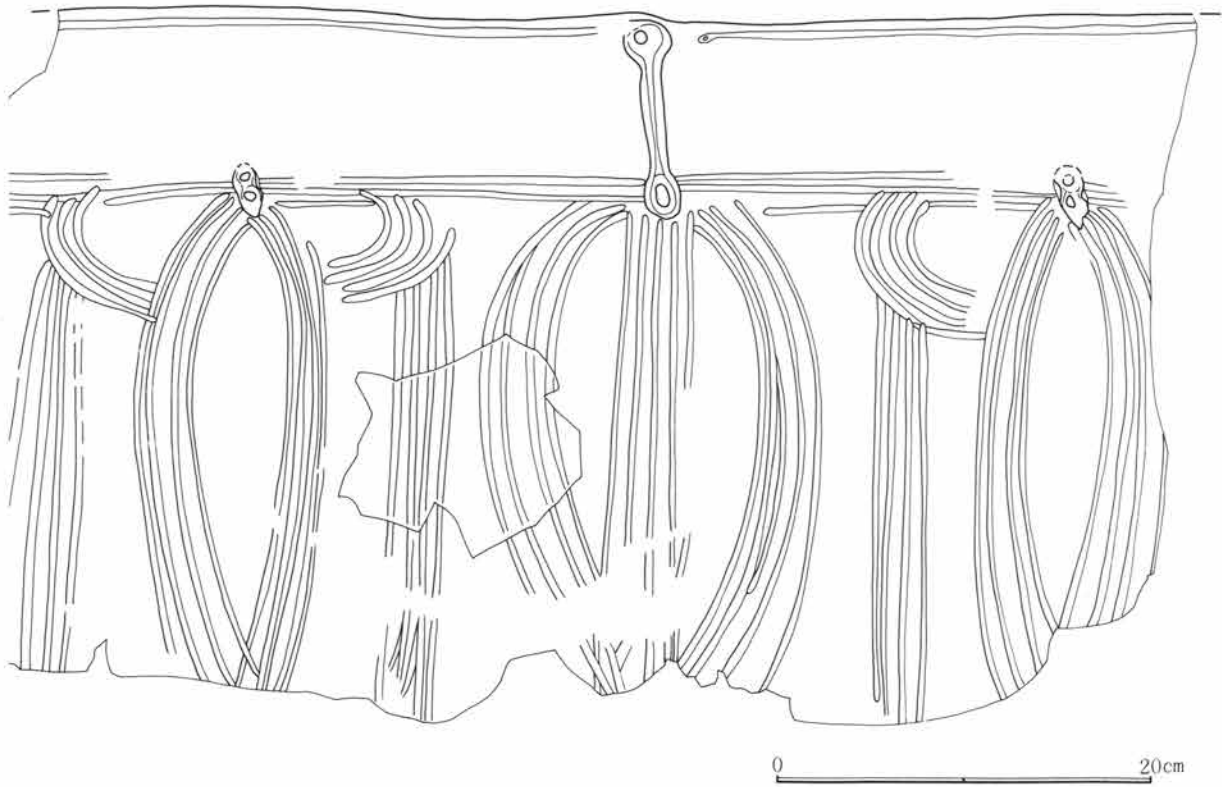
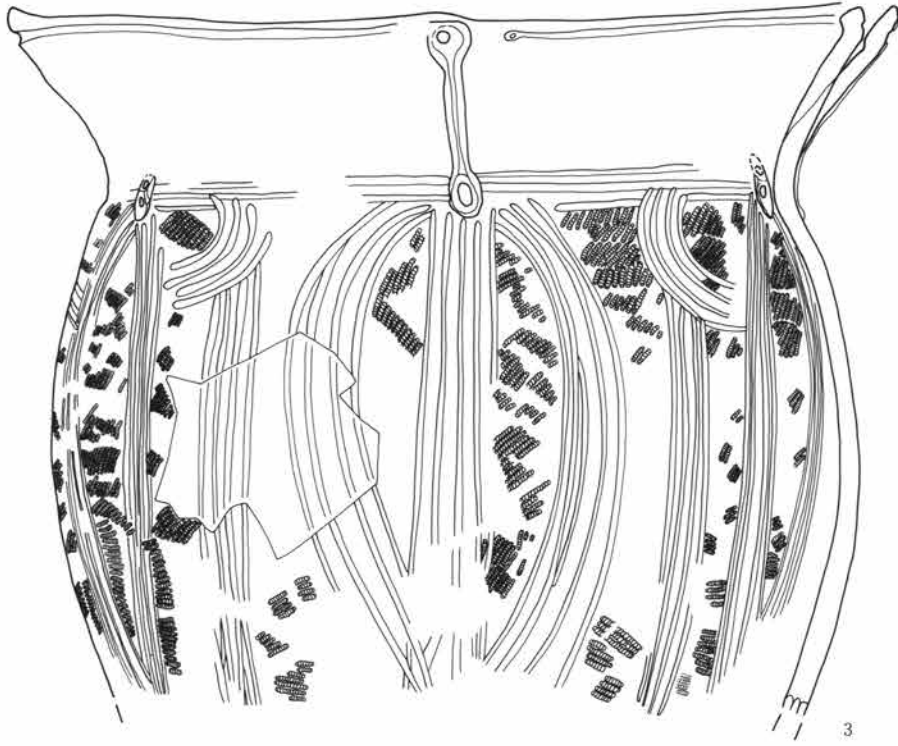
炉セクション (C-C', D-D')

- 1 暗褐色土 砂粒、少量の焼土粒を含む。
- 2 褐色土 砂礫 (φ 2~5 mm) を含む。
- 3 褐色土 砂礫を含む。地山の二次堆積土。

第150図 67号住居跡 炉



第151図 67号住居跡出土遺物(1)



第152図 67号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物

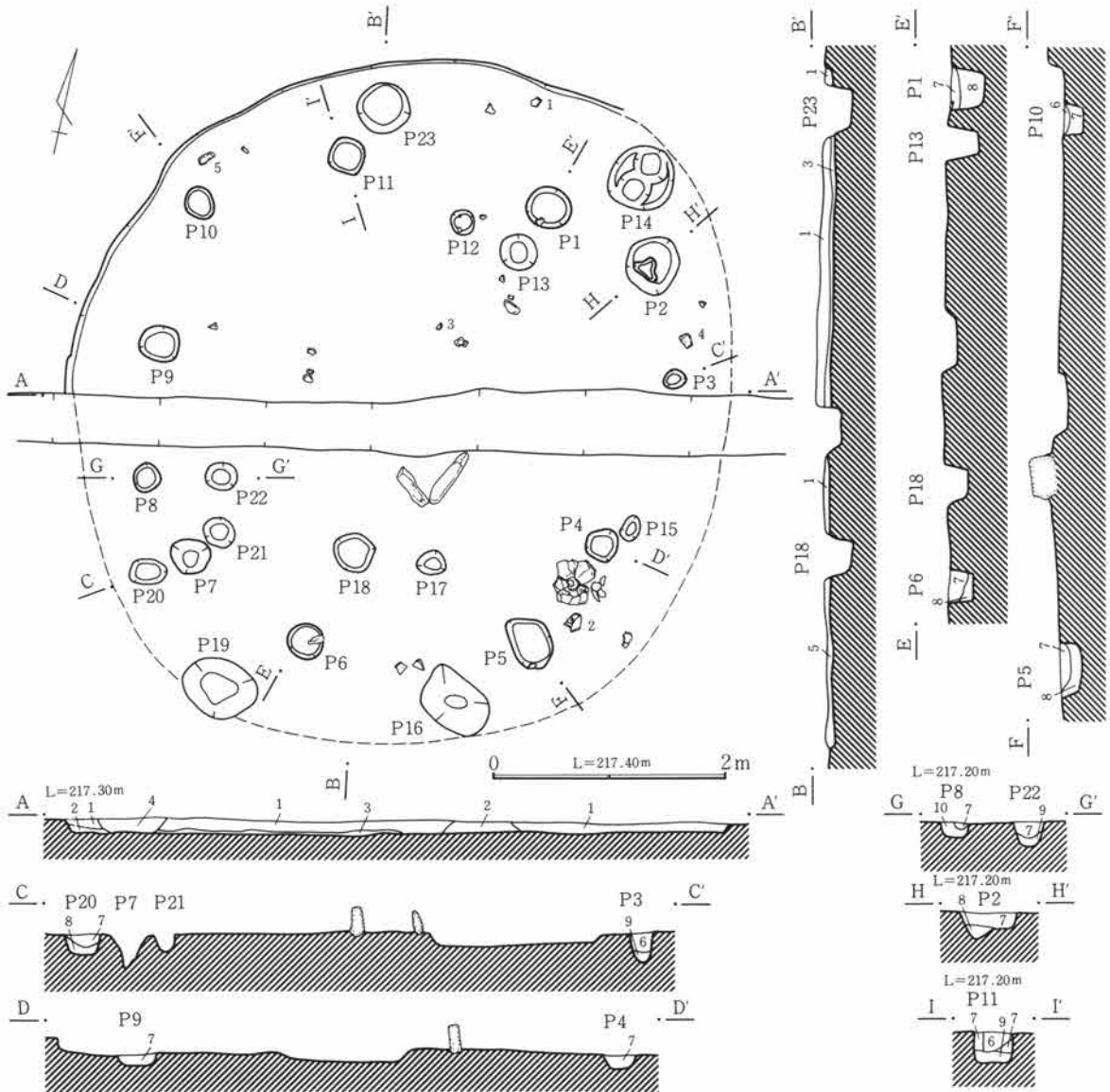
68号住居跡 (PL. 45・128)

位置 Ef-54 床面積 (20.6)m<sup>2</sup> 主軸方位 不明 残存壁高 0.1m

重複 68住(古)→67住(新)

規模と形状 長軸長(5.84)m、短軸長(5.52)mの円形状のプランを呈し、住居中央部のやや南側に炉が築かれている。北側の周壁は確認できたが、南側については掘り込みが浅いためか確認できず、柱穴などの位置関係から推定している。また、住居中央部を近世以降の耕作溝が東西に走行し、攪乱している。

床面 床面は、覆土とのわずかな色調差や炉跡の水準的位置から判断されるが、床面としての顕著な傾向は



- |  |  |
|--|--|
| 1 暗褐色土 砂礫(φ2~5mm)、褐色土粒(φ2~5mm)を少量含む。                   | 6 暗褐色土 砂礫(φ2~3mm)をごく少量含む。やや粘性。                 |
| 2 褐色土 褐色土塊(φ2~10mm)を主体とし、砂礫、暗褐色土塊(φ2~10mm)を少量含む。       | 7 褐色土 少量の砂礫、やや多量の暗黄褐色土塊(φ5~10mm)を含む。やや粘性。      |
| 3 褐色土 やや多量の淡茶褐色土粒(φ2~5mm)、少量の暗褐色土粒(φ2~3mm)、ごく少量の砂礫を含む。 | 8 暗黄褐色土 暗黄褐色土塊を主体とし、暗褐色土塊(φ5~10mm)、砂礫を含む。やや砂質。 |
| 4 暗褐色土 ごく少量の砂礫、少量の褐色土粒を含む。                             | 9 暗黄褐色土 黄褐色土塊(φ5~10mm)を多く含み、砂質。                |
| 5 褐色土 褐色土粒を主体とし、少量の暗褐色土粒、ごく少量の                         | 10 黄褐色土 黄褐色土塊を主体とし、暗黄褐色土塊を少量含む。                |

第153図 68号住居跡

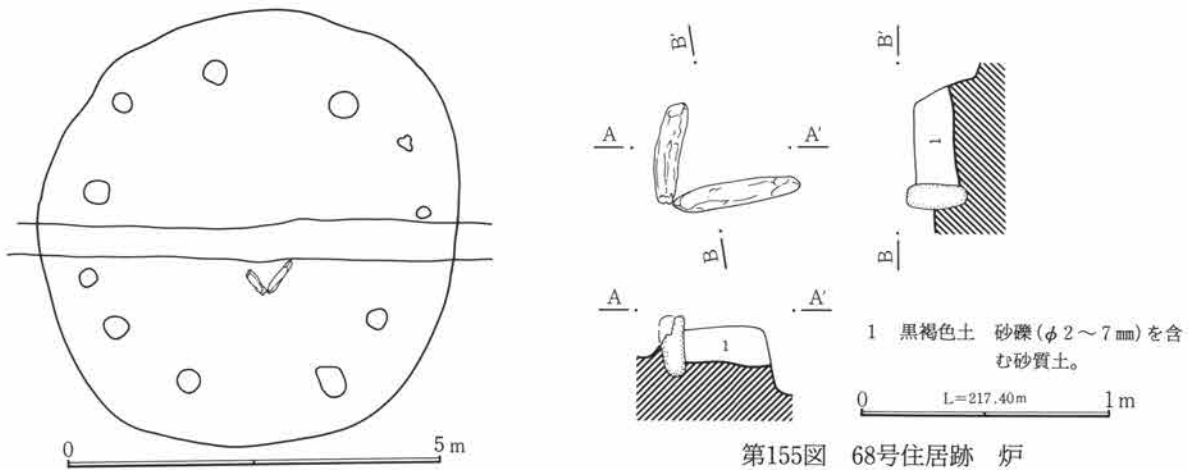
確認されなかった。

**炉跡** 攪乱によって、北側のおよそ半分が破壊されている。残存状況から方形状を呈した石囲い炉と考えられる。残存する炉石は安山岩と砂岩で、焼け込み方はさほどではなく、変質は認められない。炉内からは、焼土面などの顕著な傾向は確認されなかった。炉の掘り方は、石組みと同一規模の掘り込みと思われる。

**柱穴** 検出されたピットは、総計23基を数えるが、位置関係やピット覆土の状況から、10~11基のピットが柱穴として想定される。いずれも小規模な円形ピットで、掘り込みも浅いものが多い。他のピットは、やや規模の大きなものと小さなものがあるが、本住居跡との関係は不明。

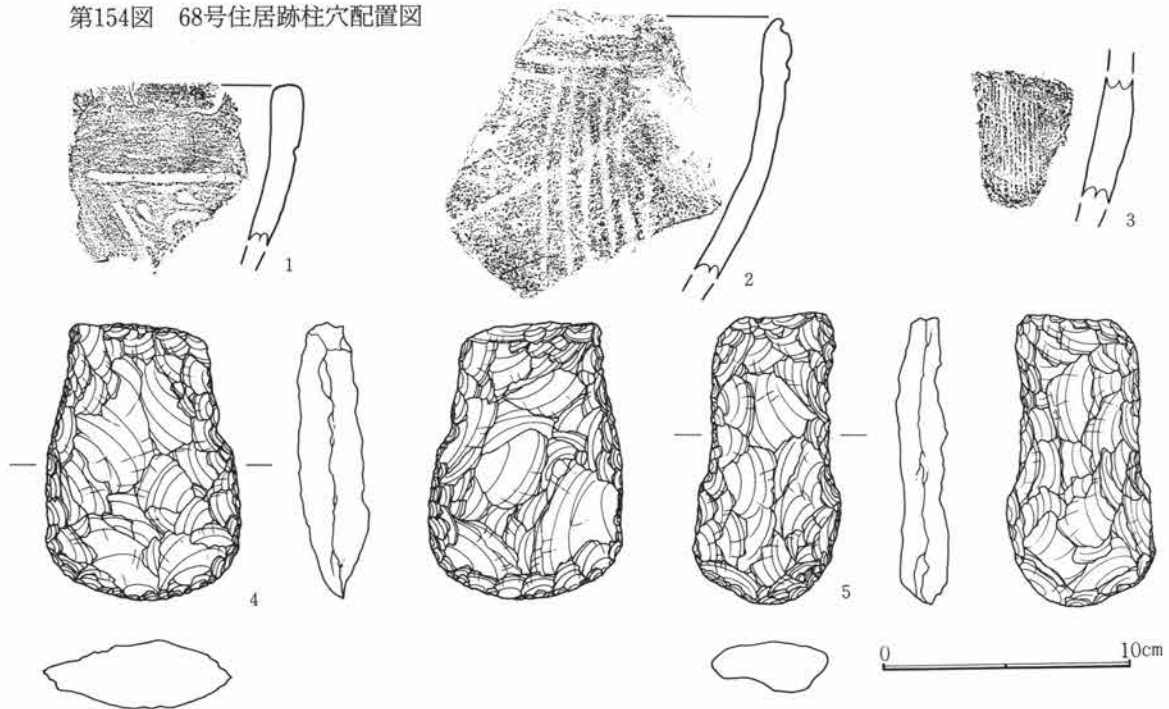
**出土遺物** 出土遺物は少なく、総計12点の土器片類と15点の石器片・石材（炉石を含む）が出土している。このうち掲載できる遺物は、深鉢形土器の口縁部片や胴部片のほか、石器類として打製石斧が2点ある。

**時期** 出土遺物は、縄文時代後期の所産であろう。



第155図 68号住居跡 炉

第154図 68号住居跡柱穴配置図



第156図 68号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

69号住居跡 (PL. 45・128)

位置 Eg-56 床面積 4.25m<sup>2</sup> 主軸方位 N-18°-E 残存壁高 0.15m 重複 なし

規模と形状 長軸長2.9m、短軸長2.1mの楕円状の小規模なプランを有し、確認時には土坑を想定して調査されたが、炉跡の検出により住居跡と認定した。

床面 灰褐色シルト質土(地山)を床面とし、覆土との色調差により比較的容易に識別できた。床面は良好な平坦面が形成されるが、踏み締められるなどの顕著な傾向は確認されなかった。

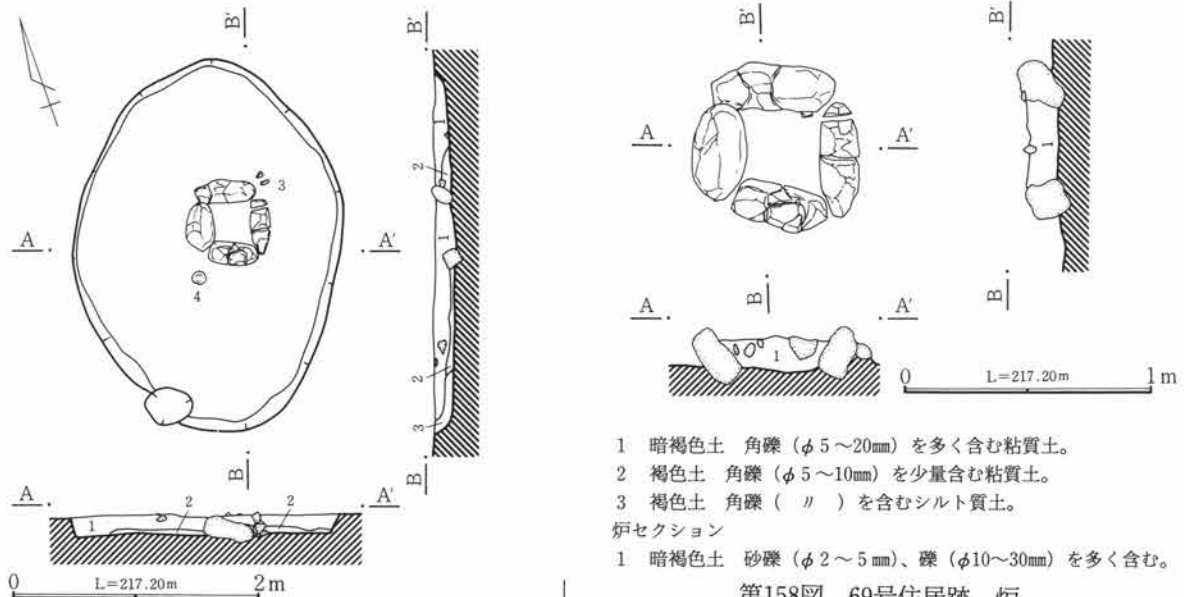
炉跡 住居中央部に位置し、方形を呈した石囲い炉で、使用時の状況をほぼとどめている。炉石は強い火熱を受け、内部まで変質化が及んでいる。炉石は砂岩と安山岩(柱状の河原石)で構成される。

柱穴 住居プラン内及び周辺を含め精査したが、検出することができなかった。

出土遺物 出土遺物は極めて少なく、2点の土器片と31点の石器片・石材(炉石を含む)が出土している。

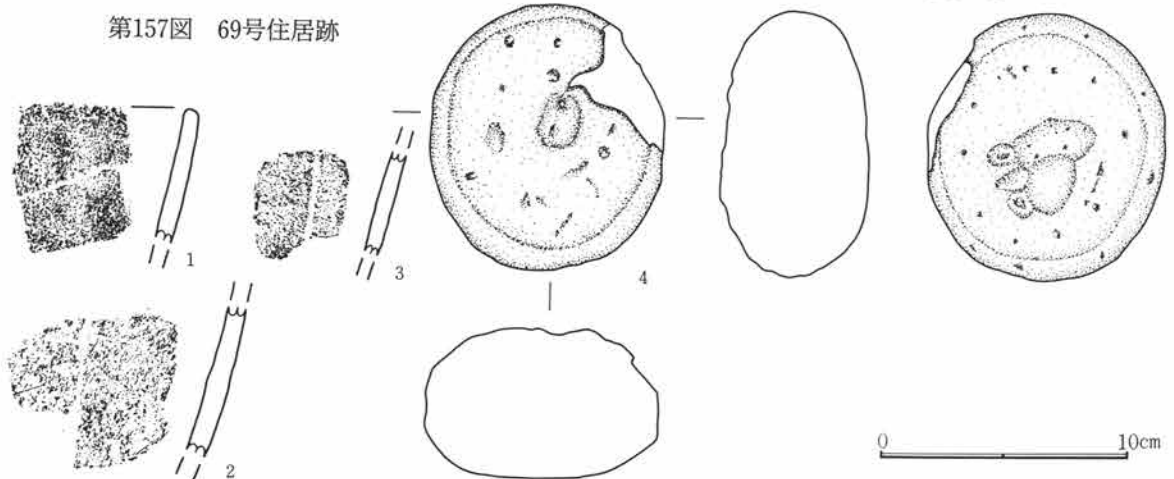
時期 出土遺物からは限定した時期認定は難しく、縄文時代後期初頭の所産と考えておきたい。

備考 本住居跡は、柱穴もなく、住居プラン(掘り込み)を炉のまわりの地表面の浅い落ち込みと捉えれば、単独の屋外炉とすることもでき、その可能性を考慮する必要がある。



第157図 69号住居跡

第158図 69号住居跡 炉



第159図 69号住居跡出土遺物

72号住居跡 (PL, 45・46・129)

位置 Eg-55 床面積 12.6m<sup>2</sup> 主軸方位 不明 残存壁高 0.25m 重複 59住(古)→53→58→72住(新)←73住(古)

規模と形状 長軸長4.5m、短軸長4.1mの円形状を呈す。周壁は、南東部付近で線形がやや乱れているが、掘り込みは安定している。

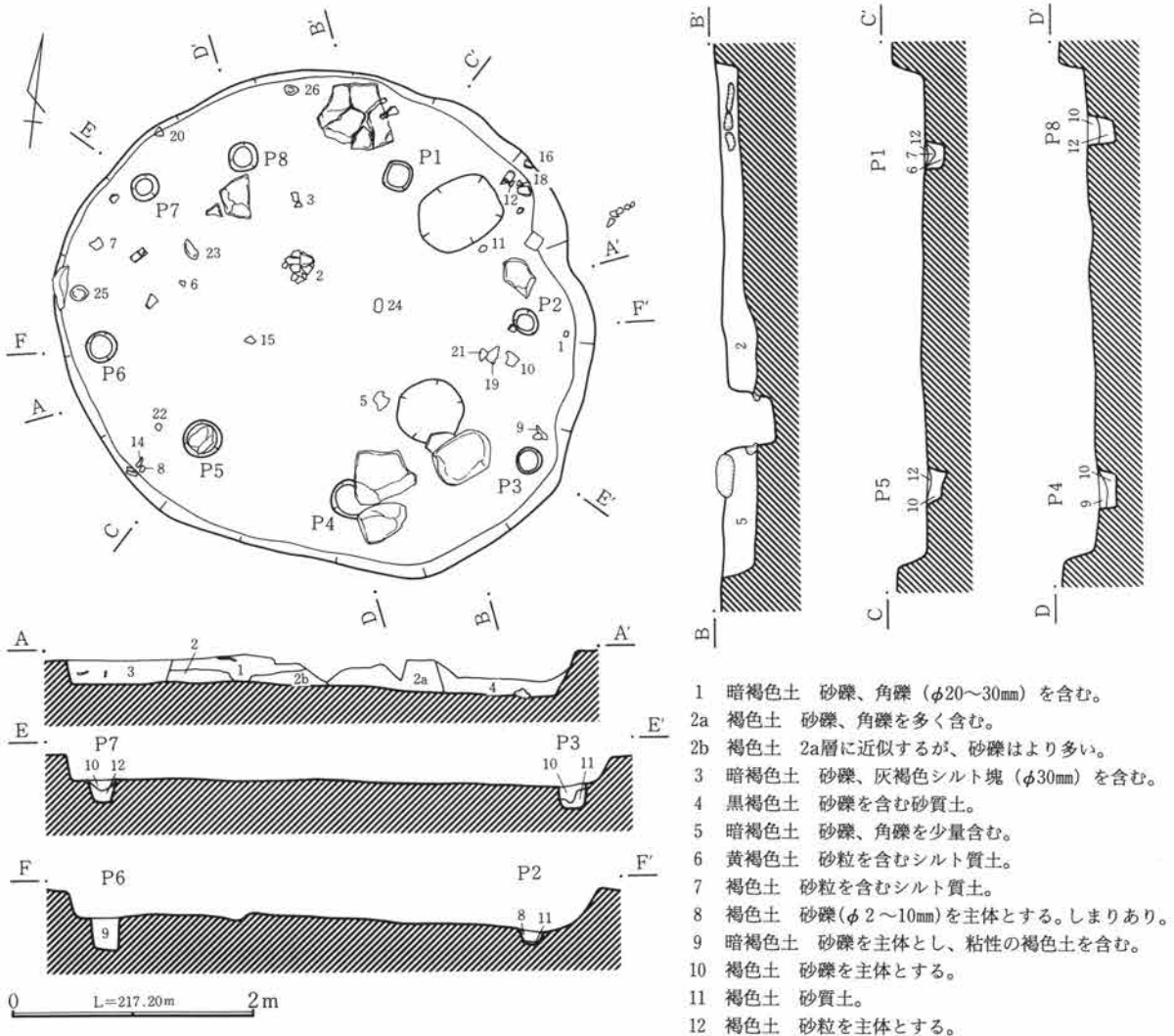
床面 床面は覆土との色調差により容易に識別できたが、かたく踏み締められた痕跡は確認されなかった。シルト質の灰褐色土(地山)を床面とし、比較的良好的な平坦面が形成されている。

炉跡 炉跡は検出されなかった。また、焼土面もしくは炭化物などの分布範囲も確認されていない。

柱穴 総計8基の柱穴が確認されている。いずれも小規模な円形状を呈し、掘り込みも浅いものが多い。柱穴のほかに2基の土坑状の掘り込みがあるが、本住居跡との関係やその性格については不明。

出土遺物 総計173点の土器片類と148点の石器片・石材が出土している。土器には、深鉢形土器・鉢・小形鉢・ミニニチュア土器などの破片類があり、覆土や床面付近から出土している。石器類には、磨製石斧・多孔石・打製石斧のほか岩版があるが、覆土中からのものが多い。

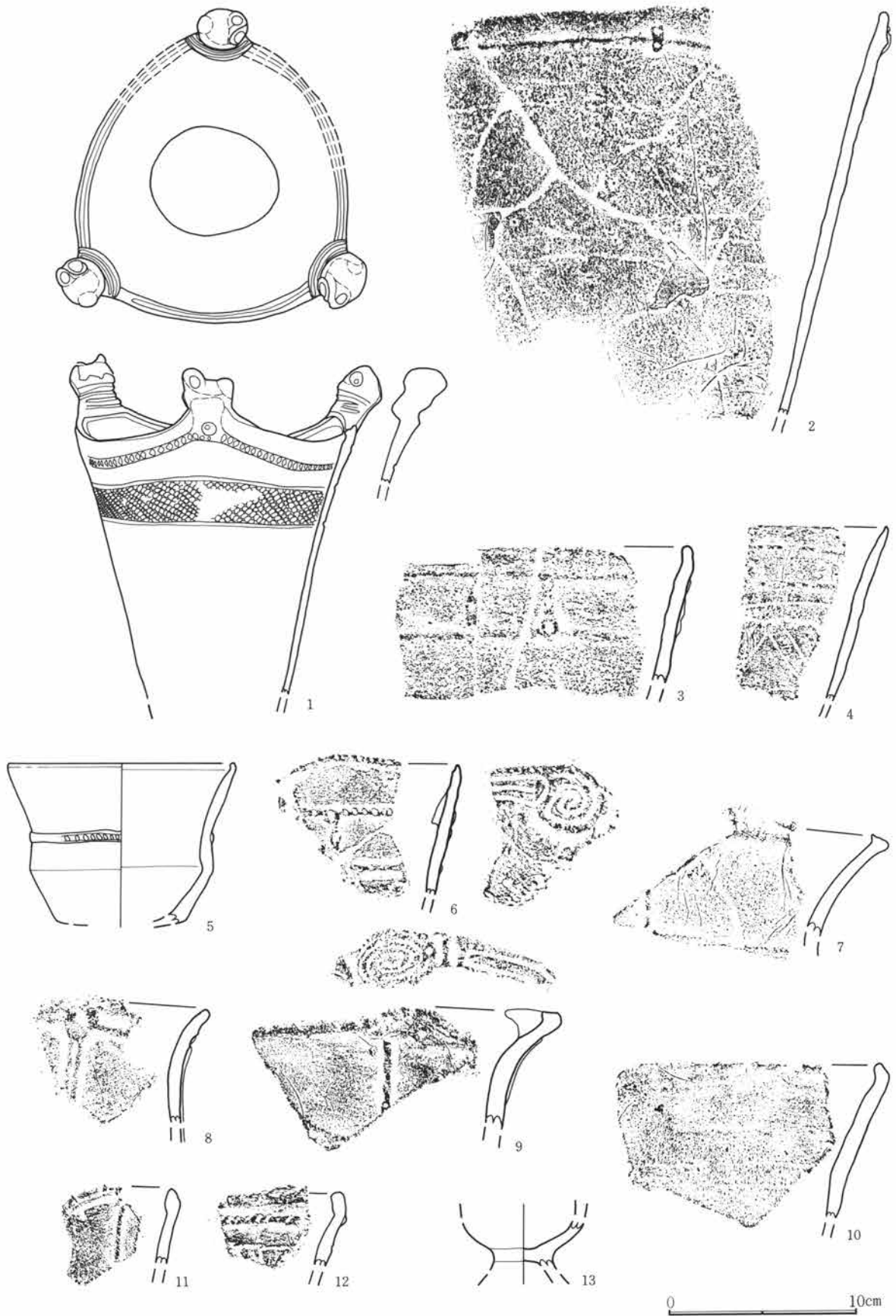
時期 出土遺物から縄文時代堀之内2式終末段階の所産と考えられる。



第160図 72号住居跡



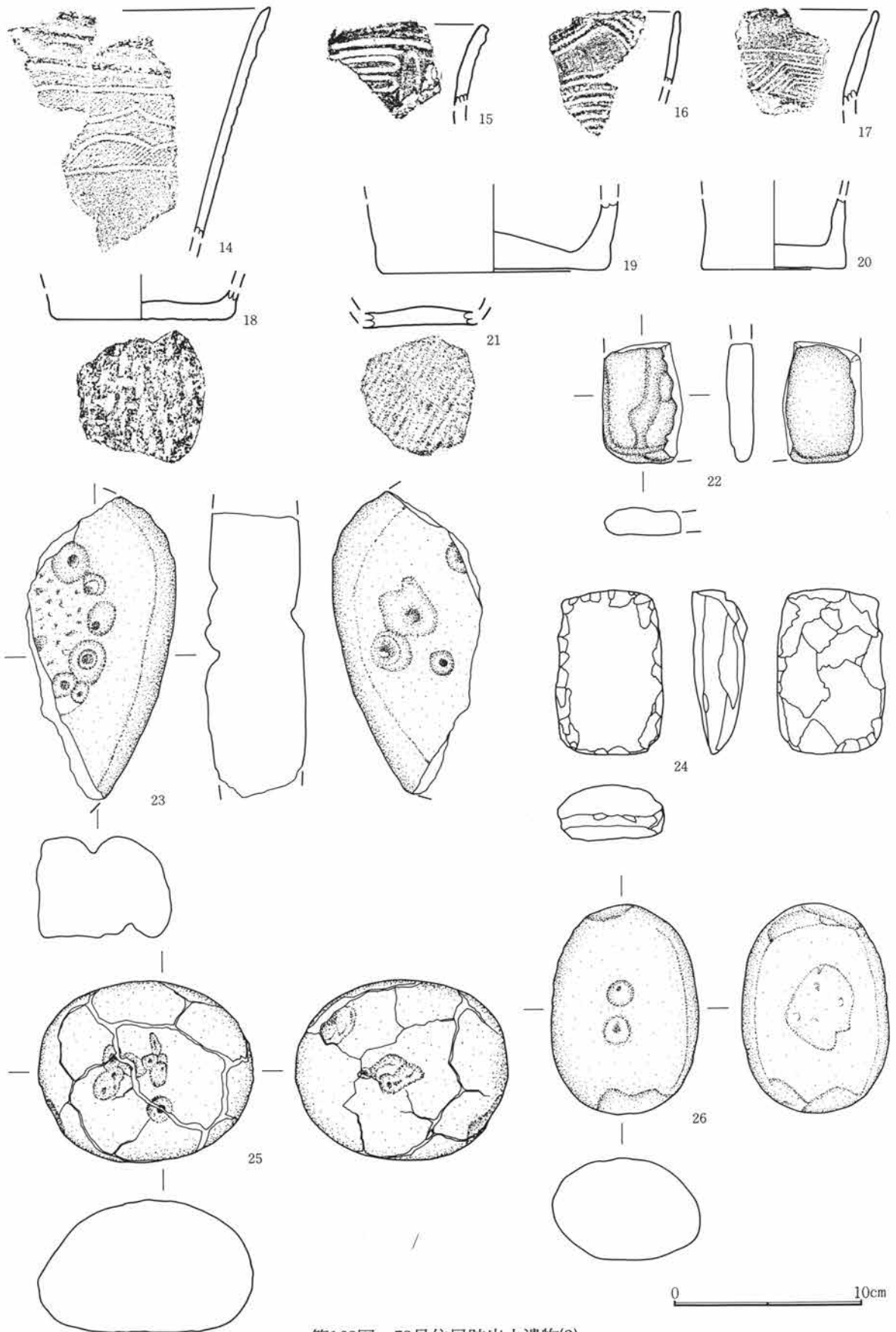
第3章 検出された遺構と遺物



第161図 72号住居跡出土遺物(1)



第1節 竖穴住居跡



第162図 72号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物

73号住居跡 (PL.46・130)

位置 Eh-55 床面積 (16.3)m<sup>2</sup> 主軸方位 不明 残存壁高 0.1m 重複 73住(古)→76住→58住→72住(新)

規模と形状 長軸長4.7m、短軸長(4.5)mの円形状を呈すと推定される。重複部分が多く、残存する周壁は西側と東側の一部にすぎない。柱穴の位置関係から、住居プランのおおよそが推定される。

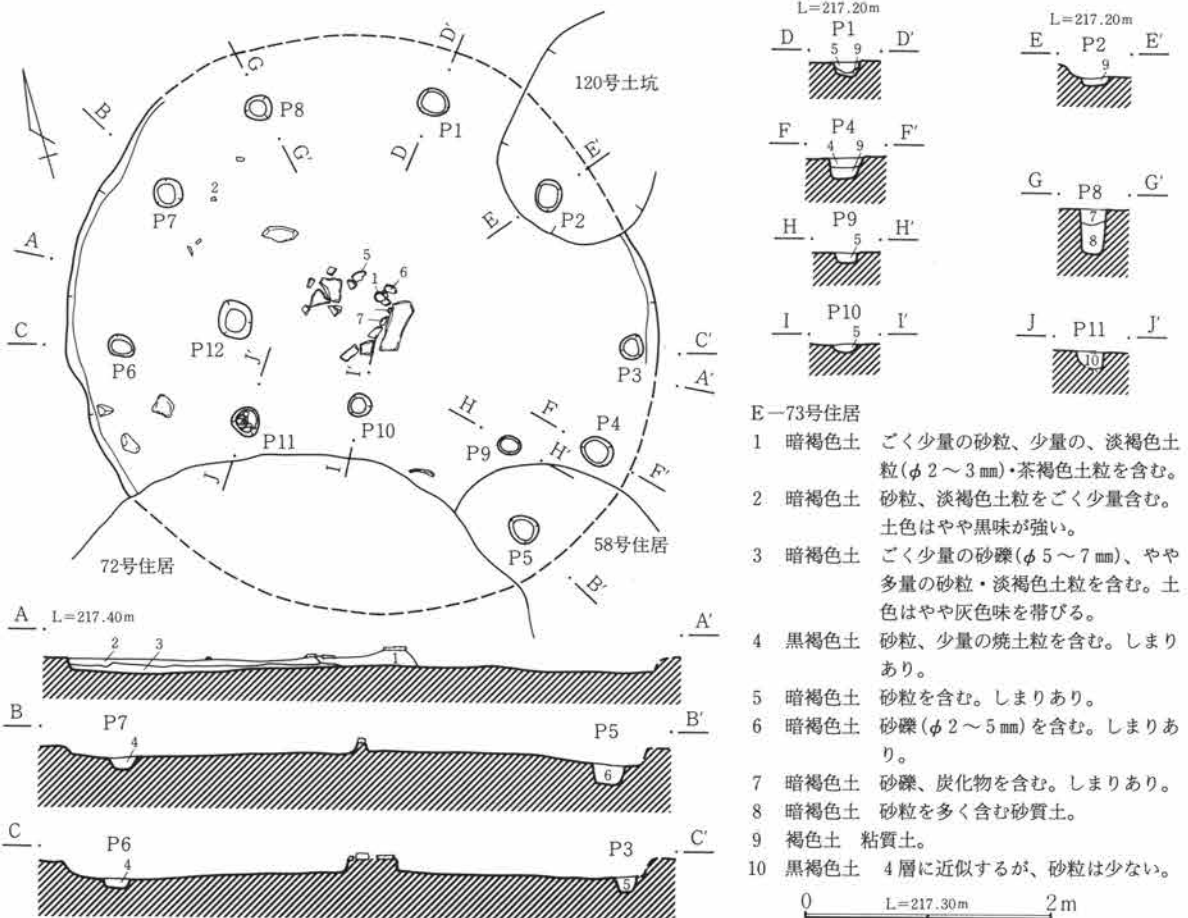
床面 地山の灰褐色シルト質土(砂礫を含む)を床面とし、覆土との色調差から認定された。かたく踏み締められるなどの顕著な傾向は認められないものの、比較的良好な平坦面が形成されていた。

炉跡 住居中央部から検出された礫群は、内側に空白部分が認められ、石囲い状を呈すことから、調査時では炉跡と認定された。これらの礫は、石英閃緑岩と安山岩を主体としている。礫群の付近からは、焼土面や炭化物の分布範囲などが確認されず、礫も二次的火熱を受けた痕跡が顕著でない。また、いずれの礫も床面からやや浮いた位置から検出しており、明らかに炉跡であるというにはやや根拠に乏しい。

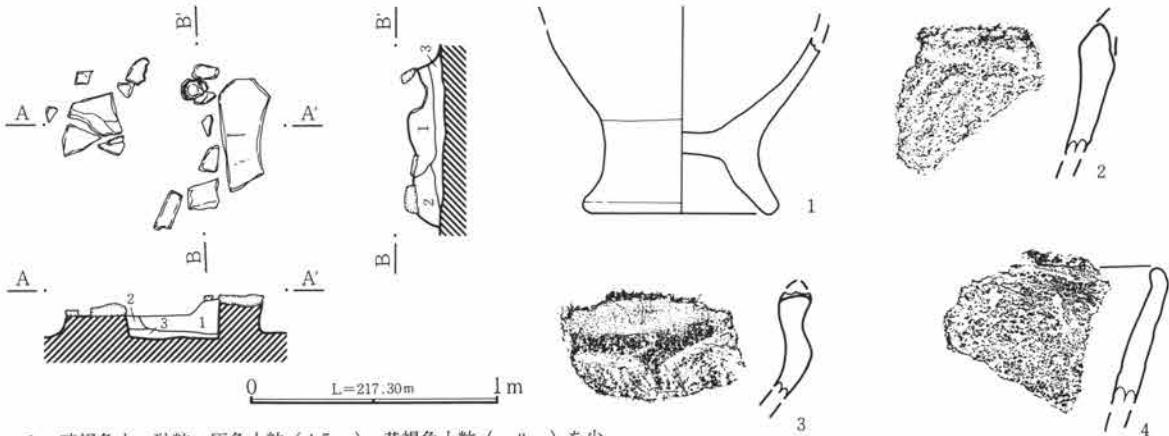
柱穴 総計12基の小ピットが検出され、このうち柱穴と考えられるものが8基ある。重複部で破壊されたものが等間隔に3基あったとすれば、11基の柱穴が推定されよう。

出土遺物 出土遺物は少なく、総計19点の土器片類と56点の石器片・石材が出土したにすぎない。覆土中からのものが多く、深鉢形土器の破片類や脚台のある土器片などがあり、石器類としては磨石・打製石斧を図示整理しておく。

時期 出土遺物から、縄文時代中期加層利E式平行期の所産と考えられるが判然としない。

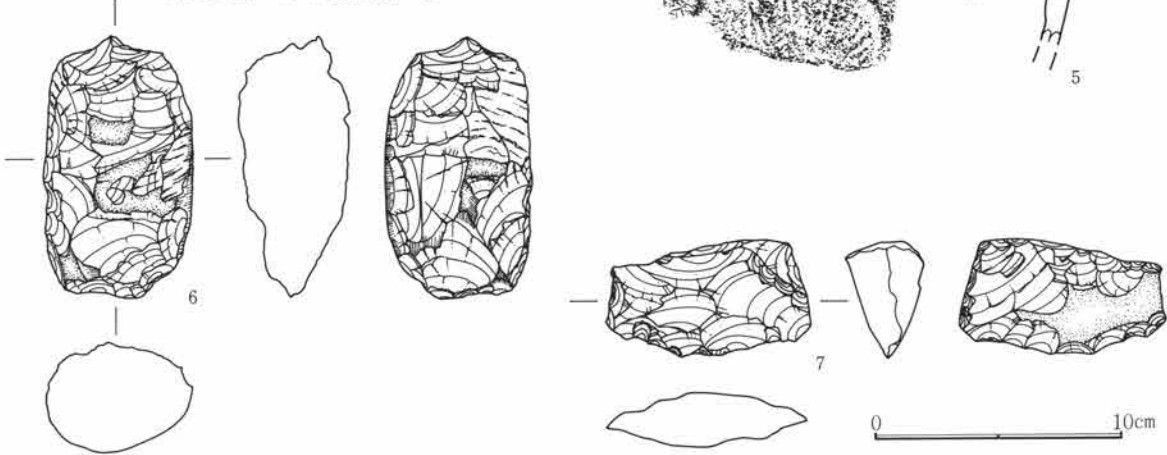


第163図 73号住居跡



- 1 暗褐色土 砂粒、灰色土粒 (φ 5 mm)、黄褐色土粒 ( // ) を少量含む。
- 2 暗褐色土 少量の砂粒、ごく少量の白色粒を含む。
- 3 褐色土 やや多量の灰黄褐色土粒 (φ 2~3 mm)、ごく少量の、砂粒・焼土粒・炭化物を含む。

第164図 73号住居跡 炉



第165図 73号住居跡出土遺物

74号住居跡 (PL. 47・130)

位置 Ef-56 床面積 4.8㎡ 主軸方位 不明 残存壁高 0.15m 重複 53住と近接する。重複 なし  
 規模と形状 長軸長2.65m、短軸長2.6mのやや不整の円形状のプランを呈す。規模が極めて小さいことから、  
 竪穴状遺構もしくは土坑と認定すべきであるかもしれないが、ほぼ中央部に土坑状の掘り込みをもち、居住  
 した可能性を否定できないため、ここでは住居跡として整理しておきたい。

床面 覆土との色調差により、地山の灰褐色シルト質土 (砂礫を含む) を床面と認定した。床面には若干の  
 起伏が認められ、踏み締められたかたい面などは確認されなかった。

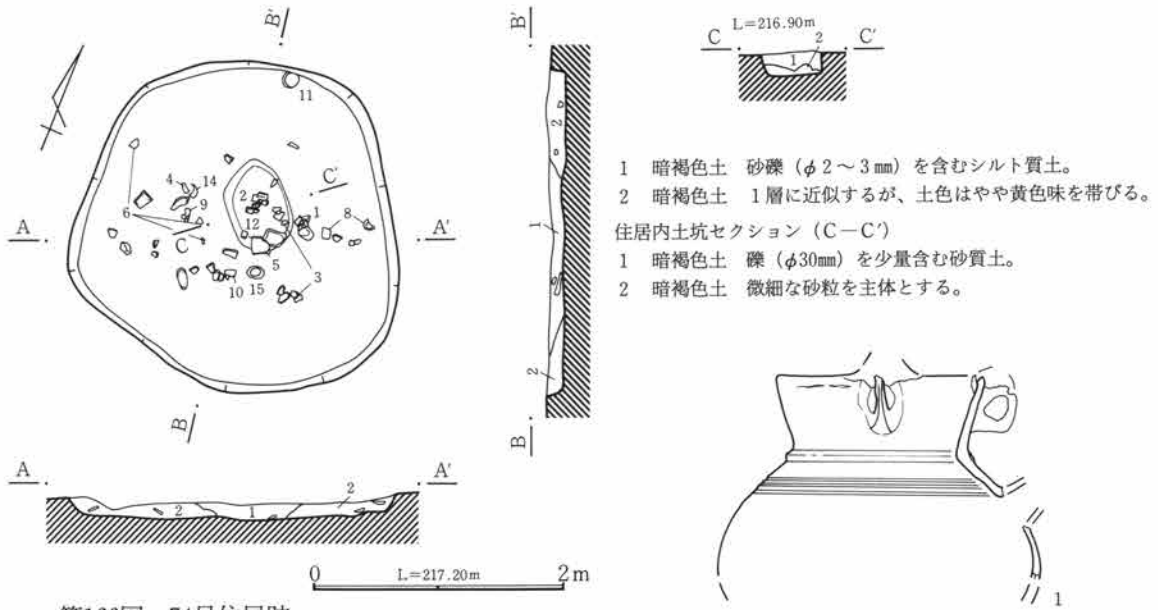
炉跡 炉跡は検出されなかったが、中央部に長円形を呈した土坑状の掘り込みが確認されている。土坑内に  
 焼土・炭化物などの分布は確認されなかった。

柱穴 プラン内外を精査したが検出されなかった。

出土遺物 総計76点の土器片類と64点の石器片・石材が出土している。覆土中からの出土が多く、深鉢形土  
 器の口縁部・胴部片や注口土器の破片類のほか、打製石斧・磨石などの石器類を図示し整理しておく。

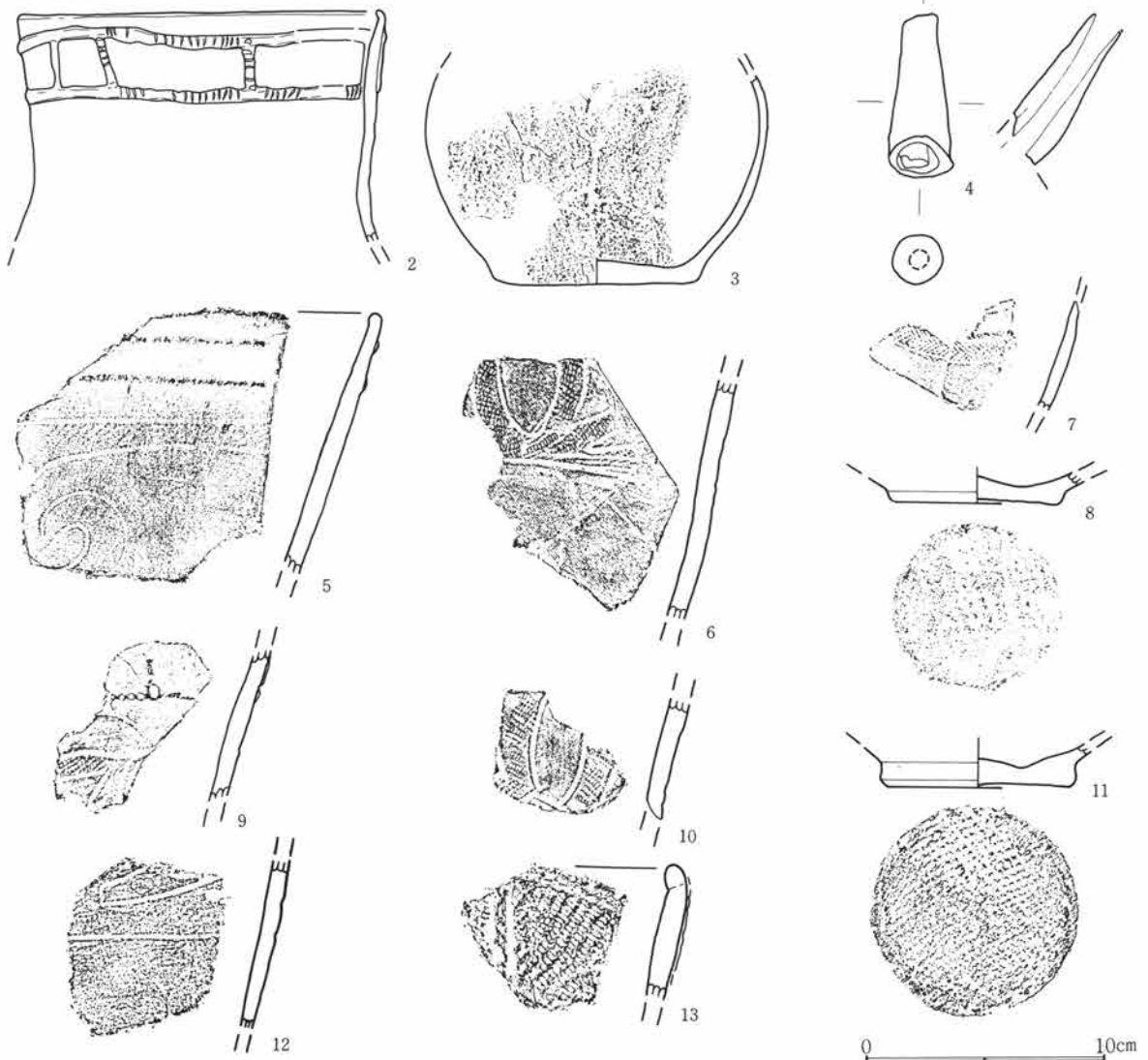
時期 出土遺物から、縄文時代後期堀之内2式終末段階の所産と考えられる。

第3章 検出された遺構と遺物

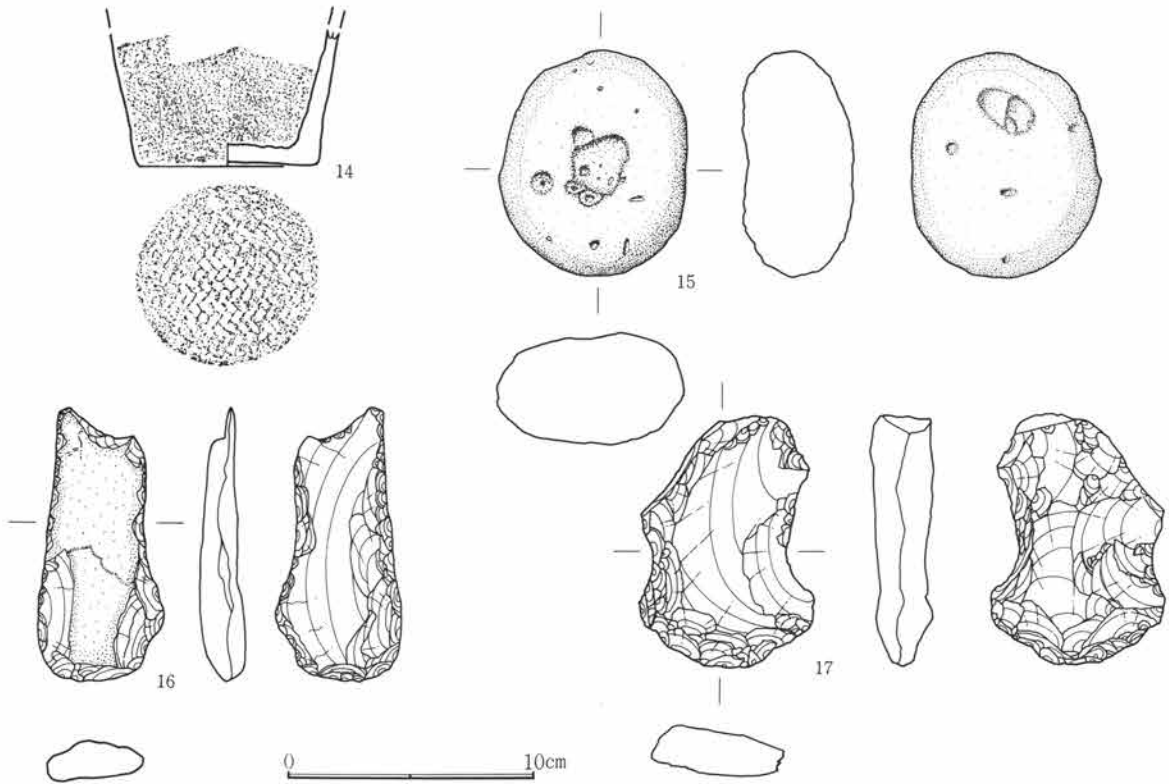


- 1 暗褐色土 砂礫 (φ2~3mm) を含むシルト質土。
  - 2 暗褐色土 1層に近似するが、土色はやや黄色味を帯びる。
- 住居内土坑セクション (C-C')
- 1 暗褐色土 礫 (φ30mm) を少量含む砂質土。
  - 2 暗褐色土 微細な砂粒を主体とする。

第166図 74号住居跡



第167図 74号住居跡出土遺物(1)



第168図 74号住居跡出土遺物(2)

75号住居跡 (PL. 47・130)

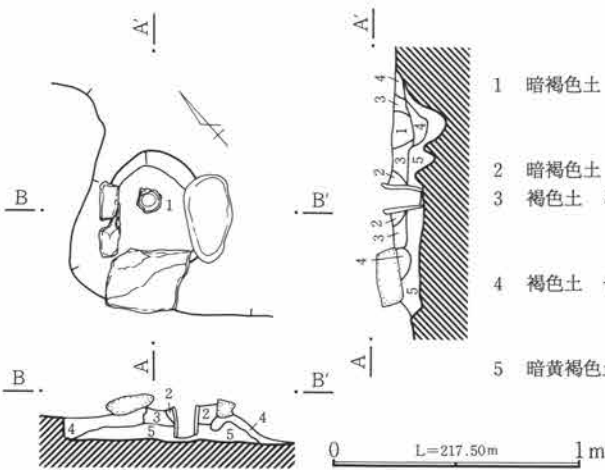
位置 Ej-54 床面積 測定不能 主軸方位 不明 残存壁高 0m 重複 なし 規模と形状 炉跡のみ  
 検出された。

床面 炉跡付近は攪乱が著しく、残存する床面は地山が見られ、床面と掘り方面が共有されると認定した。

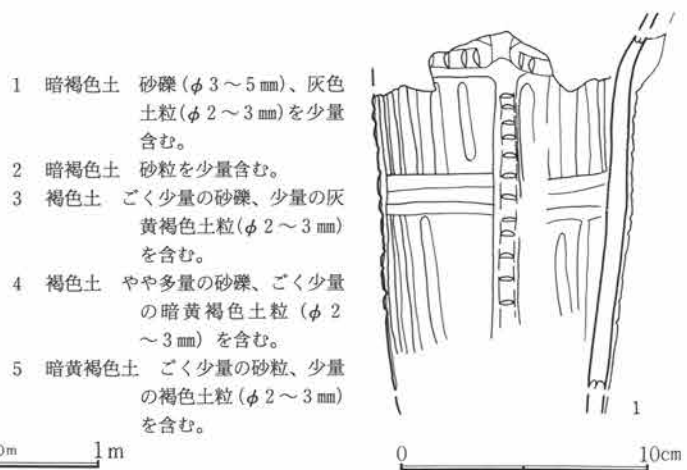
炉跡 「コ」の字状を呈する石囲い炉を検出した。炉石は安山岩と砂岩からなり一石が抜き取りられていた。  
 炉内には炉体土器が埋設され、底部と口縁部を欠き二次焼成を受けている。

柱穴 検出できなかった。出土遺物 炉体土器と炉石のほかは、本住居跡に伴う遺物は出土していない。

時期 炉体土器から縄文時代中期勝坂式終末期の所産と考えられる。備考 単独の屋外炉の可能性はある。



第169図 75号住居跡 炉



第170図 75号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

76号住居跡 (PL. 48・130・131)

位置 Eh-56 床面積 7.7m<sup>2</sup> 主軸方位 不明 残存壁高 0.3m 重複73住(古)→76住(新)←77住(古)

規模と形状 長軸長3.6m、短軸長3.0mの南北に長い楕円状を呈す。掘り込みが比較的しっかりしているため、住居跡と認定された。周壁は、重複部の一部で破壊され、線形もやや乱れている。

床面 覆土との色調差や遺物の出土レベルなどで認定され、比較的良好な平坦面が形成されていた。

炉跡 検出されなかった。焼土及び炭化物の分布範囲なども検出されなかった。

柱穴 住居プラン内外ともに検出されなかった。

出土遺物 出土遺物は比較的多く、総計102点の土器片類と110点の石器片・石材が出土している。覆土中からのものが多く、深鉢形土器・注口土器の土器片及び打製石斧・スクレーパー・磨石などの石器類がある。

時期 出土遺物から、縄文時代後期掘之内2式平行期の所産と考えられる。

77号住居跡(1号竪穴状遺構) (PL. 48)

位置 Eg-55 床面積 測定不能 主軸方位 不明 残存壁高 0.1m 重複 77住(古)→73住→76住→58住→72住(新)

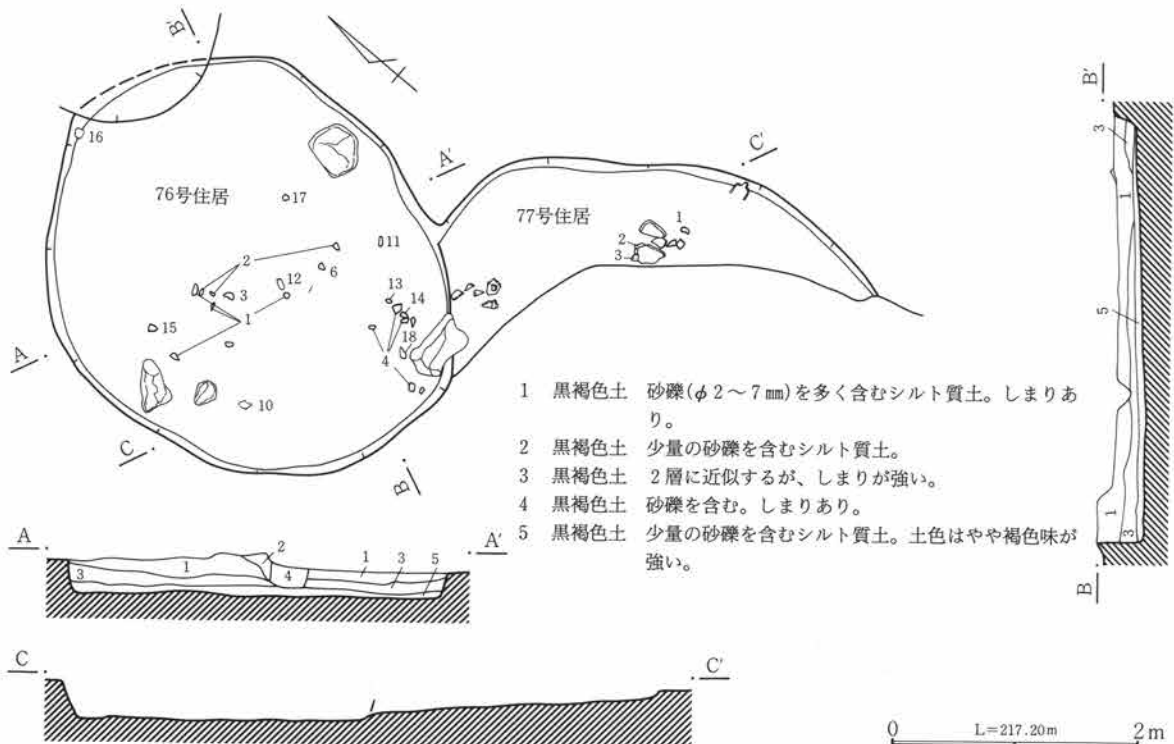
規模と形状 大半を72号住居跡を初めとする他住居跡に破壊され、全容は不明。

床面 残存部分が少なく、詳細については不明。灰褐色シルト質土(地山)を床面としたが、覆土と明瞭な色調差がないため、遺物の出土位置などから認定されている。

炉跡 検出されなかった。柱穴 検出されなかった。

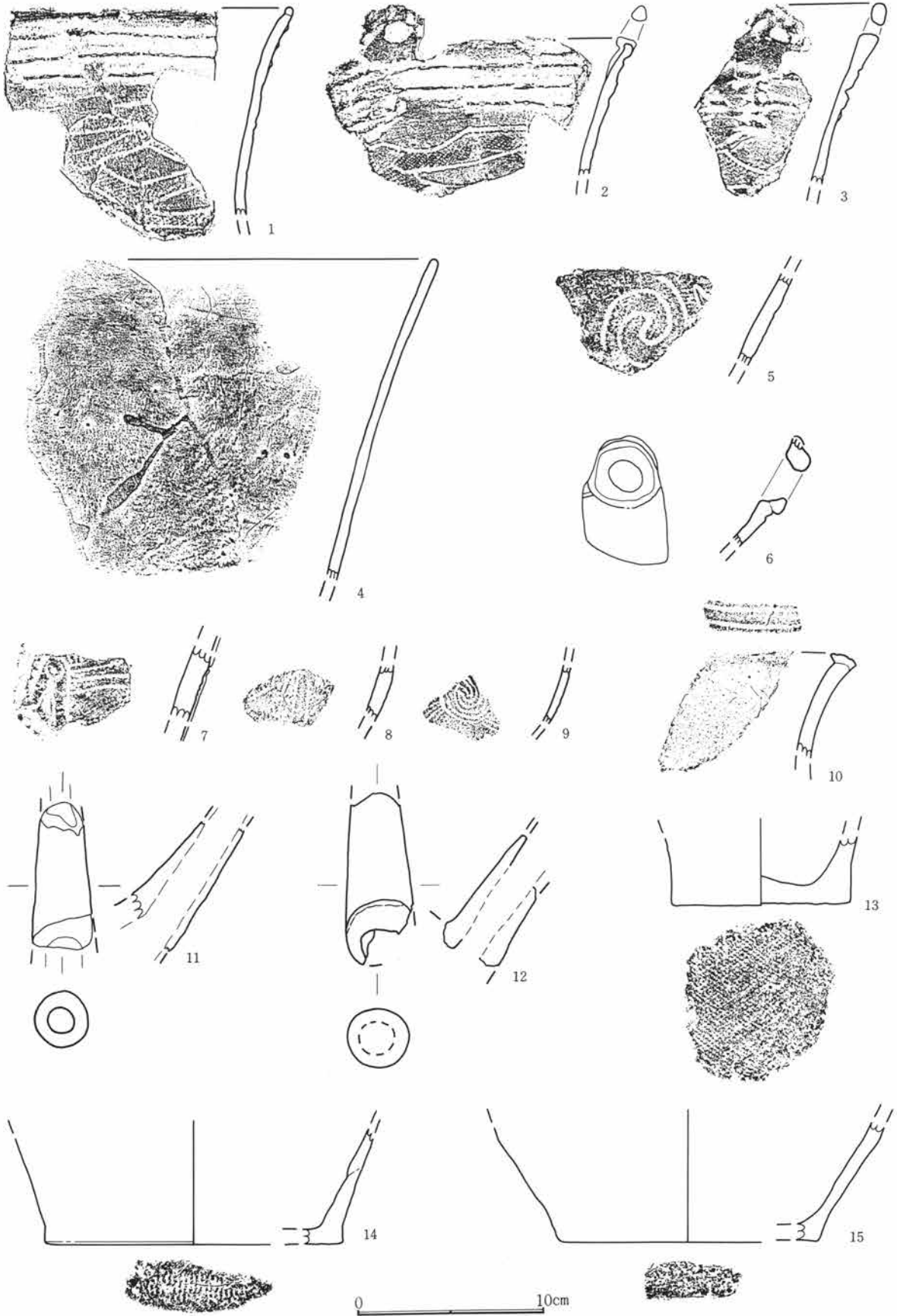
出土遺物 出土遺物は少ない。総計17点の土器片類と13点の石器・石材が出土している。いずれも床面付近からの出土で、深鉢形土器の破片類と磨石を図示し整理しておく。

時期 出土遺物は、縄文時代中期加曾利E式平行期の所産と考えられる。



第171図 76・77号住居跡

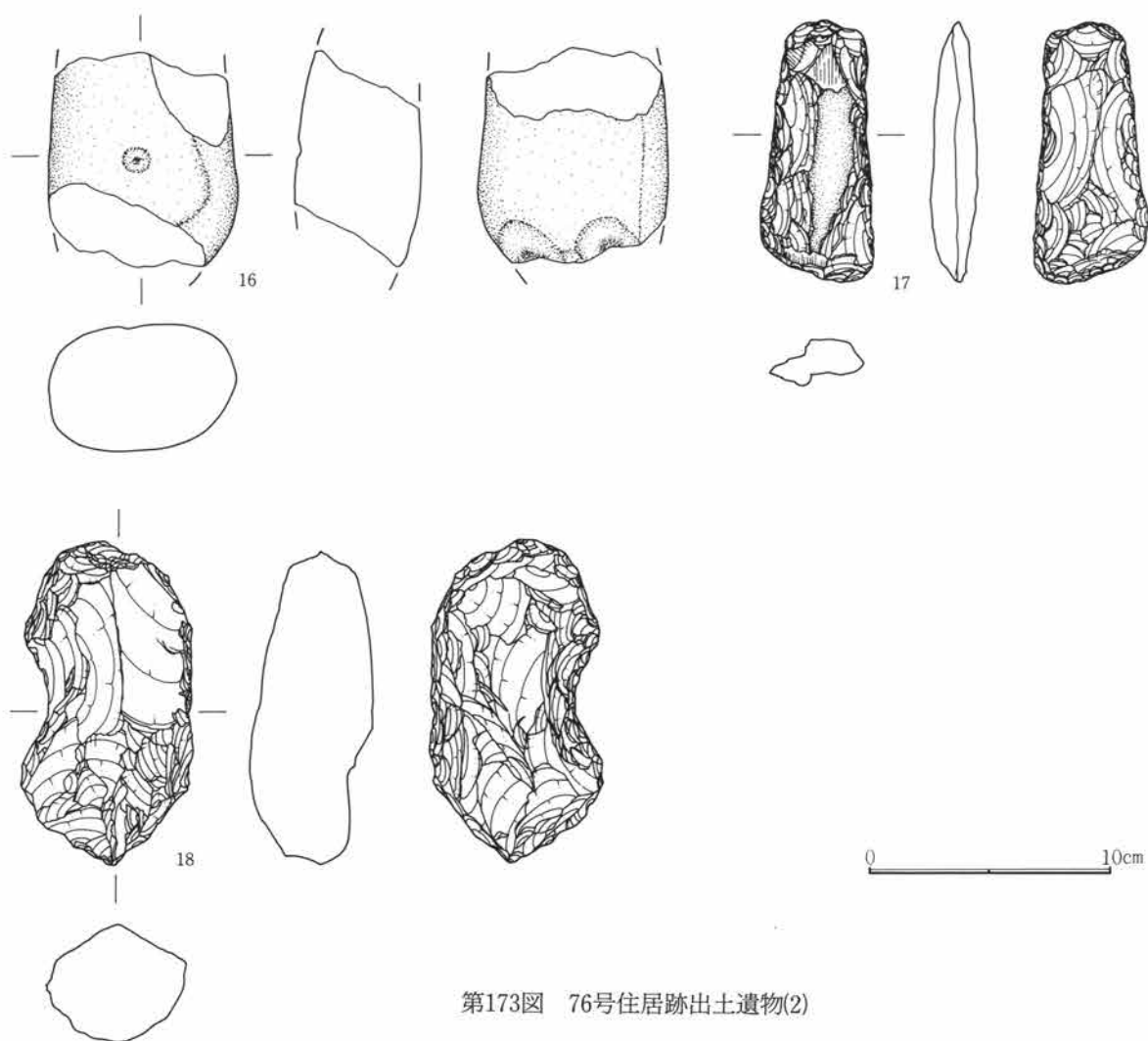
第1節 豎穴住居跡



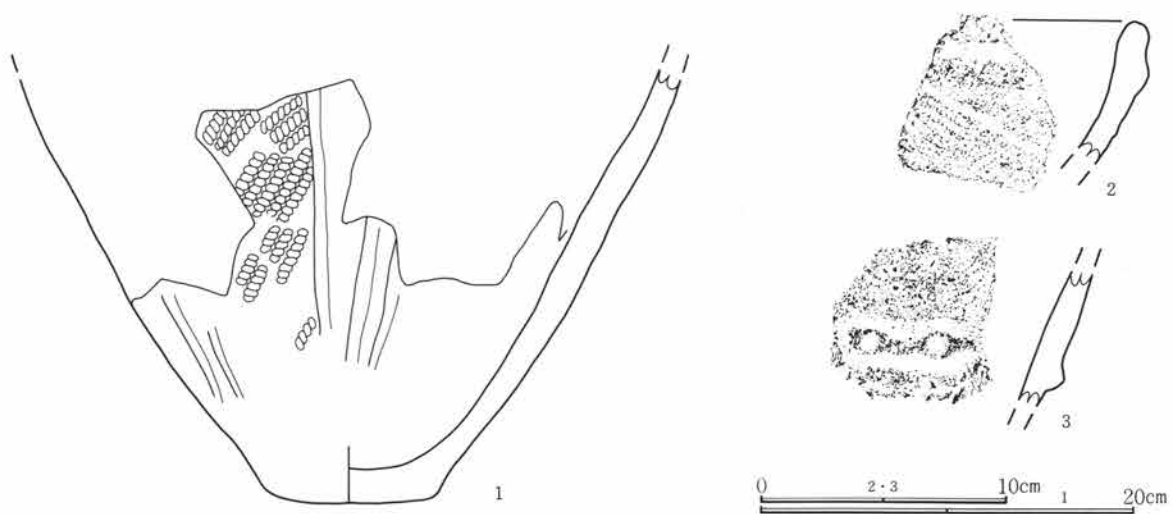
第172圖 76号住居跡出土遺物(1)



第3章 検出された遺構と遺物



第173図 76号住居跡出土遺物(2)



第174図 77号住居跡出土遺物

78号住居跡 (PL. 48・131)

位置 Ef-52 床面積 不明 主軸方位 測定不能 残存壁高 0m 重複関係 なし

規模と形状 調査時に173号土坑として扱われるが、整理段階で炉跡であると認定し住居跡で扱った。

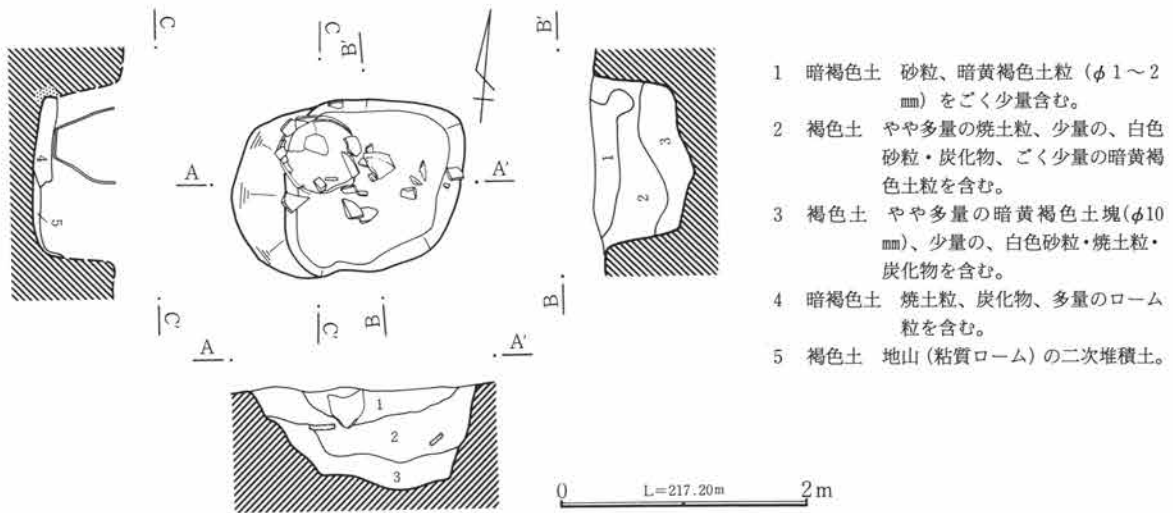
床面 住居跡と認識して調査がなされていないが、炉跡の確認面がおおよその床面レベルと考えられる。

炉跡 やや不整形な方形状を呈した掘り方面の確認をし炉体土器を検出した。炉体土器は口縁部を欠く深鉢型土器で、炉の北西隅に埋設され、明らかな二次焼成痕が認められる。また、掘り方面の周壁の一部では焼土面が確認され、炉体土器埋設前の一時使用面とも考えられる。

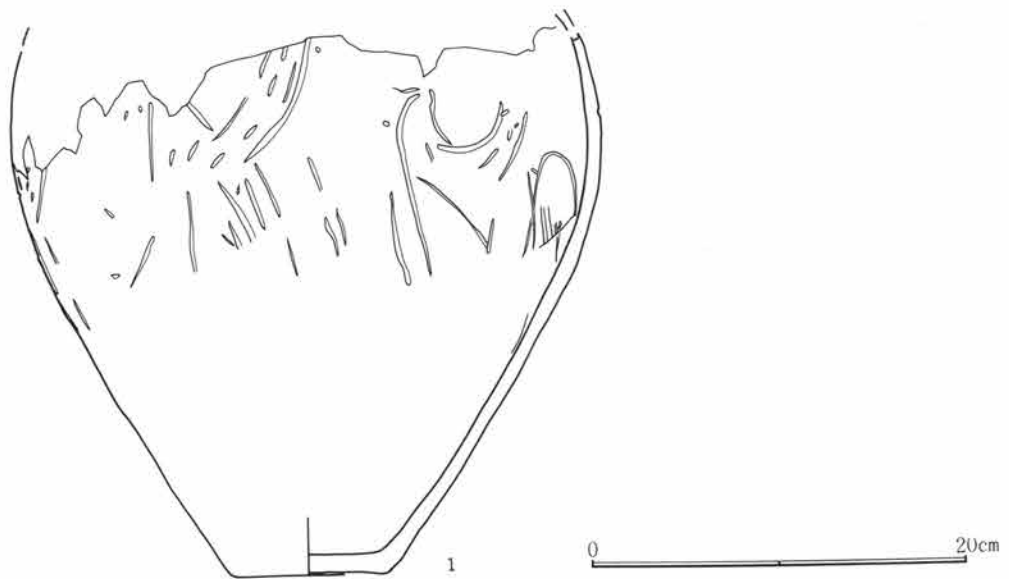
柱穴 検出されなかった。

出土遺物 4点の土器片と13点の石片類が出土。炉体土器は、内外面上端部に二次焼成痕が認められる。

時期 炉体土器から、縄文時代後期称名寺式平行期の所産と考えられる。



第175図 78号住居跡



第176図 78号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

1号住居跡 (PL.49・132)

位置 Ec-64 床面積 8.8㎡ 主軸方位 N-90°-E 残存壁高 0.25m

重複 2住・4住(古)→1住(新)

規模と形状 長辺3.8m、短辺2.48mの縦長長方形を呈するが、西半分は覆土と地山の差が不明瞭であり、掘り過ぎの可能性がある。かまど左袖脇は楕円形状に張り出し、ピットとの重複の可能性も考えられる。

床面 かまど前に焼土粒・灰の広がりが見られ、北側の床面が若干低く、全体に起伏が認められる。

かまど 東壁中央部の壁を掘り込み、僅かに袖を有するかまどを構築している。方形状の燃焼部に短い煙道部が取り付けられ、燃焼部内壁面は垂直に立ち上がり、焼土面が認められる。火床面は床面より僅かに窪み灰の堆積が見られる。かまど近辺からはかまど用石材の安山岩や砂岩が散乱していた。また、かまど右袖部からは、袖石の抜きとり痕と思われる小ピットが検出されている。本かまどは、石材を骨組みとした構造と推定され、住居廃棄時に人為的に破壊された可能性が考えられる。

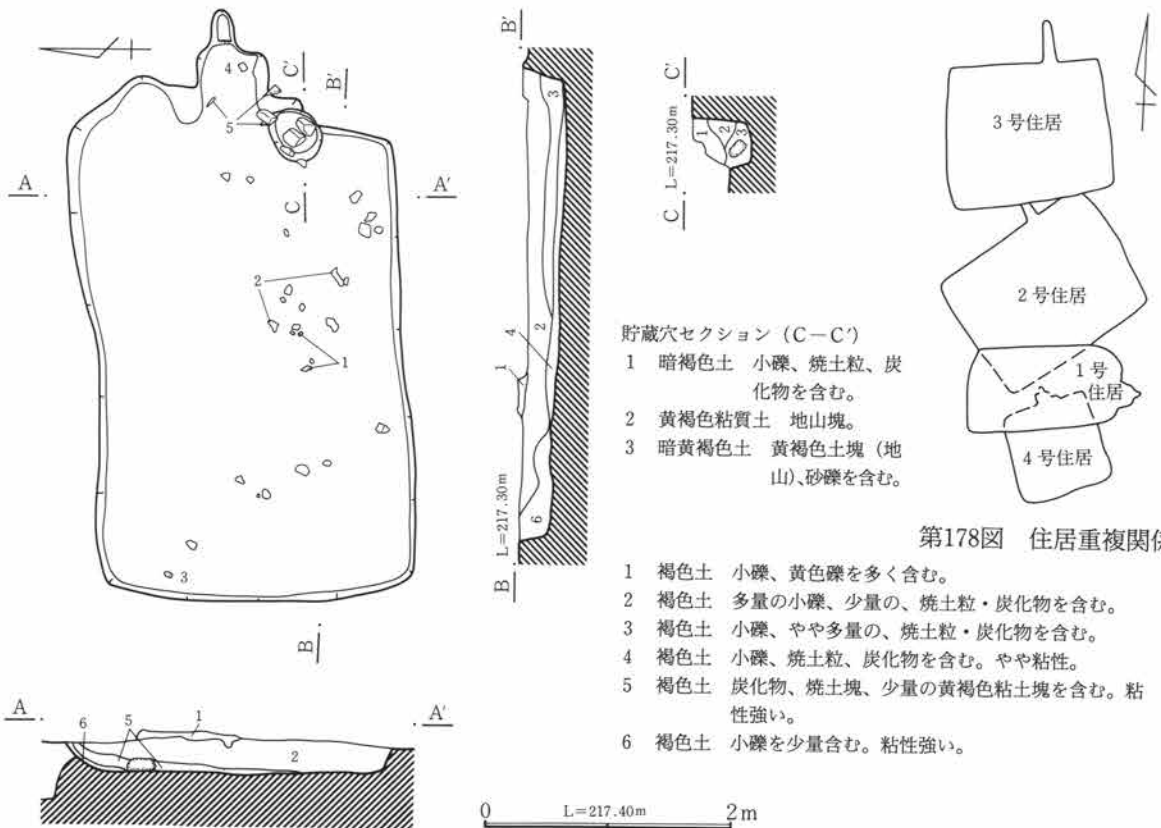
貯蔵穴 かまど右袖付近から、小規模で浅い掘り込みの貯蔵穴状ピットが検出され、中からは焼土粒・炭粒を含み、またかまど用石材も検出されている。

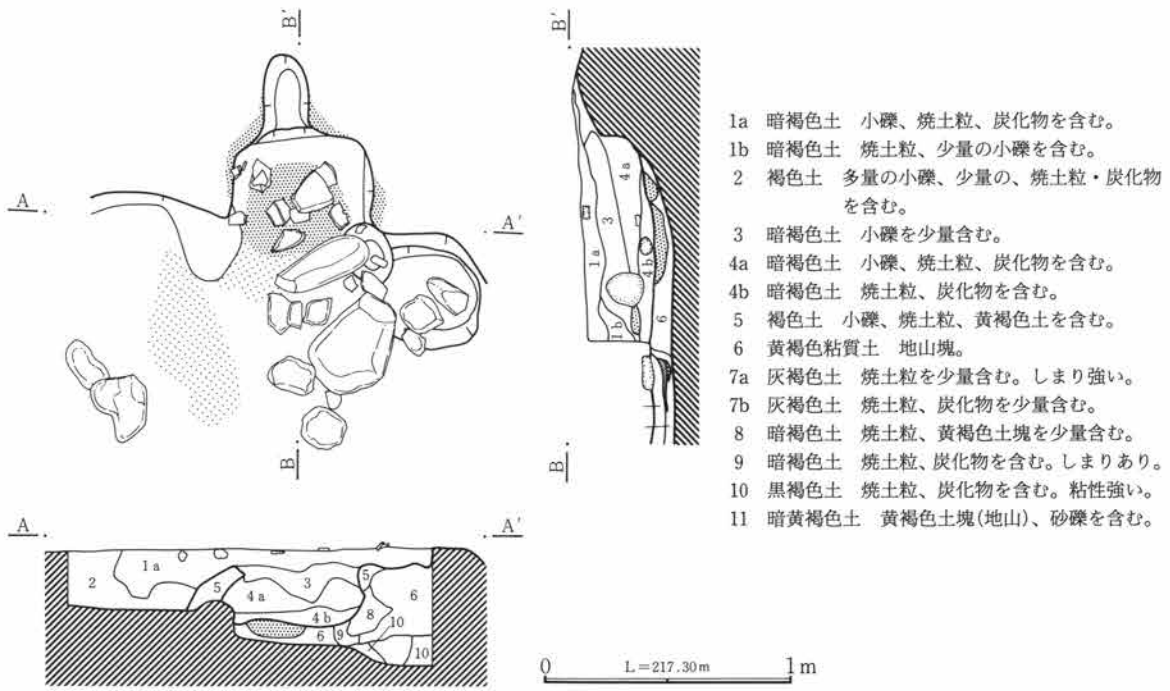
壁下周溝・柱穴 いずれも検出されなかった。

出土遺物 総計65点の土器片類と17点の石片・石材が出土している。いずれも床面付近や覆土中からの出土で、羽釜、ロクロ成形の高台付埴のほか、灰釉陶器高台付埴などがある。

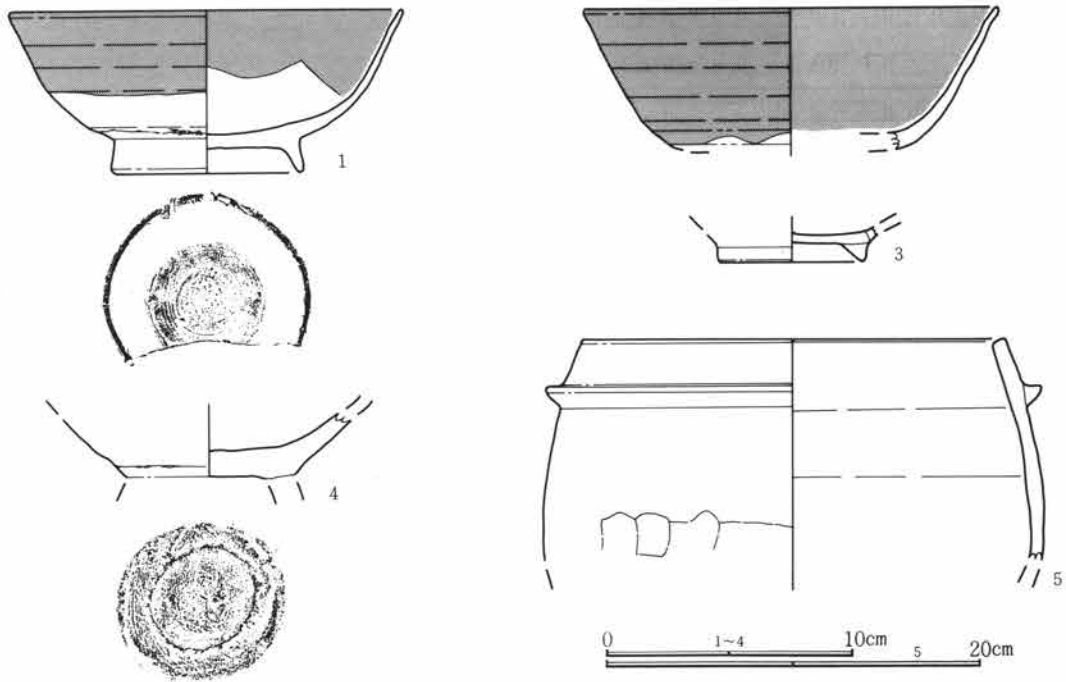
掘り方 床面と掘り方がほぼ一致し、床面下から遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、10世紀代後半と考えられる。





第179図 1号住居跡かまど



第180図 1号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

2号住居跡 (PL. 49)

位置 Ec-64 床面積 15.4m<sup>2</sup> 主軸方位 N-38°-W 残存壁高 0.6m 重複 2号住→1・3号住  
規模と形状 長辺4.84m、短辺3.66mの横長長方形のプランを呈する。

床面 かまど前を中心にかたく踏み締められた面が確認され、薄く地山塊の混土を貼る。

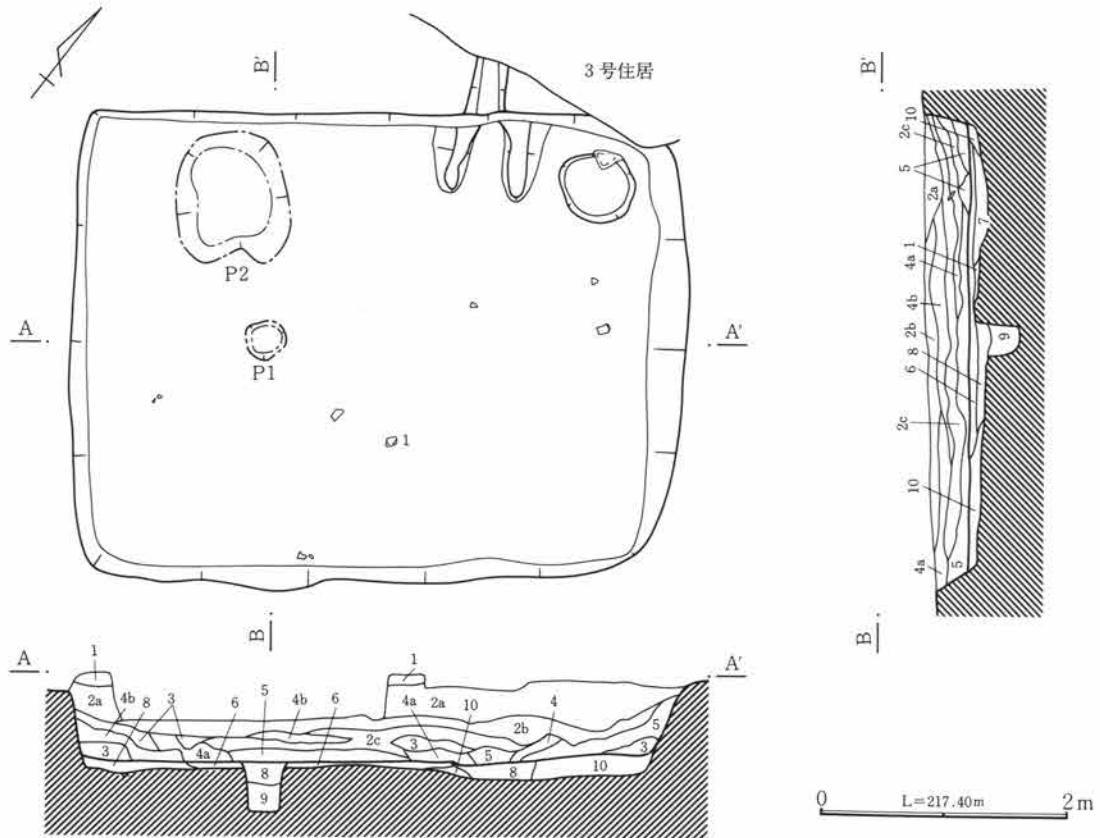
かまど 北壁中央部南寄りに袖を有するかまどが構築される。煙道部先端部が3号住居跡によって破壊される。袖は地山塊の混土を貼り付け構築している。燃焼部は、底面や側壁に僅かに焼土面が検出されている。煙道部では天井部焼土面の崩落が認められる。貯蔵穴 南東隅から検出され、浅い円形状を呈する。

壁下周溝・柱穴 いずれも検出されなかった。出土遺物 14点の土器片類が出土している。

掘り方 床面下から小ピットと浅い土坑状の掘り込みが検出されている。

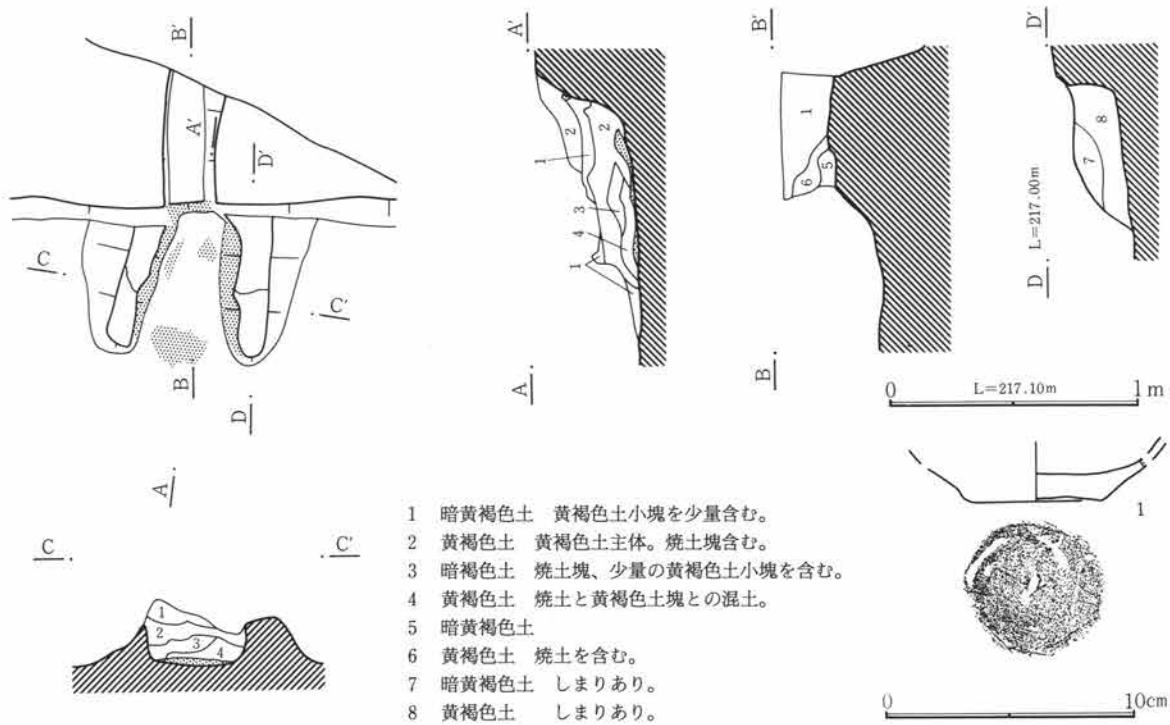
時期 出土遺物や住居形態から、古墳時代後期の所産と考えられる。

備考 覆土中に地山塊混土を多量に含む層が見られ、人為的に埋土されたと考えられる。



- |                             |                        |
|-----------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色土 As-B主体。              | 5 暗褐色土 黄色礫を含む。粘性強い。    |
| 2a 褐色土 小礫、黄色礫を多く含む。         | 6 暗黄褐色土 砂粒、黄褐色土塊を含む。   |
| 2b 褐色土 2a層に近似するが、含有物の量は少ない。 | 7 黄褐色土 黄色土塊と黄褐色土塊との混土。 |
| 2c 褐色土 2b層に近似するが、黄灰色塊を含む。   | 8 暗灰褐色土 砂粒、黄褐色土を含む。    |
| 3 暗褐色土 小礫を少量含む。粘性強い。        | 9 灰褐色シルト質土             |
| 4a 暗灰褐色土 黄褐色粘土塊を多く含む。粘性強い。  | 10 砂礫層                 |
| 4b 暗灰褐色土 黄褐色粘土塊を少量含む。       | 11 黄茶色シルト質土            |

第181図 2号住居跡



第182図 2号住居跡かまど・出土遺物

3号住居跡 (PL. 49・50・132)

位置 Ed-65 床面積 14.2m<sup>2</sup> 主軸方位 N-7°-W 残存壁高 0.7m 重複 2住(古)→3住(新)  
 規模と形状 長辺4.34m、短辺3.80mのやや横長長方形のプランを呈し、周壁は崩落も少なく安定した掘り込みで、ほぼ直線的に走行する。

床面 住居西側部分がやや荒れているが、かまど前から貯蔵穴にかけて灰面の広がり見られた。住居中央部に薄い地山塊の混じる堅い面が互層をなす。周辺部は締めりは弱く、貼り床面は不明瞭であった。

かまど 東壁中央南寄りに袖を有するかまどが構築されている。袖は地山黄褐色土塊主体の土で築かれている。燃焼部側壁に焼土面をよく残しているが、天井部のほとんどが崩落している。砂岩の用石が貯蔵穴内から検出されている。煙道部は使用時の痕跡をよくとどめ、燃焼部奥壁から僅かな勾配をもって煙道口に至り、水平方向に屋外に伸びる。煙出し部は、ほぼ直角に立ち上がり全面焼土化する。煙道部断面は方形を呈し、トンネル式に地山をくりぬいて構築されている。煙道部内側の上面部分と立ち上がり付近がよく焼け込み、レンガ化もしくは黒色に変色している。

貯蔵穴 住居北東隅にあり、円形状を呈す。板状砂石をはじめ比較的多い土器片類が認められた。

壁下周溝 壁下周溝は検出されなかった。

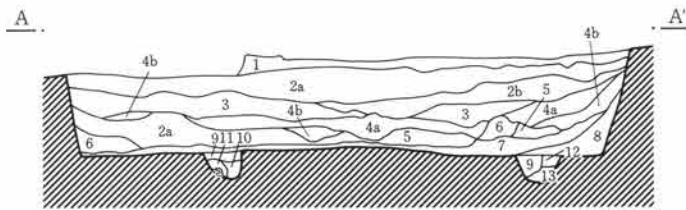
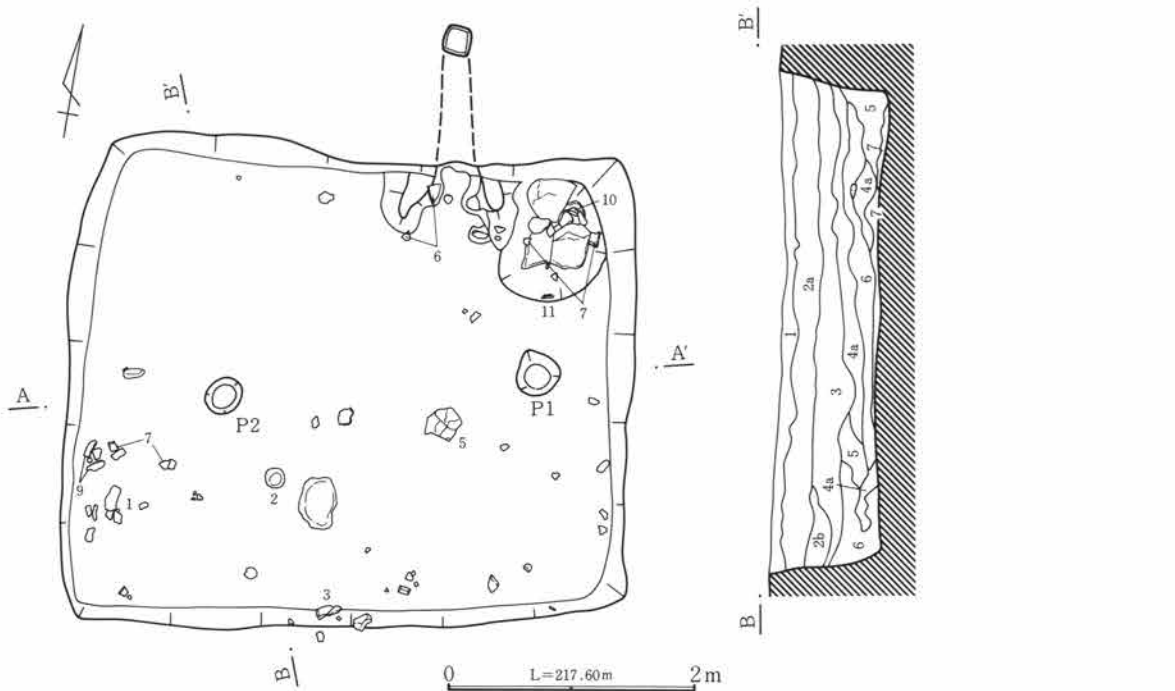
柱穴 住居中央部の東西方向に、2基の柱穴が認定された。いずれも浅く小規模なものである。

出土遺物 総計139点の土器片類、石製品・石片が21点、鉄製品・鉄滓が4点それぞれ出土している。土師器甕・坏、須恵器蓋のほかは紡錘車、丸棒状鉄製品などがある。土師器坏はほぼ完形品。

掘り方 層厚0.1~0.2mの床面を構成する土層下は、住居壁際が幅1m前後で、深さ0.1mと浅く溝状に掘りくぼめられていた。また、北西隅部からは、浅い円形状のピット(土坑状)が検出されている。

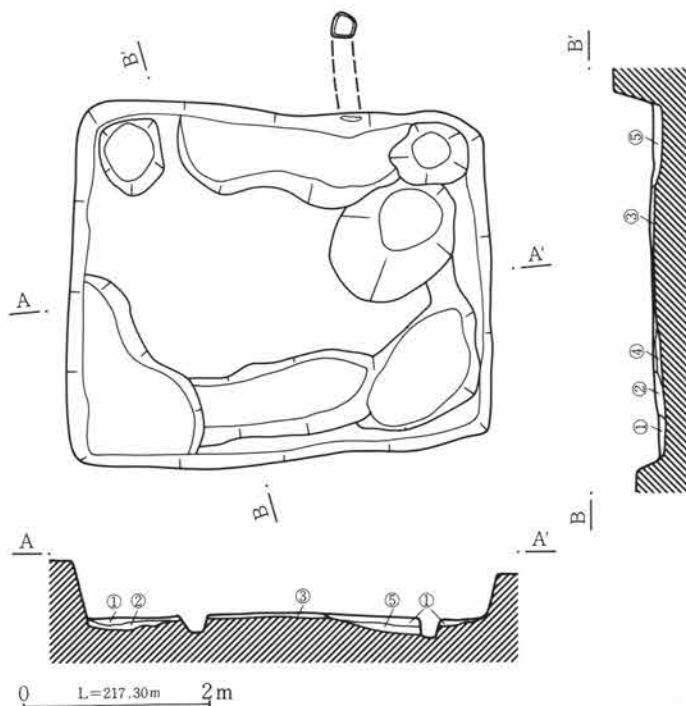
時期 重複や住居形態から、8世紀前半代と考えられる。

第3章 検出された遺構と遺物



第183図 3号住居跡

- 1 黒褐色土 As-B主体。
- 2a 褐色土 黄色礫、多量の小礫を含む。
- 2b 褐色土 小礫、黄色礫を含む。
- 3 褐色土 小礫を含む。
- 4a 暗茶褐色土 黄褐色粘土塊を多く含む。
- 4b 暗茶褐色土 黄褐色粘土塊を含む。
- 5 暗褐色土 黄褐色土塊、黄色礫を含む。
- 6 暗褐色土 小礫、黄色礫を含む。粘性。
- 7 暗黄褐色土 焼土粒、炭化物を含む。粘質土。し  
まりあり。
- 8 暗褐色土 粘質土。
- 9 灰黄褐色土 黄色土塊を含む。
- 10 灰褐色土 黄色土塊を少量含む。粘性強い。
- 11 灰褐色砂礫層
- 12 灰黄色土 黄色土塊を含む。
- 13 灰黄色土 焼土粒、炭化物を少量含む。



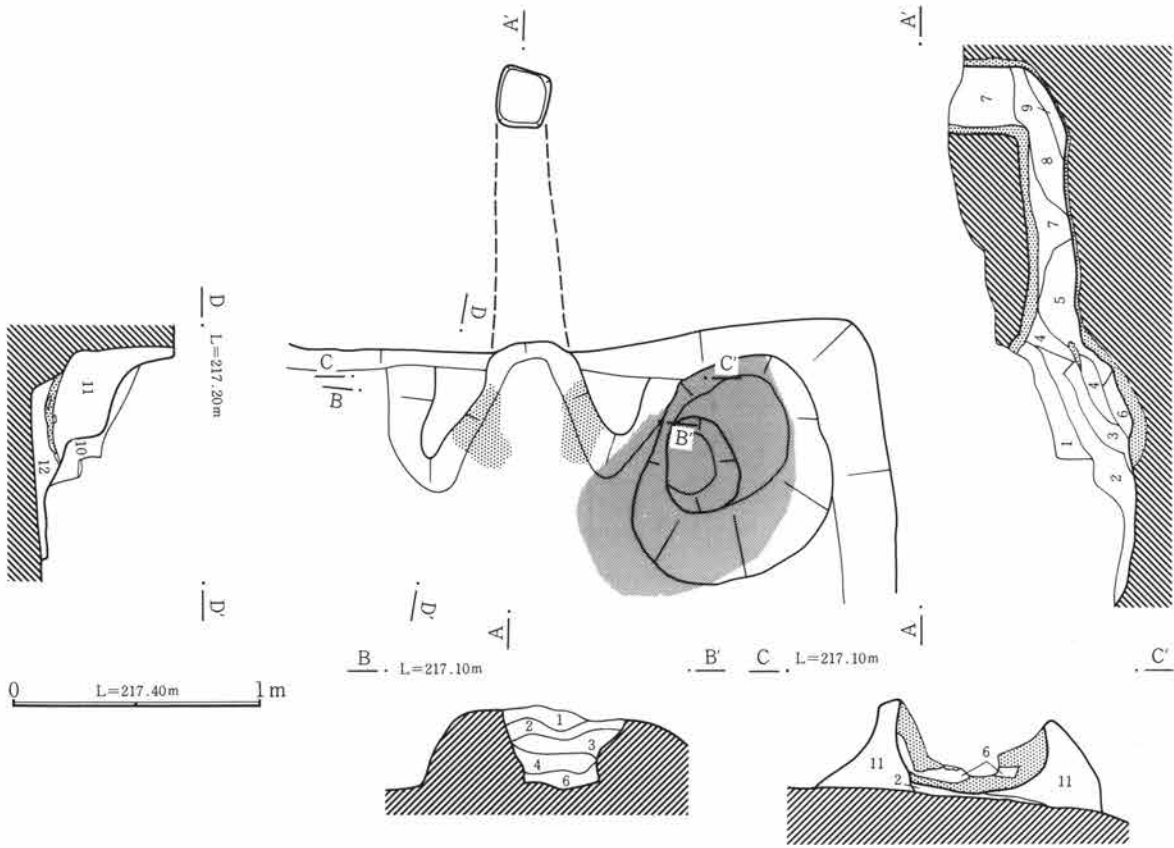
掘り方セクション (C-C'・D-D')

- ① 褐色土 黄褐色土塊を含む。
- ② 暗灰褐色土 黄褐色土塊、褐色土塊を含む。
- ③ 暗黄褐色土 小礫、黄褐色土塊を含む。
- ④ 黄褐色土
- ⑤ 褐色土 黄褐色土小塊、少量の、焼土粒・炭化物  
を含む。

第184図 3号住居跡掘り方

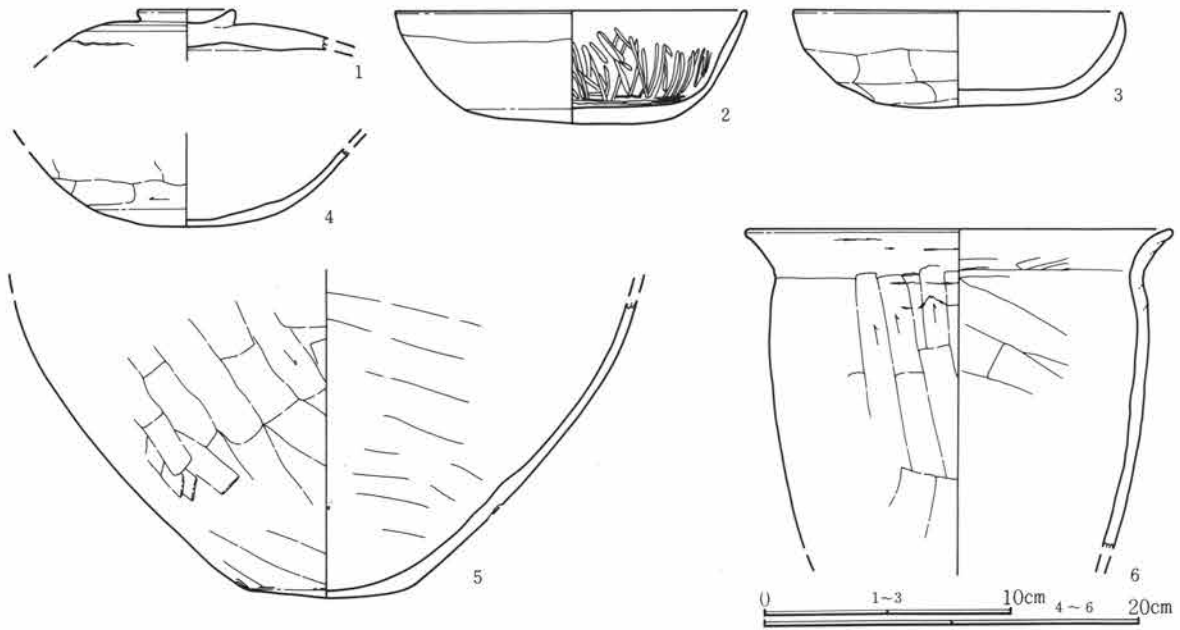


第1節 竪穴住居跡

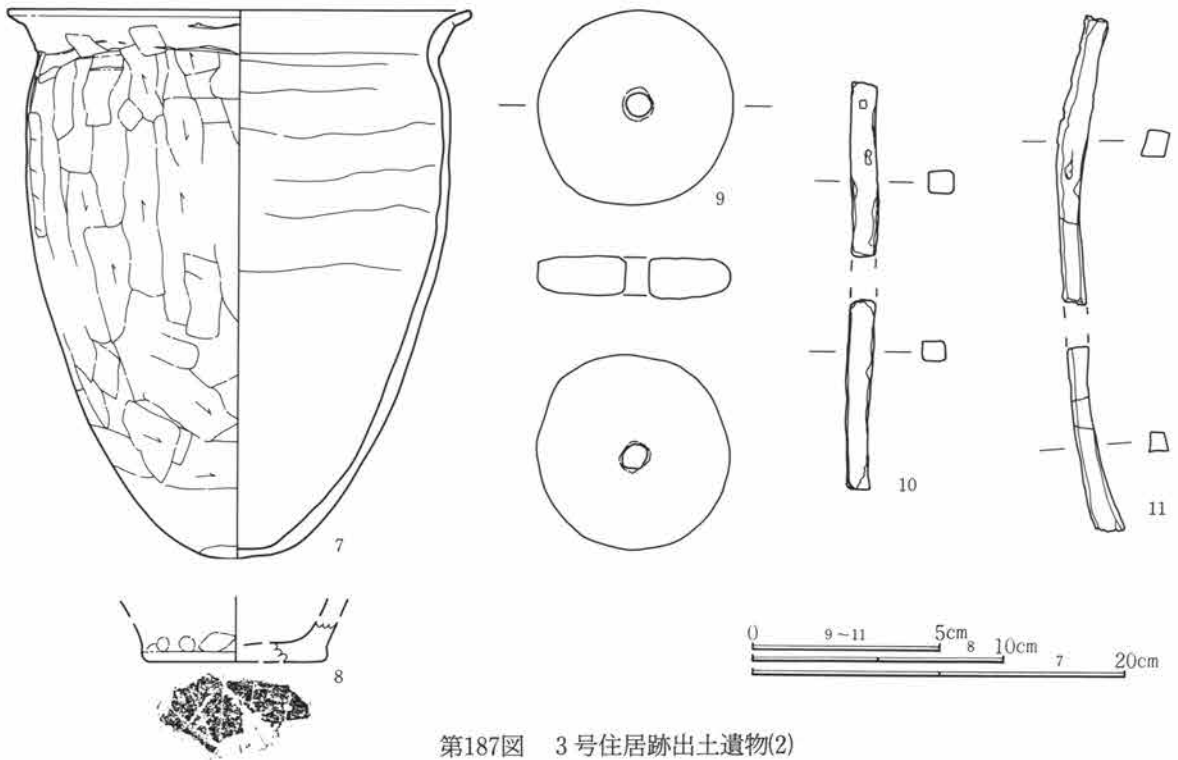


- |                          |                       |
|--------------------------|-----------------------|
| 1 褐色土 小礫、暗褐色土小塊を含む。      | 7 暗褐色土 焼土粒を少量含む。粘性強い。 |
| 2 暗褐色土 炭化物を少量含む。粘性強い。    | 8 明褐色土 黄褐色土粒を含む。粘性強い。 |
| 3 灰黄褐色土 黄褐色土を多く含む。粘性強い。  | 9 黒褐色土 炭化物を少量含む。粘性。   |
| 4 褐色土 炭化物、焼土粒を少量含む。粘性強い。 | 10 褐色土 砂粒を含む。         |
| 5 褐色土 焼土粒、黄褐色土塊を含む。      | 11 明褐色土               |
| 6 暗黄茶色土 焼土粒、炭化物を含む。      | 12 褐色土 焼土粒、黄褐色土塊を含む。  |

第185図 3号住居跡かまど



第186図 3号住居跡出土遺物(1)



第187図 3号住居跡出土遺物(2)

4号住居跡 (PL. 50・51・132・133)

位置 Eb-64 床面積 5.0㎡ 主軸方位 N-27°-W 残存壁高 0.5m 重複 4住(古)→1住(新)  
規模と形状 一辺2.48mの正方形のプランを呈する。

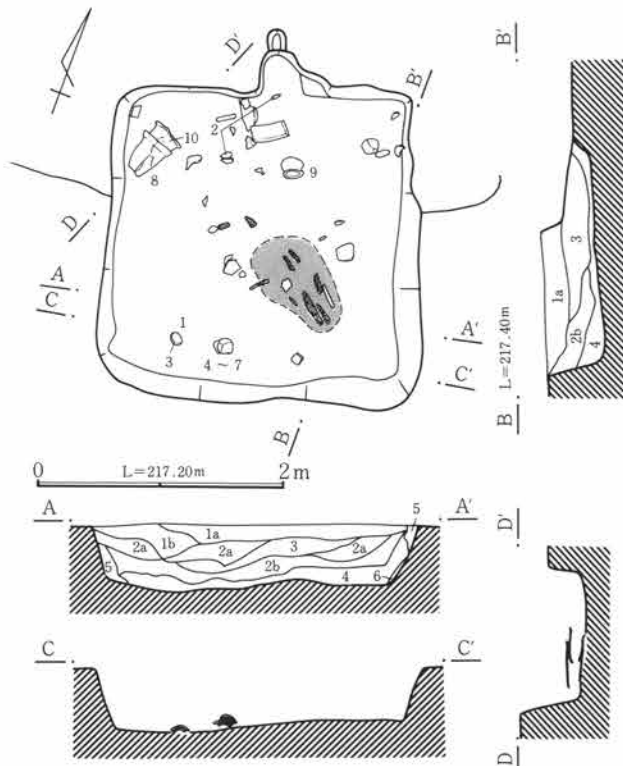
床面 若干の起伏が認められ、かまど前ではかたく踏み締められた面が確認でき、中央部においては炭化物・

焼土粒を含む面が検出された。

かまど 北壁中央部の壁を掘り込み構築された。燃焼部内には焼土及び粘土塊が認められ、燃焼部前からはかまど用石の砂岩がいくつか検出されている。残存状況から粘土や砂岩を多用した構造と推定される。

貯蔵穴・壁下周溝・柱穴 いずれも検出されなかった。

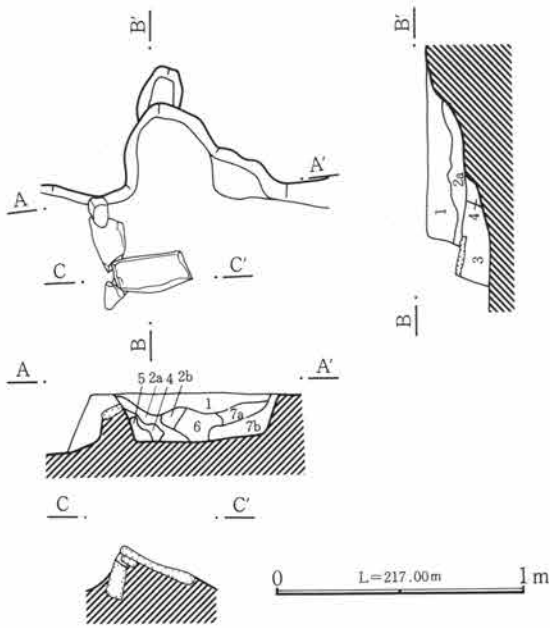
出土遺物 総計17点の完形個体・土器片が出土している。図示した遺物は、いずれもほぼ



- 1a 褐色土 小礫、黄色礫を多く含む。
- 1b 褐色土 小礫、黄色礫を含む。
- 2a 暗褐色土 黄色細粒、白色細粒を含む。粘性。
- 2b 暗褐色土 黄色細粒、白色細粒、焼土粒、炭化物を含む。
- 3 暗褐色土 礫、黄色粒を多く含む。
- 4 暗褐色土 黄色細粒を少量含む。粘性強い。
- 5 黄褐色粘土層
- 6 砂礫層

第188図 4号住居跡

第1節 竪穴住居跡



完形品で、床面付近から出土している。土師器小型甕・甑・坏があり、1～4の坏と5・6の坏、2点の甑もそれぞれ重なりあって出土している。

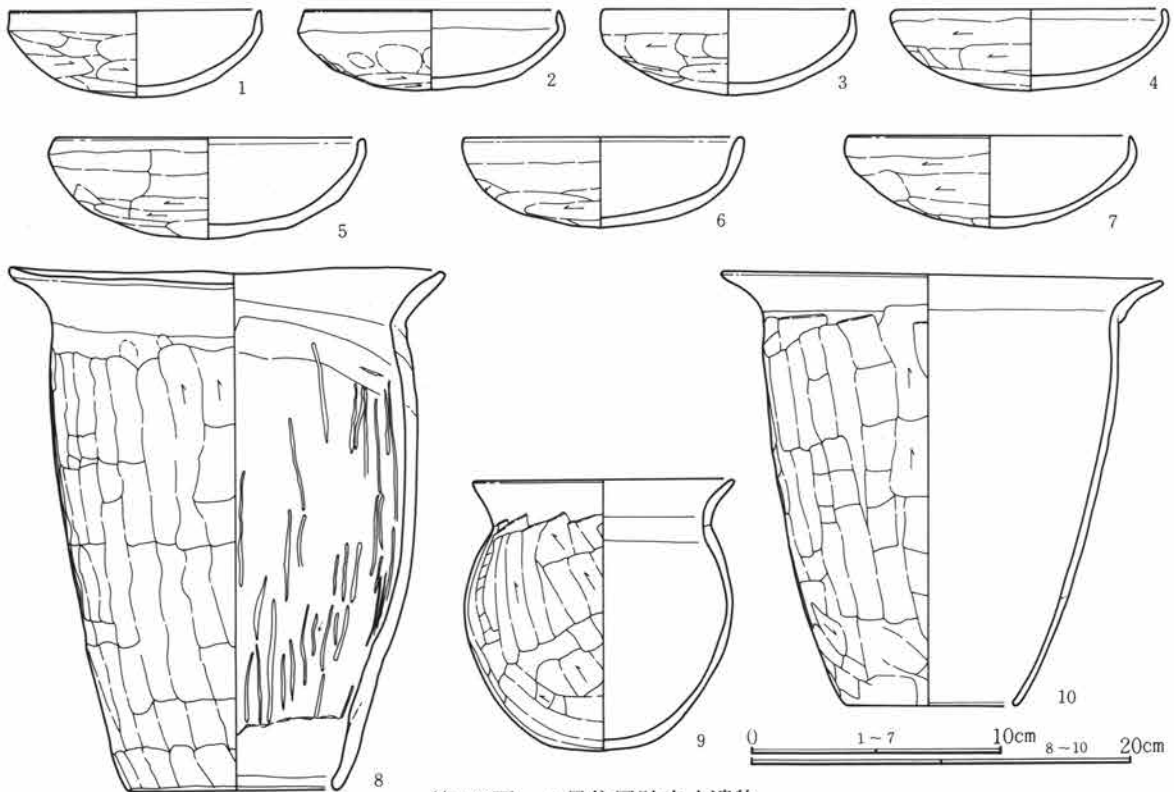
掘り方 床面と掘り方面がほぼ一致し、床面下から遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、7世紀後半代と考えられる。

備考 炭化材及び炭化物の分布状況や完形土器が多く検出されたことは、本住居跡が焼失住居であることを示すものと考えられる。

- |                        |                       |
|------------------------|-----------------------|
| 1 暗褐色土 小礫、黄色礫を含む。      | 5 灰褐色粘土 焼土粒を少量含む。     |
| 2a 灰茶褐色土 焼土塊、粘土塊を多く含む。 | 6 暗褐色砂礫               |
| 2b 灰茶褐色土 焼土塊を多く含む。     | 7a 褐色土 焼土粒、黄色小礫を含む。   |
| 3 褐色土 焼土塊を多く含む。        | 7b 褐色土 焼土粒、黄色小礫を少量含む。 |
| 4 黒褐色土 砂礫、焼土粒を含む。      |                       |

第189図 4号住居跡かまど



第190図 4号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

5号住居跡 (PL. 51・133)

位置 Ea-63 床面積 16.6㎡ 主軸方位 N-28°-W 残存壁高 0.6m 重複 5住→2号溝

規模と形状 長辺4.76m、短辺3.80mの横長長方形のプランを呈し、周壁は直線的に走行する。

床面 かまど前や住居中央部を中心に、かたく踏み締められた面が確認されている。

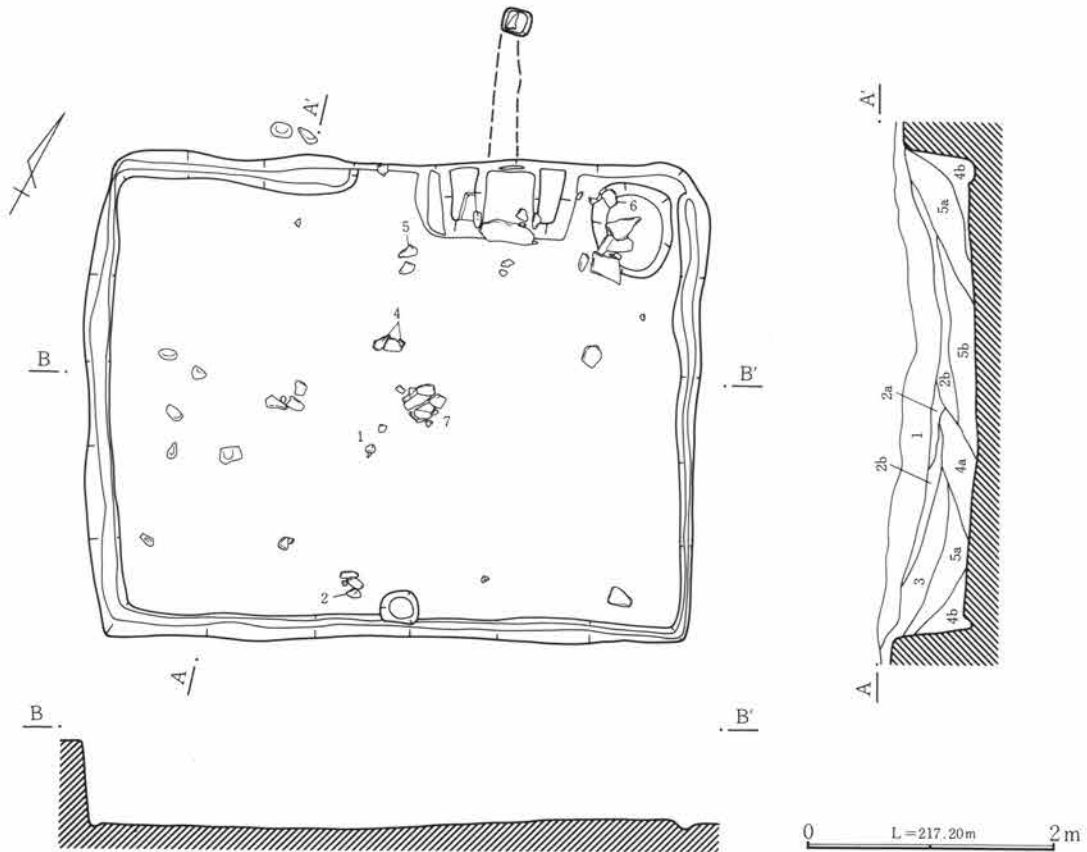
かまど 北壁中央部南寄りに、袖を有するかまどが構築される。袖は地山黄褐色土塊の混土を貼り付け作り出される。燃焼部内の側壁や底面には焼土面が確認された。焚口部では、両袖石とともに鳥居状にかけられた砂石が外れた状態で出土した。貯蔵穴付近からも同様の砂岩が検出されている。くり抜き式の長い煙道部は、断面が隅丸台形状を呈し、ほぼ水平に屋外にのび煙り出し部で直立する。煙道部内面上部は、顕著に焼土面を残す。貯蔵穴 北東隅部にあり、円形状を呈す。

壁下周溝 ほぼ全周するが、掘り込みは浅い。柱穴 柱穴は検出されなかった。

出土遺物 総計40点の土器片類と38点の石片・石材のほかに鉄滓が1点出土している。

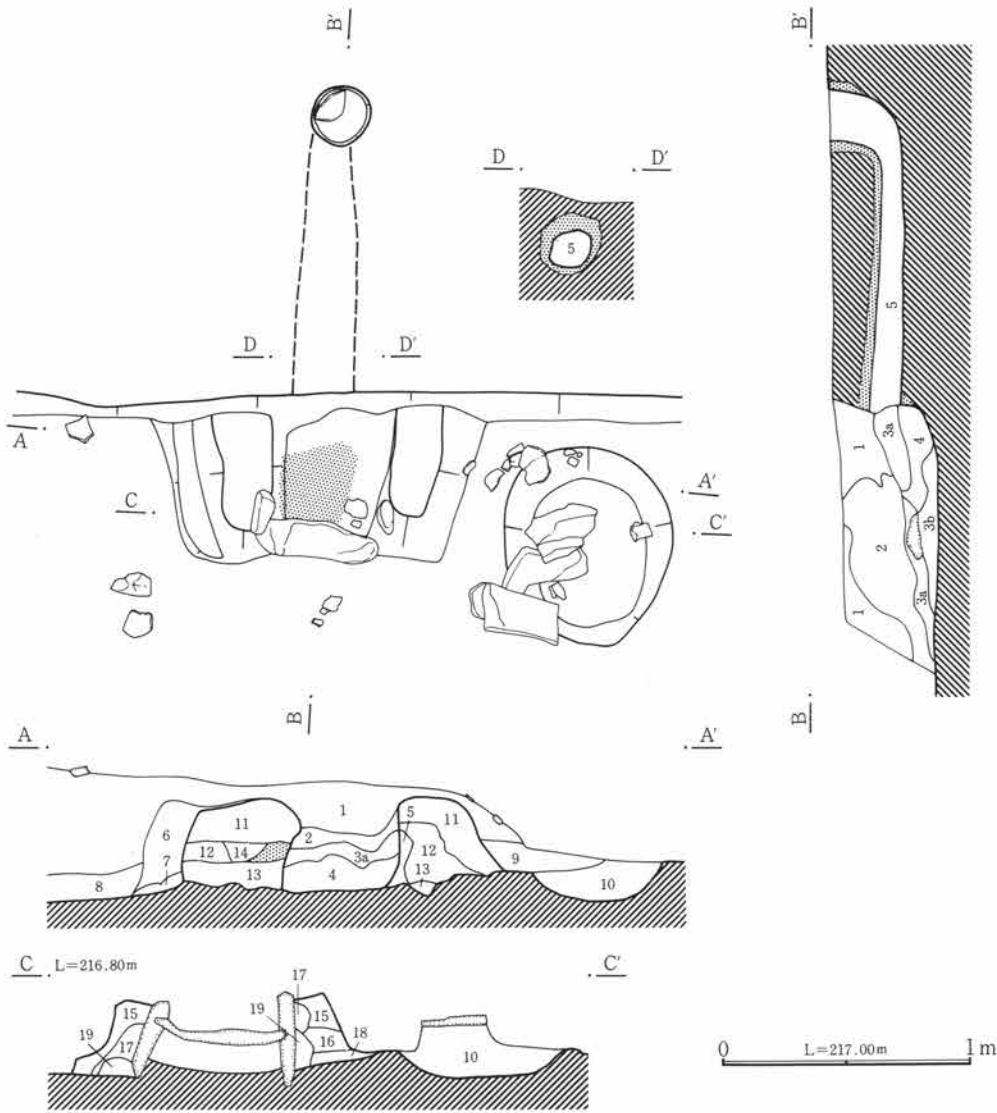
掘り方 床面と掘り方面がほぼ一致し、床面下から遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、7～8世紀代と考えられる。



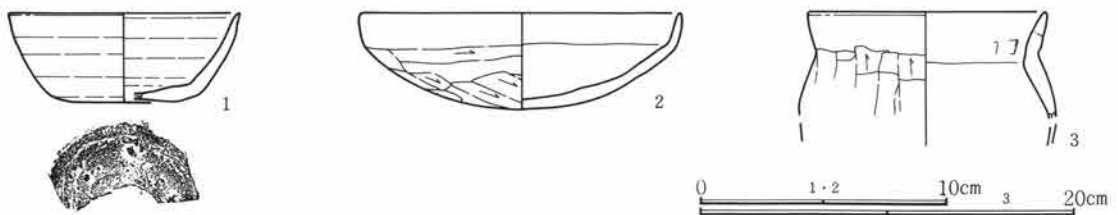
- |                          |                           |
|--------------------------|---------------------------|
| 1 暗褐色土 小礫、黄色礫を含む。        | 4a 暗褐色土 小礫、黄色礫を含む。        |
| 2a 褐色土 小礫、灰茶褐色土塊を含む。     | 4b 暗褐色土 小礫、黄色礫を少量含む。粘性強い。 |
| 2b 褐色土 灰茶褐色土塊を少量含む。      | 5a 暗黄褐色土 黄色礫、暗褐色土塊を含む。    |
| 3 暗黄褐色土 暗褐色土塊と黄褐色土塊との混土。 | 5b 暗黄褐色土 小礫、黄色礫、暗褐色土塊を含む。 |

第191図 5号住居跡

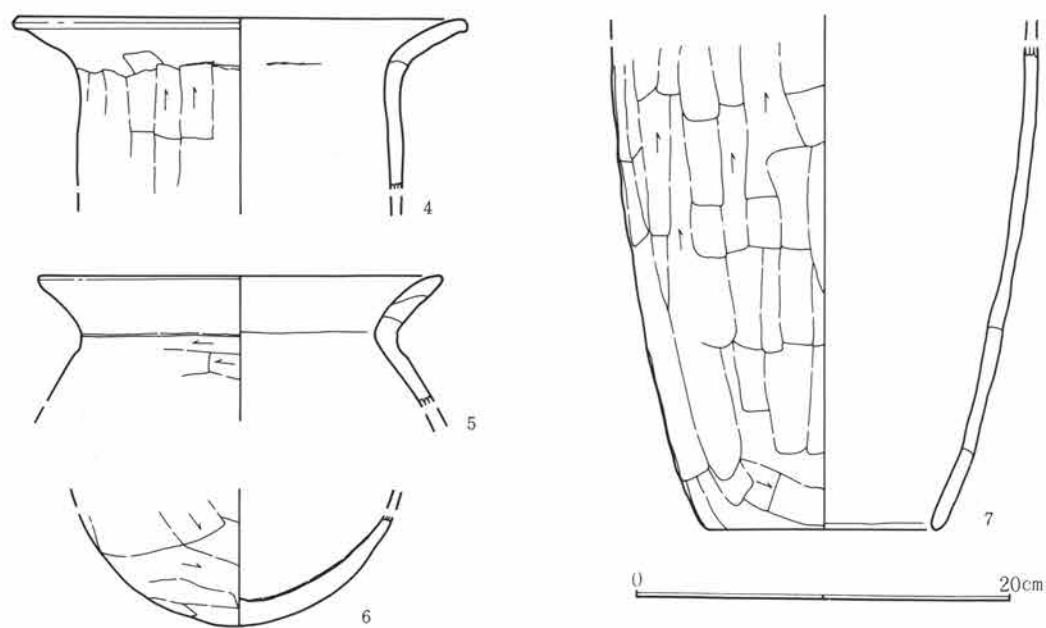


- |                                |                            |
|--------------------------------|----------------------------|
| 1 暗褐色土 砂礫を少量含む。                | 10 茶褐色土 焼土粒、炭化物を含む。粘性強い。   |
| 2 褐色土 砂礫、黄褐色土粒を少量含む。           | 11 褐色土 小礫、少量の焼土粒を含む。       |
| 3a 淡褐色土 焼土を少量含む。やや粘性。          | 12 褐色土 焼土粒、黄褐色土塊を含む。       |
| 3b 淡褐色土 焼土、炭化物を少量含む。やや粘性。      | 13 褐色土 11層に近似するが、焼土粒はやや多い。 |
| 4 淡赤褐色土 焼土を多量に含む。やや粘性。         | 14 暗赤色土 焼土塊を多く含む。          |
| 5 淡褐色土 黄色細粒、黄褐色土塊、焼土塊を含む。      | 15 暗褐色土 砂礫を含む。             |
| 6 褐色土と黄褐色土との混土層 小礫を少量含む。しまり弱い。 | 16a 褐色土 黄褐色土塊、少量の焼土粒を含む。   |
| 7 暗灰黄色土 しまり弱い。                 | 16b 褐色土 16a層より焼土粒を多く含む。    |
| 8 暗黄褐色土 黄褐色土小塊と小礫との混土。しまり弱い。   | 17 灰褐色土 砂礫と暗褐色土との混土。       |
| 9 褐色土 焼土粒、炭化物を少量含む。            | 18 暗褐色土 黄褐色土、焼土を多く含む。      |

第192図 5号住居跡かまど



第193図 5号住居跡出土遺物(1)



第194図 5号住居跡出土遺物(2)

6号住居跡 (PL.52・133)

位置 En-70 床面積 24.4m<sup>2</sup> 主軸方位 N-14°-E 残存壁高 0.25m

重複 覆土中にAs-Bを多量に含む小ピットが確認でき掘立柱建物跡がのっていた可能性が考えられるが記録としては残っていない。攪乱溝が縦横に走る。

規模と形状 長辺5.40m、短辺5.16mのほぼ方形のプランを呈する。かまど左側はやや張り出し気味。

床面 中央部がやや下がり気味であるが、ほぼ平坦な面が形成されている。かまど前や住居中央部を中心に、かたく踏み締められた部分が確認された。また、灰白色粘土塊を含む焼土の分布が2カ所で認められた。

かまど 北壁中央部の壁を僅かに掘り込み、袖を有するかまどが構築される。袖は砂質の地山黄褐色土塊を主体に暗褐色土塊を含む混土で構築される。かまどの残存状況は悪く、使用時の痕跡を一部とどめているにすぎない。燃焼部側壁や底面は顕著に焼土化される。火床面は床面と同レベル又はやや高く確認された。煙道部は、細長く屋外に伸びるもので、先端部が丸味をもつ。

貯蔵穴 北東隅部にあり、掘り込みは浅く円形状を呈す。

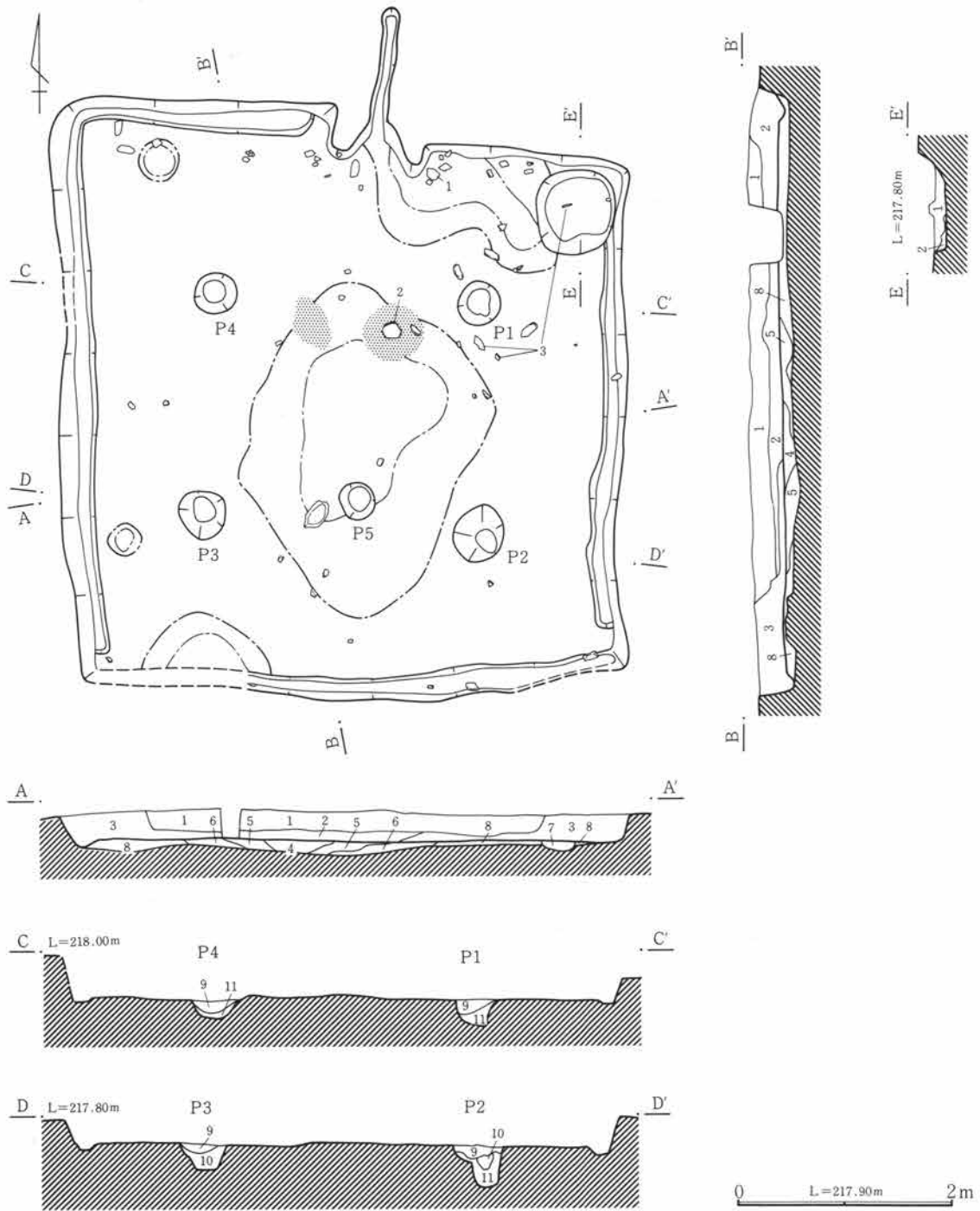
壁下周溝 かまど及び貯蔵穴部分を除き、ほぼ全周すると考えられる。掘り込みは浅い。

柱穴 4基の柱穴が検出され、円形状を呈す。

出土遺物 総計46点の土器片と10点ほどの石片・石材が出土した。床面密着や床面付近からの出土のものに土師器甕・坏がある。

掘り方 層厚0.1m内外の貼り床土の下位面は、浅い土坑状の窪み(3カ所)と2基の小ピットが確認された。

時期 出土遺物や住居形態から、7世紀後半代と考えられる。

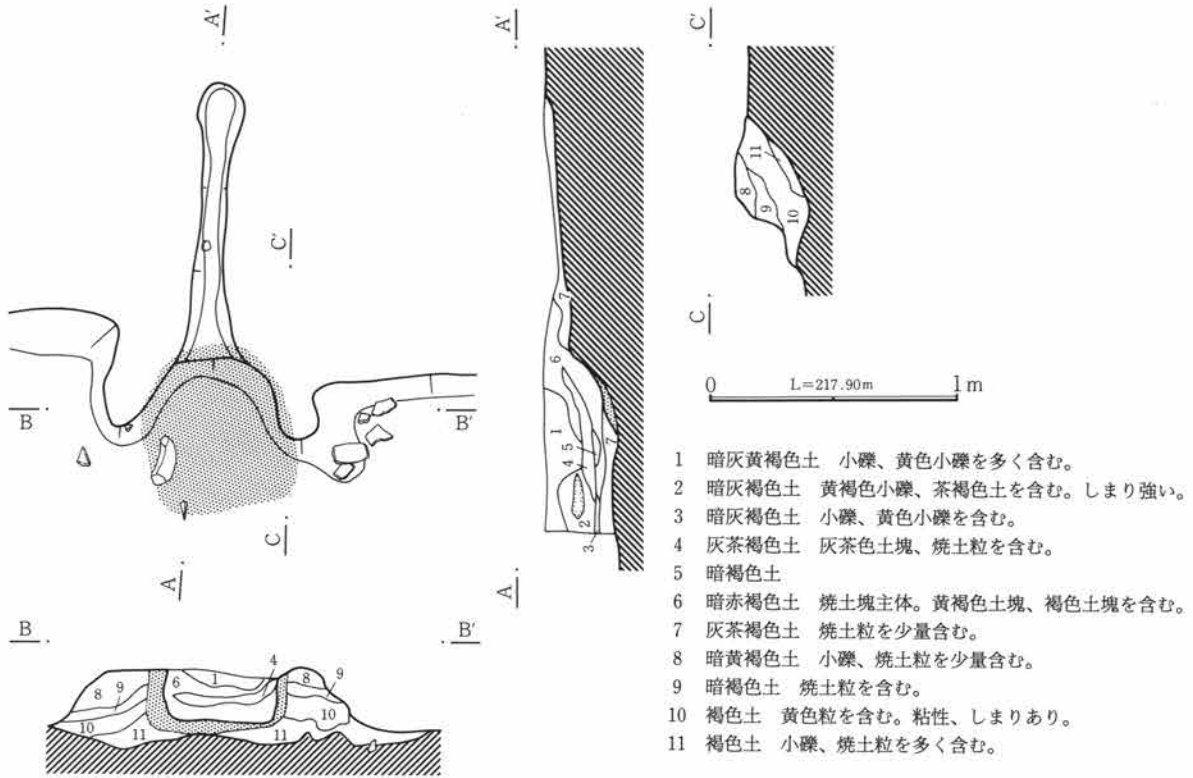


- |                              |                          |
|------------------------------|--------------------------|
| 1 暗灰黄褐色土 小礫、黄色小礫を多く含む。       | 8 黄褐色土 暗褐色土、礫を少量含む。      |
| 2 暗灰褐色土 黄褐色小礫、茶褐色土を含む。しまり強い。 | 9 灰褐色土 灰白色粘土、黒褐色土塊を含む。   |
| 3 暗灰褐色土 小礫、黄色砂粒を含む。          | 10 灰色土 灰白色粘土主体。黒褐色土塊を含む。 |
| 4 暗色土 黄褐色土、灰色土塊を含む。          | 11 灰黄褐色土 灰白色粘土塊を含む。砂質土。  |
| 5 黄褐色土と灰色土の混土層               |                          |
| 6 暗色土 礫を少量含む。                | 貯蔵穴セクション (E-E')          |
| 7 暗褐色土                       | 1 灰褐色土 灰色粘土塊、少量の黄褐色塊を含む。 |
|                              | 2 灰褐色土 砂礫を含む。            |

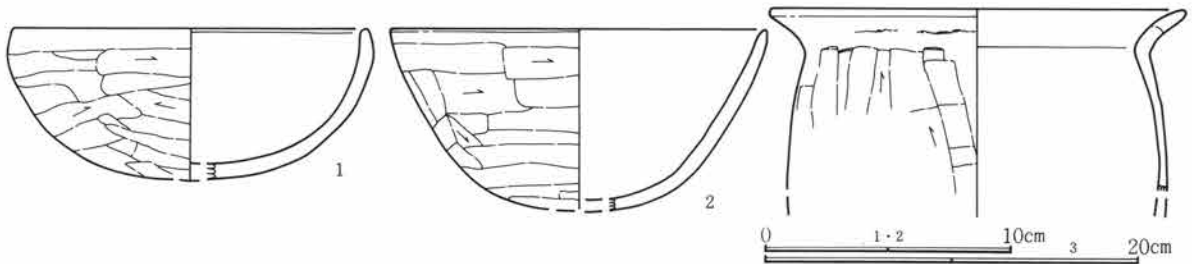
第195図 6号住居跡



第3章 検出された遺構と遺物



第196図 6号住居跡かまど



第197図 6号住居跡出土遺物

7号住居跡 (PL. 52・133)

位置 Eo-67 床面積 11.7m<sup>2</sup> 主軸方位 N-11°-E 残存壁高 0.35m 重複 なし

規模と形状 長辺4.10m、短辺3.30mのやや横長長方形のプランを呈する。

床面 床面は砂礫を含む粘質灰色土(地山)によって構成され、覆土との色調差によって明瞭に識別できた。比較的良好な平坦面が形成されているが、かたく踏み締められるなどの傾向は確認できなかった。

かまど 北壁中央部に袖を有するかまどが構築される。煙道部は大半を耕作溝によって破壊されている。袖は茶褐色土によって壁より貼り付けられ、両袖部の先端には袖石(偏平に加工された砂岩)が残存する。燃焼部側壁および底面は、よく焼け込み、焼土化している。

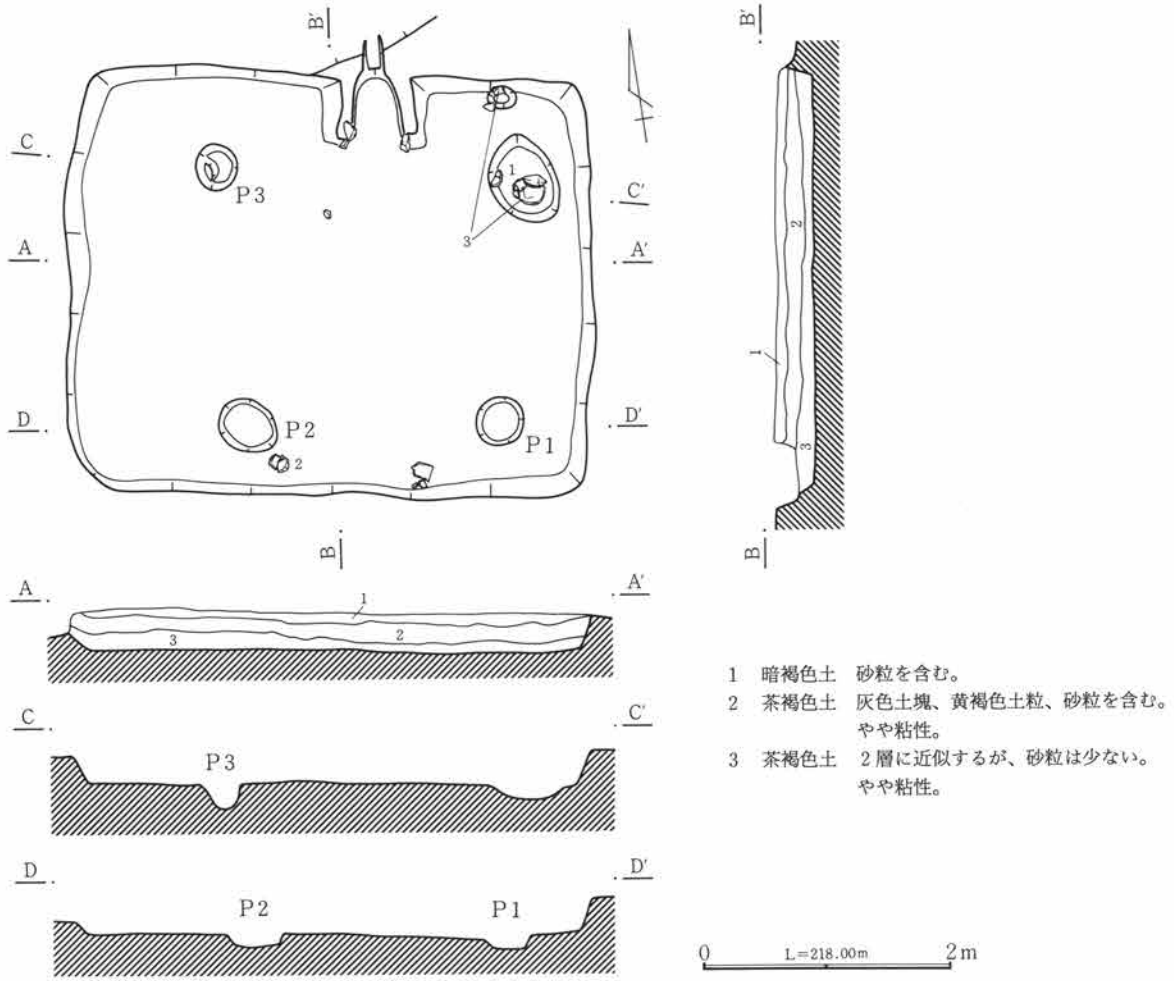
貯蔵穴 北東隅部にあり、円形状を呈す。壁下周溝 検出されなかった。

柱穴 柱穴精査時に3基の小ピットが検出されたが、皆浅く、位置関係からも柱穴とは断定しがたい。

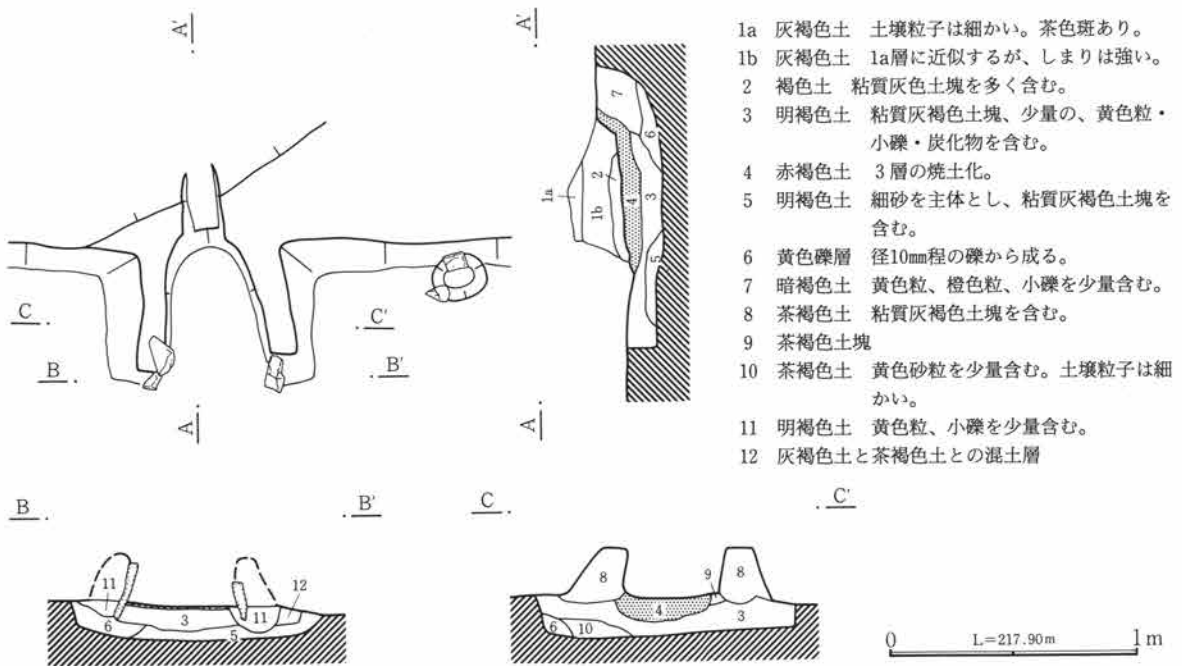
出土遺物 5点の土器片類が貯蔵穴内や床面付近からの出土。

掘り方 掘り方と床面が同じ、床面下から遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、6世紀後半代の所産と考えられる。

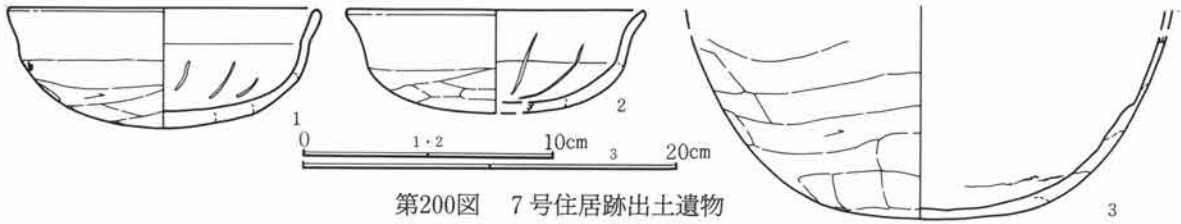


第198図 7号住居跡



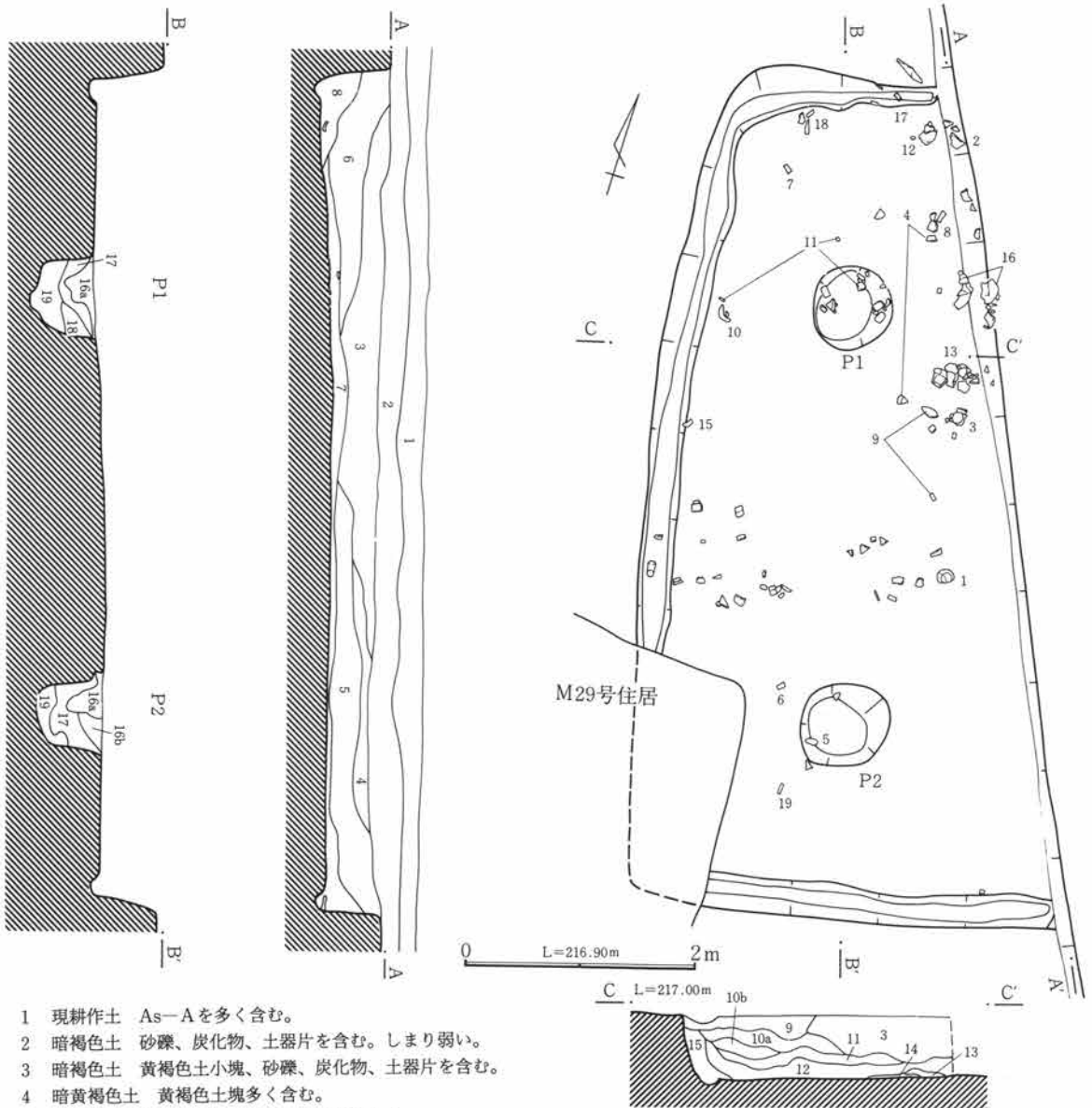
第199図 7号住居跡かまど

第3章 検出された遺構と遺物



第200図 7号住居跡出土遺物

8号住居跡 (PL. 52・53・133・134)



- 1 現耕作土 As-Aを多く含む。
- 2 暗褐色土 砂礫、炭化物、土器片を含む。しまり弱い。
- 3 暗褐色土 黄褐色土小塊、砂礫、炭化物、土器片を含む。
- 4 暗黄褐色土 黄褐色土塊多く含む。
- 5 暗褐色土 黄褐色土塊、砂礫、土器片を含む。
- 6 暗褐色土 黄褐色土塊、炭化物、焼土粒を含む。
- 7 暗褐色土 砂礫、土器片を含む。粘性。
- 8 褐色土 黄褐色土塊、焼土、炭化物を含む。粘性。
- 9 灰褐色土 砂礫、灰色粘土、黄褐色土小塊、土器片を含む。
- 10a 暗褐色土 砂礫、黄褐色土塊を含む。
- 10b 暗褐色土 砂礫、黄褐色土塊を含む。しまりあり。
- 11 褐色土 砂礫、黄褐色土塊を含む。
- 12 暗褐色土 砂礫、少量の黄褐色土小塊を含む。

- 13 暗黄褐色土 黄褐色土塊を多く含む。
- 14 黄色粘土塊
- 15 暗褐色土 黄褐色土塊、少量の砂礫を含む。
- 16a 暗褐色土 砂礫、黄褐色土小塊を含む。
- 16b 暗褐色土 16a層に近似するが、黄褐色土小塊をやや多く含む。
- 17 黄褐色土 黄色粘土塊を多く含む。
- 18 黄褐色土 細砂礫、多量の黄色粘土塊を含む。しまり強い。
- 19 黄色粘土 褐色土塊、細砂礫を少量含む。しまり強い。

第201図 8号住居跡

位置 Ea-50 床面積 測定不能 主軸方位 N-8°-W 残存壁高 0.4m 重複 8住→DN29・48住  
 規模と形状 住居プランの大半が調査区外のため、南北辺7.14mが計測されるのみで、詳細は不明。比較的大型の長方形のプランと推定され、南西隅部が重複のため破壊されている。

床面 住居中央部を中心にかたく踏み締められていた。

かまど 調査区外に推定される。北辺部の中央付近で焼土の分布が認められ、この付近の可能性が高い。

貯蔵穴 調査区外と考えられる。壁下周溝 調査範囲内では全周している。

柱穴 2基の柱穴が確認された。円形状を呈し、しっかりした掘り込みをもつ。

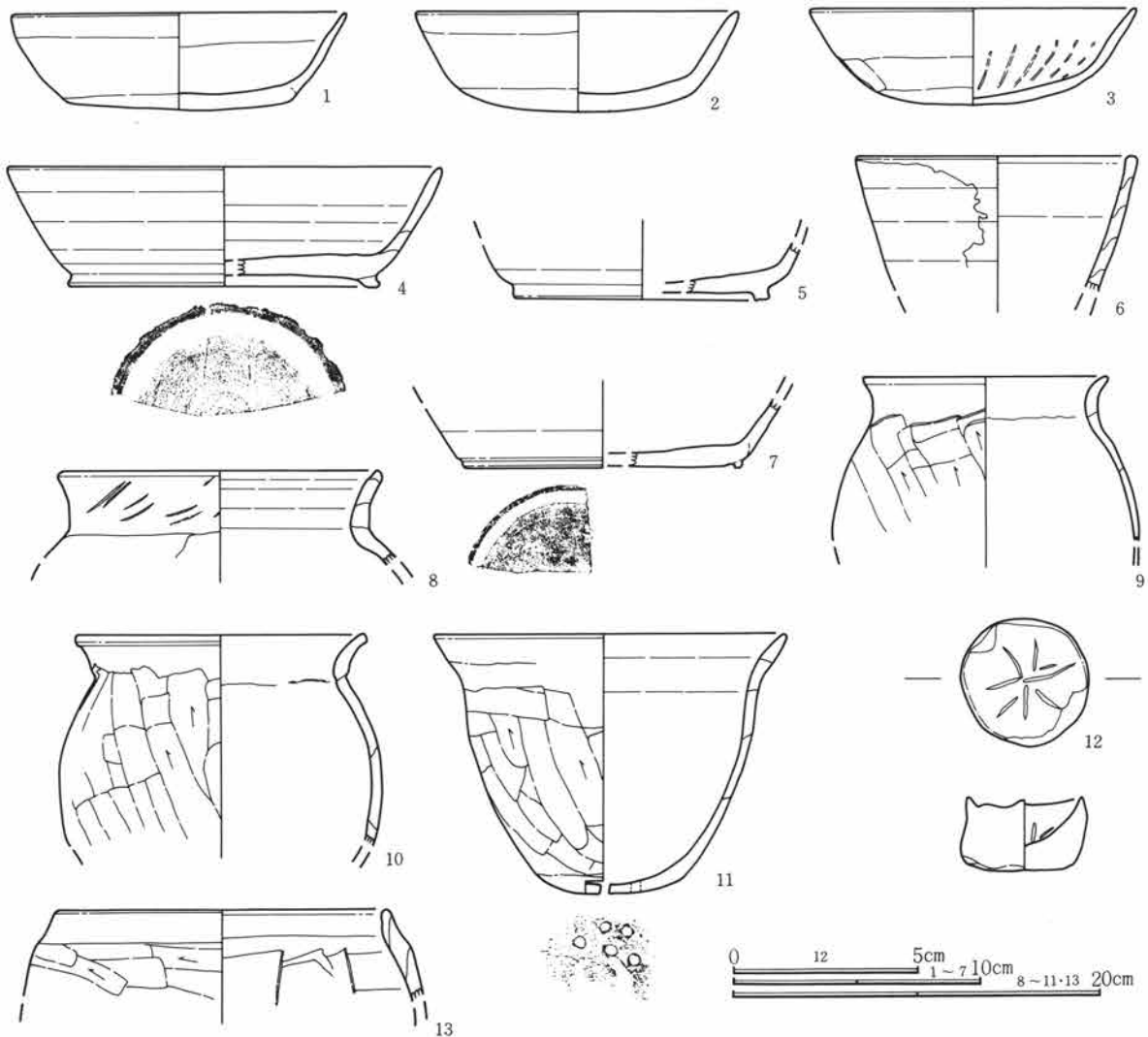
出土遺物 出土遺物は比較的多く、総計489点の土器片類と61点の石製品を含む石片・石材が出土している。

床面付近や覆土中からの出土が多く、土師器甕・小型甕・鉢・甔・坏、須恵器高台付坏・碗のほかに土錘・ミニチュア土器、砥石・白玉など多彩な遺物がある。

掘り方 床面と掘り方面がほぼ一致し、床面下から遺構は検出されなかった。

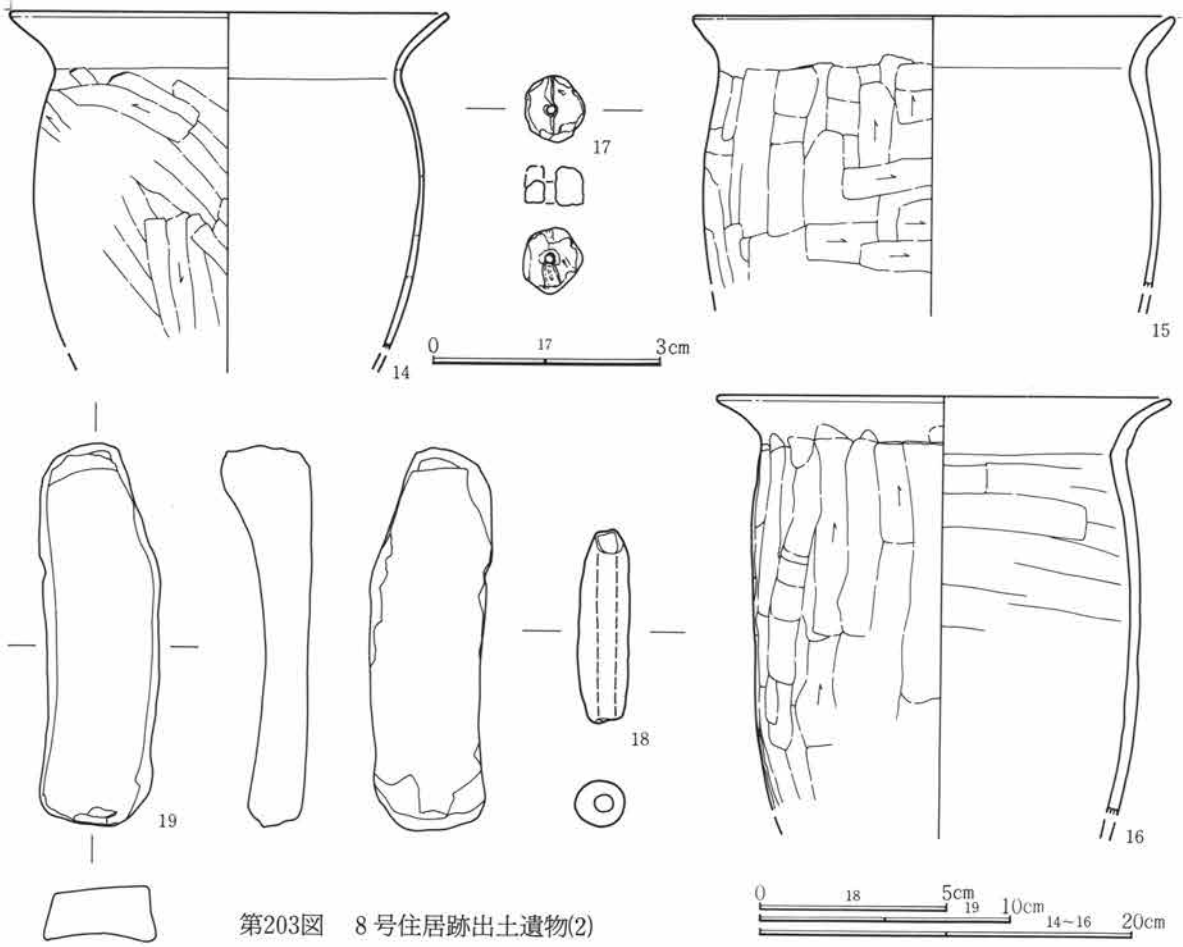
時期 出土遺物や住居形態から、7～8世紀前半代と考えられる。

備考 覆土中に多量の遺物を含み、投げ込まれた状況が見られた。

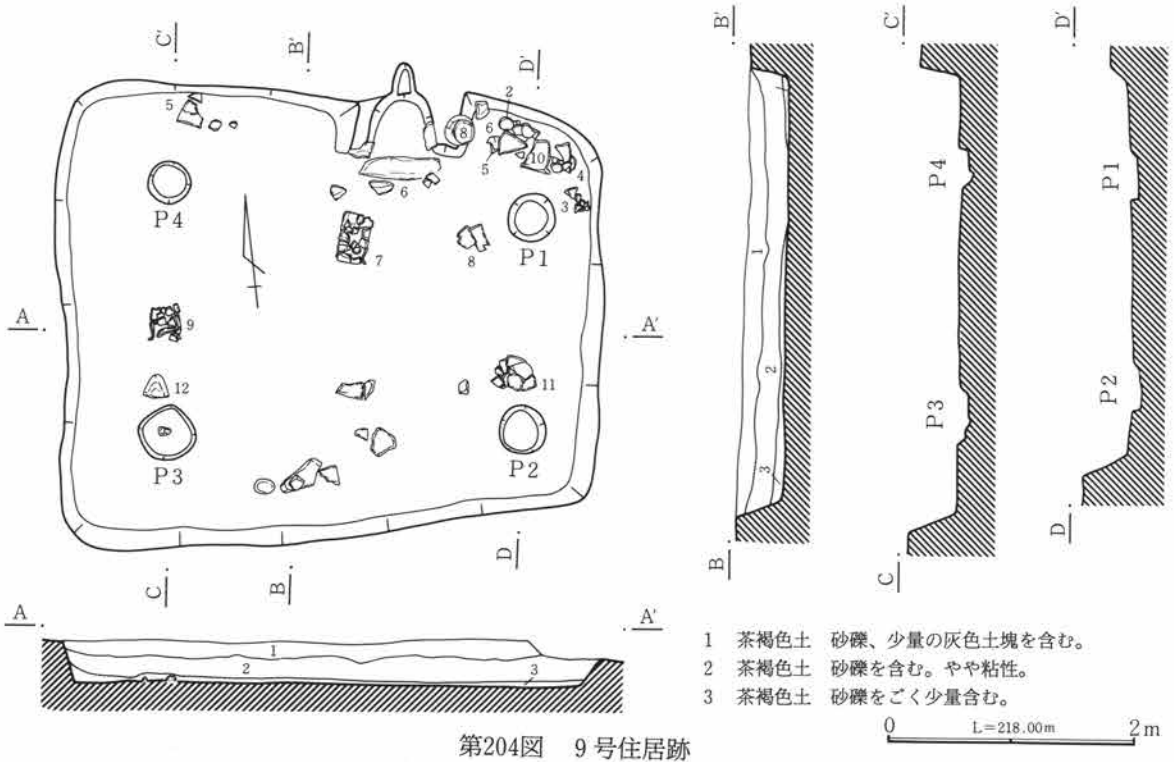


第202図 8号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



9号住居跡 (PL. 53・134・135)



第204図 9号住居跡

位置 Eo-69 床面積 12.8㎡ 主軸方位 N-18°-E 残存壁高 0.35m 重複 なし

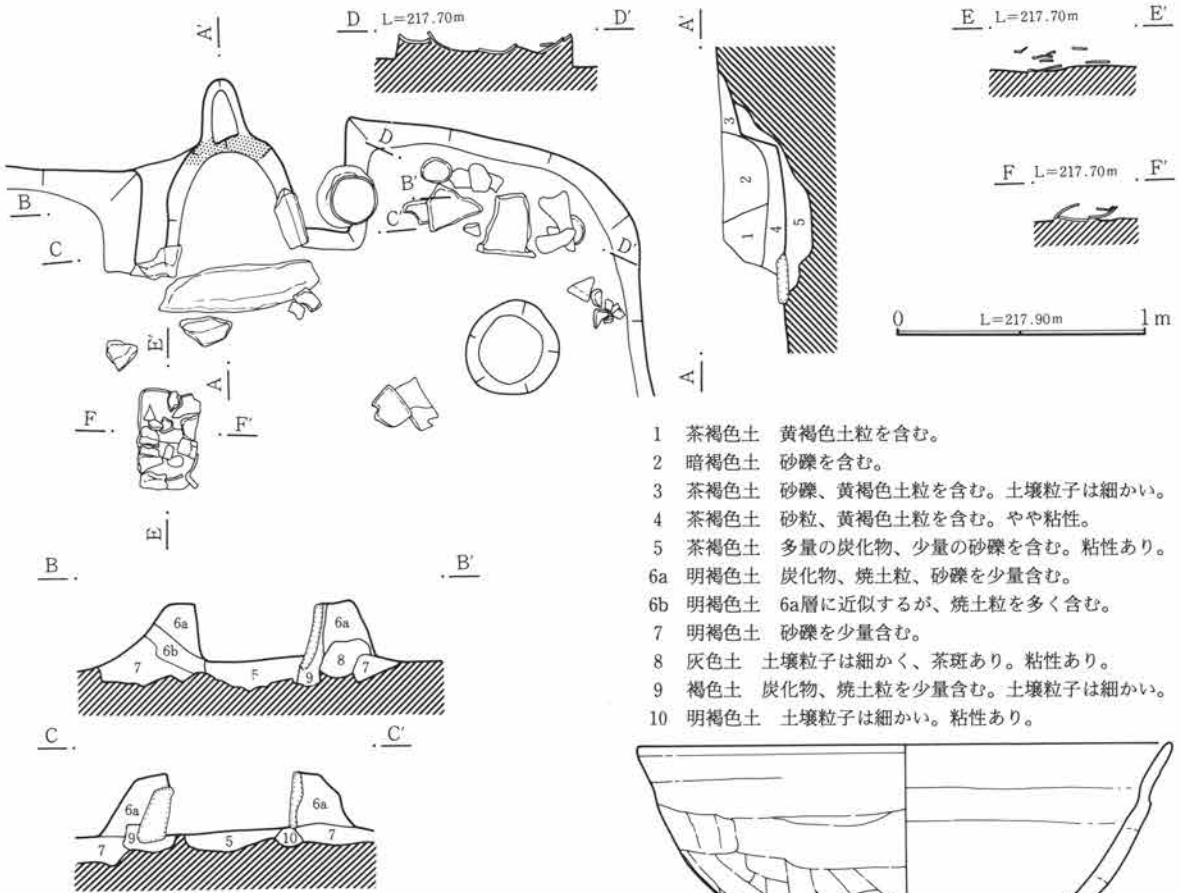
規模と形状 長辺4.3m、短辺3.55mのやや不整形の長方形のプランを呈する。

床面 かまど前や住居中央部を中心にかたく踏み締められた部分の確認されている。

かまど 北壁中央南寄りに袖を有するかまどが構築される。両袖部先端と燃烧部前から補強材の砂岩が検出された。貯蔵穴・壁下周溝 いずれも検出されなかった。柱穴 4基の小ピットが検出された。

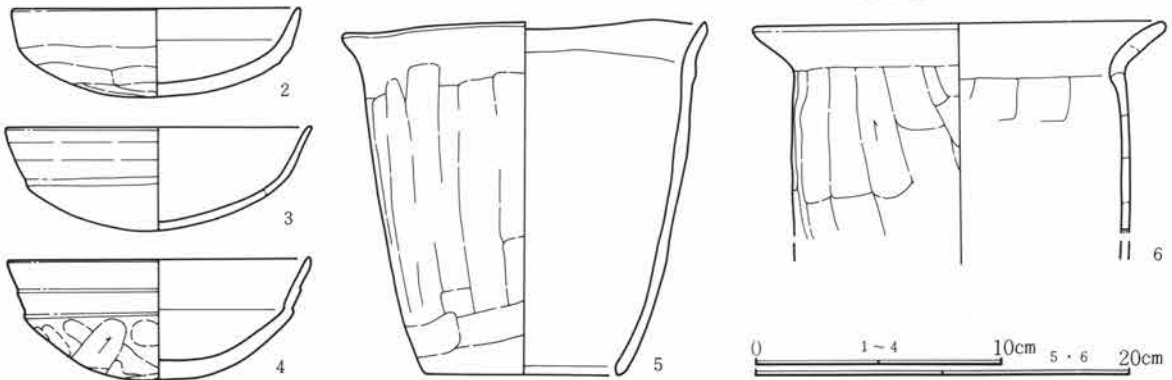
出土遺物 総計29点の土器片と12点の石片・石材が出土。掘り方 床面下から遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、6～7世紀代と考えられる。



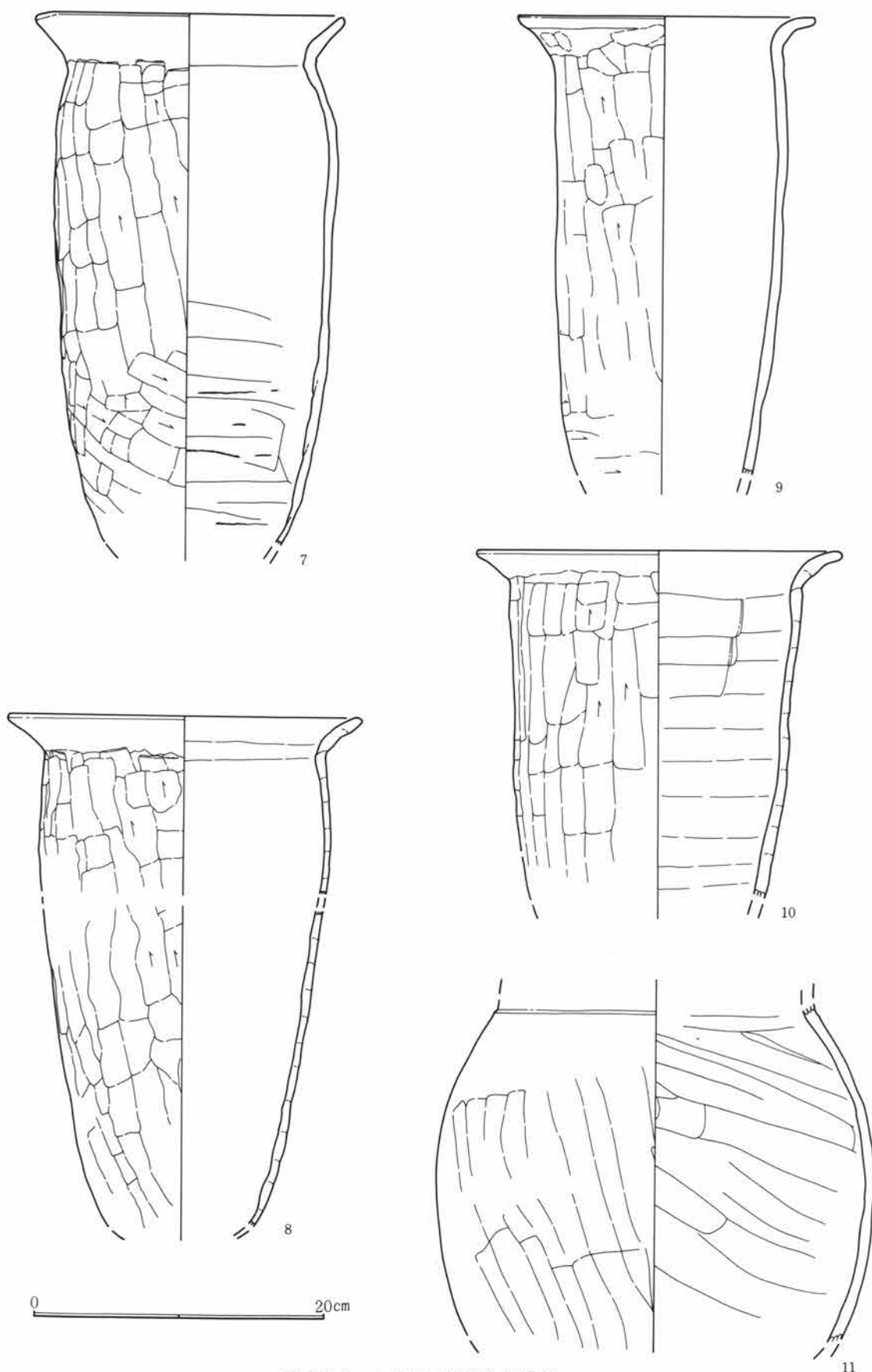
- 1 茶褐色土 黄褐色土粒を含む。
- 2 暗褐色土 砂礫を含む。
- 3 茶褐色土 砂礫、黄褐色土粒を含む。土壤粒子は細かい。
- 4 茶褐色土 砂粒、黄褐色土粒を含む。やや粘性。
- 5 茶褐色土 多量の炭化物、少量の砂礫を含む。粘性あり。
- 6a 明褐色土 炭化物、焼土粒、砂礫を少量含む。
- 6b 明褐色土 6a層に近似するが、焼土粒を多く含む。
- 7 明褐色土 砂礫を少量含む。
- 8 灰色土 土壤粒子は細かく、茶斑あり。粘性あり。
- 9 褐色土 炭化物、焼土粒を少量含む。土壤粒子は細かい。
- 10 明褐色土 土壤粒子は細かい。粘性あり。

第205図 9号住居跡かまど



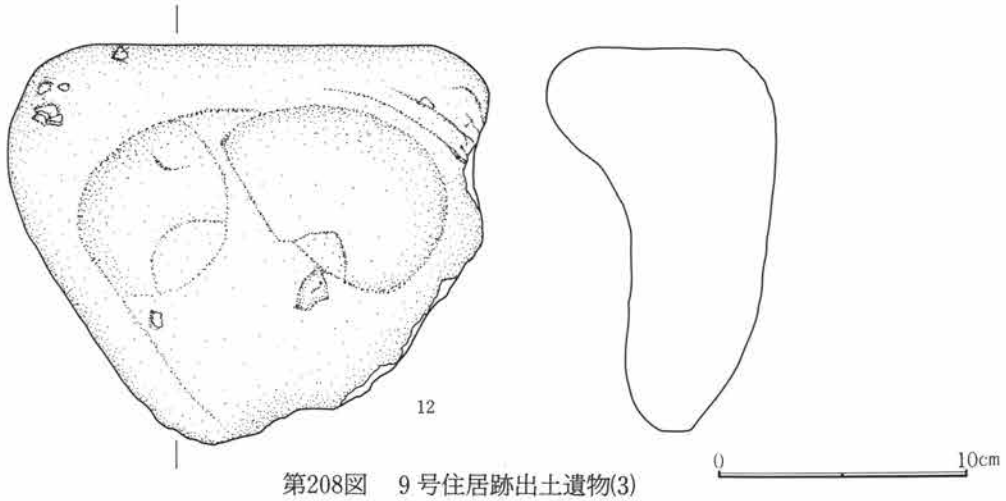
第206図 9号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第207図 9号住居跡出土遺物(2)





第208図 9号住居跡出土遺物(3)

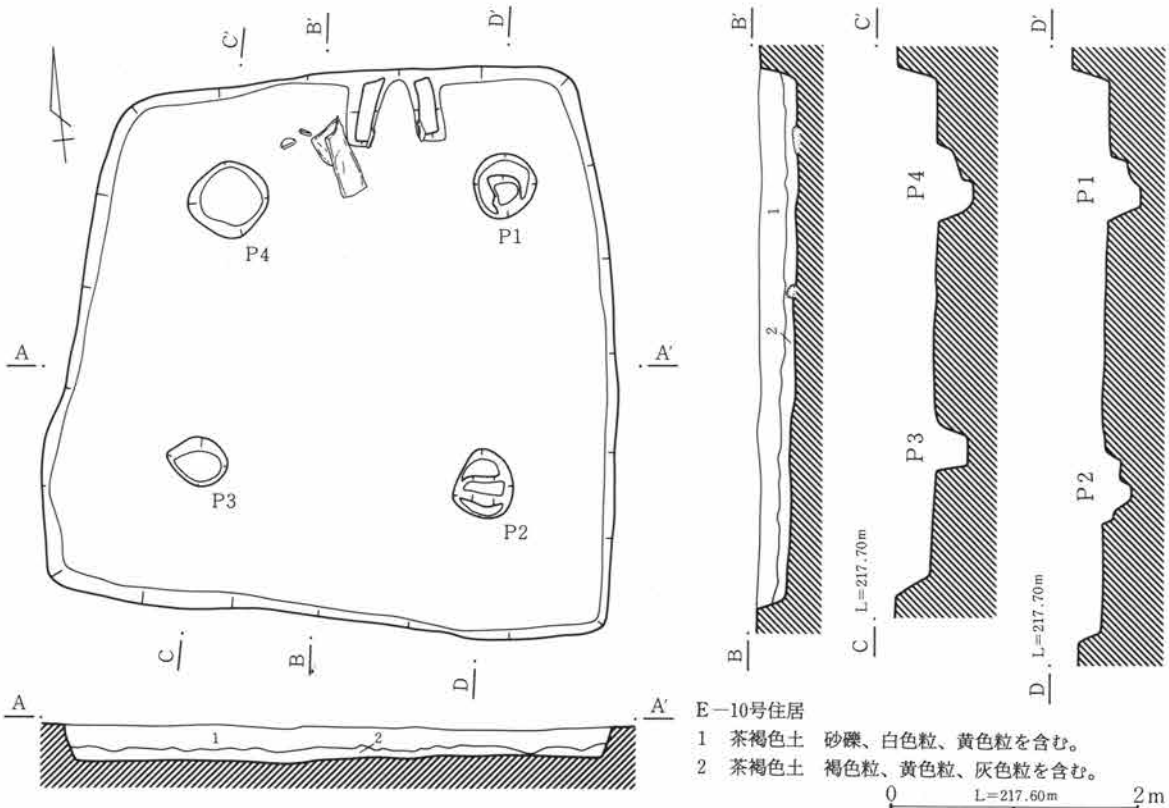
10号住居跡 (PL. 53)

位置 En-64 床面積 16.4m<sup>2</sup> 主軸方位 N-4°-E 残存壁高 0.3m 重複 なし

規模と形状 長辺4.35m、短辺4.30mのやや歪んだ方形のプランを呈し、周壁は線形がやや乱れている。

床面 床面は砂質の灰褐色土（地山）としているため、覆土との色調差によって明瞭に識別できた。かまど前や住居中央部を中心にかたく踏み締められた部分が確認され、比較的良好な平坦面が形成されていた。

かまど 北壁中央部に袖を有するかまどが構築される。袖部の先端部には袖石が残存する。かまど前では、袖石に架けたと思われるかまど用石が検出されている。これらのかまど用石は、いずれも砂岩で、火を受けた痕跡が認められる。燃焼部側壁の一部で焼土面が確認されたほかは、顕著な傾向はない。煙道部は削平されたものと考えられる。



第209図 10号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

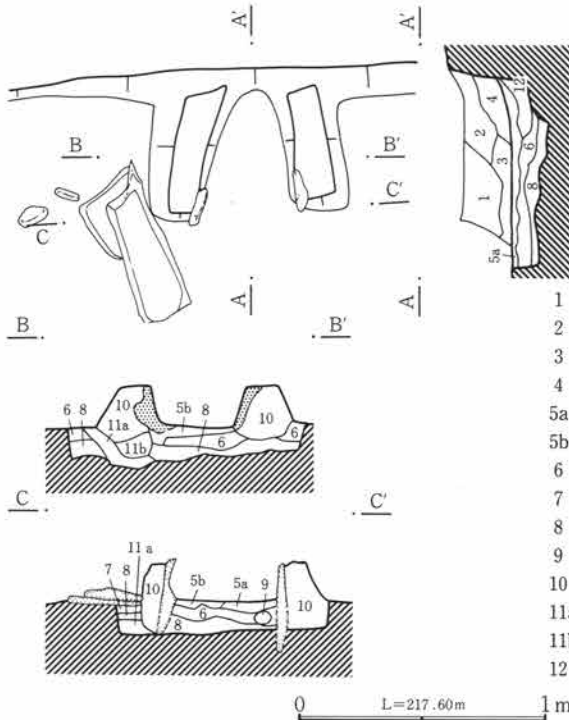
**貯蔵穴・壁下周溝** いずれも検出されなかった。

**柱穴** 4基の柱穴と考えられるピットが検出された。規模や位置関係にばらつきやずれが認められる。

**出土遺物** 覆土中から極めて少量の土師器片が出土している。

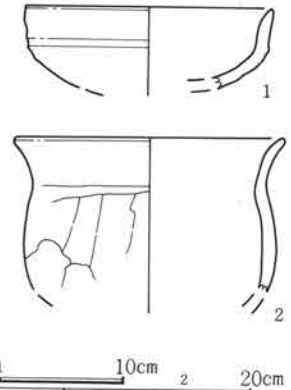
**掘り方** 床面と掘り方面がほぼ一致し、床面下から遺構は検出されなかった。

**時期** 出土遺物や住居形態から、7世紀前半の所産と考えられる。



第210図 10号住居跡かまど

- 1 茶褐色土 砂礫含む。
- 2 茶褐色土 土壌粒子は細かい。
- 3 茶褐色土 焼土含む。
- 4 茶褐色土 焼土、砂礫を含む。
- 5a 黒色土 焼土、砂礫含む。
- 5b 黒色土 5a層より焼土多く含む。
- 6 灰色土 層状に砂礫含む。
- 7 砂礫層 層状に茶褐色土含む。
- 8 砂礫層 粘質灰色土塊含む。
- 9 黒色土塊
- 10 暗褐色土 焼土粒、砂礫含む。
- 11a 茶褐色土 土壌粒子は細かい。
- 11b 茶褐色土塊
- 12 砂礫層 黒色土を含む。



第211図 10号住居跡出土遺物

11号住居跡 (PL.54・135)

**位置** Em-62 **床面積** (38.0)m<sup>2</sup> **主軸方位** N-90°-E **残存壁高** 0.25m **重複** 11住→17住

**規模と形状** 住居北西部が17号住居跡に破壊されている。残存状況から、長辺6.85m、短辺5.80mの縦長長方形のプランを呈し、かまど用石の残欠の存在から、北辺部の中央付近にかまどが築かれたものと推定される。周壁は若干の崩落が認められ、各隅部は丸味をもつ。

**床面** 床面は、比較的良好な平坦面が形成され、覆土との色調差によって明瞭に識別できた。顕著にかたく踏み締められるなどの傾向は確認できなかった。 **かまど** かまど用石(砂岩)が認められるのみであった。

**貯蔵穴** 北東隅部付近にあり、楕円形状を呈す。 **壁下周溝** 南東隅部の一部で検出している。

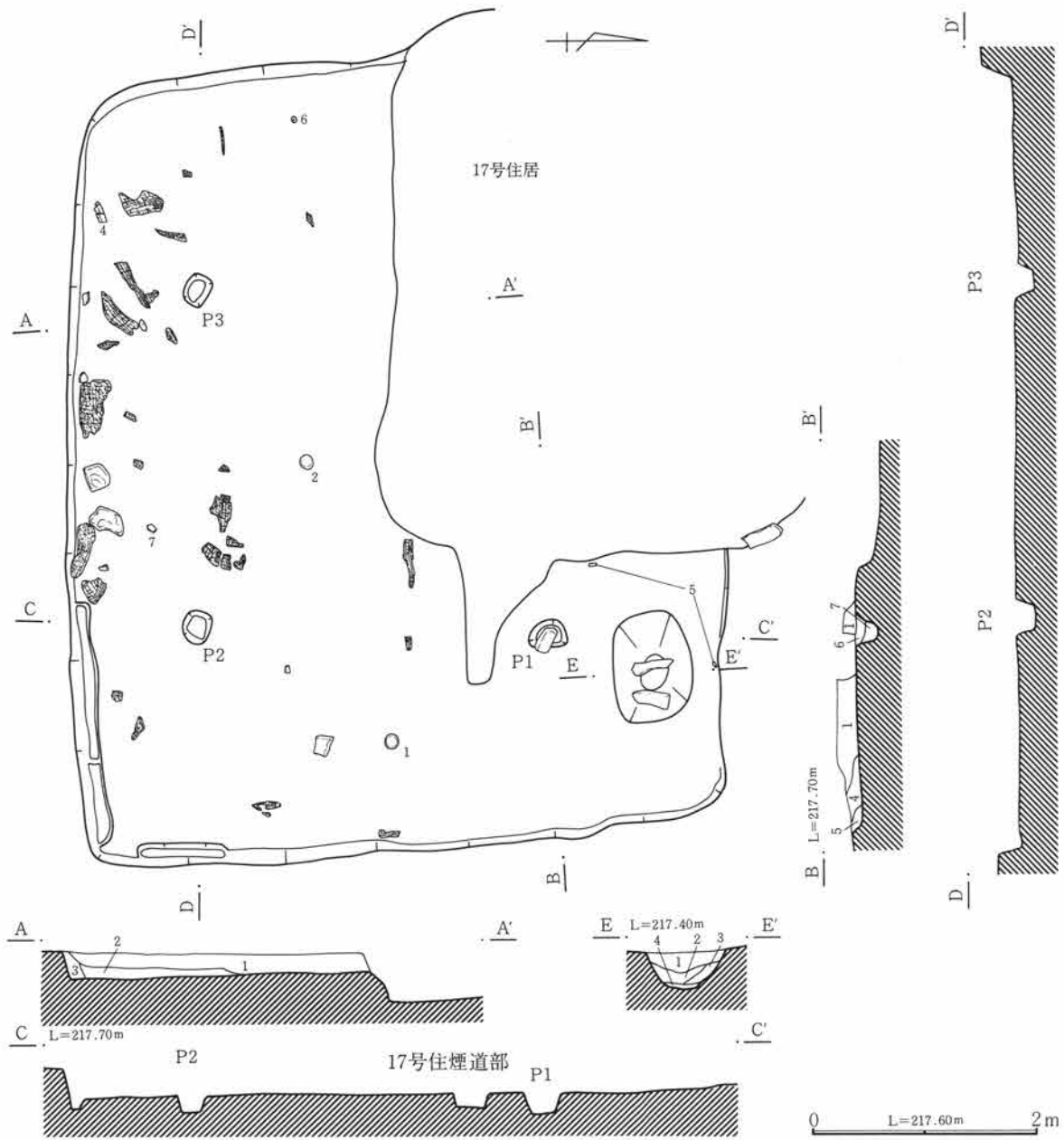
**柱穴** 3基の柱穴と考えられる小ピットが確認された。柱穴はいずれも掘り込みが浅い。

**出土遺物** 出土遺物は少なく、総計26点の土器片類と6点の石製品を含む石片、および2点の鉄滓が出土している。このほかには、比較的多く炭化材が検出された。出土遺物は、いずれも床面付近の出土で、土師器甕・小型甕・坏、須恵器坏、石製品紡錘車・白玉などがある。土師器坏はほぼ完形品。出土した炭化材は、クリやクリの類似種および広葉樹の一種などがあると同定・報告されている。

**掘り方** 床面と掘り方面がほぼ一致し、床面下から遺構は検出されなかった。

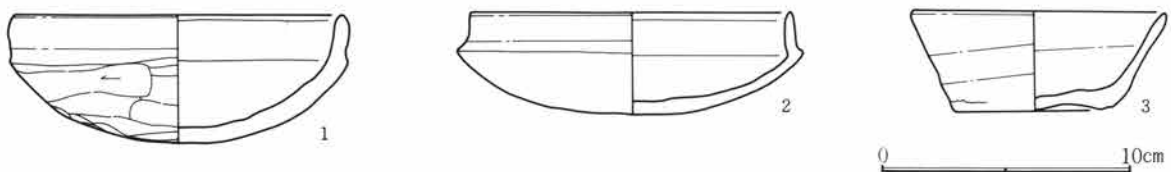
**時期** 出土遺物や住居形態から、6～7世紀代と考えられる。

**備考** 炭化材や炭化物が多く検出されたことから、本住居跡は焼失家屋と考えられる。



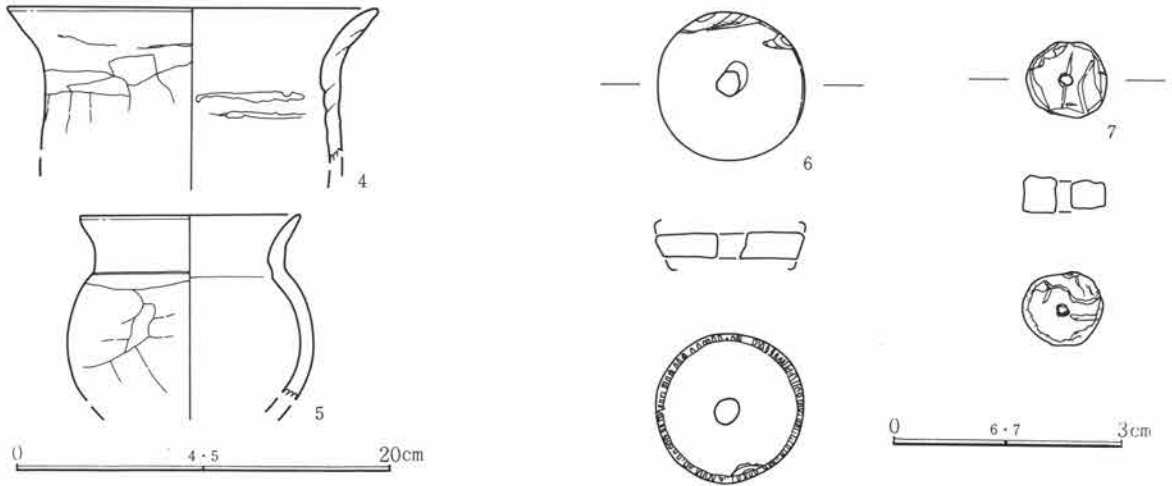
- |   |                                 |
|---|---------------------------------|
| 1 褐色土 礫(φ10~20mm)を多く含む。粘性、しまりあり。          | 6 褐色土 白色粒、黄色粒を含む。粘性、しまりあり。      |
| 2 暗褐色土 炭化物、多量の砂礫を含む。粘性、しまりあり。             | 7 褐色土 白色粒、黄色粒、砂礫を含む。粘性あり、しまり弱い。 |
| 3 黒褐色土 炭化物、多量の白色粒・黄色粒・礫を含む。粘性、しまりあり。      | 貯蔵穴セクション (E-E')                 |
| 4 暗褐色土 白色・黄色粒、少量の礫を含む。粘性、しまりあり。           | 1 暗褐色土 多量の小礫、少量の炭化物・黄色粒を含む。     |
| 5 暗褐色土 ごく少量の礫、少量の、白色粒・黄色粒を含む。粘性・しまりともに弱い。 | 2 褐色土 多量の小礫、少量の黄色粒を含む。          |
|   | 3 黒褐色土 多量の炭化物、少量の、小礫・黄色粒を含む。    |
|   | 4 黄褐色土 礫を多く含む。                  |

第212図 11号住居跡



第213図 11号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



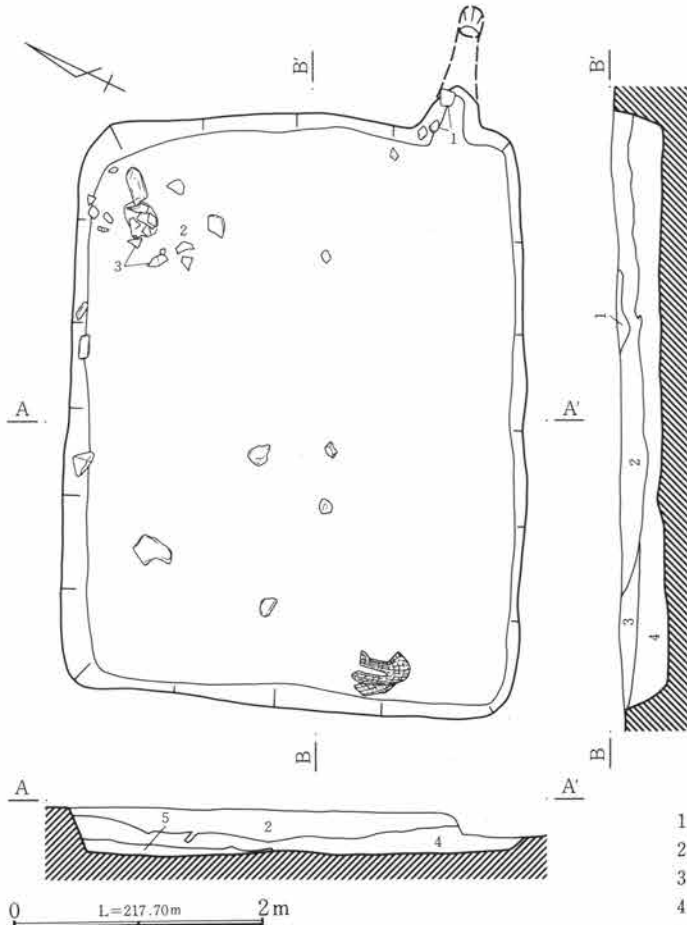
第214図 11号住居跡出土遺物(2)

12号住居跡 (PL. 54・135)

位置 En-60 床面積 14.4m<sup>2</sup> 主軸方位 N-70°-E 残存壁高 0.35m 重複 40住→12住

規模と形状 長辺4.65m、短辺3.60mの長方形のプランを呈し、東辺部の最も南よりにかまどが築かれている。周壁は、崩落も少なく、ほぼ直線的に走行する。

床面 床面は、覆土との色調差によって明瞭に識別できたが、若干の起伏が認められた。かたく踏み締めら



れるなどの傾向は確認できなかった。

かまど 燃焼部は住居壁より外側に作り出され、U字状のプランを呈す。燃焼部内からは、焼土面などは確認されなかった。煙道部は、くり抜き式のもので、天井部が陥没して狭まるが、旧状を推測できる。燃焼部からほぼ水平に屋外にのびて直立する構造で、断面は円形状を呈す。焼土面は、煙道立ち上がり部と内面上半部で認められ、レンガ化している。

貯蔵穴・壁下周溝・柱穴 なし。

出土遺物 総計17点の土器片類と少量の石片・石材のほかに炭化材が出土。

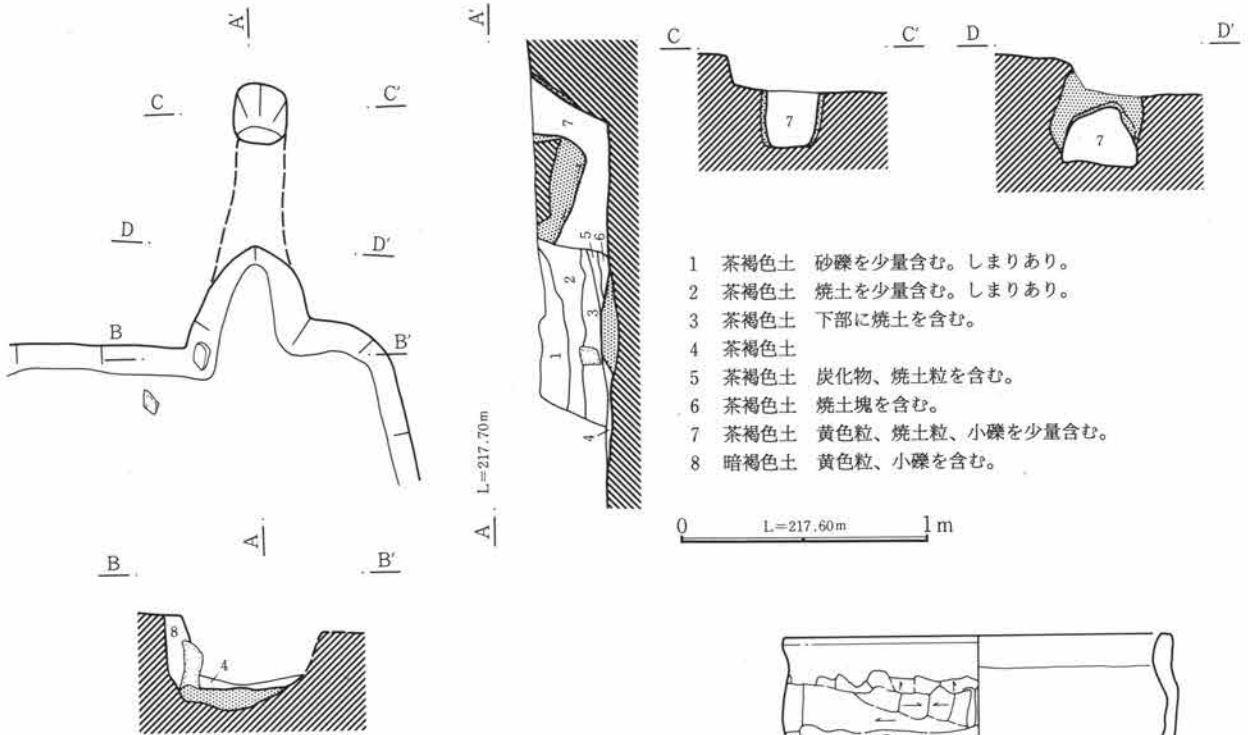
掘り方 床面下から検出されなかった。

時期 11世紀代と考えられる。

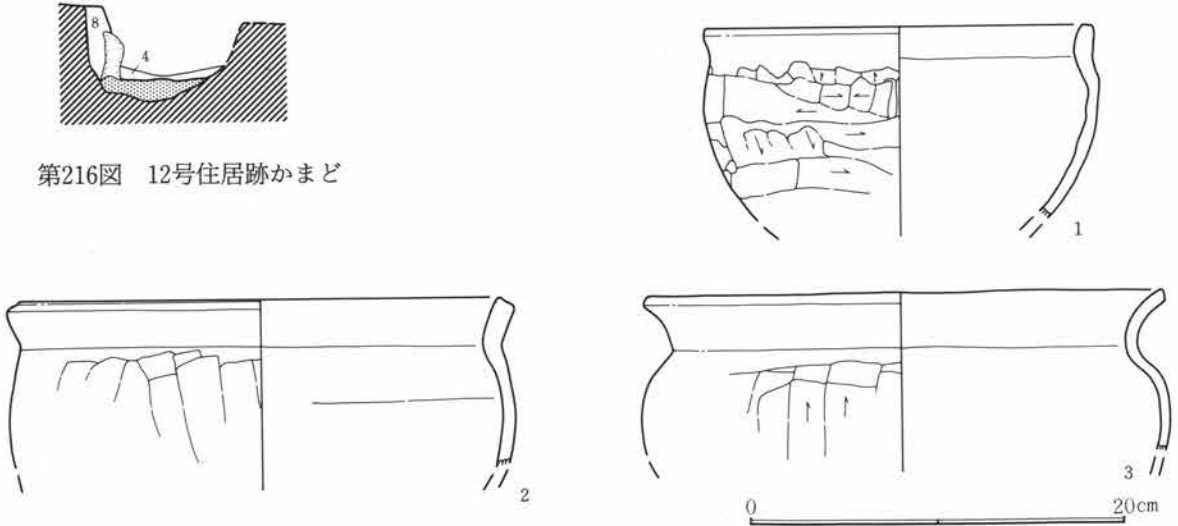
- 1 黒褐色土 As-Bを含む。
- 2 暗茶褐色土 焼土粒、炭化物、砂礫を含む。しまりあり。
- 3 暗茶褐色土 少量の焼土粒、やや多量の砂礫を含む。
- 4 黄褐色土 黄褐色土、砂礫を含む。しまりあり。
- 5 黄褐色土 少量の砂礫を含む。

第215図 12号住居跡

第1節 竪穴住居跡



第216図 12号住居跡かまど

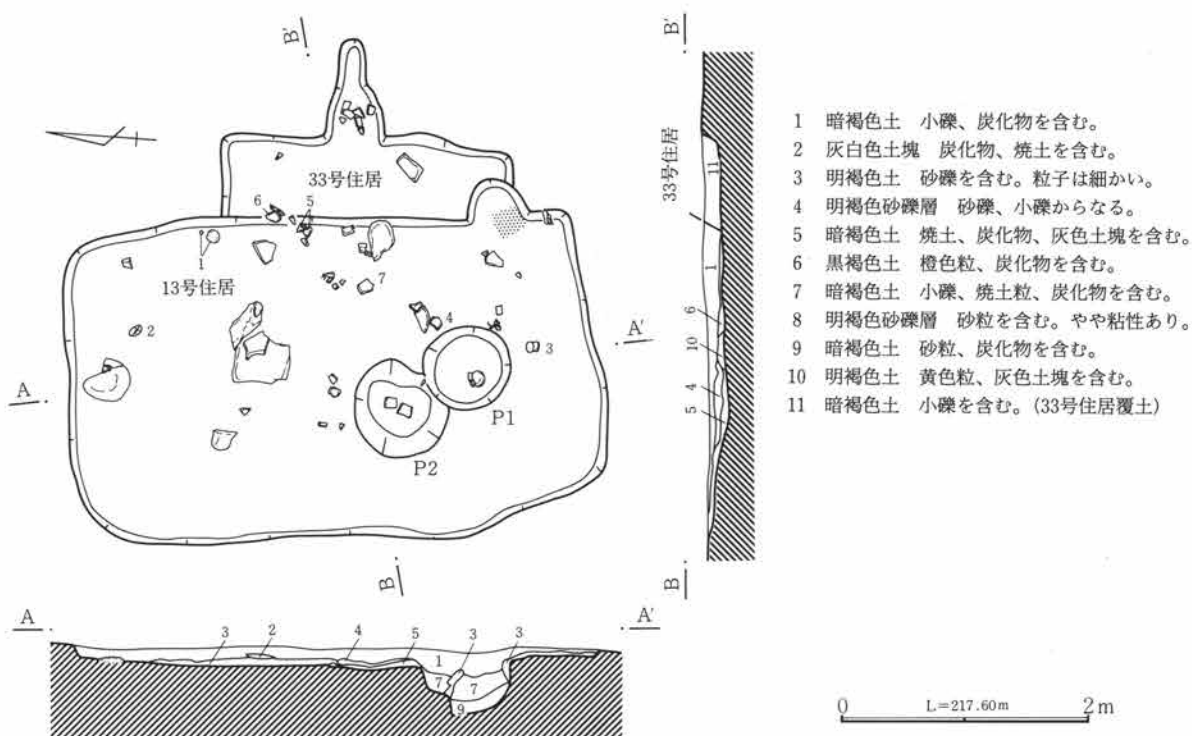


第217図 12号住居跡出土遺物

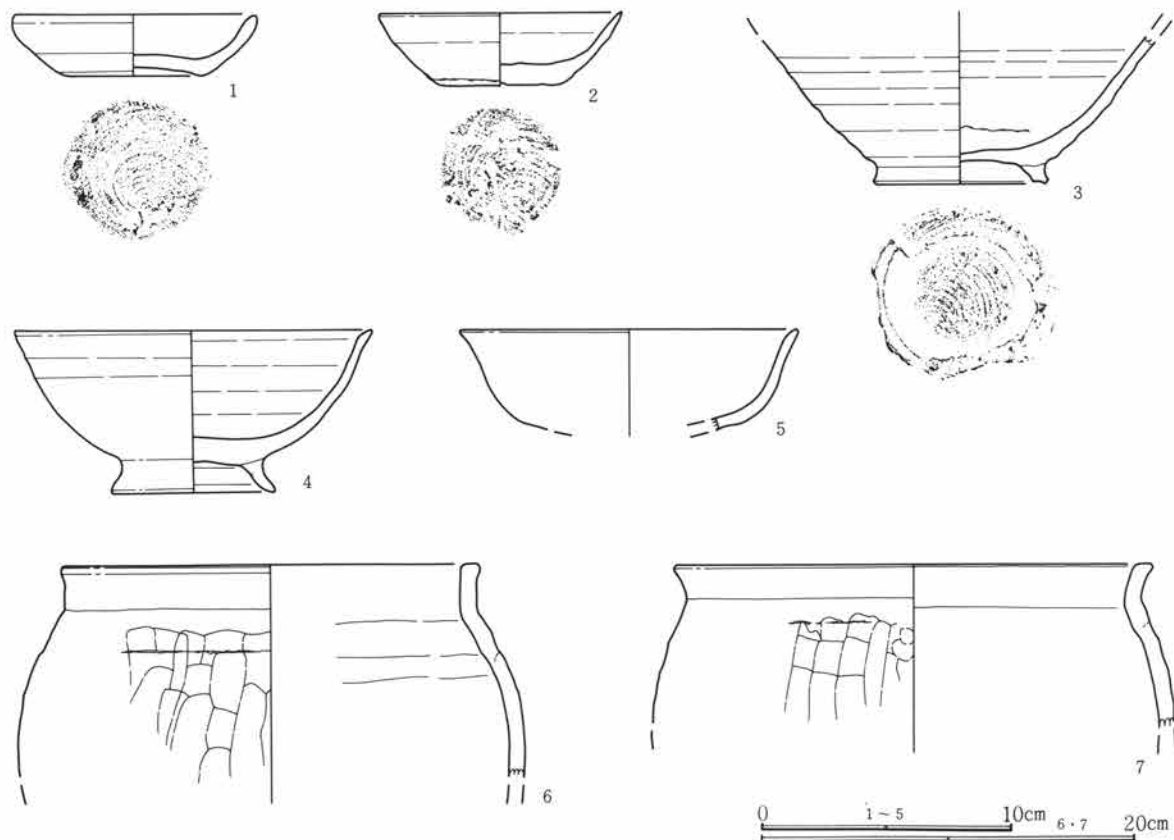
13号住居跡 (PL.54・135)

**位置** En-59 **床面積** 9.5m<sup>2</sup> **主軸方位** N-85°-E **残存壁高** 0.05m **重複** 33住(古)→13住(新)  
**規模と形状** 長辺4.20m、短辺2.55mの縦長長方形のプランを呈する。南隅にかまどが築かれる。  
**床面** かたく踏み締められるなどの傾向は確認できなかった。2基の土坑を検出したが、南側のみ伴う。  
**かまど** かまどの残存状況は極めて悪く、燃焼部のおおよそのプランが確認されたにすぎない。燃焼部は、住居壁の内側に作り出され、U字状プランを呈す。燃焼部内には焼土面が確認されている。  
**貯蔵穴・壁下周溝・柱穴** 検出されなかった。 **出土遺物** 総計33点の土器片類と8点の石片が出土。  
**掘り方** 床面と掘り方面がほぼ一致し、床面下から遺構は検出されなかった。  
**時期** 出土遺物や住居形態から、11世紀代と考えられる。

第3章 検出された遺構と遺物



第218図 13号住居跡



第219図 13号住居跡出土遺物

14号住居跡 (PL.55・135・136)

位置 Eq-62 床面積 20.9m<sup>2</sup> 主軸方位 N-22°-W 残存壁高 0.55m 重複 なし

規模と形状 南辺部に張り出し部を有する、長辺6.06m、短辺3.98mの変則的な長方形のプランを呈し、北辺部の中央より東側にかまどが築かれている。周壁は、崩落も少なく、ほぼ直線的に走行する。

床面 若干の起伏が認められた。顕著にかたく踏み締められるなどの傾向は確認できなかった。

かまど かまどの残存状況は悪く、使用時の痕跡を一部とどめているにすぎない。燃烧部は住居壁の内側に作り出され、両袖の先端部には袖石(砂岩の加工石)が原位置に残存する。燃烧部内には、天井や側壁から崩落した焼土ブロックが認められるものの、焼土面などは確認されなかった。煙道部は、くり抜き式のものとして推定され、住居外に僅かな勾配をもち立ち上がる。煙道部底面では、一部焼土面が確認されている。

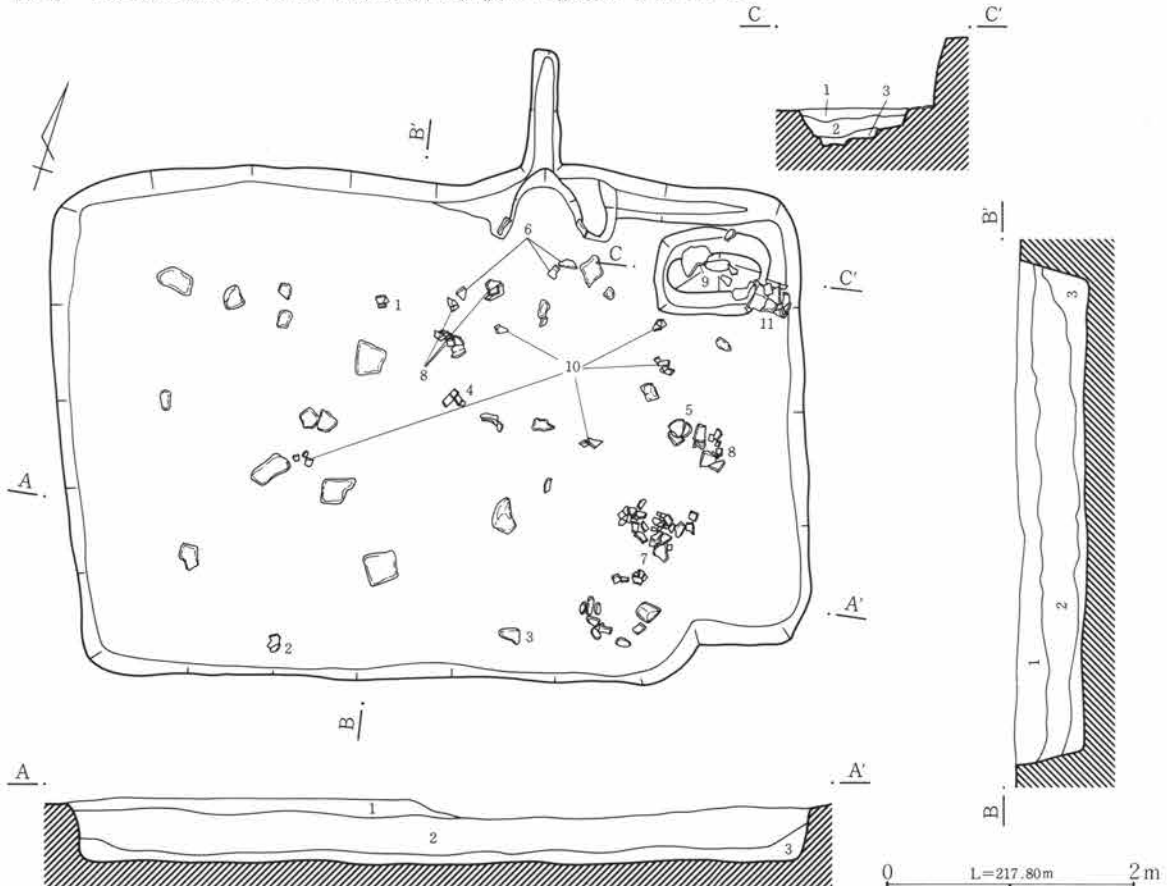
貯蔵穴 北東隅部にあり、長方形を呈す。壁下周溝・柱穴 いずれも検出されなかった。

出土遺物 総計84点の土器片類と43点の石片・石材のほか鉄滓が出土している。貯蔵穴付近やかまど前の床面付近からの出土で、土師器甕・小型甕・坏・高坏などがある。貯蔵穴付近出土の甕は、ほぼ完形品。

掘り方 床面と掘り方向がほぼ一致し、床面下から遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、7世紀後半代と考えられる。

備考 南辺部の張り出しは、住居範囲を拡張した結果と考えられる。



- 1 暗茶褐色土 砂粒を含む。土壤粒子は細かい。
- 2 暗茶褐色土 黄色砂粒を多く含む。
- 3 暗茶褐色土 黄褐色土塊を含む。やや粘性。

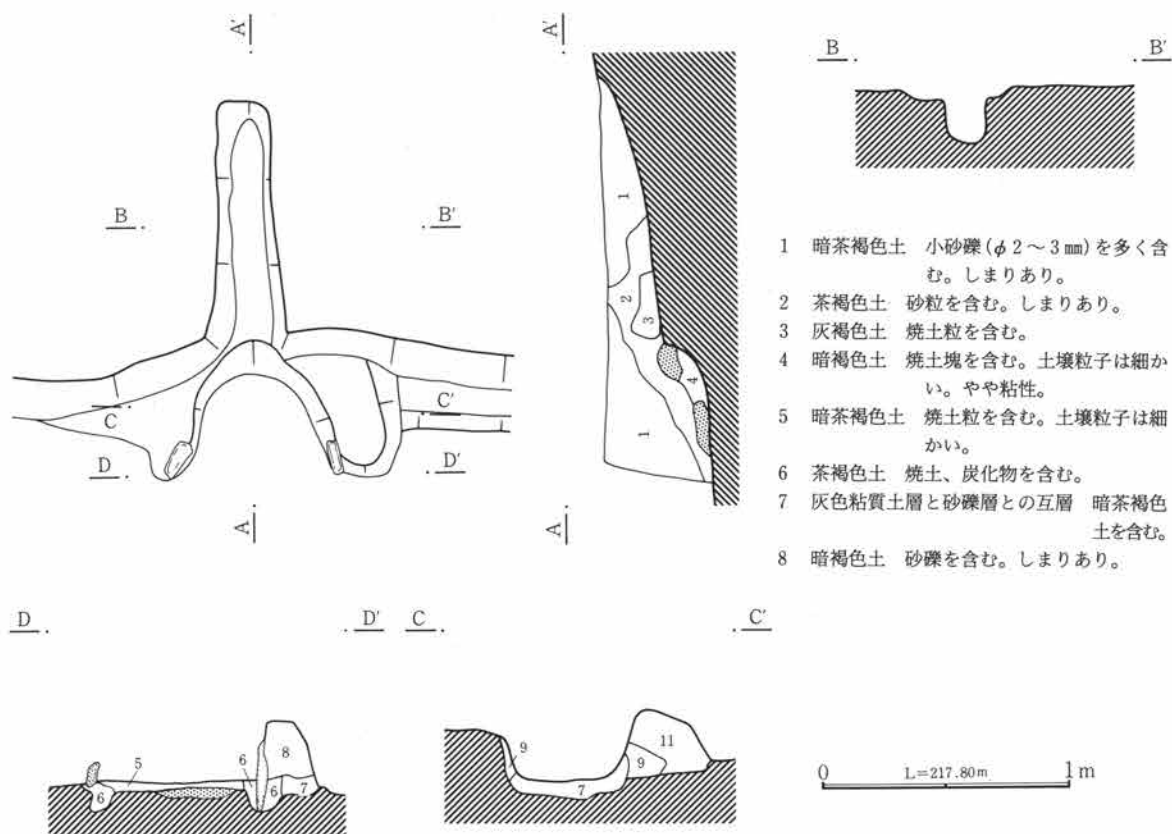
貯蔵穴セクション(C-C')

- 1 茶褐色土 焼土粒、砂礫を含む。しまりあり。
- 2 茶褐色土 炭化物、砂礫を少量含む。やや粘性。
- 3 茶褐色土 土壤粒子は細かい。

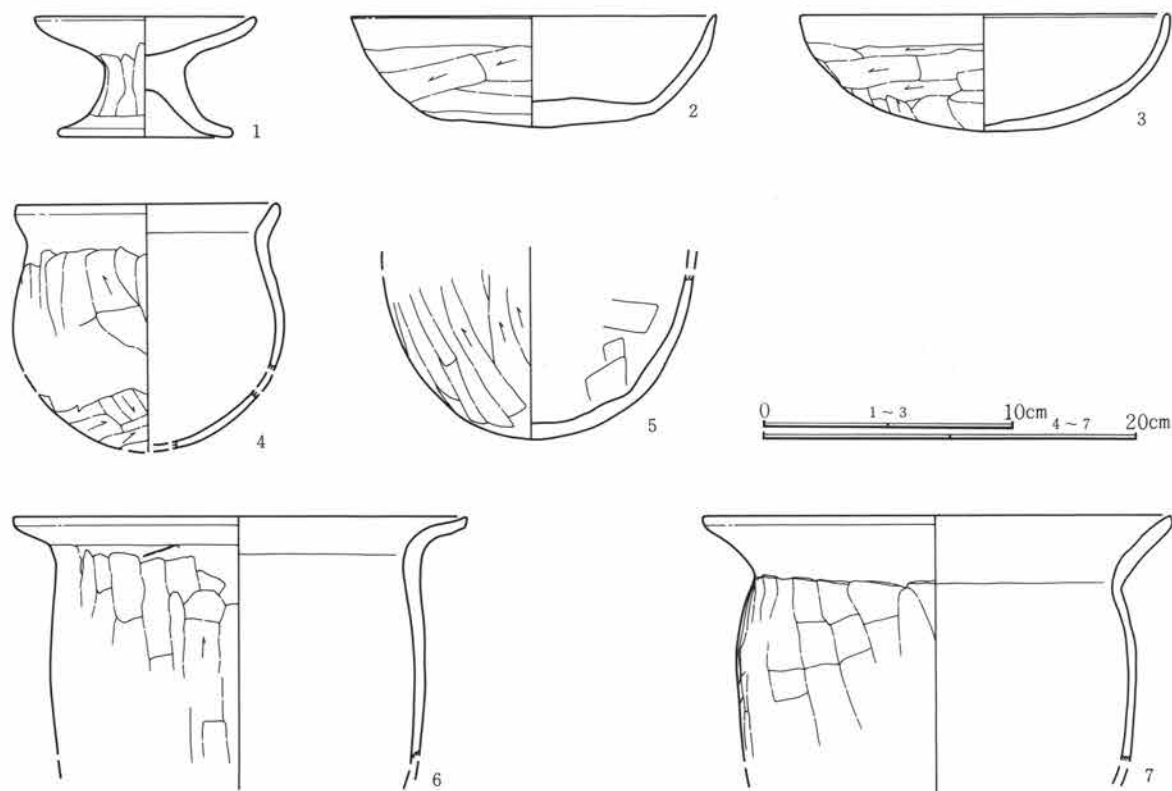
第220図 14号住居跡



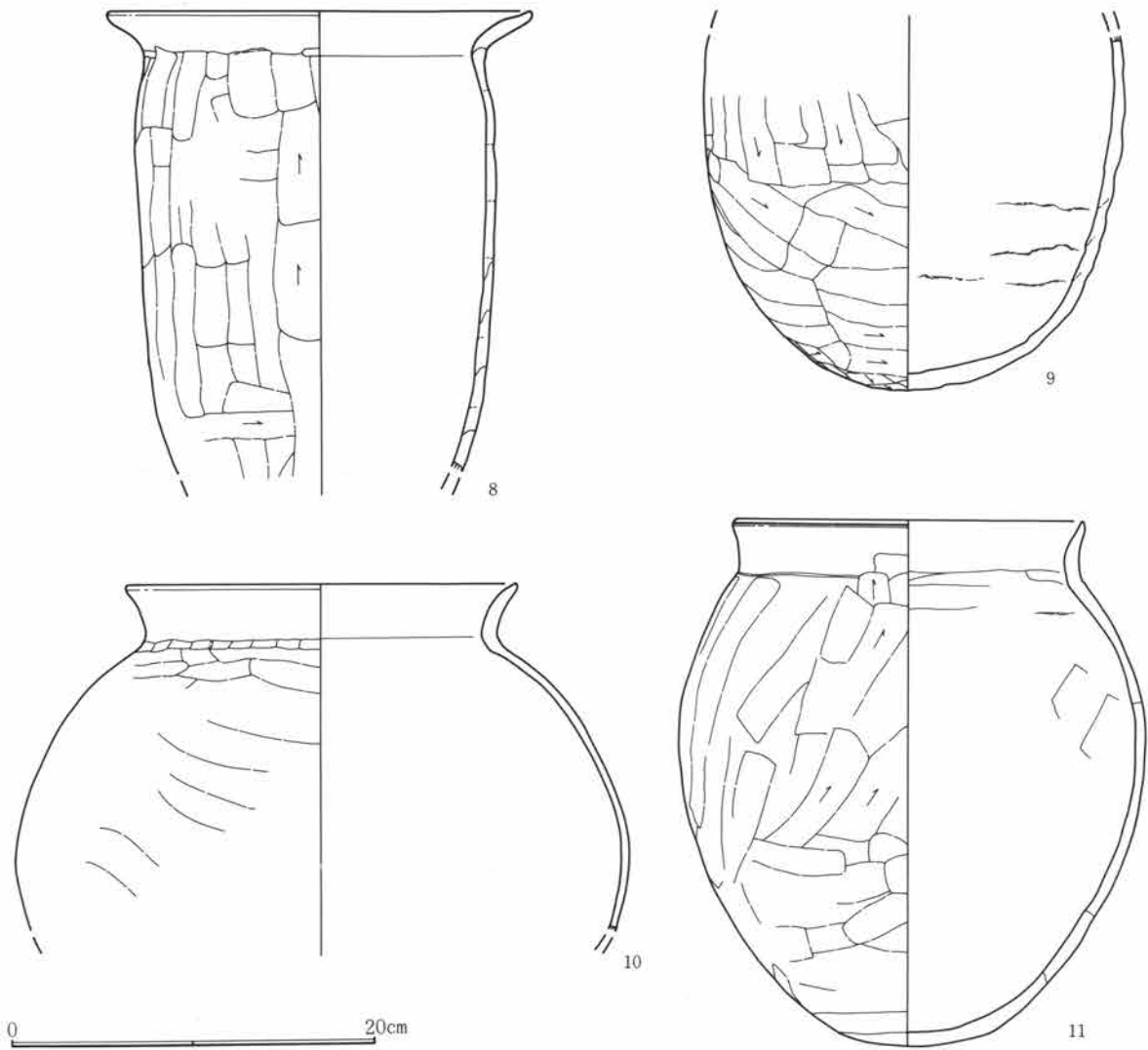
第3章 検出された遺構と遺物



第221図 14号住居跡かまど



第222図 14号住居跡出土遺物(1)



第223図 14号住居跡出土遺物(2)

15号住居跡 (PL.55・136)

**位置** Ek-63 **床面積** (23.1)㎡ **主軸方位** N-13°-E **残存壁高** 0.4m **重複** 15住→20・16住  
**規模と形状** 長辺5.20m、短辺5.14mの方形のプランを呈し、北辺部の中央付近にかまどが築かれる。周壁は、南西隅部が20号住居跡に破壊されるが、残存部は安定した掘り込みといえる。

**床面** 床面は、覆土との色調差によって明瞭に識別でき、比較的良好的な平坦面が形成されていた。かまど前や住居中央部を中心に、かたく踏み締められた部分が確認されている。

**かまど** かまどの残存状況は悪く、使用時の痕跡を一部とどめているにすぎない。燃焼部は住居壁の内側に作り出され、燃焼部側壁は一部焼土化している。煙道部は、くり抜き式のものとして推定され、わずかに勾配をもちながら立ち上がる。煙道部内上面では、焼土面が認められた。

**貯蔵穴・壁下周溝** いずれも検出されなかった。

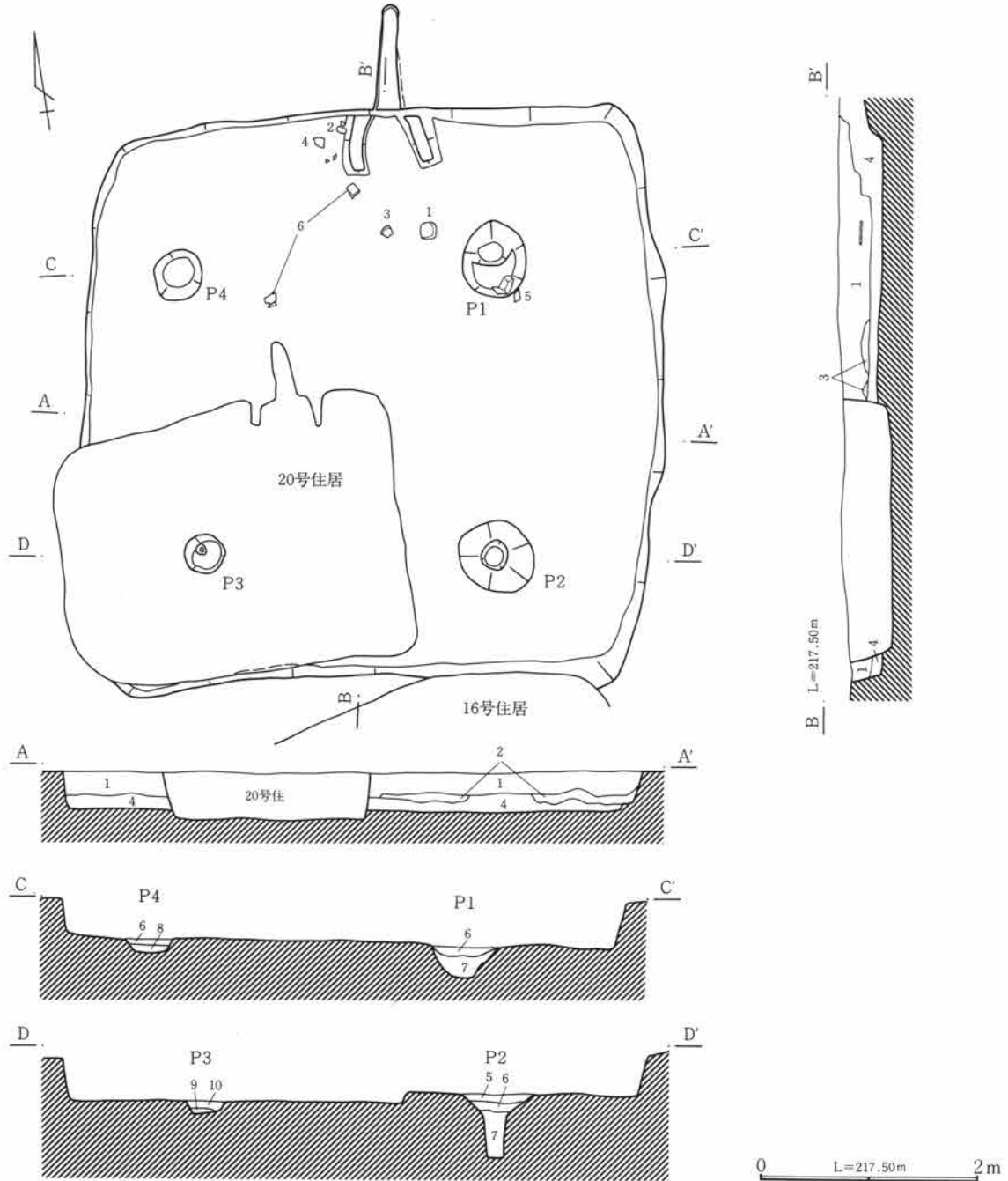
**柱穴** 4基の柱穴と考えられるピットが確認されたが、規模や形状にばらつきが認められる。

**出土遺物** 出土遺物は少なく、総計22点の土器片と10点ほどの石片・石材がかまど近辺の床面付近や覆土中から出土している。土師器甕・小型甕・坏などがあり、小型甕・坏がそれぞれ1点ずつほぼ完形品。

第3章 検出された遺構と遺物

掘り方 床面と掘り方面がほぼ一致し、床面下から遺構は検出されなかった。

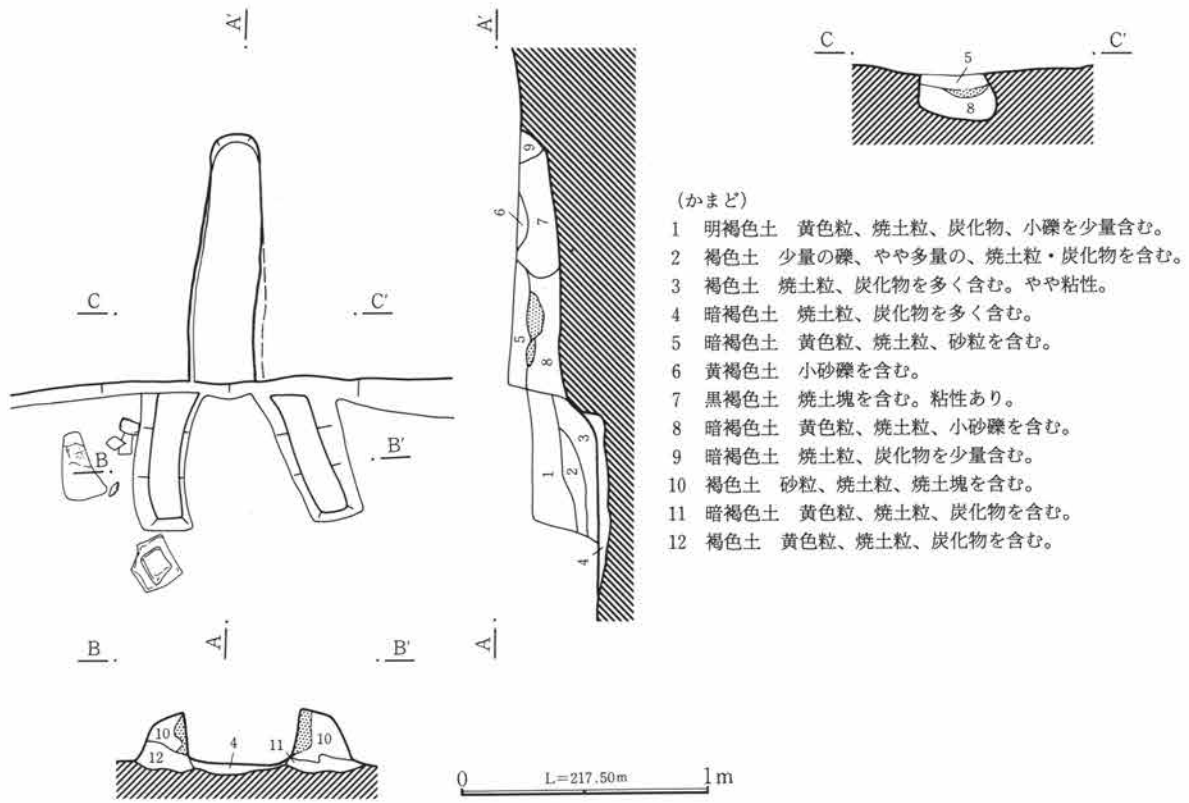
時期 出土遺物や住居形態から、6～7紀代と考えられる。



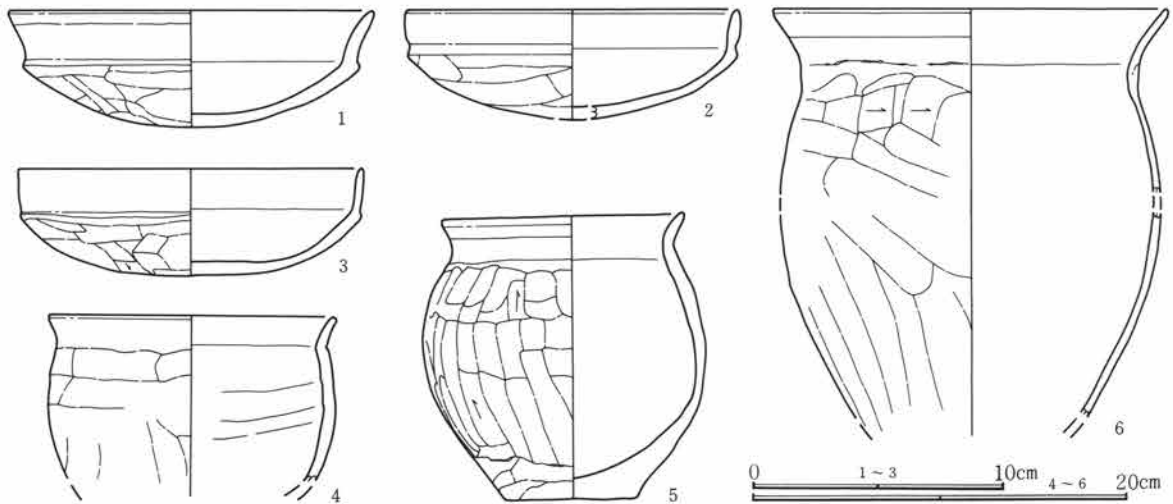
- |                                   |                      |
|-----------------------------------|----------------------|
| 1 暗褐色土 礫(φ5~15mm)を多く含む。           | 6 暗褐色土 砂礫を含む。        |
| 2 褐色土 小礫、焼土、炭化物、灰白色土塊を含む。         | 7 暗褐色土 灰褐色土を含む。粘性あり。 |
| 3 明褐色土 小礫(φ5mm)、粘質の灰色土を含む。        | 8 黄褐色砂層 砂礫を含む。       |
| 4 暗褐色土 黄色粒、焼土粒、炭化物、礫(φ2~10mm)を含む。 | 9 褐色土 焼土粒を少量含む。粘性あり。 |
| 5 暗褐色土 砂礫(φ2~3mm)、炭化物を含む。粘性。      | 10 褐色土 粘性。           |

第224図 15号住居跡

第1節 竪穴住居跡



第225図 15号住居跡かまど



第226図 15号住居跡出土遺物

16号住居跡 (PL. 56・136)

位置 Ej-63 床面積 (20.2)m<sup>2</sup> 主軸方位 N-92°-E 残存壁高 0.2m 重複 15住(古)→16住(新)  
南辺が破壊される。

規模と形状 長辺(5.6)m、短辺4.36mの長方形のプランと推定され、東辺部の最も南よりにかまどが築かれる。周壁は、若干の崩落が認められ、線形がやや乱れている。

床面 若干の起伏が認められ、かたく踏み締められるなどの傾向は確認できなかった。

かまど かまどの残存状況は悪く、燃焼部と煙道部のプランが確認されたにすぎない。燃焼部は住居壁より

### 第3章 検出された遺構と遺物

外側に作り出されU字状のプランを呈す。燃焼部側壁は、よく焼け込み焼土化している。煙道部は、くり抜き式のものと推定され、緩やかに立ち上がる。全体によく焼け込み、特に内面上部はレンガ化している。

**貯蔵穴** 南東隅のピットが貯蔵穴と推定されている。 **壁下周溝** 検出されなかった。

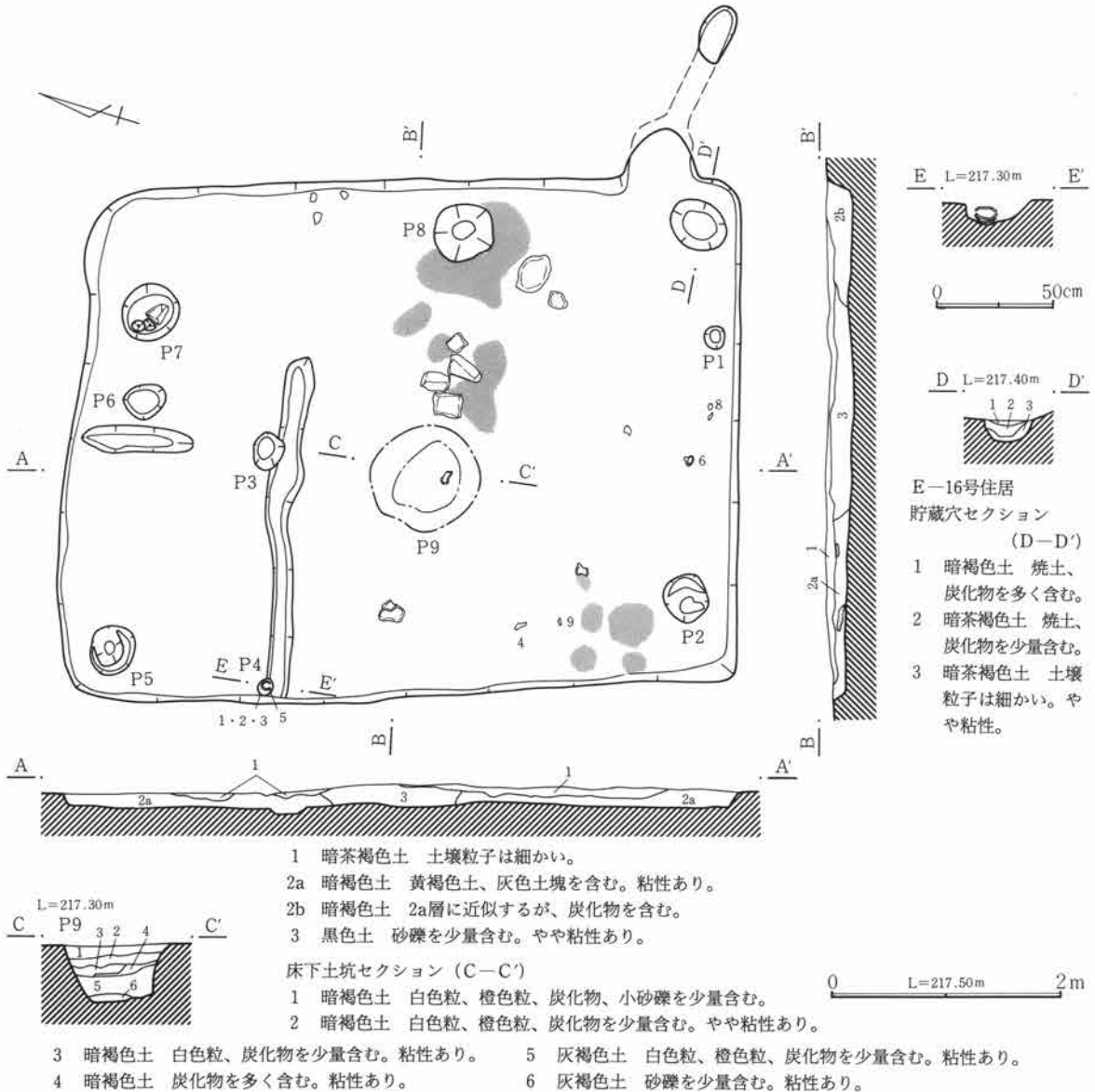
**柱穴** 規模や形状にばらつきが認められ、位置関係も悪い。柱穴とは認定しがたい。

**間仕切状遺構** 住居北側に方形に区画された浅い溝が検出された。北西隅部を仕切るような形状から間仕切と推定でき、関連すると考えられる小ピットもある。

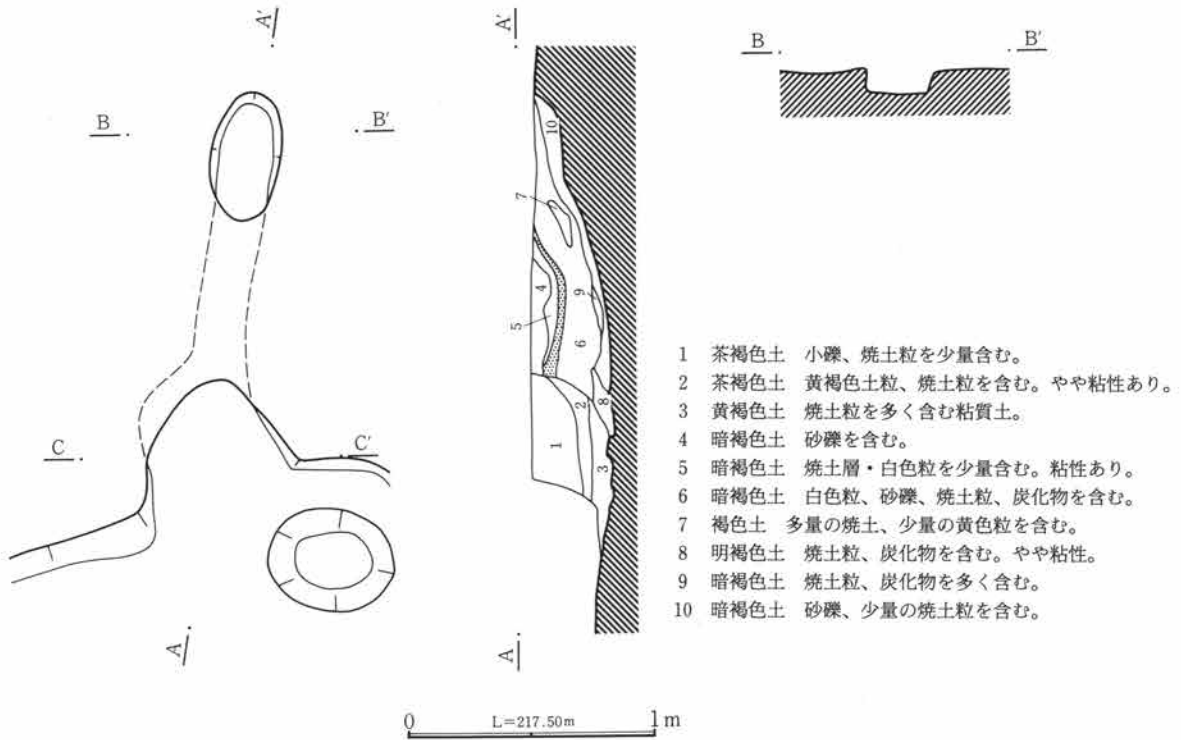
**出土遺物** 総計13点の土器片・完形個体と石製品1点および鉄滓3点が出土している。ロクロ成形の高台付碗・内黒高台付碗・小皿のほかに、石製品紡錘車がある。完形の小皿3点は、間仕切状の溝に伴う小ピット内から重なって出土している。他の遺物はいずれも床面付近からの出土。

**掘り方** 顕著な貼り床面はなく、住居中央部の床面下から土坑が1基検出された。覆土中に多量の炭化物が含まれるが、性格については不明。

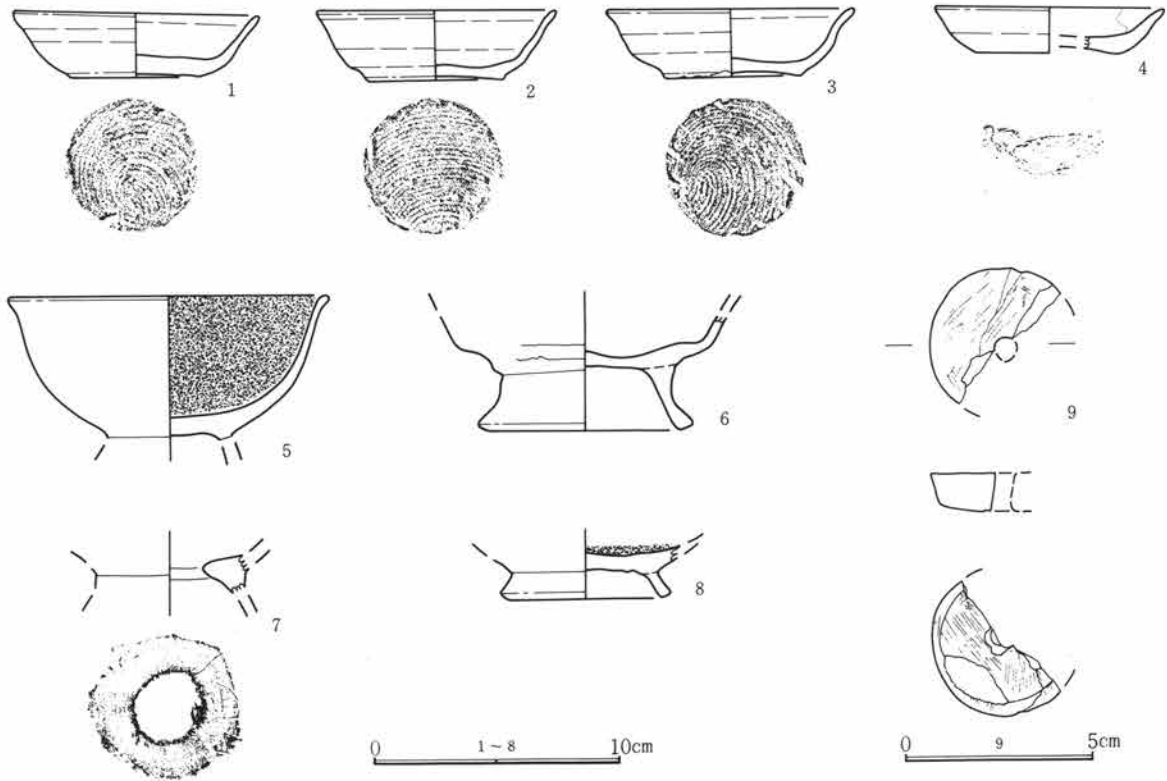
**時期** 出土遺物や住居形態から、9世紀後半代と考えられる。



第227図 16号住居跡



第228図 16号住居跡かまど



第229図 16号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

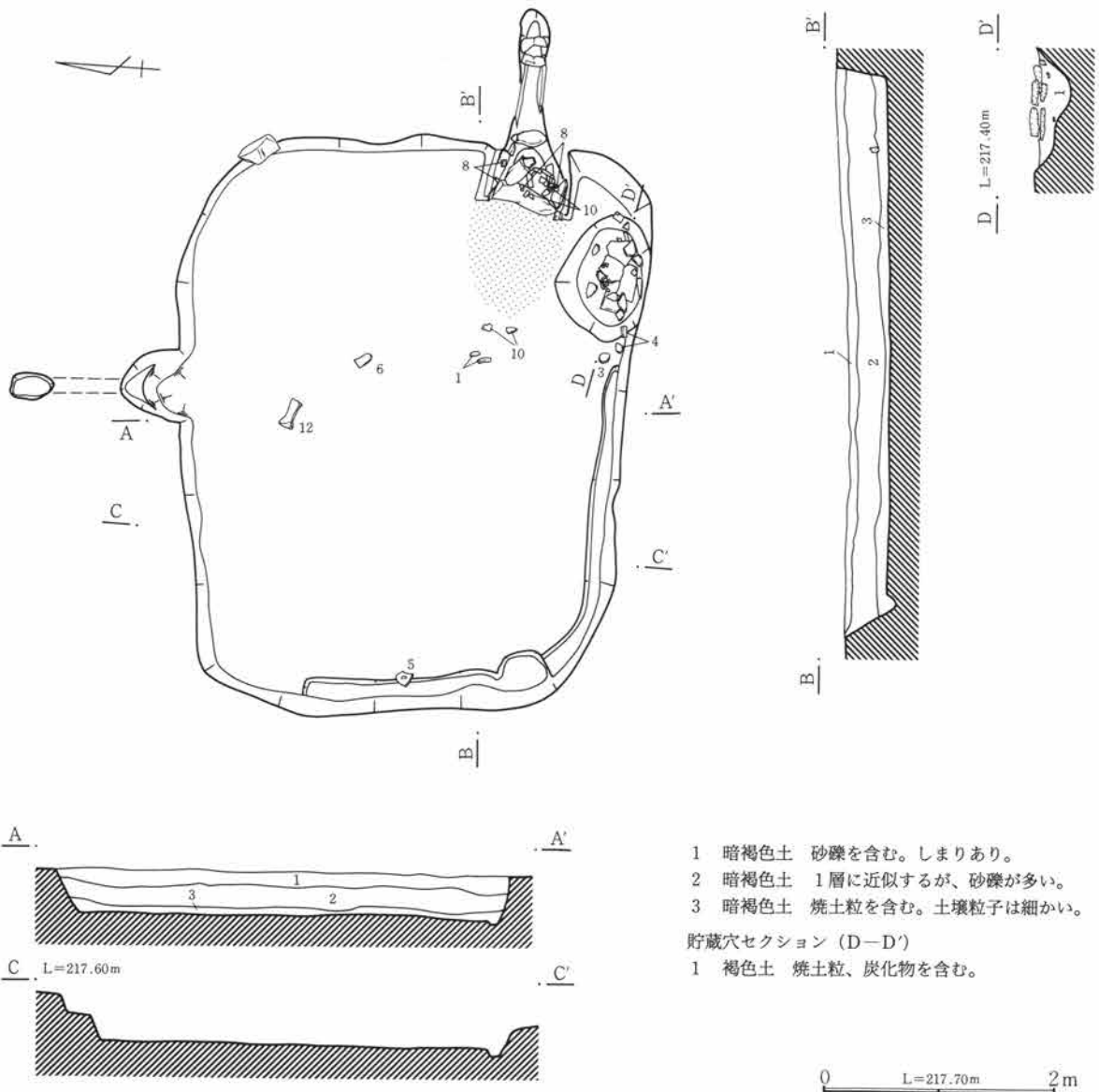
17号住居跡 (PL.56・57・137)

位置 Em-63 床面積 15.7m<sup>2</sup> 主軸方位 N-88°-E 残存壁高 0.4m 重複 11住→17住

規模と形状 長辺4.80m、短辺3.80mの長方形のプランを呈し、北辺部の中央付近と東辺部の南よりにそれぞれかまどが築かれる。北辺部のかまどは東辺部のかまどの構築前に使用され、その廃棄後に東辺部のかまどが築かれたと考えられる。周壁は、若干の崩落が認められ、線形がやや乱れている。

床面 床面は、覆土との色調差によって明瞭に識別でき、比較的良好な平坦面が形成されていた。東辺部のかまど前や住居中央部を中心に、かたく踏み締められた部分を確認されている。

かまど 2基のかまどのうち、北辺部のかまどの残存状況は悪い。東辺部に移築後破壊されたため、燃烧部の一部と煙道部が確認されている。燃烧部の焚口部はなく、燃烧部奥側が残存している。煙道部は使用時の痕跡をとどめている。くり抜き式の構造をもち、わずかな傾斜をもちながら立ち上がる。内面上部や立ち上がり部に焼土面が確認された。東辺部のかまどは使用時の痕跡をよくとどめている。燃烧部及び煙道部に



第230図 17号住居跡



砂岩の加工石を多用した構造を有し、燃焼部内には2個体の甕が検出されている。この甕は、燃焼部内に崩れ落ちた状態で検出されているが、おそらく廃棄時にはかまどに架けられていたものと推定される。燃焼部は住居壁の内側に作り出され、両側壁は板状の砂岩加工石によって二重もしくは三重に立て掛け、灰褐色粘土で補強されている。両袖部の先端には、天井部に砂岩加工石が架けられ、焚口部を構成している。燃焼部内には、甕とともに天井部を構成した焼土ブロックなども認められ、底面には焼土面が確認されている。また、かまど前には灰・焼土粒子の分布がある。煙道部は、石組み部分と土師器甕を転用した部分からなる。石組み部は、燃焼部側の側壁と天井部を板状の砂岩加工石によって方形状に組んだもので、先端の煙出し部には、底部その他を欠く2個体の甕が転用されている。

**貯蔵穴** 南東隅にあり、円形状を呈す。貯蔵穴覆土上面からは、砂岩加工石の残欠が多く検出されている。

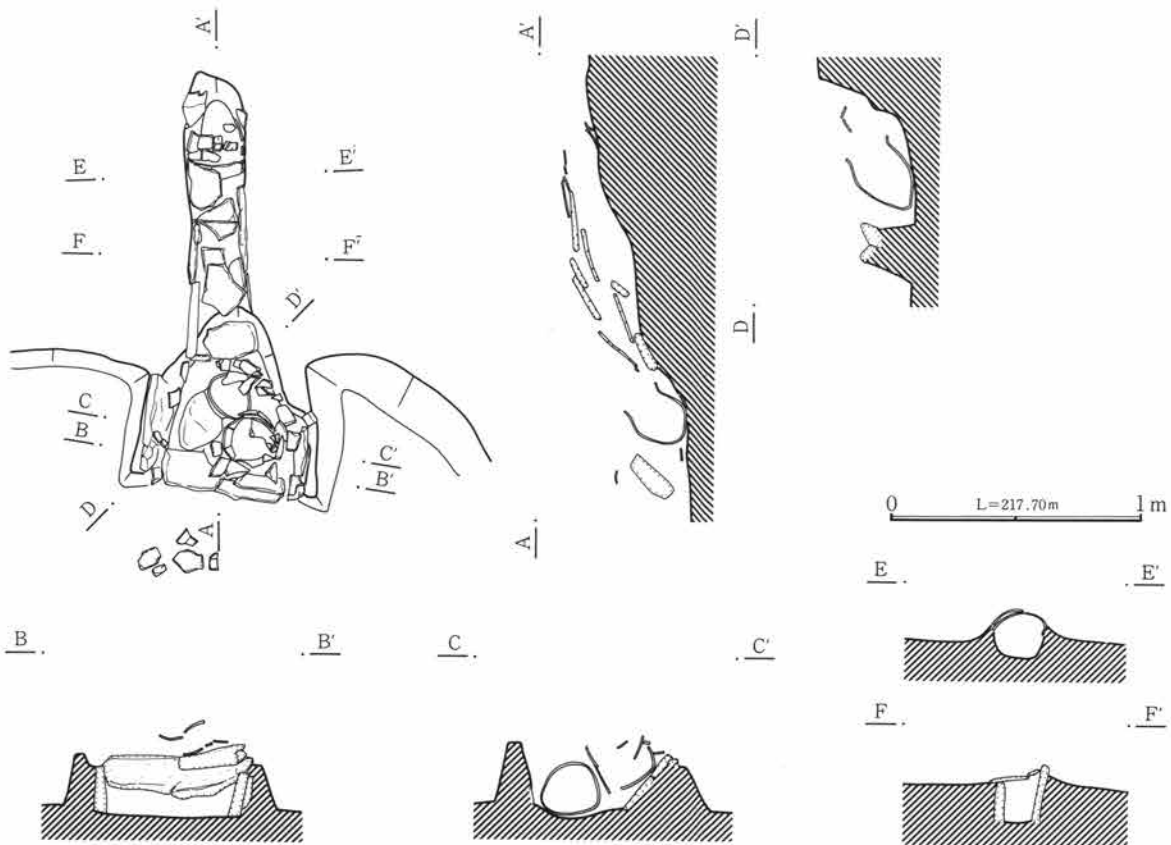
**壁下周溝** 壁下周溝は、西辺部から南辺部にかけて検出された。掘り込みは浅い。

**柱穴** 柱穴は検出されなかった。

**出土遺物** 総計67点の土器片・完形個体と68点の石製品・石材が出土している。東辺部のかまど燃焼部内から土師器甕が3点、煙道部煙突に転用した甕が1点あり、いずれも残存率が良いもので、完形品もある。燃焼部内で重なりあう2個体の甕は、下側のものがほぼ完存し、上側のものが底部のみ欠損するもので、出土状況からも上側を甕として転用したものと考えられる。その他の遺物としては、土師器坏、須恵器坏・蓋、石製品砥石があり、貯蔵穴や床面付近から出土している。

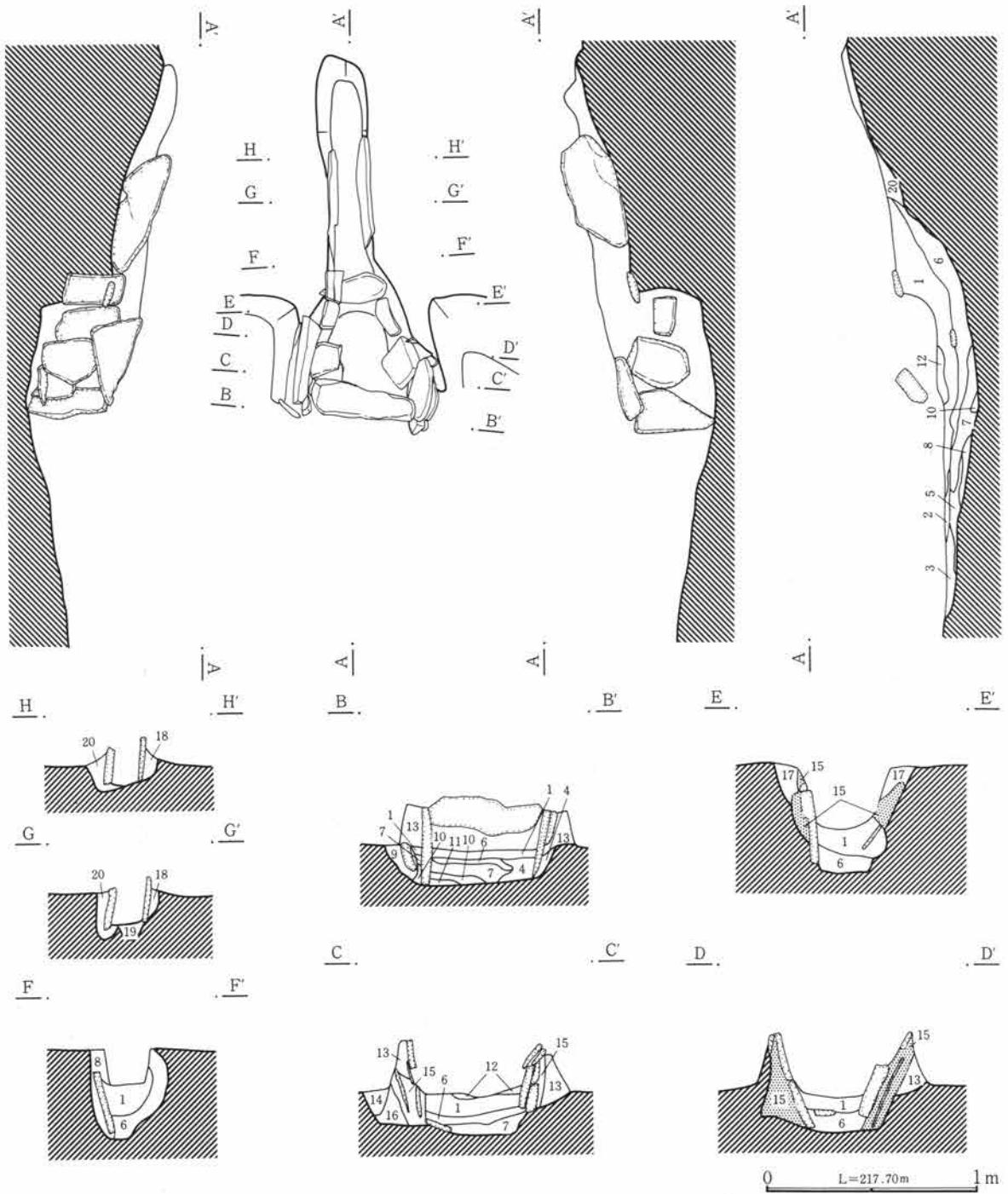
**掘り方** 貼り床や床面下の遺構は検出されなかった。

**時期** 出土遺物や住居形態から、9世紀前半代と考えられる。



第231図 17号住居跡東かまど(1)

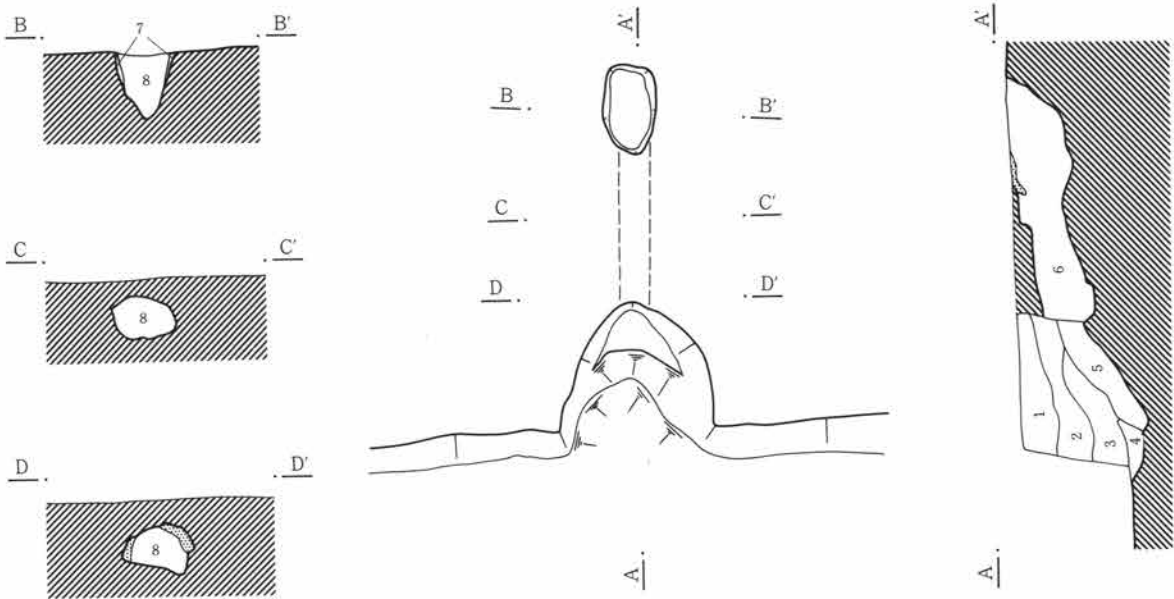
第3章 検出された遺構と遺物



- |                               |                         |
|-------------------------------|-------------------------|
| 1 褐灰色土 焼土粒、炭化物を含む。            | 11 黄褐色土 砂礫を含む。          |
| 2 暗褐色土 白色粒、炭化物を含む。            | 12 褐灰色土 焼土塊、炭化物を多く含む。   |
| 3 黄褐色土 白色粒、焼土粒、炭化物を含む。        | 13 暗褐色土 砂礫、焼土粒を含む。      |
| 4 焼土と褐灰色土の混土层 炭化物を少量含む。       | 14 暗褐色土 焼土粒、炭化物を含む。     |
| 5 褐灰色土 多量の炭化物、少量の焼土粒を含む。      | 15 暗褐色土 袖石を固めた粘土の表面焼土化。 |
| 6 褐灰色土と赤褐色土の混土层 焼土粒を多く含む。     | 16 褐色土 砂礫を少量含む。         |
| 7 褐灰色土 焼土粒を多く含む。土壤粒子は細かい。     | 17 黄褐色土 砂礫(φ約5mm)を少量含む。 |
| 8 黄褐色土 焼土粒、炭化物を多く含む。          | 18 褐色土 焼土粒を少量含む。        |
| 9 黄褐色土 多量の砂礫(φ5mm)、少量の焼土粒を含む。 | 19 暗褐色土 土壤粒子は細かい。       |
| 10 暗赤褐色土 焼土を多量に含む。            | 20 黄褐色土 黄色粒、砂礫を含む。      |

第232図 17号住居跡東かまど(2)

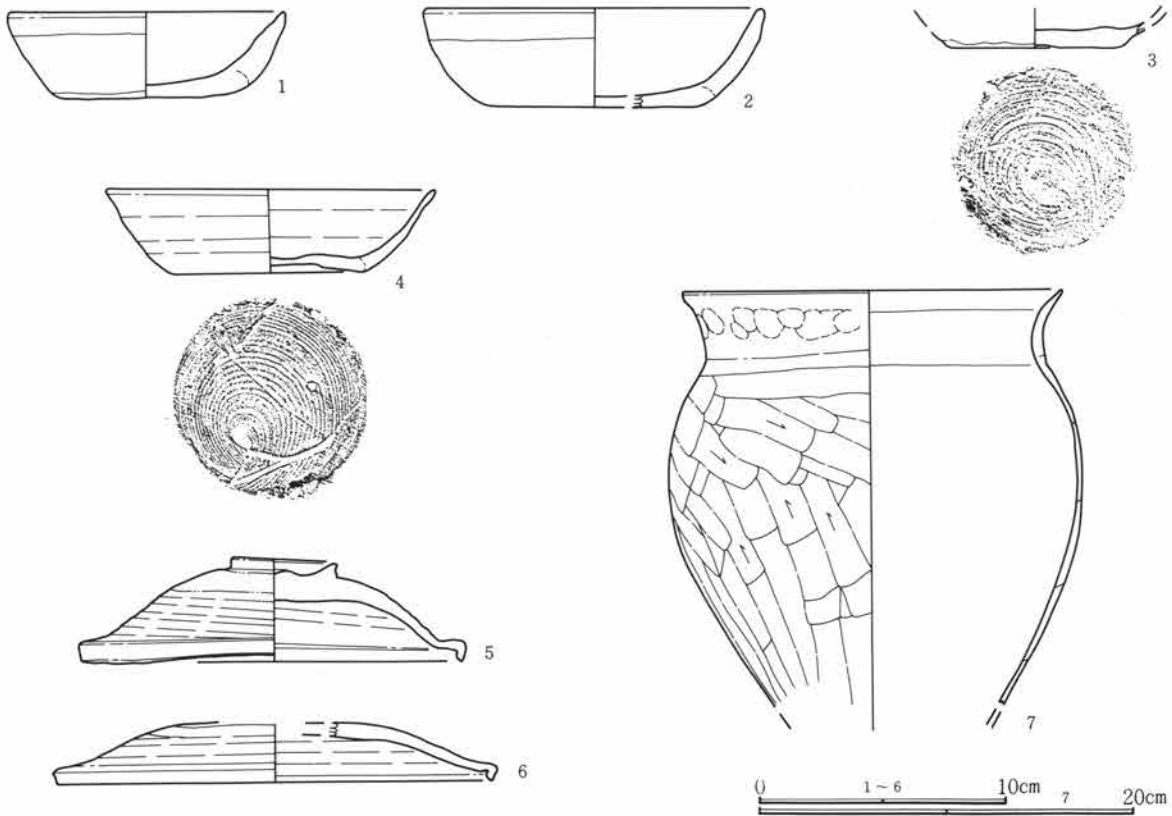
第1節 竪穴住居跡



- |                              |                                   |
|------------------------------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色土 白色粒を少量含む。             | 5 褐色土 黄色粒、焼土粒、砂礫(φ約5mm)を含む。しまりあり。 |
| 2 暗褐色土 白色粒、黄色粒、焼土粒、炭化物を少量含む。 | 6 暗褐色土 黄色粒、砂礫、焼土粒を少量含む。しまりあり。     |
| 3 暗褐色土 白色粒、黄色粒、焼土粒、焼土塊を少量含む。 | 7 焼土層                             |
| 4 褐色土 黄色粒、焼土粒を含む。            | 8 暗褐色土 黄色粒、砂礫、焼土粒を少量含む。しまりあり。     |

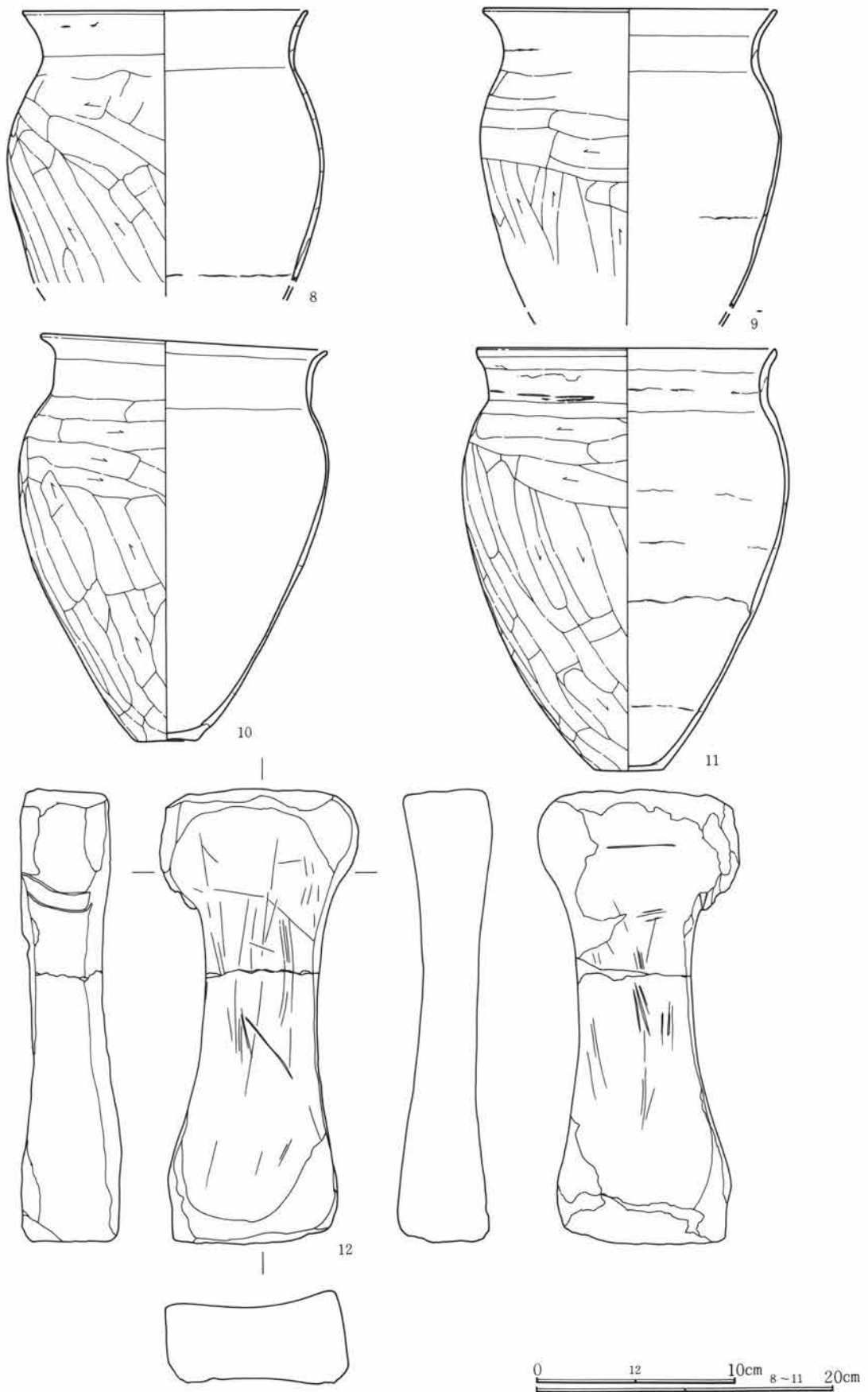
第233図 17号住居跡北かまど

0 L=217.60m 1m



第234図 17号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第235図 17号住居跡出土遺物(2)

18号住居跡 (PL.57・137・138)

位置 Eg-65 床面積 11.0m<sup>2</sup> 主軸方位 N-59°-E 残存壁高 0.45m 重複 18住→2号溝

規模と形状 長辺4.00m、短辺3.50mの長方形のプランを呈し、東辺部の中央付近にかまどが築かれている。周壁は、崩落が激しく、線形が乱れている。

床面 床面は、覆土との色調差によって明瞭に識別できたが、若干の起伏が認められ、住居中央部がわずかにくぼむ。かまど前や住居中央部を中心に、わずかにたたく踏み締められた部分の確認されている。

かまど かまどの残存状況は悪く、使用時の痕跡を一部とどめているにすぎない。燃烧部と煙道部のプランが確認され、燃烧部は住居壁の内側に作り出されている。両袖部の先端部には砂岩加工石の袖石が残存し、かまど前にはこの袖石に架けられたと考えられるかまど用石(砂岩)も認められる。燃烧部側壁および底面は、一部焼土面が確認されたが、煙道部には、顕著な焼土面などは確認されなかった。

貯蔵穴 南東隅部にあり、円形状を呈する。

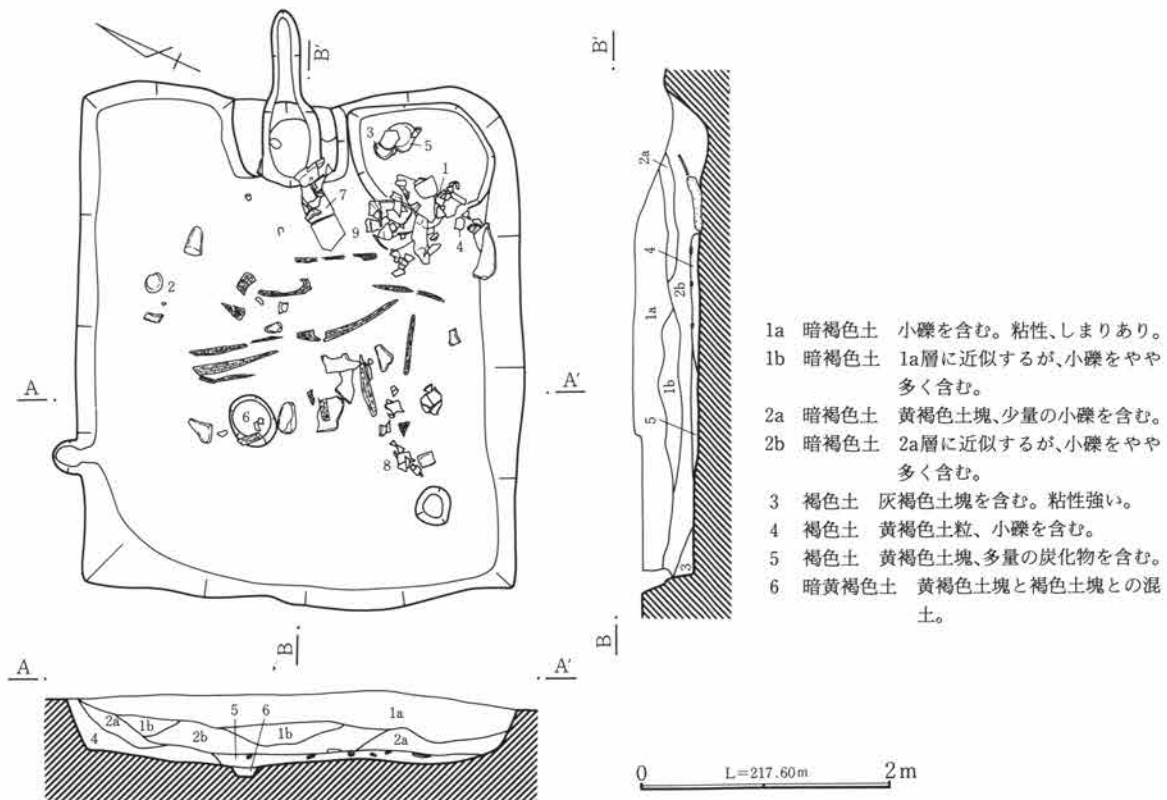
壁下周溝・柱穴 いずれも検出されていないが、住居内から2基の小ピットが検出された。

出土遺物 総計26点の土器片とかまど用石材をはじめとする石片が6点、このほかに炭化材が出土している。土器類は、貯蔵穴やかまど前の床面付近から、その多くが検出され、土師器甕・小型甕・鉢・坏などがある。土師器鉢および坏はほぼ完存する。

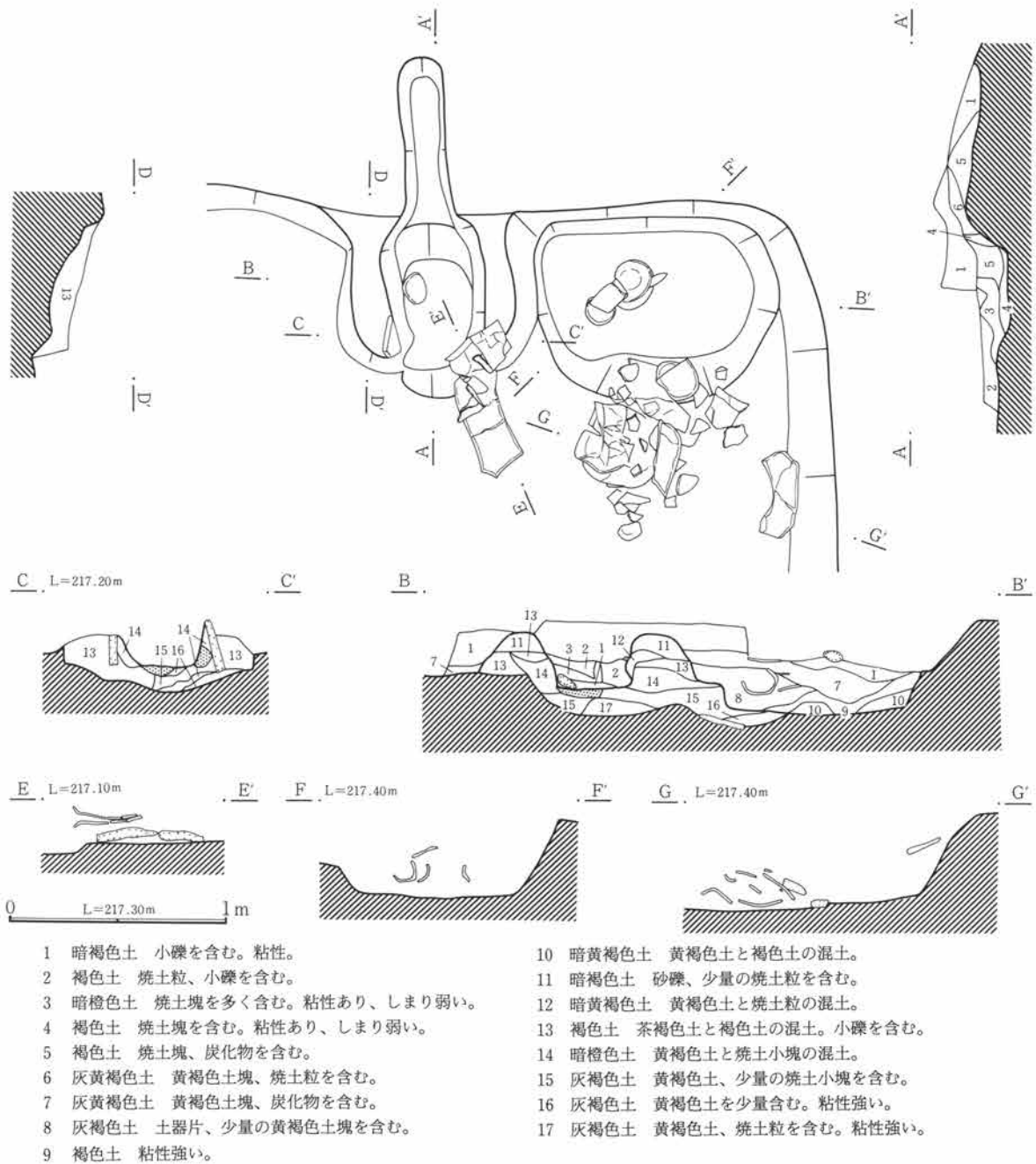
掘り方 床面と掘り方面がほぼ一致し、床面下から遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、6世紀代と考えられる。

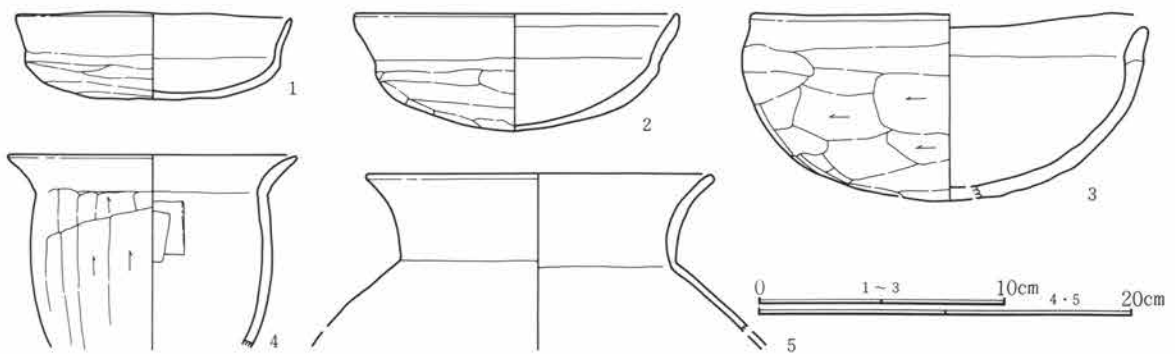
備考 炭化材の検出状況から、本住居跡は焼失家屋と考えられる。



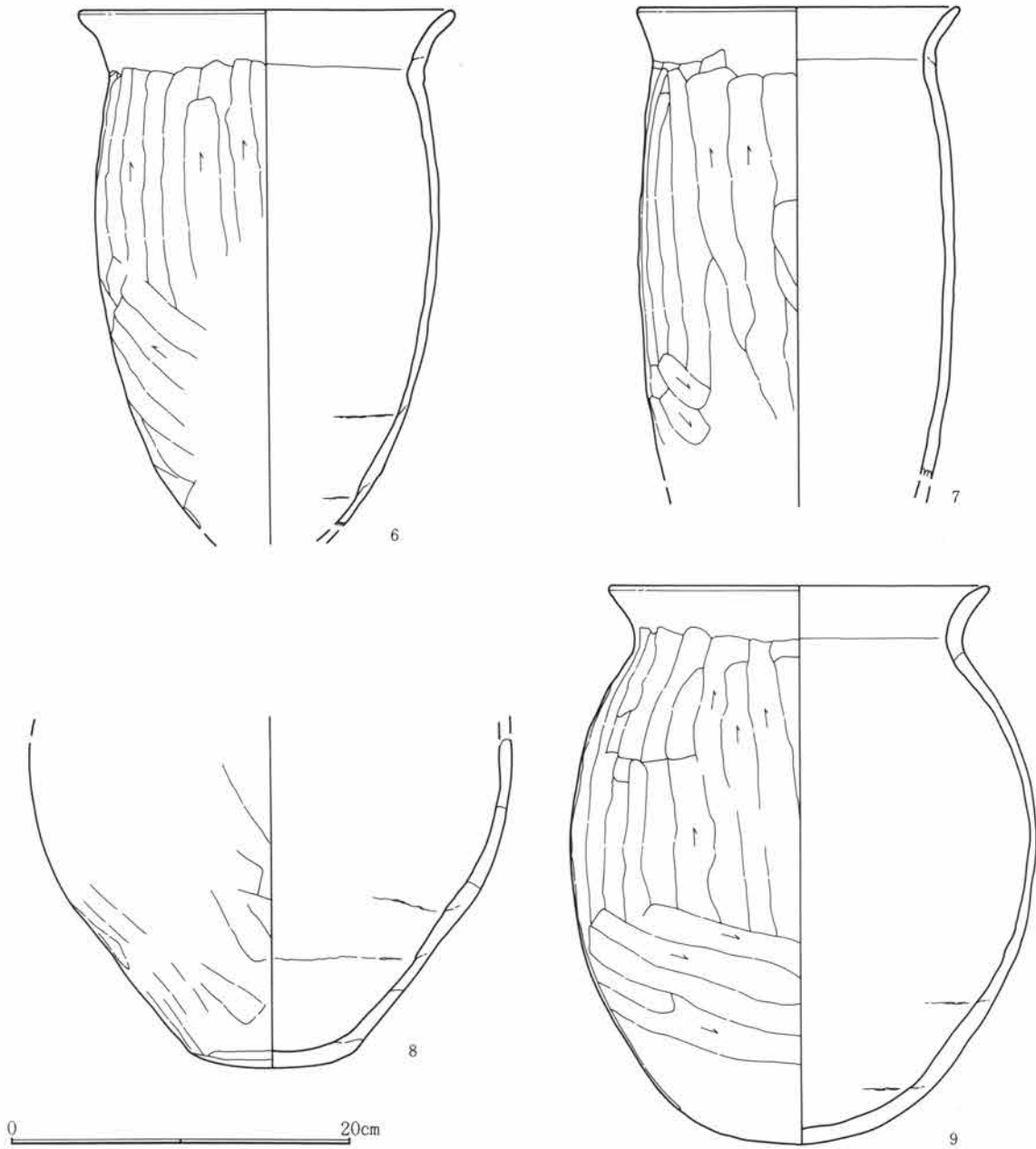
第236図 18号住居跡



第237図 18号住居跡かまど



第238図 18号住居跡出土遺物(1)



第239図 18号住居跡出土遺物(2)

19号住居跡 (PL. 58・138)

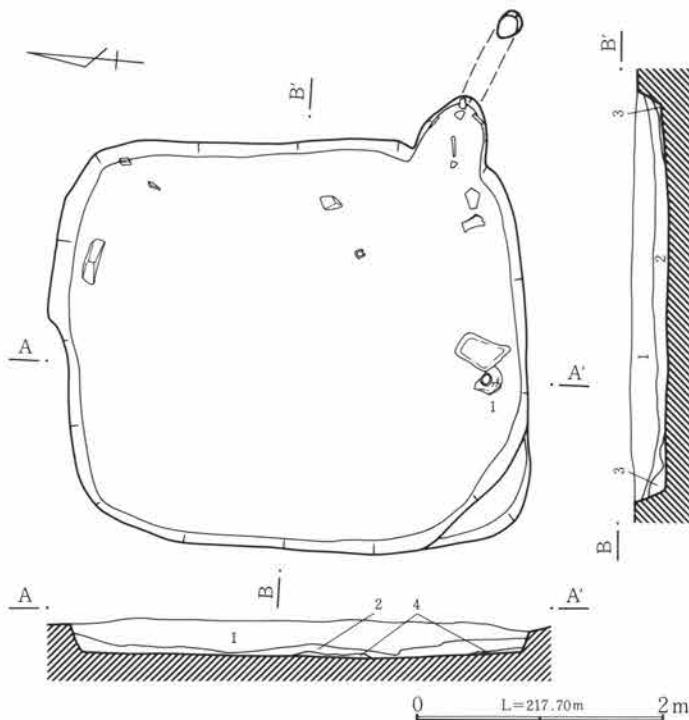
位置 Eo-61 床面積 9.7㎡ 主軸方位 N-110°-E 残存壁高 0.25m 重複 なし

規模と形状 長辺3.70m、短辺3.20mの長方形のプランを呈し、東辺部の最も南よりにかまどが築かれる。周壁は、崩落が激しく線形が乱れ、各隅部は丸味をもつ。

床面 床面は、覆土との色調差によって明瞭に識別でき、比較的良好な平坦面が形成されていた。顕著にかたく踏み締められるなどの傾向は確認できなかった。

かまど かまどの残存状況は悪く、使用時の痕跡を一部とどめているにすぎない。燃焼部と煙道部のプランが確認され、燃焼部は住居壁より外側に作り出されている。燃焼部内には、顕著な焼土面などは確認されなかった。煙道部は、くり抜き式のものと同定され、わずかに勾配をもちながらほぼ直角に立ち上がる。全体





第240図 19号住居跡

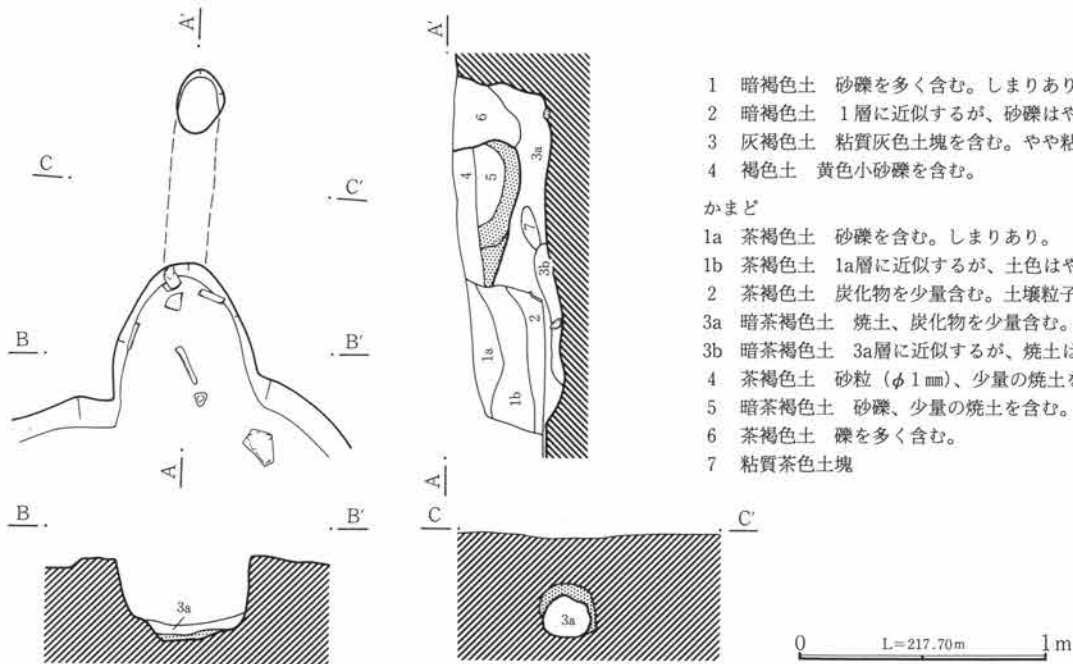
によく焼け込み、内面上部はとりわけ顕著である。

**貯蔵穴・壁下周溝・柱穴** いずれも検出されなかった。

**出土遺物** 総計9点の土器片類が出土したにすぎない。住居南辺部の床面付近から、ロクロ成形の内黒高台付碗が出土している。No2の遺物はかまど南壁外より出土であり本住居には伴わないと考えられる。

**掘り方** 床面と掘り方面がほぼ一致し、床面下から遺構は検出されなかった。

**時期** 出土遺物や住居形態から、10世紀代と考えられる。



第241図 19号住居跡かまど

- 1 暗褐色土 砂礫を多く含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土 1層に近似するが、砂礫はやや少ない。
- 3 灰褐色土 粘質灰色土塊を含む。やや粘性。
- 4 褐色土 黄色小砂礫を含む。

かまど

- 1a 茶褐色土 砂礫を含む。しまりあり。
- 1b 茶褐色土 1a層に近似するが、土色はやや明るい。
- 2 茶褐色土 炭化物を少量含む。土壤粒子は細かい。
- 3a 暗茶褐色土 焼土、炭化物を少量含む。
- 3b 暗茶褐色土 3a層に近似するが、焼土はより多い。
- 4 茶褐色土 砂粒(φ1mm)、少量の焼土を含む。
- 5 暗茶褐色土 砂礫、少量の焼土を含む。
- 6 茶褐色土 礫を多く含む。
- 7 粘質茶色土塊



第242図 19号住居跡出土遺物

20号住居跡 (PL.58・138)

位置 Ek-63 床面積 6.3m<sup>2</sup> 主軸方位 N-6°-E 残存壁高 0.35m 重複 15住→20住

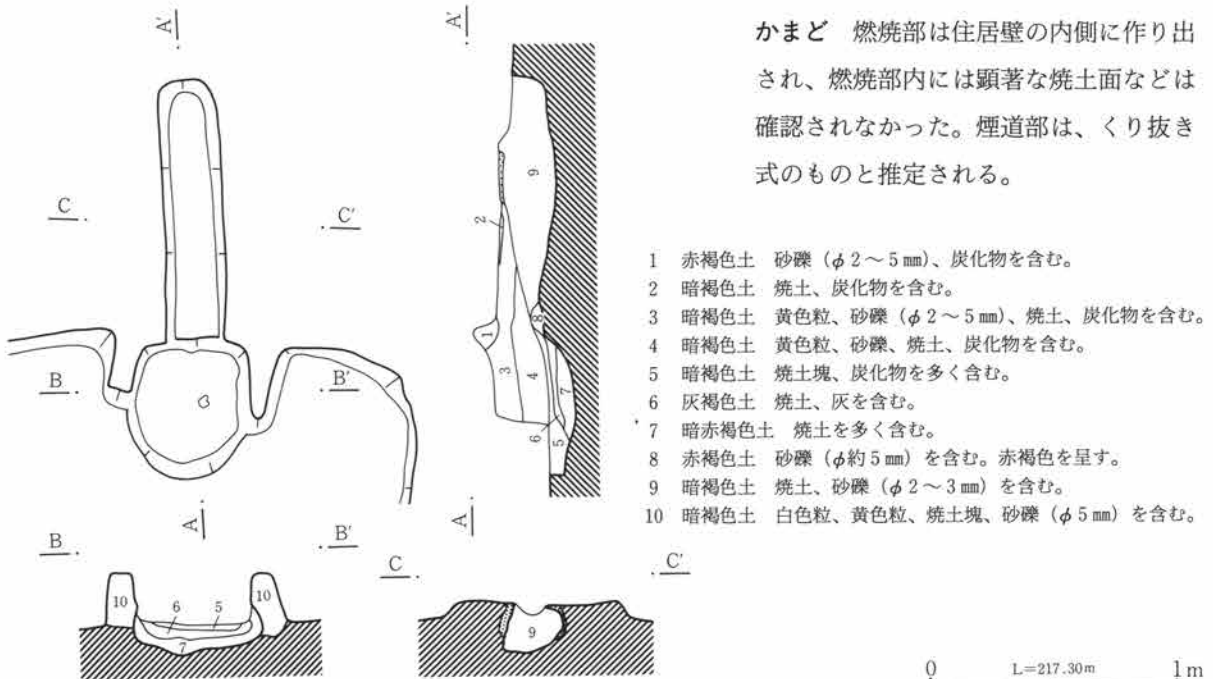
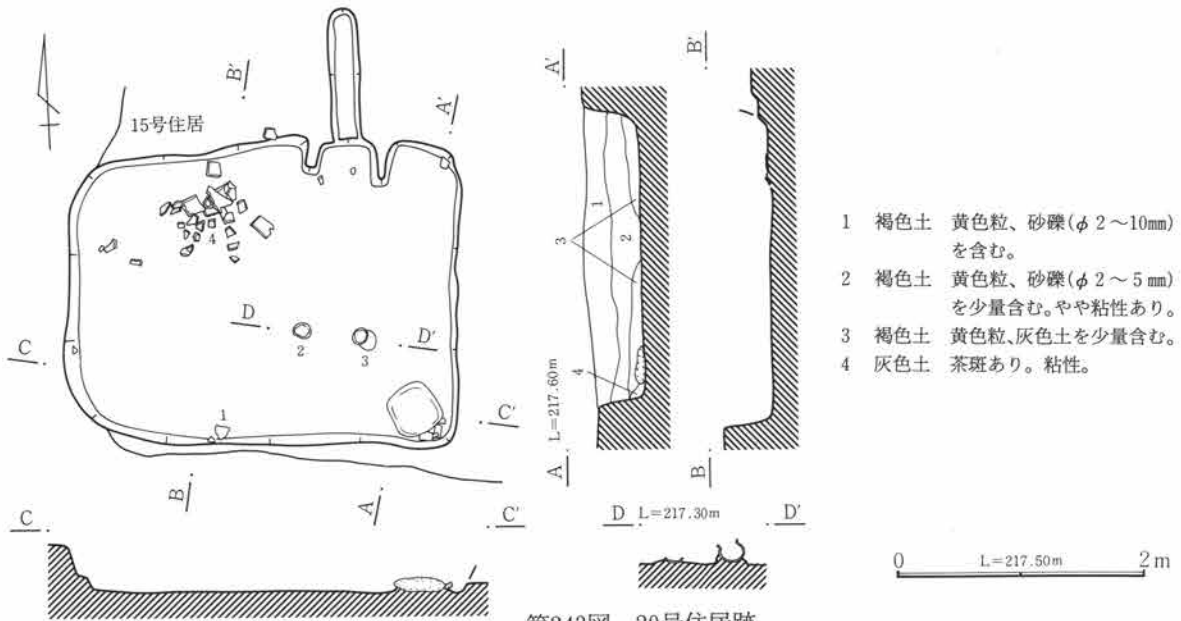
規模と形状 長辺3.08m、短辺2.30mの長方形を呈し、中央より東側にかまどが築かれる。

床面 かたく踏み締められるなどの顕著な傾向は確認できなかった。

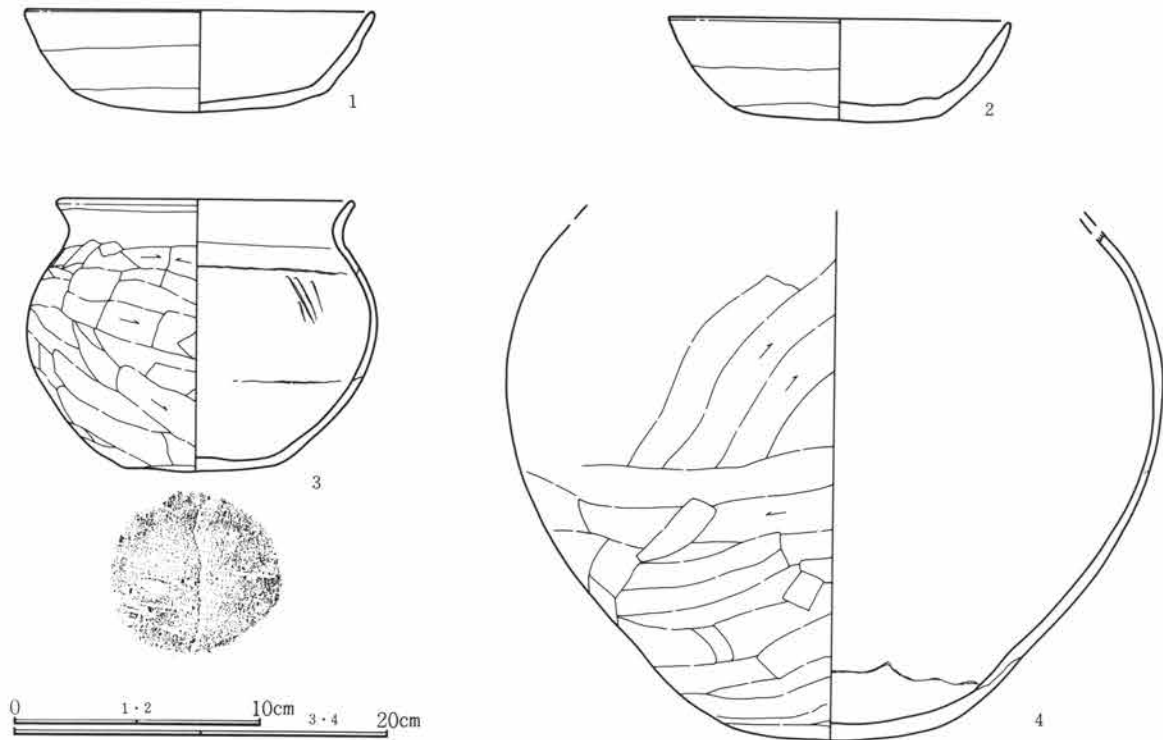
貯蔵穴・壁下周溝・柱穴 検出されなかった。出土遺物 総計30点の土器片類と少量の石片・石材が出土している。南東隅部にある河原石は、顕著な使用痕は認められなかったが、作業用の台石の可能性がある。

掘り方 貼り床や床面下の遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、8世紀前半代と考えられる。



### 第3章 検出された遺構と遺物



第245図 20号住居跡出土遺物

#### 21号住居跡 (PL. 59・138)

位置 Eo-60 床面積 15.3m<sup>2</sup> 主軸方位 N-90°-E 残存壁高 0.25m 重複 なし

規模と形状 長辺4.74m、短辺3.46mの長方形のプランを呈し、東辺部の中央より南側にかまどが築かれる。周壁は、若干の崩落が認められ、線形がやや乱れる。

床面 床面は、覆土との色調差によって明瞭に識別でき、比較的良好な平坦面が形成されていた。床面の精査では、かたく踏み締められるなどの顕著な傾向は確認できなかった。

かまど かまどの残存状況は悪く、使用時の痕跡を一部とどめているにすぎない。燃焼部と煙道部のプランが確認され、かまど本体は住居壁より外側に作り出されている。燃焼部は、U字状プランを呈し、右袖石が残存している。燃焼部側壁や底面の一部では、焼土面が確認されている。煙道部は、くり抜き式のもので、わずかに勾配をもちながら直角に立ち上がっている。この立ち上がり部では、煙り出し出口の石組用石と考えられる石材が検出された。

貯蔵穴 南東隅部にあり、長円形状を呈す。

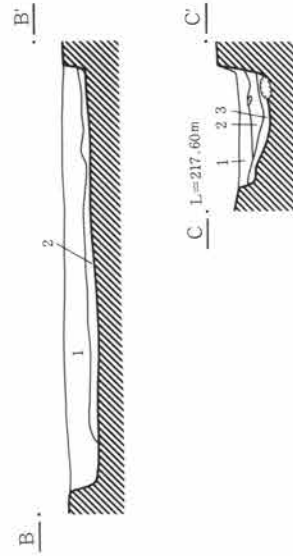
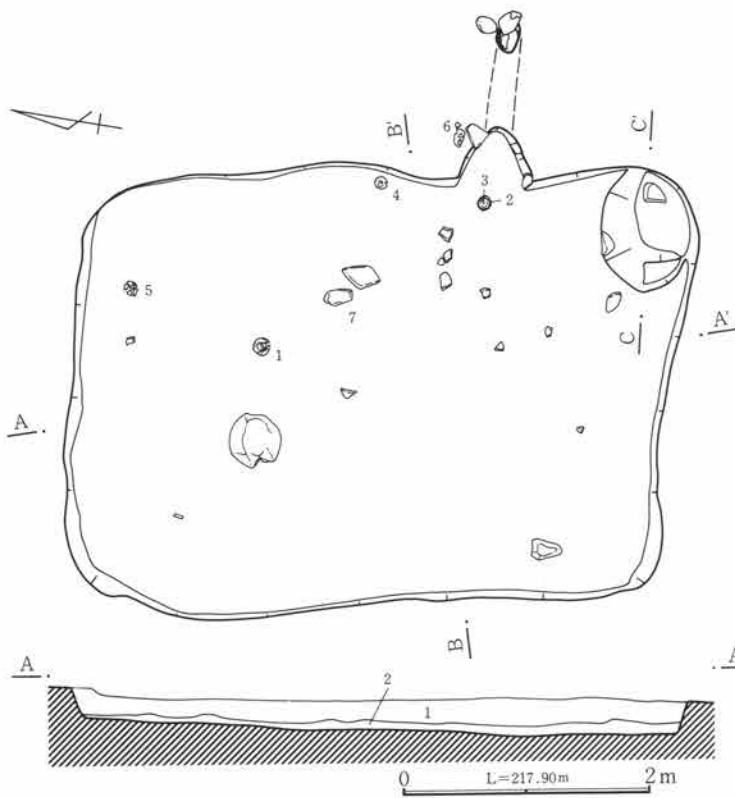
壁下周溝・柱穴 いずれも検出されなかった。

出土遺物 出土遺物は少なく、総計20点の土器片・完形個体と6点の石製品・石片が出土している。ロクロ成形の坏・高台付壺と石製品砥石があり、かまど前の坏2点は重なって床面からほぼ完形で出土している。他の坏・壺・砥石は、いずれも床面付近から出土している。

掘り方 床面と掘り方面がほぼ一致し、床面下から遺構は検出されなかった。

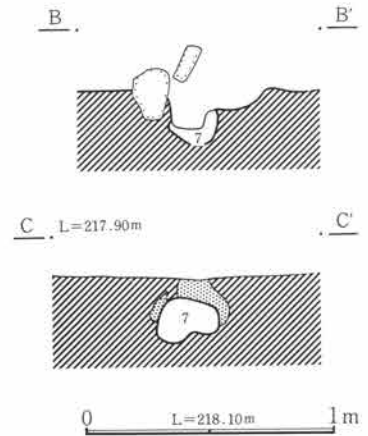
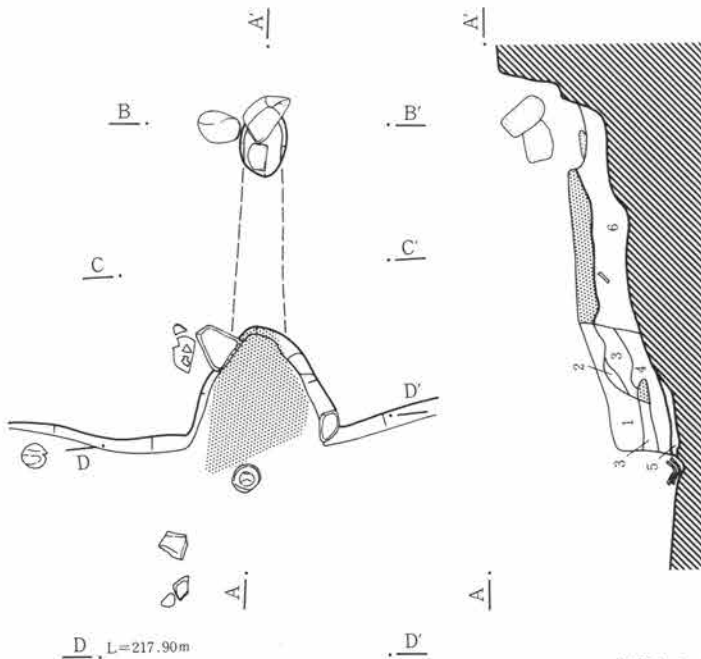
時期 出土遺物や住居形態から、10世紀後半代と考えられる。

第1節 竪穴住居跡



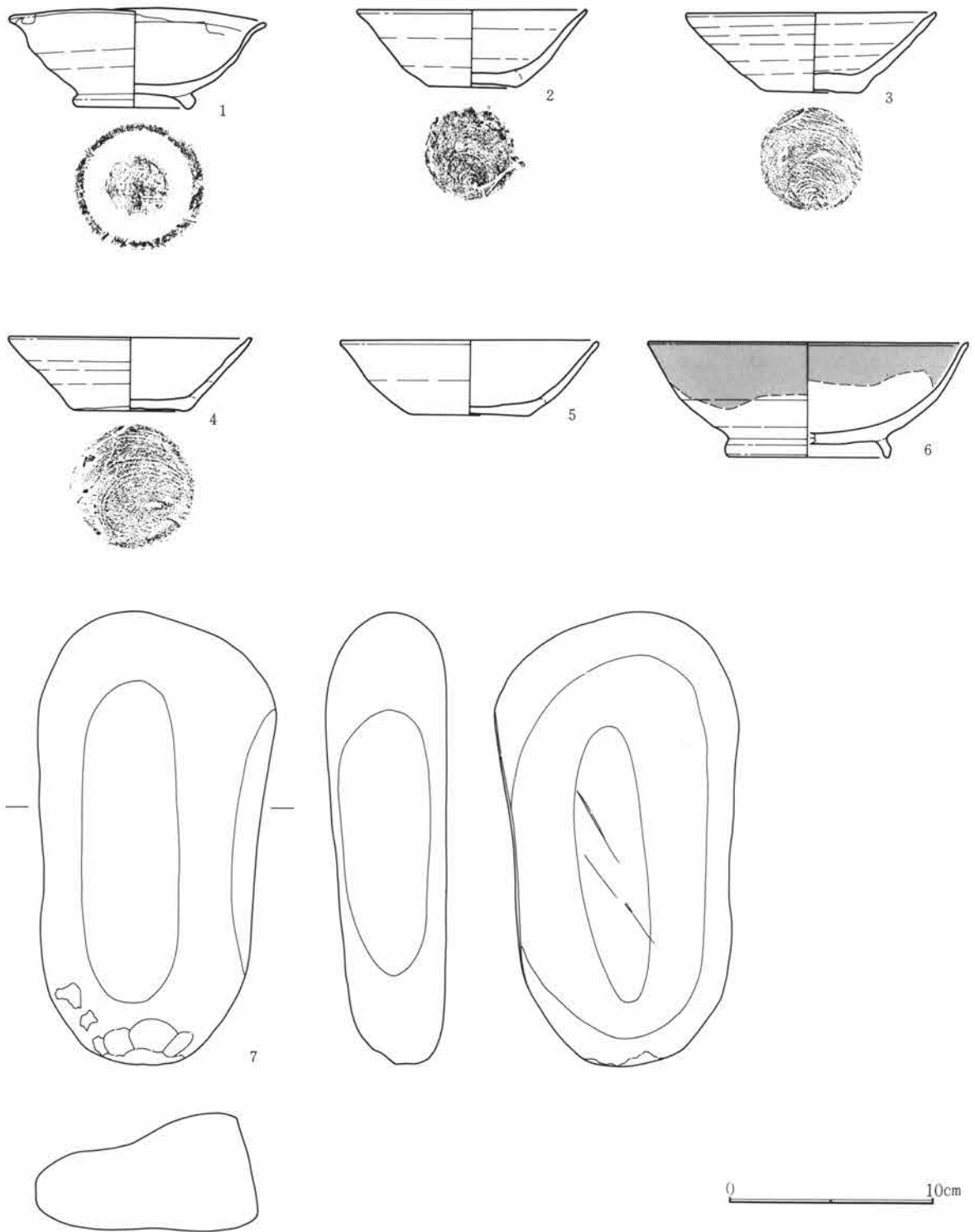
- 1 暗茶褐色土 小砂礫 (φ 2~3mm) を含む。  
 2 暗茶褐色土 小砂粒 (φ 1mm) を少量含む。  
 貯蔵穴セクション (C-C')
- 1 茶褐色土 焼土粒を少量含む。しまりあり。  
 2 暗茶褐色土 焼土粒、炭化物を少量含む。  
 3 灰褐色土 粘質灰色土塊を含む。

第246図 21号住居跡



- 1 茶褐色土 礫 (φ 10~20mm) を含む。  
 2 黄褐色土塊  
 3 茶褐色土 砂礫、少量の焼土粒を含む。  
 4 茶褐色土 焼土粒を含む。土壤粒子はやや細かい。  
 5 暗褐色土 焼土粒、炭化物を多く含む。  
 6 暗褐色土 白色粒、黄色粒、焼土粒、炭化物、砂礫 (φ 5mm) を含む。  
 7 暗褐色土 白色粒、黄色粒、焼土粒を含む。

第247図 21号住居跡かまど



第248図 21号住居跡出土遺物

23号住居跡 (PL. 59)

位置 En-58 床面積 12.3m<sup>2</sup> 主軸方位 N-4°-W 残存壁高 0.2m 重複 79~82号土坑→23住  
 規模と形状 長辺4.30m、短辺2.70・3.58mの北辺部が変則的に張り出す隅丸長方形のプランを呈する。  
 北辺部は土坑との重複のため乱れる。かまどは北辺部の中央付近に築かれる。

床面 若干の起伏が認められ、かたく踏み締められるなどの顕著な傾向は確認できなかった。

かまど 燃焼部と煙道部のプランが確認された。燃焼部は、住居壁の内側に作り出され、U字状プランを呈する。煙道部は、緩やかな勾配をもちながら屋外で立ち上がる。側壁や底面で焼土面が確認された。

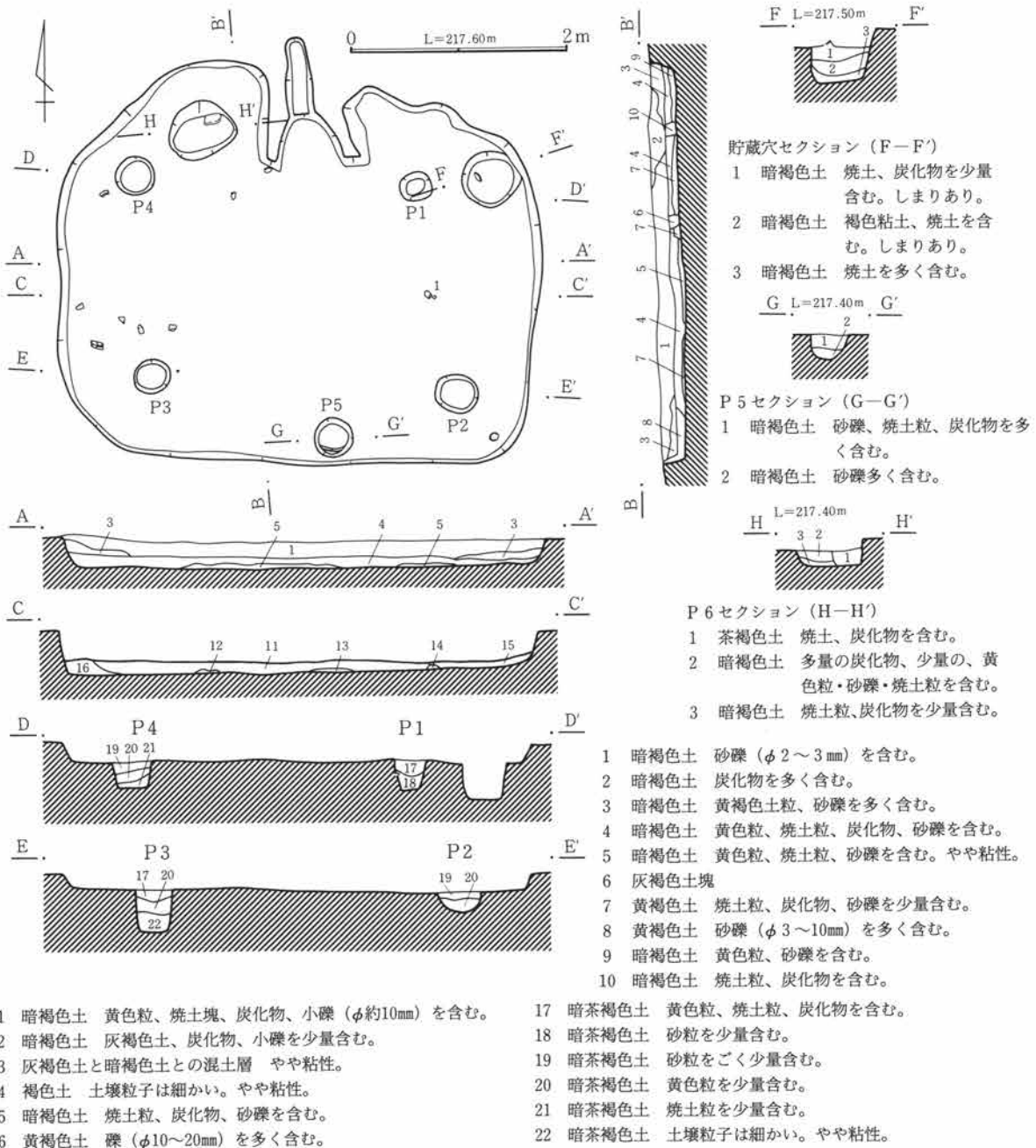
貯蔵穴 北東隅部付近にあり、円形状を呈し、安定した掘り込みといえる。かまどの西側にあるピットは、本住居跡に伴うものか判断できない。 壁下周溝 検出されなかった。

柱穴 4基の支柱穴の他に、南辺中央付近からも小ピットが検出された。支柱穴と考えられるピットは、やや位置関係が悪く、掘り込みの深さにもばらつきがある。

出土遺物 総計11点の土器片と少量の石片が出土している。

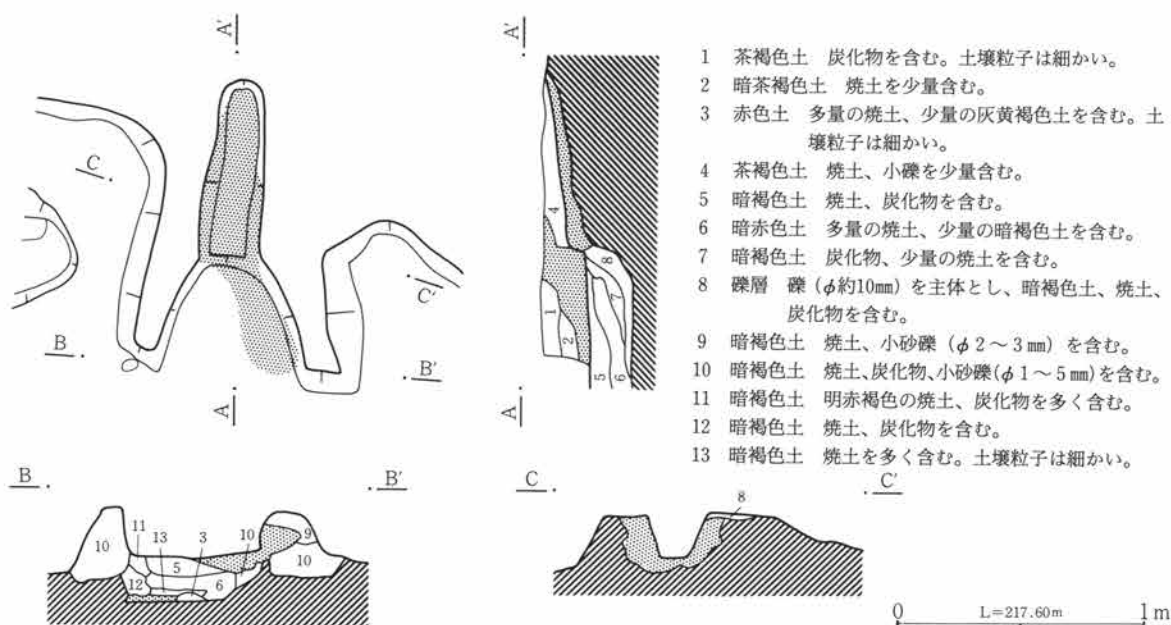
掘り方 層厚0.1~0.15mの貼り床土が認められるが、本住居跡に伴う土坑などの遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、8世紀代と考えられる。



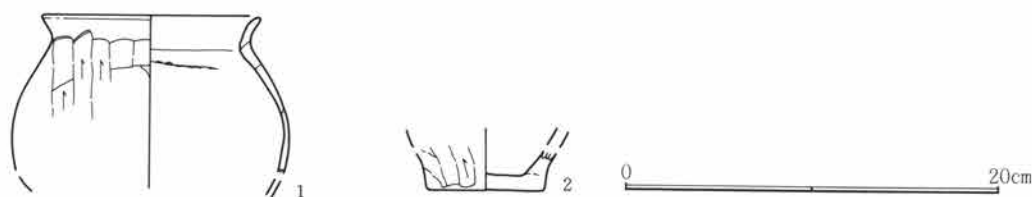
第249図 23号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



- 1 茶褐色土 炭化物を含む。土壤粒子は細かい。
- 2 暗茶褐色土 焼土を少量含む。
- 3 赤色土 多量の焼土、少量の灰黄褐色土を含む。土壤粒子は細かい。
- 4 茶褐色土 焼土、小礫を少量含む。
- 5 暗褐色土 焼土、炭化物を含む。
- 6 暗赤色土 多量の焼土、少量の暗褐色土を含む。
- 7 暗褐色土 炭化物、少量の焼土を含む。
- 8 礫層 礫(φ約10mm)を主体とし、暗褐色土、焼土、炭化物を含む。
- 9 暗褐色土 焼土、小砂礫(φ2~3mm)を含む。
- 10 暗褐色土 焼土、炭化物、小砂礫(φ1~5mm)を含む。
- 11 暗褐色土 明赤褐色の焼土、炭化物を多く含む。
- 12 暗褐色土 焼土、炭化物を含む。
- 13 暗褐色土 焼土を多く含む。土壤粒子は細かい。

第250図 23号住居跡かまど



第251図 23号住居跡出土遺物

24号住居跡 (PL. 59・139)

**位置** E1-59 **床面積** 11.6㎡ **主軸方位** N-90°-E **残存壁高** 0.35m **重複** 32住→24住→30住  
**規模と形状** 長辺4.00m、短辺2.98・3.56mの歪んだ横長の隅丸長方形のプランを呈し、東辺部の最も南よりにかまどが築かれる。周壁は、若干の崩落が認められ、全体に丸みがある。

**床面** かまど前や住居中央部を中心に、かたく踏み締められた部分を確認されている。

**かまど** かまどの残存状況は比較的良く、燃烧部と煙道部のプランが確認されている。かまどは住居壁より外側に作り出され、方形状に近い燃烧部プランを有す。燃烧部は両袖石が良好に残存し、燃烧部底面には焼土面が確認されている。煙道部はくり抜き式のもので、わずかに勾配をもちながら屋外に伸び、約60°の角度で立ち上がる。煙道部内面上部や側壁にかけて、よく焼け込み、焼土面が確認されている。

**貯蔵穴・壁下周溝・柱穴** いずれも検出されなかった。

**出土遺物** 総計25点の土器片類と36点の石片・石材が出土している。出土土器はいずれも床面付近からで、土釜、ロクロ成形の高台付壺・皿などがある。

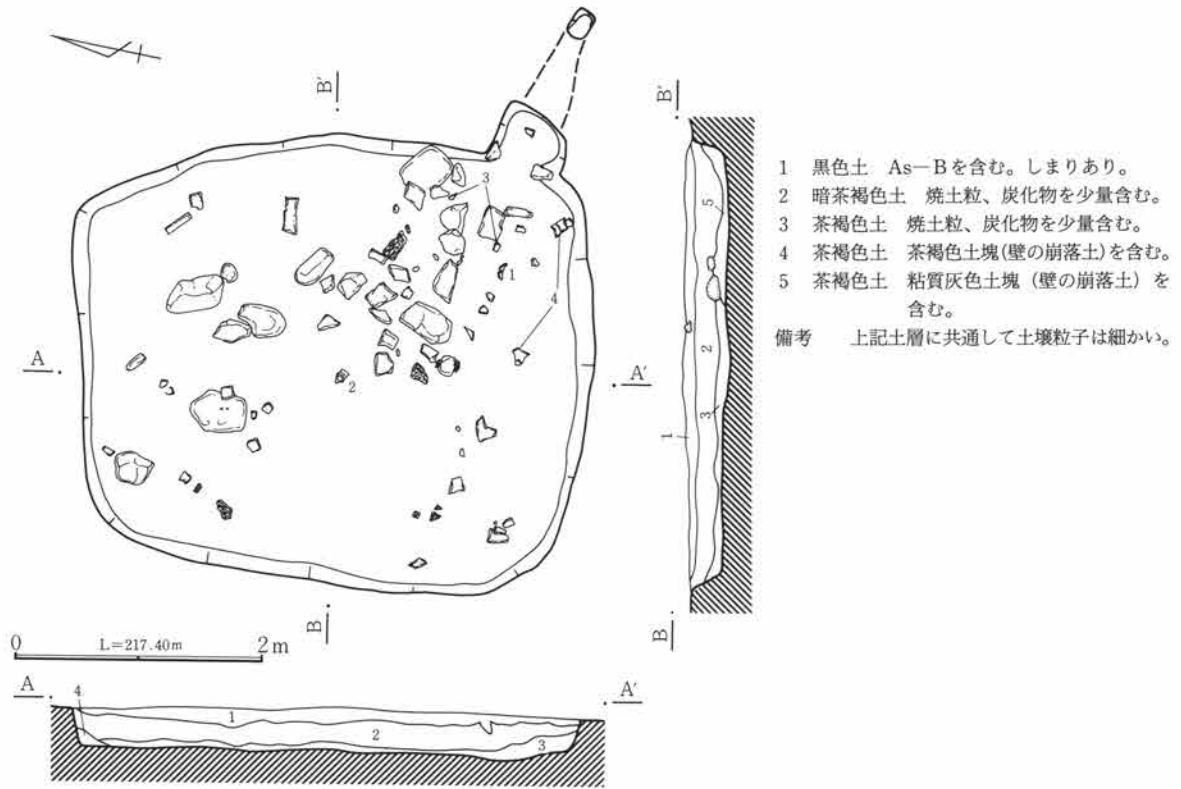
**掘り方** 床面直下から、32号住居跡が検出されているが、この住居面に伴うピット(土坑)はない。

**時期** 出土遺物や住居形態から、11世紀代と考えられる。

**備考** 本住居跡の住居プラン内の直下に、32号住居跡が検出された。32号住居跡は、本住居跡の拡張前の住居である可能性が高い。

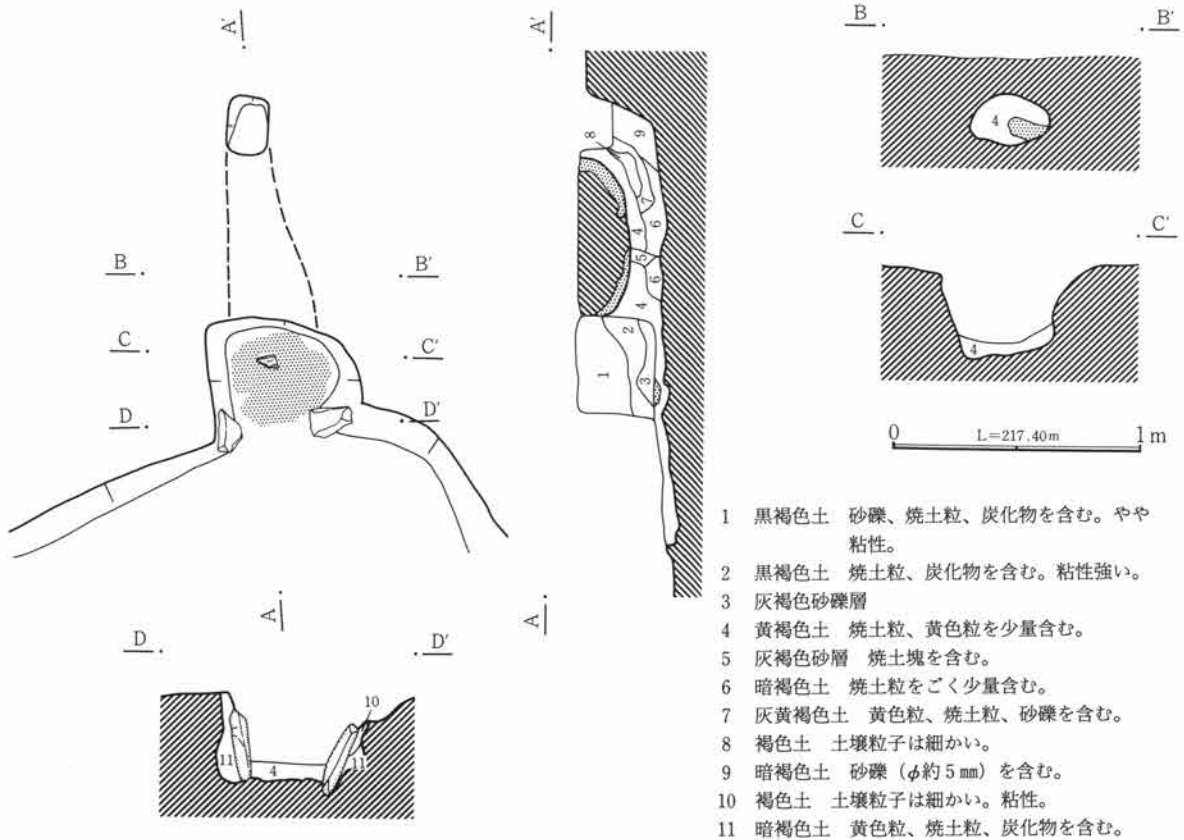


第1節 竪穴住居跡



- 1 黒色土 As-Bを含む。しまりあり。
  - 2 暗茶褐色土 焼土粒、炭化物を少量含む。
  - 3 茶褐色土 焼土粒、炭化物を少量含む。
  - 4 茶褐色土 茶褐色土塊(壁の崩落土)を含む。
  - 5 茶褐色土 粘質灰色土塊(壁の崩落土)を含む。
- 備考 上記土層に共通して土壌粒子は細かい。

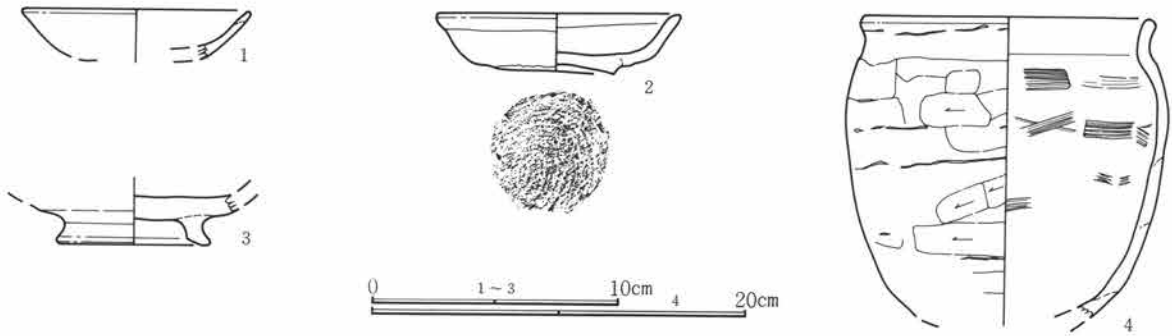
第252図 24号住居跡



- 1 黒褐色土 砂礫、焼土粒、炭化物を含む。やや粘性。
- 2 黒褐色土 焼土粒、炭化物を含む。粘性強い。
- 3 灰褐色砂礫層
- 4 黄褐色土 焼土粒、黄色粒を少量含む。
- 5 灰褐色砂礫層 焼土塊を含む。
- 6 暗褐色土 焼土粒をごく少量含む。
- 7 灰黄褐色土 黄色粒、焼土粒、砂礫を含む。
- 8 褐色土 土壌粒子は細かい。
- 9 暗褐色土 砂礫(φ約5mm)を含む。
- 10 褐色土 土壌粒子は細かい。粘性。
- 11 暗褐色土 黄色粒、焼土粒、炭化物を含む。

第253図 24号住居跡かまど

第3章 検出された遺構と遺物



第254図 24号住居跡出土遺物

25号住居跡 (PL. 60・139)

位置 Ek-60 床面積 9.4m<sup>2</sup> 主軸方位 N-96°-E 残存壁高 0.2m 重複 27住→25住

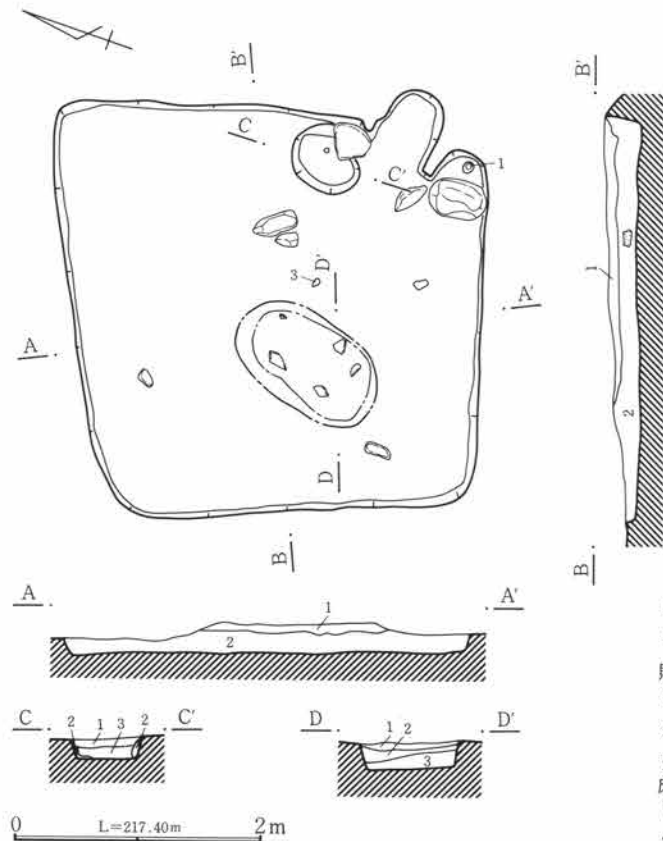
規模と形状 長辺3.30m、短辺3.20mの北東隅部の張り出す菱形状のプランを呈し、東辺部の最も南よりにかまどが築かれている。周壁は、崩落も少なく、ほぼ直線的に走行する。

床面 床面は、覆土との色調差によって明瞭に識別できたが、若干の起伏が認められた。

かまど 燃烧部は壁外に作り出されているが、右袖の一部は住居内に突出している。燃烧部内からは顕著な焼土面などは確認されなかった。また、燃烧部掘り方は半円状を呈する。

貯蔵穴 かまど左袖の前に円形状を呈する、掘り込みは比較的しっかりしている。

壁下周溝・柱穴 検出されなかった。出土遺物 総計11点の土器片と18点の石片・石材が出土。



第255図 25号住居跡

掘り方 床面下から長円状土坑が検出された。覆土中には焼土粒子・炭化物を含有している。

時期 出土遺物や住居形態から、11世紀代と考えられる。

- 1 暗褐色土 橙色粒、炭化物、小礫(φ3~5mm)を含む。
- 2 暗褐色土 1層に近似するが、炭化物はやや多い。

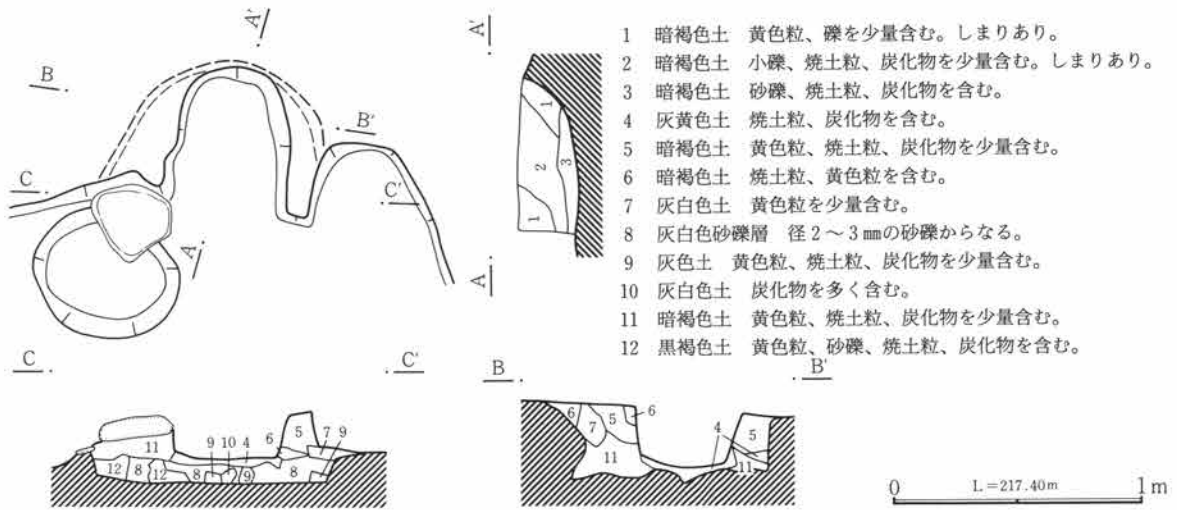
貯蔵穴セクション (C-C')

- 1 暗褐色土 黄色粒、焼土粒、炭化物を含む。
- 2 灰色土 茶斑あり。粘性。
- 3 暗褐色土 砂礫、少量の、焼土粒・炭化物を含む。

床下土坑セクション (D-D')

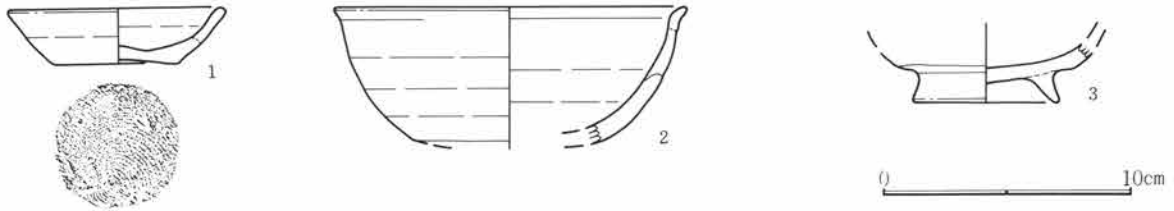
- 1 暗褐色土 橙色土粒、炭化物を含む。
- 2 明褐色土 砂礫、焼土粒、炭化物を含む。
- 3 暗褐色土 砂礫、焼土粒、炭化物を含む。

第1節 竪穴住居跡



- 1 暗褐色土 黄色粒、礫を少量含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土 小礫、焼土粒、炭化物を少量含む。しまりあり。
- 3 暗褐色土 砂礫、焼土粒、炭化物を含む。
- 4 灰黄色土 焼土粒、炭化物を含む。
- 5 暗褐色土 黄色粒、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 6 暗褐色土 焼土粒、黄色粒を含む。
- 7 灰白色土 黄色粒を少量含む。
- 8 灰白色砂礫層 径2～3mmの砂礫からなる。
- 9 灰色土 黄色粒、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 10 灰白色土 炭化物を多く含む。
- 11 暗褐色土 黄色粒、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 12 黒褐色土 黄色粒、砂礫、焼土粒、炭化物を含む。

第256図 25号住居跡かまど



第257図 25号住居跡出土遺物

26号住居跡 (PL.60・139)

位置 Ek-59 床面積 11.5m<sup>2</sup> 主軸方位 N-8°-E 残存壁高 0.3m 重複 なし

規模と形状 長辺3.66m、短辺3.60mの正形状のプランを呈し、北辺部の中央より東側にかまどが築かれる。周壁は崩落も少なく、ほぼ直線的に走行し、安定した掘り込みと言える。

床面 かまど前や住居中央部を中心に、かたく踏み締められた部分が確認されている。

かまど 全体に使用時の痕跡をよくとどめていた。燃焼部は、住居壁の内側に作り出され、U字状のプランを呈する。側壁および底面の一部では焼土面が確認されており、土師器小型甕（完形）が出土した。焚口部には板状砂岩を用いた袖石と天井石が残存する。煙道部はくり抜き式のもので、わずかに勾配をもちながら屋外に伸び、先端部は約60°の角度で立ち上がる。煙道部内上部は、よく焼け込み焼土面が確認されている。

貯蔵穴 北東隅にあり、円形状を呈す。完形個体1点を含めて、計4点の土師器甕が出土するが、口縁部破片もしくは口縁部から胴上半部が残存する個体は、器台状の用具として転用されたと考えられる。

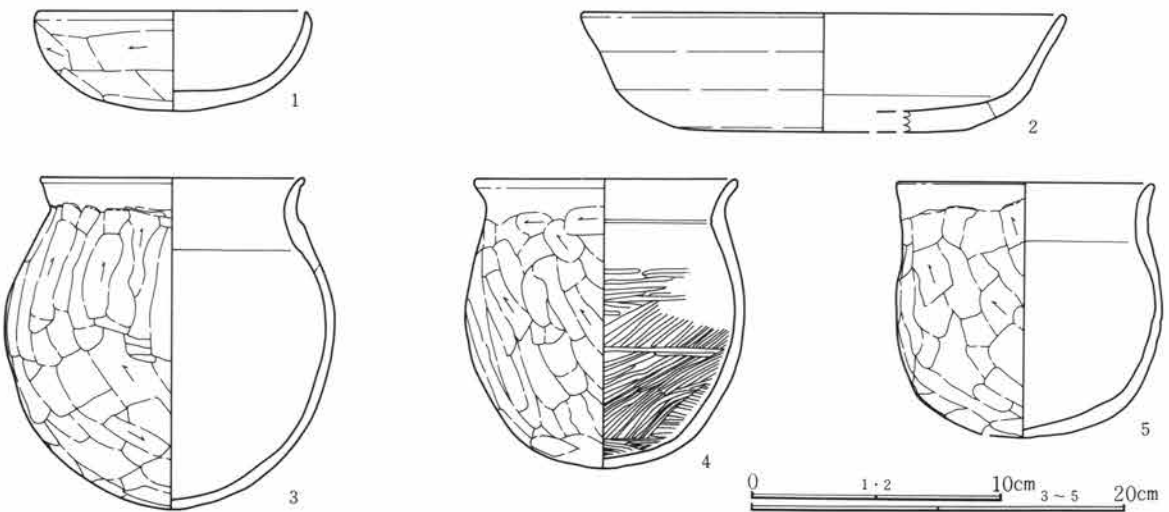
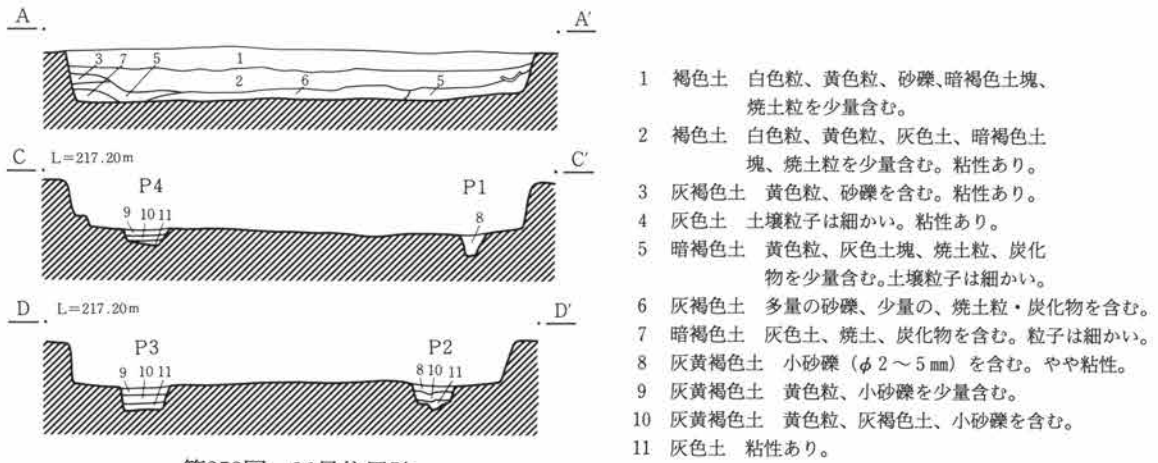
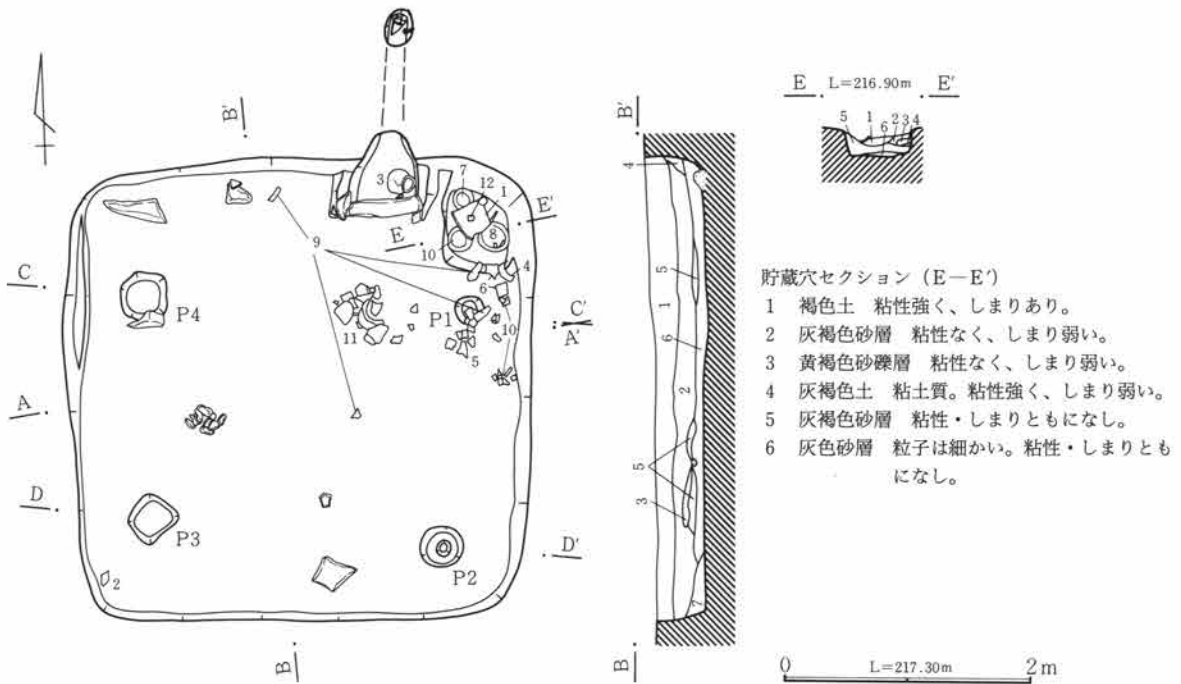
壁下周溝 検出されなかった。柱穴 4基の支柱穴と考えられる小ピットが検出されているが、規模と形状にばらつきがあり、掘り込みも浅いものが多い。

出土遺物 総計98点の土器片・完形個体と、通称「こも編み石」といわれる均一な棒状の自然石を含めて17点の石片・石材が出土している。遺物は、かまど内や貯蔵穴内および貯蔵穴付近を中心に出土している。

掘り方 床面と掘り方面がほぼ一致し、床面下から遺構は検出されなかった。

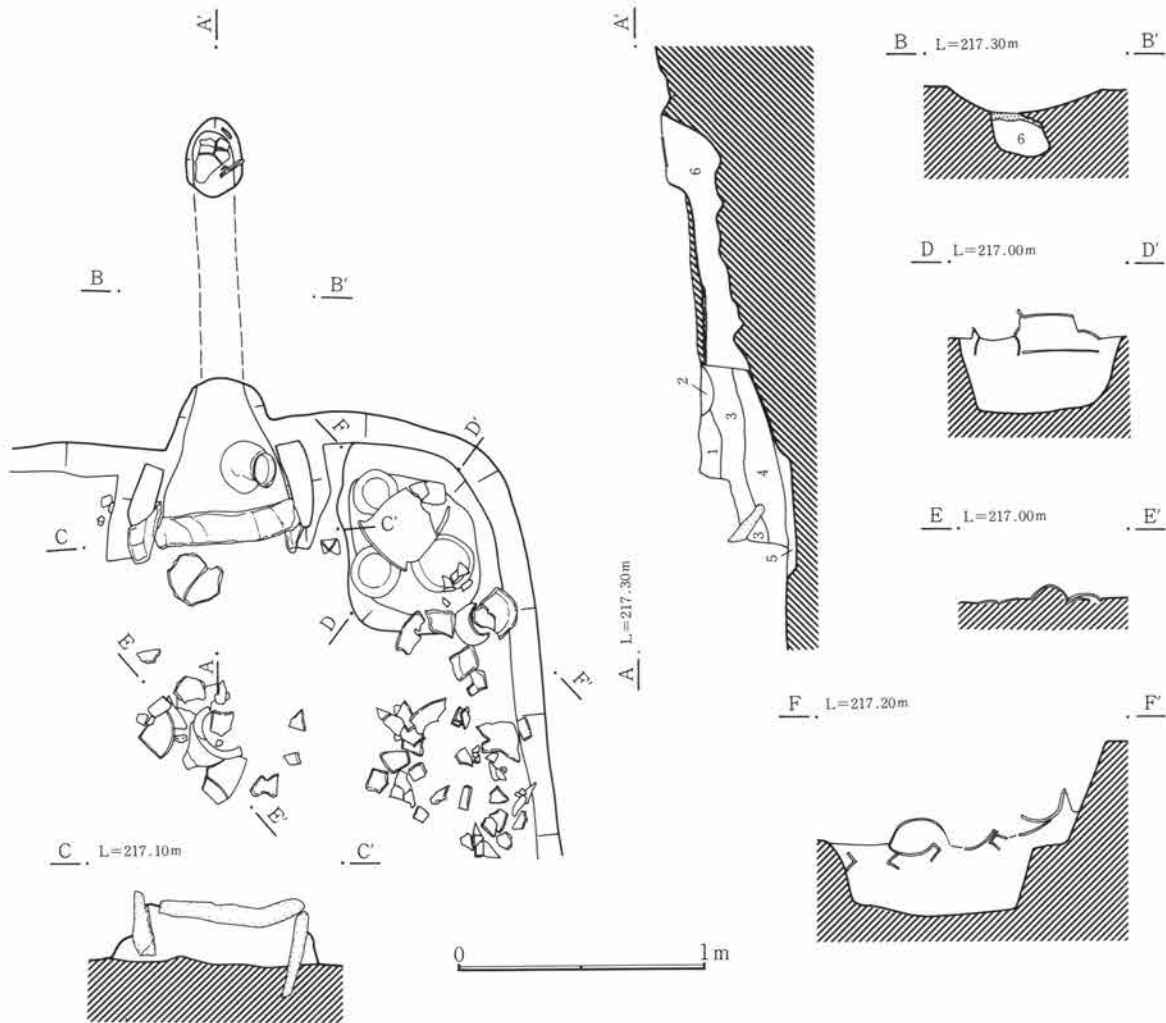
時期 出土遺物や住居形態から、7世紀後半代と考えられる。

第3章 検出された遺構と遺物



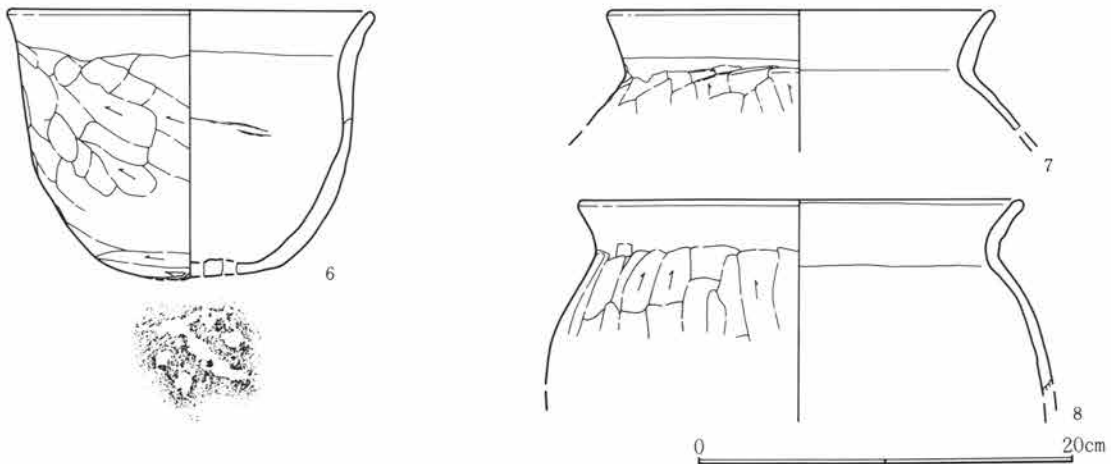
第259図 26号住居跡出土遺物(1)

第1節 竪穴住居跡

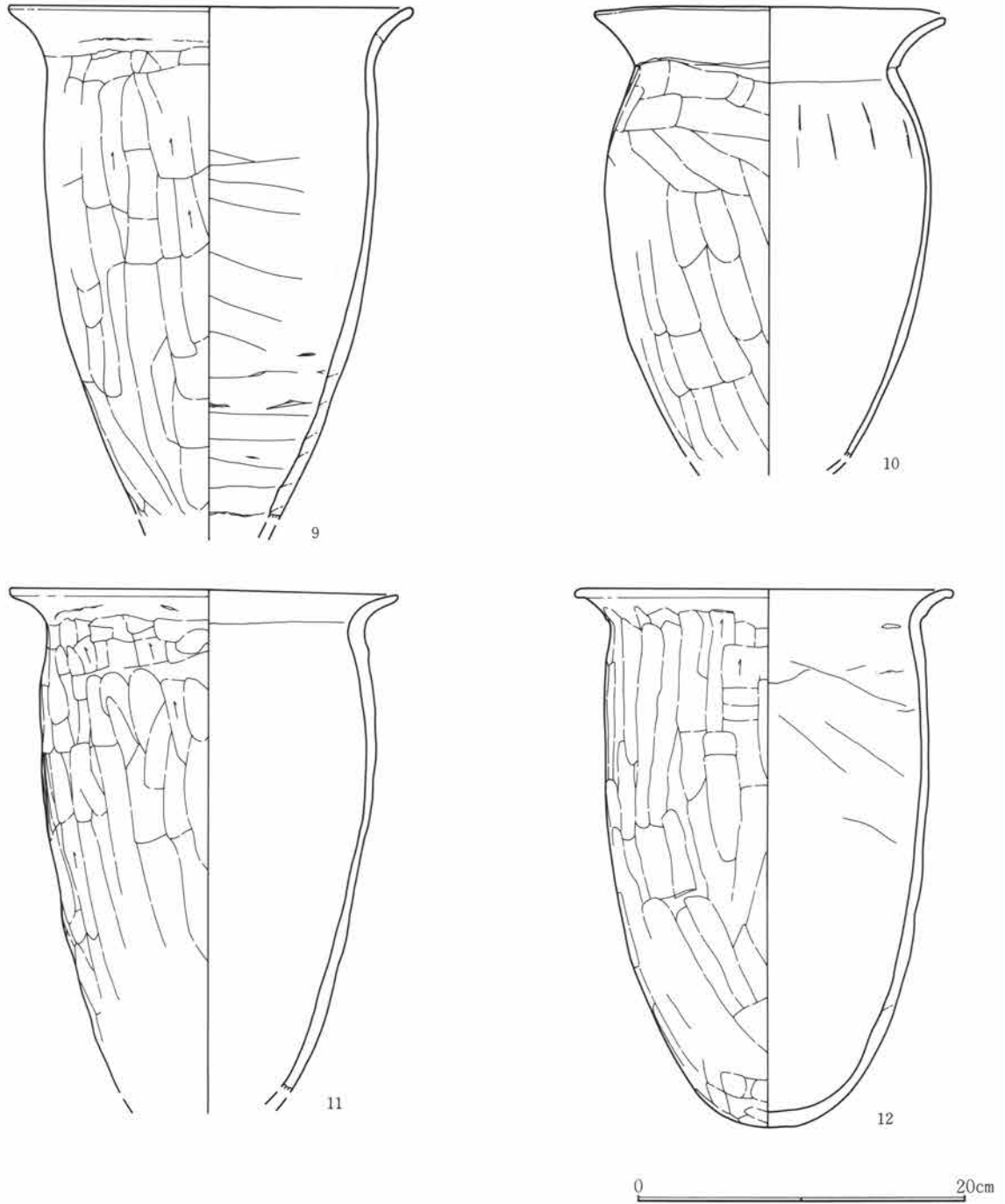


- |                                   |                          |
|-----------------------------------|--------------------------|
| 1 褐色土 黄色粒、橙色粒、砂礫 (φ 2~3mm) を少量含む。 | 4 暗褐色土 焼土塊を多く含む。やや粘性。    |
| 2 暗褐色土 多量の焼土粒、少量の、黄色粒・砂礫を含む。      | 5 暗褐色土 黄色粒、焼土粒、炭化物を少量含む。 |
| 3 暗褐色土 黄色粒、砂礫、焼土塊を含む。             | 6 暗褐色土 黄色粒、焼土粒を含む。       |

第260図 26号住居跡かまど



第261図 26号住居跡出土遺物(2)



第262図 26号住居跡出土遺物(3)

27号住居跡 (PL. 61)

位置 Ek-61 床面積 (36.6) m<sup>2</sup> 主軸方位 N-60°-E 残存壁高 0.1m 重複 27住→25住  
規模と形状 長辺6.30m、短辺6.20mの大きく歪みのある方形状のプランを呈す。東辺部にかまどの存在が推定されるが、25号住居跡に破壊されたものと判断された。周壁は掘り込みが浅いためか線形が乱れる。  
床面 床面の検出は覆土との色調差によってなされたが、起伏が激しく荒れていた。かたく踏み締められるなどの顕著な傾向は確認できなかった。

かまど 東壁南寄りに構築されていた可能性も考えられるが、重複により不明である。

貯蔵穴 南東隅にあり、円形状を呈す。比較的安定した掘り込みといえる。住居西側にあるピット（土坑）は、性格不明であり、覆土中に焼土粒子・炭化物などは含有しない。

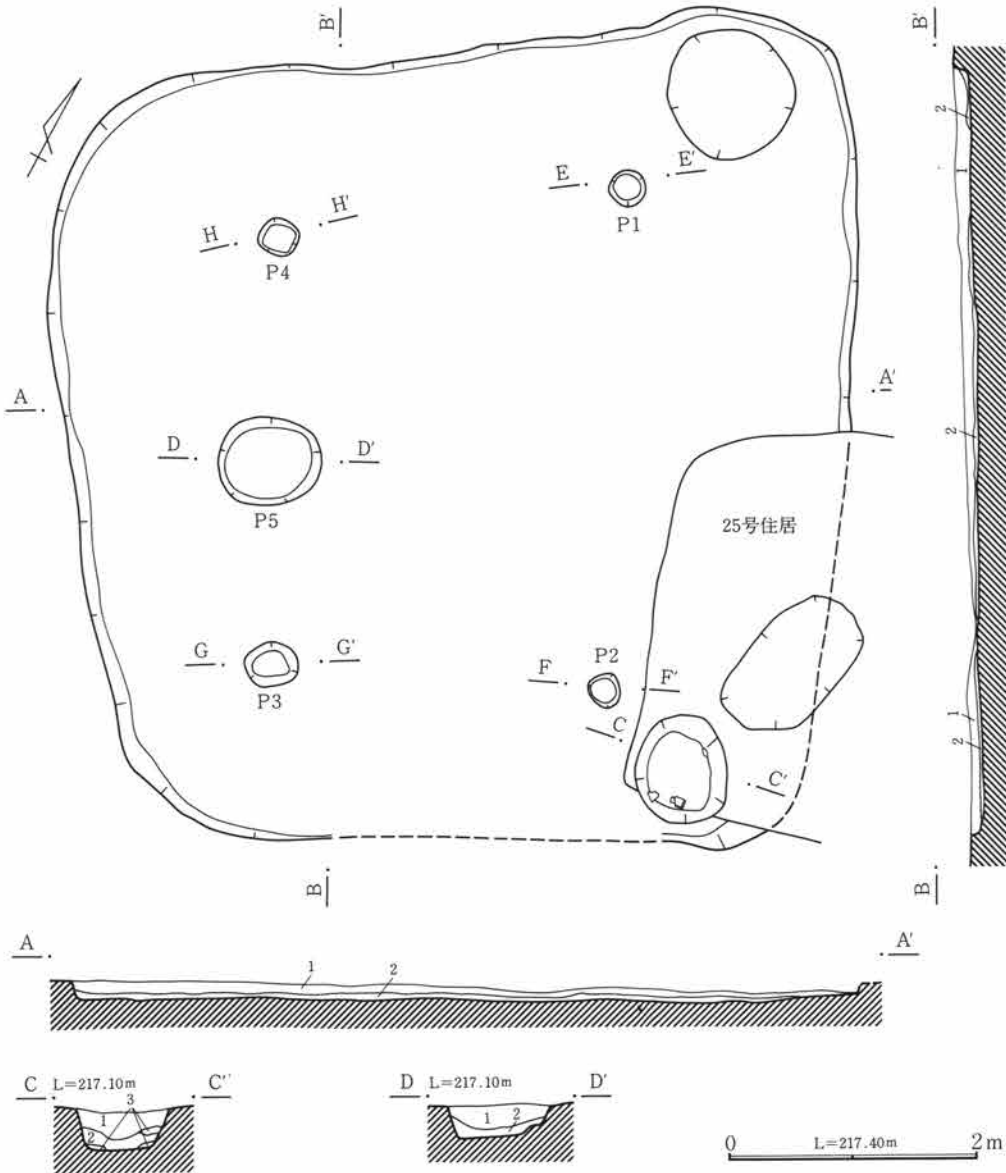
壁下周溝 検出されなかった。

柱穴 4基の小ピットは、支柱穴とするには規模・形状にばらつきがあり、掘り込みも浅い。

出土遺物 出土遺物は極めて少なく、4点の土器片が出土したにすぎない。貯蔵穴内から土釜出土。

掘り方 貼り床や床面下の遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、11世紀代と考えられる。



1 明褐色土 多量の砂礫、少量の黄色粒を含む。

2 明褐色土 灰褐色土塊、砂礫を少量含む。

貯蔵穴セクション (C-C')

1 暗褐色土 焼土粒、炭化物を少量含む。

2 暗褐色土 1層に近似するが、含有物の量は多い。粘性。

3 灰褐色砂層

床下土坑セクション (D-D')

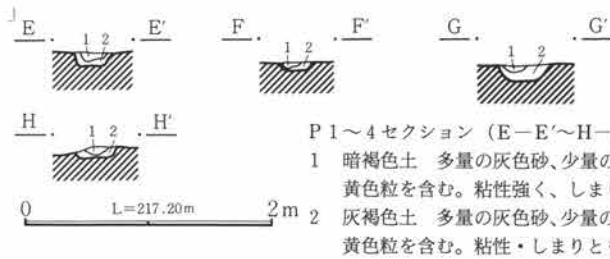
1 暗褐色土 灰褐色土塊、砂礫 (φ約5mm) を含む。

2 暗褐色土 1層に近似するが、灰褐色土塊はより多く、砂礫は少ない。粘性。

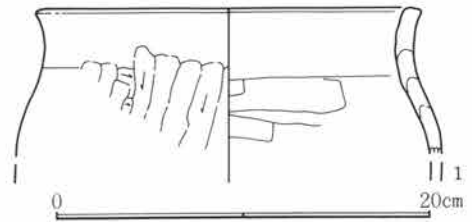
第263図 27号住居跡(1)



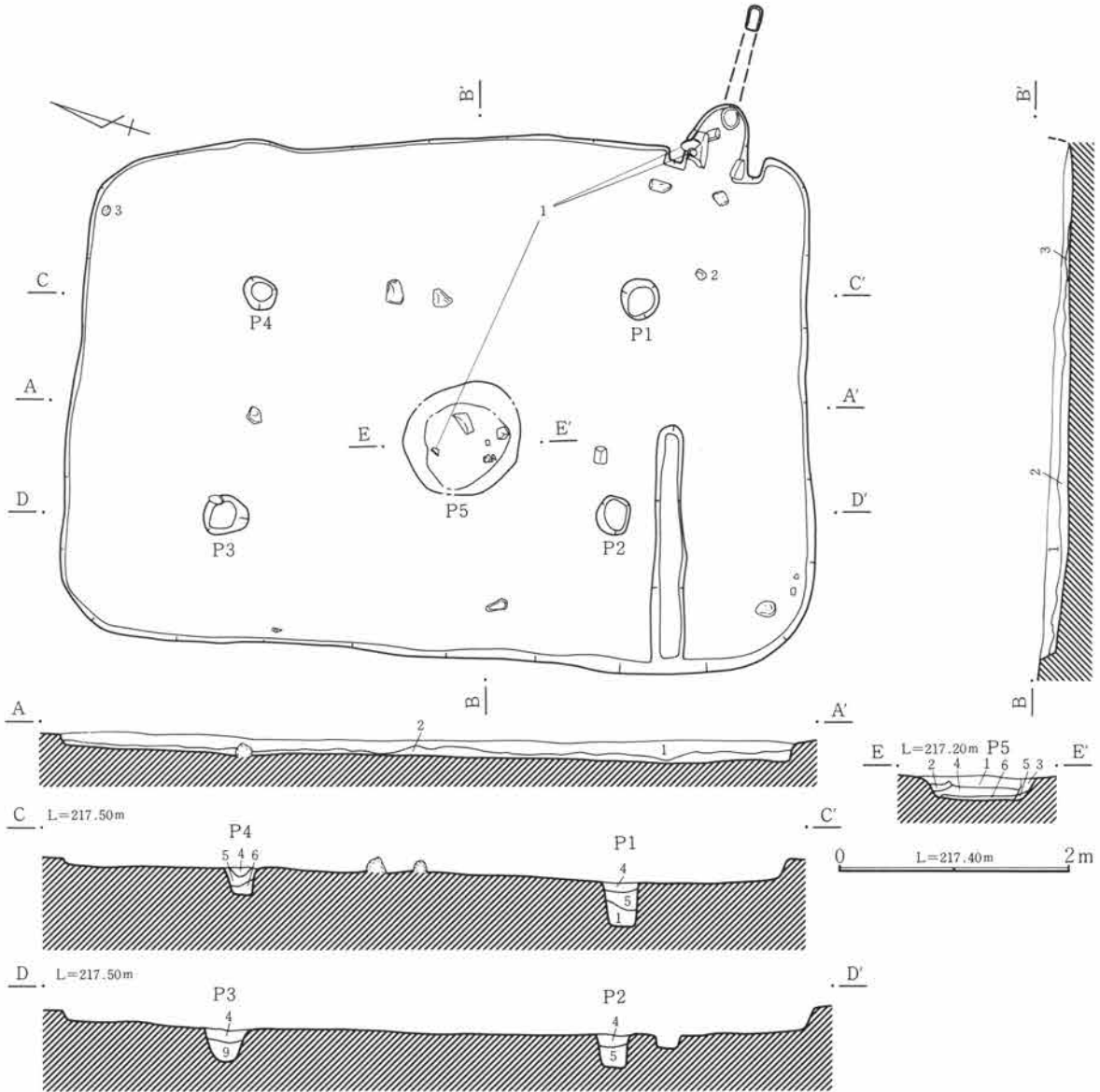
第3章 検出された遺構と遺物



第264図 27号住居跡(2)



第265図 27号住居跡出土遺物



- |  |  |
|--|--|
| 1 黒褐色土 焼土粒、黄色砂粒 ( $\phi$ 1~2mm) を少量含む。 | 9 灰褐色土 砂礫、小礫を含む。やや粘性。                  |
| 2 暗褐色土 灰褐色砂、粘土塊を含む。                    | 床下土坑セクション (E-E')                       |
| 3 黄色砂粒層 径1~2mmの砂粒からなる。                 | 1 暗褐色土 白色粒、黄色粒、砂礫 ( $\phi$ 2~3mm) を含む。 |
| 4 暗褐色土 黄色粒、砂礫、炭化物を含む。                  | 2 暗褐色土 砂粒を含む。                          |
| 5 灰褐色土 多量の砂礫、少量の炭化物を含む。粘性。             | 3 黄褐色土 砂粒を含む。                          |
| 6 灰褐色土 砂礫を非常に多く含む。やや粘性。                | 4 暗褐色土 焼土粒を少量含む。                       |
| 7 灰褐色土 黄色粒、砂礫、焼土粒、炭化物を含む。              | 5 黄褐色土 砂礫 ( $\phi$ 3~5mm) を含む。         |
| 8 灰褐色土 黄色粒、炭化物を少量含む。粘性。                | 6 暗褐色土 土壌粒子は細かい。粘性強い。                  |

第266図 28号住居跡

28号住居跡 (PL.61・140)

位置 Ej-61 床面積 25.2m<sup>2</sup> 主軸方位 N-80°-E 残存壁高 0.15m 重複 なし

規模と形状 長辺6.32m、短辺4.46mの横長長方形のプランを呈し、東辺部の最も南側にかまどが築かれる。周壁は若干の崩落が認められ線形がやや乱れている。

床面 覆土との色調差によって明瞭に識別できた。住居南西部の床面レベルは他の部分より若干高くなっている。床面の精査では、かたく踏み締められるなどの顕著な傾向は確認できなかった。

かまど 燃焼部は両袖が住居内にわずかに突出するU字状のプランを呈し、右袖石が残存する。左袖石は横転した状態で検出されている。燃焼部内からは、顕著な焼土面などは確認されなかった。煙道部は、くり抜き式のもので、ほぼ水平に屋外に伸び、約60°の角度で立ち上がる。顕著な焼土面は確認されなかった。

貯蔵穴・壁下周溝 検出されなかった。 柱穴 4基の支柱穴と考えられる小ピットが検出された。

間仕切状遺構 南西部の床面のやや高い部分から、東西方向の浅い溝が検出され、間仕切と推定できる。

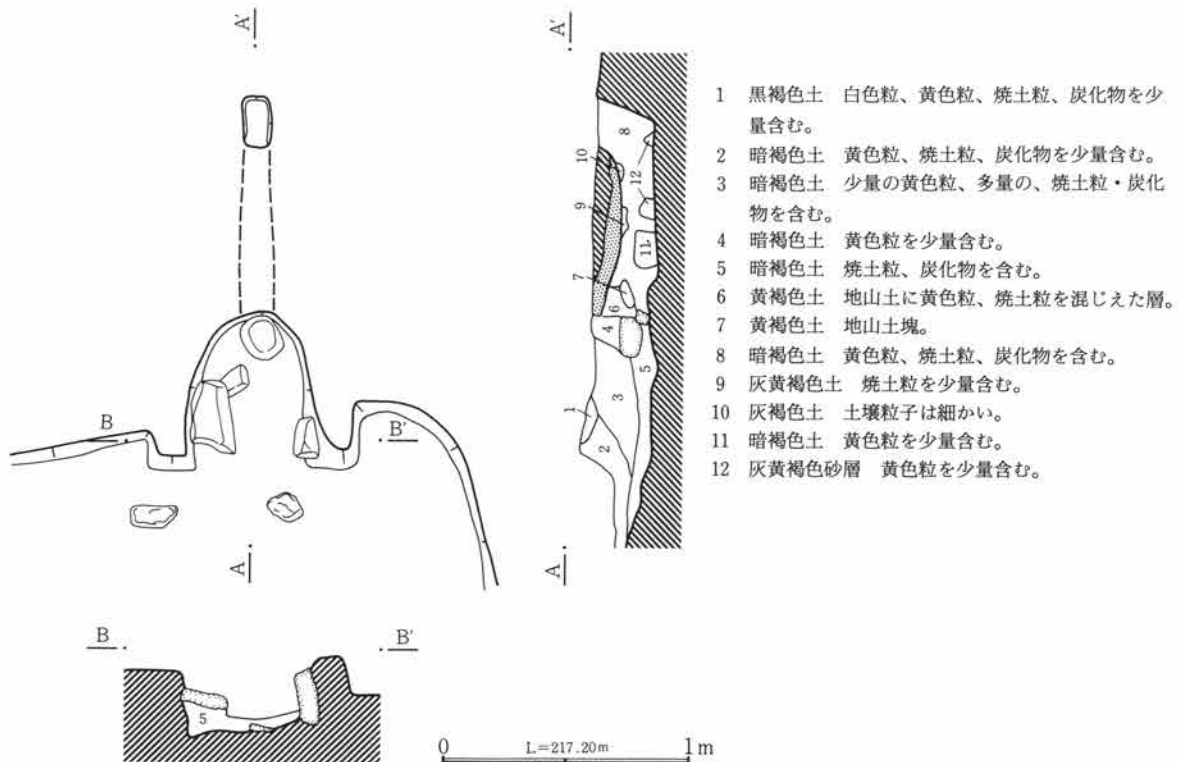
ピット 住居中央部の西側から、円形状を呈したピット(土坑)が検出された。性格については特定できないが、覆土中から少量の焼土粒子が認められている。

出土遺物 総計9点の土器片類と12点の石片・石材が出土している。ロクロ成形の高台付碗・皿があるが、北東隅出土の皿は、床面付近から完形で出土している。高台付碗はかまど内から出土している。

掘り方 床面と掘り方面がほぼ一致し、床面下から遺構は検出されなかった。

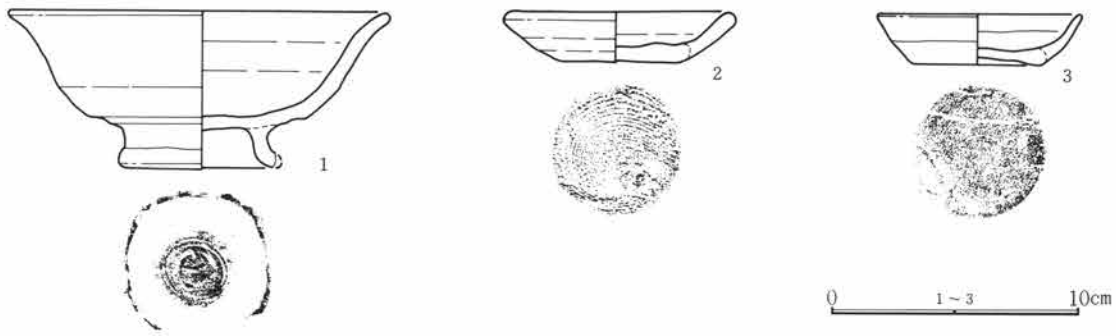
時期 出土遺物や住居形態から、1世紀代と考えられる。

備考 住居中央部西のピットは、調査時は床面下のものであると判断されていたが、かまど内出土の高台付碗とピット内の土器片に接合関係があったため、ここでは最終使用面に伴う遺構と考えておきたい。



第267図 28号住居跡かまど

第3章 検出された遺構と遺物



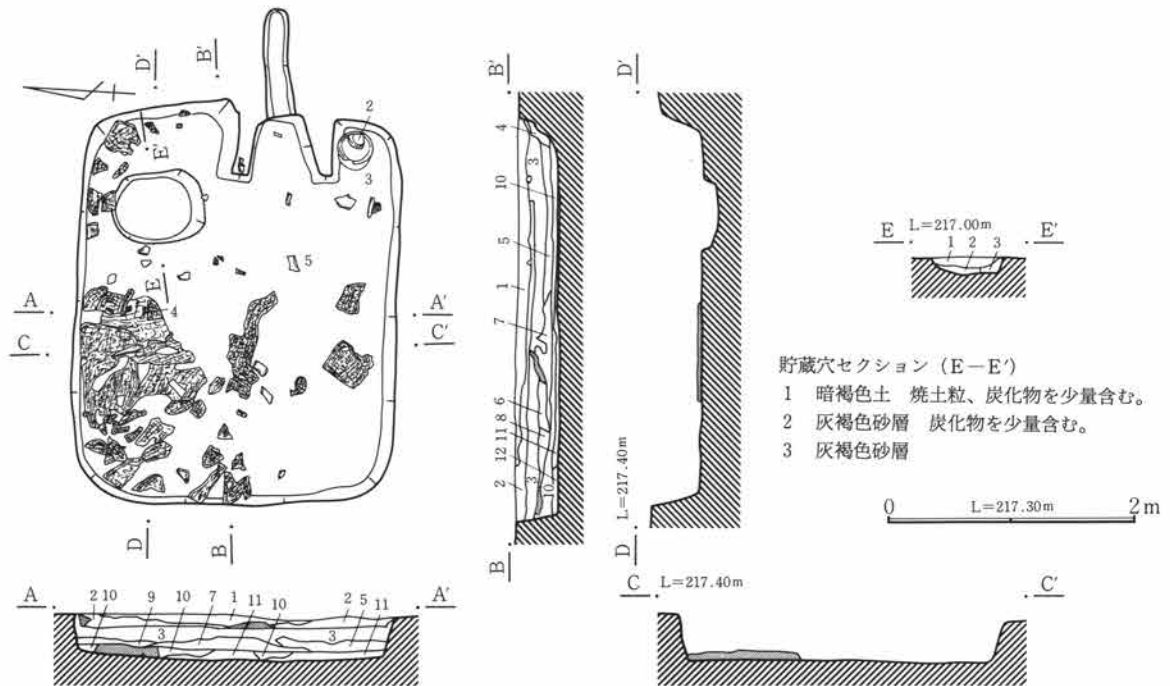
第268図 28号住居跡出土遺物

29号住居跡 (PL, 61・140)

位置 Em-59 床面積 6.5m<sup>2</sup> 主軸方位 N-90°-E 残存壁高 0.35m 重複 31住(古)→29住(新)  
 規模と形状 長辺3.06m、短辺2.54mの縦長のやや隅丸長形状のプランを呈し、東辺部の中央やや南にかまどが築かれる。周壁は、崩落も少なく安定した掘り込みといえる。

床面 床面は、覆土との色調差によって明瞭に識別でき、比較的良好な平坦面が形成されていた。床面精査では、かたく踏み締められるなどの顕著な傾向は確認できなかった。

かまど 燃烧部は住居壁の内側に作り出され、台形状を呈す。燃烧部内は、僅かに焼土面が確認された。煙道部は、くり抜き式と推定され僅かに起伏をもち垂直に立ち上がる。焼土面等は確認されなかった。



- |                               |                                   |
|-------------------------------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色土 炭化物を少量含む。              | 8 暗褐色土 炭化物を含む。やや粘性あり。             |
| 2 茶褐色土 黄褐色土塊、砂礫(φ2~3mm)を含む。   | 9 暗褐色土 黄色粒、砂礫を含む。                 |
| 3 褐色土 黄色粒、砂礫、焼土粒、炭化物を含む。      | 10 暗褐色土 炭化物を多く含む。粘性、しまりあり。        |
| 4 灰色土 土壌粒子は細かい。               | 11 灰色砂層 白色粒、黄色粒を少量含む。粘性・しまりともに弱い。 |
| 5 暗褐色土 焼土粒、炭化物、少量の、黄色粒・砂礫を含む。 | 12 暗褐色土 小礫を多く含む。粘性・しまりともに弱い。      |
| 6 暗褐色土 焼土粒、炭化物を含む。            |                                   |
| 7 明褐色土 灰色土、炭化物を含む。やや粘性あり。     |                                   |

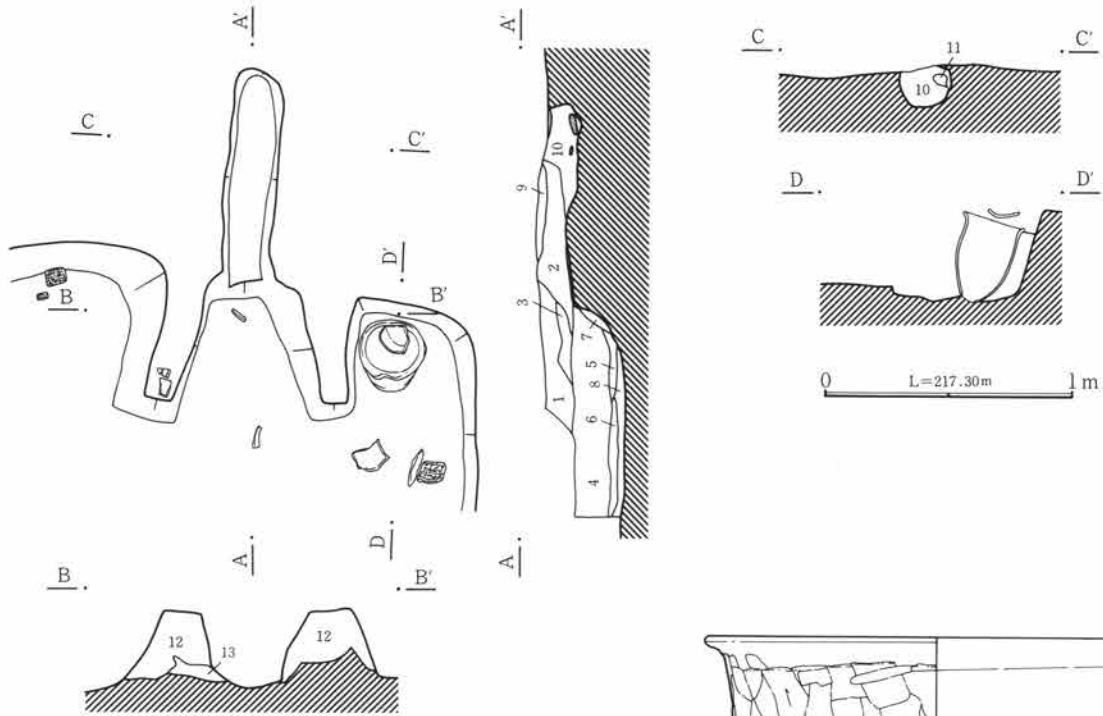
第269図 29号住居跡

**貯蔵穴** 北東隅にあり、円形状を呈する。比較的規模が大きく、掘り込みも安定している。

**出土遺物** 総計12点の土器片・ほぼ完形個体と石製品砥石1点、鉄製品釘（角棒状）1点が出土するほか、多量の炭化材・炭化物が確認されている。南東隅部の土師器甕は、かまど袖に立て掛けるように検出されているが、底部を欠損する。釘、砥石は床面出土。出土炭化材・炭化物は床面を覆うように検出され、本住居跡が焼失家屋であることを示している。炭化材の樹種は、同定報告によると、広葉樹を主要部材としたと考えられ、サクラ属の一種などが確認されている。また、少量ではあるが、タケ亜科（タケ・ササ）などの材も認められ、屋根材や壁材の一部として使われた可能性がある。

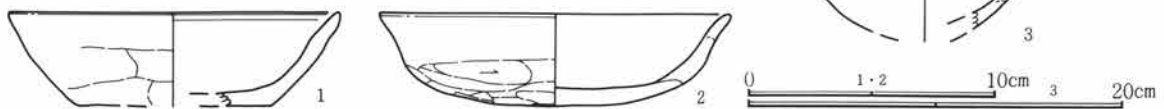
**掘り方** 貼り床や床面下の遺構は検出されなかった。 **壁下周溝・柱穴** いずれも検出されなかった。

**時期** 出土遺物や住居形態から7世紀後半代と考えられる。

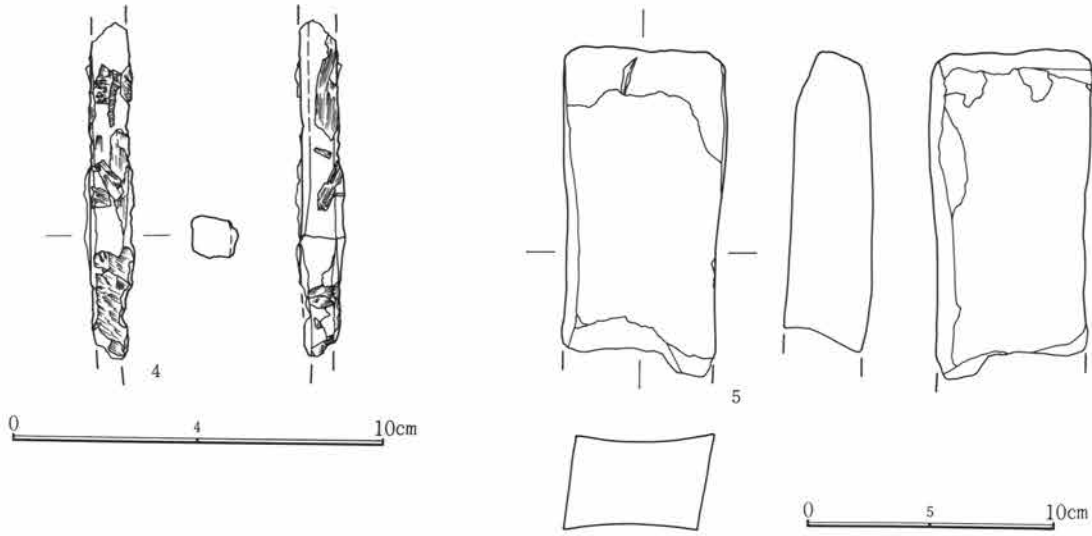


- 1 暗褐色土 焼土粒、炭化物を少量含む。
- 2 灰褐色土 焼土粒、炭化物を含む。
- 3 暗褐色土 焼土粒、炭化物を少量含む。やや粘性。
- 4 褐色土 黄色粒、砂礫、焼土粒、炭化物を含む。
- 5 暗褐色土 焼土粒、炭化物を含む。粘性強く、しまりあり。
- 6 灰褐色砂層 焼土塊（φ30~40mm）、炭化物を含む。粘性。
- 7 灰褐色砂層 焼土粒、炭化物を少量含む。粘性・しまりともに弱い。
- 8 灰黄褐色土 黄色粒、暗褐色土塊、炭化物を含む。
- 9 灰褐色土 焼土粒を多く含む。
- 10 暗褐色土 焼土粒、炭化物を少量含む。
- 11 灰黄褐色砂層 暗褐色土塊を少量含む。
- 12 暗褐色土 灰褐色土塊、炭化物を含む。
- 13 灰褐色土 焼土粒を少量含む。

第270図 29号住居跡かまど



第271図 29号住居跡出土遺物(1)



第272図 29号住居跡出土遺物(2)

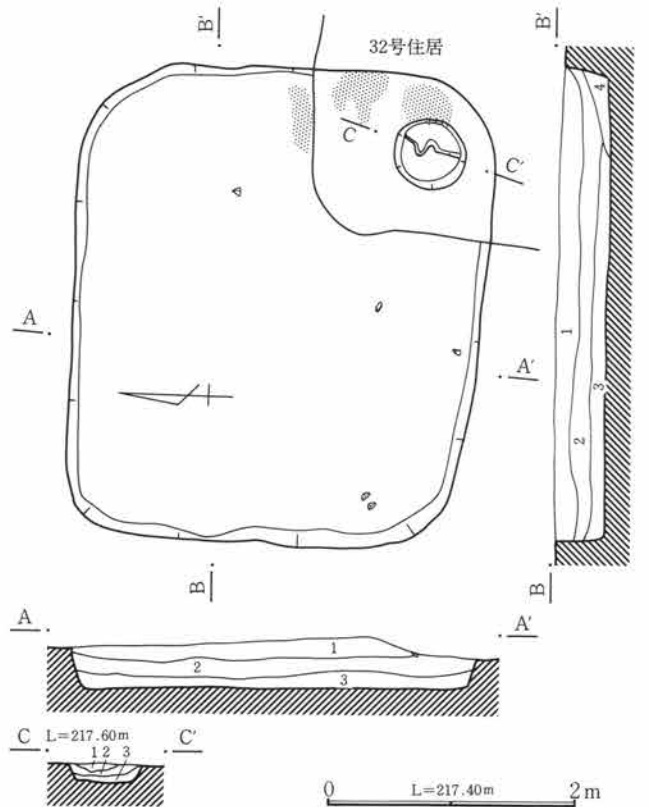
30号住居跡 (PL. 62・140)

位置 Em-59 床面積 (10.6) m<sup>2</sup>  
 主軸方位 N-95°-W 残存壁高 0.3m  
 重複 31住→30住→32住→24住  
 規模と形状 長辺3.76m、短辺3.24mのやや縦長の隅丸長形状を呈す。東辺部の中央より南側にかまどの存在が推定され、周壁は崩落も少ない。  
 床面 床面の検出は、覆土との色調差によってなされ、比較的良好な平坦面が形成されていた。住居中央部を中心に、わずかに踏み締められた痕跡が確認されている。  
 かまど 32号住居跡に破壊され、焼土面のみが確認されている。中央の焼土分布が、燃焼部底面のものと考えられる。  
 貯蔵穴 南東隅にあり、円形状を呈す。  
 壁下周溝・柱穴 検出されなかった。

出土遺物 土師器甕・鉢・坏の破片が覆土から出土。

掘り方 床面下から遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、8世紀代と考えられる。

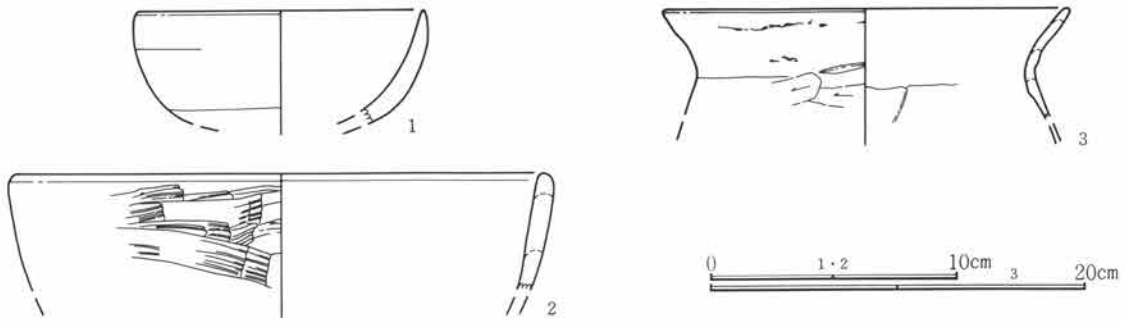


- 1 暗褐色土 白色粒、黄色粒、砂礫、焼土粒、炭化物を含む。
- 2 暗褐色土 1層に近似するが、砂礫はより多い。
- 3 暗褐色土 白色粒、黄色粒、砂礫、焼土粒、炭化物をごく少量含む。やや粘性。
- 4 暗褐色土 白色粒、黄色粒、灰褐色土、焼土粒をごく少量含む。

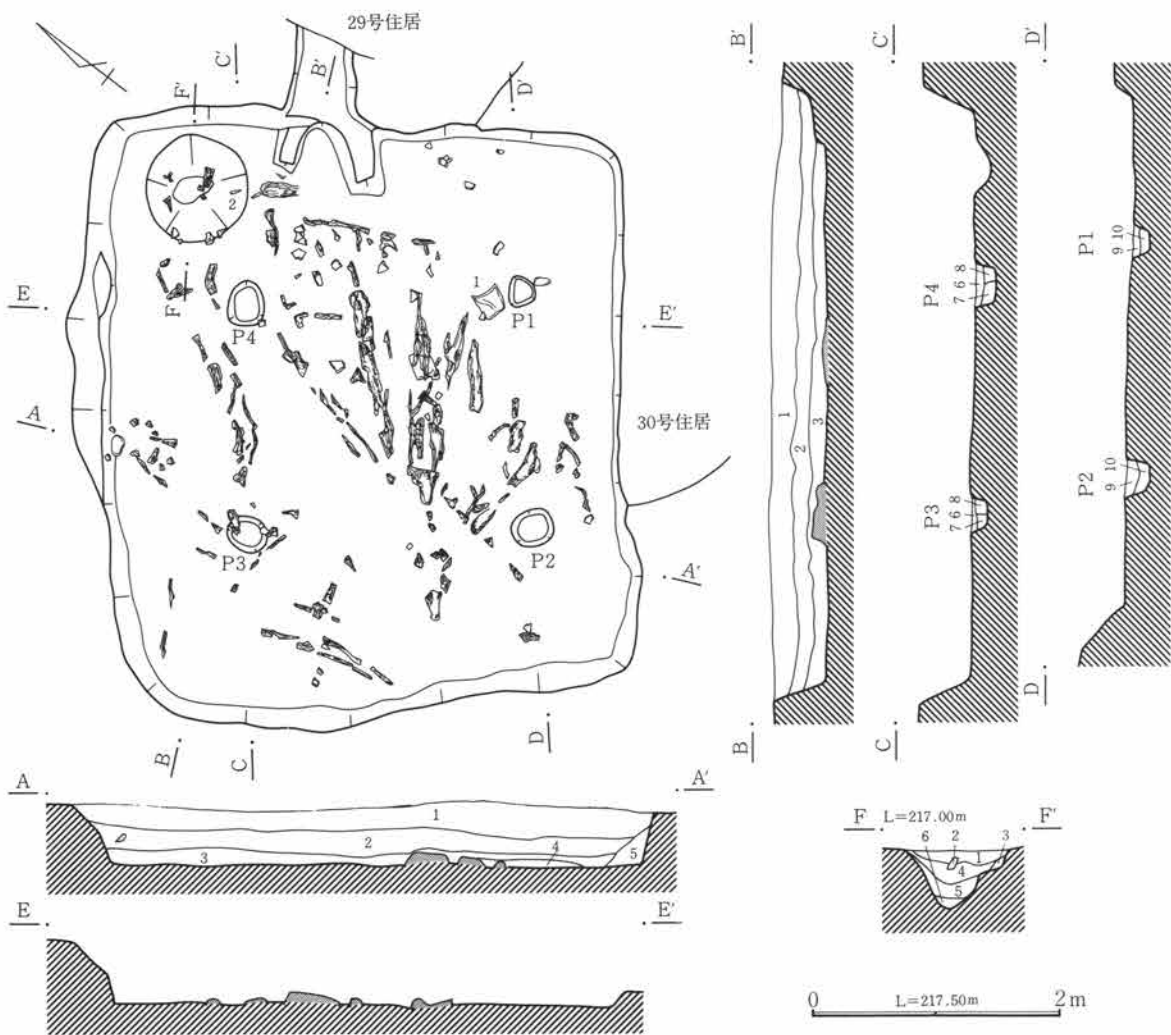
貯蔵穴セクション (C-C')

- 1 暗茶褐色土 炭化物を含む。土壌粒子は細かい。
- 2 暗茶褐色土 茶褐色斑のある砂質土を含む。
- 3 暗茶褐色土 2層に近似するが、砂質土をより多く含む。

第273図 30号住居跡



第274図 30号住居跡出土遺物



- 1 暗褐色土 白色粒、黄色粒、砂礫、焼土粒、炭化物を少量含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土 黄色粒、砂礫、炭化物をごく少量含む。
- 3 暗褐色土 黄色粒、灰褐色土、炭化物を含む。
- 4 暗褐色土 焼土粒、炭化物を含む。
- 5 褐色土 灰褐色土を含む。
- 6 暗褐色土 黄色粒、砂礫、炭化物を含む。
- 7 灰黄褐色砂礫層
- 8 暗褐色土 砂礫を少量含む。
- 9 暗褐色土 砂礫をごく少量含む。

- 10 暗灰褐色土 砂礫を含む。粘性。

貯蔵穴セクション (F-F')

- 1 暗褐色土 黄色粒、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 2 褐色土 土壤粒子は細かい。粘性強い。
- 3 黄褐色土 砂礫 (φ約5mm) を含む。
- 4 暗褐色土 多量の炭化物、ごく少量の黄色粒を含む。
- 5 暗褐色土 焼土粒、炭化物を含む。
- 6 砂礫層 径2~5mmの砂礫を主体とする。

第275図 31号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

31号住居跡 (PL. 62・140)

位置 Em-59 床面積 16.3m<sup>2</sup> 主軸方位 N-56°-E 残存壁高 0.45m 重複 31住→29・30住

規模と形状 長辺4.82m、短辺4.10mのやや縦長長方形のプランを呈し、東辺部の中央より北側にかまどが築かれる。周壁は、若干の崩落が認められ、線形がやや乱れている。

床面 床面は、覆土との色調差や炭化材の出土面によって明瞭に識別でき、比較的良好な平坦面が形成されていた。かまど前や住居中央部を中心に、かたく踏み締められた部分が確認されている。

かまど かまどの残存状況は悪く、燃焼部と煙道部のプランの一部が確認されたにすぎない。燃焼部は住居壁の内側に作り出されており、U字状プランと推定される。燃焼部内からは顕著な焼土面などは確認されず、左袖の残存状況も悪い。幅の広い煙道部が屋外に伸びるが、先端部は29号住居跡に破壊されている。

貯蔵穴 北東隅にあり、円形状を呈する。掘り込みは深い。

壁下周溝 検出されなかった。

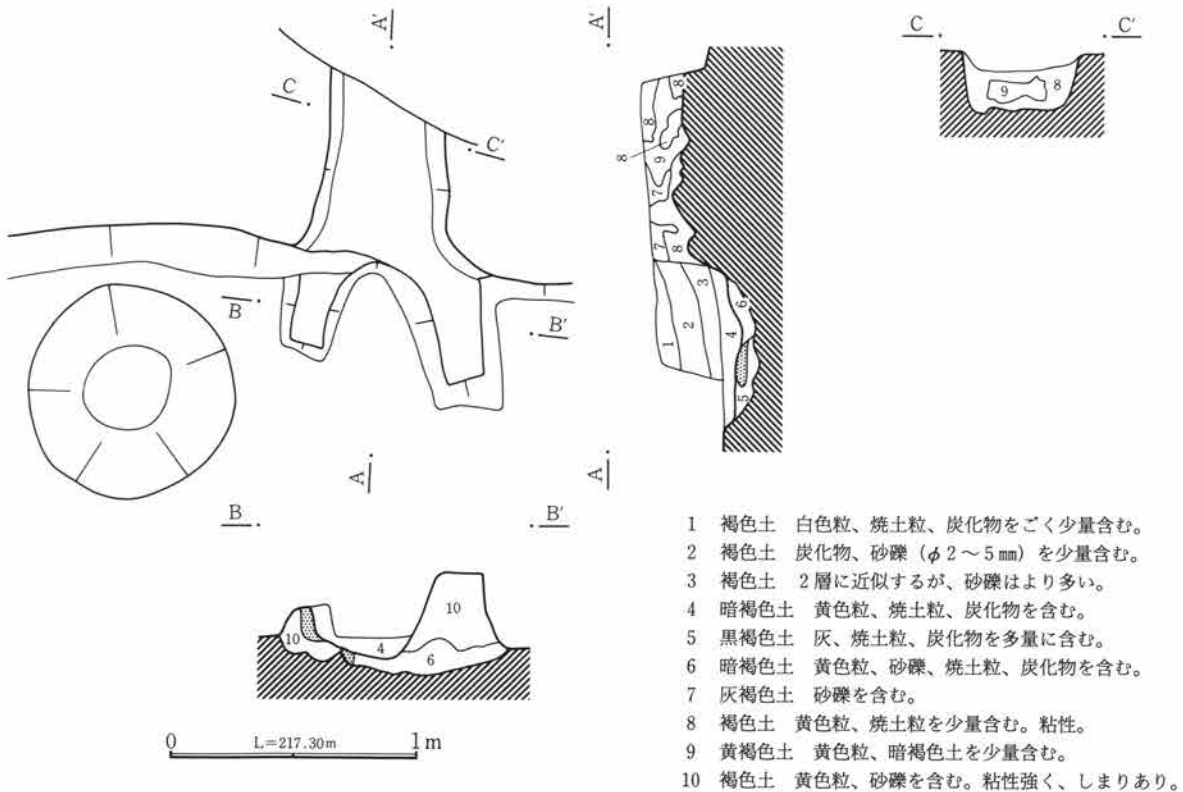
柱穴 4基の支柱穴と考えられる小ピットが検出された。いずれも掘り込みが浅い。

出土遺物 総計28点の土製品・土器片と少量の石片・石材が出土している。この他には、比較的多量の炭化材・炭化物が検出された。樹種は、広葉樹を主体としているが、針葉樹が1点認められている。広葉樹には、クリ、クリの類似種、コナラ属コナラ亜属コナラ節、ニレ科の一種などが、同定・報告されている。

掘り方 床面と掘り方面がほぼ一致し、床面下から遺構は検出されなかった。

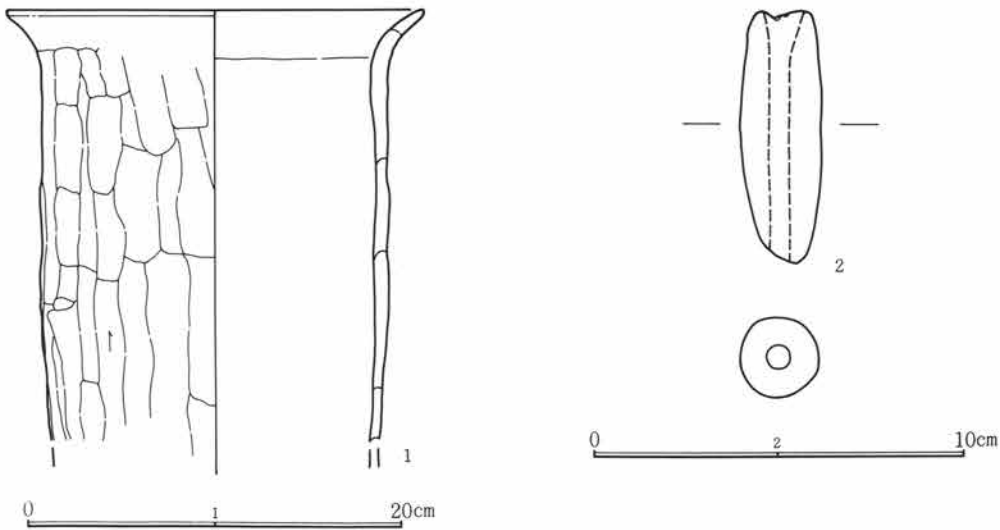
時期 出土遺物や住居形態から、6～7世紀代と考えられる。

備考 多量の炭化材・炭化物の検出は、本住居跡が焼失家屋であることを示しているといえよう。



第276図 31号住居跡かまど





第277図 31号住居跡出土遺物

## 32号住居跡 (PL. 62)

位置 EI-59 床面積 8.7m<sup>2</sup> 主軸方位 N-0° 残存壁高 0.15m

重複 30住→32住→24住

規模と形状 長辺3.44m、短辺2.80mの横長の隅丸長形状のプランを呈し、東辺部の最も南よりにかまどが築かれる。周壁は、崩落は少ない。

床面 床面は、覆土との色調差や炭化物の出土層位によって明瞭に識別でき、比較的良好な平坦面が形成されていた。床面精査では、かたく踏み締められるなどの顕著な傾向は確認できなかった。

かまど かまどの残存状況は悪く、燃烧部の存在が確認されたにすぎない。燃烧部は住居壁より外側に作り出され、U字状プランを呈す。袖はわずかに下端部が残存し、かまど前では焼土・炭化物の分布が確認されている。

貯蔵穴 南西隅付近と北東隅から、貯蔵穴と推定可能なピットが検出された。いずれも覆土中に炭化物・焼土粒子が含まれ、安定した掘り込みといえる。

壁下周溝 検出されなかった。

柱穴 住居中央部から小ピットが1基検出された。柱穴と認定する根拠に乏しいが、上屋構造との関係によっては、必ずしも否定されるとは考えられない。

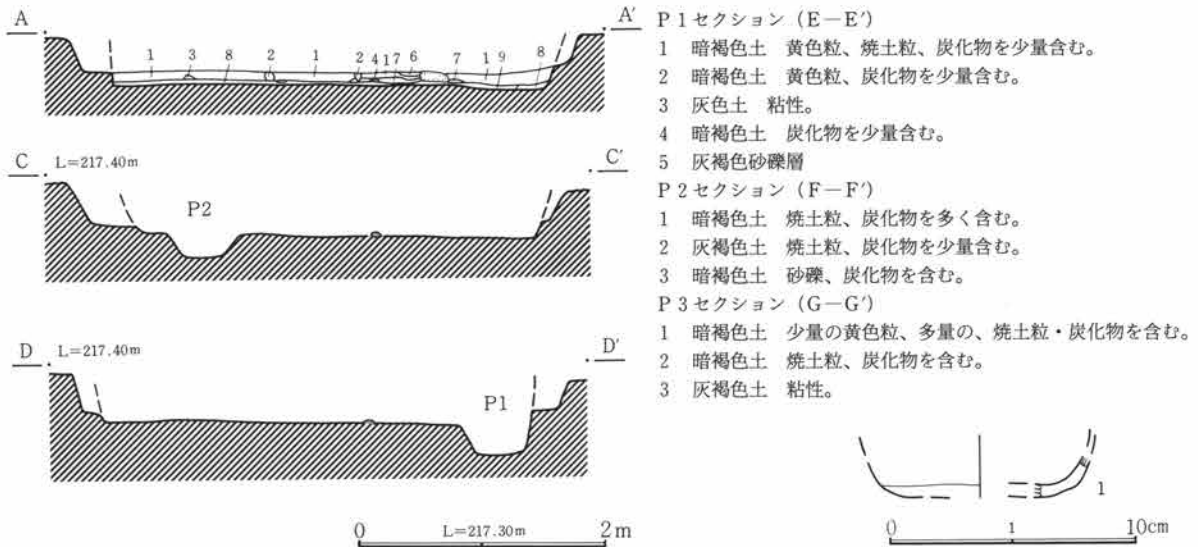
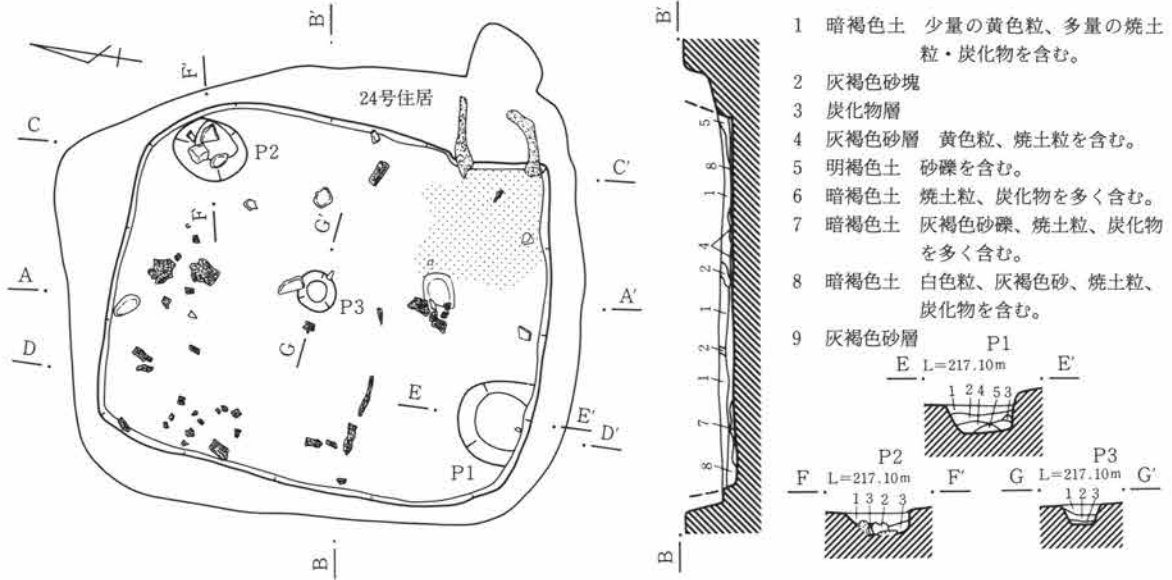
出土遺物 出土遺物は極めて少なく、6点の土器片と石片が出土している。このほかには、比較的多量の炭化材・炭化物が床面上から検出された。炭化材の樹種は、いずれも広葉樹で、クマシデ属の一種、ケヤキ、コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種などがあり、このうちコナラ節が最も多く同定され、報告されている。

掘り方 床面と掘り方面がほぼ一致し、床面下から遺構は検出されなかった。

時期 新旧関係や住居形態から、10世紀代と考えられる。

備考 炭化材や炭化物の検出状況から、本住居跡は焼失家屋と考えられる。また、本住居跡は、24号住居跡のプラン内にあり、24号住居跡を縮小した規模と形状をもちあわせている。このことは、32号住居跡焼失後、同じ系譜の居住者が24号住居跡を再構築した可能性を示唆しているといえよう。

第3章 検出された遺構と遺物



第278図 32号住居跡

第279図 32号住居跡出土遺物

33号住居跡 (PL. 54・62・140)

位置 En-59 床面積 不明 主軸方位 N-89°-E 残存壁高 0.1m

重複 13号住居との重複が見られるが、土器を検討する限りでは近接した時期の所産と考えられる。

規模と形状 南北辺(2.3)mが計測される。方形状のプランと推定されるが、詳細は不明。東辺部の中央よりやや北側にかまどが築かれる。周壁は、掘り込みが浅く、認定に困難を極めたため、推定部分も多い。

床面 床面は起伏があり、かたく踏み締められるなどの傾向は確認できなかった。

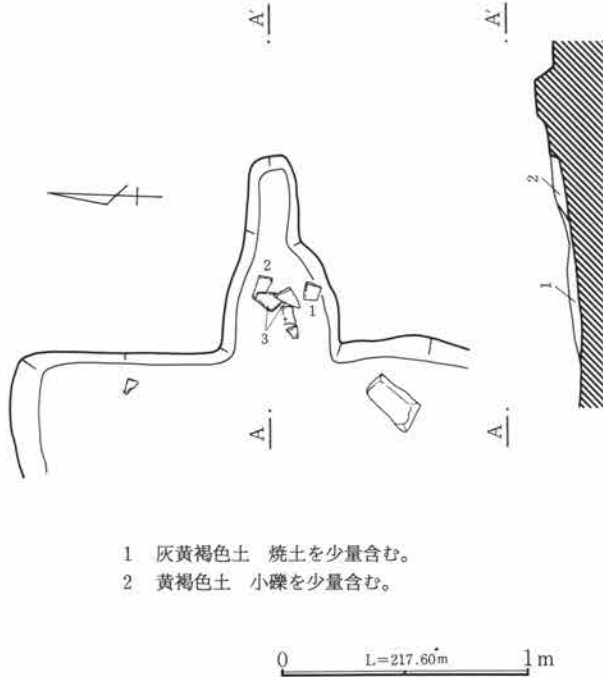
かまど 燃焼部は住居壁より外側に作り出され、短い煙道部が取り付けられている。燃焼部は、U字状プランを呈し、顕著な焼土面などは確認されなかった。かまど右前にかまど用石に使用されたと考えられる砂岩が出土している。

貯蔵穴・壁下周溝・柱穴 いずれも検出されなかった。

出土遺物 計7点の土器片がかまど内より出土している。

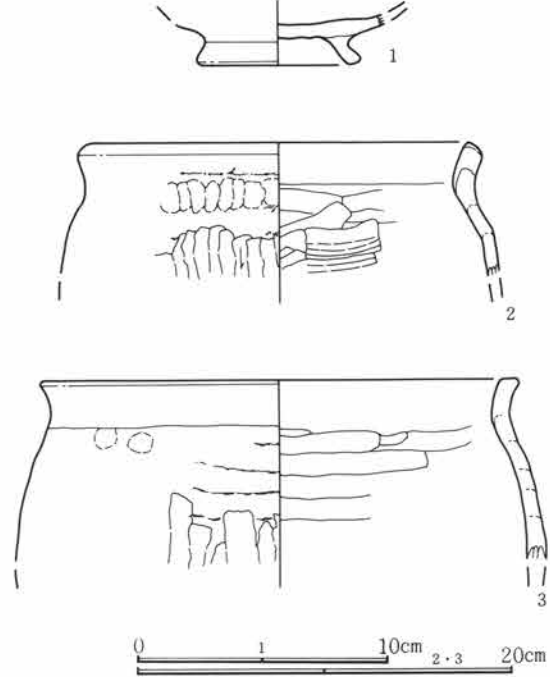
掘り方 床面と掘り方向がほぼ一致し、床面下から遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、11世紀代と考えられる。



- 1 灰黄褐色土 焼土を少量含む。  
2 黄褐色土 小礫を少量含む。

第280図 33号住居跡かまど



第281図 33号住居跡出土遺物

### 34号住居跡 (PL.63・140)

位置 Ec-51 床面積 測定不能 主軸方位 N-7°-E 残存壁高 0.45m

重複 34住→36住

規模と形状 南北長8.00mが計測され、東西長は調査区外のため計測できない。方形状のプランと推定され、かまどの有無は不明。残存する周壁は安定した掘り込みといえる。

床面 床面は、覆土との色調差によって明瞭に識別でき、比較的良好な平坦面が形成されていた。床面の精査では、住居中央付近で、かたく踏み締められた痕跡が確認された。

かまど・貯蔵穴・壁下周溝 いずれも検出されなかった。

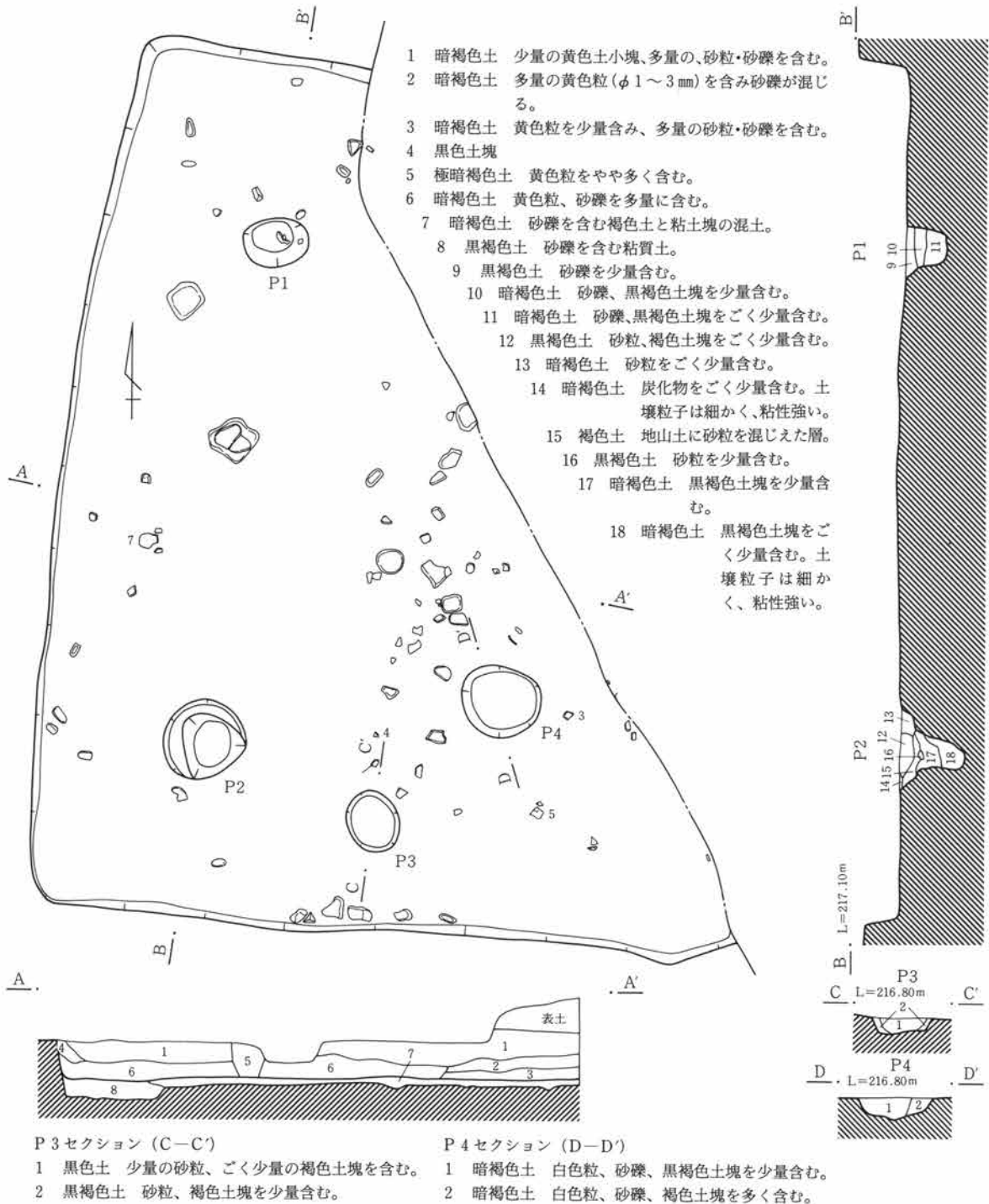
柱穴 西辺部に2基の支柱穴が検出されたほかに、性格不明のピットが2基ある。支柱穴は、掘り込みが深く安定している。他の2基は掘り込みが浅い。

出土遺物 出土遺物は少なく、総計46点の土器片と38点の石片・石材が覆土中や床面付近から出土している。いずれも土師器の甕・坏・高坏などで、完存するものはない。

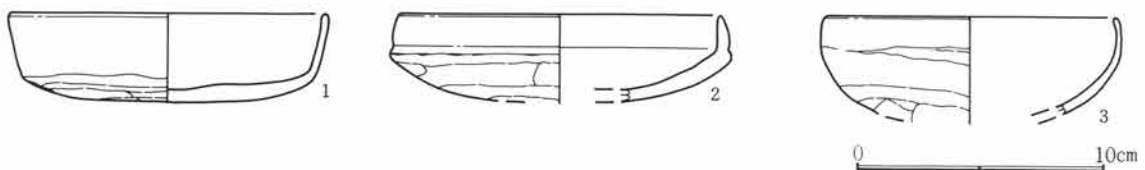
掘り方 層厚0.05~0.1mの貼り床土が認められ、西辺部と南辺部の壁に沿って幅1.0m前後の浅い溝状の掘り込みが検出された。北辺部についても全容は明らかにならないが、同様の掘り込みがあると考えられる。

また、住居中央部の北側に、浅い円形状のピット(土坑状)がある。

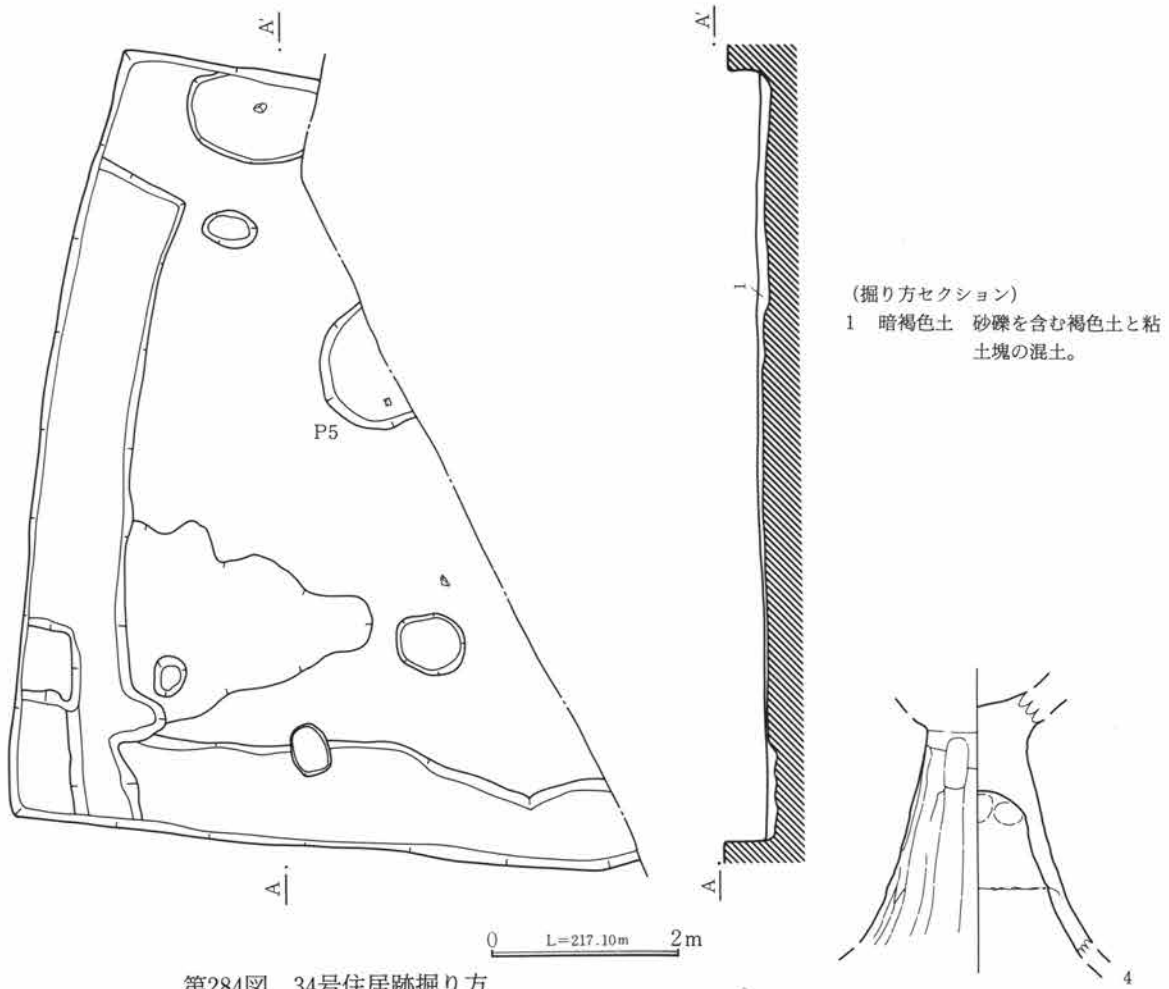
時期 出土遺物や住居形態から、6~7世紀代と考えられる。



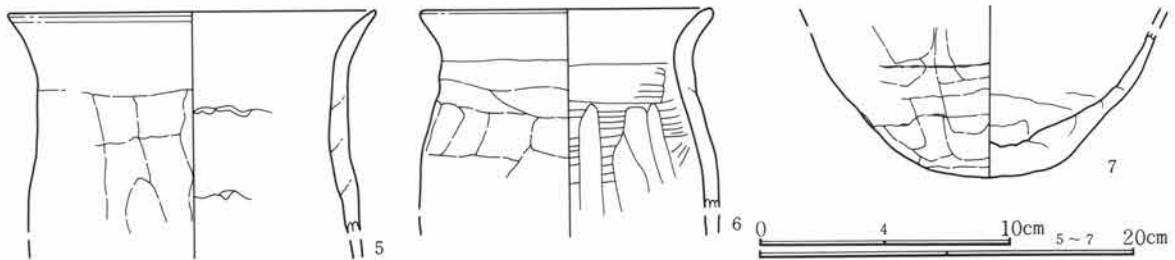
第282図 34号住居跡 0 L=217.50m 2m



第283図 34号住居跡出土遺物(1)



第284図 34号住居跡掘り方



第285図 34号住居跡出土遺物(2)

35号住居跡 (PL.63・140・141)

位置 Eb-53 床面積 31.1m<sup>2</sup> 主軸方位 N-15°-W 残存壁高 0.45m

重複 54住(縄文)→35住→38A・39住

規模と形状 長辺6.30m、短辺5.80mの菱形に歪んだ方形状に近いプランを呈し、北辺部の中央よりやや東側にかまどが築かれる。周壁は、ほぼ直線的に走行し、掘り込みは安定している。

床面 比較的良好的な平坦面が形成されていた。かまど前や住居中央部が、かたく踏み締められている。

かまど 燃焼部と煙道部のプランが確認された。燃焼部は住居壁の内側に作り出され、U字状プランを呈し、燃焼部側壁および底面は、よく焼け込み、焼土化している。煙道部は、くり抜き式のもので、わずかに勾配

第3章 検出された遺構と遺物

をもちながら屋外に伸び直立する。煙道部内面上部もよく焼けていて、焼土面が確認されている。

**貯蔵穴** 北東隅にあり、円形状を呈す。極めて深く掘り込んでいる。

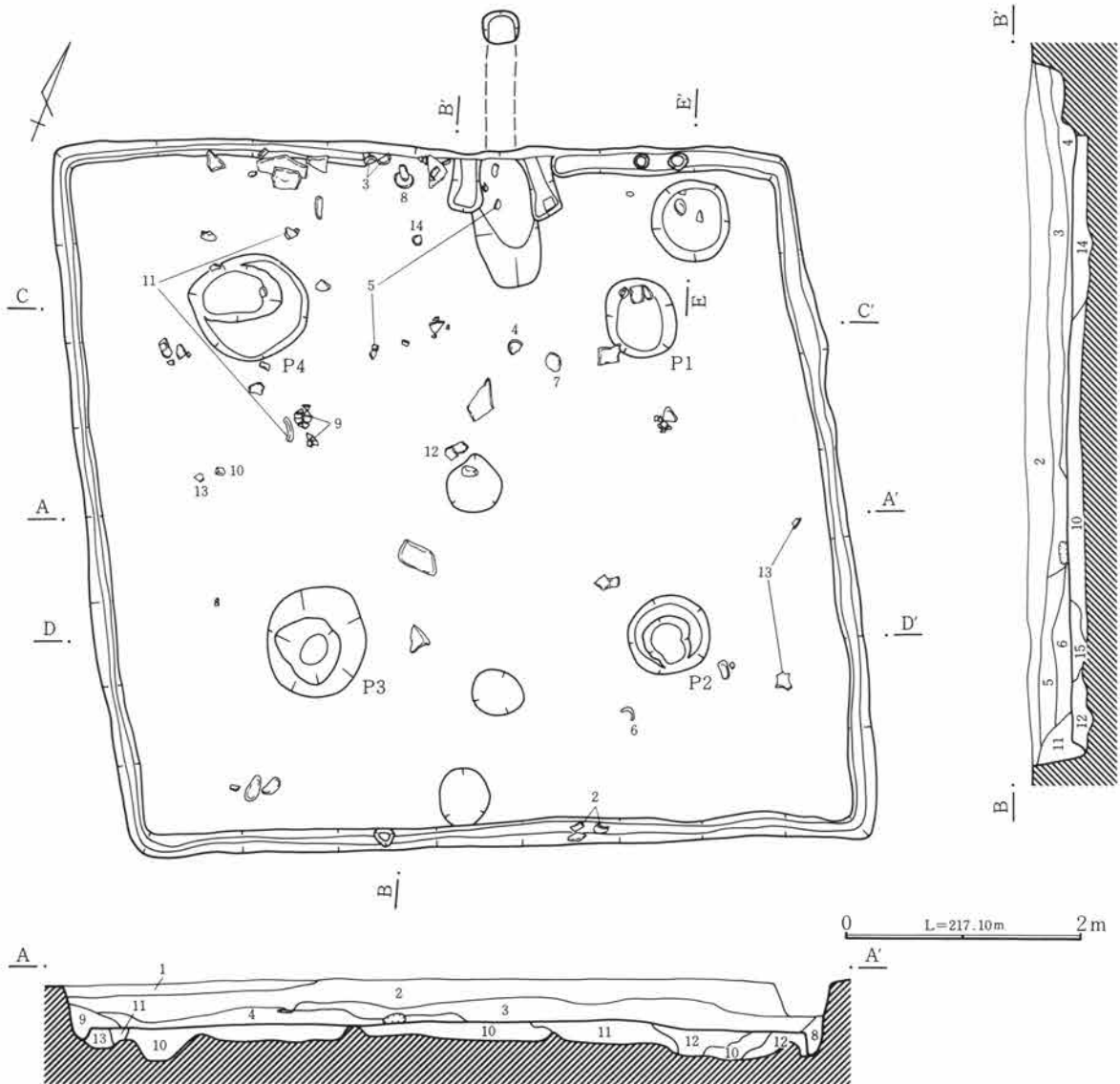
**壁下周溝** かまど付近を除いて全周し、いくつかの小ピットが伴っている。

**柱穴** 4基の支柱穴が検出された。位置関係は菱形に歪む。いずれも掘り込みが深く、安定している。

**出土遺物** 総計143点の完形土器・土器片と68点の石片類のほかに、炭化種子や焼けた獣骨片などが出土している。出土土器は、土師器甕・小型甕・坏、須恵器坏のほかの手捏ね土器があり、貯蔵穴内やかまど前、南辺部出土の土師器坏とかまど付近の須恵器坏はほぼ完形品。炭化種子（モモ）は貯蔵穴内、獣骨片はかまど掘り方からそれぞれ検出された。

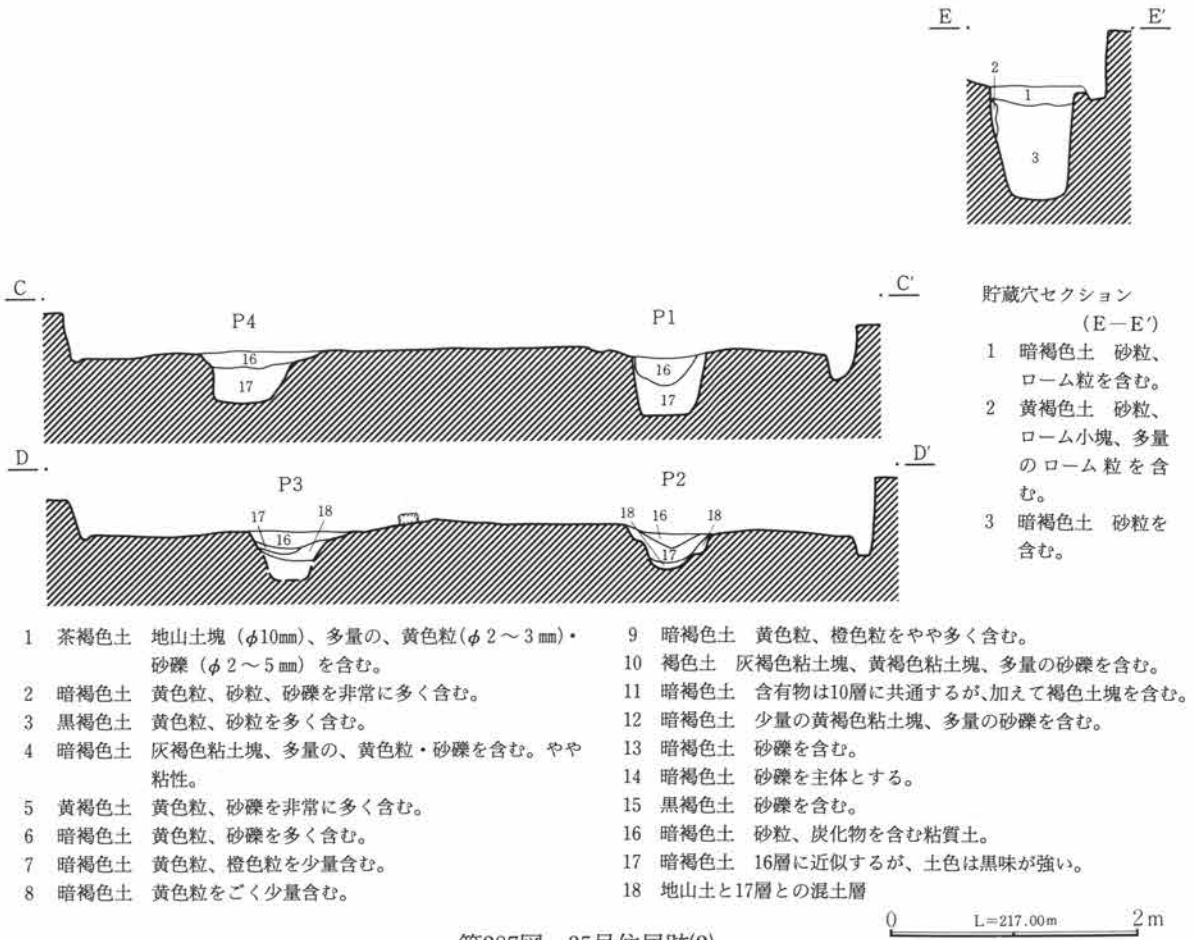
**掘り方** 層厚0.1~0.2mの貼り床土が認められる。浅い溝状の掘り込みが、西辺部の一部と東辺部の周壁に沿って認められる。また、いくつかのピットも検出されたが、掘り込みの浅いものが多い。

**時期** 出土遺物や住居形態から、7世紀後半代と考えられる。

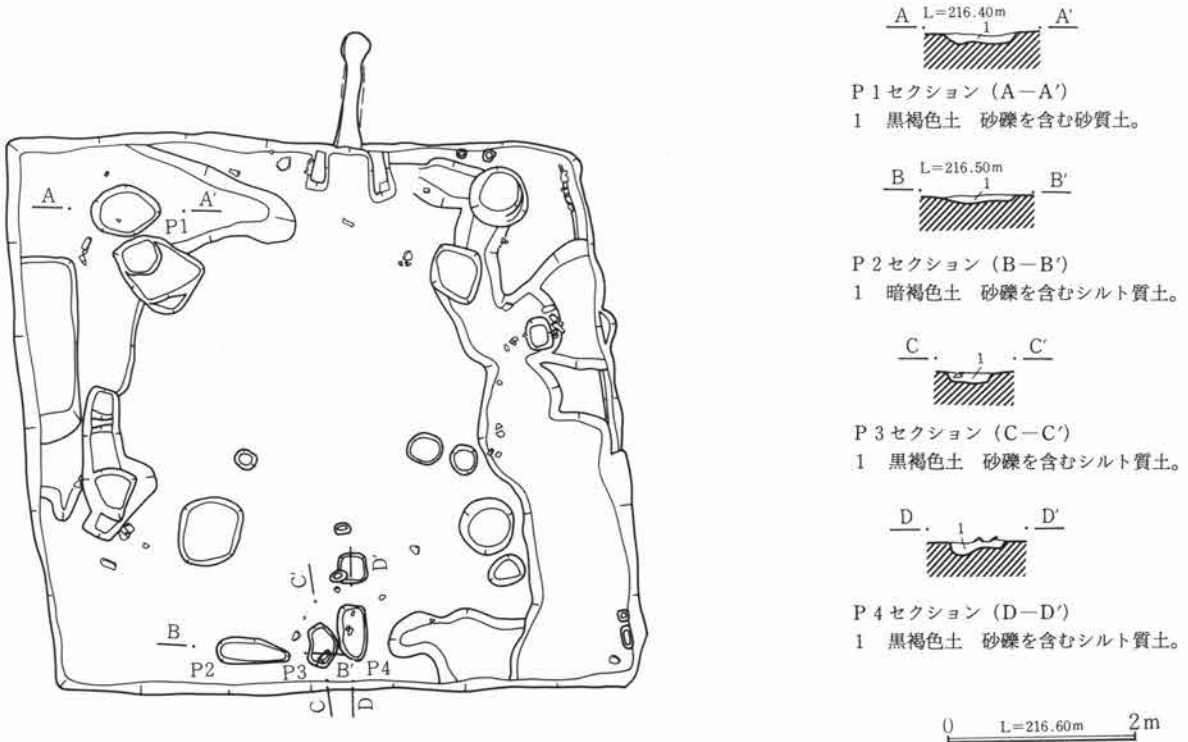


第286図 35号住居跡(1)

第1節 竪穴住居跡

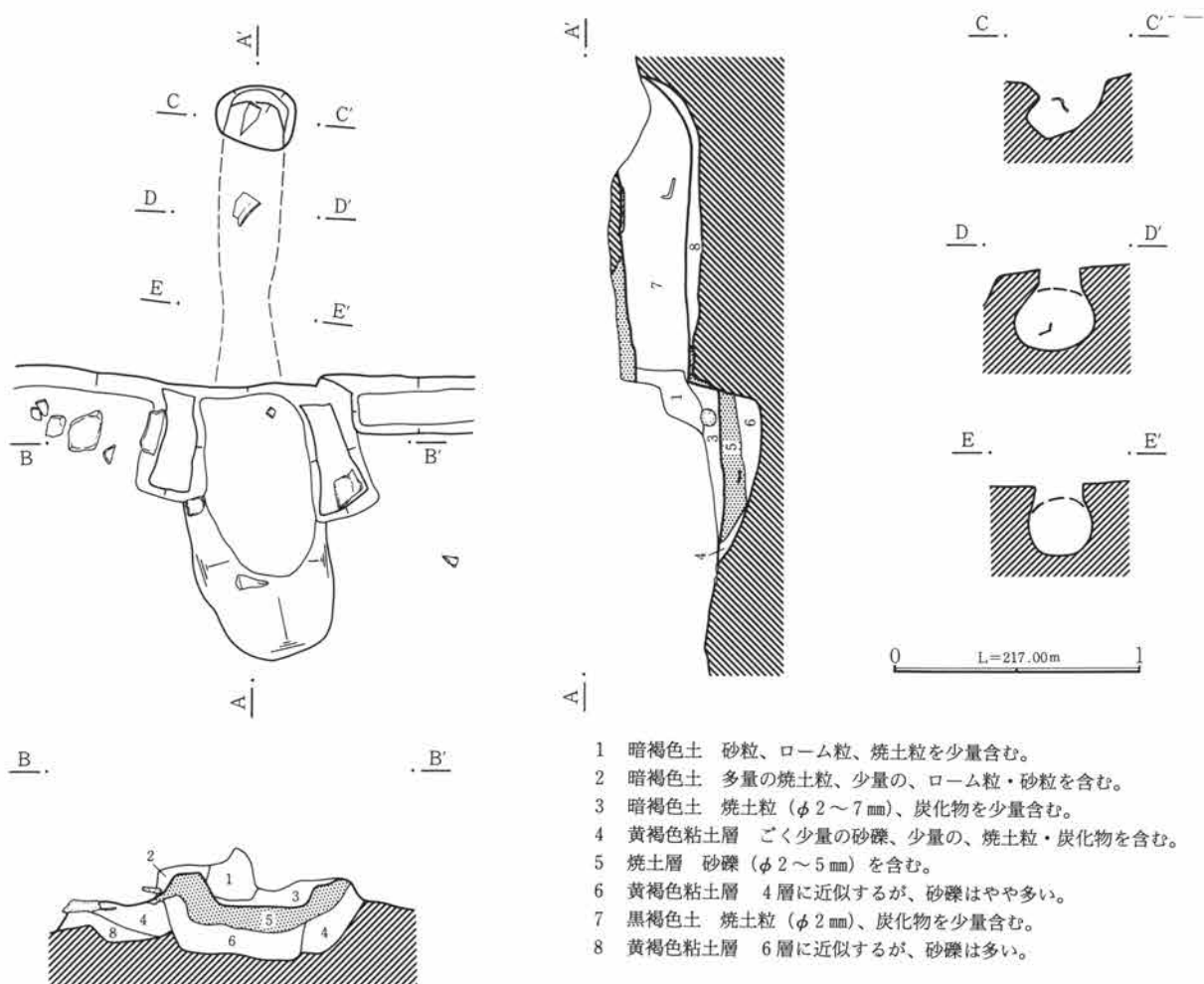


第287図 35号住居跡(2)

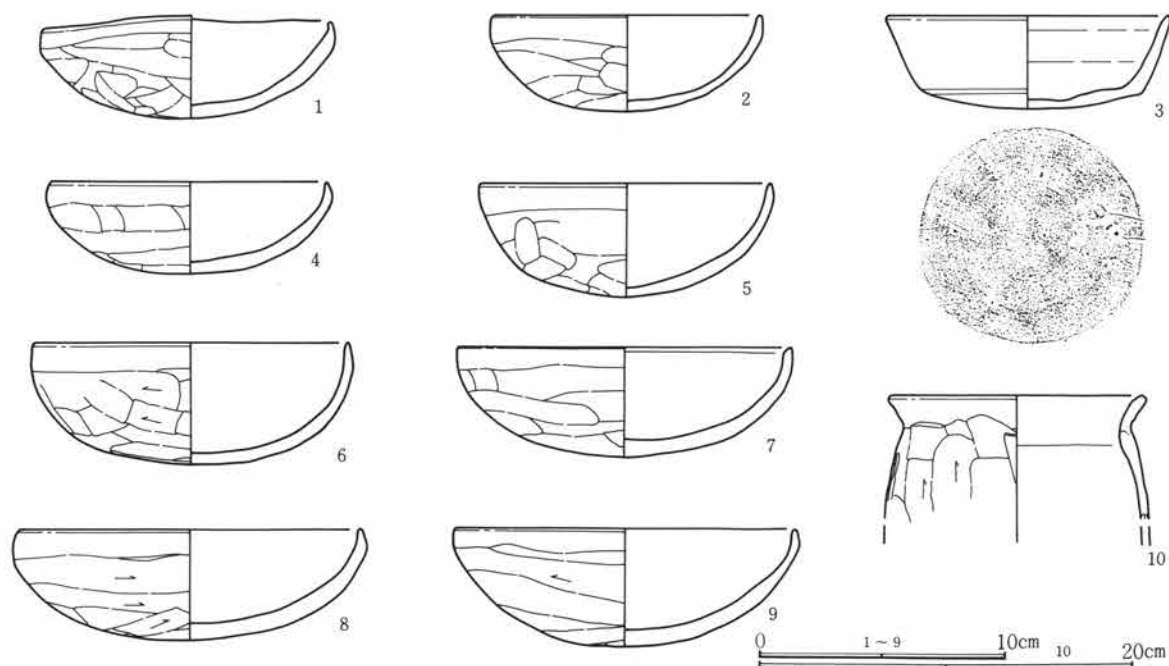


第288図 35号住居跡掘り方

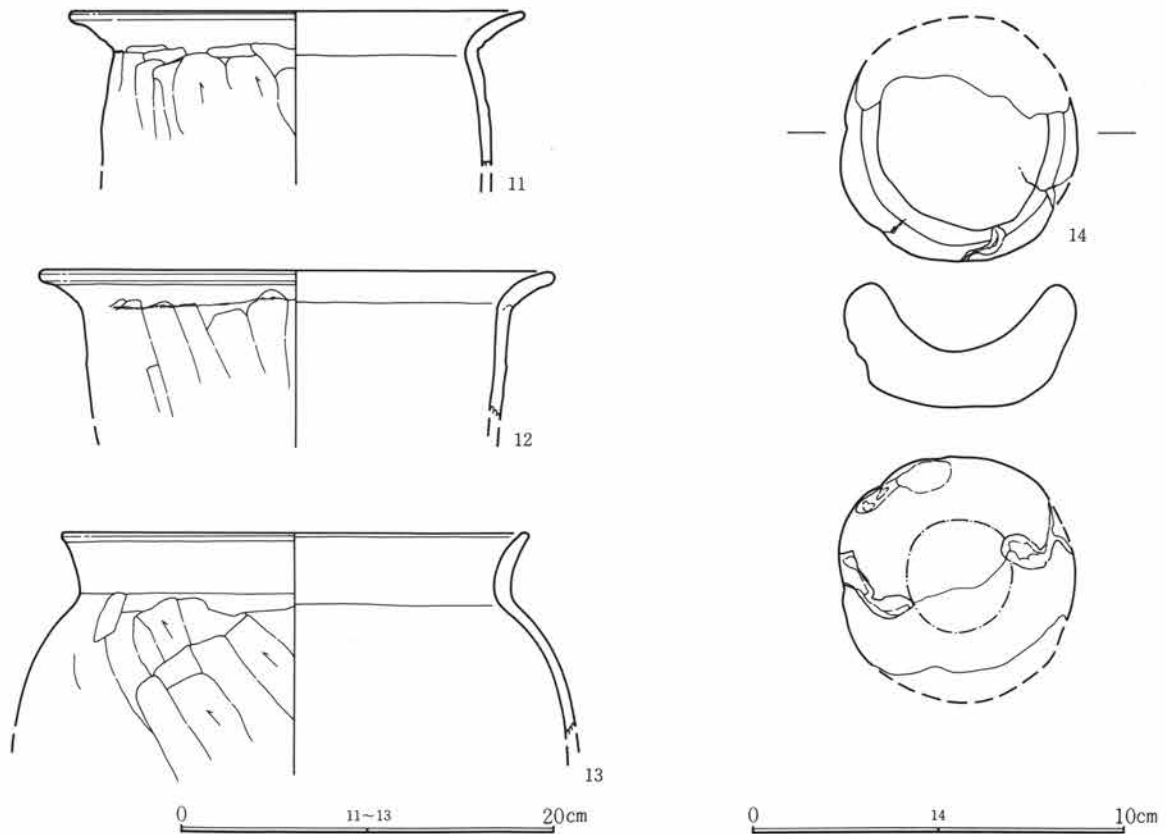




第289図 35号住居跡かまど



第290図 35号住居跡出土遺物(1)



第291図 35号住居跡出土遺物(2)

36号住居跡 (PL.63・141)

位置 Ec-52 床面積 測定不能 主軸方位 N-70°-E 残存壁高 0.15m

重複 34・56住→36住

規模と形状 試掘溝等による破壊によって、かまどのある東辺部の一部と南東隅が残存するにすぎない。形状のプランと推定されるが、詳細については不明。

床面 覆土との色調差によってなされたが、残存する床面部分が少なく、顕著な傾向は確認できなかった。

かまど かまどの残存状況は悪く、燃烧部と煙道部のプランが確認されたにすぎない。燃烧部は、住居壁より外側に作り出され、U字状プランを呈す。燃烧部側壁および底面の一部では、焼土面が確認された。煙道部は、短いものが付設され、緩やかに立ち上がっている。

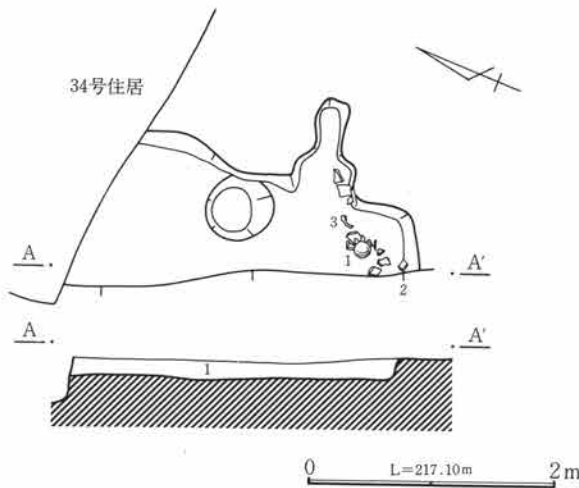
貯蔵穴・壁下周溝・柱穴 いずれも検出されなかったが、かまど付近から性格不明のピットが検出されている。

出土遺物 出土遺物は少なく、総計16点の土器片が出土したにすぎない。南東コーナ部の床面付近から出土の酸化焰焼成の塊・高台付塊が出土している。

掘り方 床面と掘り方面がほぼ一致し、床面下から遺構は検出されなかった。

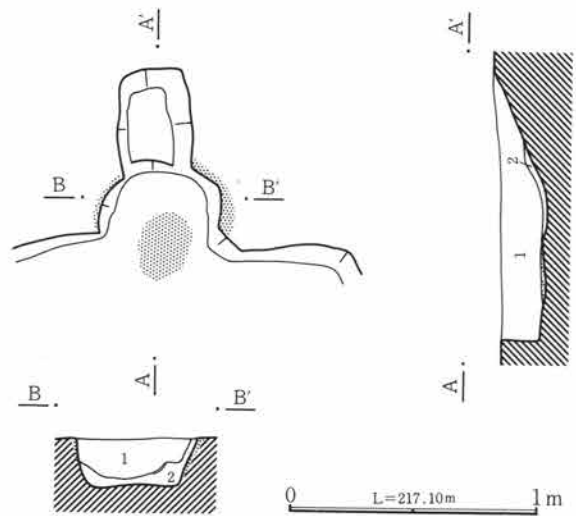
時期 出土遺物や住居形態から、10世紀代と考えられる。

第3章 検出された遺構と遺物



1 暗褐色土 砂礫(φ2~3mm)、褐色土塊(φ5~20mm)を少量含む。

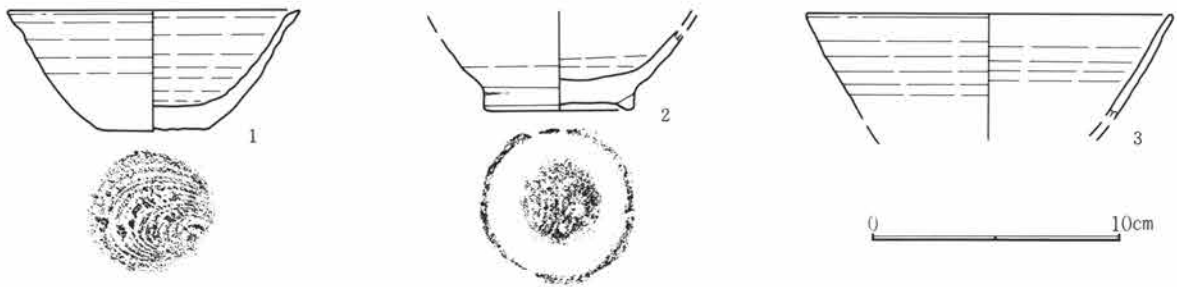
第292図 36号住居跡



1 黒褐色土 砂礫(φ2~3mm)、白色パミス(φ2mm)、焼土粒(φ2mm)を含む。

2 黒褐色土 1層に近似するが、含有物の量は多い。

第293図 36号住居跡かまど



第294図 36号住居跡出土遺物

37号住居跡 (PL. 64・141)

位置 Eb-50 床面積 測定不能 主軸方位 N-7°-W 残存壁高 0.4m 重複 48住・49住→37住  
規模と形状 東側が調査区外のため、南北長3.80mのみが計測された。周壁は、若干の崩落が認められる。

床面 若干の起伏が認められ、かたく踏み締められるなどの顕著な傾向は確認できなかった。

かまど・貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。壁下周溝 北西隅付近と南辺部の一部とで検出された。

ピット 住居北側半分から、炭化物層の分布を伴うピットが4基検出された。検出した炭化物層は、火災などに伴うものではなく、かまどもしくは何らかの作業で排出したものがピット内に堆積したものと考えられる。いずれにせよ、これらのピットは作業用に穿たれたものと考えられるが、詳細については不明。

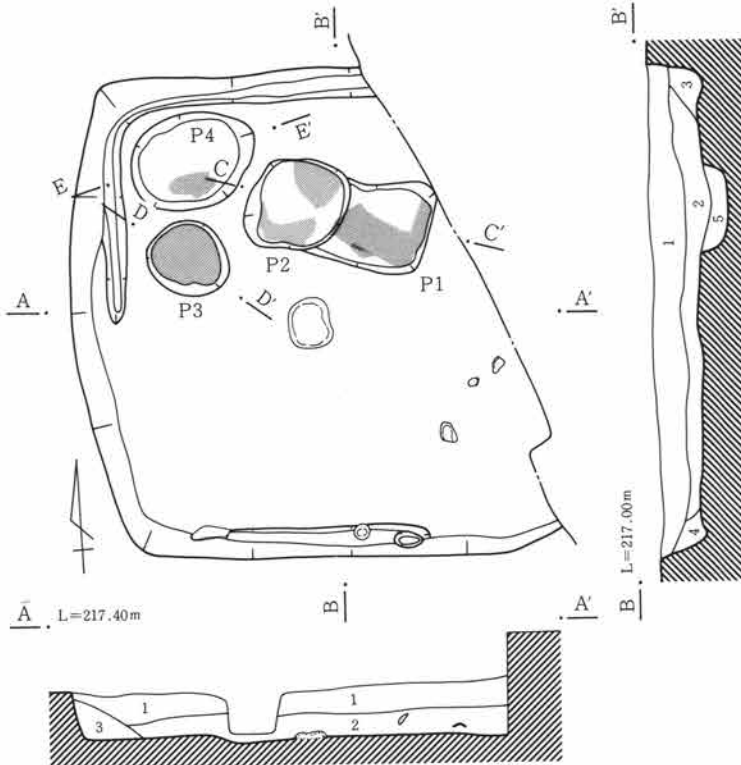
出土遺物 総計120点の完形土器や土器片と50点の石片・石材のほかに、鉄滓1点が出土している。出土土器は、土師器甕・小型甕、還元焰焼成の羽釜・高台付埴、須恵器大甕、灰釉陶器高台付埴があり、ピット内や床面付近から出土している。また、石材の中には滑石の原石(4×7cm)がある。

掘り方 床面直下から、多くのピットが住居南側半分から検出されている。規模はさまざまであるが、概ね円形状を呈している。最終使用面に伴うピットと同様の性質のものと考えられる。

時期 出土遺物や住居形態から、9世紀末~10世紀初頭と考えられる。

備考 多数の作業用ピットや鉄滓・滑石の原石出土は、本住居跡の性格を考える上で重要な要素となろう。

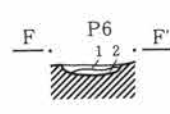
第1節 竪穴住居跡



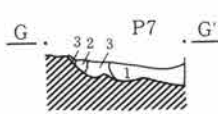
- 1 黒褐色土 少量の砂粒、ごく少量の焼土粒を含む。
- 2 黒褐色土 1層に近似するが、炭化物も含む。
- 3 黒褐色土 少量の褐色土塊(φ10~20mm)、ごく少量の砂粒を含む。
- 4 黒褐色土 砂粒、焼土粒、炭化物をごく少量含む。
- 5 暗褐色土 褐色土塊をごく少量含む。

P1・P2セクション (C-C')

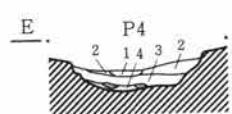
- 1 暗褐色土 焼土粒、黒色土塊、褐色土塊を少量含む。
- 2 黒色土
- 3 褐色土 黒色土塊を少量含む。砂質土。
- 4 暗褐色土 少量の褐色土塊、焼土粒・炭化物を少量含む。
- 5 暗褐色土 褐色土塊をごく少量含む。
- 6 褐色土 黒褐色土塊を少量含む。
- ① 暗褐色土 白色粒、砂礫を少量含む。
- ② 褐色土 黒褐色土塊をごく少量含む。
- ③ 暗褐色土 褐色土塊を多く含む。
- ④ 暗褐色土 ごく少量の焼土粒、少量の褐色土塊を含む。



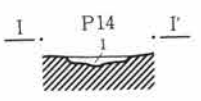
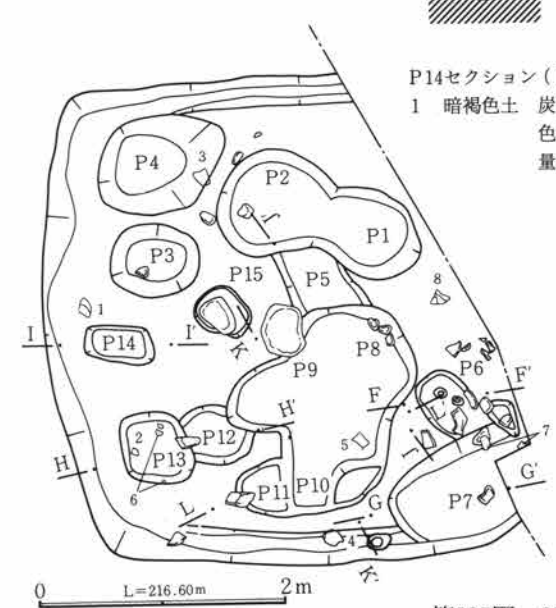
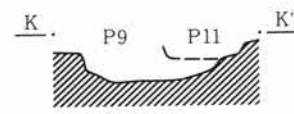
- P6セクション (F-F')
- 1 黒褐色土 砂粒、焼土粒、褐色土小塊を少量含む。
  - 2 黒褐色土 砂粒、焼土粒をごく少量含む。
  - 3 暗褐色土 ごく少量の砂粒、焼土粒・褐色土塊を少量含む。



- P7セクション (G-G')
- 1 暗褐色土 褐色土塊を少量含む、僅かに砂粒・焼土粒を含む。
  - 2 褐色土 黒褐色土塊(φ10~20mm)を少量含む。



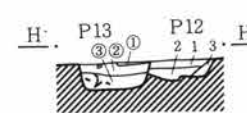
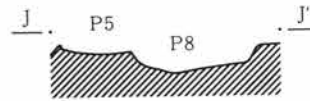
- P4セクション (E-E')
- 1 黒褐色土 小礫、暗褐色土塊を少量含む。
  - 2 暗褐色土 焼土粒、炭化物、黒褐色土塊をごく少量含む。
  - 3 黒褐色土 焼土塊、暗褐色土塊を多く含む。
  - 4 黒褐色土 炭化物、褐色土塊を少量含む。



- P14セクション (I-I')
- 1 暗褐色土 炭化物、褐色土塊を少量含む。

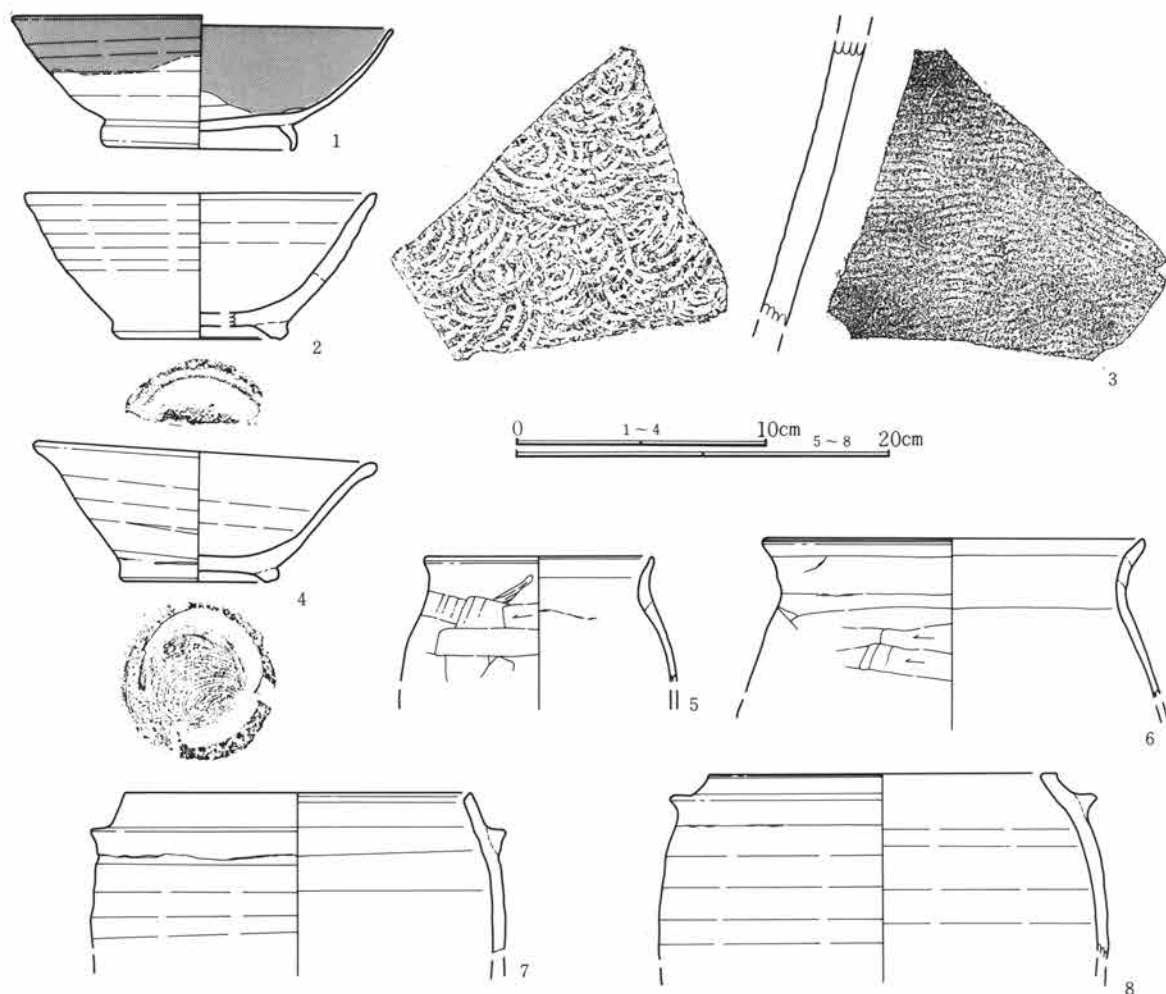


- P3セクション (D-D')
- 1 暗褐色土 砂礫をごく少量含む。
  - 2 暗褐色土 ごく少量の砂礫、少量の褐色土塊を含む。
  - 3 暗褐色土 炭化物、焼土小塊、黒褐色土塊を少量含む。
  - 4 黒褐色土 焼土粒、暗褐色土塊を少量含む。



- P12・P13セクション (H-H')
- 1 黒褐色土 黄色粒、砂礫を少量含む。
  - 2 黒褐色土 1層に近似するが、含有物の量は少ない。
  - 3 褐色土 地山塊に砂粒、黒褐色土塊が少量混じる。
  - ① 黒褐色土 砂粒を少量含む。
  - ② 暗褐色土 焼土粒・炭化物を多く含む。
  - ③ 暗褐色土 ごく少量の砂粒、少量の、炭化物・焼土小塊(φ10~30mm)を含む。

第295図 37号住居跡及び掘り方



第296図 37号住居跡出土遺物

38A・38B号住居跡 (PL. 64・141)

位置 Ec-53 床面積 38A住 (8.0) m<sup>2</sup> 主軸方位 38A住N-93°-E B住N-0° 残存壁高 0.3m  
 重複 35・45・38B住 (古) →38A住、攪乱溝あり

規模と形状 調査時には一軒の住居跡と考えられていたが、出土遺物や床面下遺構の検討の結果、二軒の重複住居跡と認定されるに至った。38A号住居跡は、長辺3.42m、短辺(3.24)mの方形に近いプランを呈し、東辺部の中央より南側にかまどが築かれている。周壁は、若干の崩落が認められ、線形がやや乱れている。38B号住居跡は、住居プランの大半を38A号住居跡に破壊され、東西辺の3.48mが計測されるにすぎない。かまどは、北辺部に築かれているが残りが悪い。

床面 床面レベルは両住居ともほぼ同じであり、かたく踏み締められた痕跡は確認できなかった。

かまど 38A号住居跡は、燃焼部の使用時のプランと掘り方が確認されたにすぎない。燃焼部は、住居壁より外側に作り出され、U字状のプランを呈する。燃焼部の先端には、板状に加工された砂岩の袖石が左右に残存し、側壁や底面の一部では焼土面が確認されている。

38B号住居跡のかまどは、そのほとんどが攪乱溝によって破壊され、西側の袖の一部と燃焼部底面の焼土面が確認されたにすぎない。残存する袖部は側面に焼土面が確認され、燃焼部内には小ピットが穿たれていた。

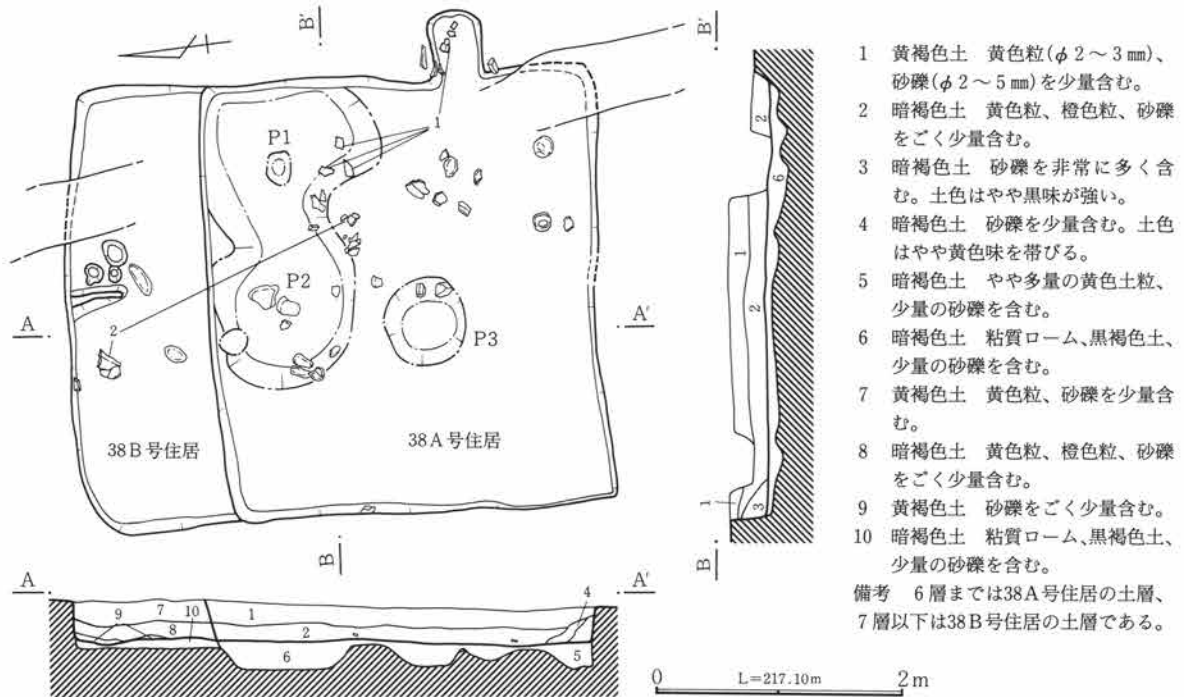
貯蔵穴・壁下周溝・柱穴 いずれも検出されなかった。

第1節 竪穴住居跡

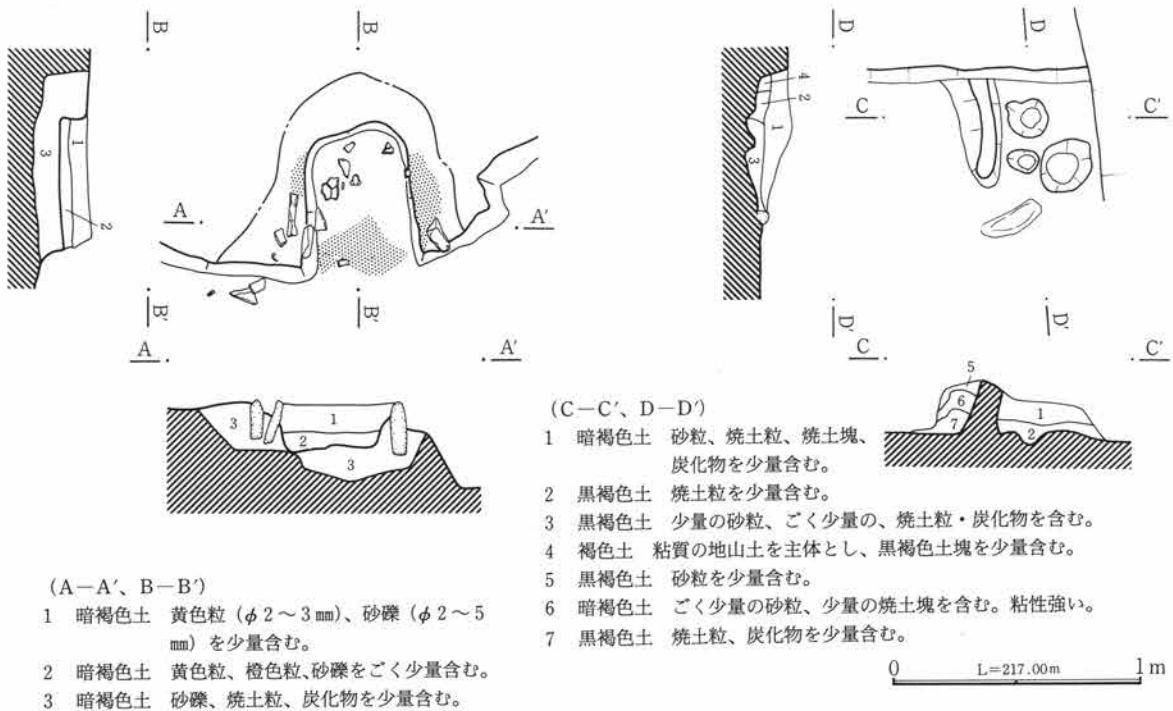
出土遺物 両住居跡併せて総計49点の土器片と18点の石材・石片が出土した。

掘り方 両住居跡とも層厚0.1~0.2mの貼り床土が認められ、38A号住居床面下から3基の円形状の掘り込みの浅いピットが検出された。やや規模の大きいものが2基と小振りなものが1基ある。

時期 出土遺物から38A号住居跡が8世紀前半代、38B号住居跡が9世紀前半代と考えられる。

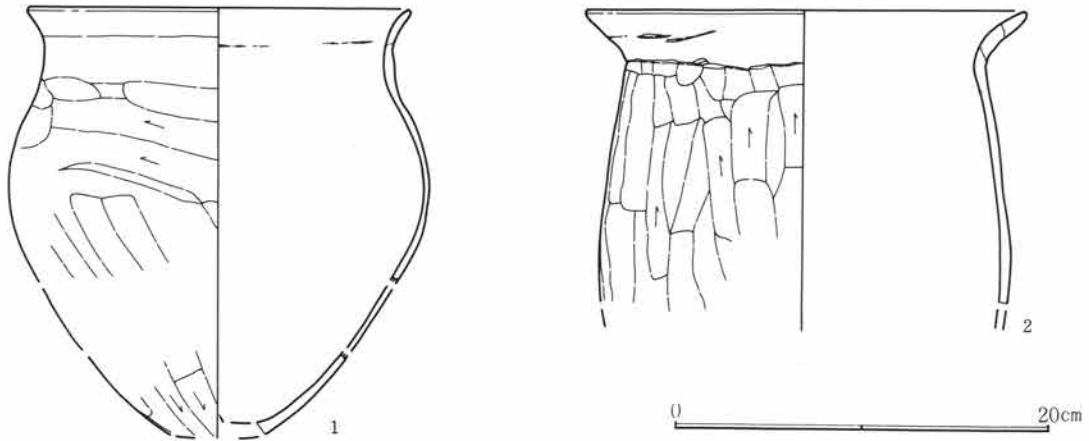


第297図 38A・38B号住居跡



第298図 38A号住居跡かまど

第299図 38B号住居跡かまど



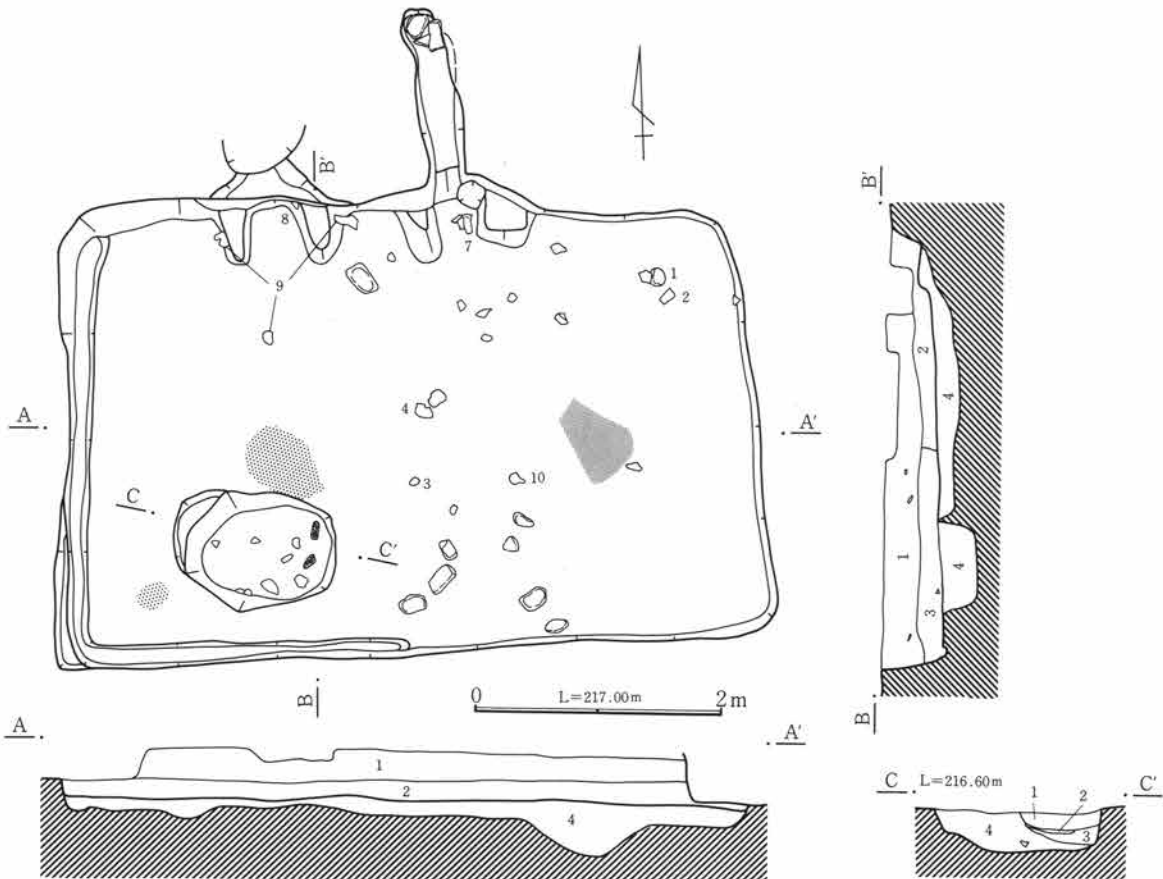
第300図 38A・38B号住居跡出土遺物

39号住居跡 (PL, 65・142)

位置 Eb-52 床面積 19.6㎡ 主軸方位 N-0° 残存壁高 0.4m

重複 52A住→52B住→56住→39住→64住

規模と形状 長辺5.60m、短辺3.62mの横長長方形のプランを呈し、北辺部の中央とその西側に2基のか



貯蔵穴セクション (C-C')

- |                           |                            |
|---------------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色土 多量の砂礫とごく少量の焼土粒を含む。 | 1 暗褐色土 砂粒、焼土粒をごく少量含む。      |
| 2 暗褐色土 僅かに焼土粒・炭化物・褐色土を含む。 | 2 暗褐色土 焼土粒を少量含む。焼けて赤味を帯びる。 |
| 3 暗褐色土 僅かに焼土粒・炭化物を含む。     | 3 暗褐色土 焼土塊、褐色土塊を少量含む。      |
| 4 暗褐色土 砂粒、焼土粒を含む。         | 4 暗褐色土 多量の褐色土塊、僅かに焼土粒を含む。  |

第301図 39号住居跡



まどが築かれる。周壁は、東辺部が重複のためかやや線形が乱れている。

**床面** 床面の検出は、覆土との色調差によってなされ、比較的に良好な平坦面が形成されていた。かたく踏み締められるなどの傾向は確認できなかったが、焼土粒子と炭化物の分布が大小3カ所で認められた。

**かまど** 検出された2基のかまどのうち、西側のかまどは中央部のかまどに比べ残存状況が悪い。西側のかまどは、燃烧部のプランの確認にとどまり、燃烧部内底面では焼土面が確認されている。中央部のかまどは、燃烧部と煙道部のプランが確認され、燃烧部は住居壁の内側に作り出されている。燃烧部側壁および底面はよく焼け込みレンガ化し、右袖部には袖石（砂岩加工石）の残欠が確認されている。煙道部はくり抜き式のもので、ほぼ水平に屋外に伸びて直立する。煙道部内面上部および底面は、よく焼け込み、焼土面が確認されている。また、煙道部先端には、煙だし部の石組みと思われる用石（砂岩加工石）が検出されている。

**貯蔵穴** 住居南西部で土坑状の掘り込みが検出され、覆土中には炭化材や焼土を多く含んでいた。

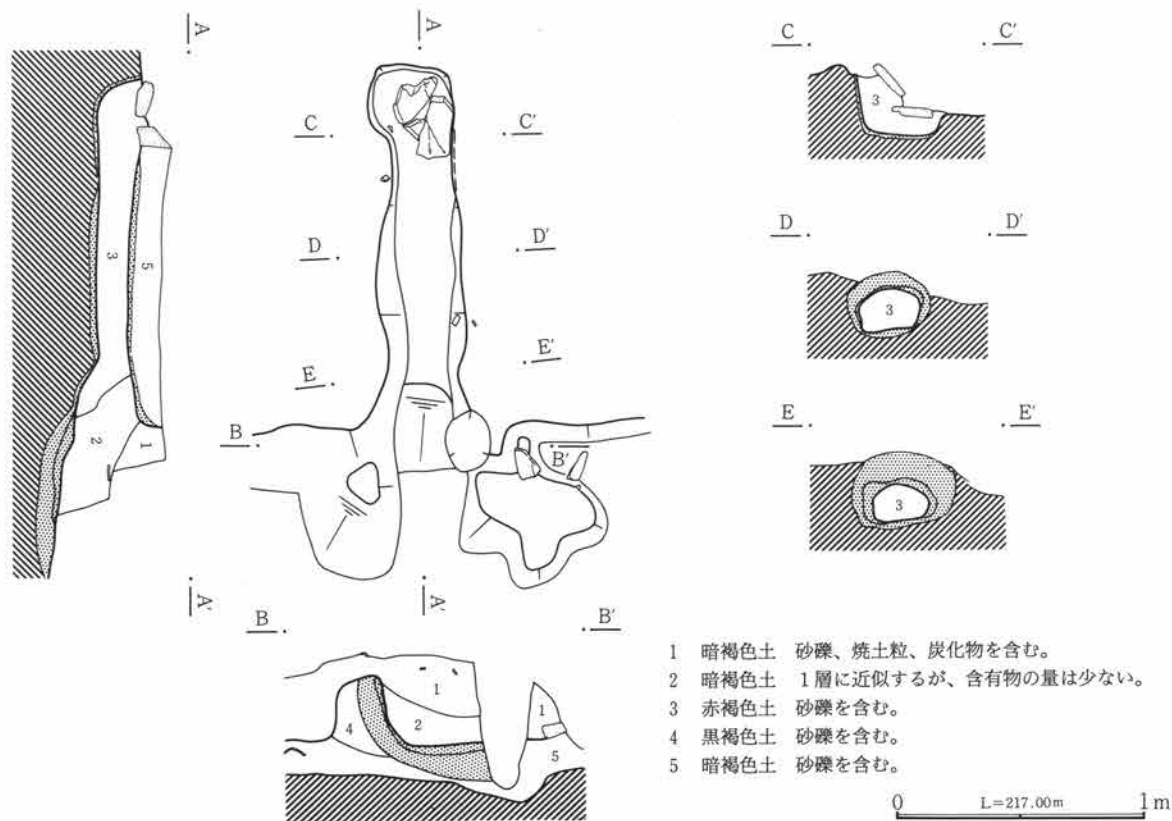
**壁下周溝** 西辺部から南辺部中央にかけて確認された。掘り込みは浅い。 **柱穴** 検出されなかった。

**出土遺物** 総計119点の土器片・完形品と53点の石片・石材が出土している。土師器甕・小型甕・坏、須恵器甕・坏・蓋のほかには須恵器大甕片などが、かまど付近や覆土中から出土している。

**掘り方** 層厚0.1~0.15mの貼り床土が認められ、貼り床下からは大小8基の土坑状の掘り込みと小ピットが検出された。土坑の性格については特定できないが、住居構築時に穿たれた可能性が高い。

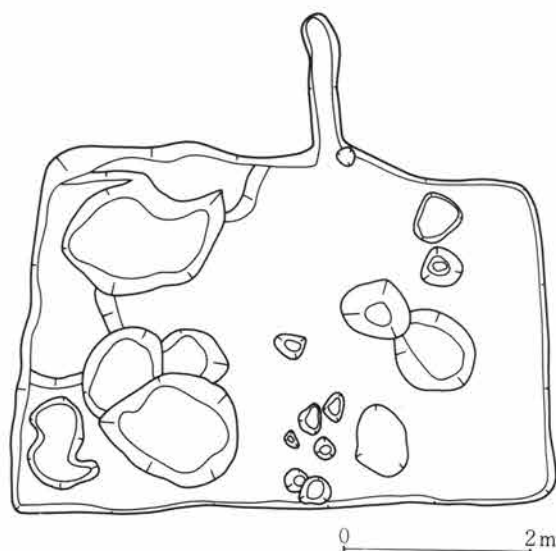
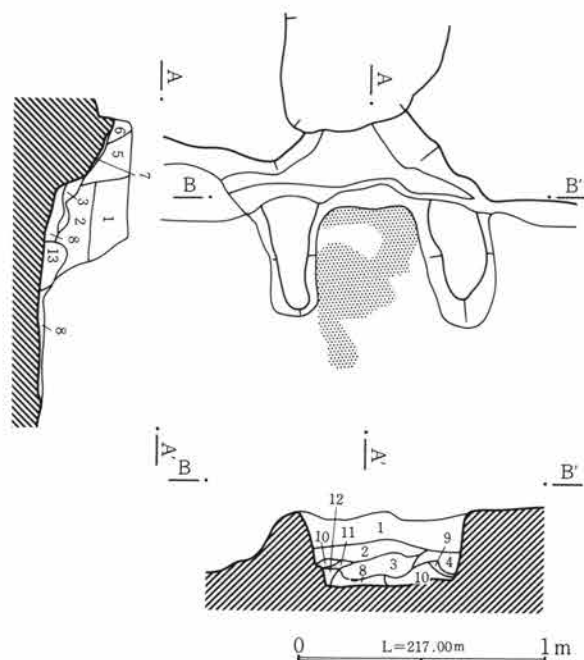
**時期** 出土遺物や住居形態から、9世紀前半代と考えられる。

**備考** 本住居跡は、調査時には規模と形状を図示したものと異なる認定がなされていた。整理時に検討した結果、65号住居跡として調査された住居跡と同一のものと認定され、形状その他修正して報告している。従って、65号住居跡は欠番となる。



第302図 39号住居跡かまど

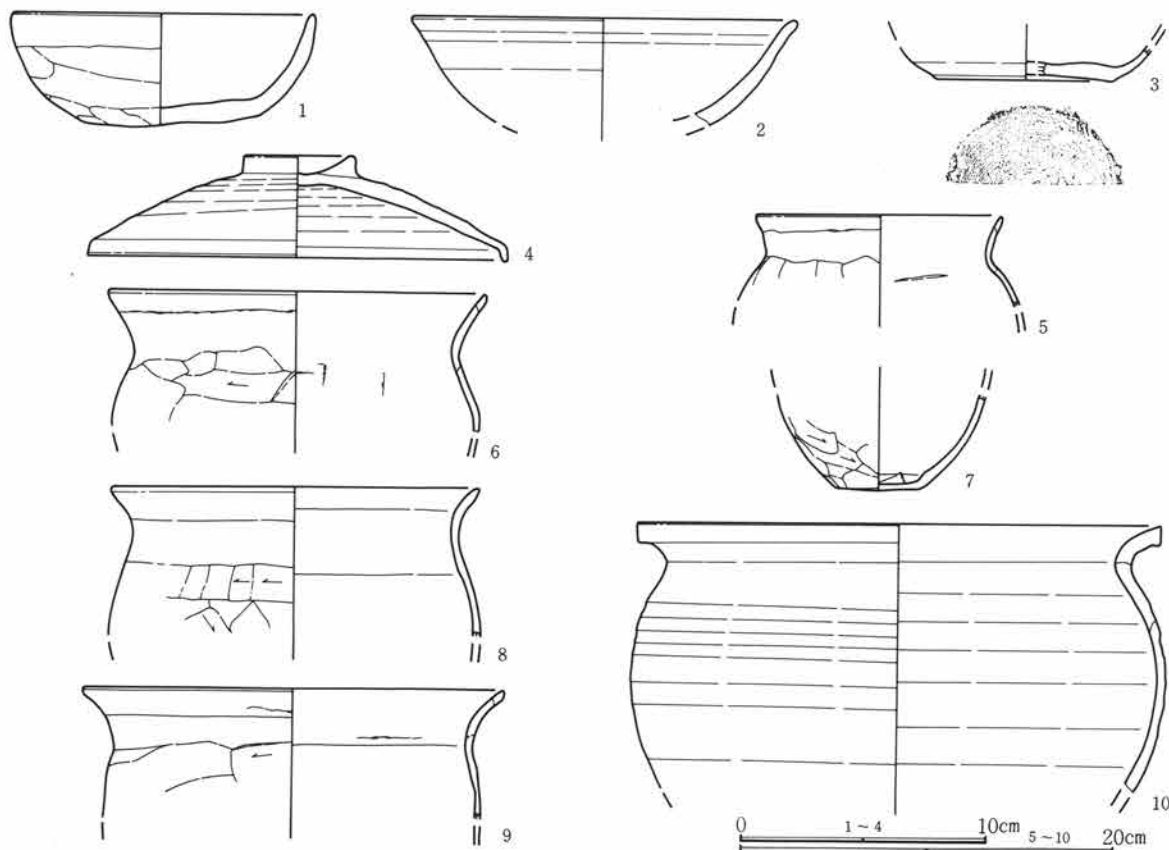
第3章 検出された遺構と遺物



第304図 39号住居跡掘り方

- |   |   |
|---|---|
| <p>1 黒褐色土 砂粒を多く含む。<br/>         2 黒褐色土 僅かに焼土粒を含む。<br/>         3 暗褐色土 多量の焼土粒・焼土塊・褐色土塊を含む。<br/>         4 褐色土 焼土粒をごく少量含む。<br/>         5 暗褐色土 砂粒、焼土粒をごく少量含む。<br/>         6 暗褐色土 焼土塊を含む。</p> | <p>7 褐色土 暗褐色土塊、焼土塊を含む。<br/>         8 黒褐色土 炭化物、焼土粒、焼土塊を多く含む。<br/>         9 黒褐色土 砂礫を含む。<br/>         10 褐色土 粘土を主体とし、砂粒、焼土粒を少量含む。<br/>         11 暗褐色土 砂礫を多く含む。<br/>         12 暗褐色土 多量の粘土塊、少量の、焼土粒・炭化物を含む。<br/>         13 黒褐色土 焼土粒をごく少量含む。</p> |
|---|---|

第303図 39号住居跡かまど



第305図 39号住居跡出土遺物

40号住居跡 (PL. 65)

位置 En-61 床面積 8.1㎡ 主軸方位 N-13°-W 残存壁高 0.35m

重複 40住→12住

規模と形状 長辺3.46m、短辺2.70mの長方形のプランを呈し、北辺部の中央付近にかまどが築かれている。周壁は若干の崩落が認められる。

床面 床面の検出は、覆土との色調差によってなされ、比較的良好な平坦面が形成されていた。床面精査では、かたく踏み締められるなどの傾向は確認できなかった。

かまど かまどの残存状況は悪く、燃焼部のプランが確認されたにすぎない。燃焼部奥部は住居壁の外側にあるが、大半が袖部とともに住居内に作り出されている。燃焼部は、U字状のプランを呈し、両袖の先端部には板状の加工砂岩(長さ35cm、幅20cm、厚さ2cm)を袖石に利用している。火床面は床面と同レベルであり、かまど前には焼土の詰まった窪みを検出した。燃焼部内からは、顕著な焼土面は確認されなかった。

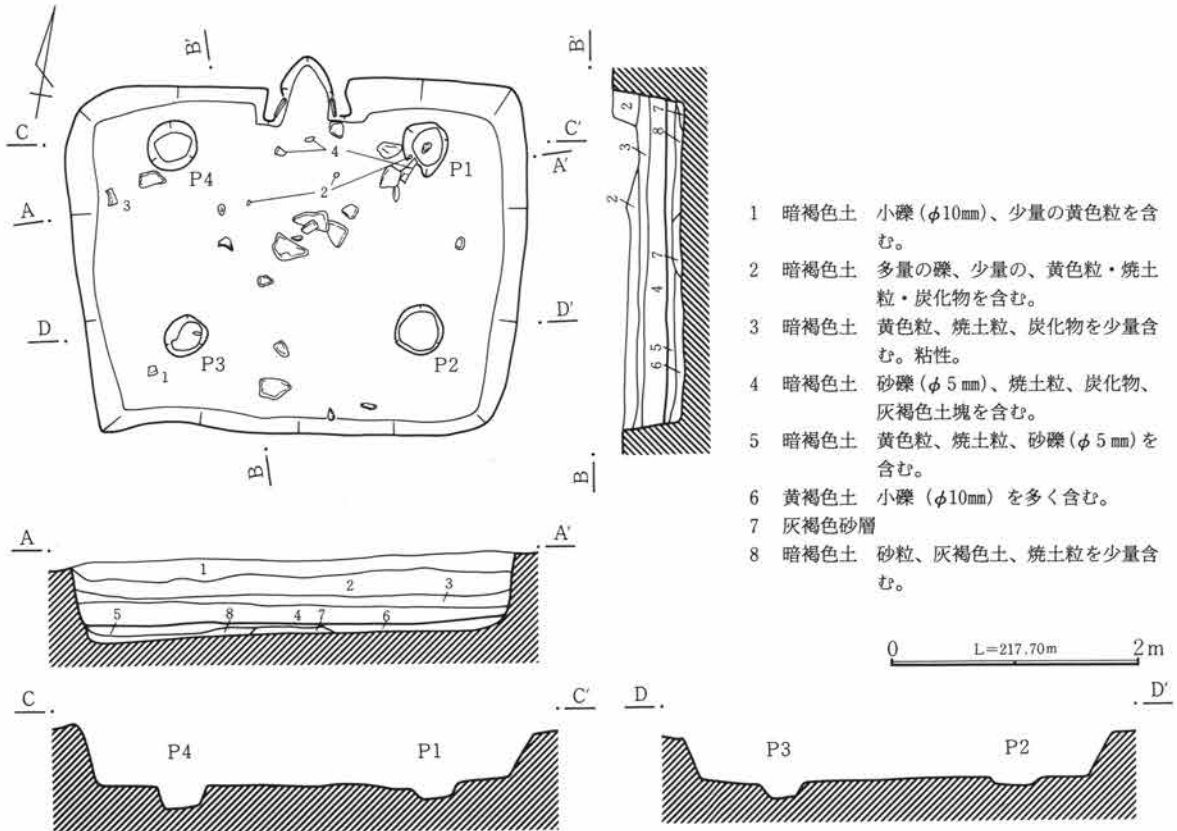
貯蔵穴・壁下周溝 いずれも検出されなかった。

柱穴 4基の小ピットが検出された。支柱穴としての位置関係はよいが、いずれも掘り込みが浅い。

出土遺物 総計52点の土器片と22点の石片・石材が出土している。土師器甕・坏などが、床面付近や覆土から出土している。

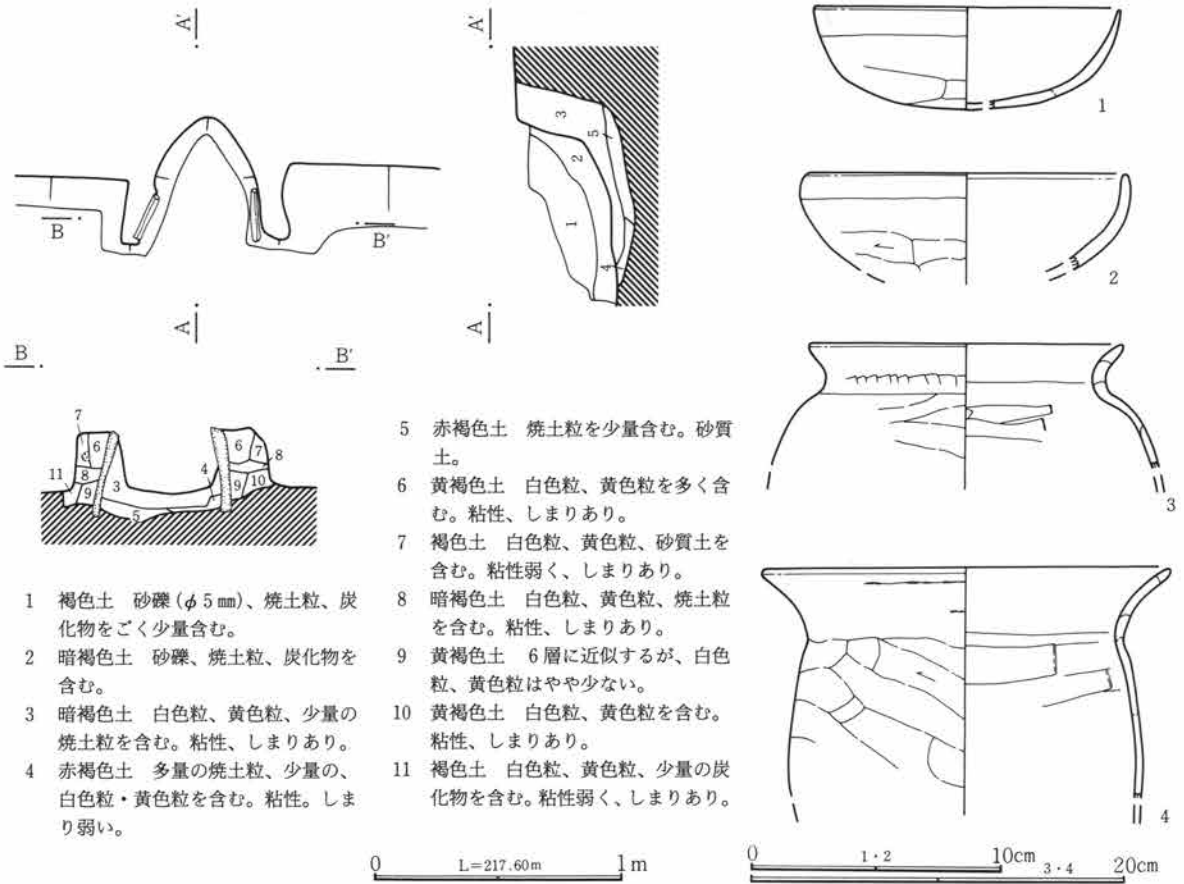
掘り方 床面と掘り方面がほぼ一致し、床面下から遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、8世紀前半代と考えられる。



第306図 40号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



第307図 40号住居跡かまど

第308図 40号住居跡出土遺物

41号住居跡 (PL. 65)

位置 Ee-53 床面積 測定不能 主軸

方位 N-5°-W 残存壁高 0.05m

重複 42住と重複するが新旧関係は不明。

規模と形状 掘り込みが浅いことや攪乱溝等による破壊によって、南北長2.70mが計測されるにすぎない。丸味のある方形状プランと推定される。

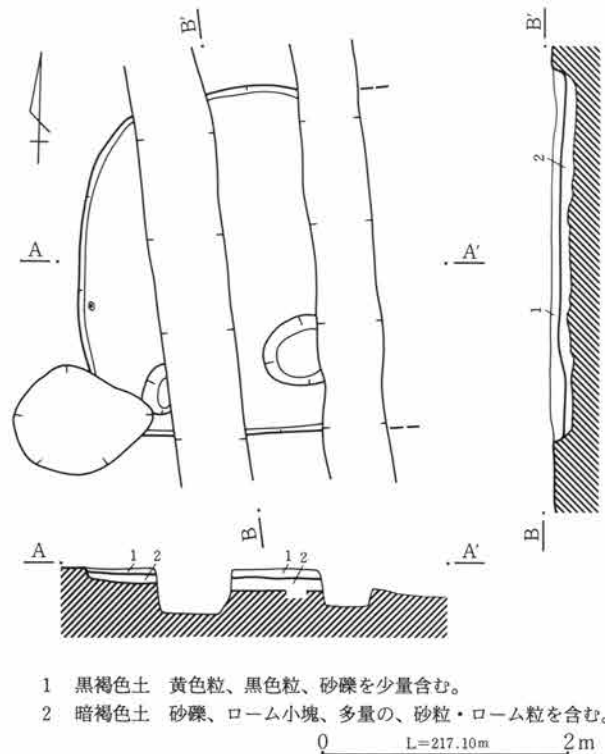
床面 床面の検出は、覆土との色調差によってなされた。

かまど・貯蔵穴・壁下周溝・柱穴 いずれも検出されなかった。

出土遺物 総計20点の土師器片があるので、図示し得る遺物はない。

掘り方 貼り床や床面下の遺構は検出されなかった。

時期 不明



- 1 黒褐色土 黄色粒、黒色粒、砂礫を少量含む。
- 2 暗褐色土 砂礫、ローム小塊、多量の、砂粒・ローム粒を含む。

第309図 41号住居跡

42号住居跡 (PL.65)

位置 Ed-52 床面積 (12.2) m<sup>2</sup> 主軸方位 N-29°-E 残存壁高 0.1m 重複 43住→42住、41住  
規模と形状 南北・東西長とも (3.50) mの正方形のプランと推定される。

床面 床面の検出は、覆土との色調差によってなされたが、顕著な傾向は確認することができなかった。

かまど・貯蔵穴・壁下周溝 いずれも検出されなかった。 柱穴 4基の支柱穴が検出された。

出土遺物 出土遺物は少なく、総計20点ほどの土師器・須恵器片が覆土中から出土。

掘り方 貼り床や床面下の遺構は検出されなかった。

時期 土層を検討した結果、43号住居より古いと判断した。

43号住居跡 (PL.66・142)

位置 Ee-52 床面積 測定不能 主軸方位 N-7°-W 残存壁高 0.05m 重複 43住→42住、攪乱溝あり。

規模と形状 北東隅のみが確認されたにすぎず、規模については不明。

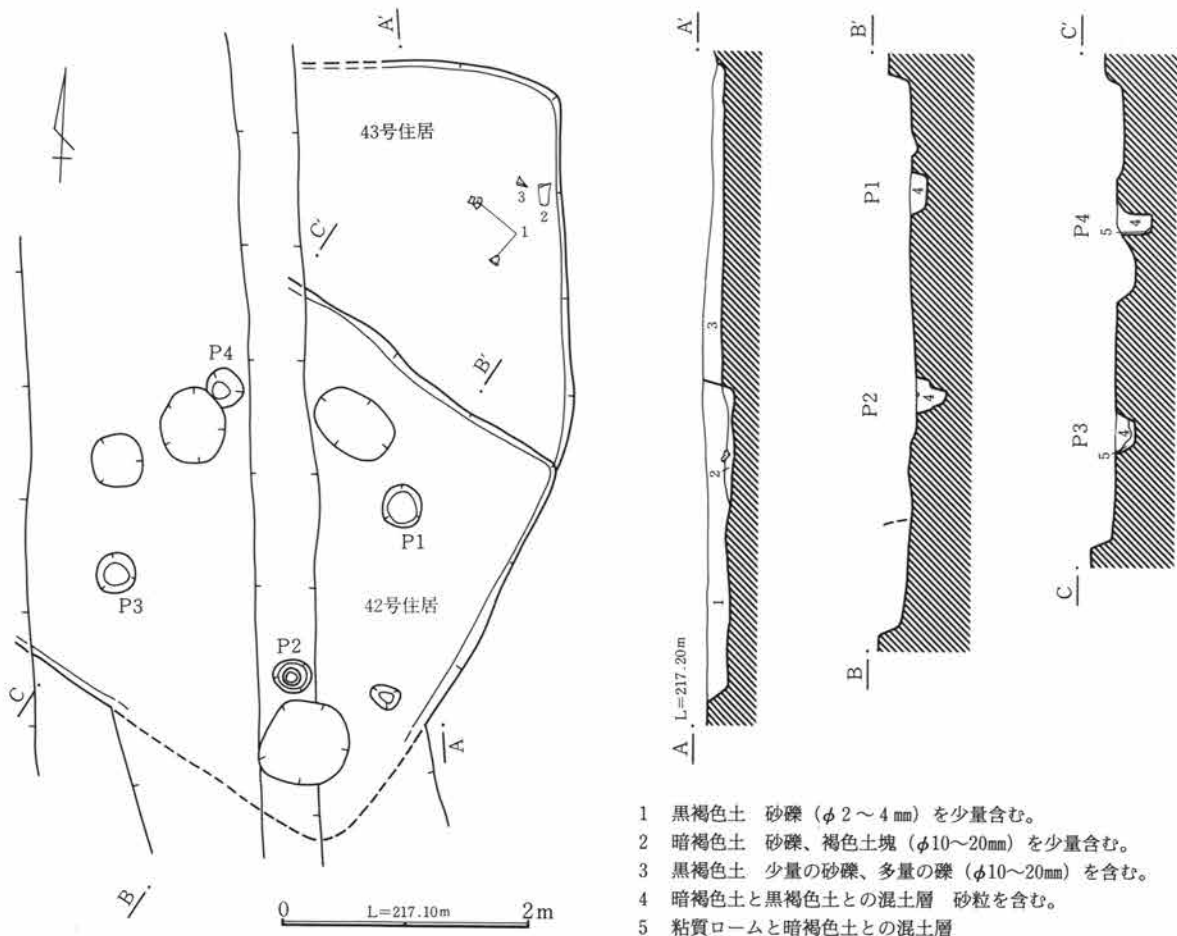
床面 床面の検出は、覆土との色調差によってなされたが、顕著な傾向は確認できなかった。

かまど・貯蔵穴・壁下周溝・柱穴 いずれも検出されなかった。

出土遺物 総計20点の土器片、24点の石片・石材が出土。土師器鉢・坏、須恵器壺が覆土中から出土。

掘り方 貼り床や床面下の遺構は検出されなかった。

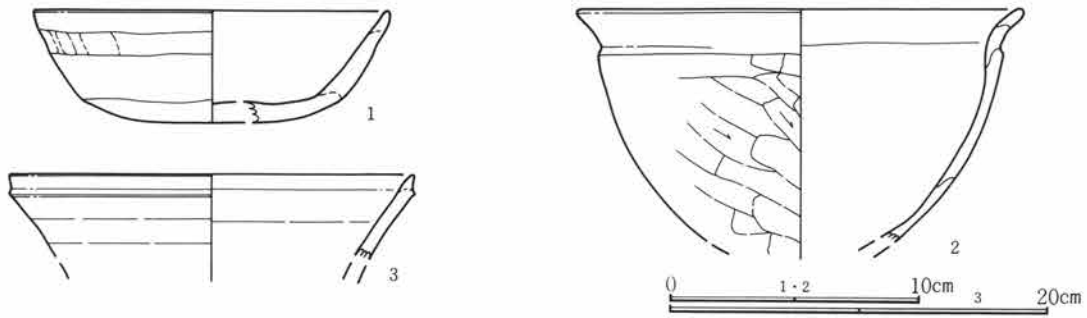
時期 出土遺物や住居形態から、8世紀代と考えられる。



- 1 黒褐色土 砂礫 (φ2~4mm) を少量含む。
- 2 暗褐色土 砂礫、褐色土塊 (φ10~20mm) を少量含む。
- 3 黒褐色土 少量の砂礫、多量の礫 (φ10~20mm) を含む。
- 4 暗褐色土と黒褐色土との混土層 砂粒を含む。
- 5 粘質ロームと暗褐色土との混土層

第310図 42・43号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



第311図 43号住居跡出土遺物

44号住居跡 (PL.66・142)

位置 Ec-54 床面積 9.5m<sup>2</sup> 主軸方位 N-84°-E 残存壁高 0.15m 重複 51住→44住

規模と形状 長辺3.28m、短辺3.22mの正方形に近いプランを呈し、東辺部の中央より南側にかまどが築かれる。周壁は崩落も少なく、ほぼ直線的に走行し、掘り込みは安定している。

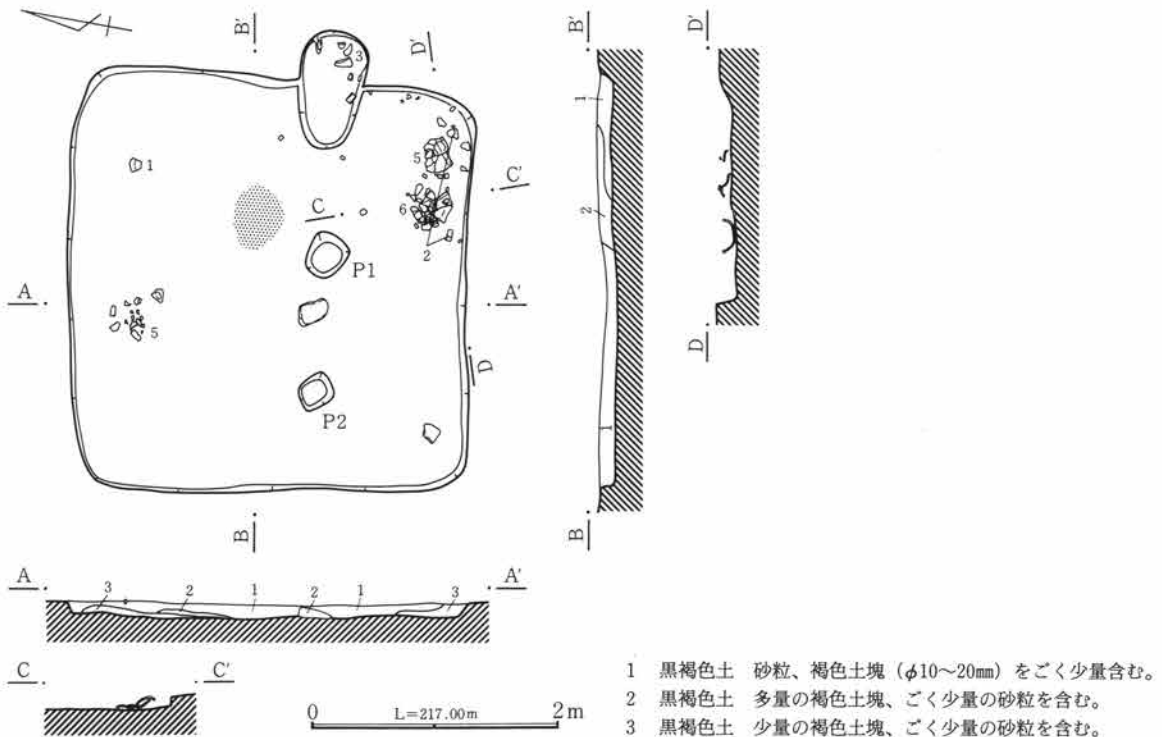
床面 床面は、覆土との色調差によって明瞭に識別でき、比較的良好な平坦面が形成されていた。床面精査では、中央部に焼土・灰混じりの堆積がみられた。踏み締められるなどの顕著な傾向は確認できなかった。

貯蔵穴・壁下周溝・柱穴 いずれも検出されなかったが、住居中央部に2基の小ピットが検出されている。どちらも掘り込みが浅く、性格については不明。

出土遺物 出土遺物は少なく、総計25点の土器片と6点の石材・石片が出土している。床面付近やかまど内からの出土で、土師器甕・台付甕、還元焰焼成の高台付塊・坏がある。

掘り方 貼り床や床面下の遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、9世紀後半代と考えられる。

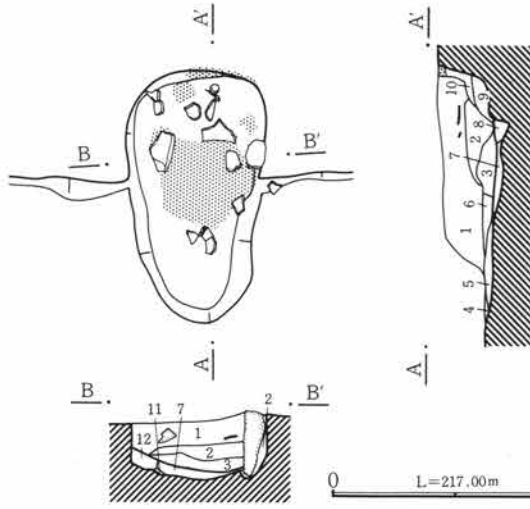


- 1 黒褐色土 砂粒、褐色土塊 (φ10~20mm) をごく少量含む。
- 2 黒褐色土 多量の褐色土塊、ごく少量の砂粒を含む。
- 3 黒褐色土 少量の褐色土塊、ごく少量の砂粒を含む。

第312図 44号住居跡

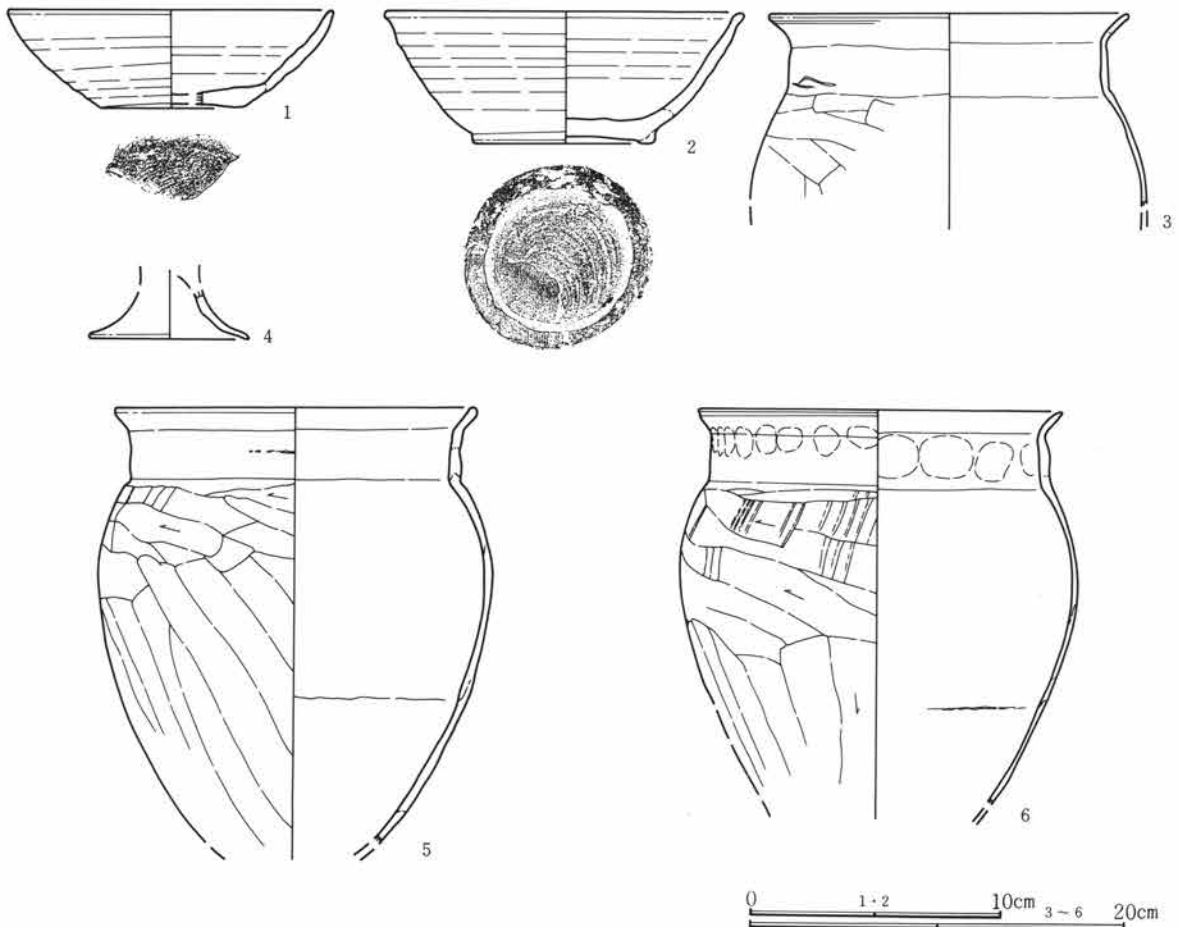
第1節 竪穴住居跡

かまど かまどの残存状況は悪く、燃烧部のプランが確認されたにすぎない。燃烧部はその大半が住居壁より外側に作り出され、袖部のみが若干迫り出す構造をもつと推定される。かまど前が半円状にくぼんでいるため、全体の形状は長円形を呈している。左袖部には、砂岩加工石による袖石が残存し、燃烧部底面には焼土面が確認された。



- |   |   |
|---|---|
| <p>1 暗褐色土 少量の砂粒、ごく少量の、焼土粒・炭化物・褐色土塊 (φ5~10mm) を含む。</p> <p>2 黒褐色土 焼土粒、炭化物を少量含む。</p> <p>3 暗褐色土 焼土粒、焼土塊 (φ10~20mm)、炭化物、褐色土塊を少量含む。</p> <p>4 褐色土 黒褐色土塊 (φ5~10mm) をごく少量含む。</p> | <p>5 黒褐色土 焼土粒、炭化物を少量含む。</p> <p>6 赤褐色土 焼土を主体とし、暗褐色土塊 (φ5~10mm) を少量含む。</p> <p>7 暗赤褐色土 焼土を主体とし、黒褐色土塊 (φ5~10mm) をごく少量含む。</p> <p>8 黒褐色土 焼土粒を少量含む。</p> <p>9 暗褐色土 焼土粒、炭化物をごく少量含む。</p> <p>10 暗褐色土 黒褐色土塊、ごく少量の、焼土粒・炭化物を含む。</p> <p>11 暗褐色土 少量の黒褐色土塊、ごく少量の、白色粒・焼土粒・炭化物を含む。</p> <p>12 褐色土 少量の黒褐色土塊、ごく少量の焼土粒を含む。</p> |
|---|---|

第313図 44号住居跡かまど



第314図 44号住居跡出土遺物



第3章 検出された遺構と遺物

45号住居跡 (PL.66・142)

位置 Ec-52 床面積 9.5㎡ 主軸方位 N-22°-W 残存壁高 0.25m

重複 45住→38A住、攪乱溝あり。

規模と形状 長辺4.10m、短辺2.74mの横長長方形のプランを呈し、北辺部の中央より東側にかまどが築かれる。周壁は若干の崩落が認められ、線形がやや乱れている。

床面 床面の検出は、覆土との色調差によってなされ、比較的良好な平坦面が形成されていた。床面精査では、かたく踏み締められるなどの顕著な傾向は確認できなかった。

かまど 破壊が進んでいるため、かまどの残存状況は極めて悪い。焼土粒子の分布やかまど用石の残欠などから、燃焼部のプランが推定されるにすぎない。U字状プランと考えられ、燃焼部底面の一部で焼土面が確認されている。燃焼部中央に補強材に用いられたものか礫が検出された。

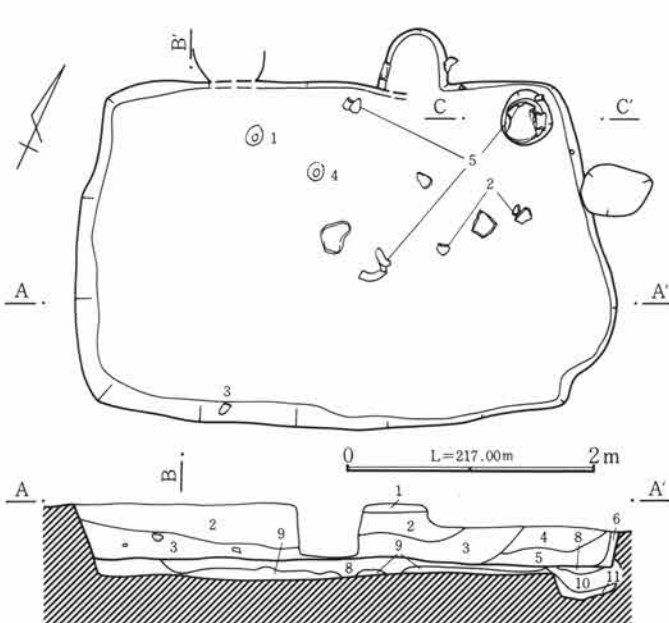
貯蔵穴 北東隅にあり、円形状を呈す。土師器甕(転用)が埋設されている。

壁下周溝・柱穴 いずれも検出されなかった。

出土遺物 総計61点の土器片と30点の石片・石材が出土している。土師器甕・坏、須恵器坏などがあり、土師器甕は貯蔵穴埋設土器で他は床面付近や覆土中からの出土。2と4はほぼ完形品。

掘り方 層厚0.1~0.2mの貼り床土が認められ、西辺部と南辺部の周壁に沿って浅い溝状の掘り込みが認められる。また、6~7基の浅いピット(土坑状)も検出された。

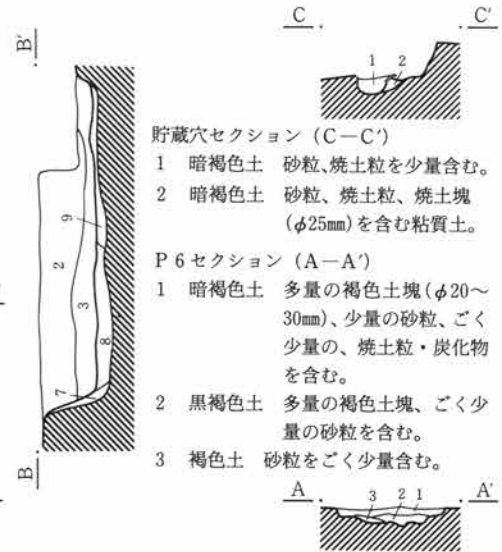
時期 出土遺物や住居形態から、10世紀代と考えられる。



E-45号住居

- 1 黒褐色土 少量の褐色土塊(φ10~20mm)、ごく少量の砂粒を含む。
- 2 黒褐色土 少量の砂粒、ごく少量の、焼土粒・炭化物を含む。
- 3 暗褐色土 砂粒を少量含む。
- 4 暗褐色土 砂礫(φ2~5mm)をやや多く含む。
- 5 黒褐色土 砂礫を含む。やや粘性。
- 6 黒色土 粘質土。
- 7 褐色土 地山土に黒褐色土塊を少量混じえた層。
- 8 褐色土 砂礫を多く含む。
- 9 黄褐色土 ローム質の地山。
- 10 黒褐色土 砂粒を含む。
- 11 暗褐色土 砂粒を含む。

第315図 45号住居跡

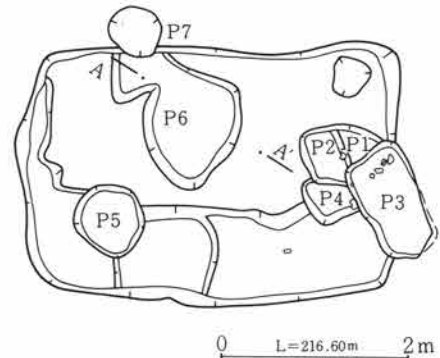


貯蔵穴セクション (C-C')

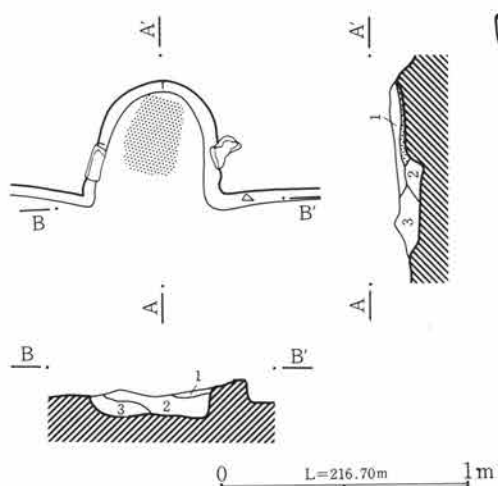
- 1 暗褐色土 砂粒、焼土粒を少量含む。
- 2 暗褐色土 砂粒、焼土粒、焼土塊(φ25mm)を含む粘質土。

P6セクション (A-A')

- 1 暗褐色土 多量の褐色土塊(φ20~30mm)、少量の砂粒、ごく少量の、焼土粒・炭化物を含む。
- 2 黒褐色土 多量の褐色土塊、ごく少量の砂粒を含む。
- 3 褐色土 砂粒をごく少量含む。



第316図 45号住居跡掘り方



- 1 赤褐色土 焼土塊を主体とし、少量の褐色土を含む。
- 2 暗褐色土 砂粒、焼土粒、炭化物を含む。
- 3 暗褐色土 砂礫 (φ2~5mm) を多く含む。

第317図 45号住居跡かまど

48号住居跡 (PL.67)

位置 Ea-50 床面積 測定不能 主軸方位 N-104°-E

残存壁高 0.2m 重複 8・37号住居跡と重複。

規模と形状 南西隅のみの確認。

床面 覆土との色調差によってなされたが、顕著な傾向は確認でなかった。

かまど・貯蔵穴・壁下周溝 検出されなかった。

柱穴 小ピットが1基検出されている。柱穴未定。

出土遺物 石材が1点出土している。土器類はない。

掘り方 貼り床や床面下の遺構は検出されなかった。

時期 特定しがたい。

49号住居跡 (PL.67)

位置 Eb-51 床面積 測定不能 主軸方位 N-8°-W

残存壁高 0.3m 重複 49住→37住

規模と形状 南北長3.40mのみが計測された。

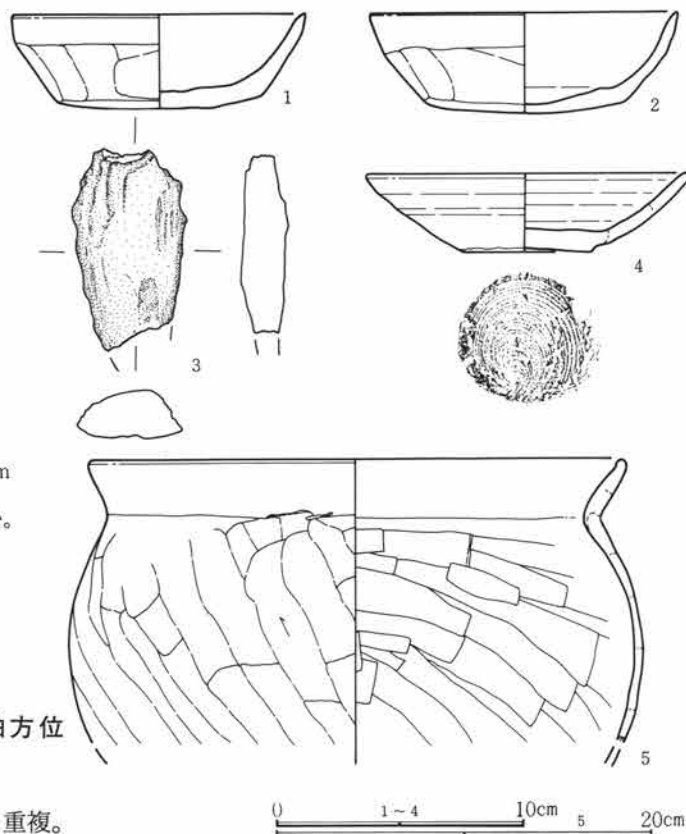
床面 覆土との色調差によってなされたが、顕著な傾向は確認できなかった。

かまど・貯蔵穴・壁下周溝・柱穴 37住に削平。

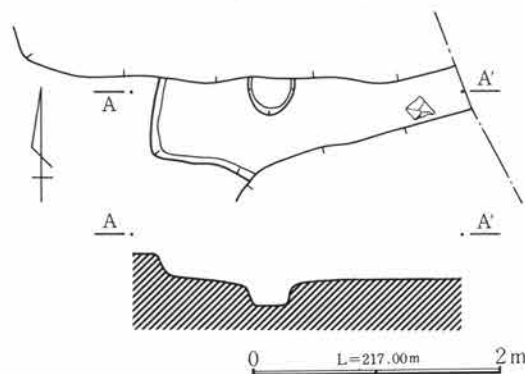
出土遺物 覆土中から土師器片が1点出土した。

掘り方 貼り床や床面下の遺構は検出されなかった。

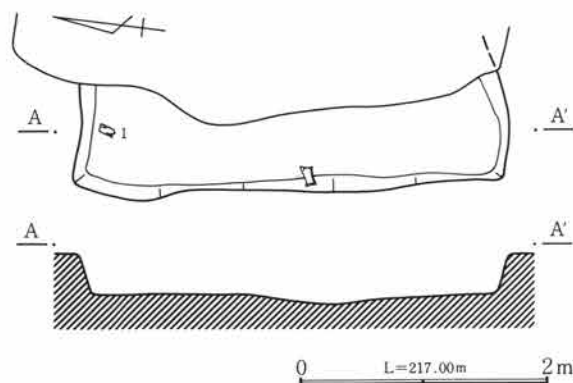
時期 出土遺物から、7世紀代と考えられる。



第318図 45号住居跡出土遺物



第319図 48号住居跡



第320図 49号住居跡



第321図 49号住居跡出土遺物

51号住居跡 (PL.67・142・143)

位置 Ec-55 床面積 12.7m<sup>2</sup> 主軸方位 N-13°-W 残存壁高 0.25m 重複 51住→44住

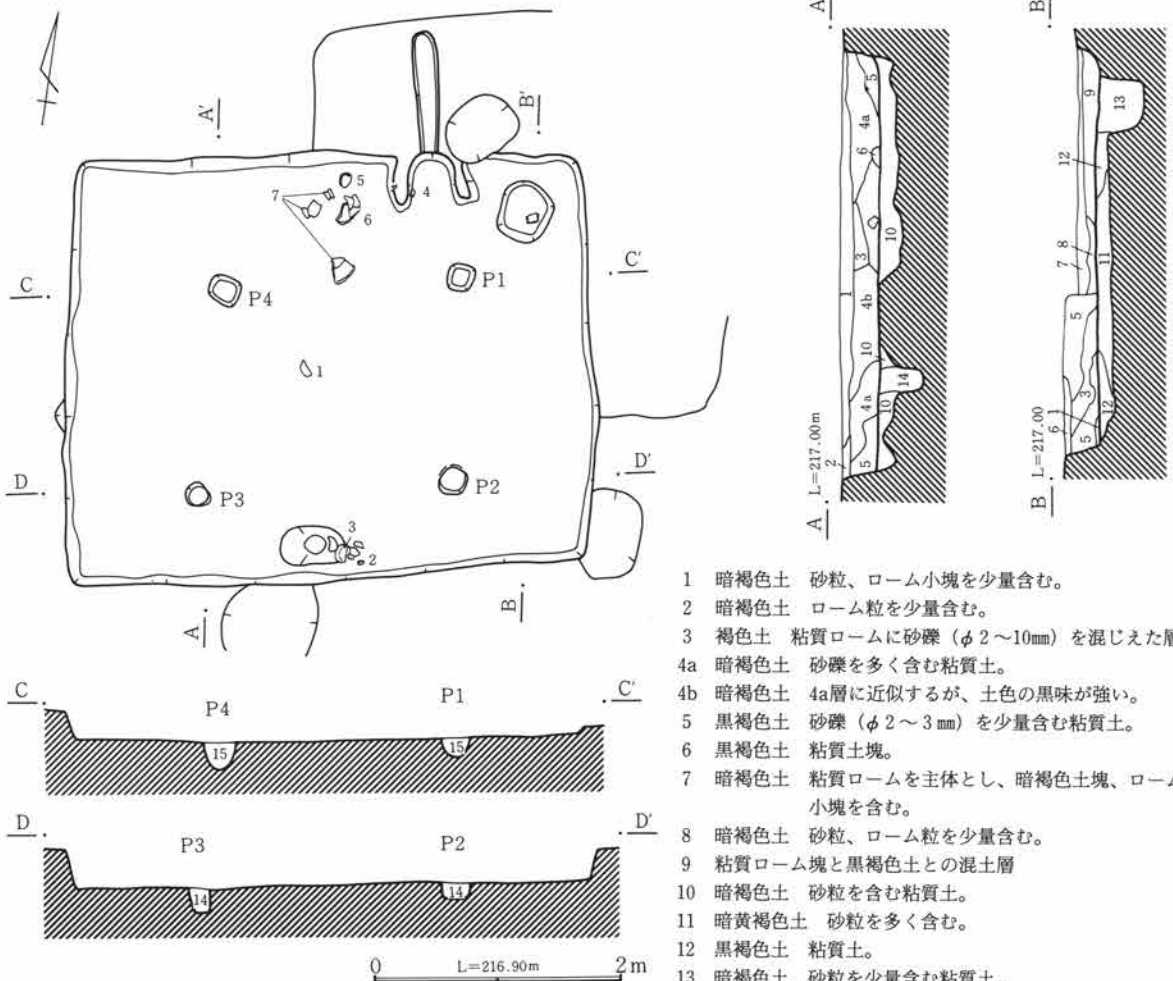
規模と形状 長辺4.14m、短辺3.34mのやや横長長方形を呈し、北辺部の中央より東側にかまどが築かれる。周壁は崩落も少なく、ほぼ直線的に走行し、安定した掘り込みといえる。

床面 かまど前や住居中央部を中心に、かたく踏み締められた部分が、比較的広い範囲で確認されている。

貯蔵穴 北東隅にあり、円形状を呈する。掘り込みが深く安定している。壁下周溝 検出されなかった。

柱穴 4基の主柱穴と考えられる小ピットが検出された。南辺部中央壁際の小ピットは、出入り口部に関連したピットの可能性がある。出土遺物 総計49点の土器片と18点の石片・石材が出土している。

掘り方 層厚0.1~0.15mの貼り床土が認められるが、床面下から遺構は検出されなかった。



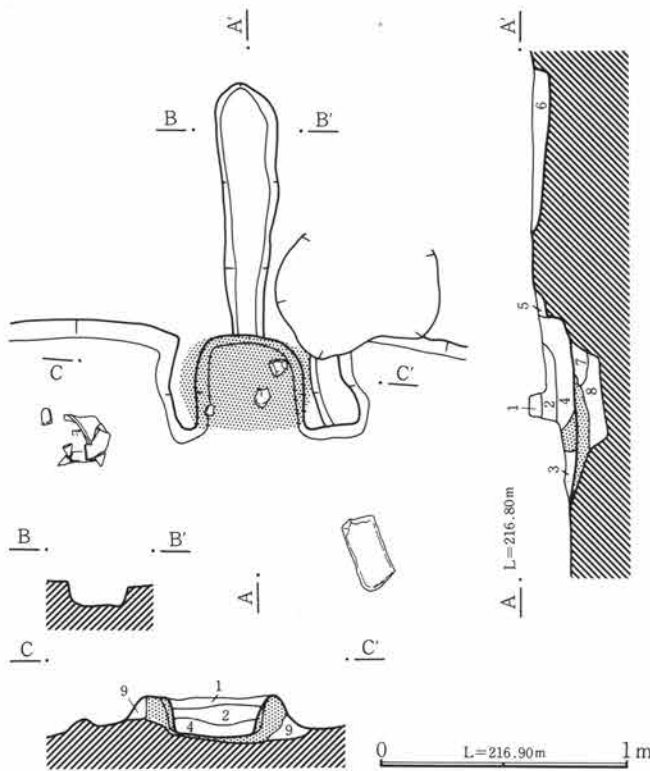
- 1 暗褐色土 砂粒、ローム小塊を少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒を少量含む。
- 3 褐色土 粘質ロームに砂礫(φ2~10mm)を混じえた層。
- 4a 暗褐色土 砂礫を多く含む粘質土。
- 4b 暗褐色土 4a層に近似するが、土色の黒味が強い。
- 5 黒褐色土 砂礫(φ2~3mm)を少量含む粘質土。
- 6 黒褐色土 粘質土塊。
- 7 暗褐色土 粘質ロームを主体とし、暗褐色土塊、ローム小塊を含む。
- 8 暗褐色土 砂粒、ローム粒を少量含む。
- 9 粘質ローム塊と黒褐色土との混土層
- 10 暗褐色土 砂粒を含む粘質土。
- 11 暗黄褐色土 砂粒を多く含む。
- 12 黒褐色土 粘質土。
- 13 暗褐色土 砂粒を少量含む粘質土。
- 14 暗褐色土 砂粒を含む。
- 15 暗褐色土 砂粒、白色パミスを含む粘質土。

第322図 51号住居跡

第1節 竪穴住居跡

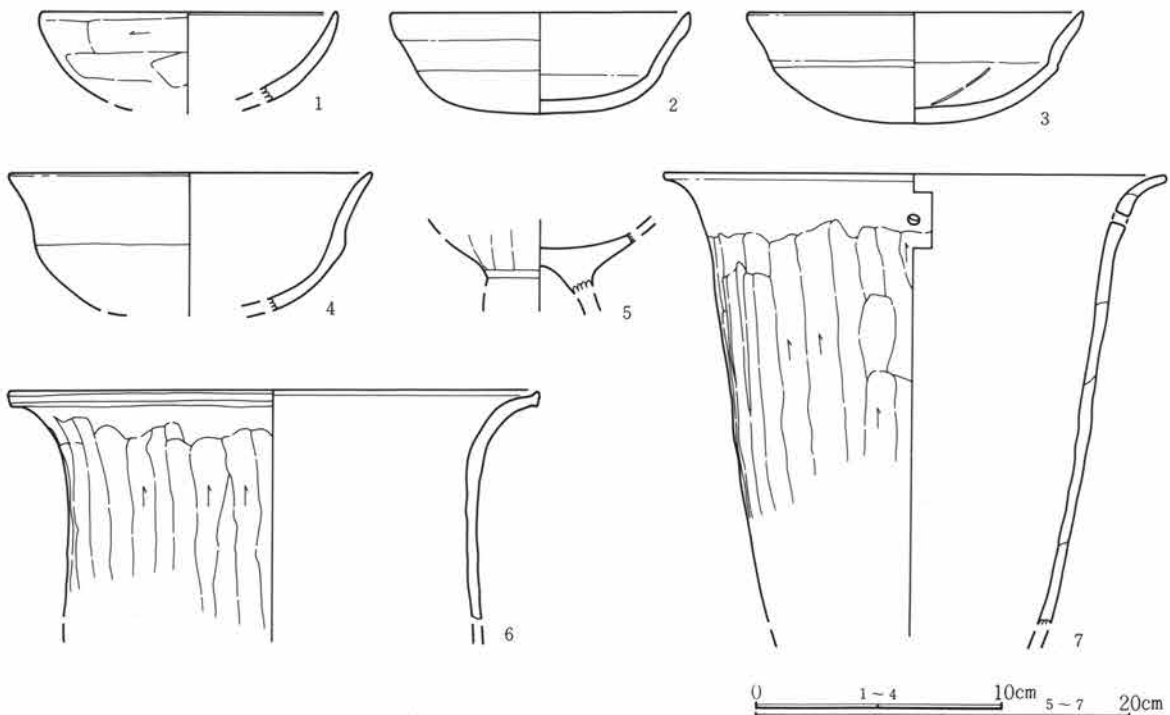
時期 出土遺物や住居形態から、7世紀代後半と考えられる。

かまど 37号住による削平を受け、燃烧部と煙道部のプランが確認されたにすぎない。燃烧部は住居壁の内側に作り出され、U字状のプランを呈している。燃烧部側壁および底面は、よく焼け込みレンガ化している。煙道部はわずかに起伏をもちながら屋外に伸びる。



- |                              |                         |
|------------------------------|-------------------------|
| 1 褐色土 砂礫 (φ2~3mm)、少量の焼土粒を含む。 | 6 暗褐色土 砂礫、炭化物を少量含む。     |
| 2 暗褐色土 焼土粒、炭化物を含む。           | 7 暗褐色土 砂粒、焼土粒を含む。       |
| 3 暗褐色土 炭化物、焼土塊 (φ10mm) を含む。  | 8 暗褐色土 焼土粒、炭化物を少量含む粘質土。 |
| 4 暗褐色土 焼土粒、炭化物を多く含む。         | 9 暗褐色土 砂礫を少量含む粘質土。      |
| 5 暗褐色土と焼土塊との混土層              |                         |

第323図 51号住居跡かまど



第324図 51号住居跡出土遺物

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 52A号住居跡 (PL.67・68)

位置 Ea-51 床面積 (28.5) m<sup>2</sup> 主軸方位 N-74°-E 残存壁高 0.4m

重複 52A住→52B住→56住→39住→64住

規模と形状 重複による破壊が著しいが、長辺(5.55)m、短辺5.30mの正方形のプランと推定される。かまどは検出されなかったが、破壊されたものと考えられる。残存する周壁は、崩落も少なくほぼ直線的に走行する。

床面 床面の認定は、床面を被覆する炭化物層によって容易に確認することができた。比較的に良好な平坦面が形成されていたが、かたく踏み締められるなどの傾向は確認できなかった。

かまど 北辺部に推定されるが、破壊されている。

貯蔵穴 北東隅にあり、長形状を呈す。安定した掘り込みといえる。

壁下周溝 南辺部と東辺部の一部で確認された。

柱穴 4基の支柱穴が検出されたが、南西部の柱穴は掘り込みが浅い。

出土遺物 出土遺物は極めて少なく、僅かな土器片類と炭化材があるのみである。

掘り方 層厚0.15mの貼り床土が認められるが、本住居跡に伴うと考えられる土坑などの遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、6～7世紀代の所産と考えられる。

備考 52A・B両住居跡は、調査時では一軒の住居跡として認定されていたが、その後の検討を経た結果、二軒であると認定された。また、52A号住居跡は、炭化材の検出などから焼失家屋と考えられる。

#### 52B号住居跡 (PL.67・68・143)

位置 Ea-52 床面積 (41.0) m<sup>2</sup> 主軸方位 N-70°-E 残存壁高 0.4m

重複 52A住→52B住→56住→39住→64住

規模と形状 長辺(6.50)m、短辺(6.30)mの正方形に近いプランを呈す。かまどは重複による破壊のため不明だが、残存する周壁は崩落も少なく、ほぼ直線的に走行する。

床面 床面は、覆土との色調差によって明瞭に識別できたが、かたく踏み締められるなどの顕著な傾向は確認できなかった。

かまど 北辺部に推定されるが、破壊されている。

貯蔵穴 貯蔵穴に該当するものはないが、北東隅付近から焼土粒子を多く含む土坑状の掘り込みが検出された。上下2面の使用面が確認されている。

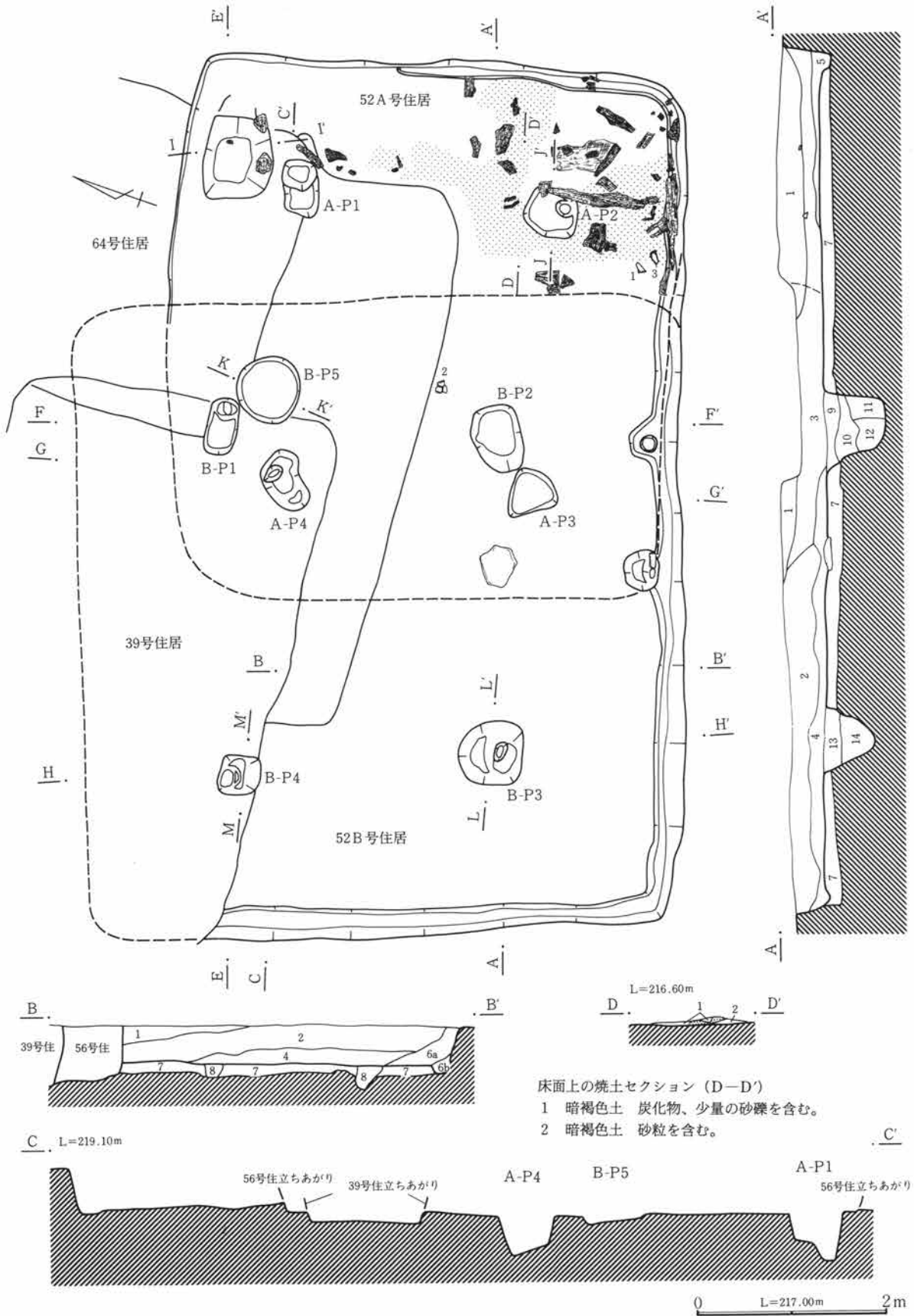
壁下周溝 西辺部から南辺部にかけて検出された。幅が比較的に広く浅い掘り込みのもので、南辺部の南東隅よりに2基の小ピットが伴っている。出入り口部を構成するピットと考えられる。

柱穴 4基の支柱穴が検出された。いずれも安定した掘り込みといえる。

出土遺物 出土遺物は極めて少なく、少量の土師器片が出土したにすぎない。

掘り方 層厚0.15mほどの貼り床土が認められ、西辺部の周壁に沿って浅い溝状の掘り込みが認められる。その他、顕著な遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、7世紀代の所産と考えられる。



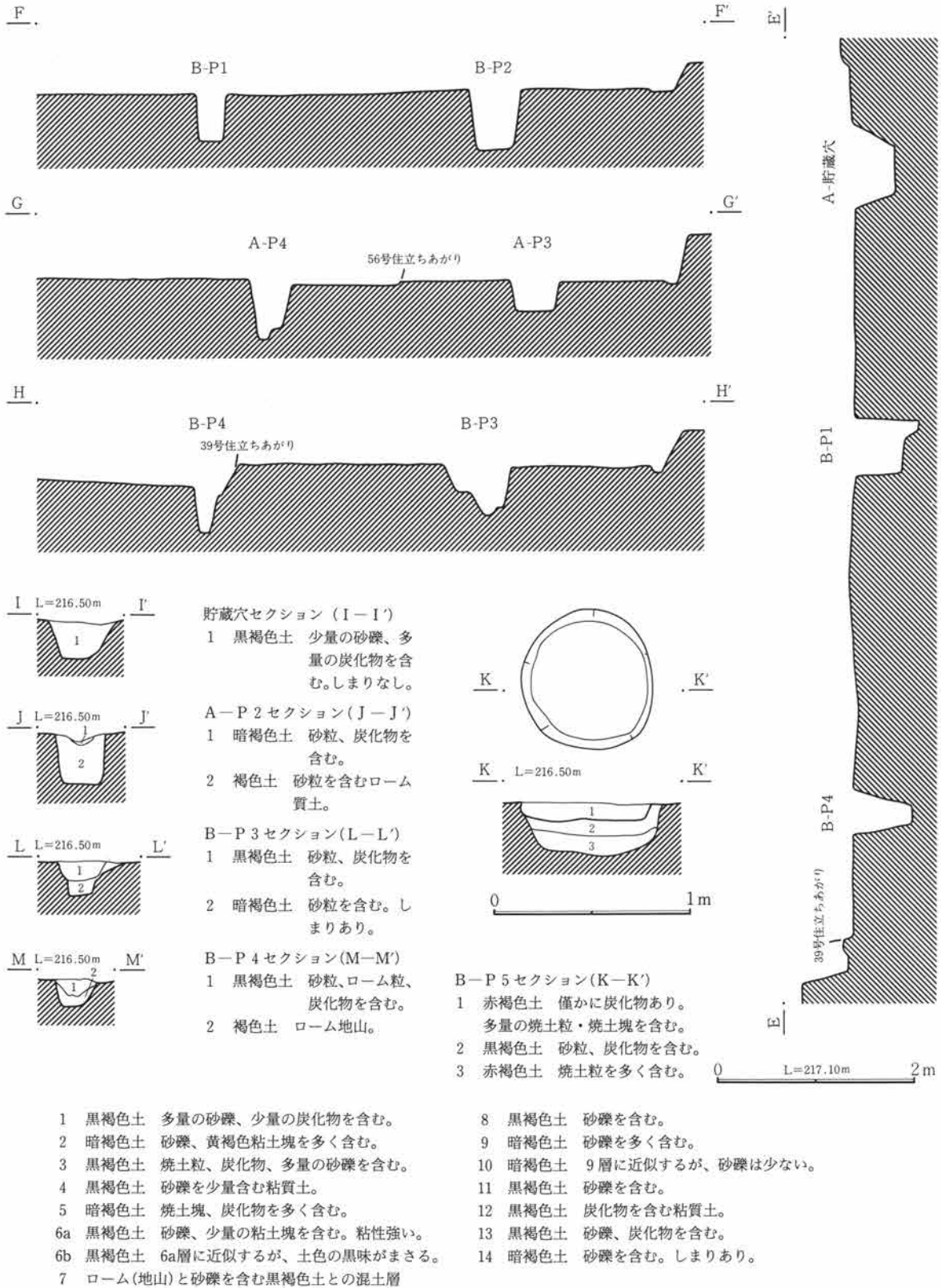
床面上の焼土セクション (D-D')

1 暗褐色土 炭化物、少量の砂礫を含む。  
2 暗褐色土 砂粒を含む。

第325図 52A・52B号住居跡(1)

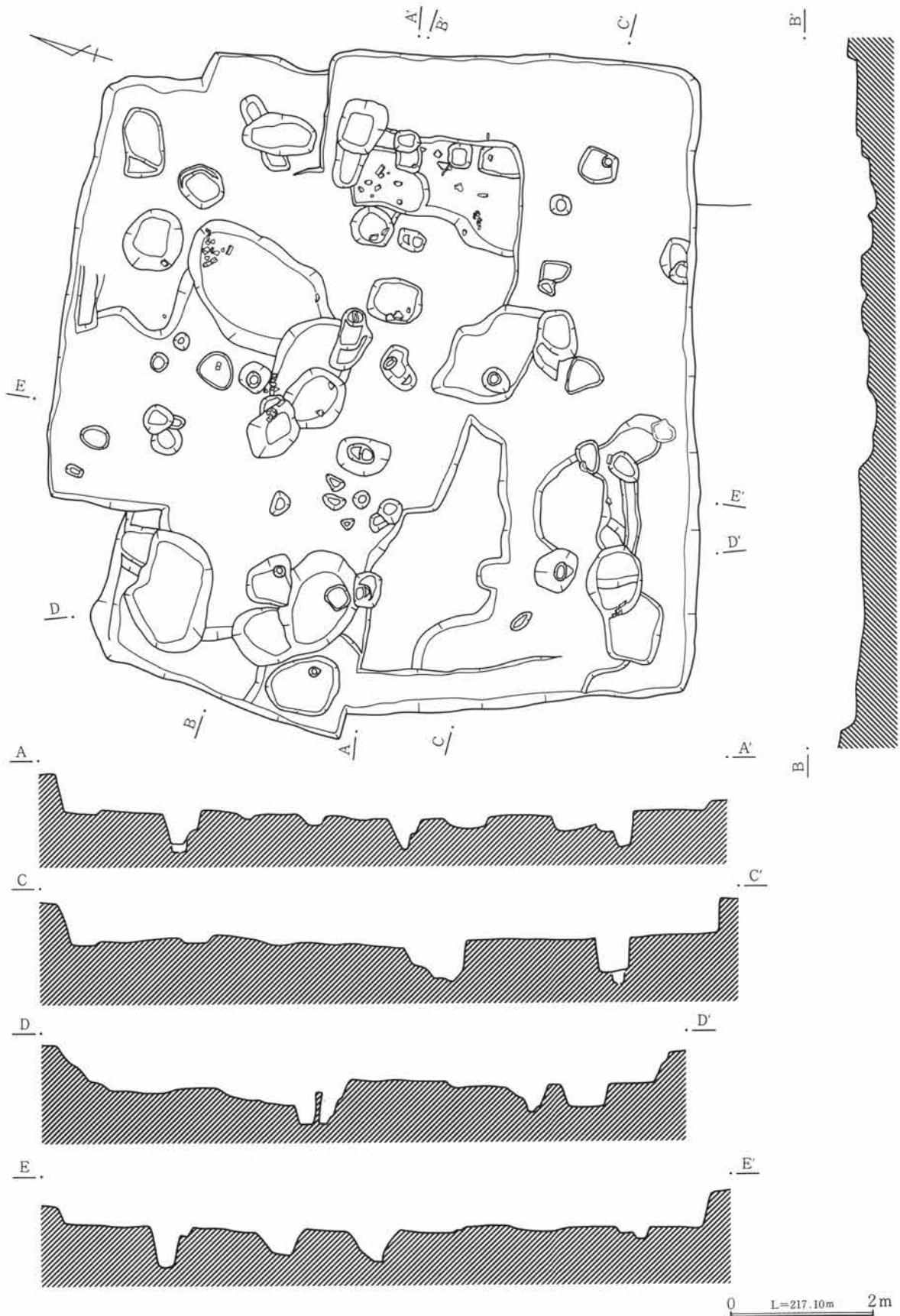


第3章 検出された遺構と遺物



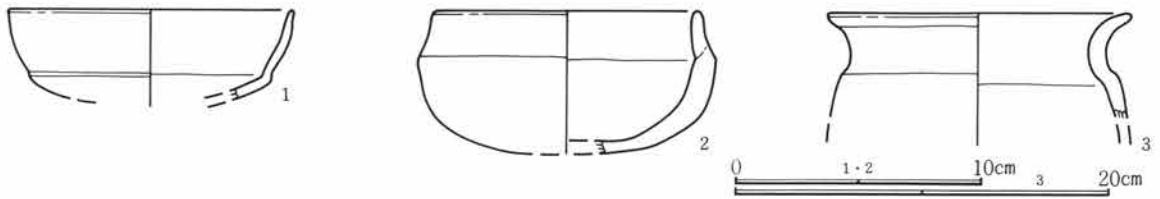
第326図 52A・52B号住居跡(2)





第327図 52A・52B号住居跡掘り方

第3章 検出された遺構と遺物



第328図 52A・52B号住居跡出土遺物

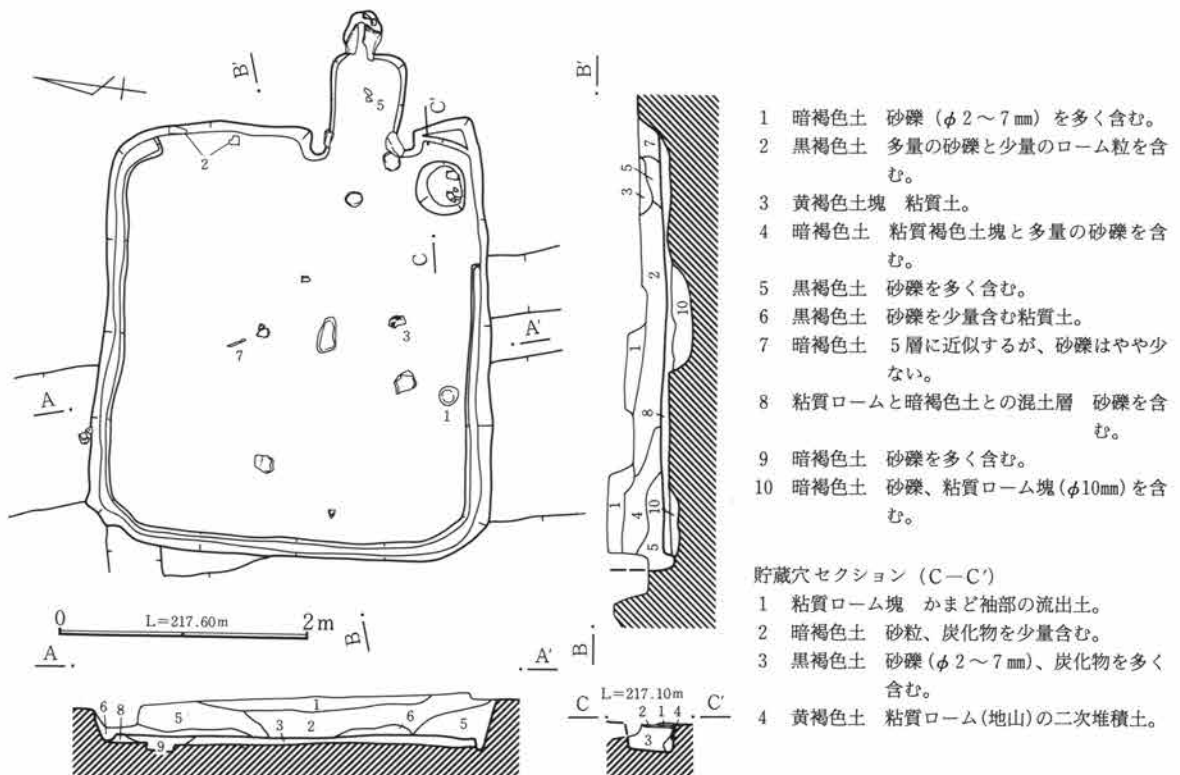
55号住居跡 (PL. 68・143)

位置 Eh-53 床面積 9.2㎡ 主軸方位 N-85°-E 残存壁高 0.2m 重複 なし

規模と形状 長辺3.34m、短辺3.10mの隅丸正方形を呈し、東辺部の中央より南側にかまどが築かれる。周壁は、崩落も少なく、ほぼ直線的に走行する。

床面 床面は、覆土との色調差によって明瞭に識別でき、比較的良好な平坦面が形成されていた。床面精査では薄く貼り床面が見られ、かまど前から住居中央にかけてかたく踏み締められるなどの顕著な傾向が確認できた。

かまど かまどの残存状況は比較的良好で、燃烧部と煙道部の一部プランが確認されている。燃烧部は、両袖の先端部分が住居内にわずかに迫り出しているものの、大半は住居外に作り出されている。燃烧部のプランは方形状を呈し、急傾斜で立ち上がる。両袖の先端には内傾気味に板状砂岩の加工石が埋置され、袖石として利用されている。燃烧部側壁および底面は、よく焼け込み焼土化し、断面がアーチ状を呈する部分も認められている。火床面は床面と同レベルであり、煙道部にかけて緩やかに立ち上がる。また、火床面は使用面



第329図 55号住居跡

が2面確認でき、締まりの弱いフカフカの灰・焼土の堆積が見られた。煙道部は、燃焼部奥壁際に石組みが検出され、煙道部入り口部分と考えられた。この石組みから急角度で屋外に立ち上がるものと推定できる。

この煙道部石組の掘り方は、楕円形を呈する。

**貯蔵穴** 南東隅にあり、円形状を呈する。掘り込みは安定している。

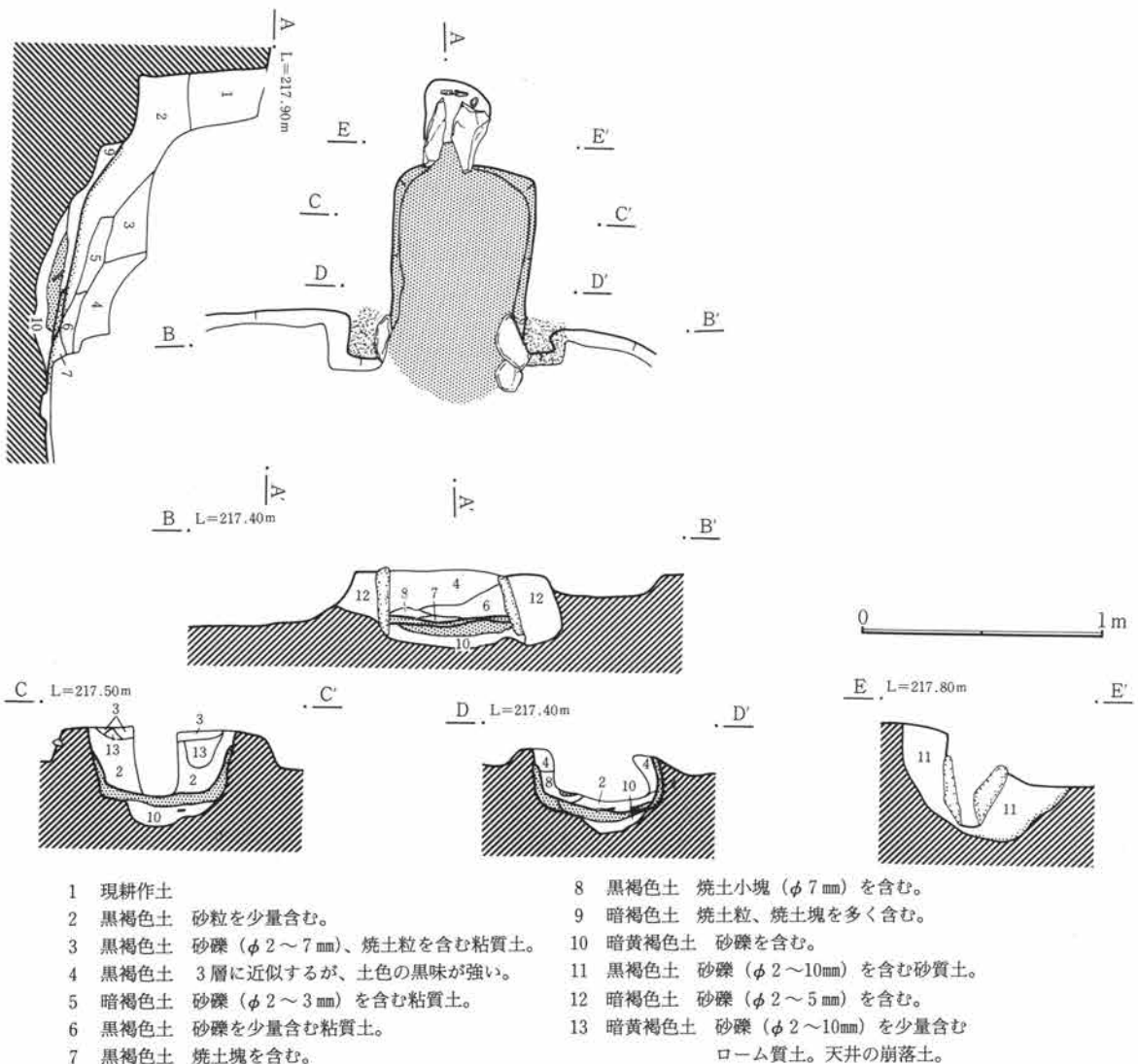
**壁下周溝** 東辺部と貯蔵穴のある南辺部の一部を除いて全周している。掘り込みは浅い。

**柱穴** 検出されなかった。

**出土遺物** 総計52点の土器片と27点の石片・石材のほか鉄製品（刀子）がある。出土土器は、かまど内外や床面付近からの出土を中心とし、土師器甕・坏、須恵器坏などがある。鉄製品刀子（ほぼ完存）は床面付近からの出土で、ほかに鉄滓も検出されている。

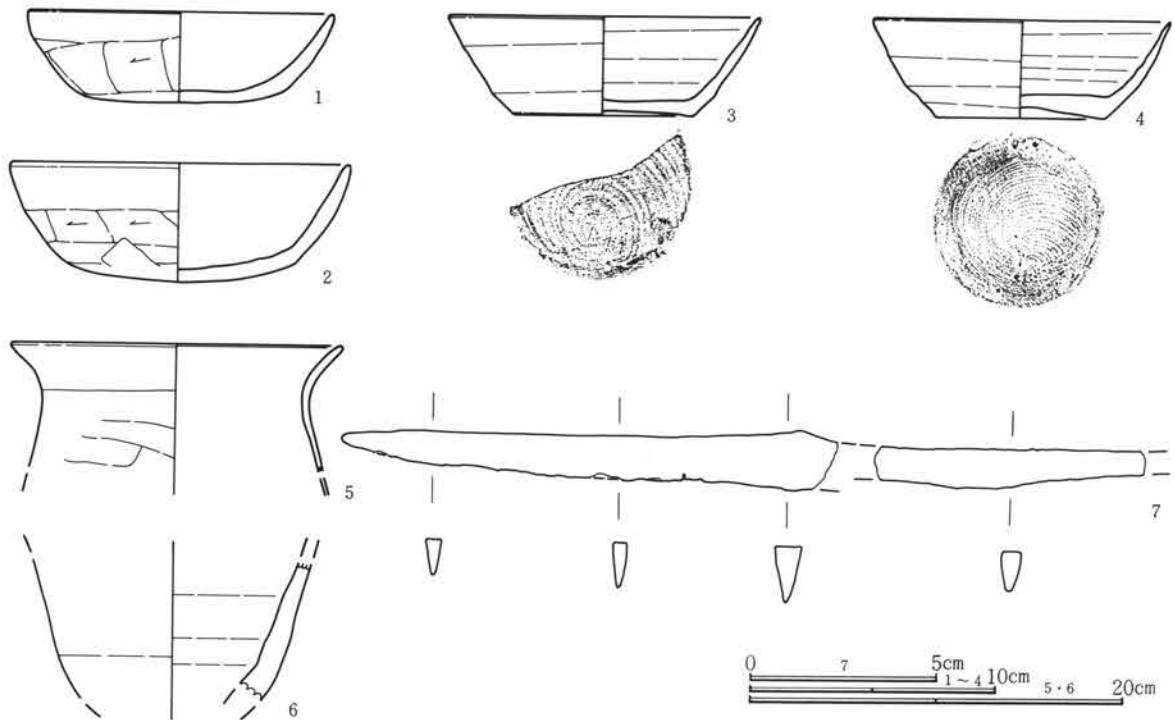
**掘り方** 層厚約0.1mの貼り床土下から、西辺部の周壁に沿って浅い溝状の掘り込みと2基のピット（土坑状）が検出された。住居中央部のピットは、規模の大きなもので、西辺部の規模のやや小さなものとともに、安定した掘り込みといえる。多数の小ピットは、遺構に伴うものとは考えられない。

**時期** 出土遺物や住居形態から、8世紀後半代と考えられる。



第330図 55号住居跡かまど

第3章 検出された遺構と遺物



第331図 55号住居跡出土遺物

56号住居跡 (PL. 68・143)

位置 Eb-52 床面積 32.0㎡ 主軸方位 N-81°-E 残存壁高 0.45m

重複 52A住(古)→52B住→56住→39住→64住(新)、56住→36住(新)

規模と形状 長辺6.00m、短辺5.80mの正形状に近いプランを呈し、東辺部の中央より北側に上面が64号住居により削平を受けたかまどが築かれる。周壁は、調査時の誤認もあって残存部が少ない。

床面 重複が激しく、詳細は不明。残存する床面部分でも、顕著な傾向は確認できなかった。

かまど かまども64号住居跡に削平を受け、残存状況は極めて悪い。焼土の分布範囲によって、燃焼部と煙道部のおおよそのプランが推定されている。燃焼部は住居壁の内側に作り出され、U字状のプランを呈する。

貯蔵穴 住居北辺部に3基の土坑が検出されたがいずれも掘り込みが浅い。北東隅に長円形の土坑内より小礫と立ち上がり部より土師器の小型甕が出土しており、貯蔵穴の可能性が考えられる。

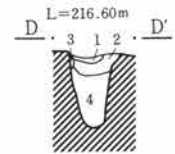
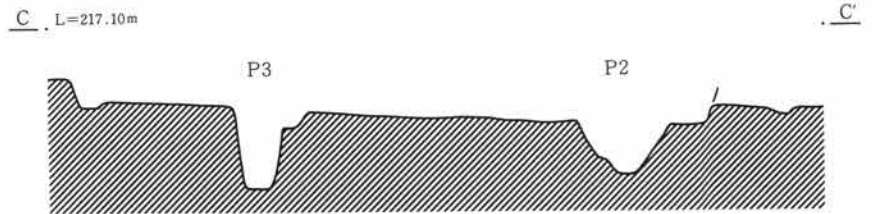
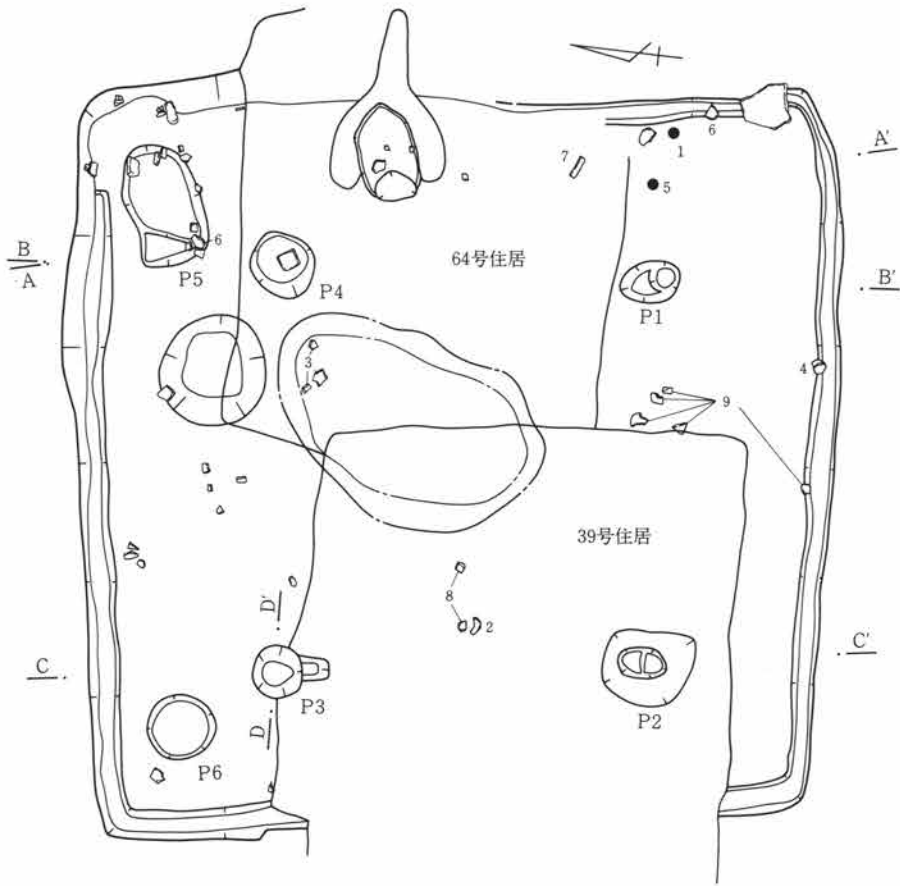
壁下周溝 かまどのある東辺部の一部を除いて、全周していたと推定できる。残存部分の掘り込みは浅い。

柱穴 4基の支柱穴が検出されている。いずれも掘り込みが深い。

出土遺物 総計114点の土器片と29点の石片・石材が出土しているが、重複部が多いためか生活用具類の残存状況は悪い。土師器甕・小型甕・鉢・坏のほか須恵器坏がある。床面付近や覆土中からの出土で、完形品はない。

掘り方 本住居跡に伴う床面下遺構は、住居中央付近の大きなピット(土坑状の掘り込み)が認定される。他住居との重複部については、遺物の出土しなかったものは判定しがたいため、位置関係から判断された。

時期 出土遺物や住居形態から、8世紀後半代と考えられる。



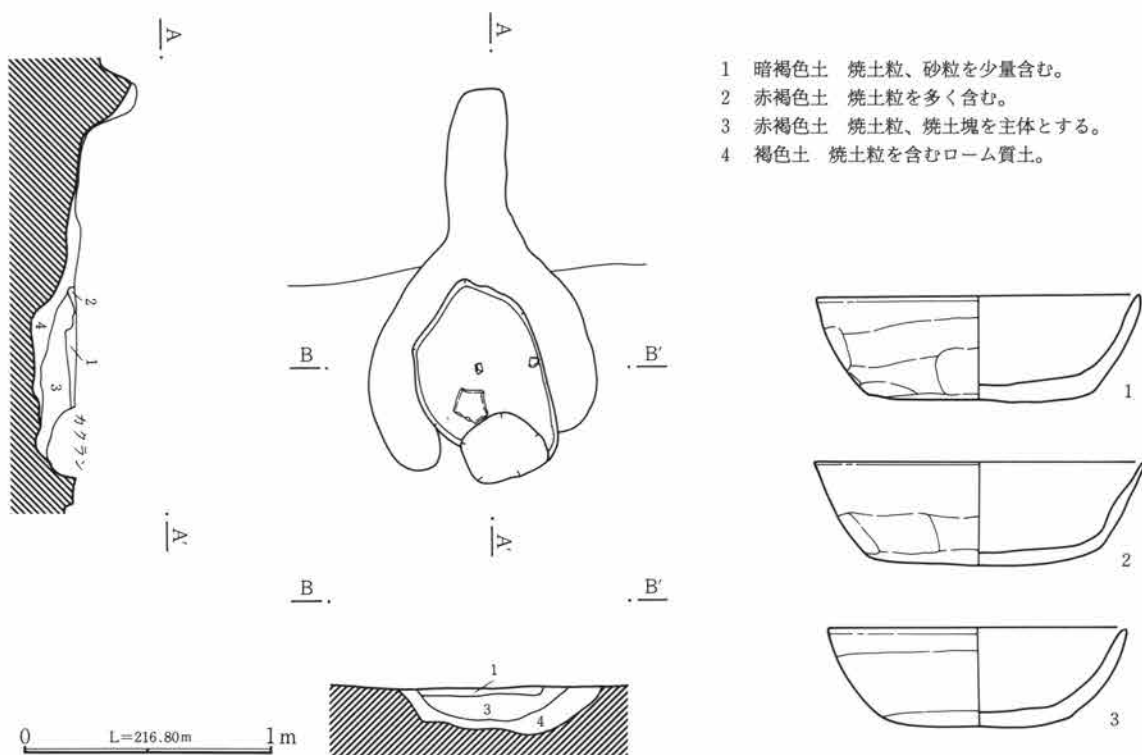
- P3セクション(D-D')
- 1 暗褐色土 砂粒、焼土粒(φ2~5mm)を含む。
  - 2 黒褐色土 砂粒、炭化物を少量含む。
  - 3 焼土層 39号住居のかまど焼土。
  - 4 褐色土 砂粒を少量含む。

0 L=217.00m 2m

- 1 黒褐色土 多量の砂礫、少量の、ローム粒・ローム塊を含む。
- 2 黒褐色土 砂礫、焼土粒、炭化物を含む。
- 3 暗褐色土 砂粒を含む。
- 4 黒褐色土 砂粒、炭化物を少量含む。
- 5 黒褐色土 4層に近似するが、焼土粒を少量含む。

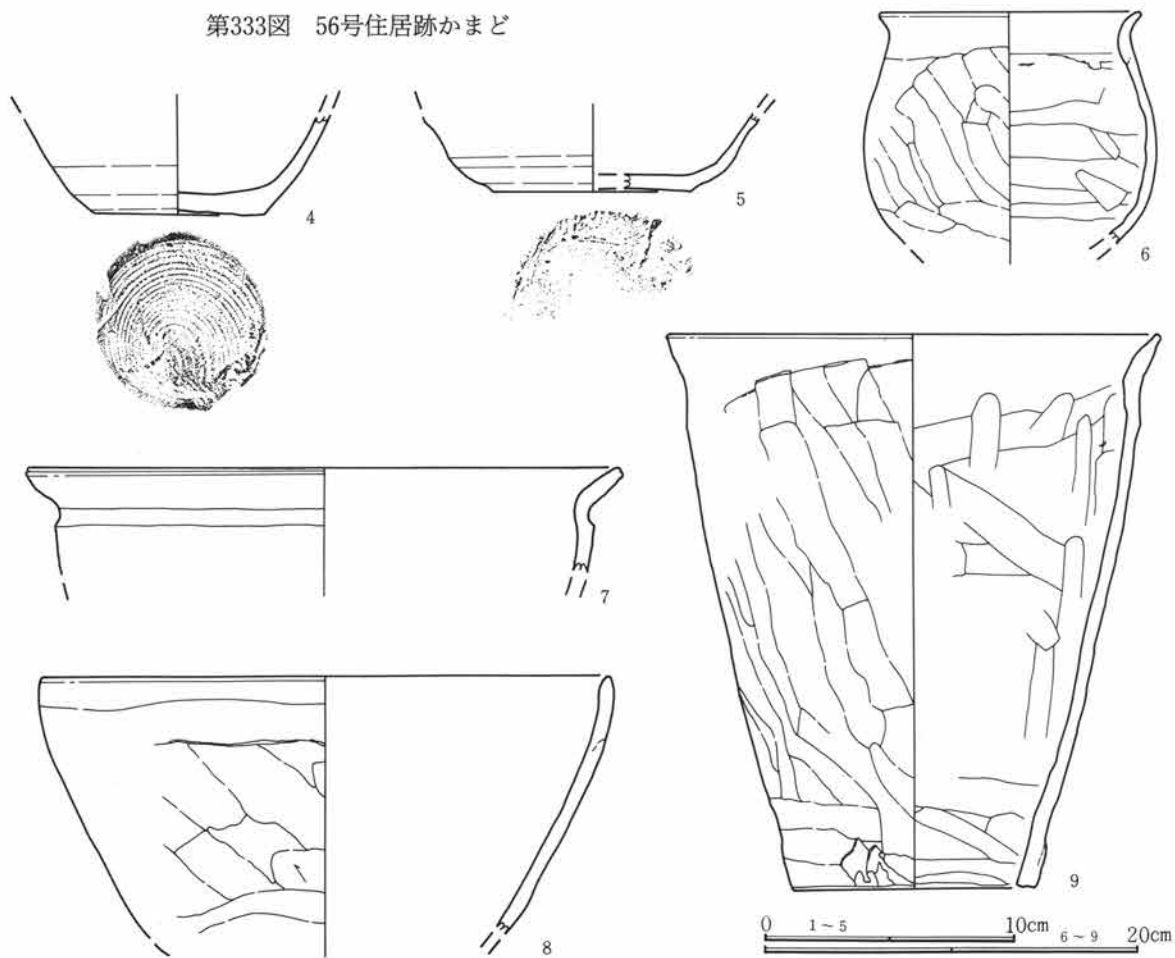
第332図 56号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



- 1 暗褐色土 焼土粒、砂粒を少量含む。
- 2 赤褐色土 焼土粒を多く含む。
- 3 赤褐色土 焼土粒、焼土塊を主体とする。
- 4 褐色土 焼土粒を含むローム質土。

第333図 56号住居跡かまど



第334図 56号住居跡出土遺物

60号住居跡 (PL.69・143)

位置 Ei-58 床面積 拡張前14.1㎡、拡張後18.3㎡ 主軸方位 N-87°-E 残存壁高 0.3m

重複 なし 規模と形状 本住居跡は、拡張住居跡と認定された。拡張前が長辺4.60m、短辺3.44m、拡張後が長辺5.30m、短辺4.40mがそれぞれ計測できた。いずれもやや不整形の横長長方形を呈し、東辺部中央南寄りにかまどが築かれる。周壁は若干の崩落が認められ、線形がやや乱れている。

床面 拡張後の床面は、拡張前よりも浅い掘り込みである。両面とも硬化面は確認できなかった。

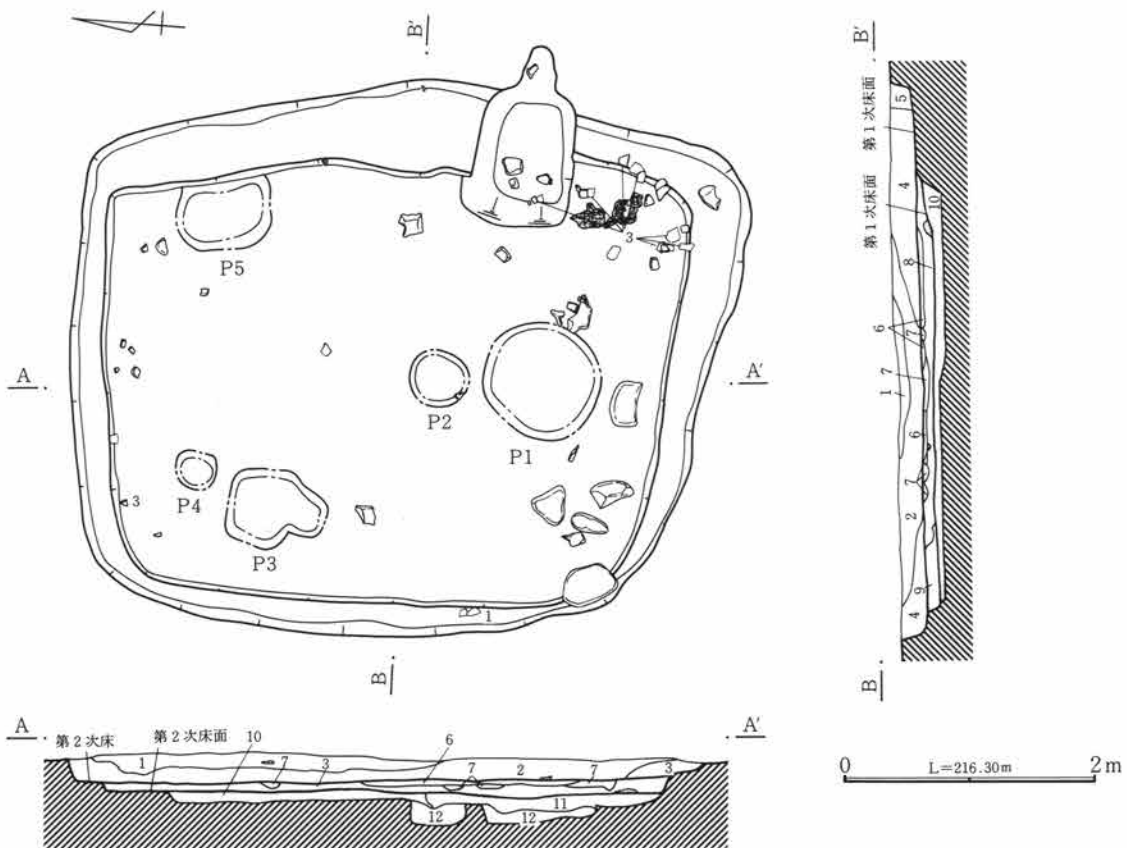
貯蔵穴・壁下周溝・柱穴 いずれも検出されなかった。

出土遺物 総計77点の土器片と62点の石材・石片のほかに、南東隅に拡張前住居の床面から炭化材が出土し、南東隅付近を中心に、羽釜、土釜、酸化焰焼成の坏などがいずれも覆土中から出土している。

掘り方 層厚0.1mの貼り床土が認められ、総計5基の床面下土坑が検出された。いずれも拡張前の住居プラン内の検出で、掘り込みは浅いが、人為的なものといえる。

時期 出土遺物や住居形態から、10世紀代と考えられる。

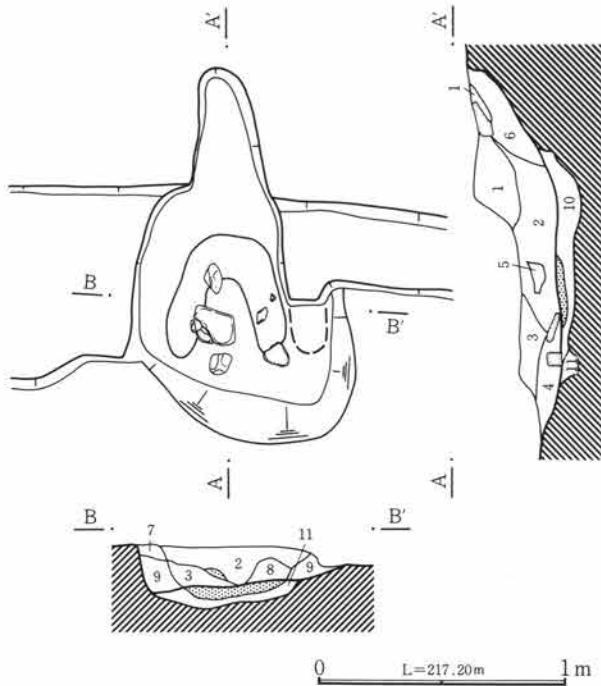
備考 拡張前の住居床面からは炭化材が検出され、焼失後拡張して立て替えられたものとも考えられる。



- |                            |                              |
|----------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色土 砂礫 (φ 2~7mm) を多く含む。 | 7 灰褐色シルト塊                    |
| 2 暗褐色土 砂礫、炭化物を含む。          | 8 黒褐色土 砂粒を少量含む。粘性。           |
| 3 暗褐色土 砂粒を多く含む。やや粘性。       | 9 黒褐色土 8層に近似するが、土色の黒味がややまざる。 |
| 4 暗褐色土 砂粒を含む。やや粘性。         | 10 褐色土 灰褐色シルト質土と暗褐色土との混土。    |
| 5 暗褐色土 砂粒を含む粘質土。           | 11 黒褐色土 砂粒を含む。               |
| 6 暗褐色土 2層に近似するが、炭化物はより多い。  | 12 灰褐色シルト質土 地山の二次堆積土。        |

第335図 60号住居跡

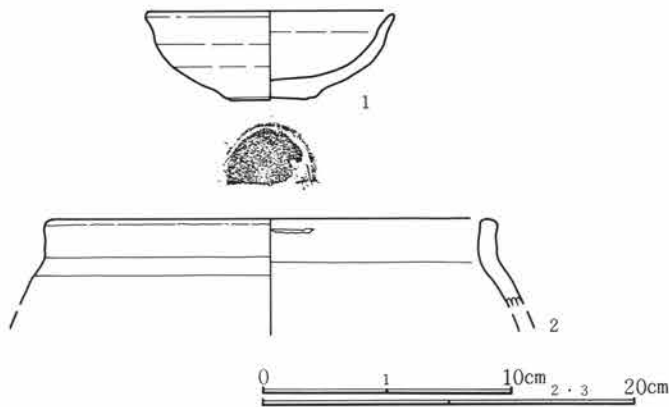




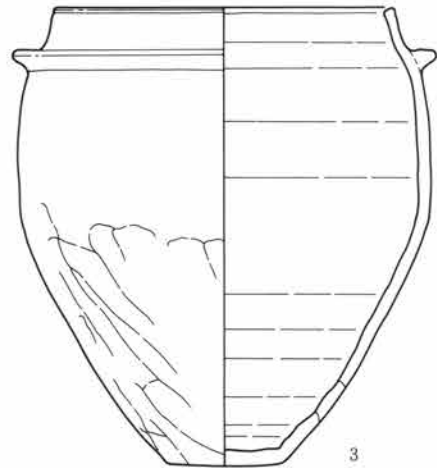
第336図 60号住居跡かまど

かまど 新旧かまどが同一地点で確認された。拡張後のかまどは、燃焼部が住居壁の内側に作り出され、方形形状を呈す。かまど前は半円状に掘りくぼめられ、燃焼部底面の一部では、焼土面が確認された。拡張前のかまどは、焼土の分布範囲から住居壁より外側に作り出されていたと推定される。

- 1 暗褐色土 砂礫を含む。やや砂質。
- 2 黒褐色土 砂礫を少量含む粘質土。
- 3 暗褐色土 1層に近似するが、シルト質土を含む。
- 4 黒褐色土 2層に近似するが、炭化物を少量含む。
- 5 灰褐色シルト塊
- 6 暗褐色土 1層に近似するが、土色は褐色味が強い。
- 7 暗褐色土 砂礫を少量含む粘質土。
- 8 黒褐色土 2層に近似するが、シルト質土塊を含む。
- 9 暗褐色土 灰褐色シルト質土に黒褐色土を含む。
- 10 暗褐色土 砂粒を含む。
- 11 黒褐色土 砂粒、炭化物を少量含む。



第337図 60号住居跡出土遺物



61号住居跡 (PL. 69・143)

位置 Ee-62 床面積 11.5m<sup>2</sup> 主軸方位 N-11°-W 残存壁高 0.3m 重複 なし

規模と形状 長辺3.80m、短辺3.46mの正形状を呈し、北辺部の中央より東側にかまどが築かれる。周壁は、崩落も少なく、ほぼ直線的に走行し、各隅部はやや隅丸状を呈する。

床面 床面は、覆土との色調差によって明瞭に識別でき、比較的良好な平坦面が形成されていた。床面精査では、かたく踏み締められるなどの顕著な傾向は確認できなかった。

かまど かまどの残存状況は悪く、燃焼部と煙道部のプランが確認されたにすぎない。燃焼部は住居壁の内側に作り出され、U字状プランを呈している。燃焼部側壁は、よく焼け込み焼土化している。比較的長めの煙道部は、くり抜き式のものとして推定され、わずかに勾配をもちながら立ち上がる。また、かまど前では、焼土及び炭化物の分布範囲が確認されている。

貯蔵穴 北東隅にあり、円形状を呈する。安定した掘り込みといえる。

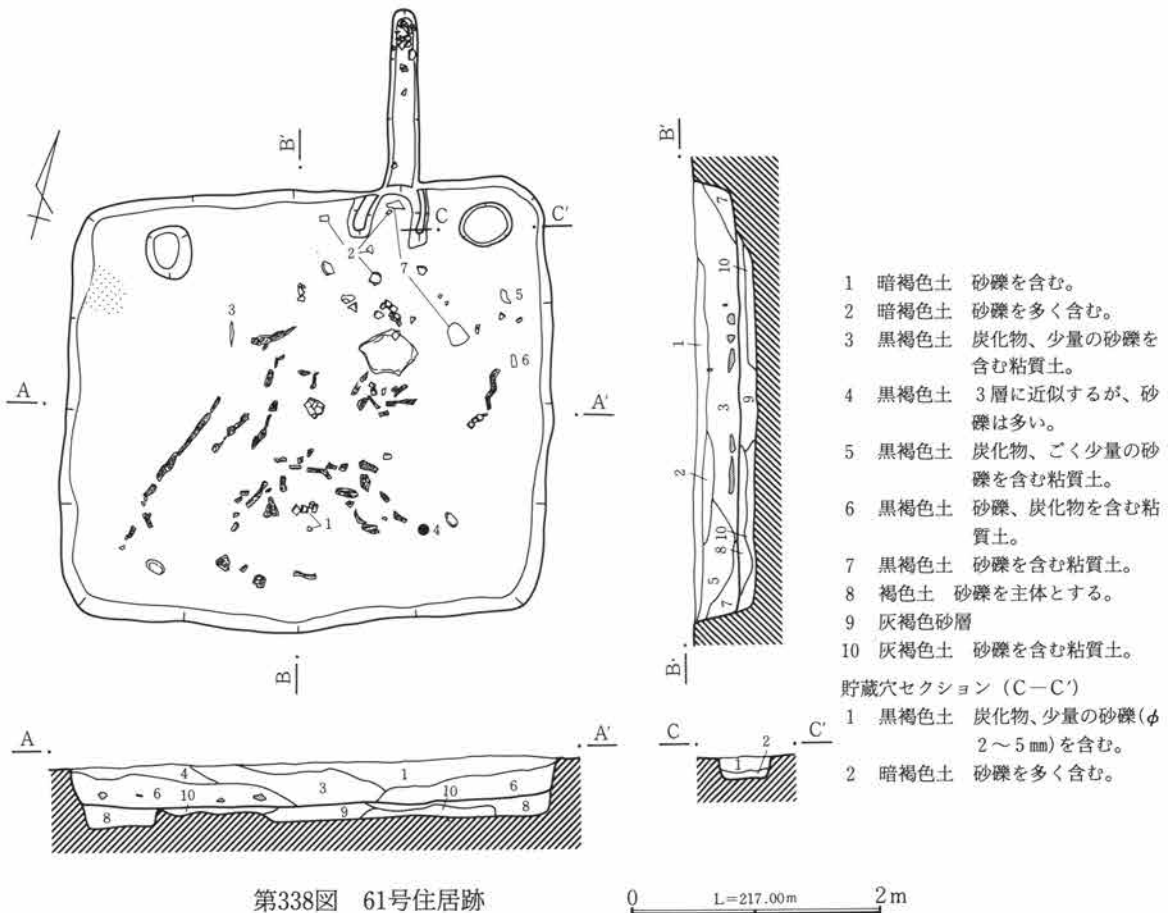
壁下周溝・柱穴 いずれも検出されなかった。

出土遺物 総計132点の土器片と24点の石片・石材のほかに鉄製品刀子が1点出土している。また、住居中央部を中心として、比較的広範囲に炭化材が検出された。出土土器は、土師器甕・台付甕・小型甕・坏などがあり、かまど前の床面付近や覆土下層から出土している。鉄製品刀子は、床面付近から検出され、ほぼ完存する。出土炭化材は、棒状のものが多く、樹種については特定できない。

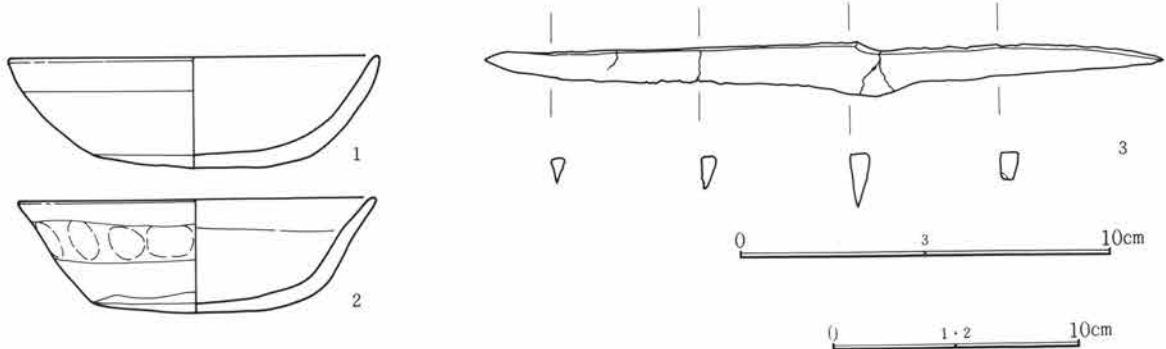
掘り方 層厚0.1mの貼り床土下から、小ピットが1基検出された。掘り込みは深い。

時期 出土遺物や住居形態から、8世紀後半代と考えられる。

備考 多量の炭化材が検出されていることから、本住居跡は焼失家屋と考えられる。

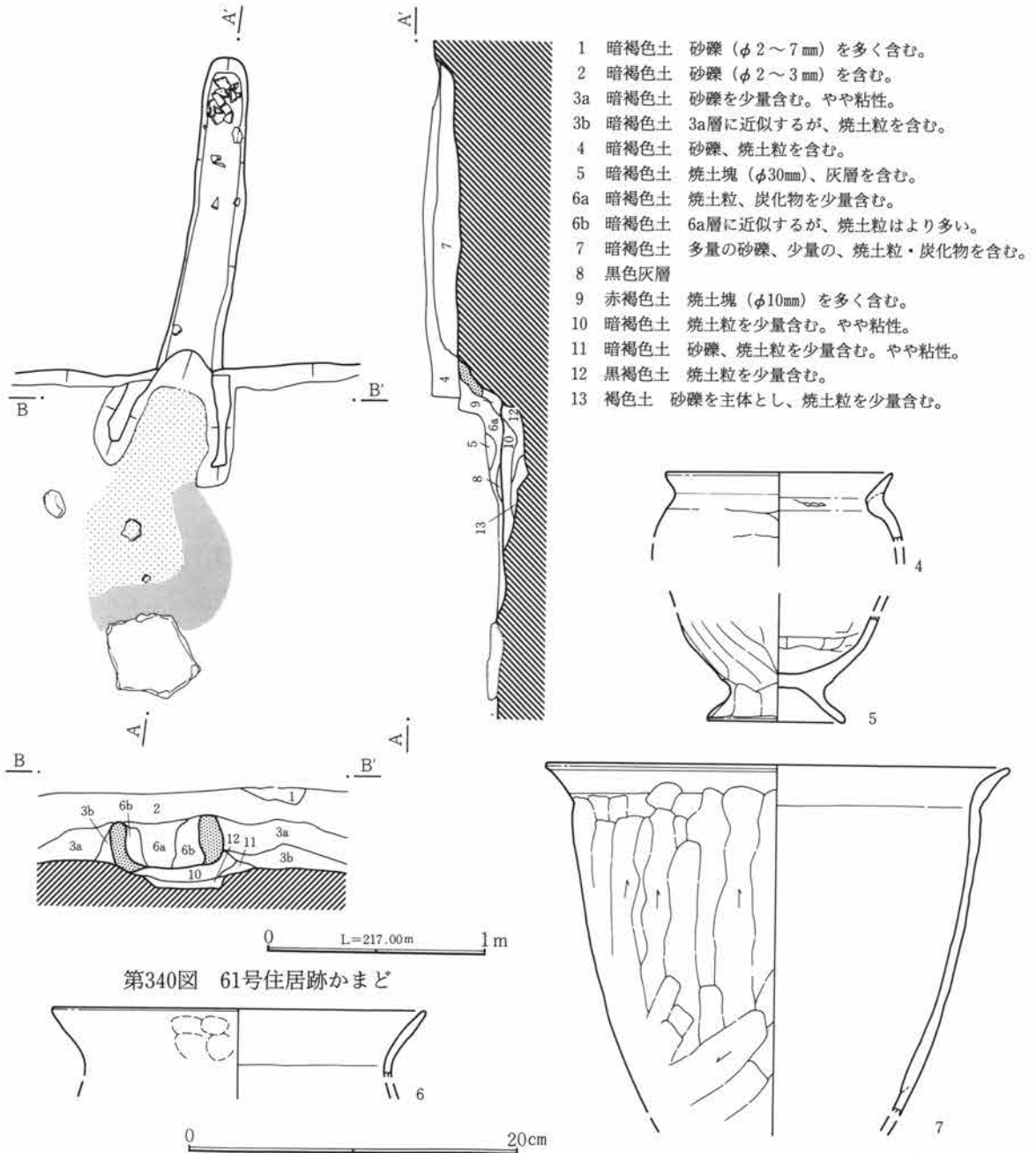


第338図 61号住居跡



第339図 61号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第340図 61号住居跡かまど

第341図 61号住居跡出土遺物(2)

62号住居跡 (PL.70・143)

位置 Ef-61 床面積 4.3m<sup>2</sup> 主軸方位 N-81°-E 残存壁高 0.15m 重複 なし

規模と形状 長辺2.40m、短辺2.26mのやや歪んだ正方形のプランを呈し、東辺部の中央付近にかまどが築かれる。周壁は、若干の崩落が認められ、線形がやや乱れている。

床面 若干の起伏が認められた。粘質土を床面とし、顕著にかたい面などは確認できなかった。

かまど 燃焼部は住居壁の内側に作り出され、方形のプランを呈す。燃焼部両袖先端部には、砂岩加工石による袖石が残存している。燃焼部内からは、顕著な焼土面などは確認されなかった。煙道部は、くり抜き式のものとして推定され、ほぼ水平に屋外にのびる。

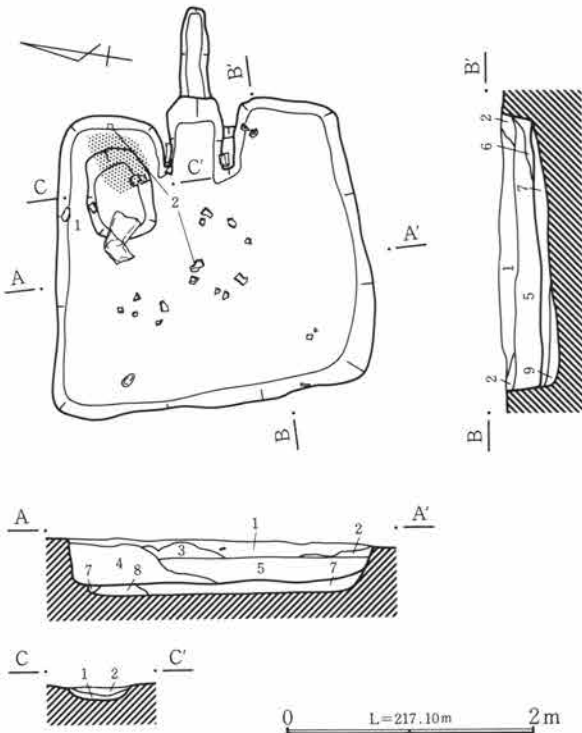
第1節 竪穴住居跡

貯蔵穴 北東隅にあり、長円形状を呈する。

壁下周溝・柱穴 いずれも検出されなかった。

出土遺物 総計37点の土器片と10点の石片が出土した。覆土下層から、土師器小型甕が出土した。掘り方 層厚0.1~0.15mの貼り床土が認められるが、ピットなどの遺構は検出されなかった。

時期 特定しがたい。

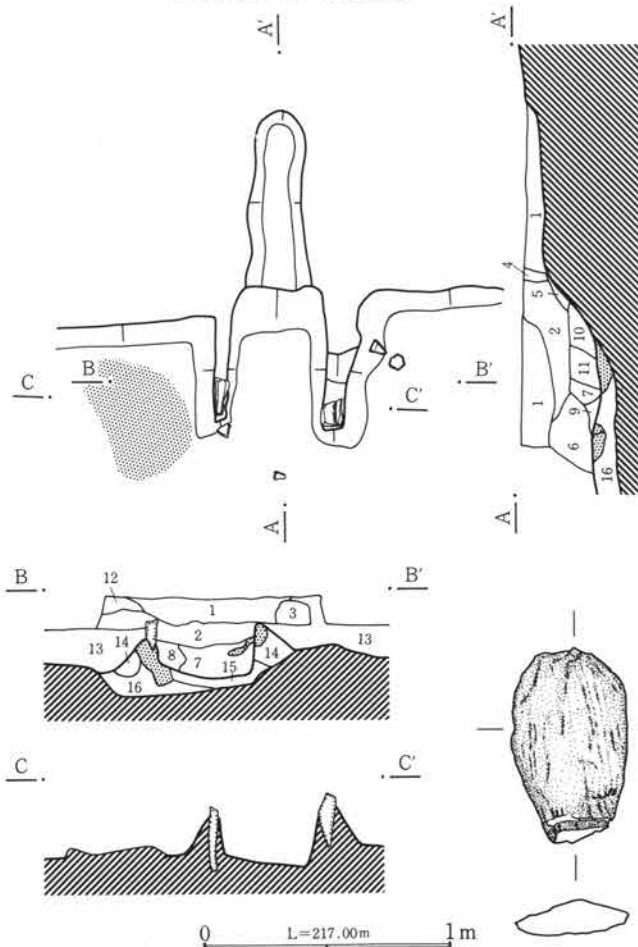


第342図 62号住居跡

- 1 暗褐色土 砂礫(φ2~3mm)を少量含む粘質土。
- 2 暗褐色土 1層に近似するが、砂礫はより少ない。
- 3 暗褐色土 黄褐色シルト質土塊を含む粘質土。
- 4 暗褐色土 黄褐色シルト質土を少量含む粘質土。
- 5 暗褐色土 ローム粒を少量含む粘質土。
- 6 暗褐色土 5層に近似するが、砂礫(φ2~7mm)、焼土粒を少量含む。
- 7 褐色土 砂礫、シルト質土塊、暗褐色土塊の混土。
- 8 暗黄褐色土 地山(シルト質土)の二次堆積土。
- 9 暗褐色土 多量の砂礫、少量の炭化物を含む。

貯蔵穴セクション(C-C')

- 1 暗褐色土 シルト質土を主体とし、砂粒を少量含む。
- 2 暗褐色土 1層に近似するが、砂粒はより少ない。



第343図 62号住居跡かまど

- 1 暗褐色土 砂礫、焼土粒を含む粘質土。
- 2 暗褐色土 焼土粒、炭化物を少量含む粘質土。
- 3 暗褐色土 砂礫、焼土粒を含むシルト質土。
- 4 暗褐色土 焼土粒を少量含む粘質土。
- 5 暗褐色土 焼土粒を含む粘質土。
- 6 暗褐色土 砂粒を少量含む粘質土。
- 7 暗褐色土 2層に近似する。ローム粒を少量含む。
- 8 暗褐色土 2層に近似する。焼土粒はより多い。
- 9 暗褐色土 焼土塊(φ5~10mm)を多く含む。
- 10 暗褐色土 多量の砂礫、少量の焼土粒を含む。
- 11 暗褐色土 焼土粒、少量の焼土塊を含む。
- 12 暗褐色土 砂粒、少量の焼土粒を含む。
- 13 暗褐色土 砂粒を含む。
- 14 褐色シルト質土塊
- 15 褐色シルト質土と焼土との混土層
- 16 暗褐色シルト質土 焼土粒を含む。

第344図 62号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

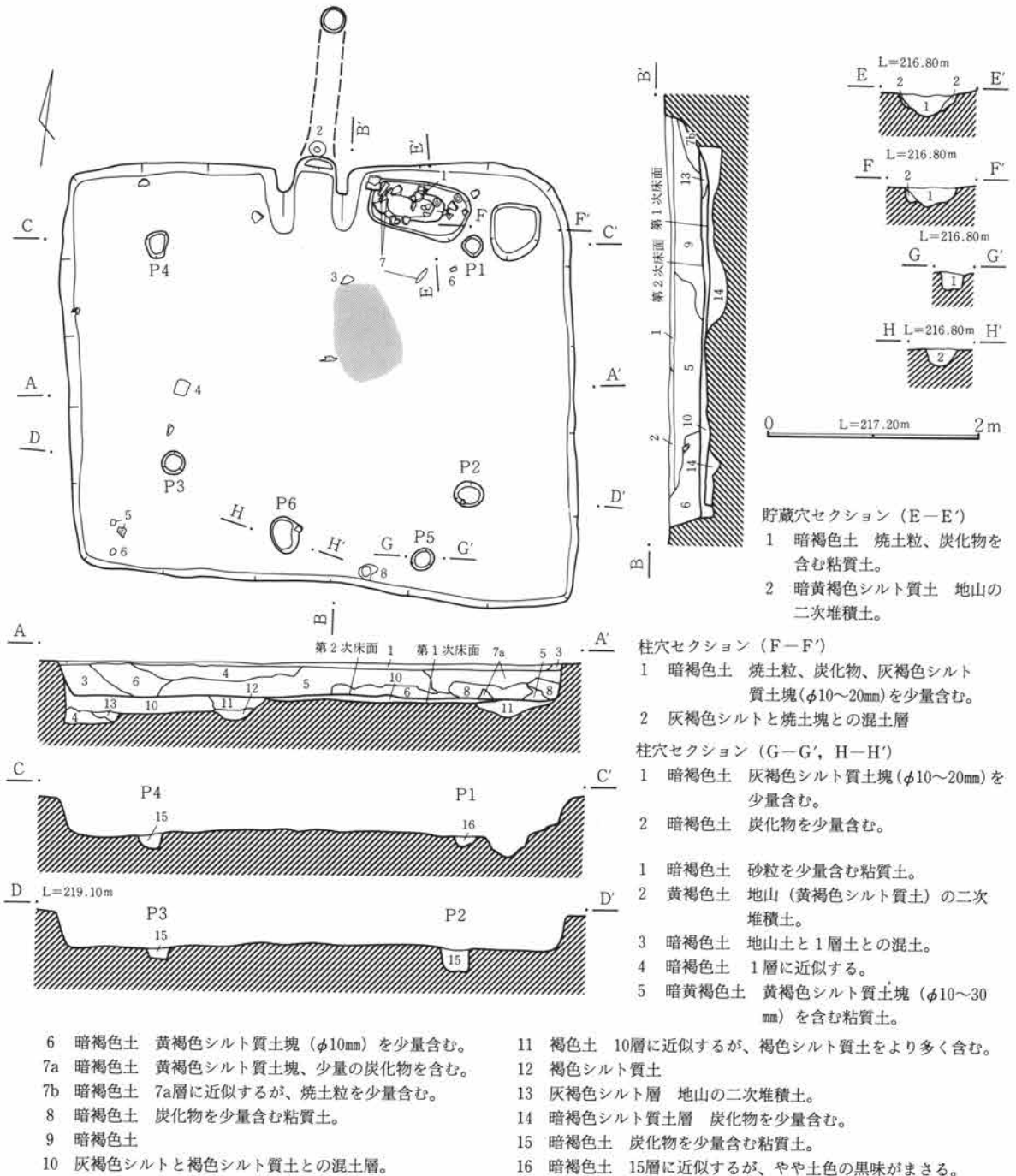
63号住居跡 (PL.70・144)

位置 Eg-62 床面積 16.5m<sup>2</sup> 主軸方位 N-3°-W 残存壁高 0.35m 重複 なし

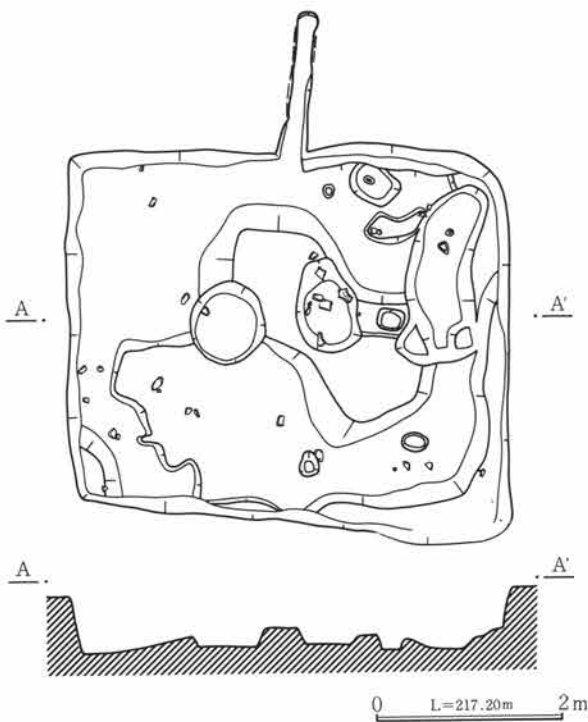
規模と形状 長辺4.70m、短辺4.08mのやや横長長方形を呈し、北辺部の中央付近にかまどが築かれる。

床面 住居西側部分を除き、新旧2面の床面が確認できた。比較的良好な平坦面が形成され、2面とも踏み締められた痕跡が認められる。とりわけ、かまど前はその傾向が顕著である。中央部に炭化物が分布する。

かまど 燃焼部は住居壁の内側に作り出され、U字状のプランを呈す。燃焼部側壁および底面は、よく焼け込みレンガ化している部分も認められた。煙道部はくり抜き式のもので、水平状に屋外に伸び、ほぼ直角に立ち上がっている。煙道部内面上部にも、よく焼け込んだ焼土面が確認されている。



第345図 63号住居跡



第346図 63号住居跡掘り方

**貯蔵穴** 北辺部の東側に長円形と円形の土坑が検出され、覆土中に炭化物が少量含まれていた。長円形状のピットは、土器片の混入が多い。

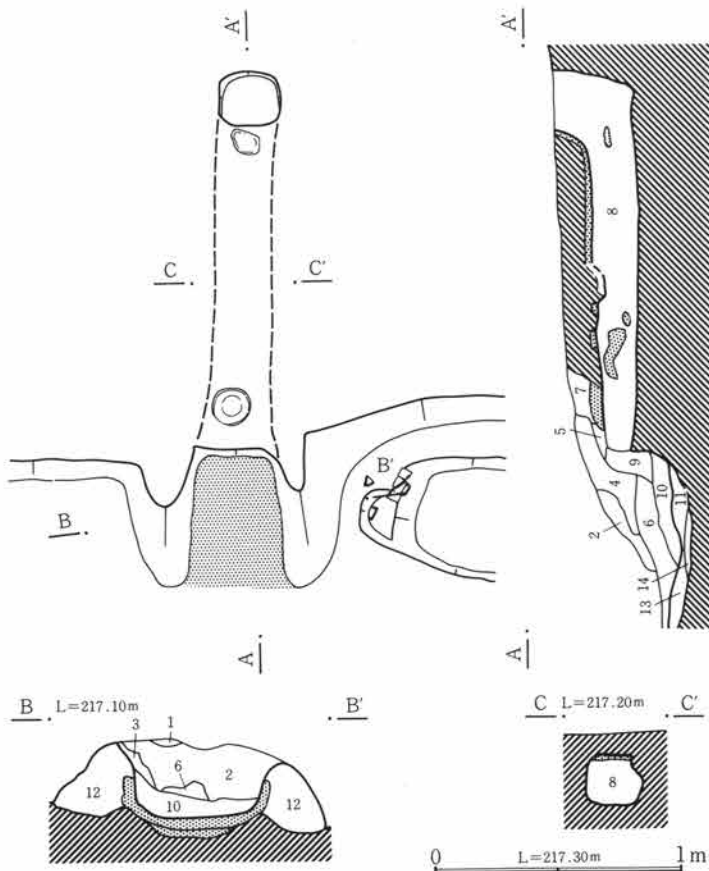
**壁下周溝** 検出されなかった。

**柱穴** 4基の支柱穴と考えられるピットのほかに、南辺部から2基の小ピットが検出された。南辺部の小ピットは、出入口部に伴う遺構の可能性はある。

**出土遺物** 総計117点の土器片と50点の石片・石材が出土した。出土土器は、土師器甕・高坏・坏、須恵器蓋などがあり、貯蔵穴内や床面付近から出土した。煙道部内から出土した坏は、ほぼ完存する。

**掘り方** 層厚0.1~0.2mの貼り床土が認められ、床面下から2基の土坑状が検出された。貼り床土は、周壁沿いがやや厚く堆積する傾向が認められた。

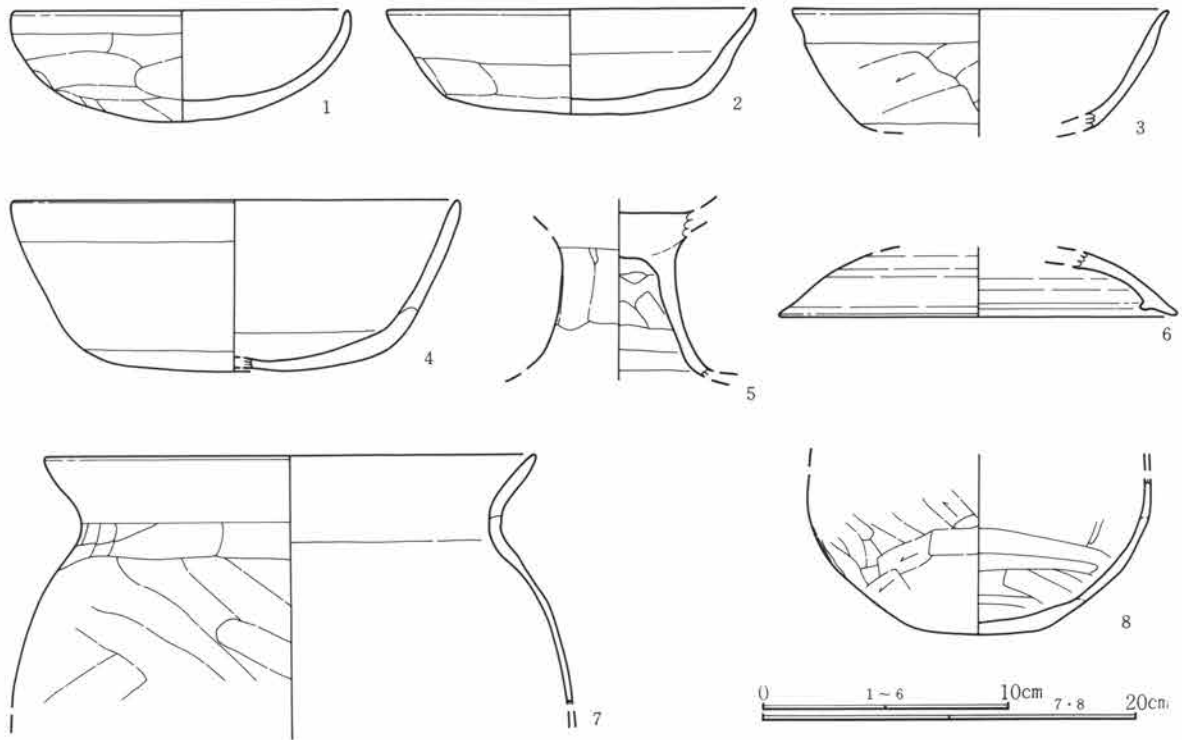
**時期** 出土遺物や住居形態から、8世紀前半代と考えられる。



- 1 暗褐色土 焼土粒を含む粘質土。
- 2 暗褐色土 炭化物を少量含む粘質土。
- 3 暗黄褐色土 微細な焼土粒を含む粘質土。
- 4 暗黄褐色土 炭化物を少量含む粘質土。
- 5 暗黄褐色土 粘質土。
- 6 暗褐色土 1層に近似する。
- 7 灰褐色土 シルト質土。やや黒味を帯びる。
- 8 黒褐色土 炭化物を含む粘質土。
- 9 暗赤褐色土 焼土粒を多く含む粘質土。
- 10 暗褐色土 焼土小塊(φ2~10mm)を多く含む粘質土。
- 11 暗赤褐色土 焼土塊を多く含む粘質土。側壁はレンガ化。
- 12 暗黄褐色土 砂粒をごく少量含む粘質土。
- 13 暗褐色土 焼土粒を多く含む粘質土。
- 14 暗褐色土 少量の焼土粒を含む粘質土。

第347図 63号住居跡かまど

第3章 検出された遺構と遺物



第348図 63号住居跡出土遺物

64号住居跡 (PL. 71・144)

位置 Eb-51 床面積 9.0㎡

主軸方位 N-89°-E 残存壁高 0.1m

重複 52住→56住→65住→64住、49住とも重複するが新旧不明。

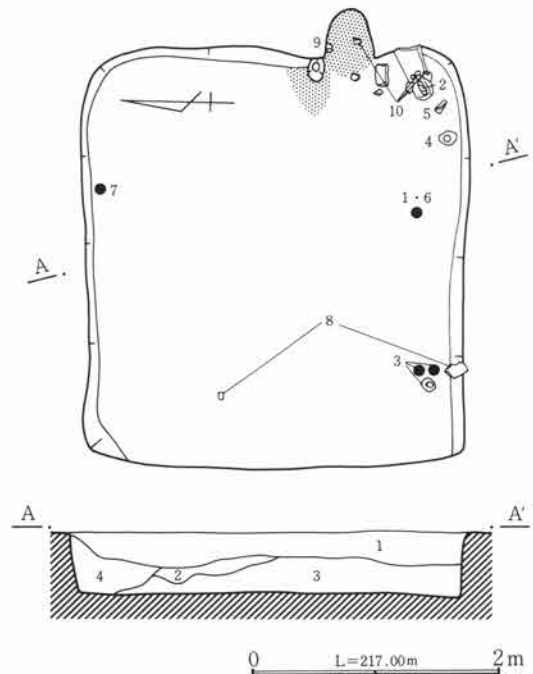
規模と形状 長辺3.32m、短辺3.04mの正方形状を呈し、東辺部中央南側にかまどが築かれる。

床面 床面精査では、かたく踏み締められるなどの顕著な傾向は確認できなかった。

かまど かまどの残存状況は極めて悪く、燃焼部のおおよそのプランが確認されたにすぎない。燃焼部は、袖部以外は住居壁の外側に作り出され、U字状プランを呈している。両袖先端部は、右袖石が残存し、左袖には袖石の抜き取り痕が検出された。燃焼部底面では、焼土面が確認されている。

貯蔵穴・壁下周溝・柱穴 検出されなかった。

出土遺物 総計88点の土器片と28点の石片・石材が出土している。覆土中から検出されたものが多い。



- 1 黒褐色土 多量の砂礫 (φ 2~5mm)、少量の、ローム粒・炭化物を含む。
- 2 暗褐色土 砂礫、黄褐色粘土塊 (φ 10~20mm) を多く含む。
- 3 黒褐色土 多量の砂礫、ごく少量の、焼土粒・炭化物を含む。
- 4 暗褐色土 含有物等は3層に同じ。

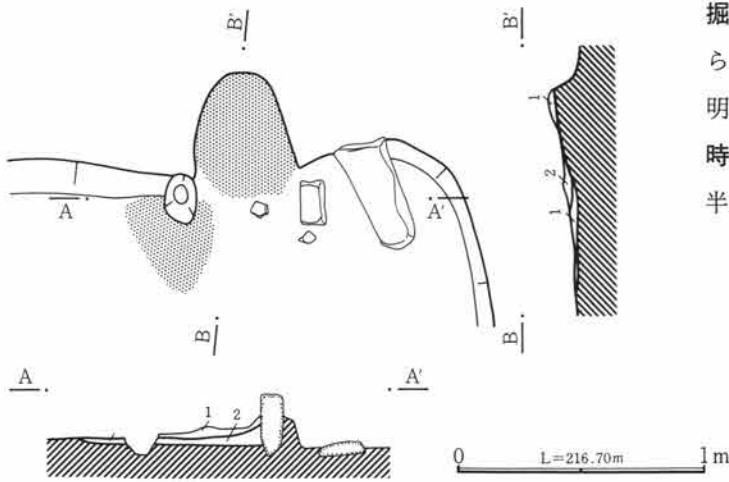
第349図 64号住居跡



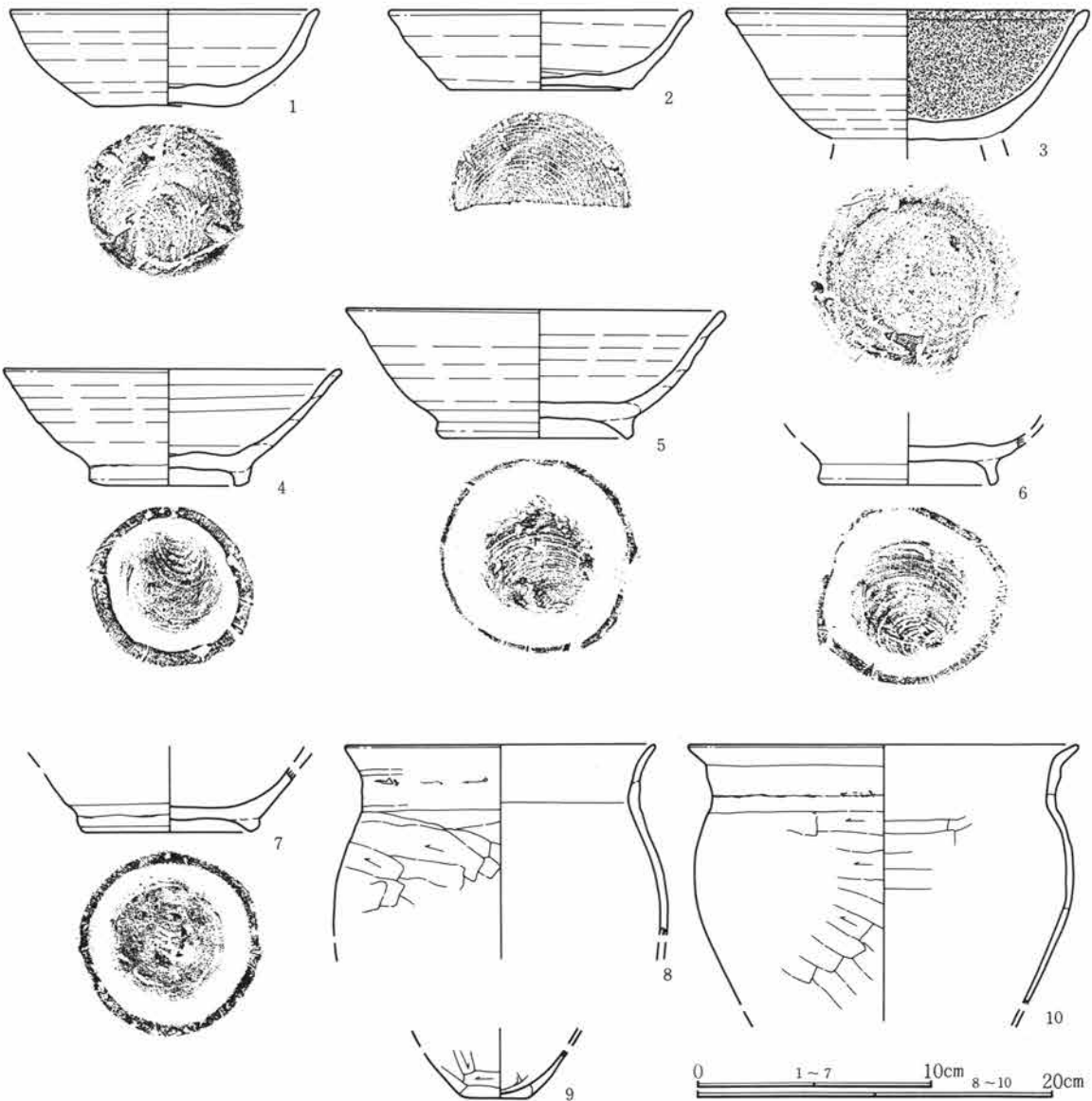
第1節 竪穴住居跡

掘り方 重複が激しいため、本住居跡に明らかに伴うと考えられる床面下の遺構は不明である。

時期 出土遺物や住居形態から、9世紀後半代と考えられる。



- 1 赤褐色土 焼土粒を主体とする。
- 2 暗褐色土 炭化物を少量含む。
- 3 暗褐色土 焼土粒、炭化物を少量含む。



第351図 64号住居跡出土遺物

70号住居跡 (PL. 71・144)

位置 Ed-60 床面積 (13.2) m<sup>2</sup> 主軸方位 N-5°-W 残存壁高 0.25m 重複 なし  
 規模と形状 長辺4.00m、短辺3.80mの正形状を呈していたと推定され、北辺部の中央より東側にかまどが築かれる。住居プランの大半が、試掘溝に破壊されてしまった。

床面 覆土との色調差によってなされたが、残存部分が少なく顕著な傾向は確認できなかった。

かまど かまどの残存状況は悪く、燃焼部と煙道部のプランが確認されたにすぎない。燃焼部は、両袖部が住居壁より内側に突き出した構造を呈し、U字状のプランを呈する。砂岩加工石による袖石が左袖部に残存するが、燃焼部内からは、顕著な焼土面などは確認されなかった。煙道部はくり抜き式のものとして推定され、煙道部先端は東側に屈曲している。煙道底面は、わずかに勾配をもちながら、先端部は約60°の角度で立ち上がる。

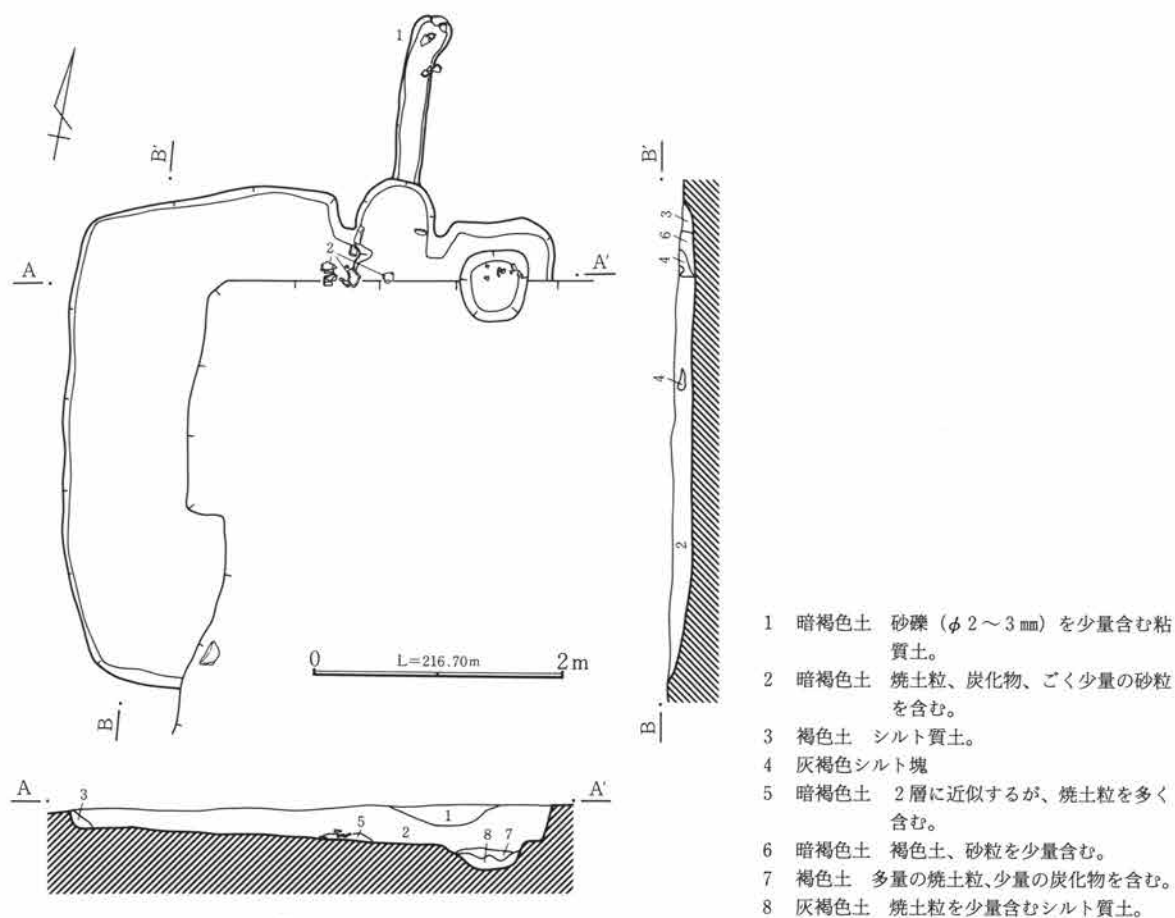
貯蔵穴 北東隅にあり、円形状を呈する。掘り込みは深くないが、安定した掘り込みといえる。

壁下周溝・柱穴 いずれも検出されなかった。

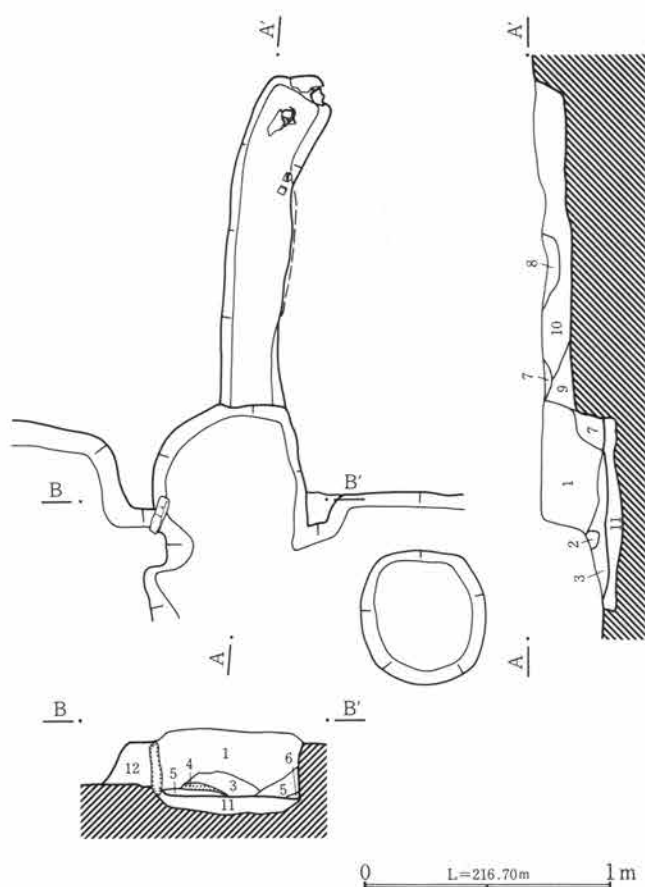
出土遺物 総計31点の土器片とかまど石材が1点検出されたにすぎない。かまど前とかまど煙道部先端から、土師器甕・甑が出土している。

掘り方 床面と掘り方面がほぼ一致し、床面下から遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、8世紀前半代と考えられる。

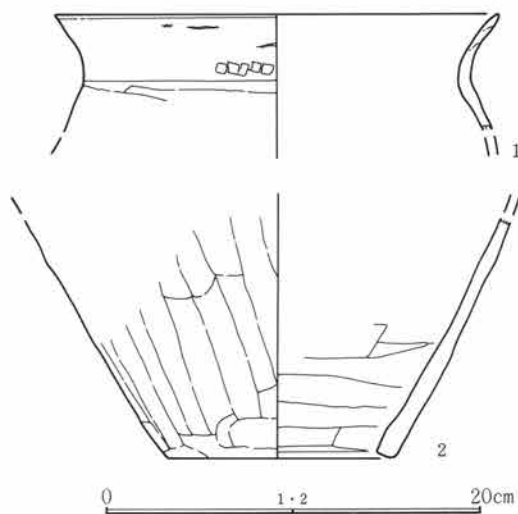


第352図 70号住居跡



第353図 70号住居跡かまど

- 1 黒褐色土 少量の砂粒を含む粘質土。
- 2 焼土塊
- 3 黒褐色土 焼土粒を含む粘質土。
- 4 焼土層 崩落による。
- 5 赤褐色土 焼土粒を含む。
- 6 暗褐色土 粘質土。
- 7 暗褐色土 焼土粒を少量含むシルト質土。
- 8 灰褐色シルト 地山の二次堆積土。
- 9 極暗褐色土 少量の砂粒を含む粘質土。
- 10 暗褐色土 少量の砂粒を含む粘質土。
- 11 赤褐色土 微細な焼土粒を多く含むシルト質土。
- 12 褐色土 シルト質土。



第354図 70号住居跡出土遺物

71号住居跡 (PL.71・144)

位置 Ef-58 床面積 12.3m<sup>2</sup> 主軸方位 N-3°-E 残存壁高 0.35m 重複 なし

規模と形状 長辺4.40m、短辺3.20mの横長の隅丸長方形を呈し、北辺部中央にかまどが築かれる。

床面 床面は、覆土との色調差によって明瞭に識別でき、比較的良好な平坦面が形成されていた。床面精査では、かたく踏み締められるなどの顕著な傾向は確認できなかった。

かまど 燃焼部は住居壁の内側に作り出され、U字状のプランを呈している。燃焼部内からは土師器甕が据えられた状態で出土した。さらに、両袖の先端部には袖石が残存し、その袖石に架けた加工砂岩がかまど前に崩落した形で検出された。燃焼部側壁および底面は、よく焼け込み焼土化している。煙道部はくり抜き式のもので、平面的には先端部が東側に屈曲している。煙道部底面は、わずかに起伏をもちながら水平に屋外に伸び、ほぼ直角に立ち上がる。煙道部内面上部もよく焼けていて、焼土面が確認された。

貯蔵穴 北東隅にあり、円形状を呈する。壁下周溝 検出されなかった。

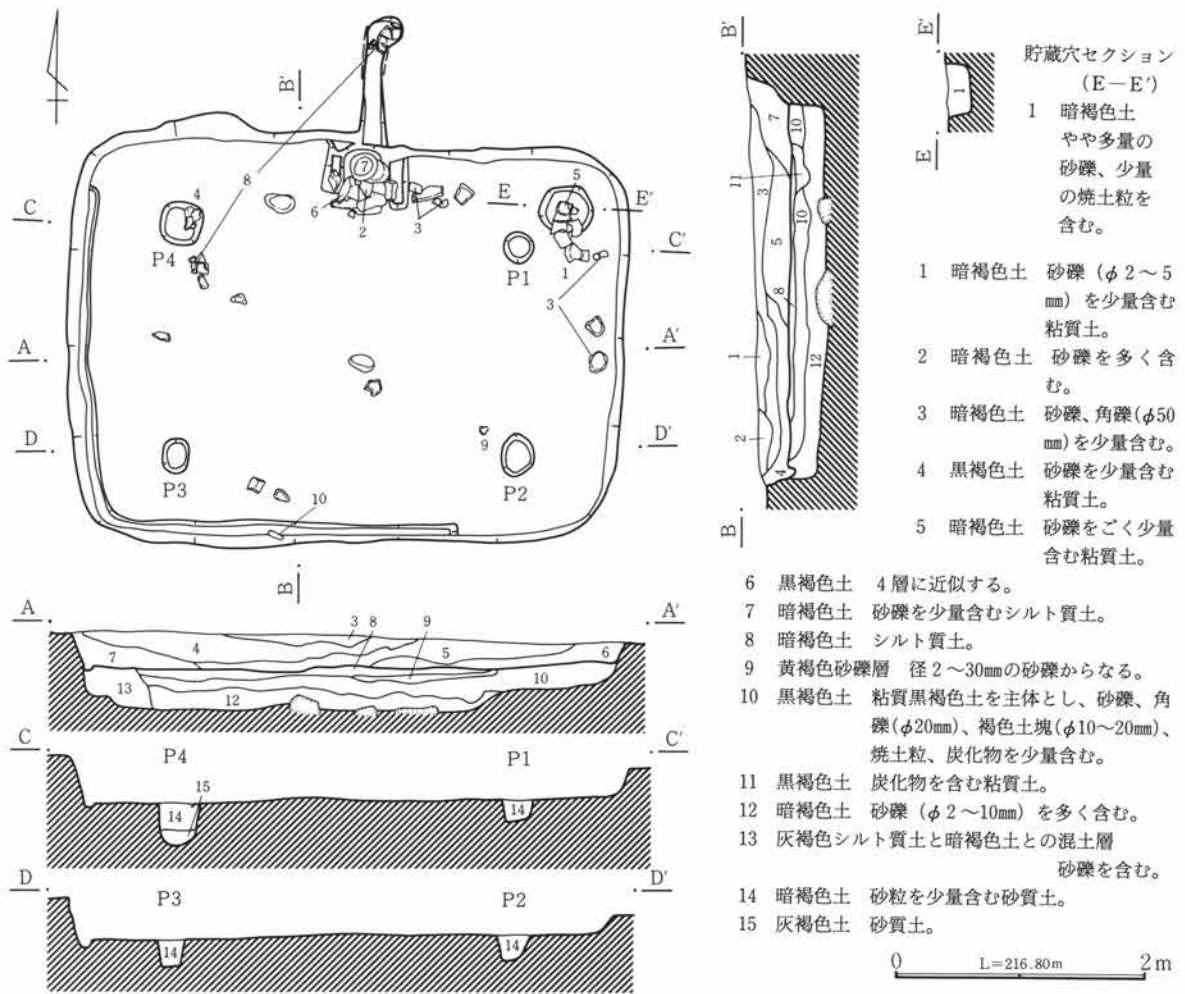
柱穴 4基の支柱穴と考えられる小ピットが検出された。掘り込みはやや浅い。

出土遺物 総計50点の土器片と50点の石片・石材のほかに、鉄製品が2点検出された。かまど燃焼部内・煙道部内、床面付近などから、土師器甕・小型甕・鉢・坏がそれぞれ出土している。燃焼部内の土師器甕はほぼ完存し、使用時の状態をとどめているといえる。鉄製品鎌は覆土中からの出土であるが、ほぼ完存する。

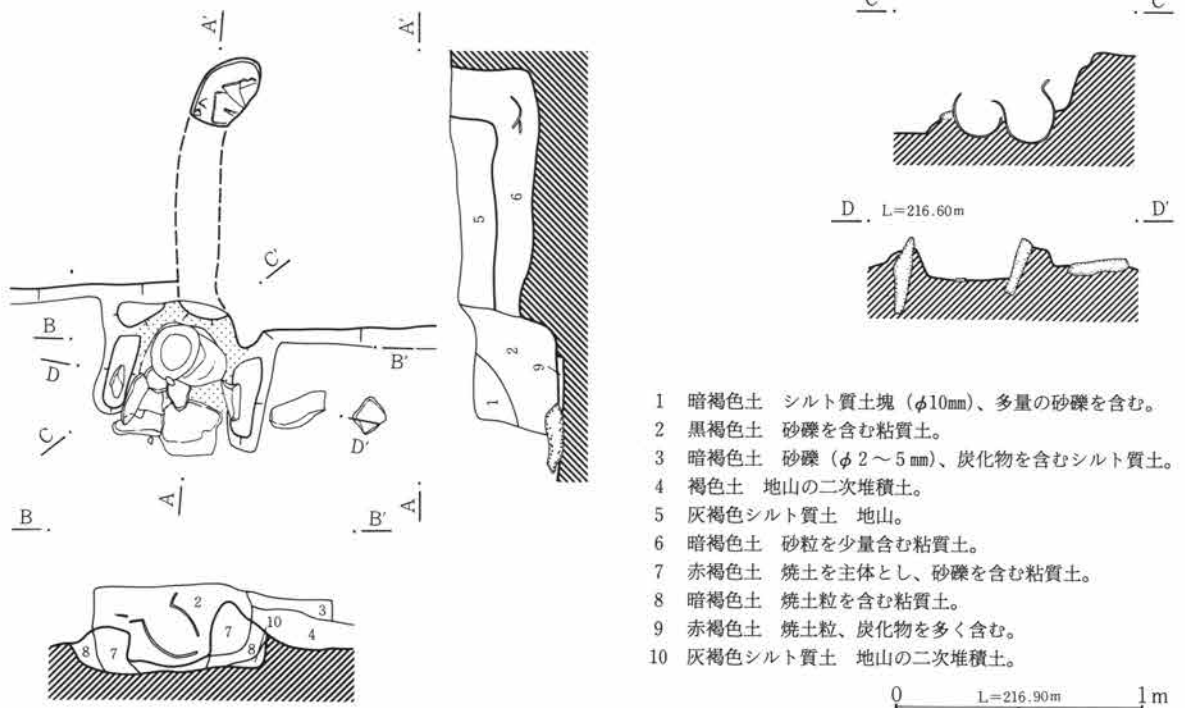
掘り方 層厚0.25~0.3mの貼り床土が認められるが、ピットなどの人為的な遺構は検出されなかった。

時期 出土遺物や住居形態から、8世紀前半代と考えられる。

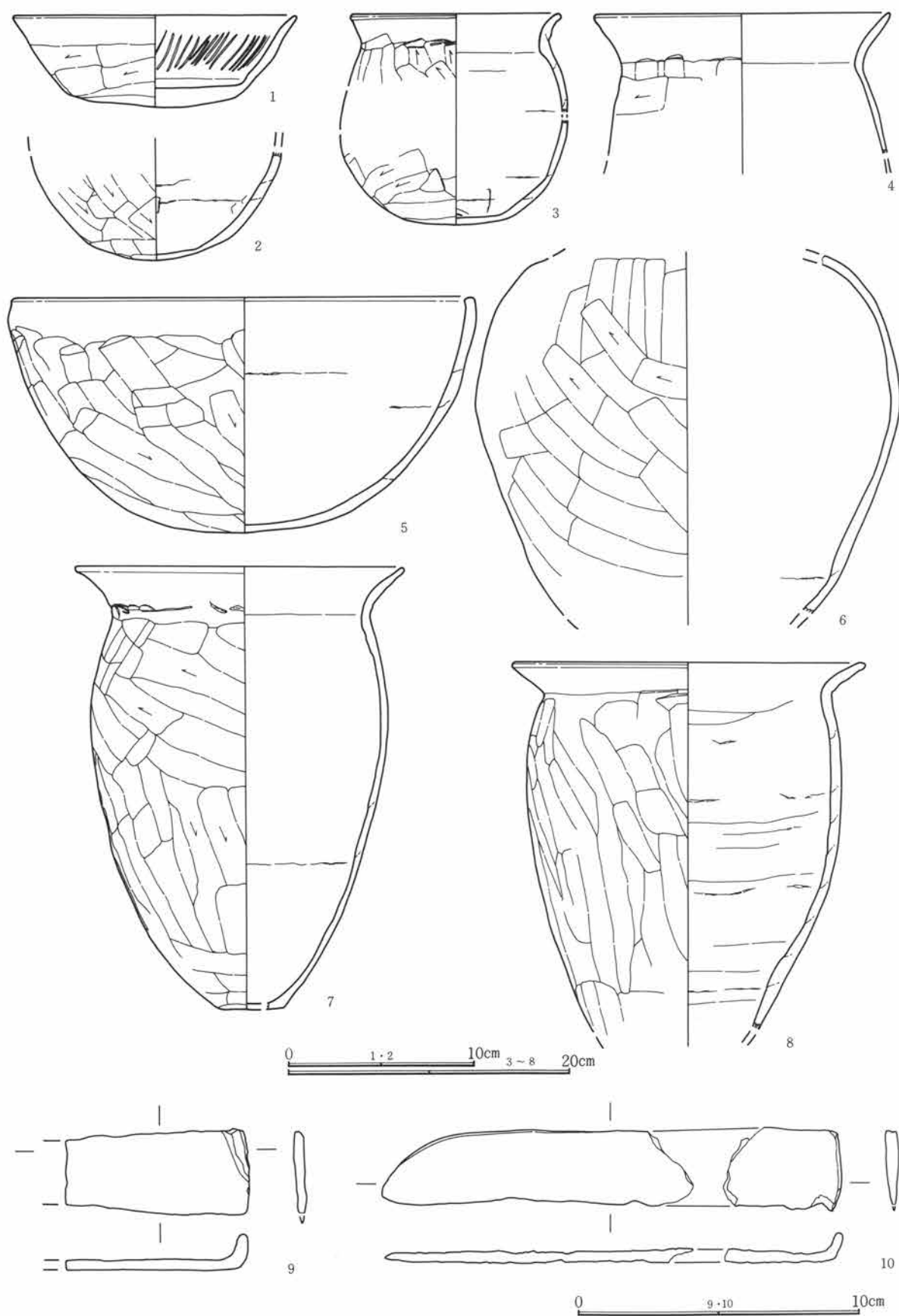
第3章 検出された遺構と遺物



第355図 71号住居跡



第356図 71号住居跡かまど



第357図 71号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

E区住居跡一覧表

住居番号	住居位置	主軸方位	規模(m)			住居形状	貯蔵穴位置	柱穴有無及び本数	住居廃絶時期	備考
			長辺	短辺	深さ					
1号	Ec-64	N-90°-E	3.80	2.48	0.25	縦長長方形	かまど石袖	無し	10世紀代	2・4号住居(古)と重複。
2号	Ec-64	N-38°-W	4.84	3.66	0.60	横長長方形	南東隅	無し	古墳後期	1・3号住居(新)と重複。
3号	Ed-65	N-7°-W	4.34	3.80	0.70	横長長方形	北東隅	2本	8世紀代	2号住居(古)と重複。
4号	Eb-64	N-27°-W	2.48		0.50	正方形	無し	無し	7世紀前半	1号住居(新)と重複。
5号	Ea-63	N-28°-W	4.76	3.80	0.60	横長長方形	北東隅	無し	7~8世紀代	2号溝(新)と重複。
6号	En-70	N-14°-E	5.40	5.16	0.25	正方形	北東隅	4本	7世紀前半	
7号	Eo-67	N-11°-E	4.10	3.30	0.35	横長長方形	北東隅	無し	6世紀後半	
8号	Ea-50	N-8°-W	7.14			長方形?	不明	2本	7~8世紀代	DN区29・48号住居(新)と重複。
9号	Eo-69	N-18°-E	4.30	3.55	0.35	長方形	無し	4本?	6~7世紀代	
10号	En-64	N-4°-E	4.35	4.30	0.30	正方形	無し	4本	7世紀前半	
11号	Em-62	N-90°-E	6.85	5.80	0.25	縦長長方形	北東隅	3本	6~7世紀代	17号住居(新)と重複。
12号	En-60	N-70°-E	4.65	3.60	0.35	長方形	無し	無し	11世紀代	40号住居(古)と重複。
13号	En-59	N-85°-E	4.20	2.55	0.05	縦長長方形	無し	無し	11世紀代	33号住居(古)と重複。
14号	Eq-62	N-22°-W	6.06	3.98	0.55	長方形	北東隅	無し	7世紀後半	
15号	Ek-63	N-13°-E	5.20	5.14	0.40	正方形	無し	4本	6~7世紀代	20・16号住居(新)と重複。
16号	Ej-63	N-92°-E	(5.60)	4.36	0.20	長方形	南東隅	無し	10~11世紀代	15号住居(古)と重複。
17号	Em-63	N-88°-E	4.80	3.80	0.40	長方形	南東隅	無し	9世紀後半	11号住居(古)と重複。
18号	Eg-65	N-59°-E	4.00	3.50	0.45	長方形	南東隅	無し	6世紀代	2号溝(新)と重複。
19号	Eo-61	N-110°-E	3.70	3.20	0.25	長方形	無し	無し	10世紀代	
20号	Ek-63	N-6°-E	3.08	2.30	0.35	長方形	無し	無し	7~8世紀代	15号住居(古)と重複。
21号	Eo-60	N-90°-E	4.74	3.46	0.25	長方形	南東隅	無し	10世紀代	
22号	Em-56	N-26°-W	4.50		0.00	柄鏡型		無し	縄文後期	46号住居(古)と重複。
23号	En-58	N-4°-W	4.30	3.58	0.20	隅丸長方形	北東隅	4本	8世紀代	79・80・81・82号土坑(古)と重複。
24号	El-59	N-90°-E	4.00	3.56	0.35	隅丸長方形	無し	無し	11世紀代	32号住居(古)・30号住居(新)と重複。
25号	Ek-60	N-96°-E	3.30	3.20	0.20	菱形	かまど	無し	11世紀代	27号住居(古)と重複。
26号	Ek-59	N-8°-E	3.66	3.60	0.30	正方形	北東隅	4本	7世紀代	
27号	Ek-61	N-60°-E	6.30	6.20	0.10	正方形	南東隅	不明	11世紀代	25号住居(新)と重複。
28号	Ej-61	N-80°-E	6.32	4.46	0.15	横長長方形	無し	4本	11世紀代	
29号	Em-59	N-90°-E	3.06	2.54	0.35	隅丸長方形	北東隅	無し	7世紀代	31号住居(古)と重複。
30号	Em-59	N-95°-W	3.76	3.24	0.30	隅丸長方形	南東隅	無し	8世紀代	31号住居(古)・32・24号住居(新)と重複。
31号	Em-59	N-56°-E	4.82	4.10	0.45	縦長長方形	北東隅	4本	6~7世紀代	29・30号住居(新)と重複。
32号	El-59	N-0°	3.44	2.80	0.15	隅丸長方形	跡北隅	1本?	10世紀代	30号住居(古)・24号住居(新)と重複。
33号	En-59	N-89°-E	(2.30)		0.10	方形?	不明	不明	11世紀代	13号住居と重複。
34号	Ec-51	N-29°-E	8.00		0.45	方形	無し	2本	6~7世紀代	36号住居(新)と重複。
35号	Eb-53	N-15°-E	6.30	5.80	0.45	正方形	北東隅	4本	7世紀代	54号住居(縄文)・38A・39号住居(新)と重複。
36号	Ec-52	N-70°-E			0.15	方形?	不明	不明	10世紀代	34・56号住居(古)と重複。
37号	Eb-50	N-7°-W	3.80		0.40	方形?	無し	無し	10世紀代	48・49号住居(古)と重複。
38A号	Ec-53	N-93°-E	3.42	(3.24)	0.30	正方形	無し	無し	8世紀代	35・45・38B号住居(古)と重複。
38B号	Ec-53	N-0°	3.48		0.30	不明	無し	無し	8世紀代	35・45号住居(古)・38A号住居(新)と重複。
39号	Eb-52	N-0°	5.60	3.62	0.40	横長長方形	無し	無し	9世紀代	52A・52B・56号住居(古)・64号住居(新)と重複。
40号	En-61	N-13°-W	3.46	2.70	0.35	長方形	無し	4本?	7~8世紀代	12号住居(新)と重複。
41号	Ee-53	N-5°-W	2.70		0.05	方形?	無し	無し	不明	42号住居と重複。新旧関係不明。
42号	Ed-52	N-29°-E	(3.50)		0.10	正方形?	無し	4本	不明	49号住居(古)と重複。49号住居とも重複する新関係不明。
43号	Ee-52	N-7°-W			0.05	不明	無し	無し	9世紀代	42号住居(古)と重複。
44号	Ec-54	N-84°-E	3.28	3.22	0.15	正方形	無し	無し	9世紀代	51号住居(古)と重複。
45号	Ec-52	N-22°-W	4.10	2.74	0.25	横長長方形	北東隅	無し	9~10世紀代	38A号住居(新)と重複。
46号	Em-56	不明	3.70		0.00	円形		無し	縄文後期	22号住居(新)と重複。
47号	Ed-57	不明	5.70	(5.30)	0.00	長円?		8本	縄文後期	
48号	Ea-50	N-104°-E			0.20	不明	無し	1本?	不明	8・37号住居と重複。新旧関係は不明。
49号	Eb-51	N-8°-W	3.40		0.30	方形?	無し	無し	7世紀代	37号住居(新)と重複。
50号	Ea-55	不明	4.35	3.50	0.15	長円		無し	縄文中期後半	1号井戸(新)と重複。
51号	Ec-55	N-13°-W	4.14	3.34	0.25	横長長方形	北東隅	4本	6~7世紀代	44号住居(新)と重複。
52A号	Ea-51	N-74°-E	(5.55)	5.30	0.40	正方形	北東隅	4本	6~7世紀代	52B・56・39・64号住居(新)と重複。
52B号	Ea-52	N-70°-E	(6.50)	(6.30)	0.40	正方形	無し	4本	7世紀代	52A号住居(古)・56・39・64号住居(新)と重複。
53号	Ef-55	N-37°-E	6.46	5.00	0.08	長円		不明	縄文後期	59号住居(古)・53・58・72号住居(新)と重複。
54号	Ec-54	不明	6.30	(5.00)	0.10	長円		3本	縄文後期	35・51・44号住居(新)と重複。
55号	Eh-53	N-85°-E	3.34	3.10	0.20	隅丸正方形	南東隅	無し	9世紀代	
56号	Eb-52	N-81°-E	6.00	5.80	0.45	正方形	北東隅	4本	8世紀代	52A・52B号住居(古)・39・64・36号住居(新)と重複。
57号	Eg-53	不明	4.80	3.60	0.10	楕円形		4本	縄文後期	162号土坑と重複。新旧関係は不明。



第1節 竪穴住居跡

58号	Eg-55	不明	4.85	4.65	0.10	円形	—	8本	縄文後期	53・59号住居(古)・72号住居(新)と重複。
59号	Ef-55	不明	4.75	3.90	0.05	不整円形	—	無し	縄文中期~後期	53・58・72号住居(新)と重複。
60号	Ei-58	N-87°-E	5.30	4.40	0.30	横長長方形	無し	無し	10~11世紀代	
61号	Ee-62	N-11°-W	3.80	3.46	0.30	正方形	北東隅	無し	7~8世紀代	
62号	Ef-61	N-81°-E	2.40	2.26	0.15	正方形	北東隅	無し	不明	
63号	Eg-62	N-3°-W	4.70	4.08	0.35	横長長方形	右袖脇	4本	8世紀代	
64号	Eb-51	N-89°-E	3.32	3.04	0.10	正方形	無し	無し	9世紀代	52・56・65住(古)と重複。4住とも重複するが新旧不明。
65号	欠番									
66号	Eg-53	不明	—	—	0.00	不明	—	無し	縄文後期	57住と重複の可能性は高いが切り合い不明。
67号	Ee-53	N-77°-E	7.64	6.00	0.10	楕円形	—	不明	縄文後期	68号住居(古)と重複。
68号	Ef-54	不明	(5.84)	(5.52)	0.10	円形	—	10~11本	縄文後期	67号住居(新)と重複。
69号	Eg-56	N-18°-E	2.90	2.10	0.15	楕円形	—	無し	縄文後期	
70号	Ed-60	N-5°-W	4.00	3.80	0.25	正方形	北東隅	無し	7~8世紀	
71号	Ef-58	N-3°-E	4.40	3.20	0.35	隅丸長方形	北東隅	4本	8世紀	
72号	Eg-55	不明	4.50	4.10	0.25	円形	—	8本	縄文後期	53・58・59・73号住居(古)と重複。
73号	Eh-55	不明	4.70	(4.50)	0.10	円形	—	8(11)本	縄文中期	76・58・72号住居(新)と重複。
74号	Ef-56	不明	2.65	2.60	0.15	不整円	—	無し	縄文後期	53号住居と近接する。
75号	Ej-54	不明	—	—	0.00	不明	—	不明	縄文中期	
76号	Eh-56	不明	3.60	3.00	0.30	楕円	—	無し	縄文後期	73・77号住居(古)と重複。
77号	Eg-55	不明	—	—	0.10	円形?	—	無し	縄文中期	73・76・58・72号住居(新)と重複。
78号	Ef-52	不明	—	—	0.00	不明	—	無し	縄文後期	

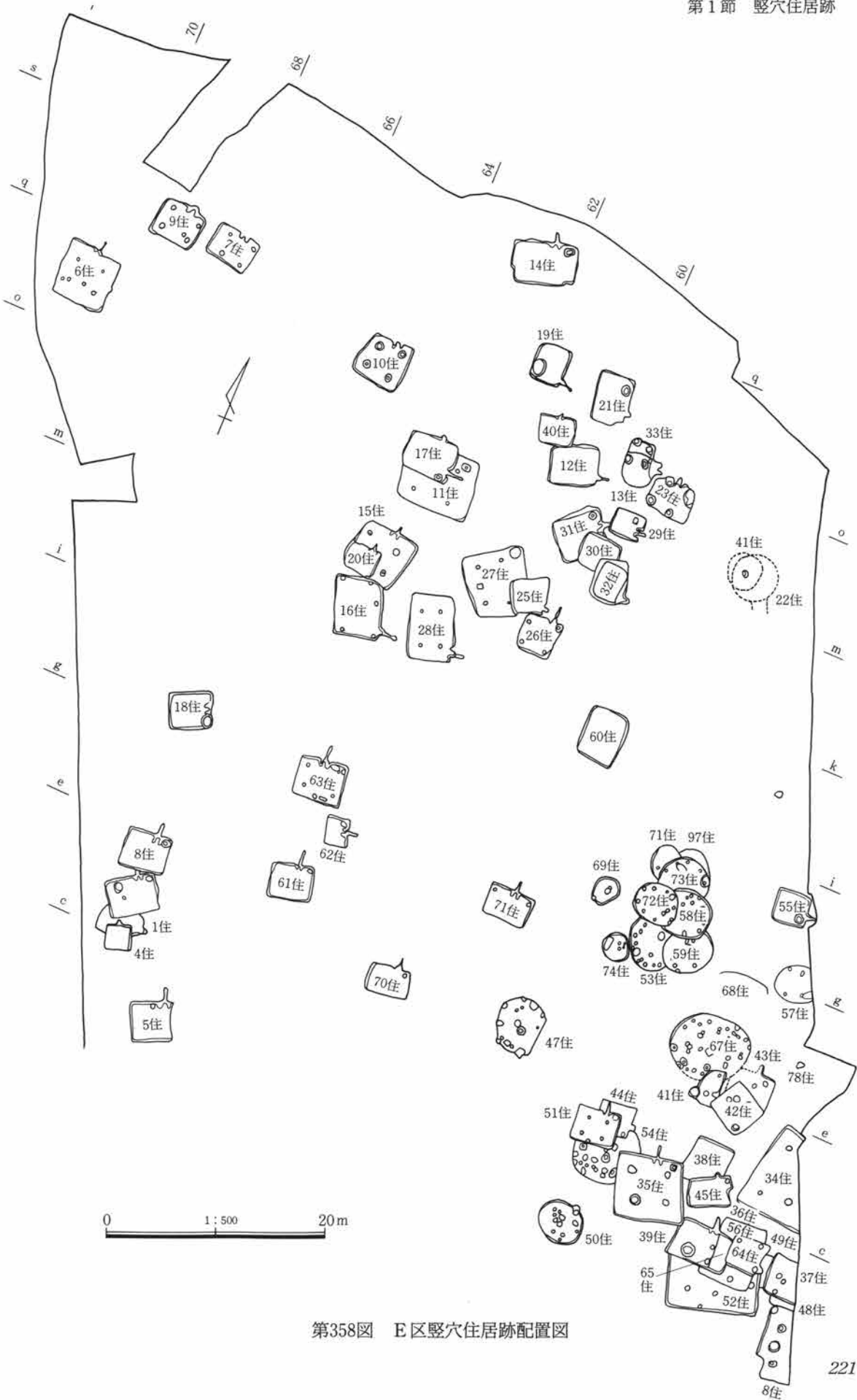
E区住居竈及び炉計測値一覧表

住居番号	竈及び炉燃焼部位置	燃焼部計測値(cm)			煙道部計測値(cm)		煙道口(cm)		袖		備考
		長さ	幅	深さ	長さ	幅	高さ	角度	有無	状況	
1号	東壁壁外	40.0	40.0	26.0	30.0	19.0	18.0	41	○	地山掘り残し、炊き口部石組	かまど前に礫出土
2号	北壁住居内	60.0	30.0	40.0	(50.0)	21.0	20.0	46	○	地山塊貼付	3号住居に煙道先端切られる
3号	北壁住居内	60.0	39.0	50.0	108.0	(25.0)	24.0	42	○	地山塊貼付	煙道部くり抜き、未崩落
4号	北壁住居内	34.0	30.0	25.0	15.0	17.0	16.0	44		炊き口石組	かまど前に礫出土
5号	北壁住居内	54.0	40.0	40.0	120.0	(24.0)	14.0	20	○	地山塊貼付、炊き口部石組	煙道部くり抜き、未崩落
6号	北壁壁中	40.0	50.0	30.0	110.0	11.0	18.0	44	○	地山塊貼付	
7号	北壁住居内	60.0	36.0	20.0	26.0	(16.0)	13.0	45	○	袖石	
8号	未確認										
9号	北壁住居内	42.0	38.0	36.0	24.0	16.0	16.0	70	○	炊き口石組、加工砂岩	かまど前天井石崩落
10号	北壁住居内	50.0	30.0	32.0	—	—	—	—	○	炊き口石組、加工砂岩	左袖前天井石崩落
11号	未確認										
12号	南東隅壁外	40.0	20.0	31.0	65.0	(22.0)	—	—			煙道部水平方向くり抜き
13号	東壁壁外	24.0	36.0	—	—	—	—	—			火床面のみ検出
14号	北壁壁中	40.0	48.0	42.0	94.0	26.0	18.0	70	○	炊き口石組、地山塊貼付	
15号	北壁住居内	54.0	42.0	26.0	98.0	24.0	14.0	45	○	地山塊貼付	煙道部部分的未崩落
16号	東壁壁外	50.0	47.0	31.0	115.0	(20.0)	17.0	11			煙道部水平方向くり抜き
17号	東壁住居内	54.0	43.0	50.0	114.0	(20.0)	32.0	65	○	全体石組北かまどは壁外(古)	廃棄時の状態で遺存
18号	東壁住居内	79.0	31.0	34.0	74.0	19.0	20.0	47	○	炊き口石組、加工砂岩	右袖前天井石崩落
19号	南東隅壁外	64.0	49.0	31.0	77.0	(18.0)	—	—			煙道部水平方向くり抜き
20号	北壁住居内	50.0	40.0	34.0	102.0	24.0	14.0	41	○	地山塊貼付	
21号	東壁壁外	48.0	44.0	35.0	86.0	(18.0)	18.0	25			煙道部未崩落煙出部礫出土
22号	中央部									石囲い炉	埋設土器
23号	北壁住居内	40.0	44.0	36.0	70.0	24.0	22.0	32		地山塊貼付	
24号	南東隅壁外	44.0	44.0	36.0	58.0	(28.0)	—	—		炊き口袖石	煙道部水平方向くり抜き
25号	南東隅壁外	54.0	40.0	23.0	—	—	—	35	○	右袖地山塊貼付	
26号	北壁住居内	65.0	48.0	32.0	102.0	(16.0)	19.0	23	○	炊き口石組	煙道部天井未崩落煙出し壺
27号	未確認										
28号	南東隅壁外	64.0	42.0	25.0	86.0	(13.0)	—	—	○	地山掘り残し、袖石	煙道部水平方向くり抜き
29号	東壁住居内	50.0	39.0	32.0	85.0	22.0	20.0	53	○	地山塊貼付	
30号	未確認										
31号	東壁住居内	46.0	32.0	30.0	—	52.0	20.0	60	○	地山塊貼付	
32号	東壁壁外										火床面のみ確認
33号	東壁壁外	32.0	36.0	4.0	38.0	20.0	—	—			
34号	未確認										
35号	北壁住居内	48.0	40.0	41.0	120.0	(22.0)	12.0	64	○	地山塊貼付	煙道部未崩落



第3章 検出された遺構と遺物

36号	東壁壁外	30.0	48.0	19.0	36.0	30.0	12.0	24			
37号	未確認										
38A号	東壁壁外	60.0	38.0	22.0	—	—	—	—	炊き口袖石	38B号住居跡北壁住居内 煙道部未崩落煙出し礫出土	
39号	北壁住居内	40.0	26.0	40.0	126.0	34.0	8.0	25	○ 地山塊貼付		
40号	北壁壁中	52.0	34.0	40.0	—	—	—	—	○ 炊き口袖石地山塊貼付		
41号	未確認										
42号	未確認										
43号	未確認										
44号	東壁壁外	100.0	52.0	24.0	—	—	—	—	炊き口石組		
45号	北壁壁外	50.0	40.0	10.0	—	—	—	—			
46号	中央								埋甕炉		
47号	ほぼ中央								石囲い炉		
48号	未確認										
49号	未確認										
50号	中央								石囲い炉		
51号	北壁壁外	36.0	40.0	22.0	99.0	18.0	22.0	40	○ 地山塊貼付		
52号	未確認										
53号	中央北寄り								石囲い炉		
54号	中央南寄り								石囲い炉		
55号	東壁壁外	82.0	52.0	40.0	36.0	26.0	20.0	33	○ 炊き口石組地山掘り残し	煙道部石組み	
56号	東壁住居内	68.0	50.0	26.0	77.0	24.0	14.0	43	○ 袖の痕跡のみ確認		
57号	中央東寄り								石囲い炉、埋甕炉		
58号	中央								石囲い炉		
59号	中央北寄り								石囲い炉		
60号	東壁壁外	56.0	48.0	42.0	64.0	24.0	16.0	29			
61号	北壁住居内	36.0	32.0	36.0	132.0	23.0	22.0	67	○ 地山塊貼付		
62号	東壁住居内	36.0	30.0	29.0	70.0	22.0	20.0	42	○ 炊き口石組地山塊貼付		
63号	北壁住居内	50.0	36.0	42.0	150.0	(24.0)	17.0	62	○ 地山塊貼付	煙道部くり抜き、未崩落	
64号	北壁壁外	50.0	40.0	5.0	—	—	—	—	炊き口石組？		
65号	欠番										
66号	住居形不明								埋甕炉		
67号	中央								2基の石囲い炉		
68号	中央								石囲い炉		
69号	中央								石囲い炉		
70号	北壁住居内	50.0	50.0	24.0	130.0	25.0	12.0	75	○ 地山塊貼付		
71号	北壁住居内	36.0	44.0	40.0	140.0	(18.0)	16.0	73	○ 炊き口石組地山塊貼付	廃棄時の状態で遺存	
72号	未確認										
73号	中央								石囲い炉？		
74号	未確認										
75号	住居形不明								石囲い炉埋甕炉		
76号	未確認										
77号	未確認										
78号	住居形不明								埋甕炉		



第358図 E区竪穴住居跡配置図

## 第2節 掘立柱建物跡

### 1. DN・E区掘立柱建物跡の概要

当遺跡における掘立柱建物跡は、2号溝を挟み西側に5棟と遺跡中央部から東寄りの部分に23棟集中して検出された。また、E区6号掘立柱建物跡の東側では多数のピット群が検出され、更に東側に掘立柱建物跡群が展開すると考えられる。

掘立柱建物跡は、主軸方位や柱穴覆土中に含まれるAs-Bの量等に共通性が見られる一群とAs-Bを僅かに含み、主軸方位や柱穴規模等にばらつきの見られる掘立柱建物跡群とに大別できる。

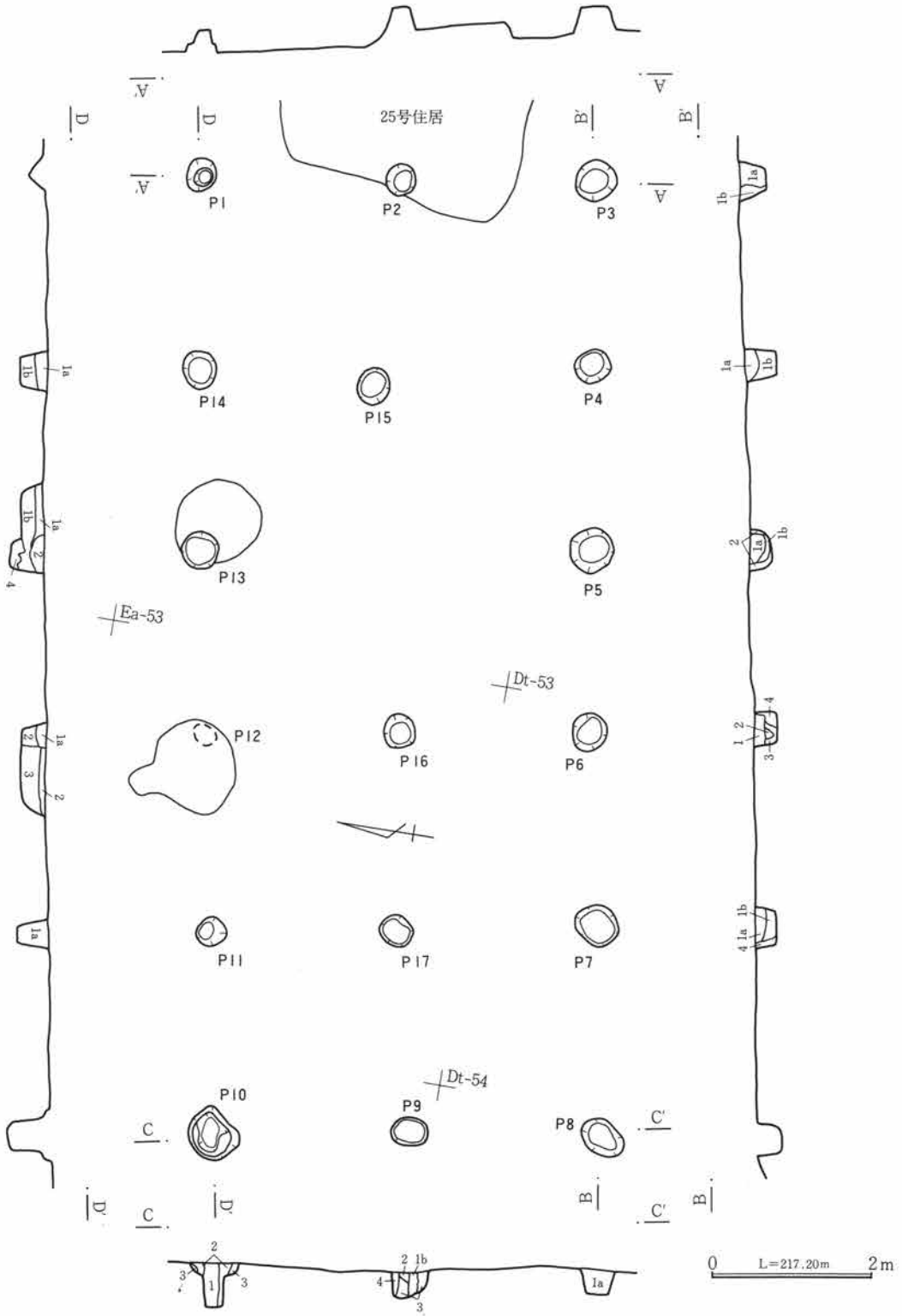
共通性が見られる掘立柱建物跡群は、主軸方位が $N-80^{\circ}(\pm 2^{\circ})-E$ に傾く掘立柱建物跡と $N-10^{\circ}(\pm 2^{\circ})-W$ に傾く掘立柱建物跡があり両者は直交する。また、これらの掘立柱建物跡柱穴規模は20cm～30cmの円形を呈し、覆土中にAs-Bを多量に含む。代表的掘立柱建物跡はDN区1号掘立柱建物跡と同区8号掘立柱建物跡の5間×2間の大型掘立柱建物跡及び総柱の掘立柱建物跡であるDN区7号掘立柱建物跡とE区7号掘立柱建物跡等がある。

その他の掘立柱建物跡は、柱穴覆土中にAs-Bに似た白色軽石が僅かに見られる程度か、または基本土層IV層を主体とした埋没土にVI層塊が混じる点で共通性が見られるが、主軸方位については上記の掘立柱建物跡群と同一方位を持つものもあるが、全体にはばらつきが見られる。代表的掘立柱建物跡は、2号溝と主軸方位の一致するE区8号掘立柱建物跡や柱穴規模が50cm～60cmと大きい掘立柱建物跡であるDN区2号掘立柱建物跡がある。DN区2号掘立柱建物跡は、主軸方位が $N-10^{\circ}-W$ と共通性のある一群と近似するが、覆土中に含まれるAs-Bらしき白色軽石は微量であり、基本土層IV層を主体とした埋没土が見られる。また1号掘立柱建物跡と重複関係にあり、覆土から1号掘立柱建物跡に先行する掘立柱建物跡と考えられる。

遺跡地西辺部で検出された2号溝は、本調査区から更に南に延び上信電鉄線路南のDS区において直角に曲がる事が確認されている。覆土中には明瞭なAs-Bは確認されなかったが底面付近より、青磁破片が出土しており、中世以降掘削され機能していたと考えられる。掘立柱建物跡との関係は、主軸方位や柱穴覆土中に見られる含有物等から2号溝との同時性が考えられる。

2. DN区掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡 (PL.17)



- |                           |                       |
|---------------------------|-----------------------|
| 1a 黒褐色土 しまり弱い。            | 3 黒褐色土 小礫、黄褐色土塊を少量含む。 |
| 1b 黒褐色土 1a層に似る。黄色土粒僅かに含む。 | 4 暗黄褐色土 褐色土塊を少量含む。    |
| 2 暗褐色土 小礫、黄褐色土塊を含む。       |                       |

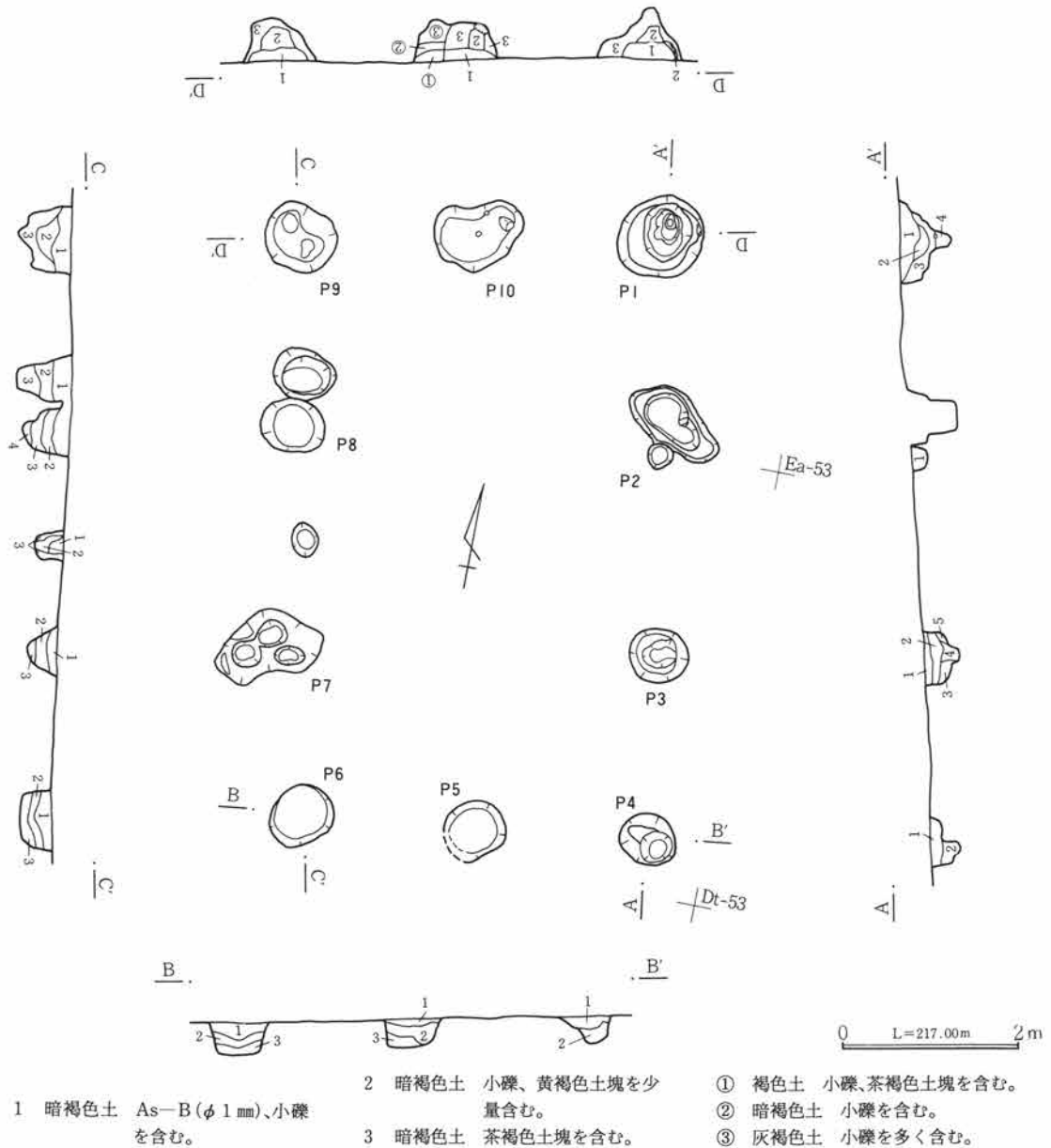
第359図 DN区1号掘立柱建物跡

第3章 検出された遺構と遺物

2間×5間大型の掘立柱建物跡である。柱間はおおよそ2mを測る。柱穴No.16の柱は束柱と考えられる。柱穴は30~40cmの規模で円形を呈し、覆土中には多量のAs-Bを含み締まりは弱い。柱穴中には部分的に10cm程の柱痕が確認されている。重複は、2号掘立柱建物跡と西側部分で直角に交わり、25号住居跡やAs-B混土の土坑を掘り込み作られる。

2号掘立柱建物跡 (PL.18)

柱穴規模が長辺50~70cm、深さ40cm前後を測り、検出された掘立柱建物跡の中で最大である。柱穴掘り方は円形を呈する。柱間は1.5mを測るが、桁行き中央部は2mとやや広い。重複は、1号掘立柱建物跡と南半分で直交気味に交わる。柱穴覆土中には僅かにAs-Bらしき軽石が見られる。



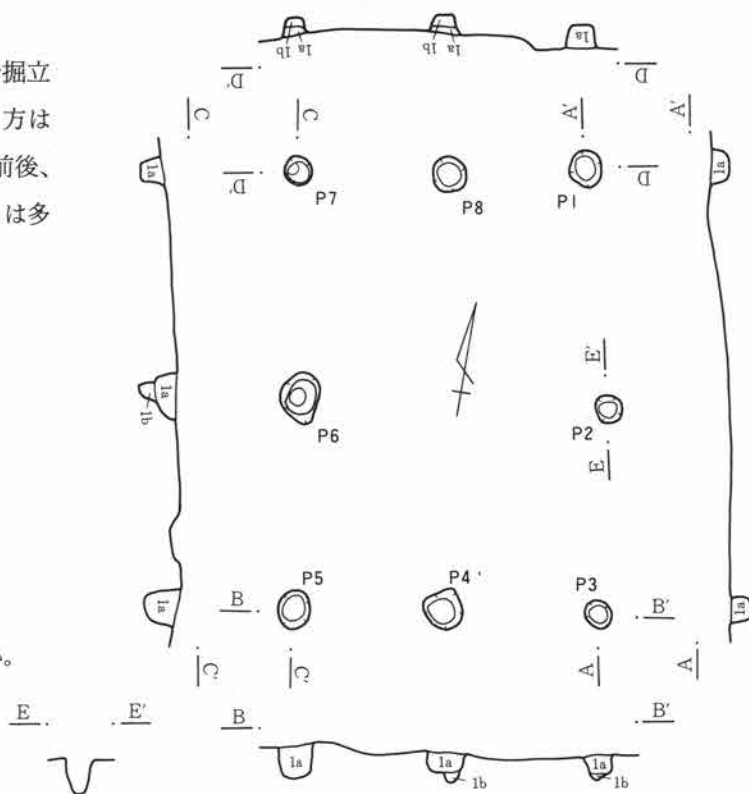
第360図 DN区2号掘立柱建物跡

3号掘立柱建物跡 (PL.18)

小規模な掘立柱建物跡であり、1号掘立柱建物跡と至近距離にある。柱穴掘り方は円形を呈する。柱間は桁行き側1.8m前後、梁間側1.2m前後を測る。柱穴覆土中には多量のAs-Bを含み締まりは弱い。

- 1a 黒褐色土 As-Bを多く含む。しまり弱い。
- 1b 黒褐色土 As-B、黄色土粒を少量含む。

0 L=216.80m 2m



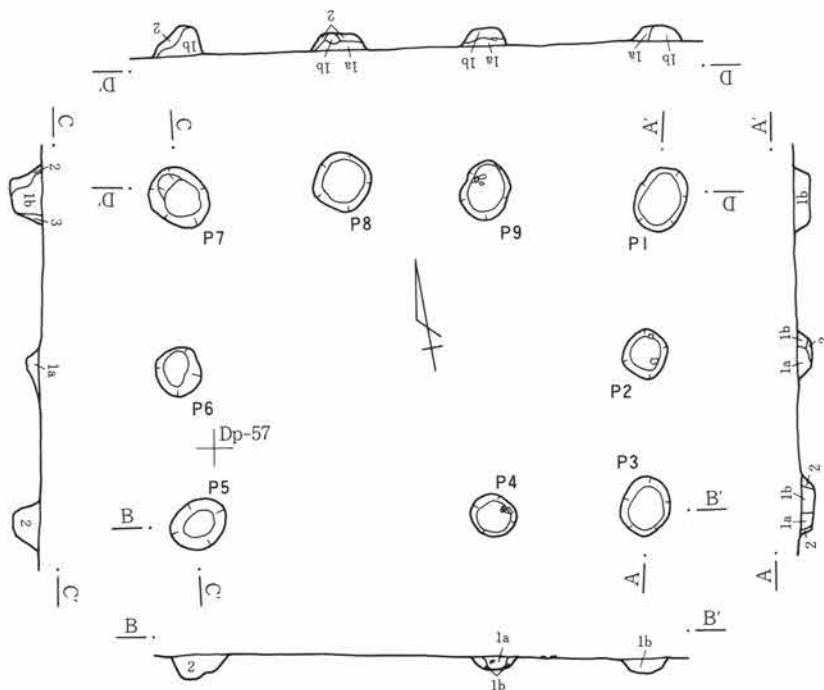
第361図 DN区3号掘立柱建物跡

4号掘立柱建物跡 (PL.18)

掘立柱建物跡群南端部に位置し、柱間は各辺1.2m前後を測り均一に配置される。南側の桁行きの柱が1間抜ける。柱穴掘り方は円形を呈する。重複は11号住居と西辺で重なるが、柱穴の切り合いはない。覆土中には砂礫混じる、As-Bは見られない。

- 1a 黒褐色土 As-B、小礫を含む。
- 1b 黒褐色土 小礫を少量含む。
- 2 褐色土 小礫、黄色土少量含む。
- 3 暗褐色土 褐色土塊を含む。

0 L=216.80m 2m



第362図 DN区4号掘立柱建物跡

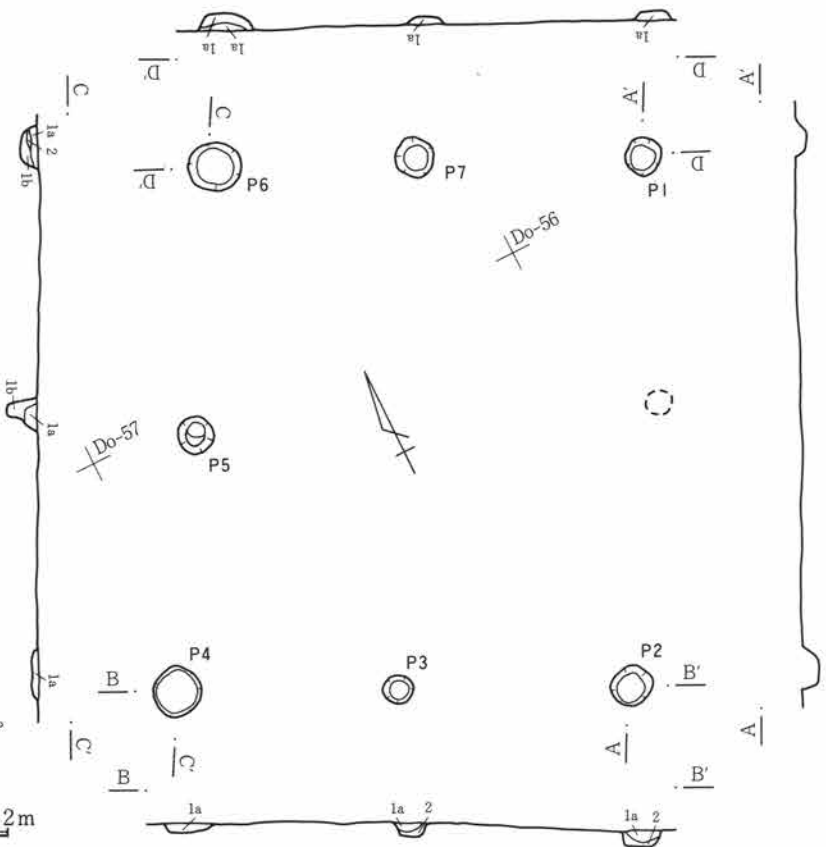
第3章 検出された遺構と遺物

5号掘立柱建物跡 (PL.19)

4号掘立柱建物跡南に位置し、柱穴の掘り込みの浅い掘立柱建物跡である。柱穴掘り方は円形を呈する。柱間は桁行き2m、梁間1.8mを測る。東辺の中央柱穴は14号住居内にあり、柱穴部分が他の覆土より若干黒色が強く、僅かに窪む程度であり不明瞭であった。覆土中には小砂礫を多く含み、As-Bは認められなかった。

- 1a 黒褐色土 As-B、小礫を多く含む。
- 1b 黒褐色土 小礫を含む。
- 2 黒褐色土 焼土粒、小礫を含む。

0 L=216.90m 2m



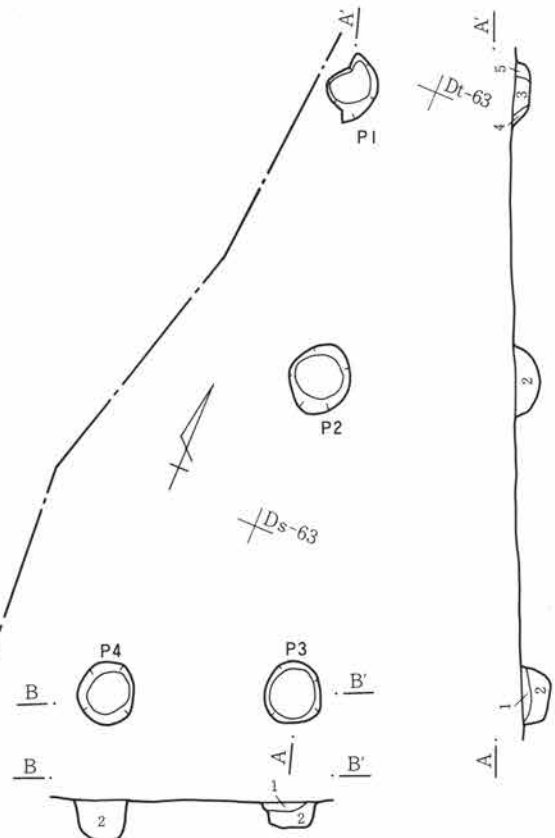
第363図 DN区5号掘立柱建物跡

6号掘立柱建物跡 (PL.17)

調査区西端に位置し、調査区外に遺構の大半が伸びるため南東隅部分のみの調査となった。東辺の柱間は2.5mを測り、南辺の柱間は1.5mを測る。柱穴掘り方は円形を呈する。重複は見られない。

- 1 暗褐色土 As-B、白色小礫を含む。
- 2 暗褐色土 小礫を含む。やや粘性。
- 3 褐色土 小礫を含む。しまり弱い。
- 4 暗褐色土 地山。
- 5 褐色土

0 L=217.10m 2m

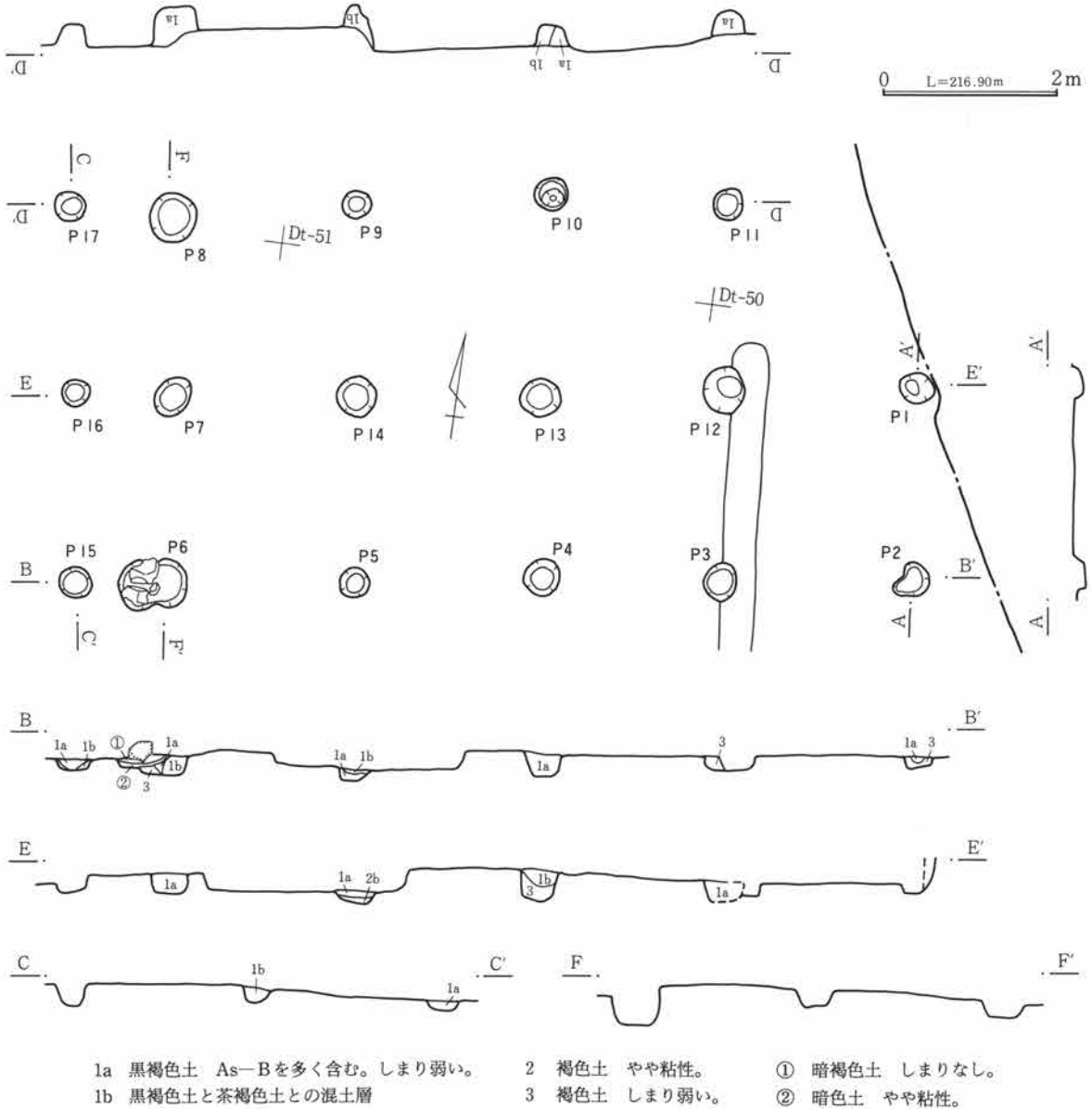


第364図 DN区6号掘立柱建物跡



7号掘立柱建物跡 (PL.19)

調査区東端に位置し、遺構は調査区外に伸びる可能性が考えられる。また1号掘立柱建物跡東南に位置し、1号掘立柱建物跡の南辺と本掘立柱建物跡の北辺は直線に並ぶ。柱間は1.6m前後を測り、均一となる総柱の掘立柱建物跡であり、東辺に庇を持つ。重複は、26号・27号・28号・29号住居を掘り込み作られる。柱穴掘り方は円形を呈する。覆土中にはAs-Bを多量に含み締まり弱い。

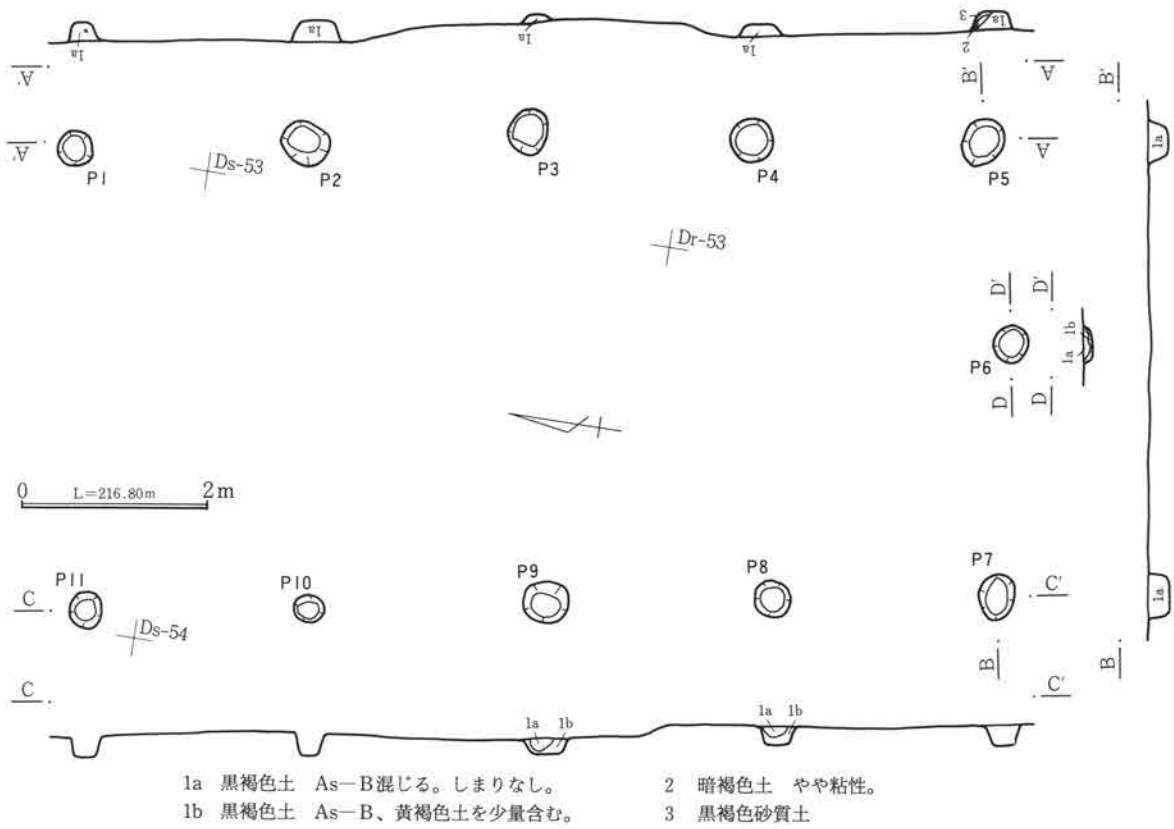


第365図 DN区7号掘立柱建物跡

8号掘立柱建物跡 (PL.17)

1号掘立柱建物跡南に位置し、西辺は直線で並び軸方位は直交する。また、このことから1号掘立柱建物跡との間の距離が柱間1間分に相当することから、柱を共有しL字形の1棟の建物の可能性が考えられる。重複は、3号溝を切る。柱間は桁行き1.8m、梁間1.8m及び2mを測る。柱穴掘り方は円形を呈する。覆土中には、As-Bを多量に含み締まり弱い。

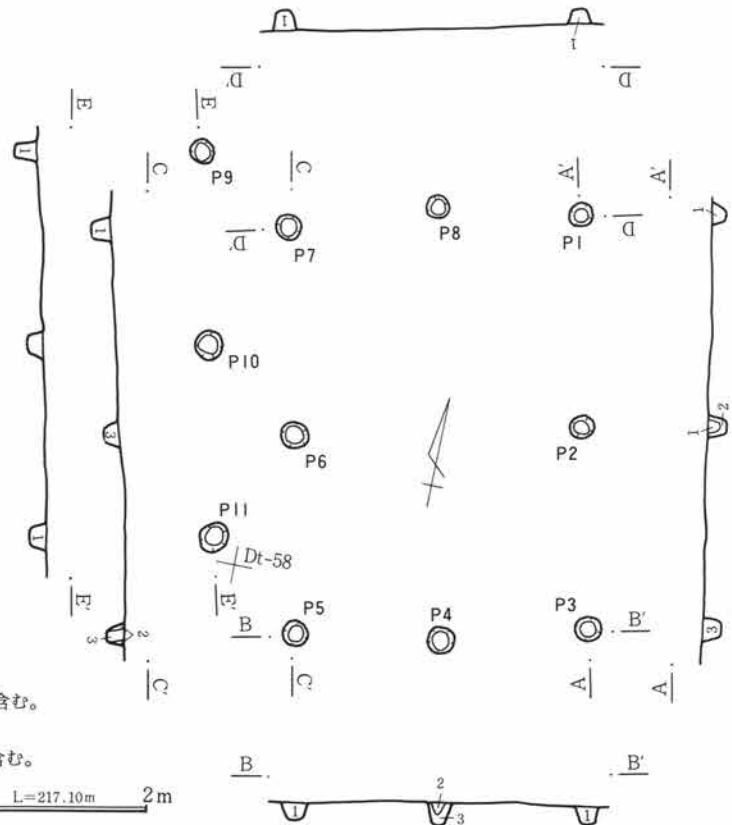
第3章 検出された遺構と遺物



第366図 DN区8号掘立柱建物跡

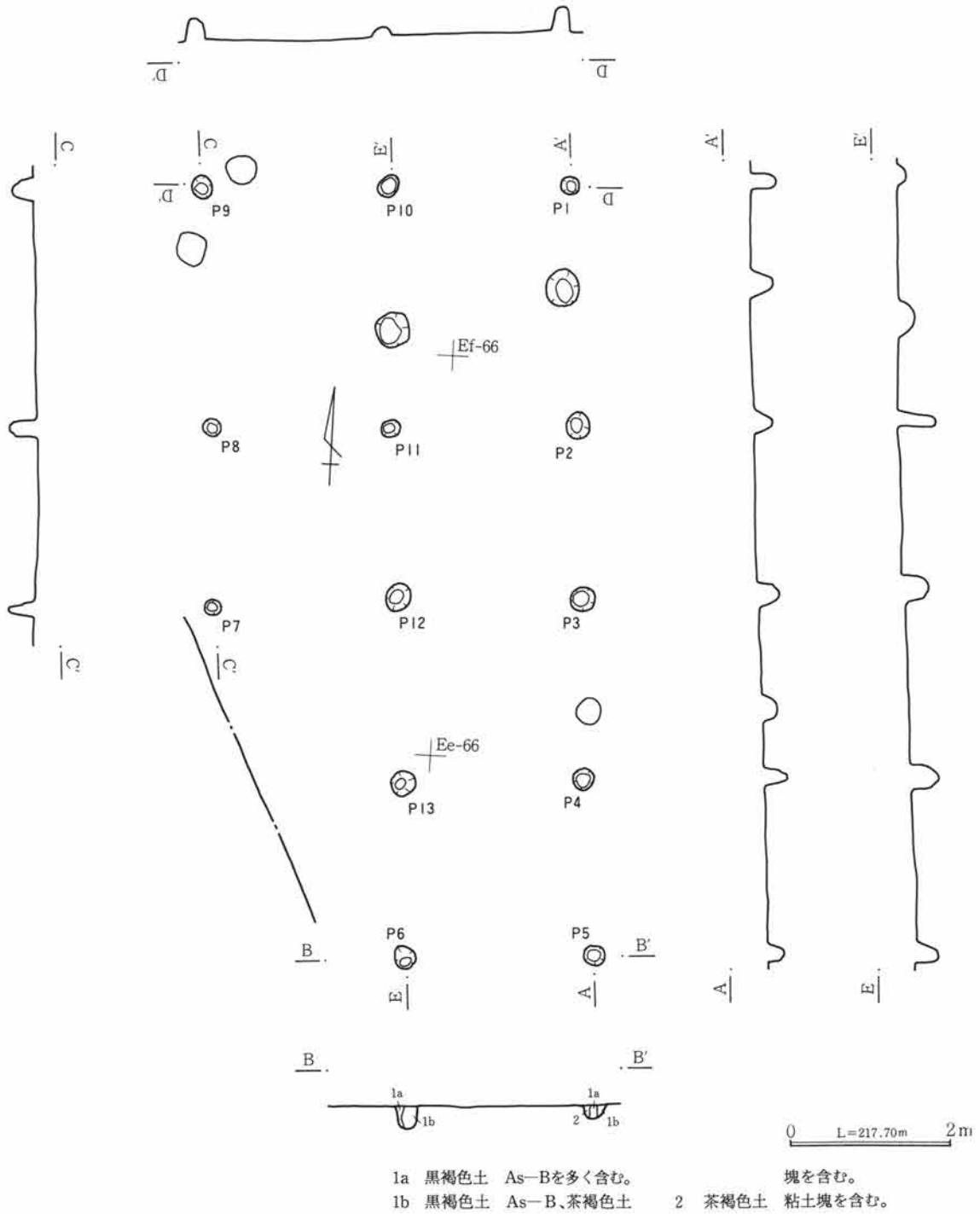
9号掘立柱建物跡 (PL.19)

2間×2間の長方形の掘立柱建物跡であり、西辺部の柱穴間と平行に2間の庇または柵列状の柱列を持つ。また梁間中央部の柱穴はやや外側につく。重複は無い。柱間は桁行き1.6m前後、梁間1.2m前後を測る。柱穴掘り方は円形を呈する。覆土中にはAs-Bを多量に含み縮まり弱い。



第367図 DN区9号掘立柱建物跡

3. E区掘立柱建物跡



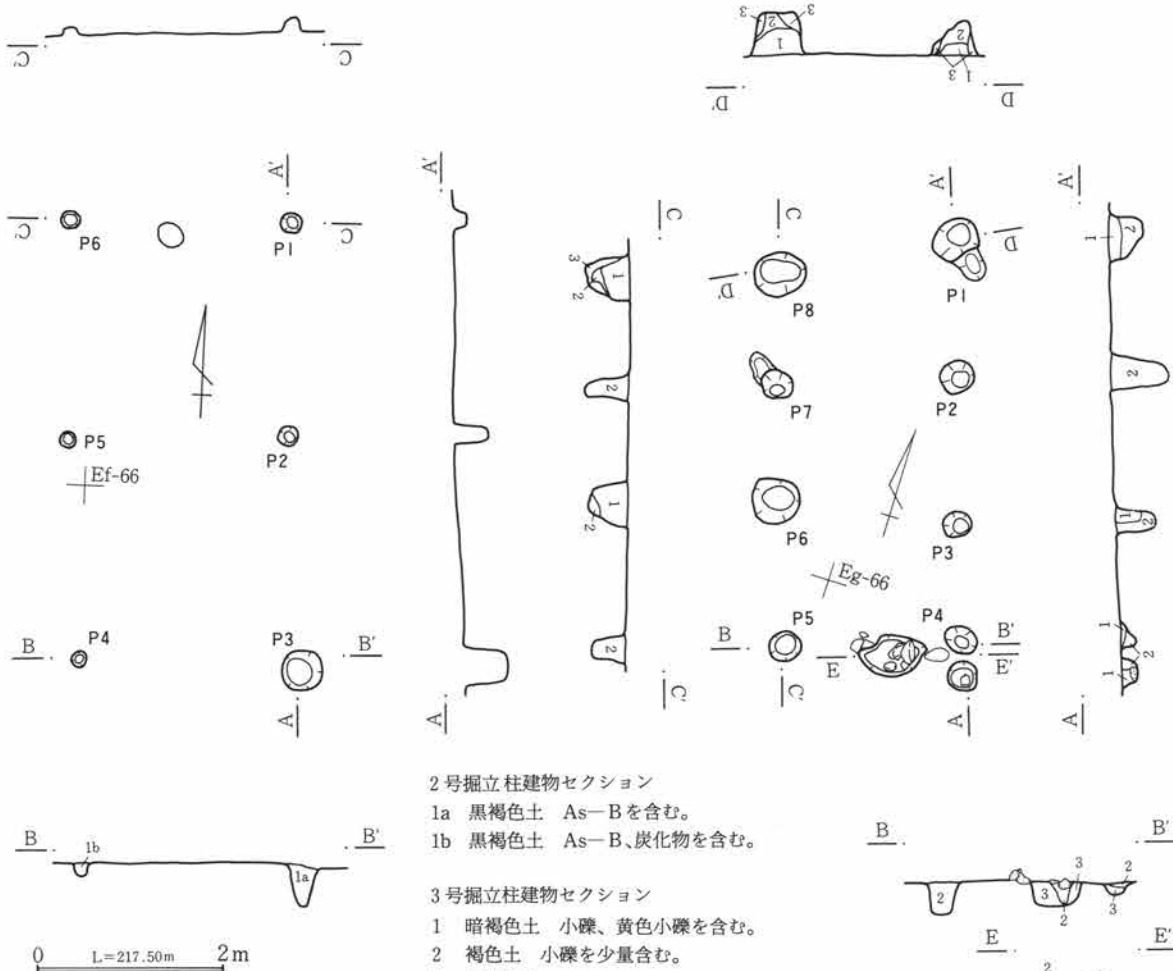
第368図 E区1号掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡 (PL. 72)

調査区西端に位置し路線外に南西コーナー部がかかる。2間×4間の総柱の掘立柱建物跡と考えられるが、柱間の間隔が北側桁行き1間が2.2mと広く、他の柱間が桁行き、梁間とも1.7m前後と均一な点からすれば2間×3間の総柱に2間の庇がつく掘立柱建物跡の可能性も考えられる。重複は2号・4号掘立柱建物跡と重なるが新旧関係は不明である。柱穴掘り方は円形を呈する。覆土中にはAs-Bを多量に含み締まり弱い。

2号掘立柱建物跡 (PL.73・145)

1号及び4号掘立柱建物跡と重複し、主軸方位のほぼ一致する1間×2間の掘立柱建物跡である。柱間は桁行き1.7m前後、梁間1.7mを測る。柱穴掘り方は円形を呈し、規模はNo.3を除き10cm程の小柱穴である。覆土中にはAs-Bを多量に含み締め弱い。



第369図 E区2号掘立柱建物跡

- 2号掘立柱建物セクション  
 1a 黒褐色土 As-Bを含む。  
 1b 黒褐色土 As-B、炭化物を含む。
- 3号掘立柱建物セクション  
 1 暗褐色土 小礫、黄色小礫を含む。  
 2 褐色土 小礫を少量含む。  
 3 灰褐色土

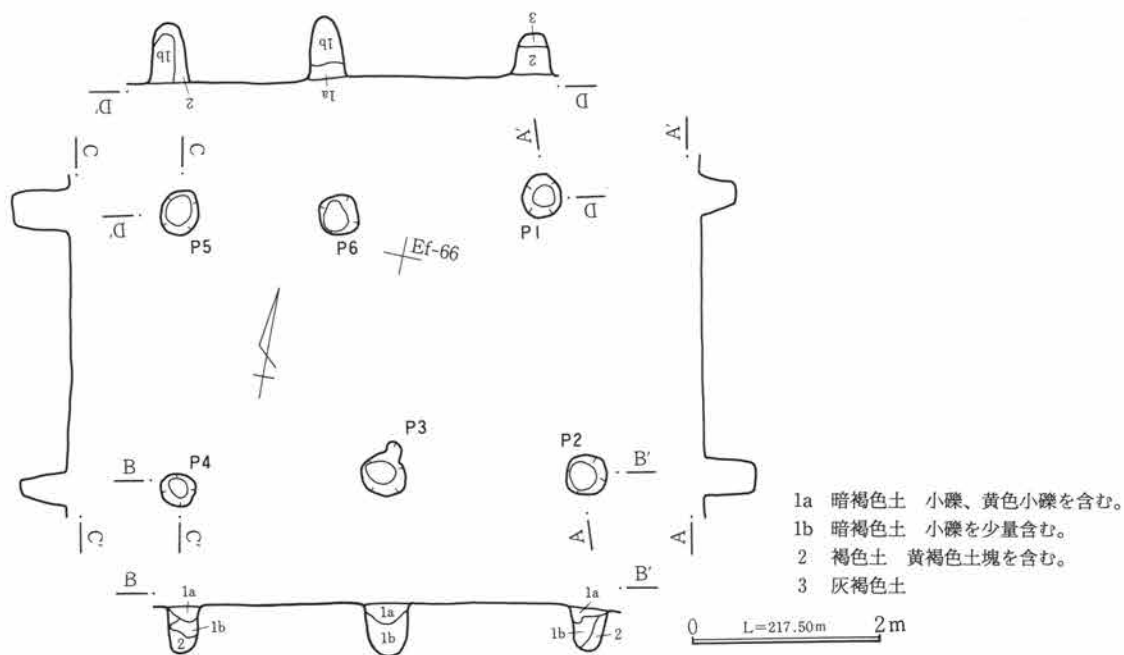
第370図 E区3号掘立柱建物跡

3号掘立柱建物跡 (PL.73・145)

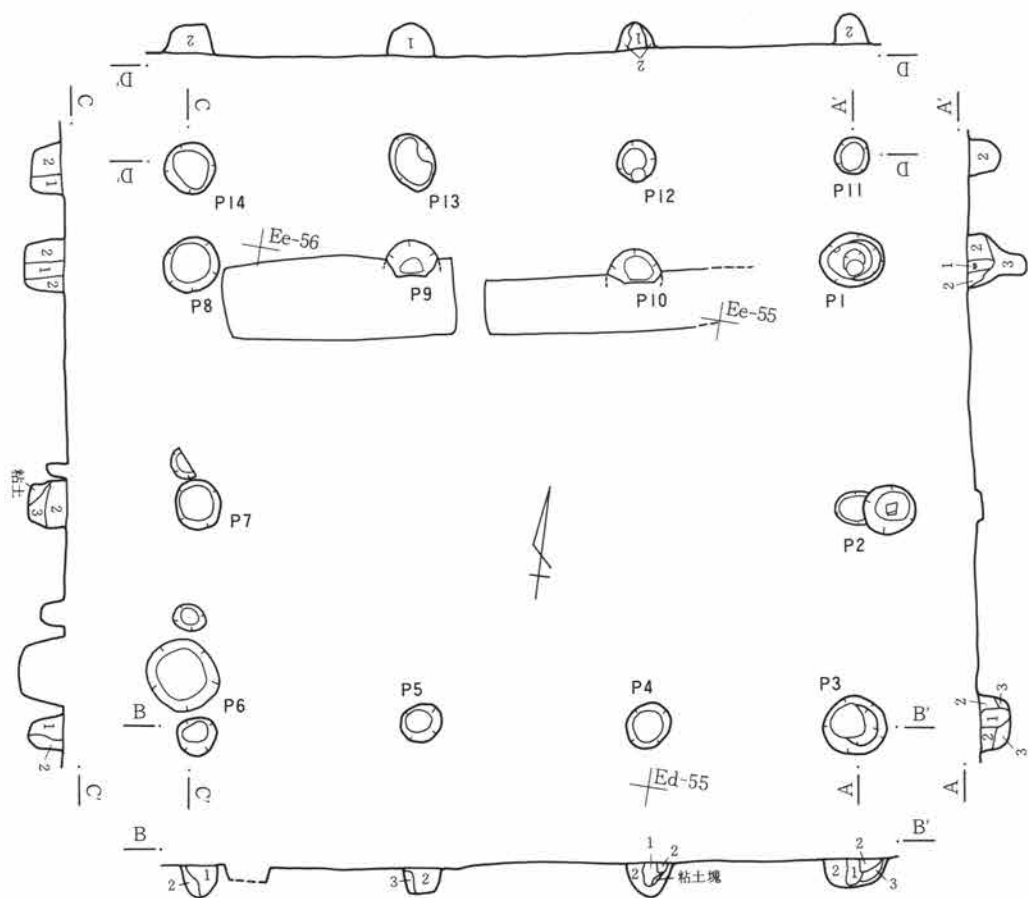
1号掘立柱建物跡の北に位置し、4号掘立柱建物跡と直交し、また2号溝と平行する位置関係にある。重複は無い。形状は1間×3間の長方形を呈し、柱間は桁行き1.2m、梁間1.5mを測る。柱穴掘り方は円形を呈し、覆土中にはAs-Bを多量に含み締め弱い。

4号掘立柱建物跡 (PL.73・145)

3号掘立柱建物跡及び2号溝と直交する。1号・2号掘立柱建物跡と重複するが新旧関係は不明である。柱間は桁行き1.6m、梁間2.1mを測り、形状は北辺のやや短い台形状を呈する。柱穴掘り方は円形を呈し、覆土中にはAs-Bを多量に含み締め弱い。



第371図 E区4号掘立柱建物跡



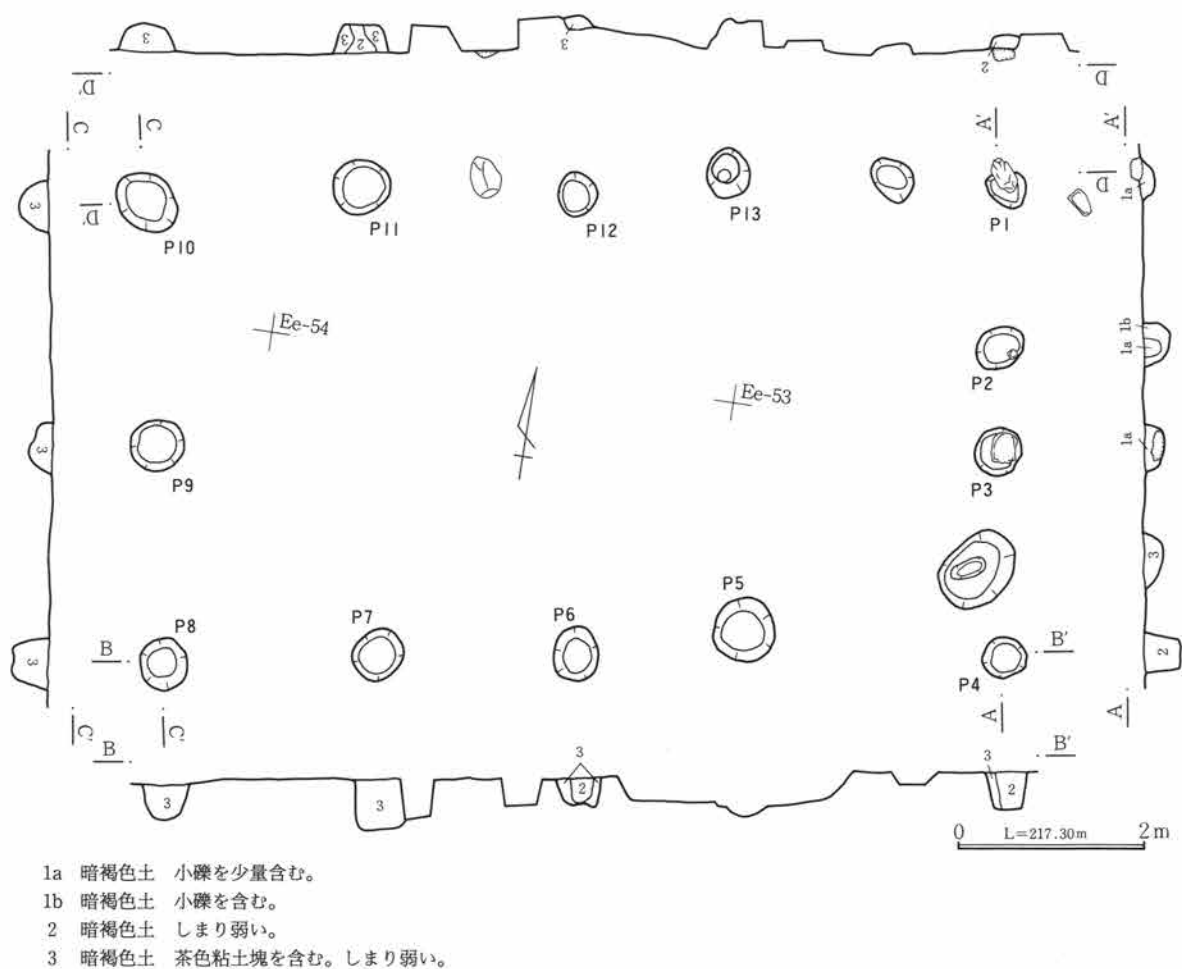
第372図 E区5号掘立柱建物跡

5号掘立柱建物跡 (PL, 74)

遺跡中央部微高地上に位置する。6号掘立柱建物跡と南辺がほぼ柱間が等間隔で直線的に並ぶため、調査当初は1棟の掘立柱建物跡と考えられたが、両掘立柱建物跡とも相対する梁間中央の柱穴が確認されたため別々の掘立柱建物跡とした。また、北辺に2間の庇がつく。重複無い。柱間は桁行き及び庇部分は1.8m、梁間1.8mを測り、庇部分との間は0.8mを測る。柱穴掘り方は円形又は隅丸形状を呈する。覆土中には、As-Bらしき白色軽石を若干含み、柱穴数本中に幅15cm前後の柱痕が認められた。

6号掘立柱建物跡 (PL, 74)

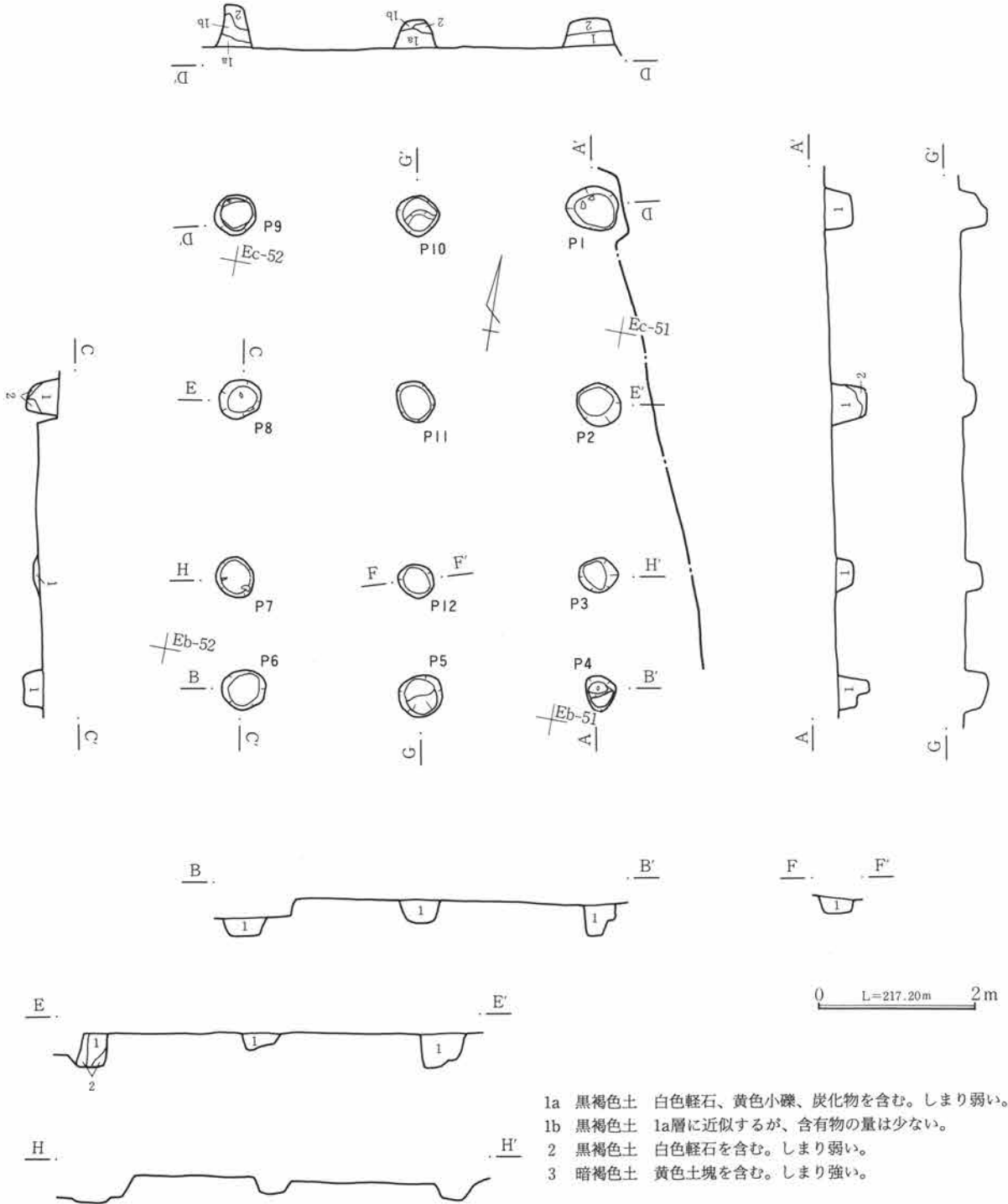
農耕用のトレーチャーにより攪乱を受けており底面の痕跡が僅かに残る柱穴もある。5号掘立柱建物跡と隣接し、15号掘立柱建物跡と重複するが切り合い等は無く新旧関係は不明である。規模は、桁行き4間、梁間2間と考えられるが、東辺では梁間3間となり中央1間が狭くなる。また北辺は5間を数える。柱間は西半分の桁行きは1.7mを測るが東半分はばらつく。梁間は西辺で南から1.8m、2mを測り、東辺では南から1.7m、0.8m、1.3mを測り、全長は同じとなる。柱穴掘り方は円形を呈する。覆土中にはAs-Bらしき白色軽石を若干含み、柱穴数本中に幅15cm前後の柱痕が見られた。



第373図 E区6号掘立柱建物跡

7号掘立柱建物跡 (PL.74)

調査区東端に位置し、調査区外に伸びる可能性も考えられる。重複は複数の奈良・平安時代の竪穴住居跡を掘り込んで作られており、覆土中に含まれるAs-Bの量と混土の黒色が強く柱穴の確認は容易であった。規模は、2間×2間の総柱の掘立柱建物跡であり、南辺に梁間と同規模の庇を持つ。柱間は桁行き及び梁間ともに1.7mを測り、形状は方形を呈する。庇までの距離は1mを測る。柱穴掘り方は円形を呈する。覆土中にAs-Bを多量に含み締まり弱い。

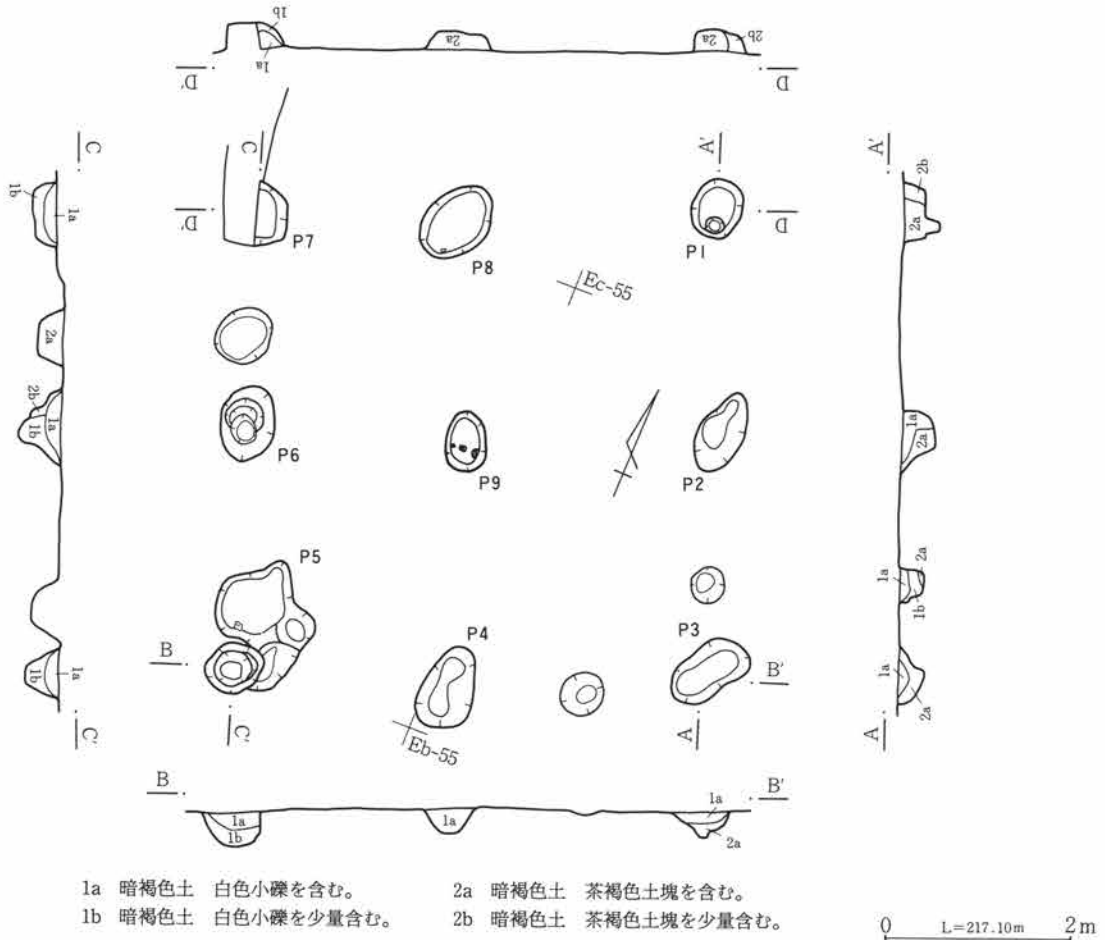


第374図 E区7号掘立柱建物跡



8号掘立柱建物跡 (PL.75)

主軸方位は2号溝と同一方位である。2間×2間の総柱の掘立柱建物跡であり、形状は方形を呈する。重複は51号・54号住居を掘り込み作られる。柱間は均一ではなく各辺中央の柱が一方に寄りそれぞれ広い。柱間は2m、狭い柱間は1.7mを測る。柱穴内に複数の掘り方を持つものもあり、建て替えが行われた可能性が考えられる。覆土中には、As-Bらしき白色軽石は認められなかった。



第375図 E区8号掘立柱建物跡

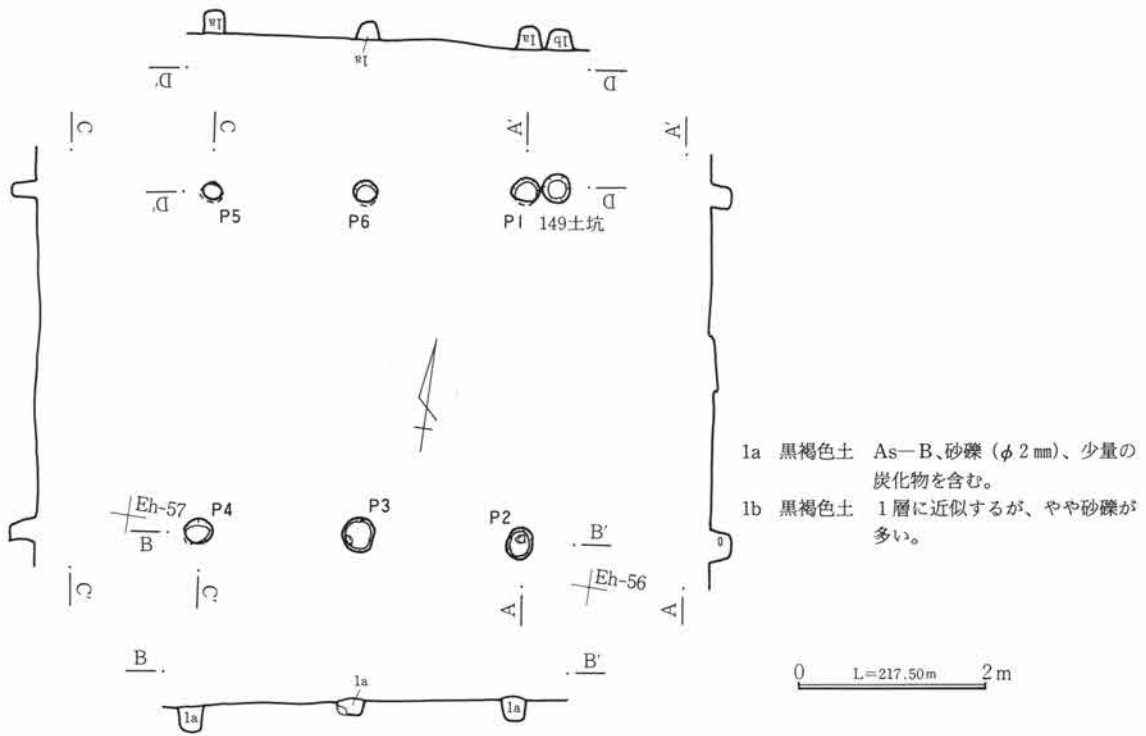
9号掘立柱建物跡 (PL.75・145)

掘立柱建物跡群北端部に位置する。重複は攪乱や複数の土坑・住居と重なる。規模は、桁行き1間(2.8m)、梁間2間(2.5m)を測る。しかし重複や攪乱等により桁行きの1間が2間の可能性も考えられる。柱間は梁間で1.2mを測る。柱穴掘り方は円形を呈し、覆土中にはAs-Bを多量に含み締め弱。

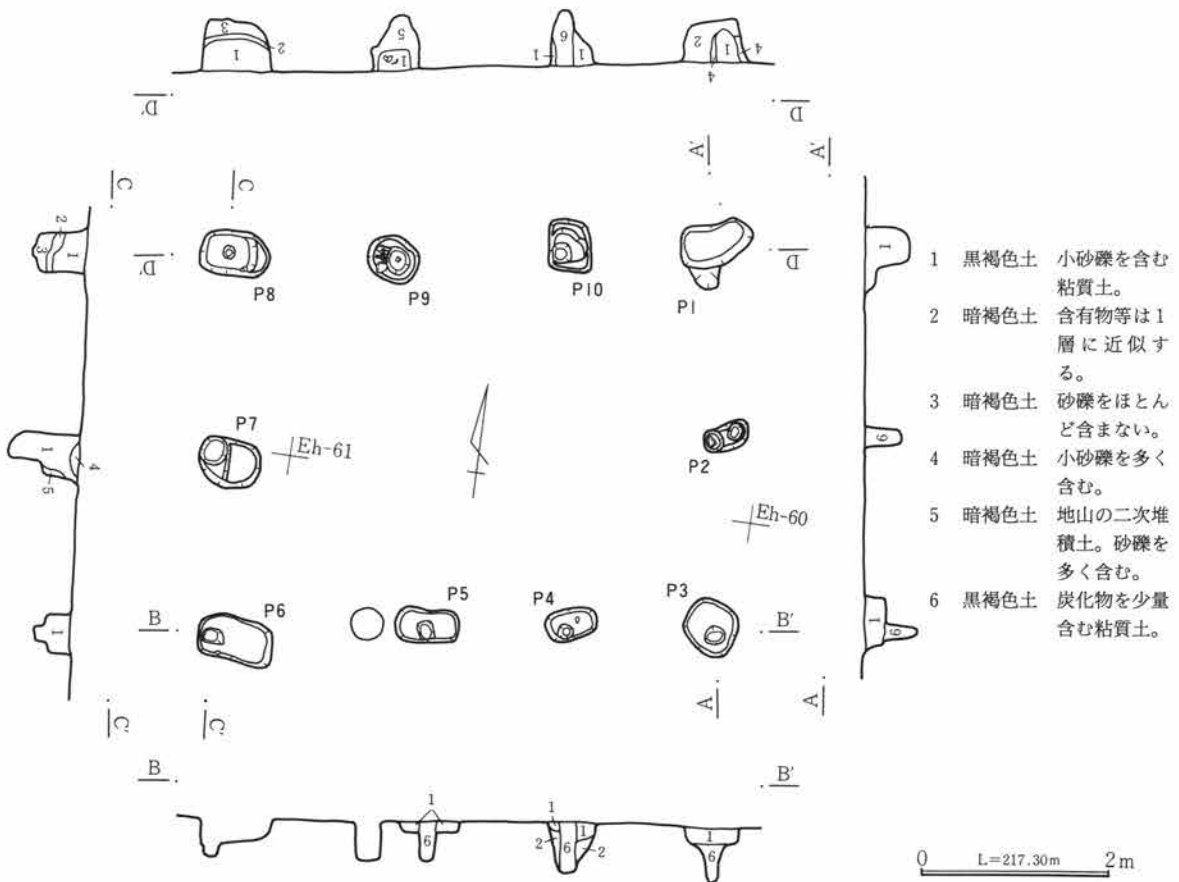
10号掘立柱建物跡 (PL.76・145)

掘立柱建物跡群北西隅に位置し、11号掘立柱建物跡と近接する。規模は2間×3間と一般的ではあるが、本掘立柱建物跡群の中で柱穴掘り方が唯一隅丸長形状を呈する掘立柱建物跡である。また柱穴中には約10cm程の柱痕が確認でき、各柱穴は柱痕部分のみが深く、打ち込まれたような状況が伺われる。柱間は桁行きでNa5とNa6の柱間が1.7mを測るが他の柱穴は1.2mを測る。梁間は1.5mを測る。柱穴覆土中には、As-Bは含まれない。

第2節 掘立柱建物跡



第376図 E区9号掘立柱建物跡

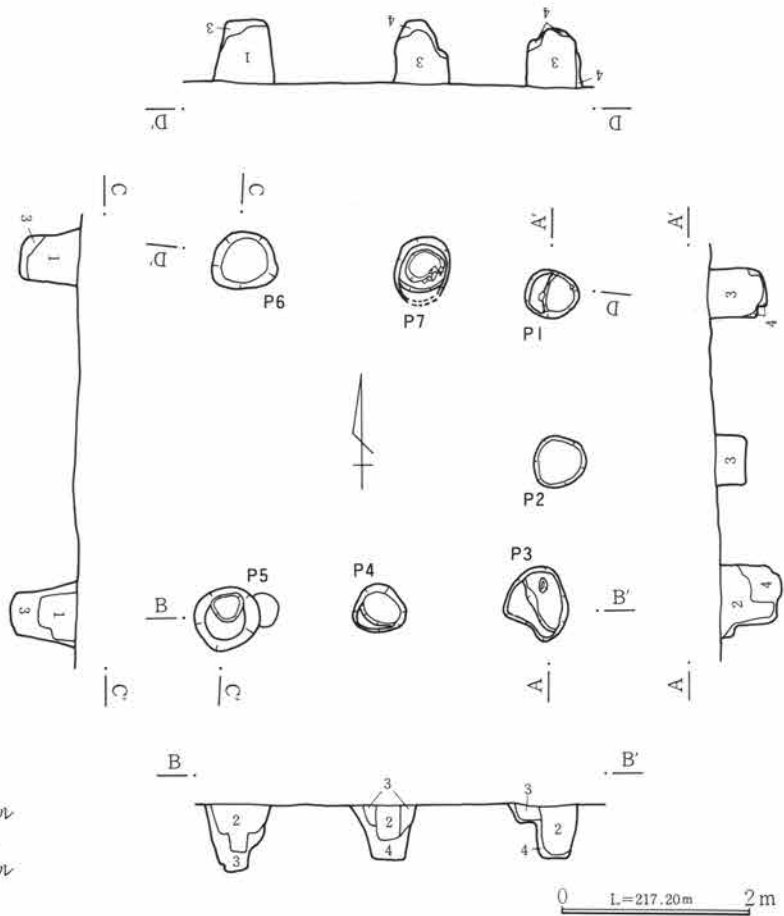


第377図 E区10号掘立柱建物

第3章 検出された遺構と遺物

11号掘立柱建物跡 (PL, 76・145)

10号・19号掘立柱建物跡に挟まれ、19号掘立柱建物跡とはほぼ同一方向に向く。西辺部分は1間で柱間がやや開く。他の柱間はほぼ1.2mを測り、方形に近い形状となる。柱穴掘り方は円形状を呈し、規模は全体に大きく長辺は50cm前後を測り、深さも50cm前後を測る。覆土中にはAs—Bは含まれない。

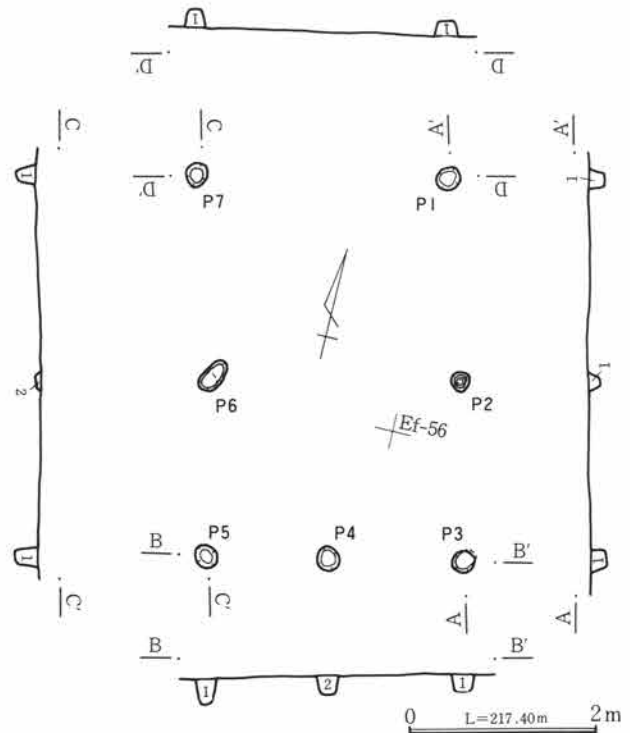


- 1 暗褐色土 砂礫を含む粘質土。
- 2 黒褐色土 砂礫を含まない粘質土。
- 3 黒褐色土 2層に近似するが、灰褐色シルト塊(φ10~20mm)を少量含む。
- 4 黒褐色土 3層に近似するが、灰褐色シルト塊をやや多く含む。

第378図 E区11号掘立柱建物跡

12号掘立柱建物跡 (PL, 77・145)

遺構の切り合いの激しい一角に位置し、周辺には小ピット群が見られる。重複は縄文住居である74号住居を掘り込み作られる。規模は、桁行き2間×梁間2間であるが、北側梁間は1間である。柱間は桁行き1.5m、南梁間は1mを測る。柱穴規模は、長辺20cm弱と小さく、掘り方は円形を呈する。覆土中には、As—Bを多量に含み締まり弱い。

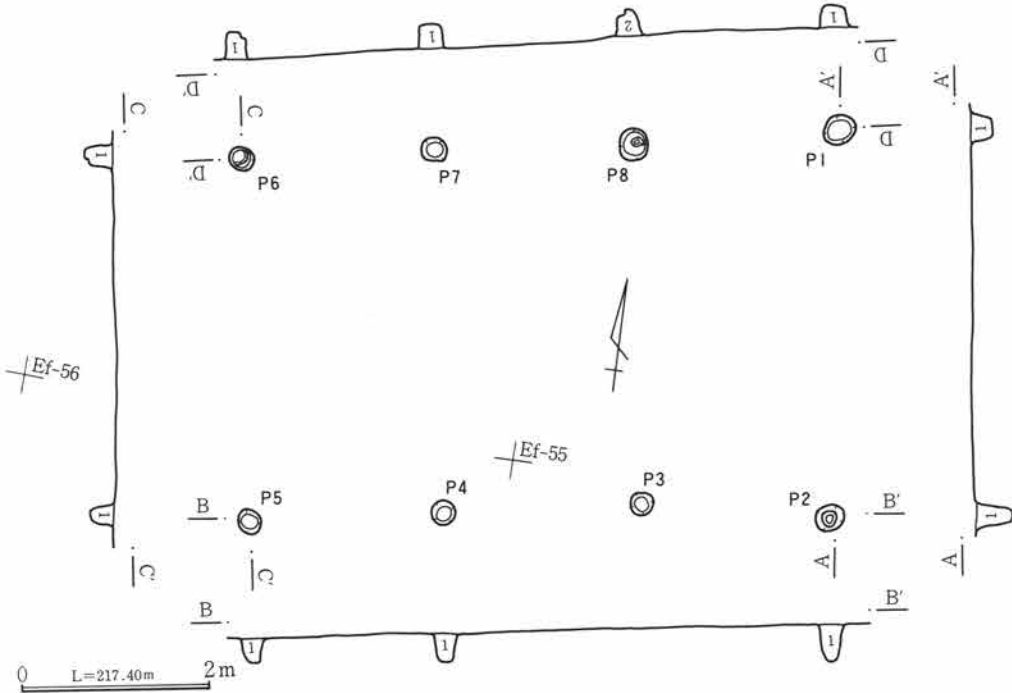


- 1 黒褐色土 As—B、小砂礫を含む。
- 2 黒褐色土 1層に近似するが、土色は褐色味がまざる。

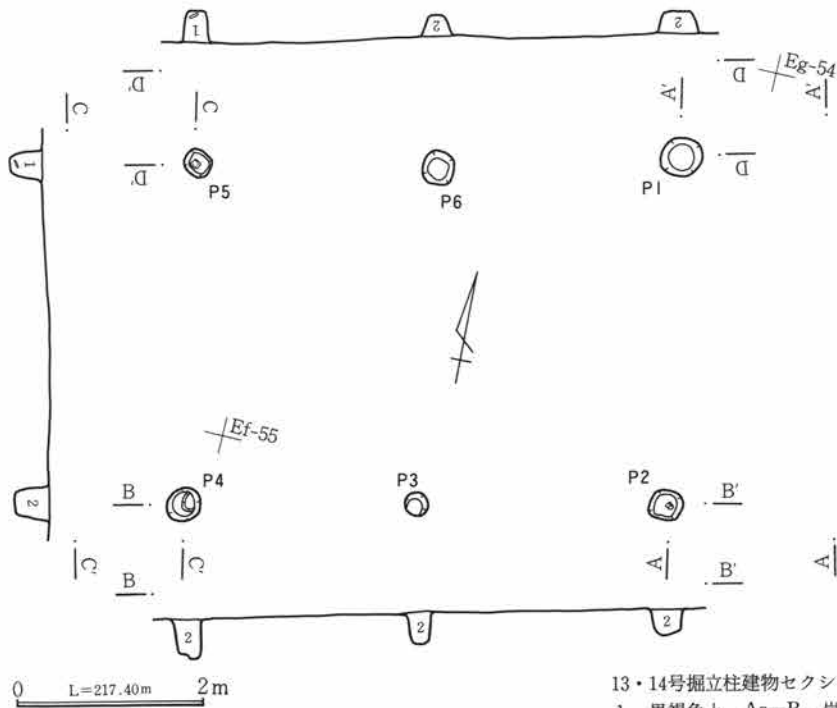
第379図 E区12号掘立柱建物跡

13号掘立柱建物跡 (PL. 77)

12号掘立柱建物跡の東側に隣接し、14号掘立柱建物跡と重複するが、切り合い関係は無い。また主軸方位や柱の規模や覆土中に含まれるAs-Bの量等は同じであり新旧関係は不明である。規模は、桁行き3間×梁間1間の長方形を呈する。柱間は桁行き1.5m、梁間3mを測り、桁行き2間分の梁間の長さである。柱穴掘り方は円形を呈する。覆土中にはAs-Bを多量に含み締め弱い。



第380図 E区13号掘立柱建物跡



第381図 E区14号掘立柱建物跡

14号掘立柱建物跡

(PL. 77)

13号掘立柱建物跡と重なるが新旧関係は不明である。規模は、桁行き2間×梁間1間の長方形を呈する。柱間は桁行き2m、梁間2.8mを測る。柱穴規模は、長辺25cm前後を測り、掘り方はやや隅丸方形に近い円形を呈する。覆土中にはAs-Bを多量に含み締めは弱い。

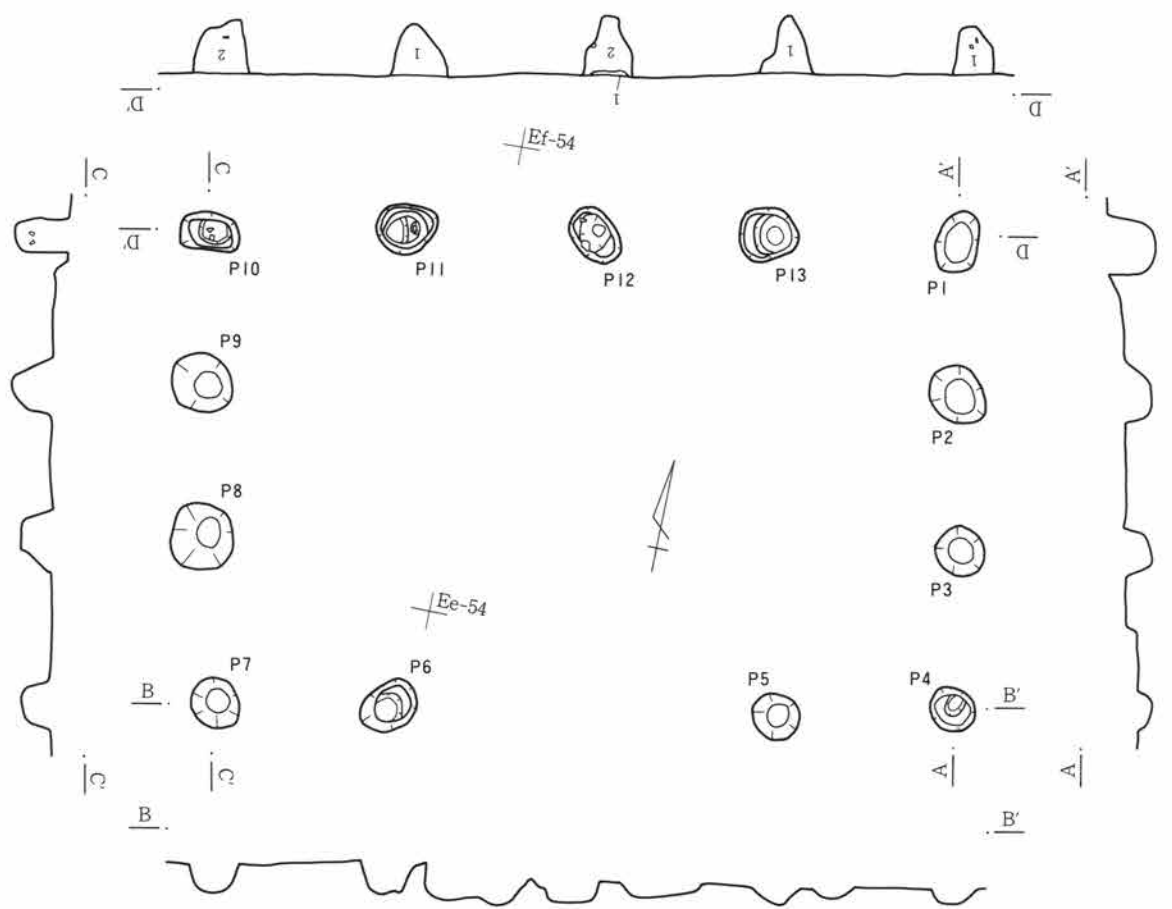
13・14号掘立柱建物セクション

- 1 黒褐色土 As-B、炭化物(φ2mm)を少量含む。
- 2 黒褐色土 1層に近似するが、砂礫(φ2~5mm)を少量含む。

15号掘立柱建物跡 (PL. 78)

調査当初、遺跡内中央部を東西に走る農道部分の下にあり、また農耕具による耕作痕により攪乱を受け、南辺部分の柱穴列が確認されたが掘立柱建物跡として認定できず、その後、農道切り換えの際に3間×4間の柱穴規模の大きい掘り方を持つ掘立柱建物跡となった。この周辺は縄文時代以降の竪穴住居跡や土坑・ピット群が激しく切り合っている部分でもある。

6号掘立柱建物跡と両者のほぼ中央部分で重なるが柱穴の切り合いは無く、主軸方位や柱穴規模及び覆土については近似する。柱間は、桁行き方向はほぼ1.5m、梁間方向は1.3m～1.4mを測る。柱穴掘り方は楕円形を呈し、覆土中にはAs-Bは認められなかった。



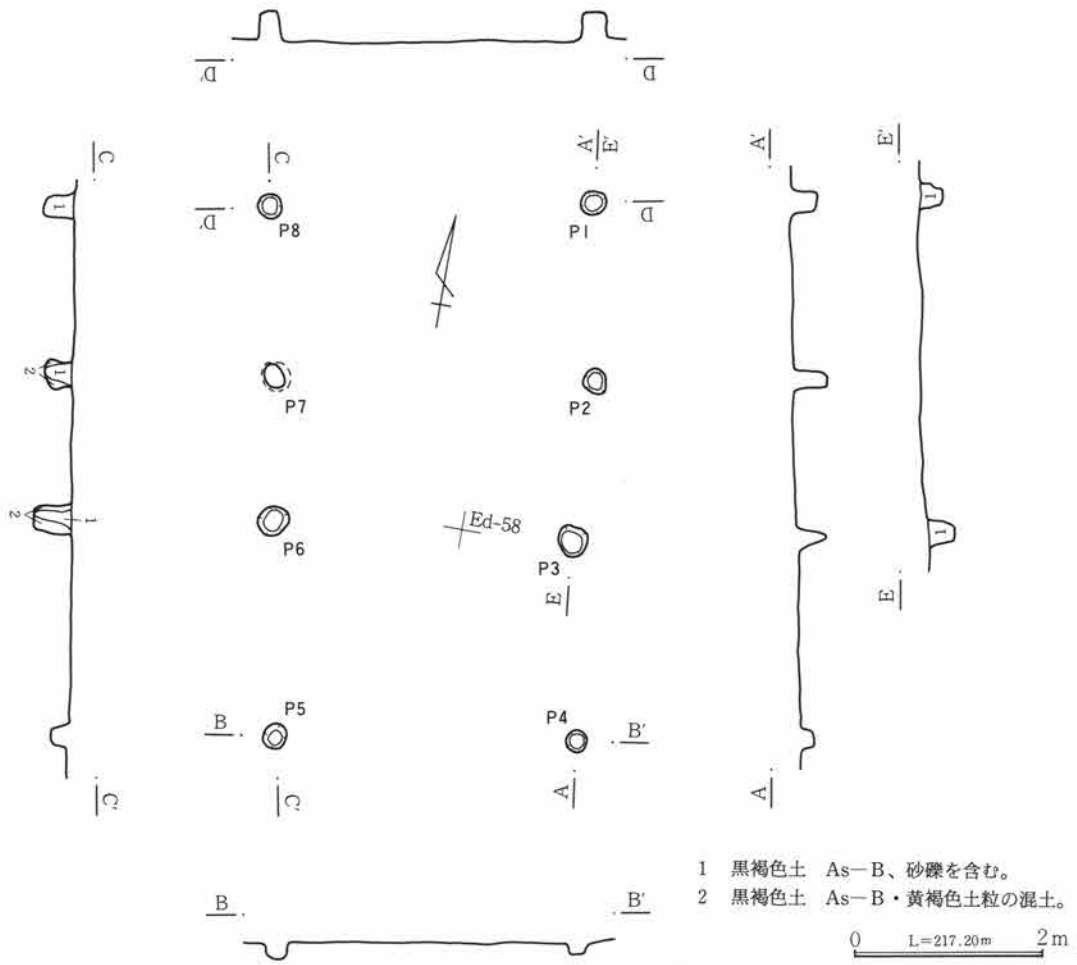
- 1 黒褐色土 砂礫(φ2mm)を少量含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土 含有物等は1層に近似する。
- 3 暗褐色土 2層に近似するが、焼土粒(φ2mm)を少量含む。

0 L=217.40m 2m

第382図 E区15号掘立柱建物跡

16号掘立柱建物跡 (PL. 78)

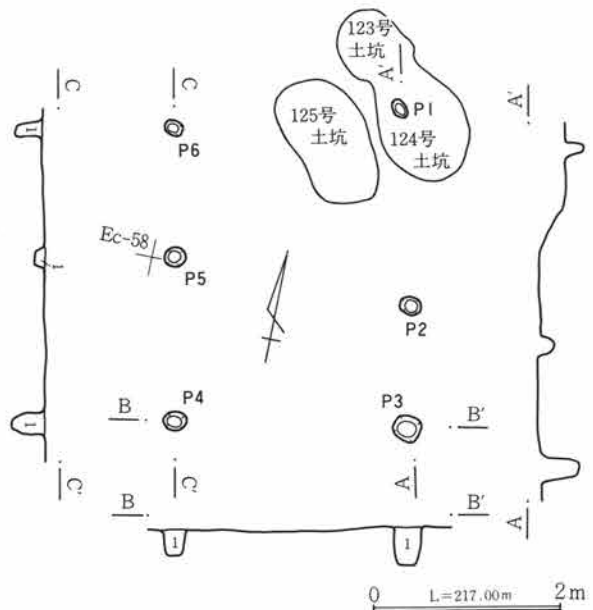
17号掘立柱建物跡と隣接し、縄文住居である47号住居を掘り込む。規模は、桁行き3間×梁間1間の長方形を呈する。柱間は桁行き南1間が広く1.7mを測り、他の桁行きは1.3mを測る。梁間は2.4mを測る。柱穴規模は、長辺15cm前後を測り、小さめの柱穴である。柱穴掘り方は円形を呈し、覆土中にはAs-Bを多量に含み締まりは弱い。



第383図 E区16号掘立柱建物跡

17号掘立柱建物跡 (PL, 78・145)

16号掘立柱建物跡の南に位置し、124・125号土坑と重複する。柱間は不揃いであり、梁間2間の中央柱穴はやや外側に設置される。柱穴規模は15cm前後を測る小柱穴である。柱穴掘り方は円形を呈し、覆土中にはAs-Bを多量に含み締まり弱い。



1 黒褐色土 As-B、少量の炭化物を含む。

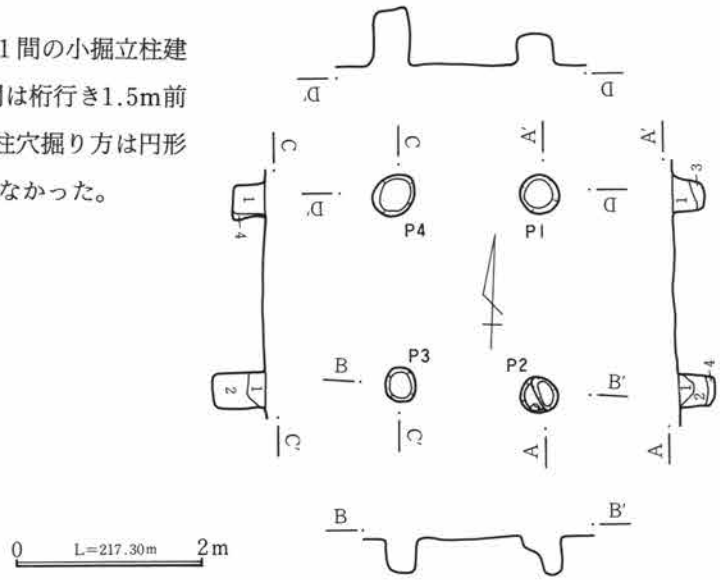
第384図 E区17号掘立柱建物跡

第3章 検出された遺構と遺物

18号掘立柱建物跡 (PL.79)

掘立柱建物跡群北端に位置し、1間×1間の小掘立柱建物跡である。形状は南北方向に長い。柱間は桁行き1.5m前後、梁間1.1m前後を測る。重複は無い。柱穴掘り方は円形を呈し、覆土中には、As-Bは認められなかった。

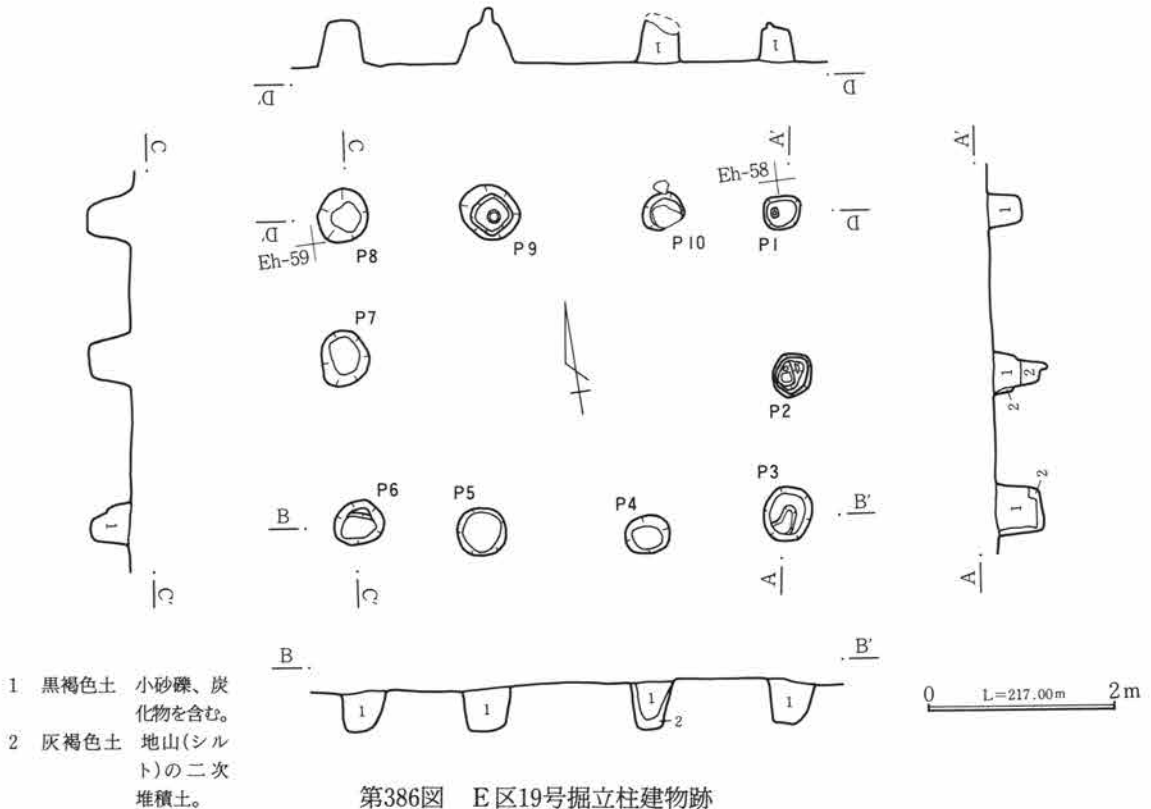
- 1 暗褐色土 褐色土小塊、小砂礫を少量含む。
- 2 暗褐色土 暗褐色粒子と褐色粒子との混土層。
- 3 褐色土 褐色土塊と暗褐色土塊との混土。
- 4 褐色砂礫層 褐色土粒を主体とする。



第385図 E区18号掘立柱建物跡

19号掘立柱建物跡 (PL.79)

掘立柱建物跡群北端に位置し、11号掘立柱建物跡に隣接する。重複は無い。桁行き3間×梁間2間の長方形を呈する。柱間は、桁行き側で中央1間分が1.3mと広く、両側の柱間は1mを測る。梁間は1.2~1.3mを測る。柱穴規模は、長辺40cm前後を測り、深さ40cm程のやや隅丸方形に近い円形の掘り方を持つ。覆土中にはAs-Bは認められなかった。

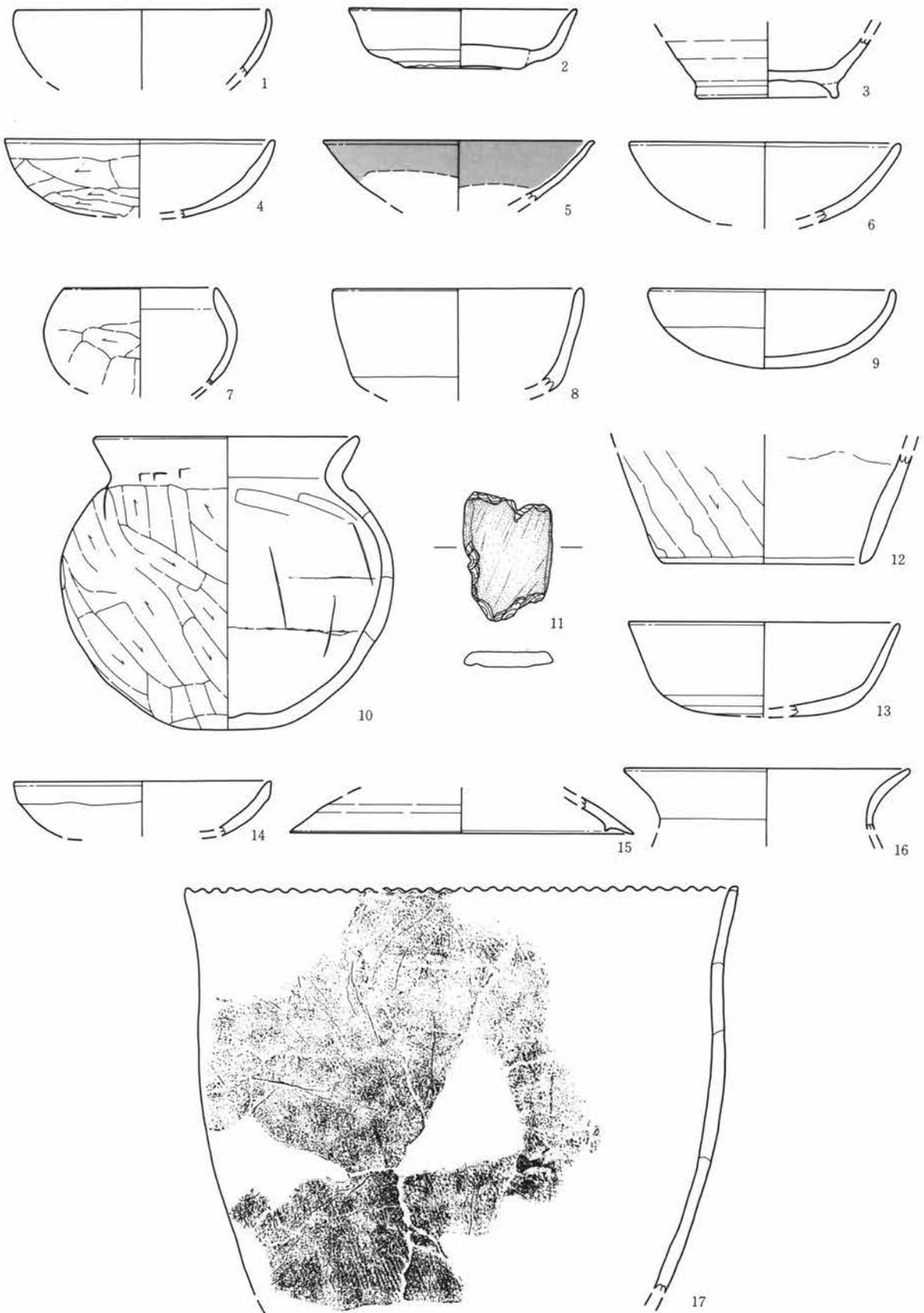


- 1 黒褐色土 小砂礫、炭化物を含む。
- 2 灰褐色土 地山(シルト)の二次堆積土。

第386図 E区19号掘立柱建物跡



第2節 掘立柱建物跡



0 1~15 10cm 16・17 20cm

第387図 掘立柱建物跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

D N区掘立柱建物跡一覧表

遺構名	位置	棟方位	規 模	形状	備 考
1号掘立	Ds・t-52	N-79°-E	桁行き5間(11.86m)×梁間2間(4.90m)	長方形	総柱。覆土中にAs-Bを多量に含む。
2号掘立	Dt・Ea-53	N-10°-W	桁行き3間(7.08m)×梁間2間(4.13m)	〃	僅かに覆土中にAs-Bを含む。
3号掘立	Ds-54	N-11°-W	桁行き2間(4.68m)×梁間2間(3.16m)	〃	覆土中にAs-Bを多量に含む。
4号掘立	Dp-56	N-81°-W	桁行き3間(4.86m)×梁間2間(3.36m)	〃	
5号掘立	Dn-56	N-31°-E	桁行き2間(5.60m)×梁間2間(4.84m)	〃	僅かに覆土中にAs-Bを含む。
6号掘立	Ds-63	N-17°-W	東辺 2間(6.50m)×南辺1間(2.00m)	〃	
7号掘立	Ds-50	N-81°-E	桁行き4間(9.67m)×梁間2間(4.30m)	〃	総柱。西辺庇。覆土中にAs-Bを含む。
8号掘立	Dr-53	N-10°-W	桁行き4間(9.71m)×梁間2間(4.85m)	〃	覆土中にAs-Bを多量に含む。
9号掘立	Dt-57	N-12°-W	桁行き2間(4.30m)×梁間2間(3.12m)	〃	西辺庇。覆土中にAs-Bを多量に含む。

D N区掘立柱建物跡柱穴規模計測表

(単位：m)

	柱穴			柱穴			柱穴			柱穴						
	長径	短径	深さ	長径	短径	深さ	長径	短径	深さ	長径	短径	深さ				
1号掘立柱建物跡	1	0.38	—	0.26	2	0.38	—	0.48	3	0.50	—	0.35	4	0.44	0.38	0.37
	5	0.50	—	0.25	6	0.44	—	0.29	7	0.52	0.48	0.22	8	0.56	0.40	0.27
	9	0.48	0.36	0.34	10	0.64	0.56	0.76	11	0.34	—	0.38	12	0.32	—	0.34
	13	0.46	—	0.42	14	0.45	—	0.31	15	0.44	0.40	0.20	16	0.40	—	0.27
	17	0.44	0.40	0.17												
2号掘立柱建物跡	1	0.90	—	0.56	2	0.26	—	0.19	3	0.66	0.60	0.40	4	0.64	0.56	0.44
	5	0.68	—	0.30	6	0.66	—	0.36	7	0.31	—	0.28	8	0.64	0.54	0.65
	9	0.80	0.70	0.54	10	1.00	0.70	0.42								
3号掘立柱建物跡	1	0.40	0.32	0.26	2	0.28	0.26	0.39	3	0.28	—	0.18	4	0.38	—	0.36
	5	0.36	—	0.40	6	0.48	0.40	0.38	7	0.28	—	0.33	8	0.36	—	0.15
4号掘立柱建物跡	1	0.68	0.52	0.20	2	0.48	0.44	0.13	3	0.62	0.52	0.18	4	0.48	0.44	0.13
	5	0.62	0.50	0.16	6	0.52	0.48	0.14	7	0.66	0.54	0.30	8	0.60	—	0.20
	9	0.62	0.46	0.20												
5号掘立柱建物跡	1	0.40	—	0.10	2	0.46	0.40	0.17	3	0.34	0.30	0.14	4	0.50	—	0.06
	5	0.38	—	0.33	6	0.56	0.50	0.19	7	0.40	—	0.10				
6号掘立柱建物跡	1	0.70	—	0.21	2	0.80	0.64	0.28	3	0.66	0.58	0.27	4	0.64	0.60	0.47
7号掘立柱建物跡	1	0.40	0.36	0.15	2	0.40	0.30	0.22	3	0.44	—	0.19	4	0.44	0.42	0.29
	5	0.33	—	0.15	6	0.54	0.42	0.18	7	0.36	—	0.10	8	0.30	—	0.15
	9	0.35	—	0.25	10	0.56	—	0.43	11	0.31	—	0.52	12	0.38	—	0.40
	13	0.35	—	0.30	14	0.52	—	0.25	15	0.42	—	0.36	16	0.46	0.42	0.14
	17	0.46	0.38	0.22												
8号掘立柱建物跡	1	0.36	—	0.20	2	0.48	0.42	0.20	3	0.46	0.40	0.05	4	0.44	—	0.14
	5	0.50	0.42	0.19	6	0.40	0.36	0.09	7	0.48	0.36	0.21	8	0.38	—	0.19
	9	0.48	0.42	0.17	10	0.30	—	0.25	11	0.36	0.32	0.22				
9号掘立柱建物跡	1	0.23	—	0.15	2	0.22	—	0.20	3	0.24	—	0.18	4	0.26	—	0.24
	5	0.26	—	0.18	6	0.27	—	0.16	7	0.24	—	0.20	8	0.22	—	0.08
	9	0.26	—	0.24	10	0.31	—	0.18	11	0.32	—	0.20				

E区掘立柱建物跡一覧表

遺構名	位置	棟方位	規 模	形状	備 考
1号掘立	Ed~f-65・66	N-5°-W	桁行き5間(11.9m)×梁間2間(4.62m)	長方形	総柱。覆土中にAs-Bを多量に含む。
2号掘立	Ee・f-65・66	N-3°-W	桁行き2間(4.78m)×梁間1間(2.36m)	〃	覆土中にAs-Bを多量に含む。
3号掘立	Ef・g-66	N-18°-W	桁行き3間(4.32m)×梁間1間(1.98m)	〃	覆土中にAs-Bを多量に含む。
4号掘立	Ee・f-66	N-76°-E	桁行き2間(4.32m)×梁間1間(2.94m)	〃	覆土中にAs-Bを多量に含む。
5号掘立	Ed・e-55・56	N-81°-E	桁行き3間(7.05m)×梁間2間(6.00m)	〃	北辺庇。6号掘立柱建物跡と直線に並ぶ。
6号掘立	Ed・e-52~54	N-81°-E	桁行き4間(9.12m)×梁間2間(4.91m)	〃	東辺中央1間柱間狭く入り口部か?
7号掘立	Ea~c-50~52	N-10°-W	桁行き2間(6.06m)×梁間2間(4.53m)	〃	総柱。南辺庇。覆土中にAs-Bを含む。
8号掘立	Eb-55	N-20°-W	桁行き2間(4.88m)×梁間2間(4.84m)	〃	
9号掘立	Eh-56	N-7°-W	桁行き2間(3.64m)×梁間1間(3.40m)	〃	覆土中にAs-Bを多量に含む。
10号掘立	Eh-60	N-82°-E	桁行き3間(5.44m)×梁間2間(4.07m)	〃	
11号掘立	Eh-59	N-3°-E	桁行き2間(3.66m)×梁間2間(3.44m)	正方形	覆土中にAs-Bを多量に含む。
12号掘立	Ef-56	N-15°-W	桁行き2間(4.04m)×梁間2間(2.72m)	長方形	覆土中にAs-Bを多量に含む。
13号掘立	Ef-55	N-80°-E	桁行き3間(6.42m)×梁間1間(4.10m)	〃	覆土中にAs-Bを多量に含む。
14号掘立	Ef-54	N-78°-E	桁行き2間(5.13m)×梁間1間(3.63m)	〃	覆土中にAs-Bを多量に含む。
15号掘立	Ee-53	N-79°-E	桁行き4間(7.91m)×梁間3間(4.92m)	〃	

第2節 掘立柱建物跡

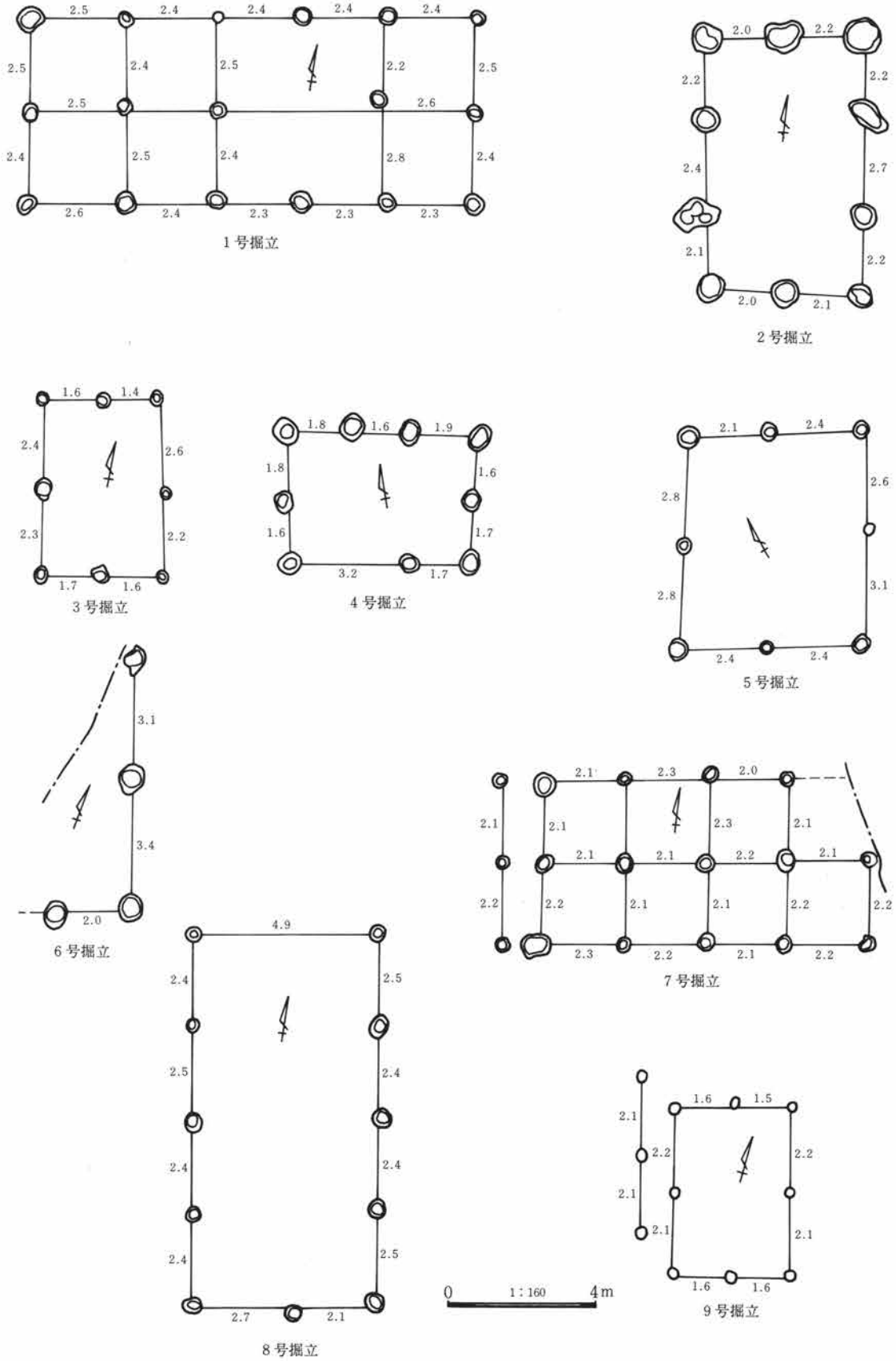
16号掘立	Ed-58	N-10°-W	桁行き3間(5.66m)×梁間1間(3.44m)	//	覆土中にAs-Bを多量に含む。
17号掘立	Ec-57	N-11°-W	桁行き2間(3.40m)×梁間1間(2.45m)	//	
18号掘立	Ei-55	N-2°-W	桁行き1間(2.05m)×梁間1間(1.55m)	//	
19号掘立	Eg-58	N-83°-W	桁行き3間(4.60m)×梁間2間(3.27m)	//	

E区掘立柱建物跡柱穴規模計測表

(単位：m)

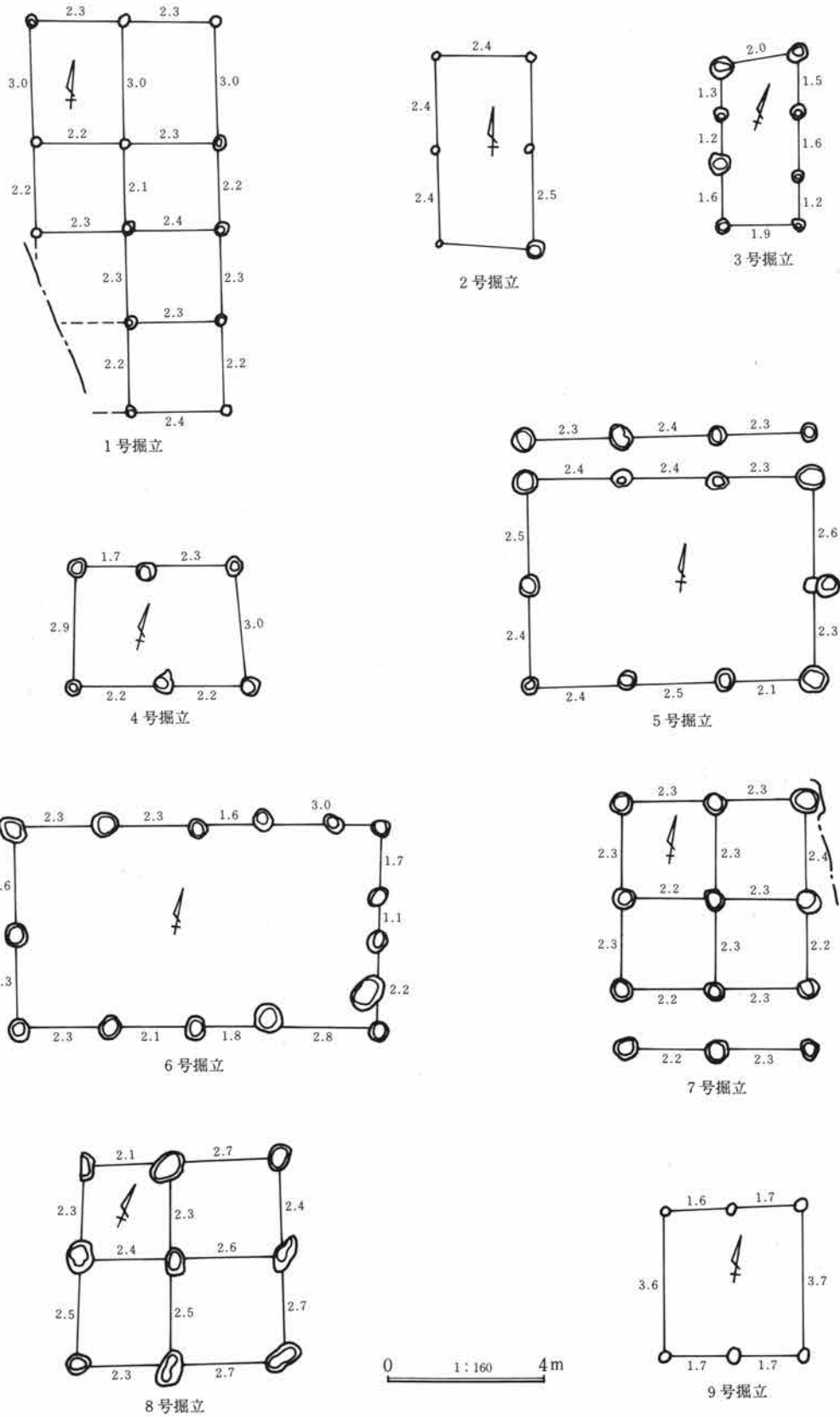
	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1号掘立柱建物跡	1	0.24	0.20	0.29	2	0.32	—	0.12	3	0.34	0.28	0.24	4	0.30	—	0.22
	5	0.26	—	0.27	6	0.24	—	0.17	7	0.30	0.25	0.30	8	0.20	—	0.27
	9	0.22	—	0.33	10	0.24	—	0.27	11	0.28	0.22	0.11	12	0.32	—	0.32
	13	0.22	0.20	0.45	14	0.34	0.28	0.32	15	0.30	—	0.35				
2号掘立柱建物跡	1	0.21	—	0.14	2	0.20	—	0.37	3	0.42	—	0.50	4	0.16	—	0.14
	5	0.16	—	不明	6	0.18	—	0.08								
3号掘立柱建物跡	1	0.48	0.40	0.36	2	0.34	—	0.63	3	0.30	0.26	0.42	4	0.30	—	0.15
	5	0.36	0.30	0.36	6	0.48	—	0.43	7	0.34	0.28	0.53	8	0.54	0.46	0.45
4号掘立柱建物跡	1	0.46	0.40	0.43	2	0.43	—	0.50	3	0.48	0.42	0.54	4	0.35	—	0.49
	5	0.43	—	0.52	6	0.40	—	0.63								
5号掘立柱建物跡	1	0.42	0.38	0.28	2	0.70	0.58	0.62	3	0.46	0.35	0.08	4	0.60	—	0.30
	5	0.48	—	0.31	6	0.44	0.38	0.25	7	0.42	—	0.25	8	0.50	—	0.40
	9	0.60	—	0.40	10	0.54	—	0.31	11	0.62	0.46	0.31	12	0.42	—	0.24
6号掘立柱建物跡	1	0.44	0.30	0.13	2	0.52	0.42	0.25	3	0.52	0.46	0.18	4	0.48	0.43	0.36
	5	0.66	—	0.23	6	0.56	0.46	0.31	7	0.54	0.50	0.50	8	0.52	—	0.35
	9	0.56	—	0.28	10	0.72	0.58	0.29	11	0.62	0.56	0.40	12	0.46	0.42	0.14
	13	0.50	0.46	0.28												
7号掘立柱建物跡	1	0.66	0.54	0.34	2	0.54	—	0.42	3	0.45	—	0.35	4	0.44	0.40	0.40
	5	0.53	—	0.30	6	0.54	0.48	0.25	7	0.50	—	0.05	8	0.52	0.48	0.40
	9	0.50	—	0.51	10	0.48	—	0.32	11	0.52	0.46	0.20	12	0.42	—	0.20
8号掘立柱建物跡	1	0.62	0.52	0.39	2	0.54	0.44	0.34	3	0.46	—	0.38	4	0.46	—	0.26
	5	0.64	0.54	0.42	6	0.80	0.58	0.47	7	0.64	0.54	0.28	8	0.88	0.64	0.23
	9	0.64	0.44	0.18												
9号掘立柱建物跡	1	0.28	0.24	0.22	2	0.32	0.24	0.22	3	0.34	0.32	0.13	4	0.29	0.24	0.27
	5	不明	—	0.25	6	0.24	0.23	0.19								
10号掘立柱建物跡	1	0.46	—	0.44	2	0.22	0.20	0.39	3	0.54	—	0.59	4	0.54	0.32	0.57
	5	0.66	0.34	0.44	6	0.80	0.44	0.39	7	0.66	0.50	0.73	8	0.60	0.46	0.54
	9	0.56	0.46	0.56	10	0.52	0.44	0.58								
11号掘立柱建物跡	1	0.56	0.48	0.61	2	0.53	—	0.33	3	0.74	0.58	0.55	4	0.53	—	0.56
	5	0.68	0.64	0.72	6	0.68	0.60	0.63	7	0.70	0.60	0.66				
12号掘立柱建物跡	1	0.25	0.20	0.17	2	0.18	—	0.12	3	0.22	—	0.16	4	0.24	0.22	0.20
	5	0.22	—	0.27	6	0.36	0.18	0.09	7	0.22	—	0.20				
13号掘立柱建物跡	1	0.36	0.30	0.23	2	0.30	—	0.40	3	0.26	—	0.26	4	0.26	—	0.28
	5	0.26	0.22	0.26	6	0.24	—	0.30	7	0.28	0.24	0.27	8	0.34	0.30	0.26
14号掘立柱建物跡	1	0.40	—	0.25	2	0.34	0.32	0.30	3	0.24	—	0.33	4	0.34	—	0.43
	5	0.28	0.25	0.40	6	0.34	—	0.25								
15号掘立柱建物跡	1	0.64	0.42	0.52	2	0.68	0.52	0.25	3	0.52	—	0.29	4	0.48	—	0.14
	5	0.50	—	0.20	6	0.64	0.48	0.34	7	0.56	0.48	0.35	8	0.68	—	不明
	9	0.60	—	0.46	10	0.60	0.38	0.61	11	0.62	0.50	0.57	12	0.62	0.44	0.67
	13	0.60	0.52	0.64												
16号掘立柱建物跡	1	0.26	0.24	0.28	2	0.26	0.23	0.37	3	0.32	0.28	0.29	4	0.21	—	0.13
	5	0.26	0.24	0.18	6	0.32	0.28	0.42	7	0.33	0.30	0.27	8	0.25	—	0.32
17号掘立柱建物跡	1	0.19	0.14	0.18	2	0.20	—	0.17	3	0.26	—	0.42	4	0.24	0.22	0.35
	5	0.20	—	0.13	6	0.18	0.16	0.28								
18号掘立柱建物跡	1	0.40	—	0.32	2	0.38	0.36	0.40	3	0.33	—	0.35	4	0.46	0.40	0.58
19号掘立柱建物跡	1	0.40	0.36	0.40	2	0.44	0.40	0.55	3	0.56	0.48	0.47	4	0.46	0.38	0.49
	5	0.50	—	0.45	6	0.52	0.44	0.42	7	0.56	0.50	0.41	8	0.56	0.52	0.46
	9	0.62	0.54	0.61	10	0.44	0.36	0.37								

第3章 検出された遺構と遺物



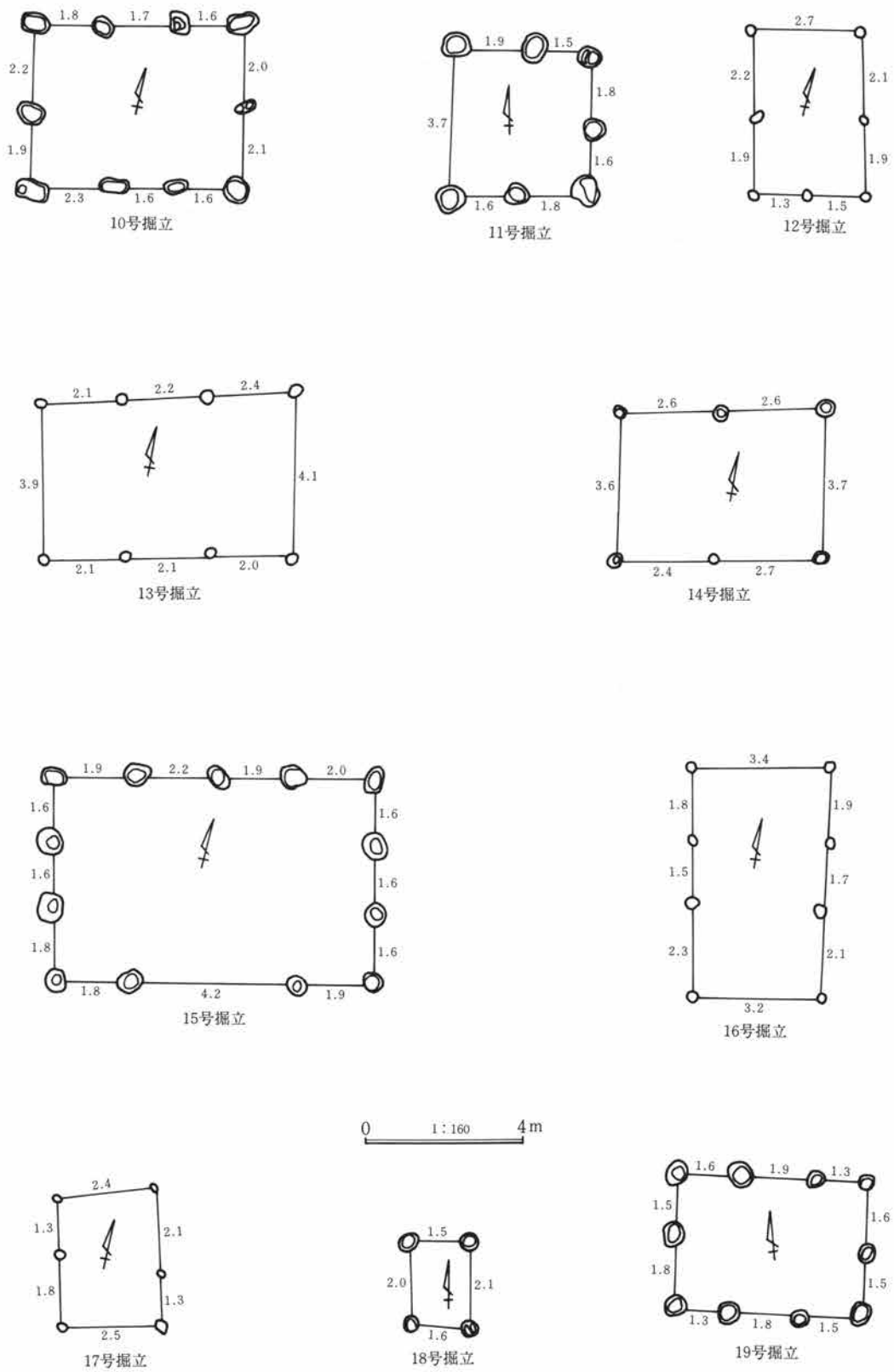
第388図 DN区掘立柱建物跡柱間計測図

第2節 掘立柱建物跡



第389図 E区掘立柱建物跡柱間計測図(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第390図 E区掘立柱建物跡柱間計測図(2)

第391图 DN·E区独立杆塔配置图







## 第3節 土坑跡

### 1. DN区土坑の概要

DN区で検出された土坑数は67基あり、形状や出土遺物及び覆土中の夾雑物等から土坑の時期や用途など幾つかの種類に分けられる。本報告書では、変則な形状をもつ洋梨形土坑と弥生土器及び縄文土器を出土する土坑をそれぞれまとめて掲載し、それ以外の土坑に関しては遺構番号順に掲載した。

遺構番号順に掲載した土坑の中でも火熱を受けている土坑や礫が多量に出土している土坑等幾つかのまとまりが見られる。

洋梨形土坑以外で火熱を受けた土坑は、13基（3号・10号・23号・31号・40号・41号・43号・44号・45号・56号・59号・63号・64号）検出されている。遺跡内での位置は、3号溝内から微高地縁辺部に集中して見られる。

形状は、23号土坑がやや楕円形を呈するが、他の土坑は長方形を呈する。規模は、長辺の最大長が40号と41号の1.2mを測り、最小は10号の0.4mを測る。その他は0.9m前後と0.6m前後の二者に2分できる。壁及び覆土の状況は、壁面が焼土化し底面には焼土、灰、炭化物等の堆積が見られた。また覆土中にAs-Bを多量に含む黒色土の堆積が見られ、As-B降下後に掘り込まれたと考えられる。機能的には骨片や古銭等の出土はないものの、状況的には火葬墓の可能性が考えられる。

多量の大礫を含む土坑は、9基(13号・26号・28号・35号・36号・39号・49号・60号・65号)検出されている。遺跡内での位置は、13号・60号土坑を除き3号溝東側の微高地縁辺部分に集中して見られる。形状は、60号土坑が長方形を呈するが、他の土坑は円形を呈し、壁面は垂直に立ち上がる(13号土坑は袋状を呈する)。礫の出土状態は、13号土坑をはじめとして数基を除き、覆土中に浮いた状態や片側に集中して礫が出土するなど、投げ込まれた状況が伺える。28号・49号土坑では意図的に埋置され、また60号土坑では円形の盤状礫を上面に設置した状況が伺われる。26号・35号・36号の3基は覆土にAs-Bを多量に含む黒色土で埋没していた。他の土坑はAs-Bを含まない。

上記の土坑以外に覆土中にAs-Bを多量に含む土坑は、5基(20号・24号・25号・27号・32号)検出されている。これらの土坑覆土は、掘立柱建物跡の柱穴覆土にも似ており、As-B降下後に掘られたものと考えられる。遺跡内での位置も掘立柱建物跡群と重なる位置に集中しており、両者の新旧関係は覆土にAs-Bを含む20号・21号土坑が、同じくAs-Bを柱穴覆土中に含む1号掘立柱建物跡に切られ、覆土にAs-Bを含む17号土坑が、柱穴にAs-Bを含まない2号掘立柱建物跡柱穴を掘り込む重複関係が見られた。

洋梨形土坑の呼称については、調査時に蛙の子の『おたまじゃくし』にも似ており、頭部・尾部等の部位名称で呼び易いとも考えられたが、調査当初の名称である洋梨形土坑と呼ぶことにする。部位名称については、炭化材等の出土状態や壁面の焼け方から竪穴住居跡のかまど同様、円形部分を燃焼部、細長く張り出した部分を吹き口部とした。

洋梨形土坑の検出場所としては、遺跡西側2号溝の周辺部に集中して見られ、DN区では6基すべて2号溝東脇で検出された。

時期については、出土遺物が数点であり、遺物からの時期判定は困難であるが、唯一2号土坑から出土した陶器破片と覆土に含まれるAs-Aと思われるやや固めの白色軽石から近世以降の土坑と考えられる。

用途については、製鉄関連の遺構の可能性があるとされたが、現在検証できていない。

## 2. DN区土坑

### 1号土坑

Do-60グリッド内に位置し、主軸方位はN-21°-Wに傾く。規模は長辺0.75m、短辺0.60m、深さ0.10mを測る。形状は楕円形を呈する。壁面立ち上がり部分は焼土化している。2号溝埋土上面を掘り込み作られ、覆土下層は灰・炭化物層が堆積する。

### 2号土坑 (PL.20・114)

Dq-58グリッド内に位置し、主軸方位はN-75°-Eに傾く。規模は全長1.52m、燃烧部0.67m、焚口部0.38m、深さ0.26mを測る。形状は洋梨形を呈する。燃烧部壁面立ち上がり部分は焼土化する。8号住居を掘り込み作られる。覆土下層に灰・炭化物層が堆積する。磁器及び磨石出土。

### 4号土坑 (PL.20)

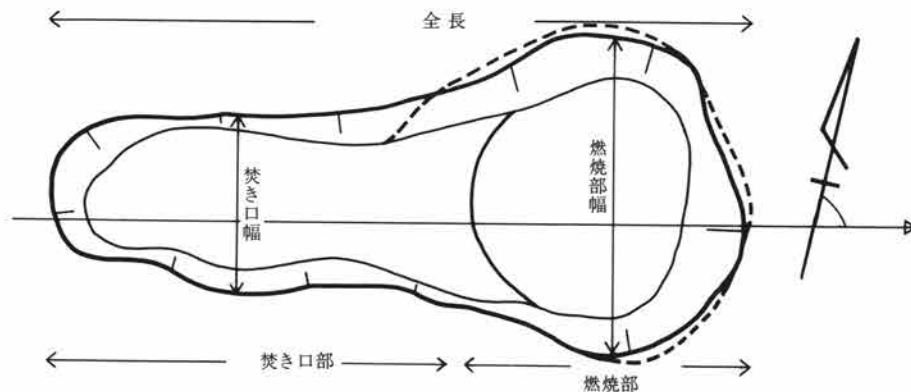
Dr-60グリッド内に位置し、主軸方位はN-90°-Eに傾く。規模は全長1.19m、燃烧部0.68m、焚口部0.35m、深さ0.22mを測る。形状は洋梨形を呈する。燃烧部壁面立ち上がり部分は焼土化する。覆土下層に灰・炭化物層が堆積する。炭化材残る。

### 5号土坑 (PL.20)

Dr-60グリッド内に位置し、主軸方位はN-54°-Eに傾く。規模は全長1.47m、燃烧部0.74m、深さ0.28mを測る。形状は洋梨形を呈する。6号土坑を掘り込む。壁面立ち上がり部分は焼土化する。大礫出土。

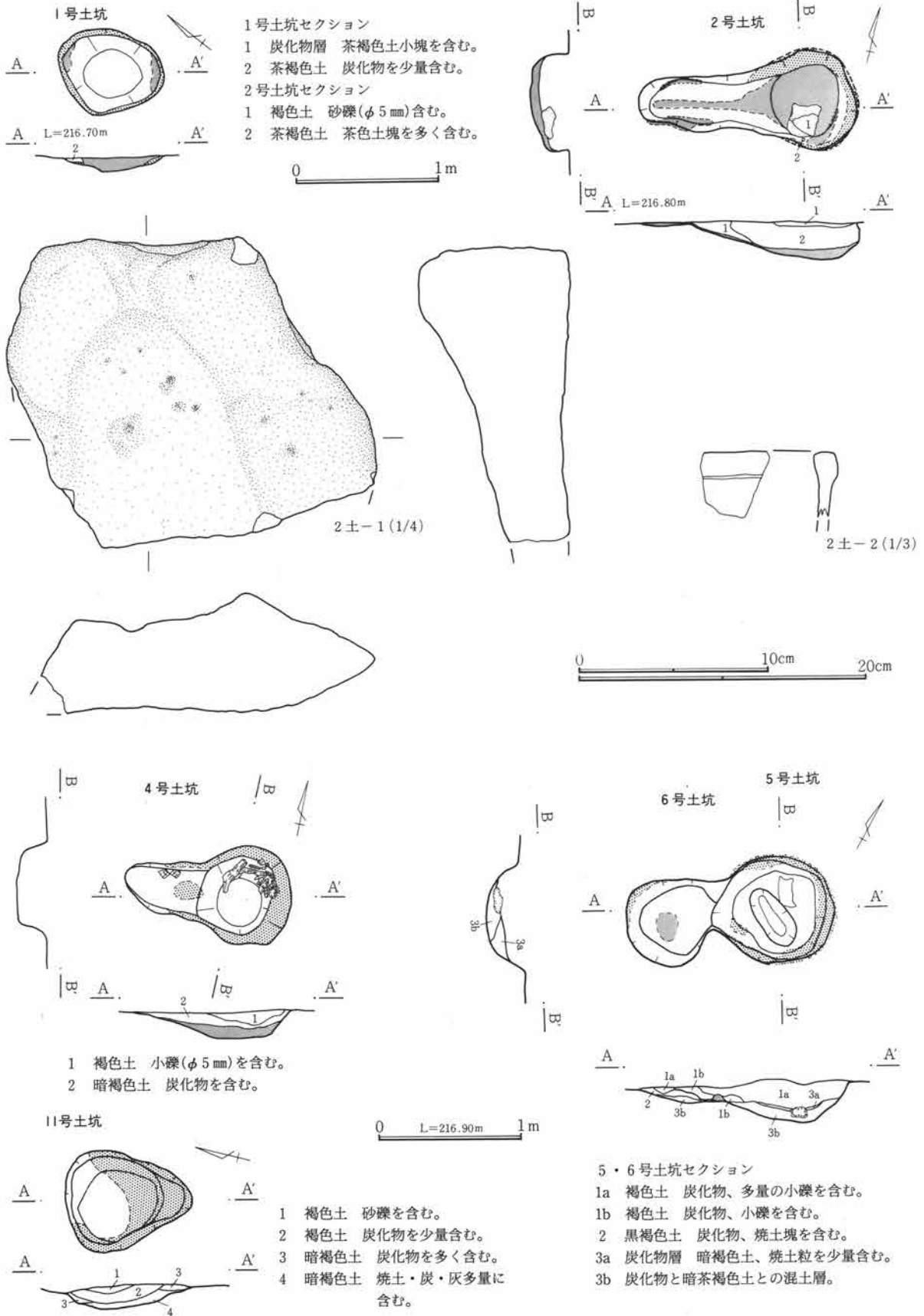
### 6号土坑

Dr-60グリッド内に位置し、主軸方位はN-54°-Eに傾く。規模は全長(燃烧部)0.60m、深さ0.10mを測る。形状は洋梨形を呈していたと考えられるが5号土坑に切られ、全景は不明。壁面立ち上がり部分に焼土見られる。



第392図 洋梨形土坑各部名称及び計測図

第3節 土坑跡



第393図 1・2・4～6・11号土坑跡及び出土遺物

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 11号土坑 (PL.20)

Dt-61グリッド内に位置し、主軸方位はN-17°-Wに傾く。規模は全長0.87m、燃烧部0.72m、焚口部0.39m、深さ0.13mを測る。形状は洋梨形を呈する。2号溝埋土上面を掘り込む。壁面立ち上がり部分は焼土化する。下層に灰・炭化物を多量に含む層あり。

#### 3号土坑 (PL.21)

Dr-53グリッド内に位置し、主軸方位はN-86°-Wに傾く。規模は長辺0.89m、短辺0.84m、深さ0.22mを測る。形状は隅丸正方形を呈する。重複は、3号溝を掘り込み、8号掘立柱建物内に位置する。壁面上部は焼土化し、覆土中には焼土粒、炭化物を多量に含む。火葬墓か。

#### 7号土坑 欠番      8号土坑 欠番

#### 9号土坑 (PL.21)

Ds-59グリッド内に位置する。規模は長辺0.75m、深さ0.26mを測る。形状は円形を呈する。

#### 10号土坑 (PL.21)

Dt-61グリッド内に位置する。規模は長辺0.45m、深さ0.19mを測る。形状は円形を呈する。

#### 12号土坑 (PL.21)

Ds-60グリッド内に位置する。規模は長辺0.83m、深さ0.17mを測る。形状は円形を呈する。

#### 13号土坑 (PL.21・114)

Do-53グリッド内に位置する。規模は長辺1.52m、深さ0.50mを測る。平面形は円形を呈するが、断面形は袋状を呈する。拳大から30cm大の礫が多量に投げ込まれた状況見られる。

#### 14号土坑 (PL.21)

Do-58グリッド内に位置し、主軸方位はN-79°-Eに傾く。規模は長辺1.21m、短辺0.71m、深さ0.45mを測る。形状は楕円形を呈する。

#### 15号土坑 欠番

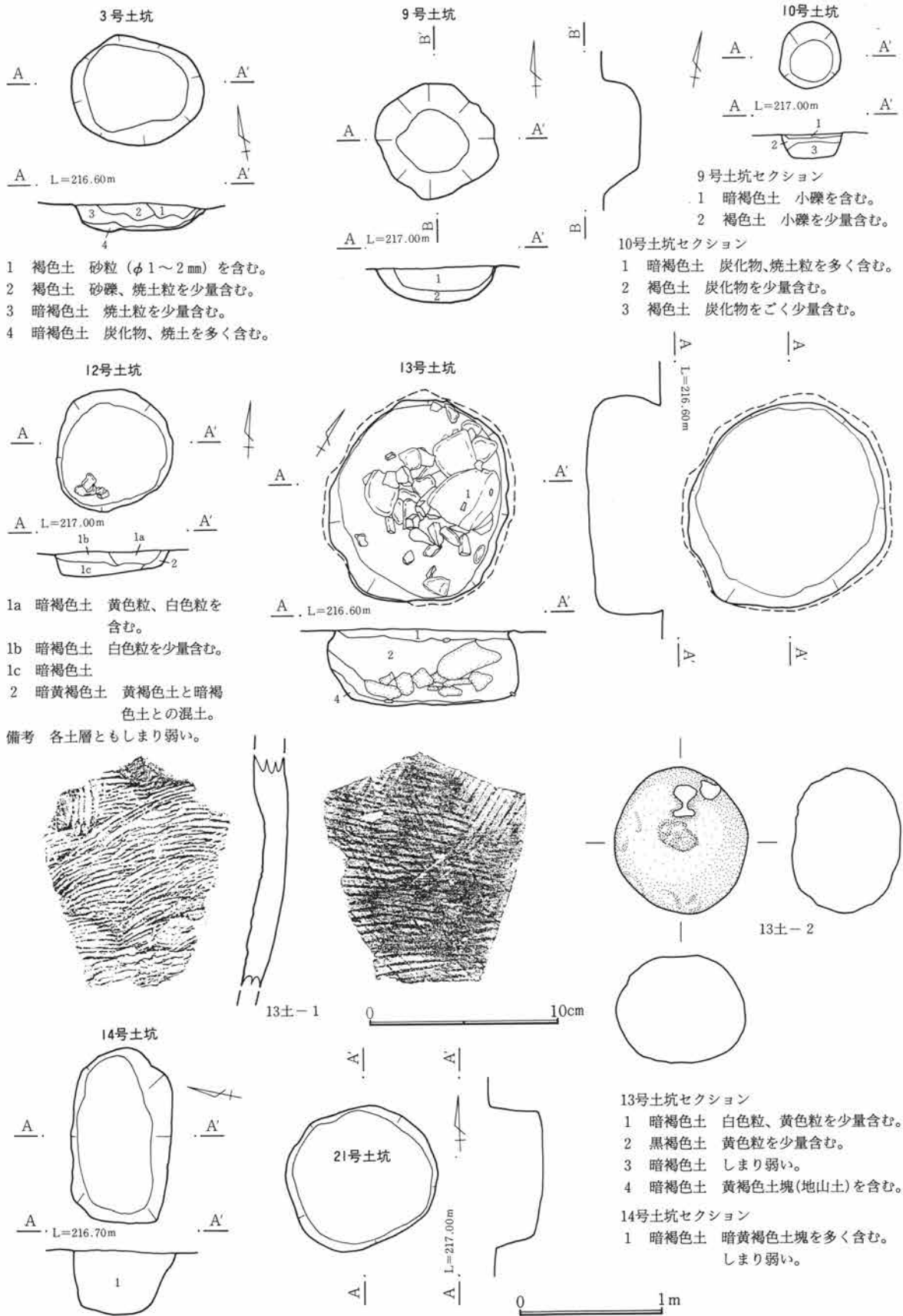
#### 21号土坑 (PL.23)

Dt-53グリッド内に位置する。規模は長辺1.02m、深さ0.35mを測る。形状は円形を呈する。重複は1号掘立柱建物跡柱穴No.12に切られる。覆土は多量にAs-Bを含む黒色土。

#### 17号土坑 (PL.21)

Dt-54グリッド内に位置する。規模は長辺1.09m、深さ0.50mを測る。形状は円形を呈する。重複は2号掘立柱建物跡柱穴No.7と重複する。覆土はAs-Bらしき白色軽石を含む黒色土。

第3節 土坑跡



第394図 3・9・10・12~14・21号土坑跡及び出土遺物

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 23号土坑 (PL, 23)

Ds-51グリッド内に位置する。規模は長辺0.70m、深さ0.05mを測る。形状は円形を呈する。底面及び壁面焼土化し、炭化材、焼土塊、土器片等出土する。

#### 24号土坑 (PL, 23)

Dt-52グリッド内に位置する。規模は長辺0.40m、深さ0.28mを測る。形状は円形を呈する。24号住居を掘り込む。覆土はAs-Bを多量に含む黒色土。

#### 25号土坑 (PL, 23)

Dt-52グリッド内に位置する。規模は長辺0.43m、深さ0.20mを測る。形状は円形を呈する。覆土にAs-Bを多量に含む黒色土であり、またAs-Bを多量に含む小ピットに切られる。底面から50cm弱の大礫出土。

#### 26号土坑 (PL, 23)

Ds-52グリッド内に位置する。規模は長辺1.24m、深さ0.47mを測る。形状は円形を呈する。24号住居を掘り込む。底面付近より30cm前後の大礫出土。覆土は多量にAs-Bを含む黒色土。

#### 27号土坑 (PL, 23)

Ds-51グリッド内に位置する。規模は長辺0.90m、深さ0.35mを測る。形状は円形を呈する。覆土は多量にAs-Bを含む黒色土。

#### 28号土坑 (PL, 23)

Dt-53グリッド内に位置する。規模は長辺0.74m、深さ0.26mを測る。形状は円形を呈する。覆土にAs-Bを多量に含む小ピットに切られる。

#### 29号土坑 (PL, 24)

Ds-51グリッド内に位置する。規模は長辺0.65m、深さ0.26mを測る。形状は円形を呈する。土器片及び礫出土。

#### 30号土坑 (PL, 24)

Ds-51グリッド内に位置し、主軸方位はN-70°-Wに傾く。規模は長辺0.70m、短辺0.60m、深さ0.34mを測る。形状は楕円形を呈する。底面中央部に20cm小ピット見られる。

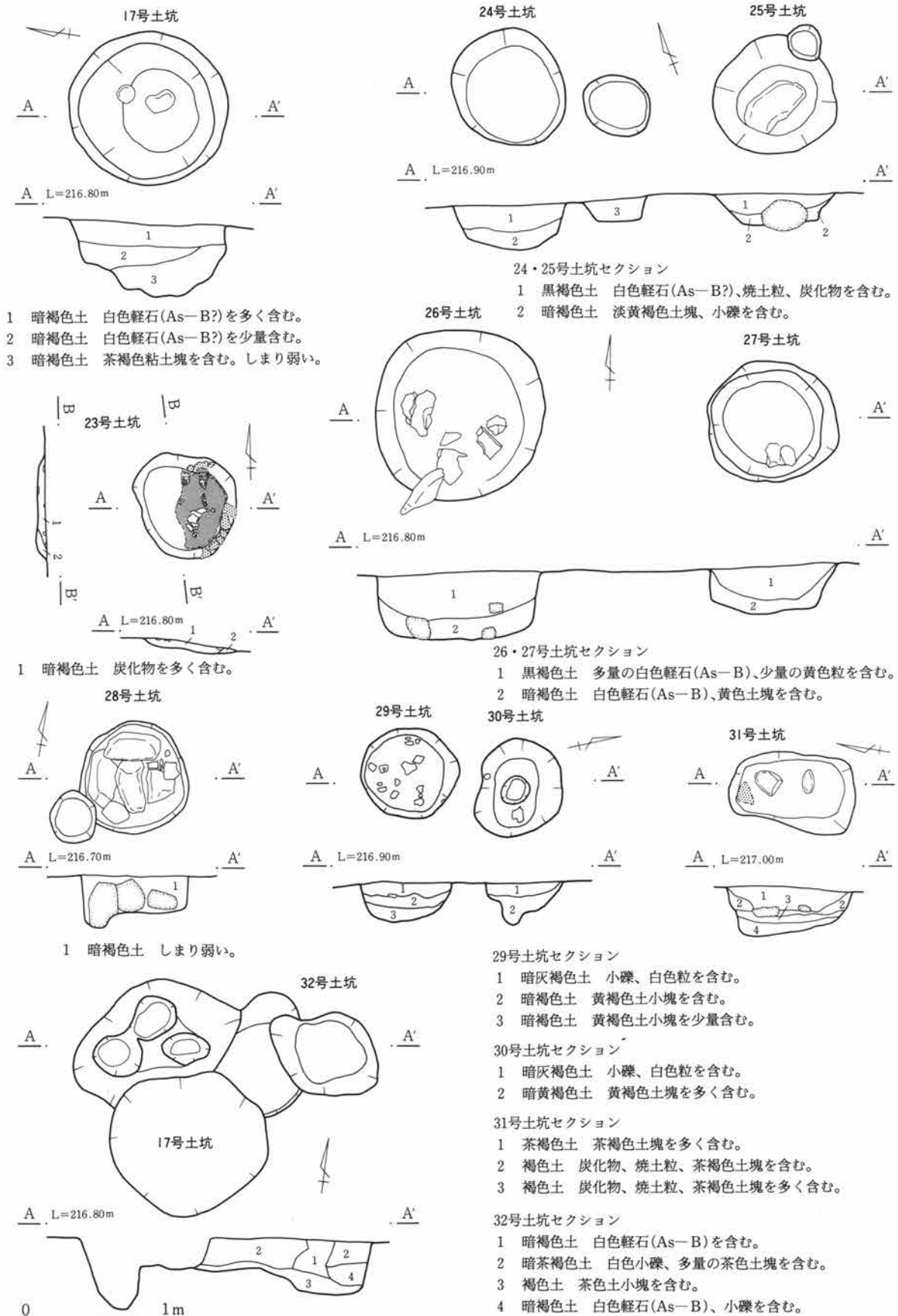
#### 31号土坑 (PL, 24)

Dt-53グリッド内に位置し、主軸方位はN-5°-Wに傾く。規模は長辺0.88m、短辺0.51m、深さ0.32mを測る。形状は楕円形を呈する。底面に焼土粒・炭化物を含む薄い層あり。

#### 32号土坑 (PL, 24)

Dt-53グリッド内に位置し、主軸方位はN-86°-Wに傾く。規模は長辺1.10m、短辺0.84m、深さ0.35m





第395図 17・23～32号土坑跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

を測る。形状は不定形である。2号掘立柱建物跡柱穴No7と重なり、17号土坑に切られる。

#### 33号土坑 (PL.24)

Dt-54グリッド内に位置する。規模は長辺0.84m、深さ0.08mを測る。形状は円形を呈する。覆土にAs-B混土を含むピットに切られる。

#### 34号土坑 (PL.24)

Dt-50グリッド内に位置し、主軸方位はN-25°-Eに傾く。規模は長辺0.80m、短辺0.56m、深さ0.23mを測る。形状は楕円形を呈する。

#### 37号土坑 (PL.22・114)

Dt-52グリッド内に位置し、主軸方位はN-86°-Wに傾く。規模は長辺0.90m、短辺0.68m、深さ0.18mを測る。形状は楕円形を呈する。

#### 38号土坑 (PL.24・114)

Dr-50グリッド内に位置する。規模は長辺0.84m、深さ0.76mを測る。形状は円形を呈する。As-Bを僅かに含む。

#### 39号土坑 (PL.25)

Dq-49グリッド内に位置する。規模は長辺0.91m、深さ0.30mを測る。形状は円形を呈する。3号溝底面部分で検出。投げ込まれた状態で多量に礫出土。

#### 40号土坑 (PL.25)

Dr-54グリッド内に位置し、主軸方位はN-38°-Wに傾く。規模は長辺1.12m、短辺0.55m、深さ0.12mを測る。形状は隅丸長方形を呈する。43・45号土坑を掘り込む。また、3号溝底面で確認されたが覆土中にはAs-Bを多量に含む黒色土の堆積見られる。底面に灰の堆積見られる。

#### 41号土坑 (PL.25)

Dr-53グリッド内に位置し、主軸方位はN-72°-Wに傾く。規模は長辺1.17m、短辺0.54m、深さ0.20mを測る。形状は長方形を呈する。3号土坑に近接し、3号溝底面部分で検出されたが、覆土中にはAs-Bを多量に含む黒色土堆積。底面に灰の堆積見られる。

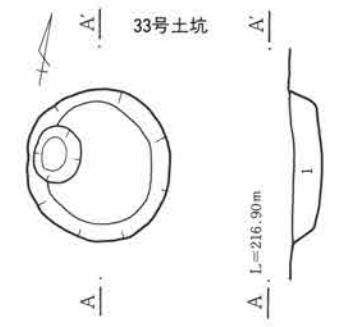
#### 42号土坑 (PL.25)

Dp-57グリッド内に位置し、主軸方位はN-77°-Eに傾く。規模は長辺3.70m、短辺0.64m、深さ0.26mを測る。形状は長方形を呈する。10・11号住居と重複。イモ穴？

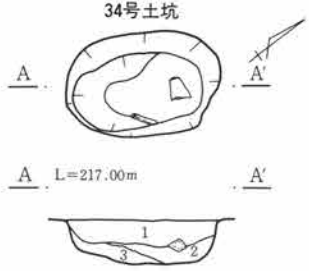
#### 43号土坑 (PL.25)

Dr-54グリッド内に位置し、主軸方位はN-60°-Eに傾く。規模は長辺0.65m、短辺0.38m、深さ0.08m

第3節 土坑跡



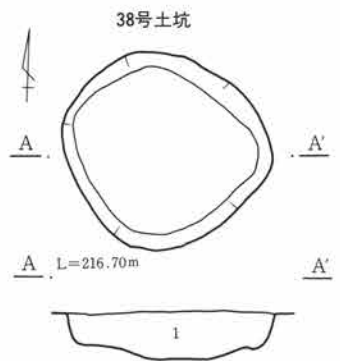
1 暗褐色土 小礫、黄褐色土塊を含む。



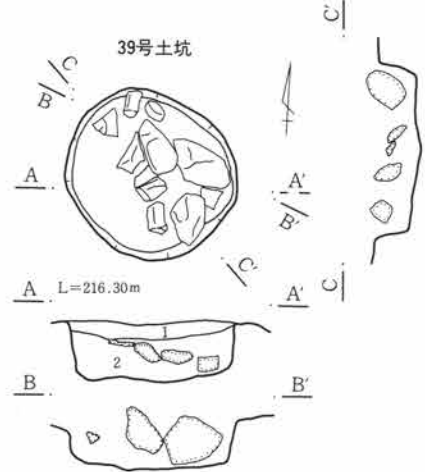
1 暗褐色土 炭化物、焼土粒、小礫を含む。  
2 暗褐色土 黄色粘土塊を含む。  
3 褐色土 黄色土塊を多く含む。



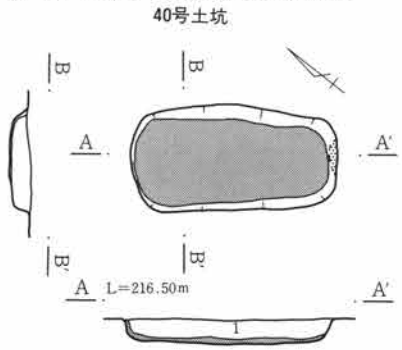
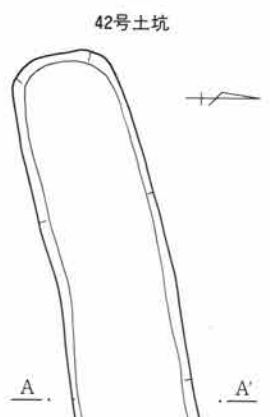
1 暗褐色土 As-Bと黄色土小塊含む。  
2 褐色土 黄色土小塊混じり。



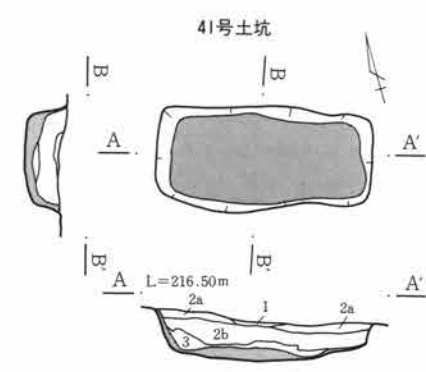
38号土坑セクション  
1 暗褐色土 砂粒を含む。しまり弱い。



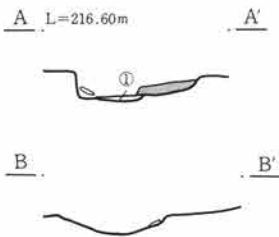
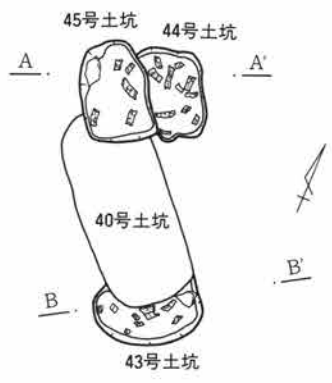
39号土坑セクション  
1 灰褐色土 小礫、灰黄褐色土小塊を含む。  
2 暗色砂質土 礫、茶褐色土塊を含む。



1 暗褐色土 白色軽石(As-B)を含む。  
粘性・しまりともに強い。



41号土坑セクション  
1 灰黄色土 細砂を含む。鉄分の沈着あり。  
2a 褐色土 白色軽石(As-B)、焼土粒を含む。  
2b 褐色土 2a層に近似、白色軽石(As-B)少ない。  
3 褐色土 炭化物、焼土粒、褐色土小塊を含む。



42号土坑セクション  
1 灰黄色土 細砂・白色軽石(As-A?)を含む。

43号~45号土坑セクション  
1 黒褐色土 炭粒含む。粘性強い。



第396図 33・34・37~45号土坑跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

を測る。形状は隅丸長方形を呈する。40号土坑に切られる。底面に灰面の広がり見られ、炭化材等出土。

#### 44号土坑 (PL, 25)

Dr-54グリッド内に位置し、主軸方位はN-30°-Wに傾く。規模は長辺0.48m、短辺0.30m、深さ0.10mを測る。形状は隅丸長方形を呈する。45号土坑に切られる。底面に灰面の広がり見られ、炭化材等出土。

#### 45号土坑 (PL, 25)

Dr-54グリッド内に位置し、主軸方位はN-37°-Wに傾く。規模は長辺0.54m、短辺0.35m、深さ0.16mを測る。形状は楕円形を呈する。40号土坑に掘り込まれ、44号土坑を掘り込む。底面に灰面の広がり見られ、炭化材等出土。

#### 46号土坑 (PL, 25)

Dp-62グリッド内に位置する。規模は長辺1.28m、深さ0.34mを測る。形状は円形を呈する。覆土中には砂礫を多量に含む。

#### 47号土坑 (PL, 25)

Dp-62グリッド内に位置する。規模は長辺1.40m、深さ0.37mを測る。形状は円形を呈する。覆土中には砂礫を多量に含む。

#### 48号土坑 (PL, 26)

Ds-57グリッド内に位置し、主軸方位はN-5°-Eに傾く。規模は長辺1.62m、短辺0.71m、深さ0.20mを測る。形状は隅丸長方形を呈する。33号住居を掘り込む。底面に粘土塊検出。

#### 49号土坑 (PL, 26)

Dr-49グリッド内に位置する。規模は長辺0.98m、深さ0.27mを測る。形状は円形を呈する。礫投げ込まれた状態で出土。

#### 50号土坑 (PL, 26)

Dt-55グリッド内に位置し、主軸方位はN-58°-Wに傾く。規模は長辺1.52m、短辺1.10m、深さ0.18mを測る。形状は楕円形を呈する。覆土中にはAs-Bを多量に含む。

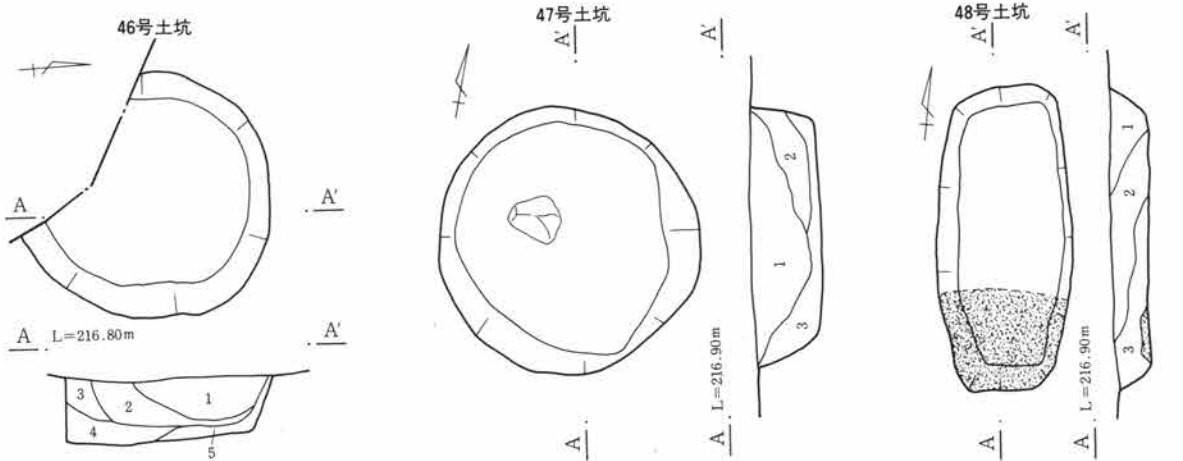
#### 55号土坑 (PL, 26)

1号井戸跡の立ち上り部分に変更。

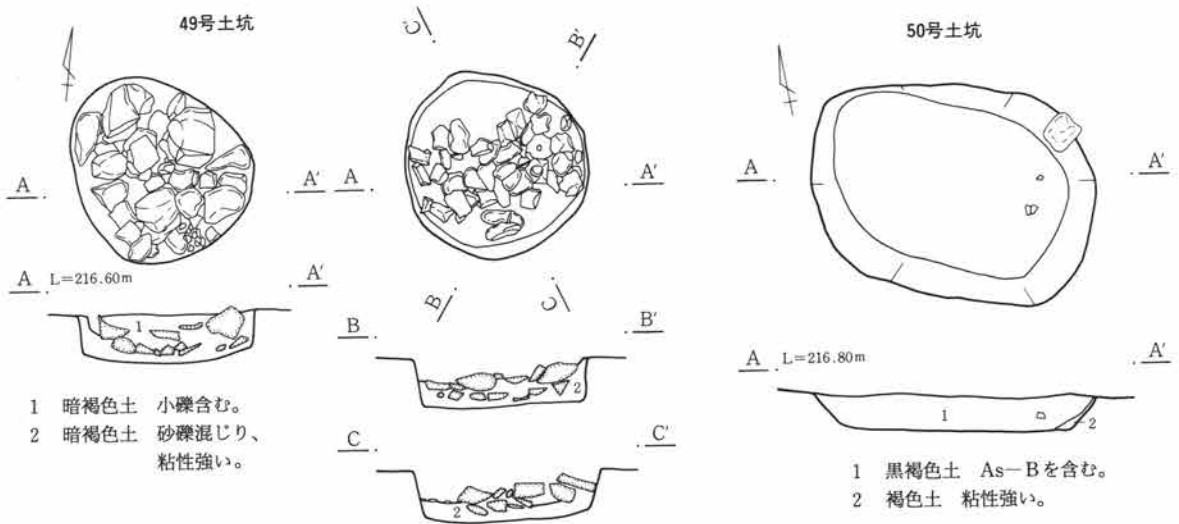
#### 56号土坑 (PL, 27)

Dt-56グリッド内に位置し、主軸方位はN-70°-Eに傾く。規模は長辺0.86m、短辺0.54m、深さ0.23mを測る。形状は隅丸長方形を呈する。覆土中に焼土粒・炭化物等を含み、底部より炭化材出土。

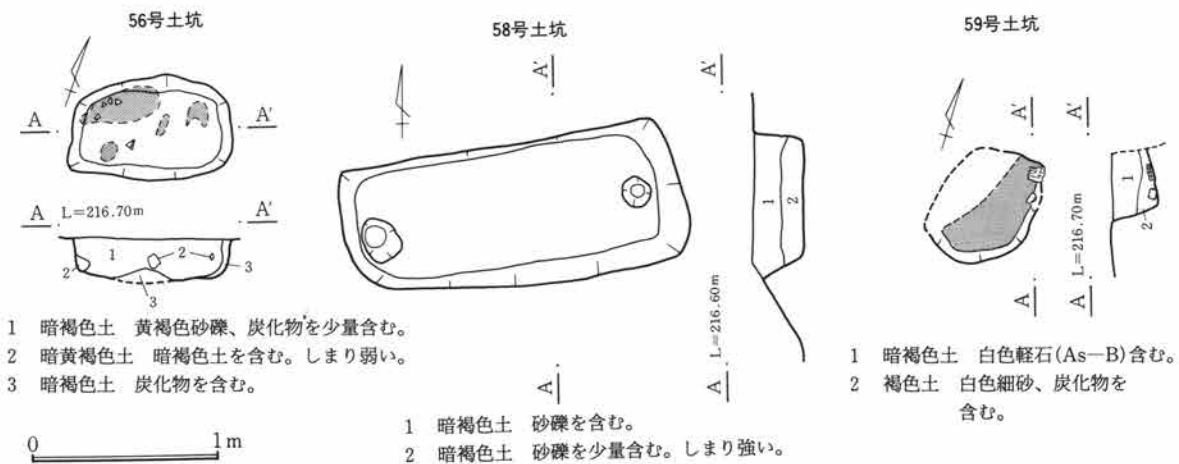
第3節 土坑跡



- |                        |                        |                               |
|------------------------|------------------------|-------------------------------|
| 1 暗褐色土 小礫(φ10mm)を含む。   | 1 暗褐色土 小礫(φ10mm)を含む。   | 1 暗褐色土 砂礫を含む。しまりなし。           |
| 2 暗褐色土 小礫を多く含む。        | 2 暗褐色土 細砂、小礫を含む。       | 2 褐色土 黄褐色土塊(φ約10mm)、微量の砂礫を含む。 |
| 3 暗褐色土 多量の細砂、少量の小礫を含む。 | 3 暗褐色土 多量の細砂、少量の小礫を含む。 | 3 褐色土 黄褐色土塊を含む。               |
| 4 暗褐色土 細砂、小礫を含む。       |                        |                               |
| 5 暗褐色土 3層に近似する。        |                        |                               |



- |                    |                 |
|--------------------|-----------------|
| 1 暗褐色土 小礫含む。       | 1 黒褐色土 As-Bを含む。 |
| 2 暗褐色土 砂礫混じり、粘性強い。 | 2 褐色土 粘性強い。     |



- |                        |                       |                      |
|------------------------|-----------------------|----------------------|
| 1 暗褐色土 黄褐色砂礫、炭化物を少量含む。 | 1 暗褐色土 砂礫を含む。         | 1 暗褐色土 白色軽石(As-B)含む。 |
| 2 暗黄褐色土 暗褐色土を含む。しまり弱い。 | 2 暗褐色土 砂礫を少量含む。しまり強い。 | 2 褐色土 白色細砂、炭化物を含む。   |
| 3 暗褐色土 炭化物を含む。         |                       |                      |

0 1m

第397図 46~50・56・58・59号土坑跡(2)

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 58号土坑 (PL.27)

Dr-52グリッド内に位置し、主軸方位はN-82°-Eに傾く。規模は長辺1.80m、短辺0.64m、深さ0.20mを測る。形状は長方形を呈する。3号溝底面部分で確認。

#### 59号土坑 (PL.27)

Dr-51グリッド内に位置し、主軸方位はN-21°-Eに傾く。規模は長辺0.66m、短辺0.50m、深さ0.05mを測る。形状は楕円形を呈する。底面に灰面広がり、炭化材出土。

#### 60号土坑 (PL.27)

Dt-57グリッド内に位置し、主軸方位はN-16°-Wを測る。規模は長辺2.86m、短辺0.60m、深さ0.13mを測る。形状は長方形を呈する。上面大礫出土。

#### 63号土坑 (PL.28)

Dq-53グリッド内に位置し、主軸方位はN-79°-Eに傾く。規模は長辺0.50m、短辺0.33m、深さ0.01mを測る。形状は長方形を呈すると考えられる。底面に灰の広がり見られる。

#### 64号土坑 (PL.28)

Ds-54グリッド内に位置し、主軸方位はN-9°-Eに傾く。規模は長辺0.89m、短辺0.70m、深さ0.17mを測る。形状は楕円形を呈する。底面に灰の広がり見られ、大礫投げ込まれた状態で出土。

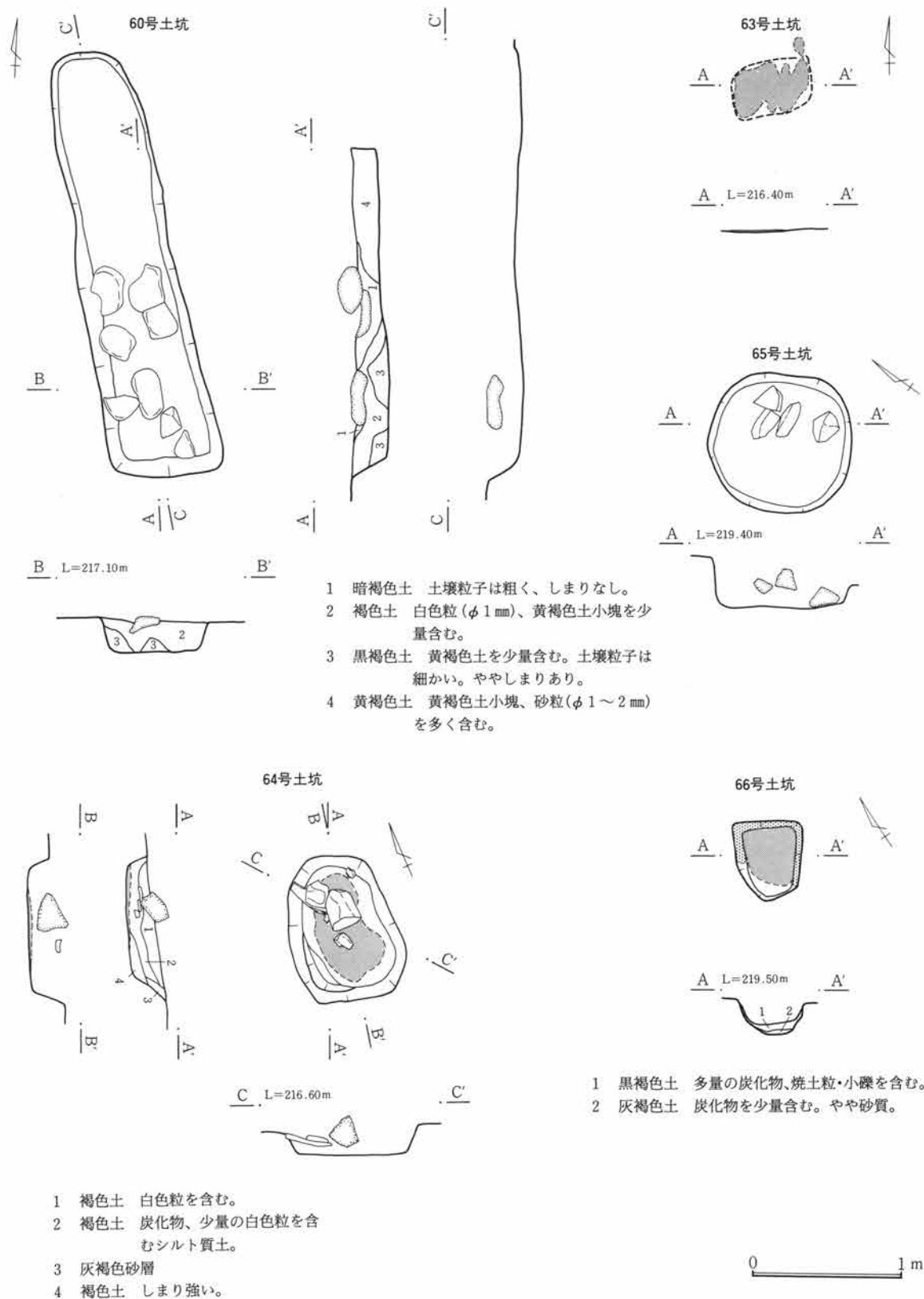
#### 65号土坑 (PL.28)

Dr-49グリッド内に位置する。規模は長辺0.98m、深さ0.33mを測る。形状は円形を呈する。覆土中には多量の炭化物・焼土粒を含む、大礫出土。

#### 66号土坑

Ds-49グリッド内に位置し、主軸方位はN-26°-Eに傾く。規模は長辺0.53m、短辺0.43m、深さ0.20mを測る。形状は方形を呈する。27・28号住居の重複部分を掘り込む。灰面あり。

第3節 土坑跡



第398図 60・63~66号土坑跡



### 第3章 検出された遺構と遺物

調査区西端部で弥生時代後期（樽式）の土器を出土する土坑を1基のみ検出した。また、同期の土器は3号溝西側Dr-55グリッド内で2個体を重ね埋置された状態で検出したが土坑とはならなかった。

縄文時代の土坑は、3号溝東側の微高地と調査区南端部でまとまりが見られた。大半の土坑は円形を呈する。微高地上の土坑は、縄文時代中期（加曾利EIV式）から後期（堀ノ内式）にかけての土坑群であり、北側微高地上の集落に伴うものと考えられる。また、調査区南端部の土坑は、縄文時代中期（勝坂式）の土坑群であり、線路を挟んだDS区で検出された縄文時代中期を中心とした土坑群の北端部と考えられる。この両者を挟んだ調査区を縦断する旧河道跡上面の黒色帯からは、縄文時代後期（加曾利B式）の土器を出土する67号土坑が検出されている。また、5号溝南端で検出された57号土坑からは、縄文時代晩期から弥生時代初頭への移行期に属すると思われる口唇部に指頭圧痕を巡らし、胴部に斜方向の条痕状削痕の見られる土器が1個体出土している。

#### 16号土坑 (PL, 21・114)

Dt-63グリッド内に位置し、主軸方位はN-15°-Eに傾く。規模は長辺0.85m、短辺0.58m、深さ0.18mを測る。形状は楕円形を呈する。覆土上面から弥生後期甕形土器出土。

#### 18号土坑 (PL, 22・114)

Dt-51グリッド内に位置する。規模は長辺0.95m、深さ0.30mを測る。形状は円形を呈する。縄文?の磨製石斧出土。

#### 19号土坑 (PL, 22・114)

Dt-52グリッド内に位置し、主軸方位はN-2°-Wに傾く。規模は長辺1.13m、短辺0.98m、深さ0.45mを測る。形状は楕円形を呈する。1号掘立柱建物柱穴No.13に切られ、20号土坑と接する。縄文時代中期から後期の土器を出土する。

#### 20号土坑 (PL, 22・114)

Dt-52グリッド内に位置する。規模は長辺0.90m、深さ0.21mを測る。形状は円形を呈する。1号掘立柱建物跡柱穴No.13に切られ、19号土坑に接する。覆土はAs-Bを多量に含む黒色土である。

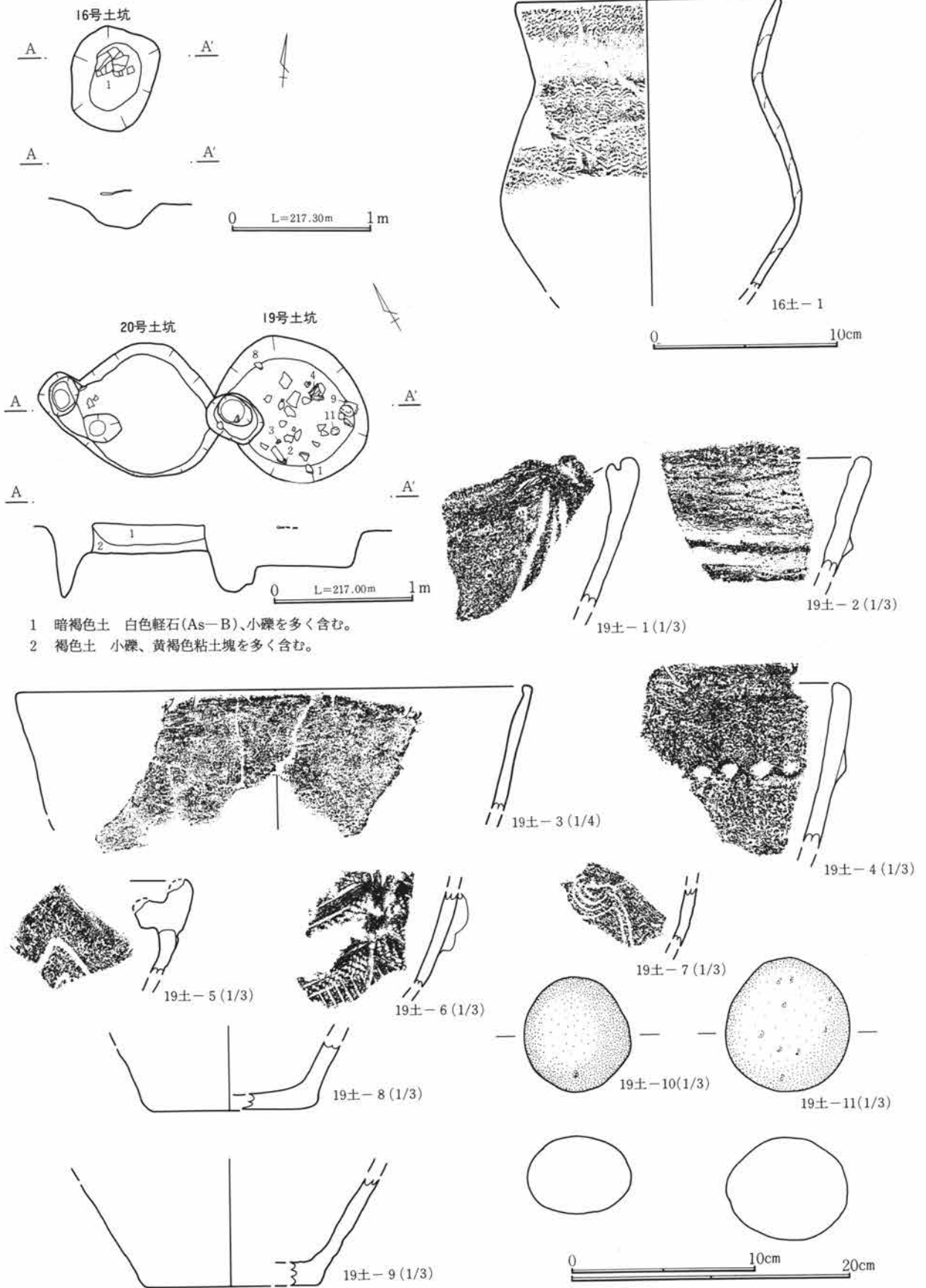
#### 22号土坑 (PL, 23・115)

Ds-51グリッド内に位置する。規模は長辺0.75m、深さ0.28mを測る。形状は円形を呈する。縄文時代中期（加曾利E4式）深鉢形土器が倒れた状態で出土、その他大小の礫も多く出土。

#### 35号土坑 (PL, 24)

Dt-51グリッド内に位置する。規模は長辺0.94m、深さ0.50mを測る。形状は円形を呈する。25号住居を掘り込む。覆土はAs-Bを多量に含む黒色土であり、底面付近より大礫出土。

第3節 土坑跡



- 1 暗褐色土 白色軽石(As-B)、小礫を多く含む。  
 2 褐色土 小礫、黄褐色粘土塊を多く含む。

第399図 16・19・20号土坑跡及び出土遺物

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 36号土坑 (PL.24)

Dt-51グリッド内に位置する。規模は長辺1.12m、深さ0.32mを測る。形状は円形を呈する。25号住居を掘り込む。覆土はAs-Bを多量に含む黒色土であり、中層に礫を多く含む。

#### 51号土坑 (PL.26・115)

Dm-54グリッド内に位置し、主軸方位はN-41°-Eに傾く。規模は長辺1.18m、短辺1.00m、深さ0.45mを測る。形状は楕円形を呈する。1号溝に掘り込まれる。縄文時代中期の浅鉢形土器を出土。

#### 52号土坑 (PL.26・115)

Dm-54グリッド内に位置する。規模は長辺1.10m、深さ0.30mを測る。形状は円形を呈する。1号溝に掘り込まれる。縄文時代中期の土器を出土。

#### 53号土坑 (PL.26・115)

Dm-54グリッド内に位置する。規模は長辺0.59m、深さ0.30mを測る。形状は円形を呈する。1号溝に掘り込まれる。縄文時代中期の土器を出土。

#### 54号土坑 (PL.26)

Dm-55グリッド内に位置する。規模は長辺1.10m、深さ0.28mを測る。形状は円形を呈する。1号溝に掘り込まれる。縄文時代中期の小破片の土器を出土。

#### 57号土坑 (PL.27・115)

Do-55グリッド内に位置し、主軸方位はN-7°-Eに傾く。規模は長辺2.20m、短辺1.50m、深さ0.20mを測る。形状は楕円形を呈する。縄文時代晩期の深鉢形土器が1個体潰れた状態で出土。

#### 61号土坑 (PL.28・115)

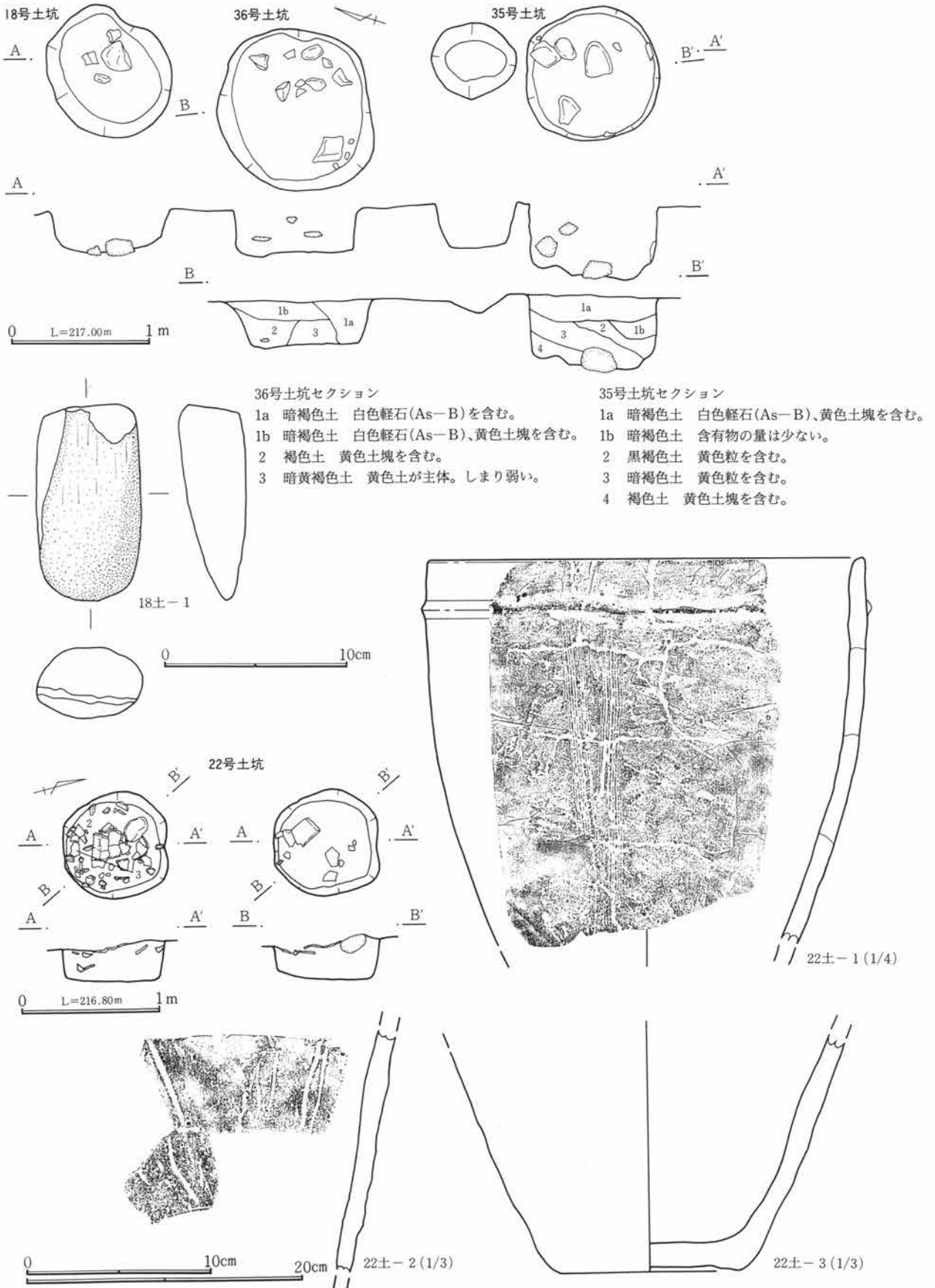
Dq-55グリッド内に位置する。規模は長辺0.74m、深さ0.30mを測る。形状は円形を呈する。5号溝内で検出。

#### 62号土坑 (PL.116)

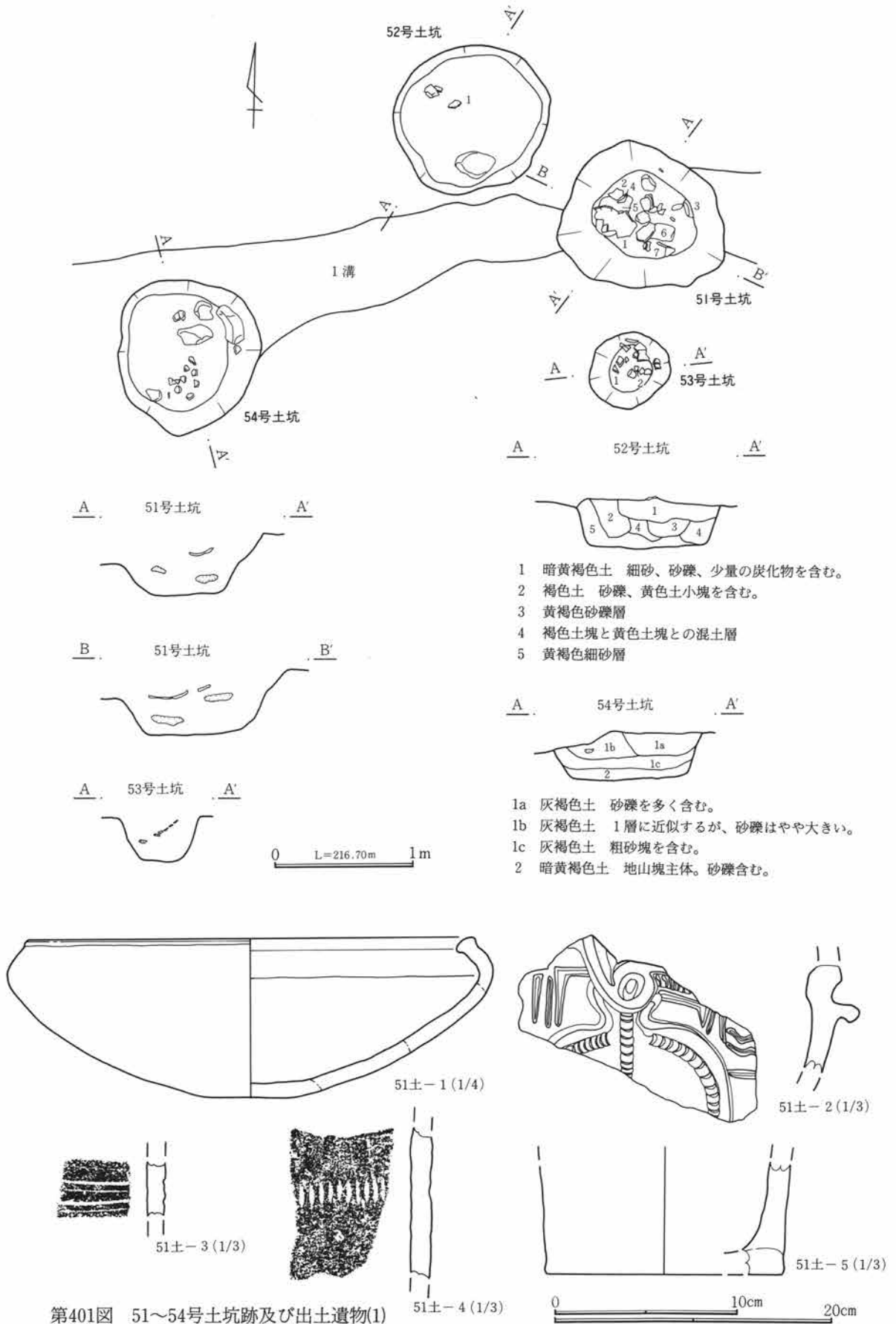
DI-55グリッド内に位置するが、断面のみ確認。断面長1.00m、深さ0.40mを測る。38号住に切られる。

#### 67号土坑 (PL.28・116)

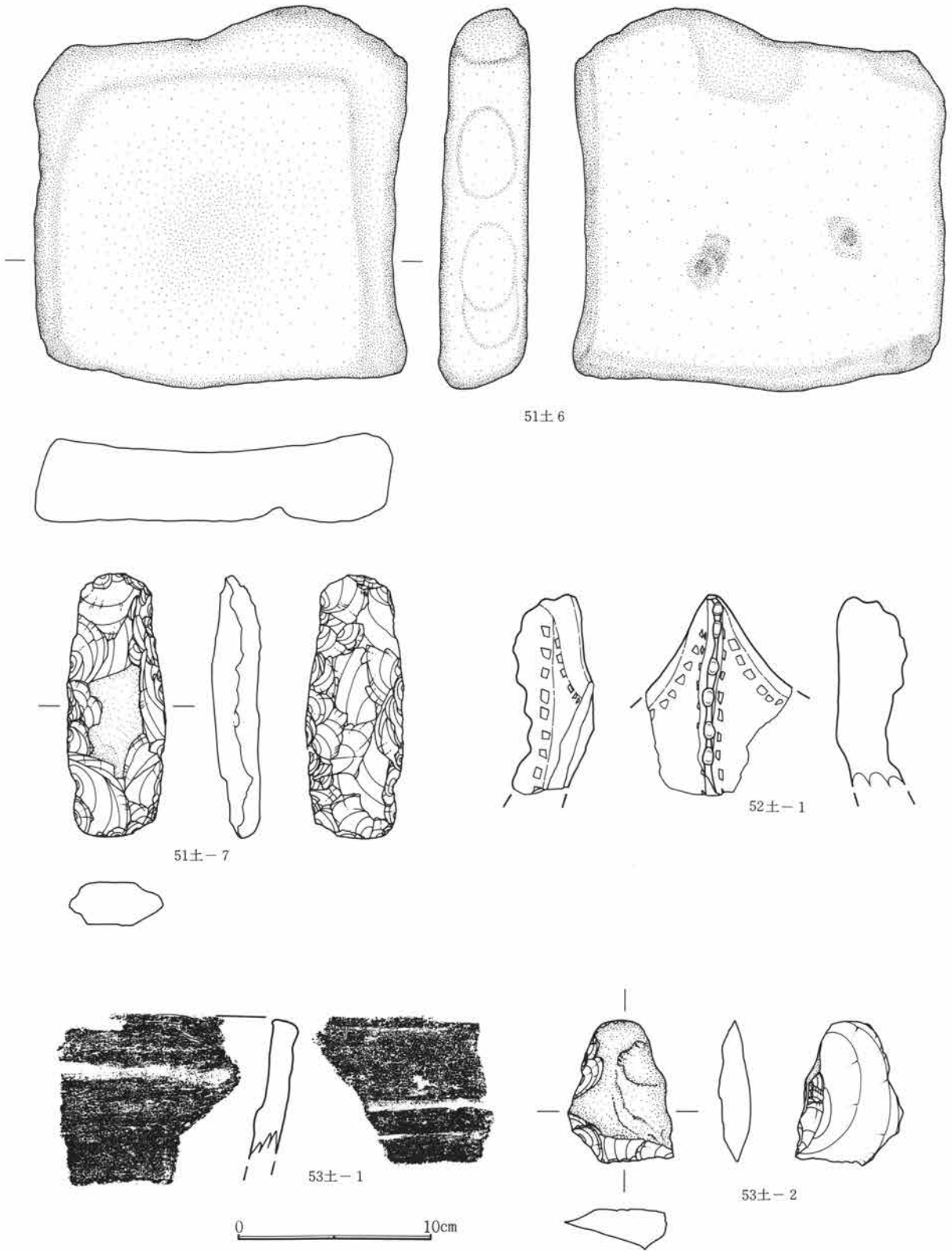
Dr-55グリッド内に位置し、主軸方位はN-37°-Wに傾く。規模は長辺2.50m、短辺1.87m、深さ0.43mを測る。形状は楕円形を呈する。縄文時代後期の注口土器・石錘・石匙等出土。



第400図 18・22・35・36号土坑跡及び出土遺物

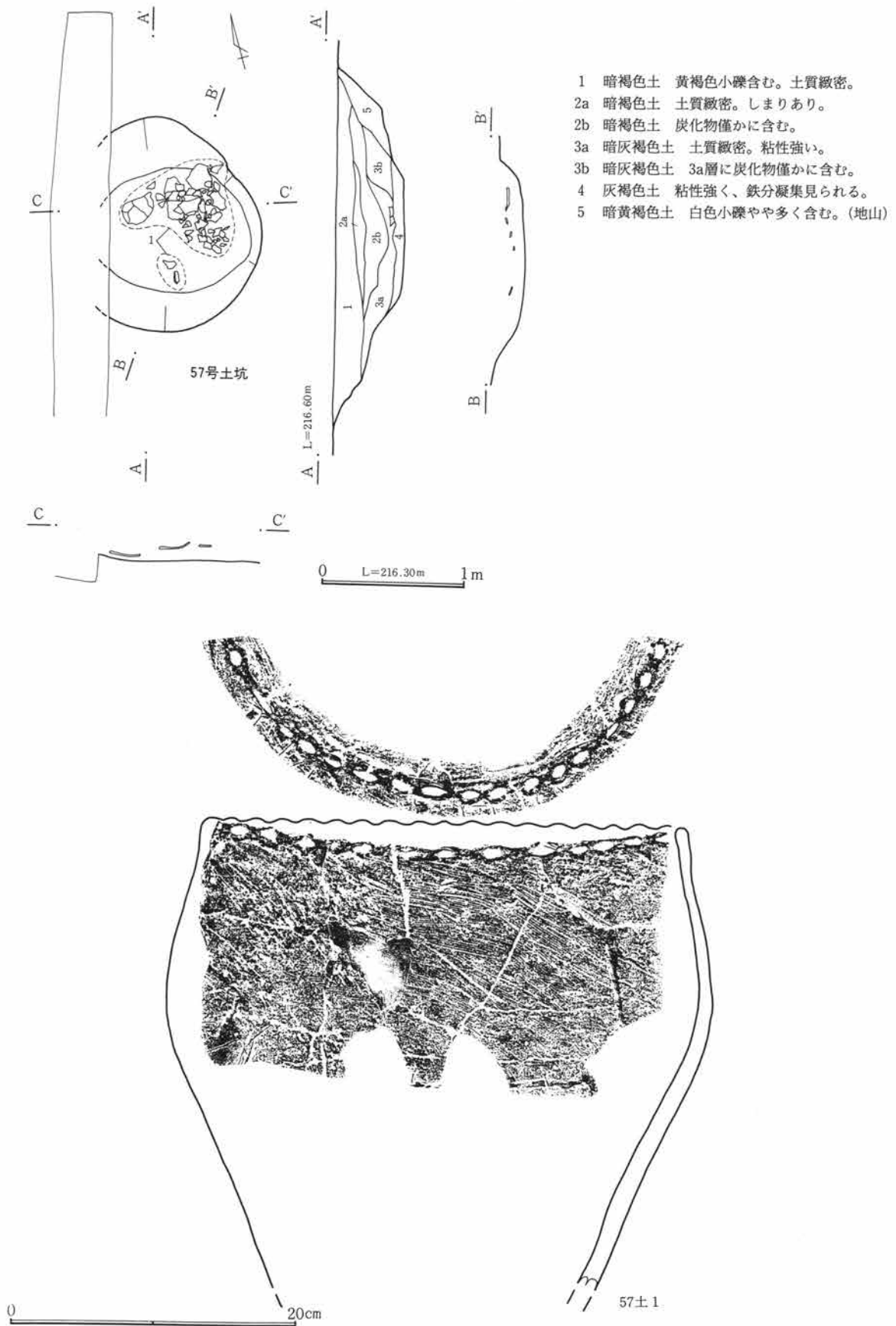


第401図 51~54号土坑跡及び出土遺物(1)



第402図 51~53号土坑跡出土遺物(2)

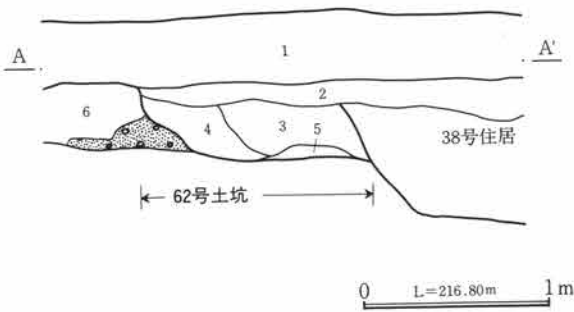
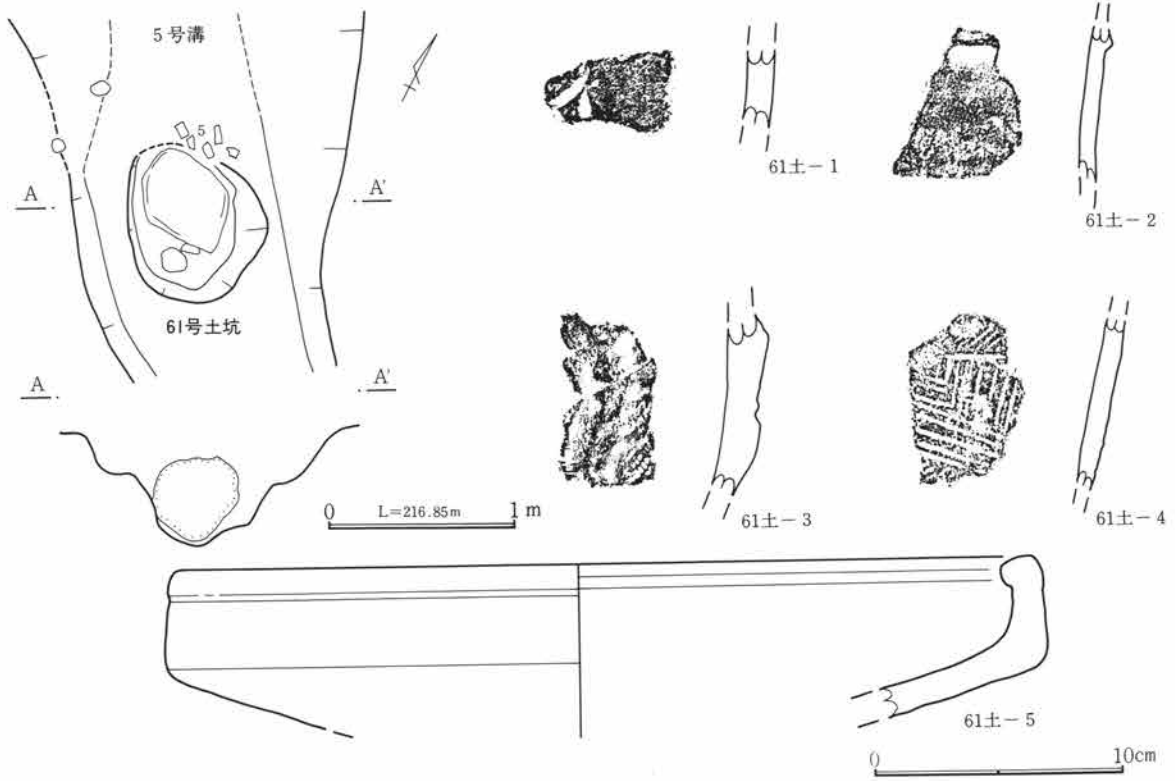
第3章 検出された遺構と遺物



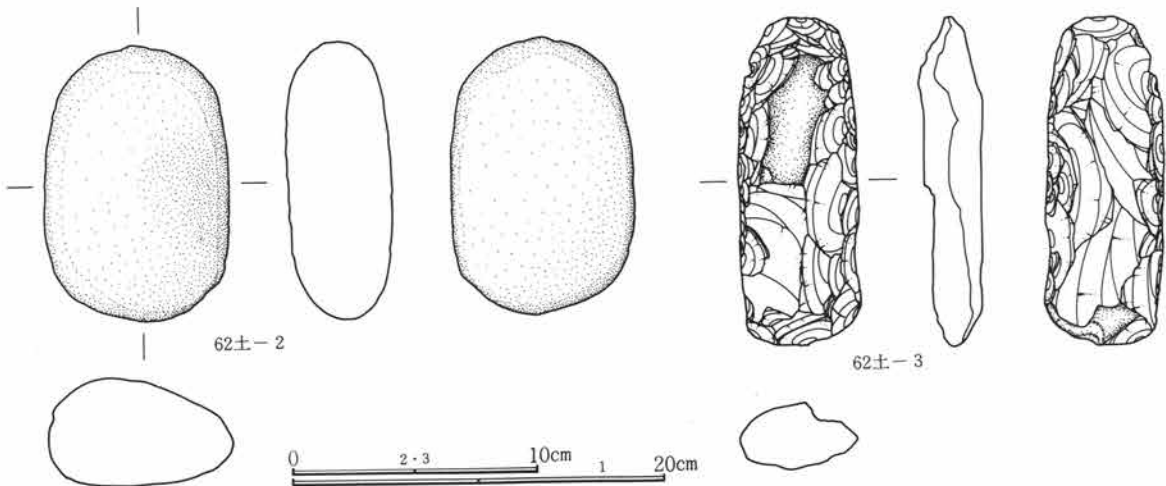
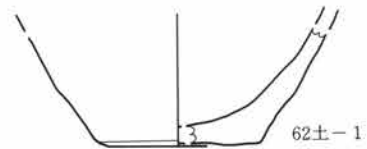
第403図 57号土坑跡及び出土遺物



第3節 土坑跡

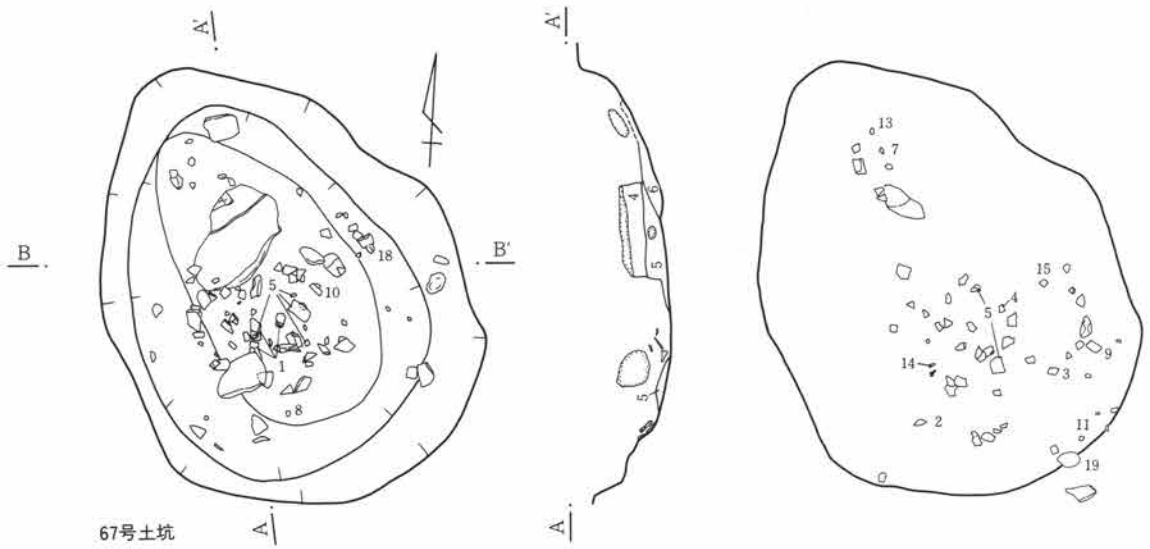


- 1 灰褐色土 現耕作土。
- 2 黒褐色土 As-B・砂礫混じり。
- 3 黒褐色土 砂礫多く含む。土器片含む。
- 4 暗褐色土 砂礫混じり。しまり弱い。
- 5 暗黄褐色土 砂礫主体。固くしまった灰褐色土塊含む。
- 6 暗褐色土 砂礫混じり。
- 7 暗黄褐色砂礫層

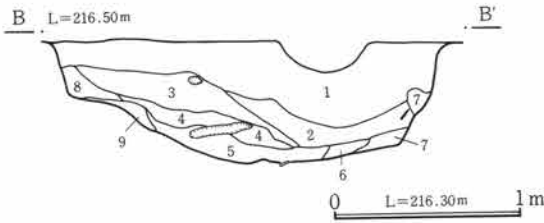


第404図 61・62号土坑跡及び出土遺物

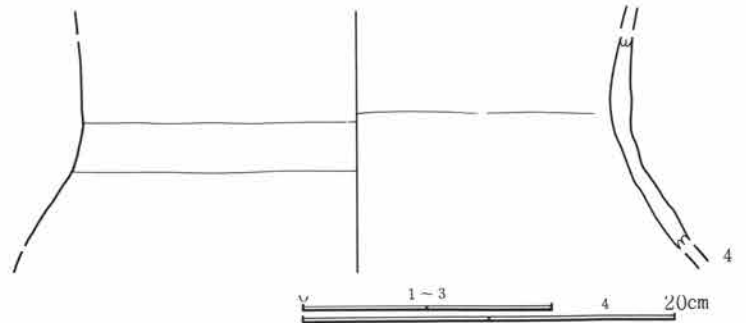
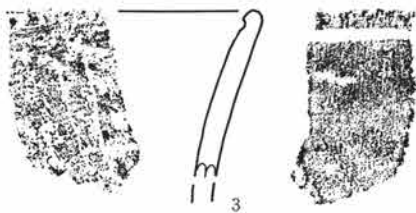
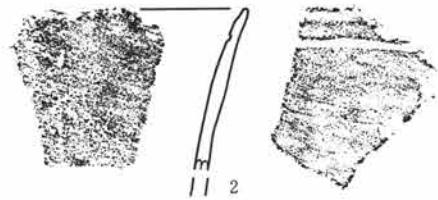
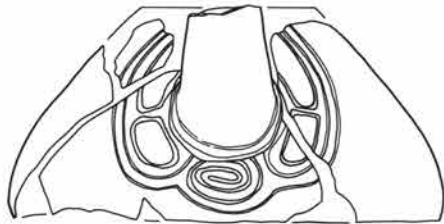
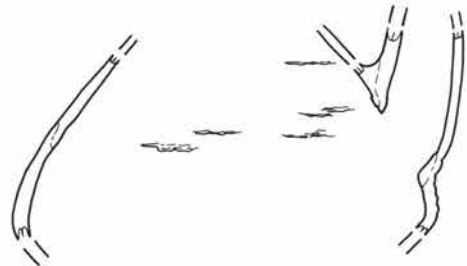
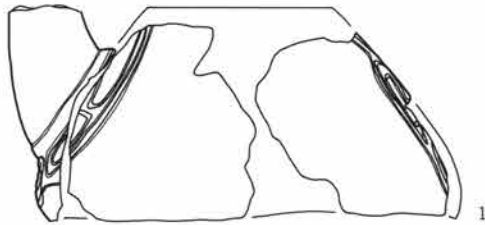
第3章 検出された遺構と遺物



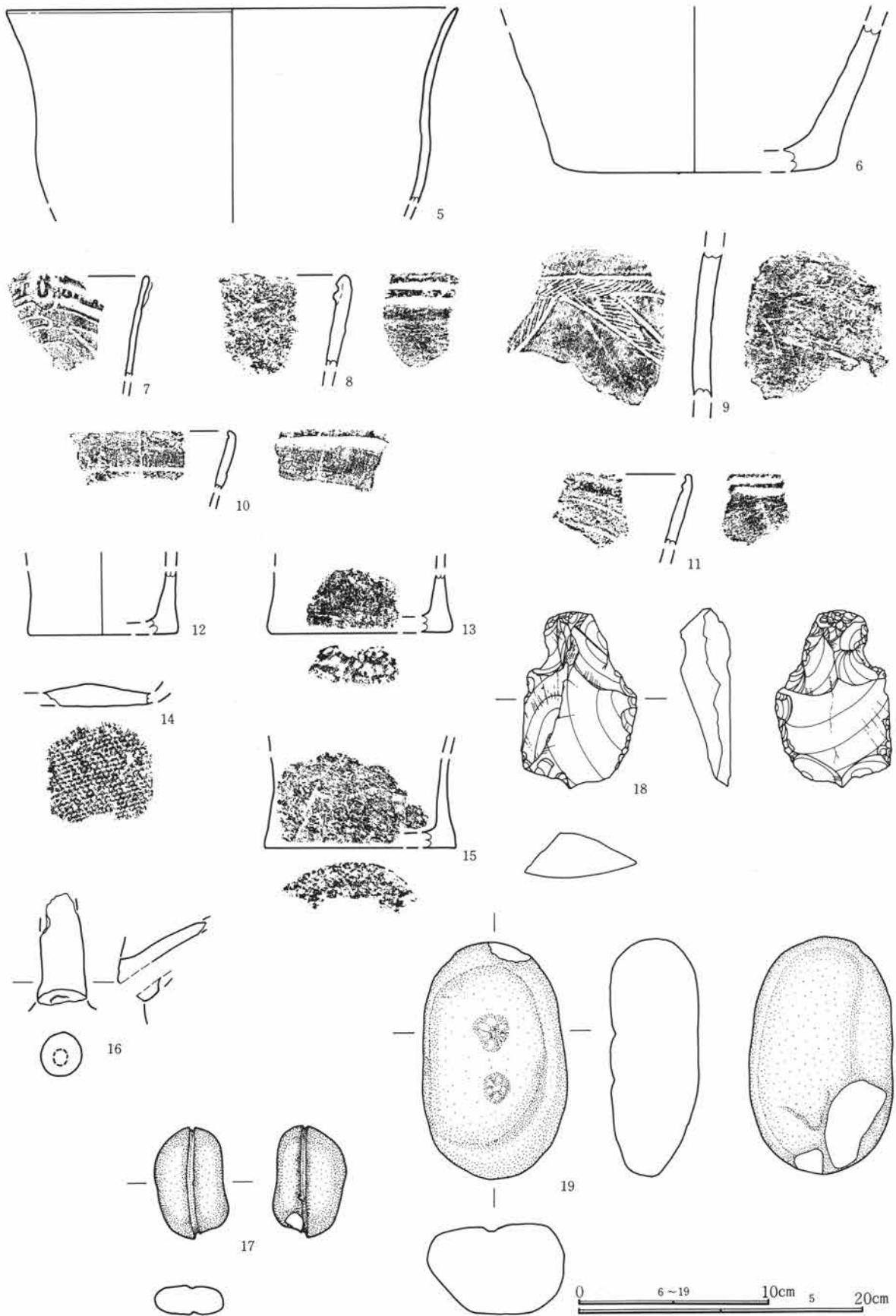
67号土坑



- 1 黄色土 白色小礫、炭化物を含む。(土層に茶色斑点混じる)
- 2 黄色土 白色小礫、炭化物、灰白色粘土を含む。( // )
- 3 黄橙色土 白色小礫、炭化物を少量含む。( // )
- 4 橙色土 小礫、炭化物を含む。土色は灰色味を帯びる。
- 5 灰茶色土 灰色粘土を主体とし、多量の鉄分を含む。
- 6 灰茶色土 5層に近似するが、鉄分がやや少ない。
- 7 黄色土 粘質土。
- 8 黄褐色粘土 炭化物、鉄分を含む。
- 9 灰黄色土 黄白色粘土を主体とする。



第405図 67号土坑跡及び出土遺物(1)



第406图 67号土坑跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物

D N区洋梨形土坑一覧表

土坑 番号	土坑 位置	方 位	規 模(m)				時期	備 考
			全長	燃焼部	焚口部	深さ		
2号	Dq-58	N-75°-E	1.52	0.67	0.38	0.26	近世	8号住居を掘り込む。磁器出土。
4号	Dr-60	N-90°-E	1.19	0.68	0.35	0.22	近世	炭化材残る。
5号	Dr-60	N-54°-E	1.47	0.74	—	0.28	近世	変形。礫出土、5号土坑掘り込む。
6号	Dr-60	N-54°-E	0.60	—	—	0.10		変形。
11号	Dt-61	N-17°-W	0.87	0.72	0.39	0.13	近世	2号溝埋土上面を掘り込む。

E区洋梨形土坑一覧表

土坑 番号	土坑 位置	方 位	規 模(m)				時期	備 考
			全長	燃焼部	焚口部	深さ		
3号	Ec-62	N-18°-W	1.07	0.53	0.37	0.19	近世	
19号	Ed-55	N-16°-W	1.20	0.68	0.40	0.32	近世	20・21号土坑を切る。
21号	Ed-55	N-9°-W	0.97	0.55	0.38	0.18	近世	19号・20号土坑に切られる。
22号	Ed-55	N-28°-W	1.22	0.80	0.39	0.28	近世	21号土坑を切る。
23号	Ee-55	N-10°-W	1.28	0.38	0.43	0.34	近世	
35号	Ej-64	N-75°-E	0.95	0.57	0.27	0.10	近世	2号溝覆土上面掘り込む。
36号	Ej-64	N-64°-E	1.12	0.56	0.31	0.18	近世	2号溝覆土上面掘り込む。
37号	Ek-64	N-70°-E	0.68	0.56	—	0.27	近世	2号溝、38号土坑を掘り込む。
38号	Ej-64	N-65°-E	0.76	0.62	0.36	0.25	近世	2号溝覆土上面掘り込み、37号土坑に切られる。
39号	Ek-65	N-22°-W	1.66	0.64	0.46	0.22	近世	2号溝覆土上面を掘り込む。
40号	Ei-64	N-83°-E	1.00	0.66	0.45	0.10	近世	2号溝覆土上面を掘り込む。
41号	Ej-64	N-65°-E	0.90	0.46	0.37	0.01	近世	2号溝覆土上面を掘り込む。
45号	Ep-66	N-86°-E	1.24	0.60	0.43	0.06	近世	2号溝?と重複。
46号	Ep-66	N-88°-E	1.18	0.60	0.37	0.03	近世	
47号	Ep-65	N-22°-W	1.72	0.96	0.51	0.45	近世	変形。
49号	Eq-65	N-55°-W	(1.80)	0.70	0.43	0.39	近世	48号土坑を掘り込む。炭化材出土。打斧出土。
50号	Eq-65	N-38°-W	1.58	0.62	0.35	0.17	近世	
51号	Eq-65	N-63°-W	0.92	0.62	0.36	0.27	近世	燃焼部壁面、多角形状に面取りされる。炭化材出土。
52号	Eq-65	N-26°-W	1.64	0.76	0.52	0.13	近世	
53号	Eq-65	N-19°-W	1.20	0.68	0.37	0.13	近世	
54号	Eq-64	N-14°-W	1.90	0.70	0.41	0.21	近世	
55号	Eq-65	N-9°-W	1.52	0.74	0.33	0.30	近世	31号土坑同様、壁面面取り痕あり。
67号	Eo-57	N-18°-W	1.80	0.72	0.25	0.24	近世	炭化材出土。磁器出土。
99号	Eh-55	N-21°-W	0.92	0.58	0.35	0.18	近世	炭化材多量に出土。

### 3. E区土坑の概要

E区において検出された土坑総数は210基を数えた。DN区同様に洋梨形土坑及び弥生土器・縄文土器を出土する土坑は、まとめて掲載し、その他の土坑は一括して通番で掲載した。

その他の土坑の中にも洋梨形土坑以外に火熱を受けた土坑や礫の多量に出土した土坑及びAs-Bを多量に含む土坑等に分けられる。また人骨や獣骨を出土する墓坑も検出されている。その概要は以下のとおりである。

火熱を受けた土坑は、4基(1号・2号・4号・11号)検出されている。1号・2号・4号・11号土坑は、長辺1m、短辺0.6m程の規模を持つ長方形の土坑であり、壁面の焼土化や覆土中の焼土粒・炭化物の入り方に似た状況が見られ、骨片等の出土はないが火葬墓と考えられる。位置としては、西辺部2号溝両脇に集中する。

人骨及び獣骨を出土した土坑は、6号土坑、86号土坑、109号土坑、110号土坑の4基である。6号土坑は遺跡西辺部の4号溝南に位置し、掘り込みは不明瞭であり小土坑に切られている。出土人骨は頭骨及び足又は腕の骨と思われるが、遺存状態が悪く計測不能であった。86号土坑は遺跡中央北よりの28号住居東脇に位置し、馬の頭部が出土している。

109号土坑及び110号土坑は遺跡中央部に位置し、周辺部には遺構は少ない。両土坑は重複しており、109号土坑が110号土坑を掘り込み作られている。両土坑からは馬骨が出土しており、110号土坑の馬骨は、顎及び歯の残りが良く、若年馬である。覆土中にはAs-Bを含む暗褐色土の堆積が見られた。

大礫を多量に出土する土坑は、15基(5号・8号・9号・13号～15号・31号・34号・57号・111号・116号・176号・184号・197号・202号)検出されている。形状は円形を呈するものが多く、楕円形や隅丸方形または隅丸長方形を呈する土坑も若干ある。礫の出土状態は、投げ込まれた状況と埋置された状態の二者が見られる。礫の投げ込まれた土坑は、覆土中に地山塊が多量に含まれ互層に堆積し、その中に礫の混じる土坑(9号・13号・15号土坑等)がある。また、礫が埋置された土坑は、覆土中の土層に乱れがなく、礫が底面に接した状態で出土している土坑(8号・14号・57号土坑等)がある。また、大礫が1、2個底面から出土している土坑も多数検出されているが、上記の埋置された土坑同様に用途等は不明である。

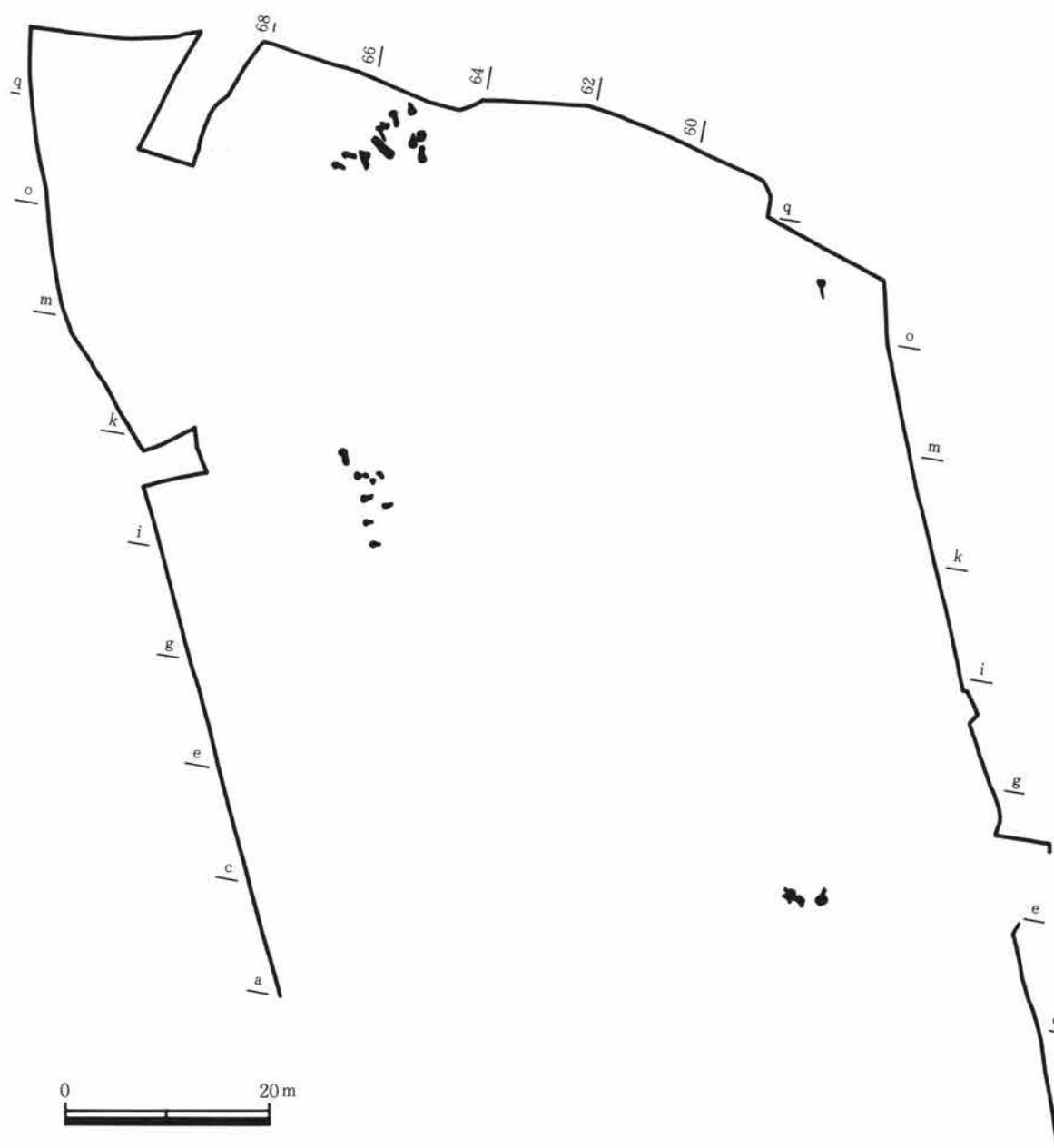
洋梨形土坑は、E区では30基検出されている。遺跡内の位置は、2号溝覆土上面と北側縁辺部に集中してみられる。また、19号土坑から23号土坑の5基については、遺跡中央部の微高地上にまとまって検出されている。形状は、DN区同様、円形の燃焼部と細長い炊き口部にわかれ、54号土坑では全長は1.9m前後、燃焼部の幅70cm前後を測り、燃焼部壁面は焼土化している。壁面の形状は、51号土坑及び55号土坑の遺存状態が良好であり、壁面の焼土の厚みは1～2cmを測り、地山とはやや異なった粘土を貼り、板状の工具を当て押さえたと思われる多角形の面が検出された。面の幅は20～30cmを測り、内傾する。覆土にはAs-Aが混じり、下層には焼土粒・灰・炭化物の層が見られ、炊き口部に棒状炭化材の残る土坑も見られる。

### 4. E区土坑

#### 3号土坑(PL.81)

Ec-62グリッド内に位置する。主軸方位はN-18°-Wに傾く。規模は全長1.07m、燃焼部0.53m、焚口部0.37m、深さ0.19mを測る。形状は洋梨形を呈する。

第3章 検出された遺構と遺物



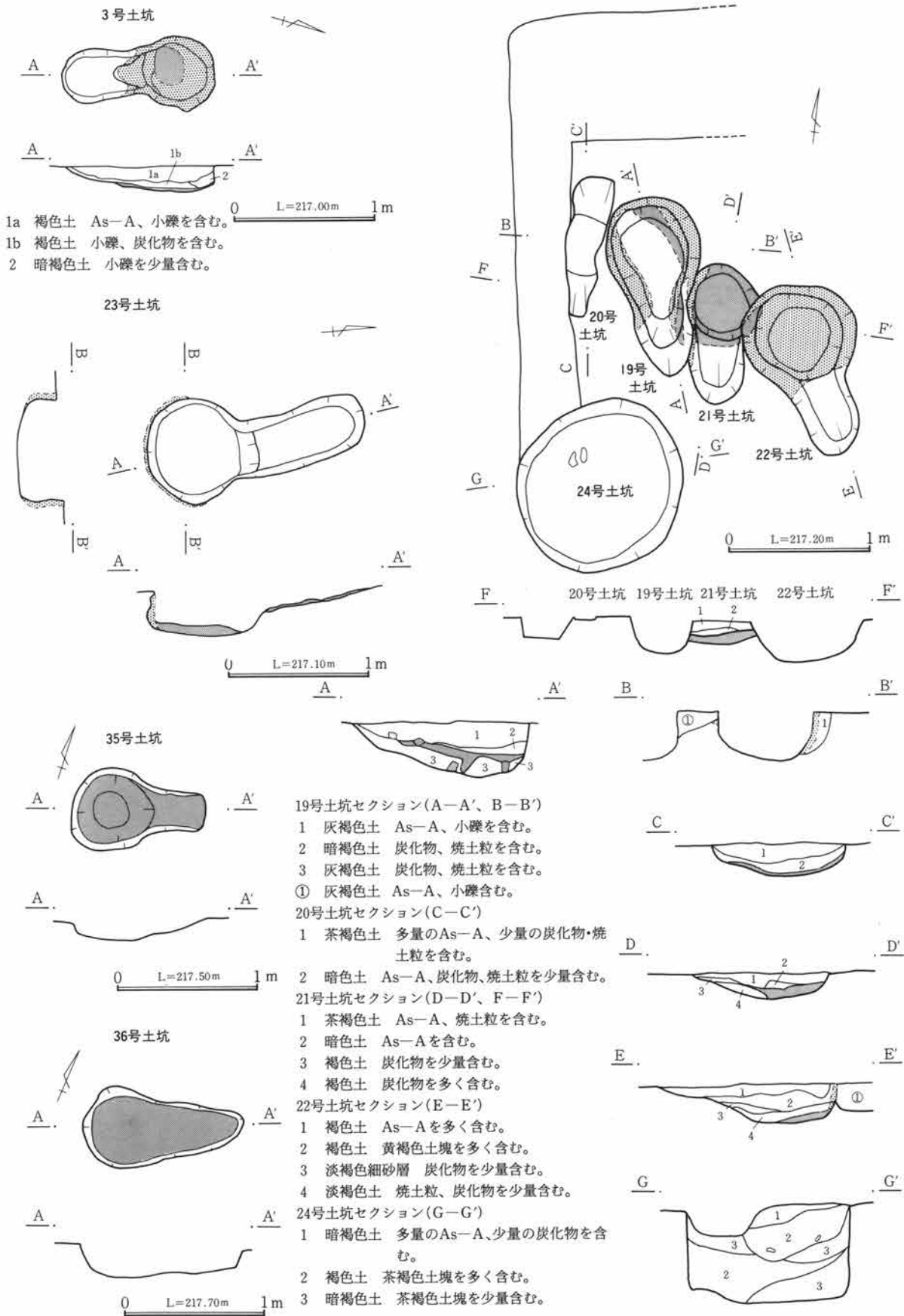
第407図 E区洋梨形土坑配置図

19号土坑 (PL. 81)

Ed-55グリッド内に位置する。主軸方位はN-16°-Wに傾く。規模は全長1.20m、燃焼部0.68m、焚口部0.40m、深さ0.32mを測る。形状は洋梨形を呈する。20・21号土坑を切る。

20号土坑 (PL. 81)

Ed-55グリッド内に位置する。主軸方位はN-7°-Eに傾く。規模は全長0.98m、燃焼部0.27m、焚口部0.38m、深さ0.24mを測る。形状は楕円形を呈する。19号土坑に切られる。



第408図 3・19~24・35・36号土坑跡



### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 21号土坑 (PL, 81)

Ed-55グリッド内に位置する。主軸方位はN-9°-Wに傾く。規模は全長0.97m、燃焼部0.55m、焚口部0.38m、深さ0.18mを測る。形状は洋梨形を呈する。19・20号土坑に切られる。

#### 22号土坑 (PL, 81)

Ed-55グリッド内に位置する。主軸方位はN-28°-Wに傾く。規模は全長1.22m、燃焼部0.80m、焚口部0.39m、深さ0.28mを測る。形状は洋梨形を呈する。21号土坑を切る。

#### 23号土坑 (PL, 82)

Ee-55グリッド内に位置する。主軸方位はN-10°-Wに傾く。規模は全長1.28m、燃焼部0.38m、焚口部0.43m、深さ0.34mを測る。形状は洋梨形を呈する。

#### 24号土坑 (PL, 85)

Ed-55グリッド内に位置する。規模は長辺1.20m、深さ0.66mを測る。形状は円形を呈する。上面にAs-B混土見られる。

#### 35号土坑 (PL, 82)

Ej-64グリッド内に位置する。主軸方位はN-75°-Eに傾く。規模は全長0.95m、燃焼部0.57m、焚口部0.27m、深さ0.10mを測る。形状は洋梨形を呈する。2号溝覆土上面掘り込む。

#### 36号土坑 (PL, 82)

Ej-64グリッド内に位置する。主軸方位はN-64°-Eに傾く。規模は全長1.12m、燃焼部0.56m、焚口部0.31m、深さ0.18mを測る。形状は洋梨形を呈する。2号溝覆土上面掘り込む。

#### 37号土坑 (PL, 82)

Ek-64グリッド内に位置する。主軸方位はN-70°-Eに傾く。規模は全長0.68m、燃焼部0.56m、深さ0.27mを測る。形状は洋梨形を呈する。2号溝、38号土坑を掘り込む。

#### 38号土坑 (PL, 82)

Ej-64グリッド内に位置する。主軸方位はN-65°-Eに傾く。規模は全長0.76m、燃焼部0.62m、焚口部0.36m、深さ0.25mを測る。形状は洋梨形を呈する。2号溝覆土上面掘り込み、37号土坑に切られる。

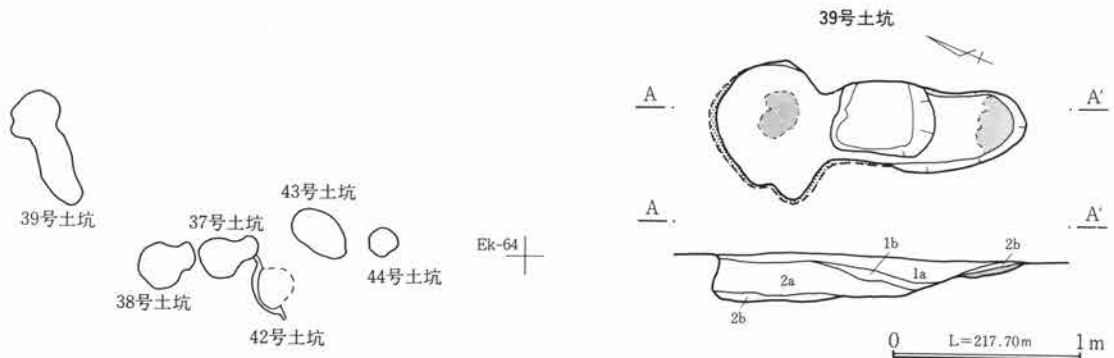
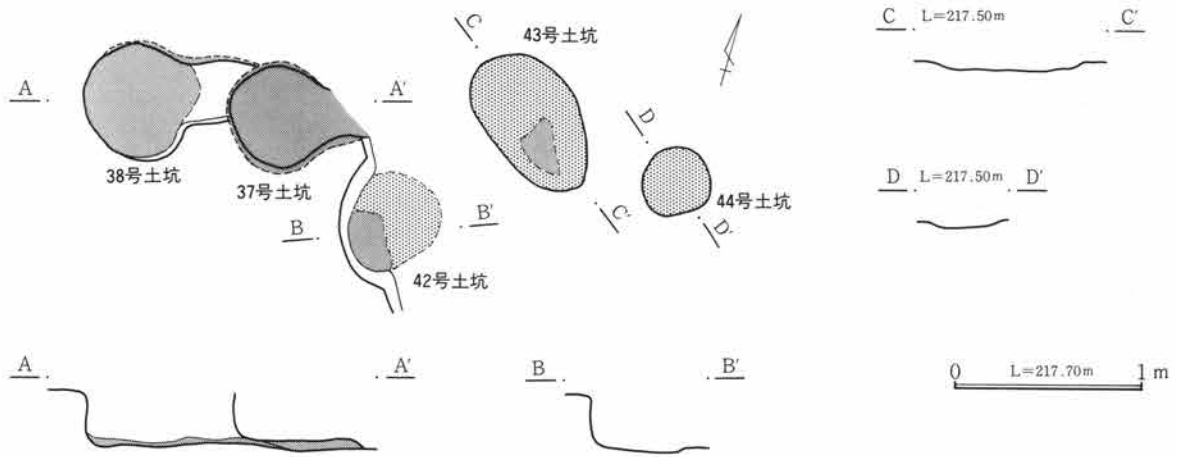
#### 39号土坑 (PL, 82)

Ek-65グリッド内に位置する。主軸方位はN-22°-Wに傾く。規模は全長1.66m、燃焼部0.64m、焚口部0.46m、深さ0.22mを測る。形状は洋梨形を呈する。2号溝覆土上面を掘り込む。

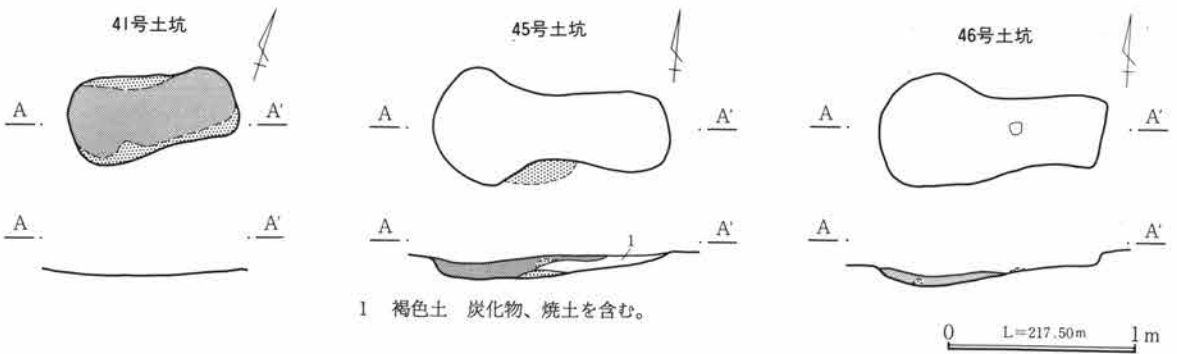
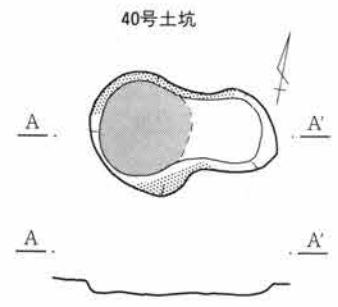
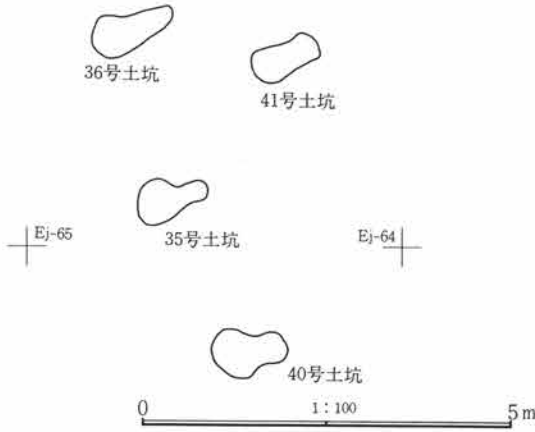
#### 40号土坑 (PL, 82)

Ei-64グリッド内に位置する。主軸方位はN-83°-Eに傾く。規模は全長1.00m、燃焼部0.66m、焚口部

第3節 土坑跡



- 1a 灰褐色土 As-Aを含む。
- 1b 灰褐色土 As-A、炭化物を含む。
- 2a 灰褐色土 小礫を含む。
- 2b 灰褐色土 炭化物、焼土粒を少量含む。



- 1 褐色土 炭化物、焼土を含む。

第409図 37~46号土坑跡及び土坑配置図

### 第3章 検出された遺構と遺物

0.45m、深さ0.10mを測る。形状は洋梨形を呈する。2号溝覆土上面を掘り込む。

#### 41号土坑

Ej-64グリッド内に位置する。主軸方位はN-65°-Eに傾く。規模は全長0.90m、燃烧部0.46m、焚口部0.37m、深さ0.01mを測る。形状は洋梨形を呈する。2号溝覆土上面を掘り込む。

#### 42号土坑

Ej-64グリッド内に位置する。規模は長辺(0.64)m、深さ0.30mを測る。形状は円形を呈する。2号溝覆土上面を掘り込む。

#### 43号土坑

Ek-64グリッド内に位置する。主軸方位はN-53°-Wに傾く。規模は長辺0.80m、短辺0.48m、深さ0.01mを測る。形状は楕円形を呈する。2号溝覆土上面を掘り込む。

#### 44号土坑

Ek-64グリッド内に位置する。規模は長辺0.36m、深さ0.01mを測る。形状は円形を呈する。

#### 45号土坑 (PL.82)

Ep-66グリッド内に位置する。主軸方位はN-86°-Eに傾く。規模は全長1.24m、燃烧部0.60m、焚口部0.43m、深さ0.06mを測る。形状は洋梨形を呈する。2号溝と重複。

#### 46号土坑 (PL.82)

Ep-66グリッド内に位置する。主軸方位はN-88°-Eに傾く。規模は全長1.18m、燃烧部0.60m、焚口部0.37m、深さ0.03mを測る。形状は洋梨形を呈する。

#### 47号土坑

Ep-65グリッド内に位置する。主軸方位はN-22°-Wに傾く。規模は全長1.72m、燃烧部0.96m、焚口部0.51m、深さ0.45mを測る。形状は洋梨形変形を呈する。

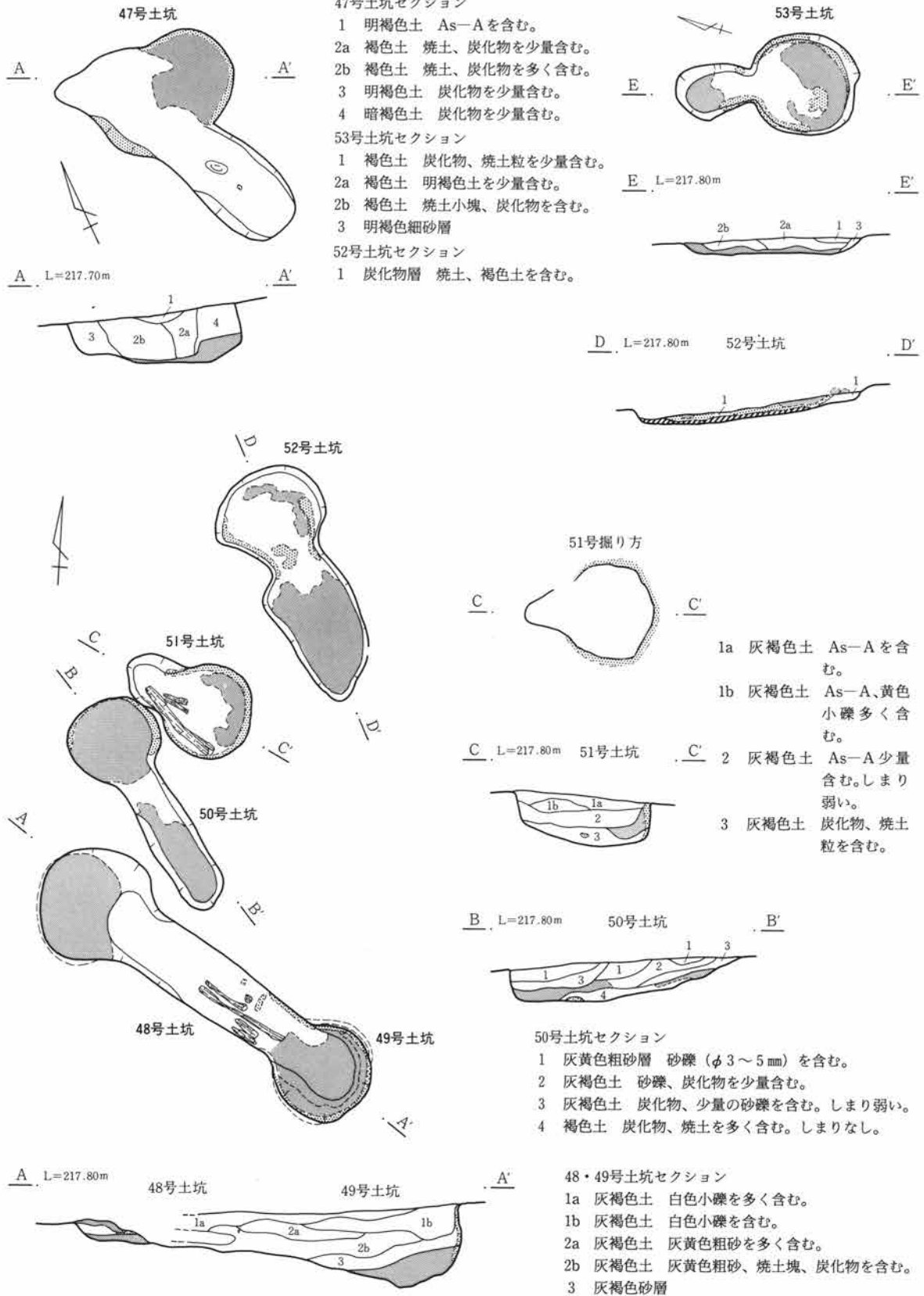
#### 48号土坑 (PL.83・146)

Eq-65グリッド内に位置する。規模は全長(0.80)m、深さ0.10mを測る。形状は円形を呈する。49号土坑に切られる。

#### 49号土坑 (PL.83)

Eq-65グリッド内に位置する。主軸方位はN-55°-Wに傾く。規模は全長(1.80)m、燃烧部0.70m、焚口部0.43m、深さ0.39mを測る。形状は洋梨形を呈する。48号土坑を掘り込む。炭化材出土。打斧出土。

第3節 土坑跡



第410図 47~53号土坑跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 50号土坑

Eq-65グリッド内に位置する。主軸方位はN-38°-Wに傾く。規模は全長1.58m、燃焼部0.62m、焚口部0.35m、深さ0.17mを測る。形状は洋梨形を呈する。

#### 51号土坑 (PL.83)

Eq-65グリッド内に位置する。主軸方位はN-63°-Wに傾く。規模は全長0.92m、燃焼部0.62m、焚口部0.36m、深さ0.27mを測る。形状は洋梨形を呈する。燃焼部壁面、多角形状に面取りされる。炭化材出土。

#### 52号土坑 (PL.83)

Eq-65グリッド内に位置する。主軸方位はN-26°-Wに傾く。規模は全長1.64m、燃焼部0.76m、焚口部0.52m、深さ0.13mを測る。形状は洋梨形を呈する。

#### 53号土坑 (PL.83)

Eq-65グリッド内に位置する。主軸方位はN-19°-Wに傾く。規模は全長1.20m、燃焼部0.68m、焚口部0.37m、深さ0.13mを測る。形状は洋梨形を呈する。

#### 54号土坑 (PL.83)

Eq-64グリッド内に位置する。主軸方位はN-14°-Wに傾く。規模は全長1.90m、燃焼部0.70m、焚口部0.41m、深さ0.21mを測る。形状は洋梨形を呈する。

#### 55号土坑 (PL.83)

Eq-65グリッド内に位置する。主軸方位はN-9°-Wに傾く。規模は全長1.52m、燃焼部0.74m、焚口部0.33m、深さ0.30mを測る。形状は洋梨形を呈する。31号土坑同様、壁面焼土化し、板状工具を当てた面取り状の痕跡あり。

#### 56号土坑

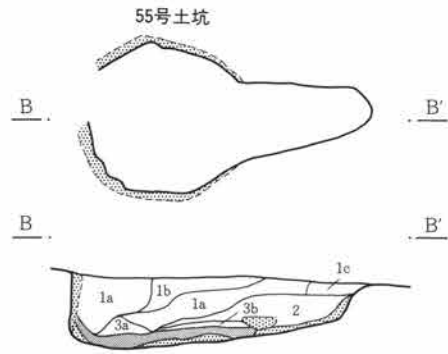
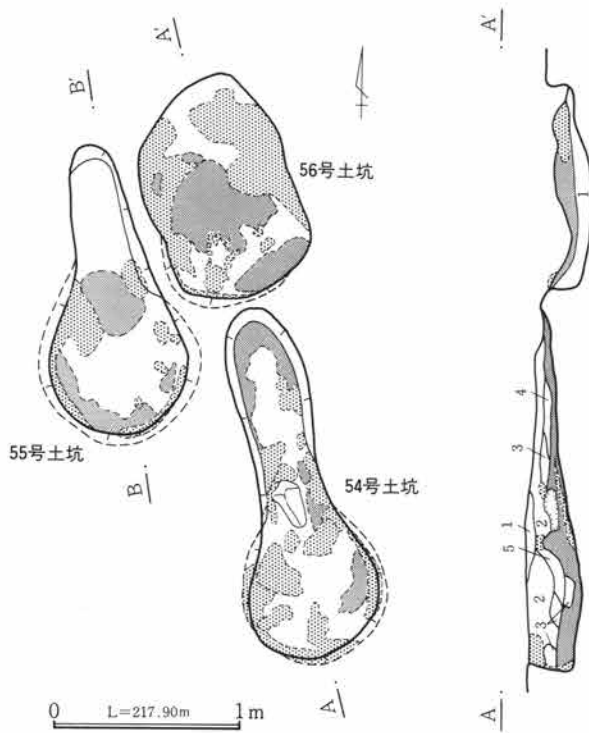
Eq-64グリッド内に位置する。主軸方位はN-14°-Wに傾く。規模は長辺1.10m、短辺0.76m、深さ0.16mを測る。形状は隅丸長方形を呈する。

#### 67号土坑 (PL.83・146)

Eq-57グリッド内に位置する。主軸方位はN-18°-Wに傾く。規模は全長1.80m、燃焼部0.72m、焚口部0.25m、深さ0.24mを測る。形状は洋梨形を呈する。炭化材出土。磁器出土。

#### 99号土坑 (PL.90)

Eq-55グリッド内に位置する。主軸方位はN-21°-Wに傾く。規模は全長0.92m、燃焼部0.58m、焚口部0.35m、深さ0.18mを測る。形状は洋梨形を呈する。炭化材多量に出土。



54号土坑セクション

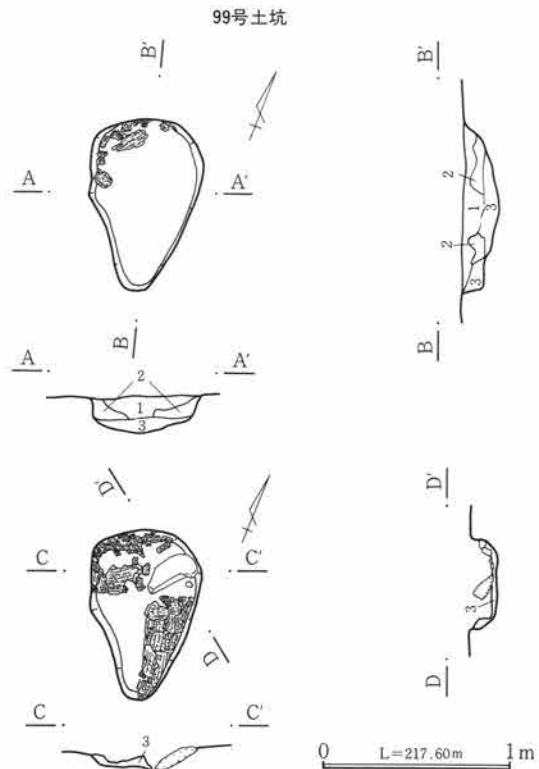
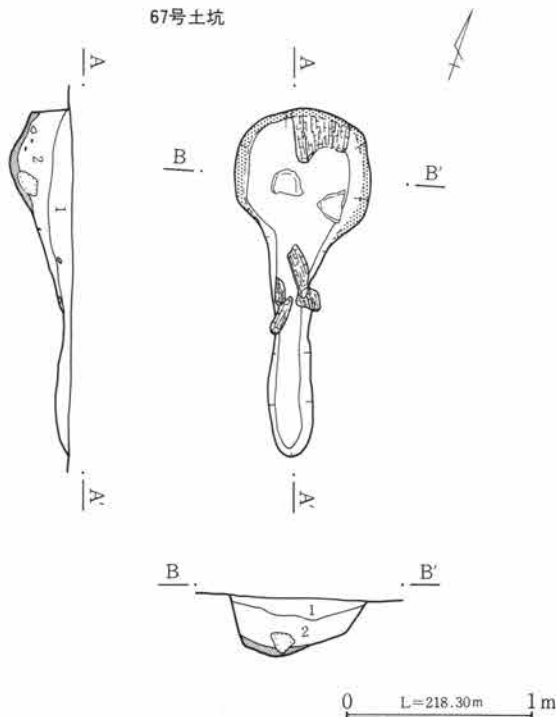
- 1 灰褐色土 As-Aを含む。
- 2 灰褐色土 As-Aを含む。ややしまり強い。
- 3 灰黄褐色砂層
- 4 灰褐色土 小礫、炭化物を含む。
- 5 灰褐色土 焼土粒、炭化物を含む。

55号土坑セクション

- 1a 褐色土 やや粘性、しまりあり。
- 1b 褐色土 炭化物を少量含む。やや粘性、しまりあり。
- 1c 褐色土 白色砂礫を少量含む。
- 2 暗褐色土 炭化物を少量含む。
- 3a 明褐色細砂層 やや粘性。
- 3b 明褐色細砂層 炭化物、焼土を含む。

56号土坑セクション

- 1 暗色粘質土 焼土、炭化物を少量含む。



- 1 暗灰褐色土 小礫、礫を多く含む。
- 2 暗灰褐色土 小礫を多く含む。

- 1 暗褐色土 砂礫、焼土粒、炭化物を多く含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒、少量の砂礫を含む。
- 3 暗褐色土 炭化物を多く含む。

第411図 54～56・67・99号土坑跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 1号土坑 (PL, 84)

Dt-60グリッド内に位置する。主軸方位はN-80°-Eに傾く。規模は長辺1.07m、短辺0.62m、深さ0.34mを測る。形状は楕円形を呈する。DN区に位置する。As-B混土。

#### 2号土坑 (PL, 84)

Ec-61グリッド内に位置する。主軸方位はN-85°-Wに傾く。規模は長辺1.00m、短辺0.66m、深さ0.18mを測る。形状は隅丸長方形を呈する。壁面焼土化。火葬墓?

#### 4号土坑 (PL, 84)

Ea-64グリッド内に位置する。主軸方位はN-90°-Eに傾く。規模は長辺1.02m、短辺0.63m、深さ0.25mを測る。形状は隅丸長方形を呈する。As-B混土。焼土・灰面あり。火葬墓?

#### 5号土坑 (PL, 84)

Ef-66グリッド内に位置する。主軸方位はN-25°-Wに傾く。規模は長辺1.18m、短辺1.10m、深さ0.27mを測る。形状は隅丸長方形を呈する。As-B混土。大礫出土。

#### 6号土坑 (PL, 84)

Ef-67グリッド内に位置する。主軸方位はN-15°-Wに傾く。規模は長辺1.14m、短辺0.60m、深さ0.20mを測る。形状は長方形を呈する。人骨出土。墓坑?

#### 7号土坑

Ek-69グリッド内に位置する。主軸方位はN-18°-Wに傾く。規模は長辺1.68m、短辺0.80m、深さ0.12mを測る。形状は隅丸長方形を呈する。As-B混土。

#### 8号土坑 (PL, 84)

EI-70グリッド内に位置する。規模は長辺1.04m、深さ0.33mを測る。形状は円形を呈する。15号土坑を掘り込む。下層に礫群出土。

#### 9号土坑 (PL, 84)

EI-70グリッド内に位置する。規模は長辺1.10m、深さ0.35mを測る。形状は円形を呈する。15号土坑を掘り込む。中層に礫群出土。

#### 10号土坑 (PL, 85)

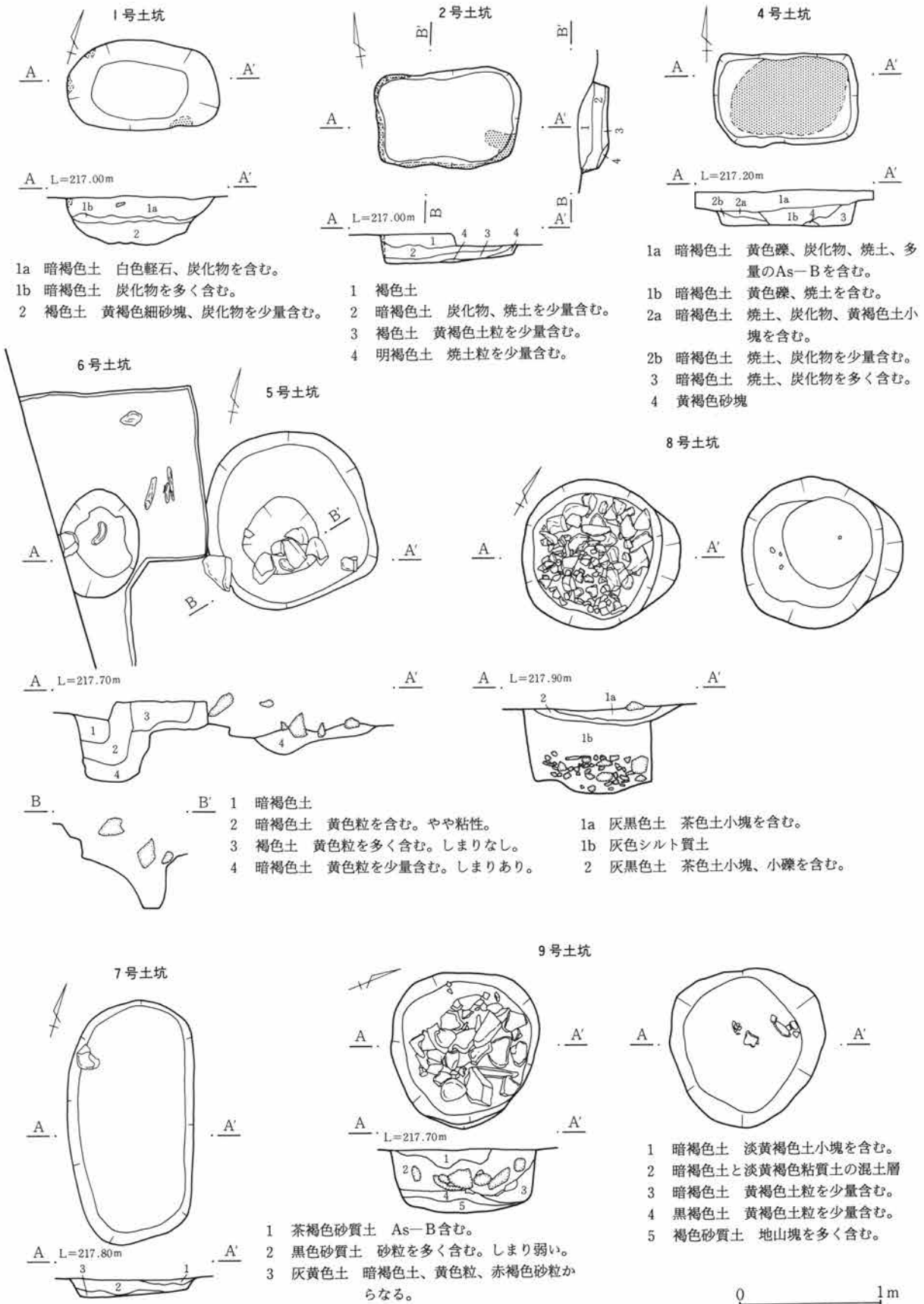
Ee-66グリッド内に位置する。主軸方位はN-33°-Wに傾く。規模は長辺0.91m、短辺0.71m、深さ0.20mを測る。形状は楕円形を呈する。

#### 11号土坑 (PL, 85)

Ee-66グリッド内に位置する。主軸方位はN-59°-Eに傾く。規模は長辺1.11m、短辺0.72m、深さ0.20



第3節 土坑跡



第412図 1・2・4～9号土坑跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

mを測る。形状は長方形を呈する。焼土・炭化物を多く含む層あり。

#### 12号土坑

Ef-66グリッド内に位置する。主軸方位はN-49°-Eに傾く。規模は長辺1.00m、短辺0.80m、深さ0.56mを測る。形状は不定形である。

#### 13号土坑 (PL, 85)

EI-69グリッド内に位置する。主軸方位はN-6°-Eに傾く。規模は長辺1.34m、短辺1.30m、深さ0.36mを測る。形状は隅丸方形を呈する。底面、大礫設置? 土師器坏出土。

#### 14号土坑

En-70グリッド内に位置する。主軸方位はN-76°-Eに傾く。規模は長辺1.40m、短辺0.55m、深さ不明。形状は楕円形を呈する。大礫多量に出土。

#### 15号土坑 (PL, 85)

EI-70グリッド内に位置する。規模は長辺1.94m、深さ0.92mを測る。形状は円形を呈する。8・9号土坑に掘り込まれる。

#### 16号土坑 (PL, 85)

Em-70グリッド内に位置する。主軸方位はN-38°-Wに傾く。規模は長辺1.60m、短辺1.20m、深さ0.31mを測る。形状は楕円形を呈する。

#### 17号土坑

En-70グリッド内に位置する。主軸方位はN-73°-Eに傾く。規模は長辺1.50m、短辺0.66m、深さ不明。形状は楕円形を呈する。

#### 25号土坑

Ee-56グリッド内に位置する。規模は長辺0.38m、深さ0.46mを測る。形状は円形を呈する。上面にAs-B混土見られる。

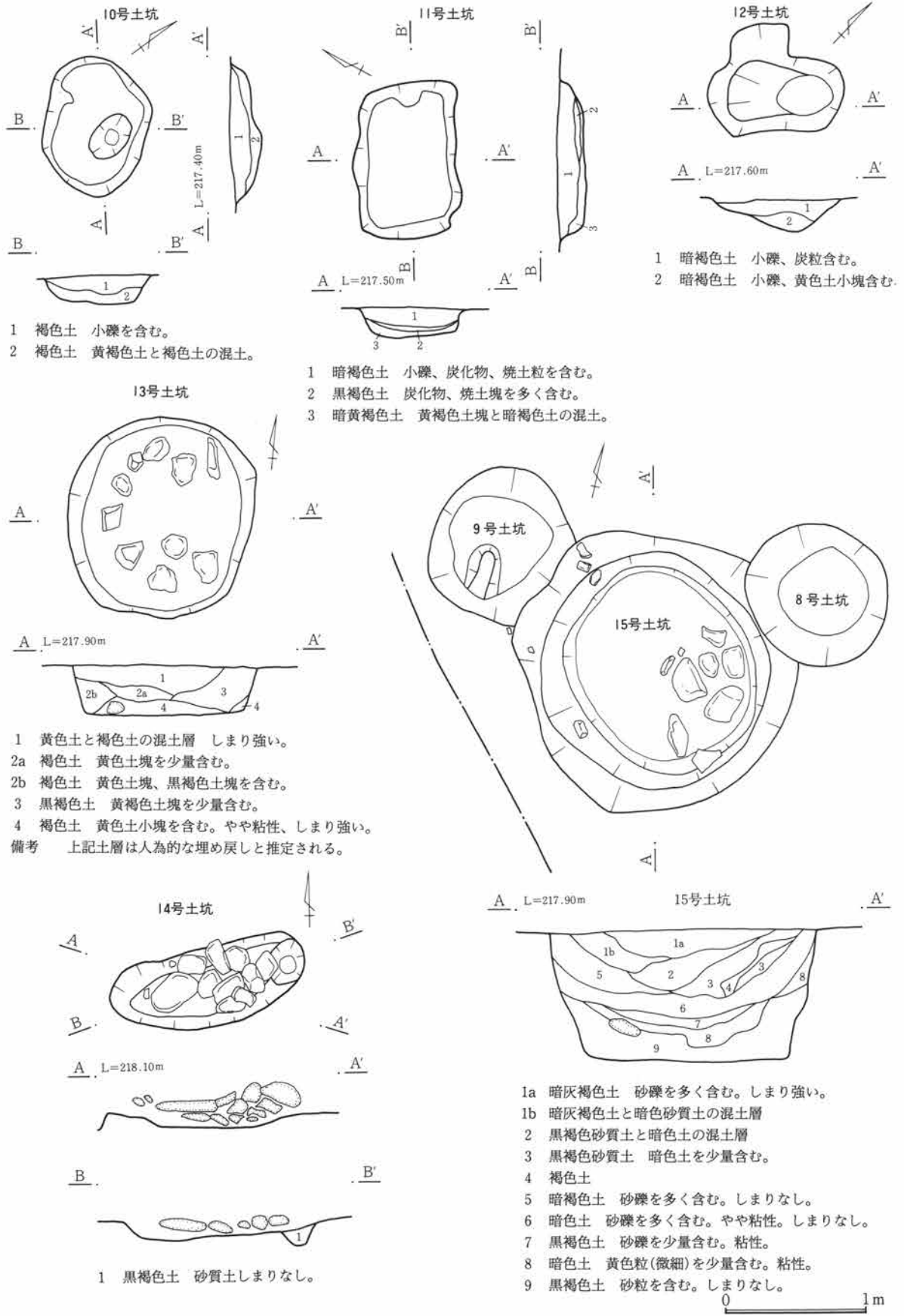
#### 26号土坑 (PL, 85)

Eb-53グリッド内に位置する。主軸方位はN-7°-Wに傾く。規模は長辺1.40m、短辺0.76m、深さ0.30mを測る。形状は隅丸長方形を呈する。35号住居と重複。

#### 27号土坑 (PL, 86)

Eb-53グリッド内に位置する。主軸方位はN-60°-Wに傾く。規模は長辺1.10m、短辺0.96m、深さ0.33mを測る。形状は楕円形を呈する。28号土坑を掘り込む。

第3節 土坑跡



第413図 8～15号土坑跡

28号土坑 (PL. 86)

Ea-53グリッド内に位置する。規模は長辺1.56m、深さ0.57mを測る。形状は円形を呈する。27号土坑に切られる。

29号土坑 (PL. 86)

Eb-53グリッド内に位置する。規模は長辺1.24m、深さ0.32mを測る。形状は円形を呈する。39号土坑と重複。

30号土坑 (PL. 86)

Ec-52グリッド内に位置する。規模は長辺0.98m、深さ0.38mを測る。形状は円形を呈する。34号住居と重複。

31号土坑 (PL. 86)

Ea-50グリッド内に位置する。主軸方位はN-82°-Eに傾く。規模は長辺1.10m、短辺1.00m、深さ0.30mを測る。形状は楕円形を呈する。8号住居と重複。大礫出土、焼土塊あり。

32号土坑 欠番      33号土坑 欠番

34号土坑 (PL. 86)

Eb-56グリッド内に位置する。規模は長辺1.00m、深さ0.36mを測る。形状は円形を呈する。大礫出土。

57号土坑 (PL. 86)

Ea-50グリッド内に位置する。規模は長辺0.63m、短辺0.22mを測る。形状は円形を呈する。8号住居と重複。大礫出土。

58号土坑

Ea-50グリッド内に位置する。主軸方位はN-3°-Wに傾く。規模は長辺1.46m、短辺1.27m、深さ0.10mを測る。形状は楕円形を呈する。8号住居と重複。土器小片多量に出土。

59号土坑 欠番

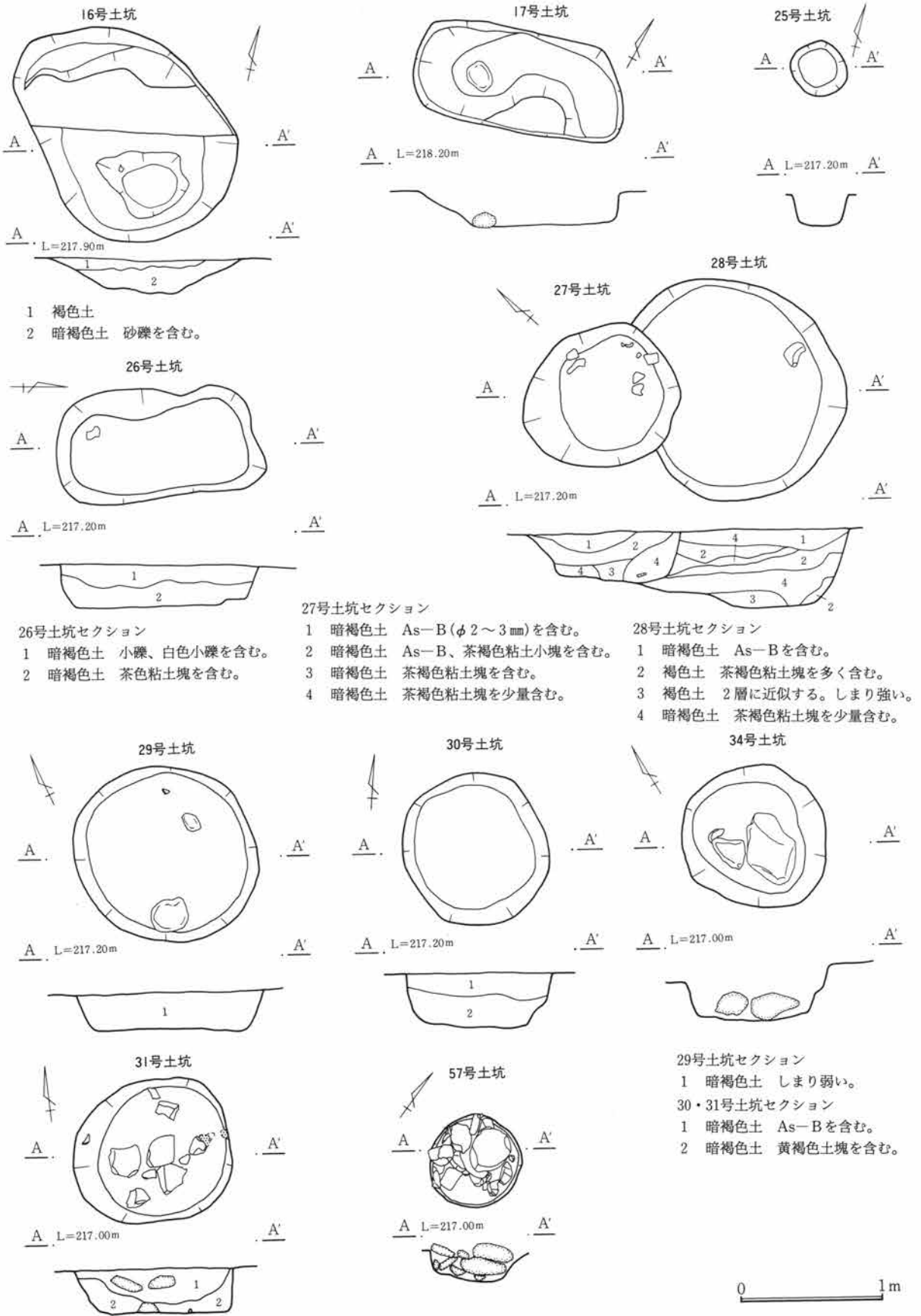
60A号土坑 (PL. 86・146)

Ek-66グリッド内に位置する。主軸方位はN-40°-Wに傾く。規模は長辺0.98m、短辺0.76m、深さ0.09mを測る。形状は楕円形を呈する。覆土中に焼土小塊含む。遺構外よりかわらけ(灯明皿)出土。

60B号土坑

Eq-59グリッド内に位置する。主軸方位はN-16°-Wに傾く。規模は長辺1.22m、短辺1.12m、深さ0.20mを測る。形状は楕円形を呈する。

第3節 土坑跡



第414図 16・17・25～31・34・57号土坑跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 61号土坑 (PL.86)

Ep-59グリッド内に位置する。主軸方位はN-63°-Eに傾く。規模は長辺1.84m、短辺1.14m、深さ0.25mを測る。形状は楕円形を呈する。As-Bらしき白色軽石粒含む。

#### 62号土坑 (PL.87)

Eq-61グリッド内に位置する。主軸方位はN-15°-Eに傾く。規模は長辺0.97m、短辺0.82m、深さ0.33mを測る。形状は楕円形を呈する。As-Bらしき白色軽石粒含む。

#### 63号土坑 (PL.87)

En-59グリッド内に位置する。規模は長辺1.03m、深さ0.50mを測る。形状は円形を呈する。As-Bらしき白色軽石粒含む。

#### 64号土坑 (PL.87)

Eq-61グリッド内に位置する。主軸方位はN-37°-Eに傾く。規模は長辺1.94m、短辺1.70m、深さ0.23mを測る。形状は楕円形を呈する。As-Bらしき白色軽石粒含む。

#### 65号土坑 (PL.87)

Eo-61グリッド内に位置する。主軸方位はN-11°-Wに傾く。規模は長辺1.70m、短辺1.32m、深さ0.27mを測る。形状は楕円形を呈する。19号住居と重複。覆土中より土師器坏出土。

#### 66号土坑 (PL.87)

Eq-59グリッド内に位置する。主軸方位はN-78°-Eに傾く。規模は長辺0.80m、短辺0.60m、深さ0.11mを測る。形状は楕円形を呈する。焼土層あり。

#### 68号土坑 (PL.87)

Ep-61グリッド内に位置する。主軸方位はN-18°-Wに傾く。規模は長辺1.20m、短辺1.00m、深さ0.36mを測る。形状は楕円形を呈する。As-Bらしき白色軽石粒含む。

#### 69号土坑 (PL.87)

Ep-61グリッド内に位置する。規模は長辺1.40m、深さ0.38mを測る。形状は円形を呈する。As-Bらしき白色軽石粒含む。

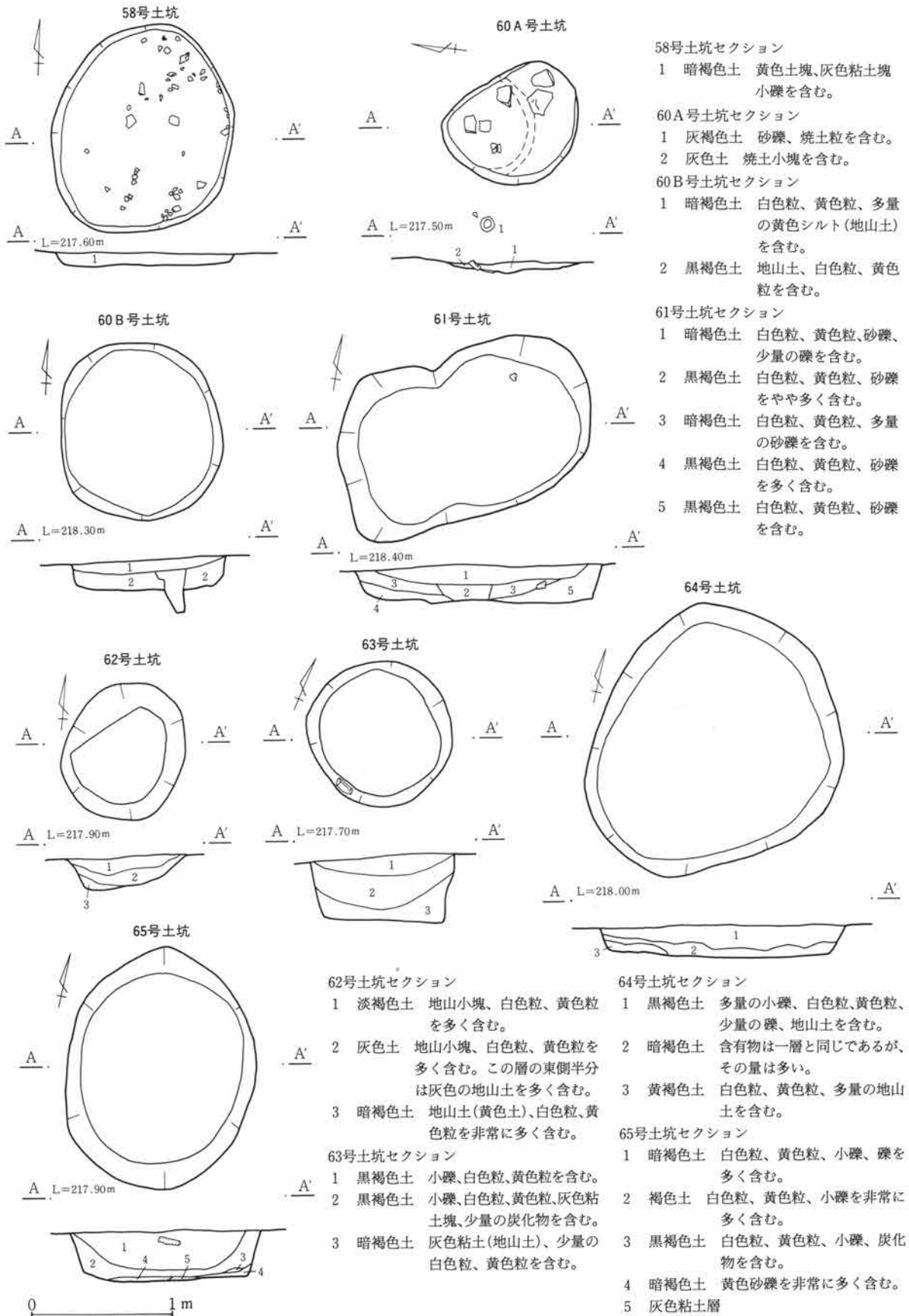
#### 70号土坑 (PL.87)

Eq-61グリッド内に位置する。主軸方位はN-84°-Eに傾く。規模は長辺0.52m、短辺0.48m、深さ0.16mを測る。形状は楕円形を呈する。As-Bらしき白色軽石粒含む。

#### 71号土坑 (PL.88)

Em-55グリッド内に位置する。規模は長辺1.18m、深さ0.34mを測る。形状は円形を呈する。

第3節 土坑跡



58号土坑セクション  
 1 暗褐色土 黄色土塊、灰色粘土塊  
 小礫を含む。

60A号土坑セクション  
 1 灰褐色土 砂礫、焼土粒を含む。  
 2 灰色土 焼土小塊を含む。

60B号土坑セクション  
 1 暗褐色土 白色粒、黄色粒、多量  
 の黄色シルト(地山土)  
 を含む。  
 2 黒褐色土 地山土、白色粒、黄色  
 粒を含む。

61号土坑セクション  
 1 暗褐色土 白色粒、黄色粒、砂礫、  
 少量の礫を含む。  
 2 黒褐色土 白色粒、黄色粒、砂礫  
 をやや多く含む。  
 3 暗褐色土 白色粒、黄色粒、多量  
 の砂礫を含む。  
 4 黒褐色土 白色粒、黄色粒、砂礫  
 を多く含む。  
 5 黒褐色土 白色粒、黄色粒、砂礫  
 を含む。

62号土坑セクション  
 1 淡褐色土 地山小塊、白色粒、黄色粒  
 を多く含む。  
 2 灰色土 地山小塊、白色粒、黄色粒を  
 多く含む。この層の東側半分  
 は灰色の地山土を多く含む。  
 3 暗褐色土 地山土(黄色土)、白色粒、黄  
 色粒を非常に多く含む。

63号土坑セクション  
 1 黒褐色土 小礫、白色粒、黄色粒を含む。  
 2 黒褐色土 小礫、白色粒、黄色粒、灰色粘  
 土塊、少量の炭化物を含む。  
 3 暗褐色土 灰色粘土(地山土)、少量の  
 白色粒、黄色粒を含む。

64号土坑セクション  
 1 黒褐色土 多量の礫、白色粒、黄色粒、  
 少量の礫、地山土を含む。  
 2 暗褐色土 含有物は一層と同じであるが、  
 その量は多い。  
 3 黄褐色土 白色粒、黄色粒、多量の地山  
 土を含む。

65号土坑セクション  
 1 暗褐色土 白色粒、黄色粒、小礫、礫を  
 多く含む。  
 2 褐色土 白色粒、黄色粒、小礫を非常に  
 多く含む。  
 3 黒褐色土 白色粒、黄色粒、小礫、炭化  
 物を含む。  
 4 暗褐色土 黄色砂礫を非常に多く含む。  
 5 灰色粘土層

第415図 58・60A～65号土坑跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 72号土坑 (PL. 88・146)

E1-60グリッド内に位置する。規模は長辺1.03m、深さ1.05mを測る。形状は円形を呈する。27号住居と重複する。

#### 73号土坑 (PL. 88)

Eo-59グリッド内に位置する。規模は長辺0.72m、深さ0.31mを測る。形状は円形を呈する。13号住居と重複。覆土中に焼土・炭化物を含む層あり。

#### 74号土坑 (PL. 88)

Eo-59グリッド内に位置する。規模は長辺0.76m、深さ0.28mを測る。形状は円形を呈する。13号住居と重複。As-Bらしき白色軽石粒含む。

#### 75号土坑 (PL. 88)

En-59グリッド内に位置する。主軸方位はN-29°-Wに傾く。規模は長辺0.80m、短辺0.56m、深さ0.18mを測る。形状は楕円形を呈する。13・33号住居と重複。覆土中に焼土・炭化物を含む層あり。

#### 76号土坑 (PL. 88)

En-59グリッド内に位置する。主軸方位はN-34°-Eに傾く。規模は長辺0.40m、短辺0.30m、深さ0.16mを測る。形状は楕円形を呈する。13・33号住居と重複。覆土中に焼土・炭化物を含む層あり。

#### 77号土坑 (PL. 88)

En-59グリッド内に位置する。規模は長辺0.68m、深さ0.32mを測る。形状は円形を呈する。13・33号住居と重複。覆土中に焼土・炭化物を含む層あり。

#### 78号土坑 (PL. 88)

En-60グリッド内に位置する。規模は長辺0.92m、深さ0.32mを測る。形状は円形を呈する。覆土中に焼土・炭化物僅かに含む。

#### 79号土坑 (PL. 88)

En-58グリッド内に位置する。規模は長辺0.94m、深さ0.70mを測る。形状は円形を呈する。23号住居と重複。覆土中に炭化物を含む。ピットに切られる。

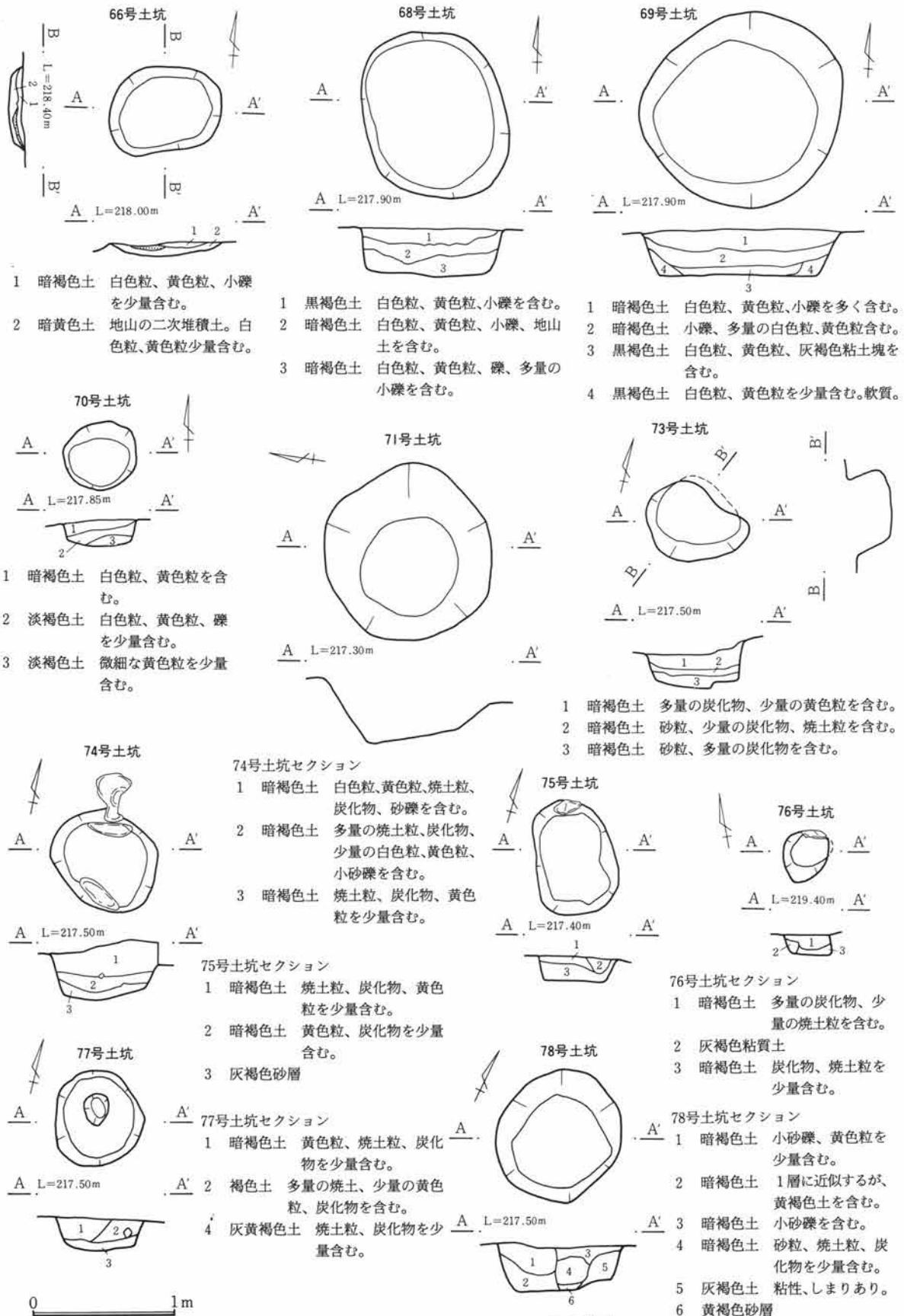
#### 80号土坑 (PL. 89)

En-58グリッド内に位置する。主軸方位はN-41°-Wを測る。規模は長辺1.76m、短辺1.00m、深さ0.44mを測る。形状は楕円形を呈する。23号住居と重複。覆土中に焼土・炭化物を含む。

#### 81号土坑 (PL. 89)

En-58グリッド内に位置する。主軸方位はN-5°-Eに傾く。規模は長辺0.76m、短辺0.62m、深さ0.25





第416図 66・68~71・73~78号土坑跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

mを測る。形状は楕円形を呈する。23号住居と重複。上面に炭化物を含む。

#### 82号土坑 (PL.89)

En-58グリッド内に位置する。主軸方位はN-78°-Wに傾く。規模は長辺0.92m、短辺0.74m、深さ0.50mを測る。形状は楕円形を呈する。23号住居と重複。

#### 83号土坑 (PL.89)

Eo-60グリッド内に位置する。主軸方位はN-81°-Wに傾く。規模は長辺1.54m、短辺1.42m、深さ0.22mを測る。形状は不定形。21号住居と重複。

#### 84号土坑 (PL.89)

Ep-60グリッド内に位置する。主軸方位はN-14°-Wに傾く。規模は長辺1.16m、短辺0.84m、深さ0.25mを測る。形状は楕円形を呈する。21号住居と重複。

#### 85号土坑 (PL.89)

Em-58グリッド内に位置する。主軸方位はN-37°-Eに傾く。規模は長辺0.88m、短辺0.76m、深さ0.34mを測る。形状は楕円形を呈する。

#### 86号土坑 (PL.89)

Ej-61グリッド内に位置する。主軸方位はN-79°-Wに傾く。規模は長辺1.58m、短辺0.98m、深さ0.08mを測る。形状は楕円形を呈する。馬骨頭部出土。

#### 87号土坑 (PL.89)

En-62グリッド内に位置する。主軸方位はN-26°-Eに傾く。規模は長辺1.88m、短辺1.32m、深さ0.05mを測る。形状は楕円形を呈する。

#### 90号土坑 (PL.90)

Ea-54グリッド内に位置する。規模は長辺0.78m、深さ0.10mを測る。形状は円形を呈する。石棒片出土。

#### 91号土坑 (PL.90)

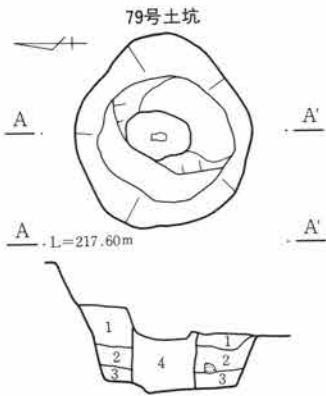
Ea-54グリッド内に位置する。規模は長辺(0.58)m、深さ0.08mを測る。形状は円形を呈する。ピットに切られる。

#### 92号土坑 (PL.90)

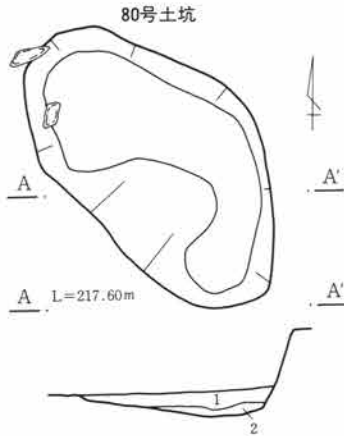
Ea-53グリッド内に位置する。主軸方位はN-35°-Wに傾く。規模は長辺1.48m、短辺1.28m、深さ0.11mを測る。形状は楕円形を呈する。

#### 93号土坑 (PL.90)

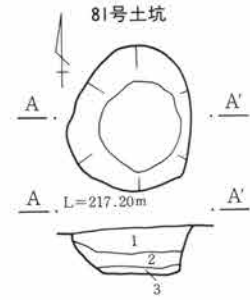
第3節 土坑跡



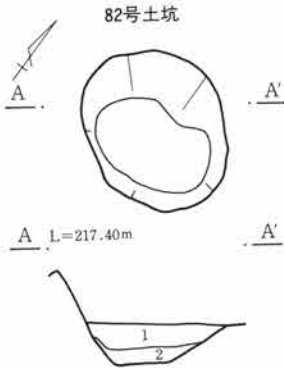
- 1 暗灰褐色土 焼土粒、小砂礫を含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒、炭化物、砂礫を含む。
- 3 暗褐色土 灰褐色土、少量の焼土粒、小砂礫を含む。
- 4 暗褐色土 炭化物を多く含む。



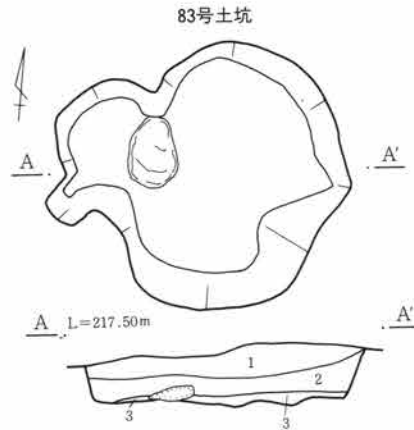
- 1 暗褐色土 黄色粒、小礫、焼土粒を少量含む。
- 2 褐色土 焼土、炭化物を含む。



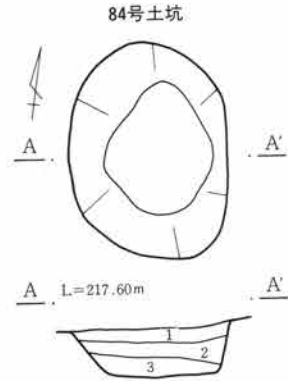
- 1 暗褐色土 多量の炭化物、少量の焼土粒・黄色粒・砂礫を含む。
- 2 暗褐色土 炭化物、焼土粒を少量含む。
- 3 暗褐色土 砂礫を多く含む。



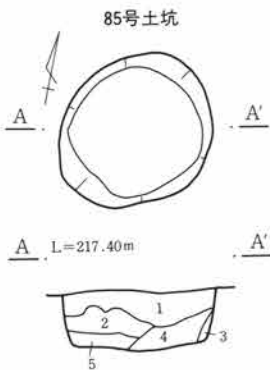
- 1 暗褐色土 焼土粒、砂礫(φ 5mm)を含む。
- 2 暗褐色土 砂礫を多く含む。



- 1 暗褐色土 焼土粒、黄色粒、小砂礫を少量含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒、黄色粒を少量含む。
- 3 暗褐色土 焼土粒、灰褐色土を含む。やや粘性。



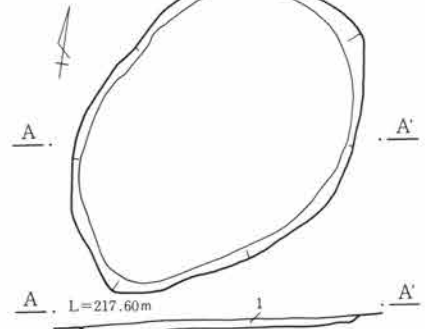
- 1 暗褐色土 砂礫を含む。
- 2 褐色土 砂礫を多く含む。
- 3 灰褐色土と明褐色土の混土層



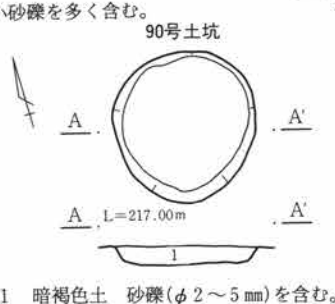
- 1 暗褐色土 黄色粒、焼土粒、炭化物、砂礫、灰褐色土塊を少量含む。
- 2 暗褐色土 黄色粒、焼土粒、炭化物、砂礫を少量含む。
- 3 灰黄褐色土
- 4 灰褐色土 暗褐色土を多く含む。
- 5 暗褐色土 黄色粒、焼土粒、炭化物を少量含む。



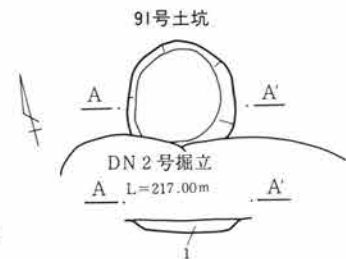
- 1 暗褐色土 小砂礫を多く含む。



- 1 暗褐色土 小砂礫を多く含む。



- 1 暗褐色土 砂礫(φ 2~5mm)を含む。



- 1 褐色土 砂礫(φ 2~5mm)を多く含む。

0 1 m

第417図 79~87・90・91号土坑跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

Ed-52グリッド内に位置する。規模は長辺1.00m、深さ0.15mを測る。形状は円形を呈する。

#### 94号土坑 (PL.90)

Ed-54グリッド内に位置する。規模は長辺0.53m、深さ0.10mを測る。形状は円形を呈する。

#### 95号土坑

Ed-55グリッド内に位置する。主軸方位はN-56°-Wに傾く。規模は長辺0.70m、短辺0.50m、深さ0.20mを測る。形状は楕円形を呈する。

#### 96号土坑 (PL.90)

Ec-56グリッド内に位置する。規模は長辺0.70m、深さ0.38mを測る。形状は円形を呈する。

#### 97号土坑

Eb-56グリッド内に位置する。主軸方位はN-89°-Wに傾く。規模は長辺0.78m、短辺0.62m、深さ0.21mを測る。形状は楕円形を呈する。

#### 98号土坑 (PL.90)

Eb-52グリッド内に位置する。主軸方位はN-47°-Eに傾く。規模は長辺1.26m、短辺1.16m、深さ0.40mを測る。形状は楕円形を呈する。

#### 100号土坑 (PL.91)

Ef-55グリッド内に位置する。規模は長辺0.70m、深さ0.14mを測る。形状は円形を呈する。53号住居と重複。

#### 101号土坑 (PL.91)

Ef-56グリッド内に位置する。主軸方位はN-2°-Eに傾く。規模は長辺1.28m、短辺0.62m、深さ0.16mを測る。形状は隅丸長方形を呈する。74号住居と重複。

#### 102号土坑 (PL.91)

Ef-56グリッド内に位置する。主軸方位はN-26°-Wに傾く。規模は長辺0.98m、短辺0.58m、深さ0.10mを測る。形状は隅丸長方形を呈する。覆土中にAs-B混土含む。

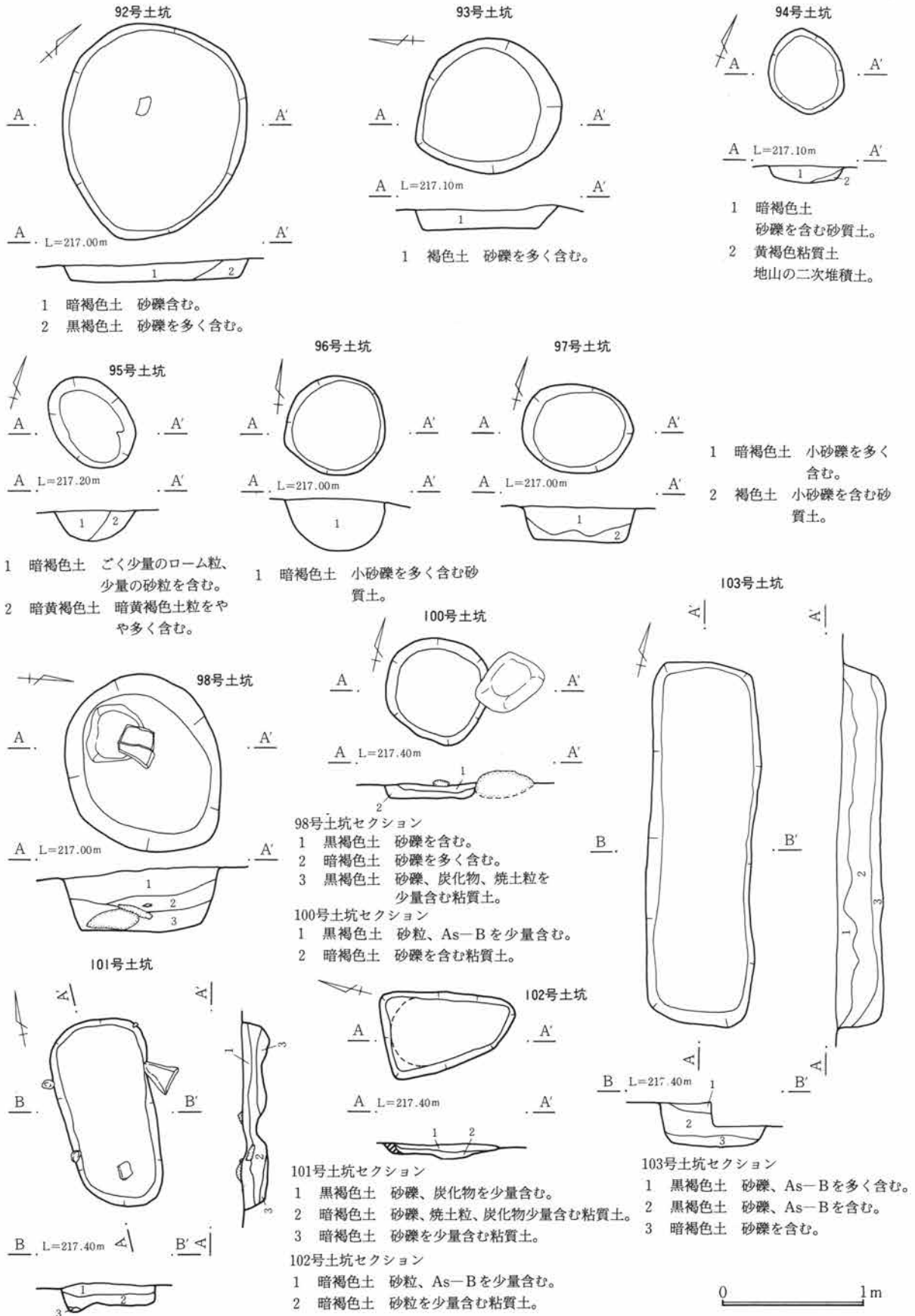
#### 103号土坑 (PL.91)

Ei-57グリッド内に位置する。主軸方位はN-12°-Wに傾く。規模は長辺2.42m、短辺0.72m、深さ0.15mを測る。形状は隅丸長方形を呈する。覆土中にAs-B混土含む。

#### 104号土坑 (PL.91)

Ee-59グリッド内に位置する。規模は長辺1.08m、深さ0.10mを測る。形状は円形を呈する。覆土中にAs

第3節 土坑跡



第418図 92~98・100~103号土坑跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

—B混土含む。

105号土坑 (PL.91) 現代の耕作痕。

106号土坑 (PL.91)

Eb-57グリッド内に位置する。規模は長辺0.87m、深さ0.30mを測る。形状は円形を呈する。覆土中にAs—B混土含む。

107号土坑 (PL.91)

Ec-59グリッド内に位置する。主軸方位はN-62°-Eに傾く。規模は長辺1.10m、短辺0.66m、深さ0.20mを測る。形状は長方形を呈する。ピットと重複。覆土中にAs—B混土含む。

108号土坑 (PL.92)

Eg-57グリッド内に位置する。規模は長辺0.82m、深さ0.16mを測る。形状は円形を呈する。覆土中にAs—B混土含む。

109号土坑 (PL.92)

Ee-59グリッド内に位置する。主軸方位はN-53°-Eに傾く。規模は長辺1.40m、短辺0.70m、深さ0.50mを測る。形状は長方形を呈する。110号土坑を掘り込む。

110号土坑 (PL.92・154)

Ef-60グリッド内に位置する。規模は長辺0.86m、深さ0.50mを測る。形状は長方形?を呈する。109号土坑に切られる。馬歯出土。

111号土坑 (PL.92)

Ef-57グリッド内に位置する。主軸方位はN-84°-Wに傾く。規模は長辺0.92m、短辺0.60m、深さ0.20mを測る。形状は楕円形を呈する。大礫出土。

112号土坑 (PL.92)

Eh-58グリッド内に位置する。主軸方位はN-88°-Eに傾く。規模は長辺0.90m、短辺0.62m、深さ0.14mを測る。形状は隅丸長方形を呈する。

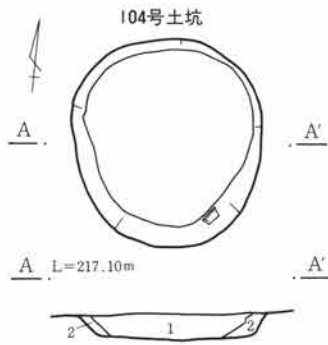
113号土坑 (PL.92)

Eh-58グリッド内に位置する。主軸方位はN-57°-Wに傾く。規模は長辺0.93m、短辺0.78m、深さ0.36mを測る。形状は楕円形を呈する。

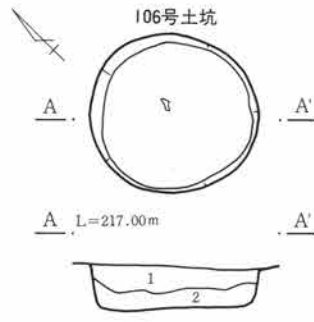
114号土坑 (PL.92)

Eg-54グリッド内に位置する。規模は長辺0.93m、深さ0.80mを測る。形状は円形を呈する。

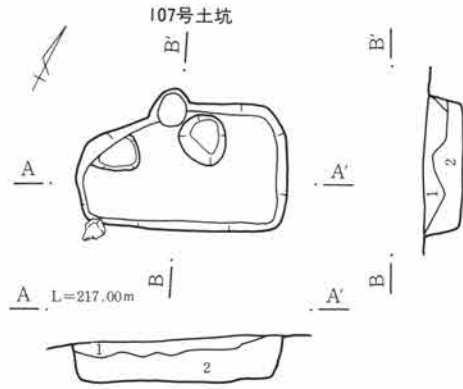
第3節 土坑跡



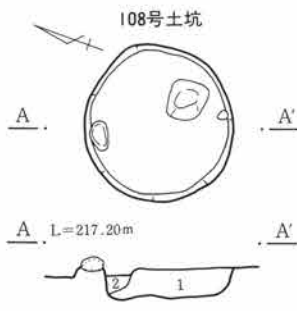
- 1 暗褐色土 砂礫、As-Bを少量含む。
- 2 暗褐色土 地山の粘質土塊を含む。



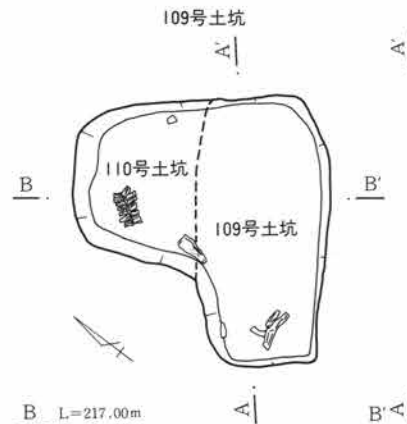
- 1 暗褐色土 砂礫、As-Bを含む粘質土。
- 2 暗褐色土 砂礫を多く含む。



- 1 暗褐色土 As-Bを少量含む。
- 2 黒褐色土 As-Bを少量含む粘質土。
- 3 暗褐色土 As-Bを多く含む。

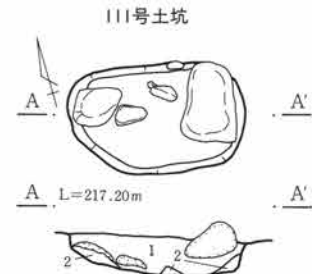


- 1 暗褐色土 多量のAs-B、少量の砂礫を含む。
- 2 暗褐色土 褐色パミス(φ2mm)を多く含む。

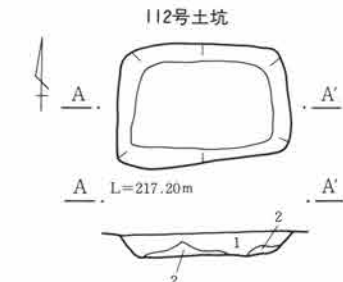


- 109号土坑セクション
- 1 暗褐色土 As-B、シルト質土塊(φ30mm)を含む。
  - 2 暗褐色土 シルト質土。
  - 3 暗褐色土 2層に近似する。やや灰色味を帯びる。

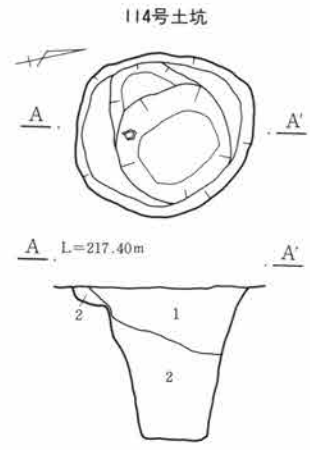
- 110号土坑セクション
- ア 暗褐色土 As-Bを含む。
  - イ 暗褐色土 As-Bをア層よりやや多く含む。
  - ウ 暗褐色土 軽石を含まない。シルト質土。



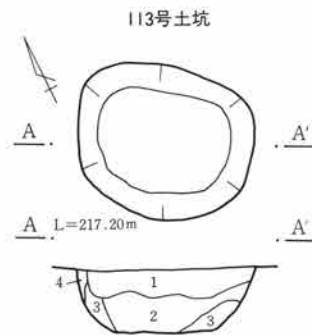
- 1 暗褐色土 砂礫、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 2 暗黄褐色土 粘質ローム。地山の二次堆積土。



- 1 暗褐色土 砂粒、炭化物を含む粘質土。
- 2 暗黄褐色土 地山の二次堆積土。

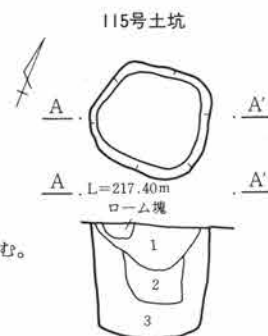


- 1 黒褐色土 砂礫を少量含む粘質土。
- 2 黒褐色土 砂礫をごく少量含む。粘性強い。



- 113号土坑セクション
- 1 暗褐色土 炭化物を含む粘質土。
  - 2 暗黄褐色土 砂礫、炭化物を含む粘質土。
  - 3 暗黄褐色土 2層に近似するが、炭化物は少ない。
  - 4 暗灰色シルト質土 地山の二次堆積土。

- 115号土坑セクション
- 1 黒褐色土 砂礫、ローム小塊を少量含む。
  - 2 黒褐色土 多量のローム塊を含む。
  - 3 黒褐色土 砂粒を少量含む粘質土。



0 1m

第419図 104・106~115号土坑跡

第3章 検出された遺構と遺物

115号土坑 (PL.92)

Eg-54グリッド内に位置する。規模は長辺0.62m、深さ0.55mを測る。形状は円形を呈する。

116号土坑 (PL.92)

Eg-54グリッド内に位置する。規模は長辺0.80m、深さ0.09mを測る。形状は円形を呈する。大礫出土。

117号土坑 (PL.93)

Eg-53グリッド内に位置する。主軸方位はN-43°-Wに傾く。規模は長辺0.82m、短辺0.70m、深さ0.68mを測る。形状は楕円形を呈する。66号住居推定住居範囲内。

121号土坑 (PL.93)

Ef-53グリッド内に位置する。規模は長辺0.56m、深さ0.44mを測る。形状は円形を呈する。153号土坑を掘り込む。

122号土坑 (PL.93)

Eh-59グリッド内に位置する。規模は長辺0.76m、深さ0.14mを測る。形状は円形を呈する。

128号土坑 (PL.93)

Eg-53グリッド内に位置する。規模は長辺0.53m、深さ0.50mを測る。形状は円形を呈する。

129号土坑 (PL.93)

Ef-54グリッド内に位置する。主軸方位はN-76°-Eに傾く。規模は長辺0.54m、短辺0.42m、深さ0.32mを測る。形状は隅丸方形を呈する。

130号土坑 (PL.93)

Ef-53グリッド内に位置する。主軸方位はN-5°-Wに傾く。規模は長辺0.45m、短辺0.45m、深さ0.50mを測る。形状は方形を呈する。68号住居と重複。

139号土坑 (PL.94)

Ei-54グリッド内に位置する。主軸方位はN-57°-Eに傾く。規模は長辺0.72m、短辺0.60m、深さ0.23mを測る。形状は楕円形を呈する。

141号土坑 (PL.95)

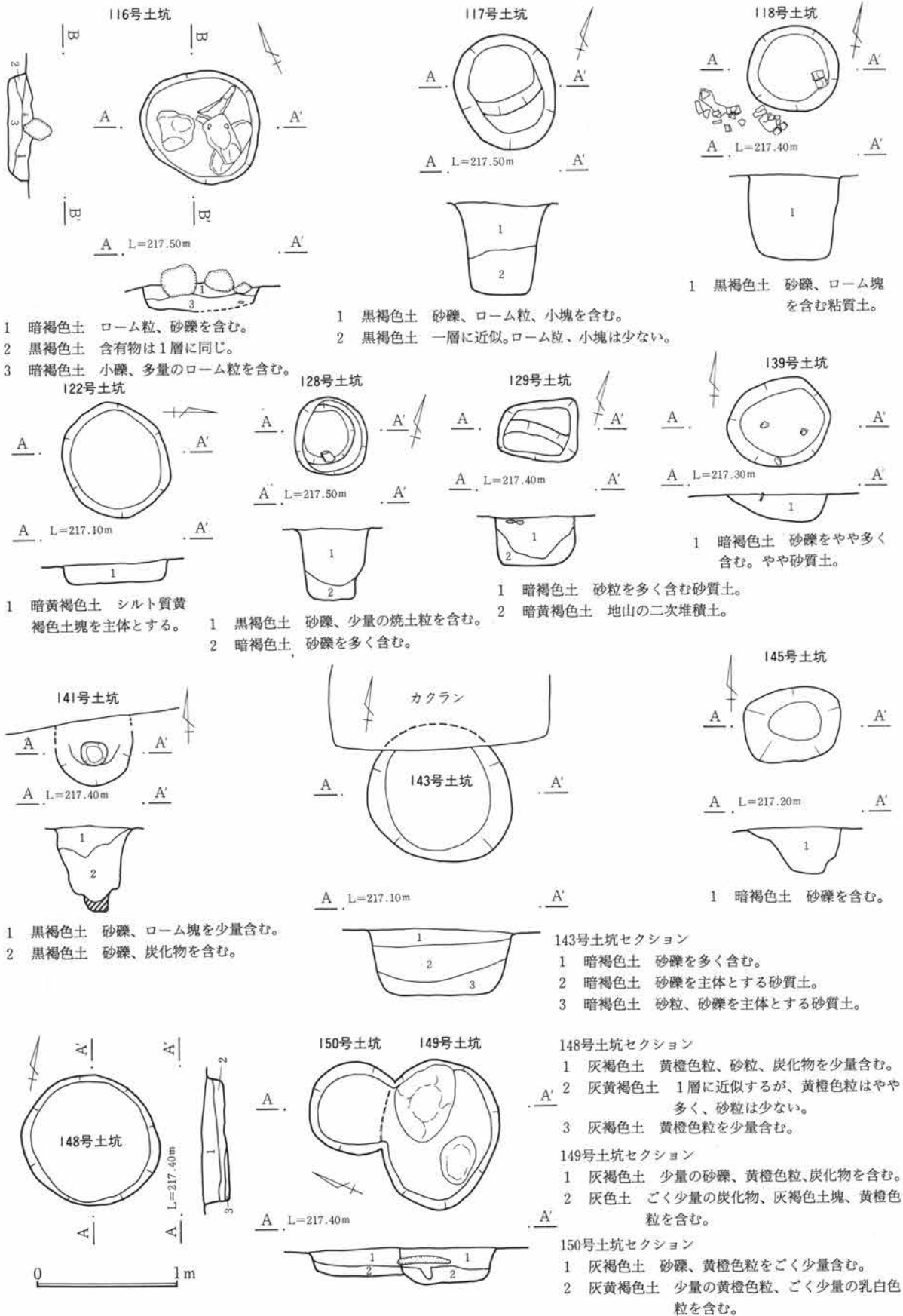
Ee-55グリッド内に位置する。規模は長辺(0.50)m、深さ0.50mを測る。形状は円形?を呈する。

142号土坑 (PL.95)

Ee-55グリッド内に位置する。5号掘立柱建物跡柱穴と重複する。規模は0.62m、深さ0.08mを測る。形状は円形。



第3節 土坑跡



第420図 116~118・122・128・129・139・141・143・145・148~150号土坑跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 143号土坑 (PL.95)

Ee-57グリッド内に位置する。規模は長辺(1.00)m、深さ0.46mを測る。形状は円形を呈する。47号住居と重複。

#### 145号土坑

Ee-55グリッド内に位置する。主軸方位はN-78°-Eに傾く。規模は長辺(0.62)m、短辺(0.50)m、深さ0.32mを測る。形状は楕円形を呈する。ピット群P2と重複。

#### 146号土坑 (PL.95) 写真のみ

#### 148号土坑 (PL.95)

Ej-56グリッド内に位置する。規模は長辺0.90m、深さ0.06mを測る。形状は円形を呈する。

#### 149号土坑 (PL.95)

Ek-56グリッド内に位置する。主軸方位はN-78°-Eに傾く。規模は長辺0.76m、短辺0.57m、深さ0.24mを測る。形状は楕円形を呈する。150号土坑を掘り込む。大礫出土。

#### 150号土坑 (PL.95)

Ej-56グリッド内に位置する。規模は長辺1.04m、深さ0.19mを測る。形状は楕円形を呈する。149号土坑に切られる。

#### 152号土坑 (PL.96)

Ej-56グリッド内に位置する。主軸方位はN-14°-Eに傾く。規模は長辺0.76m、短辺0.66m、深さ0.18mを測る。形状は楕円形を呈する。

#### 153号土坑 (PL.102)

Ef-53グリッド内に位置する。規模は長辺0.37m、深さ0.10mを測る。形状は円形を呈する。121号土坑に切られる。礫出土。

#### 155号土坑 (PL.96)

Ek-55グリッド内に位置する。規模は長辺1.02m、深さ0.25mを測る。形状は円形を呈する。

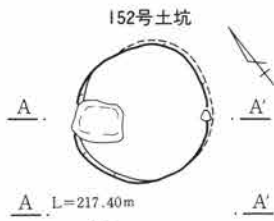
#### 156号土坑 欠番

#### 157号土坑 (PL.96)

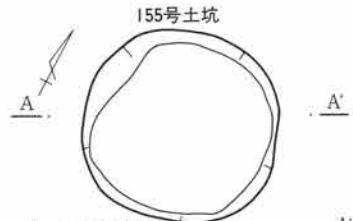
Eh-56グリッド内に位置する。規模は長辺0.66m、深さ0.16mを測る。形状は円形を呈する。

#### 158号土坑 (PL.96)

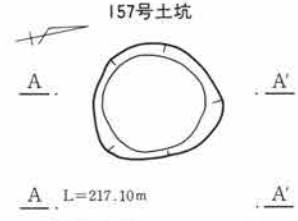
第3節 土坑跡



- 1 灰褐色土 黄橙色粒、砂礫をごく少量含む。
- 2 灰黄褐色土 1層に近似するが、黄橙色粒は若干多い。



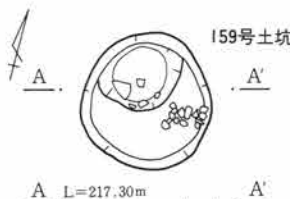
- 1 暗褐色土 乳白色粒、茶褐色粒、砂礫を少量含む。
- 2 黒褐色土 ごく少量の砂礫・炭化物、少量の白色粒・茶褐色土塊を含む。



- 1 暗褐色土 砂礫、淡茶褐色土粒を少量含む。
- 2 褐色土 やや多量の淡茶褐色土粒、ごく少量の砂粒を含む。



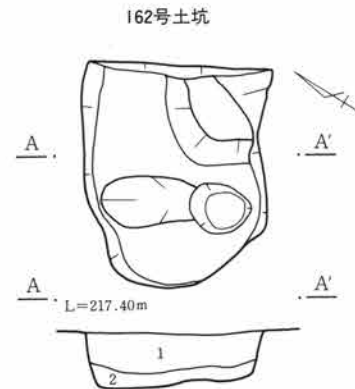
- 1 暗褐色土 砂礫を主体とする砂質土。
- 2 暗褐色土 砂粒層。地山の二次堆積土。
- 3 褐色土 砂粒を多く含む砂質土。



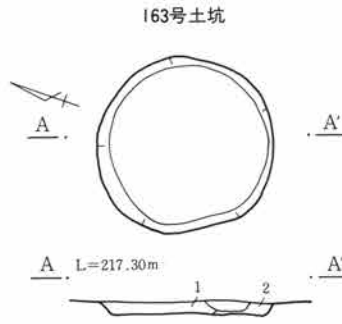
- 1 黒褐色土 やや多量の砂礫、少量の焼土粒を含む砂質土。
- 1-1 黒褐色土 1層にローム粒を少量加えた層。
- 2 暗褐色土 砂礫を含む。
- 3 暗褐色土 砂粒を少量含む。



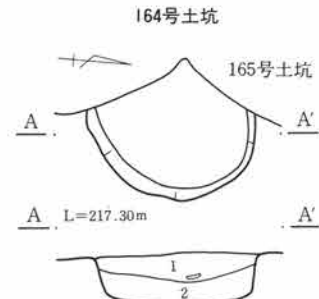
- 1 黒褐色土 砂礫を含む。
- 2 褐色土 角礫を多く含む。



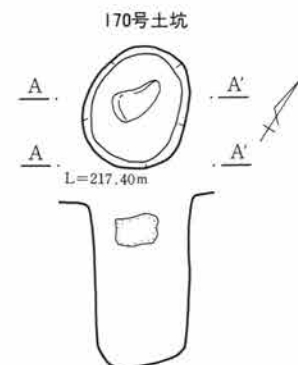
- 1 黒褐色土 砂礫、礫を含む粘質土。
- 2 褐色土 地山(褐色砂礫)の二次堆積土。



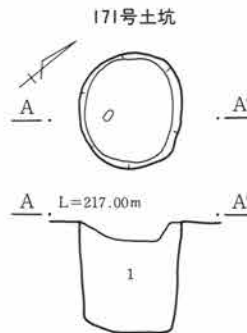
- 1 黒褐色土 砂礫を非常に多く含む。
- 2 褐色土 砂礫を含む粘質土。



- 1 黒褐色土 砂礫を多く含む。
- 2 暗褐色土 含有物は1層と同じ。

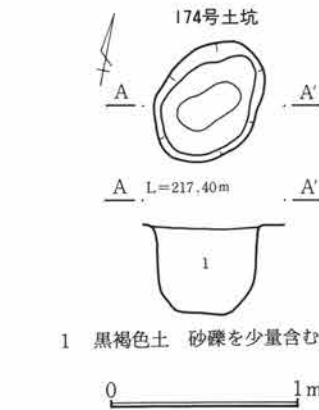


170号土坑



171号土坑

- 1 黒褐色土 砂礫を多く含む。



174号土坑

- 1 黒褐色土 砂礫を少量含む。

0 1m

### 第3章 検出された遺構と遺物

Ed-57グリッド内に位置する。主軸方位はN-73°-Wに傾く。規模は長辺0.80m、短辺0.62m、深さ0.28mを測る。形状は隅丸長方形を呈する。47号住居と重複。

#### 159号土坑 (PL.96)

Eh-54グリッド内に位置する。規模は長辺0.72m、深さ0.50mを測る。形状は円形を呈する。

#### 161号土坑 (PL.96)

Eg-54グリッド内に位置する。主軸方位はN-15°-Wに傾く。規模は長辺0.86m、短辺0.82m、深さ0.15mを測る。形状は隅丸方形を呈する。

#### 162号土坑 (PL.97)

Eg-52グリッド内に位置する。主軸方位はN-61°-Eに傾く。規模は長辺1.16m、短辺0.94m、深さ0.35mを測る。形状は楕円形?を呈する。57号住居と重複。

#### 163号土坑 (PL.97)

Eh-55グリッド内に位置する。主軸方位はN-60°-Wに傾く。規模は長辺1.08m、短辺0.92m、深さ0.11mを測る。形状は楕円形を呈する。

#### 164号土坑 (PL.97)

Eh-55グリッド内に位置する。規模は長辺(1.00)m、深さ0.20mを測る。形状は円形を呈する。165・166・187・201号土坑と重複。

#### 167号土坑 (PL.102)

Ei-55グリッド内に位置する。規模は長辺1.16m、深さ0.22mを測る。形状は円形を呈する。166・200・201号土坑と重複。

#### 170号土坑 (PL.97)

Eg-53グリッド内に位置する。主軸方位はN-10°-Wに傾く。規模は長辺0.66m、短辺0.54m、深さ0.50mを測る。形状は楕円形を呈する。66号住居の推定住居範囲内。

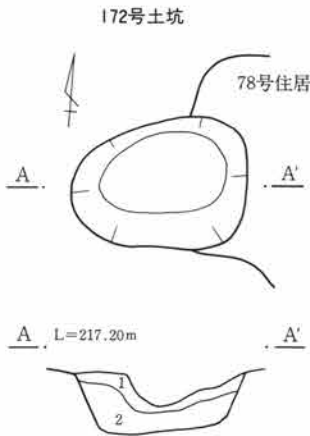
#### 171号土坑 (PL.97)

Ed-57グリッド内に位置する。主軸方位はN-50°-Wに傾く。規模は長辺0.60m、短辺0.54m、深さ0.56mを測る。形状は楕円形を呈する。47号住居と重複。

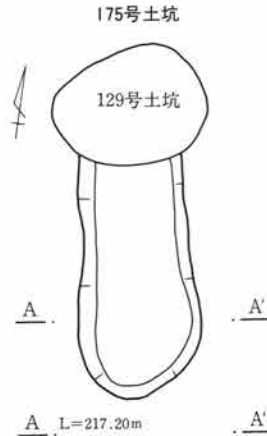
#### 172号土坑

Ef-52グリッド内に位置する。主軸方位はN-85°-Eに傾く。規模は長辺0.88m、短辺0.65m、深さ0.32mを測る。形状は楕円形を呈する。78号住居を掘り込む。

第3節 土坑跡



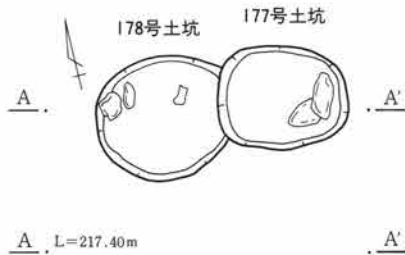
- 1 暗褐色土 暗黄褐色土小塊、砂礫を少量含む。
- 2 暗褐色土 黒褐色土粒、暗黄褐色土粒、砂礫を少量含む。土壤粒子は細かい。



- 1 褐色土 砂礫を多く含む。



- 1 黒褐色土 砂礫を含む砂質土。

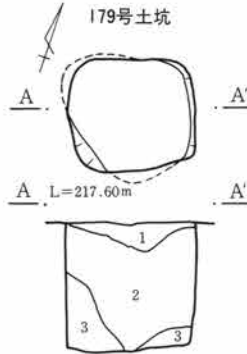


177号土坑セクション

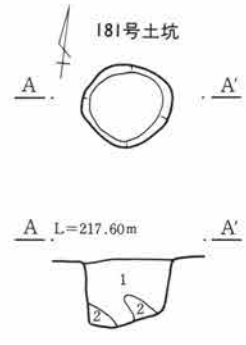
- 1 暗褐色土 少量の炭化物、黄褐色土粒・砂礫含む。
- 2 黄褐色土 少量の白色粒、暗褐色土塊を含む。

178号土坑セクション

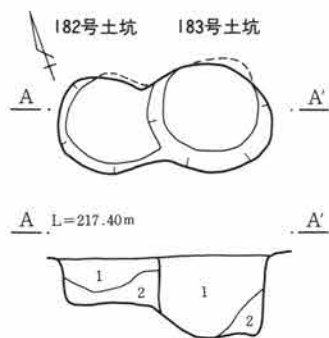
- 1 褐色土 焼土、砂粒・白色粒・暗黄褐色土粒を含む。
- 2 褐色土 暗黄褐色土塊、白色粒・焼土粒を含む。
- 3 暗黄褐色土 暗黄褐色土塊を主体とする。



- 1 暗褐色土 白色粒、炭化物を少量含む。
- 2 褐色土 少量の暗褐色土小塊、白色粒・炭化物を含む。
- 3 茶褐色土 土壤粒子は細かい。



- 1 暗褐色土 淡茶褐色土粒、砂粒を少量含む。
- 2 淡茶褐色土 炭化物をごく少量含む。

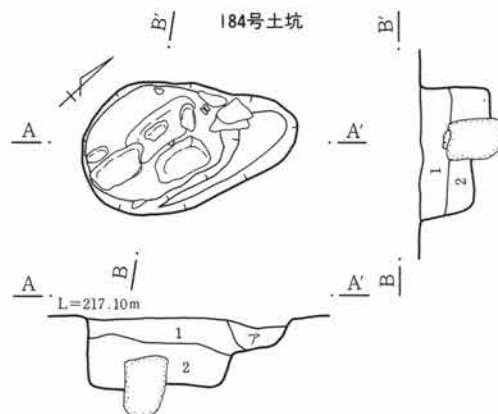


182号土坑セクション

- 1 淡茶褐色土 砂礫、暗褐色土塊を少量含む。
- 2 灰色土 地山塊。シルト質土。

183号土坑セクション

- 1 褐色土 やや多量の暗褐色土塊、少量の砂礫含む。
- 2 暗黄褐色土 砂礫をごく少量含む。



- 1 灰色土 多量の黄褐色土塊、少量の砂礫を含む。
- 2 暗黄褐色土 多量の黄褐色土小塊、少量の褐色土小塊・砂礫を含む。
- ア 暗褐色土 黄褐色土粒、砂粒をごく少量含む。

0 1m

第422図 172・175~179・181~184号土坑跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 173号土坑 (PL.97)

78号住居の炉に変更。

#### 174号土坑 (PL.97)

Eg-53グリッド内に位置する。主軸方位はN-39°-Eに傾く。規模は長辺0.54m、短辺0.46m、深さ不明。

#### 175号土坑 (PL.97)

Ef-54グリッド内に位置する。主軸方位はN-11°-Wに傾く。規模は長辺(1.80)m、短辺0.60m、深さ0.30mを測る。形状は楕円形を呈する。129号土坑に切られる。

#### 176号土坑 (PL.98)

Ej-57グリッド内に位置する。主軸方位はN-18°-Wに傾く。規模は長辺1.56m、短辺0.82m、深さ0.17mを測る。形状は隅丸長方形を呈する。大礫出土。

#### 177号土坑 (PL.98)

Eh-54グリッド内に位置する。主軸方位はN-77°-Wに傾く。規模は長辺0.66m、短辺0.54m、深さ0.15mを測る。形状は楕円形を呈する。178号土坑を掘り込む。

#### 178号土坑 (PL.98・147)

Eh-54グリッド内に位置する。規模は長辺(0.70)m、深さ0.20mを測る。形状は円形を呈する。177号土坑に切られる。凹石出土。

#### 179号土坑 (PL.98)

Ek-55グリッド内に位置する。主軸方位はN-71°-Eに傾く。規模は長辺0.68m、短辺0.60m、深さ0.69mを測る。形状は隅丸方形を呈する。

#### 181号土坑 (PL.98)

Ek-55グリッド内に位置する。規模は長辺0.45m、深さ0.35mを測る。形状は円形を呈する。

#### 182号土坑 (PL.98)

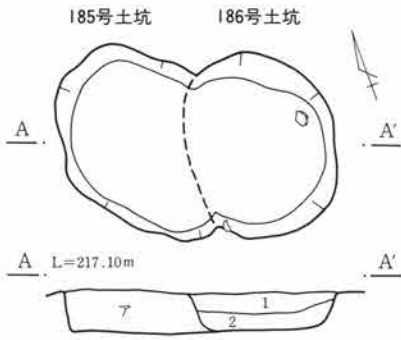
Ej-55グリッド内に位置する。規模は長辺0.62m、深さ0.44mを測る。形状は円形を呈する。182号土坑に切られる。

#### 183号土坑 (PL.98)

Ej-55グリッド内に位置する。規模は長辺0.54m、深さ0.25mを測る。形状は円形を呈する。182号土坑を掘り込む。

#### 184号土坑 (PL.99)

第3節 土坑跡

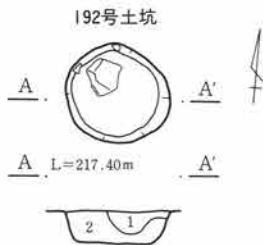


185号土坑セクション

ア 暗褐色土 多量の黄褐色土塊、少量の砂礫を含む。

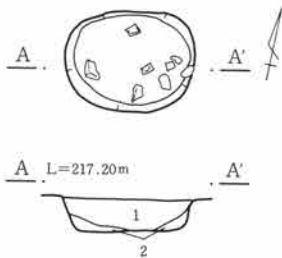
186号土坑セクション

- 1 暗褐色土 粘質黄褐色土小塊、砂礫少量含む。
- 2 暗褐色土 1層に近似するが、砂礫は少ない。



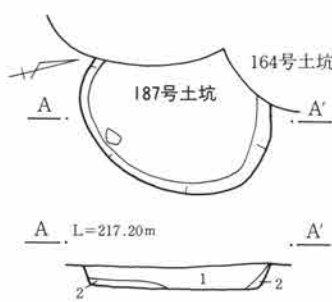
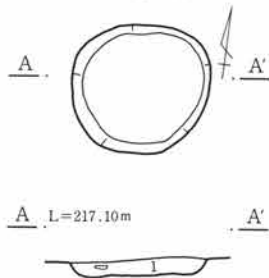
- 1 暗褐色土 砂粒を少量含む。
- 2 褐色土 砂粒を含む砂質土。

195号土坑



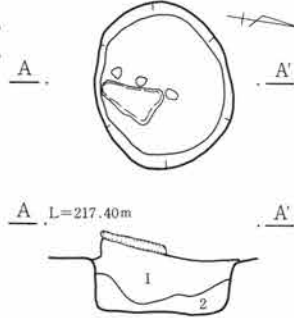
- 1 黒褐色土 砂礫を含む砂質土。
- 2 褐色土 砂礫を多く含む。

198号土坑



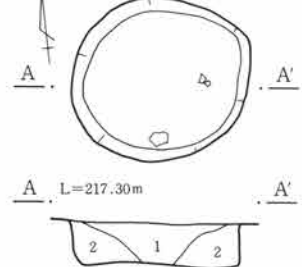
- 1 黒褐色土 砂礫を多く含む砂質土。
- 2 褐色土 角礫、砂礫を含む。

193号土坑



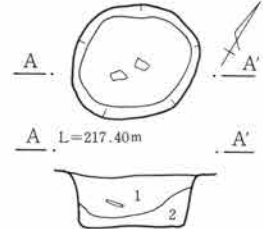
- 1 褐色土 褐色土塊を主体とし、淡茶褐色土塊、砂礫を少量含む。
- 2 淡茶褐色土 砂粒を少量含む。ややシルト質。

190号土坑



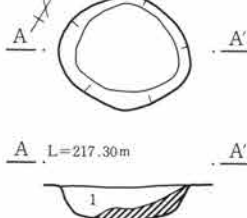
- 1 黒褐色土 砂礫を少量含む粘質土。
- 2 暗褐色土 砂礫を少量含む粘質土。

194号土坑



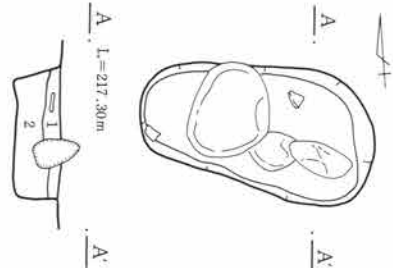
- 1 灰褐色土 砂礫を少量含む。ややシルト質。
- 2 灰色土 淡黄褐色土塊を少量含むシルト質土。

196号土坑



- 1 暗褐色土 砂礫を少量含む。やや砂質。

197号土坑



197号土坑セクション

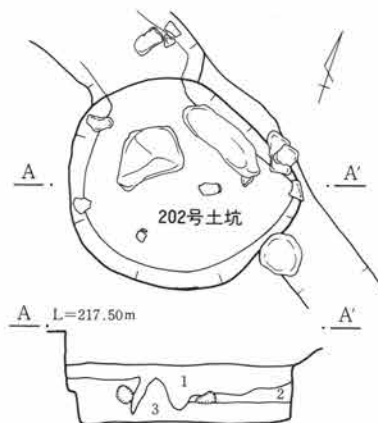
- 1 暗褐色土 多量の黄褐色土、少量の砂礫を含む。
- 2 褐色土 砂粒を含む砂質土。

198号土坑セクション

- 1 褐色土 黄褐色土粒、砂礫を少量含む。

202号土坑セクション

- 1 暗褐色土 砂礫を少量含む。
- 2 灰褐色土 暗褐色土を含む。
- 3 灰褐色砂層



0 1 m

第423図 185~187・190・192~198・202号土坑跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

Ee-57グリッド内に位置する。主軸方位はN-34°-Eに傾く。規模は長辺1.14m、短辺0.70m、深さ0.40mを測る。形状は楕円形を呈する。大礫出土。

#### 185号土坑 (PL.99)

Ef-54グリッド内に位置する。主軸方位はN-45°-Wに傾く。規模は長辺(1.00)m、短辺0.84m、深さ0.22mを測る。形状は隅丸長方形を呈する。186号土坑に切られる。

#### 186号土坑 (PL.99)

Ef-54グリッド内に位置する。主軸方位はN-17°-Eに傾く。規模は長辺0.98m、短辺(0.76)m、深さ0.20mを測る。形状は(楕円形)を呈する。185号土坑を掘り込む。

#### 187号土坑

Eh-55グリッド内に位置する。主軸方位はN-48°-Eに傾く。規模は長辺(1.10)m、短辺(0.80)m、深さ0.14mを測る。形状は楕円形を呈する。75号住居推定住居範囲内。164号土坑に切られる。

#### 190号土坑 (PL.99)

Eh-56グリッド内に位置する。主軸方位はN-77°-Wに傾く。規模は長辺0.96m、短辺0.85m、深さ0.22mを測る。形状は楕円形を呈する。

#### 192号土坑 (PL.99)

Ei-54グリッド内に位置する。規模は長辺0.56m、深さ0.16mを測る。形状は円形を呈する。

#### 193号土坑 (PL.99)

Ej-55グリッド内に位置する。主軸方位はN-58°-Eに傾く。規模は長辺0.88m、短辺0.72m、深さ0.30mを測る。形状は楕円形を呈する。E区4号溝と重複。

#### 194号土坑 (PL.99)

Ej-55グリッド内に位置する。規模は長辺0.64m、深さ0.26mを測る。形状は円形を呈する。

#### 195号土坑 (PL.99)

Ef-52グリッド内に位置する。主軸方位はN-79°-Eに傾く。規模は長辺0.70m、短辺0.52m、深さ0.18mを測る。形状は楕円形を呈する。礫出土。

#### 196号土坑

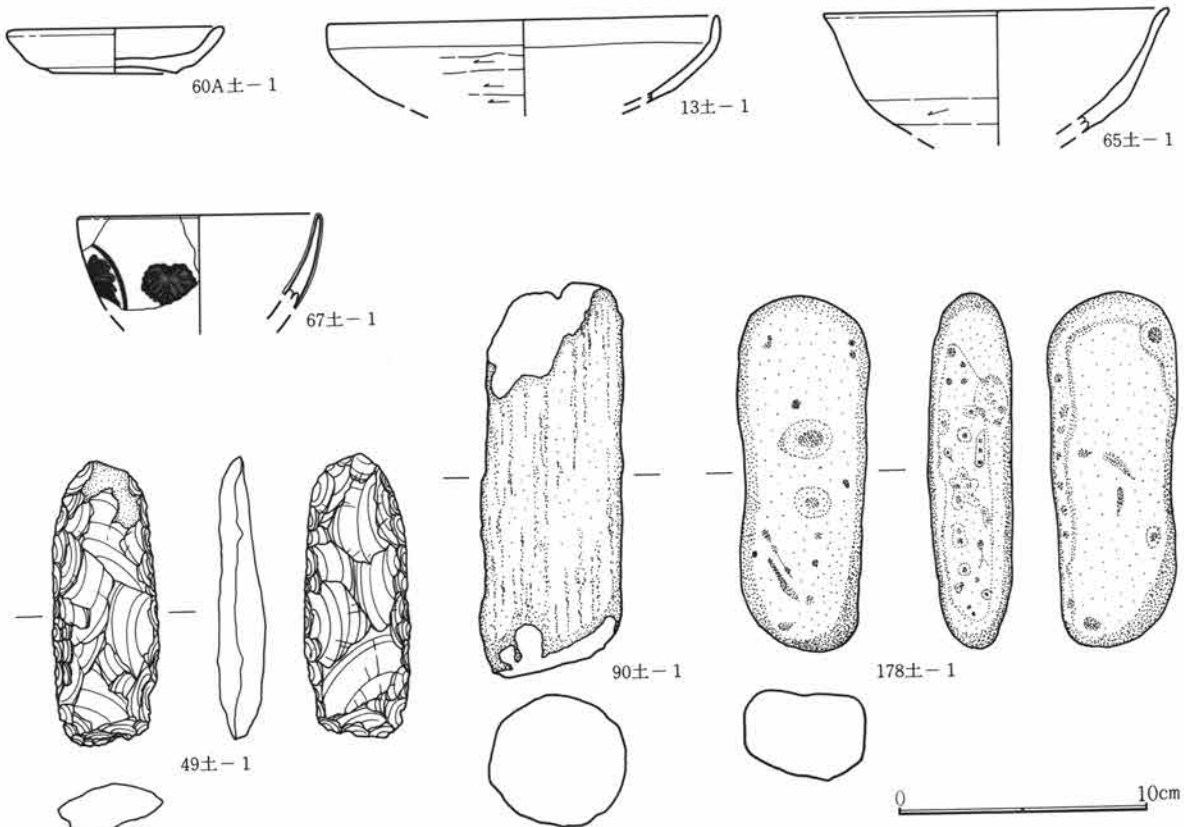
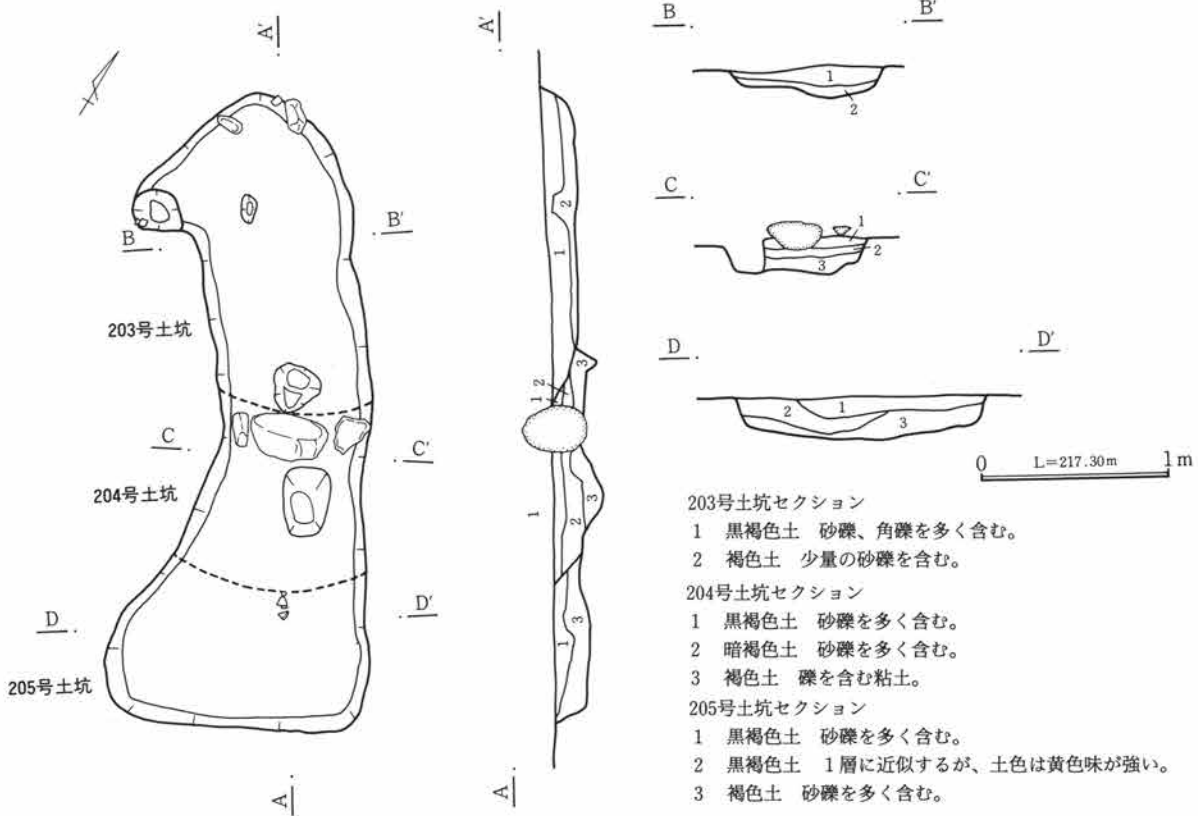
Eh-55グリッド内に位置する。規模は長辺0.60m、深さ0.18mを測る。形状は円形を呈する。

#### 197号土坑 (PL.99)

Eh-55グリッド内に位置する。主軸方位はN-79°-Wに傾く。規模は長辺1.26m、短辺0.66m、深さ0.10



第3節 土坑跡



第424図 203~205号土坑跡及びE区土坑出土遺物

### 第3章 検出された遺構と遺物

mを測る。形状は隅丸長方形を呈する。大礫出土。

#### 198号土坑

Ee-54グリッド内に位置する。規模は長辺0.67m、深さ0.05mを測る。形状は円形を呈する。

#### 199号土坑 (PL.101)

Eh-56グリッド内に位置する。主軸方位はN-80°-Eに傾く。規模は長辺(0.94)m、短辺(0.74)m、深さ0.12mを測る。形状は楕円形を呈する。礫出土。

#### 202号土坑

Ei-56グリッド内に位置する。規模は長辺1.24m、深さ0.60mを測る。形状は円形を呈する。大礫出土。

#### 203号土坑

Ef-55グリッド内に位置する。主軸方位はN-51°-Wに傾く。形状は不定形。4号土坑掘り込む。

#### 204号土坑

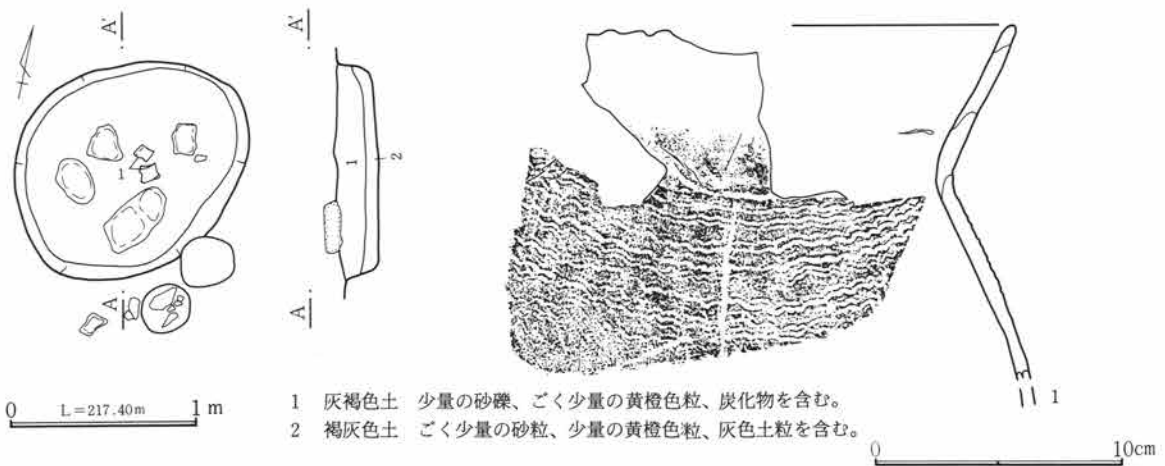
Ef-54グリッド内に位置する。形状は不定形。203号土坑に切られ、205号土坑を切る。

#### 205号土坑

Ef-54グリッド内に位置する。主軸方位はN-64°-Eに傾く。形状は不定形。204号土坑に切られる。

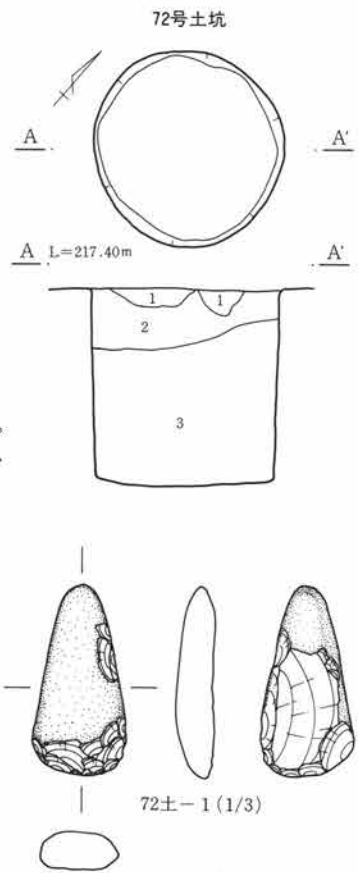
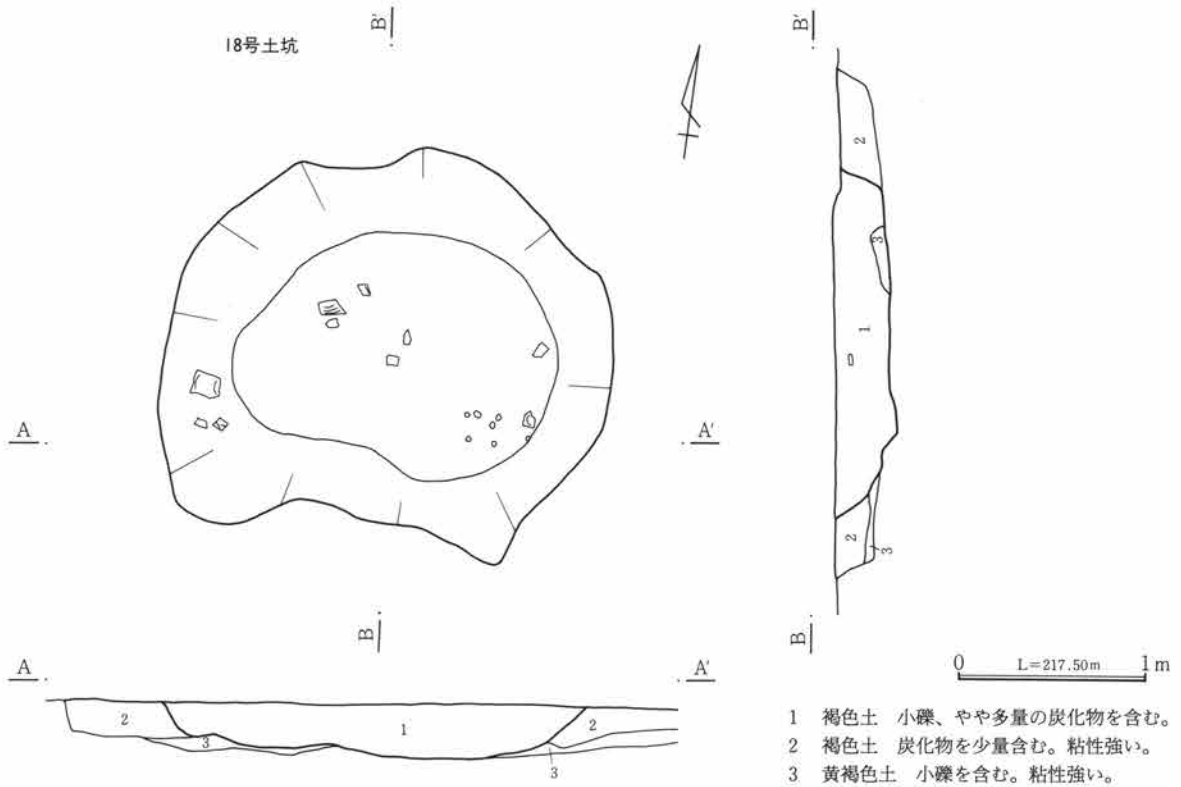
#### 151号土坑 (PL.96・147)

Ej-56グリッド内に位置する。主軸方位はN-50°-Eに傾く。規模は長辺1.32m、短辺1.06m、深さ0.20mを測る。形状は楕円形を呈する。弥生後期。大礫と土器片出土。



第425図 151号土坑跡及び出土遺物

第3節 土坑跡



第426図 18・72号土坑跡及び出土遺物

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 18号土坑 (PL.100・146)

Ef-65グリッド内に位置する。主軸方位はN-89°-Eに傾く。規模は長辺2.36m、短辺1.88m、深さ0.40mを測る。形状は楕円形を呈する。縄文後期土器片散乱状態で出土。

#### 88号土坑 (PL.100・146)

Ee-52グリッド内に位置する。主軸方位はN-10°-Wに傾く。規模は長辺0.94m、短辺0.78m、深さ0.42mを測る。形状は楕円形を呈する。縄文後期(称名寺式)。

#### 89号土坑 (PL.100・146)

Ee-52グリッド内に位置する。主軸方位はN-86°-Eに傾く。規模は長辺0.84m、短辺0.66m、深さ0.22mを測る。形状は楕円形を呈する。縄文後期(称名寺式)。

#### 118号土坑 (PL.93)

Eg-53グリッド内に位置する。規模は長辺0.60m、深さ0.52mを測る。形状は円形を呈する。縄文?66号住居推定住居範囲内。

#### 119号土坑 (PL.100・146)

Ef-52グリッド内に位置する。主軸方位はN-77°-Eに傾く。規模は長辺1.10m、短辺1.04m、深さ0.52mを測る。形状は隅丸方形を呈する。縄文中期。

#### 120号土坑 (PL.100・146)

Eh-55グリッド内に位置する。主軸方位はN-41°-Wに傾く。規模は長辺1.26m、短辺1.08m、深さ0.20mを測る。形状は楕円形を呈する。縄文中期(加曾利E式)。

#### 123号土坑 (PL.100)

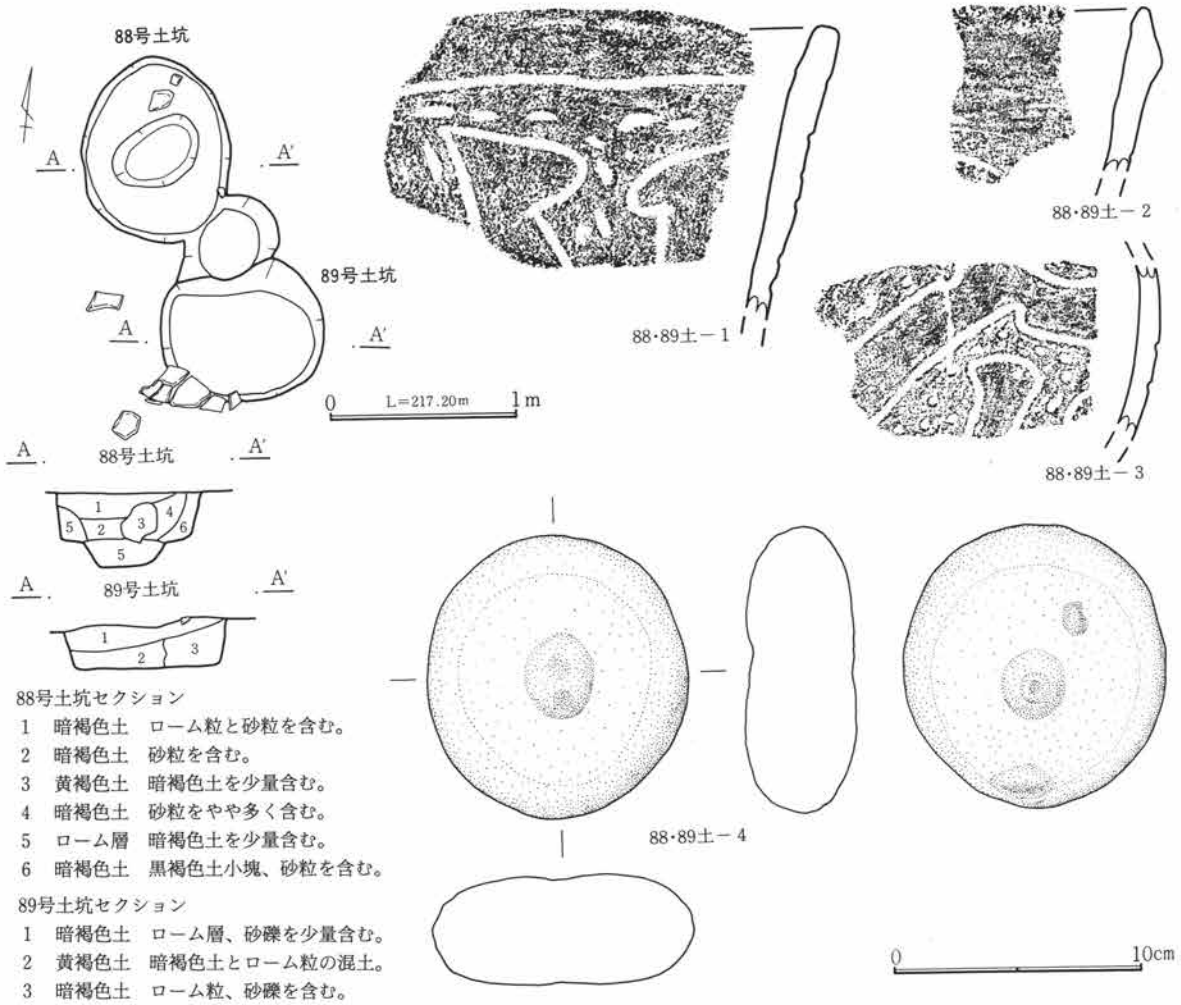
Ec-57グリッド内に位置する。規模は長辺0.66m、深さ0.37mを測る。形状は円形を呈する。縄文後期。124号土坑と重複。大礫出土。

#### 124号土坑 (PL.100)

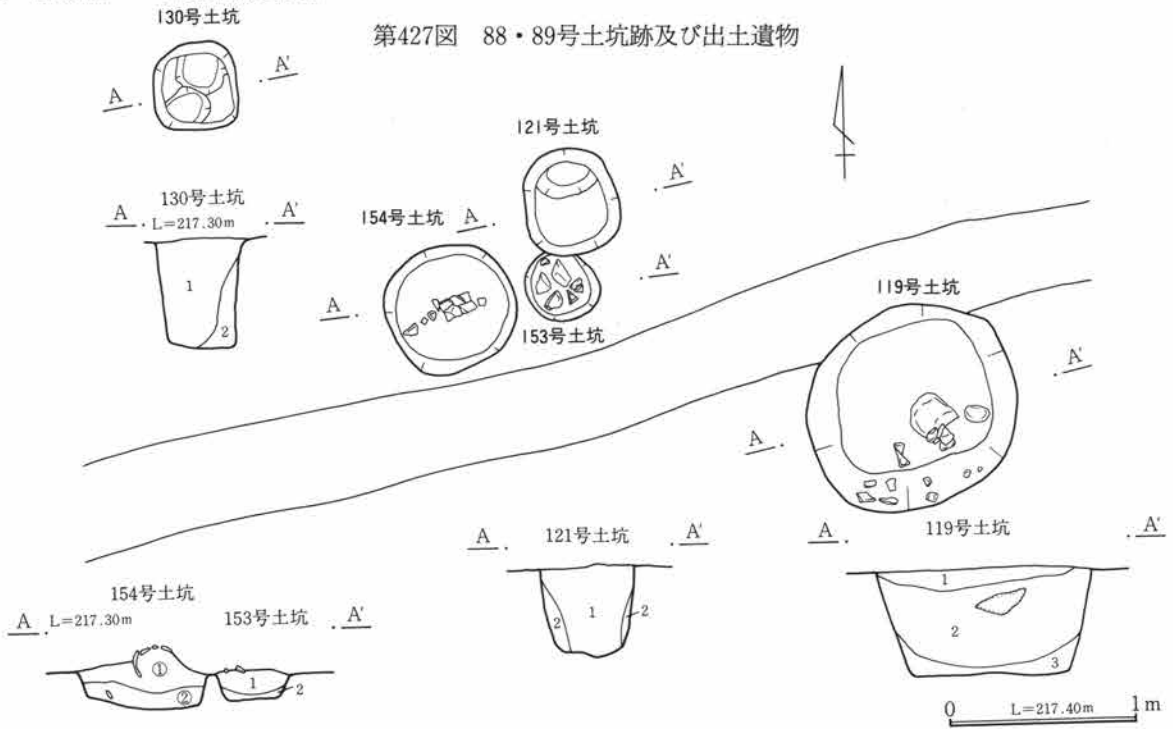
Ec-57グリッド内に位置する。主軸方位はN-41°-Wに傾く。規模は長辺(1.46)m、短辺0.96m、深さ0.36mを測る。形状は楕円形を呈する。縄文後期。123号土坑と重複。大礫出土。

#### 125号土坑 (PL.93)

Ec-57グリッド内に位置する。主軸方位はN-31°-Wに傾く。規模は長辺1.36m、短辺0.84m、深さ0.20mを測る。形状は隅丸長方形を呈する。縄文後期。



第427図 88・89号土坑跡及び出土遺物



第428図 119・121・130・153・154号土坑跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 126号土坑 (PL, 100・146)

Eh-54グリッド内に位置する。主軸方位はN-64°-Wに傾く。規模は長辺0.95m、短辺0.77m、深さ0.01mを測る。形状は楕円形を呈すると思われるが、プラン不明瞭。縄文後期。

#### 127号土坑 (PL, 100・147)

Eh-53グリッド内に位置する。規模は長辺(0.56)m、深さ0.01mを測る。形状は円形を呈する。縄文中期。プラン不明瞭。

#### 131号土坑 (PL, 94)

Ei-54グリッド内に位置する。規模は長辺0.98m、深さ0.25mを測る。形状は円形を呈する。

#### 132号土坑 (PL, 94)

Ei-54グリッド内に位置する。規模は長辺0.72m、深さ0.16mを測る。形状は円形を呈する。

#### 133号土坑 (PL, 94)

Ei-54グリッド内に位置する。主軸方位はN-19°-Eに傾く。規模は長辺0.75m、深さ0.12mを測る。形状は楕円形を呈する。134号土坑に切られる。

#### 134号土坑 (PL, 94)

Ei-54グリッド内に位置する。規模は長辺0.90m、深さ0.40mを測る。形状は円形を呈する。133・135・139号土坑を掘り込む。

#### 135号土坑 (PL, 94)

Ei-54グリッド内に位置する。主軸方位はN-23°-Eに傾く。規模は長辺0.78m、深さ0.18mを測る。形状は楕円形を呈する。134号土坑に切られる。

#### 136号土坑 (PL, 102・146)

Ei-54グリッド内に位置する。規模は長辺0.54m、深さ0.18mを測る。形状は円形を呈する。137号土坑と接触。

#### 137号土坑 (PL, 102・147)

Ei-53グリッド内に位置する。規模は長辺1.28m、深さ0.30mを測る。形状は円形を呈する。縄文後期(堀之内式)。

#### 138号土坑 (PL, 94)

Ei-54グリッド内に位置する。主軸方位はN-28°-Eに傾く。規模は長辺0.67m、短辺0.64m、深さ0.18mを測る。形状は楕円形を呈する。

第3節 土坑跡

119号土坑セクション

- 1 暗褐色土 少量のローム小塊、やや多量のAs-B 砂礫を含む。
- 2 黒褐色土 小礫(φ10mm)、多量のAs-Bを含む。
- 3 黒褐色土 灰褐色粘土塊(φ30mm)を含む。粘性。

121号土坑セクション

- 1 黒褐色土 砂礫(φ2~5mm)を含む。やや粘性。
- 2 暗褐色土 地山の二次堆積土。

130号土坑セクション

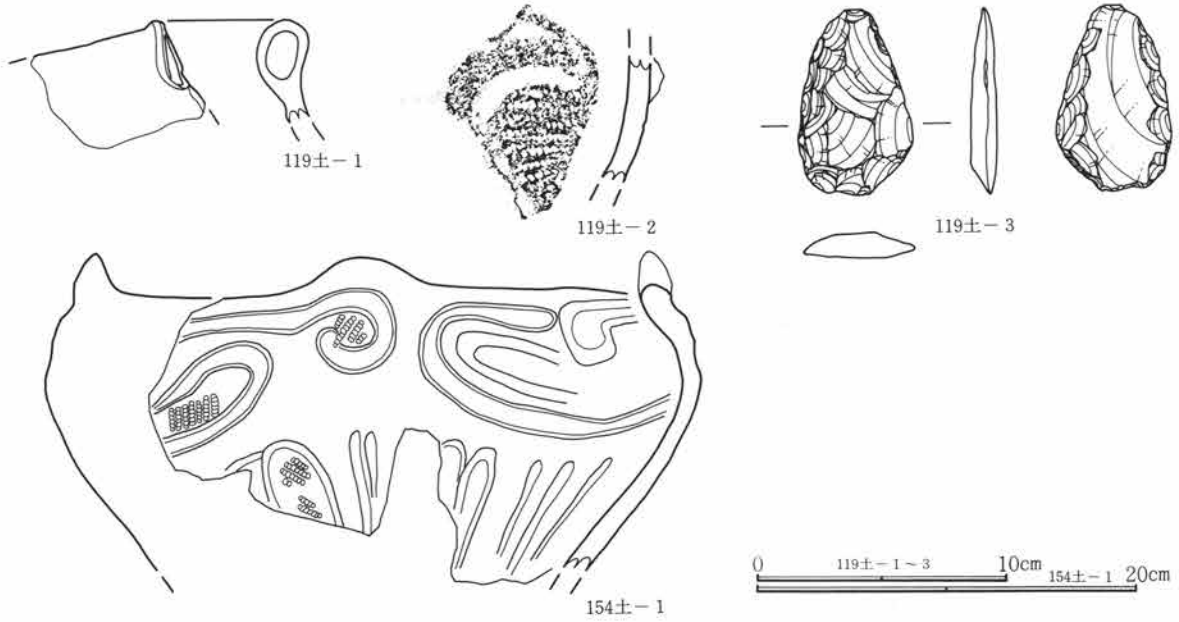
- 1 黒褐色土 砂礫(φ2~3mm)を含む。しまりあり。
- 2 地山の二次堆積土と一層土との混土层。

153号土坑セクション

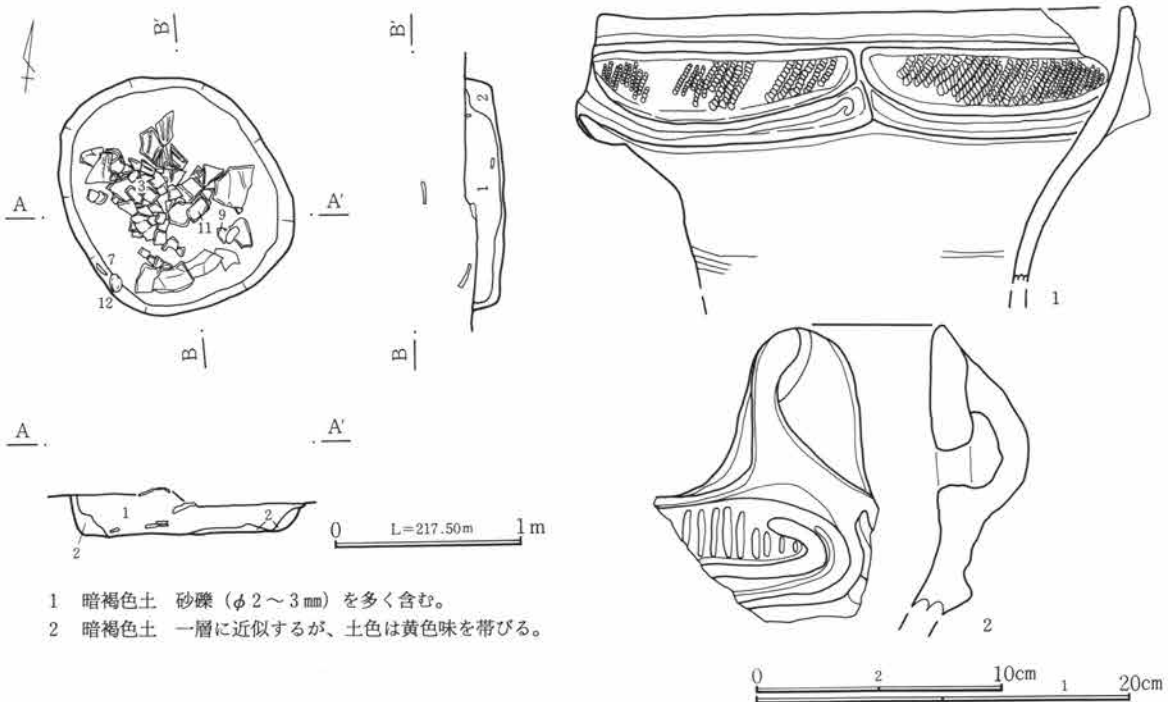
- 1 灰褐色土 白色粒、黄橙色粒(φ1mm)をごく少量含む。
- 2 暗灰黄褐色土 黄橙色粒をごく少量含む。やや砂質。

154号土坑セクション

- 1 灰褐色土 ごく少量の黄橙色粒、炭化物、少量の暗灰黄褐色土粒 砂礫を含む。
- 2 暗灰黄褐色土 ごく少量の暗黄橙色土塊、少量の灰褐色土小塊・砂礫を含む。やや砂質。

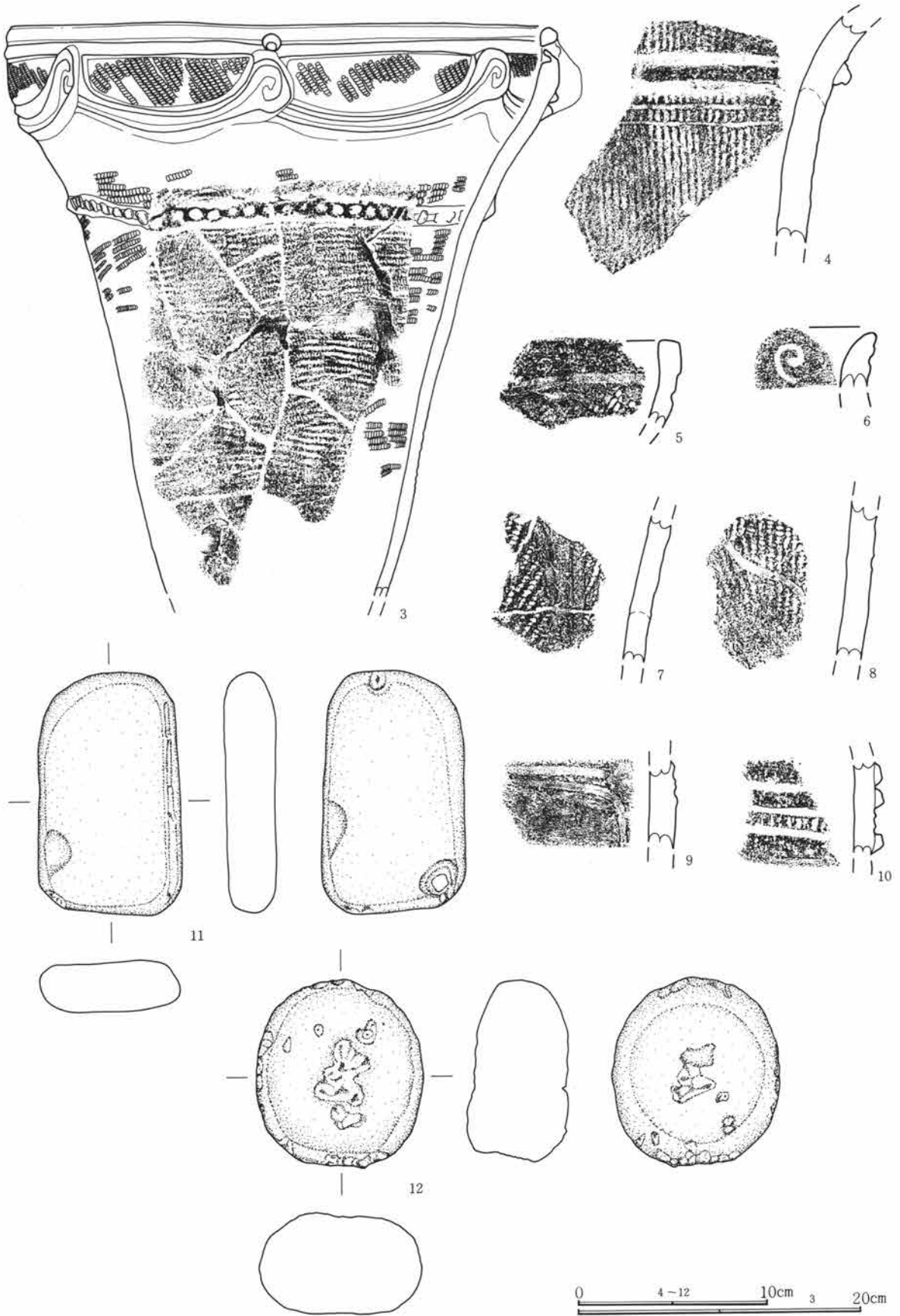


第429図 119・154号土坑跡出土遺物



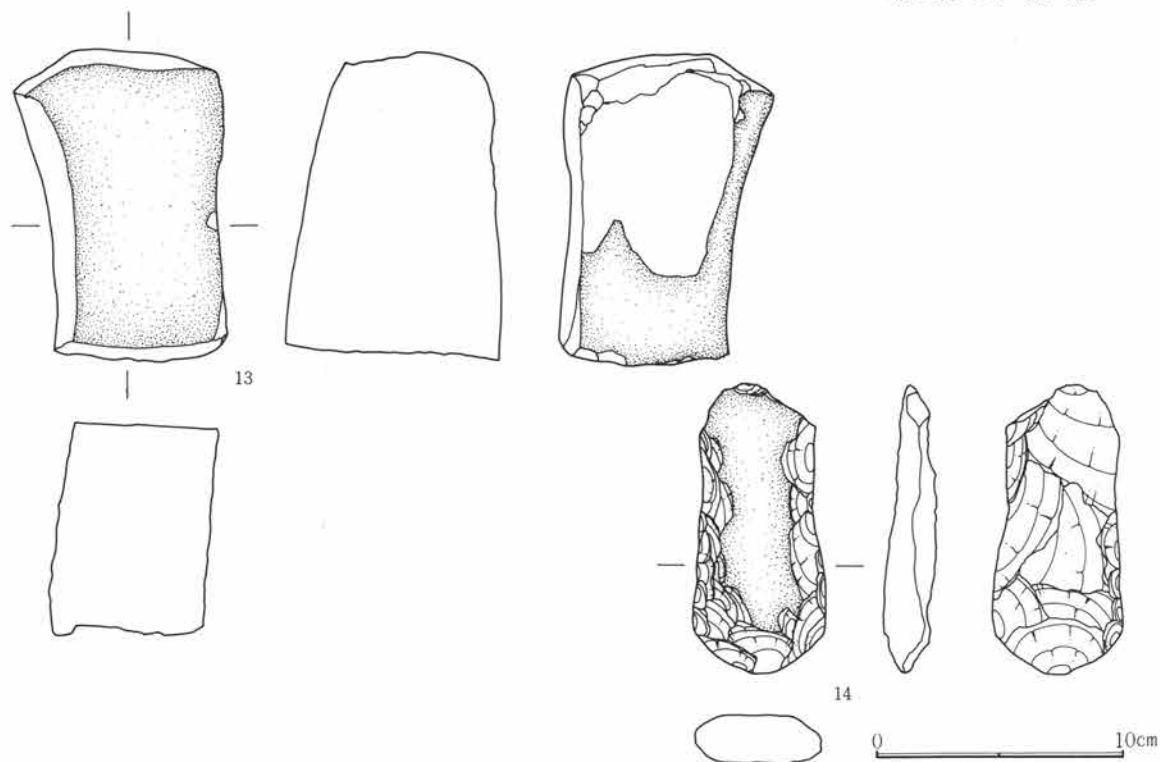
- 1 暗褐色土 砂礫(φ2~3mm)を多く含む。
- 2 暗褐色土 一層に近似するが、土色は黄色味を帯びる。

第430図 120号土坑跡及び出土遺物(1)

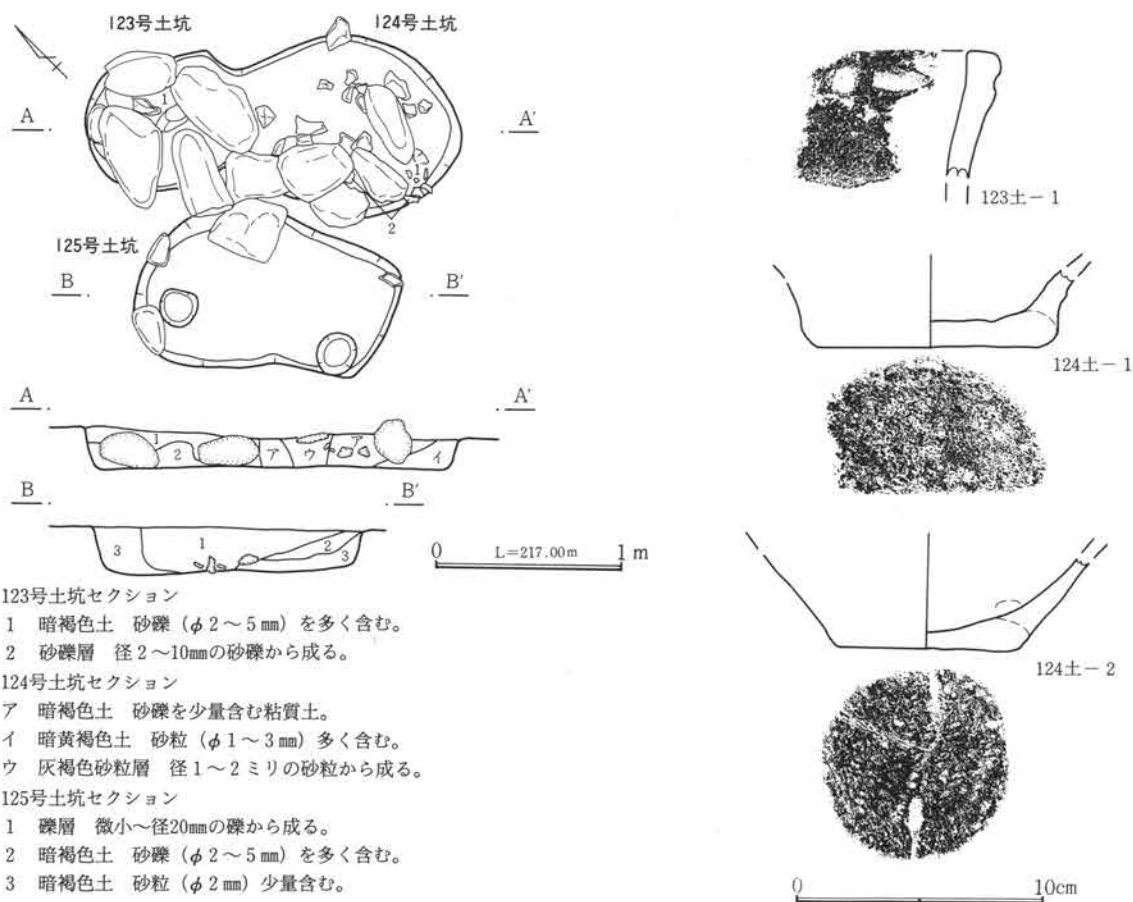


第431図 120号土坑跡出土遺物(2)





第432図 120号土坑跡出土遺物(3)



123号土坑セクション

- 1 暗褐色土 砂礫 (φ 2 ~ 5 mm) を多く含む。
- 2 砂礫層 径 2 ~ 10 mm の砂礫から成る。

124号土坑セクション

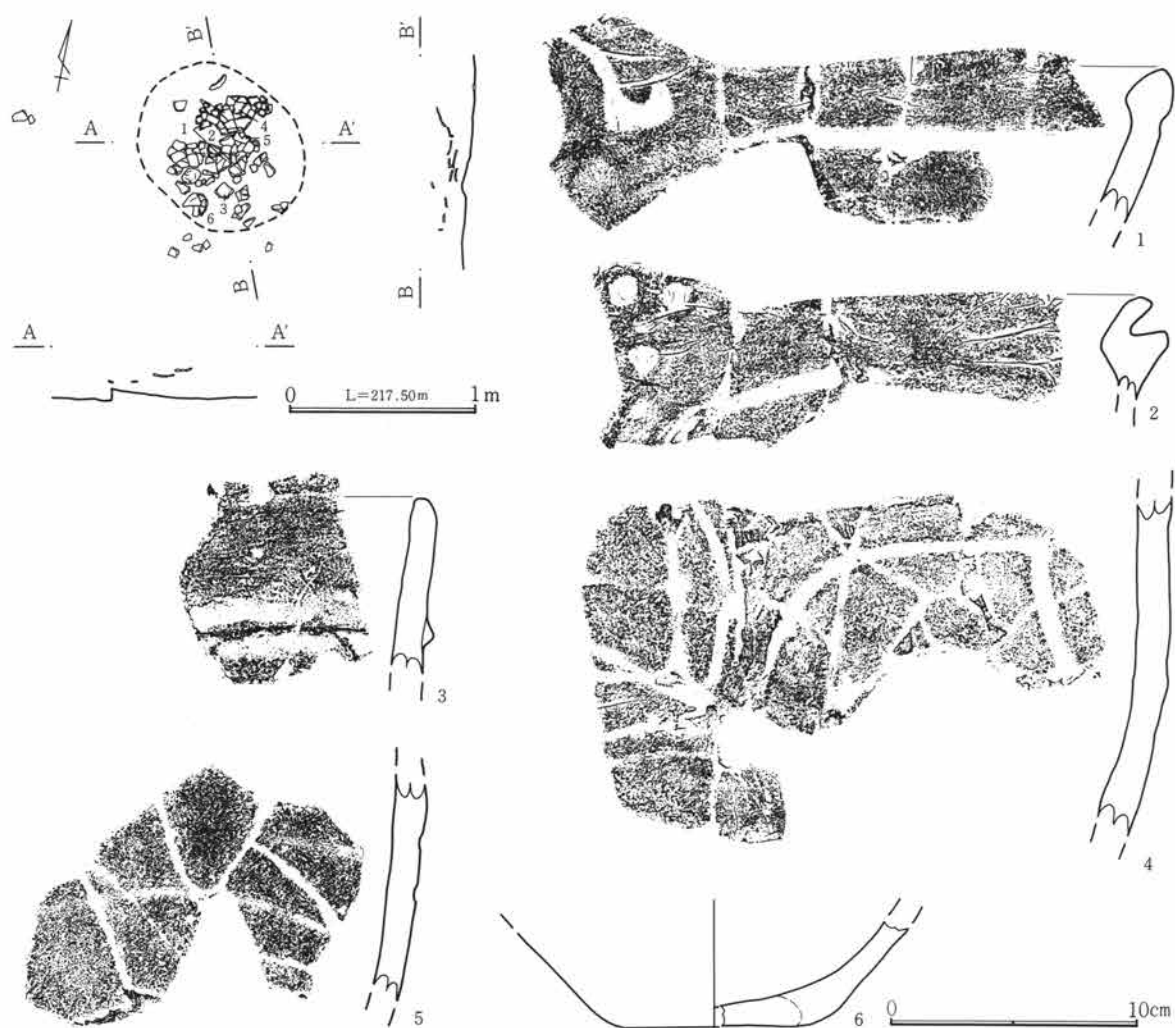
- ア 暗褐色土 砂礫を少量含む粘質土。
- イ 暗黄褐色土 砂粒 (φ 1 ~ 3 mm) を多く含む。
- ウ 灰褐色砂粒層 径 1 ~ 2 ミリの砂粒から成る。

125号土坑セクション

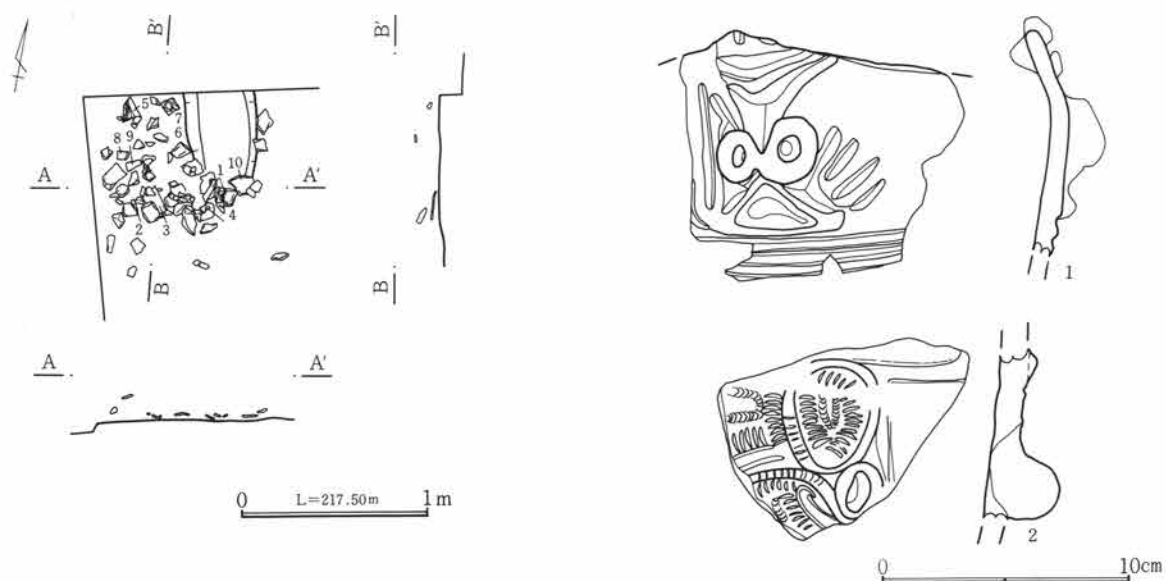
- 1 礫層 微小~径 20 mm の礫から成る。
- 2 暗褐色土 砂礫 (φ 2 ~ 5 mm) を多く含む。
- 3 暗褐色土 砂粒 (φ 2 mm) 少量含む。

第433図 123~125号土坑跡及び出土遺物

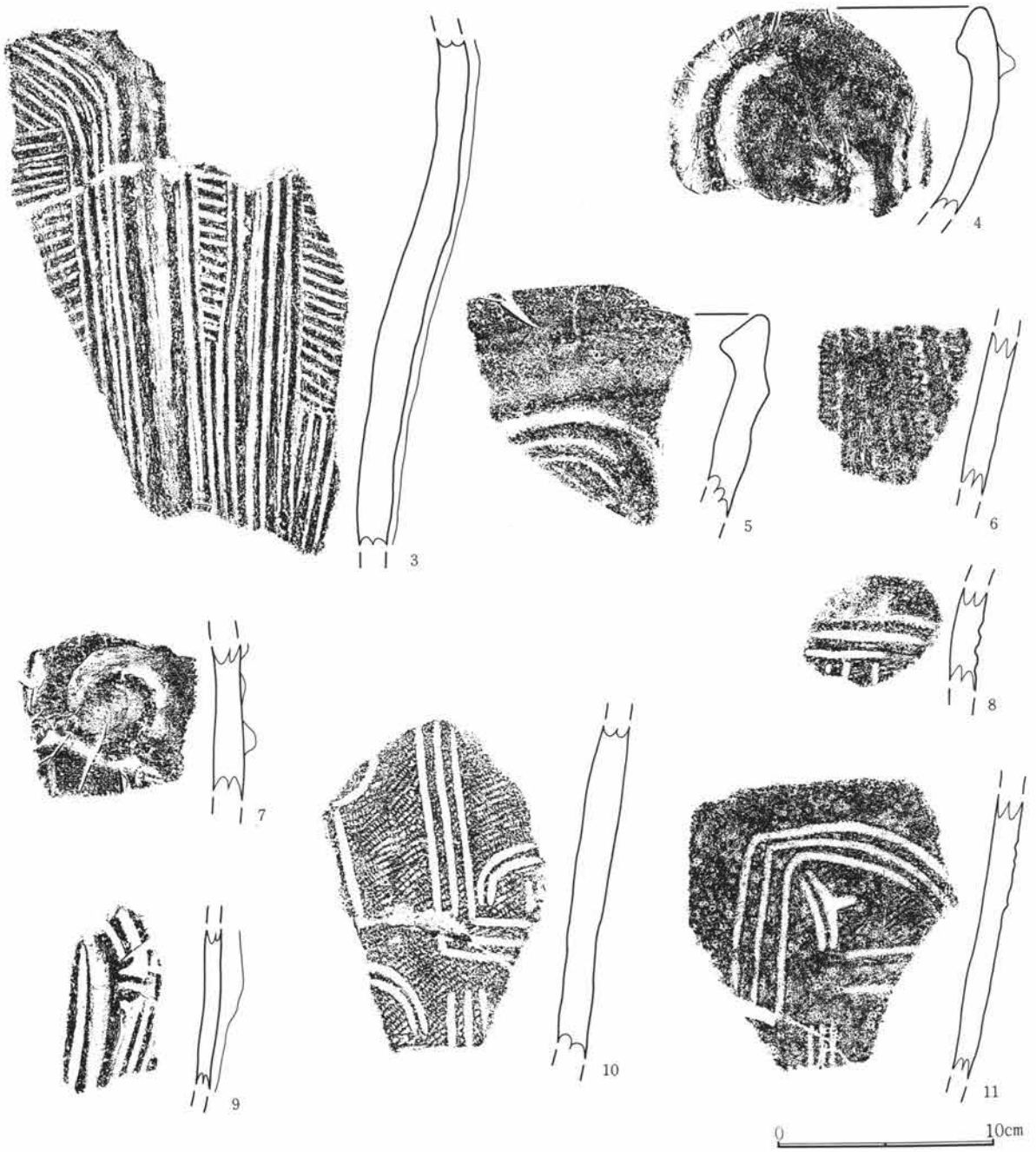
第3章 検出された遺構と遺物



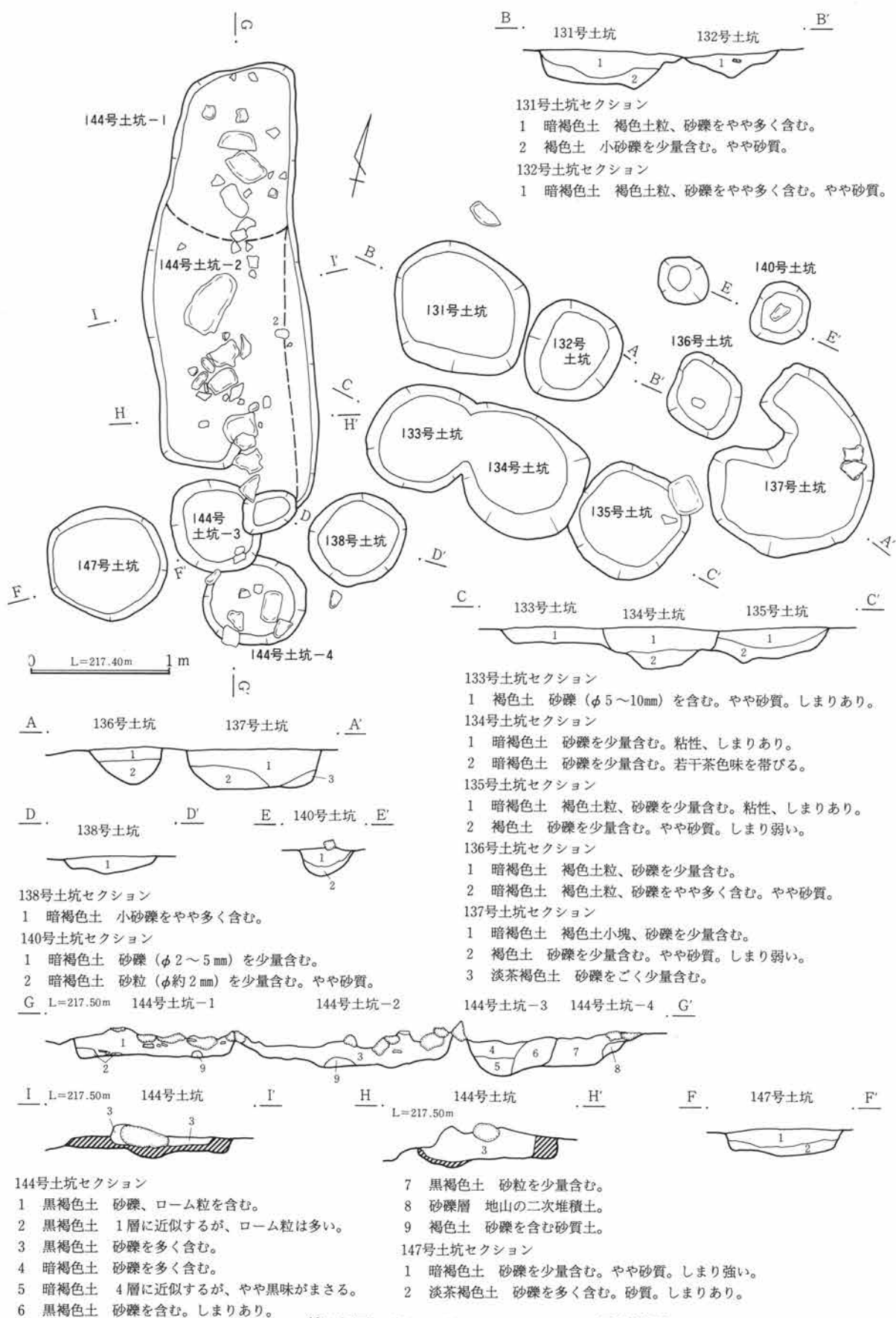
第434図 126号土坑跡及び出土遺物



第435図 127号土坑跡及び出土遺物(1)

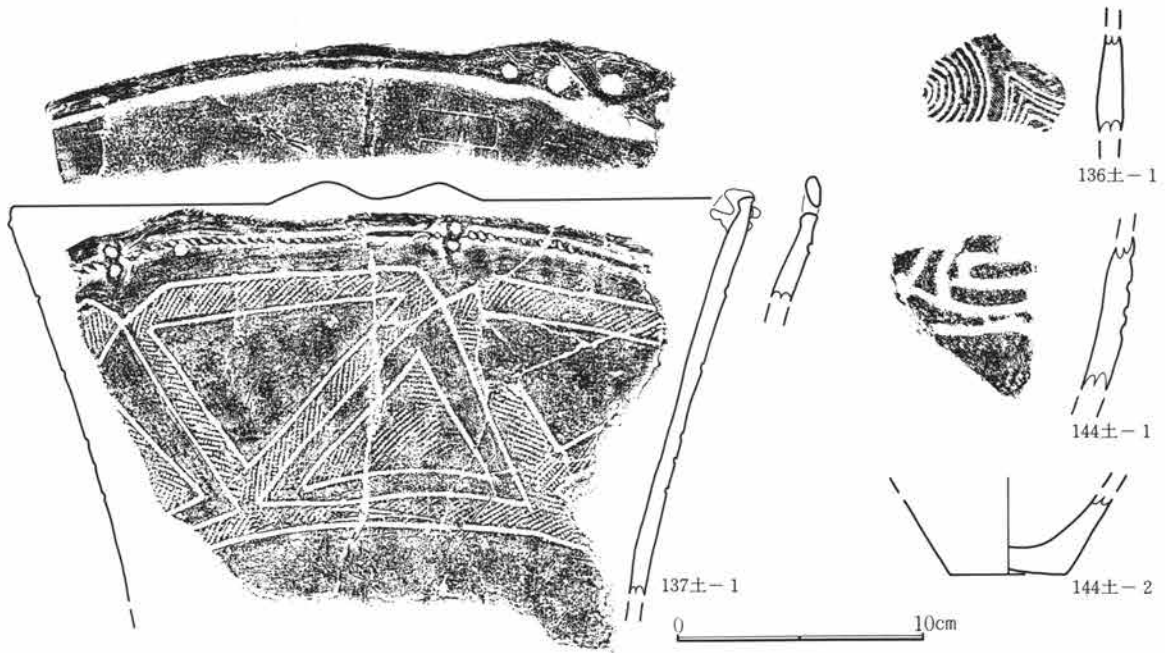


第436図 127号土坑跡出土遺物(2)

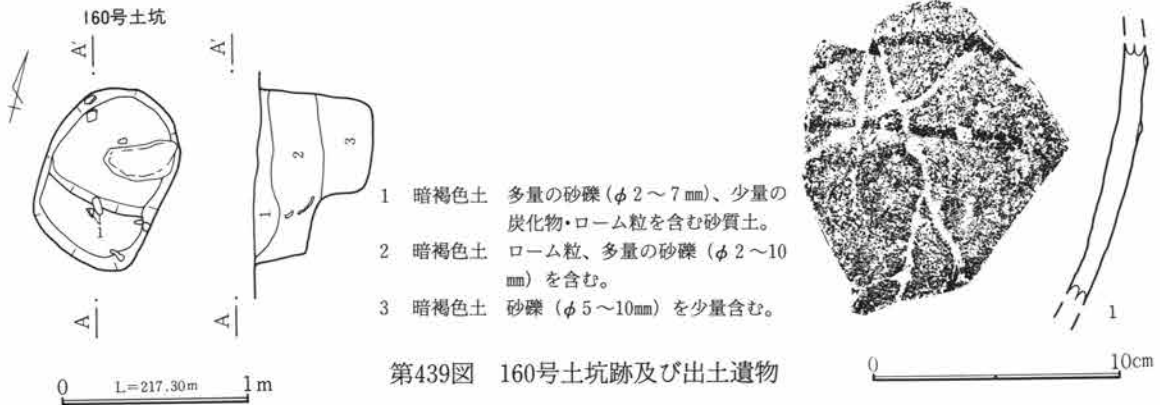


第437図 131~138・140・144・147号土坑跡

第3節 土坑跡

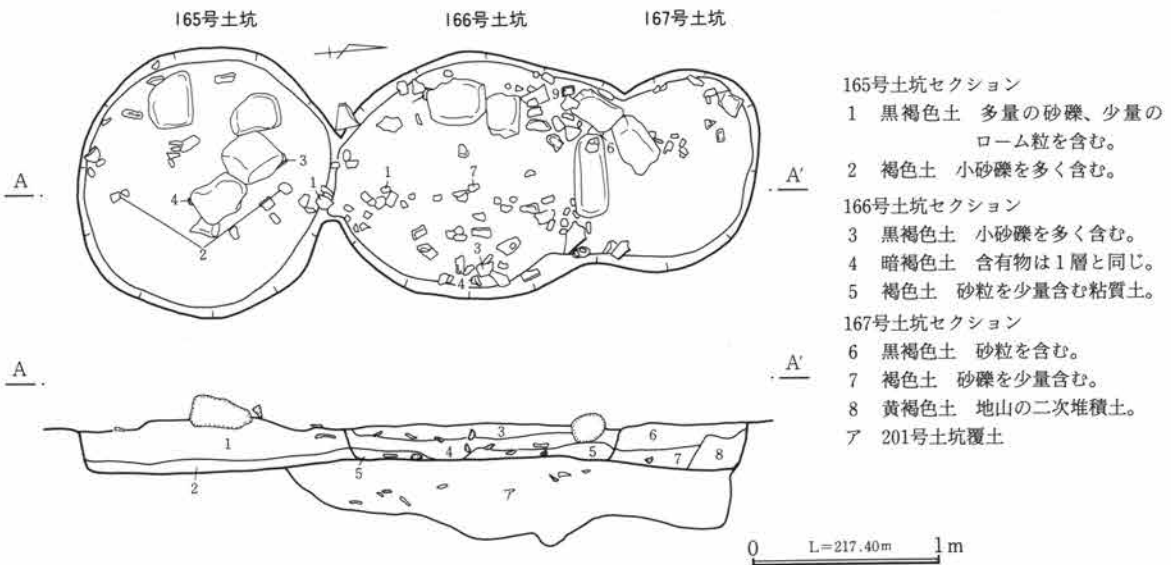


第438図 136・137・144号土坑跡出土遺物



- 1 暗褐色土 多量の砂礫(φ2~7mm)、少量の炭化物・ローム粒を含む砂質土。
- 2 暗褐色土 ローム粒、多量の砂礫(φ2~10mm)を含む。
- 3 暗褐色土 砂礫(φ5~10mm)を少量含む。

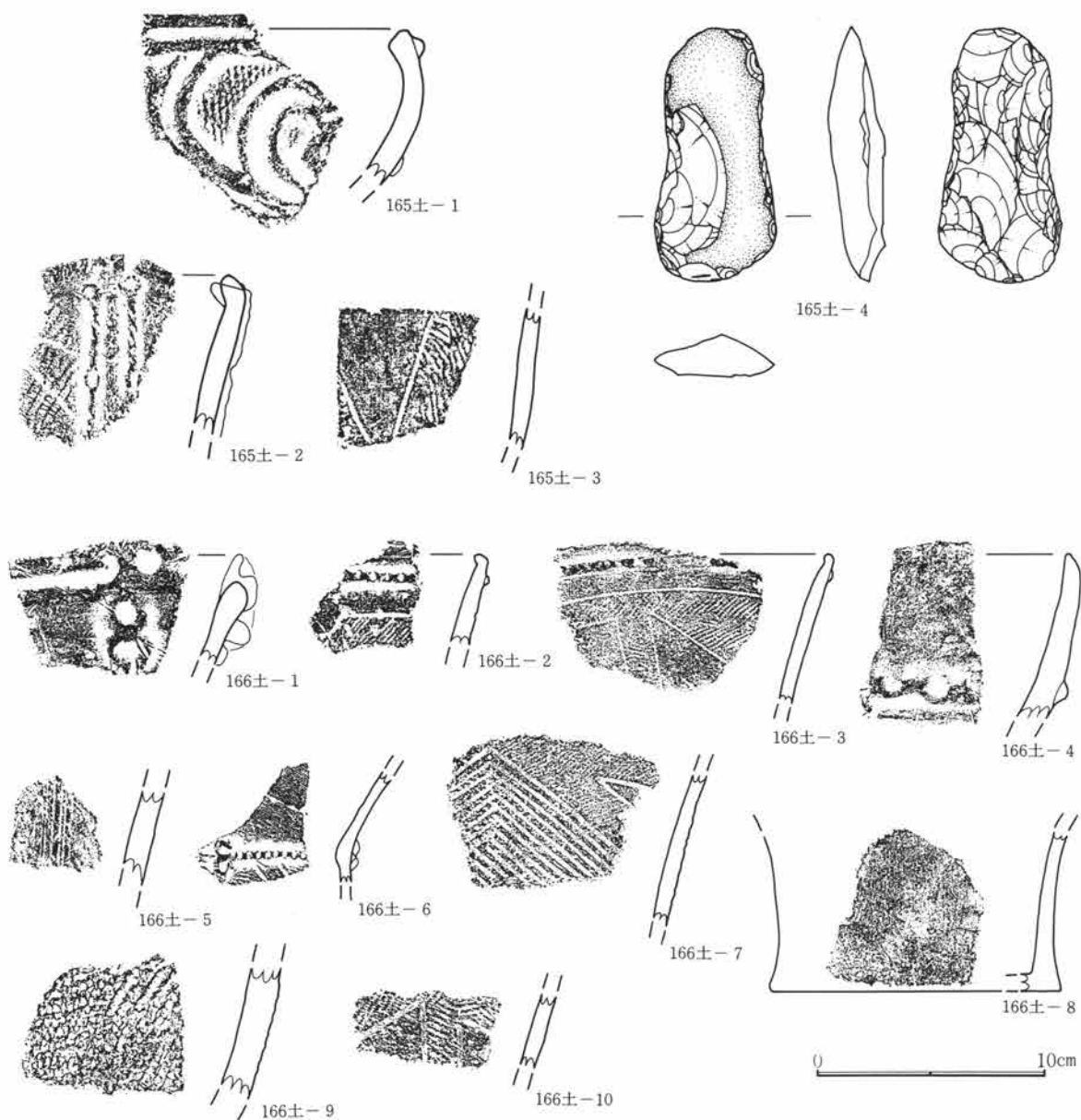
第439図 160号土坑跡及び出土遺物



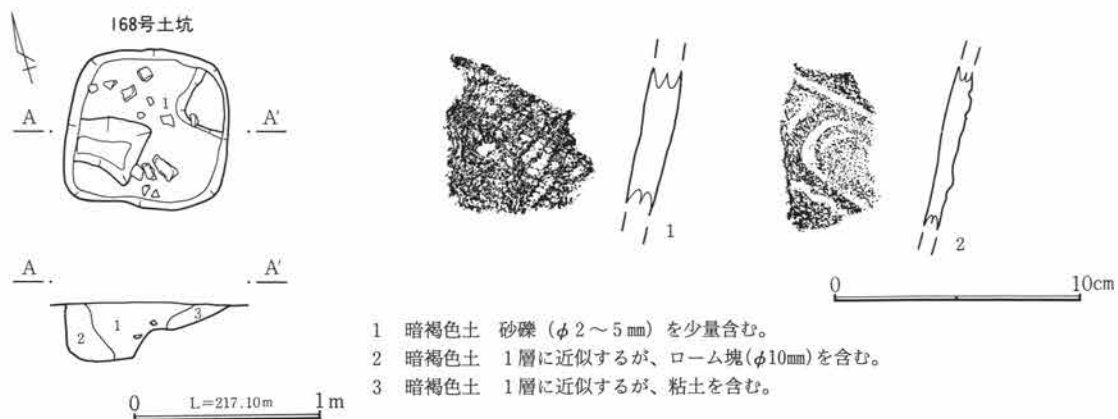
- 165号土坑セクション
- 1 黒褐色土 多量の砂礫、少量のローム粒を含む。
- 2 褐色土 小砂礫を多く含む。
- 166号土坑セクション
- 3 黒褐色土 小砂礫を多く含む。
- 4 暗褐色土 含有物は1層と同じ。
- 5 褐色土 砂粒を少量含む粘質土。
- 167号土坑セクション
- 6 黒褐色土 砂粒を含む。
- 7 褐色土 砂礫を少量含む。
- 8 黄褐色土 地山の二次堆積土。
- ア 201号土坑覆土

第440図 165~167号土坑跡

第3章 検出された遺構と遺物



第441図 165・166号土坑跡出土遺物



第442図 168号土坑跡及び出土遺物

140号土坑 (PL.95)

Ei-54グリッド内に位置する。規模は長辺0.48m、深さ0.15mを測る。形状は円形を呈する。

144-4号土坑 (PL.102)

Eh-54グリッド内に位置する。主軸方位はN-84°-Eに傾く。規模は長辺(0.70)m、短辺0.60m、深さ0.10mを測る。形状は楕円形を呈する。縄文後期? 144-3号土坑に切られる。大礫出土。

144-3号土坑 (PL.102)

Ei-54グリッド内に位置する。主軸方位はN-77°-Eに傾く。規模は長辺0.64m、短辺0.52m、深さ0.13mを測る。形状は隅丸長方形を呈する。縄文後期? 144-4号土坑を掘り込む。大礫出土。

144-2号土坑 (PL.102)

Ei-54グリッド内に位置する。主軸方位はN-17°-Wに傾く。規模は長辺1.50m、短辺1.20m、深さ0.15mを測る。形状は隅丸長方形を呈する。縄文後期? 144-1号土坑に切られる。大礫出土。

144-1号土坑 (PL.102・146)

Ei-54グリッド内に位置する。主軸方位はN-12°-Wに傾く。規模は長辺3.76m、短辺0.78m、深さ0.13mを測る。形状は隅丸長方形を呈する。縄文後期? 75号住居、144-2号土坑を掘り込む。大礫出土。

147号土坑 (PL.95)

Eh-54グリッド内に位置する。主軸方位はN-67°-Eに傾く。規模は長辺0.95m、短辺0.82m、深さ0.16mを測る。形状は楕円形を呈する。

154号土坑 (PL.102・147)

Ef-53グリッド内に位置する。規模は長辺0.67m、深さ0.19mを測る。形状は円形を呈する。縄文中期

160号土坑 (PL.102・147)

Eg-53グリッド内に位置する。主軸方位はN-13°-Eに傾く。規模は長辺0.90m、短辺0.68m、深さ0.60mを測る。形状は楕円形を呈する。縄文後期。66号住居推定住居範囲内。

165号土坑 (PL.102・147)

Eh-55グリッド内に位置する。規模は長辺(2.00)m、深さ0.20mを測る。形状は円形を呈する。縄文後期。164・166・187・201号土坑と重複。

166号土坑 (PL.102・147)

Eh-55グリッド内に位置する。主軸方位はN-1°-Wに傾く。規模は長辺1.44m、短辺1.16m、深さ0.18mを測る。形状は楕円形を呈する。縄文後期。164・165・167・187・200・201号土坑と重複。

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 168号土坑 (PL.101・146)

Ed-57グリッド内に位置する。主軸方位はN-22°-Eに傾く。規模は長辺0.84m、短辺0.84m、深さ0.16mを測る。形状は隅丸方形を呈する。縄文後期?

#### 169号土坑 (PL.101・147)

Ei-56グリッド内に位置する。主軸方位はN-74°-Eに傾く。規模は長辺1.80m、短辺1.16m、深さ0.16mを測る。形状は楕円形を呈する。縄文後期(堀之内式)。

#### 180号土坑 (PL.101)

Ej-55グリッド内に位置する。主軸方位はN-81°-Wに傾く。規模は長辺0.50m、短辺0.46m、深さ0.30mを測る。形状は円形を呈する。縄文中期。

#### 188号土坑 (PL.101・146)

Eh-56グリッド内に位置する。主軸方位はN-4°-Eに傾く。規模は長辺1.26m、短辺0.90m、深さ0.17mを測る。形状は楕円形を呈する。縄文時代。75号住居推定住居範囲内。

#### 189号土坑 (PL.101)

Eh-56グリッド内に位置する。主軸方位はN-84°-Wに傾く。規模は長辺1.04m、短辺0.66m、深さ0.12mを測る。形状は楕円形を呈する。縄文時代。73・76号住居と重複。

#### 191号土坑 (PL.101)

Ei-55グリッド内に位置する。規模は長辺0.80m、深さ0.28mを測る。形状は円形を呈する。縄文時代。157・166・167・201号土坑と重複。

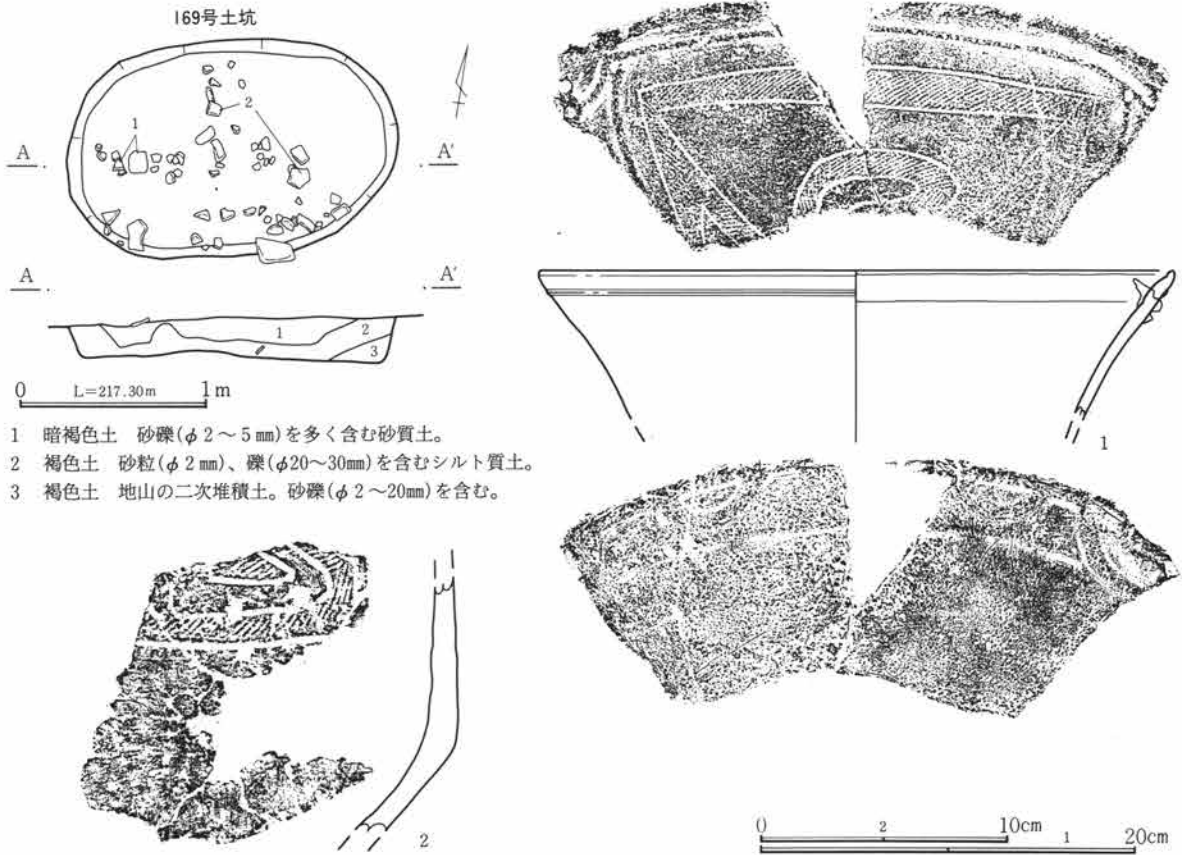
#### 200号土坑 (PL.101・146)

Ei-55グリッド内に位置する。主軸方位はN-21°-Eに傾く。規模は長辺(1.50)m、短辺(0.75)m、深さ0.08mを測る。形状は楕円形を呈する。縄文後期(堀之内式)。166号土坑下層。

#### 201号土坑 (PL.101・103・147)

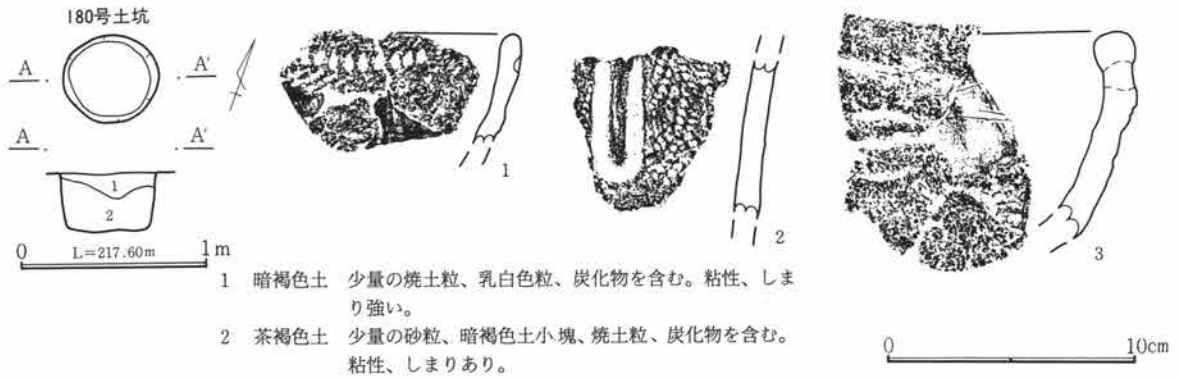
Eh-55グリッド内に位置する。主軸方位はN-87°-Wに傾く。規模は長辺2.20m、短辺1.20m、深さ0.50mを測る。形状は楕円形を呈する。縄文後期(堀之内式)。





- 1 暗褐色土 砂礫(φ2~5mm)を多く含む砂質土。  
 2 褐色土 砂粒(φ2mm)、礫(φ20~30mm)を含むシルト質土。  
 3 褐色土 地山の二次堆積土。砂礫(φ2~20mm)を含む。

第443図 169号土坑跡及び出土遺物



- 1 暗褐色土 少量の焼土粒、乳白色粒、炭化物を含む。粘性、しまり強い。  
 2 茶褐色土 少量の砂粒、暗褐色土小塊、焼土粒、炭化物を含む。粘性、しまりあり。

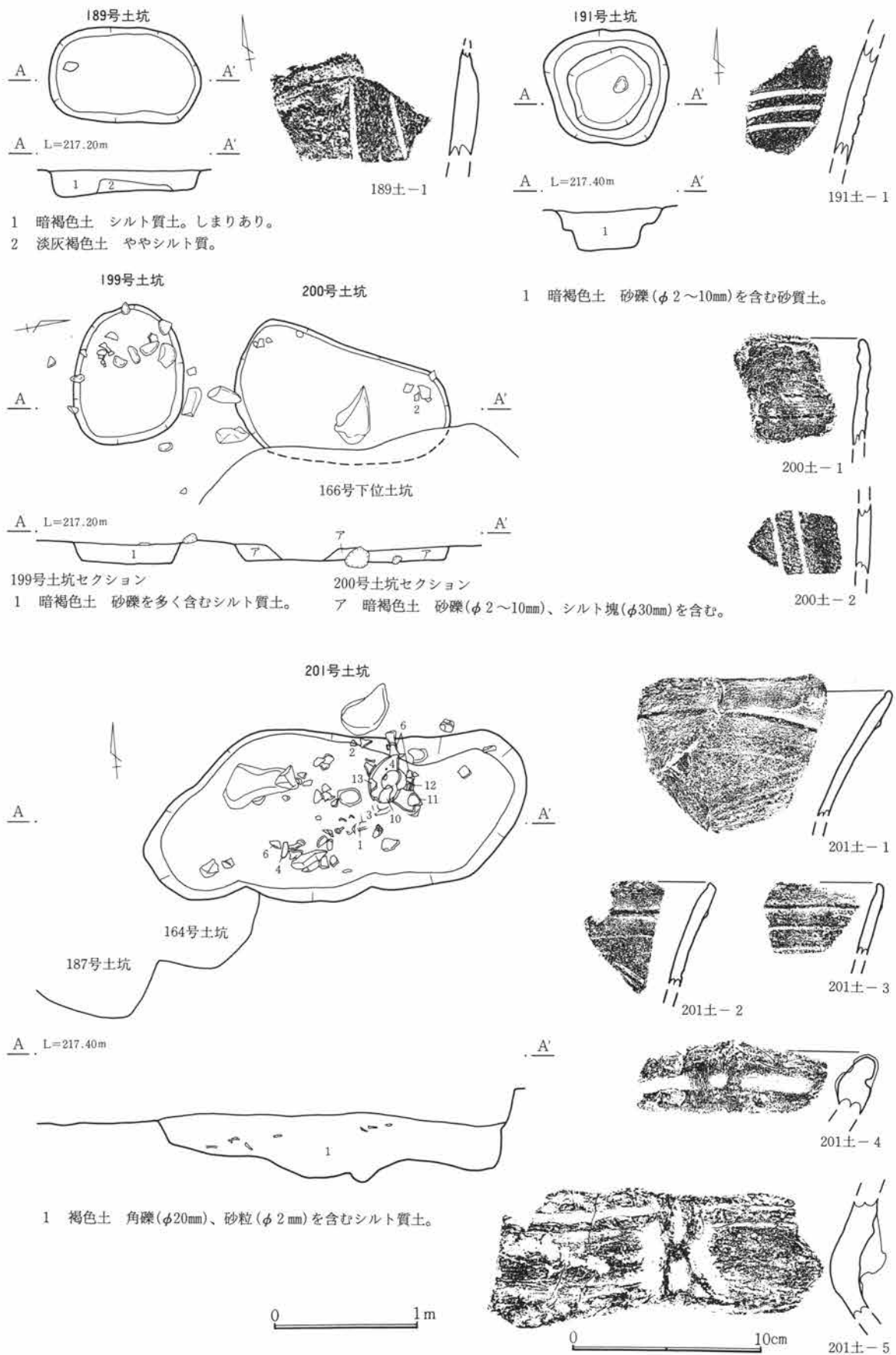
第444図 180号土坑跡及び出土遺物



- 1 暗褐色土 黄褐色土塊(φ5~10mm)、砂礫(φ2~3mm)、炭化物をごく少量含む。シルト質土。やや粘性。  
 2 淡灰褐色土 黄褐色土塊(φ5~10mm)、淡暗褐色土塊を少量含む。シルト質土。

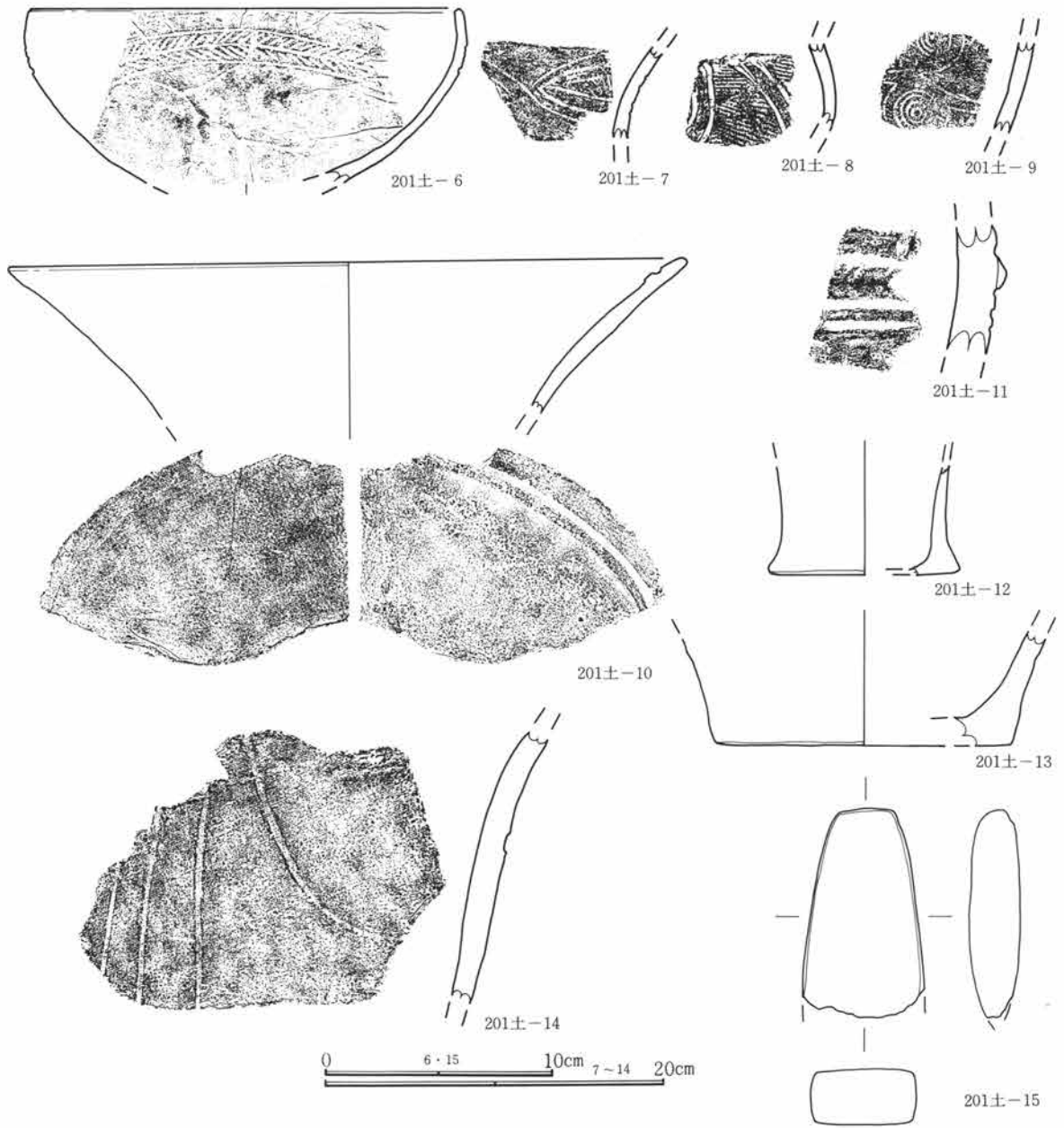
第445図 188号土坑跡及び出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物



第446図 189・191・199~201号土坑跡及び出土遺物(1)

第3節 土坑跡



第447図 201号土坑跡出土遺物(2)

## 第4節 井戸跡

### 1. DN区1号井戸跡 (PL.35)

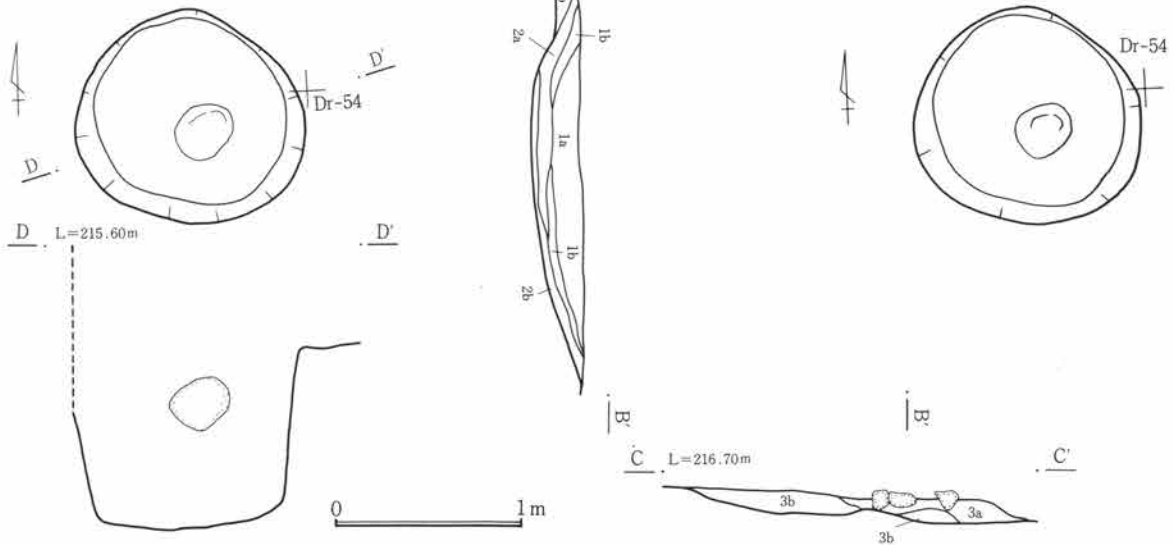
旧河道上面の黒色土除去中に確認された井戸跡であり、上部の掘り込みは土層のみが記録できただけである。上面では3号溝調査時に同位置でAs-Bが乗る浅い窪みを確認しており、井戸の埋没過程で堆積したAs-Bと考えられる。本井戸跡は、覆土の状況が壁面に見られる地山塊を多量に含む層が入り乱れて堆積し、明らかな人為的な埋土であることや埋土に含まれる地山塊が風化等の影響を余り受けてい

A-A'

- 1 暗褐色土 砂礫混じり。
- 2a 暗黄褐色土 地山塊、砂礫混じり。
- 2b 暗黄褐色土 2a層に暗褐色土塊混じり。
- 3a 暗褐色土 2層の逆に黄褐色土塊含む。
- 3b 暗褐色土 3a層に礫混じり。
- 4 黒褐色土 粘性強い。
- 5a 黄褐色土 地山塊主体。
- 5b 黄褐色土塊と黒褐色土塊の混土。
- 6 褐色細砂層
- 7 黒褐色土 粘質土に砂質土の混土
- 8 茶褐色粘土塊
- 9a 黄褐色粘質土 灰白色粘質土塊含む。
- 9b 黄褐色粘質土 9a層に砂質土及び茶褐色土塊含む。
- 10 灰褐色砂質土

B-B'、C-C'

- 1a 黒褐色土 As-Bを多量に含む。
- 1b 黒褐色土 1a層に暗褐色土を含む。僅かにAs-B層見られる。
- 2a 暗褐色土 僅かに小礫含む。粘性強い。
- 2b 暗褐色土 粘質土。
- 3a 褐色土 小礫含む。粘性強い。
- 3b 褐色土 僅かに小礫含む。粘性強い。

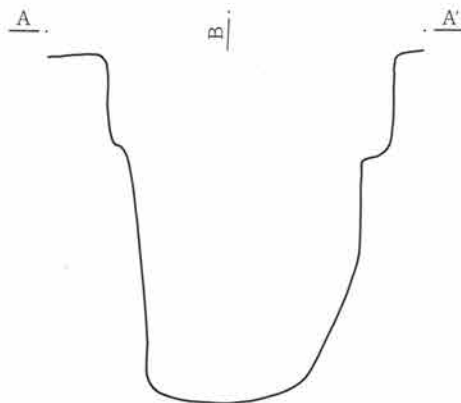
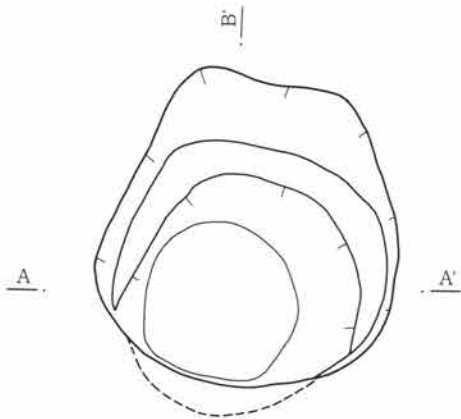
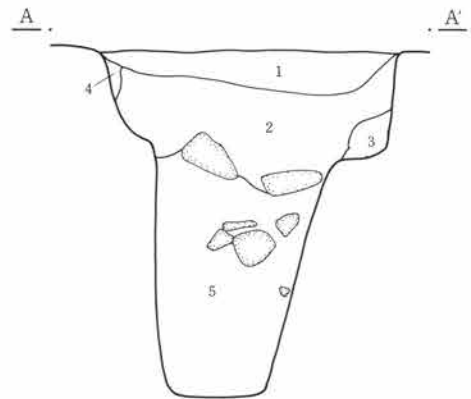


第448図 DN区1号井戸跡

ない状況から、掘削後に短時間で埋め戻された可能性が考えられる。位置は、Dr-54グリッド杭西脇で検出され、旧河道西側法面の黄褐色粘質土を掘り込む。掘り方は壁面が垂直に立ち上がり上部の開くロート状を呈する。規模は、中位径1.4m、底径1.0m、深さ2.5mを測り底面は平坦である。覆土中層に30～50cm大の礫混じる。調査時に湧水はなくやや湿り気がある程度であった。

## 2. E区1号井戸跡 (PL.106)

微高地縁辺部の3号溝東脇Ea-55グリッド内に位置し、縄文時代住居跡である50号住居を掘り込んでいる。規模は上部口径1.5m、中段部口径1.3m、底径0.8m、深さ1.8mを測り底面は平坦である。断面形は北壁は緩やかに立ち上がり、南壁がえぐり込まれる。覆土中層にはDN区1号井戸同様に大礫が出土している。



0 L=216.80m 1m

- 1 黒褐色土 砂礫、炭化物を少量含む。
- 2 黒褐色土 焼土粒、ローム粒を少量含む粘質土。
- 3 褐色粘質土塊
- 4 暗褐色土塊
- 5 暗褐色土 小礫、粘質土塊を多量に含む。

第449図 E区1号井戸跡

## 第5節 溝 跡

### 1. 溝 跡

溝遺構については、DN区及びE区両調査区にまたがる状態で検出される事が予想されたため、一方の調査区で完結する溝についても遺構番号を分離せず通番の遺構名称を付した。しかし、E区1～5号構については、その限りでない。

#### 1号溝 (PL, 29・30・117)

DN区南端に位置し、上信電鉄線路と平行に検出された。規模は、確認全長56m、上幅3.7m、下幅2.8m、深さ0.14mを測り、西側は底面のみ確認した。掘り方は部分的に両側が低くなる所もある。水の流れた痕跡や道としての硬化面等は認められなかった。覆土中には、拳大程度の多量の礫が底面直上の中央部分に集中して見られた。溝西端部は20～30cmの縄文時代の多孔石を含む大礫列を検出した。列石上の覆土は、As-Aを多量に含み、かつ僅かにAs-Aの純層の見られる層であった。この部分は2号溝と重複する部分であり、2号溝埋没後に1号溝が作られその際に石列が置かれ、As-A降下時に一旦は埋没したが、その後復興され現在の農道へと移行していったと考えられる。

本遺構は、礫群の出土状態や掘り方及び石列の配置等から、今までの道遺構の調査例の中の当初から道路を構築する際に遺構全体が掘り込まれ両側に側溝状の溝が付けられる例に類似する。本遺構は溝として機能していたと考えるよりは、当初から道として機能していたと考えたい。

出土遺物には、古銭や軟質陶器のすり鉢及び内耳鍋等の中近世遺物を掲載したが、縄文時代の土坑群や古墳時代以降の竪穴住居跡等を掘り込んでいるため、縄文土器や土師器・石器等も出土している。

#### 2号溝 (PL, 30・117)

調査区西辺部を南北に走る溝であり、線路南のDS区で直角に曲がりL字形を呈する。遺構上には、1号溝同様に農道が走り、両先端部は東も北も中沢川に達し、道及び字境等での区画の追跡は困難となる。

規模は上幅7m、下幅1.8m、深さ1.4mを測り、逆台形を呈する。重複は古墳時代の竪穴住居跡DN区4号住居を初めとして多くの竪穴住居跡を掘り込んでいる。また、1号溝及び洋梨形土坑等が埋没後に作られている。覆土は、下層では灰褐色の粘質土の堆積と細砂・小礫のラミナ状混土の堆積が見られ、途中数回の水の流・堆水の状況が伺われた。As-Bの堆積は明瞭には確認できず、上部覆土中に小砂礫に混じり白色軽石の混土が見られた。遺物は、青磁碗の破片が覆土下層より出土しているのみである。

#### 3号溝 (PL, 31・117・118)

調査区中央に位置し、北端は微高地内にかかるが、全体的には微高地縁辺部に沿って『く』字形に作られている。周辺部には竪穴住居跡や土坑群が集中しており、それらの遺構から捨てられたものか覆土中には多量の大小礫、縄文土器や土師器・須恵器破片が出土している。重複は、北端部で縄文時代住居74号住居と重なり合い、それ以外の竪穴住居跡との切り合いはない。またAs-Bを含む掘立柱建物跡柱穴や、同じくAs-Bを含む火熱を受けた土坑に切られる。南端部の北側立ち上がり部分に20cm～30cm程の大礫が並べられたような状態で検出された。規模は、確認全長66m、上幅4m、下幅2.8m、深さ0.12mを測る。

## 4号溝 (PL.32・119)

E区北西部端に位置し、微高地縁辺部を弧状に巡る。旧河道と考えられる6号溝上面を掘り込んで作られ、規模は、確認全長16m、上幅3m、下幅1.6m、深さ0.6mを測り、断面船底状を呈する。出土遺物は、弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての赤井戸式土器の赤色塗彩の施された高杯破片や小型の甕類の完形品が倒立状態で出土している。溝端部は、東部分は緩やかに立ち上がり消滅し、また北側の想定部分は生活道路としての農道があり、切り返しが不可能であるため未調査となった。遺構形状や出土遺物から円形周溝墓の可能性も考えられる。

## 5号溝 (PL.33・119)

DN区中央から南に位置しJ字状を呈するが、南端は15号住居及び57号土坑周辺で覆土が不明瞭となる。また北端も67号土坑周辺で覆土が不明瞭となる。規模は、確認全長21.5m、上幅1.7m、下幅0.9m、深さ1.8mを測り、断面丸底を呈する。同溝東側は旧河道上面の黒褐色土帯となる。縄文時代後期の土器片を出土する。

## 6号溝 (PL.32・119)

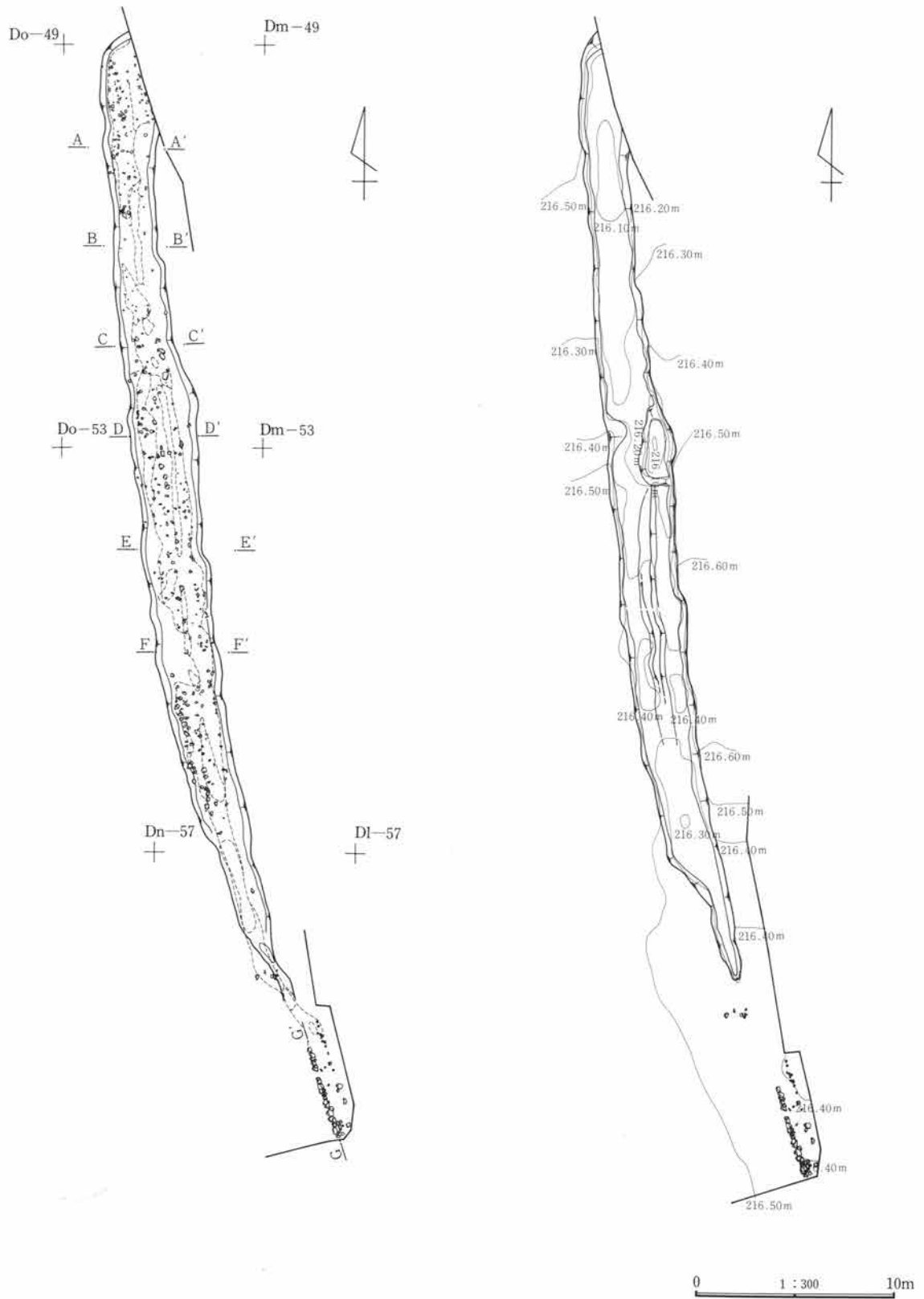
E区北西部に位置し、遺構北側は微高地状に高まり縁辺部を回り込みながら遺跡地西南の低地部へ向かう。調査当初4号溝の内側で重複する縄文土器を含む溝として調査を行ったが、底面は下層の砂礫層を更に1m以上削り込み、底面及び側面は乱れた掘り方をもつことから旧河道と考えられる。出土遺物は、深鉢形土器の胴上半部に刷毛状工具による斜方向の擦痕（条痕）があり、口唇部に指頭圧痕を巡らす深鉢と口唇部に山形突起2対1単位で配置する深鉢が出土している。

## 7号溝

6号溝北側の農道脇に位置し、掘り方が不明瞭である。覆土は6号溝に似ていることから、6号溝の延長部分であり、微高地を回り込む旧河道と考えられる。

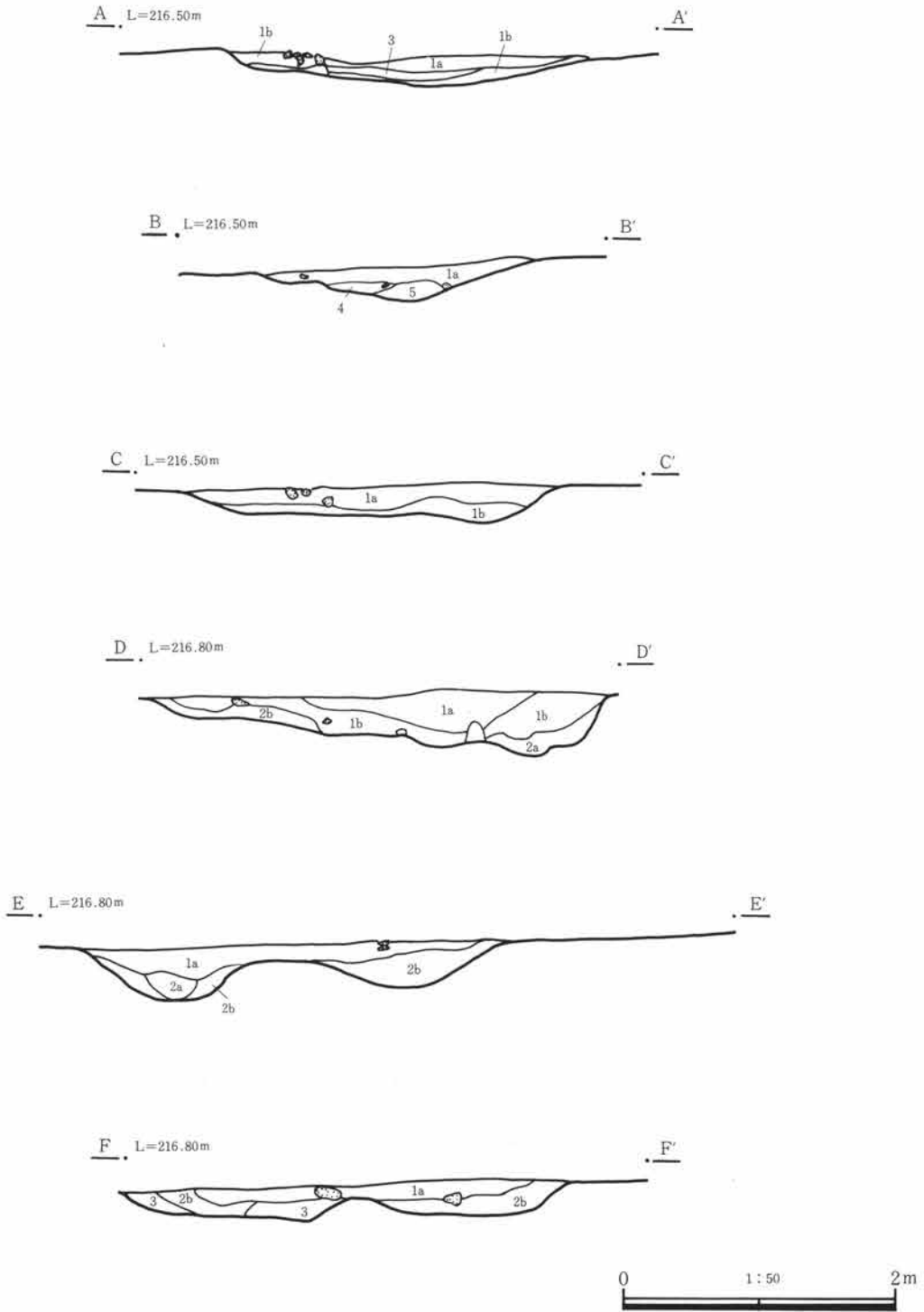
## 8号溝 (PL.119)

2号溝の中央西側の上端部分を共有する細い溝である。2号溝を掘り込んで作られる。規模は、確認全長48m、上端1m、深さ0.18mを測る。



第450図 1号溝跡



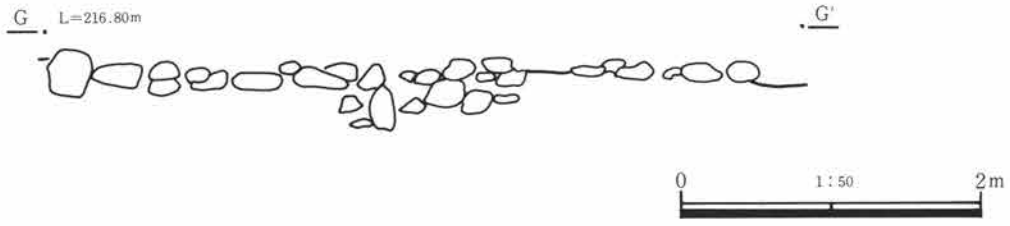


f-f'

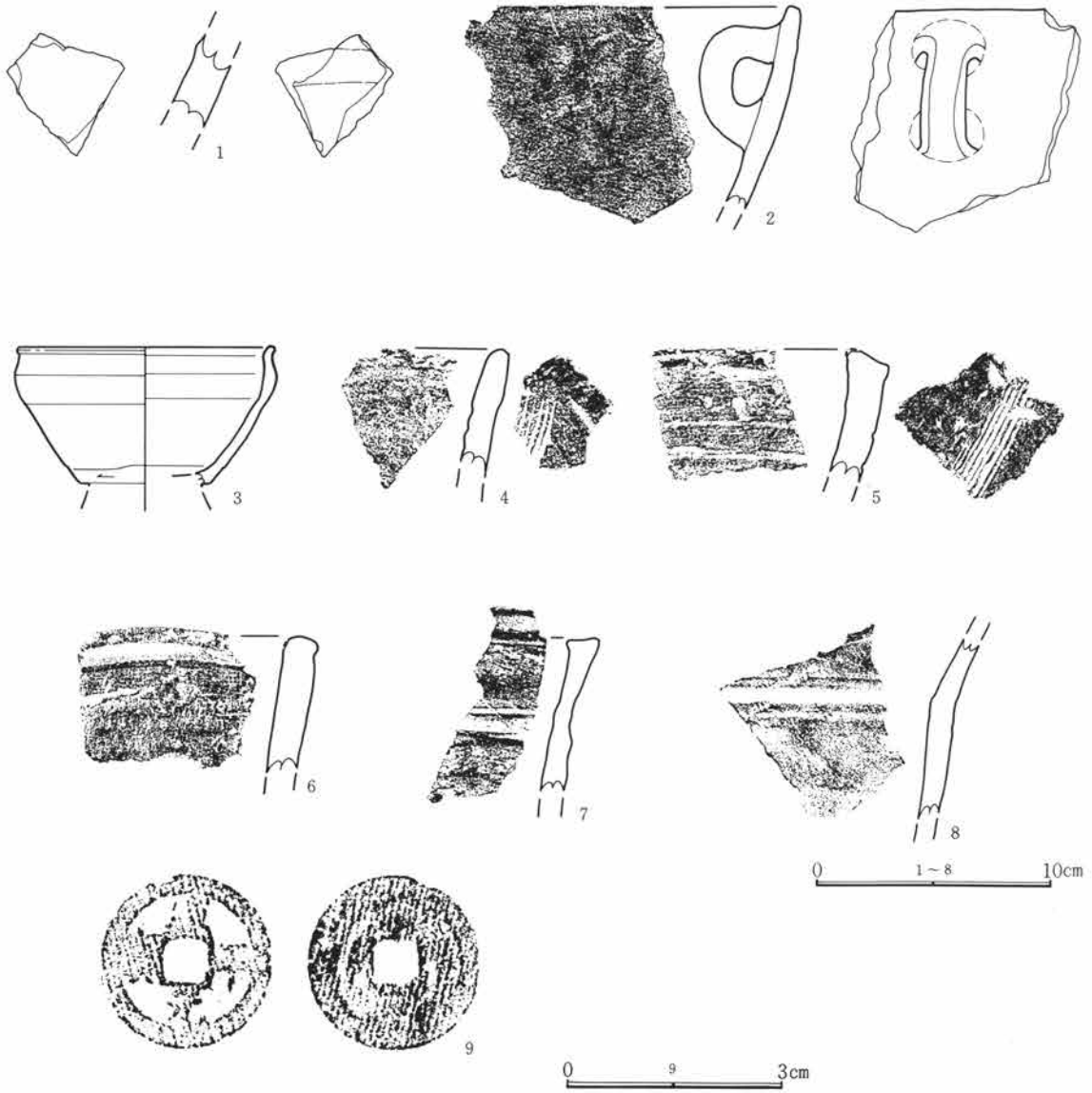
- 1a 暗褐色土 小礫及び礫混じり。
- 1b 暗褐色土 小礫混じり。
- 2a 褐色土 小礫、黄褐色土粒混じり。
- 褐色土 小礫、黄褐色土粒含む。
- 3 暗黄褐色土 砂礫主体。
- 4 灰褐色土 小礫混じり、固く締まる。
- 5 暗褐色土 小礫含む、やや固く締まる。

第451図 1号溝跡セクション図

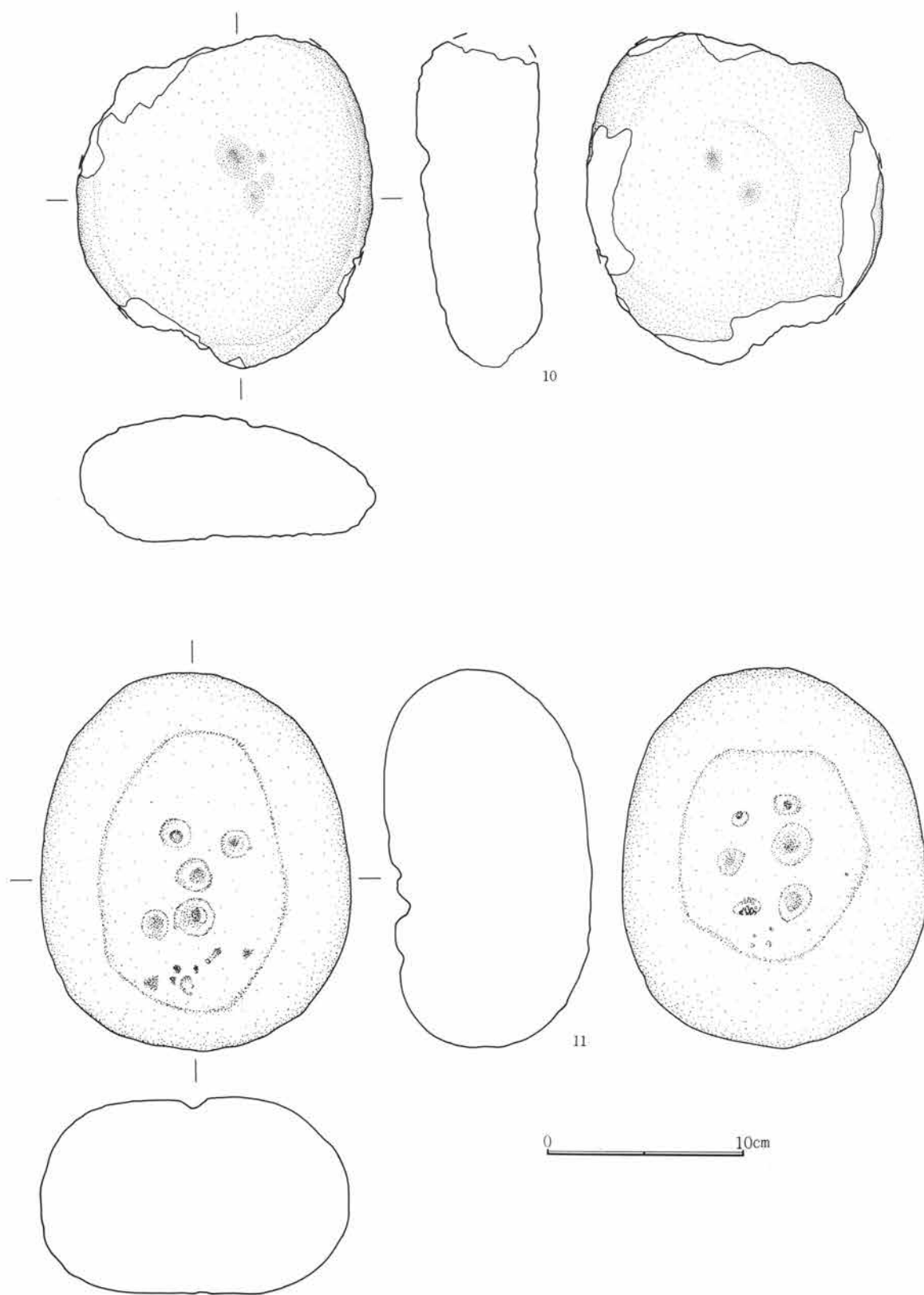
第3章 検出された遺構と遺物



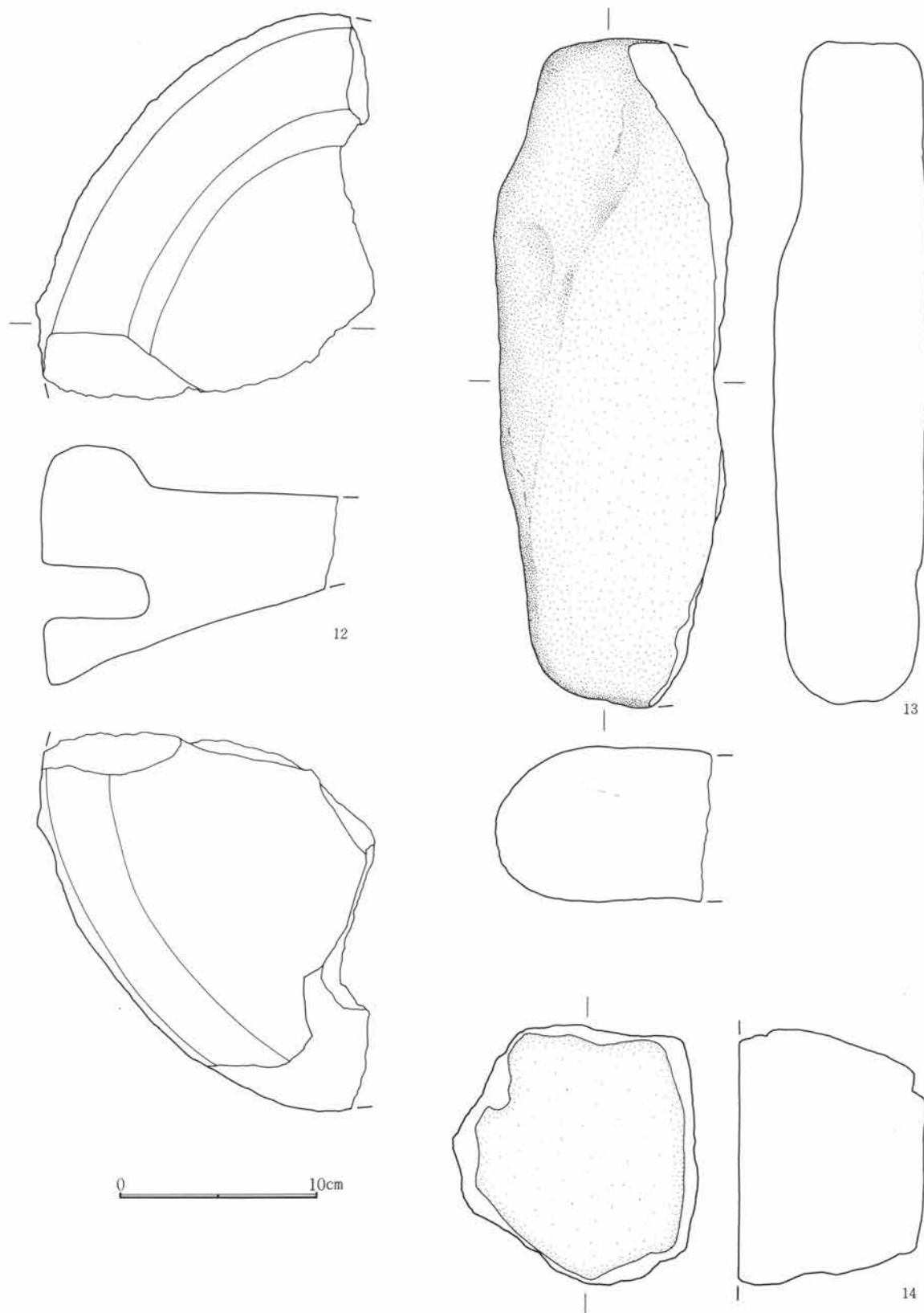
第452図 1号溝跡西部敷石エレベーション図



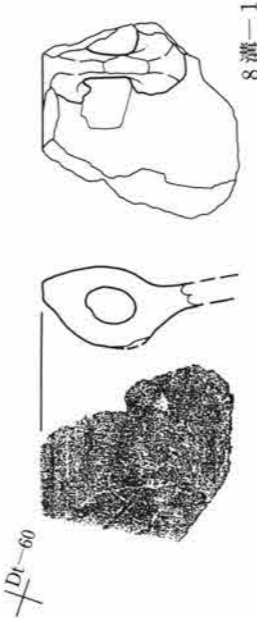
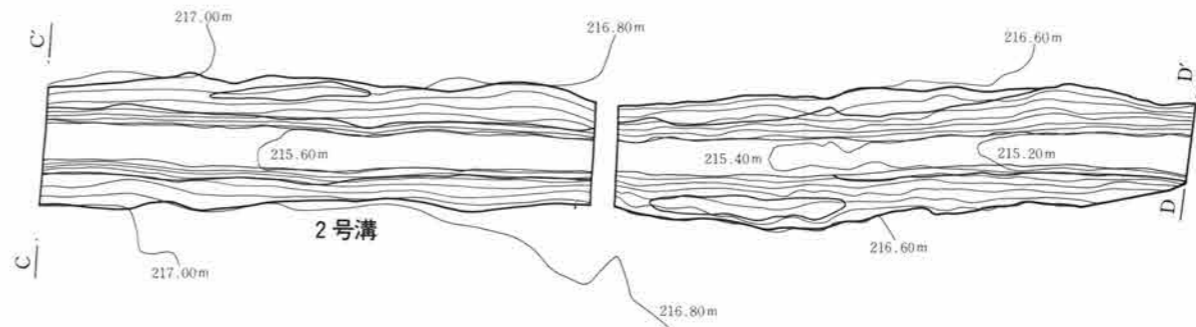
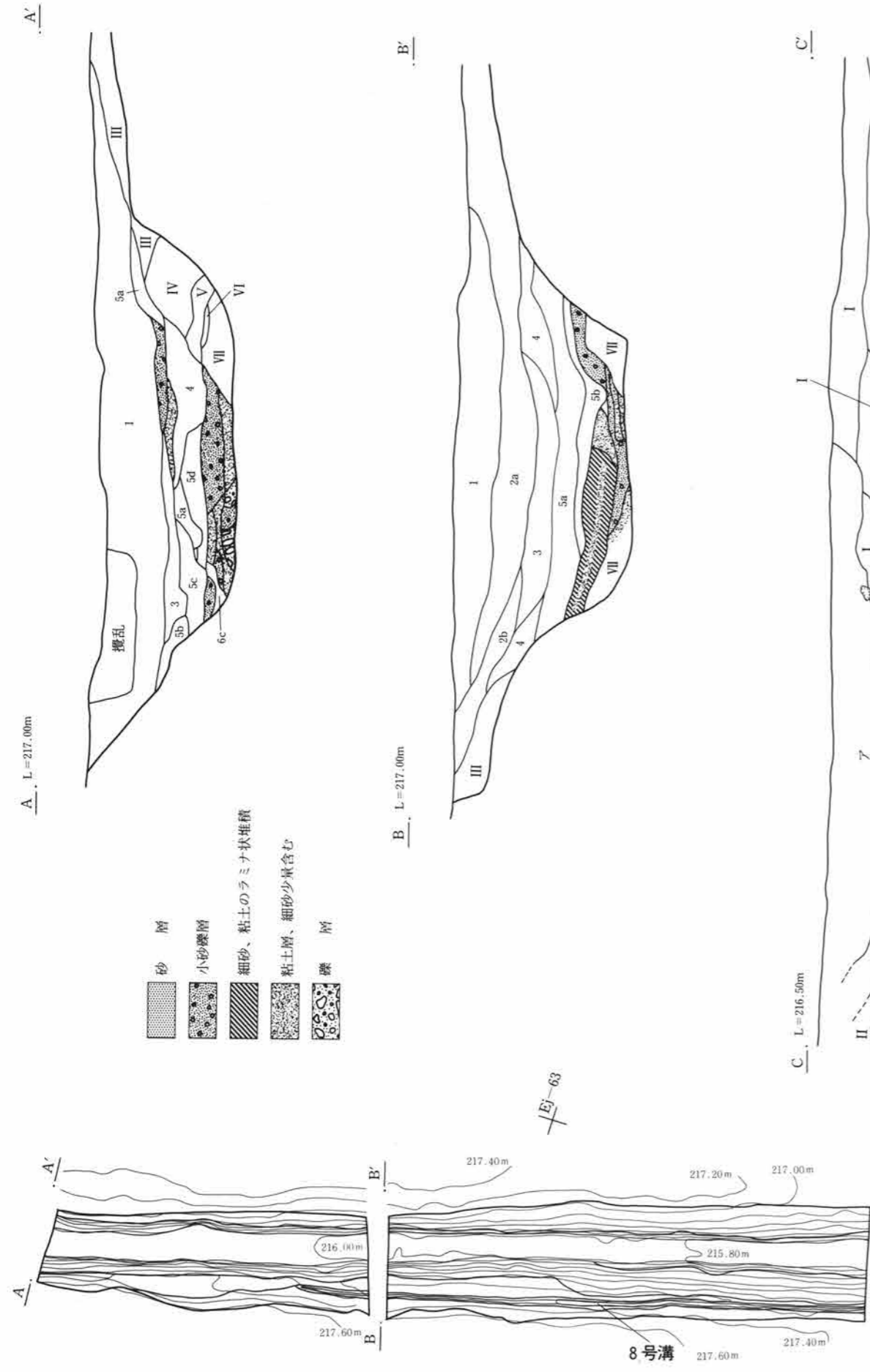
第453図 1号溝跡出土遺物(1)



第454図 1号溝跡出土遺物(2)



第455図 1号溝跡出土遺物(3)



0 1:50 2m

0 10cm

0 1:400 20m

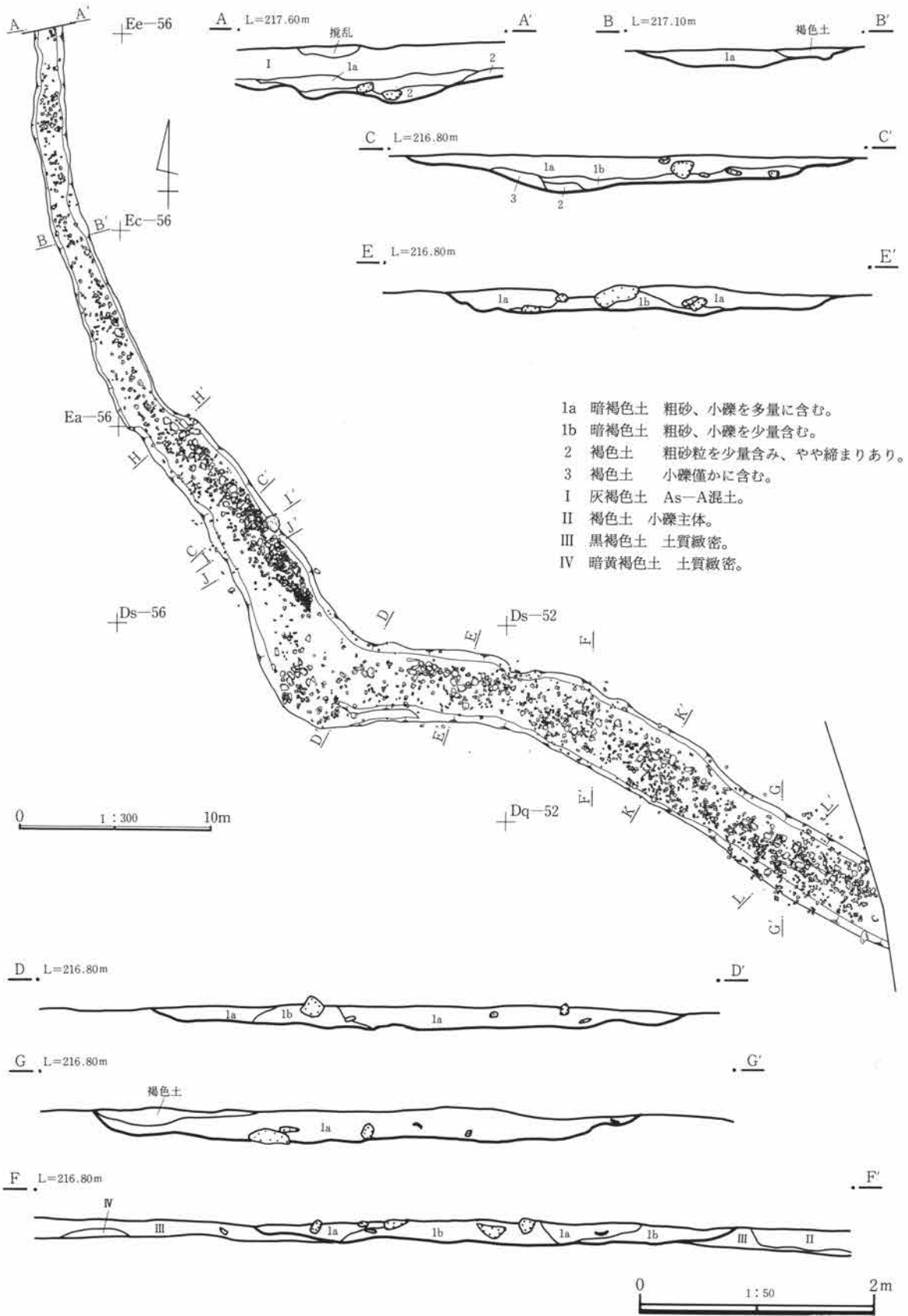
第456図 2・8号溝跡及び出土遺物





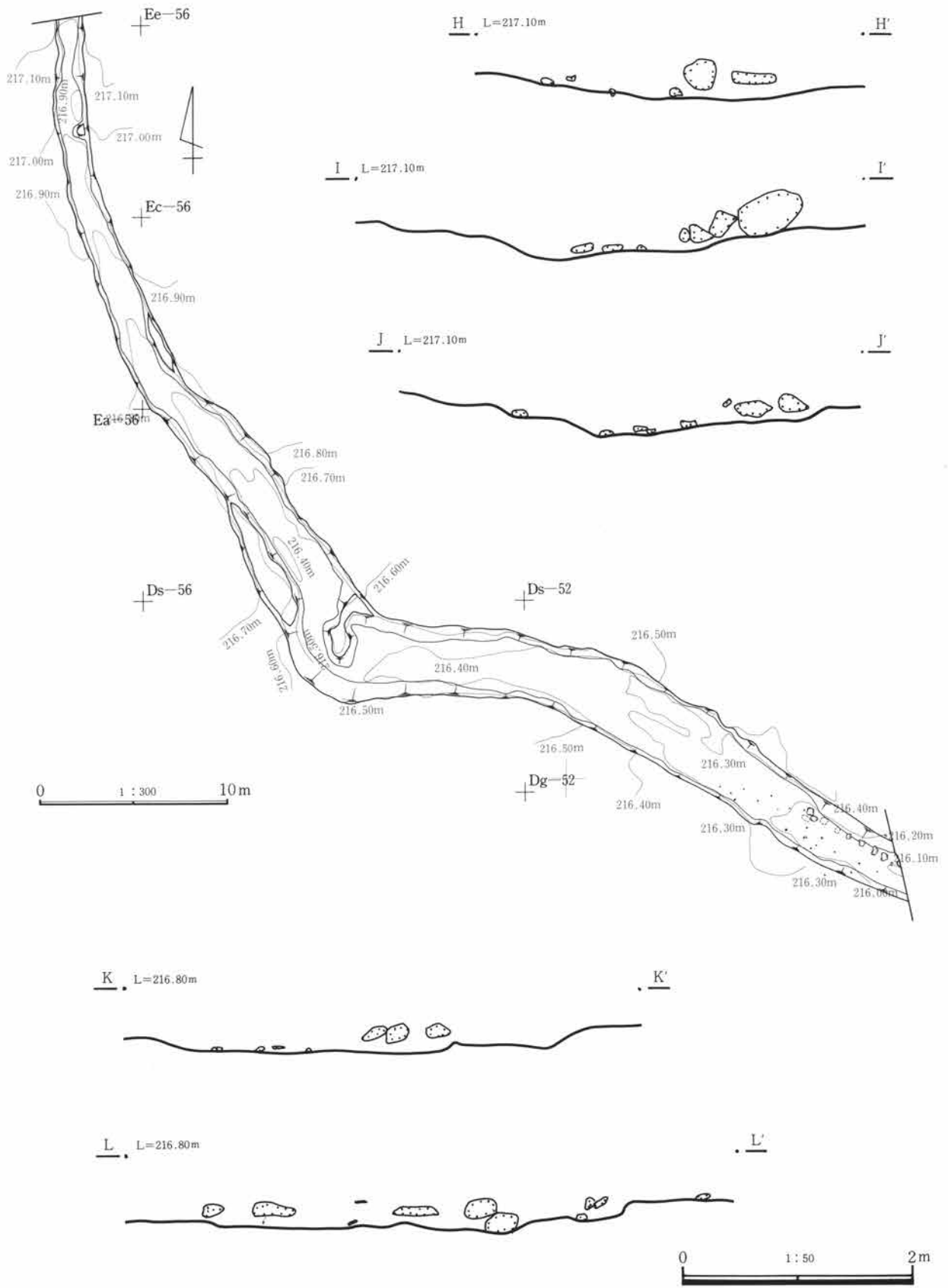
第457図 調査区内溝跡位置図

第3章 検出された遺構と遺物



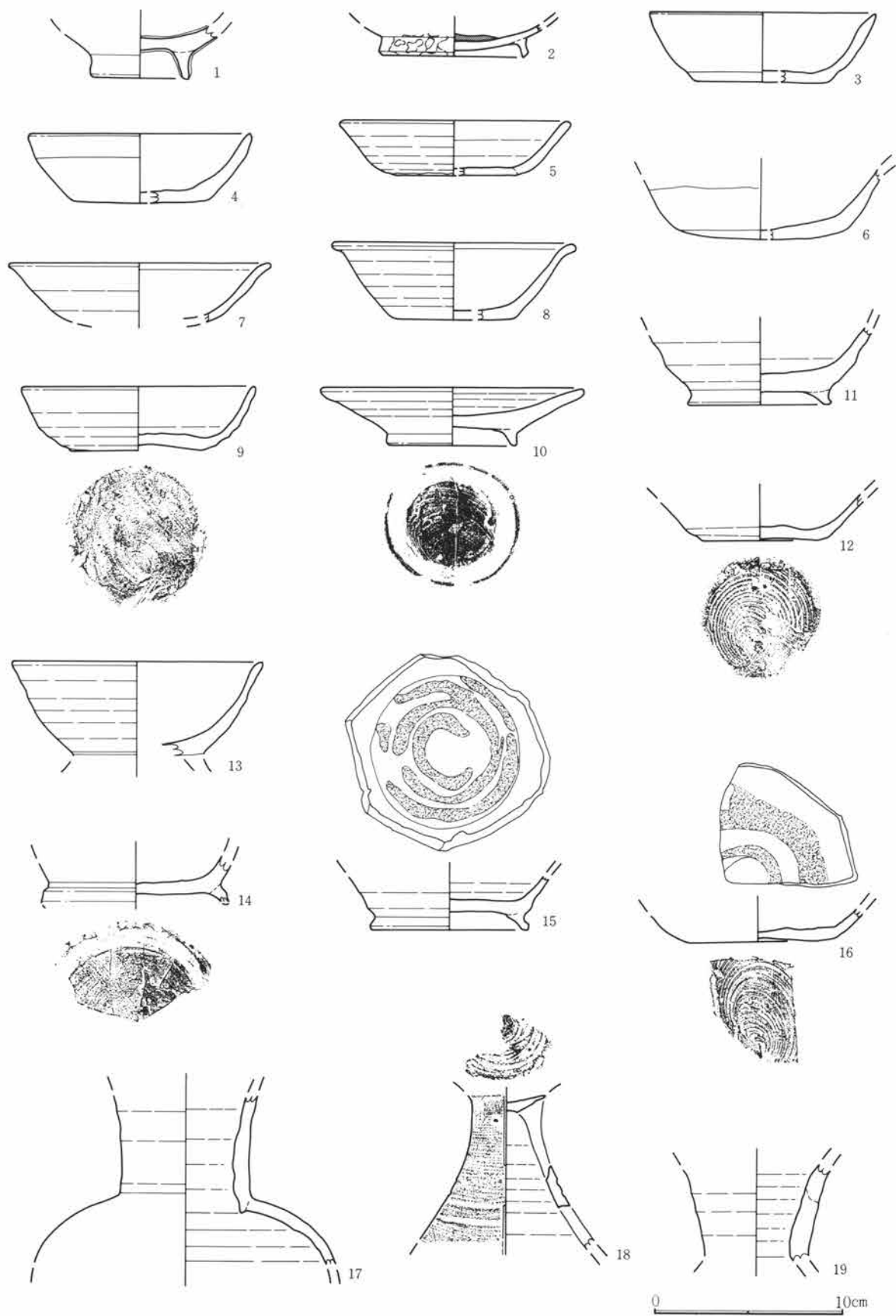
第458図 3号溝跡



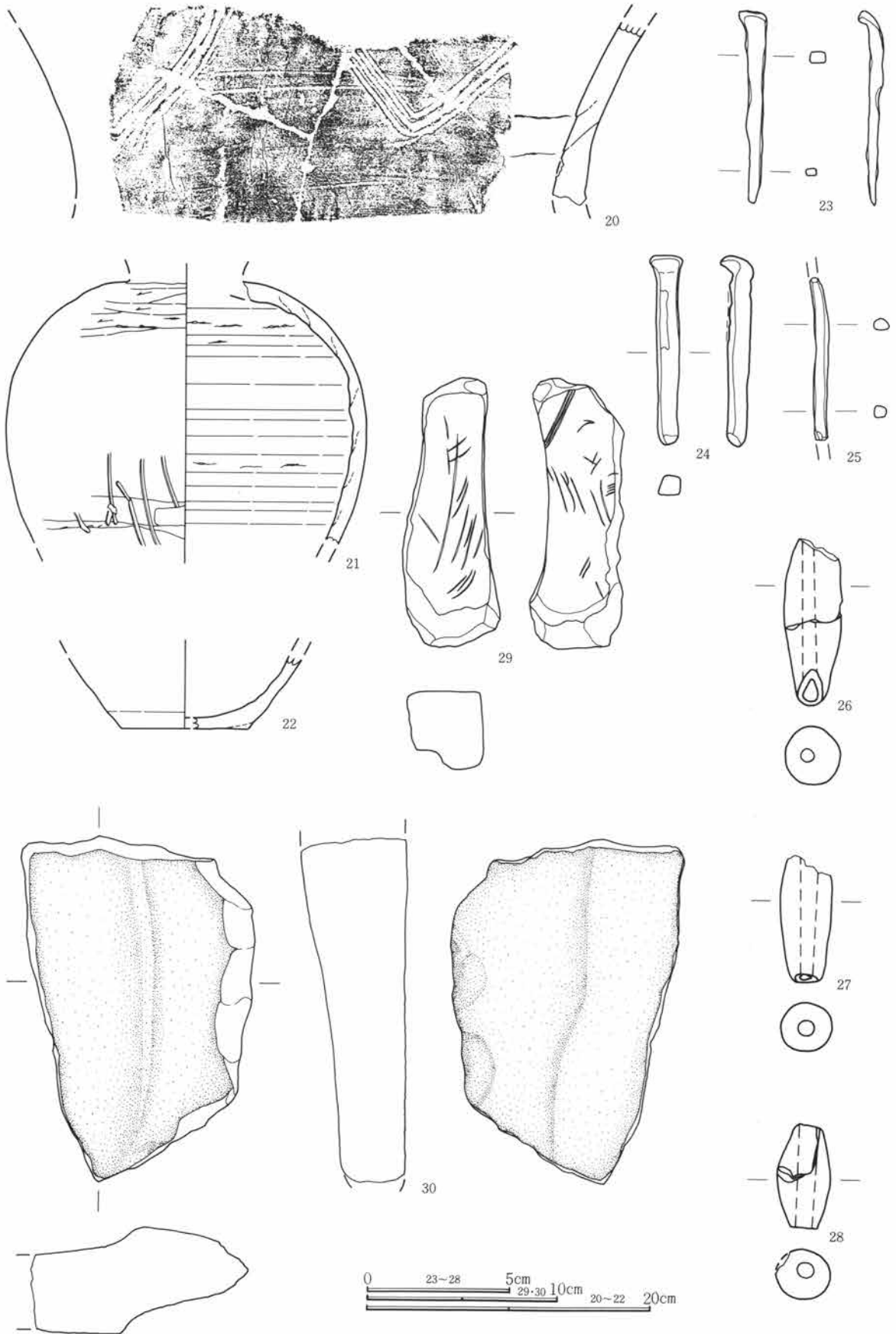


第459図 3号溝跡

第3章 検出された遺構と遺物

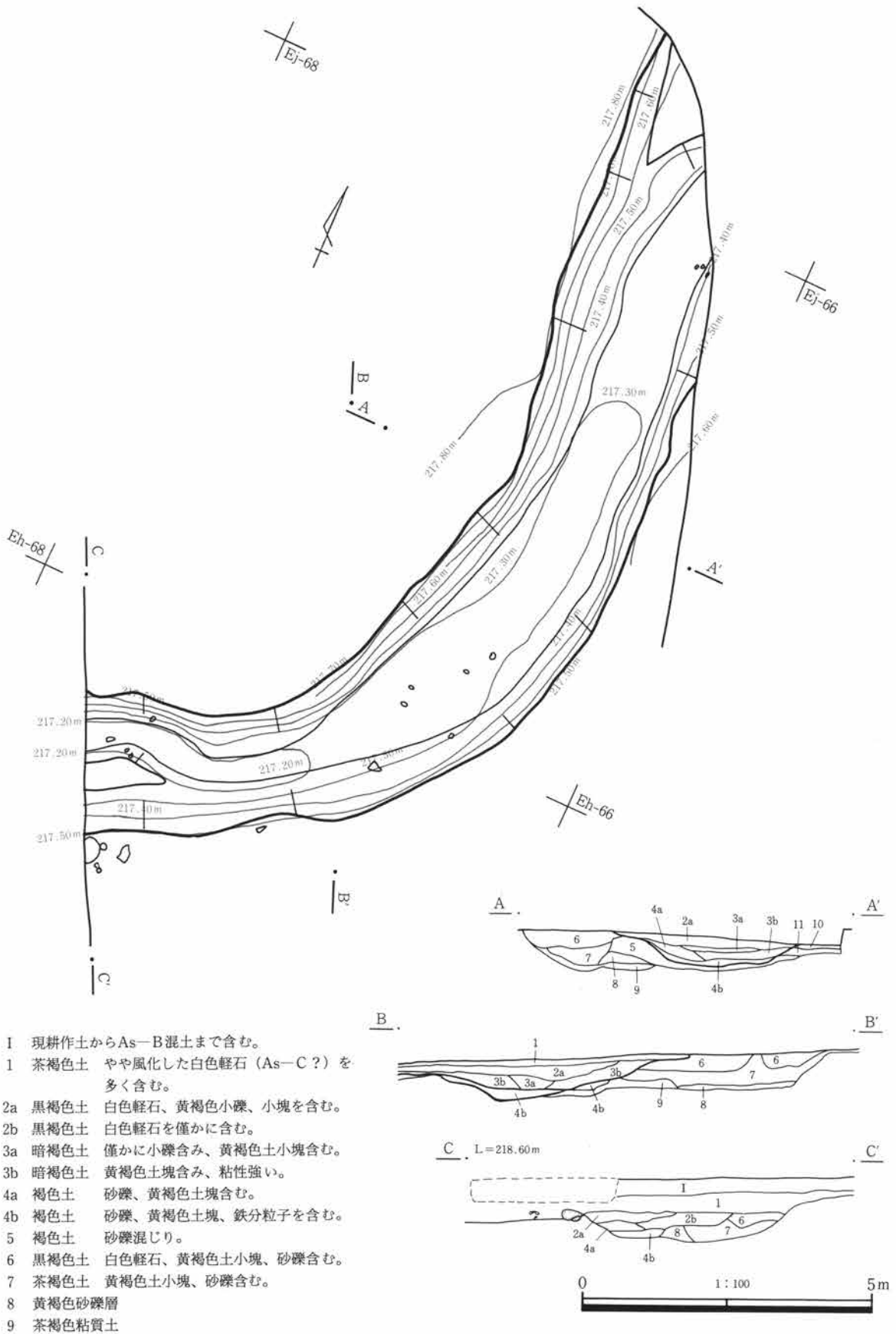


第460図 3号溝跡出土遺物(1)



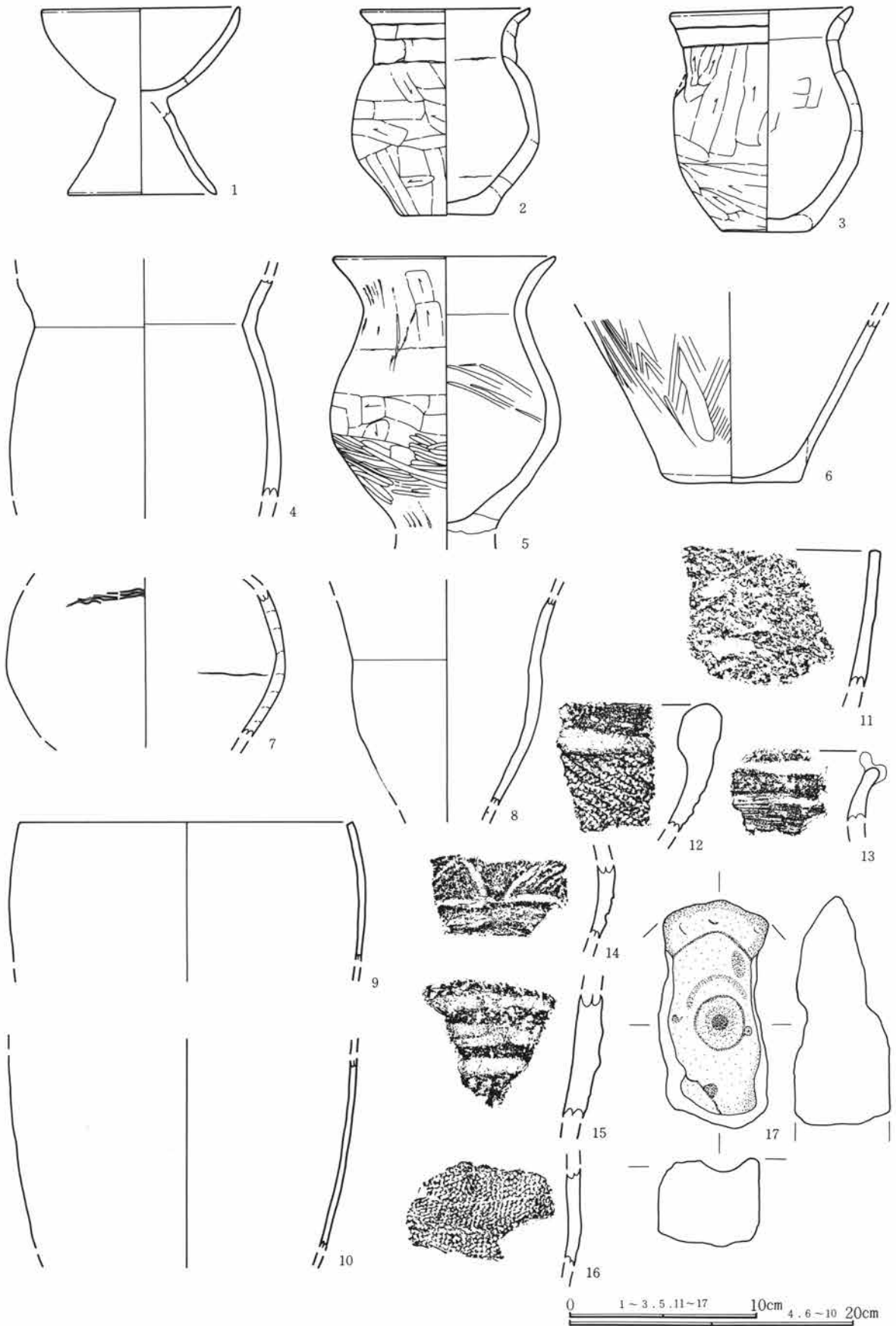
第461図 3号溝跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



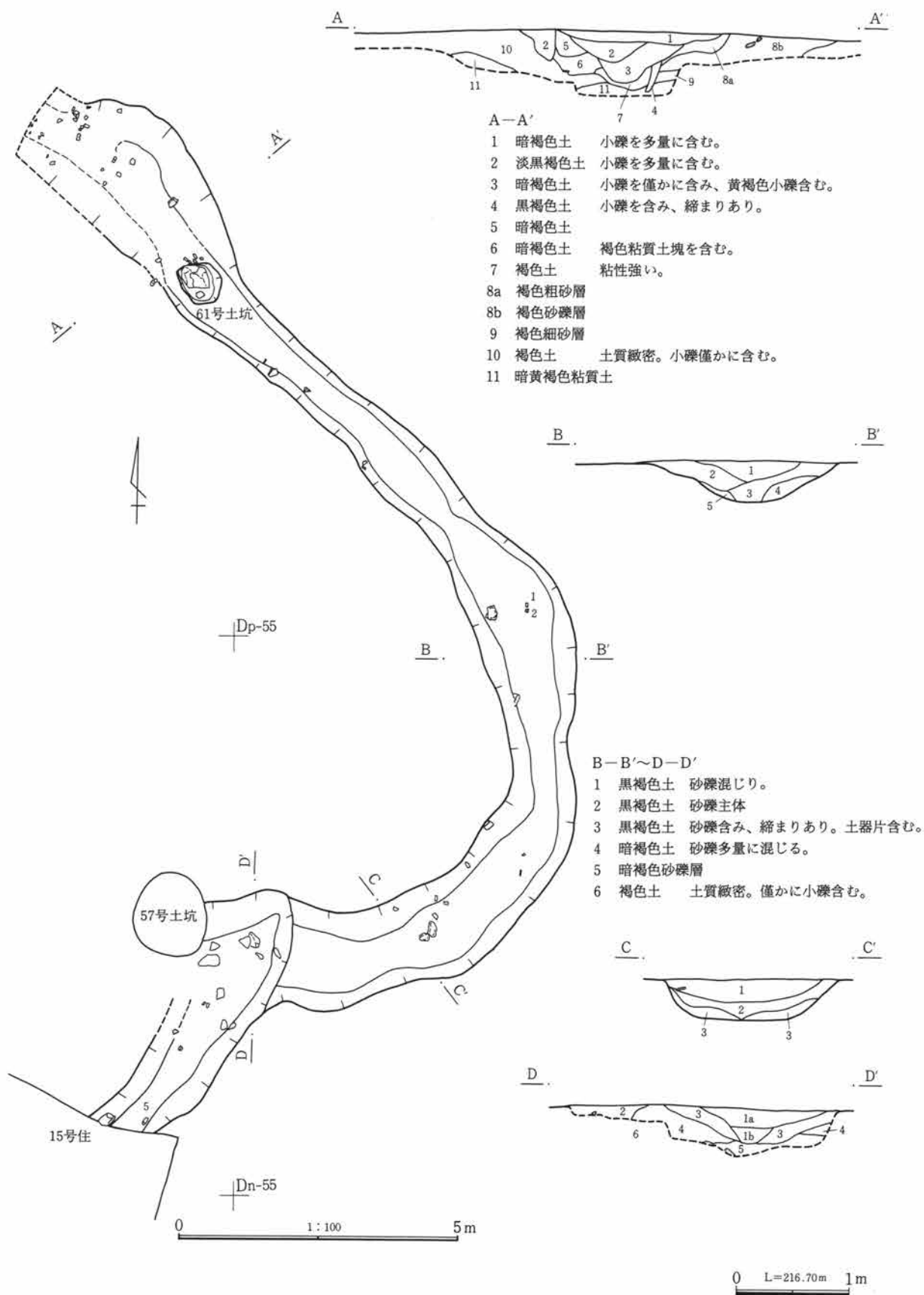
第462図 4号溝跡

第5節 溝 跡

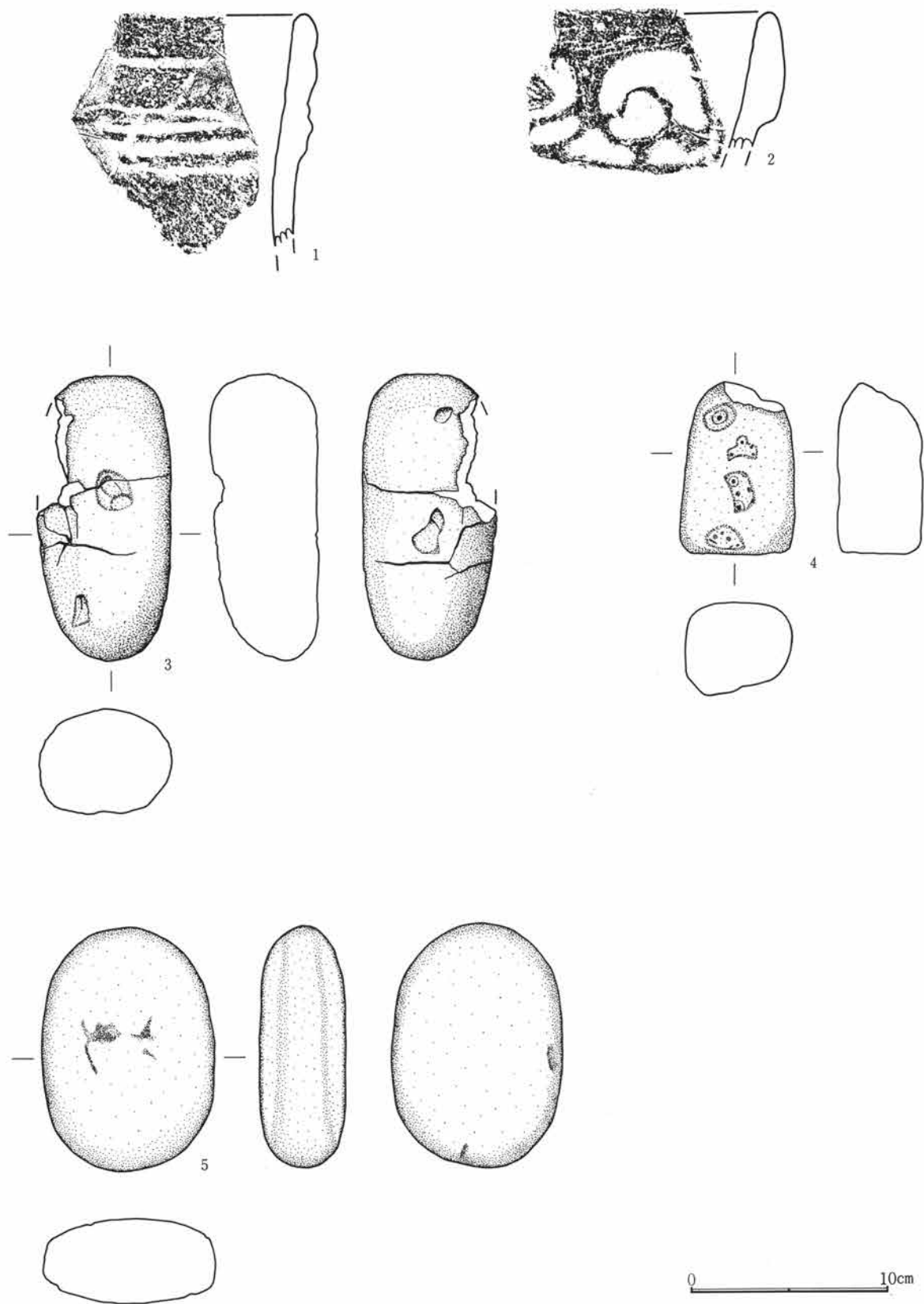


0 1~3 . 5 . 11~17 10cm 4 . 6~10 20cm

第463图 4号沟迹出土遗物

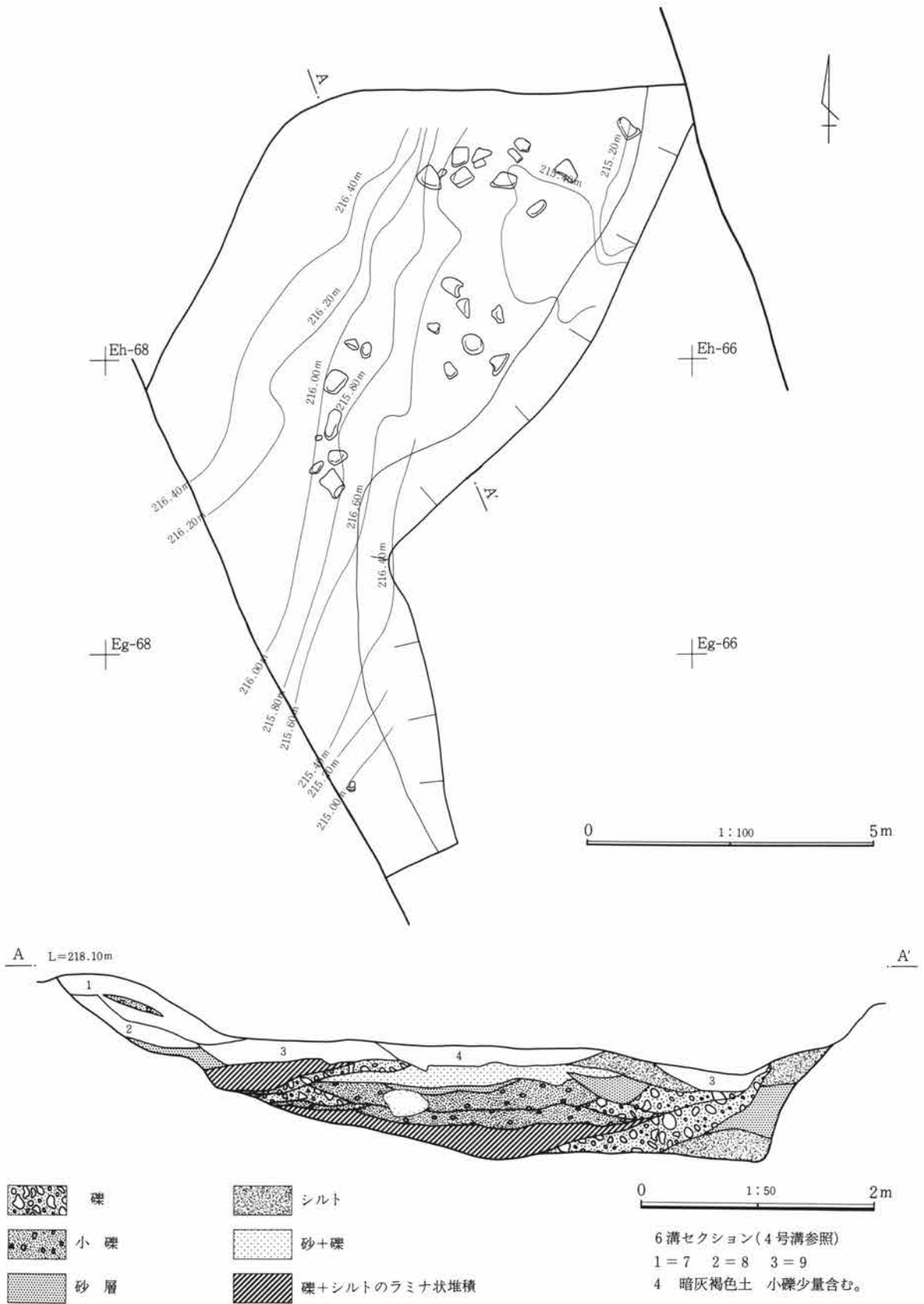


第464図 5号溝跡



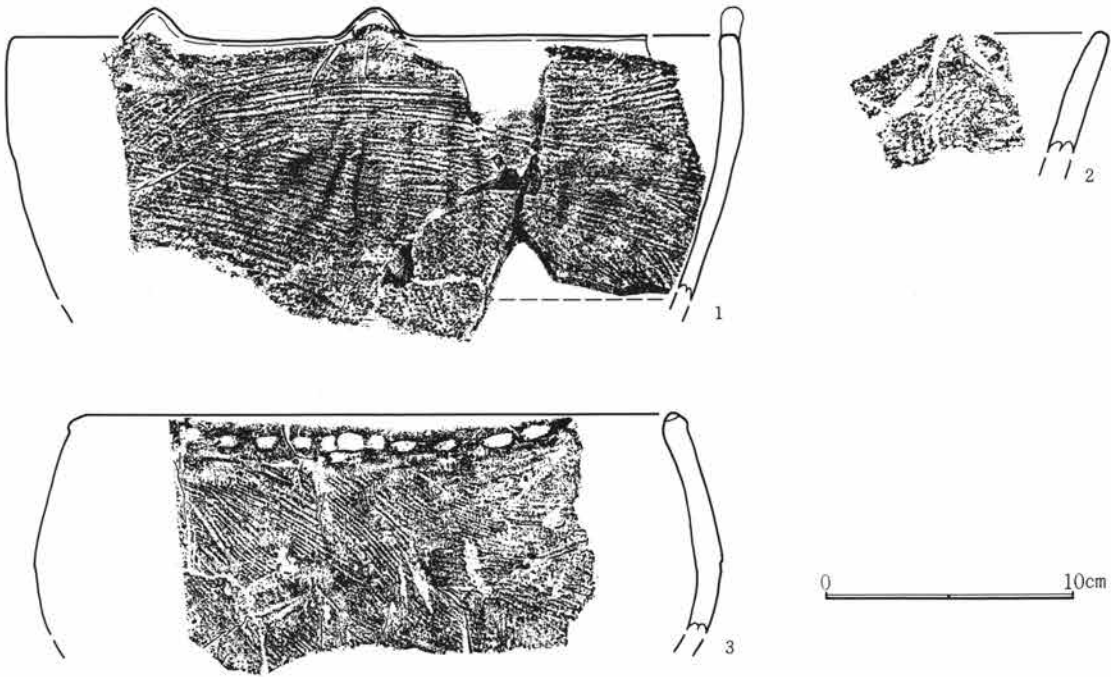
第465図 5号溝跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物



第466図 6号溝跡





第467図 6号溝跡出土遺物

## 2. E区溝跡

### 1号溝 (PL, 104)

E区北東隅の微高地最頂部に位置する。規模は確認全長25m、上幅0.65m、下幅0.35m、深さ0.35mを測る。

### 2号溝 (PL, 104・117)

E区北側中央部を南北方向に走る。規模は確認全長30m、上幅0.47m、下幅0.18m、深さ0.23mを測る。

### 3号溝 (PL, 104)

1号溝中央部西側で接する。規模は確認全長2.2m、上幅0.4m、下幅0.25m、深さ0.3mを測る。

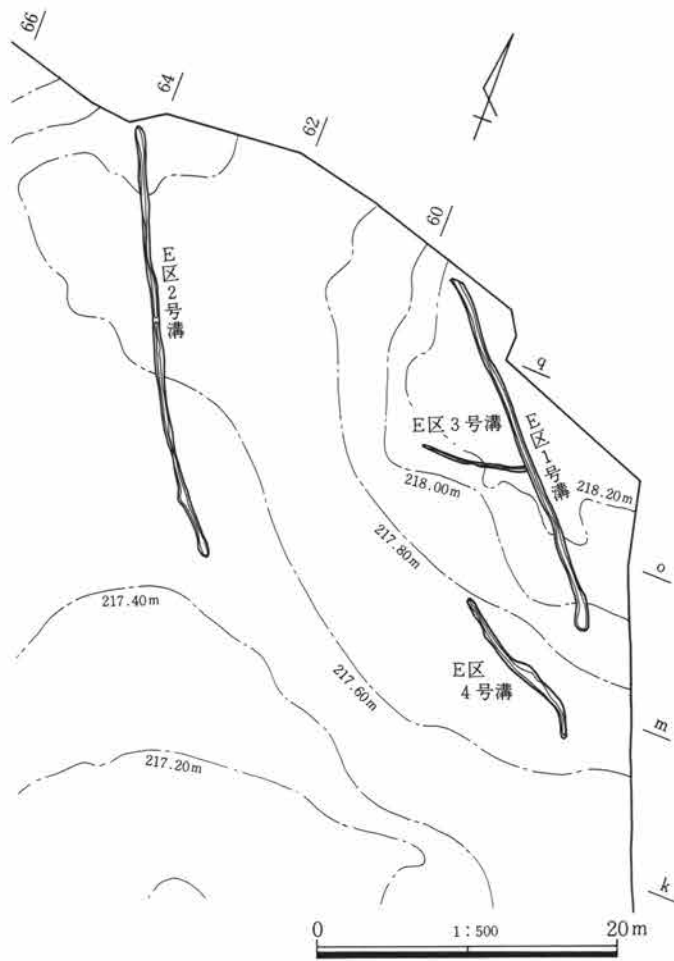
### 4号溝 (PL, 104)

1号溝に近接する。規模は確認全長6.4m、上幅0.50m、下幅0.12m、深さ0.19mを測る。

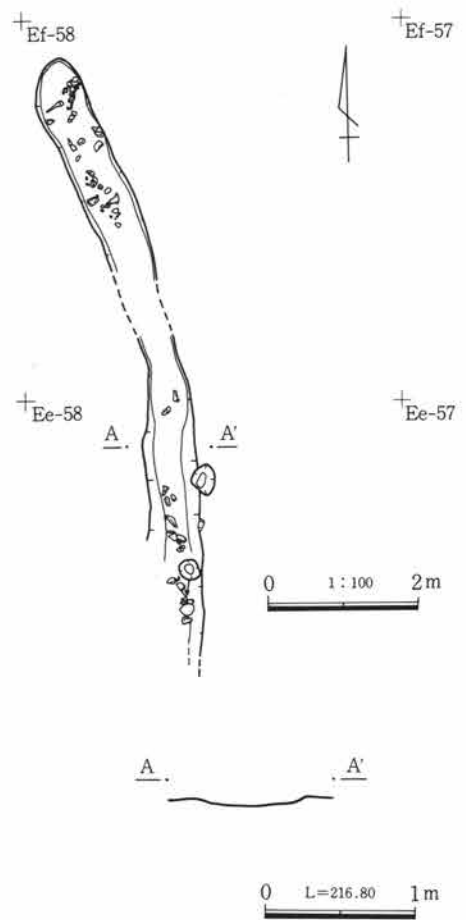
### 5号溝 (PL, 104)

調査区中央部のを東西に横断する農道下に位置し、南北方向に走る。農道下で検出された近世の石組遺構により壊されている。確認全長5m、上幅0.55m、下幅0.25m、深さ0.48mを測る。

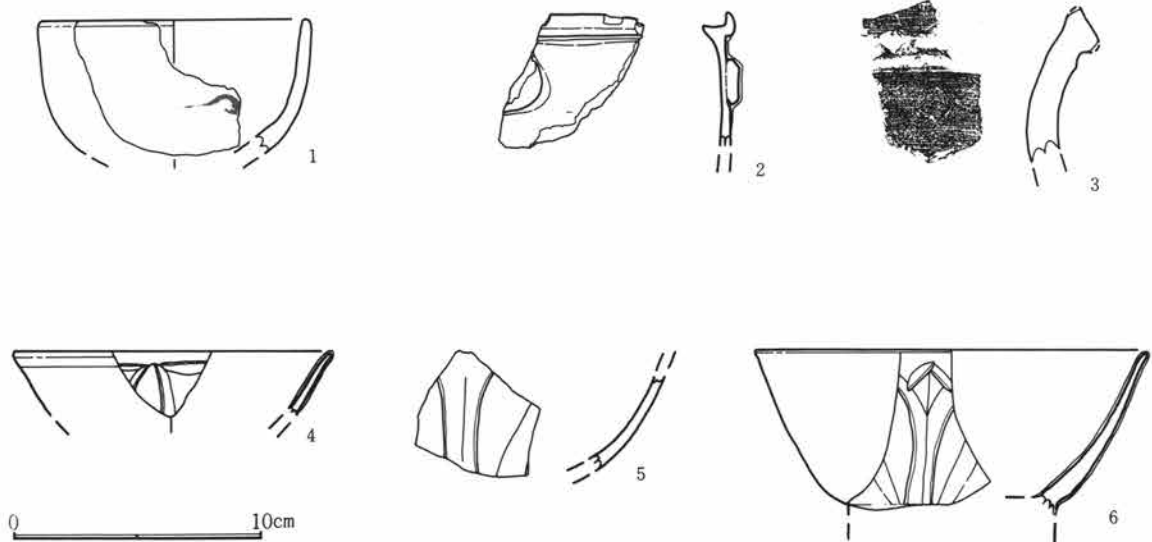
第3章 検出された遺構と遺物



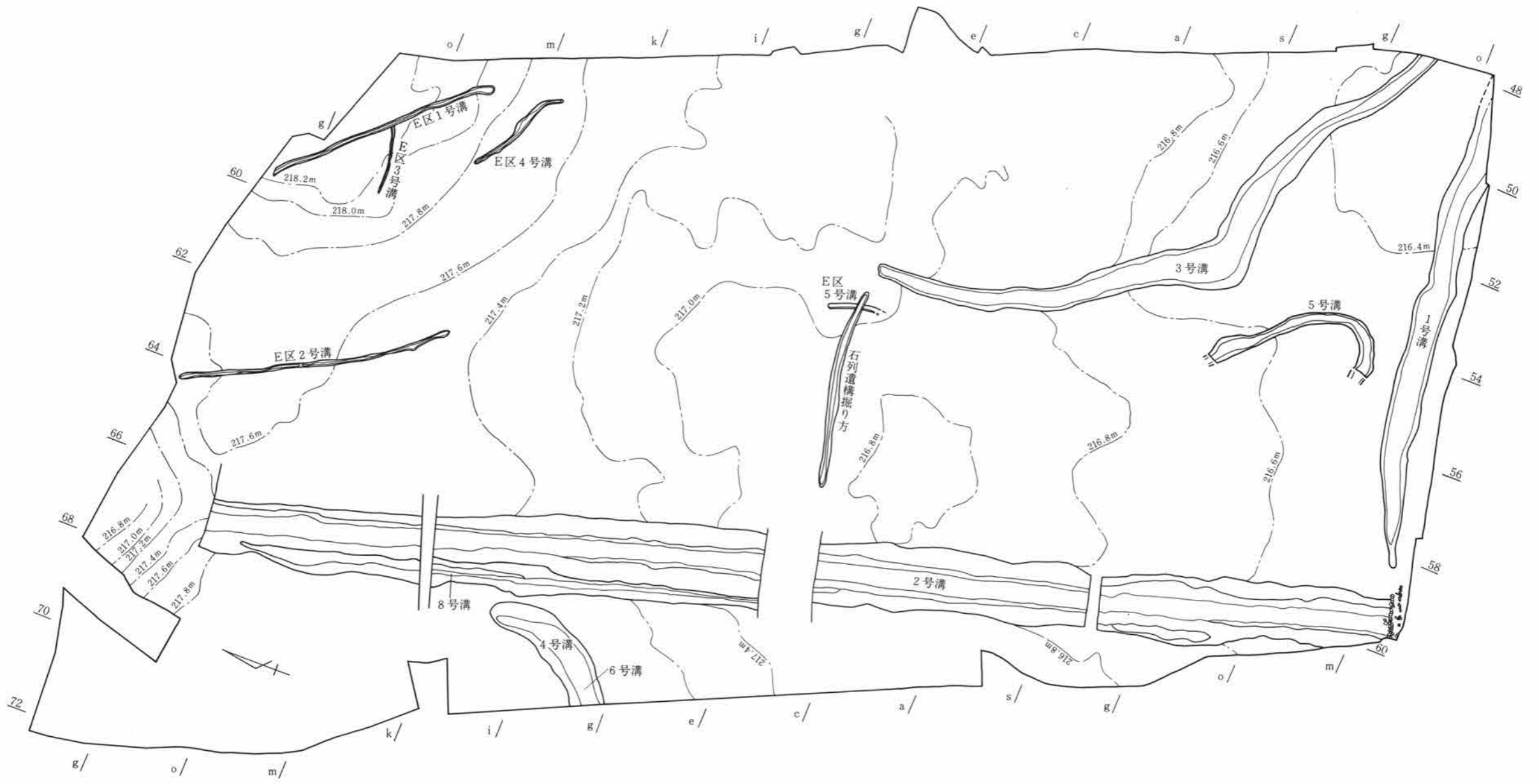
第468図 1～4号溝跡



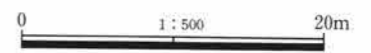
第469図 5号溝跡



第470図 2号溝跡出土遺物



第471図 溝跡配置図



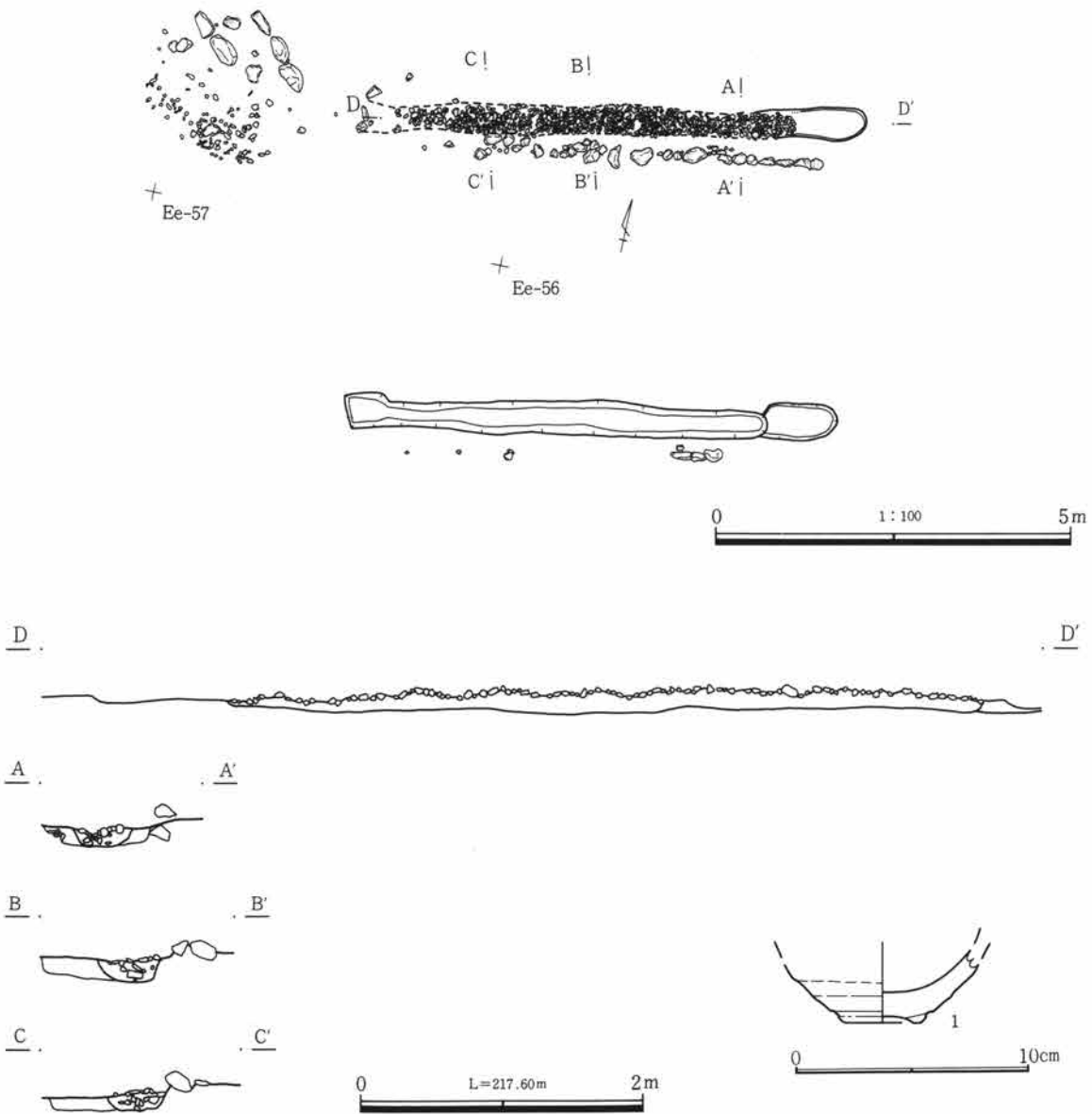


## 第6節 その他の遺構

### 1. E区軒下配石遺構 (PL.105・145)

調査区中央部を東西に走る農道下より検出され、溝状の掘り方を持つ。遺構内には小砂利が敷き詰められた状態であり、南脇に20cm前後の大礫列が検出された。

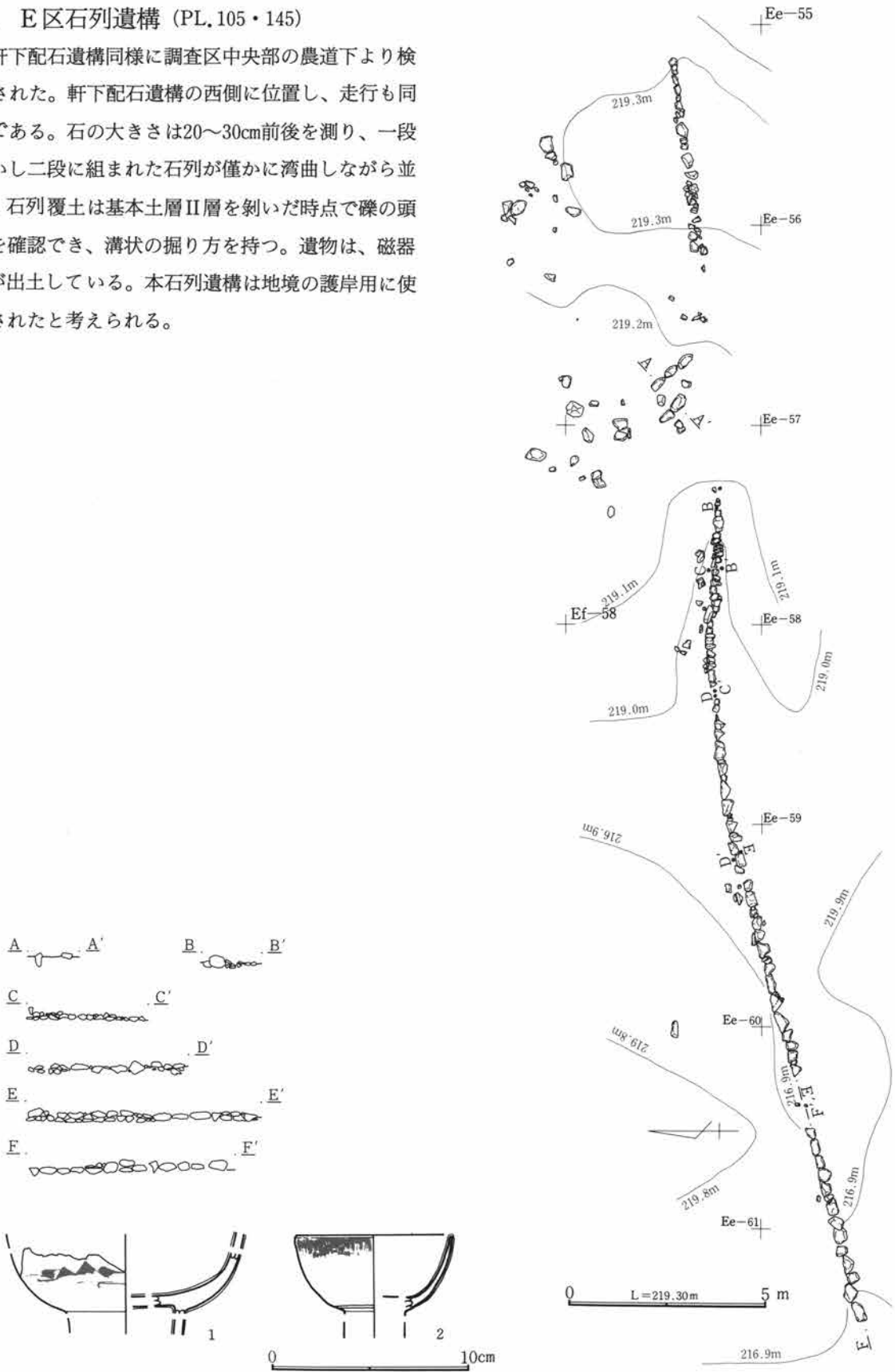
Ee-56・57グリッド内に位置し、走行は東西方向に向く。規模は、長さ7m、幅0.5m、深さ15cm前後を測る。遺物は、陶器碗が出土しているが、覆土中にはAs-Aが多量に混じる層が検出されている。遺構の時期としては近世以降と考えられる。



第472図 E区軒下配石遺構及び出土遺物

2. E区石列遺構 (PL.105・145)

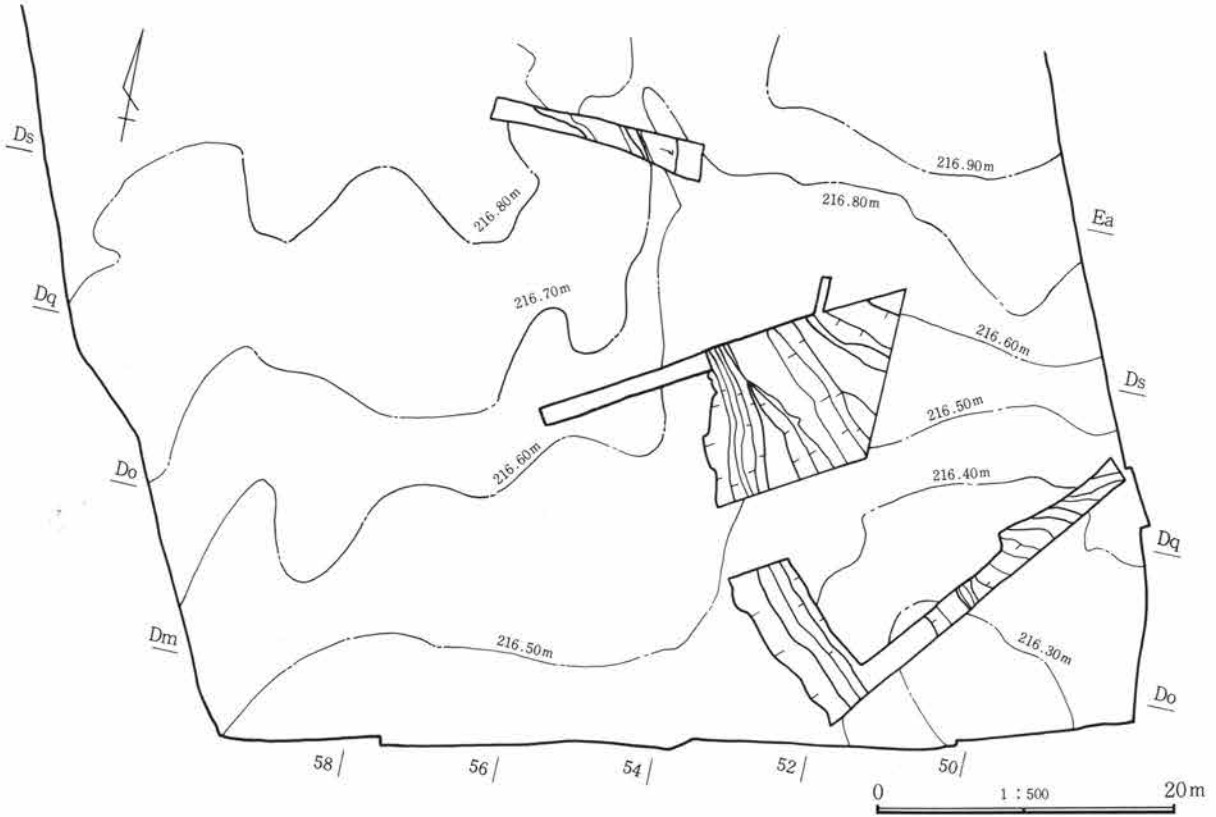
軒下配石遺構同様に調査区中央部の農道下より検出された。軒下配石遺構の西側に位置し、走行も同じである。石の大きさは20~30cm前後を測り、一段ないし二段に組まれた石列が僅かに湾曲しながら並ぶ。石列覆土は基本土層II層を剥いだ時点で礫の頭部を確認でき、溝状の掘り方を持つ。遺物は、磁器碗が出土している。本石列遺構は地境の護岸用に使用されたと考えられる。



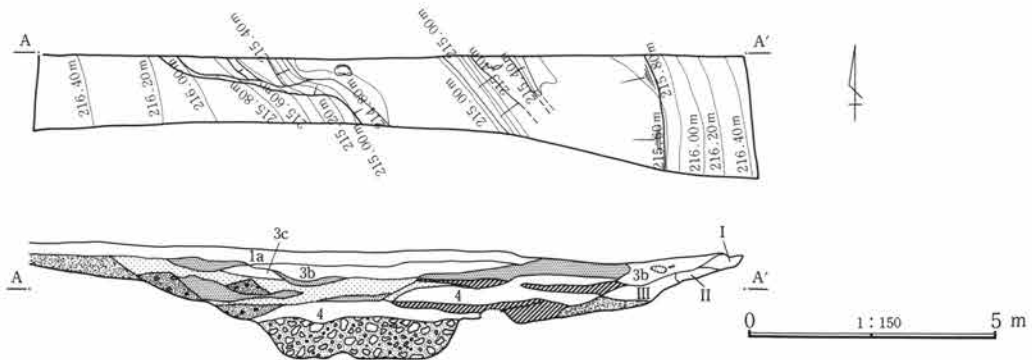
第473図 E区石列遺構及び出土遺物

3. DN区旧河道 (PL.34・35)

調査区中央部から南東方向にかけて微高地縁辺部を削り込むように、縄文時代中期の土器を含む複数の河道が検出された。河道は大きく三方向に向く。西端の河道は深さ1.5mを測り、断面台形状を呈し、3号溝直下の河道は深淺が少なく波形が見られ、これらを掘り込む最深部が2mを測る河道が見られた。



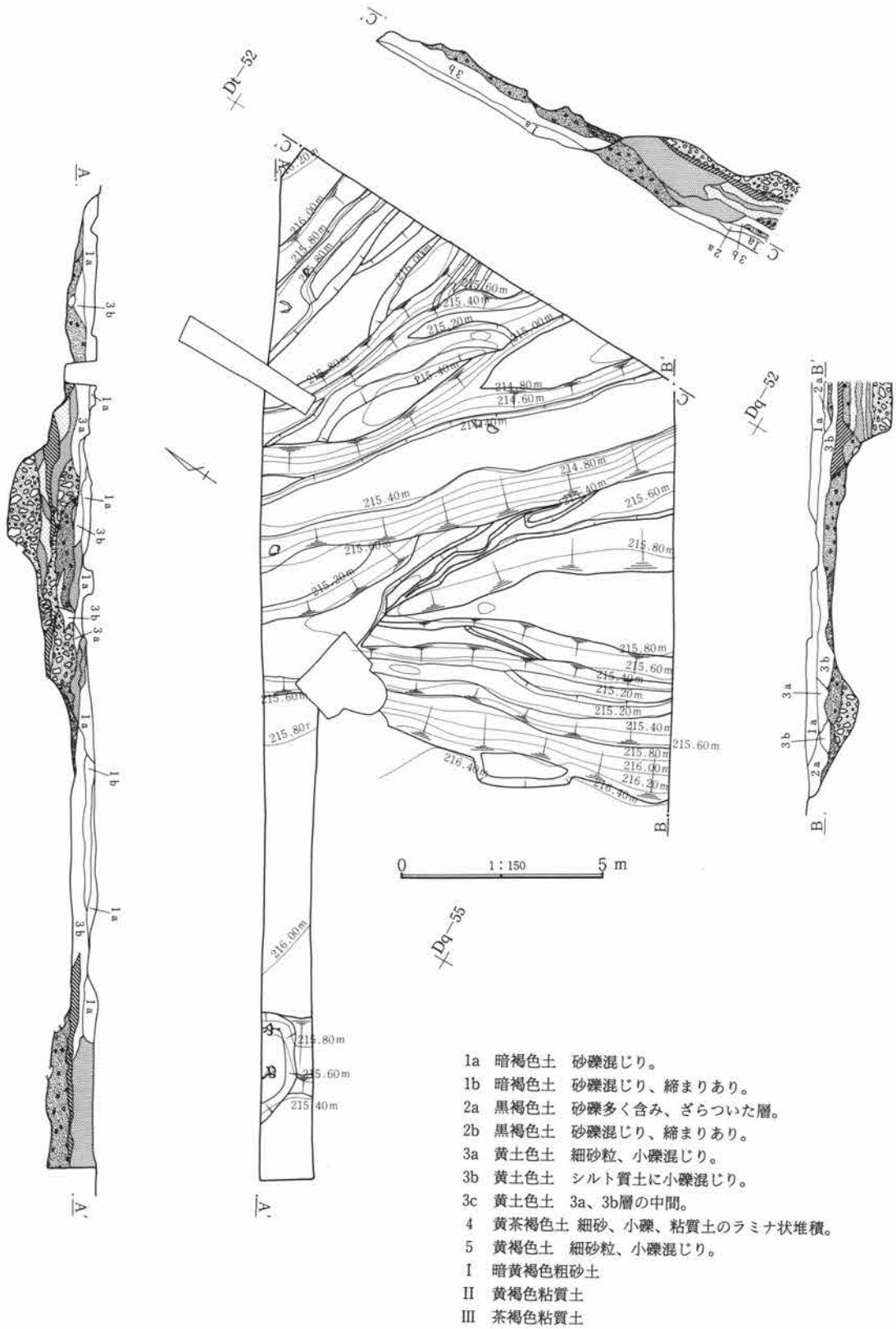
第474図 旧河道跡配置図



- |  |     |  |                |
|--|-----|--|----------------|
|  | 礫   |  | 粗砂層            |
|  | 小礫  |  | シルト混土          |
|  | 粘質土 |  | シルト及が砂層のラミナ状堆積 |

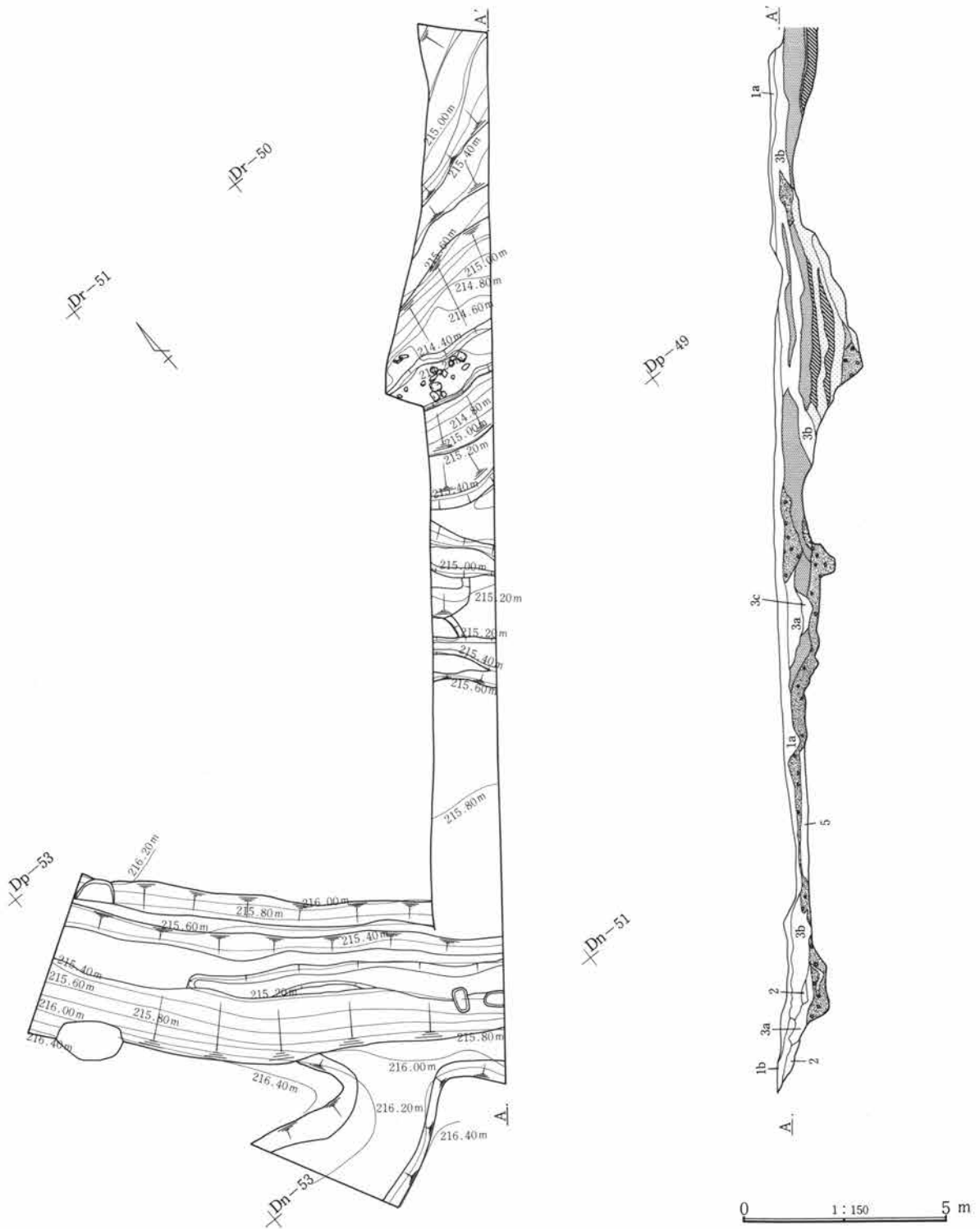
I a ~ 4 層及び I ~ III 層については No.2 参照

第475図 旧河道跡No.1



第476図 旧河道跡No.2





第477図 旧河道跡No.3

## 第7節 グリッド出土遺物

グリッド出土遺物については、土器、石器を含め遺物総数は遺物収納ケース50箱以上の量があり、実測可能な個体のみを選定し掲載した。また、住居や溝等の覆土遺物も一部グリッド出土遺物として扱った。

### 1. DN区グリッド出土遺物 (PL.120~124)

縄文土器は、調査区南端のDm・Dn-54・55グリッドとDN区中央部Dq・Dr-53・54グリッドに集中してみられる。前者のグリッドでは、縄文時代前期（黒浜期）の土器が1点出土しているが、中心は中期から後期にかけての遺物が多い。遺構は縄文時代中期の土器を伴う51号~54号土坑が検出されている。

後者のグリッドでは、微高地縁辺部と旧河道内から縄文時代中期の遺物が出土している。石器では、Dt-61グリッド内から遺物No89の独鈷石が出土している。出土状態は斜めに突き刺さるような状態ではあった。周囲には遺構及び遺物等は見られなかった。独鈷石は変玄武岩を用い、研磨の状態は良好である。形状は両端部が欠損しており全形は不明であるが、直線的に作られ中央の一对の隆起部はリング状を呈するものと考えられる。石鏃は、黒曜石製の打製石鏃がDr-55グリッドで1点のみ出土している。その他に、石錘、多孔石、磨製石斧、打製石斧等が土器と同様に南端部と微高地縁辺部に集中して出土している。打製石斧の石材は硬質泥岩が大半を占める。形状は分銅形、短冊形、撥形等様々である。

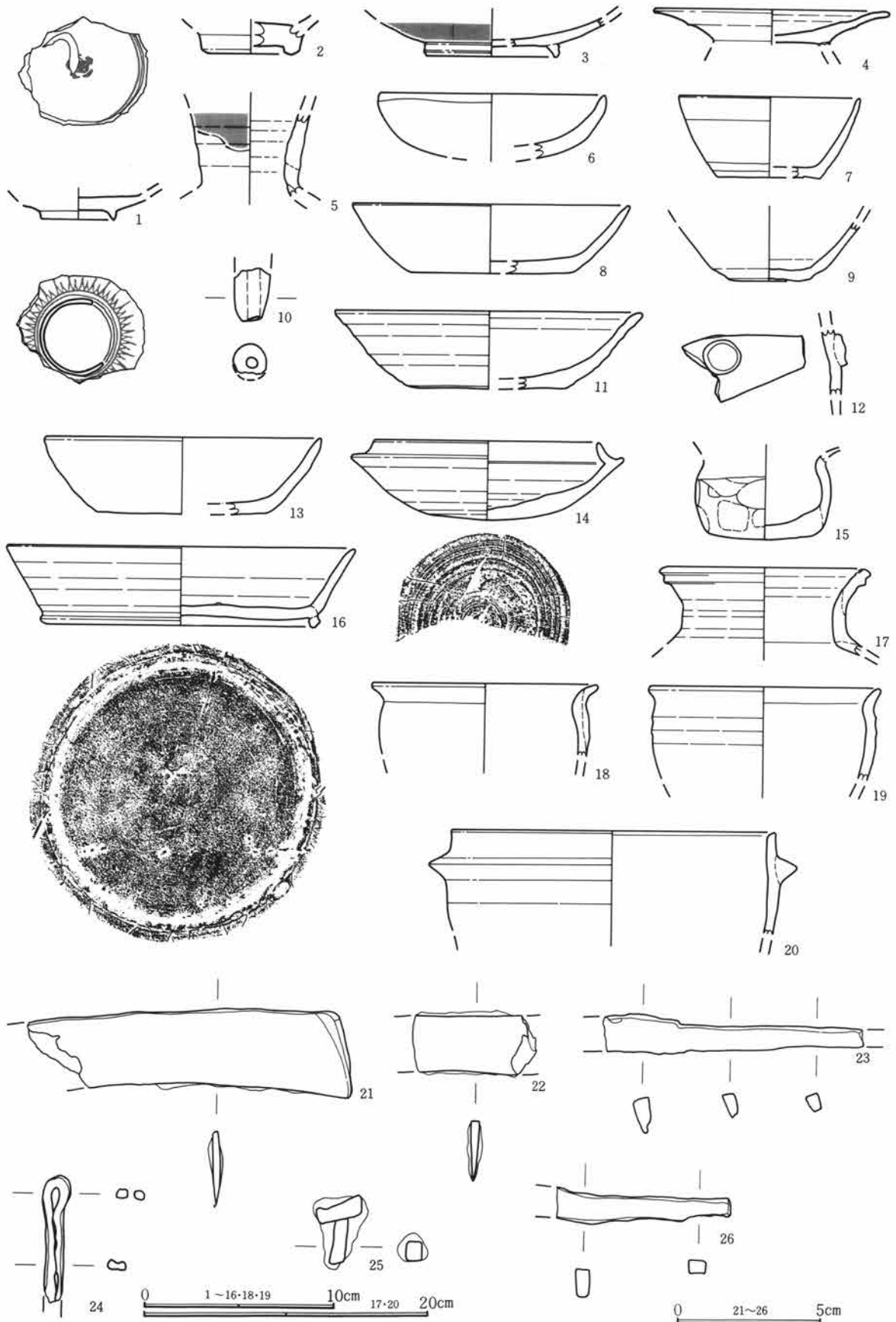
弥生時代の遺物は量的に少なく10点に満たない数であり、南端部の36号住居跡付近とDs-55グリッド内に数点見られる程度である。Ds-55グリッド内では、弥生時代後期（樽式）土器が埋設状態で検出された。埋設状態は、遺物No27が正位の状態で埋設され、その中に遺物No29の甕の胴下半部が重ねられ出土した。掘り込みは土器の周辺部だけにとどまる。周囲には竪穴住居跡や土坑等は検出されていない。

古墳時代以降の遺物は1・3号溝内及び周辺部からの出土が多く。溝の堀削埋没過程で流入したものと考えられる。

### 2. E区グリッド出土遺物 (PL.148~154)

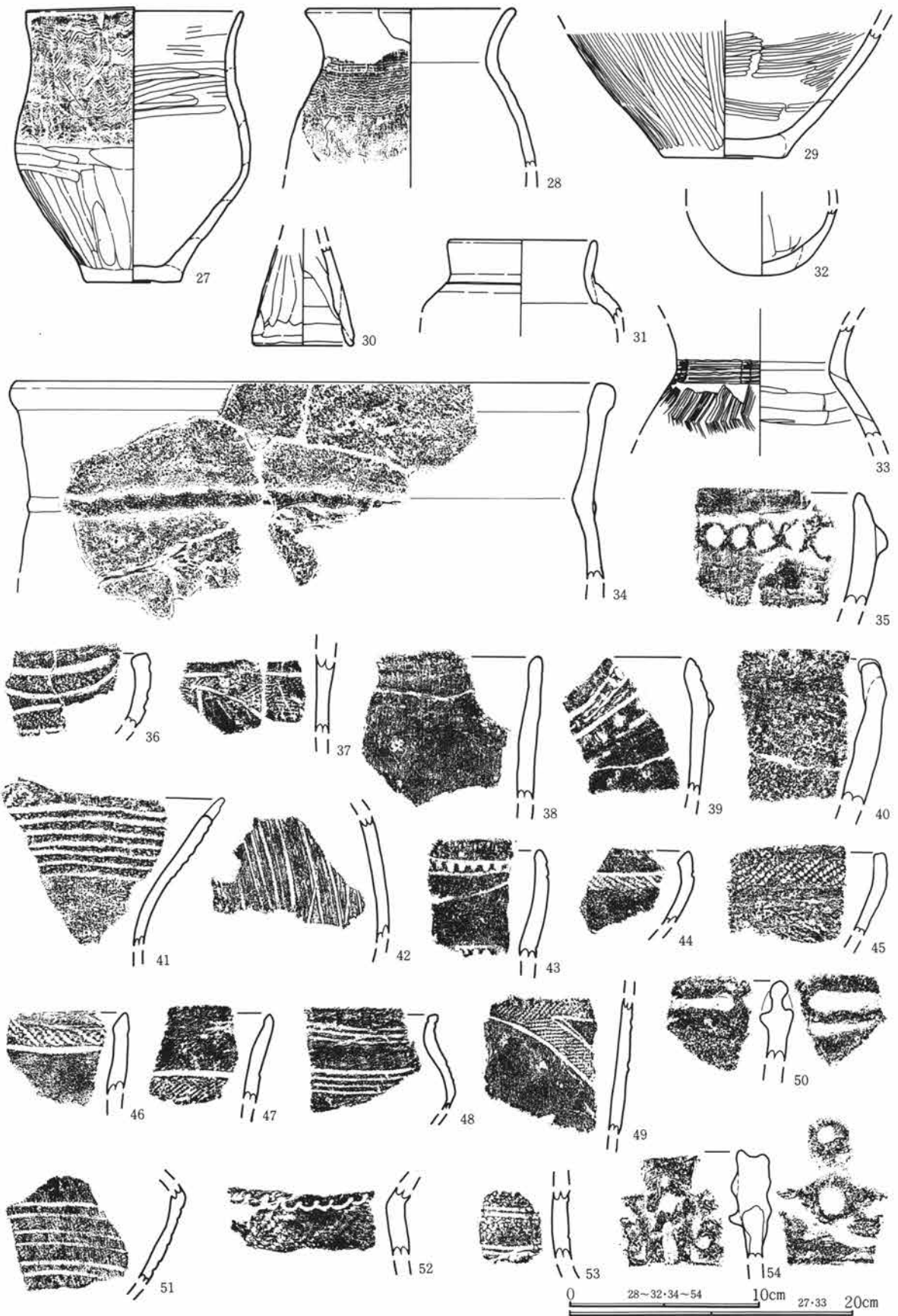
遺物の分布は当然のことながら微高地上の遺構密集部分に集中する。特に縄文土器は、縄文時代の竪穴住居群の集中する微高地中央部から北よりの地点が多い。時期としては縄文時代中期（加曽利E式）から後期（堀之内式）にかけての遺物が多い。また、E1-65グリッドの2号溝底面直下の旧河道の砂礫層中より遺物No120の中期（阿玉台式）の土器が出土している。この地点より北西のEp-70グリッド周辺部を掘削したところ、同様な砂礫層中より遺物No192の石棒が出土している。この石棒は両端が有頭式になっており、全長1.09m、最大幅0.14m、重さ30.8kgを測る。石材は硬質泥岩製である。また、調査区外となるが更に北西の中沢川の護岸工事中に遺物No193の石棒も発見された。出土層位は不明である。形状は完形であり、有頭式の頭部と下端はやや尖らせてある。全長0.93m、最大幅0.13m、重さ23.8kgを測る。石材は緑泥片岩製である。この石棒とは対照的にミニチュアのような磨製石斧（遺物No139）も出土している。出土地点は、微高地中央部Ee-55グリッド内であり、縄文住居がとぎれる地点である。石材は蛇紋岩製であり、全長4.8cm、幅2.6cm、重さ18gを測る。研磨の状態は極めて良好である。Ei-54グリッド内からは遺物No142の定角式磨製石斧が出土している。その他の石器では、凹石、丸石、石皿、打製・磨製石斧、石鏃（黒曜石）等が微高地を中心に出土している。Eg-57グリッドでは雲母石英片岩製の板碑が出土している。また、Ea-53グリッドからは、表面に花卉の浮き彫り、裏面が反り返る用途不明の加工石が出土している。出土層位は不明である。Eo-70グリッドでは羽口の先端部がAs-Aを含んだ小ピット内から出土している。

第7節 グリッド出土遺物



第478図 DN区グリッド出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



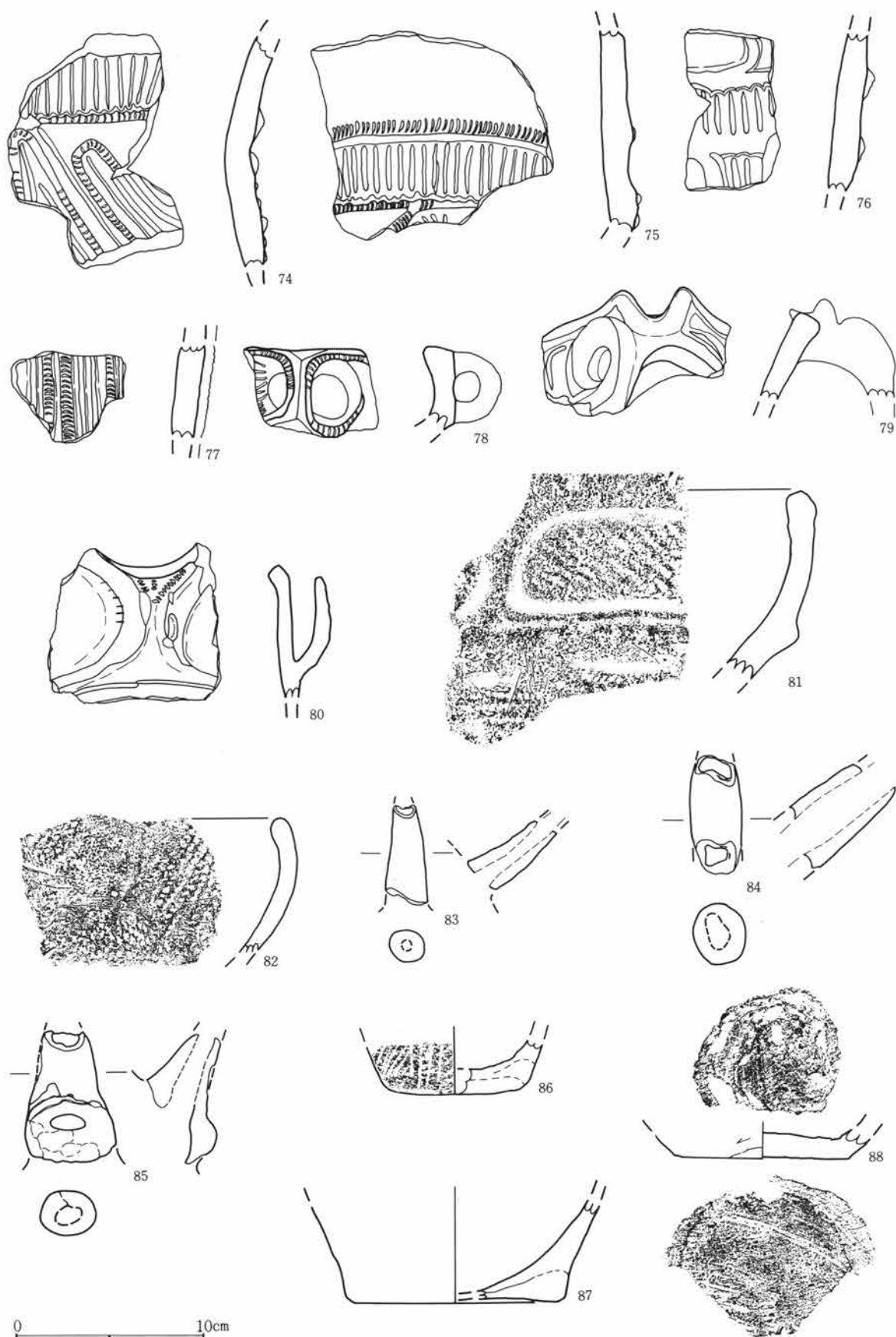
第479図 DN区グリッド出土遺物(2)

第7節 グリッド出土遺物



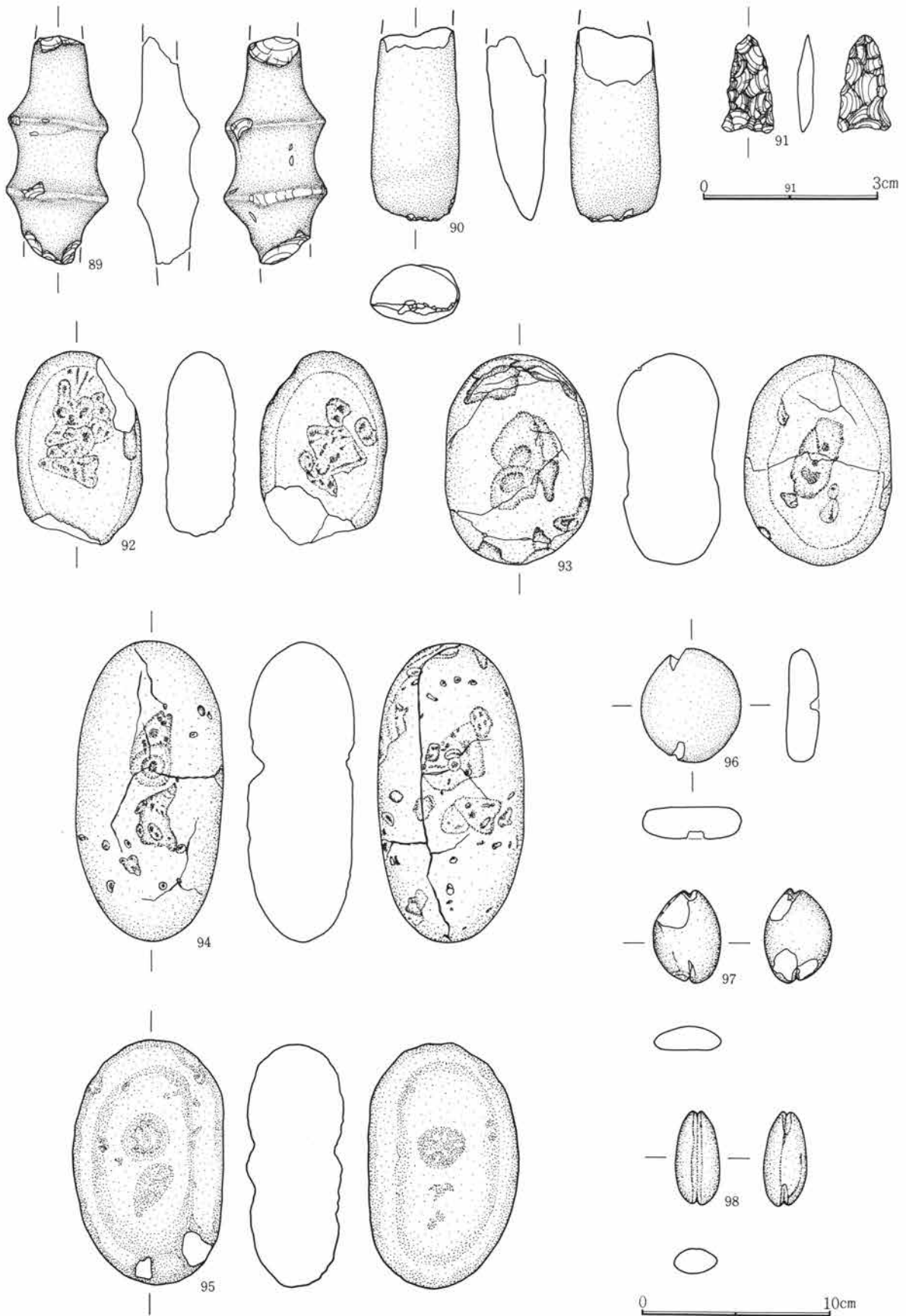
第480図 DN区グリッド出土遺物(3)

第3章 検出された遺構と遺物



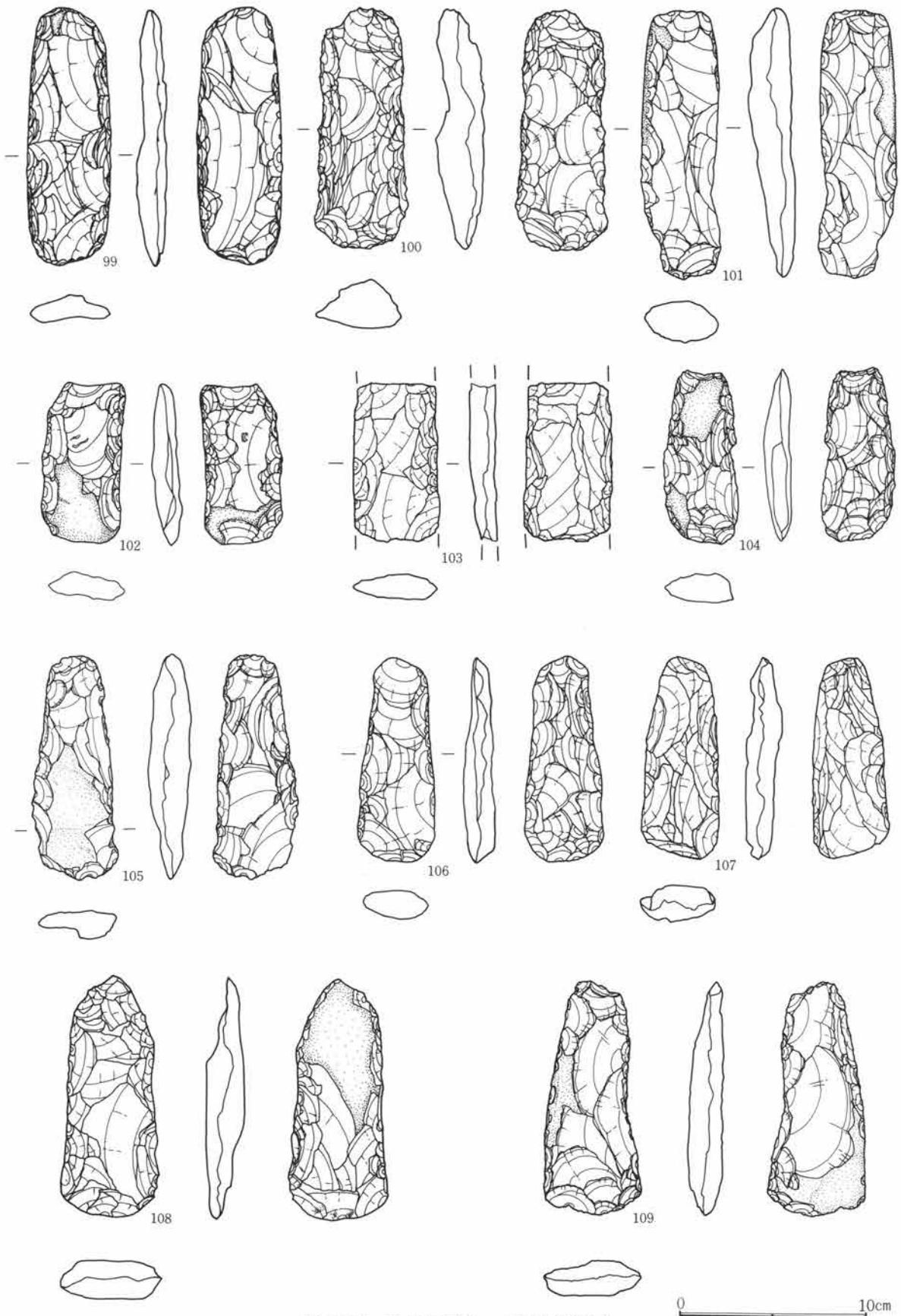
第481図 DN区グリッド出土遺物(4)

第7節 グリッド出土遺物



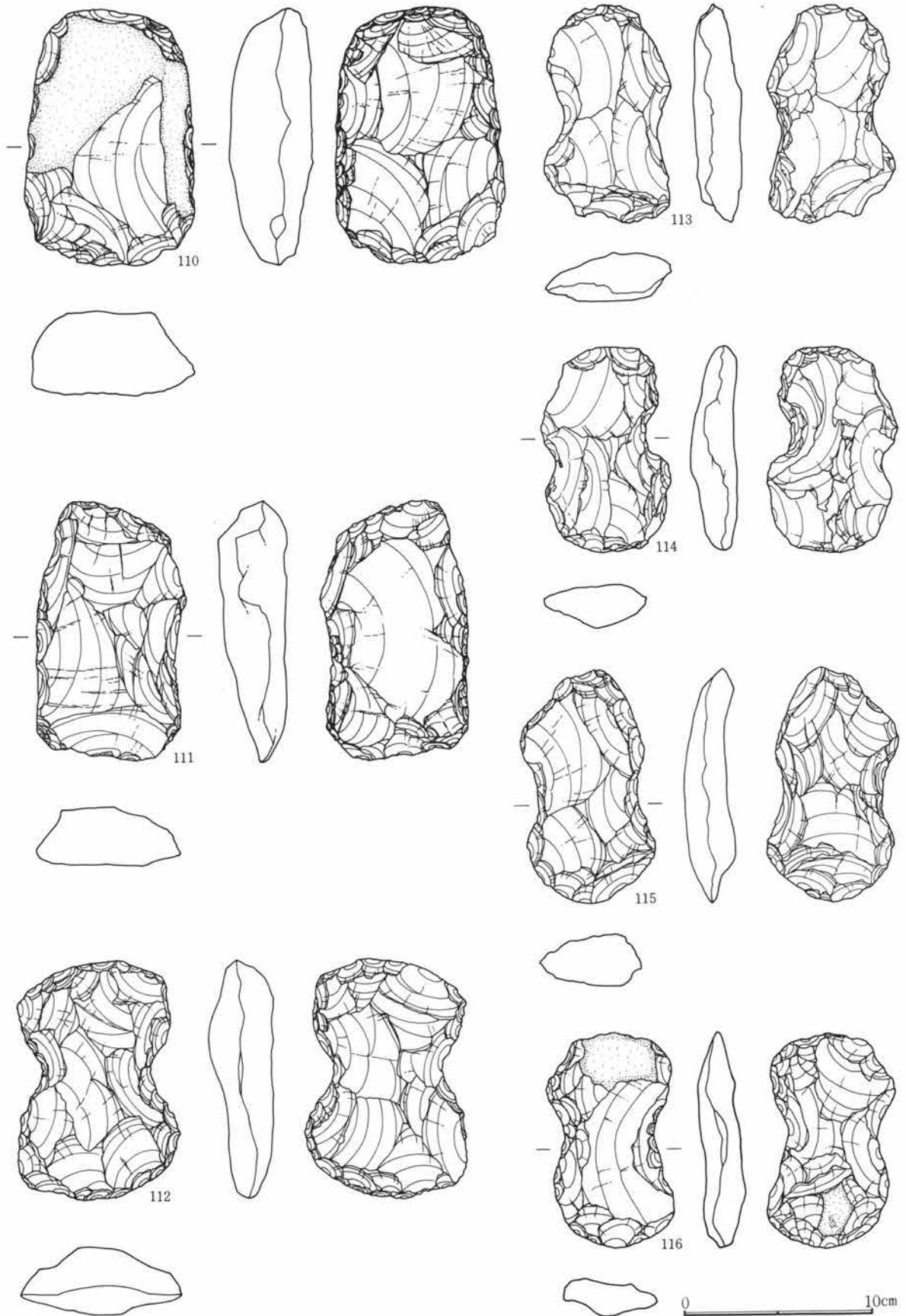
第482図 DN区グリッド出土遺物(5)



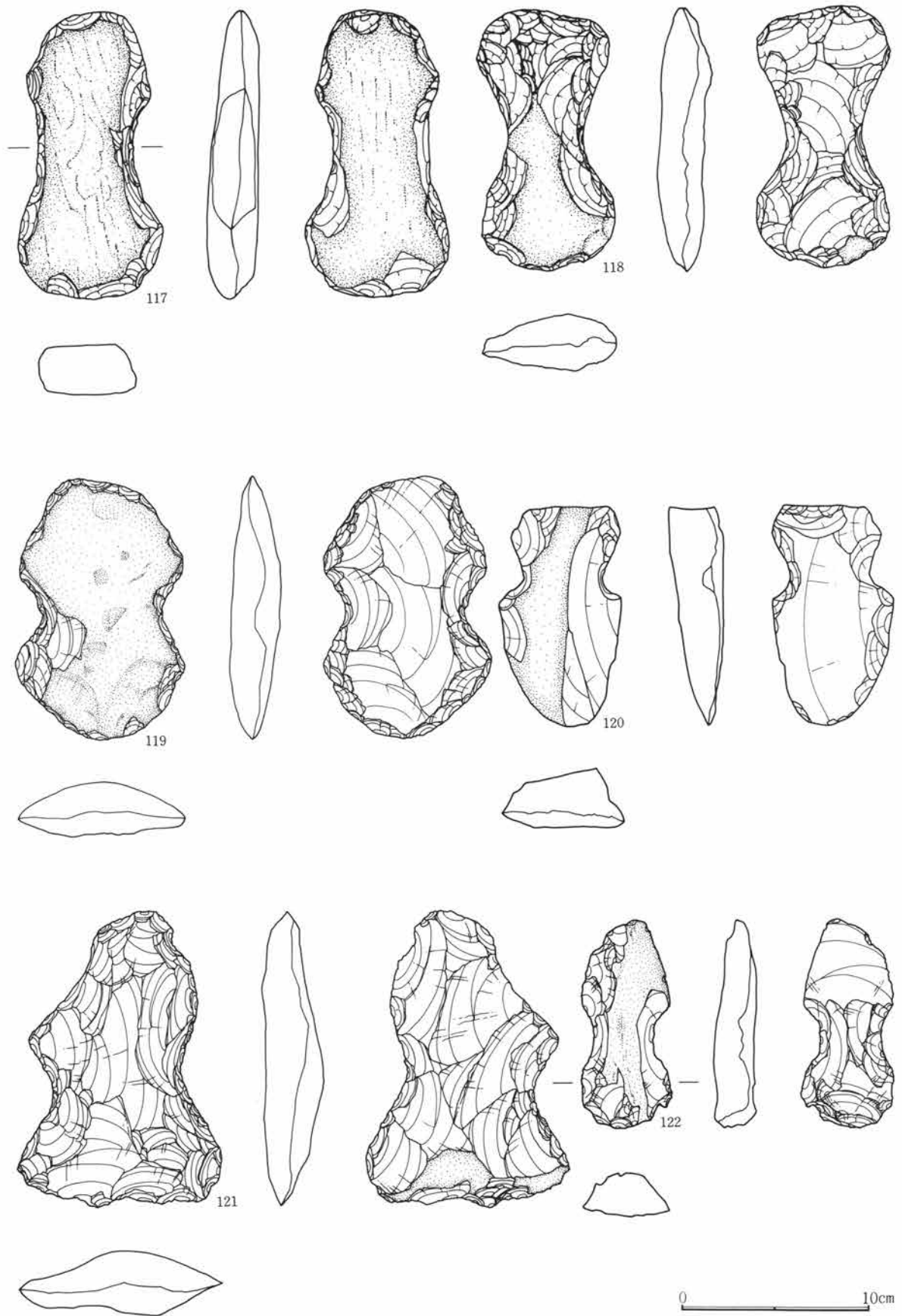


第483図 DN区グリッド出土遺物(6)

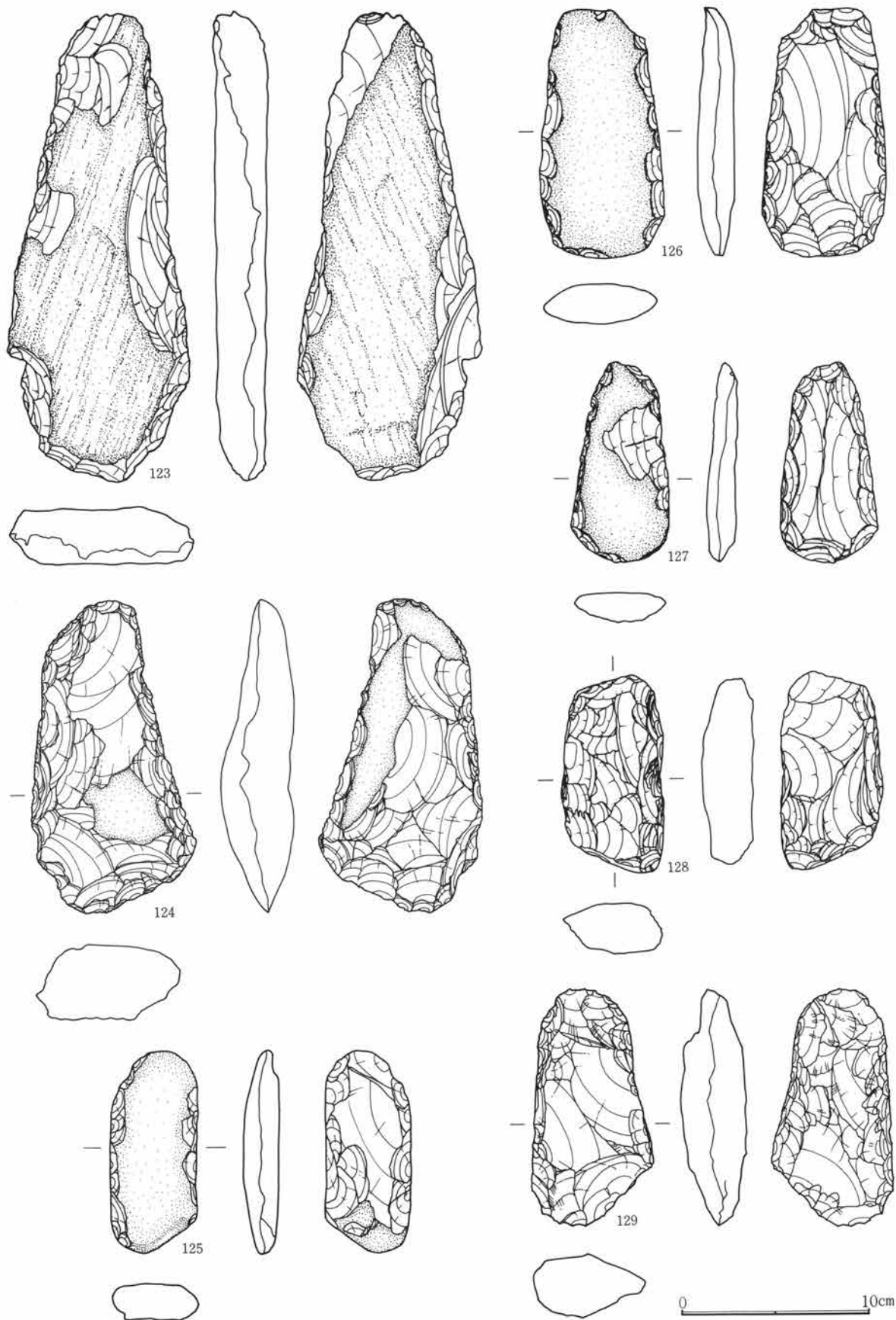




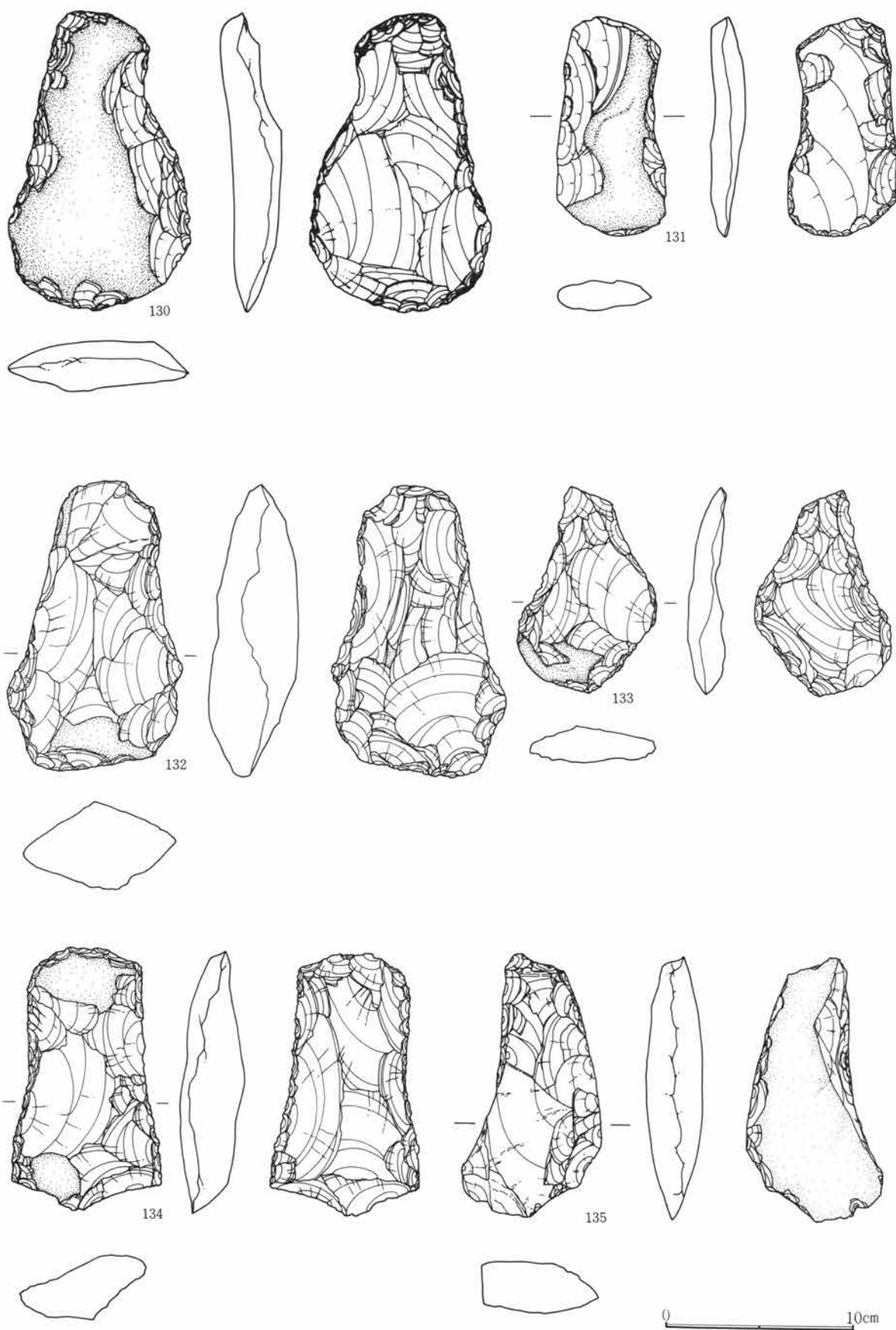
第484図 DN区グリッド出土遺物(7)



第485図 DN区グリッド出土遺物(8)



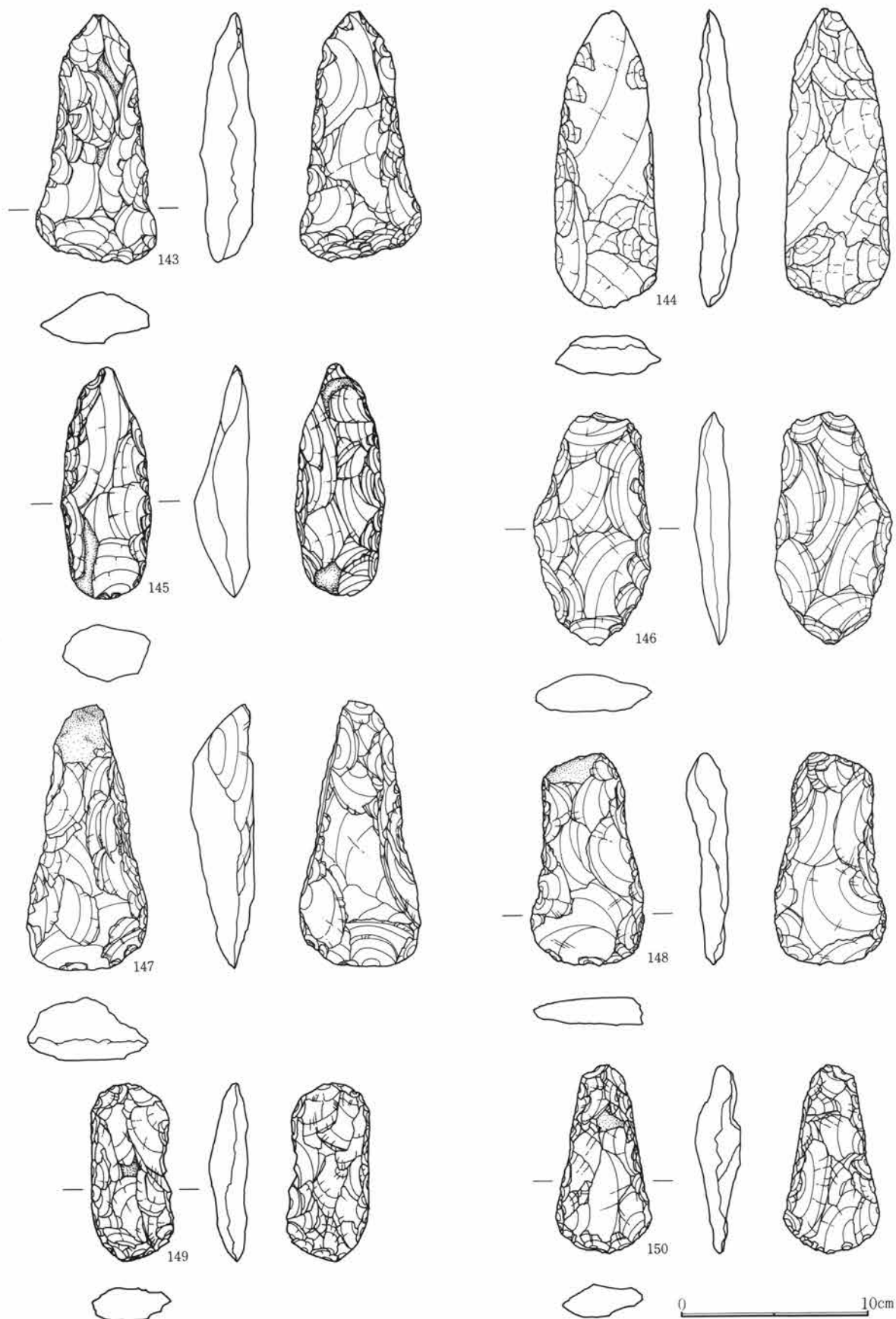
第486図 DN区グリッド出土遺物(9)



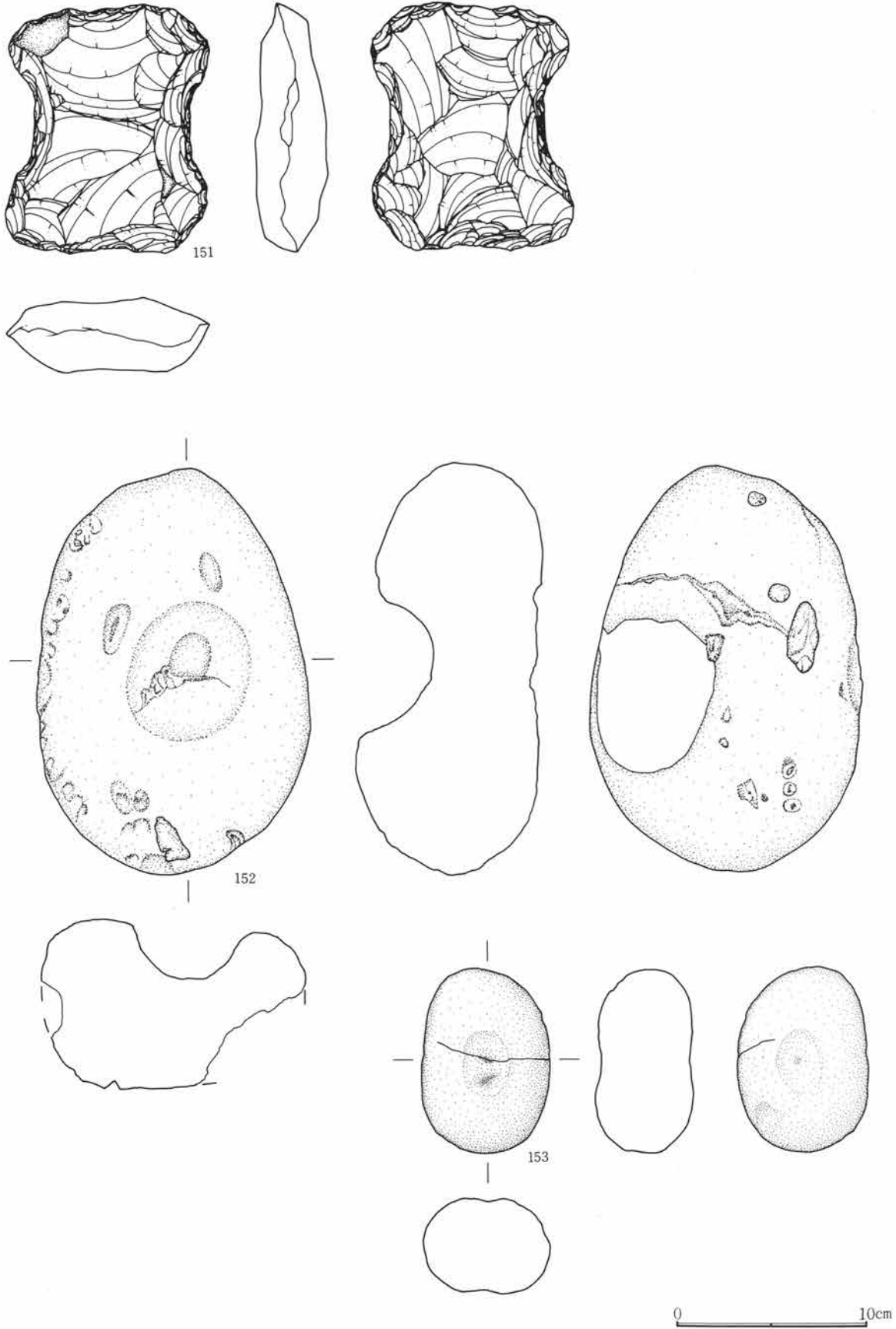
第487図 DN区グリッド出土遺物(10)



第488図 DN区グリッド出土遺物(1)

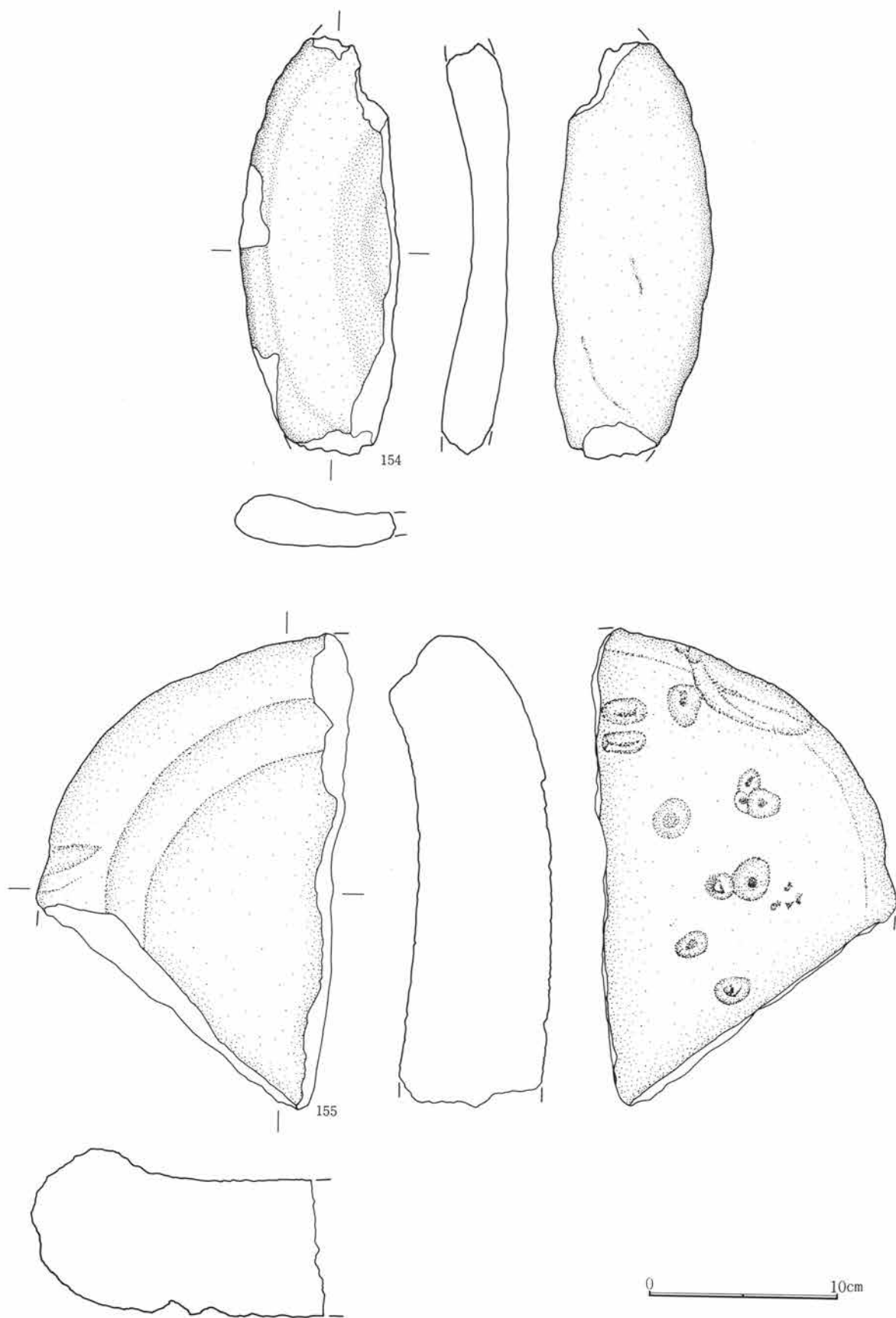


第489図 DN区グリッド出土遺物(12)



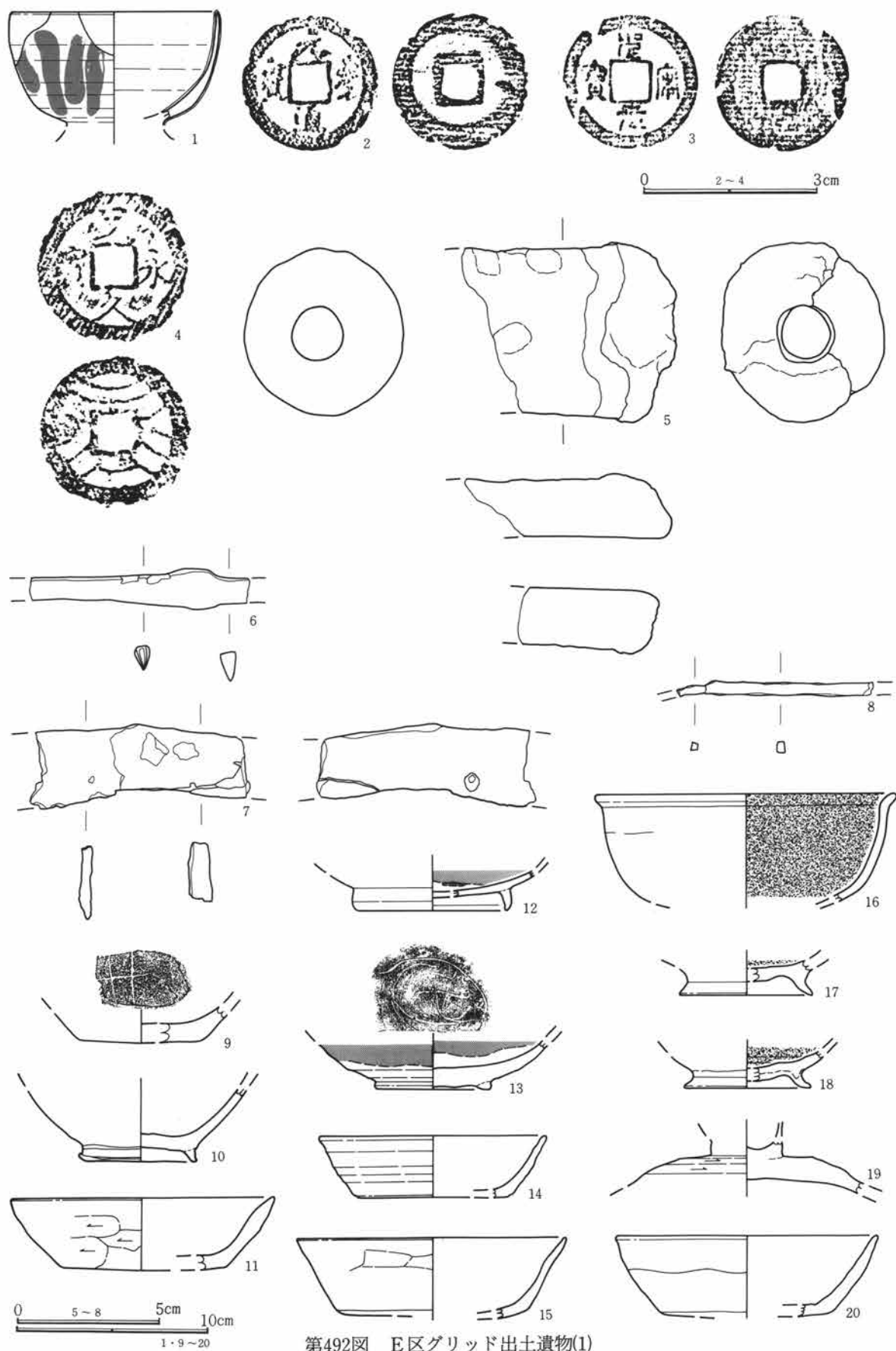
第490図 DN区グリッド出土遺物(13)





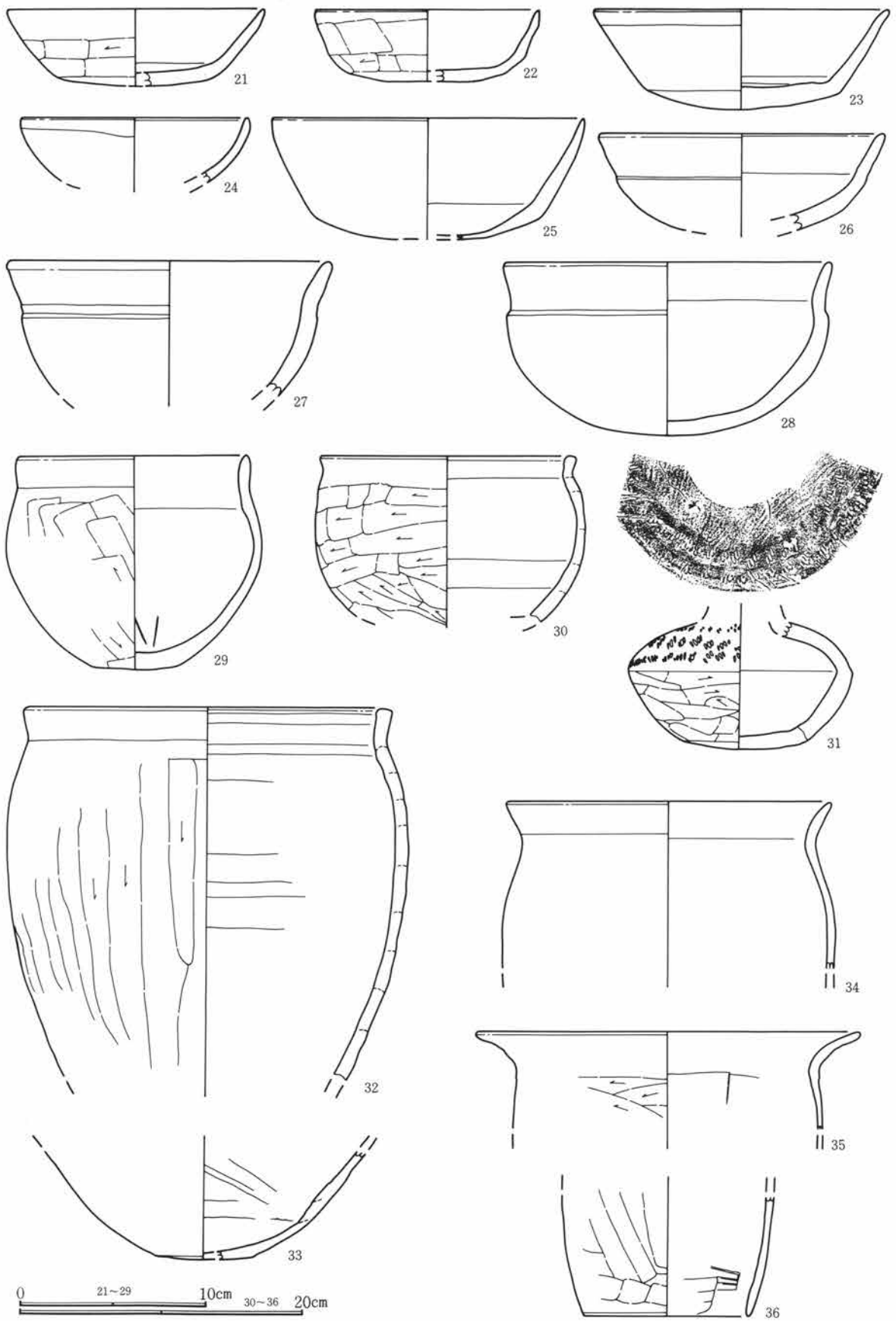
第491図 DN区グリッド出土遺物(14)





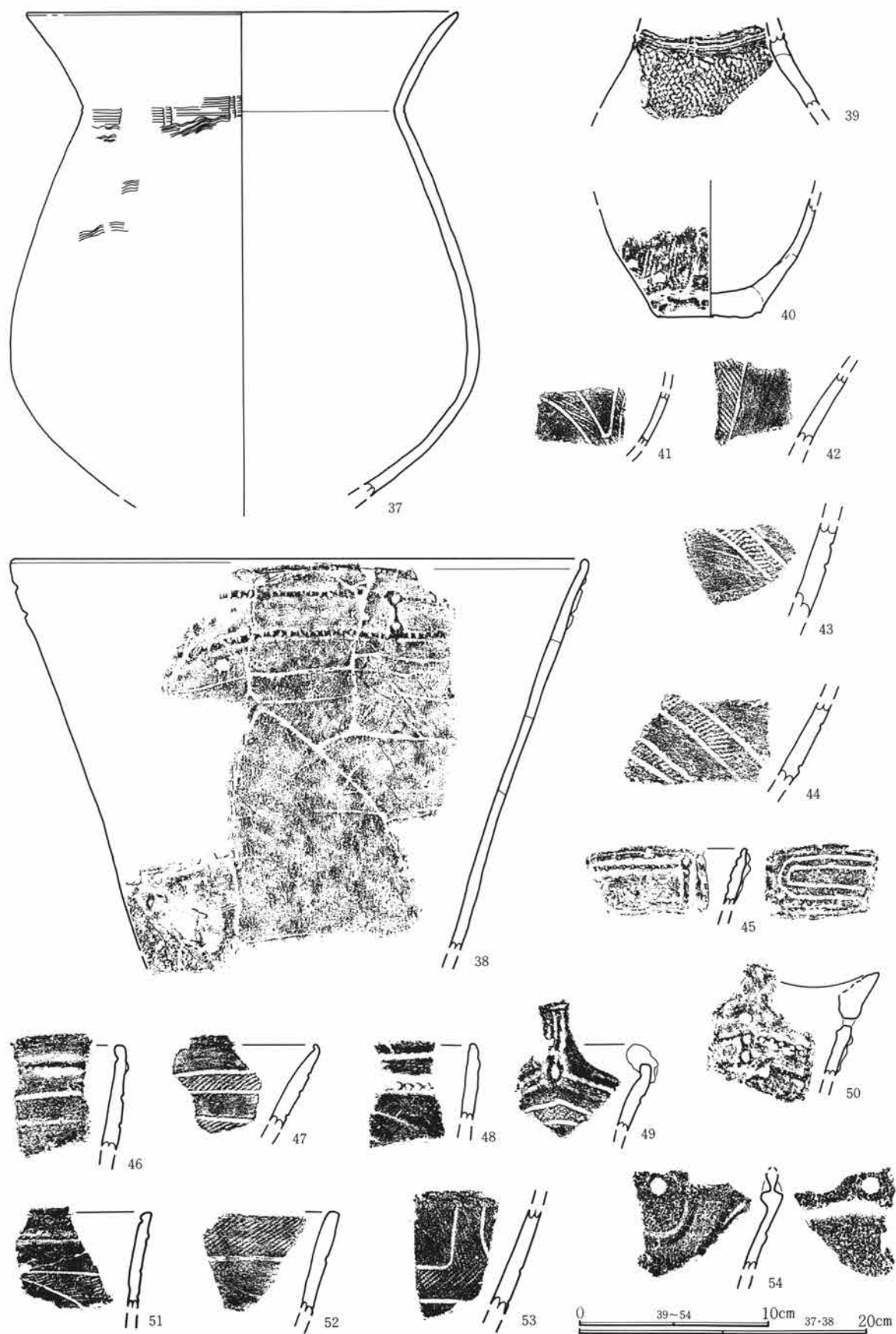
第492図 E区グリッド出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物

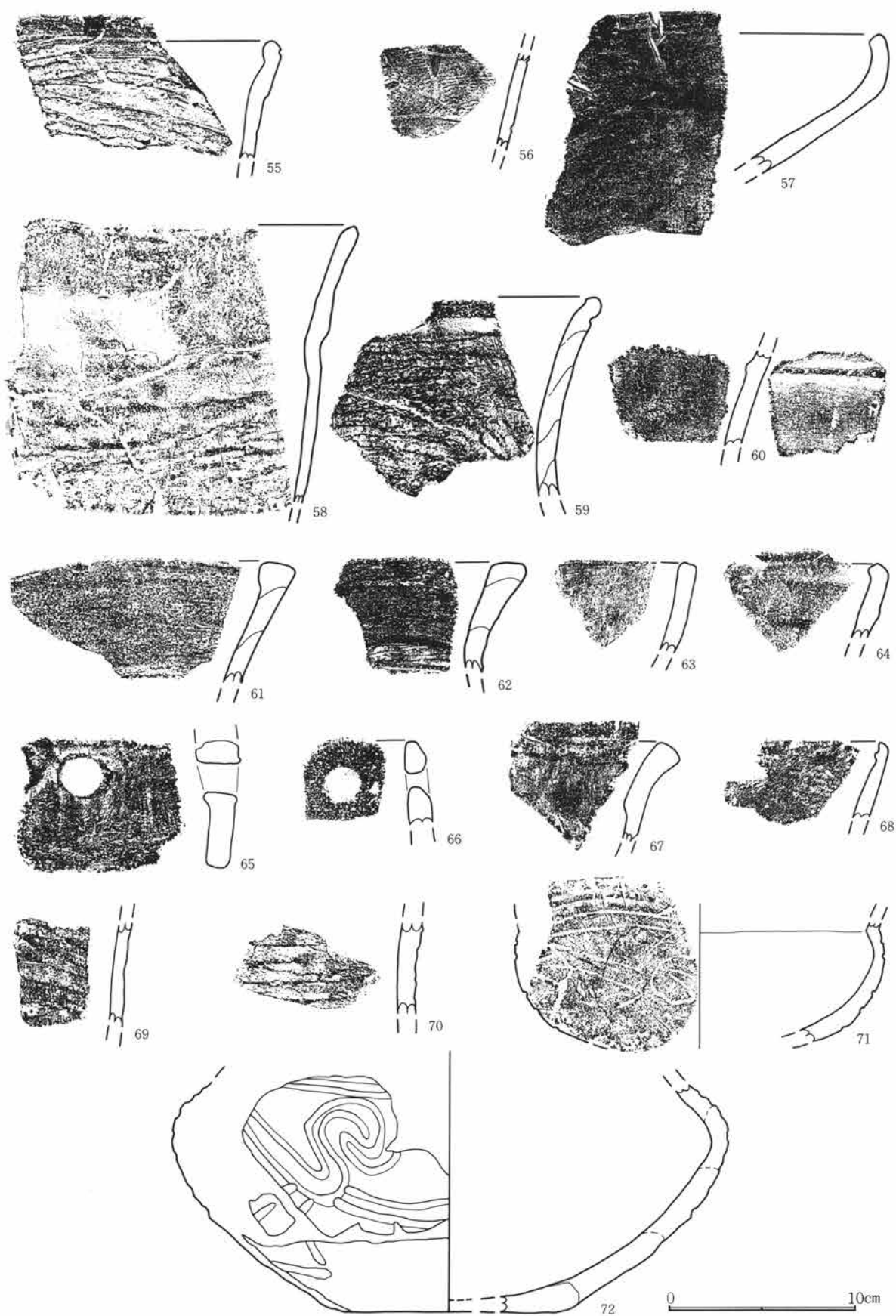


第493図 E区グリッド出土遺物(2)

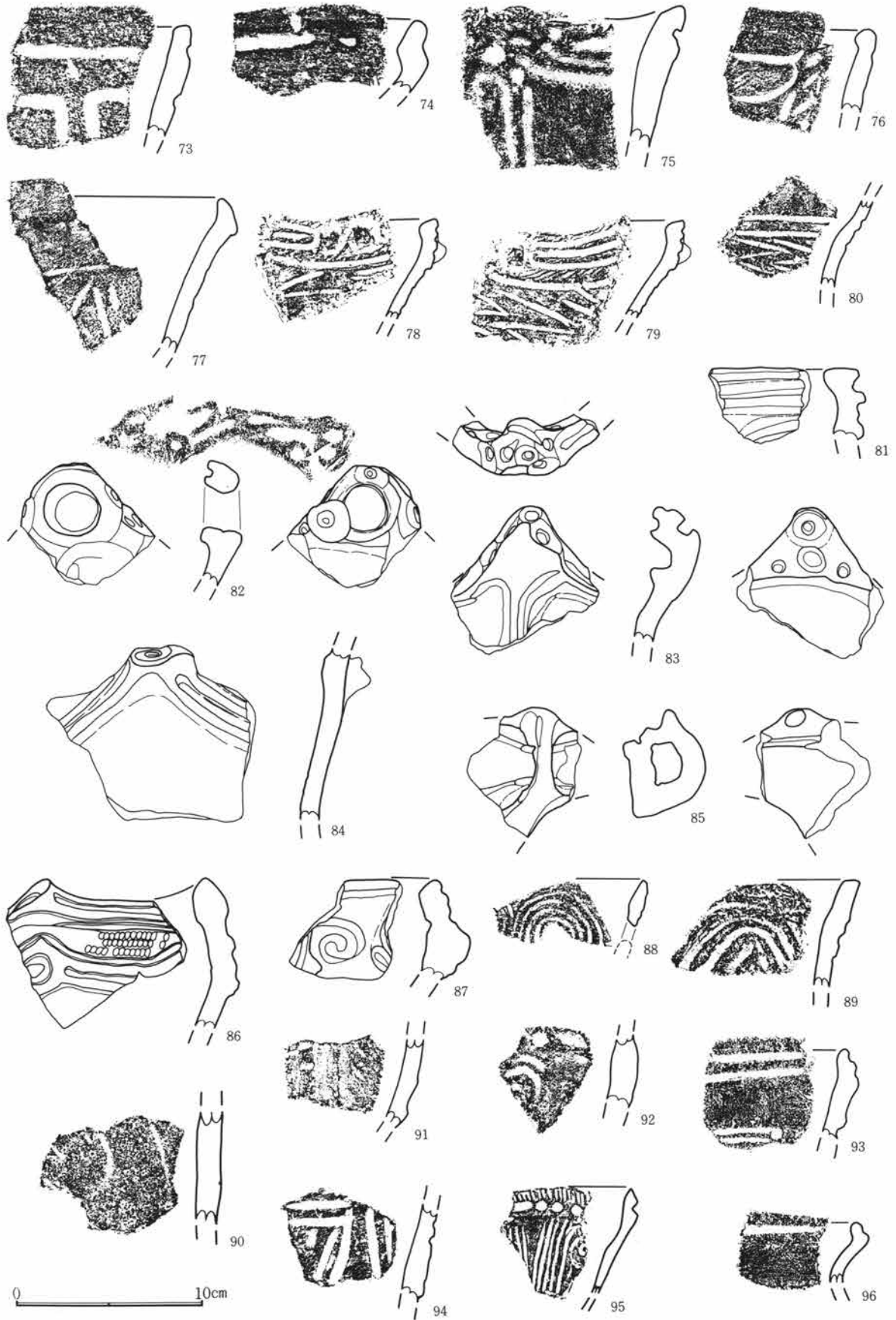
第7節 グリッド出土遺物



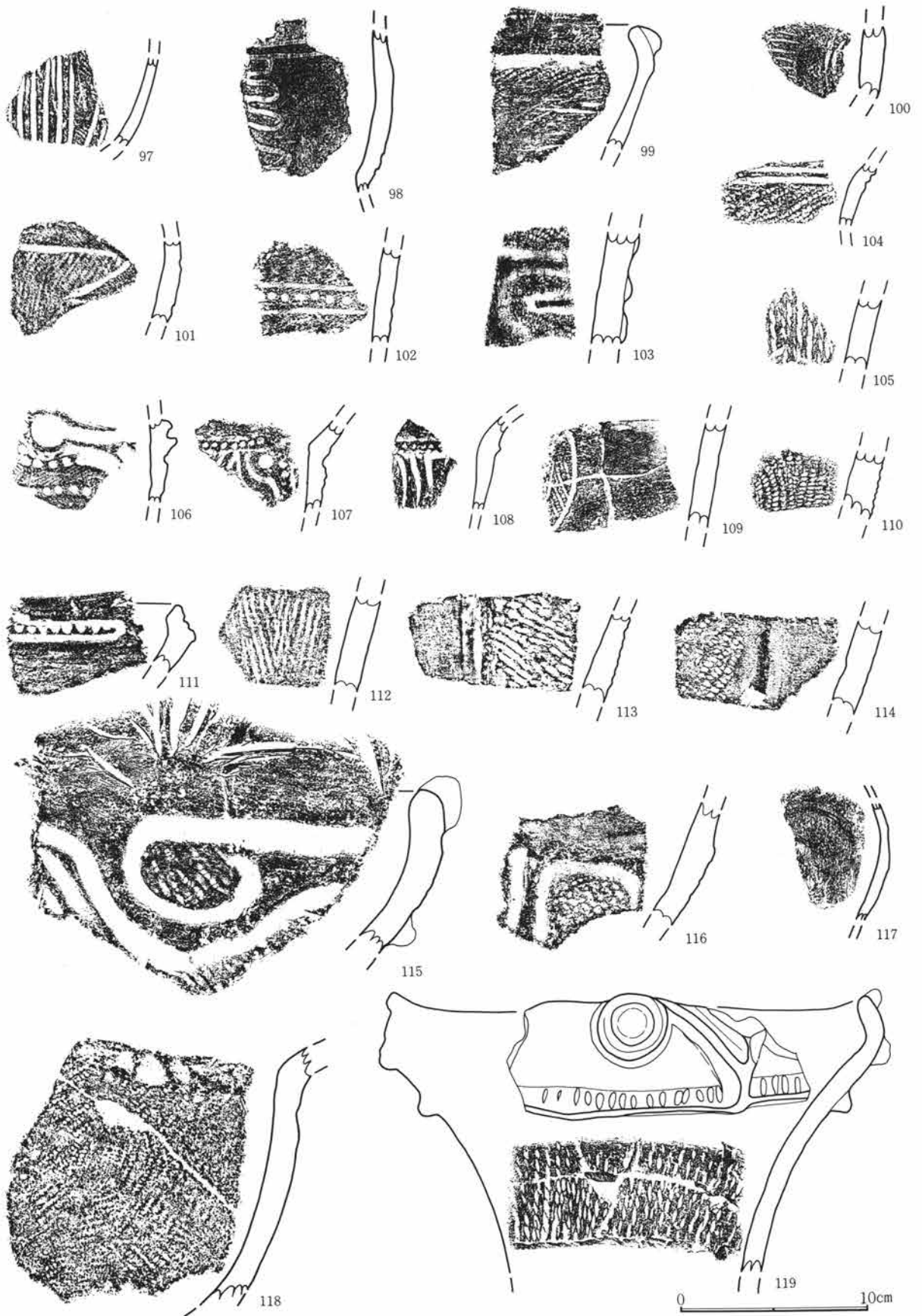
第494図 E区グリッド出土遺物(3)



第495図 E区グリッド出土遺物(4)

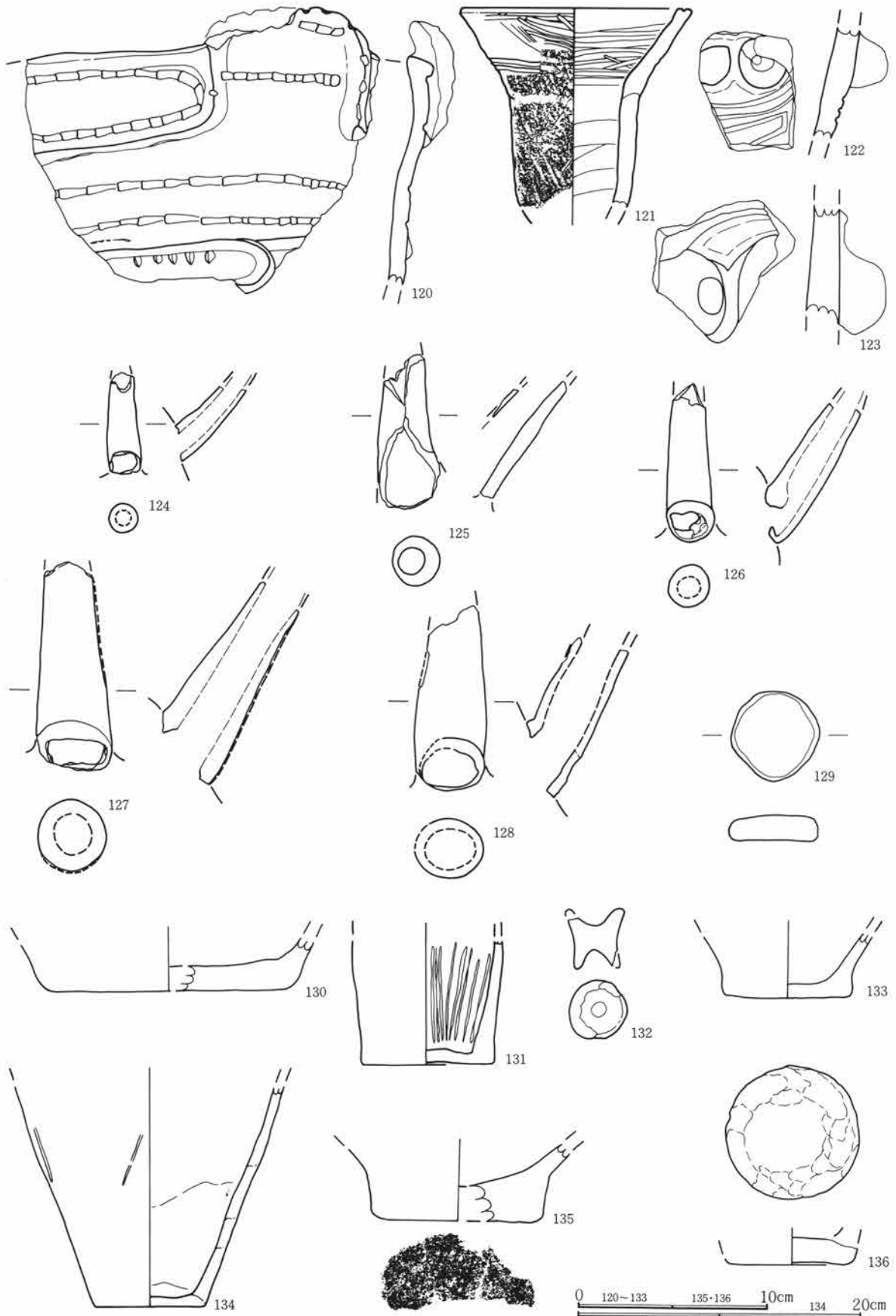


第496図 E区グリッド出土遺物(5)



第497図 E区グリッド出土遺物(6)

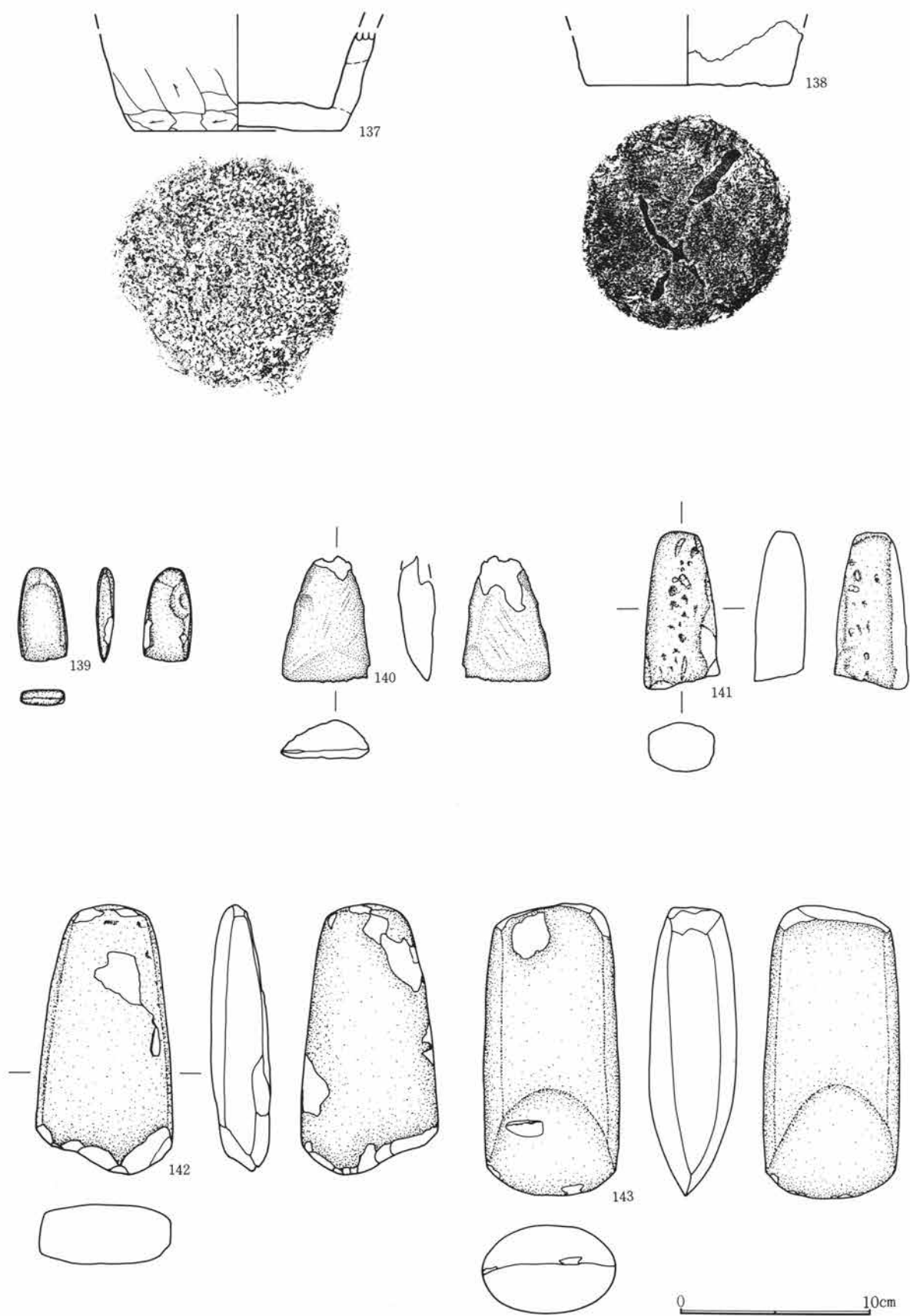
第7節 グリッド出土遺物



第498図 E区グリッド出土遺物(7)

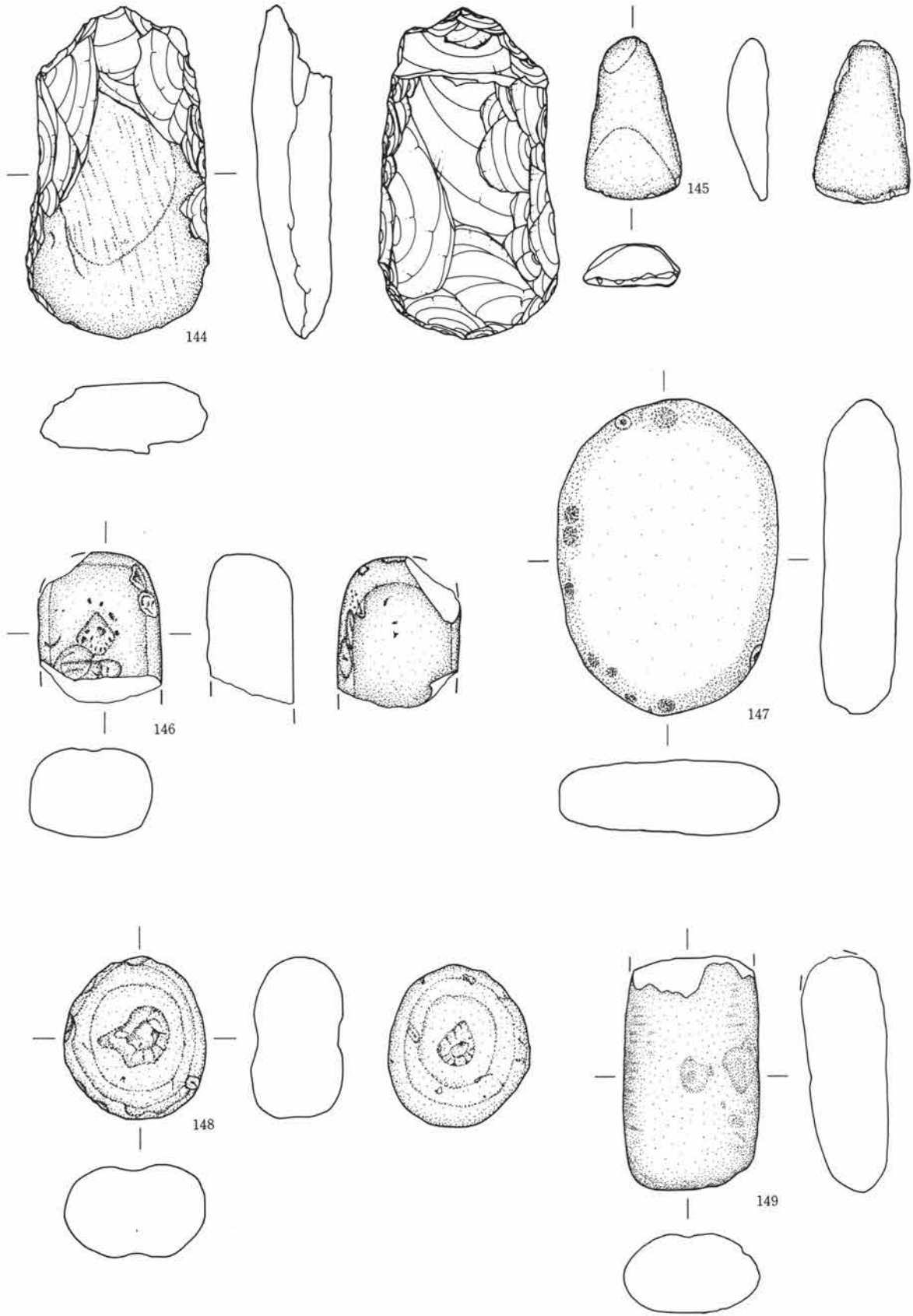


第3章 検出された遺構と遺物

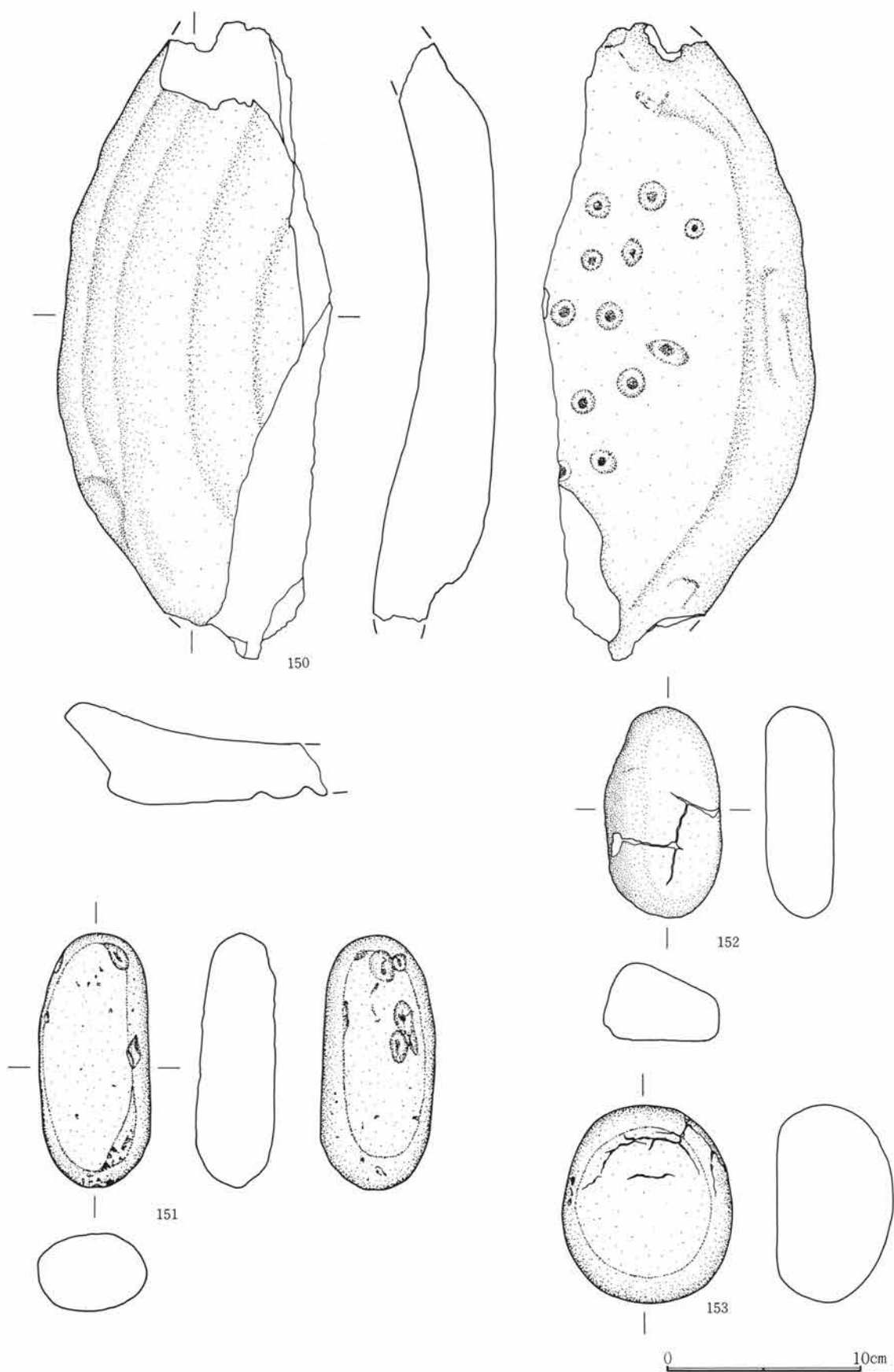


第499図 E区グリッド出土遺物(8)

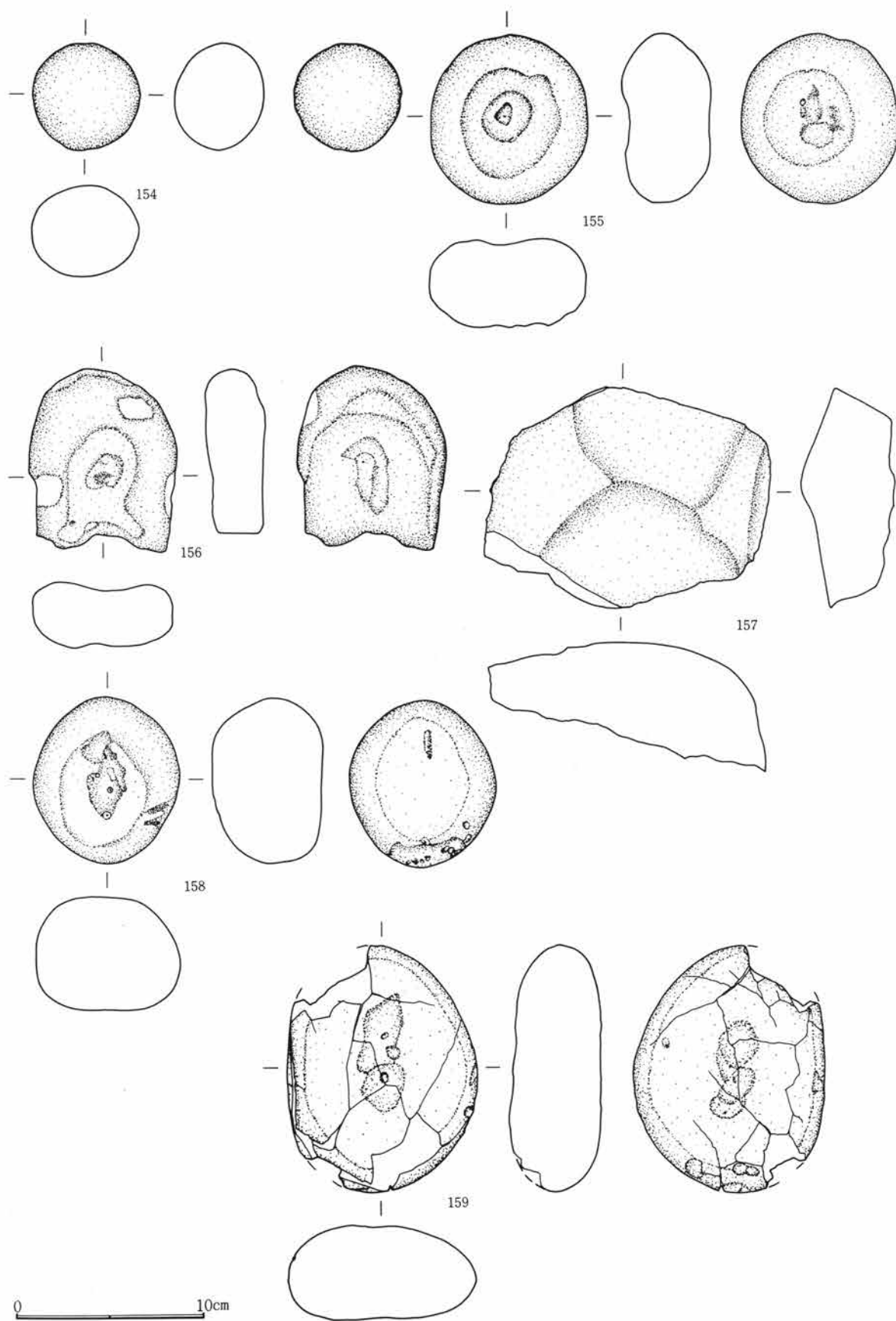




第500図 E区グリッド出土遺物(9)

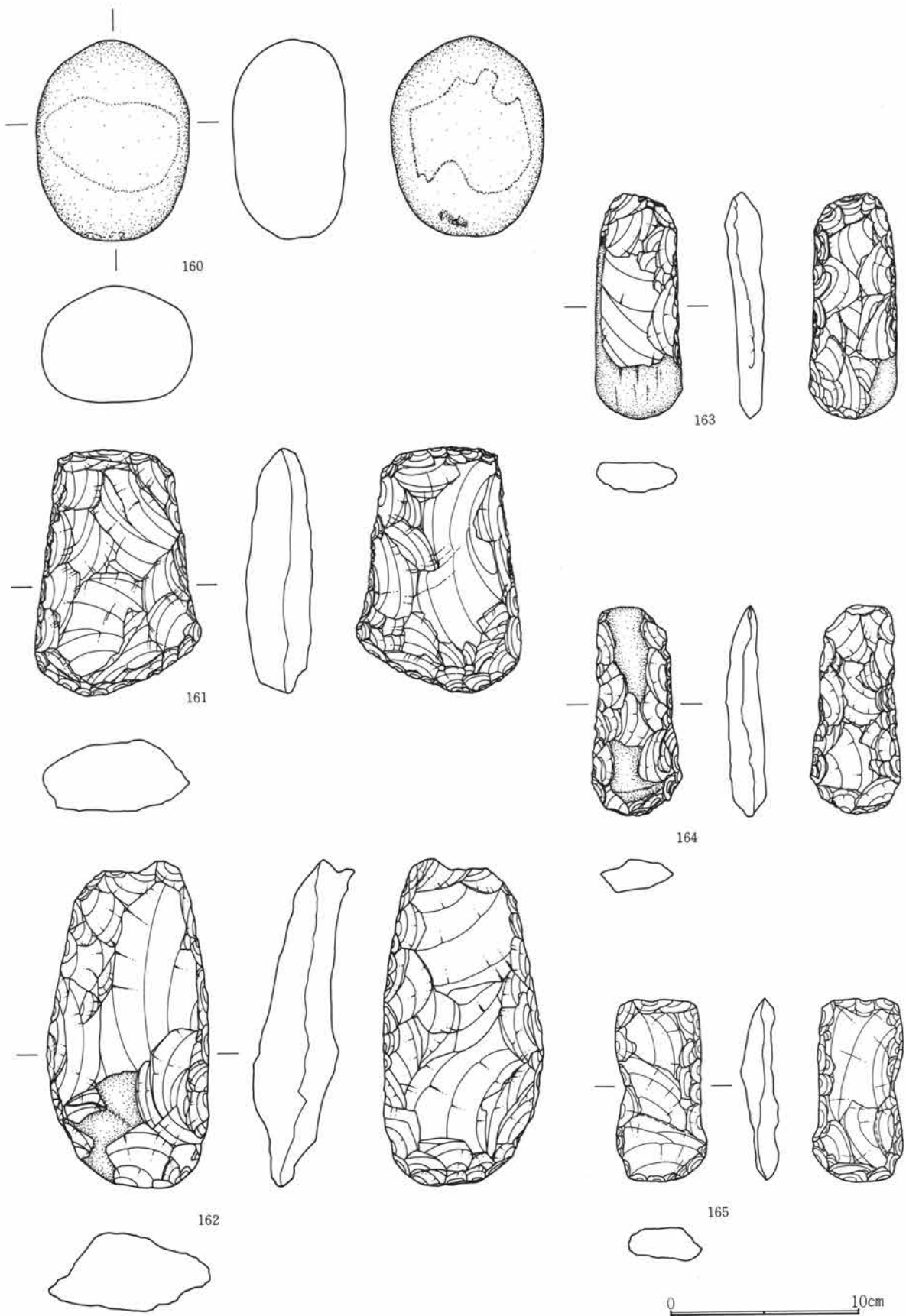


第501図 E区グリッド出土遺物(10)

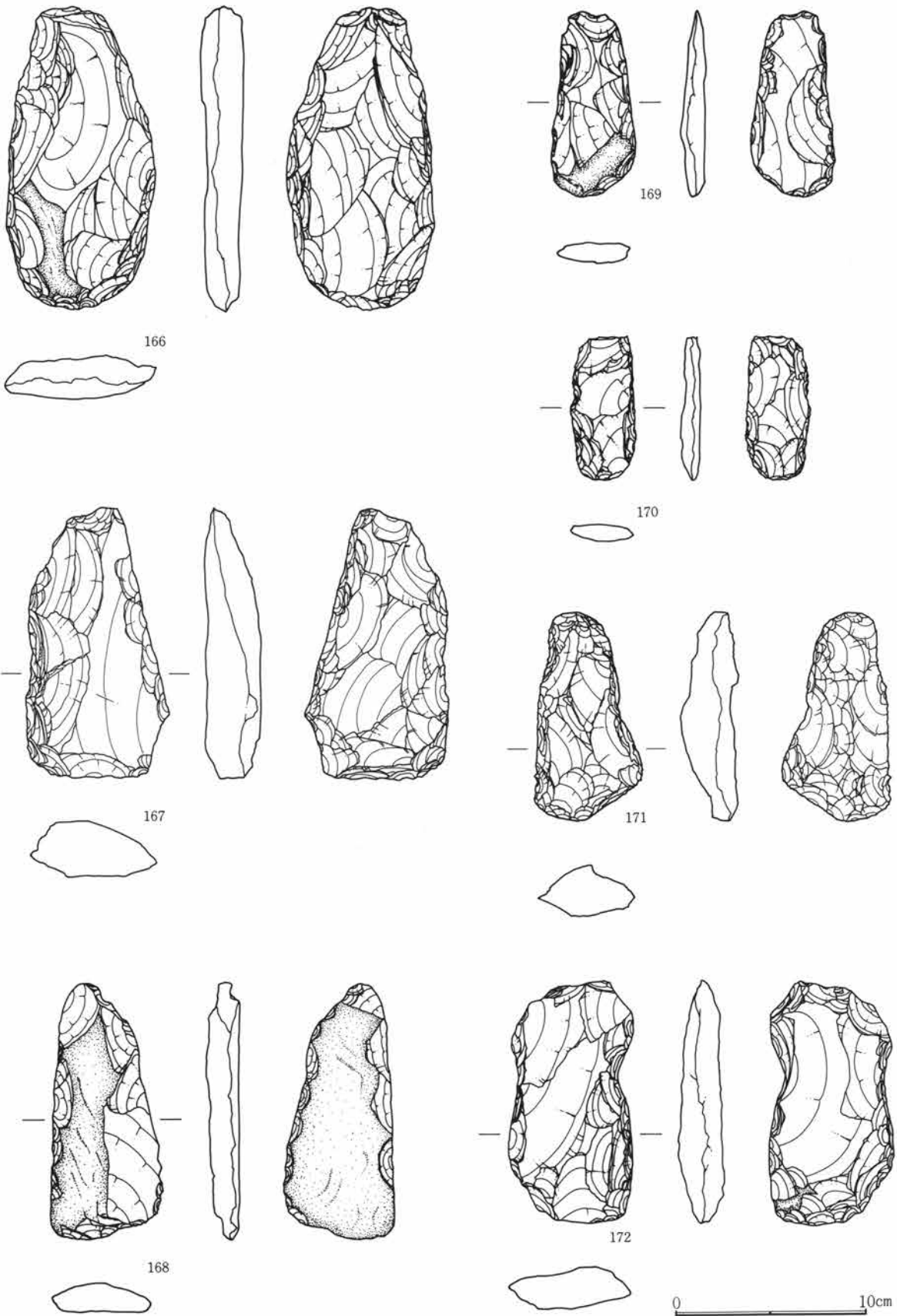


第502図 E区グリッド出土遺物(1)

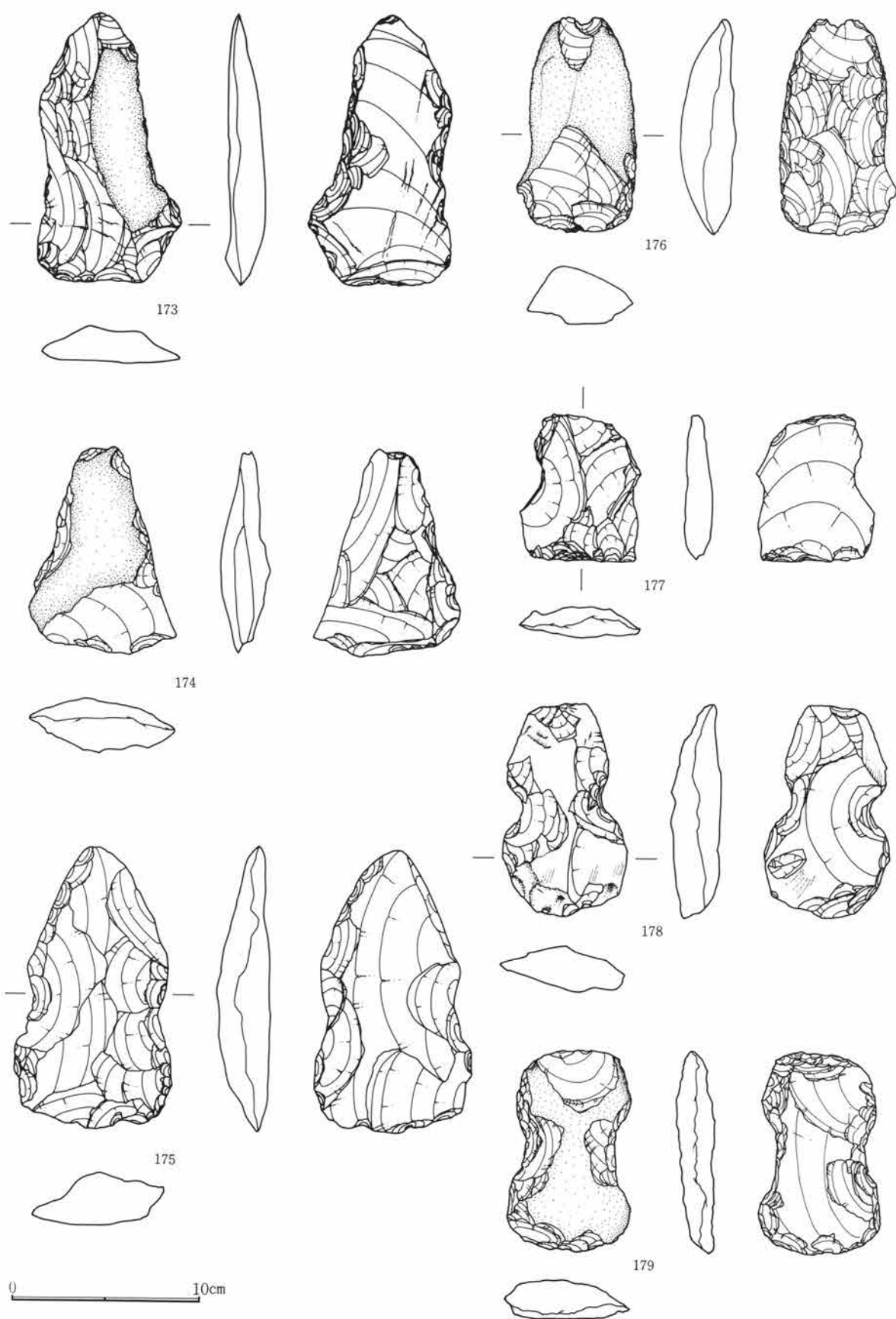
第3章 検出された遺構と遺物



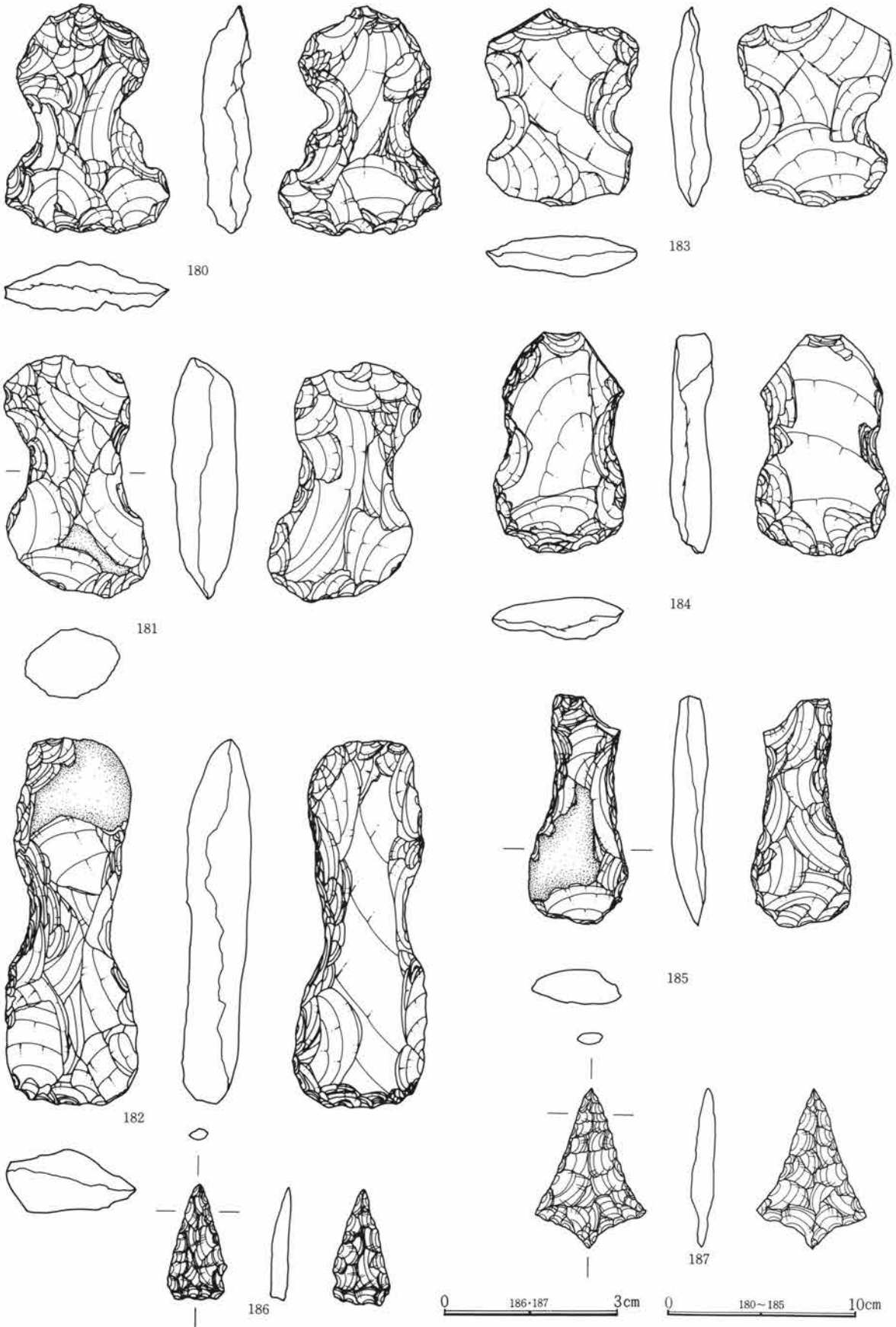
第503図 E区グリッド出土遺物(12)



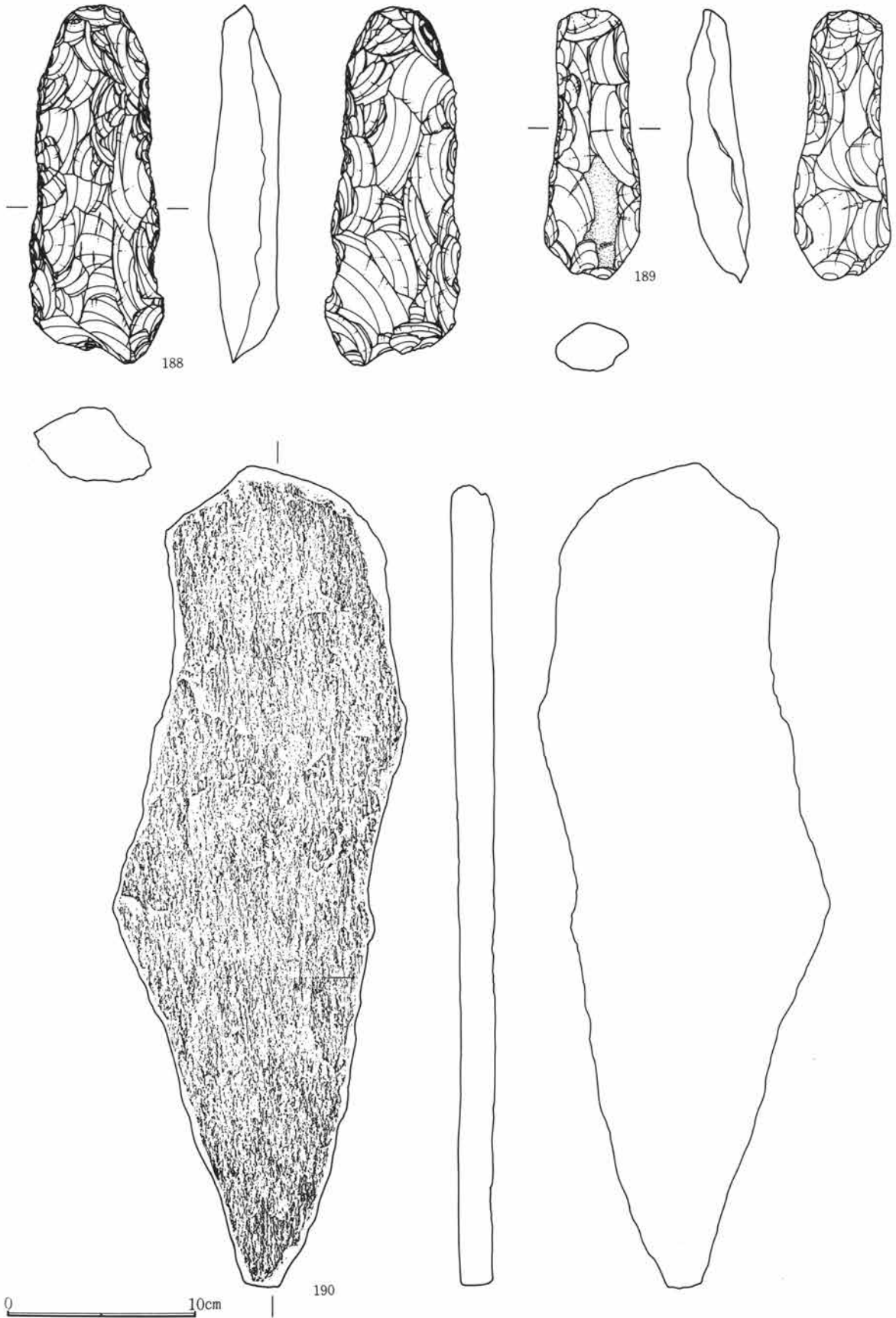
第504図 E区グリッド出土遺物(13)



第505図 E区グリッド出土遺物(14)

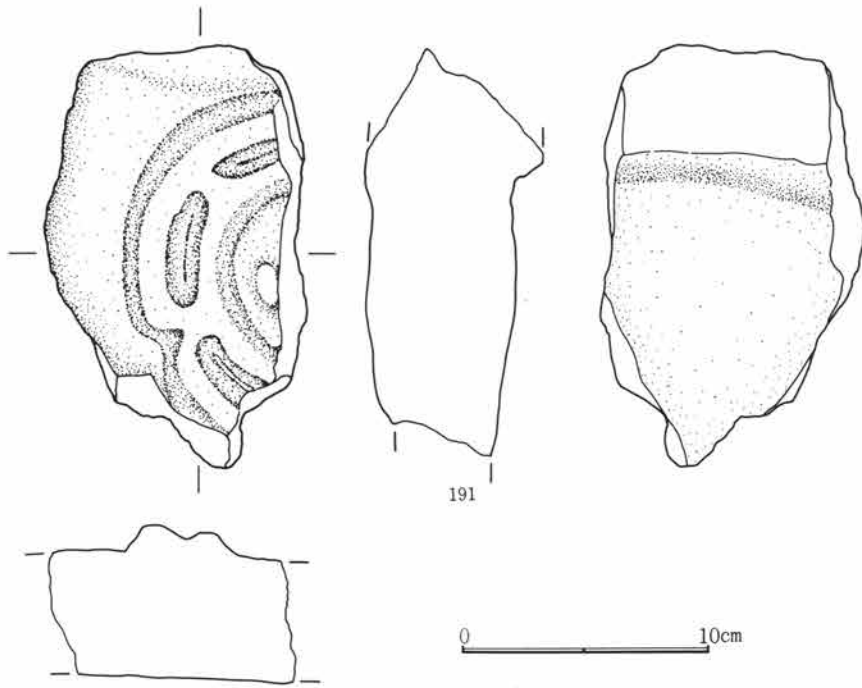


第506図 E区グリッド出土遺物(15)

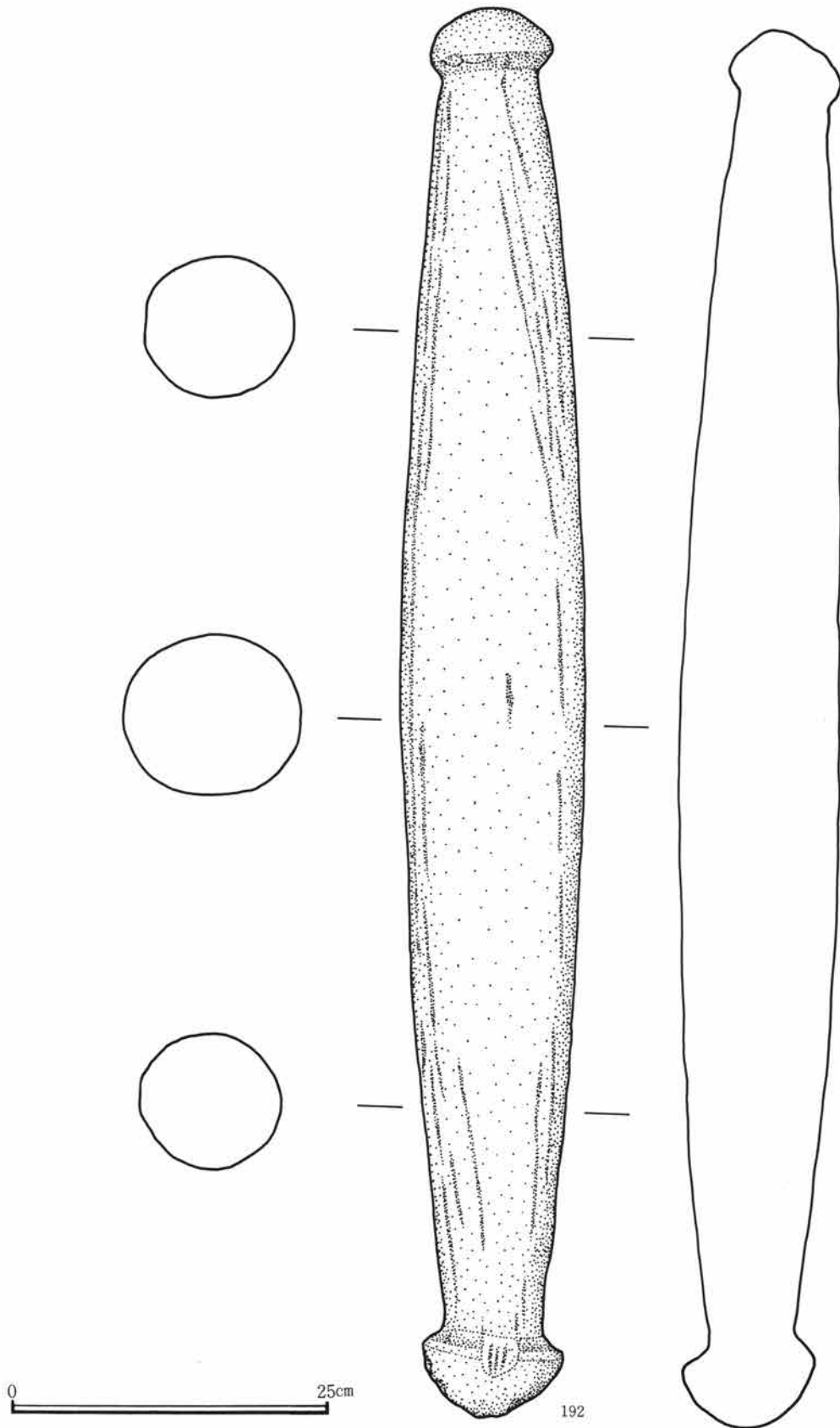


第507図 E区グリッド出土遺物(16)

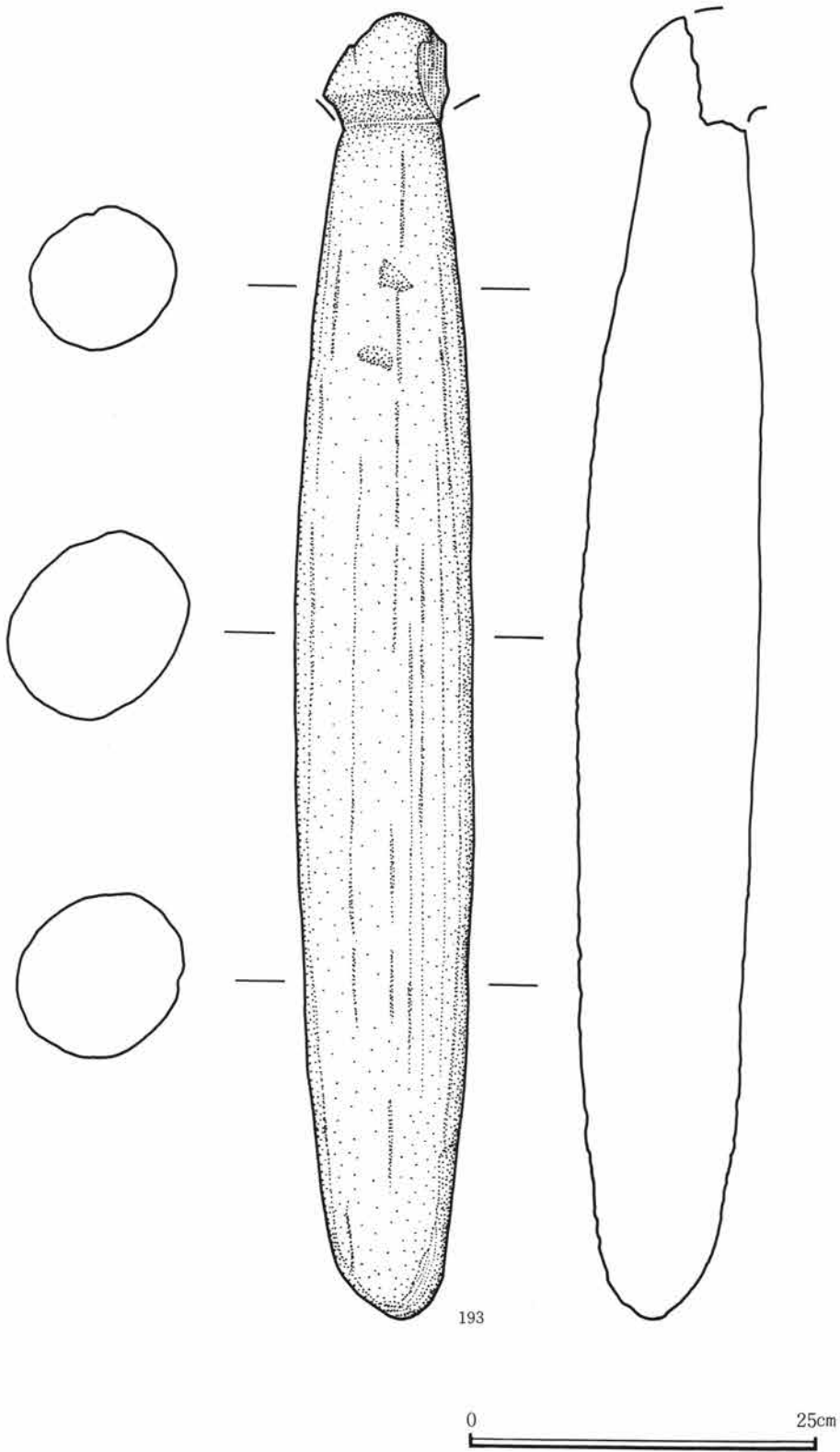




第508図 E区グリッド出土遺物(17)



第509図 E区グリッド出土遺物(18)



第510図 E区グリッド出土遺物(19)

## 第8節 小 結

本地区の調査は、南蛇井増光寺遺跡で検出された遺構・遺物の中の一部分の調査結果であり、今後各調査区の整理が進む中で南蛇井増光寺遺跡の全体像が明らかにされて行くと考えられる。本稿では、本地区の出土遺物の分布や傾向について若干の検討を加え、小結とする。

### 1. 石器について

本地区で出土した石器類の大半は縄文時代の遺物である。これら縄文時代の石器類について、掲載遺物を中心に第511・512図のようなグラフ及び分布図を作成し、石器の傾向や遺構との関係について考えてみたい。

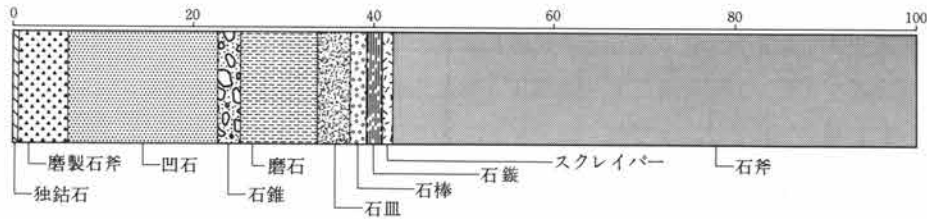
**石器の分布** 住居が集中する微高地上を中心に石斧類や磨石等の分布が見られた。黒曜石の分布は、後世の溝である1号・3号・4号溝周辺部にチップ類が多く出土し総数175点を数えたが、製品については石鏃が2点のみであった。

**石器の組成** 打製石斧が全体の5割以上を占め、次に凹石が継ぐが、凹石の大部分に磨り面が見られ、磨石としての利用も考えられる。両者を合わせた割合は、全体で2割強となる。石皿については、住居内からの出土品はなく、グリッド中に6点出土している。石鏃は、極めて少なくグリッド出土の3点のみである。

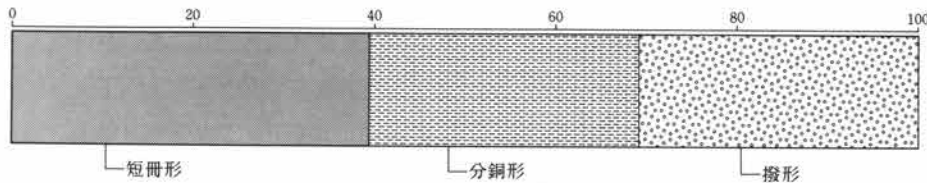
**打製石斧の分類** 打製石斧の形状を分銅形、撥形、短冊形の3種類に分け各形状別に割合を求めた。結果は、それぞれ3割前後で均等であった。石材については、硬質泥岩が7割近くを占める。

その他、古墳時代以降の石製品としては、滑石製の紡錘車5点、白玉2点及び滑石未製品2点が住居内か

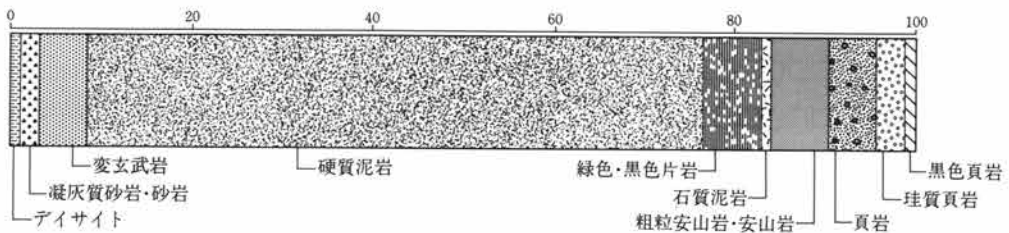
石器組成



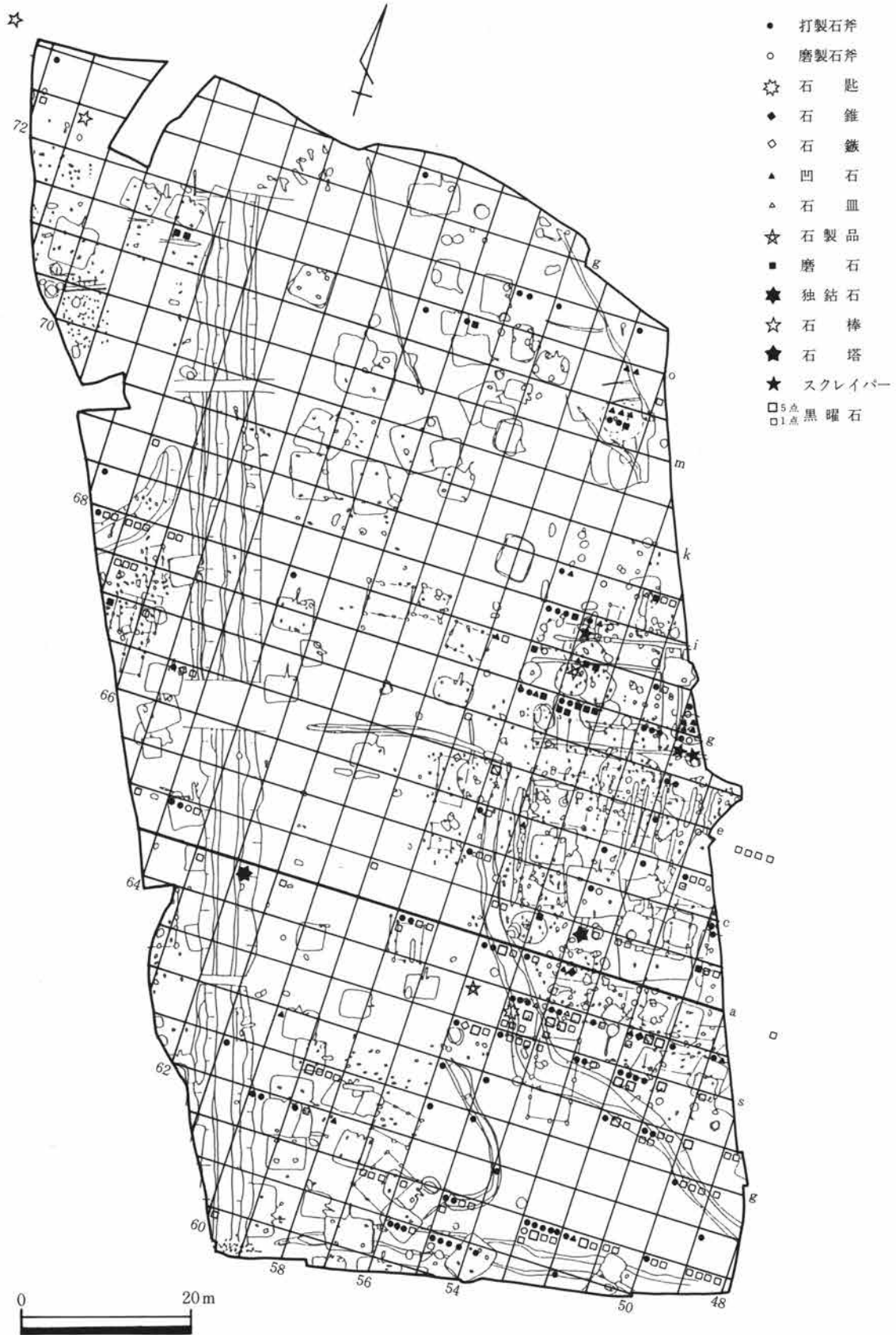
打製石斧器形



打製石斧石材



第511図 DN・E区出土石器分類図



第512図 DN・E区グリッド石器分布図

### 第3章 検出された遺構と遺物

ら出土している。紡錘車は断面の厚い台形状を呈するものが1点のみで他は円盤状を呈する。時期的には、7世紀から10世紀代まで幅がある。砥石は、総て砥沢石である。

## 2. 土器について

DN区57号土坑、6号溝及びE区18号土坑出土遺物は条痕を有する土器であり、当遺跡における縄文から弥生期への過渡的様相を呈する土器と考えられる。ここではこれらの遺物について他遺跡出土の類似資料を参考に、再度遺物説明と若干の検討を行いたい。

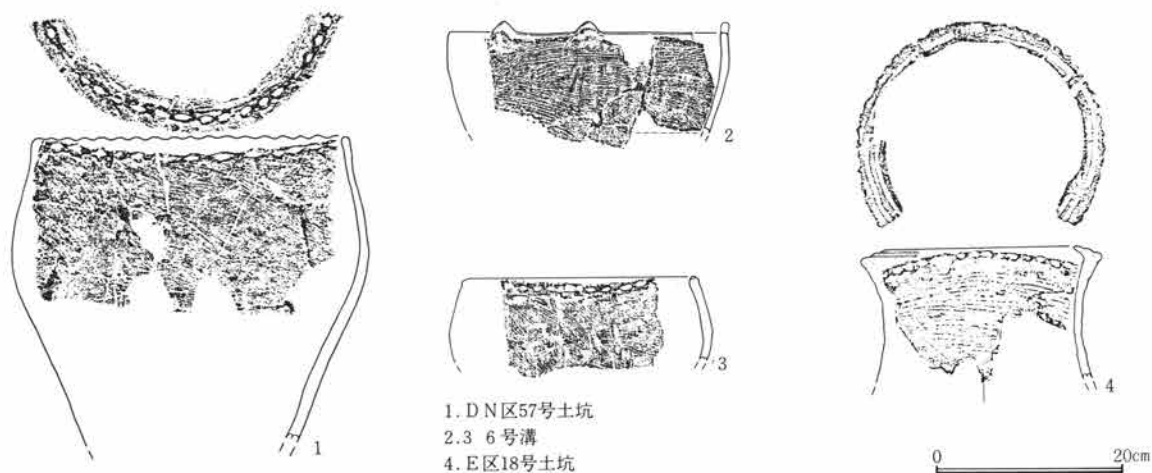
1は、DN区57号土坑出土遺物であり、深鉢形を呈し、胴上部から口縁部にかけて緩く内傾する。口唇頂部に指頭圧痕が巡り、口縁部周辺には斜方向に削痕状の細い条痕が見られる。また、屈曲部には煤が付着し、部分的に二次焼成の痕跡が見られることから炉などに埋設された土器と考えられる。

2及び3は、6号溝出土遺物である。6号溝は遺構説明でも述べたとおり、遺跡地北よりの円形周溝状の4号溝下層に位置する旧河道であり、本遺物はその覆土上面より出土している。共に口縁部破片であり、深鉢形を呈すると考えられる。2はやや開き気味に立ち上がり、口唇部2カ所に突起を有する。口辺部に横方向に細い条痕が見られる。3は内傾気味に立ち上がり、口唇頂部には指頭圧痕が巡り、口辺部には斜方向に細い条痕が見られる。

4は、E区18号土坑出土遺物であり、壺形土器の口縁部と考えられる。胎土は砂粒を多く含み、頸部にやや幅広の条痕が見られる。口唇部外縁には指頭圧痕が巡り、端部はほぼ水平に内屈し上面には沈線文が見られる。本地区出土のこれらの土器に関して類似資料としては、1～3の深鉢形土器に見られる削痕状の細い条痕や口唇部における指頭圧痕等は、鎭川流域の藤岡市沖II遺跡や同市白石大御堂遺跡や富岡市内匠日影周地遺跡出土の条痕文土器等に認められる。また、この1～3の深鉢形土器は、中部・東海地方における縄文時代晩期終末から弥生時代初頭の粗製土器に見られる細密条痕を有する土器に類似する。

4については、やや幅広の条痕であり胎土や焼成が深鉢形土器とは異なる。器形的には前述の沖II遺跡AU-17号土坑出土の壺形土器に類似すると考えられる。口唇頂部に沈線文が施される文様帯を有する壺形土器は、県内において出土例は認められず、長野県松本市針塚遺跡1号土坑出土の壺形土器に類似する。

鎭川流域において近年沖II遺跡をはじめ縄文時代晩期終末から弥生時代中期初頭にかけての資料が増加してきており、本地区出土の条痕を有する土器もこれらの一群に含まれると考えられる。現段階では、本地区出土遺物以外に調査時には縄文晩期を特徴づける工字文や網状文等の施文された遺物や遺構は認められてい



第513図 条痕を有する土器

ない。また、条痕を有する土器についても検出されていないとのことである。しかし、今後C区・DS区の整理過程で確認される可能性もあり、南蛇井増光寺遺跡の整理終了段階で再度同期の遺構遺物について検討する必要がある。

### 3. 鉄製品及び関連遺物について

本地区出土鉄製品は、鉄鏃1点、鎌4点、刀子2点、釘及び角棒状鉄器6点、鉄滓51点、用途不明鉄製品1点が出土しており、鉄製品と関係する遺物として砥石、羽口を取り上げ分布図を作成した。

鉄製品を出土する住居は少なく、鎌1軒、刀子2軒、鉄鏃1軒、釘2軒であり、砥石を出土する住居は7軒を数える。住居の時期は8～9世紀代である。

鉄滓の分布は遺跡地南東部1・3号溝周辺に多く見られ、住居内出土は数点であり、その他2号溝西側に2地点まとまりが見られる。この鉄滓の出土量及び羽口の出土などから製鉄関係の遺構の存在が伺えるが、断定できる遺構は検出されなかった。

#### 《本書における参考文献》

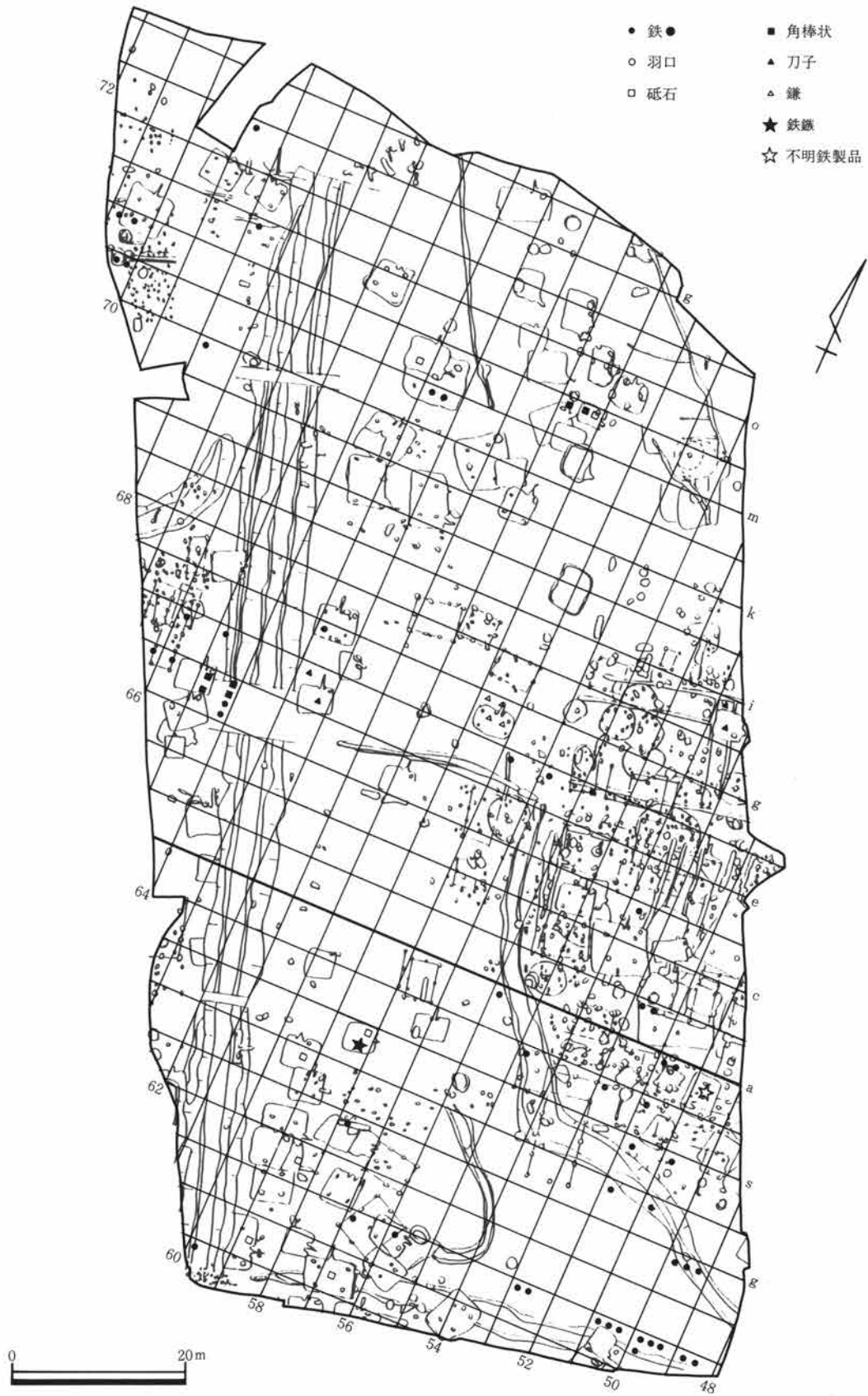
##### 第2章

- 『富岡市史』自然編・原始・古代・中世編 富岡市 1987  
 『上毛古墳総覧』群馬県史蹟名勝天然記念物調査報告書 第5号 群馬県 1938  
 『鎌倉街道—歴史の道調査報告書— 群馬県教育委員会 1982

##### 第3章

- 桜岡正信 『上野国分僧寺・尼寺中間地域』第二分冊 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1987  
 綿貫邦男 『鳥羽遺跡』I・J・K区 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986  
 小林敏夫 『第4章 第1節 出土遺物について』『長根羽田倉遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990  
 神谷佳明 『下東西遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1987  
 坂口 一・三浦京子『奈良・平安時代の土器の編年』『群馬県史研究』24  
 井上 太 他 『本宿・郷土遺跡』富岡市教育委員会 1981  
 中沢 悟 『大原II遺跡・村主遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986  
 小林達雄 『縄文土器大観』4 後期・晩期・続縄文 小学館 1989  
 石井 寛 他 『シンポジウム堀之内土器資料集』市川市立博物館 1982  
 関根慎二・谷藤保彦 他 『縄文後期の諸問題』縄文セミナーの会 1990  
 // // 『縄文中期の諸問題』 // 1989  
 // // 『縄文晩期の諸問題』 // 1992  
 『C8谷地遺跡・C7神明北遺跡』藤岡市教育委員会 1988  
 『深沢遺跡・前田原遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1987  
 鈴木道之助 『図録石器の基礎知識III』柏書房 1981  
 『C11 沖II遺跡』藤岡市教育委員会 1986  
 『内匠諏訪前遺跡・内匠日影周地遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992  
 『松本市赤木山遺跡群II』松本市教育委員会 1987  
 『長野県史 考古資料編』全1巻(3)主要遺跡(中信) 長野県 1983  
 『東日本における黎明期の弥生土器』群馬県考古学談話会 1983  
 『条痕文系土器文化をめぐる諸問題—縄文から弥生—』資料編I 愛知考古学談話会 1985  
 永峰光一 『氷遺跡の調査とその研究』『石器時代』No.9 石器時代文化研究会 1969  
 設楽博巳 『中部地方における弥生土器の成立過程』『信濃』第34巻4号 1982

第3章 検出された遺構と遺物



第514図 DN・E区鉄製品・鉄滓・羽口分布図



# 遺物觀察表



## DN区住居跡出土遺物

## 36号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	弥生土器 小型甕	北壁 +14	口～胴 中欠	口(9.6) 胴(9.4)	①にぶい黄橙②普通 ③中砂粒を含む	ミニチュア土器。頸部に7本単位の二連止め簾状文。器面の磨耗激しい。	赤井戸式
2	弥生土器 小型甕	中央 +1	口～胴 中位	口(11.5) 胴10.3	①にぶい橙②普通③ 中砂粒を含む	胴部が大きく膨らむミニチュア土器。口縁及び胴上半に単節の縄文RL、内面ナデ。	赤井戸式
3	石器 磨石	北東 +6	一部欠	<計測値>長9.5、幅6.3、厚6.3、重646.7<石材>石英閃緑岩<特徴>円形状を呈し、使用面は1面。			
4	石器 磨石	中央 +15	完形	<計測値>長16.0、幅6.4、厚4.1、重616.5<石材>粗粒安山岩<特徴>長軸片面及び、側面に磨面あり、側面に浅い打痕見られる。			
5	石器 石皿	中央 +1	欠	<計測値>長25.1、幅13.1、厚7.7、重2300.0<石材>緑色片岩<特徴>表裏両面使用。中央部磨みにより破損。			

## 15号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・整形の特徴	備考
1	土師器 甕	東付近 ±0	底部小 片	底(9.0)	①赤褐②普通③金雲 母・粗砂粒含む	胴部は直立気味。磨耗が激しく、文様・調整は不明。無文部分か。	
2	土師器 高坏	北東 +2	脚部	脚7.7	①橙②普通③中砂粒 多く含む	脚部は「ハ」字状に開く。内外面ナデが施される。	
3	土師器 甕	北西 +8	底～胴 中欠	底(9.4)	①にぶい黄橙②普通 ③中砂粒多含有	胴部中位で屈曲。磨耗が著しく、文様等不明。無文部分か。	

## 1号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	かまど内 +40	口～底 欠	口(11.8) 高4.0	①橙②酸化焰③中砂 粒を含む	口縁部は外反、体部との境線を有する。内外面横ナデ。底部外面渦巻状のヘラ削り。器面磨耗あり。	
2	土師器 小型甕	かまど +32	口～胴 欠	口(12.4)	①暗赤②酸化焰③粗 砂粒を含む	器面の磨耗激しい。口縁部から頸部横ナデか。	
3	土師器 甕	北東 +15	底部片	底6.7	①にぶい橙②酸化焰 ③粘土・粗砂粒含む	器面の磨耗激しい。外面ヘラ削り、内面ナデ。底部平底、ヘラ調整。	
4	土師器 甕	北東隅 +25	口～胴 欠	口(21.8)	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒を含む	長胴甕と思われる。胴部外面斜縦方向のヘラ削り。口縁部強い横ナデ、器面の磨耗あり。	

## 2号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	南東 ±0	口縁 一部欠	口12.0 高3.4	①にぶい橙②酸化焰 ③中砂粒を含む	体部は緩やかに湾曲。口唇部から内面横ナデ、外面体部横方向のヘラ削り、底部手持ちヘラ削り。	
2	土師器 坏	南東 ±0	完形	口11.4 高3.6	①橙②酸化焰③細砂 粒を含む	体部は緩やかに湾曲。口唇部から内面横ナデ、外面体部横方向のヘラ削り、底部手持ちヘラ削り。	
3	土師器 坏	南東 ±0	完形	口11.8 高3.5	①橙②酸化焰③細砂 粒を少量含む	体部は緩やかに湾曲。口唇部から内面横ナデ、外面体部横方向のヘラ削り、底部手持ちヘラ削り。	
4	土師器 坏	南東 ±0	完形	口11.8 高3.8	①にぶい橙②酸化焰 ③中砂粒を含む	口唇部から内面横ナデ、外面体部横方向のヘラ削り、底部手持ちヘラ削り。	
5	土師器 坏	かまど左 脇±0	口縁 一部欠	口13.2 高4.9	①暗褐②酸化焰③粗 砂粒を含む	やや深身。口唇部から内面横ナデ、外面体部横方向のヘラ削り、底部不定方向のヘラ削り。	
6	須恵器 坏	南東 ±0	完形	口9.9 高3.4 底8.2	①灰②還元焰、良好 ③粗・中砂粒少含有	轆轤整形、切り離し後腰部から底部手持ちのヘラ削り。	
7	土師器 甕	南東 +3	口～胴 欠	口18.0	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒を含む	長胴甕と思われる。口縁部内外面横ナデ、胴外面縦方向のヘラ削り・内面ナデ。器面の磨耗あり。	

DN区住居跡出土遺物

3号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	鉄 鉄	南西 +5	柄一 部欠	<計測値>長8.7、幅3.2、厚0.5、重18.5		<特徴>刃部やや湾曲。鎌身側縁部面取り。茎部角柱状を呈する。圭頭斧箭鏃。	
2	土 師 器 甕	かまど前 ±0	ほぼ完 形	口24.3高33.6 底3.8	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒を多く含む	口縁部は大きく開く。内面及び口縁部横ナデ、胴外面上半縦・下半斜縦方向へラ削り。内面ナデ痕。	二次焼成
3	土 師 器 甕	かまど付 近±0	ほぼ完 形	口21.2高35.0 底5.2	①橙②酸化焰③粗砂 粒を含む	口縁部の開きは小さい。内面及び口縁部横ナデ、胴外面縦方向のへラ削り。内面ナデ・接合痕残す。	二次焼成
4	石 製 品 砥 石	覆土	完形	<計測値>長17.8、幅8.3、厚3.7、重850.8	<石材>砥沢石	<特徴>大型の偏平な剥片に粗雑な調整を加えて使用。仕様面は二面。筋状痕は、細い棒状の先端部を研いだものか。	

4号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土 師 器 坏	南西 +4	口~底 ½	口(12.9) 高4.5	①にぶい黄橙②酸化 焰③粗砂粒を含む	口縁部は横ナデ、体部との境稜をもつ、内面横ナデ底部へラ削り。	
2	土 師 器 坏	南東 +30	口~体 ½	口(13.6)	①にぶい橙②酸化焰 ③中砂粒を含む	口縁部は横ナデ気味。体部との境に稜を持つ。内面横ナデ、底部手持ちへラ削り。器面の磨耗あり。	
3	須 恵 器 坏 身	南西 +19	口~底 ½	口(13.6) 高4.5	①灰②還元焰③細 砂・黒色鉱物粒含	口縁部は内傾気味。轆轤整形、底部に回転へラ削り調整が施される。	
4	石 製 品 砥 石	かまど付 近+1	完形	<計測値>長16.4、幅12.0、厚3.5、重770.1	<石材>凝灰質砂岩	<特徴>板状の石材で使用面は2面。使用面は全面に及ばず、一部で平滑化する。筋状痕跡は、棒状の研磨痕。	
5	土 師 器 甕	南東中央 +12	口縁部 ½	口(19.6)	①にぶい橙②酸化焰 ③中砂粒を含む	口縁部直立気味、横ナデ。胴部は大きく膨らむ。	
6	土 師 器 甕	かまど内 +18	底部片	底8.0	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒少量含有	安定の悪い底部。内面ナデ・へラ当て痕を残す。	
7	土 師 器 甕	南東隅 +7	口~胴 上半部	口20.0	①にぶい橙②酸化焰 ③中砂粒を含む	口縁部横ナデ。胴部が大きく膨らむ。横方向へラ削り、内面横ナデ。口縁部外面に接合痕。	
8	土 師 器 甕	かまど前 +21	口~胴 ½	口(21.4)	①にぶい黄褐②酸化 焰③粗砂粒含む	口縁部外反。口縁部から内面横ナデ、胴外面縦方向のへラ削り。	

5号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	石 製 品 紡 錘 車	西壁 -3	ほぼ完 形	<計測値>上4.5、下2.9、厚1.8、孔0.8、重52.5	<石材>滑石質蛇紋岩	<特徴>狭面と側面の一部に顕著な磨滅が認められ、光沢をもつ。側面には、加工痕を残す。	
2	土 師 器 坏	北西隅 -1	完形	口14.4 高4.2 底10.0	①橙②酸化焰③粗砂 粒を含む	口縁部から内面横ナデ、体部外面横方向のへラ削り、底部渦巻状へラ削り。器面の磨耗あり。	
3	土 師 器 甕	西壁 +13	口~胴 部片	口(19.4)	①明赤褐②酸化焰③ 細砂粒を含む	口縁部へラ削り後横ナデ。胴外面横方向のへラ削り。口縁部外面接合痕を残す。	
4	土 師 器 甕	かまど前 +2	口~胴 上半部	口20.7	①にぶい赤褐②酸化 焰③中砂粒含有	口縁部緩やかに外反。口縁部から内面横ナデ、胴外面横・斜縦方向のへラ削り。	

6号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土 師 器 坏	かまど付 近+15	口縁片	口(12.7)	①にぶい褐②酸化焰 ③細砂粒を含む	体部に強い稜をもつ。口縁部及び内面横ナデ、底部へラ削り。	
2	土 師 器 坏	北東 +9	口~体 部片	口(14.8)	①褐灰②酸化焰③中 砂粒を含む	体部に強い稜をもつ。口縁部及び内面横ナデ、底部へラ削り。器面の磨耗あり。	
3	土 師 器 甕	南西 +9	口縁部 ½	口(23.3)	①橙②酸化焰③粗砂 粒を含む	胴部は大きく膨らむ。口縁部及び内面横ナデ、胴外面へラ削り。器面の磨耗激しい。	
4	石 器 磨 石	北東 +1	½	<計測値>長26.0、幅14.0、厚10.5、重5200.0	<石材>粗粒安山岩	<特徴>半円形、表面平滑。	

## 7号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 高坏	ピット2 覆土	脚部片	口一 高一 底一	①橙②酸化焰③細砂 粒を含む	内面横ナデ、接合痕を残す。器面の磨耗あり。	
2	土師器 甕	南東隅 +3	底部片	底5.2	①赤褐②酸化焰③粗 砂粒を含む	やや安定感に欠ける。胴外面ヘラ削り、内面ナデ。 器内厚い。	

## 9号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	南西中央 +8	1/2	口(12.5) 高4.7	①にぶい橙②酸化焰 ③細砂粒を含む	体部に稜を残す。口縁及び内面横ナデ、底部不定 方向のヘラ削り。器面の磨耗あり。	
2	土師器 坏	南東隅 +11	ほぼ完 形	口11.2高4.2	①橙②酸化焰③細砂 粒を含む	体部に稜を残す。口縁及び内面横ナデ、底部手持 ちヘラ削り。器面の磨耗激しい。	
3	土師器 小型甕	かまど前 -1	完形	口11.8高11.1 胴12.4	①橙②酸化焰③粗砂 粒を含む	口縁及び内面横ナデ、胴外面斜縦方向のヘラ削り。 やや丸底気味の底部。	
4	土師器 台付甕	かまど西 +2	脚台欠	口13.4	①灰黄②酸化焰③細 砂粒を含む	口縁及び内面横ナデ、胴外面横方向のヘラ削り。 頸部内外面接合痕。器面の磨耗あり。	
5	土師器 小型甕	南付近 +5	口~胴 一部欠	口12.8高16.2 底5.7	①明赤褐②酸化焰③ 粗砂粒を多く含む	内面及び口縁部横ナデ、胴外面縦方向のヘラ削り。	
6	土師器 台付甕	貯蔵穴内 +5	ほぼ完 形	口18.2高18.2 底11.0	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒を多く含む	口縁及び脚端部横ナデ、胴内面ナデ・ヘラ当て痕、 胴外面斜縦ヘラ、脚外面縦・内面横ヘラ削り。	
7	土師器 甕	かまど内 +2	胴中~ 底部	底4.6	①黒褐②酸化焰、良 好③粗砂粒多く含む	胴外面上位縦方向、下位横・斜縦方向のヘラ削り、 内面粗い横ナデ。	
8	土師器 甕	貯蔵穴内 +10	口~胴 一部欠	口19.5 高25.2	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒を多く含む	胴部の膨らみ少なく、底部は丸底気味。口縁から 内面横ナデ、胴外面縦方向ヘラ削り。	頸部に指頭 痕あり
9	土師器 甕	南 +18	胴1/2欠	口14.4高19.6 底8.6	①橙②酸化焰③細砂 粒を含む	わずかに開く口縁部。口縁及び内面横ナデ、胴外 面横・斜縦方向のヘラ削り。器面の磨耗あり。	
10	土師器 甕	かまど東 側+9	1/2	口(23.0)高 26.1底(8.8)	①橙②酸化焰③粗砂 粒を含む	胴部はわずかに膨らむ。口縁及び内面横ナデ、胴 外面縦方向のヘラ削り。器面の磨耗あり。	甕に転用か
11	土師器 甕	中央東壁 寄り+2	胴~底 1/2欠	口21.0高29.9 底(8.8)	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒を含む	胴部は膨らみ、口唇部に段あり。口縁から内面横 ナデ、胴外面上位斜縦・下位横方向ヘラ削り。	
12	土師器 甕	かまど前 +2	ほぼ完 形	口21.6高38.0 底4.6	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒を多く含む	口縁部くの字に外反。胴外面斜縦・縦方向のヘラ 削り、内面粗い横ナデ、口縁部内外面横ナデ。	内面ナデ痕 顕著
13	土師器 甕	中央付近 +6	口~胴 一部欠	口21.2高38.3 底4.2	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒を含む	口縁部くの字に外反。胴外面斜縦・縦方向のヘラ 削り、内面横ナデ、口縁部内外面横ナデ。	
14	土師器 甕	かまど前 +11	口~胴 一部欠	口19.1高35.0 底3.3	①赤褐②酸化焰③粗 砂粒を多く含む	口縁内外面横ナデ、胴外面縦・斜縦方向のヘラ削 り、内面横ナデ。口縁部の歪みあり。	
15	土師器 甕	かまど前 -8	胴部 一部欠	口21.4高38.5 底4.6	①橙②酸化焰③粗砂 粒を多く含む	口縁部くの字に外反。胴外面斜縦・縦方向のヘラ 削り、内面横ナデ、口縁部内外面横ナデ。	器面の磨耗 あり
16	土師器 甕	中央付近 +6	底部欠	口20.7	①にぶい黄褐②酸化 焰③粗砂粒多	口縁部外反、内外面横ナデ、胴外面縦・斜縦方向 のヘラ削り、内面粗い横ナデ。	
17	土師器 甕	中央東 +1	胴上~ 底部	底5.3	①にぶい赤褐②酸化 焰、良好③粗砂粒含	胴外面上位縦方向、下位横・斜縦方向のヘラ削り、 内面粗い横ナデ。底部木葉痕。	
18	須恵器 甕	南壁寄り +1	胴部 1/2欠	口19.7高23.5 胴23.6	①灰白②還元焰、良 好③中砂粒を含む	安定の悪い底部、口縁二段。轆轤整形、胴外面に 平行タタキ目、内面に青海波文の当て板痕。	
19	土師器 甕	北壁中央 +1	口~胴 中位	口19.8	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒を多く含む	口縁部くの字に外反。口縁内外面横ナデ、胴外面 縦方向のヘラ削り、内面粗い横ナデ。	器面の磨耗 あり
20	石製品 砥石	南東中央 +2	完形	<計測値>長27.0、幅8.5、厚7.2、重3350.0<石材>硬質泥岩<特徴>円礫(河原石)か ら削り出した角柱状の素材の上下二面(自然面)を使用面とし、片面は顕著に平滑化。			

## 10号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 甕	東壁 +2	口縁部 片	口(17.0)	①にぶい橙②酸化焰 ③細砂粒を含む	器肉が薄い。口縁から内面横ナデ、胴外面横方向 のヘラ削り。	
2	土師器 甕	貯蔵穴内 +11	口~胴 上1/2	口(21.2)	①にぶい褐②酸化焰 ③粗砂粒を含む	口縁部短く外反、口唇部に段。口縁及び内面横ナ デ胴外面縦方向のヘラ削り。	

## D N区住居跡出土遺物

## 11号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	かまど前 +8	体部小 片	口(12.4)	①にぶい橙②酸化焰 ③中砂粒を含む	口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。丸底。器面の磨耗 が激しい。	
2	土師器 脚台付盤	かまど北 壁±0	脚部	脚9.2	①赤褐②酸化焰③細 砂粒を含む	脚部は大きく開く。器面の荒れ激しい。脚部外面 ヘラ削り痕か。	

## 12号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 甔	かまど前 +27	ㄨ	口(14.6)高 13.9 底(5.2)	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒を含む	口縁及び内面横ナデ、胴外面縦方向のヘラ削り(一 部横)。器面の磨耗あり。口唇部下に孔あり。	

## 13号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	かまど中 央+6	ㄨ	口(12.8)	①にぶい橙②酸化焰 ③中砂粒を含む	体部に弱い稜を残す。口縁及び内面横ナデ、底部 ヘラ削りか。器面の磨耗あり。	
2	土師器 甔	かまど前 +3	底部片	底8.0	①赤褐②酸化焰③細 砂粒を含む	やや安定の悪い底部。器面の磨耗激しい。	
3	土師器 小型甔	北西壁寄 り+8	胴一部 欠	口16.6高12.0	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒を含む	口縁わずかに開く。口縁及び内面横ナデ、胴外面 横方向のナデ。	
4	土製品 土錘	南西隅 +11	ほぼ完 形	長2.5 幅2.1 孔0.6	①にぶい橙②普通③ 中砂粒を含む	断面台形状を呈し、孔は上部から穿たれたと思わ れる。	
5	土師器 甔	かまど前 ±0	胴一部 欠	口25.6 高31.4底11.1	①にぶい橙②普通③ 細砂粒を含む	口縁部わずかに外反。口縁及び内面横ナデ、胴外 面縦方向のヘラ削り。	
6	石製品 砥石	南壁 +1	ほぼ完 形	<計測値>長20.2、幅11.8、厚2.9、重805.0<石材>砂岩<特徴>欠損品を再利用。一 面使用、わずかな平滑面と筋状の使用痕を残す。縁辺部の角もなんらかの使用が認めら れる。			

## 14号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	南西 +13	ㄨ	口11.6 高3.5 底(8.0)	①橙②酸化焰③粗砂 粒を少量含む	口唇部及び内面横ナデ、体部・底部ヘラ削り。底 部平底。器面の磨耗あり。	
2	土師器 坏	南西 +16	ㄨ	口(12.4)高3. 7 底8.6	①浅黄橙②酸化焰③ 細砂粒僅かに含む	表面磨滅。口縁部横ナデ、体部・底部ヘラ削り。 底部平底。	
3	土師器 坏	南西 +20	ㄨ	口(13.5)	①にぶい黄橙②酸化 焰③細・粗砂粒含む	表面磨滅。口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り。 底部平底。	
4	土師器 坏	南東 +5	ㄨ	口(11.4)高3. 5 底(7.2)	①にぶい黄橙②酸化 焰③細砂粒含む	表面磨滅。口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り。 底部平底。	
5	土師器 坏	北西 +19	口縁部 ㄨ	口13.0	①橙②酸化焰③粗砂 粒を少量含む	器面の磨耗激しい。口縁部横ナデか。	
6	土師器 坏	かまど前 +20	ㄨ	口(12.6)	①橙②酸化焰、良好 ③粗砂粒含む	口縁部横ナデ。体部ヘラ削り。内面ナデ後、暗文。	
7	須恵器 蓋	覆土	ㄨ	口15.1	①褐灰②還元焰③粗 砂粒含む	轆轤整形。口唇端部内傾、頂部回転ヘラ削り。	自然釉
8	土師器 甔	北西 +9	底部片	底(6.0)	①にぶい黄褐②酸化 焰③細砂粒含む	径の小さな底部。下半部縦方向ヘラ削り。	
9	土師器 甔	南東壁寄 り+28	下位ㄨ	底(13.4)	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒含む	胴下半部縦方向ヘラ削り、端部面取り。内面、横 方向ヘラナデ。	

## 16号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 甕	かまど周 囲+7	口~胴 1/2欠	口21.0高38.0 底4.6	①橙②酸化焰③粗砂 粒を多く含む	口縁部わずかに外反。口縁及び内面横ナデ、胴外 面縦・斜縦方向のヘラ削り。器面磨耗。	

## 18号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 甕	かまど前 ±0	口~胴 中1/2	口(20.6)	①明赤褐②酸化焰③ 粗砂粒を多く含む	口縁部わずかに外反。口縁及び内面横ナデ、胴外 面縦方向のヘラ削り。	

## 19号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	中央 ±0	体部小 片	口(14.0)	①灰黄褐②酸化焰③ 細砂粒を含む	体部に稜を残す。口縁及び内面横ナデ、底部ヘラ 削り。	
2	土師器 甕	中央西 -3	胴~底 1/2	底(10.0)	①黒褐②酸化焰③細 砂粒を含む	底部付近でわずかに屈曲。内面粗いナデ、外面縦 方向のヘラ削り。内面に接合痕。	

## 20号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	東壁 -2	口縁部 1/2欠	口(16.0)高4. 0 底(6.8)	①橙②酸化焰③細砂 粒を含む	底部平底。内面底ナデ痕顕著。器面の磨耗あり。	
2	土師器 甕	南壁 +32	底部片	底6.0	①浅黄橙②酸化焰③ 粗砂粒を含む	底外面ヘラ削り。器面の磨耗あり。	

## 21号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	東壁 +54	体部小 片	口(14.5)	①淡黄②酸化焰③粗 砂粒を含む	体部に強い稜を残す。器面の磨耗激しい。内面黒 色。	

## 22号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	西付近 +5	体部 1/2	口(13.0) 高4.1	①橙②酸化焰、良好 ③中砂粒を少量含む	口縁部で屈曲しわずかに稜を残す。口縁及び内面 横ナデ、底部ヘラ削り。	
2	土師器 坏	ピット内 +20	口縁部 1/2欠	口(15.6) 高4.9	①にぶい赤褐②酸化 焰③細砂粒含有	体部に稜を残す。大型品。器面の磨耗・剝離激し い。	
3	土師器 坏	西付近 +19	体部 1/2	口(17.4)	①褐灰②酸化焰③細 砂粒を含む	体部に強い稜を残す。大型品。口縁及び内面横ナ デ、底部ヘラ削り。	

## 23号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 甕	ピット内 +17	口縁小 片	口(25.3)	①橙②酸化焰③中砂 粒を含む	口縁及び内面横ナデ、胴外面ヘラ削り。	

## 24号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	須恵器 高台付埴	かまど前 -3	体部 1/2欠	口(13.1)高4.6 底6.1	①灰白②還元焰③中 砂粒を多く含む	轆轤整形。切り離し後、高台貼付。器面の磨耗あ り。	

D N区住居跡出土遺物

25号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 甕	南付近 +16	口縁小片	口(19.2)	①橙②酸化焰③細砂粒を含む	口縁及び内面横ナデ、胴外面斜縦方向のヘラ削り。外面指頭痕、内面接合痕を残す。	
2	土師器 小型甕	西壁 +16	口縁小片	口(12.4)	①赤褐②酸化焰③細砂粒を含む	口縁部は大きく外反。口縁及び内面横ナデ、胴外面横方向のヘラ削り。	
3	土製品 土鍾	中央付近 +1	完形	長3.3 幅1.5 孔0.5	①黒②酸化焰③細砂粒を含む	形状は中央がわずかに膨らむ円筒形。	
4	土製品 土鍾	南西 +19	完形	長4.8 幅1.6 孔0.5	①黄橙②酸化焰③細砂粒を含む	形状は中央で膨らむ円筒形を呈し、器表面の磨耗あり。	

26号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	東南隅 +12	口縁一部	口11.1 高3.6 底4.8	①オリーブ灰②還元焰③粗砂粒多含	轆轤整形。回転糸切り未調整? 体部に轆轤痕を残すが、器面の磨耗激しい。	
2	須恵器 坏	西壁寄り ±0	口縁一部欠	口11.8 高4.0 底4.8	①にぶい黄橙②還元焰③中砂粒多含有	轆轤整形。回転糸切り未調整か。体部に轆轤痕を残すが、器面の磨耗激しい。	
3	須恵器 高台付塊	南東隅 +3	口縁部欠	底5.4	①灰黄②還元焰③中砂粒を含む	轆轤整形。右回転糸切り後、高台貼付。体部に轆轤痕を残す。器面の磨耗あり。	
4	土師器 甕	かまど内 +10	口~胴 中片	口(19.3)	①橙②酸化焰③中砂粒を含む	胴部は丸味持つ。口縁及び内面横ナデ、胴外面縦方向のヘラ削り。	

27号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	須恵器 高台付塊	東かまど 内+7	1/4	口(12.5)高4.8 底(5.6)	①灰白②還元焰③中砂粒を含む	轆轤整形。糸切り後、高台貼付。轆轤痕を残す。	
2	須恵器 坏	東かまど 内+7	1/4	口(12.5)高3.9 底(5.8)	①橙②酸化焰③中砂粒を含む	轆轤整形。轆轤痕を顕著に残すが、底部調整は器面の磨耗のため不明。	
3	須恵器 羽釜	北東 +5	口縁片	口(17.8)	①にぶい褐②酸化焰③中砂粒を含む	口縁部は内傾する。内外面回転ナデが施される。鏝は貼り付けによる。	
4	土師器 甕	北かまど 前+9	口縁小片	口(19.2)	①橙②酸化焰③中砂粒を含む	口縁は外反。口縁及び内面横ナデ、胴外面ヘラ削り。	

28号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	須恵器 高台付塊	北西 +14	底部片	底5.0	①灰白②還元焰③中砂粒を含む	轆轤整形。切り離し後、高台貼付。器面の磨耗あり。	
2	須恵器 高台付塊	北西 +9	底部片	底5.6	①灰白②還元焰③中砂粒を含む	轆轤整形。右回転糸切り後、高台貼付。	

29号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	北東 +32	体部 1/2欠	口12.8 高3.5 底5.7	①にぶい橙②酸化焰③中砂粒を含む	轆轤整形。糸切りか。器面の磨耗あり。高台部剥落?	
2	灰釉陶器 塊	北東 +25	口縁小片	口(15.4)	①断面灰白②普通③堅緻	轆轤成形。施釉方法は浸け掛け。釉調は不透明な灰白色。	大原2号窯式期
3	灰釉陶器 塊	東壁 +7	口縁小片	口(15.4)	①断面灰白②良好③堅緻	轆轤成形。施釉方法は浸け掛け。釉調は透明感のあるオリーブ灰色。	大原2号窯式期
4	灰釉陶器 塊	かまど内 +6	底部 1/2	底(7.7)	①断面灰白②良好③堅緻	轆轤成形、左回転。底部・体部下位は回転ヘラ削り。浸け掛け施釉で、透明感のあるオリーブ灰色。	大原2号窯式期
5	須恵器 羽釜	東付近 +23	口縁小片	口(20.8)	①灰白②還元焰③中砂粒を含む	口縁部はやや内傾。内外面に回転ナデが施される。鏝は貼付による。	
6	鉄製品 不明	覆土	—	<計測値>長6.1、幅2.2、厚0.15、重5.2<特徴>半月形を呈し、湾曲部が薄くなり、刃部の可能性あり。			



D N区住居跡出土遺物

7	石製品 磨石	中央西 ±0	完形	<計測値>長21.6、幅12.0、厚5.5、重2200.0<石材>流紋岩<特徴>上・下・側の3面に擦面あり。		
8	須恵器 高台付埴	東壁 ±0	口縁欠	底7.0	①にぶい橙②酸化焰③中砂粒を含む	轆轤整形。右回転糸切り後、高台貼付。器面の磨耗あり。
9	須恵器 高台付埴	北土坑内 +10	体部 欠	口(13.5)高5.2 底6.4	①灰白②還元焰③中砂粒を多く含む	轆轤整形。糸切り後、高台貼付。器面の磨耗あり。

30号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	北付近 -12	体部 欠	口(12.6)高4.2 底4.3	①にぶい橙②酸化焰③粘土・中砂粒含む	轆轤整形。回転糸切りか。器面の磨耗激しい。	
2	土師器 甕	北東 -12	口縁小片	口(14.6)	①褐灰②酸化焰③中砂粒を含む	「コ」字状口縁。口縁内外面横ナデ、胴外面横方向のヘラ削り、内面刷毛目。口縁接合痕あり。	
3	須恵器 羽釜	南付近 -3	胴下半 欠	口一 高一 底一	①灰②還元焰、普通③粗砂粒を含む	外面縦方向のヘラ削り。内面回転横ナデ、指ナデ痕を強く残す。	
4	須恵器 羽釜	北付近 +10	口~胴 小片	口(19.4)	①灰白②還元焰、普通③粗砂粒少量含む	口縁は直立気味。轆轤整形か。罫は貼付による。口唇頂部、沈線。	
5	須恵器 羽釜	北付近 -10	口縁部 片	口(20.6)	①にぶい橙②酸化焰、普通③粗砂粒含む	口縁は内傾。轆轤整形か。罫は貼付による。口唇部強いナデにより、頂部沈線状に凹面つくる。	

31号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	覆土	底部片	底(5.7)	①にぶい橙②酸化焰③粗・中砂粒を含む	轆轤整形。回転糸切り未調整。器面の磨耗激しい。	
2	灰釉陶器 埴	覆土	底部小片	底(8.6)	①断面灰白②良好③堅緻	轆轤成形。施釉方法は刷毛塗りで底部中央にも一刷毛塗られている。釉調は不透明な灰白色。	光ヶ丘1号窯式期
3	須恵器 甕	南西 +35	口~胴 下欠	口(21.8)	①灰②還元焰③細・中砂粒を含む	轆轤整形。口唇部強いナデ。直立し、段を有す。頸部回転ナデ。胴部外面肩から下位回転ヘラ調整。	

32号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	南西 -4	完形	口13.7 高4.0 底6.5	①灰白②還元焰③中・粗砂粒小含有	轆轤整形。右回転糸切り後、未調整。器面の磨耗あり。	
2	須恵器 坏	南西隅 +12	口縁部 欠	口12.8 高3.8 底6.5	①灰白②還元焰、良好③中砂粒を含む	轆轤整形。右回転糸切り後、未調整。火だすき痕見られる。	
3	須恵器 坏	南西隅 +2	口縁部 欠	口13.1 高4.2 底6.2	①灰②還元焰、良好③中砂粒小含有	轆轤整形。右回転糸切り後、未調整。	
4	須恵器 坏	北西隅 +19	口縁部 欠	口12.8 高3.6 底5.8	①灰②還元焰、良好③中砂粒を少量含む	轆轤整形。右回転糸切り後、未調整。	焼きひずみ
5	須恵器 坏	南隅 +7	全体 欠	口(12.6) 高4.0底(6.2)	①灰白②還元焰③中砂粒を少量含む	口縁端部はわずかに開く。轆轤整形。左?回転糸切り後、未調整。	焼き締めが あまい
6	須恵器 坏	南西隅 ±0	底部片	底6.6	①灰②還元焰③細・中砂粒を含む	轆轤整形。右回転糸切り後、未調整。	
7	灰釉陶器 長頸瓶	南東隅 +10	頸~肩 小片	口一 高一 底一	①断面灰白②不良③堅緻	轆轤成形。外面の釉は大部分剥離し、頸部に発泡物付着。釉調は透明感のある緑灰色。	
8	土製品 土錘	南付近 +3	完形	長5.5 幅2.0 孔0.5	①暗褐②酸化焰③細砂粒を含む	形状は中央部が膨らむ円筒形。器面の磨耗あり。	
9	石製品 紡錘車	南壁 +8	一部欠 損	<計測値>上4.7、下(3.8)、厚1.6、孔0.7、重54.0<石材>滑石質蛇紋岩<特徴>断面台形状を呈し、側面に使用痕を残す。上下面は欠損している。			
10	須恵器 大甕	南 +35	胴部片	口一 高一 底一	①灰②還元焰③細砂・黒色微粒子含	外面斜格子状のタキ目、内面青海波文・当て板痕を顕著に残す。	

D N区住居跡出土遺物

33号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	北東壁 +4	口縁部 ½	口(12.8) 高4.0底(7.4)	①にぶい黄橙②酸化 焰③細砂粒を含む	器面の磨耗あり。口唇部及び内面横ナデ、底部へ ラ削りか。口縁部直線、底部平底状呈する。	
2	土師器 坏	南東 +2	口縁小 片	口(13.6)高3.9 底(10.6)	①橙②酸化焰③細砂 粒を含む	器面の磨耗あり。口縁及び内面横ナデ、体・底部 へラ削りか。	
3	須恵器 高台付坏	北西 +19	底部 ½	底(8.2)	①灰②還元焰③細 砂・黒色微粒子含	轆轤整形。へラ調整後、高台貼付。轆轤痕を残す。 堅緻。	
4	須恵器 蓋	北西壁 +2	端部欠	摘5.8	①灰②還元焰③細砂 粒を含む	轆轤整形。回転へラ調整後、摘貼付。内面轆轤痕 を残す。	
5	土師器 甕	北東隅 -1	口縁部	口21.6	①にぶい橙②酸化焰 ③細・中砂粒を含む	口縁直立気味。胴部は大きく膨らむ。口縁及び内 面横ナデ、胴外面へラ削り。内外面に接合痕。	
6	土師器 小型甕	南付近 +11	口~胴 上½	口(14.2)	①明赤褐②酸化焰③ 細・中砂粒を含む	胴部は膨らむ。口縁及び内面横ナデ、胴外面斜縦 方向のへラ削り。内面接合痕。	
7	土師器 甕	煙道部先 端-33	口~胴 中½	口27.0	①黒・暗褐②酸化焰 ③細・中砂粒を含む	口縁外反。口縁及び内面横ナデ、胴縦・斜縦方向 のへラ削り。口縁接合痕。	
8	石器 磨石	中央 +13	½	<計測値>長8.9、幅6.3、厚5.7、重461.7<石材>粗粒安山岩<特徴>丸味を持つ三角 形状を呈し、三面に磨面見られる。			
9	土師器 甕	中央 -1	口~胴 下½	口21.0	①にぶい赤褐②酸化 焰③細砂粒多含有	器肉は薄く、口縁「く」字状に外反。口縁及び内面 横器面の磨耗ナデ、胴外面縦へラ削り。	器面の磨耗 あり

34号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	須恵器 高台付埴	南西壁 ±0	底部 ½	底(6.6)	①にぶい橙②酸化焰 ③細砂粒を含む	轆轤整形。回転糸切り後、高台貼付。轆轤痕を残 す。	

35号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 鉢	北東隅 +41	½	口(21.4) 高9.8	①にぶい橙②酸化焰 ③中・粗砂粒少含有	体部に稜を残す。口縁及び内面横ナデ、体部外面 不定方向のへラ削り。内面放射状暗文。	
2	土師器 甕	北西 -1	口~胴 上½	口23.1	①明赤褐②酸化焰 ③粗砂礫を多く含む	口縁部は大きく開く。口縁及び内面横ナデ、胴部 縦方向のへラ削り。	
3	土師器 甕	北西 ±0	口~胴 中	口23.0	①橙②酸化焰③粗砂 粒を多く含む	口縁及び内面横ナデ、胴外面斜縦方向のへラ削り。 器面の磨耗あり。	
4	土師器 小型甕	南西 +2	½	口12.0高13.0	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒を含む	口縁直立気味、球胴を呈す。口縁及び内面横ナデ、 胴外面へラ削りか。器面の磨耗激しい。	
5	土師器 甕	北西 -3	口½ 欠	口24.5高27.0 底11.1	①橙②酸化焰③細・ 粗砂粒を含む	口縁は大きく開き、長胴を呈す。口縁及び内面横 ナデ。胴下位横・上位縦方向のへラ削り。	
6	土師器 甕	かまど西 +4	口~胴 下½	口(21.4)	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒を含む	口縁及び内面横ナデ、胴部縦方向のへラ削り。	
7	土師器 甕	南西 +1	ほぼ完 形	口22.2 高30.5	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒を多く含む	球胴の丸底。口縁及び内面横ナデ、胴外面斜縦方 向のへラ削り。器面の磨耗激しい。	
8	石製品 砥石	覆土	端部欠	<計測値>長17.3、幅6.4、厚5.4、重911.4<石材>流紋岩<特徴>使用面は四面で、平 滑化している。上面と端部面に筋状の使用痕を残す。			
9	石製品 砥石	中央 +2	端部欠	<計測値>長13.8、幅6.0、厚2.9、重201.3<石材>砥沢石<特徴>使用面は二面認めら れ、平滑化している。下面が剝落したのか。煤の付着あり。			

## 37号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	ピット内 +11	ほぼ完 形	口11.9 高3.8	①橙②酸化焰③中・ 粘土砂粒少含有	安定の悪い底部。口縁横ナデ、体部内外面に指頭 痕を残す荒いナデ、粗雑な作り。器面の磨耗あり。	
2	須恵器 高台付坏	中央 +4	体部小 片	口(13.6)	①灰白②還元焰、普 通③粗砂粒少量含む	口唇部は大きく開き、身は浅い。轆轤整形。内外 面に轆轤痕を残す。	
3	土師器 坏	ピット内 -2	欠	口(12.2)	①橙②酸化焰③粗砂 粒を含む	安定の悪い底部。口縁横ナデ、体部内外面に指頭 痕を残し、粗雑な作り。器面の磨耗あり。	
4	須恵器 高台付坏	ピット内 -5	体部 欠	口(14.7)	①にぶい橙②酸化焰 ③細砂粒を含む	丸い底部に高台を貼付痕。外面ナデ、内面研磨後 内黒処理。	内黒土器

## 38号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	かまど前 +3	ほぼ完 形	口10.7高5.1	①にぶい橙②酸化焰 ③中砂粒を少量含む	口縁及び内面横ナデ。体部が弱い稜をもつ。底部 ヘラ削りか。器面の磨耗あり。	

## E区住居跡出土遺物

## E区住居跡出土遺物

## 22号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	南東部 埋設	胴上～ 底	①橙②普通 ③砂粒を含む	胴上半部でくびれる。くびれ部上位に2本の平行した横位の沈線(半載竹管)が施され、下半は無文。沈線区画内に縦位の沈線が一ヶ所ある。輪積み痕一部顕著。	堀之内2式 埋設土器
2	縄文土器 深鉢	炉内 埋設	胴部片	①浅黄橙②普通 ③粗砂粒を含む	丸味のある胴部を有す。脆弱化が著しく、器面の磨耗激しい。残存する胴下半部は無文で、器内は薄い。	堀之内2式 炉体土器
3	縄文土器 深鉢	炉内 埋設	胴部片	①橙②普通 ③粗砂粒を含む	わずかに丸味のある胴部を有す。脆弱化のため、器面の磨耗激しい。残存する胴下半部に文様はない。	堀之内2式 炉体土器か
4	縄文土器 深鉢	北 ±0	口縁片	①暗赤褐②普通 ③砂粒を含む	波状口縁の把手部、口唇内傾。外面半載竹管による沈線区画文、口唇頂部に沈線が巡り、把手部に円孔。把手内面に円形刺突。脆弱化。	称名寺式～ 堀之内1式
5	縄文土器 深鉢	炉左脇 ±0	口縁片	①暗褐②普通 ③粗砂粒を含む	突起部を有す平縁口縁片で、口唇は内傾。頸部に横位沈線。内面口唇直下は、沈線状にくぼむ。器面の磨耗あり。	堀之内2式
6	縄文土器 深鉢	覆土	口縁片	①橙②良好 ③砂粒を含む	口唇直下に半載竹管による沈線が横位に施される。無文地。	堀之内2式
7	縄文土器 深鉢	北壁 ±0	口縁片	①黒褐②普通 ③砂粒を少量含む	RL縄文を地文とし、横位の沈線区画内に三角または菱形の沈線文が充填されると思われる。胴上半部の文様帯。器内薄い。	堀之内2式
8	縄文土器 深鉢	覆土	胴部片	①黒褐②普通 ③砂粒を含む	RL縄文を地文とし、沈線による曲線的な区画文が描かれる。区画内を磨り消す部分とそうでない部分がある。器内薄い。	堀之内2式
9	縄文土器 深鉢	南西隅	口縁片	①黒褐②普通 ③砂粒を多く含む	口唇下に半載竹管による沈線が2本横位に施され、区画される。無文地。器面の磨耗激しい。	称名寺式か
10	縄文土器 深鉢	住居外北	底部	①にぶい赤褐②脆弱 ③粗砂粒を含む	眼鏡状突起を横位隆帯下端に置き、懸垂する隆帯で区画文を配す。区画内は平行沈線と多載竹管の連続刺突文が施される。	勝坂3式
11	縄文土器 深鉢	西 ±0	底部片	①暗褐色②普通 ③砂粒を含む	平底から、内傾気味に立ちあがる。無文で、網代痕はない。	堀之内2式
12	凹石	覆土	完形		<計測値>長11.2、幅6.9、厚2.8、重275.0<石材>安山岩<特徴>自然石の円礫か、二次火熱を受け剥離あり。広面の二面に1～2のくぼみあり。	
13	凹石	南壁やや 左±0	完形		<計測値>長6.9、幅6.5、厚4.8、重257.0<石材>安山岩<特徴>小振りの自然石円礫を使用。顕著なくぼみは、一面のみ。二次火熱を受ける。	
14	凹石	南東 ±0	完形		<計測値>長12.1、幅8.6、厚4.0、重613.0<石材>安山岩<特徴>自然石円礫使用。広面の二面に二個のくぼみがあり、両面とも磨り面認められる。二次火熱により縁辺部剥離。	
15	打製石斧	南壁やや 左±0	完形		<計測値>長16.2、幅7.4、厚2.9、重368.0<石材>安山岩<特徴>中央のくびれが少ない分銅状を呈し、自然面を残す剥片石器。下端部に使用痕をよく残す。	
16	磨石	西壁外	完形		<計測値>長10.0、幅9.2、厚6.6、重904.0<石材>安山岩<特徴>自然石の円礫使用。広面の二面が平滑化している。	

## 46号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	炉内 埋設	頸～底	①明赤褐②普通 ③粗砂粒を含む	円い胴部は、頸部でくびれる。内面はよく研磨される。RL縄文を地文とするが、二次焼成を強く受け、剥落が著しい。地文は一部磨り消されている。文様は、縦位に4分割する「Y」字状の沈線垂下文とその間を埋める沈線垂下文からなる。沈線はいずれも半載竹管による。「Y」字状の垂下文は分岐部に円形刺突があり、中心に列点文があるものとなないものがある。「Y」字部の上側は粘土の貼り付けにより隆起させている。間隙の垂下文は枝分かれする渦巻文や沈線区画内に列点文、所々に円形刺突が施されている。また、単独の渦巻文もある。胴下位は無文地か。	炉体土器 (内側) 胴内面下半 は火熱により 黒色化 堀之内1式
2	縄文土器 深鉢	炉内 埋設	胴上半	①橙②普通 ③粗砂粒を含む	胴部は膨らみ、内面はよく研磨される。文様はRL縄文を地文とし、半載竹管による3本の沈線文は、弧や渦巻文を描いている。地文は、一部磨り消され、文様下位は無文地でよくナデられている。内面下半部は火熱により黒色化している。	炉体土器 (外側) 堀之内1式
3	縄文土器 深鉢	北西 ±0	胴部片	①黄橙②普通 ③粗砂粒を含む	胴部は丸い。文様は、沈線による垂下文と三角文が描かれ、三角文内にはRL縄文が充填される。	関連遺物か 堀之内1式
4	縄文土器 深鉢	北 ±0	口縁片	①褐灰②普通 ③砂粒を含む	無文の口縁部片で、大きく外反する。	堀之内1式

## E区住居跡出土遺物

5	縄文土器 深鉢	炉脇 ±0	口縁片	①にぶい橙②普通 ③砂粒を含む	口唇部が屈曲し、口唇直下が沈線状にくぼむ。縦位の粘土紐貼付文が垂下する。口唇直下「8」字文か。脆弱化し、器面の磨耗激しい。	堀之内1式
6	縄文土器 深鉢	北東 ±0	胴部片	①橙②普通 ③砂粒を含む	無文地に2本の沈線(半截竹管)が縦位に描かれる。	堀之内1式
7	縄文土器 深鉢	北西 ±0	胴部片	①にぶい黄橙②普通 ③砂粒を含む	横位の半截竹管による沈線が3条。脆弱化し、器面の磨耗激しい。	堀之内1式
8	縄文土器 深鉢	覆土	胴部片	①浅黄橙②普通 ③砂粒を含む	R L縄文を地文とし、半截竹管による沈線文が描かれる。沈線は2重の円や緩やかな弧である。脆弱化し、器面の磨耗激しい。	堀之内1式
9	縄文土器 深鉢	北 ±0	胴部片	①黄橙②普通 ③砂粒を含む	胴部は丸い。文様は、沈線による垂下文と三角文が描かれ、三角文内にはR L縄文が充填される。	関連遺物か 堀之内1式
10	縄文土器 鉢	北 ±0	底部片	①黒褐②普通 ③砂粒を含む	緩やかに立ち上がる胴部は無文。内外面とも研磨か。	堀之内1式
11	縄文土器 深鉢	北 ±0	底部片	①にぶい橙②普通 ③砂粒を含む	胴部は無文で、底部に網代痕を残す。	堀之内1式
12	凹石	北 ±0	ほぼ完形	<計測値>長14.7、幅5.3、厚3.9、重538.0<石材>結晶片岩<特徴>棒状の自然石(河原石)を使用、上下面に3~4の使用痕を残す。端部は敲石としても使用か。		
13	打製石斧	南東 遺構外	ほぼ完形	<計測値>長17.4、幅3.9、厚3.6、重416.0<石材>黒色頁岩<特徴>全体に厚手づくり。下端部は使用痕が顕著で、石槌として使っている。		関連遺物か
14	凹石	北東 ±0	ほぼ完形	<計測値>長8.7、幅8.6、厚4.5、重474.0<石材>角閃石安山岩<特徴>自然石の円礫使用。上下面に2~3の孔が認められ、磨石として上下・側面とも使用。上下面の平滑化顕著。		

## 47号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	覆土	口縁片	①にぶい橙②普通 ③砂粒を含む	口縁把手部。内面に鶏冠状の裝飾把手を有し、内傾する口唇部は沈線や円形刺突が施される。外面にも円形刺突。器面の磨耗激しい。	称名寺II式
2	縄文土器 深鉢	ビット6脇 ±0	口縁片	①にぶい赤褐②普通 ③砂粒を含む	口縁把手部。外面口唇下に沈線、把手頂部に「8」字状の貼付文。口唇部内面粘土紐の貼付文、円形刺突文。器面の磨耗激しい。	堀之内1式
3	縄文土器 深鉢	ビット6内	底部片	①暗赤褐②普通 ③砂粒を含む	器内の厚い底部を有す。無文、網代痕はない。器面の磨耗激しい。	堀之内1式

## 50号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	南 ±0	胴部片	①にぶい橙②普通 ③砂粒を含む	横位の太い隆帯文が貼付される。脆弱化し、器面の磨耗激しい。	称名寺II式
2	縄文土器 深鉢	南 ±0	胴部片	①赤褐②普通 ③砂粒を含む	斜位沈線と刺突文が施される。器面の磨滅激しい。	堀之内1式
3	磨石	北 ±0	完形	<計測値>長9.5、幅8.6、厚7.0、重734.0<石材>安山岩<特徴>球状の自然石が用いられる。帯状に使用痕が残され、平滑化している。		

## 53号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	覆土	口縁片	①にぶい褐②普通 ③砂粒を含む	口唇部下に刻み目をもつ横位の隆帯と「8」字文が貼付され、胴部は沈線による三角文内に縄文が充填される。	堀之内2式
2	縄文土器 深鉢	南西 ±0	胴部片	①暗褐②普通 ③砂粒を含む	剝落しているが横位の細い隆帯があり、その下位にR L縄文が充填され横位の沈線区画が描かれる。	堀之内2式
3	縄文土器 深鉢	覆土	口縁片	①にぶい黄橙②普通 ③砂粒を含む	有段の内傾する口唇部をもつ。無文。脆弱化が進み、器面の磨耗激しい。	堀之内2式
4	縄文土器	炉前 ±0	把手部	①にぶい黄橙②普通 ③砂粒を少量含む	注口土器把手か。縁部に沿って細い沈線が巡る。	堀之内2式
5	縄文土器 深鉢	南西壁際 ±0	胴~底 1/2	①赤褐②普通 ③砂粒を少量含む	やや上げ底気味の底部は網代痕を残す。胴下半部は横位沈線で分帯し、3条の沈線が弧を描く。内外面とも研磨。	堀之内2式
6	磨石	東壁際	完形	<計測値>長6.1、幅5.0、厚5.0、重221.0<石材>安山岩<特徴>自然石の円礫を使用。全面使用と思われるが、側面の使用痕顕著。		
7	凹石	中央 ±0	ほぼ完形	<計測値>長17.5、幅7.3、厚3.1、重337.0<石材>安山岩<特徴>強い二次火熱のため脆弱化し、亀裂が生じている。上下面に1~2の孔を有す。磨石としても使用か。		

E区住居跡出土遺物

8	磨石	炉前 ±0	完形	<計測値>長8.0、幅5.5、厚4.4、重248.0<石材>安山岩<特徴>自然石の円礫を使用。二次火熱による亀裂がある。一面のみが平滑化している。	
9	磨石 (敲石)	炉前 ±0	片	<計測値>長7.3、幅7.5、厚4.3、重315.0<石材>安山岩<特徴>自然石の円礫を使用。上下面にわずかな使用痕が認められる。	
10	磨石	南西壁際 ±0	完形	<計測値>長7.2、幅6.5、厚4.8、重305.0<石材>安山岩<特徴>自然石の円礫を使用。上下面の一部に平滑面がある。	

57号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	西 ±0	口縁片	①橙②普通 ③砂粒を少量含む	口縁部大破片。僅かに内傾気味に直立する器形を呈す。口縁下に押圧による連鎖状隆帯が横位に貼付される。	称名寺Ⅱ式 炉体土器
2	縄文土器 深鉢	西 +5	口縁片	①橙②普通 ③砂粒を含む	口縁部大破片。直立する器形を呈す。口縁下に押圧による連鎖状隆帯を巡らし、2条の沈線が垂下する。	称名寺Ⅱ式
3	縄文土器 深鉢	炉西 +4	口縁片	①にぶい橙②普通 ③粗砂粒を含む	口縁下の横位連鎖状隆帯。器面は内外面とも磨滅。	称名寺Ⅱ式
4	縄文土器 深鉢	東 +11	口縁片	①赤褐②普通 ③砂粒を含む	口縁下の横位連鎖状隆帯。押圧は斜位に施し、深い。	称名寺Ⅱ式
5	縄文土器 深鉢	北壁 +10	口縁片	①赤褐②普通 ③砂粒を含む	口縁下に1条の沈線を横位に施し、2条1組の沈線が垂下する。横位沈線に間隔を狭めて浅い沈線が平行するが判然としない。	称名寺Ⅱ式
6	縄文土器 深鉢	炉 +14	口縁片	①橙②普通 ③粗砂粒少量含む	口縁下に微隆線を巡らし、その下位に小型の円形刺突が沿う。内外面とも器面磨滅。	称名寺Ⅱ式
7	縄文土器 鉢	東 +15	口縁片	①赤褐②普通 ③砂粒を含む	外傾気味の口縁下に太い沈線を平行させる。おそらく間隔をおいて下位にも施文され幅狭の施文域を区画する。区画内は無文。	称名寺Ⅱ式
8	縄文土器 深鉢	炉 +15	胴部片	①暗赤褐②普通 ③細砂粒を含む	微隆線による渦巻文。モチーフ外縁を沈線が縁取るのか。磨り消し部と施文部に分けられるが規則性は薄れる。器厚は薄い。	称名寺Ⅱ式
9	縄文土器 深鉢	炉内 埋設	胴～底 1/2	①にぶい橙②普通 ③中砂粒を含む	文様は無文。胴下半縦方向ナデ後、磨り消し?胴部下位、埋設部の上3～4cm二次焼成帯。内面同レベルで変色。底部木葉痕。	称名寺式炉 体土器
10	縄文土器 深鉢	東 +16	底部片	①黄橙②普通 ③砂粒を少量含む	緩やかに立ち上がり、大きく開く底部形態。外面は荒れている。	称名寺式?
11	磨製石斧	炉西 +15	ほぼ完 形	<計測値>長7.5、幅5.7、厚2.0、重94.6<石材>硬質泥岩<特徴>撥状を呈する。片面磨き、片面剝離。側縁部薄い。面取り状の磨面あり。		
12	凹石	西壁 -3	完形	<計測値>長9.7、幅6.4、厚4.0、重408.2<石材>閃緑岩<特徴>両面磨面あり。両面中央部に2個と1個の凹みあり。		
13	凹石	炉東 +5	ほぼ完 形	<計測値>長13.4、幅7.8、厚4.0、重565.6<石材>粗粒安山岩<特徴>両面に磨面あり。両面中央部に凹みある。全体に亀裂見られる。		
14	スクレイパー	東壁 +13	完形	<計測値>長7.5、幅4.5、厚1.4、重77.0<石材>硬質泥岩<特徴>刃部弧状を呈する。		

58号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	覆土	突起部	①褐②普通 ③砂粒を含む	内面から上方に貫孔する中空状突起。下端を刻みを付す隆線が巻き、中位より隆線が垂下する。内面孔の両脇にも小孔有り。	堀之内2式 終末段階
2	縄文土器 深鉢	北東 +19	口縁片	①にぶい橙②普通 ③砂粒を含む	口唇部に恐らく2ヶ1対の小突起を付す。下位には刻みを施す隆線が巡る。内面4条の平行沈線が口縁部を巡る。器面磨滅。	堀之内2式 終末段階
3	縄文土器 深鉢	覆土	口縁片	①にぶい褐②普通 ③粗砂粒を含む	胴部に緩やかな膨らみを持たせる。口縁部内外面に沈線が巡る。他は無文。	堀之内2式 終末段階
4	縄文土器 深鉢	南東 +9	口縁片	①にぶい黄橙②普通 ③砂粒を含む	器厚は薄く、鋭い口唇端部を呈す。口縁部に明瞭な横ナデ痕が見られるが無文。	堀之内2式 終末段階
5	縄文土器 深鉢	南東 +7	胴部片	①にぶい橙②普通 ③砂粒を含む	沈線と充填縄文LRで区画文を構成する。おそらく三角形と半楕円形区画の交互配列か。器厚は薄い。	堀之内2式 終末段階
6	縄文土器 深鉢	南東 +13	頸部片	①にぶい黄橙②普通 ③砂粒を含む	外反する口縁部形態。口縁部に平行する2条の隆線に短隆線を繋ぐ。平行隆線間は無文。	堀之内2式 終末段階
7	縄文土器 深鉢	覆土	頸部片	①浅黄橙②普通 ③砂粒を含む	緩やかに外反する口縁部。下位に横位隆線が巡り、刺突を施す。垂下隆線を繋ぐ。	堀之内2式 終末段階
8	縄文土器 深鉢	覆土	底部	①赤褐②普通 ③砂粒を含む	小型の底部。器厚は薄く直立気味に立ち上がる。底面は平滑。	堀之内2式 終末段階
9	縄文土器 深鉢	北 +3	底部	①黒褐②普通 ③砂粒を含む	小型の底部。器厚は薄く大きく開く。底面は平滑で僅かに上げ底を呈す。	堀之内2式 終末段階



## E区住居跡出土遺物

10	縄文土器 深鉢	南東 +12	突起部	①にぶい橙②普通 ③砂粒を含む	上方に開く円形の突起であろうか。内面は浅く立体性には乏しい。ナデ調整により平滑に仕上げられる。	堀之内2式 終末段階
11	縄文土器 注口	南西 -17	注口部	①浅黄橙②普通 ③細砂粒を含む	断面がやや偏平な注口部。装着部分に丸味を持たせることから、胴部下半の装着か。先端部欠損。	堀之内2式 終末段階
12	縄文土器 注口	北西 -19	注口部	①明赤褐②普通 ③細砂粒を含む	厚手の注口部。断面形はほぼ円形ながら、厚さにムラがある。粘土板を二重に重ねる製作方法か。先端部欠損。	堀之内2式 終末段階
13	凹石	南東 +11	完形		<計測値>長12.1、幅9.2、厚5.1、重788.3<石材>変質安山岩<特徴>両面磨面。中央部に凹みあり。亀裂入る。	
14	凹石	北 -2	完形		<計測値>長10.0、幅6.4、厚4.1、重494.4<石材>変質玄武岩<特徴>両面磨面。中央部に凹みあり。	
15	打製石斧	北 +9	ほぼ完形		<計測値>長10.5、幅6.2、厚2.4、重254.7<石材>変質玄武岩<特徴>撥状を呈する。刃部に使用痕あり。	
16	打製石斧	北西 -1	ほぼ完形		<計測値>長14.5、幅10.8、厚4.2、重654.0<石材>硬質泥岩<特徴>分銅状を呈し、表面側縁部及び刃部に調整見られる。刃部弧状。	
17	打製石斧	北東 +7	完形		<計測値>長11.4、幅4.0、厚1.7、重95.9<石材>頁岩<特徴>短冊状を呈し、刃部直刃。	
18	スクレイパー	北 -2	ほぼ完形		<計測値>長8.9、幅5.3、厚1.6、重84.1<石材>硬質泥岩<特徴>直線的。側縁に刃部と思われる調整が施されている。	

## 59号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	南 +7	口縁片	①赤褐②普通 ③粗砂粒を含む	口唇部は内折し、端部が尖る。内折部に円形刺突文が横位に施される。器壁は脆く内面の剝落は著しい。	称名寺II式
2	縄文土器 深鉢	中央 +9	口縁片	①にぶい橙②普通 ③砂粒を含む	緩やかに内湾する口縁部。口唇下に凹線が沿い、下位には凹線が弧を描く。渦巻状モチーフの上端か。内面剝落。	加曾利EIII式
3	縄文土器 深鉢	北東 +4	胴部片	①にぶい黄橙②普通 ③粗砂粒を含む	細みの沈線が懸垂し、磨消し部と施文部が交互する。沈線はおそらく銚先状モチーフを描き、施文部は刺突列点文が充填される。	称名寺II式
4	縄文土器 深鉢	南西 +4	胴部片	①灰黄褐②普通 ③粗砂粒を含む	胴部上半～頸部の横位連鎖状隆帯が特徴。押圧による鎖状の効果を出す。他は無文。内外面とも磨滅が著しい。	称名寺II式
5	縄文土器 深鉢	南東 -9	胴上～ 底片	①明赤褐②普通 ③砂礫少量含有	垂下凹線による器面分割で磨り消し部と縄文部が交互する。縄文は単筋Rで縦位充填施文。内面、縦方向の研磨が顕著である。	加曾利EIII式
6	打製石斧	炉内 +16	完形		<計測値>長8.8、幅5.2、厚3.1、重163.8<石材>硬質泥岩<特徴>撥状を呈する。全体に厚手である。刃部は角度が急である。	未製品か

## 66号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	炉内 +6	口縁片	①にぶい黄橙②普通 ③粗砂粒を含む	緩やかな内湾気味の口縁形態。波状口縁か。無文。	称名寺II式
2	縄文土器 深鉢	炉内 +22	口縁片	①にぶい橙②普通 ③砂礫少量含有	口唇部に若干盛り上がる箇所がある。あるいは突起を付すか。口唇部に沿って沈線が雑に施文される。	称名寺II式
3	縄文土器 深鉢	炉内 +16	口縁片	①明黄褐②普通 ③砂粒を含む	内折する口縁部破片。平縁の口縁部内外面に双円形の突起が付される。突起には円形刺突文も施される。器厚は薄く内稜は鋭い。	称名寺II式
4	縄文土器 深鉢	炉内 +18	口縁片	①にぶい黄橙②普通 ③細砂粒を含む	内折する口縁部破片。無文で器厚は薄い。	称名寺II式
5	縄文土器 深鉢	炉内 +9	口縁片	①にぶい黄橙②普通 ③砂粒少量含有	中に孔が穿たれる楕円状突起。おそらくもう一対大形の突起が設けられる。突起周辺には双円形の小突起も付される。	称名寺II式
6	縄文土器 深鉢	炉内 +13	胴上～ 底	①橙②普通 ③砂粒を含む	分岐懸垂する沈線を基本に磨消し部と刺突列点施文部が交互に配される。沈線は円形や弧も描き、曲線を主体にしたモチーフか。	称名寺II式 炉体土器例
7	縄文土器 深鉢	炉内 +18	胴中～ 底	①灰白②普通 ③砂粒を含む	6と同様に分岐懸垂する沈線文。列点充填は残存部では見られない。ナデによる平滑な器面を施すが下半には削り調整も見られる。	称名寺II式 炉体土器例

E 区住居跡出土遺物

67号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	北東 +8	口～胴 中	①橙②普通 ③粗砂粒を含む	緩やかな波状突起に円文を加え、短隆線で頸部8字状突起をつなぐ。胴部は集合沈線で蕨手状懸垂文を描く。充填縄文はLR。	堀之内1式
2	縄文土器 深鉢	北東 +19	胴部片	①黄褐②普通 ③粗砂粒を含む	3～4本単位の平行沈線による横位分割。同沈線で懸垂文と蕨手状モチーフを描く。地文LR縄文。	堀之内1式
3	縄文土器 深鉢	北東 +20	口～胴 下 $\frac{1}{2}$	①浅黄橙②普通 ③粗砂粒を含む	無文の大形深鉢。口縁部は緩やかに開き、胴部上半で僅かな膨らみを持たせる。内面は横方向の研磨。	堀之内1式

68号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	北 +1	口縁片	①にぶい黄橙②普通 ③砂粒を含む	沈線により区画された内部を刺突列点文が充填される。他は磨消し部となり、おそらく鋸先状モチーフを配するのであろう。	称名寺II式
2	縄文土器 深鉢	南東 +6	口縁片	①にぶい赤褐②普通 ③砂粒を含む	口縁下に2条の沈線が巡り、直下より3条の沈線が弧状に懸垂し、横位沈線とともに沈線が沿う。渦巻状モチーフか。	堀之内1式
3	縄文土器 深鉢	中央 -2	胴部片	①黒褐②普通 ③粗砂粒を含む	櫛歯状工具による縦位の集合沈線が施される。	堀之内1式
4	打製石斧	東 -8	$\frac{1}{2}$		<計測値>長10.9、幅7.7、厚2.9、重274.8<石材>硬質泥岩<特徴>撥状を呈し、基部欠損。中央側縁部はややつぶれ磨滅している。刃部円刃。	
5	打製石斧	北西 +6	端部欠		<計測値>長10.5、幅5.9、厚2.1、重155.9<石材>粗粒安山岩<特徴>短冊と撥状の中間形状であり、中央側縁部はややつぶれ磨滅している。刃部円刃。	

69号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	覆土	口縁片	①橙②普通 ③砂粒を含む	直立する口縁部形態。器厚は薄く無文。内外面磨滅。	称名寺式
2	縄文土器 深鉢	覆土	胴部片	①黒褐②普通 ③砂粒を含む	無文の胴部片。やや厚手。	称名寺式
3	縄文土器 深鉢	炉付近 ±0	胴部片	①にぶい黄橙②普通 ③砂粒を含む	縦位の沈線が施される。器厚は薄く、内外面磨滅。	称名寺式
4	磨石	炉付近 ±0	ほぼ完 形		<計測値>長10.4、幅9.3、厚5.8、重784.6<石材>粗粒安山岩<特徴>両面磨き。中央部凹みあり。全体に厚手。	

72号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	中央 +22	口～胴 下 $\frac{1}{4}$	①黒褐②普通 ③細砂粒を含む	口縁部に隆線が横走し「8」字状突起が付される。胴部文様は器面が磨滅するため判然としないが、平行沈線による区画文か。	堀之内2式
2	縄文土器 深鉢	中央 +17	口～胴 部片	①褐②普通 ③砂粒を含む	3単位の突起を付し口縁部下に1条の隆線が沿う。胴部は沈線が平行しRL縄文が充填される。口唇部内面に2条の沈線が巡る。	堀之内2式
3	縄文土器 深鉢	中央 +13	口縁片	①黄褐②普通 ③細砂粒を含む	口唇部は内屈し、内面には浅い沈線が巡る。口縁下には2条の隆線が平行し、刺突を施した短隆線が2条またぐ。器面磨滅。	堀之内2式
4	縄文土器 深鉢	覆土	口縁片	①にぶい褐②普通 ③粗砂粒を含む	口唇部内面に沈線が巡る。口縁下に2条の微隆線が平行し、胴部文様は平行沈線区画内を三角形区画が配される。充填縄文はLR。	堀之内2式
5	縄文土器 小型鉢	南東 +1	口～胴 下 $\frac{1}{4}$	①にぶい褐②普通 ③砂粒を含む	口縁部は外傾し、胴部上半で膨らみを持たせる。口縁部・胴部は無文で頸部には刺突を施す隆線が巡る。内面はナデにより平滑。	堀之内2式
6	縄文土器 深鉢	北西 +4	口縁片	①褐②普通 ③細砂粒を含む	刻みを付す隆線が平行し円形貼付文より短隆線が垂下する。口縁部突起内面は沈線で渦を描き、沈線文が口縁部内面を囲う。	堀之内2式
7	縄文土器 深鉢	西 +3	口縁片	①にぶい橙②普通 ③粗砂粒を含む	口唇部に小突起を付し、内面突出し稜をなす。上端部縁辺には浅い沈線が施されU字を描く。頸部隆線、垂下隆線も付される。	堀之内式76 住10と同一
8	縄文土器 深鉢	南西 +17	胴部片	①明赤褐②普通 ③細砂粒を含む	外反する口縁部。隆線が横走し、円形貼付(あるいは8字状)文下より沈線を重ねる隆線が垂下する。隆線には沈線が沿う。	堀之内2式



## E区住居跡出土遺物

9	縄文土器 深鉢	東壁 +31	口縁片	①にぶい橙②普通 ③粗砂粒を含む	半楕円状の突起を設ける。突起上面は沈線で渦巻を描く。突起両脇は沈線で盛り上がらせ、口唇部上端はU字状に沈線を描く。	堀之内2式、 7と同一か
10	縄文土器 深鉢	東 +19	口縁片	①にぶい橙②普通 ③粗砂粒を含む	口唇部は内屈し口縁部は緩やかに内湾する。口縁部は無文で、胴部は平行沈線で三角区画文を描く。充填縄文はLR。	堀之内2式
11	縄文土器 深鉢	北東 +26	口縁片	①にぶい褐②普通 ③細砂粒を含む	口縁部内傾。口縁部に刺突を施し沈線が横走する。口縁下は隆線が弧状に懸垂する。内面平滑にナデ。	堀之内2式
12	縄文土器 深鉢	北東 +32	口縁片	①にぶい赤褐②普通 ③細砂粒を含む	口縁部内傾。突起が付されるか。屈曲部に沿って刻みを施す。隆線が貼付され、胴部上半に沈線による区画文が施される。	堀之内2式
13	縄文土器 台付鉢?	覆土	1/4	①橙②普通 ③細砂粒を含む	小型の台付鉢か。残存部が少なく判然としないが、胴部は膨らみを持たせ脚部にいたる。無文。内外面とも器面は磨滅。	堀之内2式
14	縄文土器 深鉢	南西壁 +9	口縁片	①黒褐②普通 ③粗砂粒を含む	波状縁か。2条の横位隆線に8字状小突起が付される。胴部文様は沈線で横位の弧状区画がなされる。充填縄文はLR。	堀之内2式
15	縄文土器 深鉢	中央 +19	胴部片	①にぶい橙②普通 ③砂粒少量含有	横位のU字状沈線文を2段配す。また縦位逆U字状にも施しており、注口土器の可能性もある。	堀之内2式
16	縄文土器 深鉢	北東壁 -7	胴部片	①にぶい黄橙②普通 ③細砂粒を含む	微隆線・沈線・刺突列を交互にして環状モチーフ、磨消し区画文を配する。器厚は薄い。	堀之内2式
17	縄文土器 深鉢	覆土	口縁片	①黒褐②普通 ③砂粒を含む	口唇部僅かに内屈する。口縁下に沈線と充填縄文により菱形状の区画がなされ、区画内を沈線が重畳する。内面研磨。	堀之内2式
18	縄文土器 深鉢	北東壁 +32	底部	①橙②普通 ③粗砂粒を含む	直立気味の底部形態。底面に網代痕残る。	堀之内式
19	縄文土器 深鉢	東 +11	底部	①暗褐②普通 ③粗砂粒を含む	直立気味の底部形態。大型土器であろう。内面中央著しく盛り上がる。底面は平滑にナデられている。	堀之内式
20	縄文土器 深鉢	北西壁 +5	底部	①赤褐②普通 ③粗砂粒を含む	端部僅かに張り出し外湾気味に立ち上がる。底面はナデられている。内外面とも器面は磨滅。	堀之内式
21	縄文土器 深鉢	東 +19	底部	①にぶい黄橙②普通 ③粗砂粒を含む	底面に網代痕残る。	堀之内式
22	岩版	南西 +15	1/4		<計測値>長6.1、幅4.1、厚1.1、重55.8<石材>砂岩<特徴>加工面片面のみ。縁辺部沈線状擦痕。また、中央部にも擦痕あり。	
23	凹石	西 +9	1/4		<計測値>長15.5、幅8.0、厚5.3、重746.8<石材>牛伏砂岩<特徴>片面蜂の巣状に多数の小凹あり。片面磨面見られ数個の小凹ある。	
24	磨製石斧	中央 +22	1/4		<計測値>長8.6、幅5.7、厚2.9、重218.6<石材>変玄武岩<特徴>短冊状を呈し、両面磨き。刃部直刃、打痕あり。	
25	磨石	西壁 -2	完形		<計測値>長11.4、幅9.3、厚7.0、重1021.2<石材>粗粒安山岩<特徴>磨面1面のみ。凹み1ヶ所。頂部数個の凹みあり。	
26	磨石	北壁 +22	完形		<計測値>長11.0、幅7.8、厚5.2、重662.4<石材>粗粒安山岩<特徴>両面に磨面あり。片面に2穴の凹み。対面はアメンバー状の凹みあり。	

## 73号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 脚台付土器	炉付近 ±0	脚～底	①橙②普通 ③粗砂粒を含む	台付き土器脚部。胴部下半は丸味を持ち緩やかに脚部に至る。無文で縦位のナデ調整が見られる。脚部内面も平滑に仕上げられる。	加曾利E III 式?
2	縄文土器 深鉢	炉付近 ±0	口縁片	①明褐②普通 ③粗砂粒を含む	口縁下に微隆線が巡り、地文にはLR縄文が施される。内外面とも磨滅が著しい。	堀之内2式
3	縄文土器 深鉢	覆土	口縁片	①明褐②普通 ③粗砂粒を含む	口縁部は短く外反する。口縁下に隆帯が巡り、楕円状の区画が配されるのであろう。隆帯には凹線が沿う。器面磨滅。	加曾利E III 式
4	縄文土器 深鉢	覆土	口縁片	①にぶい褐②普通 ③粗砂粒を含む	口唇部は僅かに内折する。無文。器面磨滅。	堀之内2式
5	縄文土器 深鉢	炉付近 ±0	胴部片	①明褐②普通 ③粗砂粒を含む	微隆線による渦巻モチーフ。磨消し部と施文部の明瞭な区分がなされない。施文部充填縄文はRLか。器面磨滅。	加曾利E III 式
6	打製石斧	炉付近 ±0	1/4		<計測値>長10.2、幅5.9、厚4.5、重417.9<石材>変玄武岩<特徴>未製品。基部肉厚。刃部調整途中?	
7	スクレイパー	炉付近 ±0	完形		<計測値>長8.3、幅4.6、厚2.2、重108.4<石材>硬質泥岩<特徴>断面三角形。刃部やや湾曲。	

## E区住居跡出土遺物

## 74号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 注口	中央 ±0	口~胴 1/2	①にぶい黄橙②普通 ③細砂粒を含む	直立する口縁部には小型の把手を設け、胴部上半に横位微隆線と3条の沈線が巡る。注口は沈線下に付けられる。塗彩残る。	堀之内2式 終末段階
2	縄文土器 深鉢	中央 +18	口縁片	①にぶい橙②普通 ③砂粒を含む	口縁下に刻みを持つ2条の隆線が巡り、その間を同隆線で繋ぐ。正分割ではなく変形小区画を設ける。口唇部内面には凹線。	堀之内2式 終末段階
3	縄文土器 深鉢	中央付近 +20	胴下~ 底	①橙②普通 ③砂粒を含む	球胴形の胴部を呈す。底部は僅かに直立気味。無文。	堀之内2式
4	縄文土器 注口	中央 -2	注口部	①橙②普通 ③砂粒を含む	装着基部周辺の製作痕が明瞭。装着部には沈線を施す。	堀之内2式
5	縄文土器 深鉢	中央 -9	口縁片	①にぶい橙②普通 ③細砂粒を含む	口縁下に2条の隆線を巡らせ、胴部文様として2条の沈線で区画された縄文帯で渦巻文が配される。充填縄文はLR。	堀之内2式
6	縄文土器 深鉢	中央付近 -1	胴部片	①にぶい褐②普通 ③砂粒を含む	胴部上半の文様帯。縄文帯による()状モチーフを中核に幅狭の縄文帯が上位に延びる。充填縄文はLR。	堀之内2式
7	縄文土器 注口?	覆土	胴部片	①明赤褐②普通 ③細砂粒を含む	胴部上半に2条の平行沈線が巡り、その間を短沈線で矢羽状に充填する。口唇部は直立する兆しを見せる。	堀之内2式
8	縄文土器 深鉢	東 ±0	底部	①灰褐②普通 ③砂粒を含む	僅かに立ち上がり大きく開く底部形態。底面の網代痕は磨滅のため判断としない。	堀之内2式
9	縄文土器 深鉢	中央 -3	胴部片	①にぶい褐②普通 ③細砂粒を含む	口縁下の「8」の字の貼付と横位隆線。胴部文様は幅狭の縄文帯による三角形区画か。縄文上に刺突文が看取出来る。	堀之内2式
10	縄文土器 深鉢	中央 +6	胴部片	①にぶい褐②普通 ③細砂粒を含む	縄文帯による縦位()状モチーフ。多段に連結する兆しを見せる。充填縄文はLR。	堀之内2式
11	縄文土器 深鉢	北壁 -8	底部	①赤褐②普通 ③細砂粒を含む	内傾気味に立ち上がり大きく開く底部形態。底面には網代痕。	堀之内2式
12	縄文土器 深鉢	中央 +16	胴部片	①にぶい褐②普通 ③細砂粒を含む	縄文帯による幾何学文か渦巻文。沈線はやや浅目。充填縄文はLR。内外面とも磨滅。	堀之内2式
13	縄文土器 深鉢	覆土	口縁片	①にぶい褐②普通 ③砂粒を含む	平縁。内屈する口縁部より刻みを施す隆線が開き気味に垂下する。地文の縄文は横位LR。	堀之内2式
14	縄文土器 深鉢	中央 -2	底部	①赤褐②普通 ③砂粒を多く含む	張り出し気味にはならず、直線的に開く底部形態。無文。底面には網代痕。	堀之内2式
15	磨石	中央 -5	完形		<計測値>長8.9、幅7.5、厚4.4、重397.6<石材>粗粒安山岩<特徴>磨面顕著でない。両面僅かに凹みあり。	
16	打製石斧	覆土	端部欠		<計測値>長10.8、幅3.8、厚1.7、重105.5<石材>硬質泥岩<特徴>側縁片側は直線、片側は抉り見られる。直線側は磨滅見られる。刃部直刃。	
17	打製石斧	北 +2	端部欠		<計測値>長9.9、幅6.9、厚2.5、重179.5<石材>粗粒安山岩<特徴>分銅形を呈し、刃部、円刃、打痕あり。抉り部、刃部寄り。	

## 75号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	炉内 埋設	胴下半	①暗赤②普通 ③粗砂粒を含む	頸部は開き直立する胴部形態を呈す。頸部横位隆帯に小突起を設け、胴部は懸垂隆線により区画し横位・縦位沈線文が充填される。	炉土器 勝坂3式

## 76号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	西 +16	口縁片	①橙②普通 ③砂粒を含む	3条の微隆線が横帯する。胴部文様は沈線区画による菱形区画文が基本となり磨消し部と縄文施文部が配される。充填縄文はLR。	堀之内2式
2	縄文土器 深鉢	中央 +18	口縁片	①橙②普通 ③砂粒を含む	環状突起が付される。突起は穴が2ヶ貫孔し加担より「8」字状小突起が3条の横帯隆線をまたぐ。胴部は横位の区画文が配される。	堀之内2式
3	縄文土器 深鉢	中央 +10	口縁片	①橙②普通 ③砂粒を含む	2と同一個体。あるいは1も同一の蓋然性が強い。胴部文様は、突起下で、横位沈線が垂れる共通性を持つ。	堀之内2式
4	縄文土器 深鉢	南 +4	口~胴 中1/2	①橙②普通 ③砂粒を多く含む	無文の口縁部大型破片。比較的直立気味に開く器形。内外面とも磨滅激しい。	堀之内2式
5	縄文土器 深鉢	覆土	胴部片	①にぶい赤褐②普通 ③砂粒を含む	渦状のモチーフを2条の沈線で描く。施文部の充填縄文はLRか。器面の磨滅激しい。	堀之内2式
6	縄文土器 注口	南東 +11	注口基 部片	①橙②普通 ③粗砂粒を含む	装着部。下端には沈線と隆線が付される。薄手の器厚で器面の磨滅は激しい。	

## E区住居跡出土遺物

7	縄文土器 深鉢	覆土	胴部片	①橙②普通 ③砂粒を含む	同心円状の円文下端より刻みを施す隆線が分岐する。隆線には沈線が沿い、横位の平行沈線も施される。	堀之内2式
8	縄文土器 深鉢	南壁 +14	胴部片	①にぶい赤褐色②普通 ③砂粒を含む	沈線区画による三角形区画文か。施文部はLR縄文充填施文と刺突列点施文の2種類がある。	堀之内2式
9	縄文土器 注口?	覆土	胴部片	①灰褐色②普通 ③砂粒を含む	沈線による渦状モチーフ。集合沈線が上位に延びる。器厚は薄く、注口土器の体部破片の可能性もある。	堀之内2式
10	縄文土器 深鉢	西 +3	口縁片	①にぶい黄橙②普通 ③砂粒を含む	緩やかに外反する無文の口縁部破片。口唇部内面突出し稜をなす。上端部縁辺には浅い沈線が施される。	堀之内2式
11	縄文土器 注口	東 +9	注口部	①浅黄橙②普通 ③砂礫を含む	断面形はほぼ円形を呈し、装着部分を厚く補強する。先端部欠損。外面の磨滅激しい。	堀之内2式
12	縄文土器 注口	中央 +17	注口部	①橙②普通 ③細砂粒を含む	断面形はほぼ円形。装着部の角度からは約40度程度の立ち上がりか。内外面とも丁寧にナデ調整される。先端部欠損。	堀之内2式
13	縄文土器 深鉢	南東 +4	底部	①赤褐色②普通 ③粗砂粒を多く含む	僅かに張り出し気味の底部形態。器面の器厚は厚く、胴部と対称的である。底面に網代痕残存。	堀之内2式
14	縄文土器 深鉢	南東 +16	底部片	①橙②普通 ③砂粒を含む	端部が僅かに張り出し、やや外湾気味に開く底部形態。底面に網代痕残存。	堀之内2式
15	縄文土器 深鉢	西付近 +15	底部片	①橙②普通 ③粗砂粒を含む	大きく開く底部形態。比較的器厚は薄い。外面の磨滅激しい。	堀之内2式
16	磨石	北壁 +11	両端欠		<計測値>長6.0、幅7.7、厚5.2、重448.3<石材>粗粒安山岩<特徴>両面に磨面あり。片面やや傾く。ほぼ中央部小凹みあり。	
17	打製石斧	東 +9	ほぼ完形		<計測値>長10.4、幅4.7、厚1.9、重93.5<石材>粗粒安山岩<特徴>撥状を呈し、刃部偏刃。	
18	打製石斧	南 +3	ほぼ完形		<計測値>長13.0、幅6.8、厚5.0、重519.8<石材>硬質泥岩<特徴>側縁部片側湾曲。もう片側抉りあり。器肉厚く、刃部不明瞭であり、粉碎用に用いられたものか。	

## 77号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	東壁寄り ±0	胴中～ 底	①橙②普通 ③粗砂粒を含む	2～3条の凹線が懸垂し器面を分割する。凹線間は磨消す。地文はLR縄文。外面の磨滅著しい。	加曾利EIII式
2	縄文土器 深鉢	東壁寄り ±0	口縁片	①にぶい黄橙②普通 ③粗砂粒を含む	内傾する口縁部下に横位隆線が貼付される。口唇部と隆帯間は凹線状になる。器面の磨滅が激しいが、地文の縄文はRLか。	加曾利EIII式
3	縄文土器 深鉢	東壁寄り ±0	胴部片	①褐色②普通 ③砂礫を含む	頸部～口縁部破片か。押圧を施した鎖状隆帯が横位に巡る。他は無文。器面磨滅激しい。	加曾利EIV?

## 78号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	炉内 埋設	頸～底 ¾	①明赤褐色②普通 ③粗砂粒を含む	平行沈線による区画で曲線文を配す。区画内は刺突列点文充填と磨消しを施す。器面は磨滅し、沈線の動きは判然とししない。	称名寺II式 炉体土器

## 1号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	灰釉陶器 壺	中央 +12	口～底 ¾	口(15.8) 高6.5 底7.8	①断面灰白②良好③ 堅緻	轆轤成形、右回転糸切り後高台貼付、周辺部ナデ調整。体部下位回転ヘラ削り。浸け掛け施釉。	虎溪山1号 窯式
2	灰釉陶器 壺	中央 +12	口～体 ¾	口(16.6)	①断面灰白②良好③ 堅緻	轆轤成形。体部下位は回転ヘラ削り。施釉方法は浸け掛け。釉調は不透明なオリーブ灰色。	虎溪山1号 窯式期
3	須恵器 高台付壺	北西壁 +15	底部	底6.0	①橙②酸化焰③中砂 粒を含む	轆轤整形高台貼付。内面研磨後、内黒処理が施された壺か。	
4	須恵器 高台付壺	かまど内 +5	底部片	底6.8	①にぶい黄橙②酸化焰 ③細・中砂粒を含む	轆轤整形。回転糸切り後、高台貼付。器面の磨滅あり。	
5	須恵器 羽釜	かまど付 近-25	口～胴 ¾	口(23.0) 胴 (27.2)	①にぶい黄橙②酸化 焰③中砂粒を含む	最大径を胴部にもつ。回転ナデ整形後、胴外面下半に回転ヘラ削り。鏝は貼付による。	器面の磨滅 激しい

## E区住居跡出土遺物

## 2号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	南東 +9	底部片	底5.7	①にぶい黄橙②酸化 ③細砂粒を含む	器面の磨耗激しい。底部に回転糸切り痕を残す。	

## 3号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	須恵器 蓋	南西 +43	端部欠	摘3.9	①灰白②還元焰③中 砂粒を少量含む	轆轤整形。外面天井部回転ヘラ削り、内面轆轤痕を残す。摘は貼り付けによる。	
2	土師器 坏	中央 +2	完形	口14.1 高4.5 底8.9	①橙②酸化焰③中砂 粒を含む	体部はわずかに内湾気味、外面の磨耗激しい。底部内面は同心円、体部は放射状の暗文が施される。	
3	土師器 坏	南 +8	ほぼ完 形	口13.1 高3.8 底8.0	①橙②酸化焰③中砂 粒を含む	器面の磨耗激しい。口縁部横ナデ、体部外面下半横方向のヘラ削りか。	
4	土師器 甕	貯蔵穴内 -9	底部片	底10.7	①にぶい赤褐②酸化 焰③中砂粒含む	丸底気味の底部。胴外面横方向・底部不定方向のヘラ削り。	
5	土師器 甕	中央 +4	底~胴 1/4	底9.1	①にぶい橙②酸化焰 ③中砂粒を含む	胴外面斜縦方向・底部不定方向のヘラ削り、内面横ナデ痕顕著。	
6	土師器 甕	かまど内 +18	口縁部 片	口(22.8)	①にぶい橙②酸化焰 ③細砂粒を含む	口縁くの字に外反。口縁及び内面横ナデ、胴外面縦方向のヘラ削り。外面に接合痕、内面ナデ痕。	
7	土師器 甕	貯蔵穴内 +1	口~底 1/2	口(24.5) 高29.5	①にぶい橙②酸化焰 ③細・中砂粒を含む	口縁くの字に外反。口縁及び内面横ナデ、胴外面上位縦・下位斜縦から横ヘラ削り。	内面ナデ痕 顕著
8	土師器 甕	覆土	底部 1/4	底7.0	①鈍い褐色②酸化焰 普通③粗砂粒含む	底部外縁部粘土貼り付け、指頭痕見られる。	木葉痕
9	石製品 紡錘車	西壁 +19	完形	<計測値>長5.1、幅5.1、厚1.0、孔0.7、重4.5<石材>滑石<特徴>断面形は中央部がやや厚い板状を呈し、両面の端部が比較的良く平滑化する。孔は両方向から穿つ。			
10	鉄製品 角棒状	貯蔵穴内 +11	端部欠	<計測値>長9.7、幅0.7、厚0.6、重8.3<特徴>断面ほぼ方形の角柱状を呈する。			
11	鉄製品 角棒状	貯蔵穴内 ±0	端部欠	<計測値>長12.5、幅0.6、厚0.7、重8.2<特徴>断面ほぼ方形の角柱状を呈する。			

## 4号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	南西 +1	ほぼ完 形	口10.0 高3.4	①にぶい橙②酸化焰 ③細砂粒を含む	口唇部は直立気味。口縁端部及び内面は横ナデ、体・底部横方向のヘラ削り。器面の磨耗あり。	
2	土師器 坏	かまど前 +7	ほぼ完 形	口10.2 高3.2	①橙②酸化焰③細・ 中砂粒を含む	口縁端部は内傾。口縁端部及び内面横ナデ、体部外面中位指頭痕を残すナデ、底部ヘラ削り。	
3	土師器 坏	南西 -4	ほぼ完 形	口10.2 高3.4	①にぶい赤褐②酸化 焰③細砂粒を含む	口唇部は直立。口縁端部及び内面横ナデ、体・底部横方向のヘラ削り。	
4	土師器 坏	南 +8	ほぼ完 形	口10.6 高3.2	①橙②酸化焰③細砂 粒を含む	口唇部は内傾。口縁端部及び内面は横ナデ、体・底部横方向のヘラ削り。器面の磨耗あり。	
5	土師器 坏	南 +8	ほぼ完 形	口12.4 高4.0	①橙②酸化焰③細砂 粒を含む	口唇部は内傾気味。口縁及び内面横ナデ、体・底部外面横方向のヘラ削り。器面の磨耗あり。	
6	土師器 坏	南 +8	ほぼ完 形	口11.2 高3.6	①褐灰②酸化焰③細 砂粒を含む	口唇部は直立気味。口縁端部及び内面は横ナデ、体・底部横方向のヘラ削り。器面やや磨耗。	
7	土師器 坏	南 +8	ほぼ完 形	口11.2 高3.7	①橙②酸化焰③細・ 中砂粒を含む	口唇部は内傾気味。口縁及び内面横ナデ、体・底部外面横方向のヘラ削り。器面の磨耗あり。	
8	土師器 甕	北西隅 ±0	ほぼ完 形	口23.2高29.0 底11.2	①にぶい橙②酸化焰 ③中・粗砂粒を含む	口縁横ナデ、胴内面横ナデ後縦方向の磨き、外面縦方向のヘラ削り。ナデ痕、接合痕あり。	器形の歪み あり
9	土師器 小型甕	かまど前 +1	ほぼ完 形	口14.0高14.3	①にぶい橙②酸化焰 ③中砂粒を含む	球胴を呈す。口縁及び内面横ナデ、胴外面縦・斜縦方向のヘラ削り。	
10	土師器 甕	北西隅 ±0	ほぼ完 形	口23.4高22.8 底9.2	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒を含む	口縁部は大きく開く。口縁及び内面横ナデ、胴外面縦方向のヘラ削り、下端横方向ヘラ削り。	

## 5号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	中央 +41	体部 小片	口(9.4)高3.5 底(5.8)	①灰②還元焰、良好 ③黒色鉱物粒含む	轆轤整形。体部はやや湾曲気味。底部ヘラ切り未調整。轆轤痕をよく残す。	
2	土師器 坏	南 +3	1/2	口(13.0) 高3.8	①にぶい褐色②酸化焰 ③細砂粒を含む	口縁は直立気味。口縁及び内面横ナデ、体・底部不定方向のヘラ削り。	
3	土師器 小型甕	中央 ±0	口縁部 1/2	口(12.2)	①にぶい橙②酸化焰 ③中・粗砂粒を含む	口縁は短く外反。器内厚い。口縁及び内面横ナデ、胴外面縦方向のヘラ削り。	
4	土師器 甕	中央 +5	口縁部 1/2	口(24.0)	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒を多く含む	口縁は大きく開く。口縁及び内面横ナデ、胴外面縦方向のヘラ削り。内面に接合痕あり。	
5	土師器 甕	かまど前 +27	口縁部 片	口(22.0)	①橙②酸化焰③粗砂粒を含む	口縁及び内面横ナデ、胴外面縦方向のヘラ削り。	
6	土師器 甕	かまど左 側+7	底部片	口— 高一 底—	①にぶい褐色②酸化焰 ③粗砂粒を含む	丸い底部。外面ヘラ削り、内面ナデ。底部内面に器面の剝離あり。	
7	土師器 甕	中央 -2	底~胴 1/2	底(12.6)	①にぶい黄橙②酸化焰 ③粗砂粒を含む	やや大振り。内面横ナデ、外面上位縦方向のヘラ削り、底部付近横方向のヘラ削り。	

## 6号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	北東 +9	1/2	口(14.1) 高(6.0)	①にぶい橙②酸化焰 ③細砂粒を含む	口縁部内傾。口唇から内面横ナデ、体部横方向・底部不定方向のヘラ削り。	
2	土師器 坏(鉢)	中央焼土 内-12	1/2	口(15.0) 高(7.1)	①赤褐色②酸化焰③ 細・粗砂粒含む	体部は直線的。口唇から内面横ナデ、体部外面横方向のヘラ削り。	
3	土師器 甕	北東 +4	口縁部 1/2	口(22.2)	①にぶい橙②酸化焰 ③中・粗砂粒を含む	口縁部はくの字に外反。口縁及び内面横ナデ、胴外面縦方向のヘラ削り。頸部外面に接合痕。	

## 7号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	貯蔵穴内 +9	口~体 1/2	口12.7 高4.7	①にぶい橙②酸化焰 ③中砂粒を少量含む	口縁部外反。体部弱い稜をもつ。口縁部~内面ナデ。体部~底部手持ちヘラ削り。内面放射状暗文。	煤付着
2	土師器 坏	南壁 -12	口~体 1/2	口(11.8) 高(4.0)	①灰黄褐色②酸化焰③ 中砂粒を含む	口縁部外反。体部弱い稜を持つ。口縁部~内面ナデ。体部~底部手持ちヘラ削り。内面放射状暗文。	
3	土師器 甕	貯蔵穴内 +3	底部	口— 高一 底—	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒を含む	丸底。外面横方向のヘラ削り、内面横ナデ・接合痕を残す。内面に接合痕。	

## 8号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	中央 +17	口縁部 1/2欠	口13.6 高3.9 底9.0	①にぶい橙②酸化焰 ③中砂粒を含む	平底気味。器面の磨耗あり、口縁横ナデ、体・底部ヘラ削りか。	
2	土師器 坏	北 +2	口縁部 1/2欠	口13.2 高4.0	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒を少量含む	平底気味。器面の磨耗あり、口縁横ナデ、体・底部ヘラ削りか。	
3	土師器 坏	東 +19	ほぼ完 形	口13.2 高3.9	①橙②酸化焰③中砂粒を含む	器面の磨耗あり、口縁横ナデ、体・底部ヘラ削りか。内面に放射状暗文あり。	
4	須恵器 高台付坏	中央 +2	口~底 1/2	口(17.7)高4.9 底(12.8)	①灰白②還元焰、良好 ③微砂粒を含む	大振りの坏。轆轤整形。底部ヘラ切り後、高台貼付。	
5	須恵器 高台付坏	南西 +43	底部 1/2	底(10.6)	①灰②還元焰、良好 ③黒色鉱物粒多含有	轆轤整形。貼付高台か。底部から腰部へヘラ調整。	
6	須恵器 甕	南西 +4	口縁部 片	口(11.0)	①灰白②還元焰、良好 ③黒色鉱物粒含有	轆轤整形。外面に自然釉。	
7	須恵器 高台付坏	北西 +39	底部 1/2	底(11.0)	①灰白②還元焰、良好 ③中砂粒を含む	轆轤整形。底部ヘラ切り、高台は削り出し。	
8	土師器 甕	北東 +6	口縁部 片	口(17.5)	①橙②酸化焰③中砂粒を含む	口縁はわずかに開き、胴部は大きく膨らむ。口縁及び内面横ナデ、胴外面ヘラ削り。	
9	土師器 小型甕	中央 +31	口~胴	口(13.6)	①赤褐色②酸化焰③粗砂粒を少量含む	口縁及び内面横ナデ、胴外面縦方向のヘラ削り。頸部内面に接合痕。	



## E区住居跡出土遺物

10	土師器 甕	南西 +5	口~胴 中 $\frac{1}{2}$	口(16.2)	①にぶい黄橙②酸化 焙③中砂粒を含む	口縁短く外反。口縁及び内面横ナデ、胴外面縦方 向のヘラ削り。頸部内面に接合痕。	
11	土師器 甕	ピット1 内+46	口~底 $\frac{1}{2}$	口(19.8)高 14.2底(8.1)	①赤褐②酸化焙③中 砂粒を含む	底部7~8の穿孔あり。口縁及び内面横ナデ、胴 外面縦・底部不定方向のヘラ削り。	
12	土製品 小型土器	北 +14	口唇部 一部欠	口3.1 高2.0 底2.9	①橙②酸化焙③砂粒 を含む	端部は細くつまみ出され、内面にはヘラ先による 放射状沈線が施される。底部ヘラ削り。	
13	土師器 甕	西 +10	口~胴 上 $\frac{1}{4}$	口(24.0)	①にぶい橙②酸化焙 ③中砂粒を含む	口縁及び内面横ナデ、胴外面上位斜縦、中位縦方 向のヘラ削り。	
14	土師器 甕	中央 +21	口~胴 上 $\frac{1}{4}$	口(26.0)	①赤褐②酸化焙③粗 砂粒を含む	口縁及び内面横ナデ、胴外面上位縦・下位横方向 のヘラ削り。	
15	土師器 鉢	北 +36	口縁部 片	口(13.5)	①暗褐②酸化焙③中 砂粒を含む	口縁端部及び内面横ナデ、体部外面横方向のヘラ 削り。内面ヘラ当て痕を残す。	
16	土師器 甕	北東 +6	口~胴 中	口23.8	①にぶい橙②酸化焙 ③粗砂粒を含む	口縁は大きく開く。口縁及び内面横ナデ、胴外面 縦方向のヘラ削り。頸部外面に指頭痕。	
17	石製品 白玉	北 +15	一部欠	<計測値>長1.3、幅1.2、厚0.8、孔0.2、重1.5<石材>滑石<特徴>全体に作りが雑で、 製作時の欠損品の可能性がある。			
18	土製品 土錘	北西 +35	ほぼ完 形	長5.2 幅0.5 孔0.5	①にぶい黄橙②酸化 焙③細砂粒を含む	中央がやや膨らむ円筒形を呈する。	
19	石製品 砥石	南西 +15	完形	<計測値>長15.2、幅4.9、厚3.9、重287.9<石材>砥沢石<特徴>上下・両側面の4面 使用するが、上下面が特に顕著に消耗している。			

## 9号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 鉢	北東壁 +3	一部欠	口21.3高8.5	①にぶい橙②酸化焙 ③細・粗砂粒を含む	体部に稜を残す。口縁及び内面横ナデ、体・底部 横もしくは不定方向のヘラ削り。	
2	土師器 坏	北東壁 +6	口縁部 一部欠	口11.5 高3.5	①橙②酸化焙③中砂 粒を含む	体部に稜を残す。口縁やや外反。器面の磨耗あり。 口縁及び内面横ナデ、体・底部ヘラ削りか。	
3	土師器 坏	北東壁 +6	全体 $\frac{1}{2}$	口12.1 高4.0	①にぶい橙②酸化焙 ③中砂粒を含む	体部に稜を残す。口縁及び内面横ナデ、体・底部 ヘラ削り。口縁部2条の平行沈線。	
4	土師器 坏	北東隅 ±0	口縁部 一部欠	口12.1 高4.7	①橙②酸化焙③中砂 粒を含む	口縁部に2段の稜を残す。口縁及び内面ナデ、体・ 底部不定方向のヘラ削り、指頭痕。	
5	土師器 甕	北壁 -1	胴~底 $\frac{1}{2}$ 欠	口19.5高18.6 底10.4	①橙②酸化焙③粗砂 粒を少量含む	口縁はわずかに開く。口縁及び内面横ナデ、胴外 面上位縦・下位横方向のヘラ削り。	器面の磨耗 あり
6	土師器 甕	かまど付 近+5	口~胴 上 $\frac{1}{2}$	口(21.6)	①にぶい褐②酸化焙 ③粗砂粒を多く含む	口はくの字に外反口縁及び内面横ナデ、胴外面縦 方向のヘラ削り。内面ヘラ当て痕。	
7	土師器 甕	かまど前 -4	底部欠 $\frac{1}{2}$ 残	口20.7	①にぶい橙②酸化焙 ③粗砂粒を含む	口縁部くの字外反。口縁及び内面横ナデ、胴外面 縦・斜縦のヘラ削り。内面に接合痕・ナデ痕。	
8	土師器 甕	かまど付 近+12	胴部 $\frac{1}{2}$ 欠	口23.4	①にぶい橙②酸化焙 ③粗砂粒を含む	口縁は大きく開く。口縁及び内面横ナデ、胴外面 縦方向のヘラ削り。	同一個体の 復元実測
9	土師器 甕	西 -1	底部欠	口18.2	①橙②酸化焙③粗砂 粒を多く含む	口縁は外反。口縁及び内面横ナデ、胴外面上位縦 最下横方向ヘラ。内面にナデ痕・接合痕。	
10	土師器 甕	北東隅 +26	口~胴 中	口(24.0)	①にぶい橙②酸化焙 ③粗砂粒を多く含む	口縁は外反。口縁及び内面横ナデ、胴外面縦方向 のヘラ削り。内面ナデ痕顕著。	
11	土師器 甕	南東 +30	胴部 $\frac{1}{2}$	口一 高一 底一	①にぶい橙②酸化焙 ③中砂粒含む	球形胴。頸部強いナデ。胴上中位~下位斜方向ヘ ラ削り。	
12	石製品 石皿	南西 ±0	一部欠	<計測値>長19.4、幅15.7、厚9.2、重3200.0<石材>デイサイト<特徴>磨面丸底を呈 し、端部円形及び卵形の強い磨面あり。			

## 10号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	覆土	口縁部 片	口(10.0)	①褐灰②酸化焙③細 砂粒を含む	体部に稜をもつ。口縁及び内面横ナデ、底部ヘラ 削り。	
2	土師器 甕	覆土	口縁部 片	口(14.4)	①にぶい橙②酸化焙 ③粗砂粒を含む	口縁及び内面横ナデ、胴外面ヘラ削り。器面の磨 耗あり。	

## 11号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	東 -3	完形	口13.0 高5.1	①にぶい黄橙②酸化 焰③細砂粒を含む	器内が厚く、体部に稜。口縁及び内面横ナデ、体・ 底部不定方向のヘラ削り。	
2	土師器 坏	中央 +1	ほぼ完 形	口12.9 高4.0	①にぶい黄橙②酸化 焰③細砂粒を含む	体部に強い稜。口縁及び内面横ナデ、体・底部不 定方向のヘラ削り。	
3	須恵器 坏	覆土	%	口10.1 高4.0 底6.4	①暗灰②還元焰、良 好③黒色鉱物粒含有	轆轤整形。底部回転ヘラ切り未調整。つくりがや や雑。	
4	土師器 甕	南西 -1	口縁部 片	口(20.0)	①にぶい橙②酸化焰 ③中砂粒を含む	口縁部の器肉厚い。口縁及び内面横ナデ、胴外面 縦方向のヘラ削り。内外面に接合痕顕著。	器面の磨耗 あり
5	土師器 小型甕	北東 +8	口~胴 上 $\frac{1}{2}$	口(12.0)	①暗赤褐②酸化焰③ 粗砂粒を含む	口縁部わずかに外反。内面横ナデ、頸部から胴外 面ヘラ削りが施される。	
6	石製品 紡錘車	南西 +3	上・下 面欠	<計測値>上3.9、下3.6、厚0.7、孔0.8、重19.0<石材>滑石<特徴>表面 $\frac{1}{2}$ 加工面残 り、その他裏面は剝落。断面台形?円孔、2度の穿孔。			
7	石製品 白玉	南 +7	端部欠	<計測値>長1.4、幅1.7、厚0.7、重2.8<石材>滑石質蛇紋岩<特徴>表面剝離。片面 $\frac{1}{2}$ 欠損。側面、6面程の面取り行われる。			

## 12号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師質 土釜(鉢)	かまど内 -4	口~胴 下 $\frac{1}{2}$	口(20.0)	①にぶい赤褐②酸化 焰③粗砂粒を含む	直立する口縁から、胴部は膨らむ。口縁及び内面 横ナデ、胴部縦・横方向のヘラ削り。	
2	土師質 土釜	北東 +7	口縁部 片	口(26.0)	①にぶい赤褐②酸化 焰③粗砂粒を含む	口縁部肥厚、短く外反。口縁及び内面横ナデ、胴 外面縦方向のヘラ削り。	
3	土師質 土釜	北東 +6	口縁部 $\frac{1}{2}$	口(27.7)	①にぶい赤褐②酸化 焰③粗砂粒を含む	口縁部短く外反。口縁及び内面横ナデ、胴外面縦 方向のヘラ削り。	

## 13号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	須恵器 皿	東 -7	口縁部 $\frac{1}{2}$ 欠	口(9.6)高2.4 底5.2	①橙②酸化焰③細砂 粒を含む	轆轤整形。右回転糸切り未調整。器面の磨耗あり。	
2	須恵器 皿	北 +5	口縁部 $\frac{1}{2}$ 欠	口(9.6)高2.9 底5.0	①にぶい黄橙②酸化 焰③細砂粒を含む	轆轤整形。右回転糸切り未調整。器面の磨耗あり。	
3	須恵器 高台付塊	南 +7	体~底	底(7.0)	①褐灰②普通③粗砂 粒を少量含む	轆轤整形。回転糸切り後、高台貼付。雑な作り。	
4	須恵器 高台付塊	南 +10	口縁部 $\frac{1}{2}$ 欠	口14.4 高6.4 底6.6	①橙②普通・酸化焰 ③中砂粒を少量含む	轆轤整形。底部切り離し後、高台貼付。内面研磨 後、内面黒色処理。	内黒土器
5	須恵器 塊	東 +5	口~体 $\frac{1}{2}$	口(13.4)	①橙②酸化焰、不良 ③中砂粒を含む	器面の磨耗激しい。轆轤整形、内面黒色処理か。	内黒土器?
6	土師質 土釜	東 -5	口~胴 中片	口(22.5)	①黒褐②酸化焰③中 砂粒を含む	口縁部は直立。口縁及び内面横ナデ、胴外面縦方 向のヘラ削り。外面に接合痕・内面ナデ痕顕著。	
7	土師質 土釜	東 -7	口縁部 片	口(24.6)	①明赤褐②酸化焰③ 粗砂粒を含む	口縁部わずかに外反。口縁及び内面横ナデ、胴外 面縦方向のヘラ削り。	

## 14号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 高坏	中央 +3	脚・体 $\frac{1}{2}$ 欠	口(8.8) 高4.8	①橙②酸化焰③中砂 粒を含む	脚端部水平方向に開く。脚部外面縦方向のヘラ削 り、その他はナデ。器面の磨耗あり。	
2	土師器 坏	南 +46	口縁部 $\frac{1}{2}$ 欠	口14.6 高4.3 底9.4	①明褐②酸化焰③粗 砂粒を少量含む	口縁及び内面横ナデ、外面体部横・底部不定方向 のヘラ削り。平底状。	器面の磨耗 あり
3	土師器 坏	南 +4	口縁部	口14.6 高4.6	①橙②酸化焰③中砂 粒を少量含む	口縁及び内面横ナデ、体・底部不定方向のヘラ削 り。	
4	土師器 小型甕	中央 +5	口・胴 $\frac{1}{2}$	口(14.0) 高(13.0)	①にぶい赤褐②酸化 焰③中砂粒を含む	わずかに外反する口縁。口縁及び内面横ナデ、胴 外面縦・横方向のヘラ削り。	

E区住居跡出土遺物

5	土師器 甕	東 +1	胴下～ 底	口— 高— 底—	①にぶい橙②酸化焙 ③粗砂粒を含む	丸底を呈す。内面ナデ、外面縦方向のヘラ削り。 内面指頭痕有り。	小型甕か
6	土師器 甕	かまど前 +11	口～胴 上4/5	口(24.4)	①橙②酸化焙③粗砂 粒を少量含む	口縁部は大きく外反。口縁及び内面横ナデ、胴外 面縦方向のヘラ削り。	
7	土師器 甕	南東 +1	口～胴 上4/5	口25.1	①にぶい橙②酸化焙 ③粗砂粒を含む	口縁部くの字に外反。口縁及び内面横ナデ、胴外 面縦方向のヘラ削り。	
8	土師器 甕	東 -1	口～胴 中	口22.6	①にぶい橙②酸化焙 ③粗砂粒を含む	口縁部は短く外反。口縁及び内面横ナデ、胴外面 縦方向、一部横方向ヘラ削り。	
9	土師器 甕	貯蔵穴内 -20	胴中～ 底	口— 高— 底—	①橙②酸化焙③粗砂 粒を含む	丸底を呈す。内面ナデ、底部横方向、胴下位斜・ 中位縦方向ヘラ削り。内面接合痕顕著。	
10	土師器 甕	中央 +3	口縁部 胴部片	口(21.4)	①橙②酸化焙③中砂 粒を含む	胴部は大きく膨らむ。口縁及び内面横ナデ、外面 頸部縦方向、胴横方向のヘラ削り。	器面の磨耗 あり
11	土師器 甕	東壁 -5	ほぼ完 形	口18.8高28.9	①橙②酸化焙③中・ 粗砂粒含有	口縁短く直立、胴部は丸い。丸底。口縁及び内面 横ナデ、胴外面斜縦・横のヘラ削り。内面当板痕。	器面の磨耗 あり

15号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	かまど前 +18	完形	口14.6 高4.6	①にぶい赤褐②酸化 焙③細砂粒を含む	口縁部はやや外反し、体部に強い稜。口縁及び内 面横ナデ、底部不定方向のヘラ削り。	
2	土師器 坏	かまど左 側-1	1/2	口(13.3) 高(4.3)	①にぶい黄橙②酸化 焙③粗砂粒を含む	口縁部は直立気味、体部に強い稜。口縁及び内面 横ナデ、底部不定方向のヘラ削り。	
3	土師器 坏	かまど前 +19	1/2	口(13.8) 高4.2	①褐灰②酸化焙③細 砂粒を少量含む	口縁部は直立気味、体部に稜。口縁及び内面横ナ デ、底部不定方向のヘラ削り。	
4	土師器 小型甕	かまど左 側-2	口～胴 1/4	口(15.4)	①赤褐②酸化焙③粗 砂粒を多く含む	口縁短く外反。口縁及び内面横ナデ、胴外面横・ 縦方向のヘラ削り。内面ナデ痕顕著。	
5	土師器 小型甕	ピット1 内+18	ほぼ完 形	口12.9高15.0 底7.1	①にぶい橙②酸化焙 ③粗砂粒を含む	口縁やや外反、底部の器肉厚い。口縁及び内面横 ナデ、胴外面縦方向のヘラ削り。	
6	土師器 甕	中央 +12	口・胴 1/4片	口(20.8)	①橙②酸化焙③細砂 粒を含む	口縁外反、器肉薄い。口縁及び内面横ナデ、胴上 位横・下位斜縦方向のヘラ削り。頸部に接合痕。	

16号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	須恵器 皿	ピット4内 +4	ほぼ完 形	口9.4 高2.8 底5.7	①橙②酸化焙③細砂 粒を含む	轆轤整形、静止糸切り未調整か。轆轤痕をよく残 す。	
2	須恵器 皿	ピット4内 +1	完形	口9.9 高2.7 底5.6	①橙②酸化焙③細砂 粒を含む	轆轤整形、右回転糸切り未調整。轆轤痕をよく残 す。	
3	須恵器 皿	南西 +4	完形	口9.9 高2.5 底5.3	①橙②酸化焙③細砂 粒を含む	轆轤整形、右回転糸切り未調整。轆轤痕をよく残 す。内面墨付着。	
4	須恵器 皿	南西 -2	1/2	口(9.2)高1.8 底(5.8)	①明赤褐②酸化焙③ 細砂粒を含む	轆轤整形、回転糸切り未調整。	
5	須恵器 高台付埴	中央 +9	1/2残 高台欠	口(12.5)	①にぶい褐②酸化焙 ③細砂粒を含む	轆轤整形か。底部切り離し後、高台貼付。内面黒 色を呈す、内黒土器か。器面の磨耗激しい。	
6	須恵器 高台付埴	南 +3	底部	底8.7	①橙②酸化焙③中砂 粒を含む	轆轤整形か。底部切り離し後、足高高台を貼付。 器面の磨耗あり。	
7	土師器 台付甕	ピット4 内±0	底部片	孔2.4	①にぶい橙②酸化焙 ③細砂粒を含む	台付甕を甕に転用したものか。内外面横ナデ、孔 はていねいに穿たれている。	
8	須恵器 高台付埴	±0	底部 1/2	底(6.8)	①橙②酸化焙③細砂 粒を含む	轆轤整形か。底部切り離し後、高台貼付。内面研 磨後に内黒処理。	内黒土器
9	石製品 紡錘車	覆土	1/2	<計測値>上(4.0)、下(3.4)、厚1.0、孔(0.5)、重13.4<石材>蛇紋岩<特徴>比較的 に薄手の作りで、断面逆台形状を呈す。			



## 17号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	中央+18	3/4	口(11.0) 高3.4 底8.0	①にぶい橙②酸化焰 ③細砂粒を含む	器肉厚い。口唇部及び内面横ナデ、体・底部ヘラ 削り。器面の磨耗あり。底部平底。	
2	土師器 坏	貯蔵穴内 -17	3/4	口(13.4)高(3.9) 底(9.0)	①にぶい橙②酸化焰 ③中砂粒を含む	器肉厚い。口唇部及び内面横ナデ、体・底部ヘラ 削り。器面の磨耗あり。	
3	須恵器 坏	南 +2	底部片	底7.0	①灰白②還元焰③粗 砂粒を少量含む	轆轤整形、右回転糸切り未調整。内面スリ痕あり。 転用硯?	
4	須恵器 坏	南 +15	口縁部 3/4欠	口13.1 高3.3 底7.8	①灰白②還元焰③細 砂粒を含む	轆轤整形、右回転糸切り未調整。内外面に轆轤痕 をよく残す。	
5	須恵器 蓋	西 -1	端部一 部欠	口15.2 高4.1 摘4.3	①灰②還元焰③細砂 粒を含む	轆轤整形、端部直立。切り離した後つまみ貼付。天 井部に回転ヘラ削り痕を残す。轆轤痕顕著。	
6	須恵器 蓋	中央 +1	体部 2/5	口(17.4)	①灰白②還元焰③細 砂粒を含む	轆轤整形、端部は内傾気味。轆轤痕を残す。天井 部回転ヘラ削り。	
7	土師器 甕	かまど内 +32	口~胴 下	口20.3	①橙②酸化焰③中砂 粒を含む	「コ」字状口縁。口縁及び内面横ナデ、胴外面上位 横・下位斜縦方向のヘラ削り。頸部に指頭痕あり。	甕に転用か
8	土師器 甕	かまど内 +34	口~胴 中	口19.2	①赤褐②酸化焰③中 砂粒を含む	口縁部はわずかに外反。口縁及び内面横ナデ、胴 外面上位横・下位斜縦方向のヘラ削り。	内外面接合 痕あり
9	土師器 甕	煙道部先 端+13	口~胴 上	口19.8	①にぶい橙②酸化焰 ③中砂粒を含む	「コ」字状口縁気味。口縁及び内面横ナデ、胴外面 上位横・下位縦方向のヘラ削り。内外面接合痕。	
10	土師器 甕	中央 +3	口~底 一部欠	口18.8高27.0 底4.4	①にぶい褐②酸化焰 ③中砂粒を含む	「コ」字状口縁。口縁及び内面横ナデ、胴外面上位 横・下位縦方向のヘラ削り。器肉厚い。	中位スス付 着。
11	土師器 甕	かまど内 +18	完形	口19.8高28.6 底4.6	①橙②酸化焰③中砂 粒を含む	口縁及び内面横ナデ光沢あり。胴外面上位横・中 位以下斜縦方向のヘラ削り。	
12	石製品 砥石	中央 ±0	完形	<計測値>長22.5、幅10.2、厚4.6、重1360.0<石材>砥沢石<特徴>4面とも使用し、 消耗著しい。側面に刃当たりの痕跡あり。			

## 18号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	貯蔵穴付 近+26	3/4	口11.0 高3.4	①橙②酸化焰③細砂 粒を含む	体部に稜。口縁及び内面横ナデ、体部ヘラ削りか。 器面の磨耗激しい。	
2	土師器 坏	北 +9	ほぼ完 形	口13.0 高4.1	①橙②酸化焰③中砂 粒を含む	体部に稜。口縁及び内面横ナデ、体部不定方向の ヘラ削り。器面の磨耗あり。	
3	土師器 鉢	貯蔵穴内 +6	ほぼ完 形	口15.8 高7.4	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒を含む	内面研磨後に内黒処理。口縁ナデ、体部横・底部 不定方向ヘラ削り。器面磨耗。底部全面ヘラ削り。	内黒土器
4	土師器 小型甕	貯蔵穴付 近+13	口~胴 中片	口13.8	①にぶい褐②酸化焰 ③粗砂粒を含む	口縁わずかに外反横ナデ及び内面横ナデ、胴外面 縦方向のヘラ削り。内面ヘラナデ痕。	
5	土師器 甕	貯蔵穴内 +7	口~肩	口18.5	①橙②酸化焰③細砂 粒を含む	胴部は大きく膨らむ。器面の磨耗激しい。口縁及 び内面ナデ、胴外面ヘラ削りか。	
6	土師器 甕	中央 -2	口~胴 下3/4	口21.6	①にぶい褐②酸化焰 ③粗砂粒を含む	口縁開き気味。口縁及び内面横ナデ、胴外面縦・ 斜縦方向のヘラ削り。内面に接合痕あり。	器面の磨耗 あり
7	土師器 甕	かまど前 +9	口~胴 中	口18.4	①褐灰②酸化焰③粗 砂粒を含む	口縁開き気味。口縁及び内面横ナデ、胴外面縦・ 斜縦方向のヘラ削り。器面の磨耗あり。	
8	土師器 甕	南西 +1	胴中~ 底	底10.0	①橙②酸化焰③粗砂 粒を含む	安定の悪い底部。内面ナデ、胴外面ヘラ削り。内 面に接合痕。器面の磨耗激しい。	
9	土師器 甕	貯蔵穴付 近+5	ほぼ完 形	口22.0高33.1	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒を多く含む	丸底から胴部は膨らむ。口縁及び内面横ナデ、胴 外面縦・横方向のヘラ削り。内面に接合痕。	

## 19号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	須恵器 高台付埴	南 +5	体部 3/4欠	口(15.9) 高6.7 底7.2	①にぶい橙②酸化焰 ③細砂粒を含む	轆轤整形、切り離した後高台貼付。内面横方向ヘラ 研磨後、内黒処理。轆轤痕顕著。	内黒土器
2	土師器 甕	住居外	口~頸	口22.0	①鈍い橙色②酸化焰 普通③粗砂粒含む	口縁部「く」の字に外反。口縁及び内面横ナデ、 胴部斜縦位ヘラ削り。口縁部ヘラの当たり痕残 る。	

## E区住居跡出土遺物

## 20号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	南 -1	体部 %欠	口(14.0)高4.0 底(10.2)	①にぶい橙②酸化焰 ③細砂粒を含む	器面の磨耗激しい。口縁及び内面ナデ、体部外面 ヘラ削りか。平底。	
2	土師器 坏	中央 +2	完形	口13.5 高4.0 底8.6	①にぶい橙②酸化焰 ③細砂粒を含む	器面の磨耗激しい。口縁及び内面横ナデ、体部横 方向のヘラ削り。平底。	
3	土師器 甕	南東 +2	完形	口15.7高14.3 底8.4	①赤褐②酸化焰③中 砂粒を含む	口縁及び内面横ナデ、胴外面横・斜縦方向のヘラ 削り。内面接合痕、ヘラ当て痕。	
4	土師器 甕	中央 -2	胴中～ 底	底11.5	①橙②酸化焰③中砂 粒を含む	内面ナデ、胴外面上位斜縦・下位横方向のヘラ削 り。底部ヘラ削り。	

## 21号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	須恵器 高台付境	中央 +4	口・底 一部欠	口12.3 高4.7 底6.0	①灰②還元焰③中砂 粒を含む	轆轤整形。回転糸切り後高台貼付。口唇部に油煙 の付着あり。	
2	須恵器 坏	かまど前 +17	ほぼ完 形	口10.9 高3.6 底4.4	①灰白②還元焰③中 砂粒を多く含む	轆轤整形。体部はやや膨らむ。右回転糸切り未調 整。器面の磨耗激しい。	
3	須恵器 坏	かまど前 -4	口縁部 一部欠	口12.0 高3.8 底4.8	①黒②還元焰③中砂 粒を含む	轆轤整形。体部は直線的に外反。右回転糸切り未 調整。器面の磨耗あり。	
4	須恵器 坏	かまど北 +2	ほぼ完 形	口11.6 高3.5 底5.8	①にぶい橙②酸化焰 ③中砂粒を含む	轆轤整形。体部は直線的に外反。右回転糸切り未 調整。器面の磨耗あり。	
5	須恵器 坏	北東 +10	½	口(12.2) 高3.5底(5.8)	①灰②還元焰③中砂 粒を含む	轆轤整形。器面の磨耗激しい。	
6	灰釉陶器	住居外	½	口(15.6) 高5.5底(8.2)	①灰白②堅緻③白色 細粒含む	轆轤成形。高台は三日月状を呈す。施釉方法は浸 け掛け。釉調は不透明なオリーブ灰色。	大原2号窯 式期
7	石製品 砥石	住居外	完形	<計測値>長21.6、幅11.7、厚5.6、重2000.0<石材>デイスイト<特徴>自然石(河原 石)を転用。両端部を除く4面を使用している。上下面と右側面が良く平滑化する。			

## 23号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 小型甕	東 -1	口縁部 片	口(11.6)	①赤褐②酸化焰③中 砂粒を含む	口縁部短く外反。口縁及び内面横ナデ、胴外面縦 方向のヘラ削り。内面に接合痕。	
2	土師器 甕	南東隅 ±0	底部	底6.4	①にぶい赤褐②酸化 焰③細砂粒を含む	内面ナデ、胴外面縦方向のヘラ削り、底部ヘラ削 りが施される。	

## 24号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	須恵器 皿	かまど前 ±0	口縁部 ½	口(8.8)	①にぶい橙②酸化焰 ③中砂粒を含む	体部はやや丸い。轆轤整形。	
2	須恵器 皿	中央 +1	口縁部 %欠	口9.5 高2.3 底4.8	①橙②酸化焰③中砂 粒を含む	口縁部は直線的に開く。轆轤整形。回転糸切り未 調整。	
3	須恵器 高台付境	かまど前 -3	底部片	底6.2	①にぶい橙②酸化焰 ③細砂粒を含む	高台端部は屈曲。轆轤整形。底部切り離し後、高 台貼付。内面でいねいに研磨される。	
4	土師質 土釜	かまど前 +1	口～胴 下½	口(15.2)	①暗褐②酸化焰③中 砂粒を含む	口唇部直立気味。口縁短く外反、ナデ。胴外面横 方向のヘラ削り、内面刷毛目を残すナデ。	

## 25号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	須恵器 皿	南東隅 +11	口縁部 %欠	口(8.3)高2.2 底5.0	①にぶい橙②酸化焰 ③中砂粒を含む	体部はわずかに膨らむ。轆轤整形。右回転糸切り 未調整。	
2	須恵器 境	床下ピッ ト内+3	口縁部 ½	口(13.8)	①にぶい橙②酸化焰 ③中砂粒を含む	口唇端部が屈曲。轆轤整形か。内面研磨後内黒処 理。体部下端ヘラ調整?	内黒土器
3	須恵器 高台付境	中央 +5	底部片	底5.8	①橙②酸化焰③中砂 粒を含む	「ハ」字状の高台。轆轤整形。切り離し後、高台貼 付。内面研磨後内黒処理か。器面の磨耗あり。	内黒土器

## 26号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	貯蔵穴内 +7	口縁部 一部欠	口10.6 高4.0	①橙②酸化焰③細砂 粒を含む	口縁内湾気味。口縁及び内面横ナデ、体部不定方向のヘラ削り。器面の磨耗あり。	
2	須恵器 盤	南西隅 -3	1/6	口(19.2)高4.7 底(12.0)	①灰白②還元焰③粗 砂粒を含む	口縁は直線的に外反。轆轤整形、底部回転ヘラ削りが施される。	
3	土師器 小型甕	かまど内 +2	完形	口14.2高17.5	①にぶい赤褐②酸化焰 ③粗砂粒を含む	口縁部横ナデ、胴外面縦・斜縦方向のヘラ削り。底部丸底。	
4	土師器 小型甕	貯蔵穴付 近-2	口縁部 一部欠	口14.0高15.5	①黄橙②酸化焰③粗 砂粒を含む	口縁部横ナデ、胴外面縦方向のヘラ削り、胴内面にていねいな研磨が施される。底部丸底。	外面の磨耗あり
5	土師器 小型甕	東 +4	胴部 一部欠	口13.8高13.5	①明赤褐②酸化焰③ 粗砂粒を含む	口縁部直立。口縁及び内面横ナデ、胴外面斜縦方向のヘラ削り。器面の磨耗あり。底部丸底。	
6	土師器 甕	東 ±0	胴部 一部欠	口19.4高14.2	①にぶい黄橙②酸化焰 ③粗砂粒多く含む	口縁及び内面横ナデ、胴外面斜縦方向のヘラ削り。計8の孔を有す。	焼成前の穿孔
7	土師器 甕	貯蔵穴内 +9	口~胴 上	口20.4	①橙②酸化焰③粗砂 粒を含む	胴部は膨らむ。口縁及び内面横ナデ、胴外面縦方向のヘラ削り。	転用土器
8	土師器 甕	貯蔵穴内 +18	口~胴 上	口23.6	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒を少量含む	胴部は大きく膨らむ。口縁及び内面横ナデ、胴外面縦方向のヘラ削り。	転用土器
9	土師器 甕	北東 +19	口~胴 下1/6	口24.2	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒を含む	口縁部は外反。口縁部横ナデ、胴外面縦方向のヘラ削り、胴内面粗いナデ。内外面に接合痕。	
10	土師器 甕	貯蔵穴内 +16	口~胴 下1/6	口21.0	①橙②酸化焰③細砂 粒を多く含む	器肉薄い。口縁くの字及び内面横ナデ、胴外面横・斜縦方向のヘラ削り。器面の磨耗あり。	転用土器
11	土師器 甕	かまど前 -3	口~胴 下	口23.4	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒を含む	口縁部は外反。口縁及び内面横ナデ、胴外面縦方向のヘラ削り。二次焼成痕顕著。	
12	土師器 甕	貯蔵穴内 +18	ほぼ完 形	口22.0高33.0	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒を含む	口縁部は外反。口縁横ナデ、胴外面上位~中位縦・斜縦方向のヘラ削り、内面粗いナデ。ナデ痕あり	

## 27号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師質 土釜	貯蔵穴内 +15	口縁部 片	口(19.0)	①暗赤褐②酸化焰③ 粗砂粒を少量含む	口縁部は直立気味。口唇部面取り。口縁及び内面横ナデ、胴外面ヘラ削り。内面ナデ痕。	

## 28号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	須恵器 高台付埴	かまど内 -1	1/6	口15.0 高6.2 底(6.5)	①にぶい褐②酸化焰 ③中砂粒を含む	足高の高台。轆轤整形、切り離し後高台貼付。腰部強いナデ。	
2	須恵器 皿	かまど前 +8	口縁部 1/6欠	口(8.8)高(2.0) 底5.0	①橙②酸化焰③中砂 粒を含む	轆轤整形、右回転糸切り未調整。	
3	須恵器 皿	北東隅 +1	ほぼ完 形	口7.8 高2.0 底5.1	①にぶい橙②酸化焰 ③中砂粒を含む	轆轤整形。器面の磨耗あり、底部調整は不明。	

## 29号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	北東 +25	口~底 1/6	口(13.4)高(3.7) 底(8.0)	①鈍い橙②酸化焰 普通③細砂粒を含む	口縁及び内面横ナデ。体部横方向のヘラ削り。底部ヘラ削り、平底を呈する。	
2	土師器 坏	南東隅 +21	体部 1/6欠	口(14.0) 高(3.6)	①橙②酸化焰③中砂 粒を含む	口縁及び内面横ナデ、体部不定方向のヘラ削り。	器面の磨耗あり
3	土師器 甕	南東隅 -10	底部欠	口24.0	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒を多く含む	口縁部短く外反。口縁及び内面横ナデ、胴部上~中位縦・下位斜め方向ヘラ削り。底付近粗いナデ。	内面ナデ痕顕著
4	鉄製品 角棒状	北 +5	両端部 欠	<計測値>長8.9、幅1.3、厚1.1、重13.5<特徴>全体に木質の付着が認められる。			
5	石製品 砥石	かまど前 +3	端部欠	<計測値>長13.0、幅5.5、厚3.8、重474.4<石材>砥沢石<特徴>両端部を除く4面が平滑化している。			

## E区住居跡出土遺物

## 30号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	覆土	口縁部 片	口(11.4)	①橙②酸化焰③細砂 粒を含む	口縁部ナデ、底部ヘラ削り。その他ナデか。	
2	土師器 鉢	覆土	口縁部 片	口(21.0)	①にぶい橙②酸化焰 ③細砂粒を含む	口縁・体部の境不明瞭。内面横ナデ、外面刷毛目？ による調整。	
3	土師器 甕	覆土	口縁部 片	口(21.4)	①にぶい橙②酸化焰 ③細砂粒を含む	口縁は「く」字状に外反。口縁及び内面横ナデ、胴 横方向のヘラ削り。外面接合痕、内面ナデ痕あり。	

## 31号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 甕	東 -2	口~胴 中 $\frac{1}{2}$	口(21.8)	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒を多く含む	口縁外反。口縁及び内面横ナデ、胴外面縦方向の ヘラ削り。	
2	土製品 土錘	かまど左 側+31	ほぼ完 存	長6.6 幅2.1 孔0.6	①にぶい橙②酸化焰 ③砂粒を含む	中央の膨らむ円筒形を呈す。孔が広がる部分で棒 状工具痕が認められる。	

## 32号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	ピット1 内+4	体部片	底(5.4)	①にぶい橙②酸化焰 ③細砂粒を含む	轆轤整形か。	

## 33号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	須恵器 高台付塊	かまど内 -3	底部片	底5.6	①橙②酸化焰③細砂 粒を含む	轆轤整形、糸切り後高台貼付。器面の磨耗激しい。 内面やや黒味あり、内黒土器か。	
2	土師質 土釜	かまど内 +2	口縁部 片	口(20.2)	①橙②酸化焰③粗砂 粒を含む	口縁部わずかに外反。口縁ナデ、胴外面粗いナデ 後縦方向ヘラ削り、内面粗い横ナデ。指頭痕顕著。	接合痕 顕著
3	土師質 土釜	かまど内 ±0	口~胴 上 $\frac{1}{2}$	口(24.0)	①明赤褐②酸化焰③ 粗砂粒を含む	口縁部はわずかに外反。口縁ナデ、胴外面粗いナ デ後縦方向ヘラ削り、内面粗い横ナデ。	接合痕 顕著

## 34号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	南 +25	口~底 $\frac{1}{4}$	口(12.8)高(3.4) 底(11.8)	①明褐②酸化焰③粗 砂粒を含む	底部やや平底。口縁及び内面横ナデ、底部ヘラ削 りか。器面の磨耗激しい。	
2	土師器 坏	中央 +20	口~底 $\frac{1}{2}$	口(13.0)	①褐灰②酸化焰③中 砂粒を含む	口縁内傾、体部に稜を残す。口縁及び内面横ナデ、 底部ヘラ削り。	
3	土師器 坏	南東 +35	口縁部 片	口(11.8)	①橙②酸化焰③中砂 粒を含む	口縁及び内面横ナデ、体部ヘラ削り。	
4	土師器 高坏	南 +2	脚部	口一 高一 底一	①にぶい橙②酸化焰 ③中砂粒を含む	脚部はラッパ状に開く。脚部外面縦ヘラ削り、内 面ナデ、指頭痕接合痕を残す。体部内面ナデ。	
5	土師器 甕	南東 +10	口縁部 $\frac{1}{4}$	口(18.8)	①橙②酸化焰③粗砂 粒を含む	口縁わずかに外反。器肉厚い。器面の磨耗。口縁 及び内面横ナデ、胴外面縦方向のヘラ削り。	接合痕顕著
6	土師器 甕	南東 +6	口縁部 $\frac{1}{2}$	口(15.8)	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒を含む	口縁は外反し、器肉厚い。口縁ナデ、胴外面ヘラ 削り、胴内面粗い横ナデ後、縦方向の指ナデ。	
7	土師器 甕	西 +22	底部	口一 高一 底一	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒を含む	丸底。内面底部が胴部への輪積み痕を残すナデ、 外面ヘラ削りか。器面の磨耗あり。	

## 35号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	貯蔵穴内 +17	完形	口11.7 高4.2	①明赤褐②酸化焰、 良好③細砂粒を含む	口唇部内傾。口唇及び内面ナデ、体・底部不定方向のヘラ削り。器形の歪み大きい。	
2	土師器 坏	南東 +1	ほぼ完 形	口10.8高3.8	①橙②酸化焰③細砂 粒を含む	丸底を呈し、口唇部内傾気味。口唇及び内面横ナデ、体部横・底部不定方向のヘラ削り。	器面の磨耗 あり
3	須恵器 坏	かまど左 側+1	ほぼ完 形	口11.7 高3.7 底8.6	①灰②還元焰、良好 ③粗砂粒を少量含む	轆轤整形、底部右回転ヘラ削り調整が施される。	
4	土師器 坏	かまど前 +15	ほぼ完 形	口11.2 高3.7	①橙②酸化焰③中砂 粒を含む	口唇部内傾気味。口唇及び内面横ナデ、体部横・底部不定方向のヘラ削り。	器面の磨耗 あり
5	土師器 坏	かまど内 -8	%	口(11.7) 高4.5	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒を含む	丸底を呈し、口唇直立。口唇および内面横ナデ、体・底部不定方向のヘラ削り。	
6	土師器 坏	南東 +18	口縁部 5/6欠	口(12.6) 高(4.8)	①橙②酸化焰③中砂 粒を含む	丸底を呈し、口唇直立。口唇および内面横ナデ、体部横・底部不定方向のヘラ削り。	器面の磨耗 あり
7	土師器 坏	かまど前 +10	口縁部 1/2欠	口(13.4) 高4.4	①にぶい褐②酸化焰 ③粗砂粒を含む	丸底を呈し、口唇直立。口唇横ナデ、内面ナデ後研磨か。体部横・不定方向のヘラ削り。	器面の磨耗 あり
8	土師器 坏	かまど左 側+2	口縁部 1/2欠	口13.8 高4.3	①にぶい赤褐②酸化 焰③粗砂粒を含む	丸底を呈し、口唇部内傾気味。口唇及び内面横ナデ、体部横・底部不定方向ヘラ削り。	内面底磨耗
9	土師器 坏	北西 +7	口縁部 1/2欠	口(13.7) 高4.7	①橙②酸化焰③粗砂 粒を少量含む	丸底を呈し、口唇直立。口唇および内面横ナデ、体部横・底部不定方向のヘラ削り。	器面の磨耗 あり
10	土師器 小型甕	北西 +5	口~胴 上1/2	口(13.6)	①明赤褐②酸化焰③ 粗砂粒を含む	口縁部短く外反。口縁及び内面横ナデ、胴外面縦方向のヘラ削り。器面の磨耗あり。	
11	土師器 甕	北西 +14	口縁部 1/2	口(24.4)	①橙②酸化焰③粗砂 粒を含む	口縁部は外反。口縁及び内面横ナデ、胴外面縦方向のヘラ削り。	
12	土師器 甕	中央 -1	口縁部 片	口(27.2)	①橙②酸化焰③粗砂 粒を含む	口縁部は外反。口縁及び内面横ナデ、胴外面縦方向のヘラ削り。器面の磨耗あり。接合痕あり。	
13	土師器 甕	南東 +7	口~胴 上1/2	口(24.6)	①明赤褐②酸化焰③ 中砂粒を含む	胴部は大きく膨らむ。口縁及び内面横ナデ、胴外面斜縦方向のヘラ削り。	
14	手づくね 土器	かまど付 近+20	端部 1/2欠	口5.0 高3.2 体部6.2	①橙②酸化焰③粗砂 粒を含む	粘土塊を素材に作られるが、調整が雑なため外面に窪みを残す。	

## 36号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	須恵器 埴	かまど右 側+7	体部 1/2欠	口(11.8) 高4.8 底4.6	①にぶい黄橙②酸化 焰③細砂粒含む	口唇端部は開く。轆轤整形、右回転糸切り未調整。体部に轆轤痕を残す。器面の磨耗激しい。	
2	須恵器 高台付埴	かまど右 側+6	底部片	底6.0	①暗灰黄②酸化焰③ 粗砂粒を含む	底部の器肉厚い。轆轤整形。回転糸切り後、高台貼付。	
3	須恵器 埴	かまど右 側+5	口縁部 片	口(15.0)	①にぶい橙②酸化焰 ③細砂粒を含む	体部はほぼ直線的に開く。轆轤整形、轆轤痕をよく残す。	

## 37号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	灰釉陶器 高台付埴	西 +5	ほぼ完 形	口15.2 高5.2 底7.9	①断面灰白②良好③ 堅緻、微砂粒含有	轆轤成形、右回転。底部は回転ヘラ削り調整。施釉方法は刷毛塗り。釉調やや透明感のある灰黄色。	光ヶ丘1号 窯式期
2	須恵器 高台付埴	ピット13 内+6	口~底 1/2	口(14.2) 高5.8底(7.2)	①褐灰②還元焰③中 砂粒を含む	体部はわずかに膨らむ。轆轤整形。底部切り離し後、高台貼付。	
3	須恵器 甕	北 +27	胴部片	口一 高一 底一	①灰②還元焰、良好 ③中砂粒を含む	胴下半片と思われる。外面平行タタキ目、内面青海波文の当て板痕を残す。	
4	須恵器 高台付埴	南壁 +2	ほぼ完 形	口13.6高5.2 底6.5	①褐灰②還元焰③中 砂粒を含む	口縁端部は開き気味。轆轤整形。右回転糸切り後、高台貼付。轆轤痕を残す。器形歪む。	
5	土師器 小型甕	ピット10 内+15	口縁部 片	口(12.4)	①にぶい褐②酸化焰 ③中砂粒を含む	口唇部直立。口縁及び内面横ナデ、胴外面横方向のヘラ削り。内面に接合痕。	



## E区住居跡出土遺物

6	土師器 甕	ピット13 内+13	口縁部 1/2	口(20.6)	①にぶい橙②酸化焰 ③中砂粒を含む	「コ」字状口縁を呈す。口縁及び内面横ナデ、胴外面横方向のヘラ削り。頸部に接合痕。	
7	須恵器 羽釜	ピット7 内+6	口～胴 上1/3	口(18.6)	①褐灰②還元焰③中 砂粒を含む	口縁頂部面取り内傾。断面三角の鑊が貼付される。内外面回転ナデ。ナデ痕顕著。	
8	須恵器 羽釜	東 +2	口～胴 上片	口(18.8)	①灰黄褐②還元焰③ 中砂粒を含む	口縁部内傾、断面三角の鑊が貼付。内外面に回転ナデ。ナデ痕顕著。頂部平坦。	

## 38A・38B号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 甕	ピット1 内-17	胴上部 底部片	口(20.2)	①橙②酸化焰③細砂 粒を含む	「コ」字状口縁を呈す。口縁及び内面横ナデ、胴外面横・斜縦方向のヘラ削り。同一個体片の復元。	38A号住居 出土
2	土師器 甕	かまど左 側-3	口～胴 中1/2	口(23.4)	①橙②酸化焰③粗砂 粒を含む	胴部は膨らむ。口縁及び内面横ナデ、胴外面縦方向のヘラ削り。接合痕あり。	38B号住居 出土

## 39号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	北東 +10	ほぼ完 形	口12.0 高4.4 底7.0	①橙②酸化焰③粗砂 粒を含む	口縁及び内面横ナデ、体部横・底部不定方向のヘラ削り。器面の磨耗激しい。底部平底ヘラ調整。	
2	須恵器 坏	北東 +14	口縁部 片	口(15.4)	①灰白②酸化焰③細 砂粒を含む	体部は丸い。轆轤整形、轆轤痕を残す。	
3	須恵器 坏	中央 +6	底部片	底(7.2)	①灰黄②還元焰③中 砂粒を含む	轆轤整形、回転糸切り未調整。	
4	須恵器 蓋	中央 +5	体部 1/2欠	口(16.8) 高4.0 摘4.4	①灰白②還元焰③細 砂粒を含む	端部は屈曲。轆轤整形、体部切り離し後つまみを貼付。器面の磨耗あり。天井部回転ヘラ削りか。	
5	土師器 小型甕	西かまど 付近覆土	口縁部 片	口(13.2)	①明赤褐②酸化焰③ 細砂粒を含む	口縁部外反。胴外面ヘラ削り、内面ナデが施される。器面の磨耗あり。	
6	土師器 甕	西かまど 付近覆土	口縁部 片	口(20.2)	①橙②酸化焰③細砂 粒を含む	「く」字状口縁を呈す。口縁及び内面横ナデ、胴外面横方向のヘラ削り。頸部指頭圧痕。	
7	土師器 甕	東かまど 内+1	底部片	底4.5	①にぶい橙②酸化焰 ③細砂粒を含む	底部小さく、内面ヘラナデ当て痕、外面斜縦方向のヘラ削り。	
8	土師器 甕	西かまど 内+7	口縁部 片	口(19.8)	①にぶい赤褐②酸化 焰③細砂粒を含む	「コ」字状口縁を呈す。口縁及び内面横ナデ、胴外面横方向のヘラ削り。	
9	土師器 甕	西かまど 付近-4	口縁部 1/2	口(22.6)	①橙②酸化焰③細砂 粒を含む	「コ」字状口縁を呈す。口縁及び内面横ナデ、胴外面横方向のヘラ削り。頸部指頭圧痕。器肉厚い。	
10	須恵器 甕	中央 +4	口～胴 中1/2	口(28.2)	①灰白②還元焰、良 好③粗砂粒を含む	口縁は折返し、胴部は膨らむ。轆轤整形、内外面に轆轤痕をよく残す。	

## 40号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	南西隅 -14	体部1/2	口(12.1)	①にぶい橙②酸化焰 ③中砂粒を含む	体部は丸い。器面の磨耗激しい。口縁及び内面横ナデ、体部ヘラ削りか。	
2	土師器 坏	かまど前 +10	口縁部 1/2	口(12.7)	①にぶい橙②酸化焰 ③中砂粒を含む	口縁及び内面横ナデ、体部ヘラ削りが施される。	
3	土師器 甕	西 +3	口縁部 片	口(16.6)	①にぶい橙②酸化焰 ③中砂粒を含む	胴部は大きく膨らむ。口縁ナデ、外面頸部縦・胴横方向のヘラ削り、内面ヘラナデ。	
4	土師器 甕	かまど前 +10	口～胴 上1/3	口(21.8)	①明赤褐②酸化焰③ 中砂粒を含む	口縁外反横ナデ、胴外面斜縦方向のヘラ削り・内面ヘラナデ。器面の磨耗あり。	

## 43号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	東 +3	1/2	口(13.8) 高(4.4)	①にぶい橙②酸化焰 ③細砂粒を含む	体部は直線的に開く。器面の磨耗激しい。口縁及び内面横ナデ、体部下半・底部ヘラ削りか。	
2	土師器 鉢	東壁 -1	口～胴 上1/3	口(24.2)	①橙②酸化焰③中砂 粒を含む	体部は丸い。口縁及び内面横ナデ、体部外面斜縦方向のヘラ削り。	
3	須恵器 壺	東壁 -2	口縁部 片	口(21.7)	①灰②還元焰、良 好③中砂粒を含む	口唇部断面三角形、強い稜を残す。轆轤整形。	

## 44号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	北東 +3	1/2	口(12.9) 高3.9底(5.6)	①灰白②還元焰③中 砂粒を含む	轆轤整形、回転糸切り未調整。	
2	須恵器 高台付埴 土	南東 +4	高台欠 体1/2	口14.2高(5.2) 底(7.4)	①灰白②還元焰③粗 砂粒を含む	轆轤整形、右回転糸切り後高台貼付。轆轤痕をよく残す。	
3	須恵器 甕	かまど内 +5	口縁部 片	口(18.8)	①明赤褐②酸化焰③ 中砂粒を含む	「コ」字状口縁。口縁及び内面横ナデ、胴外面横方向のヘラ削り。頸外面に横ナデ未調整部分あり。	
4	土師器 台付甕	覆土	脚部片	脚8.7	①橙②酸化焰③中砂 粒を含む	脚部はラッパ状に開く。内外面横ナデが施される。器面の磨耗あり。	
5	土師器 甕	南東 +1	口～胴 下1/2	口(19.0)	①にぶい橙②酸化焰 ③中砂粒を含む	「コ」字状口縁。口縁及び内面横ナデ、胴外面横・縦のヘラ削り。接合痕あり。	
6	土師器 甕	南東 ±0	口～胴 下1/2	口(19.0)	①にぶい褐②酸化焰 ③中砂粒を含む	「コ」字状口縁。口縁は指頭痕を残す横ナデ、胴外面横・縦のヘラ削り。胴内面ナデ。接合痕あり。	

## 45号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	北西 +9	口縁部 一部欠	口11.8 高3.7 底8.3	①橙②酸化焰③中砂 粒を含む	口唇器面の磨耗激しい。口縁部横ナデ、体部下半・底部ヘラ削りか。底部平底。	
2	土師器 坏	中央 +6	1/2	口(12.1) 高3.9	①橙②酸化焰③中砂 粒を含む	口縁及び内面横ナデ、体部横・底部不定方向のヘラ削り。器面の磨耗あり。底部平底。	
3	滑石	南壁 +34	剥片	<計測値>長7.7、幅4.5、厚1.8、重58.6<石材>滑石<特徴>未製品。加工痕等は見られない。			
4	須恵器 坏	中央 +15	完形	口12.6 高3.1 底5.3	①灰②還元焰、良好 ③中砂粒を含む	体部は大きく開く。轆轤整形、右回転糸切り未調整。轆轤痕をよく残す。内面火だすき痕。	
5	土師器 甕	貯蔵穴内 -13	口～胴 上	口(28.2)	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒を含む	口唇端部は直立し、胴部は膨らむ。胴外面斜縦方向のヘラ削り、内面強いナデ。	

## 49号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 甕	北 +12	口縁部 片	口(22.7)	①暗赤褐②酸化焰③ 粗砂粒を少量含む	口縁部短く外反。口唇端部は屈曲、胴部は膨らむ。口縁及び内面横ナデ、胴外面横方向のヘラ削り。	

## 51号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	中央 -24	口縁部 1/2	口(11.8)	①橙②酸化焰③細砂 粒を含む	丸底を呈す。器面の磨耗激しい。体部ヘラ削りか。	
2	土師器 坏	南 +5	口～底 1/2	口(12.0) 高4.0	①にぶい黄橙②酸化 焰③細砂粒を含む	丸底を呈し、体部に弱い稜。器面の磨耗激しい。口縁及び内面横ナデ、底部ヘラ削りか。	
3	土師器 坏	南 +5	1/2	口(13.4) 高4.4	①にぶい橙②酸化焰 ③中砂粒を含む	丸底を呈し、体部に稜。器面の磨耗激しい。口縁及び内面横ナデ、底部ヘラ削りか。	
4	土師器 坏	かまど内 -2	口縁部 1/2	口(14.6)	①にぶい橙②酸化焰 ③細砂粒を含む	丸底を呈し、体部に稜。器面の磨耗激しい。口縁及び内面横ナデ、底部ヘラ削りか。	
5	土師器 台付甕	かまど左 側-4	脚部片	口— 高一 底—	①暗赤褐②酸化焰③ 粗砂粒多量に含む	内面ナデ、胴外面縦方向のヘラ削りか。器面の磨耗激しい。砂礫多い。	
6	土師器 甕	かまど左 側-1	口縁部 1/2	口(28.4)	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒を含む	口縁部外反。口唇端部で面取り。口縁及び内面横ナデ、胴外面縦方向のヘラ削り。	
7	土師器 甕	中央 -3	口～胴 中1/2	口26.7 孔0.6	①にぶい橙②酸化焰 ③砂粒含む	口縁外反。口縁及び内面横ナデ、胴外面縦方向のヘラ削り。頸部に焼成後の穿孔あり。	

## E区住居跡出土遺物

## 52A・52B号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	南東 +10	口縁部 片	口(11.4)	①橙②酸化焰③細砂 粒を含む	丸底を呈し、体部に稜を残す。口縁及び内面横ナ デ、底部ヘラ削りか。	
2	土師器 坏	南東 +8	1/2	口(10.6) 高5.6	①にぶい橙②酸化焰 ③中砂粒を含む	口縁端部は内傾し、体部は丸い。器面の磨耗激し い。口縁及び内面横ナデ、体部ヘラ削りか。	
3	土師器 甕	南東 +25	口縁部 片	口(16.0)	①暗赤褐②酸化焰③ 粗砂粒を含む	口縁は外反、肩部に稜。口縁及び内面横ナデ、胴 外面ヘラ削り。	

## 55号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	南壁+2	1/2	口12.2 高3.6 底8.4	①橙②酸化焰③粗砂 粒を含む	口縁及び内面横ナデ、体部横・底部不定方向のヘ ラ削り。器面の磨耗あり。底部平底、ヘラ削り。	
2	土師器 坏	かまど左 側±0	1/2	口(13.4) 高4.7 底9.4	①にぶい橙②酸化焰 ③中砂粒を含む	口縁及び内面横ナデ、体部横・底部不定方向のヘ ラ削り。底部平底気味。	
3	須恵器 坏	中央 +3	1/2	口(12.4) 高3.9底(7.2)	①灰②還元焰、良好 ③中砂粒を含む	やや上げ底。轆轤整形、右回転糸切り未調整。轆 轤痕を残す。	
4	須恵器 坏	かまど前 +2	ほぼ完 形	口12.0 高3.8 底6.8	①灰②還元焰、良好 ③中砂粒を含む	体部はやや膨らみ上げ底。轆轤整形、右回転糸切 り端部回転ヘラ削り調整。轆轤痕をよく残す。	
5	土師器 甕	かまど内 +4	口縁部 片	口(17.8)	①にぶい赤褐②酸化 焰③細砂粒を含む	口縁は緩やかに外反。口縁及び内面横ナデ、胴外 面横方向のヘラ削り。	
6	須恵器 甕	覆土	胴部片	口一 高一 底一	①褐灰②還元焰、良 好③粗砂粒を含む	轆轤整形。轆轤痕をよく残す。	
7	鉄製品 刀子	中央 +48	一部欠	<計測値>長20.4、刃12.2、棟闊1.5、重18.6<特徴>基部両端部、欠失。両閉づくりと思われる。			

## 56号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	東 +50	1/2	口(13.0) 高4.1底(9.4)	①橙②酸化焰③中砂 粒を含む	底部平底。口縁及び内面横ナデ、体部下半横・底 部ヘラ削り。器面の磨耗あり。	
2	土師器 坏	中央 -33	体部 1/2欠	口13.2 高4.1 底9.6	①橙②酸化焰③細砂 粒を含む	底部平底。口縁及び内面横ナデ、体部下半横・底 部ヘラ削り。器面の磨耗あり。	
3	土師器 坏	中央 -12	1/2	口12.0 高4.0 底8.0	①橙②酸化焰③細砂 粒を含む	平底気味で口縁及び内面横ナデ、体部横・底部ヘ ラ削り。器面の磨耗激しい。	
4	須恵器 坏	南壁 +9	体部 1/2欠	底7.0	①灰白②還元焰、良 好③細砂粒を含む	轆轤整形、右回転糸切り未調整。	
5	須恵器 坏	南東隅 +13	1/2	口(13.4) 高3.2底(8.0)	①灰②還元焰、良好 ③細砂粒を含む	轆轤整形、回転糸切り未調整。	
6	土師器 小型甕	南東 +2	口~胴 下1/2	口(14.0)	①赤褐②酸化焰③粗 砂粒を含む	口縁部短く外反、横ナデ。胴外面斜縦方向ヘラ削 り・内面粗いナデ。胴中~下位にかけ丸味を持つ。	
7	土師器 鉢?	南東 -25	口縁部 片	口(32.0)	①にぶい褐②酸化焰 ③細砂粒を含む	口縁は大きく開き、口唇端面取り。口縁及び内 面横ナデ、体部外面ヘラ削り。	
8	土師器 鉢	中央 -24	口~胴 中	口(22.9)	①にぶい褐②酸化焰 ③粗砂粒を含む	口縁及び内面横ナデ、外面口縁下ナデ・斜縦方向 のヘラ削り。	
9	土師器 甕	南 -2	1/2	口(26.0)高 30.0底(12.8)	①にぶい褐②酸化焰 ③粗砂粒を含む	口縁はわずかに外反。口縁横ナデ、胴外面斜縦・ 横方向のヘラ削り、内面縦横の粗いナデ。	

## 60号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	西壁 +29	1/2	口(10.0) 高3.5底(3.7)	①にぶい黄橙②酸化 焰③細砂粒含む	口縁端部は屈曲。轆轤整形、回転糸切り未調整か。 器面の磨耗あり。	
2	須恵器 土釜	中央 +12	口縁部 片	口(23.2)	①橙②酸化焰③中砂 粒を含む	口縁は直立。口縁及び内面横ナデ、胴外面ヘラ削 りか。	
3	須恵器 羽釜	かまど右 側+17	1/2	口(18.2) 高24.2 底6.2	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒を含む	口縁は内傾する。内外面回転ナデ後、胴外面下半 斜縦方向のヘラ削り。罫は貼付。ナデ痕顕著。	



## 61号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	かまど前 +7	口・体 一部欠	口14.8 高4.4	①橙②酸化焰③粗砂 粒を含む	口縁及び内面横ナデ、体・底部ヘラ削りか。器面 の磨耗激しい。	
2	土師器 坏	かまど付 近+15	体部 欠	口14.4 高4.5 底8.8	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒を含む	口縁及び内面横ナデ、体・底部ヘラ削り。口唇下 に指頭痕。器面の磨耗激しい。	
3	鉄製品 刀子	中央 +19	ほぼ完 形	<計測値>長18.0、棟関1.3、厚0.5、 重15.3<特徴>両関づくり。			
4	土師器 小型甕	南東 +26	口縁片	口(14.0)	①橙②酸化焰③粗砂 粒を含む	口縁は直立。口縁及び内面横ナデ、胴外面横方向 のヘラ削り。接合痕明瞭。	
5	土師器 台付甕	東 +7	脚～底	脚(8.4)	①橙②酸化焰③粗砂 粒を含む	脚部ハの字に開く。外面斜縦方向のヘラ削り。胴 内面ヘラナデ痕を残す。脚接合部指押し。	
6	土師器 甕	東 +15	口縁部 片	口(22.8)	①橙②酸化焰③粗砂 粒を含む	口縁横ナデ、指頭痕を残す。	
7	土師器 甕	かまど中 +24	口～胴 中欠	口(28.4)	①明赤褐②酸化焰③ 粗砂粒を含む	口縁短く外反。口縁及び内面横ナデ、胴外面縦・ 下位斜縦方向のヘラ削り。胴内面斜め方向ナデ。	

## 62号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	石器 滑石	北壁 +12	剝片	<計測値>長7.6、幅4.7、厚1.5、重68.7<石材>滑石<特徴>未製品。加工痕等見られ ない。			
2	土師器 甕	中央 +11	口縁部 片	口(14.0)	①赤褐②酸化焰③粗 砂粒を含む	口縁は直立。口縁及び内面横ナデ、胴外面ヘラ削 り。接合痕あり。	

## 63号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	貯蔵穴内 +2	口縁部 欠	口(13.2) 高4.4	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒を含む	丸底を呈し、口縁端部直立。口縁及び内面横ナデ、 体部横・底部不定方向のヘラ削り。	
2	土師器 坏	煙道部内 +8	完形	口14.5高4.1 底10.3	①橙②酸化焰③中砂 粒を含む	口縁及び内面横ナデ、体部横・底部不定方向のヘ ラ削りか。器面の磨耗あり。底部平底。	
3	土師器 坏	中央 +4	1/4	口(14.8)	①にぶい橙②酸化焰 ③中砂粒を含む	口縁及び内面横ナデ、体部横方向のヘラ削りか。 器面の磨耗激しい。	
4	土師器 坏	西 +8	1/4	口(17.4) 高(6.7)	①橙②酸化焰③中砂 粒を含む	体部はほぼ直線的。器面の磨耗激しい。口縁及び 内面横ナデ、体・底部ヘラ削りか。	
5	土師器 高坏	南西 +19	脚部片	口一 高一 底一	①にぶい橙②酸化焰 ③中砂粒を含む	脚端部は大きく開く。器面の磨耗激しい。脚外面 ナデ・縦ヘラ削り、内面指頭痕を残すナデか。	
6	須恵器 蓋	南西 -3	端部片	口(15.5)	①灰白②還元焰、良 好③中砂粒を含む	轆轤整形。天井部、回転ヘラ削り。内面断面三角 形のかえりをもつ。	
7	土師器 甕	貯蔵穴内 -4	口～胴 上	口(26.1)	①橙②酸化焰③粗砂 粒を含む	口縁部外反。球形状胴部。口縁及び内面横ナデ、 胴外面頸横・斜縦方向のヘラ削り。	
8	土師器 甕	南壁 +1	底部片	口一 高一 底一	①にぶい橙②酸化焰 良好③中砂粒を含む	外面斜縦・横方向のヘラ削り、内面粗いナデ。ナ デ痕顕著。底部丸底。	

## 64号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	南 +52	体部欠	口(13.0) 高3.9 底6.3	①灰②還元焰③粗砂 粒を含む	轆轤整形、右回転糸切り未調整。轆轤痕をよく残 す。	
2	須恵器 坏	南東 -6	1/2	口(12.6) 高3.3 底7.6	①にぶい黄橙②酸化 焰③中砂粒を含む	轆轤整形、糸切り後未調整。	
3	須恵器 高台付埴	南西 -28	高台欠 体1/2	口(14.7)	①橙②酸化焰③中砂 粒を含む	体部は直線的に開く。轆轤整形。切り離した後、高 台貼付。内面研磨後内黒処理か。轆轤痕を残す。	内黒土器
4	須恵器 高台付埴	南東 -30	体部欠	口14.0高4.8 底6.7	①灰白②還元焰③粗 砂粒を含む	轆轤整形、回転糸切り後高台貼付。轆轤痕を残す。	
5	須恵器 高台付埴	南東 -17	体部欠	口(15.6) 高5.4 底8.3	①灰白②還元焰③粗 砂粒を含む	轆轤整形、回転糸切り後高台貼付。轆轤痕をよく 残す。	

E区住居跡出土遺物

6	須恵器 高台付塊	南 +52	底部	底7.5	①灰白②還元焰、良好③中砂粒を含む	轆轤整形、回転糸切り後未調整高台貼付。	
7	須恵器 高台付塊	北 +30	底部	底7.0	①黒②酸化焰③中砂粒を含む	轆轤整形、回転糸切り後高台貼付。器面の磨耗激しい。	
8	土師器 甕	南西 -31	口縁部片	口(17.4)	①にぶい橙②酸化焰③中砂粒を含む	「コ」字状口縁。口縁及び内面横ナデ、胴外面上位横方向・中位斜方向ヘラ削り。頸部に接合痕あり。	
9	土師器 甕	かまど内 -24	底部片	底3.6	①にぶい橙②酸化焰③中砂粒を含む	胴外面縦・横方向のヘラ削り、底部ヘラ削り。内面底当て板痕あり。	
10	土師器 甕	かまど右側 -19	口～胴上	口(21.7)	①明赤褐②酸化焰③中砂粒を含む	「コ」字状口縁。口縁横ナデ、胴外面上位横方向・中位斜方向ヘラ削り。内面粗いナデ。頸部接合痕。	

70号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 甕	煙道部内 +1	口縁部片	口(24.0)	①明赤褐②酸化焰③細砂粒を含む	口縁は「く」字状に外反。口縁及び内面横ナデ、胴外面横ヘラ削り。口縁外面に接合痕・工具痕あり。	
2	土師器 甕	かまど前 -1	底部	底12.2	①橙②酸化焰③粗砂粒を含む	胴部は直線的。外面縦・一部横方向のヘラ削り。内面粗いナデ。ナデ痕顕著。	

71号住居跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	北東 +2	体部 $\frac{1}{2}$ 欠	口14.0高4.8 底9.0	①橙②酸化焰③中砂粒を含む	口縁ナデ、体部横・底部不定方向のヘラ削り。内面ナデ後、体部放射状暗文。	
2	土師器 甕	かまど内 -2	底部片	口— 高一 底—	①明赤褐②酸化焰③粗砂粒を含む	丸底気味。外面斜・横縦方向のヘラ削り、内面横ナデ。接合痕あり。	
3	土師器 小型甕	東 +6	胴部欠	口14.8 高(14.7)	①橙②酸化焰③粗砂粒を含む	底部丸底。口縁及び内面横ナデ、胴外面縦・下半横方向のヘラ削り。接合痕・ナデ痕顕著。	
4	土師器 甕	北西 +7	口縁部	口20.8	①橙②酸化焰③粗砂粒を含む	口縁部外反。口縁及び内面横ナデ、胴外面縦・横方向のヘラ削り。	
5	土師器 鉢	北東 ±0	体部 $\frac{1}{2}$ 欠	口24.0高12.3	①にぶい橙②酸化焰③粗砂粒を含む	底部丸底。口唇部面取り口縁及び内面横ナデ、体部外面斜縦方向のヘラ削り。接合痕あり。	
6	土師器 甕	かまど前 ±0	胴部 $\frac{1}{2}$ 欠	胴(30.4)	①にぶい橙②酸化焰③粗砂粒を含む	肩部大きく膨らむ。外面縦・斜縦方向のヘラ削り、内面粗い横ナデ。接合痕あり。	
7	土師器 甕	かまど内 -2	ほぼ完形	口22.8高31.7 底4.6	①橙②酸化焰③粗砂粒を含む	「く」字状の口縁。口縁及び内面横ナデ、胴外面上位下半斜縦・縦方向のヘラ削り。	
8	土師器 甕	煙道部内 ±0	口～胴	口(24.4)	①にぶい橙②酸化焰③粗砂粒を含む	口縁は大きく外反。口縁及び内面横ナデ、胴外面縦方向のヘラ削り。内面ナデ痕。内面下位肥厚。	
9	鉄製品 鎌	南東 -1	先端部欠	<計測値>長6.4、幅3.0、厚0.3、重10.5<特徴>直線的。基部の上側が折り曲げられる。			
10	鉄製品 鎌	南西 +17	一部欠	<計測値>長15.1、幅2.9、厚0.5、重27.2<特徴>全体に直線的。基部は折り曲げられる。			

## 掘立柱建物跡出土遺物

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	E区4号 掘立	口～体 破片	口(12.9)	①黄橙②酸化焰、普通③細砂粒含む	器面の磨耗あり、調整不明。	
2	須恵器 坏	E区6号 掘立	口～底 ⅓	口(11.6) 高3.0 底6.0	①鈍い黄橙②酸化焰、普通③細砂粒含む	轆轤整形、底部回転糸切り未調整。腰部絞り込み底部円盤状、肥厚。	
3	須恵器 塊	E区7号 掘立	口縁部 欠損	底7.2	①鈍い橙②酸化焰、普通③砂・粘土粒含む	轆轤整形、底部回転糸切り未調整。高台部貼り付け後撫で。	
4	土師器 坏	E区7号 掘立柱1	口～体 ⅓	口(14.0)	①鈍い褐②酸化焰、普通③砂粒含む	口縁及び内面横ナデ、体部ヘラ削り。	
5	灰釉陶器 塊	E区7号 掘立柱4	口縁部 破片	口(14.0)	①明褐灰②還元焰③緻密	轆轤成形。回転方向不明。施釉方法刷毛塗り。釉調は不透明な灰白色。	
6	土師器 坏	E区8号 掘立柱8	口～体 ⅓	口(14.0)	①橙②酸化焰、普通③細砂粒含む	器面の磨耗、調整不明瞭。内面撫で。口縁端部僅かに内屈。	
7	土師器 坏	E区8号 掘立柱9	口～体 ⅓	口(8.0)	①鈍い橙②酸化焰、普通③砂粒含む	口縁及び内面横ナデ。体部横方向ヘラ削り。	
8	土師器 坏	E区10号 掘立柱8	口縁部 ⅓	口(12.7)	①鈍い橙②酸化焰、普通③細砂粒含む	口縁部直線的に開き、底部平底状を呈する。器面の磨耗、調整不明瞭。内面撫で。	
9	土師器 坏	E区11号 掘立柱7	口縁部 欠損	口(12.4) 高4.0	①橙②酸化焰、やや軟質③砂・粘土粒	器面の磨耗あり、調整不明瞭。	
10	土師器 小型甕	E区10号 掘立柱9	口縁部 一部欠	口13.2高14.9 底6.4	①赤褐②酸化焰、普通③砂粒含む	口縁部横ナデ、胴部斜縦位ヘラ削り。内面口縁部横ナデ、胴部横方向ヘラナデ。	
11	礫	E区7号 掘立柱4	破片	<計測値>長6.4、幅4.5、厚0.7、重34.2<石材>緑色片岩<特徴>側縁部に穿孔痕らしき剝離部3ヶ所に認められる。短辺部の痕跡は両面からの加工と思われる。			
12	土師器 甕	E区11号 掘立柱1	底部 ⅓	底(11.0)	①鈍い橙②酸化焰、普通③砂・粘土粒含む	外面斜方向ヘラ削り。内面丁寧な撫で。端部面取り。	
13	須恵器 坏	E区14号 掘立柱2	口～底 ⅓	口(13.8) 高(5.0)	①灰②還元焰、硬質③黒色細粒含む	轆轤整形、腰部から底部回転ヘラ削り調整。	
14	土師器 坏	E区15号 掘立柱12	口縁部 破片	口(13.4)	①橙②酸化焰、普通③細砂・粘土粒含む	口縁及び内面横ナデ、体部ヘラ削り。	
15	須恵器 蓋	E区15号 掘立	口縁部 破片	口(18.0)	①灰白②還元焰、硬質③黒色細粒含む	轆轤整形、頂部回転ヘラ削り。かえりはシャープ。	
16	土師器 甕	E区15号 掘立柱11	口縁部 破片	口(20.0)	①褐②酸化焰、普通③細砂粒含む	口縁及び内面横ナデ。	
17	縄文土器 深鉢	E区4号 掘立柱10	口～胴 ⅓	口一 高一 底一	①鈍い赤褐色②普通③粗砂粒含む	口縁部指頭痕による波状口縁。器面の磨耕により文様明瞭でないが、縦転がしの縄文施文。	

## DN区土坑出土遺物

## DN区土坑出土遺物

## 2号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	器形・整形の特徴	備考
1	石皿	+8	片		<計測値>長21.1、幅25.3、厚10.6、重6300.0<石材>粗粒安山岩<特徴>楕円形磨面。	
2	陶器鉢	+8	口縁片	口一高一底一	浅黄色をなす。瀬戸・美濃系。練鉢または片口鉢?	江戸時代

## 13号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	須恵器甕	+11	胴部片	口一高一底一	①灰②還元焰③細砂粒を含む	紐作りタタキ整形。外面平行タタキ。内面青海波文。	
2	磨石	+8	完形			<計測値>長7.5、幅6.9、厚5.5、重351.9<石材>粗粒安山岩<特徴>部分的に打痕有。	

## 16号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	弥生土器甕	覆土	口~胴下半	口14.1	①明赤褐②普通③砂粒混じり	胴部中央に最大径をもつ。口唇部及び頸部から胴上半にかけて波状文。	樽式

## 18号土坑跡

番号	器種	出土位置	残存	法量 (cm, g)	石 材	備考
1	磨製石斧	覆土	一部欠		<計測値>長10.3、幅5.7、厚3.6、重387.3<石材>変玄武岩<特徴>刃部、刃こぼれ。	

## 19号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器深鉢	+16	口縁片	①にぶい橙②普通③細砂粒を含む	口縁に突起を持つ。太沈線が波頂部から下方へ施文される。磨耗激しい。	堀之内式
2	縄文土器深鉢	+13	口縁片	①浅黄橙②普通③砂粒を含む	口縁部に無文帯。横位にナデている。頸部に隆線を持つ。	中期
3	縄文土器深鉢	+19	口縁片	①褐②普通③砂粒を含む	内外面無文。口唇部内傾。	
4	縄文土器深鉢	+21	口縁片	①淡黄②普通③粗砂粒含む	口縁部に無文帯。頸部に太い隆帯を持ち指頭圧痕が付けられる。全体に磨耗激しい。	後期
5	縄文土器深鉢	+19	口縁片	①橙②普通③砂粒含む	波状口縁になる。口縁に平行するように沈線が施文される。表面が剝離している。	後期
6	縄文土器深鉢	+19	口縁片	①暗褐②普通③細砂粒含む	波状口縁になる。波頂部から垂下するように粘土瘤が貼付される。全体に磨耗が激しい。	後期
7	縄文土器深鉢	+19	胴部片	①浅黄②普通③細砂粒含む	平行沈線による曲線文。沈線内を刺突が加えられる。全体に磨耗激しい。	
8	縄文土器深鉢	+5	底部片	①にぶい黄褐②普通③粗砂粒含む	無文。内外面の一部が黒色化している。煤状のものが付着する。	
9	縄文土器深鉢	+19	底部片	①灰黄褐②普通③砂粒を含む	無文。外面の一部が黒色化している。	
10	磨石	覆土	完形		<計測値>長6.0、幅5.6、厚4.1、重202.9<石材>粗粒安山岩<特徴>全面に磨り面有。	
11	磨石	+23	完形		<計測値>長7.0、幅6.6、厚5.3、重314.5<石材>粗粒安山岩<特徴>一面のみ磨り面。	

## 22号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器深鉢	+20	口~胴下位	①にぶい黄橙②普通③粗砂粒を含む	ずん胴形、口縁部突帯巡る。櫛歯状工具による2条の垂下文。	加曾利EIV式
2	縄文土器深鉢	+19	胴部片	①にぶい橙②普通③粗砂粒を含む	2条一対の垂下文。	加曾利EIV式
3	縄文土器深鉢	+19	胴下位~底片	①にぶい橙②やや軟質③粗砂粒含む	器面の磨耗激しく文様等不明。	

## 51号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 浅鉢	+25	口～底 1/2	①赤褐②普通③粗砂 粒を含む	口縁部内湾、端部内傾。内外面撫で。無文。	中期
2	縄文土器 深鉢	覆土	口縁片	①明赤褐②良好③金 雲母含む	粘土紐による曲線。竹管による押し引き文。	阿玉台式
3	縄文土器 深鉢	覆土	胴部片	①赤褐②普通③金雲 母含む	沈線が横位に施文。	阿玉台式
4	縄文土器 深鉢	覆土	胴部片	①明赤褐②普通③雲 母・粗砂粒含む	胴部に有形文施文。	阿玉台式
5	縄文土器 深鉢	覆土	底部片	①明褐②普通③小 石・粗砂粒含む	無文。磨耗激しい。	
6	磨石	+22	完形	<計測値>長18.7、幅18.6、厚4.5、重2190.0<石材>砂岩<特徴>表・裏・側面、磨り 面。		
7	打製石斧	+3	完形	<計測値>長13.1、幅5.1、厚2.5、重171.8<石材>硬質泥岩<特徴>短冊状。自然面有。		

## 52号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	+32	突起部	①にふい赤褐②普通 ③粗砂粒含む	波状口縁突起部。角柱状工具による刺突を口縁縁辺部に巡らす。 また、突起部には指頭押圧により波状を呈する。	

## 53号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	+14	口縁片	①明赤褐②良好③砂 粒含む	内外面磨き。内面隆帯巡る。	加曾利E式
2	剥片石器	+19	完形	<計測値>長7.1、幅5.2、厚2.0、重73.5<石材>硬質泥岩		

## 57号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	+3	口～胴 部下位	①にふい橙②やや軟 質③小石・粗砂粒	口唇部を指頭によって押圧し、小波状を呈する。器面上半部をハ ケ状のものでナデている。磨耗激しい。	晩期～弥生 初頭

## 61号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 鉢	覆土	胴部片	①明褐②普通③小 石・粗砂粒含む	太沈線による施文。	加曾利E式
2	縄文土器 鉢	覆土	胴部片	①にふい褐②普通③ 粗砂粒を含む	無文。磨耗激しい。	
3	縄文土器 鉢	覆土	胴部片	①にふい黄橙②良好 ③粗砂粒を含む	隆線による曲線。LRの縄文が施文される。	加曾利E式
4	縄文土器 鉢	覆土	胴部片	①にふい赤褐②普通 ③粗砂粒を含む	平行沈線による矢羽根状の施文。	前期
5	縄文土器 浅鉢	+70	口～胴	①明赤褐②良好③粗 砂粒含む	無文。内面荒れている。外面は、磨いている。	中期

## 62号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	+22	底部	①にふい黄橙②やや 軟質③粗砂粒含む	薄く2条の垂下文。	
2	磨石	覆土	完形	<計測値>長11.0、幅7.4、厚4.3、重511.6<石材>粗粒安山岩<特徴>表裏磨り面。		
3	打製石斧	覆土	完形	<計測値>長13.0、幅4.9、厚2.7、重210.6<石材>粗粒安山岩<特徴>短冊状。		

D N区土坑出土遺物

67号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 注口	+1	胴部片	①灰褐色②普通③粗砂粒含む	注口部周辺に、沈線による渦巻き文を持つ。注口部背面にも隆線と沈線による渦巻き文が施文される。他は無文で磨耗激しい。	堀之内式
2	縄文土器 深鉢	+49	口縁片	①灰褐色②普通③粗砂粒含む	無文。内面の口縁直下に沈線が横位に施文される。	堀之内式
3	縄文土器 深鉢	+17	口縁片	①浅黄橙②普通③粗砂粒含む	無文。内面の口縁直下に沈線が横位に施文される。	堀之内式
4	縄文土器 深鉢	+32	頸部片	①橙②普通③小石・粗砂粒含む	無文。磨耗激しく、表面が一部剥落している。	後期
5	縄文土器 深鉢	+9	口～胴部片	①にぶい黄褐色②軟質③小石・粗砂粒含む	無文。磨耗激しい。	後期
6	縄文土器 深鉢	+17	底部片	①橙②軟質③小石・粗砂粒含む	無文。磨耗激しい。	後期
7	縄文土器 深鉢	+28	口縁片	①にぶい黄橙②軟質③粗砂粒含む	口縁に添って隆帯がめぐる。頸部下は沈線による幾何学文。	堀之内式
8	縄文土器 深鉢	+25	口縁片	①にぶい黄橙②軟質③粗砂粒含む	口縁内面に隆帯が二条施文される。	堀之内式
9	縄文土器 深鉢	+29	胴部片	①橙②良好③小石・粗砂粒含む	沈線による幾何学文。区画内を無節RLの縄文を施文。	堀之内式
10	縄文土器 深鉢	+16	口縁片	①にぶい黄橙②良好③粗砂粒含む	外面頸部と内面口唇直下に沈線が巡る。	堀之内式
11	縄文土器 深鉢	+43	口縁片	①にぶい黄橙②普通③粗砂粒含む	外面頸部と内面口唇直下に沈線が巡る。	堀之内式
12	縄文土器 深鉢	覆土	底部片	①橙②やや軟質③粗砂粒含む	無文。	後期
13	縄文土器 深鉢	+32	底部片	①にぶい橙②良好③粗砂粒含む	無文。底部外面に指頭圧痕を持つ。	後期
14	縄文土器 深鉢	+31	底部片	①黄灰②良好③粗砂粒含む	無文。底部外面に網代痕跡を持つ。	後期
15	縄文土器 深鉢	+40	底部片	①橙②やや軟質③粗砂粒含む	無文。底部外面に網代痕跡を持つ。磨耗激しい。	後期
16	縄文土器 注口?	覆土	注口部	①橙②普通③粗砂粒含む	無文。	
17	石 錐	+7	完形	<計測値>長5.8、幅3.9、厚1.5、重40.4<石材>砂岩<特徴>長軸方向に僅かな溝有り。		
18	石 匙	+20	完形	<計測値>長6.2、幅9.2、厚2.6、重113.4<石材>珪質頁岩<特徴>一側縁部のみ調整。		
19	凹 石	+34	完形	<計測値>長12.2、幅7.4、厚4.7、重404.2<石材>デイサイト質凝灰岩<特徴>2穴。		

## E区土坑出土遺物

## 60A号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師質土器 灯明皿	遺構外	完形	□8.6 高1.8 底5.0	①橙②酸化焰、普通 ③細砂粒含む	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。	

## 13号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	覆土	口縁片	□(15.6)	①橙②酸化焰、普通 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部から底部手持ちヘラ削り。	

## 65号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	覆土	□～体 1/2	□(13.6)	①橙②酸化焰③粘土 粒・砂粒含む	轆轤整形。腰部ヘラ調整。内面黒色。	

## 49号土坑跡

番号	器種	出土位置	残存	法量 (cm, g) ・ 石材		備考
1	打製石斧	覆土	完形	<計測値>長11.1、幅4.2、厚1.9、重100.5<石材>硬質泥岩<特徴>短冊状を呈する。		

## 90号土坑跡

番号	器種	出土位置	残存	法量 (cm, g) ・ 石材		備考
1	石棒	覆土	端部欠	<計測値>長15.5、幅5.6、厚5.2、重755.8<石材>緑色片岩<特徴>円柱状を呈する。		

## 178号土坑跡

番号	器種	出土位置	残存	法量 (cm, g) ・ 石材		備考
1	磨石	覆土	完形	<計測値>長14.4、幅5.0、厚3.4、重410.8<石材>砂岩<特徴>表・裏・側面磨き。		浅い2穴

## 67号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	器形・整形の特徴	備考
1	磁器 碗	覆土	口縁片	□(10.0)	灰白色をなす。肥前系染付碗。外面コンニャク版。	18C前～中

## 151号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	弥生土器 甕	+20	□～頸 部片	□一 高一 底一	①浅黄橙②普通③砂 粒含む	口唇頂部、波状を呈する。頸部から胴上部波状文。	樽式

## 18号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	縄文土器 壺	+12	□～胴 1/2	□20.9	①橙②やや軟質③粗 砂粒含む	口縁部は内折し太い沈線が巡る。屈曲部に指頭痕が巡る。胴部条線による横位の施文。	晩期～弥生 初頭

## 72号土坑跡

番号	器種	出土位置	残存	法量 (cm, g) ・ 石材		備考
1	打製石斧	覆土	ほぼ完	<計測値>長7.5、幅3.7、厚1.5、重66.8<石材>硬質泥岩<特徴>刃部のみ調整。		



## E区土坑出土遺物

## 88・89号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	遺構外	口縁片	①にぶい橙②やや軟質③粗砂粒含む	太い沈線が頸部をめぐる。胴部文様は沈線による施文と刺突。	称名寺式
2	縄文土器 深鉢	覆土	口縁片	①にぶい黄橙②軟質③小石・粗砂粒含む	頸部が屈曲する。沈線による施文。	称名寺式
3	縄文土器 深鉢	覆土	胴部片	①にぶい褐②良好③粗砂粒含む	太い沈線による文様と区画内に刺突が加えられる。	称名寺式
4	凹石	覆土	完形	<計測値>長11.1、幅10.4、厚4.4、重701.4<石材>粗粒安山岩<特徴>表裏中央1穴。		

## 119号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	覆土	口縁片	①にぶい褐②やや軟質③粗砂粒含む	口縁部に断面円錐状の突起をもつ。頸部以下に沈線による施文。	後期
2	縄文土器 深鉢	覆土	胴部片	①にぶい橙②普通③粗砂粒含む	隆帯による曲隆線内をRLの縄文が施文される。	加曾利E式
3	打製石斧	覆土	完形	<計測値>長7.3、幅4.7、厚1.0、重44.9<石材>硬質泥岩<特徴>撥状を呈する。		

## 154号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	+30	口～胴 片	①にぶい褐②普通③小石・粗砂粒含む	口縁部は曲隆線による施文。胴部は太い沈線が垂下する。	加曾利EⅢ式

## 120号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	+22	口～胴	①暗赤褐②普通③小石・粗砂粒含む	口縁に添って隆帯が巡り、隆帯によって口縁部を弧状に区画する。区画内をRLの縄文が施文される。	加曾利EⅡ式
2	縄文土器 深鉢	+13	突起部	①暗褐②良好③粗砂粒含む	隆帯による橋状把手が波状口縁に付く。波状部には円形の孔を持つ。口縁部には曲隆線による区画内を縦に沈線が施文される。	加曾利EⅡ式
3	縄文土器 深鉢	+22	口～胴 下位	①にぶい赤褐②普通③粗砂粒含む	口縁に添って隆帯が巡り、隆帯によって口縁部を弧状に区画する。刺突の加えられた隆帯が横位に巡る。RLの縄文施文。	加曾利EⅡ式
4	縄文土器 深鉢	覆土	胴部片	①明赤褐②やや軟質③粗砂粒含む	屈曲部に隆帯を持ち、下部に沈線が平行する。燃糸施文。	中期
5	縄文土器 深鉢	覆土	口縁片	①橙②やや軟質③粗砂粒含む	沈線による曲線区画。RLの縄文。	加曾利E式
6	縄文土器 深鉢	覆土	突起部	①明赤褐②軟質③粗砂粒含む	太い沈線による渦巻き文。	加曾利E式
7	縄文土器 深鉢	+18	胴部片	①にぶい橙②軟質③小石・粗砂粒含む	沈線による懸垂文。RLの縄文。	加曾利E式
8	縄文土器 深鉢	+43	胴部片	①褐②普通③小石・粗砂粒含む	太い沈線による曲線が垂下する。RLの縄文を斜めに施文。	加曾利E式
9	縄文土器 深鉢	+14	胴部片	①にぶい褐②普通③粗砂粒含む	太い沈線による楕円区画。	加曾利E式
10	縄文土器 深鉢	+20	胴部片	①明黄褐②やや軟質③粗砂粒含む	太い隆線。	中期
11	磨石	+13	完形	<計測値>長12.6、幅7.6、厚2.7、重344.1<石材>砂岩<特徴>表裏磨り面有り。		
12	磨石	+12	完形	<計測値>長9.8、幅8.9、厚5.4、重595.3<石材>粗粒安山岩<特徴>表裏中央部打痕。		
13	磨石	+29	完形?	<計測値>長12.3、幅8.6、厚8.9、重1521.3<石材>ひん岩<特徴>表裏磨り面有り。		
14	打製石斧	+24	一部欠	<計測値>長11.4、幅5.2、厚2.0、重150.2<石材>粗粒安山岩<特徴>短冊状を呈する。		

## 123号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	+6	口縁片	①にぶい褐②良好③粗砂粒含む	口縁に太い沈線が巡る。	後期



## 124号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	+5	底部	①にぶい黄橙②普通 ③粗砂粒含む	二次的に焼けており器面全体に剝落と煤の付着が見られる。	
2	縄文土器 深鉢	+12	底部	①橙②普通③粗砂粒 含む	内面に指頭圧痕が見られる。外面無文。煤の付着が見られる。	

## 126号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	+13	口縁片	①明褐②やや軟質③ 粗砂粒含む	口縁内外面に沿って沈線が施される。小波状を呈し、波頂部には円形の透しを持つ。	中期
2	縄文土器 深鉢	+9	口縁片	①明褐②やや軟質③ 粗砂粒含む	1と同一個体。口縁に円形の刺突を持つ。	中期
3	縄文土器 深鉢	+11	口縁片	①灰赤②良好③粗砂 粒含む	隆線による弧状の曲線。	中期
4	縄文土器 深鉢	+11	胴部片	①明褐②やや軟質③ 粗砂粒含む	太い沈線による曲線が胴部文様を作る。	中期
5	縄文土器 深鉢	+10	胴部片	①明褐②軟質③粗砂 粒含む	太い沈線による曲線が胴部文様を作る。	中期
6	縄文土器 深鉢	+9	底部	①明黄褐②軟質③粗 砂粒含む	無文。底部に煤の付着痕あり。	中期

## 127号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	+4	口縁片	①にぶい赤褐②良好 ③小石・粗砂粒含む	隆線による眼鏡状文や三角状文が施文される。	勝坂式
2	縄文土器 深鉢	+12	胴部片	①赤褐②良好③小 石・粗砂粒含む	隆線による円形、曲線文にキャタピラー文や角押し文が施文される。	勝坂式
3	縄文土器 深鉢	+3	胴部片	①明赤褐②良好③小 石・粗砂粒含む	隆線が縦に垂下する。それに平行・直行して平行沈線が施文される。	焼町類型式
4	縄文土器 深鉢	+1	口縁片	①橙②普通③小石多 い・粗砂粒	口縁波状部。隆線による渦巻き文。	加曾利E式
5	縄文土器 深鉢	+12	口縁片	①明褐②普通③小石 多い・粗砂粒	口縁部下に隆線による横線と渦巻き文。RLの縄文。	加曾利E式
6	縄文土器 深鉢	+7	胴部片	①明赤褐②やや軟質 ③粗砂粒含む	垂下する平行沈線に直行するように爪形文が施文される。磨減激しい。	勝坂式
7	縄文土器 深鉢	+6	胴部片	①明赤褐②良好③粗 砂粒含む	隆線による渦巻き文。	加曾利E式
8	縄文土器 深鉢	+9	胴部片	①にぶい赤褐②軟質 ③粗砂粒含む	平行沈線による横位・縦位の施文。RLの縄文が施文される。磨減激しい。	加曾利E式
9	縄文土器 深鉢	+10	胴部片	①橙②良好③粗砂粒 含む	隆線による曲線。	焼町類型式
10	縄文土器 深鉢	+3	胴部片	①黒褐②やや軟質③ 粗砂粒含む	平行沈線による垂下する直線・曲線。LRの縄文。磨減激しい。	加曾利E式
11	縄文土器 深鉢	+1	胴部片	①にぶい橙②やや軟 質③粗砂粒含む	10と同一個体か。平行沈線による曲線。LRの縄文。磨減激しい。	加曾利E式

## 136号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	覆土	胴部片	①黒褐②良好③粗砂 粒含む	沈線による渦巻き文・曲線幾何学文が施文される。RL・LRの羽状縄文。	加曾利B式

## E区土坑出土遺物

## 137号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	+1	口～胴 上位残	①暗赤灰②良好③粗 砂粒含む	小波状を呈し、八の字や粘土紐が口縁に巡り刻みが付けられる。 R L・L Rの羽状縄文が施文される。	堀之内2式

## 144号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	覆土	胴部片	①にぶい黄橙②軟質 ③粗砂粒含む	太い沈線による曲線文。	中期
2	縄文土器 深鉢	+9	底部	①橙②やや軟質③粗 砂粒含む	無文。内面に煤付着。	中期

## 160号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	+4	胴部片	①にぶい褐②やや軟 質③粗砂粒含む	細い隆線が胴部に横位・弧状に貼付される。磨耗激しい。	後期

## 165号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	+11	口縁片	①明赤褐②良好③粗 砂粒含む	隆線による渦巻き文。地文は捺糸文。	加曾利E式
2	縄文土器 深鉢	+12	口縁片	①にぶい赤褐②普通 ③粗砂粒含む	口縁から刻みを持った隆線が二本垂下する。地文はL Rの縄文。 磨耗激しい。	中期
3	縄文土器 深鉢	+20	胴部片	①暗褐色②普通③粗 砂粒含む	沈線による幾何学文。縄文は無節RL。	堀之内2式
4	打製石斧	+13	完形	<計測値>長10.8、幅5.3、厚2.5、重140.6<石材>硬質泥岩<特徴>短冊状を呈する。		

## 166号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	±0	口縁片	①灰褐②やや軟質③ 粗砂粒含む	小波状を呈す。粘土隆帯による八の字状文。口縁に添って沈線が 巡る。	堀之内式
2	縄文土器 深鉢	覆土	口縁片	①褐灰②やや軟質③ 小石・粗砂粒含む	口縁内面に沈線が巡る。外面には、刻みの付けられた粘土紐が巡 る。縄文はL R。	堀之内式
3	縄文土器 深鉢	+17	口縁片	①明褐灰②軟質③小 石・粗砂粒含む	口縁内面に沈線が巡る。外面には、刻みの付けられた粘土紐が巡 る。沈線による幾何学文内をL Rの縄文が施文される。	堀之内式
4	縄文土器 深鉢	+12	口縁片	①浅黄橙②軟質③粗 砂粒含む	指頭圧痕を持つための粘土紐が巡る。	後期
5	縄文土器 深鉢	+13	胴部片	①にぶい褐②普通③ 粗砂粒含む	集合沈線が縦位に施文される。	諸磯c式
6	縄文土器 深鉢	+12	胴部片	①褐灰②良好③粗砂 粒含む	刻みのある隆線が巡り、八の字状の文様が施文される。	堀之内2式
7	縄文土器 深鉢	+8	胴部片	①灰褐②やや軟質③ 粗砂粒含む	平行沈線が山形に施文される。地文に縄文を持つが磨耗が激しく 不明。	堀之内2式
8	縄文土器 深鉢	+1	底部片	①にぶい橙②普通③ 粗砂粒含む	R Lの縄文施文。磨耗激しい。	中期
9	縄文土器 深鉢	+1	胴部片	①にぶい褐②やや軟 質③粗砂粒含む	沈線による幾何学文。地文RLの縄文。	堀之内2式
10	縄文土器 深鉢	覆土	胴部片	①にぶい橙②やや軟 質③粗砂粒含む	無文。一部に煤付着。	後期

## E区土坑出土遺物

## 168号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	+12	胴部片	①にぶい褐②軟質③ 小石・粗砂粒含む	R Lの縄文。磨耗激しい。	中期
2	縄文土器 深鉢	覆土	胴部片	①明赤褐②やや軟質 ③小石・粗砂粒含む	隆線による曲線文。磨耗激しい。	中期

## 169号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	+16	口縁片	①黒褐②やや軟質③ 粗砂粒含む	内面に沈線を巡らし曲線文を持つ。外面は、細い隆線と沈線による幾何学文。縄文はL R。	堀之内2式
2	縄文土器 深鉢	+16	胴部片	①にぶい赤褐②軟質 ③小石・粗砂粒含む	沈線による幾何学文。縄文はL R。磨耗激しい。	堀之内2式

## 180号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	覆土	口縁片	①にぶい黄橙②普通 ③粗砂粒含む	口縁に沿って列点状の刺突。磨滅激しい。	中期
2	縄文土器 深鉢	覆土	胴部片	①にぶい黄橙②良好 ③細砂粒含む	太い沈線による施文。縄文はL Rを縦位に施文。	加曾利E式
3	縄文土器 深鉢	覆土	口縁片	①橙②やや軟質③小 石・粗砂粒含む	口縁部は太い沈線による横長の楕円文。	加曾利E式

## 188号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	覆土	把手	①にぶい赤褐②軟質 ③細砂粒含む	橋状の把手になる。無文。磨滅激しい。	中期

## 189号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	+15	口縁片	①明赤褐②やや軟質 ③小石・細砂粒含む	沈線による縦長の楕円文。磨滅激しい。	後期

## 191号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	覆土	胴部片	①にぶい橙②やや軟 質③粗砂粒含む	沈線による横位の楕円文。磨滅激しい。	中期

## 200号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	覆土	口縁片	①橙②やや軟質③粗 砂粒含む	細い粘土紐を横位に張り付ける。磨滅激しい。	堀之内式
2	縄文土器 深鉢	+7	胴部片	①にぶい橙②やや軟 質③粗砂粒含む	沈線による懸垂文。縄文R Lが沈線間に施文。磨滅激しい。	堀之内式

## E区土坑出土遺物

## 201号土坑跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	+23	口縁片	①にふい黄褐②軟質 ③小石・粗砂粒含む	口縁内面に沈線。外面には細い隆線。ハの字状の貼付。磨減激しい。	堀之内式
2	縄文土器 深鉢	+1	口縁片	①にふい褐②普通③ 細砂粒含む	口縁内面に沈線。外面には細い隆線。沈線による幾何学文様内をLRの縄文が施文される。	堀之内式
3	縄文土器 深鉢	+29	口縁片	①にふい黄褐②軟質 ③小石・細砂粒含む	口縁内面に沈線。外面には細い隆線。磨減激しい。	堀之内式
4	縄文土器 深鉢	+10	口縁片	①にふい黄橙②軟質 ③小石・粗砂粒含む	小波状を呈する。口縁に沿って沈線が巡り、波状部に刺突。磨減激しい。	堀之内式
5	縄文土器 深鉢	+27	頸部片	①にふい黄橙②軟質 ③小石・粗砂粒含む	頸部に横位に沈線が施文される。頸部無文帯にハの字状の貼付。磨減激しい。	堀之内式
6	縄文土器 浅鉢	+20	口～底 片	①明赤褐②やや軟質 ③小石・粗砂粒含む	口縁部に横位に四本の沈線、その間をLRの縄文と沈線による矢羽根状の施文。磨減激しい。	堀之内式
7	縄文土器 深鉢	覆土	胴部片	①にふい黄橙②軟質 ③細砂粒含む	細い沈線による木葉状の文様。磨減激しい。	後期
8	縄文土器 深鉢	覆土	胴部片	①黒褐②やや軟質③ 細砂粒含む	沈線による幾何学文様。縄文が施文されるが磨減が激しく不明。	後期
9	縄文土器 深鉢	+29	胴部片	①にふい黄褐②軟質 ③細砂粒含む	細い沈線による渦巻き文様。磨減激しい。	後期
10	縄文土器 深鉢	+22	口縁片	①黒褐②軟質③小 石・細砂粒含む	口縁部内面に沈線。外面無文。磨減激しい。	堀之内式
11	縄文土器 深鉢	+28	胴部片	①にふい褐②普通③ 小石・粗砂粒含む	隆線による横位の施文。	中期
12	縄文土器 深鉢	+18	底部片	①明赤褐②やや軟質 ③粗砂粒含む	無文。	
13	縄文土器 深鉢	+17	底部片	①橙②やや軟質③粗 砂粒含む	無文。底面に煤付着。	
14	縄文土器 深鉢	+11	胴部片	①にふい黄橙②普通 ③小石・粗砂粒含む	沈線に懸垂文と楕円文様。	堀之内式
15	磨製石斧	覆土	一部欠		<計測値>長9.1、幅5.1、厚2.3、重219.2<石材>蛇紋岩<特徴>刃部欠損。断面長方形。	

## 溝跡出土遺物

## 1号溝跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	器形・整形の特徴	備考
1	白磁瓶	Dm-56-2	体部片	口一高一底一	明緑灰色をなし、焼成やや不良。黒色粒含む。内面は轆轤目が目立ち釉は薄い。器厚から瓶の体部下位であろう。貫入あり。	12~13C 中国製
2	軟質陶器内耳鍋	Dm-54-2	口縁片	口一高一底一	にぶい黄橙色をなす。砂礫を多く含む。他の内耳と全く異なる土。口縁部内湾耳は太く丸い。上野・武蔵に分布するものとは異なったタイプ。	中世 長野系
3	陶器天目茶碗	覆土	口~体 $\frac{1}{4}$	口(10.6)	黒色をなす。瀬戸・美濃系。内面から外面体部下位まで天目釉を施す。	中世後半
4	軟質陶器播鉢	Dm-54-20	口縁片	口一高一底一	にぶい褐色をなす。内面擦目入れる。	中世
5	焼締陶器播鉢	Dn-50+5	口縁片	口一高一底一	にぶい橙をなす。口縁端部平坦。内面口縁端部に至るまで9本1単位の擦目。	中世 製作地不詳
6	軟質陶器播鉢	Dn-49+6	口縁片	口一高一底一	灰色をなす。口縁端部やや平坦。	中世 在地製品
7	軟質陶器内耳鍋	Dn-51+12	口縁片	口一高一底一	灰褐色をなす。口縁端部幅広く、凹む。器壁厚い。	14~15C
8	軟質陶器内耳鍋	Dn-49-8	体部片	口一高一底一	灰黄褐色をなす。口縁内面段差あり。口縁部の屈曲強く、体部器壁やや厚い。	15C?
9	古銭	Dm-53-19	完形		<計測値>外寸2.3、内寸0.6<特徴>咸平元宝。初鑄年代999年。北宋。	
10	石製品凹石	Dm-56+9	$\frac{1}{4}$		<計測値>長16.4、幅14.7、厚6.5、重2000.0<石材>粗粒安山岩<特徴>表面磨耗1穴。裏面2穴の径1~2cm径の小円。	
11	石製品多孔石	D1-59±0	ほぼ完形		<計測値>長19.1、幅15.1、厚10.4、重3500.0<石材>粗粒安山岩<特徴>表面磨耗5穴。裏面6穴。小穴1~2cm。	
12	石製品石白	覆土	$\frac{1}{4}$		<計測値>長19.0、幅16.7、厚11.9、重3800.0<石材>牛伏砂岩<特徴>石臼の上臼。側面挽き木打込孔、径2.7cmの円孔。裏面の白目なし。	
13	石製品台石	Dm-54-2	$\frac{1}{2}$ ?		<計測値>長44.7、幅15.5、厚10.4、重11800.0<石材>粗粒安山岩<特徴>表裏両面平滑。	
14	石製品磨石	西部石列±0	破片		<計測値>長12.2、幅12.1、厚9.4、重2300.0<石材>粗粒安山岩<特徴>平滑。	

## 2号溝跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	陶胎染付碗	覆土	口~体部片	口(10.6)		オリーブ灰色をなす。白土掛け後染付。	18C前 肥前系
2	陶器鍋	Dp-60	口縁片	口一高一底一		暗褐色をなす。外面鉄釉。蓋受け部を除く内面灰釉。取手欠損。益子か。	明治~大正
3	須恵器甕	覆土	口縁片	口一高一底一	①灰②良好③細砂粒含む	轆轤整形、紐作り。	
4	青磁碗	覆土	口縁片	口(12.8)		緑灰色をなす。龍泉窯系青磁碗。外面片彫りによる鎬蓮弁文。	13C
5	青磁鉢	覆土	体部片	口一高一底一		オリーブ灰色をなす。龍泉窯系青磁碗。外面片彫りによる鎬蓮弁文。	13C
6	青磁碗	Ea-62	口~体部片	口(16.0)		緑灰色をなす。龍泉窯系青磁碗。外面片彫りによる鎬蓮弁文。	13C

## 8号溝跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	器形・整形の特徴	備考
1	軟質陶器内耳鍋	Ei-65	口縁片	口一高一底一	黄灰色をなし、焼成は還元焰。口縁部片。耳取り付痕明瞭。器壁厚い。	14~15C 在地製

溝跡出土遺物

3号溝跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	陶器 高台付碗	覆土	底部	底(5.0)		淡黄色をなす。唐津系呉器手碗。	17末~18C 前
2	灰釉陶器 高台付碗	Dq-50 +6	底部	底7.4	①灰黄②良好③緻密	轆轤成形、右回転。底部回転ヘラ削り。内面見込み部に重焼き跡。施釉は刷毛塗り?不透明な灰黄色。器面の磨耗あり。調整不明。円盤状底部(平底)に粘土紐巻き上げ。	光ヶ丘1号 窯式期
3	土師器 坏	Dr-53 -21	口~底	口(12.0) 高(3.6)底(7.0)	①橙②酸化焰、普通 ③砂粒を含む	器面の磨耗あり。調整不明。円盤状底部(平底)に粘土紐巻き上げ。	
4	土師器 坏	覆土	口~底	口(11.6) 高3.6底(7.0)	①淡橙②酸化焰、普通 ③細砂粒を含む	器面の磨耗あり。口縁及び内面横ナデ、体部から底部調整不明。底部平底を呈する。	
5	須恵器 坏	Dp-50 +4	口~底 1/4	口(11.8) 高2.8底(6.6)	①灰白②還元焰、普通 ③細砂粒を含む	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。腰部ナデ。	
6	土師器 坏	Dt-56 +2	体~底	底(9.0)	①橙②酸化焰、普通 ③細砂粒を含む	器面の磨耗あり。調整不明。底部平底を呈する。	
7	土師器 坏	Dp-48 ±0	口~体	口(13.6)	①橙②酸化焰、普通 ③細砂・粘土粒含む	轆轤整形か。口唇部わずかに外反する。	
8	須恵器 坏	Dp-48 -20	口~底 1/4	口(12.6) 高4.0底(6.6)	①灰②還元焰、普通 ③砂粒を含む	轆轤整形。底部器面の磨耗あり。切り放し技法不明。	
9	須恵器 坏	Dq-50 -10	口~底 1/2	口(12.2) 高3.3 底6.9	①灰白②還元焰、普通 ③細砂粒含む	轆轤整形、底部右回転糸切り未調整。腰部やや絞り込まれる。	
10	須恵器 高台付皿	Dp-48 +1	口~底	口13.8 高3.0 底7.0	①灰白②還元焰、普通 ③細砂粒含む	轆轤整形、底部回転糸切り未調整。高台部貼り付け後ナデ。	
11	須恵器 碗	Dr-51 +13	体~底	底(7.6)	①灰白②還元焰、普通 ③細砂粒含む	轆轤整形、底部回転糸切り未調整。高台部貼り付け。	
12	須恵器 坏	Dq-51 +4	体~底	底6.3	①褐灰②還元焰、普通 ③砂・粘土粒含む	轆轤整形、底部右回転糸切り未調整。腰部やや絞り込まれる。	
13	須恵器 碗	Dq-50 +5	口~底	口(13.2)	①明褐灰②中性焰、普通 ③細砂粒を含む	轆轤整形、底部回転糸切り未調整。高台部貼り付け。	
14	須恵器 長頸壺	Dp-48 +9	底1/4	口一 高一 底一	①灰②還元焰、やや 硬質③細砂粒含む	轆轤整形、高台部貼り付け後、端部強いナデ。底部、刷毛状工具による円及び放射状ナデ。	外面自然釉 附着
15	須恵器 碗	Dr-52 ±0	体~底	底8.4	①灰②還元焰、やや 硬質③細砂粒含む	轆轤整形、底部回転糸切り未調整。高台部貼り付け後、ナデ。内面平滑。	転用硯か
16	須恵器 坏	Dp-48 +11	体~底	底(7.6)	①灰白②還元焰、普通 ③細砂粒含む	轆轤整形、底部右回転糸切り未調整。内面平滑。	転用硯か
17	灰釉陶器 長頸壺	Dr-51 +15	頸~体	口一 高一 底一	①灰白②良好③緻密	轆轤成形。施釉方法は不明瞭。釉調は不透明なオリブ灰色。	
18	須恵器 高坏	覆土	脚部	口一 高一 底一	①褐灰②還元焰、硬質 ③粗砂粒含む	轆轤整形。3方向からの2段の長方形「透し」、中間に2条の沈線。全面に回転によるカキ目。	
19	灰釉陶器 長頸壺	Dp-48 -5	頸部	口一 高一 底一	①灰黄②良好③緻密	轆轤成形。施釉方法は不明。釉調は透明感のあるオリブ灰色。	
20	須恵器 甕	Dp-49 +21	頸部1/4	口一 高一 底一	①灰②還元焰、普通 ③細砂粒含む	回転ナデ。3本1単位の棒状工具による波状文下端は擬口縁状に成形される。	
21	須恵器 壺	Dp-49 +2	胴部1/4	口一 高一 底一	①灰②還元焰、硬質 ③精選	轆轤整形。胴部下半棒状工具による縦方向ナデ。胴上半部回転ヘラ削り。	断面小豆色
22	須恵器 甕	覆土	底部1/4	口一 高一 底一	①灰②還元焰、普通 ③砂粒含む	轆轤整形。底部未調整。下端回転ヘラ削り。	
23	鉄製品 釘	Dp-49 覆土	完形	<計測値>長6.6、幅0.9、厚0.4、重5.0<特徴>角釘。頂部折頭式。			
24	鉄製品 釘	Dq-50 -2	茎部	<計測値>長6.5、幅1.2、厚0.8、重9.9<特徴>角釘。先端部欠損。頂部折頭式。			
25	鉄製品 釘	Dr-53 覆土	茎部	<計測値>長5.6、幅0.5、厚0.4、重3.0<特徴>角釘?両端部欠損。やや細身。			
26	土製品 土錘	Dp-49 -2	端部欠	長一 幅2.0 内径0.5	①橙②酸化焰、普通 ③細砂粒含む	棒状工具に粘土塊を巻き付け成形されている。	
27	土製品 土錘	Dp-48 +6	%	長一 幅1.7 内径0.6	①橙②酸化焰、普通 ③細砂粒を含む	棒状工具に粘土塊を巻き付け成形されている。	
28	土製品 土錘	覆土	ほぼ完 形	長3.5幅1.8内 径0.6	①にぶい橙②酸化焰 ③細砂粒を含む	棒状工具に粘土塊を巻き付け成形されている。	
29	石製品 砥石	Dr-53 +3	ほぼ完 形	<計測値>長13.9、幅5.3、厚5.0、重436.6<石材>砥沢石<特徴>長方形。中央部使い減り著しく抉れ強い。長軸4面使用か。刃痕有り。			
30	石製品 石皿	Ds-54 +1	1/4	<計測値>長23.9、幅16.3、厚7.4、重3906.0<石材>粗粒安山岩<特徴>石白か?凹面及び凸面は共に擦痕見られ平滑である。			

## 4号溝跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	弥生土器 高坏	Ei-66 +80	坏・脚部	口10.6 高(9.7) 底(8.0)	①にぶい橙②普通③ 細砂粒含む	坏部内湾。口縁部横ナデ。内面一部赤色塗彩残る。脚部ハの字状に開く。	赤色塗彩
2	弥生土器 小型甕	Ej-67 -8	ほぼ完形	口9.0 高10.7 底5.0	①にぶい橙②普通③ 粗砂粒含む	口縁から頸部にかけて、粘土紐巻き上げ痕を残す。胴上位斜方向、中位横方向、下位縦方向へラ削り。	
3	弥生土器 小型甕	Eg-67 +80	ほぼ完形	口9.5 高11.5 底4.5	①にぶい橙②普通③ 粗砂粒含む	口縁から頸部にかけて、粘土紐巻き上げ痕残す。胴上半縦方向へラ削り。下半斜縦方向へラ削り。	
4	弥生土器 甕	Ef-67 +120	口へ胴	口(18.2) 高(15.2)	①にぶい黄橙②普通 ③粗砂粒含む	表面磨耗。整形不明瞭。	
5	弥生土器 台付甕	Ei-66 +90	台部欠	口11.6	①にぶい橙②良好③ 粗砂粒含む	脚部欠損。口縁から胴上半部にかけて、縦方向指ナデか？胴下位磨き。中位横方向へラ削り。	
6	縄文土器 深鉢	Eg-67 +80	底部	①にぶい橙②普通③ 粗砂粒含む	胴部下半直線的に開く。外面、刷毛状工具による綾杉状の削痕あり。		
7	弥生土器 甕	Eh-66 +80	胴部片	口一 高一 底一	①にぶい黄橙②良好 ③粗砂粒含む	球状胴を呈し、上部に波状文見られる。	
8	縄文土器 深鉢	Eg-67 +80	胴部片	①淡赤褐②やや軟質 ③砂粒含む	表面磨耗激しく文様が認められない。		
9	縄文土器 深鉢	Eg-67 +80	口へ胴	①にぶい褐②普通③ 砂粒少量含む	表面磨耗激しく文様が認められない。		
10	縄文土器 深鉢	Eg-67 +120	口へ胴	①にぶい褐②普通③ 砂粒少量含む	表面磨耗激しく文様が認められない。		
11	縄文土器 深鉢	Eh-67 +90	口縁片	①灰黄褐②普通③織 維含む	縄文が施文されているが表面の磨耗が激しく燃りは不明。		有尾式
12	縄文土器 深鉢	Eh-67 +110	口縁片	①にぶい黄褐②普通 ③砂粒含む	口縁部肥厚、直下に太い沈線が巡る。単節LR。		加曾利E式
13	縄文土器 深鉢	Eh-67 +90	口縁片	①明赤褐②良好③砂 粒含む	口縁に添って粘土紐による隆帯が巡る。無文。		
14	縄文土器 深鉢	覆土下層	胴部片	①にぶい橙②普通③ 砂粒含む	沈線によって半円状の弧状を描きその中に縄文を施文する。		
15	縄文土器 深鉢	Eh-67 +100	胴部片	①灰黄褐②普通③砂 粒含む	3本の凹線が巡り凹線間が若干隆起する。		
16	縄文土器 深鉢	Eh-67 +110	胴部片	①にぶい黄橙②普通 ③細砂粒含む	RLの縄文を縦位に施文。		
17	石製品 磨石	Eg-67 +70	片	<計測値>長12.0、幅5.7、厚5.1、重395.3<石材>砂岩<特徴>表面中央に一ヶ所凹みあり。磨石及び凹石として利用。			

## 5号溝跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	Dp-53 +2	口縁片	①にぶい橙②やや軟 ③小石・粗砂粒含む	口縁下に沈線が巡る。粘土紐による隆帯が巡る。磨滅激しい。	後期
2	縄文土器 深鉢	Dp-53 +2	口縁片	①にぶい橙②やや軟 ③粗砂粒含む	隆線による渦巻き文。磨滅激しい。	加曾利E式
3	磨石	Dn-55 +14	一部欠	<計測値>長14.4、幅6.7、厚5.5、重748.9<石材>粗粒安山岩<特徴>円柱状を呈する。片面中央部に凹み有り。		
4	磨石	覆土	片	<計測値>長8.6、幅5.8、厚4.4、重327.0<石材>デイサイト<特徴>長軸方向に磨り面有り。打痕見られる。		
5	磨石	Dm-54 -2	完形	<計測値>長12.2、幅8.7、厚4.4、重722.1<石材>ひん岩<特徴>表裏側面4面に磨り面見られる。		



溝跡出土遺物

6号溝跡

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調 ②焼成 ③胎土	文様・器面調整の特徴(その他)	備考
1	縄文土器 深鉢	Eh-67 覆土上面	口縁片	①灰褐色②普通③砂粒 含む	口縁に小突起を持つ。器面全体に条痕が施文される。	晩期～弥生 初頭
2	縄文土器 深鉢	Eh-67 覆土上面	口縁片	①にぶい橙②やや軟 ③小石・粗砂粒含む	小波状を呈する。波頂部から沈線が弧状に施文される。LRの縄文が弧線下に施文。	中期
3	縄文土器 深鉢	Eh-67 覆土上面	口縁片	①にぶい橙②普通③ 小石・粗砂粒含む	口唇部に指頭圧痕を持つ。器面全体に条痕が施文される。	晩期～弥生 初頭

E区軒下配石遺構

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	器形・整形の特徴	備考
1	陶器 碗	覆土	底部片	底(3.4)	断面はにぶい黄橙色をなす。瀬戸・美濃系天目茶碗。内面と外面体部下位天目釉。瀬戸・美濃系。	

E区石列遺構

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	器形・整形の特徴	備考
1	磁器 碗	覆土	体部片	口一高一 底一	灰白色をなす。肥前系陶胎染付碗。白土掛け後染付。焼成不良。	18C前
2	陶器 小碗	覆土	口～体 部片	口(8.0)	明青灰色をなす。肥前系染付小碗。口縁外面に雨降り文。	18C前



## DN区グリッド出土遺物

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	磁器碗	D1-59	底部片	底4.6	白色、磁化する。肥前染付丸碗。内底五弁花。		18C後～ 19C始
2	青磁高台付碗	D1-73	高台部片	底(5.1)	灰オリーブ色をなす。龍泉窯系青磁碗。高台外面まで施釉。		13～14C
3	灰釉陶器碗	Dq-72	底部片	底(7.4)	①灰白②良好③緻密	轆轤成形。高台は三日月状を呈す。施釉方法は不明。釉調はやや透明感のあるオリーブ灰色。	
4	須恵器高台付皿	Dp-48	口～底 1/4	口(12.0)	①黄灰②還元焰③黒色細粒僅かに含	轆轤整形。底部回転糸切り後、高台部貼り付け。	
5	灰釉陶器長頸壺	Do-48	頸部片	口一 高一 底一	①灰白②良好③緻密	轆轤成形。施釉方法は不明。釉調は透明感のあるオリーブ灰色。	
6	土師器坏	Dt-55	口～体 1/4	口(12.0)	①にぶい黄橙②酸化焰、良好③砂粒含む	表面磨耗。口縁部横ナデ、体部から底部へラ削り？	
7	須恵器坏	Ds-54	口～底 1/4	口(9.4)高4.2	①褐灰②還元焰、良好③黒色細粒含む	轆轤整形。底部縁辺部へラ調整。外面体部下端へラナデ。	
8	土師器坏	Dq-50	口～底 1/4	口(14.6) 高3.6底(9.0)	①にぶい橙②酸化焰普通③砂・粘土粒含	表面磨耗。口唇部ナデ。体部から底部へラ削り。底部平底を呈し、肥厚。	
9	須恵器坏	Ds-51	体～底 1/4	底(4.4)	①橙②酸化焰③砂粒含む	轆轤整形。底部回転糸切り。腰部強い横ナデ。	
10	土製品土錘	Dp-48	1/4	最大径1.9 内径0.6	①橙②普通③砂粒含む	棒状工具に粘土紐巻き上げ。	
11	須恵器坏	Dp-48	口～底 1/4	口(16.0) 高4.0底(8.6)	①灰②還元焰、良好③白・黒色細粒含	轆轤整形。底部右回転糸切り。	
12	須恵器蓋？	Dt-56	破片	口一 高一 底一	①灰②還元焰③細砂粒含む	内外面タタキ。ボタン状粘土塊貼り付け。	
13	土師器坏	Ds-52	口～底	口(14.6) 高4.0底(9.0)	①にぶい橙②酸化焰③砂粒含む	表面磨耗。口縁部横ナデ。体部から胴部へラ削り。底部平底。	
14	須恵器坏身	Dt-55・ 56	口～底 1/4	口(12.0) 高4.1	①灰②還元焰、硬質③中砂粒含む	轆轤整形。口縁部内外・銜部回転指押え。底部回転へラ削り。	
15	手づくね小型壺	Dt-56	頸～底	底5.6	①橙②良好③砂・粘土粒含む	外面指頭痕あり。内面ナデ。口縁部ナデ。底部へラ調整。	
16	須恵器盤	Dt-56	口～底	口(18.4) 高4.1底15.0	①灰白②還元焰③黒色粒・細砂粒含む	轆轤整形。底部回転へラ調整。高台部貼り付け。内面やや磨耗。トレンチ跡あり。	
17	須恵器壺	Ds-54	口～頸	口(14.0)	①灰②還元焰、良好③細砂粒含む	轆轤整形。口唇部段有り。	
18	須恵器小型甕	Ds-51	口～胴	口(12.0) 高(3.7)	①橙②酸化焰、普通③粗砂粒含む	轆轤整形。口唇部外反、横ナデ。	
19	須恵器小型甕	Dt-50	口～胴 1/4	口(12.2)	①橙②酸化焰、普通③砂粒含む	轆轤整形。口縁部回転ナデ、内面くすんだ黒色。	
20	須恵器羽釜	Dt-51	口縁部片	口(23.2)	①浅黄②酸化焰③粗砂粒含む	轆轤整形。銜部貼り付け。断面三角形。	
21	鎌	Dr-59	破片	<計測値>長11.4、幅2.9、厚0.5、重25.3<特徴>先端部欠損。直線的。			
22	刀子	Dr-53	破片	<計測値>長4.3、幅2.2、厚0.5、重6.8<特徴>両端欠損。直線的。			
23	刀子	Dt-57	破片	<計測値>長9.0、幅1.4、厚0.6、重11.6<特徴>両端欠損。両関？			
24	鉄製品	Dr-54	破片	<計測値>長4.4、幅0.9、厚0.4、重2.5<特徴>ヘアピン状。端部欠損。			
25	釘	Dr-52	頭部	<計測値>長2.0、幅(0.5)、厚(0.7)、重9.7<特徴>頭部円形を呈し、基部角柱を呈す。			
26	刀子	Dr-52	柄	<計測値>長6.1、幅1.0、厚0.5、重8.0<特徴>両端部欠損。			
27	弥生土器甕	Ds-55	ほぼ完形	口15.0高19.5 底6.6	①にぶい褐②普通③粗砂粒含む	口縁部から胴上位、単位波状文。中位横方向へラ削り。下半部縦方向へラ削り。内面横ナデ。	
28	弥生土器甕	Dn-54	口～胴	口5.5	①にぶい褐②普通③粗砂粒含む	口縁部横ナデ。頸部横方向簾状文、又胴上部3本1単位2段の波状文。胴部へラ削り。	
29	弥生土器甕	Ds-55	底部	底6.4	①にぶい褐②良好③粗砂粒含む	外面縦方向へラ磨き。内面、横方向へラ磨き。底部調整痕。	No27と重ね 合わせ
30	弥生土器高坏	Dm-51	脚部1/4	底(5.1)	①橙②普通③粗砂粒含む	外面縦方向へラ削り、下端横ナデ、内側折り返し。内面指ナデ。	
31	弥生土器小型甕	Ds-55	口縁片	口(7.6)	①にぶい橙②普通③細砂粒含む	口縁部横ナデ、直立。胴上位横ナデ。	
32	手づくね小型甕？	Dt-55	底部	口一 高一 底一	①にぶい橙②普通③細砂粒含む	外面指ナデ、内面へラナデ。底部丸底。	

DN区グリッド出土遺物

33	弥生土器 小型甕	Ds-53	頸部片	口一 高一 底一	①にぶい橙②普通③ 中砂粒含む	頸部、6~7本1単位2連止め簾状文。胴上位波状文。内面横ナデ。	
34	縄文土器 深鉢	Ds-51	口~胴		①にぶい橙②普通③ 砂粒含む	口縁に丸味を持ち内部に屈曲を持つ。頸部外面に隆帯を持つ。口縁部にはLRの縄文施文。	曾利式
35	縄文土器 深鉢	Dq-55	口縁片		①橙②良好③砂粒含む	口縁下に隆帯を巡らし刺突を加える。	曾利式 5溝
36	縄文土器 深鉢	Dm-54	口縁片		①にぶい黄橙②良好③ 砂粒含む	曲線により縄文帯を区画し、縄文の磨り消しをする。縄文はLR。	加曾利B式
37	縄文土器 深鉢	Dp-54	胴部片		①褐灰②良好③細砂粒含む	曲線により縄文帯を区画し、縄文の磨り消しをする。縄文はLR。	加曾利B式
38	縄文土器 深鉢	Dq-55	口縁片		①灰黄褐②良好③細砂粒含む	無文口縁内側に屈曲を持つ。	堀之内式 5溝
39	縄文土器 深鉢	Dn-54	口縁片		①暗赤褐②良好③細砂粒含む	口縁に隆帯が貼付される。隆帯と口縁下に2条の縦長の刻みが施される。波状口縁。	加曾利B式
40	縄文土器 深鉢	Dn-54	口縁片		①にぶい黄褐②普通③粗砂粒含む	口縁屈曲部より上は無文帯。屈曲部下には、縄文施文されるが磨滅が多く不明。	加曾利E式
41	縄文土器 深鉢	Dr-53	口縁片		①褐灰②やや軟質③砂粒含む	横位に平行沈線による施文。上部にはLRの縄文が施文される。	
42	縄文土器 深鉢	Dn-54	胴部片		①にぶい橙②普通③砂粒含む	条痕状の沈線が施文される。	
43	縄文土器 深鉢	Do-53	口縁片		①にぶい橙②普通③細砂粒含む	口縁に2条の平行沈線施文し、その中に刺突を加える。	加曾利B式
44	縄文土器 深鉢	Dq-55	口縁片		①褐灰②普通③細砂粒含む	口縁内湾ぎみに立ち上り、口唇近くに無文帯持つ。外面屈曲部にRLの縄文。	堀之内式 5溝
45	縄文土器 深鉢	Dn-55	口縁片		①暗褐②普通③砂粒含む	口縁上部にLRの縄文施文。	堀之内2式
46	縄文土器 深鉢	Dm-55	口縁片		①黒褐②普通③砂粒含む	口唇をそぎ落とした形態。口縁部にRLの縄文。	堀之内2式
47	縄文土器 深鉢	Dp-54	口縁片		①にぶい黄橙②普通③細砂粒含む	口唇内面に屈曲を持つ、外面無文帯下に沈線で区画のLR縄文。	堀之内2式
48	縄文土器 深鉢	Dn-48	口縁片		①にぶい橙②普通③細砂粒含む	口縁と肩部に横位の沈線が巡る。沈線は縦にも区画が入り、工字文風の痕跡を残す。	晩期
49	縄文土器 深鉢	Dr-55	胴部片		①褐②良好③砂粒含む	沈線による区画内に単節LRの縄文を施文。無文部磨り消し。	堀之内2式
50	縄文土器 深鉢	Do-59	口縁片		①にぶい黄橙②普通③細砂粒含む	口縁内外面に太い沈線が巡る。	堀之内2式
51	弥生土器 甕?	Dn-54	胴部片	口一 高一 底一	①にぶい赤褐②普通③砂粒含む	沈線により横位に区画される。区画内の巾の広い部分にLRの縄文を施文。磨耗激しい。	
52	縄文土器 深鉢	Dn-55	頸部片		①明褐②普通③砂粒含む	頸部くびれ部にコンパス文。単節LRの縄文。磨耗激しい。	黒浜式 5溝
53	縄文土器 深鉢	Dn-55	胴部片		①にぶい橙②普通③砂粒含む	半截竹管による平行沈線に刺突を加えながら施文。地文の縄文は単節LR。	諸磯b式
54	縄文土器 深鉢	Dm-53	口縁片		①にぶい黄橙②良好③細砂粒含む	深鉢の突起部。外面太い沈線が垂下する。内面口縁にそって沈線が巡る。	加曾利BII式
55	縄文土器 深鉢	Do-54	口縁片		①にぶい褐②普通③粗砂粒含む	口縁に2条の沈線を巡らし、下部に綾杉状の沈線を施す。	加曾利BIII式 5溝
56	縄文土器 深鉢	Dt-49	胴部片		①にぶい褐②普通③粗砂粒含む	胴部に沈線による渦巻状の沈線。磨耗が激しい。	堀之内I式
57	縄文土器 深鉢	Dq-55	口縁・ 頸部片		①にぶい黄橙②普通③砂粒含む	口縁部に突起を持ち沈線による渦巻文が施文される。頸部に橋状の把手、磨耗激しい。	堀之内I式
58	縄文土器 深鉢	Dm-54	胴部片		①明赤褐②普通③砂粒含む	曲隆線を主体として太沈線が幾重にも添う。	焼町土器 (焼町類型)
59	縄文土器 深鉢	Dm-54	胴部片		①明赤褐②普通③砂粒含む	曲隆線を主体として太沈線が幾重にも添う。	焼町土器 (焼町類型)
60	縄文土器 深鉢	Dm-54	胴部片		①橙②普通③砂粒含む	曲隆線を主体として太沈線が幾重にも添う。	焼町土器 (焼町類型)
61	縄文土器 深鉢	Dm-53	胴部片		①明赤褐②普通③砂粒含む	曲隆線を主体として太沈線が幾重にも添う。	焼町土器 (焼町類型)
62	縄文土器 深鉢	Dm-53	胴部片		①褐②普通③砂粒含む	曲隆線を主体として太沈線が幾重にも添う。	焼町土器 (焼町類型)
63	縄文土器 深鉢	Dr-53	胴部片		①にぶい黄褐②普通③砂粒多く含む	太沈線による縦長の楕円区画、間にカギの手状の沈線が入る。	称名寺式

DN区グリッド出土遺物

64	縄文土器 深鉢	Dm-55	突起片	①明赤褐②普通③粗砂粒多く含む	土製品。上面形態は方形を呈する。	
65	縄文土器 深鉢	Dr-53	胴部片	①明赤褐②普通③粗砂粒多く含む	太沈線による区画、縄文は単節RL。	中期末～後期初
66	縄文土器 深鉢	Dr-53	口縁片	①にぶい赤褐②良好③砂粒を多く含む	波状口縁。渦巻状の隆線の中にRLの縄文施文。	加曾利EⅢ式
67	縄文土器 深鉢	Dr-53	胴部片	①明赤褐②普通③粗砂粒含む	隆帯が貼り付けられる。隆帯からは数条の沈線が垂下する。磨耗激しい。	加曾利EⅢ式
68	縄文土器 深鉢	Do-53	胴部片	①褐②普通③砂粒含む	沈線による区画内にLRの縄文施文。	加曾利E式
69	縄文土器 深鉢	Do-54	胴部片	①橙②普通③粗砂粒含む	隆帯による横長の楕円区画内に縦の沈線。隆帯上にRLの縄文。	加曾利EⅡ式 5溝
70	縄文土器 深鉢	Dr-53	口縁片	①明赤褐②普通③粗砂粒多量に含む	隆帯による横長の楕円区画内に縦長の沈線。	加曾利EⅡ式
71	縄文土器 深鉢	Dm-55	胴部片	①明赤褐②普通③粗砂粒多量に含む	隆帯による楕円区画。下部に垂下する沈線。	勝坂3式
72	縄文土器 深鉢	Dm-55	胴部片	①明赤褐②普通③砂粒含む	隆帯上に刻みを持つ。	勝坂3式
73	縄文土器 深鉢	Dm-55	胴部片	①暗赤褐②普通③砂粒含む	隆帯上に刻みを持つ。	勝坂3式
74	縄文土器 深鉢	Dm-55	胴部片	①暗赤褐②普通③砂粒多く含む	隆線と刻みを持つ隆帯による施文。	勝坂3式
75	縄文土器 深鉢	Dm-55	胴部片	①赤褐②普通③砂粒多く含む	2本の隆帯間に沈線、無文部は器表面の剝落あり。	勝坂3式
76	縄文土器 深鉢	Dm-55	胴部片	①明赤褐②やや軟質③砂粒多く含む	隆帯による区画内を太沈線が施文される。	勝坂3式
77	縄文土器 深鉢	Dm-55	胴部片	①暗赤褐②普通③砂粒含む	隆帯上に爪形の刻みを持つ。	勝坂3式
78	縄文土器 深鉢	Dm-55	口縁片	①赤褐②普通③砂粒含む	深鉢把手。側面に爪形の刻みを持つ。	勝坂3式
79	縄文土器 深鉢	Dm-54	口縁片	①にぶい褐②普通③砂粒含む	深鉢口縁。波状口縁になり頂部に2個の小突起。外面に渦巻状の把手がつく。	勝坂3式
80	縄文土器 深鉢	Dq-54	口縁片	①明褐②普通③砂粒含む	深鉢口縁。波状口縁になり、頂部に2個の小突起。外面の器壁が張り出し袋状になる。	勝坂3式
81	縄文土器 深鉢	Dm-56	口縁片	①にぶい赤褐②普通③砂粒含む	キャリバー形の深鉢口縁。楕円区画内に単節RLの斜行縄文。	加曾利EⅡ式 1溝
82	縄文土器 深鉢	DI-58	口縁片	①にぶい赤褐②普通③砂粒含む	単節RLを縦に施文。磨耗激しい。	後期 1溝
83	縄文土器 注口	Dr-55	注口部	①浅黄②やや軟質③粗砂粒含む	注口口先。無文。	後期
84	縄文土器 注口	Dr-53	注口部	①橙②普通③砂粒含む	注口口先。無文。	後期
85	縄文土器 注口	Ds-56	注口部	①にぶい赤褐②普通③粗砂粒含む	注口口先。無文。	後期
86	縄文土器 深鉢	Dr-54	底部	①明赤褐②普通③砂粒含む	深鉢底部。垂下する沈線と、綾杉状の沈線。	諸磯C式
87	縄文土器 深鉢	Dr-53	底部	①明赤褐②普通③砂粒含む	深鉢底部。無文。	
88	縄文土器 深鉢	Dq-54	底部片	①にぶい赤褐②普通③砂粒含む	深鉢底部。無文。へら状の工具で削った痕あり。	5溝
89	独 鈔 石	Dt-61	一部欠	<計測値>長11.8、幅5.4、厚3.5、重252.7<石材>変玄武岩		
90	磨製石斧	Dn-52	ほぼ完	<計測値>長10.1、幅4.7、厚3.2、重213.9<石材>緑色片岩		1溝
91	石 鏃	Dr-55	完形	<計測値>長1.8、幅0.9、厚0.3、重0.4<石材>黒曜石		
92	凹 石	Ds-49	一部欠	<計測値>長10.0、幅6.8、厚3.7、重334.0<石材>溶結凝灰岩		27住
93	凹 石	Dn-51	ほぼ完	<計測値>長11.0、幅7.8、厚5.3、重601.1<石材>デイサイト		1溝
94	凹 石	Do-57	ほぼ完	<計測値>長15.8、幅7.8、厚5.6、重882.6<石材>変玄武岩		2住
95	凹 石	Dq-59	完形	<計測値>長12.6、幅7.8、厚5.0、重597.0<石材>デイサイト		9住
96	石 製品	Ds-55	ほぼ完	<計測値>長6.0、幅5.3、厚1.8、重63.5<石材>硬質泥岩		
97	石 錐	Ds-51	ほぼ完	<計測値>長4.8、幅3.5、厚1.2、重30.8<石材>輝緑凝灰岩		
98	石 錐	Dt-51	完形	<計測値>長4.9、幅2.3、厚1.3、重26.6<石材>変玄武岩		2号掘立
99	打製石斧	Dp-60	完形	<計測値>長13.3、幅4.5、厚1.6、重116.5<石材>硬質泥岩		2溝
100	打製石斧	Dp-54	完形	<計測値>長12.4、幅5.0、厚2.6、重168.5<石材>硬質泥岩		5溝

DN区グリッド出土遺物

101	打製石斧	Dm-55	完形	<計測値>長13.8、幅4.1、厚2.5、重153.9<石材>砂岩	38住
102	打製石斧	Dr-50	完形	<計測値>長8.5、幅4.5、厚1.7、重72.9<石材>硬質泥岩	
103	打製石斧	Dm-55	端部欠	<計測値>長8.2、幅4.5、厚1.3、重78.1<石材>頁岩	38住
104	打製石斧	Dn-52	完形	<計測値>長9.0、幅3.9、厚1.5、重69.1<石材>硬質泥岩	
105	打製石斧	Dn-54	完形	<計測値>長11.7、幅4.6、厚2.3、重130.4<石材>硬質泥岩	
106	打製石斧	Dn-51	完形	<計測値>長10.6、幅4.1、厚1.7、重82.3<石材>頁岩	
107	打製石斧	Dt-57	完形	<計測値>長10.4、幅4.0、厚1.9、重96.2<石材>変玄武岩	
108	打製石斧	Dr-51	完形	<計測値>長12.5、幅5.2、厚2.0、重137.5<石材>硬質泥岩	
109	打製石斧	Dm-52	完形	<計測値>長12.2、幅5.2、厚1.8、重125.6<石材>粗粒安山岩	
110	打製石斧	Do-58	完形	<計測値>長13.2、幅9.0、厚4.4、重727.1<石材>硬質泥岩?	35住
111	打製石斧	Dn-54	完形	<計測値>長13.5、幅7.8、厚3.6、重476.4<石材>硬質泥岩	1溝
112	打製石斧	Dq-50	完形	<計測値>長12.4、幅8.7、厚3.4、重402.4<石材>硬質泥岩	3溝
113	打製石斧	Dt-57	完形	<計測値>長11.0、幅6.5、厚2.5、重213.2<石材>硬質泥岩	
114	打製石斧	Dr-52	完形	<計測値>長10.7、幅6.4、厚2.5、重190.7<石材>硬質泥岩	
115	打製石斧	Do-48	完形	<計測値>長12.0、幅7.0、厚2.7、重249.5<石材>珪質頁岩	
116	打製石斧	Dq-55	完形	<計測値>長11.2、幅6.3、厚2.5、重189.5<石材>硬質泥岩	
117	打製石斧	Dm-53	ほぼ完	<計測値>長14.9、幅7.7、厚2.8、重514.2<石材>緑色片岩	1溝
118	打製石斧	Dm-54	ほぼ完	<計測値>長13.7、幅7.0、厚2.9、重305.7<石材>硬質泥岩	1溝
119	打製石斧	Dr-51	完形	<計測値>長13.7、幅9.1、厚2.8、重369.5<石材>硬質泥岩	3溝
120	打製石斧	Ds-53	完形	<計測値>長11.3、幅6.5、厚3.0、重193.6<石材>硬質泥岩	
121	打製石斧	Dn-54	完形	<計測値>長15.4、幅10.9、厚3.3、重477.1<石材>硬質泥岩	5溝
122	打製石斧	Ds-52	完形	<計測値>長10.8、幅4.7、厚2.3、重132.6<石材>硬質泥岩	
123	打製石斧	Dr-51	完形	<計測値>長24.1、幅9.6、厚2.9、重868.1<石材>黒色片岩	3溝
124	打製石斧	Dt-54	完形	<計測値>長16.2、幅8.8、厚3.9、重546.9<石材>硬質泥岩	3溝
125	打製石斧	Dt-55	完形	<計測値>長10.7、幅4.7、厚2.0、重149.2<石材>硬質泥岩	3溝
126	打製石斧	Dr-55	完形	<計測値>長12.8、幅6.5、厚2.0、重231.0<石材>凝灰質砂岩	
127	打製石斧	Dn-52	ほぼ完	<計測値>長10.4、幅5.2、厚1.6、重110.2<石材>緑色片岩	1溝
128	打製石斧	Dm-54	完形	<計測値>長10.3、幅5.3、厚2.7、重233.0<石材>硬質泥岩	1溝
129	打製石斧	Do-53	完形	<計測値>長12.3、幅6.5、厚3.5、重273.7<石材>硬質泥岩	
130	打製石斧	Dp-55	完形	<計測値>長15.5、幅9.6、厚3.3、重413.4<石材>硬質泥岩	
131	打製石斧	Dm-51	完形	<計測値>長11.3、幅5.8、厚1.7、重121.6<石材>硬質泥岩	
132	打製石斧	Ds-50	完形	<計測値>長15.0、幅9.3、厚4.7、重565.6<石材>硬質泥岩	集礫
133	石 匙	Ds-54	完形	<計測値>長10.7、幅7.2、厚1.9、重139.8<石材>硬質泥岩	3溝
134	打製石斧	Ds-54	完形	<計測値>長13.6、幅8.0、厚3.4、重364.8<石材>硬質泥岩	
135	打製石斧	Dm-54	完形	<計測値>長13.6、幅7.3、厚2.7、重285.0<石材>硬質泥岩	1溝
136	打製石斧	Ds-54	完形	<計測値>長22.2、幅8.9、厚2.4、重665.1<石材>緑色片岩	3溝
137	打製石斧	Do-59	完形	<計測値>長20.7、幅10.1、厚3.6、重1019.8<石材>緑色片岩	5住
138	打製石斧	Dn-62	完形	<計測値>長13.1、幅4.9、厚2.6、重174.7<石材>硬質泥岩	
139	打製石斧	Dr-52	ほぼ完	<計測値>長12.3、幅5.0、厚2.8、重178.0<石材>硬質泥岩	3溝
140	打製石斧	Ds-49	ほぼ完	<計測値>長12.4、幅5.3、厚2.4、重150.5<石材>硬質泥岩	27住
141	打製石斧	Dq-54	完形	<計測値>長8.4、幅4.8、厚1.4、重47.7<石材>硬質泥岩	5溝
142	打製石斧	Dq-50	完形	<計測値>長7.8、幅3.7、厚1.9、重60.9<石材>硬質泥岩	3溝
143	打製石斧	Dq-51	完形	<計測値>長12.8、幅6.4、厚2.9、重220.7<石材>硬質泥岩	3溝
144	打製石斧	Dn-52	完形	<計測値>長15.6、幅5.6、厚2.1、重220.3<石材>緑色片岩	
145	打製石斧	Dn-49	完形	<計測値>長12.0、幅4.7、厚2.9、重161.3<石材>硬質泥岩	1溝
146	打製石斧	Do-59	完形	<計測値>長12.1、幅6.3、厚1.9、重161.5<石材>珪質頁岩	35住
147	打製石斧	Ds-53	完形	<計測値>長13.7、幅6.4、厚3.3、重261.2<石材>硬質泥岩	
148	打製石斧	Dt-55	完形	<計測値>長11.0、幅6.0、厚2.2、重145.5<石材>硬質泥岩	3溝
149	打製石斧	Dm-55	完形	<計測値>長9.2、幅4.3、厚2.1、重86.0<石材>硬質泥岩	
150	打製石斧	Dp-49	完形	<計測値>長9.8、幅5.0、厚2.4、重87.8<石材>硬質泥岩	3溝
151	打製石斧	Dr-54	完形	<計測値>長12.7、幅10.5、厚3.8、重647.4<石材>硬質泥岩	
152	石 皿	Ds-51	一部欠	<計測値>長21.2、幅14.0、厚8.8、重3600.0<石材>砂岩	集礫
153	凹 石 皿	Ds-53?	完形	<計測値>長9.5、幅6.7、厚5.1、重476.6<石材>石英閃緑岩	
154	石 皿	Ds-54	𠄎	<計測値>長21.6、幅8.4、厚3.3、重842.8<石材>緑色片岩	3溝
155	石 皿	Ds-53	𠄎	<計測値>長25.1、幅15.6、厚8.9、重3700.0<石材>粗粒安山岩	



## E区グリッド出土遺物

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	陶器 碗	E1-66	口〜体	口(11.0)	①色調 ②焼成 ③胎土	にぶい黄色をなす。瀬戸・美濃系。あめ釉。	18C中〜後
2	古銭	Ee-66	完形	<計測値>外寸2.4、内寸0.6<特徴>		元豊通宝。初鑄年代。1078年。北宋。	
3	古銭	E区表採	完形	<計測値>外寸2.4、内寸0.6<特徴>		聖宋元宝。宋銭。初鑄造年1101年。	
4	古銭	Eg-67	完形	<計測値>外寸2.6、内寸0.6<特徴>		文久永宝。初鑄造年1861年。	
5	羽口	Eo-70	先端部	最大径8.7 内径2.6	①にぶい橙②良好③ 細砂質	土製品。円筒状を呈し、内面直線的、平滑。外面指頭痕?先端部にスラグ融着。	
6	刀子	E区表採	破片	<計測値>長7.7、幅1.4、厚0.5、重7.2<特徴>		刀身及び茎の一部、両側。刃部湾曲。	
7	刀	Ep-71	破片	<計測値>長7.5、幅2.6、厚0.8、重38.4<特徴>		棟区、茎残存。目釘穴あり。	
8	鉄製品	E区表採	破片	<計測値>長6.9、幅0.6、厚0.3、重1.5<特徴>		鉄鍔の茎部分か?	
9	須恵器 坏	Ea-50	底〜胴 破片	底(7.0)	①褐灰②還元焰、良好③細砂粒含む	轆轤整形、底部回転糸切り未調整。内面焼成後の線刻「+」ある。	
10	須恵器 高台付塊	Eo-59	体〜底 1/4	底(6.3)	①鈍い黄橙②中性焰③砂・粘土粒含む	轆轤整形。回転糸切り後、高台部貼り付け。高台端部捲れ上がる。	
11	土師器 坏	En-57	口〜底 破片	口(14.0) 高(3.8)底(9.0)	①鈍い橙②酸化焰、普通③細砂粒を含む	口縁及び内面横ナデ。体部横方向ヘラ削り。底部ヘラ削り。	
12	灰釉陶器 塊	Eh-55	高台部 片	底(8.5)	①褐灰②堅緻③精選	轆轤成形。高台は三日月状を呈す。施釉方法刷毛塗り。釉調は不透明な灰黄色。	光ヶ丘1号 窯式期
13	灰釉陶器 塊	Ee-53	高台部	底(6.2)	①灰白②堅緻③精選	轆轤成形。右回転か。底部回転糸切りか、内面陰刻文?施釉は漬け掛けて、不透明な灰黄色。	丸石2号窯 式期
14	須恵器 坏	Ee-52	口〜底 破片	口(12.0) 高(4.0)底(4.0)	①灰②還元焰、普通③細砂粒含む	轆轤整形、底部ヘラ調整。	
15	土師器 坏	Eh-58	口〜底 破片	口(14.2) 高(4.2)底(10)	①橙②酸化焰、普通③細砂粒少量含む	口縁及び内面横ナデ。外面の口縁部直下指頭痕、体部〜底部(底面)ナデか?	
16	須恵器 坏	Eo-58	口〜体 1/4	口(15.7)	①明褐②酸化焰、普通③細砂粒を含む	口縁端部外反、体部内湾。外面磨耗。内面黒色、横方向の磨き。	内黒土器
17	須恵器 高台付塊	Ej-67	底部片	底(7.1)	①橙②酸化焰、良好③僅かに細粒含む	轆轤整形、高台部貼り付け後、回転ナデ。内面黒色。	内黒土器 (高台付塊)
18	須恵器 高台付塊	Ek-67	底部片	底(6.7)	①橙②酸化焰、良好③僅かに細砂粒含む	轆轤整形、高台部貼り付け後、ナデ。	内黒土器 (高台付塊)
19	須恵器 蓋	Eh-59	端部欠 損1/4	口一 高一 底一	①灰白②還元焰、普通③砂粒含む	轆轤整形、頂部右回転ヘラ削り。	
20	土師器 坏	Ec-52	口〜底 1/4	口(14.0)高4.2 底(9.0)	①鈍い橙②酸化焰、普通③粗砂粒含む	口縁及び内面横ナデ、底部平底ヘラ調整。内面底部縁辺沈線巡る。	
21	土師器 坏	Ef-52	口〜底 1/4	口(13.6)高 (4.0)底(8.2)	①鈍い褐②酸化焰、普通③細砂粒を含む	口縁及び内面横ナデ、体部横方向ヘラ削り、底部不定方向ヘラ削り。	
22	土師器 坏	Eb-55	口〜底 1/4	口(12.0)高3.7 底(8.4)	①にぶい橙②酸化焰③中砂粒含む	口縁部横ナデ、坏部横方向ヘラ削り。底部平底、ヘラ調整。	
23	土師器 坏	Eg-57	ほぼ完 形	口15.6高5.2 底10.2	①浅黄橙②酸化焰、普通③細砂・粘土粒	器面磨耗し、調整不明。底部平底を呈するが、僅かに丸味を持つ。底部内面の周縁部に凹線巡る。	
24	土師器 坏	Ee-65	口〜体 口縁片	口(12.0)	①橙②酸化焰、普通③細砂粒を含む	口縁及び内面横ナデ、体部ヘラ削り。	
25	土師器 坏	En-58	口〜底 1/4	口(16.4)高 (6.3)底(12)	①橙②酸化焰、普通③砂粒を含む	器面磨耗、調整不明。口縁及び内面横ナデ?底部の器壁薄く、丸味を持った平底を呈する。	
26	土師器 坏	Ee-66	口〜底 1/4	口(15.0)	①灰白②酸化焰、普通③細砂粒を含む	口縁及び内面横ナデ、弱い稜をもつ。体部器面の磨耗により調整不明。	粘土の縞模 様顕著
27	土師器 坏	Eo-62	口〜体 1/4	口(17.0)	①浅黄橙②酸化焰、普通③僅かに砂粒含む	口縁及び体部内外面横ナデ行われる。体部に稜を持ち、半截竹管状工具により削り出されたものか。	
28	土師器 坏	Eq-59	ほぼ完 形	口17.0 高9.0	①鈍い橙②酸化焰、普通③細砂粒を含む	口縁及び内面横ナデ。体部は器面の磨耗が見られ調整不明。体部に稜を持つ。	
29	土師器 小型甕	Eq-59	口〜底 1/4	口(12.0)高11.2 底4.4	①鈍い橙②酸化焰、普通③粗砂粒含む	口縁内外面横ナデ。外面、胴部斜方向のヘラ削り。内面、ヘラナデ。	
30	土師質 小型甕	Eo-57	底部欠 損	口18.0	①鈍い赤褐②酸化焰、普通③砂粒含む	口縁及び内面横ナデ、口縁端部平坦面。胴部上位〜中位横方向ヘラ削り、下位斜方向ヘラ削り。	土釜?
31	須恵器 長頸壺	Eb-63	口〜頸 部欠損	底8.8	①灰白②還元焰、硬質③粗砂粒含む	胴部下半から底部にかけて横方向ヘラ削り、肩部に4本1単位の櫛歯状工具による3重の刺突文。	
32	土師質 土釜	Eo-57	口〜胴 1/4	口(25.0)	①鈍い赤褐②酸化焰、普通③砂粒含む	口縁部直立、横ナデ。口縁頂部平坦面。胴部縦方向ヘラ削り。	

E区グリッド出土遺物

33	土師器 甕	Eg-57	胴～底 破片	底(6.9)	①褐②酸化焰、普通 ③砂・粘土粒含む	球形胴、小さな底部。輪積み痕明瞭。内面ナデ。	
34	土師器 甕	Ec-53	口～胴 破片	口(22.8)	①鈍い赤褐②酸化 焰、普通③砂粒含む	口縁部短く外反、口縁及び内面横ナデ。器面の磨 耗激しい。	
35	土師器 甕	Eg-57	口～胴 部片	口(27.6)	①明赤褐②酸化焰、 普通③砂粒含む	口縁部大きく外反。口縁及び内面横ナデ、外面横 方向ヘラ削り。	
36	土師器 甕	Eb-53	胴～底	底(11.8)	①橙②酸化焰、普通 ③砂粒を含む	胴部斜方向ヘラ削り、端部横方向ヘラ削り。内面 ヘラナデ。	
37	弥生土器 甕	Ec-58 Ee-58	口～胴 部下位	口(29.4)	①明赤褐②普通③中 砂粒含む	表面磨耗。頸部2連止め簾状文。胴上位波状文、 胴下位最大径。	
38	縄文土器 深鉢	Ee-57	口～胴 部片	①にぶい橙②普通③ 中砂粒	口縁に平行して2条の刻みがある隆線。8の字状の文様を持つ。 口縁内面屈曲して1条の沈線が巡る。	加曾利B式	
39	弥生土器 小型甕	Eh-66	頸部片	口一 高一 底一	①にぶい橙②良好③ 砂粒含む	頸部簾状文2連止め。肩部内面ナデ。胴上位、縄 施文。	
40	弥生土器 甕	Ee-53	底部	底6.2	①淡黄②普通③細砂 粒含む	甕底部。縄文が施文されているが磨耗激しく不明。	
41	縄文土器 深鉢	Eh-55	胴部片	①灰褐②良好③細砂 粒含む	沈線による幾何学文様。沈線内の縄文は単節LR。	堀之内2式	
42	縄文土器 深鉢	Eh-55	胴部片	①褐灰②良好③細砂 粒含む	沈線による幾何学文様。沈線内の縄文は単節LR。	堀之内2式	
43	縄文土器 深鉢	Eh-55	胴部片	①灰赤②良好③細砂 粒含む	沈線による幾何学文様。沈線内の縄文は単節LR。	堀之内2式	
44	縄文土器 深鉢	Eh-55	胴部片	①にぶい赤褐②良好 ③細砂粒含む	沈線による幾何学文様。沈線内の縄文は単節LR。	堀之内2式	
45	縄文土器 深鉢	Ee-52	口縁片	①暗赤褐②良好③細 砂粒含む	外面は、刻みのある隆線。内面は沈線による施文。	加曾利B式	
46	縄文土器 深鉢	Ei-55	口縁片	①にぶい赤褐②良好 ③細砂粒含む	口縁直下に隆線が巡る。横位の沈線間に縄文が施文されるが、磨 耗激しく燃りは不明。	堀之内2式	
47	縄文土器 深鉢	En-57	口縁片	①灰赤②良好③砂粒 含む	沈線による横位の施文。縄文は単節LR。	堀之内2式	
48	縄文土器 深鉢	Eg-56	口縁片	①褐②良好③砂粒含 む	口縁直下に刺突を持つ隆線が巡る。沈線による幾何学文様。磨耗 激しい。	堀之内2式	
49	縄文土器 深鉢	Ei-56	口縁片	①黒褐②良好③砂粒 含む	波状口縁頂部に小突起を持つ。口縁に平行して隆線、沈線内はL Rの縄文。	加曾利B式	
50	縄文土器 深鉢	Ef-57	口縁片	①黒褐②良好③砂粒 含む	波状口縁頂部に渦巻状の突起を持つ。口縁に平行して刻みを持つ 隆線が2本施文される。	加曾利B式	
51	縄文土器 深鉢	Ef-55	口縁片	①にぶい黄橙②良好 ③砂粒含む	口縁直下に1条の刻みある隆線。沈線による幾何学文様間内に単 節LRの縄文施文。	堀之内式	
52	縄文土器 深鉢	Eh-56	口縁片	①にぶい赤褐②良好 ③砂粒含む	口縁下に1条の沈線が巡る。縄文は単節LR。	堀之内式	
53	縄文土器 深鉢	Ef-55	胴部片	①にぶい橙②良好③ 砂粒含む	沈線による幾何学文様。文様内は単節LRの縄文。	堀之内式	
54	縄文土器 深鉢	Ef-55	口縁片	①橙②良好③砂粒含 む	波状口縁。波頂部に小突起がつく。弧状の隆線等が貼付。	堀之内式	
55	縄文土器 深鉢	Ei-55	口縁片	①にぶい橙②良好③ 砂粒含む	ヘラ状の工具による横位方向の整形。	後期	
56	縄文土器 浅鉢	Eh-56	胴部片	①にぶい橙②良好③ 砂粒含む	沈線による幾何学文様内を単節LRの縄文施文。	堀之内2式	
57	縄文土器 浅鉢	Ef-54	口縁片	①明赤褐②良好③砂 粒含む	無文。浅鉢口縁。内面黒色。	中期	
58	縄文土器 深鉢	Ee-55	口縁片	①にぶい橙②良好③ 砂粒含む	指頭による圧痕。ヘラ状工具による横位の整形。	後期	
59	縄文土器 深鉢	Eh-54	口縁片	①灰オリーブ②やや 軟質③粗砂粒含む	指頭による圧痕。ヘラ状工具による横位の整形。	後期	
60	縄文土器 深鉢	Ei-55	胴部片	①明赤褐②良好③砂 粒含む	無文。内面に1条の隆線が巡る。		
61	縄文土器 深鉢	Eh-54	口縁片	①にぶい黄橙②良好 ③細砂粒含む	無文。	中期	
62	縄文土器 深鉢	Eh-54	口縁片	①にぶい橙②良好③ 細砂粒含む	指頭による横位方向への整形。	中期	
63	縄文土器 深鉢	Eh-56	口縁片	①にぶい赤褐②良好 ③砂粒含む	無文。	(後期)	

## E区グリッド出土遺物

64	縄文土器 深鉢	Eh-55	口縁片	①にぶい黄褐②やや軟質③砂粒含む	無文。	
65	縄文土器 器台	Eh-54	脚部片	①灰黄褐②良好③細砂粒含む	器台脚部。無文。	中期
66	縄文土器 深鉢	Eh-54	口縁片	①にぶい黄橙②良好③細砂粒含む	無文。焼成後穿孔。	中期
67	縄文土器 深鉢	En-57	口縁片	①にぶい赤褐②良好③砂粒含む	無文。	中期
68	縄文土器 深鉢	Ei-56	口縁片	①にぶい橙②良好③細砂粒含む	無文。内面口縁直下に凹線が巡る。	後期
69	縄文土器 深鉢	Eh-55	胴部片	①にぶい橙②良好③細砂粒含む	無文。指頭による横位のナデ。	後期
70	縄文土器 深鉢	Eh-55	胴部片	①にぶい橙②良好③細砂粒含む	無文。指頭による横位のナデ。	後期
71	縄文土器 浅鉢	Eh-45	胴部片	①黒褐②良好③砂粒含む	平行沈線が頸部を横位に巡る。同じ工具により胴部は渦巻、三角形を描く。全体に磨耗激しい。	後期
72	縄文土器 浅鉢	Eg-53	胴～底部片	①にぶい橙②良好③砂粒含む	頸部に横位の太い沈線。胴部は太い沈線により曲線が描かれる。	堀之内1式
73	縄文土器 深鉢	Ei-56	口縁片	①にぶい黄橙②良好③粗砂粒含む	太い沈線が口縁に巡る。磨耗激しい。	後期
74	縄文土器 深鉢	Ei-55	口縁片	①にぶい黄橙②良好③細砂粒含む	太い沈線が口縁に巡り、小波状の頂部側面内外面に刺突が加えられる。	堀之内1式
75	縄文土器 深鉢	Eg-53	口縁片	①にぶい黄橙②普通③小礫含む	太い沈線が口縁に巡り、小波状頂部から垂下する。交点部分には円形の刺突が加えられる。	堀之内式
76	縄文土器 深鉢	Ei-55	口縁片	①橙②良好③細砂粒含む	太い沈線が口縁内外面に巡る。垂下する線との交点に刺突が加えられる。	後期
77	縄文土器 深鉢	En-57	口縁片	①橙②良好③砂粒含む	口縁下に横位方向と垂直方向に沈線が施される。全体に磨耗激しい。	後期
78	縄文土器 深鉢	Eg-52	口縁片	①褐②良好③砂粒含む	波状口縁になり、口縁部にボタン状の瘤が付けられる。口縁は沈線による方形の区画。	後期79・80 と同一個体
79	縄文土器 深鉢	Eg-52	口縁片	①褐②良好③砂粒含む	L Rの縄文が施文される。	後期78・80 と同一個体
80	縄文土器 深鉢	Eg-52	胴部片	①褐②良好③砂粒含む	78、79の胴部。稜杉状に沈線が施文される。	後期78・79 と同一個体
81	縄文土器 深鉢	Eh-54	口縁片	①にぶい褐②良好③細砂粒含む	隆起線による施文。	後期
82	縄文土器 深鉢	Eh-55	口縁片	①黒褐②良好③細砂粒含む	波状口縁の突起部。環状になり、内面、側面は環状の刺突が加えられる。	後期
83	縄文土器 深鉢	Eg-53	口縁片	①暗褐②良好③細砂粒含む	波状口縁の突起部。内面、側面に円形の刺突を加える。外面には垂下する沈線。	後期
84	縄文土器 深鉢	Eh-54	口縁片	①暗褐②良好③砂粒含む	波状口縁の突起部、突起上面には渦巻状の文様。口縁に隆線が巡る。全体に磨耗激しい。	中期
85	縄文土器 深鉢	Eg-53	口縁片	①褐②良好③砂粒含む	波状口縁の突起部。橋状把手が付く。内面に1条の沈線が巡り、円形の刺突を持つ。	後期
86	縄文土器 深鉢	Eh-54	口縁片	①にぶい赤褐②良好③砂粒含む	小波状を呈する。隆曲線で口縁部文様を構成。区画内にRLを縦方向に施文。	加曾利E式
87	縄文土器 深鉢	Eh-54	口縁片	①褐②良好③粗砂粒含む	渦巻状の沈線。	加曾利E式
88	縄文土器 深鉢	Eh-55	口縁片	①黒褐②良好③粗砂粒含む	波状口縁の突起。渦巻状に沈線が巡る。	後期
89	縄文土器 深鉢	Eh-54	口縁片	①にぶい黄橙②良好③砂粒含む	口縁に弧状に沈線が巡る。	中期
90	縄文土器 深鉢	Ed-52	胴部片	①橙②普通③砂粒含む	全体に磨耗が激しい。沈線で曲線を描く。	中期 34住
91	縄文土器 深鉢	En-57	胴部片	①橙②普通③砂粒含む	隆線が垂下する。RLの縄文。	加曾利E式
92	縄文土器 深鉢	Ei-55	胴部片	①橙②普通③砂粒含む	口縁に円形刺突。隆曲線が巡る。	加曾利E式
93	縄文土器 深鉢	Ef-53	口縁片	①褐②良好③砂粒含む	太い沈線が口縁を巡る。	中期
94	縄文土器 深鉢	Ei-55	胴部片	①にぶい褐②良好③粗砂粒含む	太い沈線による施文。	後期

E区グリッド出土遺物

95	縄文土器 深鉢	Ec-51	口縁片	①黒褐②良好③細砂粒含む	細い沈線が渦巻状を呈する。口縁外面に沈線が巡る。	堀之内式 34住
96	縄文土器 深鉢	Ef-56	口縁片	①黒褐②良好③砂粒含む	細い沈線が口縁を巡る。	堀之内式
97	縄文土器 深鉢	Eh-55	胴部片	①にぶい赤褐②良好③砂粒含む	丸棒状の工具による沈線。縄文はRL。	堀之内式
98	縄文土器 深鉢	Er-55	胴部片	①灰褐②良好③砂粒含む	丸棒状の工具による沈線で曲線を描く。	堀之内式
99	縄文土器 深鉢	Ei-55	口縁片	①暗赤褐②良好③砂粒含む	口縁頸部下にLRの縄文を一段施文。それ以下をヘラ状のもので削っている。	
100	縄文土器 深鉢	Er-55	胴部片	①明赤褐②良好③砂粒含む	沈線による曲線。全体に磨耗が激しい。	後期
101	縄文土器 深鉢	Ei-55	胴部片	①橙②良好③細砂粒含む	丸棒状の工具による曲線とLRの縄文。	後期
102	縄文土器 深鉢	Eg-53	胴部片	①褐②良好③砂粒含む	平行沈線間に丸棒状のもので刺突を加える。全体に磨耗している。	後期
103	縄文土器 深鉢	Eg-53	胴部片	①にぶい黄橙②良好③砂粒含む	隆帯を弧状にはりつけている。	中期
104	縄文土器 深鉢	Eh-55	胴部片	①にぶい赤褐②良好③砂粒含む	平行沈線と、LRの縄文施文。	前期
105	縄文土器 深鉢	Eg-53	胴部片	①明赤褐②良好③砂粒含む	L燃りの燃糸文をあらく施文している。	中期
106	縄文土器 深鉢	Eg-53	胴部片	①灰黄褐②良好③細砂粒僅かに含む	隆帯による曲線。丸棒状工具による刺突。	後期
107	縄文土器 深鉢	Eh-55	胴部片	①にぶい赤褐②良好③砂粒含む	頸部に丸棒状工具による刺突。太沈線による曲線。	後期
108	縄文土器 深鉢	Eh-55	胴部片	①灰褐②良好③砂粒含む	頸部に丸棒状工具による刺突。太沈線による曲線。	後期
109	縄文土器 深鉢	Eh-55	胴部片	①灰褐②良好③砂粒含む	曲線と、RLの縄文。	後期
110	縄文土器 深鉢	Eh-55	口縁片	①黒褐②普通③砂粒含む	RLの縄文。	中期
111	縄文土器 深鉢	Ei-56	口縁片	①にぶい黄橙②普通③砂粒含む	口縁を曲線により区画しその内を半截竹管による刺突。	中期
112	縄文土器 深鉢	Ei-55	胴部片	①明赤褐②普通③砂粒含む	R燃りの燃糸文。	中期
113	縄文土器 深鉢	Ei-55	胴部片	①にぶい黄橙②普通③砂粒含む	垂下する隆線と、RLの縄文。	加曾利E式
114	縄文土器 深鉢	Ei-55	胴部片	①にぶい橙②普通③砂粒含む	垂下する隆線と、RLの縄文。	加曾利E式
115	縄文土器 深鉢	Ei-55	口縁片	①にぶい黄褐②普通③粗砂粒多く含む	曲線による渦巻文。縄文はRL。	加曾利E式
116	縄文土器 深鉢	Ei-55	胴部片	①褐②普通③砂粒含む	曲線による渦巻文。縄文はRL。	加曾利E式
117	縄文土器 深鉢	Er-55	胴部片	①橙②やや軟質③砂粒含む	微隆起による渦巻文。全体に磨耗激しい。	加曾利E式
118	縄文土器 深鉢	Eh-53	胴部片	①橙②良好③砂粒含む	LRの縄文。全体に磨耗激しい。	加曾利E式 55住
119	縄文土器 深鉢	Eg-53	口～胴	①明赤褐②良好③砂粒含む	曲隆線による渦巻文。L燃りのあらい燃糸文。	加曾利E式
120	縄文土器 深鉢	El-65	口縁片	①暗赤灰②普通③金雲母含む	曲隆線による楕円区画。押し引きによる沈線。	阿玉台式 旧河道内
121	縄文土器 深鉢	Eh-54	口～胴	①明赤褐②普通③砂粒含む	口縁頸部に二条の横位の沈線。口縁部に磨き。	中期
122	縄文土器 深鉢	Ef-55	口縁片	①橙②普通③砂粒含む	口縁突起部。	中期
123	縄文土器 深鉢	Ef-55	口縁片	①橙②普通③砂粒多く含む	口縁突起部。	中期
124	縄文土器 注口	Ea-58	注口部	①にぶい橙②普通③砂粒含む	注口の口先。無文。	後期
125	縄文土器 注口	Ej-56	注口部	①にぶい橙②普通③砂粒含む	注口の口先。無文。	後期



## E区グリッド出土遺物

126	縄文土器 注口	Ec-50	注口部	①にぶい橙②普通③ 砂粒含む	注口の口先。無文。	後期 34住
127	縄文土器 注口	Ee-58	注口部	①にぶい橙②普通③ 砂粒含む	注口の口先。無文。	後期
128	縄文土器 注口	Ee-65	注口部	①にぶい黄橙②普通 ③砂粒含む	注口の口先。無文。	後期
129	土製円盤	Eh-54	完形	①にぶい黄橙②普通 ③砂粒含む	土製円盤。無文。周辺は丁寧に削られている。	
130	縄文土器 深鉢	Ef-56	底部 ㄨ	①にぶい橙②普通③ 粗砂粒含む	深鉢底部。無文。磨耗激しい。	
131	縄文土器 深鉢	En-57	底部	①にぶい橙②やや軟 質③砂粒含む	底部。内面にヘラ状工具による磨き。	
132	土製品	Eh-56	ほぼ完 形	①にぶい橙②普通③ 砂粒含む	土製品。両端が凹む。表面は磨かれている。	
133	縄文土器 深鉢	Ei-55	底部片	①淡黄②普通③粗砂 粒含む	深鉢底部。磨耗激しい。	
134	縄文土器 深鉢	En-57	底部	①橙②普通③砂粒含 む	深鉢。無文。	
135	縄文土器 深鉢	Eg-56	底部片	①にぶい黄橙②普通 ③砂粒含む	深鉢底部。底に網代痕あり。表面は磨かれている。	
136	縄文土器 深鉢	Ef-55	底部	①橙②普通③砂粒含 む	深鉢底部。胴部から剝離した痕跡を残す。	
137	縄文土器 深鉢	En-57	底部	①赤褐②普通③砂粒 含む	深鉢底部。ヘラ状工具によるヘラ削り。	
138	縄文土器 深鉢	Eh-54	底部	①にぶい褐②普通③ 砂粒含む	深鉢底部。無文。	
139	磨製石斧	Ee-55	完形	<計測値>長4.8、幅2.6、厚0.9、重18.5<石材>蛇紋岩		
140	磨製石斧	Ef-52	一部欠	<計測値>長6.5、幅4.5、厚1.9、重72.5<石材>変玄武岩		
141	磨製石斧	Eh-55	先端欠	<計測値>長(8.1)、幅3.9、厚2.7、重149.8<石材>変玄武岩		
142	磨製石斧	Ei-54	一部欠	<計測値>長13.9、幅7.2、厚3.1、重492.8<石材>蛇紋岩		
143	磨製石斧	Ed-51	完形	<計測値>長15.0、幅7.1、厚4.6、重923.4<石材>変輝緑岩		34住
144	打製石斧	Ec-51	完形	<計測値>長16.8、幅9.4、厚4.1、重801.8<石材>変玄武岩		34住
145	打製石斧	Ee-52	完形	<計測値>長8.3、幅5.0、厚2.1、重114.7<石材>硬質泥岩?		43住
146	磨製石斧	Eb-53	ㄨ	<計測値>長7.6、幅6.3、厚4.5、重319.6<石材>デイサイト		35住
147	磨石	Ee-66	完形	<計測値>長15.9、幅11.3、厚4.0、重1104.7<石材>粗粒安山岩		
148	凹石	Ec-55	完形	<計測値>長8.4、幅7.4、厚4.8、重399.8<石材>変質安山岩		51住
149	磨製石斧	Ea-63	一部欠	<計測値>長11.8、幅6.9、厚4.3、重663.9<石材>変輝緑岩		5住
150	石皿	En-60	ㄨ	<計測値>長32.1、幅14.0、厚6.0、重3000.0<石材>緑色片岩		12住
151	磨石	Eh-67	完形	<計測値>長12.7、幅5.9、厚4.1、重398.4<石材>流紋岩		6溝
152	磨石	Ea-50	一部欠	<計測値>長10.5、幅5.8、厚3.9、重319.4<石材>粗粒安山岩		8住
153	磨石	Eh-67	完形	<計測値>長9.9、幅8.7、厚6.0、重746.4<石材>粗粒安山岩		6溝
154	磨石	Ei-54	完形	<計測値>長4.7、幅5.7、厚4.7、重207.6<石材>粗粒安山岩		
155	凹石	Ei-56	完形	<計測値>長8.8、幅8.3、厚4.7、重459.7<石材>流紋岩		
156	凹石	Eg-57	完形	<計測値>長8.7、幅7.7、厚5.9、重540.7<石材>ひん岩		
157	石皿	Ei-54	ㄨ	<計測値>長11.6、幅14.9、厚6.6、重1074.1<石材>粗粒安山岩		
158	凹石	Ef-56	完形	<計測値>長9.5、幅7.8、厚3.4、重339.7<石材>変玄武岩		
159	凹石	Eh-55	一部欠	<計測値>長12.9、幅10.1、厚5.0、重781.3<石材>粗粒安山岩		
160	磨石	Ef-55	完形	<計測値>長10.4、幅8.0、厚6.0、重648.0<石材>デイサイト		
161	打製石斧	Ef-52	完形	<計測値>長12.6、幅8.7、厚3.6、重484.4<石材>粗粒安山岩		
162	打製石斧	Ea-63	完形	<計測値>長12.0、幅9.5、厚5.4、重612.9<石材>デイサイト		5住
163	打製石斧	Ei-56	完形	<計測値>長11.6、幅4.3、厚1.5、重130.9<石材>硬質泥岩		
164	打製石斧	Eg-67	完形	<計測値>長9.5、幅4.7、厚2.0、重110.4<石材>硬質泥岩		4溝
165	打製石斧	Eb-50	完形	<計測値>長10.8、幅4.8、厚2.1、重117.1<石材>硬質泥岩		37住
166	打製石斧	Ed-64	完形	<計測値>長15.5、幅7.7、厚2.3、重362.8<石材>緑色片岩		3住
167	打製石斧	Eh-67	完形	<計測値>長13.8、幅7.5、厚2.9、重333.0<石材>硬質泥岩		6溝
168	打製石斧	Eb-56	完形	<計測値>長13.3、幅6.0、厚1.7、重147.8<石材>硬質泥岩		3溝
169	打製石斧	En-61	完形	<計測値>長9.5、幅4.3、厚1.3、重51.1<石材>硬質泥岩		40住
170	打製石斧	Eb-50	ほぼ完	<計測値>長7.3、幅3.4、厚1.1、重31.8<石材>頁岩		37住
171	打製石斧	Eg-62	完形	<計測値>長10.7、幅5.7、厚3.1、重159.4<石材>硬質泥岩		63住
172	打製石斧	Eo-56	完形	<計測値>長12.4、幅6.5、厚2.3、重222.1<石材>硬質泥岩		
173	打製石斧	Ea-63	完形	<計測値>長13.9、幅7.5、厚2.0、重203.9<石材>硬質泥岩		5住
174	打製石斧	Eo-60	完形	<計測値>長10.7、幅7.2、厚2.7、重189.4<石材>頁岩		21住

## E区グリッド出土遺物

175	打製石斧	Eq-62	完形	<計測値>長14.5、幅2.8、厚2.7、重337.0<石材>変玄武岩	14住
176	打製石斧	Ec-56	完形	<計測値>長11.1、幅6.3、厚2.9、重222.2<石材>硬質泥岩	3溝
177	打製石斧	Ee-52	完形	<計測値>長7.5、幅6.2、厚1.5、重84.5<石材>硬質泥岩	42住
178	打製石斧	Ec-53	完形	<計測値>長11.0、幅6.6、厚2.6、重185.1<石材>硬質泥岩	35住
179	打製石斧	Ec-52	完形	<計測値>長10.5、幅6.4、厚2.0、重156.6<石材>硬質泥岩	45住
180	打製石斧	EO-60	完形	<計測値>長11.7、幅8.7、厚2.6、重209.0<石材>硬質泥岩	
181	打製石斧	Eb-53	完形	<計測値>長12.5、幅7.8、厚3.5、重332.9<石材>硬質泥岩	35住
182	打製石斧	Eq-71	完形	<計測値>長19.0、幅6.9、厚3.5、重553.4<石材>硬質泥岩	
183	打製石斧	Eh-56	完形	<計測値>長10.4、幅8.1、厚2.1、重175.9<石材>珩質頁岩	覆土
184	打製石斧	Ed-52	完形	<計測値>長11.4、幅7.0、厚2.2、重208.1<石材>硬質泥岩	42住
185	打製石斧	Ef-55	一部欠	<計測値>長11.9、幅5.3、厚1.8、重125.7<石材>硬質泥岩	
186	石 鏃	Ed-64	ほぼ完	<計測値>長2.0、幅1.0、厚0.3、重0.6<石材>黒曜石	
187	石 鏃	Ed-57	完形	<計測値>長2.8、幅1.9、厚0.4、重1.3<石材>黒曜石	
188	打製石斧	EO-59	完形	<計測値>長18.4、幅7.1、厚3.8、重555.1<石材>硬質泥岩	
189	打製石斧	En-60	完形	<計測値>長13.9、幅2.5、厚5.0、重261.1<石材>硬質泥岩	12住
190	板 碑 ?	Eg-57		<計測値>長42.8、幅15.5、厚2.3、重1900.0<石材>雲母石英片岩	
191	石 塔 ?	Ea-53	先端部	<計測値>長16.7、幅10.5、厚7.2、重1257.2<石材>粗粒安山岩	
192	石 棒	Ep-70	完形	<計測値>長109.8、幅14.2、厚12.6、重30800.0<石材>緑色片岩	
193	石 棒	調査区外	端部欠	<計測値>長93.8、幅13.2、厚13.0、重23800.0<石材>緑色片岩	

## 発掘調査報告書抄録

フリガナ	ナンジャイゾウコウジイセキ
書名	南蛇井増光寺遺跡II
副書名	関越自動車道（上越線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第19集
シリーズ名	（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告
シリーズ番号	第155集
編著者名	飛田野正佳 斎藤利昭
編集機関	群馬県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒377 群馬県勢多郡北橘村大字下箱田784-2
発行年月日	西暦 1993年3月26日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ナンジャイゾウコウジ 南蛇井増光寺	トミオカシオオアザナンジャイ 富岡市大字南蛇井	10210		36°14'06"	138°49'26"	19900401— 19910331	約7,800	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
南蛇井増光寺	住居跡	縄文時代中期～後期 弥生時代終末期～古墳時代前期	竪穴住居跡17軒 竪穴住居跡2軒	土器、石器 土器、石器	火葬墓、As-Bを含む。 As-Bを含む。 円形周溝墓か？ 方形区画。道路遺構。
	土坑	古墳時代～平安時代 縄文時代中期～後期 弥生時代中期～後期 古墳時代～平安時代	竪穴住居跡98軒 土坑13基 土坑3基 土坑4基 土坑249基	須恵、土師、灰釉土器(注口)、石器 土器、石器 須恵、土師、灰釉陶磁器	
	掘立柱建物跡	中・近世	掘立柱建物跡28棟		
	溝跡	弥生時代末～古墳時代前期 奈良・平安時代？ 中・近世	溝跡1条 溝跡1条 溝跡11条	土器、石器 土器 陶磁器、青磁破片。	



群馬県埋蔵文化財調査事業団  
調査報告第155集

## 南蛇井増光寺遺跡Ⅱ (本文編)

---

平成5年3月20日印刷

平成5年3月26日発行

編集／群馬県埋蔵文化財調査事業団  
勢多郡北橋村大字下箱田784-2  
電話(0279)52-2511(代表)

発行／群馬県考古資料普及会  
勢多郡北橋村大字下箱田784-2  
電話(0279)52-2511(代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社

---